科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学概説	2	後期　水 3, 4	○余健（教育学部），丹保健一（教育学部）

授業の概要
日本語の基本的事項を理解する。
国語教科に関する専門的知識
将来教師となる学生が日本語全般について知る。

学習の目的　日本語全般について知る。

学習の到達目標　日本語の基本的知識を得る。

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　授業中の発言、提出物、テスト（またはレポート）を総合的に評価する。

オフィスアワー
余 健：毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)
丹保健一：毎週 火曜日7－8時限、場所：丹保研究室

学習内容
1．音声言語（音韻）：余
2．文章（談話）・文体：余
3．共通語と地域語：余
4．社会と言語(1)：余
5．社会と言語(2)：余
6．国語の歴史：余
7．国語政策の歴史：余
8．はじめに：丹保
9．日本語の特徴：丹保
10．文字、表記：丹保
11．文章表現法（正書法）：丹保
12．語彙：丹保
13．語（形態論）：丹保
14．文（構文論）：丹保
15．文章（文書論）：丹保

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学講義表現法・音声 I	2	前期　木 7, 8	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語(方言含む)の母音、子音、アクセント、音節構造等の特徴について、諸言語(韓国語、中国語、英語等)の特徴と比較しながら明らかにする。その際、早口ことばや遊びことばの掛け声等、できる限り身近な例に基づき考え、音声学・音韻論的な知見を教育現場にどのように生かすことが可能か、議論を深める。

学習の目的
①発声器官の重要性について具体的に説明できる。
②日本語の母音や子音の分類基準について、他言語と比較しながら実感を持って説明ができる。
③国際音声字母(IPA)を読めて書ける。

学習の到達目標
①音声学レベルと音韻論レベルの違いを具体的に説明できる。
②音声教材作成のヒントを得られる。

予め履修が望ましい科目　日本語学概説(論)

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　質問・コメント30%、出欠30%、レポート40%、計100%。

オフィスアワー　毎週木曜日5-6時限、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1．発音の仕組み(ビデオ)
2．重要な発声器官
3．母音の分類基準(1)
4．母音の分類基準(2)
5．子音の分類基準・調音点
6．子音の分類基準・調音法(1)
7．子音の分類基準・調音法(2)
8．子音の分類基準・有声or無声
9．母音と子音との連続性における中和化現象
10．音声学と音韻論(1)ミニマルペアーと音素
11.音声学と音韻論(2)相補分布と異音(単音)
12．アクセント
13．方言音声の体系と実態
14.早口ことばや遊びの掛け声(選び歌等)の分析
15．教科書の教材分析

その他　手鏡を持参すること。教室の収容能力の関係で、受講者数を制限することがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学講義 文法・語彙 I	2	前期　月 1, 2	丹保健一（教育学部）

授業の概要
学校文法
国語教科の専門的知識
将来教師として指導する際に必要な日本語文法・学校文法に関する基本的知識・考え方を学ぶ。

学習の目的　日本語文法・学校文法に関する知識・考え方・問題点を知る。

学習の到達目標
日本語文法・学校文法の基本的な考え方を理解する。
日本語文法・学校文法の知識を得る。
学校文法の問題点を理解する。

予め履修が望ましい科目　日本語学概説（1年次受講可）

教科書　『国語教師が知っておきたい日本語文法』（山田敏弘著 ろしお出版 ￥1600）

成績評価方法と基準　授業中の発言、提出物、レポートまたはテストなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　前期 毎週火曜日7－8時限

学習内容
1－2．ことばについて（ことばの働き、文章．文．文節、単語）
3．文の組み立て
4．品詞
5.活用
6－8．助詞
9．連用修飾・連体修飾
10－12．助動詞
13．助動詞のような働きをする形式
14．敬語
15．文法教育の目的

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学講義方言・語史Ⅰ	2	前期　火7,8	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語の方言を中心的な題材として、言語変化や言語政策に関する諸問題を取り上げる。

学習の目的　学校教育で現在、取り上げられている方言的な事項と本来取り上げるべき方言的な事項とを整理して、押さえる。

学習の到達目標　日本語のバリエーションを知ること。言語変化のプロセスを客観的に説明できるようになり、言語政策についても意見を持てるようになること。

予め履修が望ましい科目　日本語学概説(論)

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　授業に対する姿勢・コメント(30%)、出席(30%)、レポート又は試験(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1．日本語の分類
2．方言とは
3.ネオ方言とは
4．新方言とは
5．気付きにくい方言とは
6．言語変化の要因
7．言語地理学の考え方(1)
8．言語地理学の考え方(2)
9．方言と自然環境
10．比較言語学の考え方(1)
11．比較言語学の考え方(2)
12．方言分布と語史との関係(1)
13．方言分布と語史との関係(2)
14．言語政策(1)
15．言語政策(2)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学講義 方言・語史Ⅱ	2	後期　火7,8	余 健(教育学部)

授業の概要　現代敬語を中心に待遇表現としての敬語の特質を幅広い観点(文法的、社会言語学的等)から捉える。又具体的な事例を通して、学校教育や就職活動等で直面する問題も検討する。

学習の目的　待遇表現の枠組みと敬語史の変遷から、「語形・機能・適用の範囲」の観点に基づき、これまでの敬語3分類と新しい5分類とにおける特徴と問題点を理解し、説明できること。

学習の到達目標　敬語の長所・短所を理解し、良識のある教員や社会人としての自覚を持って、敬語を使用していけるようになること。

予め履修が望ましい科目　日本語学概説(論)、社会言語学Ⅰ(日本語学講義方言・語史Ⅰ)

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　授業に対する姿勢・コメント(30%)、出席(30%)、レポート(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週木曜日5-6時限、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1．待遇表現とは
2．待遇表現選択までのモデル(使い分けに関わる要因)
3．敬語の定義
4．いわゆる尊敬語
5．いわゆる謙譲語
6．いわゆる丁寧語
7．各地の特色(三重・京都・北陸の状況、地域差)
8．変化の方向性(敬語の光と影)
9．敬語研究の調査法(全集落調査、自然談話)
10．敬語に関するいくつかのトピックス(二重敬語・過剰敬語等)
11．相対敬語と絶対敬語
12．敬語の人称暗示機能
13．敬語3分類の問題点1(丁寧語と美化語)
14．敬語3分類の問題点2(2種類の謙譲語)
15．敬語の指針(答申案)の問題点

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学演習表現法・音声Ⅰ	1	前期　金7,8	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語の母音、子音、モーラ、音節について、フリーの音声分析ソフト(プラート)を使い、文系レベルにおける音響音声学的事項を確認する。その際、「聞きやすい声の特徴」の特徴等の具体的な現象を取り上げる中で、受講者各自(或いは各グループ)が興味のある音響音声学的に分析可能なテーマを見つける。そのテーマの考察を行い、最終的には各自(或いは各グループ)の発表を通じて、受講者間での議論を深める。

学習の目的　日本語教育や国語教育での使用可能な音声教材につながるヒントをつかむ。

学習の到達目標
①音声分析ソフト(プラート)を使用し、文系レベルの音響音声学的分析ができる。
②聞きやすい声の基本的な条件を具体的に説明でき、自分でも実践できる。
③モーラと音節との違いについて、具体的に説明ができる。

予め履修が望ましい科目　日本語学概説

成績評価方法と基準　授業に取り組む姿勢・コメント(30%)、出欠(30%)、発表又はレポート(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1．音響音声学の基礎、音声分析ソフト(プラート)の使用法
2．日本語の母音の音響音声学的分析例
3．日本語の子音の音響音声学的分析例
4．自分の母音と子音の音響音声学的分析ーアナウンサーとの比較ー
5．聞きやすい声の特徴とは？
6．音節とモーラの実態(1) ーリズムの基本的な単位ー
7．音節とモーラの実態(2) ーリズムの基本的な単位ー
8．方言音声の音響音声学的分析(1)
9．方言音声の音響音声学的分析(2)
10～12．個別ワークorグループワーク
13．中間発表
14．個別ワークorグループワーク
15．最終発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学演習 文法・語彙 I	1	後期　月 1, 2	丹保健一（教育学部）

授業の概要
現代日本語の文法・語彙現象に見られる法則を探る。
教科教育の専門的知識
現代日本語の文法・語彙現象の背後にある法則
将来教員として言語指導をするための基本的素養

学習の目的　現代日本語の文法・語彙的現象の背後に見られる規則性を探るための方法を身につける。

学習の到達目標
日本語研究文献の収集法を修得
日本語の資料収集法を修得
日本語の資料分析法を修得

受講要件　日本語学概説

教科書　各テーマごとに指導する。

成績評価方法と基準　授業中の発言、発表内容、テスト(またはレポート)を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日 7－8時限

学習内容
1．研究発表原稿の作成について（①－③）
分析データ。用例の採集法・分析法。
2．各自のテーマの発表（④－⑮）
(1)遅くとも発表4週間前までにテーマと方法を届ける。→指導
(2)発表1週間前に発表予定原稿を提出する。→指導
(3)発表前日に発表資料・内容を受講者に配布する。
(4)発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学演習 方言・語史 I	1	前期　木 9, 10	余 健(教育学部)

授業の概要　三重県を中心に遊びことばや環境に関する語彙・音声・アクセント・文法・敬語等の方言調査(ビデオ撮影調査)を通して、地域の豊かさを感じ取る。8月の臨地調査(四日市市南部を予定)とその調査結果を生かした当該地域の小学校における授業実践(後期・演習 II)に向けて、三重県を中心とした方言の特徴を概観し、調査項目を作成・検討する。

学習の目的　方言的事項の教育への援用の手掛かりを得ること

学習の到達目標　三重県を中心とした方言の特徴を押さえること

受講要件　できる限り、後期の日本語学演習 語史・方言 II との通年受講を望みます。フィールドワークに出るので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　日本語学関係の講義、演習

教科書　適宜紹介する

成績評価方法と基準　授業参加への積極的な姿勢(25%)、出欠(20%)、発表(25%)、フィールドワークへの参加(30%)による総合評価。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1回目 オリエンテーション(方言調査に向けて、項目担当者決定)
2回目 遊びことば
3回目 人の性格を表すことば
4回目 動植物のことば
5回目 漁業のことば
6回目 農作業のことば
7回目 米・作物のことば
8回目 動作に関することば
9回目 観望天気
10回目 自然環境のことば
11回目 予備調査の報告
12回目 調査項目の検討(1)
13回目 調査項目の検討(2)
14回目 調査準備(1)調査票の印刷
15回目 調査準備(2)調査時の注意点の確認
フィールドワーク：方言調査(8月中)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学演習 方言・語史 II	1	後期　木 9, 10	余 健(教育学部)

授業の概要　まず、前期に行った四日市市郊外での方言調査における結果のポイントを確認する。次にそれらの成果を基にビデオ教材や方言教材を作成し、総合的な学習や国語教育、日本語教育に援用できないか、グループワークで指導案を検討し発表する。発表時には、小学校の先生をお招きし、より実践的なアドバイスを頂く。最終的に、四日市市の当該調査地域の小学校において、更に改善された指導案に基づく授業実践を行い、成果と課題を議論する。

学習の目的　方言的事項の教育へ援用するノウハウを得ること

学習の到達目標
①四日市市郊外を中心とした三重県の伝統的な方言の特徴を説明できる
②ビデオ編集ソフトを使って、ビデオ教材を編集できる
③②を使用した指導案を作成できる

受講要件　できる限り、前期の日本語学演習 語史・方言 I からの通年受講を望みます。

予め履修が望ましい科目　日本語学関係の講義、演習

教科書　適宜紹介する

成績評価方法と基準　授業参加への積極的姿勢・出欠(30%)、発表内容(50%)、レポート等(20%)、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1回目 オリエンテーション(授業実践に向けて)
2回目 前期の方言調査収録画像の確認(1) 遊びことば
3回目 前期の方言調査収録画像の確認(2) 生活ことば
4回目 前期の方言調査収録画像の確認(3) 動植物のことば
5回目 前期の方言調査収録画像の確認(4) 漁業・農業のことば
6回目 前期の方言調査収録画像の確認(5) 観望天気にまつわることば
7回目 前期の方言調査収録画像の確認(6) 自然環境のことば
8回目 方言調査の結果を生かした授業の事例紹介
9回目 ビデオ教材等の紹介ムービーメーカーの使い方の説明指導案例
の紹介
10回目 グループワーク(1) 指導案のテーマ等の検討
11回目 グループワーク(2) 指導案のテーマ等の確定
12回目 グループワーク(3) 方言調査画像のビデオ教材への編集
13回目 グループワーク(4) 参考資料探し
14回目 グループワーク(5) 指導案の執筆、発表の準備
15回目 グループ毎の発表(現場の先生からのご指導有り)

その他　尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動を含む。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学ゼミナールIII	1	前期　金 3, 4	丹保健一（教育学部）

授業の概要
日本語分析の方法
国語教科の専門的知識
具体的な言語現象を分析する。
将来教師として必要となるであろう言語分析力を育てる。

学習の目的　様々な日本語現象の背後にある法則性を探究することができる。

学習の到達目標
これまでの研究を調べることができる。
言語資料を集めることができる。
言語資料を分析することができる。
分析した結果から法則性を探究することができる。
それらをまとめ発表することができる。

受講要件　日本語学概説

予め履修が望ましい科目
国語学概説
日本語学講義文法・語彙 I

教科書　その都度伝える。

成績評価方法と基準　授業中の発言、発表内容、レポート

オフィスアワー　火曜日7～8時限

学習内容
第1回～第3回
(1)研究テーマの決め方、論文の収集の方法等について講義する。
(2)各自の研究テーマを決める。
第4回～第15回
(1)アドバイスを各自求め、過去の研究論文を収集する。
(2)問題解決に必要な言語データを収集し、それを分析する。
(3)順次発表する。
注：
（1）発表4週間前にテーマの相談、及び進め方の相談をすること。
（2）1週間前には発表原稿・資料を提出して指導を受けること。
（3）発表時の指摘等を踏まえ、単位論文を完成させ提出する。

その他　国語学・日本語学ゼミ生を主たる受講者とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学ゼミナールIII	1	前期　月 9, 10	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語の音声・音韻・アクセントや社会言語学(方言の地域差・世代差等)の諸問題を先行研究を検証する中で受講者が確認し、卒業論文のテーマを探す。卒業論文作成に必要な論文の書き方、参考文献の調べ方、調査法等については随時説明する。

学習の目的　教員や社会人として不可欠な「広い視野に基づく論理的な思考能力」を高めること。

学習の到達目標
①得られた成果を研究史上に位置づけること。
②得られた成果の日本語教育や国語教育への効果的な援用の仕方を身につけること。

予め履修が望ましい科目　日本語学関連の講義、演習。

教科書　適宜紹介する。

成績評価方法と基準　出席(30%)、授業参加への積極的な姿勢(30%)、発表(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
第1回：ガイダンス、発表者の順番決定
第2～15回：発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学ゼミナールIV	1	後期　月 9, 10	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語の音声・音韻・アクセントや社会言語学(方言の地域差・世代差等)の諸問題を先行研究を検証する中で受講者が確認し、卒業論文のテーマを探す。卒業論文作成に必要な論文の書き方、参考文献の調べ方、調査法等については随時説明する。

学習の目的　教員や社会人として不可欠な「広い視野に基づく論理的な思考能力」を高めること。

学習の到達目標
①得られた成果を研究史上に位置づけること。
②得られた成果の日本語教育や国語教育への効果的な援用の仕方を身につけること。

予め履修が望ましい科目　日本語学関連の講義、演習。

教科書　適宜紹介する。

成績評価方法と基準　出席(30%)、授業参加への積極的な姿勢(30%)、発表(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週木曜日3-4時限、場所：余研究室(yeo-ken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
第1回：ガイダンス、発表者の順番決定
第2〜15回：発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語学		日本語学ゼミナールIV	1	後期　金 3, 4	丹保健一（教育学部）

授業の概要
日本語分析の方法
教科専門科目
具体的な言語現象を分析する。
将来教師として必要となるであろう教材分析力を育てる。

学習の目的　様々な日本語現象の背後にある法則性を探究することができる。

学習の到達目標
これまでの研究を調べることができる。
言語資料を集めることができる。
言語資料を分析することができる。
分析した結果から法則性を探究することができる。
それらをまとめ発表することができる。

受講要件　日本語学概説

予め履修が望ましい科目
日本語学講義文法・語彙 I

成績評価方法と基準　授業中の発言、発表内容、レポート

オフィスアワー　火曜日7〜8時限

学習内容
第1回〜第3回
(1)研究テーマの決め方、論文の収集の方法等について講義する。
(2)各自の研究テーマを決める。
第4回〜第15回
(1)アドバイスを各自求め、過去の研究論文を収集する。
(2)問題解決に必要な言語データを収集し、それを分析する。
(3)順次発表する。
注：
（1）発表4週間前にテーマの相談、及び進め方の相談をすること。
（2）1週間前には発表原稿・資料を提出して指導を受けること。
（3）発表時の指摘等を踏まえ、単位論文を完成させ提出する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	64〜67	国文学概説	2	前期　月 5, 6	和田 崇

授業の概要　明治・大正期の文学について、同時期に書かれた評論と小説の両方を読むことで、近代小説を史的に概観する。国語教科書に掲載されている作品を同時代の評論文と結びつけることで、作品の背景を立体的に考察する。

学習の目的
明治・大正期の日本文学史に関する基礎的な知識を学ぶ。
近代小説の主題や文学史的意義を作品に即して捉える。

学習の到達目標　明治・大正期の日本文学史の基礎的な知識を得て、近代の評論や小説の読解法を学ぶ。

教科書　テキストはPDFファイル等で配布する。

成績評価方法と基準
授業への積極的参加度50%＋期末レポート50%＝計100%（合計60%以上で合格）
3分2以上の出席を要す。
※履修者数に応じて別途課題・発表を課し、その評価は「授業への積極的参加度」に含む。

オフィスアワー　木曜日・昼休み及び14：40〜16：10

学習内容
第1回…イントロダクション―文学評論と小説の関係―
第2回…森鴎外と没理想論争①―「早稲田文学の没理想」（評論）を読む―
第3回…森鴎外と没理想論争②―「舞姫」（小説）を読む―
第4回…田山花袋と自然主義①―「露骨なる描写」（評論）を読む―
第5回…田山花袋と自然主義②―「蒲団」（小説）を読む―
第6回…夏目漱石と明治の精神①―「私の個人主義」（評論）を読む―
第7回…夏目漱石と明治の精神②―「こころ（抄）」（小説）を読む―
第8回…夏目漱石と明治の精神③―「こころ（抄）」（小説）を読む―
第9回…白樺派の文学①―広津和郎「志賀直哉論」（評論）を読む―
第10回…白樺派の文学②―志賀直哉「小僧の神様」（小説）を読む―
第11回…新感覚派の文学①―千葉亀雄「新感覚派の誕生」（評論）を読む―
第12回…新感覚派の文学②―横光利一「頭ならびに腹」（小説）を読む―
第13回…プロレタリア文学①―青野季吉「「調べた」芸術」（評論）を読む―
第14回…プロレタリア文学②―葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」（小説）を読む―
第15回…まとめ

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
国文学概説	64～67	国文学概説	2	後期　月 5, 6	和田 崇（教育学部）

授業の概要　明治・大正期の文学について、同時期に書かれた評論と小説の両方を読むことで、近代小説を史的に概観する。国語教科書に掲載されている作品を同時代の評論文と結びつけることで、作品の背景を立体的に考察する。

学習の目的
明治・大正期の日本文学史に関する基礎的な知識を学ぶ。
近代小説の主題や文学史的意義を作品に即して捉える。

学習の到達目標　明治・大正期の日本文学史の基礎的な知識を得て、近代の評論や小説の読解法を学ぶ。

教科書　テキストはPDFファイル等で配布する。

成績評価方法と基準
授業への積極的参加度50%＋期末レポート50%＝計100%（合計60%以上で合格）
3分2以上の出席を要す。
※履修者数に応じて別途課題・発表を課し、その評価は「授業への積極的参加度」に含む。

オフィスアワー　木曜日の、昼休み及び14：40－16：10

学習内容
第1回…イントロダクション―文学評論と小説の関係―
第2回…森鴎外と没理想論争①―「早稲田文学の没理想」（評論）を読む―
第3回…森鴎外と没理想論争②―「舞姫」（小説）を読む―
第4回…田山花袋と自然主義①―「露骨なる描写」（評論）を読む―
第5回…田山花袋と自然主義②―「蒲団」（小説）を読む―
第6回…夏目漱石と明治の精神①―「私の個人主義」（評論）を読む―
第7回…夏目漱石と明治の精神②―「こころ（抄）」（小説）を読む―
第8回…夏目漱石と明治の精神③―「こころ（抄）」（小説）を読む―
第9回…白樺派の文学①―広津和郎「志賀直哉論」（評論）を読む―
第10回…白樺派の文学②―志賀直哉「小僧の神様」（小説）を読む―
第11回…新感覚派の文学①―千葉亀雄「新感覚派の誕生」（評論）を読む―
第12回…新感覚派の文学②―横光利一「頭ならびに腹」（小説）を読む―
第13回…プロレタリア文学①―青野季吉「「調べた」芸術」（評論）を読む―
第14回…プロレタリア文学②―葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」（小説）を読む―
第15回…まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
国文学	～66	国文学史概説	2	前期　金 5, 6	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要
平安京内の邸第や日本各地の寺社等について、『源氏物語』の舞台となったものを、その歴史や文学作品での描かれ方を中心に考察する。北山・二条院・六条院・石山寺・長谷寺・雲林院・小野・横川・宇治・須磨・明石等を取りあげる予定である。
＊予習の仕方等は、最初の授業時に指示する。
＊なお、授業内容とは別に、大学入学程度の文学史的知識について、期末に試験を行う。

学習の目的　日本古典文学の最高峰の一つである源氏物語について、その概要を知り、登場人物や時代背景を考察できる。

学習の到達目標　「学習の目的」を含めて、中学・高校生に教えられる程度の文学史的知識を身に付ける。

教科書　資料は配付する。

成績評価方法と基準
試験もしくはレポート、予習への取り組み、授業への積極的参加を総合して評価する。
三分の二以上の出席を要す。

オフィスアワー　月曜日・2コマ@研究室

学習内容
①北山・②なにがしの院・③河原院・④雲林院・⑤須磨・明石・⑥石山寺・⑦長谷寺・⑧二条院と六条院・⑨小野と大原・⑩宇治・⑪大原野・⑫嵯峨野・野宮・⑬横川・⑭内裏・⑮桃園
について、文学史上の意義を検討する。

その他
・出席は40名程度以内を想定している。
・留学生は、受講が可能か、予備的に試験をすることがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	64～66	国文学講義 I	2	前期　木 5, 6	和田 崇（教育学部）

授業の概要　明治から昭和初期にかけての児童文学を概観し、また、具体的な作品を取り上げることで文学作品の実践的な読解も行う。小・中学校の国語教科書に掲載されている作品を交えながら日本の児童文学の流れを把握することで、文学作品を読む意義や指導する意義を考える。

学習の目的
日本の児童文学に関する基礎的な知識を学ぶ。
学習内容を教材研究に関連づけて、作品の表現や内容を主体的に探究する力を身に付ける。

学習の到達目標　小説の読解方法、時代背景や日本の児童文学史の基礎的な知識を学び、それを文学教材の指導に還元できるようになる。

教科書
「桑原三郎・千葉俊二編『日本児童文学名作集（下）』（岩波文庫）」
※教科書に収録されていない作品については、別途配布する

成績評価方法と基準
授業への積極的参加度50%＋期末試験50%＝計100%（合計60%以上で合格）
3分2以上の出席を要す。
※履修者数に応じて別途課題・発表を課し、その評価は「授業への積極的参加度」に含む。

オフィスアワー　木曜日の、昼休み及び14：40－16：10

学習内容
第1回…イントロダクション―児童文学とはなにか―
第2回…日本児童文学の誕生―巌谷小波のお伽噺―
第3回…お伽噺から童話へ①―小川未明の登場―
第4回…お伽噺から童話へ②―鈴木三重吉と『赤い鳥』運動―
第5回…『赤い鳥』と童謡―北原白秋「赤い鳥小鳥」―
第6回…『赤い鳥』の童話①―芥川龍之介「蜘蛛の糸」―
第7回…『赤い鳥』の童話②―有島武郎「一房の葡萄」―
第8回…宮沢賢治のイーハトブ
第9回…宮沢賢治の童話①―「注文の多い料理店」―
第10回…宮沢賢治の童話②―「オツベルと象」―
第11回…プロレタリア児童文学と労働運動
第12回…新見南吉の童話―「ごんぎつね」―
第13回…椋鳩十の動物文学―「大造じいさんとガン」―
第14回…戦時下の児童文学
第15回…まとめ
第16回…試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	～66	国文学講義 II	2	後期集中	柴田 芳成（非常勤）

授業の概要
江戸時代の武者絵本に描かれた武人の伝説を紹介・読解するとともに、それらに関わる古典芸能を鑑賞する。

学習の目的
・古典文学中の代表的な武人について、その伝説・逸話などの知識を得る。
・古典芸能についての基本的な事柄を理解する。

学習の到達目標　江戸時代に好んで受け入れられた武士像を考えることから、当時の人々の物の考え方を考察することができる。

教科書　教科書は使用しない。授業時に資料を配付する。

成績評価方法と基準　学期末レポート80%、授業への参加態度20%

オフィスアワー　授業に関する質問等がある場合は、Eメールにて連絡すること。

学習内容
①―⑥ 武者絵本について
⑦―⑮ 武士の伝説の紹介と古典芸能の鑑賞
以下の武人の伝説を扱う予定
⑦⑧素戔嗚尊、⑨⑩日本武尊、⑪⑫源頼光、⑬⑭鎌倉権五郎景政、⑮平維茂・渡辺綱・ほか
なお、授業の進度等により、扱う内容を変更する場合もある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	～66	国文学講義 III	2	前期　火 5, 6	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　一条天皇皇后定子に仕えた清少納言の随筆『枕草子』を読む。

学習の目的　藤原摂関家内部で道長と中関白家（兄道隆及びその子伊周など）の対立や「女房」という職業のあり方など、時代背景を含めて解説することにより、平安時代中期の宮廷生活・貴族生活の中に『枕草子』を置いて、その文学性を確認して行きたいと思う。

学習の到達目標　枕草子を深く読む

教科書　テキスト・資料はPDFファイルをアップロードする。

成績評価方法と基準
試験・レポート、予習の内容、授業への積極的参加等を総合して評価する。
三分の二以上の出席を要す。

オフィスアワー　月曜日・2コマ@研究室

学習内容
①②清少納言伝記 I
③ 同 II
④⑤枕草子解説
⑥1段（春は曙）
⑦⑧7段（猫）
⑨35段（木の花は）
⑨78段（草の庵）
⑪80段（則光）
⑫102段（少し春ある）
⑬132段（言はで思ふ）
⑭280段（香炉峰の雪）
⑮跋文

その他　・受講者は40名程度以内を想定している。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	～66	国文学講義III	2	後期　火5,6	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　院政期に成立した歴史物語『大鏡』を読む。政治の裏面や、特定の家柄、個人に注目し、いわゆる「紀伝体」で記された歴史物語の嚆矢としての『大鏡』を、その背景を含めて読み込むことで、「歴史物語」の特徴を考察する。また、本作品が「雲林院の菩提講」という場に設定されていることの意味も考えたい。

学習の目的　平安時代の歴史物語の表現・主題を深く読み込むことができる。

学習の到達目標　学習の目的に同じ

教科書　テキスト・資料はPDFファイルを配布する。

成績評価方法と基準　授業時の調査・考察、発表に対する積極性及びレポートの内容を総合して評価する。三分の二以上の出席を要す。

オフィスアワー　月曜日・2コマ@研究室

学習内容
次のようなテーマに関わる部分を取りあげる。
①②③怪異現象
④⑤⑥四納言
⑦⑧⑨藤原公任
⑩⑪⑫大斎院選子内親王
⑬菅原道真
⑭⑮原道長

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	64～66	国文学講義IV	2	後期　木5,6	和田 崇（教育学部）

授業の概要　明治の言文一致運動を代表する小説を読むことで、日本の近代小説の誕生期に文体上どのような試みがなされたのかを検証する。また、同時代の社会との関係性も捉えながら、文体と内容の両面から作品成立の背景を考察する。

学習の目的
近代小説の誕生と言文一致運動に関する知識を学ぶ。
文体に着目することで、文法や品詞に着目した精確な読解力を身に付ける。

学習の到達目標　明治文学に関する知識を得る。また、文章表現に着目した文学教材の学習指導ができるようになる。

教科書
・二葉亭四迷『浮雲』（岩波文庫）※新潮文庫でも可
・山田美妙『『いちご姫・蝴蝶 他二篇』（岩波文庫）
・尾崎紅葉『多情多恨』（岩波文庫）

成績評価方法と基準
授業への積極的参加度50%＋期末試験50%＝計100%（合計60%以上で合格）
3分2以上の出席を要す。
※履修者数に応じて別途課題・発表を課し、その評価は「授業への積極的参加度」に含む。

オフィスアワー　木曜日の、昼休み及び14：40－16：10

学習内容
第1回…イントロダクション―言文一致運動について―
第2～6回…二葉亭四迷『浮雲』を読む
第7～9回…山田美妙『蝴蝶』を読む
第10～14回…尾崎紅葉『多情多恨』を読む
第15回…まとめ
第16回…テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	64～66	国文学演習 I	2	前期　月7,8	和田 崇（教育学部）

授業の概要　国語教科書にかつて収録された、もしくは現在も収録されている短編小説を題材とし、作品の分析方法を学ぶ。定番教材化されていない複数の小説を読むことで、実践的な教材研究の技術を身につけるとともに、その作品が教科書に収録された教育上の狙いなどを考察する。

学習の目的　日本近現代文学の基礎的な研究方法を学び、精読と調査によって文学作品を分析し、その成果を他者に伝える能力を修得する。

学習の到達目標
文学作品の研究法を学ぶことにより、教材研究の視野を広げることができる。
根拠にもとづいた精度の高い読解力を修得できる。

教科書
佐藤雅彦編『教科書に載った小説』（ポプラ文庫）
※教科書に収録されていない作品については、別途配布する。

成績評価方法と基準
発表40%＋討論への積極的参加度20%＋レポート40%＝計100%（合計60%以上で合格）
3分2以上の出席を要す。

オフィスアワー　木曜日の、昼休み及び14：40－16：10

学習内容
第1～2回…イントロダクション―日本近現代文学の研究法について―
第3回…研究発表①―菊地寛「形」を読む―
第4回…研究発表②―広津和郎「ある夜」を読む―
第5回…研究発表③―芥川龍之介「雛」を読む―
第6回…研究発表④―横光利一「蠅」を読む―
第7回…研究発表⑤―志賀直哉「灰色の月」を読む―
第8回…研究発表⑥―安部公房「良識派」を読む―
第9回…研究発表⑦―松下竜一「絵本」を読む―
第10回…研究発表⑧―吉村昭「少年の夏」を読む―
第11回…研究発表⑨―永井龍男「出口入口」を読む―
第12回…研究発表⑩―吉村康「父の列車」を読む―
第13回…研究発表⑪―三浦哲郎「とんかつ」を読む―
第14回…研究発表⑫―南木佳士「急須」を読む―
第15回…まとめ
※上記は一例であり、履修者数に応じて課題作品や発表スケジュールを調整する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	～66	国文学演習 II	1	後期　金 5, 6	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　中世初めの貴族説話集『古事談』の故実説話を読む。

学習の目的　平安後期・鎌倉初期の政治状況や貴族生活を把握し、その生活の中で生まれる説話のあり方を検討する。

学習の到達目標　平安時代の女流文学の和文体とは異なる、男性貴族による漢文脈の混じる文体になれ、故実説話の表現を深く読解できる。

教科書　・テキスト（『新注 古事談』）は、ファイルをアップし、必要な部分はコピーを配布する。

成績評価方法と基準　授業時の調査・考察、発表に対する積極性及びレポートの内容を総合して評価する。三分の二以上の出席を要す。

オフィスアワー　月曜日・2コマ@研究室

学習内容
①時代背景解説
②作品概説
③～⑭巻二冒頭より、1回に1話ずつ、語釈・現代語訳等を行う。
⑮まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	64～66	国文学演習 IV	1	後期　月 7, 8	和田 崇（教育学部）

授業の概要　昭和初期の短編小説を題材とし、作品の分析方法を学ぶ。昭和2年の芥川龍之介の死から第二次世界大戦まで、文学史的にも歴史的にも激動の時代に描かれた小説を読むことで、作品と社会との連関や虚構と現実との関係性の中で物語がどのように生起するかを考察する。

学習の目的　日本近代文学の基礎的な知識や研究方法を学び、精読と調査によって文学作品を分析し、その成果を他者に伝える能力を修得する。

学習の到達目標
文学作品の研究法を学ぶことにより、教材研究の視野を広げることができる。
根拠にもとづいた精度の高い読解力を修得できる。

教科書　紅野敏郎・紅野謙介・千葉俊二・宗像和重・山田俊治編『日本近代短篇小説選・昭和篇1』（岩波文庫）

成績評価方法と基準
発表40%＋討論への積極的参加度20%＋レポート40%＝計100%（合計60%以上で合格）
3分2以上の出席を要す。

オフィスアワー　木曜日の、昼休み及び14：40－16：10

学習内容
第1～2回…イントロダクション―日本近代文学の研究法について―
第3回…研究発表①―平林たい子「施療室にて」を読む―
第4回…研究発表②―佐多稲子「キャラメル工場から」を読む―
第5回…研究発表③―堀辰雄「死の素描」を読む―
第6回…研究発表④―横光利一「機械」を読む―
第7回…研究発表⑤―梶井基次郎「闇の絵巻」を読む―
第8回…研究発表⑥―小林多喜二「母たち」を読む―
第9回…研究発表⑦―伊藤整「生物祭」を読む―
第10回…研究発表⑧―室生犀星「あにいもうと」を読む―
第11回…研究発表⑨―北条民雄「いのちの初夜」を読む―
第12回…研究発表⑩―高見順「虚実」を読む―
第13回…研究発表⑪―岡本かの子「家霊」を読む―
第14回…研究発表⑫―太宰治「待つ」を読む―
第15回…まとめ
※上記は一例であり、履修者数に応じて課題作品や発表スケジュールを調整する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国文学	64/65	国文学ゼミナール I	1	前期　火 3, 4	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　卒論で古典文学を扱おうとする3年生以上の者を対象とする。『伊勢物語』を適量ずつ分担し、調査発表してもらう。担当者を中心に出席者全員で諸問題を検討しつつ進める。

学習の目的　平安時代の「歌物語」の読解を通じて、古典文学を読み込む能力を身に付ける。

学習の到達目標　古文を深く読む。卒論を書く、もしくは卒論の準備をする。

教科書　伊勢物語（岩波文庫）開講までに生協等で購入しておくこと

成績評価方法と基準
授業時の調査・考察、発表に対する積極性及びレポートの内容を総合して評価する。
また、卒論に向けて、作品自体を読み込む課題を適宜課す。

オフィスアワー　月曜日・2コマ@研究室

学習内容
解釈上、または平安中期語法上等、問題とされる箇所を中心に、読み進める。
①―⑤ 東下り章段
⑥―⑩ 西下り章段
⑪―⑮ 斎宮関連章段

その他　卒論で古典文学を扱おうとする3年生以上の者は原則必修。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
国文学	64/65	国文学ゼミナールII	1	後期　火3,4	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　卒論で古典文学を扱おうとする3年生以上の者を対象とする。3年生は、卒論で扱おうとする作品に関する論文で価値のあるもの一編を一から二回かけて解説する。4年生は、卒論の中間発表を原則とする。他の出席者は発表内容について質問・コメントをする。

学習の目的　卒論の準備、もしくは執筆をする。

学習の到達目標　古典文学を対象として論文を書く力を付ける。

予め履修が望ましい科目　国文学ゼミナールIII

教科書　テキストはコピーを配布する。

成績評価方法と基準
授業時の調査・考察、発表に対する積極性及びレポートの内容を総合して評価する。
また、卒論に向けて、作品自体を読み込む課題を適宜課す。

オフィスアワー　月曜日・2コマ@研究室

学習内容
1-5回 4年生 中間発表
6－10回 3年生 論文紹介
11－15回 4年生 最終発表

その他　卒論で古典文学を扱おうとする3年生以上の者は原則必修。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
漢文学	66以前	漢文学講義 I	2	前期　金3,4	湯浅陽子（人文学部文化学科）

授業の概要　この授業では、北宋期（960〜1126）の詩文を資料として、その表現や内容の変化の過程をたどりつつ、各々の時期の文学作品の持つ特色について考える。

学習の目的　中国の古典詩文に親しむ。

学習の到達目標　北宋期を中心とした時期の中国の古典文化に対する理解を深める。

受講要件　この授業は、国語科教員免許の漢文学に該当する。

予め履修が望ましい科目　なし

教科書　必要に応じて授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準　授業に対する積極的な態度30%、期末試験等70%

オフィスアワー　金曜日12：00〜13：00 場所：湯浅研究室（共通教育4号館4階）

学習内容
① 宋代の社会と文化について
②〜⑤ 北宋初期の文学
⑥〜⑫ 北宋中期の文学
⑬〜⑮ 北宋末期の文学
⑯ 定期試験

その他　この授業は、人文学部「中国の文学A」として、人文学部生も受講します。開講は人文学部の日程に添って行います。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
漢文学	66以前	漢文学講義 II	2	後期　金3,4	湯浅陽子（人文学部文化学科）

授業の概要
この授業では、全15回を前半・後半に分け、「I 古典的中国における書物の文化史」と題する前半（第1〜8回）では、中国古典文献学（文学・史学・哲学の各分野を含む）を学ぶ基礎として、近代以前の中国における知的文化のあり方について、特に各時代の書物をめぐる状況を中心に概説する。
また、「II 中国古典文学の諸ジャンル」と題する後半（第9〜15回）では、古典文学の各ジャンル・文体の特色について、時代を追った変容を視野に入れつつ概説する。

学習の目的　中国の古典文学を学ぶための基礎知識を修得する。

学習の到達目標　中国の古典詩文ならびに古典文献学の基礎知識を修得する。

受講要件　この授業は、国語科教員免許の漢文学に該当する。

予め履修が望ましい科目　漢文学講義 I

教科書　必要に応じて授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準　授業に対する積極的な態度30%、期末試験等70%

オフィスアワー　金曜日12：00〜13：00 場所：湯浅研究室（共通教育4号館4階）

学習内容
I 古典的中国における書物の文化史
第1回：先秦
第2回：秦
第3回：前漢
第4回：後漢
第5回：三国・西晉
第6回：南北朝期
第7回：唐
第8回：宋（〜清）
II 中国古典文学の諸ジャンル
第9回：『詩』とその注釈
第10回：辞賦
第11回：駢文
第12回：古文
第13回：詩（古体詩）
第14回：詩（新体詩）
第15回：詞
定期試験

その他　この授業は、人文学部「文学概論J」として人文学部生も受講します。開講は人文学部の日程に添って行われ、教育学部の開講日程より早く始まることがありますので、注意してください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
漢文学	～66	漢文学演習 II	1	前期　金 3, 4	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　中島敦の作品「山月記」や「弟子」を、原拠となった中国文学作品の『人虎伝』や『論語』、『孔子家語』等と比較しながら読む。

学習の目的　中学・高校の教員として漢文学教材を教えるのに必要な知識や調べ方の基礎を培う。

学習の到達目標　中学・高校の教員として漢文学教材を教えるのに必要な知識や調べ方の基礎を培う。

教科書　テキスト コピーを配布する。但し、漢和辞典を各自用意すること。

成績評価方法と基準
・授業時の調査・考察、発表に対する積極性及びレポートの内容を総合して評価する。
・三分の二以上の出席を要す。

オフィスアワー　月曜日・2コマ@研究室

学習内容
山月記及び弟子のテキストを、原拠となった中国文学作品と比較しながら、中島敦の作品構成の意図や、表現の工夫等を考察する。
①ー⑥ 山月記と「人虎伝」の表現の比較
⑦ー⑫ 弟子と『孔子家語』『論語』の表現の比較
⑬ー⑮ 中島敦の実人生と漢文学古典との関連の考察

その他　ゼミ形式で行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
書道	66以前	書道 I	1	前期　木 5, 6	林朝子（教育学部）

授業の概要　楷書（中学校書写も含む）の基礎的な理論の理解を深めると共に、技法、鑑賞力を養う。実技では中学校教科書の楷書から始め、唐代の孔子廟堂碑を中心に古典臨書へと進み、毛筆による楷書の運筆を習得する。また、楷書の理論、歴史等に関する基礎学習も行う。

学習の目的　楷書の運筆を習得し、書写教育での指導力を身につける。

学習の到達目標　毛筆による実技を通して、楷書の運筆法と中学校書写を視野に入れた指導法を習得する。また、楷書に関する理論、歴史などの基礎を学ぶことで、鑑賞力の向上へとつながる。

教科書
プリントで配布
参考図書：『明解書写教育』全国大学書写書道教育学会編 萱原書房
中学校書写教科書

成績評価方法と基準　出席、提出作品（毎時、1～2枚程度）、授業での積極的な態度、書道に関するレポート・試験を総合して評価する。実技試験は2回行う予定。

オフィスアワー　毎週木曜日昼休み、林研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
（1）国語科における書写教育の意義、楷書について、用具用材説明
（2）楷書の基本運筆、基本点画
（3）（4）中学校書写教科書から抜粋した教材を学習（漢字）
（5）（6）同上（ひらがなと漢字）
（7）実技試験 I と前半のまとめ
（8）古典の臨書（『孔子廟堂碑』）①
（9）古典の臨書（『孔子廟堂碑』）②
（10）古典の臨書（『孔子廟堂碑』）③
（11）古典の臨書（『九成宮醴泉銘』）①
（12））古典の臨書（『九成宮醴泉銘』）②
（13））古典の臨書（『九成宮醴泉銘』）③
（14）古典の臨書まとめ①
（15）古典の臨書まとめ②
実技試験 II

その他
・第2講より毛筆書道用具を各自で用意する。貸出はしない。
・授業では楷書に関する講義と実技を段階的に進めていくので、出席を重視する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
書道	66以前	書道 II	1	後期　月 5, 6	林朝子（教育学部）

授業の概要　行書の基礎的な理論の理解を深めるとともに、技法、鑑賞力を養う。実技では王羲之の行書を中心に古典臨書を行い、行書の運筆を習得する。また、行書の理論、歴史、指導法等に関する学習も行う。

学習の到達目標　毛筆による実技を通して、行書の運筆法とその指導法を習得する。また、行書に関する理論、歴史等の基礎を学ぶことで、鑑賞力の向上へとつなげる。

予め履修が望ましい科目　書道 I（楷書）

教科書　プリントで配布

成績評価方法と基準　提出作品（毎時、1～2枚程度）、授業での積極的な態度、書道に関するレポート・2回の実技試験を総合して評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日昼休み、林研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
（1）行書の成立と特徴
（2）～（6）行書の基本運筆、基本点画の曲線化
（7）～（15）集字聖教序の鑑賞と運筆学習
※実技試験を2回行う

その他
・第2講より毛筆書道用具を各自で用意する。貸出はしない。
・授業では行書に関する講義と実技を段階的に進めていくので、出席を重視する。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
書道	66以前	書道史 II	2	前期　月 5, 6	林朝子（教育学部）

授業の概要　日本における書の歴史と書風について、中国との関係も取り入れながら理解できるようにする。日本の書道教育史についても触れる。基本的な変体仮名を読めるようにし、日本書道の古典作品への理解を深める。

学習の目的　日本の書の歴史を知り、書についての理解を深める。

学習の到達目標
日本の書について、中国の影響も含めて、基礎的な知識を身につける。
書道古典の基礎的な変体仮名を読めるようにする。
また、身に付けた知識を書の鑑賞や表現にも生かしていく。

予め履修が望ましい科目　書道 I 等、書道にかかわる科目

教科書　『変体仮名の手引』中野幸一編、武蔵野書院、648円

成績評価方法と基準　出席、授業での積極的な態度、授業での発表、小テスト、レポートなどの成績を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日昼休み（1号館4階研究室）

学習内容
1）日本の書の歴史について概説
2）～10）時代別に書風や時代背景について
11～12）日本の書道教育史について
13～15）学生による発表：書・時代・人について
・毎時20分程度、変体仮名の読み方の練習を行い、読み方の試験（小テスト）を2回行う予定。
・展覧会見学を行う予定。

その他　書道の展覧会を見に行く予定。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
書道	66以前	書道研究 II	2	後期　木 5, 6	林朝子

授業の概要　書表現の豊かさを理論面、実技面から学び、小中学校の毛筆書写指導力を身に付ける。

学習の目的　書論講読、臨書と創作を通し、書表現に広がりを探求する。

学習の到達目標　書表現を言葉で表現でき、また、書の表現ができるようになる。

受講要件　書道 I ～III、書道研究 I のいずれかを履修済であること。それ以外の場合は、要相談。

教科書　プリント配布

成績評価方法と基準　出席と授業時の態度、毎回の課題、レポート等を総合して評価する

オフィスアワー　木曜昼休み（1号館4階・林研究室）

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：書表現
第3回：楷書表現①
第4回：楷書表現②
第5回：行草書表現①
第6回：行草書表現②
第7回：篆書表現
第8回：隷書表現
第9回～14回：各自のテーマに沿って作品創作と発表
第15回：まとめ
※最終レポートあり

その他
・半切サイズの作品創作の場所確保のため、人数制限を行う。
・授業において、各自の作品の鑑賞を行う。
・毛筆で使用する用具用材について自己負担が必要。
・学生教育研究災害傷害保険への加入が必要（小中学校等への見学をす
ることがあるため）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
書道	65以前	書道ゼミナール I	1	前期　木 9, 10	林朝子（教育学部）

授業の概要　書写書道に関する研究（この分野で卒論を書く学生を対象とした内容）

学習の目的　書写書道に関する課題を見つけ、研究方法を探る。

学習の到達目標　各自が関心のあるテーマで、研究を行う。

予め履修が望ましい科目　書写書道に関する科目

教科書　適宜紹介

オフィスアワー　木曜日昼休み、教育学部1号館4階林研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2～7回 卒業研究（4年生）の報告と討論
第8～14回 文献講読の発表と討論
第15回 まとめ

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
書道	65以前	書道ゼミナール II	1	後期　木 9, 10	林朝子（教育学部）

授業の概要　書写書道に関する研究

学習の目的　書写書道に関する課題を見つけ、研究方法を探る。

学習の到達目標　各自が関心のあるテーマで、研究を行う。

予め履修が望ましい科目　書写書道に関する科目

教科書　適宜紹介

オフィスアワー　木曜日昼休み、教育学部1号館4階林研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2～7回 卒業研究（4年生）の報告と討論
第8～14回 文献講読の発表と討論
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校専門国語		小学校専門国語	2	前期　月 3, 4	丹保健一（教育学部） 林朝子（教育学部）

授業の概要
前半：国語学：小学校の教育に必要と思われる、現行の国語表記に基本的な考え方と実際の表記法を習得すると共に、現行表記法の問題点についても理解する。
後半：書写：小学校国語科書写の指導力を身につけるための学習。書写（硬筆・毛筆）・文字に関する基本的な知識と技術の習得を目指す。

学習の目的
国語学：現行の国語表記に基本的な考え方と実際の表記法を習得する。
現行表記法の問題点について理解する。

学習の到達目標
国語学：現行の国語表記に基本的な考え方と実際の表記法の習得。
現行表記法の問題点についての理解。

教科書
国語学：『新しい国語表記ハンドブック』三省堂編集所編 三省堂
教科書：『板書ーきれいで読みやすい字を書くコツ』樋口咲子他、ナツメ社

成績評価方法と基準
国語学：授業中の発表、課題提出、テスト等を総合的に評価する。
書写：授業態度、課題内容、テストを総合的に評価する。

オフィスアワー
丹保：毎週火曜13:00～14：00 1号館4階 丹保研究室
林：木曜昼休み 1号館4階林研究室

学習内容
（前半）
1．文字について
2．謝りやすい表記
3．ひらかな(1)
4．ひらかな(2)
5．カタカナ
6．ローマ字
7．漢字(1)
8．漢字(2)
（後半）
9．書写について
10．書写の学習項目、文字の知識(1)、毛筆(基本点画1)
11．書写の評価、添削、文字の知識(2)、毛筆（基本点画2）
12．書写における毛筆、文字の知識(3)、毛筆（基本点画3）
13．毛筆（漢字）
14．毛筆（ひらがな）
15．毛筆（漢字とひらがな）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・国語	～62	小学校専門国語	1	前期　月 3, 4	林朝子（教育学部） 丹保健一（教育学部）
	63～	小学校専門国語	2		

授業の概要
前半 書写：小学校国語科書写の指導力を身につけるための学習。書写（硬筆・毛筆）・文字に関する基礎的な知識と技術の習得を目指す。
後半 国語学・日本語学：小学校の教育に必要と思われる、現行国語表記の基本的な考え方と実際の表記法を修得すると共に、現行表記法の問題点についても理解する。

学習の目的　国語学・日本語学：現行国語表記の表記法を修得すると共に、基本的な考え方と問題点についても理解する。

学習の到達目標　国語学・日本語学：現行国語表記の表記法の修得、現行国語表記法の基本的な考え方及び問題点の理解

教科書
前半：『板書ーきれいで読みやすい字を書くコツ』樋口咲子他、ナツメ社
各テーマごとに指導する

成績評価方法と基準
前半 授業態度、課題内容、レポート等を総合的に評価する
後半 授業中の発言、発表内容、テスト（またはレポート）を総合的に評価する。
※最終評価は、前半後半の評価を合わせる

オフィスアワー
林 木曜昼休み 1号館4階林研究室
丹保 火曜7ー8限 1号館4階丹保研究室

学習内容
（前半）
1．書写について
2．書写の学習項目、文字の知識（1）、毛筆（基本点画1）
3．書写の評価・添削、文字の知識（2）、毛筆（基本点画2）
4．書写における毛筆、文字の知識（3）、毛筆（基本点画3）
5．毛筆（漢字）
6．毛筆（ひらがな）
7．毛筆（漢字とひらがな）
（後半）
8．文字について
9．誤りやすい表記
10．平仮名（1）
11．平仮名（2）
12．片仮名
13．ローマ字
14．漢字（1）
15．漢字（2）

その他　前半：2回目の講義より毛筆の用具用材を準備すること（貸出無）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校専門国語		小学校専門国語	2	後期　月 3, 4	丹保健一（教育学部） 林朝子（教育学部）

授業の概要
前半：国語学：小学校の教育に必要と思われる、現行の国語表記に基本的な考え方と実際の表記法を習得すると共に、現行表記法の問題点についても理解する。
後半：書写：小学校国語科書写の指導力を身につけるための学習。書写（硬筆・毛筆）・文字に関する基本的な知識と技術の習得を目指す。

学習の目的
国語学：現行の国語表記に基本的な考え方と実際の表記法を習得する。
現行表記法の問題点について理解する。

学習の到達目標
国語学：現行の国語表記に基本的な考え方と実際の表記法の習得。
現行表記法の問題点についての理解。

教科書
国語学：『新しい国語表記ハンドブック』三省堂編集所編 三省堂
教科書：『板書ーきれいで読みやすい字を書くコツ』樋口咲子他、ナツメ社

成績評価方法と基準
国語学：授業中の発表、課題提出、テスト等を総合的に評価する。
書写：授業態度、課題内容、テストを総合的に評価する。

オフィスアワー
丹保：毎週火曜13:00～14：00 1号館4階 丹保研究室
林：木曜昼休み 1号館4階林研究室

学習内容
（前半）
1．文字について
2．謝りやすい表記
3．ひらかな(1)
4．ひらかな(2)
5．カタカナ
6．ローマ字
7．漢字(1)
8．漢字(2)
（後半）
9．書写について
10．書写の学習項目、文字の知識(1)、毛筆(基本点画1)
11．書写の評価、添削、文字の知識(2)、毛筆（基本点画2）
12．書写における毛筆、文字の知識(3)、毛筆（基本点画3）
13．毛筆（漢字）
14．毛筆（ひらがな）
15．毛筆（漢字とひらがな）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・国語	～62	小学校専門国語	1	後期　月 3, 4	林朝子（教育学部） 丹保健一（教育学部）
	63～	小学校専門国語	2		

授業の概要
前半 書写：小学校国語科書写の指導力を身につけるための学習。書写（硬筆・毛筆）・文字に関する基礎的な知識と技術の習得を目指す。
後半：国語学・日本語学：小学校の教育に必要と思われる、現行国語表記の基本的な考え方と実際の表記法を修得すると共に、現行表記法の問題点についても理解する。

学習の目的　・国語学・日本語学：現行国語表記の表記法を修得すると共に、基本的な考え方と問題点についても理解する。

学習の到達目標　国語学・日本語学：現行国語表記の表記法の修得、現行国語表記法の基本的な考え方及び問題点の理解

教科書
前半：『板書ーきれいで読みやすい字を書くコツ』樋口咲子他、ナツメ社
各テーマごとに指導する

成績評価方法と基準
前半 授業態度、課題内容、レポート等を総合的に評価する
後半 授業中の発言、発表内容、テスト（またはレポート）を総合的に評価する。
※最終評価は、前半後半の評価を合わせる

オフィスアワー
丹保 火曜7ー8限 1号館4階丹保研究室
林 木曜昼休み 1号館4階林研究室

学習内容
（前半）
1．書写について
2．書写の学習項目、文字の知識（1）、毛筆（基本点画1）
3．書写の評価・添削、文字の知識（2）、毛筆（基本点画2）
4．書写における毛筆、文字の知識（3）、毛筆（基本点画3）
5．毛筆（漢字）
6．毛筆（ひらがな）
7．毛筆（漢字とひらがな）
（後半）
8．文字について
9．誤りやすい表記
10．平仮名（1）
11．平仮名（2）
12．片仮名
13．ローマ字
14．漢字（1）
15．漢字（2）

その他　前半：2回目の講義より毛筆の用具用材を準備すること（貸出無）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
社会科教育コース専門教育科目	67	社会科入門	2	通年　水 3, 4	馬原潤二（教育学部）

授業の概要　社会科に関する諸学問の大学レベルの基礎的な内容とそれらの研究方法の基礎について講義する。

学習の目的　社会科に関する諸学問の大学レベルの基礎的な内容とそれらの研究方法の基礎について理解・習得する。

学習の到達目標　社会科に関する諸学問の大学レベルの基礎的な内容とそれらの研究方法の基礎について理解・習得することができる。

成績評価方法と基準　レポート40%、授業への積極的関与の程度60%

学習内容
第1回：イントロダクション
第2回：講義とは何か
第3回：専門書の探し方
第4回：専門書の読み方
第5回：レポートとは何か
第6回：レポート批評会①グループ批評
第7回：レポート批評会②グループ批評
第8回：レポート批評会③フィードバック
第9回：報告と議論の方法
第10回：模擬討論①グループ討論
第11回：模擬討論②自由討論
第12回：模擬討論③フィードバック
第13回：ブックレポートの書き方
第14回：学力テスト①
第15回：まとめ
第16回：イントロダクション
第17回：ブックレポート批評会①グループ批評
第18回：ブックレポート批評会②フィードバック
第19回：プレゼンテーションの技法
第20回：プレゼン実践①集団実践
第21回：プレゼン実践②個人実践
第22回：プレゼン実践③フィードバック
第23回：学力テスト②
第24回：論文作成の技法①
第25回：論文作成の技法②
第26回：ミニ論文批評会①グループ批評
第27回：ミニ論文批評会②グループ批評
第28回：ミニ論文批評会③個人批評
第29回：ミニ論文批評会④フィードバック
第30回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
社会科教育コース専門教育科目	66	社会科入門（再履修用）	2	前期　月 3, 4	馬原潤二（教育学部）

授業の概要　社会科に関する諸学問の大学レベルの基礎的な内容とそれらの研究方法の基礎について講義する。

学習の目的　社会科に関する諸学問の大学レベルの基礎的な内容とそれらの研究方法の基礎について理解・習得する。

学習の到達目標　社会科に関する諸学問の大学レベルの基礎的な内容とそれらの研究方法の基礎について理解・習得することができる。

成績評価方法と基準　レポート40%、授業への積極的関与の程度60%

学習内容
第1回：イントロダクション
第2回：講義とは何か
第3回：専門書の探し方
第4回：専門書の読み方
第5回：レポートとは何か
第6回：レポート批評会①グループ批評
第7回：レポート批評会②グループ批評
第8回：レポート批評会③フィードバック
第9回：報告と議論の方法
第10回：模擬討論①グループ討論
第11回：模擬討論②自由討論
第12回：模擬討論③フィードバック
第13回：ブックレポートの書き方
第14回：学力テスト①
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
法律学	64－66	憲法原論（国際法を含む）	2	前期　火 3, 4	手塚 和男

授業の概要　教育、学校をめぐる諸問題を採り上げ、子どもの基本的人権について論じ、現在問題になっている状況を理解し、裁判例を検討することにより、子どもの権利条約も視野に入れて考究する。特に、子どもの権利委員会の総括所見(第1回～第3回)を素材に、日本の子どもの置かれた現状の理解を深める。

学習の目的　子どもの権利条約により、日本の子どもの現状について知り、子どもの権利をどのように考えるかを具体的に理解することができる。また、障害者権利条約についても理解を深める。いじめ、差別の問題についても理解を深める。

学習の到達目標　子どもの基本的人権の諸問題と教育にかかわる問題を扱い、教師として知っておくべき子どもの基本的人権についての基礎知識を得ることができ、将来の教師としての職業にも意義がある。いじめ、差別について基本的な考え方を習得する。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　日本国憲法

教科書　子ども権利委員会の総括所見：日本(第1回～第3回)

成績評価方法と基準　レポート

オフィスアワー　火曜日 13：00－14：00 法律学研究室（共通教育1号館415号室）

学習内容
1～2 未成年者の人権享有主体性
3～4 生徒の自己決定権
5～8 子どもの権利条約：子どもの権利委員会総括所見
9～10 障害者権利条約
11～12 障害児の教育を受ける権利
13～14 外国人の子どもの教育を受ける権利
15 まとめ
16試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
政治学	～66	政治学原論（国際政治を含む）	2	前期　月 7, 8	馬原 潤二

授業の概要　政治について立体的に把握するためには、政治学に固有の概念を理解するとともに、その概念の現状をつぶさに考察する必要がある。本講の前期開講分では、まず前者の政治学の基礎概念について概観的に説明することにする。それによって、政治を学問的に検討するための足がかりを提供することにしたい。

学習の目的　政治について考えるための基本的な知識を涵養することを目的とする。

学習の到達目標　現実の政治的問題について、政治学的な見地から自身の見解ができるようになることが目標である。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準
学期末にレポートの提出を求める。それによって評価する。
ただし、受講生の数によっては学期中に小レポートの提出を求めることもある。

オフィスアワー
場所：政治学研究室
時間：事前にアポを取って調整すること。

学習内容
第1回：問題の提起：政治とは何か
第2回：総論：政治的モティヴェーション小史
第3回：政治を運営するシステム①議会
第4回：政治を運営するシステム②政府
第5回：政治を運営するシステム③選挙
第6回：政治を運営するシステム④政党
第7回：政治を運営するシステム⑤軍隊
第8回：政治を運営するシステム⑥国際機関
第9回：政治を動かすファクター①政治文化
第10回：政治を動かすファクター②メディア
第11回：政治を動かすファクター③世論
第12回：政治を動かすファクター④思想
第13回：政治を動かすファクター⑤国民経済
第14回：政治を動かすファクター⑥グローバル経済
第15回：まとめ：ふたたび政治とは何か

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
経済学	～66	経済学原論（国際経済学を含む）	2	前期　月 5, 6	内田秀昭（教育学部）

授業の概要　市場経済の機能と限界、政府による経済政策の役割などについて主にミクロ経済学の側面から講義を行う。

学習の目的
・経済学の基礎理論を習得する。
・理論に基づいて現実の経済問題について考察する。
・自ら問題の解決策を考える能力を身につける。

学習の到達目標
・経済学の基礎理論を習得する。
・理論に基づいて現実の経済問題について考察する。
・自ら問題の解決策を考える能力を身につける。

教科書
八田達夫著『ミクロ経済学 Expressway』、東洋経済新報社
授業開始までに購入しておくこと

成績評価方法と基準　宿題15%、レポート5%、期末試験80%、計100%。（合計が60%以上で合格）

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 需要と供給
第3回 供給曲線
第4回 生産者余剰、可変費用、帰属所得
第5回 需要曲線の導出と総余剰
第6回 参入規制、市場介入
第7回 国際経済1・・・比較優位の原理
第8回 国際経済2・・・国際貿易の余剰分析
第9回 国際経済3・・・グループ・ディスカッション
第10回 外部不経済
第11回 規模の経済：独占
第12回 外部経済と公共財、道路と市場の失敗
第13回 情報の非対称性
第14回 労働市場
第15回 社会的厚生と効率化原則

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本史		日本史概論	2	前期　木 1, 2	藤田達生（教育学部）

授業の概要　この授業では、将来、自分自身が日本史の授業をする際に役立つよう、近年の日本史学の新視点を紹介し、また人物史・地域史を授業であつかう際の方法論について講義する。

学習の目的　この授業を通して、日本史の授業をする際の技術や予備知識の獲得はもちろん、「なぜ日本史を教えるのか」という問いに対して自分ならではの答えを確立できるようにしたい。

学習の到達目標　日本史の授業をする際には、自分の好きな時代だけではなく、また他の学問分野との関わりについても知っておいた方が、より豊かな授業ができると思う。“引き出し”の多い教員をめざしてもらいたい。

受講要件　とくに無し。

教科書　『天下統一』（中公新書、2014年）

成績評価方法と基準　出席と期末試験（60%以上で合格）

オフィスアワー　毎週水曜10時30分～12時

学習内容
講義内容は以下を予定している。
第1回：天下統一を問い直す
第2回：室町幕府の復興
第3回：義昭―信長政権
第4回：鞆幕府
第5回：安土幕府
第6回：近世公権力の創出
第7回：天下人と鉢植大名
第8回：価値観の転換
第9回：安土幕府の継続
第10回：政権交代
第11回：豊臣国分の第一段階
第12回：豊臣国分の第二段階
第13回：仕置の強制
第14回：政権崩壊への序曲
第15回：天下統一がもたらしたもの

その他　将来、日本史の教員になる人向けに、日本史の教育や研究の方法について学ぶ授業である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
外国史	64-66	外国史概論	2	前期　火 3, 4	大坪慶之（教育学部）

授業の概要　世界が一体化するモンゴル帝国以後の東アジアの歴史を、日本と中国の関係を軸に見ていく。

学習の目的　自国や相手国の歴史・文化を学ぶ際に大切なのは、世界各地には多種多様な歴史・文化が存在し一様ではないこと、異なった歴史的背景を持つ民族や文化の絶え間ない交流によって各地域、さらには世界が形成されてきたことである。本講義では、以上の二点を中心に考察する。

学習の到達目標　現代の東アジアの成立、世界史上の東アジアの位置について理解する。

受講要件　前期月曜9・10限の外国史概論／世界の中の日本Ⅰ（担当：鈴木宏節講師）を履修する学生は受講不可。

教科書　教科書は使用しない。

成績評価方法と基準　小テスト20%、試験80%

学習内容
・元から明へ：大航海時代と日本銀
1．クビライの軍事・通商帝国
2．明と東アジアの国際秩序
3．北虜南倭と日本銀
・東アジア世界における清朝と日本
4．明清交替
5．清の支配構造
・清末の動乱と日本・欧米諸国
6．アヘン戦争・アロー戦争と太平天国
7．十九世紀後半の国際情勢と欧米・日本
・辛亥革命、第一次世界大戦と日本
8．義和団から辛亥革命へ
9．中華民国の成立と第一次世界大戦
10．北京政府と軍閥
・中華民国期の中国情勢と日中戦争
11．南京国民政府の成立
12．日中戦争
・戦後世界の中の日中関係
13．国共内戦と中華人民共和国の成立
14．大躍進・文化大革命と日中国交正常化
15・改革開放と現代中国

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
外国史	64〜66	外国史概論	2	前期　月 9, 10	鈴木 宏節（教育学部非常勤講師）

授業の概要　世界が一体化するモンゴル帝国成立までの東アジアの歴史を、日本と中国の関係を軸に概観する。

学習の目的
自国や相手国の歴史・文化を学ぶ際に大切なのは、世界各地には多種多様な歴史・文化が存在し一様ではないこと、異なった歴史的背景を持つ民族や文化の絶え間ない交流によって各地域、さらには世界が形成されてきたことである。本講義では、世界がユーラシア規模で一体化する以前の東アジアの歴史を、中国に存在した王朝・国家の構造、諸民族の動向、国際関係を軸に見ていくことで、当該地域について理解することを目指します。

学習の到達目標　東アジア世界がどのように成立したか、世界史上の東アジアの位置について理解する。

受講要件
前期火曜日3・4限の外国史概論／世界の中の日本Ⅰ（担当：大坪慶之）を履修する学生は受講不可。
前年度開講の外国史概論／世界の中の日本Ⅰ（担当：大坪慶之）の単位取得者は受講不可。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　小テスト20%、試験80%

学習内容
本講義は、次の2つのテーマを柱として進める。
1．中国に関する基本知識（3回）
・ユーラシアとアジア
・地理的環境と言語・民族
・中国の地理
2．各時代史
・中国初期王朝の形成（1回）
・秦漢帝国と周辺地域（2回）
・中華の分裂と統合（2回）
・隋唐帝国の形成（3回）
・宋と北方諸民族（2回）
・モンゴル帝国の成立（2回）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	65, 66	地理学概論	2	前期　金 5, 6	宮﨑 清，宮岡邦任

授業の概要　地理学の基礎を学ぶ。幾つかの地域を題材にし，人間生活と自然環境の相互関係について多角的にアプローチする．

学習の目的　小学校・中学校地理における教科書の内容の理解に必要な知識を得る。

学習の到達目標　人間生活と自然環境の相互関係について，地理学的視点に立って考えることができる．

予め履修が望ましい科目　共通教育における地理学に関する科目について，できるだけ履修していることが望ましい。

教科書　教科書は用いず，必要に応じて資料を配付する．

成績評価方法と基準　試験70%，レポート20%，出席10%

オフィスアワー
宮岡：火曜日14:40〜16:10，宮岡研究室．時間外でも事前にコンタクトがあれば随時対応する．
宮﨑：木曜日10:30〜12:00，宮﨑研究室．

学習内容
1．はじめに（地理学の特色）
2．地形図の基礎
3．大地形
4．世界の気候と植生
5．世界の自然環境と生活
5．地域における自然環境の考え方
6．地形図から地域の自然環境をみる
7．身近な地域の自然環境
8．自然環境と自然災害，防災
9．人文現象の考え方
10．人文現象の調査方法
11．産業
12．地域の結びつき
13．都市の立地と構造
14．人口問題を考える
15．各校種の学習指導要領と地理学の専門性
16．試験
2〜15は，都合により順番が入れ替わることがあります．

その他
色鉛筆（12色程度）を持参すること．
2・3年次生を対象とした講義

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
哲学・倫理学	66以前	倫理学概論	2	前期　金 3, 4	秋元ひろと

授業の概要　西洋の哲学思想のうち，とくに実践哲学（道徳哲学）に焦点を合わせて，その基本的な諸概念，諸問題について解説する。

学習の到達目標　哲学の基礎的事項について理解する。

教科書　とくに指定しない。

成績評価方法と基準　試験により評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日16:30〜18:00

学習内容
1-4.古代ギリシア
・ポリス社会の道徳哲学
・ヘレニズム期の道徳哲学
・キリスト教
5-7.中世キリスト教思想
・教父哲学
・スコラ哲学
8-10.中世から近代へ
・ルネサンス
・宗教改革
11-15.近代市民社会の人間像
・社会契約論
・カントの道徳哲学
・功利主義

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	65	自然地理学演習（3）	②	通年　火 9, 10	宮岡邦任

授業の概要　各自が決定したテーマに沿った形で，文献レビュー，現地調査，分析，解析について，種々の地理学的手法を用い，問題解決に向けての進捗状況の発表および討論・解説を行う．また，テーマに関係する文献についても発表をしてもらい，理解を深めていく．

学習の到達目標　自然地理学に関する調査・研究の手法を習得する．

受講要件　地理学専攻生に限る．

予め履修が望ましい科目　地理学概論．できれば，自然地理学概論，水文学概論についても履修済みであることが望ましい。また，自然地理学特論，水文学特論を平行して履修していることが望ましい．

教科書　教科書は指定せず．必要に応じて参考書・論文を紹介する．

成績評価方法と基準　レポート60%，発表30%，出席10%

オフィスアワー
火曜日14:40〜16:10，宮岡研究室
時間外でも，事前にコンタクトがあれば随時対応する．
miyaoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．Intoroduction
2.研究テーマをみつける
3.文献レビュー
4．資料収集
5．現地調査の計画と準備
6．現地調査の実施
7．現場データの取り纏め
8．調査結果の発表
9．物理データの分析
10．物理データの解析
11．化学データの分析
12．化学データの解析
13．取り纏め
14．報告文の作成
15．発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	64	自然地理学演習（4）	②	通年　火 9, 10	宮岡邦任

授業の概要　各自が関心のあるテーマを設定し，文献検索・現地調査・分析・解析などの一連の作業に関して，種々の地理学的手法を用い，現象把握と問題解決に向けて進捗状況を発表してもらい，それに対する討論・解説を行う．毎週発表担当者を決め，発表者は発表時に資料を配付する．

学習の到達目標　自然地理学研究における「自然環境と人間生活」の関わり合いの結果，現在至る所で問題になっている環境問題について，調査研究を通して理解するとともに，高い環境意識が持てること．

受講要件　地理学専攻生に限る．

予め履修が望ましい科目　地理学概論，水文学概論，自然地理学概論，水文学特論，自然地理学特論，地理学野外実習

教科書　教科書は指定せず，必要に応じて参考書・論文を紹介する．

成績評価方法と基準　レポート80%，発表15%，出席5%

オフィスアワー
毎週火曜日14:40〜16:10
時間外でも事前にメールなどでコンタクトをとれば，随時対応する．
miyaoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．Introduction
2．研究テーマの模索
3．文献レビュー
4．データ処理の復習
5．図面作成の復習
6．進捗状況発表
7．現地調査の計画と準備
8．現地調査の実施
9．野外でのデータ収集方法
10．資料収集
11．進捗状況発表
12．データの解析
13．作図
14．論文作製
15．発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	〜65	人文地理学演習（3）	2	通年	宮﨑 清

授業の概要　地域調査の方法及びまとめ方

学習の到達目標　地域調査の方法及びまとめ方を修得する。

予め履修が望ましい科目　地理学概論

教科書　参考書：『地域研究法』上野和彦（原書房）、『フィールドワーク入門』市川建夫（古今書院）

成績評価方法と基準　レポート

学習内容
前期
①②地域とは
③④⑤⑥課題の摘出
⑦⑧調査の手順
⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮調査法
後期
①②③④集計
⑤⑥統計図表の作成
⑨⑩⑪分布図・主題図の作成
⑫⑬⑭⑮報告書の作成

その他　地理学専攻3年生必修。地理学専攻生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	64	人文地理学演習（4）	2	通年	宮﨑 清

授業の概要　人文地理学研究法と人文地理学論文のまとめ方

受講要件　地理学専攻4年生必修。地理学専攻生に限る。

予め履修が望ましい科目　人文地理学演習（3）、地理学野外実習

成績評価方法と基準　レポート

学習内容
①②③④⑤文献収集
⑥⑦⑧⑨⑩研究方法・調査法
⑪〜⑮論の組み立て方。
⑯〜⑳地図・図表の作成
㉑〜㉚論文の書き方

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
地理学	65, 66	地理学野外実習	1	前期集中	宮﨑 清, 宮岡邦任

授業の概要　人文地理学および自然地理学の諸現象について，現地調査を行うことにより，調査・解析方法について理解する．

学習の目的　実際のフィールドにおいて，地理学的事象が理解できる。

学習の到達目標　自ら興味を持ったテーマに沿って，調査の準備・実施，データの処理・解析がひととおり行える．

受講要件
地理学専攻2・3年生必修．地理学専攻生に限る．
フィールドでの作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

予め履修が望ましい科目
2年生は地理学概論を履修しておくこと。
3年生は自然地理学概論，水文学概論，都市地理学概論，人文地理学概論を履修しておくこと。

教科書　特に使用せず，必要に応じて指示する．

成績評価方法と基準　レポート70%，出席30%

オフィスアワー
宮﨑：木曜日10:30〜12:00 宮﨑研究室
宮岡：火曜日14:40〜16:10 宮岡研究室

学習内容
1．現地調査の計画と準備
2．General Survey
3．自然地理学の調査法 I （気候・気象）
4．自然地理学の調査法 II （地形）
5．自然地理学の調査法III（水文）
6．自然地理学の調査法IV（植生）
7．中間発表
8．人文地理学の調査法 I （農業）
9．人文地理学の調査法 II （都市）
10．人文地理学の調査法III（経済）
11．人文地理学の調査法IV（アンケート）
12．作図
13．データの解析
14．取りまとめ
15．発表

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
地理学	64, 65, 66	自然地理学概論	2	後期　　火 5, 6	宮岡邦任

授業の概要　近年における種々の開発行為や地球温暖化等による環境変化について，地形図の読図をはじめ，地理学に関する情報の涵養変化の傾向を解明する手段の一つとして有効である．本講義では，いくつかの地域の地形図を使用しながら，自然地理学の諸現象について地形学，気候・気象学などの基礎的な内容を網羅しながら解説していく．併せて，地形図読図に必要な手法を紹介・実践しつつ，特に自然地理学的な情報が地形図からどのように得られるかを説明していく．

学習の目的　中・高社会科における地理学授業に対応できる必要最低限の知識を身につける。

学習の到達目標　地理学的な視点から人間と自然の相互関係（そこに暮らす人々の生活様式が環境変化によってどのような影響を受けるか？）を考えられるようになる．

受講要件
地理学概論が履修済みであること。
地理学専攻生は，2年次での履修が望ましい。

予め履修が望ましい科目　地理学概論

教科書　教科書は指定せず，必要に応じて資料を配付する．

成績評価方法と基準　筆記試験60%，課題提出30%，出席10%

オフィスアワー
火曜日14:40〜16:10
時間外でも，事前にコンタクトをとれば随時対応する．
miyaoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．Introduction
2．東海地方の自然環境
3．山地の地形
4．山地における自然環境と生活
5．寒冷地の自然環境
6．扇状地の自然地理学的特徴
7．扇状地における自然環境と生活
8．沖積地における自然地理学的特徴
9．沖積地における自然環境と生活
10．沿岸地域における自然地理学的特徴
11．沿岸地域における自然環境と生活
12．身近な環境問題を考える
13．自然災害と防災を考える
14．小学校教科書での自然地理学の扱われ方
15．中学校教科書での自然地理学の扱われ方
16．試験

その他　色鉛筆（12色程度），定規，電卓（四則計算ができる程度）を常に持参すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	64, 65, 66	水文学概論	2	後期　火 3, 4	宮岡邦任

授業の概要　環境が私たちにとって身近な問題になって久しい．その中でも水環境は，もっとも重要な問題の一つである．教育現場においても水を素材とした環境教育を考えたときに，最低限の水文学的な基礎知識は必ず必要になる．以上のような背景から，本講義では，水文学の基礎知識を習得することを目標に，具体的にいくつかの地域における水文環境や環境問題を事例に解説していく．

学習の目的　小中高で扱われる地理学の内容の中で，特に環境に関連する部分での地理学の専門知識の必要性を理解する。

学習の到達目標　地域の環境問題について，水文循環を通して理解できるようになる．

受講要件
地理学概論が履修済みであること。自然地理学概論を履修済みあるいは本講義と並行して履修していること。
地理学専攻生は2年次での履修が望ましい。

予め履修が望ましい科目　地理学概論，共通教育における自然地理学に関する科目

教科書　教科書は用いず，必要に応じて資料を配付する．

成績評価方法と基準　筆記試験60%，課題提出30%，出席10%

オフィスアワー
火曜日14:40〜16:10
時間外でも，事前にコンタクトをとれば随時対応する．
miyaoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．Intoroduction
2．流域の概念
3．降水
4．蒸発散
5．河川水
6．湖沼水
7．地下水
8．水質 I （現場での測定）
9．水質 II （実験室での分析）
10．河川水-地下水の交流関係
11．地域における水文環境
12．水利用
13．小学校教科書での水文学の扱われ方
14．中学校教科書での水文学の扱われ方
15．身近な水文環境を考える
16．試験

その他　色鉛筆（12色程度），定規，電卓（四則計算ができる程度）を常に持参すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	64, 65	自然地理学特論（2）	2	前期　火 5, 6	宮岡邦任

授業の概要　自然地理学についてより深く理解するために，いくつかの文献を読み，その内容について議論を行い，説明してゆく。

学習の目的　環境問題，自然災害の発生メカニズムや地域特性について理解する。

学習の到達目標　環境問題，自然災害や防災に関連づけて地理学を考えるようになる。

受講要件　地理学概論，自然地理学概論が履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　水文学概論を履修済みであることが望ましい。

教科書　教科書は用いず，適宜資料を配付する。

成績評価方法と基準　課題・討論に取り組む積極性50%，レポート50%

オフィスアワー
火曜日14:40〜16:10，宮岡研究室
時間外でも，事前にコンタクトをとれば随時対応する．
miyaoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 はじめに
第2回 日本における自然環境の特徴と自然災害
第3回 教科書において自然災害や防災はどのように扱われているか
第4回 地形学に関する文献の紹介
第5回 地形学に関する文献講読と議論
第6回 第5回の内容の解説
第7回 気候・気象学に関する文献の紹介
第8回 気候・気象学に関する文献講読と議論
第9回 第8回の内容の解説
第10回 水文学に関する文献の紹介
第11回 水文学に関する文献講読と議論
第12回 第11回の内容の解説
第13回 地域を考えるとは？
第14回 人間生活ー自然環境の関わりを考える
第15回 まとめ
第16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	64, 65	水文学特論（2）	2	前期　火 3, 4	宮岡邦任

授業の概要　水文学概論で学修した内容が実際の地域研究でどのように活かされているのか？本講義ではブラジルを対象に，自然環境（水環境）と人間生活についていくつかの地域に焦点を当て解説してゆく。

学習の目的　地理学の専門知識を地誌学的な学習の中に取り入れられるようになる。

学習の到達目標
学校の現場において，地域学習を行うことの意義が理解できるようになる。
地理学の専門知識が，小中高の社会科の授業でも非常に重要であることを知る。

予め履修が望ましい科目　地理学概論，自然地理学概論，水文学概論

教科書　教科書は用いず，適宜資料を配付する。

成績評価方法と基準　レポート40%，試験60%

オフィスアワー
火曜日14:40〜16:10
時間外でも，事前にコンタクトをとれば随時対応する．
miyaoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ブラジル地誌を学ぶ視座
第2回 自然環境の概要（地形）
第3回 自然環境の概要（気候，植生）
第4回 ブラジル建国と発展の歴史
第5回 農業生産と変容
第6回 アマゾンの自然環境
第7回 アマゾンの民族と生活様式
第8回 アマゾンにおける開発と環境問題
第9回 ノルデステの自然環境
第10回 ノルデステにおける開発の背景
第11回 ノルデステにおける灌漑の実態と環境
第12回 パンタナールの自然環境
第13回 パンタナールにおける農場経営の実情
第14回 パンタナールにおける開発，エコツーリズムと環境保全
第15回 大都市域における水環境問題
第16回 試験（レポート）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	64-66	人文地理学概論（4）	2	後期　金 7, 8	宮﨑 清

授業の概要　環境科学としての人文地理学を概説する。

学習の目的　地球環境問題を把握することができる。地球環境問題を分析することができる。

学習の到達目標　環境科学としての人文地理学の基礎について修得するとともに、現代の環境問題について考えることができるようになる。

受講要件　人間環境情報論修得者は受講不可。

教科書　教科書は指定しない。必要に応じて資料配布する。以下に参考書を挙げる。『自然環境と文化』山本正三他（原書房）、『文化地理学入門』高橋伸夫他（原書房）、『環境危機をあおってはいけない』ロンボルグ（文芸春秋）『図説環境地理』福岡義隆（古今書院）

成績評価方法と基準　レポート10~20%試験90〜80%

オフィスアワー　毎週月曜日14:40〜16:10

学習内容
①②環境とは
③④環境の地域差
⑤⑥⑦人口
⑧⑨⑩農業・林業と環境
⑪⑫工業と環境
⑬⑭⑮都市環境

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	〜66	都市地理学概論	2	後期　木 7, 8	宮﨑 清

授業の概要　都市の理論及び都市発展・都市の計画について学ぶ。

学習の目的　都市に関する地理学理論と都市計画の基礎を理解することができる。

学習の到達目標　都市の理論と都市計画の知識を得る。

教科書　教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。以下に参考書を挙げる。『都市整備入門』千歳寿一（古今書院）、『都市地理学入門』高橋伸夫他（原書房）、『新・都市計画概論』加藤晃他（共立出版）、『都市計画へのアプローチ』実清隆（古今書院）

成績評価方法と基準　試験及びレポート

オフィスアワー　毎週月曜日14:40〜16：10

学習内容
①都市の定義
②都市の発達
③都市の分布
④機能と盛衰
⑤⑥内部構造
⑦⑧人口、シミュレーション
⑨⑩土地利用と規制
⑪⑫⑬都市施設
⑭⑮都市開発

その他　都市計画シミュレーション修得者は受講不可

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地理学	64-65	人文地理学特論（1）	2	前期　木 1, 2	宮﨑 清

授業の概要　世界各地の人間の諸活動・生活様式について学ぶ。

学習の到達目標　世界の多様性について学ぶことができる。

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　レポート及び試験

オフィスアワー　毎週木曜日10：30〜12：00

学習内容

人文地理学及び世界各地の人間の諸活動・生活様式に関する英語文献の購読及び解説。
①〜③世界の環境
④〜⑤世界の経済
⑥〜⑦世界の文化
⑧〜⑨ヨーロッパ
⑩〜⑪東アジア
⑫〜⑬北アメリカ
⑭〜⑮東南アジア

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地誌学	64-66	地誌学概論	2	後期　金 5, 6	宮﨑 清

学習の目的　地域認識の方法と日本および世界の地理的多様性の理解。

学習の到達目標　地域認識の方法を修得する。日本および世界の多様性を理解する。

予め履修が望ましい科目　地理学概論

教科書　文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』2014年

成績評価方法と基準　試験およびレポート

オフィスアワー　月14：40〜16：10

学習内容
①導入
②地域とは
②地域類型、地域区分
④⑤地域認識の方法
⑥⑦⑧身近な地域
⑨⑩⑪⑫日本の諸地域
⑬⑭⑮世界の諸地域

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本史	〜65	日本史史料講読	②	通年　金 1, 2	藤田 達生（教育学部社会科教育）

授業の概要　日本中世・近世の基本史料（文献・絵画など）の解読・鑑賞と、古文書学について学ぶ

学習の到達目標　初級程度の古文書を解読・解釈できるようにする。

予め履修が望ましい科目　あらかじめテキストを解読し内容を理解しておく。

教科書　教科書 佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、1999年）

成績評価方法と基準　出席と試験による。

オフィスアワー　毎週水曜日午前10時30分〜12時

学習内容
教科書を輪読し解説する。
第1回：古文書学とは何か
第2回：日本史学と古文書学
第3回：様式論について
第4回：公式様文書（1）
第5回：公式様文書（2）
第6回：公式様文書（3）
第7回：公家様文書（1）
第8回：公家様文書（2）
第9回：公家様文書（3）
第10回：武家様文書（1）
第11回：武家様文書（2）
第12回：武家様文書（3）
第13回：上申文書
第14回：帳簿類
第15回：花押・印判論
定期試験

その他　なし。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本史	～66	日本史演習 I	②	通年　金 3, 4	藤田 達生（教育学部社会科教育）

授業の概要　近世初頭の藤堂高虎および藤堂藩関係史料の解読をおこなう。

学習の到達目標　初級程度の中世・近世史料を解読・解釈できる能力を養う。

予め履修が望ましい科目　担当した史料について解読し解説できるようにしておく。

教科書　教科書 適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　出席と試験による。

オフィスアワー　毎週水曜日午前10時～11時 藤田研究室

学習内容
中・近世の基本的史料の輪読。担当した史料の解読・解釈・内容説明をおこなう。
第1回：佐渡守時代の発給文書を読む（1）
第2回：佐渡守時代の発給文書を読む（2）
第3回：佐渡守時代の発給文書を読む（3）
第4回：佐渡守時代の発給文書を読む（4）
第5回：佐渡守時代の発給文書を読む（5）
第6回：佐渡守時代の発給文書を読む（6）
第7回：佐渡守時代の発給文書を読む（7）
第8回：和泉守時代の発給文書を読む（1）
第9回：和泉守時代の発給文書を読む（2）
第10回：和泉守時代の発給文書を読む（3）
第11回：和泉守時代の発給文書を読む（4）
第12回：和泉守時代の発給文書を読む（5）
第13回：和泉守時代の発給文書を読む（6）
第14回：和泉守時代の発給文書を読む（7）
第15回：藤堂高虎文書論

その他　なし。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本史	～65	日本史演習 II	②	通年　金 5, 6	藤田 達生（教育学部社会科教育）

授業の概要　各自の卒業論文につながる研究テーマで発表し討論する。

学習の到達目標　研究テーマを明確化し、論文読解と作成の能力を養う。

教科書　なし。

成績評価方法と基準　出席と報告による。

オフィスアワー　毎週水曜日10時～11時

学習内容
1．はじめに
2．各自の研究課題の確認
3．論文の読み方・書き方
4～14．各自の報告
15．まとめ

その他　なし。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本史	～66	日本史特殊講義	2	後期集中	水野智之

授業の概要
・本講義の内容は、前近代の身分制社会の様相の一端を名前のあり様から探るものである。前近代では権力者
の名前と同じ文字を用いることはできなかったため、どのような名前をつけたのかという命名のあり様から、権力と
政治状況を考察していく。
・本講義は歴史研究を行う上で、日本中世史に関する基礎的事項の理解と史料の読解から、どのような歴史像を
新たに描くのかを説くものであり、歴史学の分野で卒業論文を執筆する際には大いに参考になる科目と考える。

学習の目的
・古代・中世の社会における身分秩序に関する知識を得て、史料に基づきながら時代状況を理解することができる
ようになる。
・本講義を通じて、前近代の社会のあり様を解明する一手段を理解し、どのような発想から歴史的な考察・分析
を進めていくのかについて、その資質・能力を高めることができるようになる。

学習の到達目標
・古代・中世の社会において命名の際に用いられた通字、系字、偏諱の授受といった点から、当時の身分秩序に
関する知識を得る。
・公家衆や将軍の子弟が門跡寺院に入室する際に行われていた手続きを理解し、当時の身分秩序を理解できるようになる。

教科書　教科書は指定しません。

成績評価方法と基準　出席・受講態度（15%）、筆記試験（85%）

オフィスアワー　集中講義のため、オフィスアワーはありません。何かあれば、教育学部の藤田達生先生まで、ご確認ください。

学習内容
1 ガイダンス 日本中世史の研究状況、講義内容の概略・進め方など
2 天皇・貴族の命名と権力
3 武家の命名と権力
4 清和源氏と足利氏
5 室町将軍の実名敬避と公家衆・僧衆に対する偏諱授与
6 家門安堵と偏諱・猶子
7 室町将軍子弟の門跡寺院入室
8 室町将軍の偏諱授与の展開
9 将軍家と公家のはざま
10 将軍権力の動揺と朝廷・公家衆の動向
11 将軍偏諱に対する意識の変容
12 将軍権力と天皇権威の展開
13 将軍と天下人
14 室町将軍の権力と権威-まとめにかえて-
15 筆記試験

その他　高校時に日本史を履修していない学生は、事前に日本中世史の概説を予習しておくことが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
外国史	65-66	東洋史史料講読	2	通年　木 5, 6	大坪慶之（教育学部）

授業の概要　漢文読解の基礎訓練を行う。講読は輪読形式で、読み下し・解釈を行う。

学習の目的　将来、漢文史料を用いて卒業論文を作成するための読解能力を身につける。

学習の到達目標　漢文テキストの難易度を仮に、（1）句読点・返り点・送り仮名が付いたもの、（2）句読点・返り点だけのもの、（3）句読点だけのもの、（4）何も付されていない白文、に分けると、本授業では（2）から始めて（3）のテキストが読めるようになることを目標とする。

教科書　テキストは、初回の授業時に配布する。

成績評価方法と基準　平常点による（予習・復習80%、質疑・応答20%）。

学習内容
第1回 ガイダンス（授業の説明）
第2〜15回 （2）句読点・返り点だけのテキストの講読
第16回 専門的な辞典類の紹介、使用法解説
第17〜30回 （3）句読点だけのテキストの講読

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
外国史	65-66	東洋史演習 I	2	通年　火 7, 8	大坪慶之（教育学部）

授業の概要　日本語の文献を講読・討論することで、日本も含めた近代・現代の東アジア世界について学ぶ。

学習の目的　口頭発表やそれへの準備、発表内容に対する質疑・応答を通じて、単に語句を暗記するのではなく、歴史を構造的に理解できるようになることを目的とする。

学習の到達目標　口頭発表を行うことで、自分で調べたことや考えたこと、理解したことを他人に伝え、質問に回答する能力を身につける。

教科書　三谷博・並木頼壽・月脚達彦（編）『大人のための近現代史 19世紀編』東京大学出版会、2009年。

成績評価方法と基準　出席点と平常点（発表・討論）による。

学習内容
各回の担当者が、講読する箇所をまとめて発表し、それに基づき受講者全員で議論する。
第1回：ガイダンス
第2〜7回：東アジアの近世社会に関する章の講読（第一〜六章）
第8〜14回：欧米諸国の東アジア進出と各国の対応に関する章の講読（第七〜十三章）
第15回：前期の総合討論
第16〜19回：東アジア国際秩序再編に関する章の講読（第十四〜十七章）
第20〜29回：近代日本と東アジア諸国に関する章の講読（第十八〜二十七章）
第30回：後期の総合討論

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
外国史	64-65	東洋史演習 II	2	通年　木 9, 10	大坪慶之（教育学部）

授業の概要　担当者が興味・関心のあるテーマで発表し、受講者全員で討論する。

学習の目的　各回の担当者が、論文紹介や卒業論文の構想発表などを行うことで、論文を読解・作成する能力を養う。また、他の受講生の発表に対する討論を通じて、批判的思考ができるようになることを目的とする。

学習の到達目標　研究課題を設定し、卒業論文を執筆する能力を身につける。

予め履修が望ましい科目　東洋史演習 I 、東洋史史料講読

成績評価方法と基準　出席点と平常点（発表・討論）による。

学習内容
各回の担当者が、卒業論文の執筆にむけ、先行研究のまとめや構想報告などを行い、それについて受講者全員で討論する。
第1回：ガイダンス
第2〜4回：卒業論文のテーマに関する先行研究のまとめ（4年生）
第5〜8回：興味のあるテーマに関する論文の講読（3年生）
第9〜15回：外国語論文の講読（4年生）
第16回：卒業論文執筆のルールについての説明
第17〜20回：卒業論文で使用する史料の講読（4年生）
第21〜24回：卒業論文の構想報告（4年生）
第25〜28回：卒業論文のテーマ発表（3年生）
第29〜30回：卒業論文の内容について発表（4年生）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
外国史	64-66	東洋史特殊講義	2	後期　火3,4	大坪慶之（教育学部）

授業の概要　台湾を主要な舞台として、東アジアの近世・近現代史について考察する。

学習の目的　現在の東アジア世界（日本・中国・韓国・台湾など）は、人と人との交流が、かつてより密接になっている。しかし諸国家・諸地域間の相互認識は、観光と大衆文化のレベルで進展を見せる一方で、歴史においては必ずしも深まっていないように思われる。また、頻繁に起こる歴史問題や領土問題は、各国家・各地域の戦前の歴史的経験が、21世紀の現在に依然として作用しており、日本史だけにとどまらない、東アジアの歴史を学ぶことの重要性を教えてくれる。以上の点をふまえ本講義では、近世の台湾、日本による植民地統治、および戦後におけるその影響を中心に見ていく。

学習の到達目標　日本が、かつて植民地として支配した地域のひとつである台湾の歴史について、その統治期・戦後を中心に理解する。

予め履修が望ましい科目　外国史概論、東洋史概論

教科書　教科書は使用しません。

成績評価方法と基準　小テスト10%、試験90%

学習内容

本講義は、次の三つのテーマを柱として進める。
Ⅰ．東アジア世界の中の台湾（5回）
1．地理的環境と民族
2．時代区分
3．オランダ統治、鄭氏政権の時代
4．清朝統治時代
5．清朝による台湾領有の変化
Ⅱ．日本統治時代（5回）
6．日本による植民地支配の開始
7．日本統治の基礎づくり
8．植民統治下の近代化
9．植民統治と先住民族
10．戦時下の台湾
Ⅲ．「中華民国」の台湾定着（5回）
11．台湾の祖国復帰と二・二八事件
12．国民党による一党独裁と蒋家
13．奇跡の経済発展
14．民主化への動き
15．両岸関係の現在

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
外国史	64-66	史学概論	2	後期　月9,10	鈴木宏節（教育学部 非常勤講師）

授業の概要　中央ユーラシア世界ならびに西アジア世界の歴史を概観する。

学習の目的　冷戦構造が崩壊してから20年以上が経過し、世界各地に異なった歴史的背景を持つ民族や文化、宗教が存在することを理解することがますます重要になってきました。本講義では、現代の地政学において重要な位置にある中央ユーラシア世界の歴史を概観します。また、現代社会に大きな影響力をもつイスラーム教が拡大してゆく過程を、諸民族の動向や国際関係を軸に現代まで概観します。

学習の到達目標　中央ユーラシアならびに西アジア世界がどのように形成され、展開し、現代に至ったかを理解する。

予め履修が望ましい科目　外国史概論、東洋史概論

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　小テスト20%、試験80%

学習内容

本講義は、次の2つのテーマを柱として進める。
1．ユーラシアに関する基本知識（3回）
・ユーラシアとアジア
・地理・言語・民族の概観
・中央ユーラシアと西アジアの現在
2．各論
・中央ユーラシアにおける国家の特徴（1回）
・草原とオアシスをめぐる歴史（1回）
・イスラーム教と諸王朝の展開（2回）
・モンゴル帝国とユーラシア統合（1回）
・西アジア世界とオスマン帝国（2回）
・中央ユーラシア世界とロシア帝国（2回）
・2つの世界大戦（2回）
・まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
外国史	～66	西洋史概論	2	前期集中	北村暁夫

授業の概要　欧米近代における人の移動をテーマとする。具体的には、19世紀以降のヨーロッパ内部での移動、ヨーロッパから南北アメリカへの移動、第二次世界大戦後の旧植民地からヨーロッパ諸国への移動といった人の移動の諸側面を、移動する人間の生活世界に即して論じる。それを通じて、近代の欧米社会の成り立ちを理解するとともに、今日のヨーロッパ社会に台頭するイスラモフォビア（イスラム嫌悪）の淵源の理解を目指す。

学習の目的　近代世界における都市化、植民地化・脱植民地化、多文化社会の形成といった現象は、すべて人間の空間的移動によってもたらされたものである。それゆえ、本講義は人の移動を歴史的に概観することにより、近代世界をより深く構造的に理解し、現代世界が抱える諸問題の歴史的由来を理解することを目的とする。また、移動する人々そのものに視点を据えることで、歴史を上から（国家や為政者の視点から）見るのではなく、下から（地域に生きる人々の視点から）見る態度を身につけることも目的としている。

学習の到達目標
①欧米の近現代史に関する基本的な知識を修得する。
②欧米の近現代史を人の移動を通じて構造的に理解する。
③人間の移動の歴史が現代世界に与えている影響について理解する。
③歴史を上からの視点だけでなく、下からの視点から見ることができる。

受講要件　特にない。

教科書　教科書は使用しない。

成績評価方法と基準　出席（評価点全体の30%）、授業最後に行う小テスト（授業で扱った内容に関する試験、評価点全体の30%）、レポート（授業で扱った内容を踏まえたもの、評価点全体の40%）の三つを総合して成績を評価する。

オフィスアワー
集中講義期間中の連日、授業終了後30分 場所：社会科事務室
連絡窓口の教員 大坪慶之准教授

学習内容
1．イントロダクション
2．移民史研究の現在
3．伝統から近代へ ー前近代ヨーロッパにおける人の移動
4．農村から都市へ ー19世紀以降の都市化
5．19世紀の移民 ー移民を送り出す地域と受け入れる地域
6．移民連鎖というメカニズム
7．移民の家族戦略
8．移民におけるジェンダー
9．受け入れ社会における移民の排斥と統合
10．アメリカ映画に見るエスニシティ
11．戦間期の人の移動 難民と政治亡命者
12．移民受け入れ社会としてのヨーロッパ① フランスとドイツ
13．移民受け入れ社会としてのヨーロッパ② EUにとっての移民問題
14．移民受け入れ社会としてのヨーロッパ③ 台頭するイスラモフォビア（イスラム嫌い）
15．全体のまとめ

その他　高等学校で使用した世界史の教科書を持参することが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
哲学・倫理学	66期以前	哲学史	2	後期　金 3, 4	秋元ひろと

授業の概要　ホッブズの思想にそくして，近代的人間観の成立史について検討する。

学習の到達目標　現代民主主義の基礎ともなっている，ヨーロッパ近代の人間観について理解する。

教科書　とくに指定しない。

成績評価方法と基準　試験により評価する。

オフィスアワー　毎週木曜16:30～18:00

学習内容
1-3.ホッブズ政治哲学の位置
・古代政治哲学
・中世政治哲学
・近代政治哲学
4-7.人間論
・人間本性 理性と情念
・自然状態と戦争状態
・自然権
・自然法
8-11.政治論
・契約と主権国家
・臣民の義務
・主権者の義務
12-14.宗教論
・聖書解釈
・国家と教会
15.リヴァイアサンとは何か

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
哲学・倫理学	66以前	倫理学特殊講義	2	前期　火 5, 6	秋元ひろと

授業の概要　倫理学の個別のテーマを論じた文献を取り上げて解説する。

学習の到達目標　倫理学の問題把握の仕方を学ぶとともに，文献の読解力を養う。

教科書　授業中に指示する。

成績評価方法と基準　授業での報告を含めた，授業への参加の程度によって評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日16:30～18:00

学習内容
1.導入 授業計画解説
2-3.愛の概念
4-5.愛の対象
6-8.自己愛と自尊心
9-11.自尊心・誇り・自負
12-14.虚栄心・うぬぼれ
15.まとめ

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
哲学・倫理学	66以前	倫理学演習	1	後期　火 5, 6	秋元ひろと

授業の概要　専攻生の研究テーマにそくしたテキスト講読を通じて，倫理学の諸問題について考察を深める。

学習の到達目標　テキストに基づいて議論を構成する力を身につける。

教科書　授業中に指示する。

成績評価方法と基準　授業での報告を含めた，授業への参加の程度によって評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日16:30〜18:00

学習内容
1.レジュメ発表の基本
2-10.専攻4年生の研究テーマに即したレジュメ発表
11-14.専攻3年生の研究テーマ選定に向けたレジュメ発表
15.総括

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
哲学・倫理学	66以前	哲学・倫理学ゼミナール II	②	通年　火 9, 10	秋元ひろと

授業の概要　哲学・倫理学の入門的な文献にそくして，哲学・倫理学の基礎的知識，文献の読み方，議論の展開の仕方などについて，演習形式で学習する。

学習の到達目標　哲学・倫理学の研究に必要な基礎的知識，文献の読み方，議論の展開の仕方などを身につける。

教科書　授業中に指示する。

成績評価方法と基準　授業での報告を含めた，授業への参加の程度と，小テストによって評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日16:30〜18:00

学習内容
前期
1-15
哲学・倫理学の基礎知識
古代
中世
近代
現代
後期
15-16 レジュメ発表の基本
17-30 基礎的文献購読とレジュメ発表
古代・中世から
近代・現代から

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
法律学	64－66	人権総論 I	2	後期　火 7, 8	手塚 和男

授業の概要　基本的人権について原理的な理解を深めるとともに、具体的な人権問題に関心を持ち、憲法がその問題にどう対応すべきかを考える。

学習の目的　憲法の定める基本的人権をめぐり、子どもの基本的人権の焦点を当て、子どもの権利条約、障害者権利条約、女性差別撤廃条約等について理解すること目的とする。

学習の到達目標　人権の意味、重要性を問い直すことにより、民主主義社会にとって必要な規範を理解し、それを社会に生かしていく能力。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目
憲法原論（国際法を含む）
日本国憲法

教科書　樋口陽一（一語の辞典）『人権』、三省堂、1996年；棟居快行他『基本的人権の事件簿』(有斐閣選書)、2002年

成績評価方法と基準　出席 30%、小テスト・レポート20%、期末レポート50%

オフィスアワー
毎週火曜日 13：00〜14：00 法律学研究室（共通教育1号館415号室）
059－231－9217

学習内容
1 子どもと学校
2 子どもの人権
3〜12 ドイツ基本法3条3項第2文の特別平等原則
13 環境権（ドイツ基本法第20a条の制定の諸問題）
14 日本における環境権問題と裁判例
15 まとめ
16 レポート

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
政治学	64～	政治史	2	後期　木 1, 2	馬原 潤二

授業の概要　フランス革命以降、政治は一種の「運命」となった。ほぼすべての人々が「国民」として統制され動員されるようになった結果、何人も政治なるものから逃れられなくなったのである。その状況は同革命から2世紀以上たった現在においてもなお変わるところがない。そこで本講では、政治が「運命」となっていった過程を近現代ドイツを素材として見ていくことにしたい。近代化に他国以上の困難を抱えていたここドイツにおいて、われわれは近代政治の構造的問題の数々が極端なかたちで噴出するのを目撃するであろう。そして、そこに現代に通じるさまざまなイシューをもくみ取ることにもなろう。過去を振り返ることによって、今日と将来を見据えるための「方途」を考えていくことにしたい。

学習の目的　歴史的な視座から社会や政治について理解できるようにすること、近代ヨーロッパ政治史を知識を涵養することを目的とする。

学習の到達目標　歴史的な知識を涵養し、政治についてのより立体的な理解を図ること、また、政治的な問題について歴史的見解を踏まえつつ思考できるようになることを目標とする。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　学期末にレポートの提出を求める。それによって評価する。

オフィスアワー
場所：政治学研究室。
時間：事前にアポを取って調整すること。

学習内容
第1回：問題の提起：“永遠のプロテスタント”ドイツ
第2回：はじめにナポレオンありき①フランス革命への道
第3回：はじめにナポレオンありき②フランス革命の衝撃
第4回：復古か自由か①ビーダーマイヤーの時代
第5回：復古か自由か②3月革命のあとさき
第6回：「可能性の芸術」の時代①ビスマルクの登場
第7回：「可能性の芸術」の時代②世界政策のドイツ
第8回：中括
第9回：昨日と明日のあいだで①第一次世界大戦
第10回：昨日と明日のあいだで②革命と共和政
第11回：全体主義の時代経験①ナチスの台頭
第12回：全体主義の時代経験②ヒトラーの戦争
第13回：歴史をもたない国々①ドイツの分裂
第14回：歴史をもたない国々②ドイツの再統一
第15回：まとめ：「ドイツ問題」の行方

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
法律学	64-66	法律学特殊講義	2	前期　火 7, 8	手塚 和男

授業の概要　国際人権条約のうち、障がい者権利条約、子どもの権利条約の問題を考える。わが国における障がい者の権利条約の批准に向けたこれまでの検討作業や批准後の障がい者の権利保障の現状にも言及する。障害者権利条約第24条が規定するインクルーシブ教育についても検討する。

学習の目的
人権の歴史において新たに国際条約の形で形成された子どもの人権および障がい者の権利について基礎的知識を獲得する。
日本における子どもたちの権利状況を確認し、知ることができる。

学習の到達目標
この学習により、社会科公民のための基礎的知識を形成することができる。
特別支援教育とインクルーシブ教育の違いについても、基礎的知識を得ることができる。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　日本国憲法

成績評価方法と基準　レポート

オフィスアワー　火曜日 13：00－14：00 法律学研究室(共通教育1号館415号室)

学習内容
基本的人権の歴史
4つの89
国際人権条約
世界人権宣言
国際人権規約（社会権規約＝A規約、自由権規約＝B規約）
子どもの権利条約
障害者権利条約：
ジョムティエン（タイ）「万人のための教育世界会議」
障害者の機会均等化に関する基準規則
サラマンカ宣言及び行動枠組み
ダカール（セネガル）「世界教育フォーラム」
国際障害者年、国連障害者の10年
アメリカ障害者法（ADA)
インクルーシブ教育システム
特別支援教育

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
政治学	～66	現代政治論	2	後期　火 5, 6	馬原 潤二

授業の概要
本講では、現代の政治思想の中核をなす思想家たちの言説に注目し、その大まかな流れを概観的に説明する。
前半では、19世紀的秩序の崩壊と全体主義の台頭を経験した思想家たちの言説に焦点を絞り、彼らの同時代診断を中心に説明する。
後半では、全体主義以後に「手すり無き思考」を余儀なくされた思想家たちが提示した理論的な取り組みの軌跡を追うことにする。
それらの取り組みをとおして、現代政治思想の問題状況を確認し、「今・ここ」のあり方を批判的に検討するための手がかりを提供できるようにしたい。

学習の目的　現代政治理論において語られてきたさまざまな学説についての知識を涵養し、現代政治を批判的に考察するための知恵や方法論を確立させることが目的である。

学習の到達目標　現実の政治的問題について、現代政治理論の知識を生かして、自分なりの見解を論理的かつ説得的に説明できるようになることが目標である。

受講要件　特にないが、学習意欲のないものの受講はお断りする。受講態度いかんによっては途中で除名する場合もある。

予め履修が望ましい科目　政治思想史。マルクス以前の政治思想史の知識があることを前提に行う。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準
毎月、時事問題に関するレポートの提出を要求する（80%）。
また、時折行う討議への貢献なども評価の対象とする（20%）。

オフィスアワー
場所：政治学研究室
時間：事前にアポを取って調整すること。

学習内容
第1回：問題の提起：「現代」という問題をめぐって
第2回：ニーチェ：現代への預言
第3回：ヴェーバー：近代の終焉と現代のはじまり
第4回：リップマンとオルテガ：大衆社会と政治
第5回：シュミット：決断の政治
第6回：ホルクハイマーとアドルノ：啓蒙の弁証法
第7回：ハイエク：秩序としての市場
第8回：バーリン：「自由」再考のために
第9回：アーレント：政治哲学の復権
第10回：ハーバーマス：市民社会のプロジェクト
第11回：ルールズ：「リベラルな平等」をめぐって
第12回：コミュニタリアンたち：共同体的思考主義の論理と心理
第13回：フーコー：ポスト・モダンの政治
第14回：コノリーとムフ：討議民主主義の理路
第15回：結論：今後の展望と課題

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
政治学	～66	政治思想史	2	前期　木 5, 6	馬原 潤二

授業の概要
本講では、近代の西洋政治思想の中核をなす思想家たちの言説に注目し、この時代の政治思想の系譜を説明する。
前半では、フランス革命をはじめとする市民革命によって旧体制を打破する原動力となった思想的言説を中心にみることにしたい。
後半では、市民革命後の来るべき秩序の構想にむけて苦闘した人たちの姿を追跡することにしたい。
そして、これらの作業をとおして、現在進行形の思想課題としての近代がもっている意味を検証し、現代の政治的状況を批判的に再検討するための手がかりを提供できるようにしたい。

学習の目的　西洋政治思想史において語られてきたさまざまな学説についての知識を涵養し、現代政治を批判的に考察するための知恵や方法論を確立させることが目的である。

学習の到達目標　現実の政治的問題について、政治思想史の知識を生かして、自分なりの見解を論理的かつ説得的に説明できるようになることが目標である。

受講要件　意欲と好奇心を持つこと。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準
学期中に2から3回レポートの提出を求める。
それによって評価を決定する。

オフィスアワー
場所：政治学研究室
時間：必ず事前にアポを取って調整すること。

学習内容
第1回：問題提起：「近代」とは何か
第2回：予備的考察：ルネッサンス以前の政治思想
第3回：マキャヴェリ：政治の世俗化＝近代化へ
第4回：ルター：宗教改革のインパクト
第5回：ホッブズ：リヴァイアサンの世界
第6回：ロック：近代自由主義の確立
第7回：モンテスキュー：立憲主義への道
第8回：ルソー：社会契約論の政治
第9回：中括：アメリカ独立戦争とフランス革命のあとさき
第10回：カント：理性と自由、そして永遠平和について
第11回：バーク：保守主義の政治的構想
第12回：ヘーゲル：弁証法的世界観と政治
第13回：ベンサムとミル：功利主義の政治
第14回：マルクス：自由の理念と平等の原理
第15回：まとめ：近代＝未完のプロジェクト？

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
政治学	66，65，64	政治学特殊講義	2	後期　木 5, 6	馬原 潤二

授業の概要
現在、論じるべき政治的問題は数多い。いや、あまりに多い。多すぎてどこからどう手を付けるべきなのかわからないというのが実感ではないだろうか。このような問題意識のもと、本授業では、日本政治がかかえている根本的な問題を整理し、それらのうち最優先に論じるべきもののいくつかをピックアップして、それらの問題についての理解をはかるとともに、今後われわれが何をどのようにするべきなのかを受講生とともに考えてみたい。具体的には、民主主義、グローバル化、外交、憲法、ナショナリズムといった問題について、①授業担当者による解説と問題提起を行い、②これらの問題についての受講者による簡単な報告と討議を行うことによって、今日の政治状況の背後に横たわっている諸問題の一端を自覚するとともに、われわれの今後の進むべき方向を見定められるようにしたいと考えている。
そのため、二回の授業でひとつの問題について取り扱うこととし、一回目の授業で①を、二回目の授業で②の作業を行うこととする。したがって、受講者には、報告と討議をとおして積極的に授業に参加することが求められる。また、本授業は奈良教育大学と三重大学との遠隔双方向授業であり、画面をとおして両大学の受講生がコミュニケーションを取り合うことになる。これらについては十分留意されたい。
なお、両大学の受講生の親睦を図るとともに、議論技術のさらなる深化をはかるため、11月28・29日に高野山にてフィールドワーク合宿を行う。この点についても留意されたい。

学習の目的　現代政治の時事的問題についての知識を身につけることが目的である。

学習の到達目標　現代の政治的問題について、より多面的な視点で論理的に説明できるようになることが目標である。

受講要件　新聞に毎日目を通すこと。報道番組を見ること。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準
授業への積極的な参加、すなわち、報告を行うこと、討議に参加し発言することが単位取得の絶対条件となる。そのうえで、学期末のレポートの内容によって評点を決定する。報告や討議に積極的に取り組まないもの、そもそもの参加意欲に乏しい受講生は随時除名処分とする。
なお、11月開催予定の合宿に参加可能な者のみ受講可とする。注意されたい。

オフィスアワー
場所：政治学研究室
時間：必ずアポをとって事前に調整すること。

学習内容
第1回：導入：問題の提起
第2回：概説：現代政治を動かすファクター
第3回：日本政治と民主主義の理念・授業担当者の解説
第4回：日本政治と民主主義の理念・受講者による報告と討議
第5回：グローバル化と環境問題・授業担当者の解説
第6回：グローバル化と環境問題・受講者による報告と討議
第7回：日本外交の現状と問題・授業担当者の解説
第8回：日本外交の現状と問題・受講者による報告と討議
第9回：フィールドワーク・論題未定
第10回：フィールドワーク・論題未定
第11回：日本国憲法という問題・授業担当者の解説
第12回：日本国憲法という問題・受講者による報告と討議
第13回：ナショナリズムという宿痾・授業担当者の解説
第14回：ナショナリズムという宿痾・受講者による報告と討議
第15回：総括：さらなる課題について

その他　授業担当者は基本的に三重大学で授業を行うが、必要に応じて奈良教育大学に赴いて授業を行う場合もある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
法律学	～66	法律学演習Ⅰ	2	通年　金 7, 8	手塚 和男

授業の概要　法律学で卒業論文を書くために、各自のテーマについて、研究発表する形式で行う。

学習の目的　選択したテーマに沿って、問題を解決し、卒論をまとめることができることを目的と知る。

学習の到達目標　各自のテーマについての研究を進めるために、基礎的文献から初め、基本書を読み込み、卒論に向けて資料の収集に努める。

受講要件　法律学専攻生

成績評価方法と基準　毎回の報告レポートによる。

オフィスアワー　金曜日 12：30～13：00 法律学研究室（共通教育1号館415号室）

学習内容　法律学で卒業論文を書くための基礎的演習

その他　法律学専攻生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
経済学	～66	日本経済論	2	後期　月 5, 6	内田 秀昭（教育学部）

授業の概要　今日の日本経済が抱えている諸問題をマクロ経済学の観点から学ぶ。

学習の目的　今日の日本経済が抱えている諸問題をマクロ経済学の観点から学ぶ。

予め履修が望ましい科目　経済学原論（国際経済を含む）

教科書
福田慎一・照山博司著『マクロ経済学・入門』（第4版）、有斐閣
授業開始までに購入しておくこと

成績評価方法と基準　宿題15%、期末試験85%

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 GDPとは何だろうか？
第3回 消費と貯蓄はどのようにして決まるか？
第4回 設備投資と在庫投資
第5回 金融と株価
第6回 貨幣の需要と供給
第7回 乗数理論とIS-LM分析
第8回 中間まとめ
第9回 経済政策はなぜ必要か？
第10回 財政赤字と国債
第11回 インフレとデフレ
第12回 失業
第13回 経済成長理論
第14回 オープン・マクロ経済
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
経済学	66~	経済学特殊講義	2	後期　月 7, 8	内田 秀昭（教育学部）

授業の概要　計量経済学の手法を用いて、経済データの解析を行う。

学習の目的　経済データの各変数間の関係に対してExcelのデータ分析ツールを用いて解析し、その結果を統計的に判断できるようになること。

学習の到達目標　経済データの各変数間の関係に対してExcelのデータ分析ツールを用いて解析し、その結果を統計的に判断できるようになること。

予め履修が望ましい科目　経済学原論（国際経済を含む）、日本経済論

教科書
山本拓・竹内明香著『入門 計量経済学 Excelによる実証分析へのガイド』、新世社
授業開始までに購入しておくこと

成績評価方法と基準　宿題10%、中間テスト40%、レポート50%、計100%。（合計60%以上で合格）

学習内容
第1回 計量経済学とは
第2回 データの整理
第3回 確率変数
第4回 最小2乗法
第5回 単回帰分析
第6回 単回帰分析
第7回 多重回帰分析の基礎
第8回 中間テスト
第9回 価格指数、デフレーター、名目変数と実質変数
第10回 多重回帰分析の拡張
第11回 F検定
第12回 撹乱項の系列相関
第13回 撹乱項の不均一分散
第14回 実証分析の例
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
政治学	66	政治学演習 I	2	通年　火 7, 8	馬原 潤二（教育学部）

授業の概要　政治学の基礎知識を涵養するために、この分野の古典的な著作を通読する。何を読むかは受講生と相談して決める。なお、国会見学や他大学の学生との交流、合宿など課外活動も積極的に行う予定である。

学習の目的　政治学についての基礎知識を涵養することが目的である。

学習の到達目標　政治学の諸問題について自分なりの見解を提示できるようになることが目標である。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　現代政治論、政治思想史など、政治学関連講義。

教科書　受講生と相談して決める。ただし、指定された書籍は必ず購入すること。

成績評価方法と基準　報告・討論、60%、学期末レポート、40%。

オフィスアワー
場所：政治学研究室
時間：事前にアポを取って調整すること。

学習内容
第一回：イントロダクション
第2回：テキストについての導入
第3回：テキストの輪読及び議論1（読書方法）
第4回：テキストの輪読及び議論2（読書方法）
第5回：テキストの輪読及び議論3（報告方法）
第6回：テキストの輪読及び議論4（報告方法）
第7回：テキストの輪読及び議論5（報告方法）
第8回：中括
第9回：テキストの輪読及び議論6（議論方法）
第10回：テキストの輪読及び議論7（議論方法）
第11回：テキストの輪読及び議論8（議論方法）
第12回：テキストの輪読及び議論9（論文方法）
第13回：テキストの輪読及び議論10（論文方法）
第14回：テキストの輪読及び議論11（論文方法）
第15回：まとめ
第16回：イントロダクション
第17回：テキストについての導入
第18回：テキストの輪読及び議論1（読書方法）
第19回：テキストの輪読及び議論2（読書方法）
第20回：テキストの輪読及び議論3（報告方法）
第21回：テキストの輪読及び議論4（報告方法）
第22回：テキストの輪読及び議論5（報告方法）
第23回：中括
第24回：テキストの輪読及び議論6（議論方法）
第25回：テキストの輪読及び議論7（議論方法）
第26回：テキストの輪読及び議論8（議論方法）
第27回：テキストの輪読及び議論9（論文方法）
第28回：テキストの輪読及び議論10（論文方法）
第29回：テキストの輪読及び議論11（論文方法）
第30回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
政治学	65	政治学演習 II	2	通年　火 9, 10	馬原潤二（教育学部）

授業の概要　政治学の基礎知識を涵養するために、この分野の古典的な著作を通読する。何を読むかは受講生と相談して決める。なお、国会見学や他大学の学生との交流、合宿など課外活動も積極的に行う予定である。

学習の目的　政治学についての基礎知識を涵養することが目的である。

学習の到達目標　政治学の諸問題について自分なりの見解を提示できるようになることが目標である。

予め履修が望ましい科目　政治思想史など、政治学関連講義。

教科書　受講生と相談して決める。ただし、指定された書籍は必ず購入すること。

成績評価方法と基準　報告・討論、60%、学期末レポート、40%。

オフィスアワー
場所：政治学研究室
時間：事前にアポを取って調整すること。

学習内容
第一回：イントロダクション
第2回：テキストについての導入
第3回：テキストの輪読及び議論1（読書方法）
第4回：テキストの輪読及び議論2（読書方法）
第5回：テキストの輪読及び議論3（報告方法）
第6回：テキストの輪読及び議論4（報告方法）
第7回：テキストの輪読及び議論5（報告方法）
第8回：中括
第9回：テキストの輪読及び議論6（議論方法）
第10回：テキストの輪読及び議論7（議論方法）
第11回：テキストの輪読及び議論8（議論方法）
第12回：テキストの輪読及び議論9（論文方法）
第13回：テキストの輪読及び議論10（論文方法）
第14回：テキストの輪読及び議論11（論文方法）
第15回：まとめ
第16回：イントロダクション
第17回：テキストについての導入
第18回：テキストの輪読及び議論1（読書方法）
第19回：テキストの輪読及び議論2（読書方法）
第20回：テキストの輪読及び議論3（報告方法）
第21回：テキストの輪読及び議論4（報告方法）
第22回：テキストの輪読及び議論5（報告方法）
第23回：中括
第24回：テキストの輪読及び議論6（議論方法）
第25回：テキストの輪読及び議論7（議論方法）
第26回：テキストの輪読及び議論8（議論方法）
第27回：テキストの輪読及び議論9（論文方法）
第28回：テキストの輪読及び議論10（論文方法）
第29回：テキストの輪読及び議論11（論文方法）
第30回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
経済学	～66	経済学演習 I	2	通年　金 7, 8	内田 秀昭（教育学部）

授業の概要　発表者は新聞の経済記事の内容について経済学の理論を用いて解説し、他の受講者と議論する。現実の経済問題について理論に基づいた確実な理解を目指す。

学習の目的　経済学の理論に基づいて経済問題のポイントを他者に説明し、質問された疑問に答えられる能力を身につける。

学習の到達目標　経済学の理論に基づいて経済問題のポイントを他者に説明し、質問された疑問に答えられる能力を身につける。

成績評価方法と基準　授業態度、プレゼンテーション、レポートなどを総合的に評価する。

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回～第14回 経済学の理論を用いた経済記事の解説
第15回 前半のまとめ
第16回～第29回 経済学の理論を用いた経済記事の解説
第30回 後半のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
経済学	～65	経済学演習 II	2	通年　金 5, 6	内田 秀昭（教育学部）

授業の概要
3年生は卒業研究のテーマを探し、文献収集を行う。4年生は卒業研究の準備にとりかかり、中間発表を行い、研究成果を論文にまとめる。
経済学で卒業論文を書くために、各自がテーマとする分野について、研究発表する形式で行う。

学習の目的　自ら関心のある経済問題について、経済学の理論に基づいて考察し、論文としてまとめあげることができるようにする。

学習の到達目標　自ら関心のある経済問題について、経済学の理論に基づいて考察し、論文としてまとめあげることができるようにする。

成績評価方法と基準　授業態度、プレゼンテーション、レポートなどを総合的に評価する。

学習内容
第1回～第15回 4年生は卒業論文の準備
3年生は自分のテーマについて研究発表
第16回～第30回 4年生は卒業論文の中間発表
3年生は自分のテーマについて研究発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小専社会	65-66	小学校専門社会	2	後期　火 3, 4	手塚 和男

授業の概要　小学校社会科で取り扱われている内容を法律学・憲法学の側面から検討する。

学習の目的　裁判員制度の実施にともない、小学校段階から規範意識等の学習が不可避になっている現状において、生徒の置かれた現在の状況を把握するために、子どもの権利条約における子どもの権利委員会が日本政府からの報告に対して出した総括所見を検討する。

学習の到達目標　社会に関する諸問題を法律的にみることができる。現在の状況を深く考え、その問題解決に対応することが可能となる。

受講要件　特になし。

教科書　文部科学省『小学校学習指導要領解説社会』

成績評価方法と基準　小テスト20%、レポート80%

オフィスアワー　火曜日 13：00－14：20、法律学研究室：共通教育1号館415号室

学習内容
1-2 小学校社会科における法律
3-4 子どもの権利条約
5-11 子どもの権利委員会の総括所見
12-15 生徒の基本的人権と学校
16 テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・社会	～66	小学校専門社会	2	前期　火 3, 4	内田 秀昭（教育学部）

授業の概要
小学校社会科で取り扱われている内容を経済学の側面から検討する。
特に産業や会社などを扱う。

学習の目的　社会に関する諸問題を経済学的にみることができる。現在の状況を深く考え、その問題解決に対応することが可能となる。

学習の到達目標　社会に関する諸問題を経済学的にみることができる。現在の状況を深く考え、その問題解決に対応することが可能となる。

受講要件　特になし。

成績評価方法と基準　発表30%、期末テスト70%

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回～第5回 日本の各産業の特徴
第6回～第8回 産業の発展
第9回～第14回 グループごとに発表
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
社会	66以前	小学校専門社会	2	後期　月 9, 10	秋元ひろと

授業の概要　小学校社会科の授業を行う上で必要な基本的事項について学習するとともに，とくに日本という国の形を地理，歴史，公民の各分野の観点から考察する。

成績評価方法と基準　授業中の課題と試験により評価する

オフィスアワー　木曜 16:30 - 18:00

学習内容
1.導入 授業計画
2- 社会科基本事項確認 (1)
3-5.日本の形 地理編
6.社会科基本事項確認 (2)
7-9 日本の形 歴史編
10.社会科基本事項確認 (3)
11-13.日本の形 公民編
14.社会科基本事項確認 (4)
15.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
代数学	67	代数学入門	2	前期　水 3, 4	中西正治（教育学部数学教育）

授業の概要　小学校・中学校・高等学校の数学の算数・数学を教えるにあたって、代数学に関連した内容を扱う。

学習の目的　小学校・中学校・高等学校の数学の算数・数学を教えるにあたって、代数学に関連した内容を理解する。

学習の到達目標　小学校・中学校・高等学校の数学の算数・数学を教えるにあたって、代数学に関連した内容を理解する。

成績評価方法と基準　出席、定期試験および授業態度などの結果から総合的に判断する。

オフィスアワー　毎週月曜日12：00〜13：00 中西研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
1．算数教育・数学教育について
2〜5．正負の数
6〜8．方程式
9〜11．行列
12〜15．複素数
16．テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
代数学	66, 65, 64	代数学演習	2	通年　木 9, 10	川向 洋之（教育学部数学）

授業の概要
線形代数に関する演習問題を解き，「代数学概論」の講義内容の理解を深める．
受講生一人ひとりが問題解法の解説を行なうことにより，発表力・討論力の向上を目指す．

学習の目的　線形代数学全般の基礎力の向上を目指す．

学習の到達目標　線形代数学全般に関する基礎力の向上．

受講要件　代数学概論を履修していること．

成績評価方法と基準　試験の点数，受講態度，出席点，レポート点などを総合的に判断する．

オフィスアワー　毎週水曜日 12:00 〜 13:00

学習内容
1．行列の演算（第1回〜第5回）
2．連立1次方程式，正則性の判定，逆行列（第6回〜第10回）
3．行列の階数とベクトルの1次独立性（第11回〜第14回）
4．前期期末テスト（第15回）
5．行列式（第16回〜第20回）
6．固有値，固有ベクトル，三角化，対角化，2次形式の標準形（第21回〜第29回）
7．後期期末試験（第30回）
ただし，これは計画であり，多少の変更を行なう場合がある．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
代数学	66, 65, 64	代数学概論	4	通年　木 5, 6	川向 洋之（教育学部）

授業の概要　「基礎線形代数学 I , II」の続きを学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．

学習の目的　「基礎線形代数学 I , II」の続編を学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．そして更なる発展的な内容の学習のために必要な土台の確立を目指す．

学習の到達目標　線形代数学全般に関する基礎学力を身につけることが学習の到達目標である．

受講要件
(1) 初めて代数学概論を受講する学生を対象とする．再履修の学生は木曜3・4限の代数学概論を履修すること．
(2) 前年度までに，線形代数 I, II を履修した人（単位が習得できてなくてもよい）のみ，受講を認める．

教科書　1年時のときに使った線形代数の教科書を，代数学概論の教科書とする．

成績評価方法と基準　試験の点数，受講態度，レポート点，出席点を総合的に判断する．

オフィスアワー　水曜日の 12:00 - 13:00 解析学第3研究室

学習内容
1．ベクトルの1次独立と1次従属（第1回〜第3回）
2．1次独立なベクトルの最大個数（第4回〜第5回）
3．ベクトル空間とその基底および次元（第6回〜第8回）
4．線形写像と次元定理（第9回〜第10回）
5．線形写像の表現行列（第11回〜第12回）
6．固有値と固有ベクトル（第13回〜第14回）
7．固有空間（第15回）
8．前期期末試験（第16回）
9．夏休み明け試験（第17回）
10．行列の対角化（第18回〜第20回）
11．内積（第21回〜第22回）
12．正規直交基底と直交行列（第23回〜第25回）
13．対称行列の直交化（第26回〜第28回）
14．2次形式の標準化，2次曲面の分類（第29回〜第31回）
15．後期期末試験（第32回）
ただし，これは計画であり，多少の変更を行なう場合がある．
学習課題(予習・復習) 各回とも，予め教科書をよく読んで講義に出席することが望まれる．
講義を聴くだけですべてを理解できることはないだろうから，毎回よく復習することが大切である．

その他
【重要】今年は，初めて代数学概論を受講する人用の授業と，そうでない人用の授業を開く．初めて受講する人は木曜の5・6限の授業を登録し，再履修の人は木曜の3・4限の授業を登録すること．
【重要】代数学演習（木曜9・10限）とこの授業は密接に関係しているので，代数学演習も合わせて取ることを強く勧める．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
代数学	65, 64	代数学概論	4	通年　木 3, 4	川向 洋之（教育学部）

授業の概要　「基礎線形代数学 I , II」の続きを学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．

学習の目的　「基礎線形代数学 I , II」の続編を学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．そして更なる発展的な内容の学習のために必要な土台の確立を目指す．

学習の到達目標　線形代数学全般に関する基礎学力を身につけることが学習の到達目標である．

受講要件
(1) 再履修の学生を対象とする．初めて代数学概論を受講する学生は木曜5・6限の代数学概論を履修すること．
(2) 前年度までに，線形代数 I, II を履修した人（単位が習得できてなくてもよい）のみ，受講を認める．

教科書　1年時のときに使った線形代数の教科書を，代数学概論の教科書とする．

成績評価方法と基準　試験の点数，受講態度，レポート点，出席点を総合的に判断する．

オフィスアワー　水曜日の 12:00 - 13:00 解析学第3研究室

学習内容
1．ベクトルの1次独立と1次従属（第1回〜第3回）
2．1次独立なベクトルの最大個数（第4回〜第5回）
3．ベクトル空間とその基底および次元（第6回〜第8回）
4．線形写像と次元定理（第9回〜第10回）
5．線形写像の表現行列（第11回〜第12回）
6．固有値と固有ベクトル（第13回〜第14回）
7．固有空間（第15回）
8．前期期末試験（第16回）
9．夏休み明け試験（第17回）
10．行列の対角化（第18回〜第20回）
11．内積（第21回〜第22回）
12．正規直交基底と直交行列（第23回〜第25回）
13．対称行列の直交化（第26回〜第28回）
14．2次形式の標準化，2次曲面の分類（第29回〜第31回）
15．後期期末試験（第32回）
ただし，これは計画であり，多少の変更を行なう場合がある．
学習課題(予習・復習) 各回とも，予め教科書をよく読んで講義に出席することが望まれる．
講義を聴くだけですべてを理解できることはないだろうから，毎回よく復習することが大切である．

その他
【重要】今年は，初めて代数学概論を受講する人用の授業と，そうでない人用の授業を開く．初めて受講する人は木曜の5・6限の授業を登録し，再履修の人は木曜の3・4限の授業を登録すること．
【重要】代数学演習（木曜9・10限）とこの授業は密接に関係しているので，代数学演習も合わせて取ることを強く勧める．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幾何学	66－62	幾何学演習	②	通年　金 9, 10	古関 春隆（教育学部）

授業の概要
「幾何学概論」とペアになった授業である。
「幾何学概論」と併せて履修することで、理解を深める。

学習の目的　集合、写像、同値関係、濃度、順序集合、距離、位相、連続写像について基礎学力を養成する。

学習の到達目標　集合、写像、同値関係、濃度、順序集合、距離、位相、連続写像について基本問題が解けるようになること。

受講要件
2年生以上。
「幾何学概論」とペアになった授業であるから必ず「幾何学概論」と併せて履修すること。

成績評価方法と基準　定期試験の成績を中心にし、演習での発表回数・発表内容も考慮して総合的に評価する。

オフィスアワー　前期は月曜5コマ目、後期は木曜5コマ目。

学習内容
前期
1回〜4回：集合
5回〜9回：写像
10回〜12回：同値関係
13回〜15回：濃度
16回：定期試験
後期
1回〜4回：順序集合
5回〜7回：距離
8回〜15回：位相
16回：定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幾何学	〜65	幾何学概論	4	通年　月 1, 2	新田 貴士

授業の概要　集合論と距離空間、位相空間を講義する。

学習の目的　集合、距離、位相の概念の修得を目的とする。

学習の到達目標　集合、距離、位相の概念を修得する。更に具体的な例を知り、そのイメージを持てるようにする。

教科書　集合位相入門、松坂和夫、岩波書店

成績評価方法と基準　出席、レポート、試験から総合的におこなう。

オフィスアワー　月曜日12:00から13:00、水曜日12：00から13:00。

学習内容
1-10、集合論の基礎、
11-15、順序、
16-24、距離、
25-30、位相
集合論、位相の基礎を学習する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
解析学		解析学演習	2	通年　火 3, 4	森山 貴之（教育学部）

授業の概要　微分と積分および，解析学の基本的事項に関して演習を行い，理解を深める

学習の目的
微分と積分の意味について理解し，応用できるようになる
解析学における基本的な定理を理解し，応用できるようになる

学習の到達目標　関数の連続性, 偏微分を理解し，極値問題などに応用できるようになる。また、積分および重積分を理解し，具体的な積分が計算できるようになることを目標とする。

受講要件　基礎微分積分学Ⅰ、Ⅱ、及び解析学概論を履修済みであること。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　試験結果と発表成績のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日12：00〜13：00, 教育学部一号棟4階 研究室

学習内容
1.数列の極限、実数の連続性（第1回〜第2回）
2.関数の連続性、微分（第3回〜第5回）
3.偏微分、テイラーの定理、極大値・極小値（第6回〜第9回）
4.陰関数定理、逆関数定理、条件付極値問題（第10回〜第15回）
5.前期期末試験（第16回）
1.定積分、不定積分（第17回〜第20回）
2.積分の計算、広義積分（第21回〜第25回）
3.重積分、線積分（第26回〜第28回）
4.体積と曲面積（第29回〜第31回）
5.後期期末試験（第32回）
ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
解析学	〜66	解析学概論	4	通年　木 7, 8	森山 貴之（教育学部）

授業の概要　「基礎微分積分学Ⅰ, Ⅱ」の続きとして、多変数の関数の微分と積分を学ぶ。

学習の目的　1年次に履修した「基礎微分積分学Ⅰ, Ⅱ」に続いて、解析学の基礎を学ぶことが学習の目的になる。

学習の到達目標　2変数関数を実際に微分したり積分したりすることを通して、個々の関数がもつ性質や量をきちんと調べることが出来る能力を身につけることも大事な目標になる。

受講要件　基礎微分積分学Ⅰ, Ⅱを履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　解析学演習を履修する事が望ましい。

教科書　「入門微分積分」三宅敏恒著、倍風館

成績評価方法と基準　試験の結果のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日12：00〜13：00, 教育学部一号棟4階 研究室

学習内容
1.多変数の連続関数（第1回〜第2回）
2.全微分と偏微分（第3回〜第5回）
3.テイラーの定理、極大値・極小値（第6回〜第9回）
4.陰関数定理、逆関数定理、条件付極値問題（第10回〜第15回）
5.前期期末試験（第16回）
1.重積分の定義と性質（第17回〜第20回）
2.累次積分と積分の計算（第21回〜第25回）
3.変数変換、線積分（第26回〜第28回）
4.体積と曲面積（第29回〜第31回）
5.後期期末試験（第32回）
ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
確率論・統計学		確率・統計学	④	通年　金 7, 8	玉城 政和

授業の概要　情報化社会と言われる今日，統計学は状況を分析し意思決定を図るため に，私たちの周りの色々な場面で活用されています．統計学は，重要な数学の分野でもあります．本講では記述統計学におけるデータの扱い方，確率論(中心極限定理)に基づいた推測統計学の考え方と方法について，基礎的な知識を習得するとともに問題演習も図っていきます

学習の目的
1．確率空間，確率変数，確率分布の概念を理解できるようにする
2．二項分布，ポアソン分布，正規分布を理解できるようにする
3．データを解析するときの統計の考え方を理解できるようにする
4．推定・検定の考え方を理解できるようにする

学習の到達目標
1．確率空間，確率変数，確率分布の概念を理解し，具体例を扱えるようにする
2．確率や平均などを具体的に計算できるようにする
3．代表値や散布度，相関係数を求めることができるようにする
4．推定・検定の考え方を理解し，具体例を扱えるようにする

受講要件　基礎微分積分学Ⅰ・Ⅱおよび基礎線形代数学Ⅰ・Ⅱを受講していること(履修中は含まない)

教科書　確率論・統計学入門(教育系学生のための 数学シリーズ，篠田正人 編著，共立出版) ISBN978-4-320-01825-9

成績評価方法と基準　中間試験50%，期末試験50%，計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00（解析学第1研究室，教育学部1号館4F）

学習内容
1．ガイダンス （第1週）
2．確率，確率空間 （第2週〜第5週）
3．確率変数 （第6週〜第10週）
4．主な確率分布 （第11週〜第15週）
5．標本調査と統計量，標本分布 （第16週〜第19週）
6．推定 （第20週〜第23週）
7．検定 （第24週〜第30週）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コンピュータ	66	情報数学概論	2	前期　火 5, 6	井岡 幹博 （教育学部非常勤）

授業の概要　プログラミング基礎を解説する。使用する言語はパスカル、JAVAもしくはCを予定している。初歩から始めるので、プログラミングの初心者でも受講可能である。デジタル情報、2進数での数値の表現から始まって、プログラムの作り方、アルゴリズムの設計に関する考え方、データ構造等を解説する。毎回プログラム例を示し、解説を加える。例題を基に応用問題のプログラミングを実習する。

受講要件　2年次以上を対象とする。

教科書　プリント資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席とレポート提出

学習内容
プログラミング基礎を解説する。使用する言語はパスカル、JAVAもしくはCを予定している。毎回プログラム例を示し、解説を加える。
第1回ー第2回 デジタル情報、2進数
第3回ー第6回 プログラムの作り方
第7回ー第10回 アルゴリズムの設計
第11回ー第13回 データ構造
第14回ー第15回 応用問題のプログラミング
第16回 定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
代数学	64〜65	代数学要論III	2	前期　火 5, 6	露峰 茂明（教育学部数学）

授業の概要　群，環，体は抽象的な概念であるが，様々な実際計算でも強力な手法となることを示していきたい．

学習の目的　代数学の基礎的な概念の修得および、計算等を論理的な考えで行うこと。

学習の到達目標　抽象化のを上手に使えるようになること。

受講要件　3年次以上の学生を対象とする．

予め履修が望ましい科目　代数学概論，幾何学概論，解析学要論を単位を取得しているか受講中であること．

教科書　授業開始時に述べる．

成績評価方法と基準　試験とレポート（試験が中心となる）

オフィスアワー　水曜12：00－13：30、教育学部1号館4階代数学第2研究室

学習内容
第1回 集合論の復習
第 2 - 3回 群論の基礎概念
第 4 - 5回 アーベル群，巡回群，
第6 〜7回 対称群、行列群、様々な群
第8 〜12回 剰余群、準同型定理
第13 〜15回 群論の応用
第16回 定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
代数学	64-65	代数学要論IV	2	後期　火 5, 6	露峰 茂明（教育学部数学）

授業の概要　代数学要論IIIを前提とし、環論と体論を中心に授業をする。初等整数論への応用も述べる。

学習の目的　代数学の基礎的な概念の修得および、整数論の計算等を論理的な考えで行うこと。

受講要件　3年次以上の学生を対象とする．

予め履修が望ましい科目　代数学概論，幾何学概論，解析学概論を単位を取得しているか受講中であること．代数学要論 III を受講してあることが望ましい．

教科書　開講時に紹介する。

成績評価方法と基準　試験とレポート（試験が中心となる）

オフィスアワー　水曜12：00－13：30、教育学部1号館4階代数学第2研究室

学習内容
第1-2回 環と体
第3回 多項式環
第4-7回 イデアル、素イデアル、極大イデアル
第8-9回 剰余環
第10-11回 有限体
第11-13回 有限体上の多項式環
第14-15回 初等整数論への応用
第16回 定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
代数学	64	代数学講究	4	通年　金 5, 6, 7, 8	古関春隆（教育学部）

授業の概要　可換環、整域、体、多項式に関してテキストを輪講する。

学習の目的　上記の内容を理解し、数学の本を考えながら読む能力と発表の能力を身につける。

学習の到達目標　上記の内容を素材にして、数学に関して自分なりの見識を得ること。

受講要件　4年生対象。講究受講のための条件を満たしていること。

教科書　追って指示する。

成績評価方法と基準　総合的に評価する。

オフィスアワー　前期は月曜5コマ目、後期は木曜5コマ目

学習内容
前期
第1回〜第5回：可換環、整域、体、多項式
第6回〜第10回：イデアルと剰余環、準同型と同型
第11回〜第15回：ユークリッド整域、単項イデアル整域、一意分解整域
後期
第1回〜第5回：体の拡大
第6回〜第10回：多項式の終結式と判別式
第11回〜第15回：円分多項式の詳しい性質

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幾何学		幾何学要論III	2	前期　金 3, 4	肥田野 万里子（非常勤講師）

授業の概要　曲線の具体例に触れながら、曲線と曲率、その性質を解説する。

学習の目的　曲線の具体例に触れながら、曲線と曲率、その性質を学ぶことが目的である。

学習の到達目標　曲線と曲率、その性質を理解することが到達目標になる。

受講要件　「基礎微分積分学Ⅰ，Ⅱ」、「基礎線形代数学Ⅰ，Ⅱ」、「幾何学概論」を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　幾何学概論

教科書
「曲線と曲面の微分幾何」
（小林 昭七著、裳華房）

成績評価方法と基準　試験による。ただし、出席状況、レポートの提出状況、学習態度などを考慮して総合的に評価する。

学習内容
第1回～第3回：平面曲線の表示
第4回～第6回：平面曲線の曲率
第7回～第8回：いろいろな平面曲線
第9回～第10回：空間曲線の表示
第11回～第13回：空間曲線の曲率
第14回～第15回：いろいろな空間曲線
第16回：期末試験

その他　毎回、出席をとる。無断で欠席すると、期末試験を受けられない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幾何学		幾何学要論IV	2	後期　金 3, 4	肥田野 万里子（非常勤講師）

授業の概要　曲面の具体例に触れながら、曲面と曲率、その性質を解説する。

学習の目的　曲面の具体例に触れながら、曲面と曲率、その性質を学ぶことが目的である。

学習の到達目標　曲面と曲率、その性質を理解することが到達目標になる。

受講要件　「幾何学要論III」を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　幾何学要論III

教科書
「曲線と曲面の微分幾何」
（小林 昭七著、裳華房）

成績評価方法と基準　試験による。ただし、出席状況、レポートの提出状況、学習態度等を考慮して総合的に評価する。

学習内容
第1回～第2回：曲面の表示
第3回～第4回：第1基本量と第2基本量
第5回～第8回：曲面の曲率
第9回～第11回：ガウス・ボンネの定理
第12回～第15回：曲面と曲率の話題
第16回：試験

その他
前期に開講される「幾何学要論III」の内容を仮定して講義を進める。
毎回、出席をとる。無断で欠席すると試験を受けられない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幾何学	64	幾何学講究	4	通年　火 5, 6, 7, 8	田中 伸明

授業の概要　数学教育、特に幾何教育における理論と実践の検討

学習の目的
小学校、中学校及び高等学校の幾何教育における教材理論を深める。
小学校、中学校及び高等学校の幾何教育における授業理論を深める。
小学校、中学校及び高等学校の幾何教育における実践を深める。

学習の到達目標
小学校、中学校及び高等学校の幾何教育における教材理論が深まる。
小学校、中学校及び高等学校の幾何教育における授業理論が深まる。
小学校、中学校及び高等学校の幾何教育における実践力が身につく。

成績評価方法と基準　取り組んだ研究について、その「独自性」「研究目的」「研究方法」「研究成果」「構成・論旨」の5つの観点をもって評価する。

オフィスアワー　火曜日12:00~13:00

学習内容
受講者一人一人が、小学校、中学校、高等学校における算数・数学教育（特に幾何教育）の現状と課題をもとに、教材論、教具論、実践論、教育テクノロジー論、数学教育史等、取り組むテーマを定め、文献調査、先行研究調査、教育実践等を行い、数学（幾何）教育に関する論文作成を行う。
第1回～第3回 研究課題の検討
第4回～第10回 研究課題に沿った資料収集、文献調査、先行研究検討
第11回～第15回 研究課題に対する課題解決と実践研究
第16回～第20回 課題解決・実践研究の検討
第20回～第30回 研究まとめ、卒業研究論文作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
解析学		解析学要論 I	2	前期　月 3, 4	肥田野 久二男（教育学部）

授業の概要　複素数、複素積分、正則関数に関する基礎を解説する。

学習の目的　複素数、複素積分、正則関数に関する基礎的な知識を身につける。

学習の到達目標　複素解析学の基礎知識の修得

受講要件　「基礎微分積分学 I，II」と「解析学概論」を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　「基礎微分積分学 I，II」、「解析学概論」、「幾何学概論」

成績評価方法と基準　試験による。ただし出席状況、レポートの提出状況、学習態度等を総合的に考慮して評価をする。

学習内容
・第1回～第2回：複素数とその演算、複素平面、複素数の演算の幾何的意味
・第3回～第6回：複素関数、べき級数、初等関数
・第7回～第10回：複素数の極限操作、複素微分、等角写像
・第11回～第15回：平面上の曲線と領域、複素積分、コーシーの積分定理
・第16回：期末試験

その他　毎回、出席をとる。無断で欠席すると試験を受けられない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
解析学		解析学要論 II	2	後期　月 3, 4	肥田野 久二男（教育学部）

授業の概要　「解析学要論 I」に引き続いて、複素関数論の基礎と応用を解説する。

学習の目的　複素関数論の基礎と応用の習得が目標になる。

学習の到達目標　複素解析学全般の基礎を完成させる。

受講要件　前期に開講される「解析学要論 I」を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　「基礎微分積分学 I，II」、「解析学概論」、「幾何学概論」、「解析学要論 I」

成績評価方法と基準　試験による。ただし、出席状況、レポートの提出状況、学習態度等を総合的に考慮して評価をする。

学習内容
第1回～第2回：コーシーの積分公式
第3回～第4回：正則関数のテイラー展開
第5回～第6回：最大値の原理とその応用
第7回～第9回：正則関数の諸定理
第10回～第13回：有理型関数と留数定理
第14回～第15回：実関数の定積分への留数定理の応用
第16回：期末試験

その他　毎回、出席をとる。無断で欠席すると、期末試験を受けられない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
解析学	64, 65	応用数学要論III	2	前期　金 5, 6	石谷 寛

授業の概要　測度空間について学ぶ

学習の目的　測度空間について学び，測度が長さ，面積，体積といったものの大きさを表す概念の拡張になっていることを理解できるようになる．

学習の到達目標
可測空間が理解できるようになる．
測度および測度空間が理解できるようになる．
ルベーグ測度空間を理解し，それが，長さ，面積，体積．．．に対応していることを理解できるようになる．
非可測集合を理解できるようになる．

受講要件　基礎線形代数学 I・II，基礎微分積分学 I・II，代数学概論，幾何学概論，解析学概論，確率・統計学を受講していること．

予め履修が望ましい科目　代数学演習，幾何学演習，解析学演習

教科書　追って指示する。場合によっては資料を配布し教科書を使わない。

成績評価方法と基準　数回の小テスト 50 %，期末試験 50 %、計 100 %．(合計が 60 %以上で合格)

学習内容
0．序論（はじめに）・・・第1回
1．可測空間・・・・・・・第2回～第4回
定義，性質，例
2．測度 ・・・・・・・・第5回～第7回
定義，性質，例
3．測度の構成 ・・・・・第8回～第11回
4．ルベーグ測度空間 ・・第12回～第14回
構成，性質
5．非可測集合 ・・・・・第15回
6．期末試験 ・・・・・第16回

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
解析学	64	解析学講究	4	通年　月 5, 6, 7, 8	肥田野 久二男（教育学部）

授業の概要　フーリエ解析やルベーグ積分に関する入門的な教科書をセミナー形式で読む。

学習の目的　フーリエ解析やルベーグ積分に関する入門的な教科書をセミナー形式で読み、深く理解することを目的とする。

学習の到達目標　フーリエ解析やルベーグ積分に関する基礎を深く理解する。

受講要件　4年生以上を対象とする。講究受講のための要件を満たしていること。

予め履修が望ましい科目　「基礎微分積分学Ⅰ，Ⅱ」、「解析学概論」、「解析学要論」、「幾何学概論」等。

成績評価方法と基準　ゼミの準備状況、ゼミでの発表の様子などを考慮して総合的に評価する。

学習内容
フーリエ解析やルベーグ積分に関する入門的な教科書をセミナー形式で読む。
第1回～第3回：正規直交基底と直交変換
第4回～第6回：多重直交変換
第7回～第10回：離散フーリエ乗用作用素と循環たたき込み
第11回～第15回：線形たたみ込みと線形システム
第16回～第18回：離散時間フーリエ変換
第19回～第25回：フーリエ級数の収束について
第26回～第30回：ディリクレ問題とハーディ空間

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コンピュータ	63-65	情報数学演習	1	後期　火 5, 6	井岡 幹博 （教育学部非常勤）

授業の概要　実際の問題を題材にして、プログラミングを演習する。言語はパスカル、JAVAもしくはCを予定している。論理代数、論理回路、記憶回路、並列処理、データ構造、知能情報処理、データ通信などの基礎的部分を解説する。できれば、毎回プログラム例を提示し、それを基に応用問題のプログラミングを実習する。

受講要件　2年次以上を対象とする。

教科書　プリント資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席とレポート提出

学習内容
実際の問題を題材にして、プログラミングを演習する。言語はパスカル、JAVAもしくはCを予定している。できれば、毎回プログラム例を提示し、それを基に応用問題のプログラミングを実習する。
第1回ー第3回 論理代数、
第4回ー第6回 論理回路、記憶回路、
第7回ー第9回 並列処理、
第10回ー第11回 データ構造、
第12回ー第15回 知能情報処理、データ通信などの基礎
第16回 定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コンピュータ	65-64	情報数学要論 II	③	通年　月 1, 2	武本 行正 （教育学部非常勤）

授業の概要　C言語文法の復習ののち、サブプログラム（関数、Ftの関数やサブルーチンに相当）での引数の与え方、引数の戻り値について学習する。その後C言語による常備分方程式の解法を有限差分法により学ぶ。特にルンゲ・クッタ法について理解を深める。円の式やBOD減衰曲線などを例にとって数値解を得る。次に偏微分方程式について、拡散を例にとりながら、この拡散方程式の導出方法、対流項などの差分近似の方法について詳しく学習する。偏微分方程式の解については、解析解が得られるケースは少ないので、この数値解の求め方に習熟しておくことが実際現象の把握・解析にはとても大切です。

受講要件　受講要件 3年次以上を対象とする。

教科書　プリントを配布する。参考書としては「リースのやさしい微分方程式」（現代数学社）など

学習内容
第1回～第4回 C言語文法の復習
第5回～第8回 サブプログラム（関数、Fortranの関数やサブルーチンに相当）での引数の与え方、引数の戻り値について学習
第9回～第15回 C言語による常微分方程式の解法を有限差分法により学ぶ。
第16回 定期試験
第17回～第20回 ルンゲ・クッタ法について理解
第21回～第24回 円の式やBOD減衰曲線などを例にとって数値解
第25回～第31回 拡散方程式の導出方法、対流項などの差分近似
第32回 定期試験
偏微分方程式の解については、解析解が得られるケースは少ないので、この数値解の求め方に習熟しておくことが実際現象の把握・解析にはとても大切です。なお、補足的な事項として、FortranやVBA(Excel内)についても学習します。また、Excelも簡単なグラフ化で使用します。

その他　C言語については全然知らなくてもかまいません。最初から学習します（知っている人は復習と思って）。ただ、微積分や微分方程式の知識は多少必要です。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コンピュータ	65-60	応用数学要論IV	2	後期　金 5, 6	石谷 寛

授業の概要　積分論を学ぶ

学習の目的　リーマン積分とルベーグ積分について理解し，特にルベーグ積分の有効性を理解できるようになる．

学習の到達目標
可測関数を理解する
ルベーグ積分の定義・性質を理解する
収束定理を理解し，応用できるようになる
関数空間を理解する

受講要件　基礎線形代数学 I・II，基礎微分積分学 I・II，代数学概論，幾何学概論，解析学概論，確率・統計学，応用数学要論IIIを受講していること．

予め履修が望ましい科目　代数学演習，幾何学演習，解析学演習

教科書　追って指示する。

成績評価方法と基準　数回の小テスト 50 %、期末試験 50 %、計 100 %．(合計が 60 %以上で合格)

学習内容
0．序論（はじめに）・・・第1回
1．可測関数 ・・・・・・第2回〜第4回
定義，性質，例
2．積分 ・・・・・・・・第5回〜第8回
定義，性質，例，リーマン積分との関係
3．収束定理 ・・・・・・第9回〜第12回
単調収束定理，優収束定理，リーマン積分との違い
4．関数空間と収束概念・・第13回〜第15回
定義，性質
5．期末テスト ・・・・・第16回

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目（算数）	64〜67	小学校専門数学	1	後期　月 3, 4	石谷 寛

授業の概要　小学校算数科の指導のための基礎的な数学を理解する。

学習の目的　教材研究をしていく上で必要な数学の専門的知識を身につける。

学習の到達目標　教材の解釈が深くできるようになる。

成績評価方法と基準　小テスト，試験結果をもとに、総合的に評価する。

学習内容
1.10進位取り記数法①
2.10進位取り記数法②
3.ピックの定理①
4.ピックの定理②
5.ピックの定理③
6.最大公約数と互助法①
7..最大公約数と互助法②
8.倍数の見分け方①
9.倍数の見分け方②
10.倍数の見分け方③
11.統計（平均）
12.統計（ヒストグラム）
13.作図①
14.作図②
15.復習
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目（算数）	63〜67	小学校専門数学	2	前期　火 3, 4	中西正治（教育学部数学教育）
	〜62	小学校専門数学	1		

授業の概要　小学校算数科の指導のための基礎的な数学を理解する。

学習の目的　教材研究をしていく上で必要な数学の専門的知識を身につける。

学習の到達目標　教材の解釈が深くできるようになる。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　出席状況、試験結果をもとに、総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12：00〜13：00、中西研究室（教育学部 1号館 4階）

学習内容
1.10進位取り記数法①
2.10進位取り記数法②
3.2進法
4.5進法
5.割合
6.倍数の見分け方①
7.倍数の見分け方②
8.倍数の見分け方③
9.統計（平均）
10.統計（代表値）
11.統計（散らばり具合）
12.作図(多角形)
13.作図（立体）
14.見取り図
15.復習
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目（算数）		小学校専門数学 小学校専門数学	2 1	後期　火3, 4	中西正治（教育学部数学教育）

授業の概要　小学校算数科の指導のための基礎的な数学を理解する。

学習の目的　教材研究をしていく上で必要な数学の専門的知識を身につける。

学習の到達目標　教材の解釈が深くできるようになる。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　出席状況、試験結果をもとに、総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12：00～13：00、中西研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
1.10進位取り記数法①
2.10進位取り記数法②
3.2進法
4.5進法
5.割合
6.倍数の見分け方①
7.倍数の見分け方②
8.倍数の見分け方③
9.統計（平均）
10.統計（代表値）
11.統計（散らばり具合）
12.作図(多角形)
13.作図（立体）
14.見取り図
15.復習
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目（算数）		小学校専門数学 小学校専門数学	2 1	前期　月5, 6	中西正治（教育学部数学教育）

授業の概要　小学校算数科の指導のための基礎的な数学を理解する。

学習の目的　教材研究をしていく上で必要な数学の専門的知識を身につける。

学習の到達目標　教材の解釈が深くできるようになる。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　出席状況、試験結果をもとに、総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12：00～13：00、中西研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
1.10進位取り記数法①
2.10進位取り記数法②
3.2進法
4.5進法
5.割合
6.倍数の見分け方①
7.倍数の見分け方②
8.倍数の見分け方③
9.統計（平均）
10.統計（代表値）
11.統計（散らばり具合）
12.作図(多角形)
13.作図（立体）
14.見取り図
15.復習
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報社会と情報倫理	66〜	情報教育概論	2	前期　月 5, 6	奥村 晴彦

授業の概要　コンピュータの歴史から始め，梅棹忠夫の情報教育の提案（1969年），学習指導要領の変遷，教科「情報」の生い立ちと現状，情報教育の将来（電子教科書も含む話題）等について講義する。後半は，講義と体験を織り交ぜて，情報科の教員として必須の概念を学んでいく。

学習の目的　情報教育課程の新入生がぜひとも知っていなければならない基本知識を学ぶのが目的。

学習の到達目標　情報教育の目的，歴史，問題点，将来を理解し，情報教育におけるさまざまな概念を体験しながら学ぶ。

教科書　授業中に指示する。

成績評価方法と基準　毎回課題を与え，その取り組みを総合評価する。

オフィスアワー　私のホームページに予定表があるので空いている時間ならいつでもどうぞ。Moodleやメールでの質問も歓迎します。

学習内容
第1回：オリエンテーション・情報教育の目的
第2回：情報教育の歴史
第3回：情報教育の現状（小・中学校）
第4回：情報教育の現状（高校）
第5回：情報教育の将来
第6回：コンピュータを使わない情報教育：Computer Science Unpluggedの紹介
第7回：Alan Kayと情報教育（Squeak Etoysの体験を含む）
第8回：MITの取り組み（Scratchの体験を含む）
第9回：日本におけるプログラミング教育（「プログラミン」「アルゴロジック」の体験を含む）
第10回：日本におけるプログラミング教育（「ドリトル」の体験を含む）基本
第11回：日本におけるプログラミング教育（「ドリトル」の体験を含む）応用
第12回：情報教育の現場での情報発信：HTMLとCSS の体験
第13回：Webでのプログラミング：JavaScriptの体験
第14回：教育におけるデータ解析：Rの体験
第15回：全体のまとめ
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コンピュータ及び情報処理	66〜	コンピュータの基礎	2	前期　木 3, 4	山守 一徳

授業の概要　コンピュータの構成や動作原理に関する基礎的知識について講義する。

学習の目的　2進数の取り扱い、計算機の中の動きなどが理解できるようになる。

学習の到達目標　情報処理技術者の技術分野に関する知識を身に付けることが到達目標である。

教科書　「ハードウェアの基礎」 富澤儀一 朝倉書店

成績評価方法と基準
試験、レポート、出席状況を総合して評価する。
試験で60点以上取得しないと合格ラインに到達しない。
計算手法の理解が曖昧のままでは、試験問題の正解に辿り着けず、60点に到達しないので注意が必要である。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
1．コンピュータの概要：コンピュータの基本的構成や基本的機能など
2．基数変換
3〜4．記憶装置：主記憶装置や補助記憶装置の構造、記憶容量、平均アクセス時間
5〜6．中央処理装置：CPUの構成や動作原理
7．命令形式とアドレス修飾
8．入出力装置：チャネル動作
9〜10．データの表現：数値データや文字データの表現
11．誤り検出・訂正コード
12．ブール代数：ブール代数の基本公式など
13．カルノー図による論理関数の簡略化
14〜15．論理回路設計：組合せ回路や順序回路の設計など
16．まとめ

その他　第1回目より教科書を用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報社会と情報倫理	66〜	情報科学概論	2	後期　木 1, 2	萩原克幸（教育学部）

授業の概要　コンピュータおよび情報通信ネットワークは，今日の情報化社会を支える技術であり，多くの学生が実際に活用してきている。情報分野の専門的内容の学修への導入として，コンピュータ・ハードウェア，ソフトウェア，情報通信ネットワークについて一般に利用されている用語を，過度に専門的にならないように解説するとともに，それらの用語間の関係等を示す。また，コンピュータによる実習を通して，そうした用語を実体験として理解する。

学習の目的　本講義の目的は，コンピュータおよび情報通信ネットワークについて，一般に知られている知識（用語）・経験を，専門的な立場から概要的に理解することを目的とする。

学習の到達目標　コンピュータ・ハードウェア，ソフトウェア，情報通信ネットワークの仕組みについて基本的な知識を得る。

教科書　講義資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席状況，授業態度，レポート，期末試験により総合的に評価する。

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20〜17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：コンピュータの歴史
第2回：ハードウェアの基礎（CPU・メモリなど）
第3回：ハードウェアの基礎（記憶装置）
第4回：ハードウェアの基礎（周辺装置）
第5回：ハードウェアの基礎（演習）
第6回：ソフトウェアの基礎（オペレーティングシステム）
第7回：ソフトウェアの基礎（ハードウェアの制御）
第8回：ソフトウェアの基礎（プログラムとプロセス）
第9回：ソフトウェアの基礎（演習）
第10回：情報通信ネットワークの基礎（WAN・LAN・IPアドレスなど）
第11回：情報通信ネットワークの基礎（プロトロコル・通信の仕組み）
第12回：情報通信ネットワークの基礎（ネットワーク・ツール）
第13回：情報通信ネットワークの基礎（演習）
第14回：マルチメディアの基礎
第15回：ソフトウェア産業
期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コンピュータ及び情報処理	66〜	プログラミング基礎	2	前期　金 5, 6	萩原克幸（教育学部）

授業の概要　ソフトウェアを作成するためのプログラミングの技能は，情報分野に携わる人材にとって必要不可欠なであり，情報教育に携わる人材も一度は経験しておくべき内容である。本講義では，C言語の基礎について，変数，関数，制御文，ポインタなど，基本的な概念・記述方法を順番に解説するとともに，各学習事項について，逐次，プログラミング演習を通して，それらを実践的に理解する。

学習の目的　現在では，様々なプログラミング言語が存在するが，本講義では，その最も基本的かつ典型的なC言語の基礎を修得することを目的とする。また，プログラムとソフトウェア・ハードウェアとの関連性など，情報分野の位置づけを理解する。

学習の到達目標　基本的な問題が与えられた時に、それを解くアルゴリズムを考え、C言語によりプログラミングができるようになること。

教科書　新C言語入門ービギナー編ー，林晴比古著，SoftBank Creative

成績評価方法と基準　出席状況，授業態度，演習課題，期末試験により総合的に評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20〜17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：C言語の基礎
第2回：変数とデータ型
第3回：演算子
第4回：if文
第5回：switch文
第6回：for文，while文
第7回：配列
第8回：ポインタの基礎
第9回：ポインタの応用
第10回：文字列
第11回：関数の基礎
第12回：関数の応用
第13回：構造体
第14回：ファイル操作
第15回：エラー処理
期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報選択必修科目	66〜	プログラミング実習	1	後期　水 3, 4	丁 亜希

授業の概要　与えられた課題に対して，C言語によるプログラムを作成する。

学習の目的　構造体，ポインター，線形リストや木構造などを扱う方法を習得する。

学習の到達目標　C言語を用いて，より高度なプログラムを作成することができる。

受講要件　プログラミング基礎を履修済であること。

教科書　指定なし

成績評価方法と基準　出席、課題完成状況等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週金曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館4階情報教育研究室

学習内容
1回目 C言語プログラミング開発環境
2−4回目 配列
5−7回目 表
8−10回目 線形リスト
11−15回目 二分探索木

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報社会と情報倫理	66〜	情報化社会論	2	前期　火 9, 10	奥村 晴彦

授業の概要　メールのマナー，ウイルス，迷惑メール，情報教育，情報セキュリティ，情報モラル，著作権，特許，インターネットの精神，ハッカー倫理，フリーソフトウェア運動とオープンソース，不正アクセス禁止法，個人情報保護法，プロバイダ責任制限法，P2Pソフトといった話題を通じて，情報と社会とのかかわりについて考える。

成績評価方法と基準　Moodle上の課題で評価する。

オフィスアワー
私のホームページにある予定表で空いている時間ならいつでもどうぞ。
Moodleやメールでも質問してください。

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：メール・SNSの利用
第3回：情報の歴史1
第4回：情報の歴史2
第5回：情報の歴史3
第6回：著作権法1
第7回：著作権法2
第8回：特許とその問題点
第9回：フリーソフトウェア運動とオープンソース
第10回：Creative Commons
第11回：個人情報保護法
第12回：情報セキュリティ1
第13回：情報セキュリティ2
第14回：情報倫理
第15回：情報と社会のかかわり

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報システム	66〜	数値計算	2	前期　金 1, 2	萩原克幸

授業の概要
講義内容は以下のとおりである．
1．数値計算の基礎
2．多項式補間法
3．数値積分
4．線形方程式の直接解法
5．非線形方程式の数値解法
また、各方法の実装（プログラミング）についても講義する。

学習の目的　コンピュータを利用した数値計算・解析のアルゴリズムと基礎理論とプログラミングを修得する．

学習の到達目標　コンピュータを利用した数値計算・解析のアルゴリズムと基礎理論とプログラミングを修得する．

予め履修が望ましい科目
・微分積分
・線形代数
・プログラミング基礎

教科書　なし。適宜、講義資料を配布する。

成績評価方法と基準　試験，課題，出席状況を総合して評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20〜17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1-2.数値解析とは．数値解析の基礎．
3.多項式補間(1)
4.多項式補間(2)
5.多項式補間(3)
6.線形方程式・逆行列(1)
7.線形方程式・逆行列(2)
8.線形方程式・逆行列(3)
9.非線形方程式(1)
10.非線形方程式(2)
11.数値積分(1)
12.数値積分(2)
13.-15.各方法の実装について
16.期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報システム	66〜	ソフトウェア応用	2	前期　木 9, 10	山守 一徳

授業の概要　プログラミング言語Javaの基礎について、実習を行いながら講義する。

学習の目的　Javaプログラミングの基礎を身に付けることを目的とする。

学習の到達目標　演習レベルのプログラムならば、一人で作成できるようになることが到達目標である。

予め履修が望ましい科目　プログラミングI

教科書　「3日で解るJava 例題学習方式 第2版」桑原恒夫 共立出版

成績評価方法と基準
試験、レポート、出席状況を総合して評価する。
すべての課題を提出し、試験で60点以上取得することが合格の最低ラインである。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
第1回〜第3回 変数、クラス、インスタンス、継承
第4回〜第5回 文字列、配列
第6回〜第8回 パッケージ、アクセス制限
第9回〜第11回 GUI、イベント処理
第12回〜第14回 スレッド、例外処理
第15回 ファイル入出力
第16回 テスト

その他
第1回目より教科書を用意すること。
教科書は必須である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報システム	66〜	データベース	2	後期　火 1, 2	山守 一徳

授業の概要　データベースシステム、特に、リレーショナルデータベースシステムを中心として講義する。

学習の目的　リレーショナルデータベースのテーブル設計ができるようになることが目的である。

学習の到達目標　データベーススペシャリストの試験問題が解けるようになることが到達目標である。

教科書　「データベース」石川 博 森北出版

成績評価方法と基準　試験、レポート、出席状況を総合して評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容

1．データベースの歴史
2．ファイル編成
3．データベース管理システム
4．リレーショナル型データベース
5．関係代数
6．データ制約
7〜9．SQL
10．関数従属性
11〜12．正規形
13．同時実行制御
14．RAID
15．ER図
16．まとめ

その他　第1回目より教科書を用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報通信ネットワーク	66〜	ネットワーク基礎	2	前期　木 1, 2	山守 一徳，○丁 亜希

授業の概要　インターネットを有効に利用するための基礎知識と技術について講義する。

学習の目的　ネットワーク構成の仕組み，原理と技術を理解する。

学習の到達目標　自らネットワークを構築することや，一般的なネットワークを利用するときに発生し得るトラブルを解決することができるようになる。

教科書　「ネットワーク利用の基礎」 野口健一郎 サイエンス社

成績評価方法と基準　出席状況、試験成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館4階情報教育教員研究室

学習内容
1回目 デジタル通信とデータの符号化
2−3回目 ネットワークの構成
4−6回目 プロトコルの階層化
7−10回目 TCP／IP
11−12回目 通信アプリケーション
13−15回目 セキュリティ
16回目 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報通信ネットワーク	66〜	ネットワークシステム	2	後期　月 3, 4	丁 亜希

授業の概要　ネットワークシステム管理に必要な知識と技術を習得することを目標とし，サーバ用OSのインストール手順からよく使われるサーバの管理方法まで講義する。また，理解を深めるために，講義内容に基づく課題を完成させることもある。

学習の目的
ネットワークシステム管理やサーバセキュリティ対策の基本知識及び技能を習得する。

学習の到達目標
この授業に通じて，学習者がネットワークシステムの日常運用や保守だけでなく，障害時の対処能力も身につける。

教科書　適宜、プリントなどを配布する。

成績評価方法と基準　出席状況、試験成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館4階情報教育教員研究室

学習内容
第1回：サーバ・クライアント・モデル
第2回：サーバ用OSと仮想化
第3回：サーバOSインストール
第4回：ユーザ管理
第5回：SSH設定と管理
第6回：メールサーバ管理
第7回：メーリングリスト管理
第8回：DNSサーバ管理
第9回：WEBサーバ管理
第10回：暗号化とSSL
第11回：ネット攻撃と侵入手法
第12回：ファイアウォール
第13回：侵入検知
第14回：運営体制とポリシー
第15回：まとめと復習

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
マルチメディア表現及び技術	66〜	マルチメディア概論	2	後期　木 1, 2	山守 一徳

授業の概要　人間の五感に対応する情報メディアを幅広く解説する。

学習の目的　マンマシンインターフェースで使われているコミュニケーション技術の中身がわかるようになることを目的とする。

学習の到達目標　将来を見据えてマルチメディアはどうあるべきかが掴めるようになる。

教科書　「情報メディア工学」美濃導彦・西田正吾 オーム社

成績評価方法と基準　試験、レポート、出席状況を総合して評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
1〜2．人間の知覚のしくみ
3．アフォーダンス、マガーク効果
4．自然言語処理
5．文字コード、点字
6．形態素解析、構文解析、意味解析、機械翻訳
7．XML
8．音声認識
9．サウンドスペクトログラム
10．隠れマルコフモデル
11．メディアとしての音楽
12．音楽情報処理
13．画像処理
14．映像理解、オプティカルフロー、ダイナミックプログラミング
15．情報メディアと感性
16．まとめ

その他　第1回目より教科書を用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コンピュータ及び情報処理	66〜	情報数学	2	前期　火 1, 2	肥田野 久二男（教育学部）

授業の概要　授業の概要は情報科学の基礎理論をなす離散的数学である。数論、集合論、数の体系の分野から離散代数、離散関係等へと授業内容を深める。

学習の目的　「授業概要」で示したような情報科学の専門的知識・技能を習得し、広く情報科学及びその応用分野に活用できる知識を得ることを学習の目的とする。

学習の到達目標
上記の「学習の目的」を達成することを学習の到達目標とする。

教科書
はじめての離散数学 小倉久和著 近代科学社

成績評価方法と基準
試験による。ただし出席状況、レポート提出状況、学習態度等を総合的に考慮して評価をする。

学習内容
第1回〜第3回 数え上げと帰納法
第4回〜第6回 数の体系
第7回〜第9回 数の拡張・行列
第10回〜第12回 剰余演算
第13回〜第15回 離散代数
第16回 まとめと試験

その他　毎回、出席をとる。無断で欠席をすると試験を受けられない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報選択必修科目	66〜	計算機システム	2	前期　月 9, 10	丁 亜希

授業の概要　オペレーティングシステムの仕組み，原理と技術について講義する。

学習の目的　計算機システムのプロセス管理，主記憶管理，ファイルシステム管理，I/O装置管理を理解する。

学習の到達目標　計算機システムの管理者としての基本知識を身につける。

教科書　オペレーティングシステムの基礎 大久保英嗣 サイエンス社

成績評価方法と基準　出席状況、試験成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館4階情報教育教員研究室

学習内容
1．OSの構成と利用
2-4．CPU管理
5-7．プロセス同期と通信
8-10．メモリ管理
11-13．ファイル管理
14-15．入出力管理
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	66〜	情報産業論	2	後期　金 5, 6	伊藤貞夫（教育学部非常勤講師）

授業の概要　高度情報化社会の到来は産業の構造にさまざまな変革をもたらした。特にインターネットの出現以降、若者達が独自のアイディアを生かしベンチャー起業するなど、新しい産業も目白押しである。 情報関連のこれまでの産業、新しく生まれた産業を理解するとともに、そこに従事するIT技術者の仕事内容・生甲斐・楽しみ・苦しみ等も学ぶ。

学習の到達目標
1）高度情報化社会の理解
（新しい産業・職業、IT技術の流れ、情報セキュリティ、情報モラル等）
2）IT技術者の理解（今後の進路設定の参考となる）
（IT技術者の必要スキル、生きがい、報酬、苦しみ、他）

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書　教科書：なし 適宜プリントを配布

成績評価方法と基準　出席状況、授業中の課題、小テスト、レポートを総合して評価する

オフィスアワー
授業がある日の13:00〜15:00 非常勤講師室
連絡先は講義開始時に通知する。
世話役教員名 山守教授

学習内容
第1回 ガイダンス（情報産業論とは、IT技術者とは）
第2〜3回 コンピュータの発達と産業
第4〜5回 情報産業 「世界の中の日本と日本政府の戦略」
第6〜7回 電子商取引（BtoB、SCM、e-マーケットプレイス、BtoCと新ビジネス 他）
第8〜9回 IT技術者の生き様（ビデオ鑑賞と感想文）
第10〜11回 情報化を支える環境基盤（セキュリティ・知的財産権・職業倫理）
第12〜13回 情報産業歴史上の人物調査（レポート作成とプレゼンテーション演習）
第14〜15回 新しく生まれた産業例（アマゾン、グーグル 他）

その他　講義はプロジェクターを使用、演習・レポートはインターネットを活用する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
確率論・統計学		確率・統計学	4	金 7, 8	玉城 政和

授業の概要　情報化社会と言われる今日，統計学は，状況を分析し意思決定を図るため に，私たちの周りの色々な場面で活用されています．統計学は，重要な数学の分野でもあります．本講では，記述統計学におけるデータの扱い方，確率論(中心 極限定理)に基づいた推測統計学の考え方と方法について，基礎的な知識を習得するとともに，問題演習も図っていきます．

学習の目的
1．確率空間，確率変数，確率分布の概念を理解できるようにする
2．二項分布，ポアソン分布，正規分布を理解できるようにする
3．データを解析するときの統計の考え方を理解できるようにする
4．推定・検定の考え方を理解できるようにする

学習の到達目標
1．確率空間，確率変数，確率分布の概念を理解し，具体例を扱えるようにする
2．確率や平均などを具体的に計算できるようにする
3．代表値や散布度，相関係数を求めることができるようにする
4．推定・検定の考え方を理解し，具体例を扱えるようにする

受講要件　基礎微分積分学 I ・ II および基礎線形代数学 I ・ II を受講していること(履修中は含まない)

教科書　確率論・統計学入門(教育系学生のための 数学シリーズ，篠田正人 編著，共立出版) ISBN978-4-320-01825-9

成績評価方法と基準　中間試験50%，期末試験50%，計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00（解析学第1研究室，教育学部1号館4F）

学習内容
1．ガイダンス （第1週）
2．確率，確率空間 （第2週〜第4週）
3．確率変数 （第5週〜第10週）
4．主な確率分布 （第11週〜第15週）
5．標本調査と統計量，標本分布 （第16週〜第19週）
6．推定 （第20週〜第23週）
7．検定 （第24週〜第30週）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース共通教育科目		代数学概論	4	通年　木 5, 6	川向 洋之（教育学部）

授業の概要　「基礎線形代数学 I , II 」の続きを学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．

学習の目的　「基礎線形代数学 I , II 」の続編を学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．そして更なる発展的な内容の学習のために必要な土台の確立を目指す．

学習の到達目標　線形代数学全般に関する基礎学力を身につけることが学習の到達目標である．

受講要件
(1) 初めて代数学概論を受講する学生を対象とする．（再履修の学生は木曜3・4限の代数学概論を履修すること）．
(2) 前年度までに，線形代数 I, II を履修した人（単位が習得できてなくてもよい）のみ，受講を認める．

教科書　1年時のときに使った線形代数の教科書を，代数学概論の教科書とする．

成績評価方法と基準　試験の点数，受講態度，レポート点，出席点を総合的に判断する．

オフィスアワー　水曜日の 12:00 - 13:00 解析学第3研究室

学習内容
1．ベクトルの1次独立と1次従属（第1回〜第3回）
2．1次独立なベクトルの最大個数（第4回〜第5回）
3．ベクトル空間とその基底および次元（第6回〜第8回）
4．線形写像と次元定理（第9回〜第10回）
5．線形写像の表現行列（第11回〜第12回）
6．固有値と固有ベクトル（第13回〜第14回）
7．固有空間（第15回）
8．前期期末試験（第16回）
9．夏休み明け試験（第17回）
10．行列の対角化（第18回〜第20回）
11．内積（第21回〜第22回）
12．正規直交基底と直交行列（第23回〜第25回）
13．対称行列の直交化（第26回〜第28回）
14．2次形式の標準化，2次曲面の分類（第29回〜第31回）
15．後期期末試験（第32回）
ただし，これは計画であり，多少の変更を行なう場合がある．
学習課題(予習・復習) 各回とも，予め教科書をよく読んで講義に出席することが望まれる．
講義を聴くだけですべてを理解できることはないだろうから，毎回よく復習することが大切である．

その他
【重要】今年は，初めて代数学概論を受講する人用の授業と，そうでない人用の授業を開く．初めて受講する人は木曜の5・6限の授業を登録し，再履修の人は木曜の3・4限の授業を登録すること．
【重要】代数学演習（木曜9・10限）とこの授業は密接に関係しているので，代数学演習も合わせて取ることを強く勧める．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース共通教育科目		解析学概論	4	通年　木 7, 8	森山 貴之（教育学部）

授業の概要　「基礎微分積分学 I , II 」の続きとして、多変数の関数の微分と積分を学ぶ。

学習の目的　1年次に履修した「基礎微分積分学 I , II 」に続いて、解析学の基礎を学ぶことが学習の目的になる。

学習の到達目標　2変数関数を実際に微分したり積分したりすることを通して、個々の関数がもつ性質や量をきちんと調べることが出来る能力を身につけることも大事な目標になる。

受講要件　基礎微分積分学 I , II を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　解析学演習を履修する事が望ましい。

教科書　「入門微分積分」三宅敏恒著、倍風館

成績評価方法と基準　試験の結果のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日12：00〜13：00, 教育学部一号棟4階 研究室

学習内容
1.多変数の連続関数（第1回〜第2回）
2.全微分と偏微分（第3回〜第5回）
3.テイラーの定理、極大値・極小値（第6回〜第9回）
4.陰関数定理、逆関数定理、条件付極値問題（第10回〜第15回）
5.前期期末試験（第16回）
1.重積分の定義と性質（第17回〜第20回）
2.累次積分と積分の計算（第21回〜第25回）
3.変数変換、線積分（第26回〜第28回）
4.体積と曲面積（第29回〜第31回）
5.後期期末試験（第32回）
ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース共通教育科目		幾何学概論	4	通年　月 1, 2	新田 貴士

授業の概要　集合論と距離空間、位相空間を講義する。

学習の目的　集合、距離、位相の概念の修得を目的とする。

学習の到達目標　集合、距離、位相の概念を修得する。更に具体的な例を知り、そのイメージを持てるようにする。

教科書　集合位相入門、松坂和夫、岩波書店

成績評価方法と基準　出席、レポート、試験から総合的におこなう。

オフィスアワー　月曜日12:00から13:00、水曜日12：00から13:00。

学習内容
1-10、集合論の基礎、
11-15、順序、
16-24、距離、
25-30、位相
集合論、位相の基礎を学習する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
物理学実験	～66	理科実験(物理)	1	後期　火 5, 6, 7	牧原義一(教育学部理科教育講座), 國仲寛人(教育学部理科教育講座)

授業の概要　基礎的な実験を通して，講義・演習等で学ぶ物理現象や法則について理解を深めるとともに，自然科学を理解するための実験の有効性を学ぶ。また，理工学の各分野で使用されている物理的測定法を学び，実験データの処理方法や実験結果の表現方法など，理科教育における基礎的素養を修得する。

学習の目的　基礎的な実験装置の操作法，および実験データの処理方法を習得する。実験レポートの書き方を習得する。講義で学習した内容とこれから学習する内容を，実験を通して理解する。

学習の到達目標　自然の基礎法則を探る実験の有効性を体得すること。明解な報告書を書く能力を身に付けること。

受講要件
基礎物理学Iを履修済であること。
実験設備の都合上，受講者数を20名までとする。理科教育コースの学生を優先する。

予め履修が望ましい科目　基礎物理学 II

教科書　プリント：理科実験(物理)。第1回の講義で配布し使用するので、必ず出席すること。

成績評価方法と基準　理論と実験についての理解度、毎回の実験を行う姿勢、時間的効率、記録や処理の仕方、実験レポートにより総合評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日16:30～18:00

学習内容
第1回 : オリエンテーション（この講義の内容、実験手順に関する説明と，データ処理法および誤差計算についての講義）
第2回～第15回：
<基本計測と誤差計算>： 円柱の体積の測定， <力学> : ボルダの振り子による重力加速度の測定，表面張力の測定 <熱> : 力学的仕事の熱エネルギーへの変換，ゴム弾性の測定 <電磁気> : 電流と磁石の相互作用，直流モーター，電位差計 <原子物理> : フランク-ヘルツの実験 <光学>：分光計による発光スペクトルの観測 <統計物理> ブラウン運動とランダムウォーク

その他　基礎物理学 I の知識を前提とする。実験ノートとして使用するための，A4版ノート1冊を各自用意しておくこと。実験ノートは第1回のオリエンテーションのときから使用する。理科情報基礎と合わせて履修すること。その場合、必ずシラバスに記載されている受講条件を確認すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
化学実験	～66	理科実験（化学）	1	前期　月 5, 6, 7	新居淳二（教育学部）, 野本健雄（非常勤講師）

授業の概要　化学実験の基本操作、無機・有機・物理化学の各分野の基礎的実験

学習の目的
法則や事実を実験を通して確かめることにより理解を深める。
試薬、器具の取り扱いや実験の基礎的な操作法を習得する。

学習の到達目標
実験器具の取扱法、試薬調製法、危険防止、ガラス細工等、化学実験の基本操作法を習得する。
物質の化学変化と溶液の定量的扱いを習得する。
化学の基礎理論を実証的に理解するとともに基本的な物理量の測定法及びデータの処理法を習得する。
吸引濾過，再結晶、融点測定，分液ロートの操作法，常圧蒸留，沸点の測定など有機化学実験の基本操作を習得する。

予め履修が望ましい科目　基礎化学 I

教科書　プリント使用

成績評価方法と基準　実験態度とレポート50%、期末試験50%、各担当教員の評価の平均値

オフィスアワー　毎週月曜日16:00～17:00

学習内容
第1～2回
化学実験の基本操作：実験器具の取扱法、試薬調製法、危険防止、ガラス細工等、化学実験の基本操作法を習得する。
※以下の無機化学、物理化学、有機化学の実験の順番は準備の都合上変更することがある。
第3～11回
無機化学、物理化学：金属陽イオンの主要反応、中和滴定、アボガドロ数の測定、気体のモル体積、金属の当量、酸・塩基の性質、電池と電気分解
第12～15回
有機化学：有機定性実験、アセトアニリドの合成、香り成分の合成、蒸留実験
第16回 期末試験

その他
実験することに意味があるので，欠席は認めない。本年度に4週間教育実習を行う予定の人は必ず申告前に担当教員に相談してください。
実験設備の関係で受講者数を制限することがある。受講者は初回から白衣を準備すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生物学実験	～66	理科実験（生物）	1	前期　木 5, 6, 7	後藤太一郎（教育学部理科教育講座），平山大輔（教育学部理科教育講座）、藤井新次郎（非常勤講師）

授業の概要　中学・高校の理科（生物分野）で取り上げられる基礎的な実験について理解し、観察・実験方法や実験レポートと書き方について習熟する。

学習の目的
観察記録を書くことができる。
生物学実験の基本的手法を身に付ける。
実験レポートの作成ができる。

学習の到達目標　中学・高校で扱う生物実験を実施できるようになる。

受講要件　基礎生物学Iまたは基礎生物学IIを履修済であること

教科書
ワークブックで学ぶ生物学実験の基礎（オーム社）
受講者は「A4サイズのケント紙」数枚と雑巾1枚を購入し、白衣とともに初回に持参すること。これらの準備物を持参しなかった学生の受講は認めない。

成績評価方法と基準　レポート70%、受講態度10%、期末試験20%、計100%

オフィスアワー　毎週水曜12:00～13:00、場所：教育学部1号館2階後藤研究室・平山研究室

学習内容
1.実験の概要、レポートの書き方、細胞の観察
2.細胞分裂の観察
3.植物の構造（花）
4.唾腺染色体の観察
5.貝類の解剖
6.甲殻類の解剖
7.魚類の解剖
8.骨格と筋肉
9.メダカの発生
10.植物の構造（根、茎）
11.校庭の野草
12.葉緑体と光合成
13.植物の標本
14.樹木の結実過程
15.植物と昆虫の共生
16.期末試験

その他
全回出席すること。遅刻や早退は欠席扱いとする。やむを得ない場合は事前に連絡すること。
実験中の私語を禁ずる。実習態度によっては途中で受講辞退を求めることがある。
希望者は、理科教育情報基礎と合わせて履修すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学実験		理科実験（地学）	1	後期　木 5, 6, 7	伊藤信成（理科教育講座／地学） 栗原行人(理科教育講座／地学)

授業の概要　科学を「科学」たらしめているものは再現性の保障であり、その根幹が「実験による検証」のプロセスである。本授業では地学分野の基礎的実験を通じて、実験手法の理解，測定値の取扱い方，科学的思考方法，科学レポート作成法を習得することを目標とする。

学習の目的
・地学分野の基本的実験手法を理解し、教育現場で利用することができるようになる。
・実験の各手順, 作業内容, 報告の意義について理解することができる。
・科学レポートの基本を習得する

学習の到達目標
・測定精度を意識した実験ができる。
・測定値の取扱いを意識して行える。
・論理的な議論の展開ができる。
・自分なりに教育現場での活用について考えることができる。

受講要件
・基礎地学Iおよび基礎地学IIをいずれも受講済みであること。
・学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

予め履修が望ましい科目　基礎地学 I , II

教科書　実験で用いる資料等は事前に冊子あるいはHP掲載の形で配布する。

成績評価方法と基準
レポート70%、実験への取り組みおよび受講姿勢30%。
担当教員の評価を総合し、最終評価とする。

オフィスアワー　月曜日13:00-16:00, 地学第1研究室（伊藤）

学習内容
授業計画
第1回：地球の直径および質量の推定
第2回：星座の撮影と天体の日周運動
第3回：天体の距離推定方法
第4回： ケプラー則の検証
第5回：太陽黒点観測と自転周期の推定
第6回：恒星の照度と等級の関係
第7回： プラネタリウム見学
第8回 ：地質図学
第9回 ：粒度見本作成・流水実験
第10回：岩石・鉱物の観察 I
第11回：岩石・鉱物の観察 II
第12回：野外観察
第13回：示準化石・示相化石の観察
第14回：貝殻のスケッチ
第15回：化石の内部構造の観察

その他　天文分野の実験は夜間に行われる場合がある。また天候により実習日が変更になる場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
物理学	～67	基礎物理学B	2	後期　月 1, 2	牧原義一（教育学部理科教育講座）

授業の概要　電気と磁気が関係する基礎的な現象を説明するための基本的な概念を、講義や演習問題を通じて学ぶ。

学習の目的　電気と磁気、および電気と磁気の相互作用に関する基礎的な現象について理解する。

学習の到達目標　電荷と電流がその周りにどのような電場と磁場をつくり、その電場と磁場が電荷，電流，磁石などにどのような作用を及ぼすかを、解析的に理解する。

受講要件　基礎物理学Aを履修済みであること。

教科書　原康夫著「第4版 物理学基礎」（学術図書出版社）

成績評価方法と基準　出席、小テスト30%、期末試験70%、計100%

オフィスアワー　毎週金曜14:40～16:10

学習内容
第1～4回：真空中の静電場（電荷、クーロンの法則、電場、ガウスの法則、電位）
第5～7回：電流（電流、オームの法則、直流回路、電流と仕事）
第8～11回：電流と磁場（磁石、電流と磁場、ローレンツ力、ビオ・サバールの法則）
第12～15回：電磁誘導（電磁誘導の法則、交流発電機、交流）
第16回：定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
化学	～66	基礎化学 II	2	前期　火 7, 8	野本健雄（非常勤講師）

授業の概要　化学は物質の構造・性質を原子・分子レベルで解明する科学であり、物質は無機物質と有機物質に分けられる。この講義は，有機化学の基礎について講義する。

学習の目的　有機化合物の構造・性質について理解する。

学習の到達目標　有機化合物の命名法、異性体、立体配座、芳香属性と芳香族置換反応、光学異性体、酸と塩基などについて説明できること。

予め履修が望ましい科目　「基礎化学I」又は「化学の話題」の履修が望ましい。

教科書　教科書：「新版・現代の基礎化学」野本健雄・田中文夫著、三共出版

成績評価方法と基準　期末試験80%と受講態度20%

オフィスアワー　火曜日、午後1時から2時半（連絡窓口：新居淳二教授）

学習内容
1．有機化学とは
2．有機化合物の分類
3，有機化合物の命名法
4．異性体と立体配座
5．ベンゼンの構造と芳香属性
6．光学異性体
7.有機化学反応
8．有機酸と有機塩基

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生物学	67 ～66	基礎生物学B 基礎生物学II	2 2	後期　金 1, 2	伊藤 義昭（教育学部非常勤講師）

授業の概要　基礎生物学Iを履修した学生を対象にしているもので、生命現象の理解を深めるために必要な細胞の基礎的事項について解説する。基礎的な知識を習得してもらうために、ワークブック形式の教科書を用いる。

学習の目的　日常生活の中で、生物学に関する話題は多く、それを理解するためには細胞に関する基本的な知識が必要である。科学技術の進展によりその内容を複雑化しているが、生命科学に関する身近な問題について理解できるようになってほしい。

学習の到達目標　中学・高校で生物学を教える上で必要な知識を身につける。

予め履修が望ましい科目　基礎生物学 I

教科書　「ワークブックで学ぶ生物学の基礎」（オーム社）

成績評価方法と基準
期末試験 70% + 小テスト 30% として100点満点とする。
これに 出欠（欠席 -10点、遅刻 -5点）を含める。

オフィスアワー
日図：毎週金曜日12:00～13:00
場所：教育学部1号館2階 生物事務室
窓口教員：後藤太一郎（goto@edu.mie-u.ac.jp）

学習内容
1.生物の多様性と共通性
2.生体の化学的成分 I タンパク質
3.生体の化学的成分 II DNAとRNA
4.細胞の構造と機能 I リン脂質、脂質二重層、単純拡散
5．細胞の構造と機能 II 受動輸送、能動輸送
6.リボソームとタンパク質合成
7.タンパク質の細胞内輸送
8.細胞骨格；中間径繊維、微小管、アクチンフィラメント
9．細胞呼吸 I ；嫌気呼吸
10.細胞呼吸 II ；好気呼吸
11.分核と染色体、染色体異常
12.体細胞分裂と減数分裂 I
13.遺伝の仕組み I ：メンデルの法則
14.遺伝の仕組み II ；遺伝子間の相互作用
15.性染色体と伴性遺伝
16.試験

その他　テキストの指定箇所については予習をしておくこと

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学	～66	基礎地学 II	2	前期　金 3, 4	栗原 行人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　固体地球科学の基礎を平易に解説するとともに，地球史の重大事件を概観する．ビデオを視聴することもある．

学習の目的　小・中学校の理科で取り扱う地学分野のうち，固体地球科学に関する基礎的知識を習得し，その背景となる考え方や学問体系について理解を深める．

学習の到達目標　固体地球科学の基礎的知識を習得する．

教科書
西村祐二郎ほか著「基礎地球科学 第2版」朝倉書店．
「ニューステージ新訂地学図表」浜島書店．

成績評価方法と基準　レポート50%，試験50%．

オフィスアワー　毎週月曜12:00～13:00，場所：教育学部1号館2階栗原研究室

学習内容
第1回： 地球の概観
第2回：地球の内部構造
第3回：地球表面の構造
第4回： 地球を構成する物質
第5回：岩石の分類
第6回：大陸移動説
第7回：プレートテクトニクス
第8回：火山
第9回：地震
第10回：地球表層の変化
第11回：地球の歴史1（先カンブリア時代）
第12回：地球の歴史2（ペルム紀末の大量絶滅）
第13回：地球の歴史3（白亜紀末の大量絶滅）
第14回：地球の歴史4（第四紀環境変動）
第15回：トピックス
第16回：期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
物理学実験	～65	物理学実験	2	前期　月 5, 6, 7, 8, 9, 10	國仲寛人(教育学部理科教育講座)，牧原義一(教育学部理科教育講座)

授業の概要　理科実験(物理)をもとにして、より精密な実験を行い、実験についての技能と理解を養うとともに、物理現象や物理法則についての理解を深め、理科教育における基礎的能力を養う。

学習の目的　物理学の各分野の重要な現象に関する実験を行い，その現象を解析し，レポートとしてまとめられるようになること。

学習の到達目標　自然の基礎法則を探る実験の意味について理解すること。明解な報告書を書く能力を得ること。

受講要件　基礎物理学I, II、理科実験(物理)を履修済であること

教科書　随時プリントを配布

成績評価方法と基準　理論と実験についての理解度、毎回の実験を行う姿勢、時間的効率、記録や処理の仕方、実験レポートにより総合評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日11:00～12:00

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回～第16回：実験グループ毎に以下の実験を順次実施する
（力学） 万有引力定数の測定，ヤング率の測定
（熱） 金属の熱膨張係数の測定
（音）音波の共鳴実験
（光学） 分光計による屈折率の測定、ニュートンリングによる光の波長の測定
（電気） オシロスコープの利用方法，リサジュー図形の測定，金属および半導体の電気抵抗の測定
（素粒子物理） 素粒子崩壊シミュレーション
（物性物理）液体の表面張力の測定
（その他） カオスのシミュレーションおよびリアルタイム計測実験，理科実験(物理)で行った実験の発展など

その他　実験設備の都合上，受講者数の制限を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
化学実験	～65	化学実験	2	通年　金 5, 6, 7	新居 淳二（教育学部）, 野本 健雄（非常勤講師）

授業の概要　無機・有機・物理化学、各分野の実験

学習の目的　化学の実験操作に習熟するとともに、化学の諸理論への理解を深める

学習の到達目標
化学変化とイオンの性質を習得する。
常圧蒸留，水蒸気蒸留，抽出，減圧濃縮など有機化学実験法を習得する。
物理化学の理論を実証的に理解するとともに各種物理量の測定法及びデータの処理法を習得する。

受講要件　理科教育コースの3年生を対象とする。「理科実験(化学)」の単位修得者に限る。

予め履修が望ましい科目　基礎化学 I 、基礎化学 II 、化学講義 II

教科書　プリント使用

成績評価方法と基準　実験態度50%とレポート50%、各担当教員の評価の平均値

オフィスアワー　毎週金曜日16:00～17:00

学習内容
第1回～第10回 物理化学
分子量、反応速度定数と活性化エネルギー、酸解離定数、濃淡電池の起電力の各測定を通して、物理化学の理論を実証的に理解するとともに各種物理量の測定法及びデータの処理法を学ぶ。
第11回～第20回 無機化学
金属陽イオン(第1属～第4属)の系統分析。金属陽イオンの沈澱・分離操作により、化学変化とイオンの性質を習得する。
第21回～第30回 有機化学
アニリン, スルファニル酸, メチルオレンジ, オルト及びパラ-ニトロアニリン, オルト及びパラ-ニトロフェノール，シクロヘキサノン, シクロヘキセン, 酢酸イソアミル, アスピリンなどの合成実験を通して，常圧蒸留，水蒸気蒸留，抽出，減圧濃縮など有機化学実験法を学ぶ。
※実験の順番は準備の都合上変更することがある。

その他　実験することに意味があるので欠席は認めない。特別な理由なく提出期限に遅れたレポートは評価の対象としない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生物学実験	～65	生物学実験	2	前期　月 5, 6, 7, 8, 9, 10	後藤太一郎（教育学部理科教育講座），平山大輔（教育学部理科教育講座）、藤井新次郎（非常勤講師）

授業の概要
1.小中学校で活用できる生物観察・実験のための教具の作成法を学ぶ。
2.動物の生理や発生に関する基礎的実験を行い、映像記録を進めながら教材ビデオを作成する。
3.植物の生態に関する基礎的実験を行い、校庭によくみられる植物の分布、形態、生活史特性について理解を深める。

学習の目的
観察記録を書き方、実験ノートの取り方を学ぶ。
生物学実験の基本的手法について学ぶ。
実験レポート作成やプレゼンテーションについて学ぶ。

学習の到達目標
観察記録や実験ノートを書くことができる。
生物学実験の基本的手法を身につける。
わかりやすい実験レポート作成やインパクトのあるプレゼンテーション作成ができる。

受講要件　理科実験（生物学）、理科情報基礎（生物学）

教科書　ワークブックで学ぶ生物学実験の基礎（オーム社）

成績評価方法と基準　単位認定の最低基準 1.全回出席すること。遅刻や早退は認めない（欠席扱いとする）。やむを得ない場合は事前に連絡すること。 2.教材ビデオと標本作成と実験態度を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00～13:00、場所；教育学部1号館2階 後藤教員室、平山教員室

学習内容
1.生物教具の作成 I （ボトルーペ、ポケット顕微鏡）
2.生物教具の作成 II （ミニ水槽、聴診器）
3.野草カードを用いた校庭の野草観察
4.二枚貝の初期発生
5.魚類の発生
6.魚類の体色変化
7.甲殻類の心拍数測定
8.透明模型の作成（二枚貝、甲殻類）
9.植物の茎の内部構造
10.樹木の形態とフラクタル
11.校庭の樹木とその大きさ
12.樹木の種子にみる適応戦略
13.特殊な樹木の開花様式
14.樹木と昆虫の密接な関係
15.まとめ
16.期末試験

その他　時間外に行なうこともある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学実験		地学実験	2	通年　金 5, 6, 7	伊藤信成（教育学部理科教育講座） 栗原行人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　理科実験(地学)の内容を発展させ、地学分野の研究・実験方法についてより深い理解と技能習得を図る。並行して、研究論文の扱い方についても実習を行う。

学習の目的
・地学分野の一般的な観察・解析方法について、その内容と意義を理解することが
できるようになる。
・学術論文を読むことができるようになる。

学習の到達目標
●自らの興味・関心に基づき、実験・観測・巡検の立案, 実行およびデータ解析を遂行する力を身につける。
●先行研究を理解し、研究内容の意義や課題の抽出、改善案の提案等を行える力を身につける。
●自ら行った実験・観察について、正確に説明・伝達することができる。

受講要件
・基礎地学I, IIを履修していること。
・学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

予め履修が望ましい科目　地学講義I～IVを履修しておくことが望ましい。

教科書　適宜指導する

成績評価方法と基準　レポート・成果発表および授業態度

学習内容
前期は天文・古生物それぞれの分野の基礎実習を行う
第 1回：イントロダクション
第 2－ 6回：野外観察法（地質巡検）
第 7－11回：天体観測法（天体観測）
第12－15回：社会教育施設との連携活動
後期は各研究室の専門に別れて実習を行う
・天文分野
第16－21回：データ解析法（観測データの取得と解析）
第22－29回：プログラミング（簡単なプログラムの作成）
第30回：まとめ
・古生物分野
第16－30回：野外調査を行い，試料の収集，室内処理，データの解析を行う.

その他
・フィールド調査などを学外で行う場合がある。
・夜間観測を行う場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
物理学	～66	物理学講義 II	2	前期　火 7, 8	牧原義一（教育学部理科教育講座）

授業の概要　波（波動）はある点で起こった変化（振動）が周囲に伝わる現象である。振動と波動の具体例は，ブランコ，水面の波，音、光、地震のような身近な現象から、原子内の電子が示す波動性のようなミクロな現象まで多くの場面に登場する。ここではこれらの現象に共通する振動と波動の基礎を学んでいく。

学習の目的　振動と波動の関係の理解。進行波の数式で表現し，任意の時刻，場所における波形のグラフ化ができるようになること。自然現象の中の振動と波動に関する現象の特徴を理解し，その現象を数式的に取り扱って，振動・波動現象に関する普遍的な性質を理解できるようになること。

学習の到達目標　振動については単振動，減衰振動について，波動に関しては縦波と横波，波の図示，波の性質を表す量など基礎的な事項を理解する。また、波の代表的な例である音と光にに関する現象について理解を深める。

予め履修が望ましい科目　基礎物理学 I，基礎物理学 II

成績評価方法と基準　出席、小テスト40%、期末試験60%、計100%。ただし、講義日数の2/3以上の出席を前提とする。

オフィスアワー　金曜日 14：40～16：10

学習内容
第 1回 単振動
第 2回 単振動の運動方程式，調和振動子のエネルギー
第 3回 単振動の例
第 4回 減衰振動1
第 5回 減衰振動2，減衰振動子のエネルギー
第 6回 問題演習1
第 7回 波動，波の数学的表現
第 8回 正弦波
第 9回 波動方程式
第10回 波のエネルギー
第11回 波の反射と屈折
第12回 固定端と自由端での波の反射
第13回 ドップラー効果，群速度
第14回 光の屈折，分散，回折
第15回 問題演習2
第16回 期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
物理学	64, 65, 66	物理学講義III	2	後期　火 1, 2	國仲寛人 （教育学部理科教育講座)

授業の概要　熱現象に関する諸法則を理解し，自由エネルギーやエントロピー等の、自然現象の変化の方向を特徴づける量について学習する。

学習の目的　講義で得られた知識を基に、身のまわりに見られる熱的な現象に関して考察できるようになる。

学習の到達目標
1.熱平衡、相転移、熱容量と比熱、熱膨張、熱の移動などの熱と温度に関する諸事実を学ぶ。
2.気体の物理的性質を分子論の立場で理解する。
3.熱力学の法則、熱機関、エントロピーと自由エネルギーについて理解する。

受講要件　基礎物理学 I，II を履修済みであること

教科書　毎回講義ノートを配布する。

成績評価方法と基準　小テスト50%、期末試験50%、計100%。

オフィスアワー　在室時に随時

学習内容
第1回～第5回：熱（熱と温度、熱の移動、気体分子運動論、ファン•デル•ワールスの状態方程式）
第6回～第15回：熱力学（熱力学の第1法則、いろいろな変化、理想気体の比熱、熱機関と熱力学の第2法則、カルノー•サイクルと熱機関の効率の限界、エントロピー増大の原理、熱力学的現象の進む方向—等温過程と自由エネルギー）
第16回：定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
物理学	～66	物理学講義Ⅳ	2	後期　月 7, 8	牧原義一(教育学部理科教育講座)

授業の概要　20世紀初めから発展した現代物理学の二つの柱である相対性理論と量子論の考え方について学びながら、古典物理学の限界と新しい物理学が確立されていく過程を概観する。さらに、原子核の崩壊による放射線の発生と核エネルギーについて学ぶ。

学習の目的　特殊相対性理論および量子論における考え方や、それぞれに関係する実験の意味を理解すること。そして、これらの理論により、私たちが取り扱う具体的な物理現象の理解にどのような結果がもたらされるかを理解すること。

学習の到達目標　特殊相対性理論を理解し、運動している時計の遅れや、運動している棒の収縮を計算したり、質量とエネルギーの等価性から、原子核反応における核エネルギーを計算できるようになること。また，量子論を理解し，光と電子の波動性と粒子性に関する具体的な実験結果や物理現象を説明できるようになること。

受講要件　基礎物理学Ⅰ、Ⅱを受講済み、または受講中であること。

予め履修が望ましい科目　物理学講義Ⅰ，Ⅱ，Ⅲのうち1つ以上の科目。

教科書　原康夫著「第4版 物理学基礎」（学術図書出版社）

成績評価方法と基準　出席、中間テスト40%、期末試験60%：計100%。ただし、講義日数の2/3以上の出席を前提とする。

オフィスアワー　金曜日 14：40～16：10

学習内容
以下は予定している内容で、理解度に応じて進めていく。
第 1回 特殊相対性理論1（光速度の測定、マイケルソン・モーリーの実験）
第 2回 特殊相対性理論2（ガリレイ変換とローレンツ変換)
第 3回 特殊相対性理論3（動いている時計の遅れ、動いている棒の収縮)
第 4回 特殊相対性理論4（質量とエネルギー)
第 5回 特殊相対性理論5（まとめと演習)
第 6回 原子物理学1（原子の構造、中間テスト1）
第 7回 原子物理学2（光の2重性、コンプトン散乱）
第 8回 原子物理学3（電子の粒子性と波動性、ド・ブロイ波）
第 9回 原子物理学4（不確定性原理）
第10回 原子物理学5（まとめと演習、小テスト2）
第11回 原子物理学6（原子の定常状態と光の線スペクトル）
第12回 原子物理学7（元素の周期律）
第13回 原子物理学8（金属、絶縁体、半導体、中間テスト2）
第14回 原子核と核エネルギー1（原子核の構成、核の結合エネルギー)
第15回 原子核と核エネルギー2（原子核の崩壊と放射線、核分裂)
第16回 期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
化学	～66	化学講義 II	2	前期　火 1, 2	新居 淳二（教育学部）

授業の概要　熱力学を化学に応用し、物質の様々な性質を理解する。

学習の目的　熱力学の基礎を学び物質の変化（相変化、化学変化）について理解を深める

学習の到達目標　物質の三態変化、溶液の性質、酸塩基理論、化学平衡、化学電池などについて理解を深める。

予め履修が望ましい科目　基礎化学Ⅰ（共通教育科目）

教科書　プリント使用

成績評価方法と基準　期末試験

オフィスアワー　毎週金曜日17:00～18:00、場所:研究室（教育学部本館1階）

学習内容
第1～6回 熱力学の基礎を学ぶ。
1 なぜ熱力学か？
2 熱力学第一法則、エンタルピー
3 物質の変化に伴う熱の出入り
4 熱力学第二法則、エントロピー
5 変化の方向と自由エネルギー
6 問題演習
第7～15回 熱力学を化学に応用する。
7 純物質の相平衡
8 二成分系の相平衡
9 理想溶液
10 化学平衡、質量作用の法則
11 平衡組成の計算
12 電解質溶液の性質
13 不均一系の平衡
14 化学電池
15 問題演習
第16回 期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
化学	～66	化学講義Ⅳ	2	後期　月 3, 4	新居淳二（教育学部）

授業の概要　固体の構造と反応について学ぶ

学習の目的　金属やセラミックスなど様々な固体の性質について理解を深める。

学習の到達目標
イオン結晶や金属結晶の構造の特徴から物質の性質を理解する。固気系反応主に金属の酸化反応の平衡や機構を学び、熱力学データの取り扱い法や応用法を理解する。

受講要件　基礎化学Ⅰおよび化学講義Ⅱを履修済みであること

教科書　プリント使用

成績評価方法と基準　期末試験

オフィスアワー　月曜日12：00～13：00、場所：研究室

学習内容
第1回～8回 固体の構造
第1回 結晶とは
第2回 単位格子と晶系
第3回 最密充填構造
第4回 イオン結晶
第5回 主な結晶構造
第6回 定比欠陥
第7回 不定比欠陥
第8回 欠陥と電気伝導
第9回～15回 固体の反応
第9回 化学ポテンシャル
第10回 相平衡
第11回 状態図
第12回 不均一系の化学平衡
第13回 反応速度
第14回 分解反応
第15回 金属の酸化反応
第16回 期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生物学	66-59	生物学講義Ⅰ	2	前期　月 3, 4	平山 大輔（教育学部理科教育講座）

授業の概要　生物の生態、進化、多様性について、最近話題になっていることがらを交えて幅広く講義する。

学習の目的　生物の生態、進化、多様性に関する基本的な知見を習得し、理科の教師となる上で大切だと思われる生き物の味方を身につける。

学習の到達目標　自然界にみられる様々な生物現象を科学的な見方で捉えることができるようになる。

予め履修が望ましい科目　基礎生物学Ⅰ

教科書　ワークブックで学ぶ生物学の基礎（第2版）（後藤太一郎監訳，オーム社）

成績評価方法と基準　平常点40%，期末試験60%（合計が60%以上で合格）。ただし，出席状況や受講態度によっては評価の対象としない。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00～13:00，場所；教育学部1号館2階 平山研究室

学習内容
第1回 講義ガイダンス；生態学への招待
第2回 生物多様性ホットスポットの実例（マダガスカル）
第3回 森林と砂漠の分布
第4回 生物の変遷
第5回 ダーウィンの進化論
第6回 進化のメカニズム
第7回 生活史の概要
第8回 植物の生活史
第9回 共進化
第10回 最適戦略
第11回 進化的に安定な戦略
第12回 包括適応度と利他行動の進化
第13回 ヒトの進化
第14回 生態系に及ぼす人間活動の影響
第15回 生物多様性ホットスポットの実例（日本）
第16回 期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生物学	～66	生物学講義Ⅱ	2	後期　金 3, 4	伊藤義昭 （教育学部・非常勤講師）

授業の概要　動物の発生、生理、解剖に関する基礎的な事項について学習する。特に、ヒトの体と仕組みについて理解することを目的とする。基本的な知識を身につけるために、ワークブック形式の教科書を用いて授業を進める。また、内容によっては模型や演示実験を行い、理解を深める。

学習の目的　動物発生学、動物生理学、系統発生学の基礎的事項について理解する。

学習の到達目標
動物が生きるメカニズムを理解する
ヒトの体内構造と機能について説明できる
ヒトの健康問題について関心をもつようになる

予め履修が望ましい科目　基礎生物学Ⅰ、基礎生物学 Ⅱ、

教科書　「ワークブックで学ぶ生物学の基礎」（オーム社）

成績評価方法と基準　平常点 50%、期末試験 50%。ただし、出席状況や受講態度によっては評価の対象としない。

オフィスアワー　毎週金曜日 12:00～13:00、場所：教育学部1号館2階 後藤教員室

学習内容
第1回 個体発生
第2回 配偶子形成
第3回 性周期と排卵
第4回 受精と卵割
第5回 原腸形成と神経管形成
第6回 胚子の折りたたみ
第7回 初期胚における調節、胚操作
第8回 胚膜と胎盤
第9回 器官形成と各器官の機能
（1）消化器系
第10回 （2）呼吸器系
第11回 （3） 排出器系
第12回 （4）循環器系
第13回 （5）神経系
第14回 （6）感覚器系
第15回 （7）内分泌系
第16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生物学	66-59	生物学講義III	2	通年　金 9, 10	平山 大輔（教育学部理科教育講座）

授業の概要　植物学や生物教育に関する論文講読を主体とした演習を行い，研究論文作成の基礎を身につける。生物学分野3・4年生を対象とする。

学習の目的　科学論文の構成を理解できるようになる。文献調査ができるようになる。論文の内容を簡潔にまとめて他者に紹介できるようになる。

学習の到達目標　植物学や生物教育の研究動向を把握し，主体的に調査，研究，プレゼンテーションができるようになる。

教科書　特に指定しない。

成績評価方法と基準　発表およびレジュメの内容（50%），質疑応答による議論への取り組み（50%），計100%（合計が60%以上で合格）。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00，場所：教育学部1号館2階 平山研究室

学習内容
毎回、学術論文、学術記事などを配布する。各回、1名が発表者となり、パソコンでスライドファイルを作成し、論文（記事）紹介のプレゼンテーションを行う。また、プレゼンテーション後の質疑応答や議論を通して、論文（記事）について受講生どうしで理解を深める。具体的な計画は以下の通り。
第1回： 授業ガイダンス；論文紹介の仕方、質疑の進め方の解説
第2回から第7回： 植物生態学に関する論文紹介と内容に関する議論
第8回から第15回： 環境科学に関する論文紹介と内容に関する議論
第16回から第22回： 地域の自然保全に関する論文紹介と内容に関する議論
第23回から第29回： 生物教育に関する論文紹介と内容に関する議論
第30回： 授業全体の振り返り

その他　出席を前提としているため，事情によりやむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生物学	〜66	生物学講義IV	2	通年　金 9, 10	後藤太一郎（教育学部理科教育講座）

授業の概要　動物学に関する論文講読を主体とした演習で、研究論文作成の基礎を身につけることを目的としている。生物学専攻3・4年生を対象とする。

学習の目的
科学論文の構成を理解する。
文献調査の手法を学ぶ。
論文の内容を簡潔にまとめて紹介する。

学習の到達目標
科学論文の構成を理解できるようになる。
文献調査ができるようになる。
論文の内容を簡潔にまとめて紹介できるようになる。

成績評価方法と基準　発表およびレジュメの内容、質疑応答による議論への取り組みを合わせ、総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00、場所：教育学部1号館2階 後藤教員室 goto@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
動物学に関する最近の論文を配布する。毎回2名が発表者となり、パワーポイントを作成して論文紹介のプレゼンテーションを行う。また、プレゼンテーション後の質疑応答や議論を通して、論文についての理解を深める。
第1回： 授業ガイダンス；論文紹介の仕方、質疑の進め方の解説
第2回から第7回： 動物学に関する論文紹介と内容に関する議論
第8回から第15回： 環境科学に関する論文紹介と内容に関する議論
第16回から第22回： 地域の自然保全に関する論文紹介と内容に関する議論
第23回から第29回： 生物教育に関する論文紹介と内容に関する議論
第30回： 授業全体の振り返り

その他　出席を前提としているため、事情により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学		地学講義 I	2	前期　火 5, 6	伊藤信成(教育学部理科教育講座)

授業の概要　宇宙は我々の知りうる最大の構造である。基礎地学Iの内容を踏まえ、より詳細な検討を行うことで、この宇宙がどのように誕生し、現在の姿に変化してきたかを考えていく。

学習の目的
・身近な天体現象について、その原理を理解する
・様々な天体の関連について理解する
・宇宙の基本構造について理解する

学習の到達目標
宇宙は日常生活からかけ離れており、日常生活で接する機会が少ないという印象が強く、小中学校教員の中でも苦手とする人が多い。また、小中学校で扱う理科の単元は互いに関連し合っているが、特に天文分野ではその関連が掴みにくい。
そこで、本講義では天文学が扱う自然現象を通して自然科学の考え方を習得するとともに、天文学と他の自然科学の各分野との関連を明確にし、複合科学としての天文学の特徴を理解することを目的とする。

受講要件　基礎地学 I/A を履修済みであること

教科書　教科書は特に指定しない。

成績評価方法と基準　期末試験 70%, レポート30%

オフィスアワー　毎週火曜日10:00〜12:00, 場所 地学第一研究室（教育学部1号棟2階）

学習内容
第1〜2回 天体の運動と座標系
目的の天体はいつ見えるのか？
第3〜4回 太陽系の構造と惑星系形成
冥王星は惑星ではないのか？
第5〜7回 恒星の誕生と進化
赤い星は年老いた星は本当か？
第8〜10回 銀河と銀河系
似たような名前だが、同じもの？
第11〜12回 宇宙の距離はしご
天体までの距離はどう測るのか？
第13〜15回 銀河の分布と宇宙の階層構造
宇宙の果てをどうやって調べるか？

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学		地学講義 II	2	通年　金 9, 10	伊藤信成(教育学部理科教育講座)

授業の概要
天文学に関する論文講読を通して、研究論文作成の基礎を身につけるとともに、
情報の収集・整理・発信を具体例をもとに体験する。
地学専攻の学生を対象とする。

学習の目的
・科学論文の構成を理解できるようになる。
・文献調査ができるようになる。
・論文の内容を簡潔にまとめて紹介できるようになる。

学習の到達目標
・先行研究を批判的に評価し、当該研究の課題について考えを述べることができる。
・自分の興味・関心に基づき、研究計画の立案・実施・評価・報告を行うことができる。

予め履修が望ましい科目
基礎地学I, II
地学講義I

教科書　教科書は特に指定しない。

成績評価方法と基準　発表およびレジュメの内容、質疑応答による議論への取り組みを合わせ、総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日14:30〜16:00, 場所 地学第一研究室（教育学部1号棟2階）

学習内容
前期
第1回： 論文の検索方法とその実践
第2回： レジュメのまとめ方
第3回ー5回：論文輪講 (科学論文）-1
第6回ー8回：論文輪講 (科学論文）-2
第9回- 11回：論文輪講 (教育論文）-1
第12回-14回：論文輪講 (教育論文）-2
第15回： まとめ
後期
第16回：科学イベントの企画
第17-18回：天体観望会の立案
第19-20回：天体観望会の実施
第21回： 天体観望会の振り返り
第22-23回：天体観測 (テーマ設定）
第24-25回：天体観測 (観測天体の選定）
第26-27回：天体観測 (観測の実施）
第28-29回：天体観測 (データ処理）
第30回： まとめ

その他
夜間観測を行う場合がある。
学外での活動を行う場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学	〜65	地学講義III	2	後期　金 3, 4	栗原 行人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　古生物学は地学の一分野であり，小学校・中学校の理科でも扱われる分野である．本講義では古生物学の基礎として，化石記録の特性とその解析に基づく幅広い知見を解説する．ビデオを視聴することもある．

学習の目的　小・中学校の理科で取り扱う地学分野のうちの古生物学に関する基礎知識を習得し，その背景となる考え方や学問体系についての理解を深める．

学習の到達目標　古生物学の基礎的な概念と生命の歴史の概要を他人に説明できるようになる．

受講要件　理科実験（地学）の内容と関連する部分があるため，理科専攻の学生は2年次に受講することが望ましい．

教科書　なし．

成績評価方法と基準　レポート50%，期末試験50%．

オフィスアワー　毎週月曜12:00〜13:00，場所：教育学部1号館2階 栗原研究室

学習内容
第1回：イントロダクション
第2-3回：化石とその保存，化石化作用
第4-5回：化石から情報をひきだす
第6-7回：初期生命の化石記録
第8-10回：生物進化と化石記録
第11-12回：恐竜の最新生物学
第13-14回：絶滅生物の復元
第15回： トピックス
第16回：期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学	～64	地学講義IV	2	通年　金 9, 10	栗原行人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　地質学・古生物学に関する論文購読を通じて，研究論文作成の基礎を身につけるとともに，情報の収集・整理・発信を具体例をもとに体験する．地学専攻の学生を対象とする．

学習の目的
・科学論文の構成を理解できるようになる．
・文献調査ができるようになる．
・論文の内容を簡潔にまとめて紹介できるようになる．

学習の到達目標
・先行研究を批判的に評価し，当該研究の課題について考えを述べることができる．
・自分の興味・関心に基づき，研究の立案・実施・評価・報告を行うことができる．

受講要件
基礎地学I, II
地学講義III

教科書　なし．

成績評価方法と基準　発表および要旨の内容，質疑応答による議論への取り組みを合わせ，総合的に評価する．

オフィスアワー　毎週月曜12－13時，栗原研究室．

学習内容
前半ではBenton and Harper (1997)のBasic Paleontologyをテキストとして輪読を行い，後半は論文紹介を行う．
1-4回：Paleontology as a science
5-8回：Fossils in time and space
9-12回：Macroevolution
13-15回：Molluscs
16-18回：古生態学に関する論文の紹介
19-21回：機能形態学に関する論文の紹介
22-24回：絶滅に関する論文の紹介
25-27回：古環境復元に関する論文の紹介
28-30回：地質年代学に関する論文の紹介

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生物学実験	～66	野外実習	2	前期集中	後藤太一郎（教育学部理科教育講座），平山大輔（教育学部理科教育講座）

授業の概要
(1)海岸や河口に生息する海産無脊椎動物を観察し、動物の分類と系統について学ぶ。
(2)森林を題材にして、植物群落の構造、機能、動態を探る方法を体験する。

学習の目的
海産無脊椎動物の多様性について理解を深め、関心をもつようになること。
森林を構成する樹木の多様性について理解を深め、関心をもつようになること。

学習の到達目標
海産無脊椎動物の多様性について理解を深め、動物分類の基本が理解できる。
森林を構成する樹木の多様性について理解を深め、樹木の種や調査法を身につける。

受講要件　フィールドでの活動であるため、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

成績評価方法と基準　レポート70%、取り組み態度30%

オフィスアワー　毎週水曜日12:00～13:00、場所：教育学部1号館2階 後藤教員室、平山教員室

学習内容
名古屋大学臨海実験書（鳥羽）における臨海実習（2泊3日）
1.磯採集、付着生物の採集、夜間灯火採集によりできるだけ多くの海産無脊椎動物を採集し、動物の分類と系統について学ぶ
2.ホヤの初期発生の観察
3.海藻の分類と標本作成
志登茂川河口における干潟の調査（2日間）
1.干潟に生息する生物相の観察と調査
2.干潟に生息するカニの行動調査
海産無脊椎動物の標本作製（3日間）
1.採集生物の写真アルバム作成
2.採集動物の標本作成
3.海藻の標本作製
新三重県立博物館の里山ゾーンでの樹木生態実習（3日間）
植物群落の調査のうちもっともスタンダードで基本的なものについて体験する。
1.樹木の分類と標本作成
2.森林の種組成、現存量、種多様性の調査
3.データ分析

その他
（1）単位は後期に認定する。
（2）学生教育研究災害傷害保険と学研災付帯賠償責任保険に加入していること。
（3）実習に関する説明会を4月中旬にするので掲示に注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学実験		地学実習	2	通年	伊藤信成(教育学部/理科教育講座)

授業の概要　通常の講義・実験では難しい大型望遠鏡を用いた観測実習を行う。

学習の目的　普段何気なく見ている現象の中にも様々な自然法則が潜んでいるが、都市部ではその様な何気ない自然に目が行き難い。本実習では、特に都市部では目が向きにくい天体について、観測環境が優れた地域での観測体験を通し、基本的な天体観望・観測の経験を積むとともに、身近な自然環境および都市環境を見つめなおす目を養うことを目的とする。

学習の到達目標
・望遠鏡の構造を理解する。
・現代天文学の研究手法に触れる。
・自然環境を保全することの意味と意義を理解する。

受講要件
・野外活動を伴うため学生教育研究災害傷害保険に加入していること。
・学外の精密観測装置を借用するため学研災付帯賠償責任保険に加入していること。

予め履修が望ましい科目　・基礎地学Iの既習が望ましい。

教科書　資料を配布する

成績評価方法と基準　実習最終日に行う成果発表会およびレポートを基に総合的に判断する

オフィスアワー　毎週火曜日 14:30-16:00

学習内容
第1回：天体観測の概要
第2回：周辺環境が天体観測に与える影響 ー光害ー
第3回：大学周辺の光害実態調査
第4回：天体望遠鏡の種類と構造
第5-6回：小型望遠鏡を用いた望遠鏡操作体験
第7-9回：公開天文台の見学
第10-12回：研究施設の見学ー1 ： 電波望遠鏡
第13-14回：研究施設の見学ー2 ： 大型光学望遠鏡
第15-16回：観測テーマの選定とその学問的意義
第17-18回：観測天体の選定方法(天体シミュレーションソフトを用いた実習)
第19-21回：大型望遠鏡を用いた観測（コンピュータを用いた機器制御）ー1
第22-23回：データ解析についての基礎理論
第24-27回：コンピュータを用いたデータ解析実習ー1
第28-29回：施設周辺の自然環境調査
第30回：成果報告会
第1〜6回までは学内、第7回以降は学外での実習です。

その他
1．主たる実習は8月中旬(3泊〜4泊)を予定している。
2．実習に関する説明会を4月中旬頃に行うので掲示に注意すること。
3．希望者が多い場合は、人数制限を行う場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学実験	〜67	地学実習	2	通年	栗原 行人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　県内あるいは県外で地層の観察と化石の採集を行い，野外観察の方法を習得する．

学習の目的　野外観察は小・中学校の理科（地学分野）の指導において重要である．本実習では野外観察の方法を体感し，野外観察指導ができるようになることを目的とする．

学習の到達目標　野外観察を通じて地層や化石の観察・調査方法の基礎を習得する．

受講要件
・地学講義IIIを履修済であること．
・野外活動を伴うため学生教育研究災害傷害保険に加入していること．

成績評価方法と基準　学習態度とレポートを総合的に判断して評価する．

学習内容
県内あるいは県外で地層の観察と化石の採集を行う（1−11回は学外，12—30回は学内）．
第1回：野外地質調査の概要
第2回：博物館見学1（地質・層序）
第3回：博物館見学2（化石）
第4回：柱状図の作成1（地質・層序）
第5回：柱状図の作成2（化石）
第6回：野外調査（ルートマップ作成）
第7回：野外調査（柱状図作成）
第8回：野外調査（化石採集1）（大型化石定性サンプリング）
第9回：野外調査（化石採集2）（大型化石定量サンプリング）
第10回：野外調査（化石採集3）（微化石定性サンプリング）
第11回：野外調査（化石採集4）（微化石定量サンプリング）
第12回：化石処理1（手作業による大型化石クリーニング）
第13回：化石処理2（エアツールによる大型化石クリーニング）
第14回：化石処理3（破損した標本の修復）
第15回：化石処理4（大型化石の水洗処理）
第16回：化石処理5（大型化石の拾い出し）
第17回：化石処理6（微化石の水洗処理）
第18回：化石処理7（微化石の拾い出し）
第19回：化石の分類1（大型化石の高次分類）
第20回：化石の分類2（微化石の高次分類）
第21回：化石の分類3（二枚貝類の種分類）
第22回：化石の分類4（腹足類の種分類）
第23回：化石の同定1（二枚貝類）
第24回：化石の同定2（腹足類）
第25回：データの解析1（データ整理；コンピュータ活用）
第26回：データの解析2（図表作成；コンピュータ活用）
第27回：データの解析3（堆積相解析；コンピュータ活用）
第28回：データの解析4（化石による古環境復元；コンピュータ活用）
第29回：標本整理（ラベルデータ入力）
第30回：標本整理（ラベル作成）

その他
1．実習は春〜秋期に行う予定であるが詳細は希望者と相談のうえ決定する。
2．実習に関する説明会を4月に行うので掲示に注意すること。
3．希望者が多い場合は、人数制限を行う場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
地学実験		地学実習I	2	通年	伊藤信成(教育学部/理科教育講座)

授業の概要　通常の講義・実験では難しい大型望遠鏡を用いた観測実習を行う。

学習の目的　普段何気なく見ている現象の中にも様々な自然法則が潜んでいるが、都市部ではその様な何気ない自然に目が行き難い。本実習では、特に都市部では目が向きにくい天体について、観測環境が優れた地域での観測体験を通し、基本的な天体観望・観測の経験を積むとともに、身近な自然環境および都市環境を見つめなおす目を養うことを目的とする。

学習の到達目標
・望遠鏡の構造を理解する。
・現代天文学の研究手法に触れる。
・自然環境を保全することの意味と意義を理解する。

受講要件
・野外活動を伴うため学生教育研究災害傷害保険に加入していること。
・学外の精密観測装置を借用するため学研災付帯賠償責任保険に加入していること。

予め履修が望ましい科目　基礎地学Iの既習が望ましい。

教科書　資料を配布する

成績評価方法と基準　実習最終日に行う成果発表会およびレポートを基に総合的に判断する

オフィスアワー　毎週火曜日 14:30-16:00

学習内容
第1回：天体観測の概要
第2回：周辺環境が天体観測に与える影響 ー光害ー
第3回：大学周辺の光害実態調査
第4回：天体望遠鏡の種類と構造
第5-6回：小型望遠鏡を用いた望遠鏡操作体験
第7-9回：公開天文台の見学
第10-12回：研究施設の見学ー1 ： 電波望遠鏡
第13-14回：研究施設の見学ー2 ： 大型光学望遠鏡
第15-16回：観測テーマの選定とその学問的意義
第17-18回：観測天体の選定方法(天体シミュレーションソフトを用いた実習)
第19-21回：大型望遠鏡を用いた観測（コンピュータを用いた機器制御）ー1
第22-23回：データ解析についての基礎理論
第24-27回：コンピュータを用いたデータ解析実習ー1
第28-29回：施設周辺の自然環境調査
第30回：成果報告会
第1〜6回までは学内、第7回以降は学外での実習です。

その他
1．主たる実習は8月中旬(3泊〜4泊)を予定している。
2．実習に関する説明会を4月中旬頃に行うので掲示に注意すること。
3．希望者が多い場合は、人数制限を行う場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
物理学	66	理科情報基礎（物理）	2	後期　火 9, 10	國仲寛人(教育学部理科教育講座)

授業の概要　VPythonを用いて、プログラミングの基礎と数値計算について解説と実習を行う。

学習の目的　VPythonを用いたプログラミングの基礎を学び、それにより様々な数値計算を行う。また計算結果をグラフやアニメーション等を用いて可視化し、他人に伝えることができるようになる。

学習の到達目標
1.VPythonの基本的なプログラミングができるようになること
2.代数方程式や微分方程式を数値的に解けるようになること
3.グラフやアニメーションを用いて計算結果を可視化する方法を身につけること

予め履修が望ましい科目　受講できるのは、理科情報基礎（物理）、同（化学）、同（生物）、同（地学）のうちのいずれか1科目のみである。進度によって理科実験（物理）と連携して行うことがあるので、受講希望者は理科実験（物理）を受講することが望ましい。設備の都合上、履修者数を制限することがある。

教科書　毎回講義ノートやプリント等を配布する。

成績評価方法と基準　宿題50%、レポート50%、計100%

オフィスアワー　在室時に随時

学習内容
第1回：プログラミング事始め
第2回〜第6回：VPythonプログラミングの基礎（変数の宣言、繰り返し操作、配列と条件文、ファイル操作、副プログラム）
第7回：演習（1）
第8回〜14回：数値計算法（数値誤差、代数方程式の数値解法、微分方程式の数値解法等）
第15回：演習（2）
第16回：レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
理科	～66	理科情報基礎(化学)	2	前期　月 9, 10	新居 淳二（教育学部）

授業の概要　化学の理解を助ける手段としてコンピュータプログラミングを学ぶ。

学習の目的
プログラミングの学習を通してコンピュータの基本的な仕組みを理解する。
化学に関するプログラミングを通して化学の原理や理論の理解を深める。

受講要件　理科実験（化学）とセットで受講すること

教科書　プリント使用

成績評価方法と基準　提出された課題により評価する。

オフィスアワー　毎週金曜日17:00～18:00、場所：研究室（教育学部本館1階）

学習内容
1～10回 プログラミングの基礎
変数、式、代入文、制御構造、配列、入出力、グラフィックス、副プログラム
11～15回 次のような化学のテーマの中からいくつか選んでプログラムを作る。
・周期表と元素データベース ・結晶構造の表示
・分子量計算 ・平衡組成の計算
・原子軌道、分子軌道の表示 ・状態図の作成

その他　受講できるのは、理科情報基礎（物理）、同（化学）、同（生物）、同（地学）のうちのいずれか1科目のみである。また、理科実験（化学）終了後引き続いて行うので、受講希望者は必ず理科実験（化学）を受講すること。設備の関係で受講制限をすることがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
理科	～66	理科情報基礎（生物）	2	前期　木 9, 10	平山 大輔（教育学部理科教育講座）

授業の概要　書き込み式（ワークブック形式）の教材を用いて、仮説の立てかた、検証のしかた、結果の分析方法と表現のしかたなど、生物学におけるさまざまなスキルを身につけ実践できるようになることを目的とする。具体的には、Biozone社の発行するSenior Biology 1 (2008)の一章”Skills in Biology”の各アクティビティ、および、PCを使用した統計学的分析に数人単位のグループで取り組むことで学習を進める。

学習の目的　仮説の立てかた、検証のしかた、結果の分析方法と表現のしかたなど、生物学におけるさまざまなスキルを身につける。

学習の到達目標　自分自身で仮説を立てて実験・調査を行い、データを統計学的に分析して、レポート（論文）を作成することができるようになる。

受講要件
理科実験（生物）終了後引き続いて行うので、受講希望者は必ず理科実験（生物）を受講すること。
受講できるのは、理科情報基礎（物理）、同（化学）、同（生物）、同（地学）のうちいずれか1科目のみである。

教科書　ワークブックで学ぶ生物学実験の基礎（後藤太一郎監訳、オーム社）

成績評価方法と基準　毎回のアクティビティの成果（100%）にもとづいて評価する。(60%以上で合格)

オフィスアワー　毎週水曜日12:00-13:00、場所：教育学部1号館2階 平山研究室

学習内容
第1回 仮説と予測、実験の計画
第2回 実験の方法
第3回 結果の記録
第4回 変量とデータ、生データの変換、データの表現
第5回 さまざまなグラフ1
第6回 さまざまなグラフ2、スケッチ
第7回 記述統計
第8回 統計学的分析1；相関係数とその検定
第9回 統計学的分析2；独立性の検定、比率の差の検定、平均の差の検定
第10回 統計学的分析3；分散の差の検定、1元配置の分散分析
第11回 レポートの構成
第12回 方法の執筆
第13回 結果の執筆
第14回 考察の執筆
第15回 レポートのチェックリスト、文献の引用と記載
第16回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
理科		理科情報基礎（地学）	2	後期　木 9, 10	伊藤信成（理科教育講座／地学） 栗原行人（理科教育講座／地学）

授業の概要
科学実験では、様々な数値を扱う。これらの数値の扱い方について理論・実践の両面から検討を行う。また論理的な思考法についても解説を行う。
あわせて、自ら得た情報の発信・受信にかかわるデジタル・デバイドの操作についても実習を行う。

学習の目的
・実験等で得られた測定値を正しく扱うことができる
・科学レポートを作成することができる

学習の到達目標
・測定結果に基づいた論理的な考察ができるようになる。
・情報の発信ができる

受講要件　学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

予め履修が望ましい科目　基礎地学I, II

成績評価方法と基準
小テスト 50%
レポート 50%
各教員の評価を総合して最終評価とする。

オフィスアワー　月曜日13:00-14:30, 地学第1研究室（伊藤）

学習内容
第1〜7回 測定値の取扱い方
・誤差について
・有効数字について
・推定と検定
・最小二乗法
・論理的思考
・科学レポートの書き方
第8〜14回：パワーポイントを使った発表用ファイル作成
第15回： まとめ

その他　受講できるのは、理科情報基礎（物理）、同（化学）、同（生物）、同（地学）のうちいずれか1科目のみである。理科実験（地学）終了後引き続いて行うので、受講希望者は必ず理科実験（地学）を受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 理科	〜62 63〜66	小学校専門理科 I 小学校専門理科A	1 2	前期　火 3, 4	牧原義一（教育学部理科教育講座），野本健雄（非常勤講師）

授業の概要　身の回りで起こっている物理・化学現象について講義する。

学習の目的　小学校理科における物理・化学分野の基礎的な知識と考え方を身につけることを目的とする。

学習の到達目標　身の回りの物理現象や化学現象を理解し、分かりやすく説明できること。

受講要件　受講生が多くて理科教育室に入らない場合は人数調整を行うので、初回は必ず出席すること。(教材準備の都合上，受講者数を50名までとする。)

予め履修が望ましい科目　共通教育の物理・化学

成績評価方法と基準　受講態度、レポート及び期末試験

オフィスアワー　牧原（金曜日 14：40〜16：10）、野本（火曜日 13：00〜17：30）

学習内容
第1回： オリエンテーション （牧原，野本）
第2回：燃焼の仕組み （野本）
第3回：物質の三態1 （野本）
第4回：物質の三態2 （野本）
第5回：物の溶け方1 （野本）
第6回：物の溶け方2 （野本）
第7回：水溶液の性質1 （野本）
第8回：水溶液の性質2 （野本）
第9回：物理分野の学習内容、エネルギー（牧原）
第10回：風やゴムのはたらき （牧原）
第11回：振り子の運動1 （牧原）
第12回：振り子の運動2 （牧原）
第12回：磁石の性質1 （牧原）
第14回：磁石の性質2 （牧原）
第15回：光の性質 （牧原）
第16回：期末試験 （牧原，野本）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 理科	～62 63～66	小学校専門理科 I 小学校専門理科A	1 2	後期　火 3, 4	牧原義一（教育学部理科教育講座），野本健雄（非常勤講師）

授業の概要　身の回りで起こっている物理・化学現象について講義する。

学習の目的　小学校理科における物理・化学分野の基礎的な知識と考え方を身につけることを目的とする。

学習の到達目標　身の回りの物理現象や化学現象を理解し、分かりやすく説明できること。

受講要件　受講生が多くて理科教育室に入らない場合は人数調整を行うので、初回は必ず出席すること。(教材準備の都合上，受講者数を50名までとする。)

予め履修が望ましい科目　共通教育の物理・化学

成績評価方法と基準　受講態度、レポート及び期末試験

オフィスアワー　牧原（金曜日 14：40～16：10）、野本（火曜日 13：00～17：30）

学習内容
第1回： オリエンテーション （牧原，野本）
第2回：燃焼の仕組み （野本）
第3回：物質の三態1 （野本）
第4回：物質の三態2 （野本）
第5回：物の溶け方1 （野本）
第6回：物の溶け方2 （野本）
第7回：水溶液の性質1 （野本）
第8回：水溶液の性質2 （野本）
第9回：物理分野の学習内容、エネルギー（牧原）
第10回：風やゴムのはたらき （牧原）
第11回：振り子の運動1 （牧原）
第12回：振り子の運動2 （牧原）
第12回：磁石の性質1 （牧原）
第14回：磁石の性質2 （牧原）
第15回：光の性質 （牧原）
第16回：期末試験 （牧原，野本）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 理科	59～62 63～66	小学校専門理科 II 小学校専門理科B	1 2	前期　月 3, 4	後藤太一郎(教育学部理科教育講座生物）・伊藤信成(教育学部理科教育講座地学）・栗原行人(教育学部理科教育講座地学)

授業の概要　小学校理科の生物・地学領域を指導する上での基礎について体験活動しながら解説する。

学習の目的
＜生物分野＞小学校教員として身につけておくべき教材生物の取り扱いについて、観察や飼育を通して理解する。
＜地学分野＞教育現場で必要となる地学観測方法等について、体験・座学両面からの理解を深める。

学習の到達目標
＜生物分野＞学校飼育動物の意味について理解を深め、初等理科教育を指導する際に活かそうとする意欲をもつ。
＜地学分野＞日常見られる地学現象に対して論理的考察ができるとともに、教育現場に活用していく術を身に付ける。

受講要件　教材の準備の都合上、受講者数を50名までとする。

教科書　適宜、資料を配布する

成績評価方法と基準
＜生物分野＞レポート70%、出席20%、受講態度10%
＜地学分野＞レポート70%、出席20%、受講態度10%
双方の成績を総合して評価する。

オフィスアワー
＜生物分野＞毎週水曜日12:00～13:00 1号館2階生物学教員室（後藤）
＜地学分野＞毎週火曜日13:00～15:00 1号館2階地学教員室（伊藤、栗原）

学習内容
＜生物分野＞学校飼育動物と動物介在教育
第1回 身近な動物の飼育と観察（ザリガニ）
第2回 身近な動物の飼育と観察（メダカ）
第3回 身近な動物の飼育と観察（昆虫類）
第4回 学校飼育動物について
第5回 動物とヒトとの関わりについて
第6回 学校飼育動物について－獣医師の立場から－
第7回 動物介在教育について－犬のしつけインストラクターの立場から－
＜地学分野＞
第1回 太陽の動き（伊藤）
第2回 星の日周運動（伊藤）
第3回 望遠鏡の使い方（伊藤）
第4回 雲のでき方（伊藤）
第5回 月の満ち欠け（伊藤）
第6回 流水の働き（栗原）
第7回 山はどうしてできたか？（栗原）
第8回 津波防災・博物館利用（栗原）
試験

その他　(地学）夜間観望を予定している。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 理科	～62 63～66	小学校専門理科 II 小学校専門理科B	1 2	後期　月 3, 4	後藤太一郎(教育学部理科教育講座生物），伊藤信成(教育学部理科教育講座地学）・栗原行人(教育学部理科教育講座地学)

授業の概要
小学校理科の生物・地学領域を指導する上での基礎について体験活動しながら解説する。

学習の目的
＜生物分野＞小学校教員として身につけておくべき教材生物の取り扱いについて、観察や飼育を通して理解する。
<地学分野＞教育現場で必要となる天体観測方法等について、体験・座学両面からの理解を深める。

学習の到達目標
学校飼育動物の意味について理解を深め、初等理科教育を指導する際に生かそうとする意欲をもつ。
日常見られる地学現象に対して論理的考察ができるとともに、教育現場に活用していく術を身に付ける。

受講要件　教材の準備の都合上、受講者数を50名までとする。

成績評価方法と基準
＜生物分野＞レポート70%、出席20%、受講態度10%
＜地学分野＞レポート70%、出席20%、受講態度10%
双方の成績を総合して評価する。

オフィスアワー
＜生物学＞毎週水曜日12:00～13:00 生物学教員室（後藤）
＜地学＞ 毎週火曜日13:00～15:00 地学教員室（伊藤・栗原）

学習内容
＜生物分野＞学校飼育動物と動物介在教育
第1回 身近な動物の飼育と観察（ザリガニ）
第2回 身近な動物の飼育と観察（メダカ）
第3回 身近な動物の飼育と観察（昆虫類）
第4回 学校飼育動物について
第5回 動物とヒトとの関わりについて
第6回 学校飼育動物について－獣医師の立場から－
第7回 動物介在教育について－犬のしつけインストラクターの立場から－
試験
＜地学分野＞
第1回 太陽の動き（伊藤）
第2回 星の日周運動（伊藤）
第3回 望遠鏡の使い方（伊藤）
第4回 雲のでき方（伊藤）
第5回 月の満ち欠け（伊藤）
第6回 流水の働き（栗原）
第7回 山はどうしてできたか？（栗原）
第8回 津波防災・博物館利用（栗原）
試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
ソルフェージュ	67	ソルフェージュ	1	前期　木3,4	小畑真梨子，兼重直文，弓場徹，根津知佳子，川村有美，森川孝太朗

授業の概要　将来、子どもたちに音楽を指導するため必要となる読譜能力や表現能力の基礎を養う。併せて、音楽教育コースのカリキュラムの概要や各専門分野を紹介するとともに、大学での学習活動のあり方や施設の利用方法などについても紹介する

学習の目的
1．音楽理論及び読譜能力の基礎を習得する。
2．音楽教育コースにおける各専門分野の様々なアプローチから、音楽がもつ多様性を理解する。

学習の到達目標
1．リズム打ち、視唱、グループ視唱、視奏、リズムアンサンブル及び様々な形態による聴音ができる。
2．音楽教育コースにおける各専門分野と大学で学ぶ学習内容の概要を知ることにより、大学生活に見通しを立て、卒業後の進路について考えていく力を身につける。

教科書　随時、指定する。

成績評価方法と基準　実技試験50%、授業態度25%、出席25%、計100%。

オフィスアワー
金曜日12：00〜13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．コースカリキュラム概要及びガイダンス（音楽教育コース全教員）
2．ソルフェージュと声楽・器楽（弓場・兼重）
3．ソルフェージュと音楽教育・作曲（川村・森川）
4．ソルフェージュと音楽療法（根津）
5．リズムと拍子①（小畑）
6．リズムと拍子②（小畑）
7．音程①・旋律聴音①
8．音程②・旋律聴音②
9．音階①・旋律聴音③
10．音階②・旋律聴音④
11．和音①・リズム聴音①
12．和音②・リズム聴音②
13．表示記号について
14．まとめ①
15．まとめ②
16.試験（小畑）

その他
音楽教育コース・オリエンテーション科目。
専攻生以外の履修に際しては，適正をみる簡単な実技テストを課す。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
ソルフェージュ	67	ソルフェージュ演習	1	後期　木3,4	兼重直文

授業の概要　前期に履修した「ソルフェージュ」の内容を発展させる。

学習の目的　正確で迅速な読譜によって正しい演奏ができる音楽基礎能力を身につけることによって、教育現場での音楽指導に対応する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標　「ソルフェージュ」の能力を高めるに必要なことは「継続」である。前期に履修した「ソルフェージュ」をベースに引き続き履修することにより、器楽・声楽等の実技授業、そして教育現場での音楽の授業に対応できる能力を得ることができる。

受講要件　前期開講の「ソルフェージュ」を受講しておくこと。

予め履修が望ましい科目　ソルフェージュ(前期)

教科書　リズム練習274問(全音楽譜出版社)ほか

成績評価方法と基準　実技テスト50%、受講態度25%、出席25%、計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00（兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp）

学習内容
1.初級課題の実践①2声のリズム
2.同上 ②リズムと歌唱
3.中級課題の実践①2声・3声のリズム
4.同上 ②リズムと歌唱
5.上級課題の実践①2声・3声のリズム
6.同上 ②リズムと歌唱
7．リズムと歌唱のまとめ
8.初級課題の実践①ピアノと歌唱
9.同上 ②ピアノと歌唱
10.中級課題の実践①ピアノと歌唱
11.同上 ②ピアノと歌唱
12.上級課題の実践①ピアノと歌唱
13.同上 ②ピアノと歌唱
14.総合課題の実践①
15.同上 ②

その他　音楽教育コースの専攻生、及び担当教員が認めた学生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	67	声楽研究1	1	前期　月 1, 2	弓場徹（教育学部音楽科）

授業の概要
声楽の基礎発声能力を高めることを中心に発音や音楽の構成を学び歌唱力を養う。
声を出す仕組みを理論的に学ぶとともに実際に声を出して発声能力を高め歌唱の基礎を構築する。また、歌詞の内容や曲のつくり(フレーズ、ブレス位置、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的変化など)を4〜5の練習曲や2〜3の歌曲を通して公開レッスン形式で学ぶ。

学習の目的　歌唱の基礎能力をつける

学習の到達目標　1オクターヴ半程度の音楽的音域の確保と簡単な曲の構成能力を身に付ける。

受講要件　基本的に音楽科の学生が対象

教科書
「奇跡のハイトーンボイストレーニング」弓場徹著、主婦の友社
「イタリア古典歌曲集」全音楽譜出版社
「パノフカ作品81a」高声用、全音楽譜出版社

成績評価方法と基準　試験での歌唱能力、出席日数、受講態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス：授業概要。レッスン用カルテに学習暦等を各自が書き込む。
2.任意の1曲を独唱し、歌唱発声上の問題点とその改善方法を明確にする。
3.音域および換声点位置のチェック。裏声と表声の分離と強化を行う。
4.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を養いつつ、必要に応じて簡単な発声機能生理学について解説する。レベルに合わせてパノフカ作品81aやイタリア古典歌曲から課題を与える。
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.レベルに応じてイタリア古典歌曲より1曲を選び、曲の解釈や歌詞の発音などを指導した後、全員で歌詞唱を行う。続いて、独唱を行い、個々の問題に対応した指導を行い歌唱レベルの向上をはかる。
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
15受講生同士が伴奏し歌唱.試験を行う。受講生同士の相互評価も行う。

その他
1年生が対象
教育者になることを目的とした授業なので、常に受講生は相互に観察し合い、将来教授能力を身につけることを視野に努力すること。
専攻生以外の履修に際しては，適正をみる簡単な実技試験を課す。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	67	声楽研究2	1	後期　月 1, 2	弓場徹（教育学部音楽科）

授業の概要
声楽の基礎発声能力を高めることを中心に発音や音楽の構成を学び歌唱力を養う。
声を出す仕組みを理論的に学ぶとともに実際に声を出して発声能力を高め歌唱の基礎を構築する。新たに練習曲(5曲程度)を学ぶ。また、歌詞の内容や曲の作り(フレーズ、ブレス位置、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的変化など)を、歌曲(3曲程度)を用いて公開レッスン形式で学ぶ。

学習の目的　歌唱の基礎能力を養う。

学習の到達目標　1オクターヴ半以上の音楽的音域の確保と音量の調節および簡単な曲の構成能力を身に付ける。

受講要件　基本的に音楽科の学生が対象

予め履修が望ましい科目　声楽研究2を受講する者は、声楽研究1の単位を取得していること。

教科書
「奇跡のハイトーンボイストレーニング」弓場徹著、主婦の友社
「イタリア古典歌曲集」全音楽譜出版社
「パノフカ作品81a」高声用、全音楽譜出版社

成績評価方法と基準　試験での歌唱能力、出席日数、受講態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス：授業概要。歌唱上の問題点とその改善方法を明確にする。
2.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を養いつつ、必要に応じて発声機能生理学について解説する。また、レベルに応じて、新たにパノフカ作品81aやイタリア古典歌曲より選曲したものを歌い公開レッスン形式で独唱を行う。個々の問題に対応した応用発声法を中心に指導を行い歌唱レベルの向上をはかる。
3.同上
4.同上
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.同上
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
15.受講生同士が伴奏し歌唱試験を行う。受講生同士の相互評価も行う。

その他
声楽研究1を受講する者はそれに対応したシラバスを参照すること
教育者になることを目的とした授業なので、常に受講生は相互に観察し合い、将来教授能力を身につけることを視野に授業に参加すること。
専攻生以外の履修に際しては，適正をみる簡単な実技試験を課す。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	66	声楽研究3	1	前期　月 7, 8	弓場徹（教育学部音楽科）

授業の概要
声楽の基礎発声能力を高めるとともに発音や音楽の構成を学びよりレベルの高い歌唱力を養う。
グループまたは個人レッスン形式で、基礎的歌唱発声能力を基に、歌詞の内容やフレーズ、ブレス位置、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的変化、といったことを新たな歌曲(5曲程度)を通して実践的に学ぶ。

学習の到達目標　1オクターヴ半以上の音楽的音域の確保と音量の調節および曲の構成能力を身に付ける。

受講要件
基本的に音楽科の学生が対象
声楽研究1・2の単位を取得していること

予め履修が望ましい科目　声楽研究3を履修する者は1・2、声楽研究4を履修する者は1・2・3

教科書
「奇跡のハイトーンボイストレーニング」弓場徹著、主婦の友社
曲目は、受講生のレベルなどに合わせて適宜指示する。

成績評価方法と基準　試験での歌唱能力、出席日数、受講態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス：授業概要。歌唱上の問題点とその改善方法を明確にする。
2.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を養いつつ、レベルに合わせて選曲したものをレッスンし歌唱レベルの向上をはかる。
3.同上
4.同上
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.同上
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
15.受講生同士が伴奏し歌唱試験を行う。受講生同士の相互評価も行う。
教育者になることを目的とした授業なので、常に受講生は相互に観察し合い、将来教授能力を身につけることを視野に授業に参加すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	66	声楽研究3	1	前期　月 7, 8	森本千賀子（教育学部非常勤講師）

授業の概要
呼吸法と発声法を学び、滑らかで美しい響きを追求する。 また、演奏にあたっては音楽的、文学的（詩）表現へのアプローチを行なう。 公開レッスン形式で学習する。
学校教材等を視野に入れた授業も予定しています。

学習の目的　無理なく美しく響く声につながる呼吸法と発声法の基礎を習得する。 また 楽曲に込められた作曲家の精神を感じ取り表現（演奏）できる。

学習の到達目標　歌唱において身体の使い方が自分自身の理論と感覚でつかめるようになる。また、なめらかで美しく響き、歌うことが何の抵抗もなく楽であり、疲れにくいこと。

受講要件　2年生以上(声楽研究1・2を履修済の学生)

教科書
イタリア古典歌曲集を主に使用するが、学生の能力に合わせた楽譜、資料を適宜
用いる。

成績評価方法と基準　実技試験70% 平常の学習態度30%

オフィスアワー　毎週月曜日2：40～4：10、場所：弓場教授研究室

学習内容
1 授業内容の説明、発音（ヴォカリーゼ）指導と選曲
2～4 ヴォカリーゼを中心とした全体レッスン
5～11 ヴォカリーゼ、イタリア歌曲のグループレッスン
12～13 学校教材を用いての授業
14 声楽曲の仕上げ
15 演奏発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	66	声楽研究4	1	後期　月 3, 4	弓場徹（教育学部音楽科）

授業の概要
声楽の基礎発声能力を高めるとともに発音や音楽の構成を学びよりレベルの高い歌唱力を養う。
グループまたは個人レッスン形式で、基礎的歌唱発声能力を基に、歌詞の内容やフレーズ、ブレス位置、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的変化、といったことを新たな歌曲(5曲程度)を通して実践的に学ぶ。

学習の到達目標　1オクターヴ半以上の音楽的音域の確保と音量の調節および曲の構成能力を身に付ける。

受講要件
基本的に音楽科の学生が対象
声楽研究1・2・3の単位を取得していること

予め履修が望ましい科目　声楽研究3

教科書
「奇跡のハイトーンボイストレーニング」弓場徹著、主婦の友社
曲目は、受講生のレベルなどに合わせて適宜指示する。

成績評価方法と基準　試験での歌唱能力、出席日数、受講態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス：授業概要。歌唱上の問題点とその改善方法を明確にする。
2.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を養いつつ、レベルに合わせて選曲したものをレッスンし歌唱レベルの向上をはかる。
3.同上
4.同上
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.同上
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
15.受講生同士が伴奏し歌唱試験を行う。受講生同士の相互評価も行う。
教育者になることを目的とした授業なので、常に受講生は相互に観察し合い、将来教授能力を身につけることを視野に授業に参加すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	66	声楽研究4	1	後期　月 3, 4	森本千賀子（教育学部非常勤講師）

授業の概要
滑らかで美しく、やかましくないその人の身体に適した呼吸と声を目的とします。また、演奏にあたっては音楽的、文学的（詩）表現へのアプローチを行ないます。
学校教材等を視野に入れた授業も予定しています。

学習の目的　無理なく美しく響く声の習得。楽曲より作曲家の精神を感じ取り、表現してゆく力。

学習の到達目標　歌唱において身体の使い方が自分自身の理論と感覚でつかめるようになる。また、なめらかで美しく響き、歌うことが何の抵抗もなく楽であり、疲れにくいこと。

受講要件　2年生以上(声楽研究1・2・3を履修済の学生)

教科書　イタリア古典歌曲集を主に使用するが、学生の能力に合わせた楽譜、資料を適宜用いる。

成績評価方法と基準　実技試験70% 平常の学習態度30%

オフィスアワー　毎週月曜日2：40〜4：10、場所弓場教授研究室

学習内容
1 授業内容の説明、発音（ヴォカリーゼ）指導と選曲
2〜4 ヴォカリーゼを中心とした全体レッスン
5〜11 ヴォカリーゼ、イタリア歌曲のグループレッスン
12〜13 学校教材を用いての授業
14 声楽曲の仕上げ
15 演奏発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	66	声楽研究（日本音楽）	1	前期集中　水 5, 6, 7, 8, 9, 10	松浦 奈々恵（教育学部非常勤講師）

授業の概要
長唄を唄い、伝統音楽の話し声による発生を身につける。
長唄三味線および篠笛の構造を知り、基本的奏法を会得する。

学習の目的
長唄、三味線および篠笛が出来るようになると共に、江戸の文化を体感することが出来る。
義務教育の中での、邦楽授業に対応することが出来るようになる。

学習の到達目標
長唄の演奏能力を得ることができる。
伝統音楽で最も重要な「息」、「間」といった演奏上のコミュニケーション能力を得ることができる。

受講要件　「声楽研究1」を履修済みであること。

教科書
篠笛テキスト「篠笛の本」日音 800円
プラスチック篠笛 日音 1600円
三味線テキスト「末広狩」、(株)邦楽社 950円
（最初の授業で用意致します。）

成績評価方法と基準　実技試験100%

オフィスアワー　毎週水曜日10:30～12:00、作曲・音楽理論研究室：k_morika@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
①～⑤
謡曲の一節を使って唄声と話し声の違いを感知する。
長唄「末広狩」の歌詞の内容を知る。
音読を繰り返し七五調の雰囲気をつかむ。
集団なら全曲唄えるまでにする。三味線、篠笛の構造を知り、練習曲をマスタ-する。
⑥～⑩
個人でも全曲が唄えるまでにする。三味線は「都鳥」の合方をマスタ-する。
⑪～⑯
グループに別れ、「末広狩」を三味線にあわせて演奏できるようにする。
長唄の演奏形態で合奏できるようにする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽（合唱）	66-64	声楽（合唱）2	1	前期　月 3, 4	弓場徹（教育学部音楽科）

授業の概要
1．デモンストレーションを多く交えた、実践・指導力を養うためのクラスレッスン。
2．学校教育のみならず、一般社会における合唱の意義や貢献についても考察する。

学習の目的　音楽教育の分野で大きな領域を占める合唱の実践・指導力を養う。

学習の到達目標　音楽教育の分野で大きな領域を占める合唱の実践・指導力を獲得する。

教科書
「女声合唱のための唱歌メドレー ふるさとの四季」源田俊一郎編曲 カワイ出版
他、学生の能力に合わせた、学校教育の現場に応用可能な曲を適宜用いる。

成績評価方法と基準　実技試験、平常の学習態度（出席を含む）等

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス、半期の授業全体について
・Conduct(C)：予備拍及び2、3、4拍子の指揮法を学ぶ
・Vocalization(V)＝基礎発声：裏声と表声(地声)のコンセプトの明確化と発声
・Classification of voice(CoV)：声種の定義と声種の評定基準及び声種分け
2.Review hour(R-h)：復習(前回のC)
・C：6拍子(イタリア式、ドイツ式)、変拍子：5(2+3、3+2)拍子
・V：YUBAメソッドDVD初級Step3(YM-DVD初Step3)
・CoV：声種分け
3.R-h：前回のC
・C：複合拍子
・V：YM-DVD初Step3
・CoV：声種分け
・カデンツ(終止形)を母音で歌う
4.基礎発声トレーニング及び楽曲を用いた歌唱と指揮
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.同上
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
※同上とあるが、それぞれの回において復習と新たな曲を用いて学ぶ。
15.試験を行う。

その他
2年生以上が対象
2011年度は開講していません

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	67	器楽研究A1	1	前期　金 9, 10	兼重直文（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　音階・アルペジオ等を学び、J.S.バッハの作品の様式の理解と表現の関係性を理解しながら、実技指導を行なう。また、歌唱教材等のピアノ伴奏（弾き歌いを含む）の実技指導を行なう。更にJ.S.バッハについてのレポート発表を行う。

学習の目的　ピアノ奏法における基本的な演奏技術を身に付け、J.S.バッハやバロックの作曲家の作品を通して客観的な読譜能力と表現能力を習得する。ピアノ伴奏（弾き歌いを含む）や歌唱教材等の学習指導要領に記載されている内容に対応できる能力の獲得を目指す。

学習の到達目標
・基本的な演奏技術を身につける。
・バロック作品の客観的な読譜能力と表現能力を身につける。
・ピアノ伴奏（弾き歌いを含む）や歌唱教材等の学習指導要領に記載さ れている内容に対応できる能力を身につける。
・レポート作成・発表を通して、音楽史の見地からの理解を深める

教科書
・ハノンピアノ教本
・J.S.バッハ：小プレリュードとフーガ、2声・3声インヴェンション等の曲集より学生の能力に応じて指定する。
・教員養成課程 小学校音楽科教育法（教育芸術社）

成績評価方法と基準　実技テスト60%、提出物20%、授業態度20%、合計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 音階、アルペジオ（♭♯2つまで）
第3回 音階、アルペジオ（♭♯4つまで）
第4回 音階、アルペジオ（復習／音階・アルペジオは半期継続する）
第5回 ピアノ作品課題の指導（読譜の正確さ）
第6回 ピアノ作品課題の指導（楽曲構成の理解）
第7回 ピアノ作品課題の指導（装飾音の奏法について）
第8回 レポート発表（1）
第9回 歌唱教材等のピアノ伴奏（弾き歌い練習方法について）
第10回 歌唱教材等のピアノ伴奏（弾き歌いの課題1）
第11回 歌唱教材等のピアノ伴奏（弾き歌いの課題2）
第12回 レポート発表（2）
第13回 ピアノ作品課題の指導（表現1）
第14回 ピアノ作品課題の指導（表現2）
第15回 定期試験に向けての試奏会
※個別指導のため、各個人の学習状況に応じて変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	67	器楽研究A1	1	前期　金 9, 10	小畑 真梨子(教育学部音楽教育コース)

授業の概要　音階・アルペジオ等を学び、J.S.バッハの作品の様式の理解と表現の関係性を理解しながら、実技指導を行なう。また、歌唱教材等のピアノ伴奏（弾き歌いを含む）の実技指導を行なう。更にJ.S.Bachについてのレポート発表を行う。

学習の目的　ピアノ演奏の基礎的能力の習得する。

学習の到達目標
ピアノ奏法における基本的な演奏技術を身に付け、J.S.バッハやバロックの作曲家の作品を通して客観的な読譜能力と表現能力を習得することにより、ピアノ伴奏（弾き歌いを含む）や歌唱教材等の学習指導要領に記載されている内容に対応できる能力の獲得を目指す。
レポート作成・発表を通して作曲家・楽曲への興味・理解を深める。

教科書
・ハノン：ピアノ教本
・バッハ：インベンションとシンフォニアより学生の能力に応じて指定
・『教員養成課程 小学校音楽科教育法』(教育芸術社)より歌唱教材の伴奏を指定

成績評価方法と基準　実技試験50% 授業態度20% 出席20% 提出物10% 計100%

オフィスアワー
毎週金曜日12：00～13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1：ガイダンス
2：音階、アルペジオ(♭♯2つまで)
3：音階、アルペジオ(♭♯3つまで)
4：音階、アルペジオ(復習)
5：ピアノ作品課題の指導(読譜の正確さ)
6：ピアノ作品課題の指導(楽曲構成の理解)
7：ピアノ作品課題の指導(装飾音の奏法について)
8：レポート発表(1)
9：歌唱教材等のピアノ伴奏について(弾き歌いの練習方法について)
10：歌唱教材等のピアノ伴奏について(弾き歌いの課題1)
11：歌唱教材等のピアノ伴奏について(弾き歌いの課題2)
12：レポート発表(2)
13：ピアノ作品課題の指導(表現1)
14：ピアノ作品課題の指導(表現2)
15：定期試験に向けての試奏会
16: 定期試験
※個別指導のため、各個人の学習状況に応じて変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	67	器楽研究A2	1	後期　金 1, 2	兼重直文（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　学生の能力に応じたチェルニー等のエチュードを通して基本的技術を指導するとともに、古典派（ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン）のソナタの様式を理解と表現の関係性を解説しながら、実技指導を行なう。また、引き続き歌唱教材等のピアノ伴奏（移調、弾き歌いを含む）の実技指導を行なう。更に、古典派についてのレポート発表を行う。

学習の目的　ピアノで表現するために必要な基本的技術を身に付け、古典派の作品を通してソナタ形式を理解するとともに、その演奏法の習得することにより、ピアノ伴奏（移調奏・弾き歌いを含む）や歌唱教材等の学習指導要領に記載されている内容に対応できる能力の獲得を目指す。

学習の到達目標
・基本的な演奏技術を身に付ける。
・ソナタ形式を理解するとともに、その演奏法を身につける。
・ピアノ伴奏（移調奏・弾き歌いを含む）や歌唱教材等の学習指導要領に記載されている内容に対応できる能力を身につける。
・レポート作成・発表を通して、音楽史の見地からの理解を深める。

予め履修が望ましい科目　器楽研究A1

教科書
・チェルニー30番・40番練習曲集等の練習曲集より学生の能力に応じて指定する。
・ハイドン：ソナタ集、モーツァルト：ソナタ集、ベートーヴェン：ソナタ集より学生の能力に応じて指定する。
・教員養成課程 小学校音楽科教育法（教育芸術社）
・中学校・高等学校教職課程 音楽科教育法（教育芸術社）

成績評価方法と基準　実技テスト60%、提出物20%、授業態度20%、合計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 エチュード（練習方法）と歌唱教材等のピアノ伴奏（弾き歌いの課題1）
第3回 古典派の作品（ソナタ形式について）
第4回 古典派の作品（ペダリングについて）
第5回 古典派の作品（表現1）
第6回 エチュード（テンポ設定）と歌唱教材等のピアノ伴奏（弾き歌いの課題2）
第7回 古典派の作品（表現2）
第8回 レポート発表（1）
第9回 古典派の作品（表現3）
第10回 エチュードと古典派の作品（まとめ1）
第11回 エチュードと古典派の作品（まとめ2）
第12回 レポート発表（2）
第13回 歌唱教材等のピアノ伴奏（弾き歌いの課題1, 2）
第14回 試験課題全曲（まとめ）
第15回 定期試験に向けての試演会
定期試験
※個別指導のため、各個人の学習状況に応じて変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	67	器楽研究A2	1	後期　金 1, 2	小畑 真梨子(教育学部音楽教育コース)

授業の概要　学生の能力に応じたチェルニー等のエチュードを通して基本的技術を指導するとともに、古典派（ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン）のソナタの様式を理解と表現の関係性を解説しながら、実技指導を行なう。また、引き続き歌唱教材等のピアノ伴奏（移調、弾き歌いを含む）の実技指導を行なう。更に、古典派についてのレポート発表を行う。

学習の目的　ピアノ演奏の基礎的能力・知識の習得する。

学習の到達目標
ピアノで表現するために必要な基本的技術を身に付け、古典派の作品を通してソナタ形式を理解するとともにその演奏法の習得することにより、ピアノ伴奏（移調奏・弾き歌いを含む）や歌唱教材等の学習指導要領に記載されている内容に対応できる能力の獲得を目指す。
レポート作成・発表を通して、作曲家・楽曲への興味・理解を深める。

受講要件　器楽研究A1を履修済みであること

教科書
・チェルニー30番・40番練習曲集より学生の能力に応じて指定する。
・古典派作曲家のピアノ・ソナタより学生の能力に応じて指定する。
・『教員養成課程 小学校音楽科教育法』(教育芸術社)より歌唱教材伴奏より指定

成績評価方法と基準　実技試験50% 授業態度20% 出席20% 提出物10% 計100%

オフィスアワー
毎週金曜日12：00～13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1：ガイダンス
2：エチュード(練習方法)と歌唱教材等のピアノ伴奏
3：古典派の作品(ソナタ形式について)
4：古典派の作品(ペダリングについて)
5：エチュード(運指)と歌唱教材等のピアノ伴奏
6：エチュード(テンポ設定)と歌唱教材等のピアノ伴奏
7：古典派の作品(表現1)
8：レポート発表(1)
9：古典派の作品(表現2)
10：エチュードと古典派の作品(まとめ1)
11：エチュードと古典派の作品(まとめ2)
12：レポート発表(2)
13：歌唱教材等のピアノ伴奏(まとめ)
14：試験課題全曲(まとめ)
15：定期試験に向けての試奏会
定期試験
※個別指導のため各個人の学習状況に応じて変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	66	器楽研究A3	1	前期　金 3, 4	兼重直文（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　ロマン派、近・現代のそれぞれから選択した2作品の実技指導を通して演奏表現能力の向上を目指すとともに、楽曲解釈を学び、表現の意図について考える。また、初見テキストや簡単なピアノ作品を通して、教材レベルのピアノ初見視奏の指導を行なう。更に、ロマン派についてのレポート発表を行う。

学習の目的　器楽研究A1＆A2の学習内容である基本的技術を表現能力の向上につなげることができる。初見テキストや簡単なピアノ作品を通して、教材レベルのピアノ初見視奏ができるようにする。学習指導要領に則した音楽科教育を行うための技能の獲得を目指す。

学習の到達目標
・基本的技術を表現能力の向上につなげることができる。
・初見テキストや簡単なピアノ作品を通して、教材レベルのピアノ初見視奏の能力を身につける。
・学習指導要領に則した音楽科教育を行うための技能を身につける。
・レポート作成・発表を通して、音楽史の見地からの理解を深める。

予め履修が望ましい科目　器楽研究A2

教科書
・ロマン派、近・現代の作品より学生の能力に応じて指定する。
・初見テキスト：教員が随時用意する。
・教員養成課程 小学校音楽科教育法（教育芸術社）
・中学校・高等学校教職課程 音楽科教育法（教育芸術社）

成績評価方法と基準　実技テスト60%、提出物20%、授業態度20%、合計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 初見試奏のコツ
第3回 ロマン派について
第4回 初見試奏とピアノ課題（楽曲構成の理解1）
第5回 初見試奏とピアノ課題（楽曲構成の理解2）
第6回 初見試奏とピアノ課題（ペダリングについて1）
第7回 初見試奏とピアノ課題（ペダリングについて2）
第8回 レポート発表（1）
第9回 ピアノ課題（表現について1）
第10回ピアノ課題（表現について2）
第11回 ピアノ課題（表現について3）
第12回 レポート発表（2）
第13回 ピアノ課題（定期試験に向けて1）
第14回 ピアノ課題（定期試験に向けて2）
第15回 定期試験に向けての試演会
定期試験
※個別指導のため、各個人の学習状況に応じて変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	66	器楽研究A3	1	前期　金 3, 4	小畑 真梨子(教育学部音楽教育コース)

授業の概要
ロマン派、近・現代のそれぞれから選択した2作品の実技指導を通して演奏表現能力の向上を目指す。
また、楽曲解釈を学び、表現の意図について考える。また、初見テキストや簡単なピアノ作品を通して、教材レベルのピアノ初見視奏の指導を行なう。更に、ロマン派についてのレポート発表を行う。

学習の目的　ピアノ演奏の基礎的能力・知識の習得し、初見試奏力を養う。

学習の到達目標
器楽研究A1＆A2の学習内容である基本的技術を表現能力の向上につなげることができる。初見テキストや簡単なピアノ作品を通して、教材レベルのピアノ初見視奏ができるようにする。学習指導要領に則した音楽科教育を行うための技能の獲得を目指す。
レポート作成・発表を通して、作曲家・楽曲への興味・理解を深める。

受講要件　器楽研究A2を履修済みであること

教科書
・チェルニー30番・40番練習曲集より学生の能力に応じて指定する。
・古典派作曲家のピアノ・ソナタより学生の能力に応じて指定する。
・『教員養成課程 小学校音楽科教育法』(教育芸術社)より歌唱教材伴奏より指定

成績評価方法と基準　実技試験50% 授業態度20% 出席20% 提出物10% 計100%

オフィスアワー
金曜日12：00～13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1：ガイダンス
2：エチュード(練習方法)と歌唱教材等のピアノ伴奏
3：古典派の作品(ソナタ形式について)
4：古典派の作品(ペダリングについて)
5：エチュード(運指)と歌唱教材等のピアノ伴奏
6：エチュード(テンポ設定)と歌唱教材等のピアノ伴奏
7：古典派の作品(表現1)
8：レポート発表(1)
9：古典派の作品(表現2)
10：エチュードと古典派の作品(まとめ1)
11：エチュードと古典派の作品(まとめ2)
12：レポート発表(2)
13：歌唱教材等のピアノ伴奏(まとめ)
14：試験課題全曲(まとめ)
15：定期試験に向けての試奏会
定期試験
※個別指導のため各個人の学習状況に応じて変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	66	器楽研究A4	1	後期　金 3, 4	兼重直文（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　近現代作品の実技指導を通して演奏表現能力の向上、更に、参考資料や文献に基づいた演奏解釈を通して演奏に反映する。また、日本歌曲、イタリア古典歌曲等を中心する声楽作品の伴奏の実技指導を行い、伴奏者の役割について考える。更に、近現代作品についてのレポート発表を行う。

学習の目的　選択した2作品を通して、理想的な表現能力を習得し、更に、参考資料や文献に基づいた演奏解釈の方法について学び、演奏に反映することができる。また、イタリア古典歌曲、日本歌曲等を中心とする声楽作品の伴奏ができるようにする。学習指導要領に則した音楽科教育を行うための技能の獲得を目指す。

学習の到達目標
・表現能力を向上させる。
・演奏解釈の力量を身につける。
・ピアノ伴奏への理解と能力を向上させる。
・レポート作成・発表を通して、音楽史の見地からの理解を深める。

予め履修が望ましい科目　器楽研究A3

教科書
・バロック、古典、ロマン派、近・現代の作品より学生の能力に応じて指定する。
・歌曲伴奏テキスト：学生の能力に応じて教員が随時指定する。
・中学校・高等学校教職課程 音楽科教育法（教育芸術社）

成績評価方法と基準　実技テスト60%、提出物20%、授業態度20%、合計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 近現代作品について
第3回 ピアノ課題（楽曲構成の理解1）
第4回 ピアノ課題（楽曲構成の理解2）
第5回 ピアノ課題（ペダリングについて1）
第6回 ピアノ課題（ペダリングについて2）
第7回 歌曲の伴奏について（1）
第8回 レポート発表（1）
第9回 ピアノ課題（表現について1）
第10回 ピアノ課題（表現について2）
第11回 ピアノ課題（表現について3）
第12回 レポート発表（2）
第13回 歌曲の伴奏について（2）
第14回 ピアノ課題（定期試験に向けて）
第15回 定期試験に向けての試演会
定期試験
※個別指導のため、各個人の学習状況に応じて変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	66	器楽研究A4	1	後期　金 3, 4	小畑 真梨子(教育学部音楽教育コース)

授業の概要
バロック、古典、ロマン、近・現代から選択した2作品の実技指導を通して演奏表現能力の向上、更に、参考資料や文献に基づいた演奏解釈を通して演奏に反映する。また、日本歌曲、イタリア古典歌曲、等を中心する声楽作品の伴奏の実技指導を行い、伴奏者の役割について考える。
更に近・現代の作曲家についてのレポート発表を行う。

学習の目的　ピアノ演奏の基礎的能力、知識を習得し、それを表現に反映させることができる。多くの作品の存在を知ることで、演奏表現の幅を広げることができる。

学習の到達目標
選択した2作品を通して、理想的な表現能力を習得し、更に、参考資料や文献に基づいた演奏解釈の方法について学び、演奏に反映することができる。また、イタリア古典歌曲、日本歌曲等を中心とする声楽作品の伴奏ができるようにする。学習指導要領に則した音楽科教育を行うための技能の獲得を目指す。
レポートの作成・発表を通して、作曲家・楽曲への興味・理解を深める。

受講要件　器楽研究A3を履修済みであること

教科書
能力に応じた課題を適宜使用する。
・歌曲伴奏テキスト
・『教員養成課程 小学校音楽科教育法』(教育芸術社)より歌唱教材伴奏より指定する

成績評価方法と基準　実技試験50% 授業態度20% 出席20% 提出物10% 計100%

オフィスアワー
金曜日12：00～13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1：ガイダンス
2：近現代作品について
3：ピアノ作品課題1(楽曲について)
4：ピアノ作品課題2(〃)
5：ピアノ作品課題3(指使いやペダルについて)
6：ピアノ作品課題4(〃)
7：歌曲の伴奏について①
8：レポート発表(1)
9：古典派の作品(表現2)
10：ピアノ作品課題
11：ピアノ作品課題
12：レポート発表(2)
13：歌曲の伴奏について②
14：試験課題全曲(まとめ)
15：定期試験に向けての試奏会
定期試験
※個別指導のため各個人の学習状況に応じて変更する場合がある

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	～65	器楽（伴奏法・合奏）1	1	前期　木 5, 6	小畑 真梨子（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　器楽合奏の基礎を学び、伴奏やアンサンブルを体験することにより、演奏表現をとおして、調和や協調の感性を養う。

学習の目的　器楽合奏の基礎を学び、実際に体験することにより、その活動を通して調和や協調の感性を養うことが出来る。

学習の到達目標　伴奏やアンサンブルの基礎を習得とともに、アンサンブルにより、テンポ、タイミング、ハーモニーなどを聴き合い、互いにアドバイスし合うことで調和や協調の感性を養い、共に音楽表現を工夫することができる。学習指導要領に則した音楽科教育を行うための技能の獲得を目指す。

教科書　能力に応じた課題を適宜使用する。

成績評価方法と基準　実技試験50% 授業態度20% 出席20% 提出物10% 計100%

オフィスアワー
金曜日12：00～13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1：ガイダンス
2：アンサンブル(1) (ピアノ連弾)
3：アンサンブル(2) (〃)
4：アンサンブル(3) (発表)
5：アンサンブル(1) (ピアノ以外の楽器と)
6：アンサンブル(2) (〃)
7：アンサンブル(3) (発表)
8：アンサンブル(1) (教育楽器等と)
9：アンサンブル(2) (〃)
10：アンサンブル(3) (発表)
11：編曲された作品について(1)
12：編曲された作品について(2)
13：編曲された作品について(3)
14：演奏発表(1)
15：演奏発表(2)
16：試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	66, 67	器楽研究B2	1	後期　火 9, 10	朝田 健（教育学部非常勤講師）

授業の概要
管楽器の基本的な演奏法を習得し、教員としての資質を高める。管楽器のための作品を演奏する。管楽器は息を使って音を出し、歌と異なり言葉がありません。音だけで、音楽を表現することを通して音楽を探求します。
呼吸法、楽器の持ち方、音の出し方、からはじめ、ロングトーン、スケール、タンギングなど基本奏法を習得し、ピアノとの合奏までを一年間で習得する。

学習の目的　管楽器の演奏技術の基礎を身につける。

学習の到達目標　管楽器の演奏技術基礎を身につけ、ピアノなど他の楽器とのアンサンブルが楽しむことができるようになる。他の演奏を注意深く聴きながらアンサンブルができる。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書　練習曲楽譜等は随時配布する。

成績評価方法と基準　普段の練習とその練習にうら付けされた演奏50%。期末試験50%。

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00(連絡窓口／兼重研究室)n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.～2.呼吸法、楽器の組み立て、アンブシュア,
3.～4.ロングトーン、タンギング、運指法、リップスラー、ハーモニクス
5.～7.音階。スラー、タンギングなど様々なアーティキュレーションによる音階練習
8.～9.簡単な練習曲(ハ長調、ヘ長調、ト長調など)
10.～11.ピアノ伴奏との合わせ(コンコーネ等)
12.～13.伴奏つき練習曲
14.～15.管楽器のための作品
受講生の進度に合わせて進める。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
指揮法	65	指揮法演習1	1	前期　金 1, 2	兼重直文

授業の概要　音楽現場での演奏・指導に必要な「指揮」の基本動作を学ぶ。

学習の目的　基本的な「指揮」のテクニックを身につけ、現場における音楽教材の「指揮」ができる能力を養う。

学習の到達目標　・指揮の基本動作ができるようになる。

教科書　学ぼう指揮法 Step by Step——わらべ歌からシンフォニーまで（山本訓久著／アルテスパブリッシング）

成績評価方法と基準　実技テスト50%、学習意欲25%、授業態度25%、計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．ガイダンス
2．指揮者の仕事
3．第1部基本編、指揮法テクニックの基本図形
4．姿勢と基本動作（単純拍子）
5．第2部実践編 ①基本動作・平均運動としゃくい（楽曲分析と表現）
6．指揮の実践 ②基本動作・叩き（発想記号への対応）
7．指揮の実践 ③基本動作・引っ掛け（予備拍の表現）
8．指揮の応用 ①複合拍子（テンポの変化）
9．指揮の応用 ②混合拍子（リズムへの対応）
10．指揮の応用 ③フェルマータ（左手の表情）
11．指揮の応用 ④拍の分割指揮法（変拍子に対応）
12．基本的な指揮法のまとめ
13．指揮をしながら指導する①
14．指揮をしながら指導する②
15．「指揮法演習1」を通じて学んだこと。1．ガイダンス

その他
教育実習に必要な内容であるため、3年次の学生は必ず履修のこと。
音楽教育コースの専攻生、および担当教員が必要と認めた学生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
指揮法	65	指揮法演習2	1	後期　金 9, 10	兼重直文

授業の概要　指揮法演習1の内容を発展する。具体的には音楽表現へとつながる指揮の技法を指導する。

学習の目的　指揮を学ぶことによって、楽譜を読む面白さを知り、指揮の技術だけでなく、楽譜から音楽を探る洞察力を高め、表現へとつながる指揮の技術を身につけることを目的とする。

学習の到達目標　指揮法演習1の内容を発展するという点から、更に「指揮」の能力を高めるとともに、指揮することによって総合的に音楽への理解力を高め、表現へとつながる指揮の技法を養うことができる。

受講要件　指揮法演習1が必ず履修済であること。

予め履修が望ましい科目　指揮法演習1

教科書　学ぼう指揮法 Step by Step――わらべ歌からシンフォニーまで（山本訓久著／アルテスパブリッシング）

成績評価方法と基準　実技テスト50%、学習意欲25%、授業態度25%、計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．ガイダンス
2．「指揮」をする上での楽譜の読み方についての概説①
3．「指揮」をする上での読み方についての概説②
4．指揮の実践／指揮をする上でのポイント解説①＜2台ピアノによる＞
5．指揮の実践／指揮をする上でのポイント解説②＜2台ピアノによる＞
6．指揮の実践／指揮をする上でのポイント解説③＜2台ピアノによる＞
7．指揮の実践／指揮をする上でのポイント解説④＜2台ピアノによる＞
8．指揮の実践／指揮をする上でのポイント解説⑤＜2台ピアノによる＞
9．指揮の実践／これまでのまとめ
10．指揮の実践／作品を通して指揮する①＜2台ピアノによる＞
11．指揮の実践／作品を通して指揮する②＜2台ピアノによる＞
12．指揮の実践／作品を通して指揮する③＜2台ピアノによる＞
13．指揮の実践／作品を通して指揮する④＜2台ピアノによる＞
14．指揮の実践／作品を通して指揮する⑤＜2台ピアノによる＞
15．まとめ ～“指揮法演習2”を通じて学び得たもの～

その他
2台ピアノによる演奏を指揮することが中心となる授業であるため、欠席者があると演奏が不可能となり、授業が成立しない可能性があるので、十分に注意のこと。
「指揮法演習2」を履修するためには「指揮法演習1」を履修しておくこと。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
作曲法	65	作曲法1	1	前期　月 9, 10	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　楽曲分析と作曲及び編曲を並行して行うことにより、音楽の組み立てられ方を論理的・客観的に考える力と音楽を内面から生み出し感じる力を養う。

学習の目的
音楽作品の分析方法を学び、それを実践することにより、音楽作品を対象として客体化する視点を得る。
与えられた条件下で作曲をすることにより、創作表現の可能性について考える力を身につける。

学習の到達目標　楽譜をさまざまな角度から読み解く能力を得る。

受講要件
和声法1を履修済みであること。
和声法2を履修済みであることが望ましい。

教科書
日本と世界の愛唱名歌集（野ばら社）
R・シューマン「子供の情景」
F・ショパン「マズルカ集」
シューマンとショパンの楽譜の出版社は問わない。

成績評価方法と基準　提出・発表作品によるが、出席状況や授業中の発言も重視し総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30～12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.楽式について
3.非和声音について
4.～6.「マズルカ集」の楽曲分析と童謡等の二部合唱曲への編曲を並行して行う
7.～14.「子供の情景」の楽曲分析と小規模な作品の作曲を並行して行う
15.作曲、編曲した作品を発表する

その他
講義初日は楽譜を持参しなくてもよい。
五線紙は各自が用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
作曲法	65	作曲法2	1	後期　月 9, 10	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　作曲法1の内容を発展させ、より大きな規模の作品の分析とソナタ形式による作曲を試みる。

学習の目的
音楽作品の分析方法を学びそれを実践することにより、音楽作品を対象として客体化する視点を得る。
与えられた条件下で作曲をすることにより、創作表現の可能性について考える力を身につける。

学習の到達目標　楽譜をさまざまな角度から読み解く能力を得る。

受講要件　作曲法1を履修済みであること。

教科書
J・S・バッハ「平均律クラヴィーア曲集第1巻」
L・v・ベートーヴェン「ピアノソナタ全集」
いずれも楽譜の出版社は問わない。

成績評価方法と基準　提出・発表作品によるが、出席状況や授業中の発言も重視し総合的に判断する。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30〜12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.〜5.童謡等を教育現場で扱う器楽アンサンブルに編曲する
6.〜11.ピアノソナタの楽曲分析及びソナタ形式によるピアノ曲の作曲
12.フーガの分析
13.歌曲の分析
14.フランス印象主義の音楽とドイツ表現主義の音楽について
15.ソナタ形式によるピアノ曲の提出とまとめ

その他
講義初日は楽譜を持参しなくてもよい。
五線紙は各自が用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽理論	66	和声法1	1	前期　月 5, 6	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　西洋音楽において最も基本的な理論体系である和声を学ぶことにより、調性音楽の文脈を理解する能力を養う。

学習の目的　西洋音楽の基本理論の習得。

学習の到達目標　実作品中の和音を読み解く力を得る。

受講要件
基礎的な楽典能力を持っていること。
ソルフェージュを履修済みであること。
ソルフェージュ演習を履修済みであることが望ましい。

教科書　和声 理論と実習 I（音楽之友社）

成績評価方法と基準　試験や出席状況によるが、授業中の発言等も重視し総合的に判断する。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30〜12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス 予備知識 基本位置3和音の配置
2.3.基本位置3和音の連結
4.5.和音設定の原理
6.7.各種の調
8.〜10.3和音の第1転回位置
11.〜13.3和音の第2転回位置
14.和音分析
15.試験（バス課題の実施）

その他　五線紙は各自が用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽理論	66	和声法2	1	後期　月 5, 6	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　和声法1での学習内容をさらに発展させていく。

学習の目的　西洋音楽の基本理論の習得。

学習の到達目標　実作品中の和音を読み解く力を得る。

受講要件
基礎的な楽典能力を持っていること。
和声法1を履修済みであること。

教科書
和声 理論と実習 I（音楽之友社）
和声 理論と実習 II（音楽之友社）
※和声 理論と実習 II は当方で用意する。

成績評価方法と基準　試験や出席状況によるが、授業中の発言等も重視し総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30〜12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.〜4.属七の和音
5.〜8.属九の和音
9.10. II 七の和音
11.12.準固有和音
13.ドッペルドミナンテとナポリの六の和音について
14.和音分析
15.試験（バス課題の実施）

その他　五線紙は各自が用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽理論	67	音楽療法概説	2	後期　火5, 6	根津知佳子

授業の概要　音楽の持つ「生理的・社会的・心理的作用」について学び、教育の隣接関連領域（医学・福祉・心理など）でどのような活動が展開できるかを学ぶ。

学習の目的
音楽に内在する機能に関する知識を得る。
音楽療法の定義と方法について多様なアプローチがあることを知る。

学習の到達目標
様々な対象者と活動するための形態を考えることができる。
その活動において、自分で考えて実践することができる。

受講要件　音楽専修生は必修。他のコースの学生が受講する場合は、音楽の実技能力は問わない。

教科書　資料を配付する。

成績評価方法と基準　理論学習、実践に関する計画、実施、省察を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00~13:00 根津研究室

学習内容
①音楽療法の定義
②音楽療法の歴史
③音楽療法と音楽教育1
④音楽療法と音楽教育2
⑤wellbeing
⑥同質の原理
⑦セッションの構造 1
⑧セッションの構造 2
⑨個人セッション目標
⑩個人セッションの方法と評価
⑪グループセッションの目標
⑬芸術プログラムでの実践 1
⑭芸術プログラムでの実践 2
⑮まとめ

その他　音楽専修生は必修。他のコースの学生が受講する場合は、音楽的な能力は問わない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽理論	66~	音楽療法演習	1	前期　火5, 6	根津知佳子

授業の概要　音楽を媒体として、他者とコミュニケーションをする体験を通して「音楽の持つ機能」を理解する。

学習の目的
音楽経験を通して、コミュニケーションの有効性を知る。
セッションの構造について、具体的に考えることができる。

学習の到達目標　様々な対象者とのセッションを組み立て、実践することができる。

受講要件　「音楽療法概説」を受講していることが望ましい。

予め履修が望ましい科目　「音楽療法概説」

教科書　資料・楽譜は、随時配付する。

成績評価方法と基準　理論学習、実践に関する計画、実施、省察を総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日12:00~13:00 根津研究室

学習内容
①受動的音楽療法 1
②受動的音楽療法 2
③能動的音楽療法 1
④能動的音楽療法 2
⑤セッションにおけるセラピストとクライエントの関係 1
⑥セッションにおけるセラピストとクライエントの関係 2
⑦グループセッションにおけるリーダーの役割 1
⑧グループセッションにおけるリーダーの役割 2
⑨グループセッションにおけるピアニストの役割
⑩〜⑫セッションの構成
⑬セッションの実施
⑭目標と評価
⑮まとめ

その他　原則として音楽療法概説を履修した学生を対象とする。音楽的な能力は問わない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽理論（コンピュータ）	65	マルチメディア・アート	2	後期　木5, 6	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要
音楽教育の現場における音楽とコンピュータの関わり方の可能性を探る。
ここでは一般的な楽譜浄書ソフトの一つであるFinaleを中心に扱う。

学習の目的　楽譜浄書ソフトを用いた合奏譜の制作ができるようになる。

学習の到達目標　Finaleを用いて簡単なアンサンブルのスコアを作成する。

受講要件
和声法1を履修済みであること。
作曲法1を履修済みであること。
和声法2を履修済みであることが望ましい。
月曜日9〜10時限の作曲法2を同時に履修していることが望ましい。
上記に該当しない学生は事前に相談すること。

教科書
Finale Note Pad 日本語版（音楽之友社）
テキストは当方が用意する。

成績評価方法と基準　課題制作と作品発表によるが、出席や授業での発言も重視し総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30〜12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.コンピュータ音楽の歴史
3.〜7.Finaleを用いた課題制作
8.〜13.Finaleを用いた作品の制作
14.教育現場における音楽とコンピュータの関わり方の可能性について
15.作品の発表とまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	65	声楽ゼミナール1	1	前期　月 5, 6	弓場徹（教育学部音楽科）
	64	声楽ゼミナール3	1		

授業の概要
卒業演奏に向けて、声楽の基礎・応用発声能力を高めるとともに発音や音楽の構成を学びよりレベルの高い歌唱力を養う。
個人レッスン形式で、基礎的歌唱発声能力を基に、歌詞の内容やフレーズ、ブレス位置、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的変化、といったことを卒業研究の候補となる歌曲(5曲程度)を通して実践的に歌唱表現法を学ぶ。自己を上手く表現するための10分間程度の卒業演奏用プログラムを作る。
声楽研究1〜4をさらにステップアップするための授業。

学習の到達目標　2オクターヴ程度の音楽的音域の確保と音量の調節および、より高度な曲の構成能力を身に付ける。

受講要件　基本的に音楽科の学生が対象

予め履修が望ましい科目　声楽ゼミナール1を履修する者は声楽研究1〜4、声楽ゼミナール2を履修する者は声楽ゼミナール1、声楽ゼミナール3を履修する者は声楽ゼミナール2

教科書
「奇跡のハイトーンボイストレーニング」弓場徹著、主婦の友社
曲目は、受講生のレベルなどに合わせて適宜指示する。

成績評価方法と基準　試験での歌唱能力、出席日数、受講態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス：卒業演奏のことを含めた授業概要。歌唱上の問題点とその改善方法を明確にする。
2.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を養いつつ、卒業演奏のための曲を中心にレッスンし、歌唱レベルの向上をはかる。
3.同上
4.同上
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.同上
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
15.受講生同士が伴奏し歌唱試験を行う。受講生同士の相互評価も行う。 自分に合う曲をいくつか厳選する

その他　卒業演奏時の伴奏者をできるだけレッスンに同伴すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	65	声楽ゼミナール1	1	前期　火 5, 6	弓場徹（教育学部音楽科）
	64	声楽ゼミナール3	1		

授業の概要
卒業演奏に向けて、声楽の基礎・応用発声能力を高めるとともに発音や音楽の構成を学びよりレベルの高い歌唱力を養う。
個人レッスン形式で、基礎的歌唱発声能力を基に、歌詞の内容やフレーズ、ブレス位置、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的変化、といったことを卒業研究の候補となる歌曲(5曲程度)を通して実践的に歌唱表現法を学ぶ。自己を上手く表現するための10分間程度の卒業演奏用プログラムを作る。
声楽研究1〜4をさらにステップアップするための授業。

学習の到達目標　2オクターヴ程度の音楽的音域の確保と音量の調節および、より高度な曲の構成能力を身に付ける。

受講要件　基本的に音楽科の学生が対象

予め履修が望ましい科目　声楽ゼミナール1を履修する者は声楽研究1〜4、声楽ゼミナール2を履修する者は声楽ゼミナール1、声楽ゼミナール3を履修する者は声楽ゼミナール2

教科書
「奇跡のハイトーンボイストレーニング」弓場徹著、主婦の友社
曲目は、受講生のレベルなどに合わせて適宜指示する。

成績評価方法と基準　試験での歌唱能力、出席日数、受講態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス：卒業演奏のことを含めた授業概要。歌唱上の問題点とその改善方法を明確にする。
2.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を養いつつ、卒業演奏のための曲を中心にレッスンし、歌唱レベルの向上をはかる。
3.同上
4.同上
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.同上
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
15.受講生同士が伴奏し歌唱試験を行う。受講生同士の相互評価も行う。 自分に合う曲をいくつか厳選する

その他　卒業演奏時の伴奏者をできるだけレッスンに同伴すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	65	声楽ゼミナール2	1	後期　月5, 6	弓場徹（教育学部音楽科）
	64	声楽ゼミナール4	1		

授業の概要
卒業演奏に向けて、声楽の基礎・応用発声能力を高めるとともに発音や音楽の構成を学びよりレベルの高い歌唱力を養う。
個人レッスン形式で、基礎的歌唱発声能力を基に、歌詞の内容やフレーズ、ブレス位置、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的変化、といったことを卒業研究の歌曲(3曲程度)を通して実践的に歌唱表現法を学ぶ。自己を上手く表現するための10分間程度の卒業演奏用プログラム完成する。
声楽ゼミナール1～3をさらにステップアップするための授業。

学習の到達目標　2オクターヴ程度の音楽的音域の確保と音量の調節および、より高度な曲の構成能力を身に付ける。

受講要件　基本的に音楽科の学生が対象

予め履修が望ましい科目　声楽ゼミナール1を履修するものは声楽研究1～4、声楽ゼミナール2を履修する者は声楽ゼミナール1、声楽ゼミナール3を履修するものは声楽ゼミナール2、声楽ゼミナール4を履修するものは声楽ゼミナール3

教科書
「奇跡のハイトーンボイストレーニング」弓場徹著、主婦の友社
曲目は、受講生のレベルなどに合わせて適宜指示する。

成績評価方法と基準　試験での歌唱能力、出席日数、受講態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス：卒業演奏のことを含めた授業概要。歌唱上の問題点とその改善方法を明確にする。
2.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を養いつつ、卒業演奏のための曲を
レッスンし、さらなる歌唱レベルの向上をはかる。
3.同上
4.同上
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.同上
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
15.歌唱試験を行う。

その他
必ず卒業演奏時の伴奏者をレッスンに同伴すること。
教育者になることを目的とした授業なので、常に受講生は相互に観察し合い、将来教授能力を身につけることを視野に授業に参加すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
声楽	65	声楽ゼミナール2	1	後期　火5, 6	弓場徹（教育学部音楽科）
	64	声楽ゼミナール4	1		

授業の概要
卒業演奏に向けて、声楽の基礎・応用発声能力を高めるとともに発音や音楽の構成を学びよりレベルの高い歌唱力を養う。
個人レッスン形式で、基礎的歌唱発声能力を基に、歌詞の内容やフレーズ、ブレス位置、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的変化、といったことを卒業研究の歌曲(3曲程度)を通して実践的に歌唱表現法を学ぶ。自己を上手く表現するための10分間程度の卒業演奏用プログラム完成する。
声楽ゼミナール1～3をさらにステップアップするための授業。

学習の到達目標　2オクターヴ程度の音楽的音域の確保と音量の調節および、より高度な曲の構成能力を身に付ける。

受講要件　基本的に音楽科の学生が対象

予め履修が望ましい科目　声楽ゼミナール1を履修するものは声楽研究1～4、声楽ゼミナール2を履修する者は声楽ゼミナール1、声楽ゼミナール3を履修するものは声楽ゼミナール2、声楽ゼミナール4を履修するものは声楽ゼミナール3

教科書
「奇跡のハイトーンボイストレーニング」弓場徹著、主婦の友社
曲目は、受講生のレベルなどに合わせて適宜指示する。

成績評価方法と基準　試験での歌唱能力、出席日数、受講態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス：卒業演奏のことを含めた授業概要。歌唱上の問題点とその改善方法を明確にする。
2.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を養いつつ、卒業演奏のための曲を
レッスンし、さらなる歌唱レベルの向上をはかる。
3.同上
4.同上
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.同上
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
15.歌唱試験を行う。

その他
必ず卒業演奏時の伴奏者をレッスンに同伴すること。
教育者になることを目的とした授業なので、常に受講生は相互に観察し合い、将来教授能力を身につけることを視野に授業に参加すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	65	器楽ゼミナール1	1	前期　金 5, 6	兼重直文（教育学部音楽教育コース）

授業の概要
バロック、古典、ロマン、近・現代より異なる2つのスタイルを選択し、これら2作品の実技指導を通して演奏表現能力の向上を目指す実技指導を行なう。また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、楽曲解釈を学び、表現の意図について考え、演奏に反映することができるように指導する。更に、選択課題についてのレポート発表を行う。
尚、卒業研究にピアノを選択しない学生はバロック、古典、ロマン、近・現代より1つのスタイルを選択のこと。

学習の目的　ピアノ奏法や演奏解釈に関する研究方法の習得を目標とする。具体的には、器楽研究A1〜4で学んだことを発展させ、各自が視点をもって、作品にアプローチし、演奏の完成度を高める。また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、器楽ゼミナール2につながる実践を行なう。

学習の到達目標
・表現能力を向上させる。
・楽曲理解の力量を身に付ける。
・レポート作成・発表を通して、音楽史の見地からの理解を深める。

受講要件　器楽研究A4を履修済であること。

予め履修が望ましい科目　器楽研究A4

教科書　学生の能力に応じて指定する。

成績評価方法と基準　実技テスト60%、提出物20%、授業態度20%、合計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 ピアノ課題（様式について1）
第3回 ピアノ課題（様式について2）
第4回 ピアノ課題（楽曲構成の理解1）
第5回 ピアノ課題（楽曲構成の理解2）
第6回 ピアノ課題（ペダリングについて）
第7回 ピアノ課題ピアノ課題（表現について1）
第8回 レポート発表（1）
第9回 ピアノ課題（表現について2）
第10回 ピアノ課題（参考資料や文献に基づいての考察1）
第11回 ピアノ課題（参考資料や文献に基づいての考察2）
第12回 レポート発表（2）
第13回 ピアノ課題（定期試験に向けて1）
第14回 ピアノ課題（定期試験に向けて2）
第15回 定期試験に向けての試演会
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	65	器楽ゼミナール1	1	前期　金 5, 6	小畑真梨子（教育学部音楽教育コース）

授業の概要
バロック、古典、ロマン、近・現代より異なる2つのスタイルを選択し、これら2作品の実技指導を
通して演奏表現能力の向上を目指す実技指導を行なう。また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、楽曲解釈を学び、表現の意図について考え、演奏に反映することができるように指導する。更に選択課題についてのレポート発表を行う。
尚、卒業研究にピアノを選択しない学生はバロック、古典、ロマン、近・現代より1つの時代の作品を選択のこと。

学習の目的　ピアノ作品を演奏・考察する上で必要な学習方法の習得ができる。

学習の到達目標
ピアノ奏法や演奏解釈に関する研究方法の習得を目標とする。具体的には、器楽研究A1〜4で学んだことを発展させ、各自が視点をもって、作品にアプローチし、演奏の完成度を高める。また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、器楽ゼミナール2につながる実践を行なう。
レポート作成・発表を通して作曲家・楽曲へ興味・理解を深める。

受講要件　器楽研究A4まで履修済であること。

教科書　学生の能力に応じて指定する。

成績評価方法と基準　実技試験50%、提出物10%、授業態度20%、出席20%、計100%。

オフィスアワー
金曜日12：00〜13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 ピアノ選択課題1（選択課題にみる様式について）
第3回 ピアノ選択課題1（楽曲構成の理解）
第4回 ピアノ選択課題1（ペダリングについて）
第5回 ピアノ選択課題1（表現について）
第6回 ピアノ選択課題2（選択課題様式にみるについて）
第7回 ピアノ選択課題2（楽曲構成の理解）
第8回 レポート発表①
第9回 ピアノ選択課題2（表現について）
第10回 ピアノ選択課題1（参考資料や文献に基づいての考察）
第11回 ピアノ選択課題2（参考資料や文献に基づいての考察）
第12回 レポート発表②
第13回 ピアノ選択課題1, 2（定期試験に向けて2）
第14回 まとめ
第15回 定期試験に向けての試演会
第16回 定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	65	器楽ゼミナール2	1	後期　金 5, 6	兼重直文（教育学部音楽教育コース）

授業の概要
バロック、古典、ロマン、近・現代より異なる2つのスタイルを選択し、これら2作品の実技指導を通して演奏表現能力の向上を目指す実技指導を行なう。また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、楽曲解釈を学び、表現の意図について考え、奏法上において発生した問題点の克服を伴いながら、演奏に反映することができるように指導する。更に、選択課題についてのレポート発表を行う。
尚、卒業研究にピアノを選択しない学生はバロック、古典、ロマン、近・現代より1つのスタイルを選択のこと。

学習の目的　器楽ゼミナール1で研究した内容を深め、更にピアノ奏法や演奏解釈に関する研究方法の習得を目標とする。具体的には、自らの視点で奏法や解釈についての課題を探るとともに、奏法上において発生した問題点の克服を含めて作品にアプローチし、演奏の完成度を高める。また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、実践を行なう。

学習の到達目標
・表現能力を身につける。
・レポート作成・発表を通して、音楽史の見地からの理解を深める。

受講要件　器楽ゼミナール1を履修済であること。

予め履修が望ましい科目　器楽ゼミナール1

教科書　各個人の能力に応じて決定する。

成績評価方法と基準　実技テスト60%、提出物20%、授業態度20%、合計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 ピアノ課題（様式について1）
第3回 ピアノ課題（様式について2）
第4回 ピアノ課題（楽曲構成の理解1）
第5回 ピアノ課題（楽曲構成の理解2）
第6回 ピアノ課題（ペダリングについて）
第7回 ピアノ課題ピアノ課題（表現について1）
第8回 レポート発表（1）
第9回 ピアノ課題（表現について2）
第10回 ピアノ課題（参考資料や文献に基づいての考察1）
第11回 ピアノ課題（参考資料や文献に基づいての考察2）
第12回 レポート発表（2）
第13回 ピアノ課題（定期試験に向けて1）
第14回 ピアノ課題（定期試験に向けて2）
第15回 定期試験に向けての試演会
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	65	器楽ゼミナール2	1	後期　金 5, 6	小畑 真梨子(教育学部音楽教育コース)

授業の概要
バロック、古典、ロマン、近・現代より異なる2つのスタイルを選択し、これら2作品の実技指導を通して演奏表現能力の向上を目指す実技指導を行なう。
また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、楽曲解釈を学び、表現の意図について考え、奏法上において発生した問題点の克服を伴いながら、演奏に反映することができるように指導する。更に、選択課題についてのレポート発表を行う。
尚、卒業研究にピアノを選択しない学生はバロック、古典、ロマン、近・現代より1つの時代を選択のこと。

学習の目的　ピアノ作品を演奏・考察する上で必要な学習方法の習得する。

学習の到達目標
器楽ゼミナール1で研究した内容を深め、更にピアノ奏法や演奏解釈に関する研究方法の習得を目標とする。具体的には、自らの視点で奏法や解釈についての課題を探るとともに、奏法上において発生した問題点の克服を含めて作品にアプローチし、演奏の完成度を高める。また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、実践を行なう。
レポートの作成・発表を通して、作曲家・楽曲への興味・理解を深める。

受講要件　器楽ゼミナール1が履修済みであること

教科書　能力に応じた課題を適宜使用する。

成績評価方法と基準　実技試験50% 授業態度20% 出席20% 提出物10% 計100%

オフィスアワー
金曜日12：00～13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 ピアノ選択課題1（選択課題にみる様式について）
第3回 ピアノ選択課題1（楽曲構成の理解）
第4回 ピアノ選択課題1（ペダリングについて）
第5回 ピアノ選択課題1（表現について）
第6回 ピアノ選択課題2（選択課題様式にみるについて）
第7回 ピアノ選択課題2（楽曲構成の理解）
第8回 レポート発表①
第9回 ピアノ選択課題2（表現について）
第10回 ピアノ選択課題1（参考資料や文献に基づいての考察）
第11回 ピアノ選択課題2（参考資料や文献に基づいての考察）
第12回 レポート発表②
第13回 ピアノ選択課題1, 2（定期試験に向けて2）
第14回 まとめ
第15回 定期試験に向けての試演会
第16回 定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	64	器楽ゼミナール3	1	前期　金 7, 8	兼重直文（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　器楽ゼミナール1, 2で学んだことを発展させ、各個人の能力、個性に応じた選択曲にアプローチする。実技指導を行なうとともに、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、器楽ゼミナール4につながる実践を行なう。

学習の目的　卒業研究を視野に入れ、自分にふさわしい作品に取り組むことによって、演奏表現能力をより高めることができる。

学習の到達目標　・表現能力を高める。

受講要件　器楽ゼミナール2を履修済であること。

予め履修が望ましい科目　器楽ゼミナール2

教科書　学生の能力に応じて指定する。

成績評価方法と基準　実技テスト60%、提出物20%、授業態度20%、合計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 課題の選曲について
第3回 歴史的考察と表現について
第4回 楽曲構成について
第5回 ペダリングについて
第6回 表現方法について
第7回 参考資料や文献に基づいての考察
第8回 各個人のピアノ奏法上の問題点について（技術的な面から）
第9回 各個人のピアノ奏法上の問題点について（表現の面から）
第10回 総合的観点からの指導（1）
第11回 総合的観点からの指導（2）
第12回 総合的観点からの指導（3）
第13回 総合的観点からの指導（4）
第14回 まとめ
第15回 試演会
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	64	器楽ゼミナール3	1	前期　金 7, 8	小畑 真梨子(教育学部音楽教育コース)

授業の概要　器楽ゼミナール1, 2で学んだことを発展させ、各個人の能力、個性に応じた選択曲にアプローチする。実技指導を行なうとともに、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察し、器楽ゼミナール4につながる実践を行なう。

学習の目的　ピアノ作品を演奏・考察する上で必要な学習方法の習得する。

学習の到達目標　卒業研究を視野に入れ、自分にふさわしい作品に取り組むことによって、演奏表現能力をより高めることができる。

受講要件　器楽ゼミナール1、2が履修済みであること

教科書　能力に応じた課題を適宜使用する。

成績評価方法と基準　実技試験50% 授業態度20% 出席20% 提出物10% 計100%

オフィスアワー
金曜日12：00～13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 器楽ゼミナール3の振り返り
第3回 新たな視点の模索
第4回 歴史的考察と表現について
第5回 楽曲構成について
第6回 ペダリングについて
第7回 表現方法について
第8回 参考資料や文献に基づいての考察
第9回 各個人のピアノ奏法上の問題点について（技術的な面から）
第10回 各個人のピアノ奏法上の問題点について（表現の面から）
第11回 総合的観点からの指導（1）
第12回 総合的観点からの指導（2）
第13回 総合的観点からの指導（3）
第14回 卒業試験に向けてのまとめ
第15回 試演会
第16回 定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	64	器楽ゼミナール4	1	後期　金 7, 8	兼重直文（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　器楽ゼミナール3で研究したことを継続・発展させるため、引き続き実技指導を行なうとともに、また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察する。そして、卒業演奏にふさわしい演奏となるように指導する。

学習の目的　卒業演奏を目標にさらに演奏の完成度を高めることができることを目的とする。

学習の到達目標　卒業研究としての演奏レベルに達すること。

受講要件　器楽ゼミナール3を履修済であること。

予め履修が望ましい科目　器楽ゼミナール3

教科書
・学生の能力に応じて指定する。
・卒業演奏の作品にかかわる文献等(指導教員が用意する)。

成績評価方法と基準　実技テスト60%、提出物20%、授業態度20%、合計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 器楽ゼミナール3の振り返り
第3回 新たな視点の模索
第4回 歴史的考察と表現について
第5回 楽曲構成について
第6回 ペダリングについて
第7回 表現方法について
第8回 参考資料や文献に基づいての考察
第9回 各個人のピアノ奏法上の問題点について（技術的な面から）
第10回 各個人のピアノ奏法上の問題点について（表現の面から）
第11回 総合的観点からの指導（1）
第12回 総合的観点からの指導（2）
第13回 総合的観点からの指導（3）
第14回 卒業試験に向けてのまとめ
第15回 試演会
卒業試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	64	器楽ゼミナール4	1	後期　金 7, 8	小畑 真梨子(教育学部音楽教育コース)

授業の概要　器楽ゼミナール3で研究したことを継続・発展させるため、引き続き実技指導を行なうとともに、また、参考資料や文献に基づき、ピアノ奏法や演奏解釈について考察する。そして、卒業演奏にふさわしい演奏となるように指導する。

学習の目的　ピアノ作品を演奏・考察する上で必要な学習方法の習得する。

学習の到達目標　卒業演奏を目標にさらに演奏の完成度を高めることができる。

受講要件　器楽ゼミナール3までが履修済みであること

教科書　能力に応じた課題を適宜使用する。

成績評価方法と基準　実技試験50% 授業態度20% 出席20% 提出物10% 計100%

オフィスアワー
金曜日12：00～13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 器楽ゼミナール3の振り返り
第3回 新たな視点の模索
第4回 歴史的考察と表現について
第5回 楽曲構成について
第6回 ペダリングについて
第7回 表現方法について
第8回 参考資料や文献に基づいての考察
第9回 各個人のピアノ奏法上の問題点について（技術的な面から）
第10回 各個人のピアノ奏法上の問題点について（表現の面から）
第11回 総合的観点からの指導（1）
第12回 総合的観点からの指導（2）
第13回 総合的観点からの指導（3）
第14回 卒業試験に向けてのまとめ
第15回 試演会
第16回 定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
作曲法	65～64	作曲ゼミナール1	1	前期　木 9, 10	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　和声学と共に、西洋音楽において最も重要な音楽理論の根幹である対位法を学ぶことによって、作曲技法の歴史の変遷を俯瞰することを試みる。

学習の目的　高度な作曲理論の習得。

学習の到達目標　西洋音楽に対するより深い洞察力。

受講要件　和声法1・2を履修済みであること。

教科書　池内友次郎 著 二声対位法（音楽之友社）

成績評価方法と基準　与えられた課題の実施内容を重視する。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30～12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス 予備知識
2.～5.二分音符対旋律
6.～9.四分音符対旋律
10.～13.移勢対旋律
14.対位法的楽曲の歴史
15.課題提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
作曲法	65～64	作曲ゼミナール2	1	後期　木 9, 10	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　作曲ゼミナール1で学んだことを発展させ、インヴェンションやカノン等の対位法的楽曲を創作する。

学習の目的　高度な作曲理論の習得。

学習の到達目標　西洋音楽に対するより深い洞察力。

受講要件　作曲ゼミナール1を履修済みであること。

教科書
池内友次郎 著 二声対位法（音楽之友社）
尾高惇忠 作曲 こどものためのピアノ曲集「童話の国」（音楽之友社）

成績評価方法と基準　作品の内容を重視する。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30～12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.～5.華麗対位法
6.～9.8小節～16小節のカノンの作曲
10.～14.対位法的手法による簡単なピアノ曲の作曲
15.作品提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
作曲法	64	作曲ゼミナール3	1	前期　木 9, 10	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　非和声音と転調を含む和声課題を実施することにより、調性音楽をより深く理解する。

学習の目的　高度な作曲理論の習得。

学習の到達目標　西洋音楽に対するより深い洞察力。

受講要件　作曲ゼミナール1・2を履修済みであること。

教科書　随時指示する。

成績評価方法と基準　与えられた課題の実施内容による。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30～12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.～10.非和声音と転調を含むバス課題の実施
11.～14.ソプラノ課題の実施
15.課題提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
作曲法	64	作曲ゼミナール4	1	後期　木 9, 10	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　音楽作品を創作する。

学習の目的　「作曲」という行為を通し自分自身を再発見する試み。

学習の到達目標　理論を踏襲することを目的とするのではなく、自分自身を表現するときに如何にそれらを乗り越えていくかを学ぶ。

受講要件　作曲ゼミナール1～3を履修済みであること。

教科書　随時指示する。

成績評価方法と基準　作品の内容による。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30～12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.～14.受講者自身がテーマを設定し作曲する
15.作品の提出とまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する専門科目・音楽	～61	小学校専門音楽a	1	前期　火 1, 2	弓場 徹
	62	小学校専門音楽Ⅰa	1		
	63～66	小学校専門音楽A	2		

授業の概要　音楽の基礎知識及び弾き歌いの実践力を養うことを中心とする授業。

学習の目的　音声障害や腱鞘炎にならないための合理的な歌唱法・鍵盤奏法を学ぶ。

学習の到達目標　声とピアノの音量バランスをとり、メリハリを付けて弾き歌いができるようにする。

教科書　こちらで準備する。

成績評価方法と基準　出席状況、授業態度等を考慮し総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス、半期の授業全体や下記のことについて行う
・Vocalization(V)＝基礎発声：裏声と表声(地声)のコンセプトの明確化と発声
・Sing a song(S)=曲目や学習内容の説明
・Play the Piano(P)：音符と鍵盤の関係を学ぶ。前腕手指の使い方。
・Sing and accompany yourself on the piano(S&AonP)＝弾唱の説明
2.V：姿勢など＋裏声と表声を分けて発声
・S：楽曲と関連した簡単な楽典を学ぶ
・P：ローテーション(小指軸)
弾唱のための自習時間(教員が練習室を巡回し、アドバイスを行う)
・S：簡単な楽典
3.基礎発声トレーニング及び楽曲を用いた歌唱法と鍵盤奏法
4.同上
5.同上
6.同上
7.同上
8.同上
9.同上
10.同上
11.同上
12.同上
13.同上
14.同上
15.試験を行う。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・音楽	66〜64	小学校専門音楽A	2	前期　水 1, 2	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）
	62	小学校専門音楽Ｉａ	1		

授業の概要　種々のリズムゲームから様々なリズムパターンを体験していくとともに、基本的な楽典について学ぶ。また、ピアノによる弾き歌いをすることにより、ピアノ伴奏と歌唱の技術を習得していく。

学習の目的　小学校における音楽教育活動に必要な基礎能力と知識を習得する。

学習の到達目標
小学校共通教材をピアノで弾き歌いする。
「音楽」を体験する喜び。

教科書　教員養成課程 小学校音楽科教育法（教育芸術社）

成績評価方法と基準　実技試験、筆記試験、グループ発表と出席状況により評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30〜12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.楽典・リズム打ち①
3.楽典・リズム打ち②
4.楽典・リズム打ち③
5.楽典・リズムゲーム・創作リズム
6.鍵盤ハーモニカやピアノでト音記号による楽譜を演奏する
7.鍵盤ハーモニカやピアノでヘ音記号による楽譜を演奏する
8.大譜表による楽譜を演奏する
9.小学校歌唱教材の簡易伴奏版をピアノで弾き歌いする
10.小学校で用いられる主な打楽器の紹介と演奏法
11.グループ発表に向けて①
12.グループ発表に向けて②
13.楽典試験
14.リズム打ちとピアノによる弾き歌いの試験
15.グループ発表とまとめ

その他　人数制限あり（20〜25人まで）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目音楽	63	小学校専門音楽Ｉａ	1	後期　月 1, 2	兼重直文
	64, 65, 66	小学校専門音楽A	2		
	61期以前	小学校専門音楽a	1		

授業の概要　小学校の音楽の授業を担当するに必要な基礎的な能力としての実技(ピアノを含む)、弾き歌い、指揮法、および指導・授業研究に必要な楽典、ソルフェージュなどの基礎知識・能力の習得を目的とする。

学習の目的　基本的なピアノ演奏、弾き歌い、指揮法、ソルフェージュ能力を習得するとともに、楽典などの基礎知識を獲得し、音楽活動の楽しさを理解できるようになる。

学習の到達目標　ピアノ実技や弾き歌い、指揮ができるとともに、楽典やソルフェージュ能力の習得によって読譜力を高める。

教科書　教員養成課程小学校音楽科教育法：教育芸術社

成績評価方法と基準　実技試験50%、筆記試験30%、授業態度20%、計100%。

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00 兼重研究室

学習内容
1.授業計画の概略と基礎知識テスト
2.楽典 1
3.楽典 2
4.ソルフェージュ 1
5.ソルフェージュ 2
6.実技 1（指揮をしながら歌唱教材を歌ってみよう）
7.実技 2（歌唱教材を分析してみよう）
8.実技 3（弾き歌いの練習方法を考える）
9.実技 4（右手のメロディーを弾きながら歌ってみよう）
10.実技 5（左手の伴奏を弾きながら歌ってみよう）
11.実技 6（両手で弾き歌いをしてみよう）
12.実技 7（弾き歌い個人指導）
13.実技 8（弾き歌い個人指導）
14.実技 9（リコーダー）
15.まとめ
定期試験

その他
ピアノ実技や弾き歌いの能力の獲得には、継続した練習が必要であるため、計画性をもって日々個人練習に励むこと。
受講人数は20名程度とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・音楽	64〜66	小学校専門音楽A	2	後期　木 9, 10	小畑 真梨子(教育学部音楽教育コース)

授業の概要　小学校での子供たちへの音楽教育において、必要とされる基礎的な能力(ピアノ演奏、初見試奏、リズム打ち、楽器の名称)の習得を目指す。また、グループでの音楽活動の中で音楽教育に必要なコミュニケーション能力も養う。

学習の目的
グループによる音楽活動をすることで、様々な視点から音楽教育について考えることができるようになる。
ピアノだけでなく小学校音楽教育の中で必要とされる楽器(リコーダー・鍵盤ハーモニカ等)の知識を学ぶことにより、専科の作品の考察の幅が広がる。

学習の到達目標　グループ活動の中で個々に感じた楽曲の理解を話し合うことができ、教育で使用される楽器によるともにアンサンブルをする重要性を学び、音楽によるコミュニケーションの大切さを感じることが出来る。

教科書　能力に応じた課題を適宜使用する。

成績評価方法と基準　実技試験50% 授業態度20% 出席20% 提出物10% 計100%

オフィスアワー
金曜日12：00〜13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1：ガイダンス
2：実技への導入
3：実技①(リズム学習)
4：実技②(打楽器)
5：小学校歌唱教材の視唱実技①
6：小学校歌唱教材の視唱実技②
7：鍵盤ハーモニカ実技①
8：鍵盤ハーモニカ実技②
9：リコーダー実技①
10：リコーダー実技②(小学校使用教材)
11：音楽理論基礎(1)
12：音楽理論基礎(2)
13：ピアノで弾き歌い
14：ピアノで弾き歌い
15：まとめとテスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・音楽	66	小学校専門音楽B	2	前期　木 5, 6	森川 孝太朗（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　ピアノやギターを用いて移調奏やコード奏をすることにより、実技の面において、西洋音楽の調体系を理解する。また、学校現場で扱われる打楽器や鍵盤ハーモニカ等を用いた合奏の可能性を探る。

学習の目的　小・中学校の音楽教育現場で求められる音楽的知識と技術の習得。

学習の到達目標　理論と実技の一致。

受講要件　受講は音楽教育コースの専攻生に限る。

予め履修が望ましい科目　ソルフェージュ及びソルフェージュ演習。

教科書
教員養成課程 小学校音楽科教育法（教育芸術社）
日本と世界の愛唱名歌集（野ばら社）

成績評価方法と基準　実技試験、筆記試験、グループ発表と出席状況により評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10:30〜12:30 場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.楽典①拍子とリズムについて
3.楽典②調性と各種音階について
4.移調と移旋①及び鍵盤ハーモニカの演奏①
5.移調と移旋②及び鍵盤ハーモニカの演奏②
6.教育現場で用いられる打楽器について①
7.教育現場で用いられる打楽器について②
8.各種リコーダーの演奏法と合奏①
9.各種リコーダーの演奏法と合奏②
10.コードネームについて
11.ピアノによるコード奏①
12.ピアノによるコード奏②
13.ギターについて及びギターによるコード奏①
14.ギターによるコード奏②
15.作曲的見地による学校教育における音楽教材の可能性について

その他　音楽教育コースの専攻生は小学校専門音楽Aではなく小学校専門音楽Bを受講すること。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 音楽	64〜66	小学校専門音楽A	2	前期　木 9, 10	川村 有美（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　小学校音楽科における表現・鑑賞領域の教育内容について理解を深めることをねらいとしている。さまざまな音楽教材の学習を通して、音楽の楽しさを体験しつつ、教育内容への理解を深めていく。また、楽器の演奏法や音楽に関する基礎的知識についても学ぶ。さらに、音楽授業を行う上で必要とされるピアノの弾き歌いの力を身につけることも、この授業のねらいである。

学習の目的　小学校音楽科における表現・鑑賞領域の教育内容への理解，楽器の演奏法及び音楽に関する基礎的知識の獲得。

学習の到達目標　小学校音楽科における表現・鑑賞領域の教育内容への理解，楽器の演奏法及び音楽に関する基礎的知識の獲得。

教科書　音楽の授業づくり研究会編『新・音楽の授業づくり』教育芸術社

成績評価方法と基準　平常点（50点）、期末試験（50点）

オフィスアワー　毎週木曜日13：00〜14：00、場所：川村研究室

学習内容
1.「ソプラノリコーダーに挑戦1」 リコーダー教材曲の演奏や指導のポイントを学ぶ。
2.「ソプラノリコーダーに挑戦2」 同上
3.「リズムで遊ぶ1」 小学校音楽科の授業で使えるさまざまなリズムを学ぶ。
4.「リズムで遊ぶ2」 ボディーパーカッションに挑戦する。
5.「合奏を楽しもう」 簡単な合奏と教育楽器の奏法について学ぶ。
6.「音楽を聴いてみよう」 鑑賞教材として使える楽曲の鑑賞と指導のポイントを学ぶ。
7.「手作り楽器に挑戦」 紙でつくる手作り楽器を体験する。
8.「ピアノ伴奏に挑戦1」 小学校の歌唱共通教材曲の伴奏に挑戦する。
9.「ピアノ伴奏に挑戦2」 小学校の歌唱共通教材曲の伴奏に挑戦する。
10.「弾き歌いに挑戦1」小学校の歌唱共通教材曲の弾き歌いに挑戦する。
11.「弾き歌いに挑戦2」小学校の歌唱共通教材曲の弾き歌いに挑戦する。
12.「音楽の理論をマスターしよう1」 基礎的な楽典的事項について学ぶ。
13.「音楽の理論をマスターしよう2」 基礎的な楽典的事項について学ぶ。
14.「テスト1」ピアノによる弾き歌いのテストを行う。
15.「テスト2」ソプラノリコーダーのテストを行う。
16.学期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
器楽	66	器楽研究（日本音楽）	1	後期集中	丸田 美紀（教育学部非常勤講師）

授業の概要
日本の伝統音楽（箏曲）の歴史を学び、古典箏曲・六段を通して、構造と日本音楽文化の精神、美学を体感する。
そこから普段勉強している洋楽との箏とのかかわりを、五線譜を実際に使用したり、音遊びをしていく中でもっと身近に結びつける。
そして伝統のみならず楽器としての箏の自在性を感じてもらい、想像力を高め、表現力を認識してもらいたい。

学習の目的　見聞きするだけの知識ではなく、実際に音に触れ、音を感じることによる様々な気付き、変化を知ることで、日本音楽への知識を深めることができ、表現の幅を広げていく。

学習の到達目標　自分の耳で調律することにより聴覚を開発し、耳と指を使って音を作っていく感覚を体験、そして日本の音を体で実感した経験は、彼らが実際に教育の現場に立つ時、必ず活かすことが出来る。

受講要件　「器楽研究（日本音楽）」を履修するためには「器楽研究1（ピアノ）」を履修しておくこと。

教科書　「六段の調べ」（八橋検校） その他箏曲楽譜

成績評価方法と基準
出席・参加態度・・60%（集中講義であり実技演習が最も時間を費やすため、創作等の時間もふくむ）
発表 20% トークディスカッション（レポート含む） 20% 計100%

オフィスアワー　毎週木曜日13：00〜14：00、場所：川村研究室（連絡窓口・要予約）

学習内容
準備〜 爪の作成。楽器の説明、楽器の準備から始める。 音作りの第一歩、箏柱のセッティングから体験する。
演習曲
「六段の調べ」全曲 六段を通して日本音楽の構造と文化、精神美学を体感する。
「花筏」 少しだけ習得したテクニックで楽しんで箏の曲を弾く。
「あいびき」 箏歌の実習。箏と歌は日本の音楽には密接である。歌に挑戦し、可能であるならば弾き歌いに挑戦してもらう。
「バッハ インベンション」等 学生に身近な五線譜の音楽を使用。通常勉強している洋楽とのかかわりを箏を通して、より身近に感じさせる。
「音遊び」・「即興」 これまでに出てきた五音階が主体の日本音楽「平調子」を使い、短いフレーズをそれぞれが創作し、音の伝言遊び。そこから「平調子」であれば異なる音型パターンを弾いても全体として音楽になることを体感する。〜五音階の調和の認識。
「創作曲」 グループ分けし、メンバーが協力して箏を使って、作曲することにより、想像力を喚起させ 能動的な音楽の勉強をしてもらう。
講座内容
楽器を各自で調弦する。耳を使って箏柱を自分で動かすことで音を作ることを実感する。
糸に体や手をなじませるために楽曲に入る前に、指の練習をいろんな音型パターンを使用して繰り返しておこなう。
慣れるまでに時間が要するので、グループ分けをしてリズム遊びなど取り入れることで練習を長続きさせる。
あとは少しずつ、六段から上記の演習曲をすすめ、またそれぞれの気付き、驚きを導き出し、討論もおりまぜながらすすめる。
演習曲のすすみ具合で音遊び、創作曲へよ順をおっていく。
最後には 六段を録音し 創作曲の発表。 トークディスカッションでこの集中講義から学んだこと、変化などを話して、楽器を片付け、講座終了。レポート提出。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽史	67	音楽史1（日本・諸民族の音楽）	2	前期　火3, 4	小沢優子（教育学部非常勤講師）

授業の概要　日本を含む諸民族の伝統音楽について概説する。前半では日本の音楽、後半では主にアジアの国々の音楽を扱う。

学習の目的　日本やアジア等の音楽を学ぶことによって、音楽を広い視野の中で把握することができるようになる。

学習の到達目標　音楽を通して日本や諸民族の文化や社会を理解する。

教科書　教科書は用いない。プリントを配布する。

成績評価方法と基準　テスト60%、出席状況と授業態度40%

オフィスアワー
火曜日12：00〜13：00 要予約
連絡・窓口 根津知佳子（c-nezu@edu.mie-u.ac.jp）

学習内容
①音楽の多様性、民族音楽学について
②〜⑧日本の伝統音楽（雅楽、能と狂言、浄瑠璃、長唄、地歌と箏曲、尺八音楽など）
⑨〜⑮諸民族の音楽（東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアなどの音楽）
⑯テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽史		音楽史2	2	後期　火3, 4	小沢優子（教育学部非常勤講師）

授業の概要　西洋の芸術音楽が何百年にも渡る歴史の中でどのような変遷をとげ現代に至っているのかを概説する。

学習の目的　それぞれの時代における音楽様式、作曲法、楽曲ジャンル、作曲家、社会的背景を知ることによって西洋の芸術音楽の特色を理解することができる。

学習の到達目標　西洋音楽の歴史を概観することによって、音楽の豊かさや価値を認識する。

教科書　教科書は用いない。プリントを配布する。

成績評価方法と基準　テスト60%、出席状況と授業態度40

オフィスアワー
火曜日12：00〜13：00 要予約
連絡・窓口 根津知佳子（c-nezu@edu.mie-u.ac.jp）

学習内容
①西洋音楽史を学ぶことの意義、西洋音楽史における時代区分
②③中世の音楽
④⑤ルネサンスの音楽
⑥〜⑧バロックの音楽
⑨⑩古典派の音楽
⑪〜⑬ロマン派の音楽
⑭⑮20世紀の音楽
⑯テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
器楽	66〜67期生	器楽研究B1	1	前期　火7, 8	日置 美知代（教育学部非常勤講師）

授業の概要
教育楽器として取り上げられていながらも現場に存在するリコーダーへの誤った認識を払拭し、リコーダーを通して音楽を表現することの楽しさを体感し、感動をもって伝えられる教師となれるよう演奏に習熟する。
リコーダーの歴史や、教育楽器として取り上げられた背景を知り基礎的な演奏技術を習得する。
リコーダーのためのオリジナル曲・リコーダーのために編曲された曲・アンサンブル曲・独奏曲など多様な曲を演奏してリコーダーの可能性を探る。
音楽科はplayする科目である。また教師個人の力量が児童生徒に如実に反映されてしまう科目であり、ペーパーで評価される科目とは異なる点も多い。それらを、現場を体験した教師から学び、併せて児童生徒の可能性の高さにも気づき、教師としての力量を高める。

学習の目的　本物のリコーダーの響きを知り、リコーダーの基礎的な奏法をマスターすることできる。

学習の到達目標
リコーダーの基礎的な演奏技術を身につけ、アンサンブルでも楽しむことができるようになる。
他者の演奏を注意深く聴きながら、まとまったアンサンブルができるようになる。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特になし

教科書　練習曲楽譜等は随時配布する。

成績評価方法と基準　普段の練習とその練習に裏付けされた演奏50%。期末試験50%（実技と筆記）

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00(連絡窓口／兼重研究室)n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.リコーダーの歴史、構造などの基礎知識。呼吸法。簡単な音出し。
2.導入時の工夫と簡単な重奏
3.〜5 ソプラノリコーダーを使った作品
6.〜7.アルトリコーダーの運指練習とアルトリコーダーを使った簡単な練習曲や作品
8.〜9.アルトリコーダーとソプラノリコーダーを使ったアンサンブル作品
10.〜11.ナーリコーダーとバスリコーダーにも触れアンサンブルの巾の広さに気づく。4種類のリコーダーを用いた練習曲
12.〜15.3〜4種類のリコーダーを用いたアンサンブル曲

その他　自分のソプラノリコーダーとアルトリコーダーを持参すること（持っていない場合は貸与する）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・音楽	64〜66	小学校専門音楽A	2	前期　木 7, 8	高瀬瑛子（三重大学教育学部非常勤講師）

授業の概要　音楽活動への理解を深め、小学校の音楽教育で必要とされる基礎的な能力としての実技（ピアノを含む）、楽典、弾き歌いなどの習得を目標とする。

学習の目的　グループの音楽活動をとおして、音楽の基礎的実技能力を習得する。

学習の到達目標　楽譜を読み、リズム楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、ピアノ、歌などでアンサンブルし、平易な歌唱教材の弾き歌いが出来る。

教科書
2011年改訂版
教員養成課程「小学校音楽科教育法」（教育芸術社）

成績評価方法と基準　出席（3分の2以上）・授業態度、グループ発表および筆記試験、実技試験により評価する。

オフィスアワー
毎週金曜日12：00〜13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.ガイダンス（アンケート記入等）
2.拍子とリズム（音楽に合わせて動く）
3.リズム活動 1（リコーダー、鍵盤ハーモニカや打楽器に慣れる）
4.リズム活動 2（リコーダー、鍵盤ハーモニカや打楽器でアンサンブル）
5 .旋律を歌おう（ト音記号・ヘ音記号を読む）
6.旋律を合わせて歌おう（アンサンブル体験・発表）
7.実技1（音階について）
8.実技2（和音について）
9.ピアノ実技3（右手・左手を分けた練習）
10.ピアノ実技4（歌唱教材に取り組む）
11.楽典(1)音階と音程
12.楽典(2)和音と和声
13.ピアノで伴奏（簡易伴奏を含む）
14.ピアノで弾き歌い（歌唱を含む）
15.まとめ
16.定期試験

その他　人数制限あり。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・音楽	64〜66	小学校専門音楽A	2	後期　木 1, 2	高瀬瑛子（三重大学教育学部非常勤講師）

授業の概要　音楽活動への理解を深め、小学校の音楽教育で必要とされる基礎的な能力としての実技（ピアノを含む）、楽典、弾き歌いなどの習得を目標とする。

学習の目的　グループの音楽活動をとおして、音楽の基礎的実技能力を習得する。

学習の到達目標　楽譜を読み、リズム楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、ピアノ、歌などでアンサンブルし、平易な歌唱教材の弾き歌いが出来る。

教科書
2011年改訂版
教員養成課程「小学校音楽科教育法」（教育芸術社）

成績評価方法と基準　出席（3分の2以上）・授業態度、グループ発表および筆記試験、実技試験により評価する。

オフィスアワー
毎週金曜日12：00〜13：00
場所/小畑研究室 obata@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.ガイダンス（アンケート記入等）
2.拍子とリズム（音楽に合わせて動く）
3.リズム活動 1（リコーダー、鍵盤ハーモニカや打楽器に慣れる）
4.リズム活動 2（リコーダー、鍵盤ハーモニカや打楽器でアンサンブル）
5 .旋律を歌おう（ト音記号・ヘ音記号を読む）
6.旋律を合わせて歌おう（アンサンブル体験・発表）
7.実技1（音階について）
8.実技2（和音について）
9.ピアノ実技3（右手・左手を分けた練習）
10.ピアノ実技4（歌唱教材に取り組む）
11.楽典(1)音階と音程
12.楽典(2)和音と和声
13.ピアノで伴奏（簡易伴奏を含む）
14.ピアノで弾き歌い（歌唱を含む）
15.まとめ
16.定期試験

その他　人数制限あり。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
絵画		絵画 I	2	通年　火 7, 8	関 俊一

授業の概要
前期は絵画の基本要素である素描を主体に対象を観察する目を養い、デッサン力を身につける。
後期は色彩の理解を深めるとともに絵の具の特徴と彩色について研究、演習を行う。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につけることを目的とする。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得を目的とする。
※教員免許および、図画工作、美術の授業展開に必要な、知識技能を身に付ける。

学習の到達目標
単に、小学校、中学校、高校での図画工作、美術科目に関する実技的能力や知識の習得を目的とするのではなく、芸術の本来の役割である人間の総合的知識を経験的に理解していきます。さまざまな科目につながっていく学際的視野を持った、美術教育に関わる指導のできる基礎を身に付ける。
作家や、デザイナーを志望する学生にとって、必要とされる実技技能や知識について、現場で活用でき、現場で経験修得をするために必要な基礎的経験と知識を習得する。

教科書　なし

成績評価方法と基準　課題作品 50% 技術習得度 50%

オフィスアワー　毎週月曜日15：00〜16:00

学習内容
前期
第1回：ガイダンス
第2回：素描について
第3回：素描実習⑴鉛筆デッサン①ブロック
第4回：②貝
第5回：③牛骨
第6回：④物を持つ手
第7回：素描実習⑵クロッキー ①友人を描く（立ちポーズ•鉛筆）
第8回：②友人を描く（座りポーズ•鉛筆）
第9回：③友人を描く（立ちポーズ•マーカー）
第10回：④友人を描く（座りポーズ•マーカー）
第11回：素描実習⑶石膏木炭デッサン①形
第12回：②調子
第13回：③印象の確認
第14回：④細部の描き込み
第15回：講評会
後期
第16回：透明水彩①木の葉を描く
第17回：②野菜を描く
第18回：③果物を描く
第19回：④花を描く
第20回：パースの理解①瓶の着彩
第21回：②建造物のスケッチ
第22回：③建造物のある風景着彩
第23回：博物画⑴植物のペン画
第24回：⑵魚を描く①線的要素の抽出
第25回：②着彩と描写
第26回：講評会
第27回：不透明水彩（アクリルガッシュ）動物を描く①エスキースと下絵
第28回：②彩色
第29回：③細部の表現
大30回：講評会

その他　実習で使用する消耗品は，履修者が事前に準備する。課題により教材費が必要になる場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
絵画		絵画 II	2	通年　火 3, 4	関 俊一

授業の概要
絵画における制作プロセスや表現のバリエーションについて考察、実習する。
前期は映像メディア表現を用いた絵画技法（グリザイユ）の研究。後期はテクスチュアを利用した画面作りを学び「痕跡」をテーマにアクリルメディウムによる素材演習と制作を行う。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につける。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得する。
※教員免許および、図画工作、美術の授業展開に必要な、知識技能を身に付ける。

学習の到達目標
単に、小学校、中学校、高校での図画工作、美術科目に関する実技的能力や知識の習得を目的とするのではなく、芸術の本来の役割である人間の総合的知識を経験的に理解する。さまざまな科目につながっていく学際的視野を持った、美術教育に関わる指導のできる基礎を身に付ける。
作家や、デザイナーを志望する学生にとって、必要とされる実技技能や知識について、現場で活用でき、現場で経験修得をするために必要な基礎的経験と知識を習得する。

予め履修が望ましい科目
絵画 I

教科書　適宜プリントを配布する

成績評価方法と基準　課題作品 30% 技術修得度 40% 創意工夫 30%

オフィスアワー　毎週月曜日15：00〜16:00

学習内容
前期
第1回：ガイダンス
第2回：西洋古典絵画技法（グリザイユ）について
第3回：制作⑴モチーフの撮影と資料制作
第4回：⑵下地制作
第5回：⑶トレース
第6回：⑷モノトーンによる配色①グレースケール
第7回：②全体感を考慮した配色
第8回：③明部の表現
第9回：④細部の配色
第10回：⑶有彩色によるグレーズ①イエローオーカー
第11回：②クリムソンレーキ
第12回：③ウルトラマリン
第13回：④暗部の塗り重ね
第14回：⑤細部の表現と仕上げ
第15回：講評会
後期
第16回：ガイダンス
第17回：取材⑴自然物
第18回：取材⑵人工物
第19回：アクリルメディウム講習会
第20回：モチーフの選択と制作プロセスの考察
第21回：実験⑴ゲルメディウム
第22回：実験⑵モデリングペースト
第23回：実験⑶シェルマチエール
第24回：モデリング⑴土台の制作
第25回：⑵造形とリアリティ
第26回：⑶細部の表現
第27回：配色の工夫⑴全体の配色
第28回：⑵色味の考察
第29回：⑶細部の表現
第30回：講評会

その他　実習で使用する消耗品は，履修者が事前に準備する。課題により教材費が必要になる場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
絵画		絵画III	1	前期　月 5, 6	関 俊一

授業の概要　絵画表現のバリエーションを複合させ、混合技法（ミクストメディア）で「自画像」を制作する。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につける。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得する。
※教員免許および、図画工作、美術の授業展開に必要な、知識技能を身に付ける。

学習の到達目標
絵画には油彩、水彩画、日本画といった画材や表現の違いによる呼び方があり、イラストレーションやアニメーションもまた絵という括りに含まれる。ジャンルにより呼び方の違いはあるものの、表現の多様化にともない最近では何々画としての区別が難しい自由な発想の表現が存在している。
この授業では絵画制作の自由な発想と、画材を混合し使用する事でオリジナル表現を探求し制作する。

受講要件　絵画 I 、絵画 II を履修済であること

予め履修が望ましい科目　絵画 I 、絵画 II

教科書　適宜プリントを配布する

成績評価方法と基準　課題作品 50% 発想 30% 創意工夫 20%

オフィスアワー　毎週月曜日15：00〜16:00

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：混合技法の考察（ミクストメディア）
第3回：素材演習⑴ゲルメディウム①透明表現
第4回：②コラージュ
第5回：⑵モデリングペースト①ステイン技法
第6回：②フロッタージュ
第7回：⑶シェルマチエール①ドライブラシ
第8回：②モデリング
第9回：制作⑴エスキース制作
第10回：⑵下絵制作
第11回：⑶素材の貼り込み
第12回：⑷テクスチュアを考慮したモデリング
第13回：⑸全体感を考慮した配色
第14回：⑹細部の表現
第15回：講評会

その他　実習で使用する消耗品は，履修者が事前に準備する。教材費が必要になる場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
絵画		版画	1	後期　月 5, 6	関 俊一

授業の概要　コラグラフの制作では、各自が用意したさまざまな素材をテクスチュアとし、コラージュした物を版としてプリントする。木版では、彩色した紙に木版による単色の刷りを行う。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につける。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得する。
※教員免許および、図画工作、美術の授業展開に必要な、知識技能を身に付ける。

学習の到達目標
版画の版形式の違いと技法を理解する。
直接描く絵画表現とは異なり、間接的な方法で表現する版画を、実習を通し体感する。
コラグラフでは版に貼り込んだ素材の違いによるテクスチュアが、画面に効果的に現れるよう配慮し制作する事。
木版においては、刷り上げた時に意図しない偶然の魅力という表現もある事を感じ得る。

受講要件　絵画Ⅰ、絵画Ⅱを履修済であること

教科書　適宜プリントを配布する

成績評価方法と基準　課題作品 50% 発想 30% 創意工夫 20%

オフィスアワー　毎週月曜日15：00〜16:00

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：版画について（木版•銅版）
第3回：版画について（シルクスクリーン•リトグラフ）
第4回：版画について（紙版画、コラグラフ）
第5回：制作⑴コラグラフ①紙によるコラージュ
第6回：　②刷り
第7回：制作⑵コラグラフ①複合素材
第8回：　②刷り
第9回：制作⑶木版①アイディアスケッチ
第10回：　②転写
第11回：　③彫り
第12回：　④版画紙の彩色
第13回：　⑤試し刷り（彫り）
第14回：　⑥刷り
第15回：講評会

その他　実習で使用する消耗品は，履修者本人が事前準備する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
絵画		絵画演習	1	前期　月 9, 10	関 俊一

授業の概要　多様化する絵画表現の中で、特に興味を抱いた作家の作品や魅力に思うビジュアル作品を参考に、オリジナル表現を模索、研究し制作する。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につける。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得する。
※教員免許および、図画工作、美術の授業展開に必要な、知識技能を身に付ける。

学習の到達目標　絵画表現のバリエーションの中から自ら選択した作家、作風の探求を経て表現を考察する。自分の作品作りの参考にしながら実験的制作を行い表現の能力を高める。

受講要件　絵画Ⅰ、絵画Ⅱを履修済であること

予め履修が望ましい科目　絵画Ⅰ、絵画Ⅱ

教科書　適宜プリントを配布する

成績評価方法と基準　課題作品 60% 技術修得度 40%

オフィスアワー　毎週月曜日15：00〜16:00

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：絵画技法⑴古典絵画のプロセス
第3回：⑵印象派の表現
第4回：⑶混合技法
第5回：制作⑴実験的制作（素材と表現について）
第6回：⑵エスキース制作
第7回：⑶下絵制作
第8回：⑷第一層目の塗装
第9回：⑸陰影の表現
第10回：⑹明部の表現
第11回：⑺モチーフの表現
第12回：⑻背景の表現
第13回：⑼全体感の確認と制作
第14回：⑽細部の描写•仕上げ
第15回：講評会

その他　実習で使用する消耗品は，履修者本人に事前準備する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
絵画		絵画特講	2	後期　月 9, 10	関 俊一

授業の概要　主に絵画を主体とする表現の研究を行う。今まで学んできた技法や作風をさらに洗練させ、密度のある作品制作を実践する。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につける。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得する。
※教員免許および、図画工作、美術の授業展開に必要な、知識技能を身に付ける。

学習の到達目標
今まで学んだ絵画表現の集大成として、自ら表現したい画面のイメージを具現化する。
コンセプト、テーマを明確にし確かな技術を駆使し画面作りに生かす事。

受講要件　絵画Ⅰ、絵画Ⅱを履修済であること

予め履修が望ましい科目　絵画Ⅰ、絵画Ⅱ、絵画Ⅲ

教科書　適宜プリントを配布する

成績評価方法と基準　課題作品 60% 技術修得度 40%

オフィスアワー　毎週月曜日15：00〜16:00

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：絵画技法⑴水性絵の具による技法
第3回：⑵油彩による表現のバリエーション
第4回：⑶混合技法
第5回：制作⑴実験的制作（素材と表現について）
第6回：⑵エスキース制作
第7回：⑶下絵制作
第8回：⑷第一層目の塗装
第9回：⑸陰影の表現
第10回：⑹明部の表現
第11回：⑺モチーフの表現
第12回：⑻背景の表現
第13回：⑼全体感の確認と制作
第14回：⑽細部の描写•仕上げ
第15回：講評会

その他　実習で使用する消耗品は，履修者本人に事前準備する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
彫刻	〜67	彫刻Ⅰ	2	通年　火 3, 4	奥田真澄（教育学部）

授業の概要
前期は人物の頭部をモチーフに粘土を用いて制作を行い、モデリング技法を用いた彫刻制作の基礎（フォルム・ムーブマン量・空間）を学習し、それを応用表現（感性を使った立体表現）に発展させなから制作を行う。その後テラコッタ（掻き出し法）技法を用いて、テラコッタの彫刻として完成させる。
後期は自然物を用いた空間表現（アースワーク）、人物をモチーフに粘土でクロッキー（人物像制作）、石膏技法を用いた彫刻制作（石膏造形）を行い様々な表現形態や素材を用いた彫刻制作を行う。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につけることを目的とする。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得を目的とする。

学習の到達目標　主に、塑造制作をとおして基本的な形の捉え方や空間性を学ぶ。そして、モデリング技法を活かした造形表現を考える。また、人物の頭部や自然物を観察して制作する事によって、自然のもつ造形要素や魅力を学ぶ。塑造制作の後にテラコッタ焼成や石膏取りを行い、素材が粘土からテラコッタや石膏に変わることによって、素材と表現の密接な関係についても理解する。

受講要件　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00 彫刻研究室

学習内容
前期「かき出し法」によるテラコッタ彫刻の制作
第1回：ガイダンス
第2回：デッサン
第3回：粘土練り・心棒制作
第4回：粘土原型制作（荒付け）
第5回：粘土原型制作（量感の把握）
第6回：粘土原型制作（空間の把握）
第7回：粘土原型制作（動きの表現）
第8回：粘土原型制作（細部の表現）
第9回：粘土原型制作（仕上げ）
第10回：「かき出し法」による内刳制作
第11回：乾燥をさせながら制作
第12回：乾燥をさせながら制作
第13回：窯焼成
第14回：組み立て・着色・仕上げ
第15回：展示・講評
後期：様々な素材による彫刻表現
第16回：ガイダンス
第17回：アースワーク（スライドレクチャー）
第18回：アースワーク（撮影）
第19回：アースワーク（講評会）
第20回：人物像（量感の把握）
第21回：人物像（細部の表現）
第22回：文様の彫刻
第23回：着色（人物像・文様の彫刻）
第24回：石膏造形（スライドレクチャー・ドローイング）
第25回：石膏造形（粘土練り）
第26回：石膏取り（原型荒造り）
第27回：石膏取り（原型仕上げ）
第28回：石膏取り（石膏流し込み）
第29回：石膏取り（修正・石膏直付けによる制作）
第30回：展示・講評会

その他　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
彫刻	～66	彫刻 II	2	通年　火 5, 6	奥田真澄（教育学部）

授業の概要　前期は石を素材にカービング技法を用いた彫刻制作の基礎を学ぶ。また、制作をとおして工具や刃物の安全で効果的な使用方法を身に付ける。後期は「動物」をテーマにモデリング表現の応用的な授業を行う。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につけることを目的とする。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得を目的とする。

学習の到達目標　カービング技法とモデリング技法の造形効果の違いを考え、基礎的な形の捉え方や技術を身に付ける。また、石や粘土の素材としての特質や造形について学習し、彫刻表現における素材の重要性を理解する。そして、安全で的確な道具の使い方や制作環境についても学ぶ。

受講要件　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　彫刻 I を修了した2年次以上

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00～13:00 彫刻研究室

学習内容
前期：塊になったポーズの人物像を石に彫る
第1回：ガイダンス
第2回：デッサン
第3回：道具説明・寸法決め
第4回：石彫制作（面取り）
第5回：石彫制作（粗取り）
第6回：石彫制作（量感の把握）
第7回：石彫制作（空間の把握）
第8回：石彫制作（動きの把握）
第9回：中間講評会
第10回：石彫制作（全体像の見直し）
第11回：石彫制作（細部の表現）
第12回：石彫制作（全体と細部の見直し）
第13回：石彫制作（細部の造り込み）
第14回：石彫制作（仕上げ）
第15回：講評会
後期：「動物」をテーマに塑造作品（テラコッタ）を造る
第16回：ガイダンス
第17回：デッサン
第18回：粘土練り・心棒制作
第19回：粘土原型制作（荒付け）
第20回：粘土原型制作（量感の把握）
第21回：粘土原型制作（空間の把握）
第22回：粘土原型制作（動きの表現）
第23回：粘土原型制作（細部の表現）
第24回：粘土原型制作（仕上げ）
第25回：「かき出し法」による内刳制作
第26回：乾燥をさせながら制作
第27回：乾燥をさせながら制作
第28回：窯焼成
第29回：組み立て・着色・仕上げ
第30回：講評会

その他　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
彫刻		彫刻III	1	前期　月 3, 4	奥田真澄（教育学部）

授業の概要　各自が自由に選んだテーマで、テラコッタを素材に用いて彫刻制作を行う。応用的なテラコッタの技法である「型込め法」や窯の焼成方法を学習する。そして、最終的な仕上げの際に着色を行い、彩色した彫刻作品として完成させる。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につけることを目的とする。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得を目的とする。

学習の到達目標　テラコッタの素材を用いて彫刻制作を行い、焼成によって材質が変化する造形効果を体験する。また、高度な技術を要する、「かき出し法」の技法や、窯の基本的な焼成方法を学ぶ事によって、より柔軟な造形技術を身に付け、塑造制作の魅力を理解する。そして、着色を行うことによって、彫刻における形と色の関係性についても考える。

予め履修が望ましい科目　彫刻I、彫刻IIを履修済みであることが望ましい

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00～13:00 彫刻研究室

学習内容
「型込め法」によるテラコッタ彫刻の制作
第1回：ガイダンス
第2回：デッサン・粘土練り・心棒制作
第3回：粘土原型制作（荒付け）
第4回：粘土原型制作（量感の把握）
第5回：粘土原型制作（細部の仕上げ）
第6回：型造り（墨入れ・切り金刺し・石膏振りかけ）
第7回：型造り（スタッフ張り）
第8回：型造り（切り金出し・型はずし）
第9回：型込め
第10回：型はずし・修正
第11回：乾燥をさせながら制作
第12回：窯焼成
第13回：組み立て・修正
第14回：着色・仕上げ・台座制作
第15回：講評

その他　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
彫刻		彫刻IV	1	後期　月 3, 4	奥田真澄（教育学部）

授業の概要
1.アース・ワーク：自然環境や自然物を用いて主に空間表現を考えた制作を行う。
2.粘土クロッキー：モデルを観察しながら、粘土を素材に短時間で形や動きを捉える練習を行う。
3.自由制作：自由なテーマで、作品プランに適した素材を選択して制作を行う。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につけることを目的とする。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得を目的とする。

学習の到達目標
・彫刻単体の形だけではなく、空間構成を考えた幅広い視野での造形を行う。
・短時間で行う感覚的な立体造形の魅力を考える。
・作品集、スライドなどによる作品紹介などを通して、彫刻表現についての知識を深め、時代や歴史的な観点を踏まえたうえでの彫刻制作を考える。

予め履修が望ましい科目　彫刻I、彫刻IIを履修済みであることが望ましい。

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00 彫刻研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：アース ワーク（素材探し）
第3回：アース ワーク（インスタレーション・撮影）
第4回：アース ワーク（講評）
第5回：人物像（座りポーズ）「粗付け：粘土によるクロッキー」
第6回：人物像（座りポーズ）「仕上げ：粘土によるクロッキー」
第7回：自由制作（スライドレクチャー・エスキース）
第8回：自由制作（道具説明）
第9回：自由制作（粗造り）
第10回：自由制作（量感の把握）
第11回：自由制作（空間の把握）
第13回：自由制作（細部の造り込み）
第14回：自由制作（仕上げ・着色）
第15回：自由制作（講評会）

その他　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
彫刻		彫刻演習	1	後期　月 7, 8	奥田真澄（教育学部）

授業の概要　各自の制作プランに合わせて素材を選び、制作を行う。制作過程においては、入念に打ち合わせを行ないながら、独自の技法を考えていく。また、作品完成時には台座などを制作し展示方法についても工夫する。課題の後にはレポートによる作品に関する研究も行う。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につけることを目的とする。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得を目的とする。

学習の到達目標
・各自の個性や特質を良く考え、それに合わせたテーマを決めて彫刻制作を行う。
・制作テーマやコンセプトに合わせた素材や技法とは何かを考える。
・作品集、スライドなどによる作品紹介やレポート作成などを通して、彫刻表現についての知識を深め、時代や歴史的な観点を踏まえたうえでの彫刻制作を行う。

受講要件　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　彫刻I、彫刻II、彫刻III、彫刻IV、彫刻特講を履修済みであることが望ましい

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00 彫刻研究室

学習内容
自由課題
第1回：ガイダンス・スライドレクチャー
第2回：プラン提出・打ち合わせ
第3回：道具説明・寸法決め
第4回：彫刻制作（面取り）
第5回：彫刻制作（粗取り）
第6回：彫刻制作（量感の把握）
第7回：彫刻制作（空間の把握）
第8回：彫刻制作（動きの把握）
第9回：中間講評会
第10回：彫刻制作（全体像の見直し）
第11回：彫刻制作（細部の表現）
第12回：彫刻制作（全体と細部の見直し）
第13回：彫刻制作（細部の造り込み）
第14回：彫刻制作（仕上げ）
第15回：展示・講評会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
彫刻		彫刻特講	2	前期　月 7, 8	奥田真澄

授業の概要　各自の制作プランに合わせて素材を選び、制作を行う。制作過程においては、入念に打ち合わせを行ないながら、独自の技法を考えていく。また、作品完成時には台座などを制作し展示方法についても工夫する。課題の後にはレポートによる作品に関する研究も行う。

学習の目的
小学校教職志望者：小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につけることを目的とする。
中学校高校教職志望者：生徒の進路等に関わって授業展開ができる実技に関する基礎的普遍的知識と能力の修得を目的とする。

学習の到達目標
・各自の個性や特質を良く考え、それに合わせたテーマを決めて彫刻制作を行う。
・制作テーマやコンセプトに合わせた素材や技法とは何かを考える。
・作品集、スライドなどによる作品紹介やレポート作成などを通して、彫刻表現についての知識を深め、時代や歴史的な観点を踏まえたうえでの彫刻制作を行う。

受講要件　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　彫刻I、彫刻II、彫刻III、彫刻IVを履修済みであることが望ましい

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00～13:00 彫刻研究室

学習内容
自由課題
第1回：ガイダンス・スライドレクチャー
第2回：プラン提出・打ち合わせ
第3回：道具説明・寸法決め
第4回：彫刻制作（面取り）
第5回：彫刻制作（粗取り）
第6回：彫刻制作（量感の把握）
第7回：彫刻制作（空間の把握）
第8回：彫刻制作（動きの把握）
第9回：中間講評会
第10回：彫刻制作（全体像の見直し）
第11回：彫刻制作（細部の表現）
第12回：彫刻制作（全体と細部の見直し）
第13回：彫刻制作（細部の造り込み）
第14回：彫刻制作（仕上げ）
第15回：展示・講評会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
デザイン	67	基礎デザインⅠ	②	通年　木 5, 6	岡田博明

授業の概要
美術に置ける基本要素のうち「色彩・構成」に重心を置いた授業。
前期は平面の基本要素である「点」、「線」、「面」の平面構成を研究・演習
後期は立体の基本要素である「線材」、「面材」、「塊材」を使用した立体構成作品の研究・演習を行う

学習の目的　基礎的な造形に関する知識と感性を養い、素材と造形の関係性を学ぶ。

学習の到達目標　造形の基本要素である「構成」を研究し、イメージを実在表現化する力を身に付ける。

教科書　特になし、必要な資料は研究室で用意する。

成績評価方法と基準　各課題のエスキース及び提出課題作品の評価の平均。

オフィスアワー　毎週（教授会の無い）水曜日13：00～17：00、場所：デザイン教室

学習内容
第1回・ガイダンス
第2回・前期／デザイン用具の説明
第3、4回 第1課題：「点」をモチーフとした白と黒による画面構成
第5、6回 第2課題：「直線」をモチーフとした白と黒による画面構成
第7、8回 第3課題：「自由曲線」をモチーフとした白と黒による画面構成
第9、10回 4色グラデーションの演習
第11、12回 第4課題：「直線」をモチーフとした彩色による画面構成
第13、14、15回 第5課題：「自由曲線」をモチーフとした彩色による画面構成
・後期／立体の基本形態の構成を研究する。
第16回～第20回 第6課題：線材（ステンレス棒）を使用した立体造形課題
第21回～第25回 第7課題：面材（ケント紙等）を使用した立体造形課題
第26回～第30回 第8課題：塊材（発砲スチロール）を使用した立体造形課題（ただしこの課題は第6、第7課題の進行具合によっては省略される場合がある）

その他
美術教育コース1年生必修。
課題の順番は状況に於いて変わる場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
デザイン	～66	基礎デザインII	②	通年　火9, 10	岡田博明

授業の概要
美術教育専攻2年生必修。
基礎的なデザイン表現を映像メディアを含む平面・立体作品制作を通じて研究し同時に
現代的な意匠権（知的財産）の意識も高める。
デザイン基礎Ｉで行った「構成」に目的、機能を組み合わせる事で基礎的なデザイン表現を習得する。
またデザイン表現に置ける基礎的な映像とコンピューター技術の習得のため、本授業の課題提出は全てコンピューターデータによる物とする。

学習の目的　画像（ポスター）、イラストレーション、マーク、ロゴなどをコンピューターを利用して、クオリティーの高いデザイン作品を作成できるようになる。

学習の到達目標
デザイン表現に於ける基礎的な映像とコンピューターグラフィックス技術の習得
デザインに於ける意匠権（知的財産）の意識向上

受講要件　原則として受講は基礎デザインＩを履修した者とする。

教科書　特になし、必要な資料は研究室で用意する。

成績評価方法と基準　各課題のエスキース及び提出課題作品の評価の平均。

オフィスアワー　毎週（教授会の無い）水曜日13：00～17：00、場所：デザイン教室

学習内容
第1回～第5回
課題1：ガイダンス／デザインに於けるコンピューターの活用
第6回～第10回
課題2：コンピューターによるマークデザインと意匠権（知的財産）の意識向上
・ドロー系ソフトウェアによるマークデザインの制作と意匠権に関する調査
第11回～第15回
課題3：画像を中心としたポスターデザインの制作／／第13回～第19回
・映像による表現として、写真の撮影技法、加工の初歩的技術習得、目的と手法の研究
第16回
課題5：四方連続文様の制作
・基本形体とその連続による文様のシミュレーションをドロー系ソフトウェアによって演習する
第17回～第23回
課題6：観察に基ずく装飾文様又はテキスタイルパターンの制作をコンピューターにより行う。
・ペン（白と黒）によるモチーフの細密描写
・細密描写を基にしたパターンの原画制作
・ペイント系ソフトウェアによる連続文様の制作
第24回～第30回
課題4：絵本
連続したイラストレーションによる絵本の実制作
・絵本のデザイン（3歳～5歳の児童用の絵本）／／第2回～第9回
PBL方式での課題進行。
デザインにあたり、グループ毎に条件に必要な情報を収集、討論によりテーマを決定し
制作は個人レベルで行う

その他
美術教育コース2年生必修
課題の順番は状況によって変わる場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
デザイン	～65	デザイン研究Ｉ	2	前期　火5, 6	岡田博明

授業の概要
現実的なデザインワークの研究と実践を行う事で、機能性ももったイメージの具現化能力を養う。
課題としては数字を扱うカレンダーデザイン、画像あるいは図像を扱うポスターデザイン、物を包むパッケージデザインを行う。

学習の到達目標　課題に応じて必要な情報と条件を検討、「テーマ」を導きだし「テーマ」を具現化する基本的デザイン能力の習得

予め履修が望ましい科目　デザイン基礎Ｉ、IIの履修後が望ましい。

教科書　必要な情報は適宜研究室にて用意する

成績評価方法と基準　各課題のエスキース及び提出作品の評価の平均

オフィスアワー　毎週水曜日13：00～17：00、毎週木曜日14：30～17：00、場所：デザイン研究室

学習内容
・ガイダンス／／第1回
・第1課題／カレンダーデザイン（機能表現の研究）／／第2回～第7回
エスキース
課題制作
・第3課題／パッケージデザイン（美しく物を包むカタチを考える）／／第8回～第15回
エスキース
課題制作

その他　デザインを卒業研究とする学生は必修

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
デザイン	～65	デザイン研究 II	2	後期　火 5, 6	岡田博明

授業の概要　複数のグラフィックからなる「絵本」や身の回りにありながら自ら作り出す事の無い「光」をテーマとした課題の研究と実制作

学習の到達目標　課題に応じて必要な情報と条件を検討、「テーマ」を導きだし「テーマ」を具現化する基本的デザイン能力の習得

予め履修が望ましい科目　デザイン基礎 I 、 II の履修後が望ましい。

教科書　必要な情報は適宜研究室にて用意する

成績評価方法と基準　各課題のエスキース及び提出作品の評価の平均

オフィスアワー　毎週水曜日13：00～17：00、毎週木曜日14：30～17：00、場所：デザイン研究室

学習内容
・ガイダンス
課題制作
・光のデザイン／第10回～第15回
空間における光の演出の演習、又は光を伴う形の造形演習
・椅子のデザイン／第16回～第30回
ダンボールを素材に椅子のデザイン製作を行う。
（構造と造形の研究）

その他　デザインを卒業研究とする学生は必修

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
デザイン	～65	デザイン演習	②	通年　木 7, 8	岡田博明

授業の概要
主にコンピューターによるデザイン表現の演習と実制作を伴う卒業制作につながる高度なデザイン表現の研究。
PBL方式での実践的ポスター制作を2課題行う。

学習の到達目標　デザイン表現に最低限必要なコンピューターソフトの習熟とその実践的活用

受講要件　基本的に美術教育コースの学生である事

教科書　教室に準備

成績評価方法と基準　各課題の提出作品の評価の平均。

オフィスアワー　毎週水曜日13：00～17：00、毎週木曜日14：30～17：00、場所：デザイン研究室

学習内容
1）／オリエン
2）／illustrator課題①説明
3）／前年度総合課題②入稿
4）／制作
5）／illustrator課題①提出、課題②説明
6）／制作
7）／制作
8）／illustrator課題②提出、課題③説明
9）／制作
10）／制作
11）／illustrator課題③提出、
12）／総合課題①説明（大学院ポスター.3年のみ）、テーマ検討
13）／テーマ検討
14）／photoshop課題①説明
15）／総合課題①エスキース
16）／総合課題①提出／入稿
17）／photoshop課題①提出／photoshop課題②説明
18）／制作
19）／制作
20）／photoshop課題②提出、複合課題説明
21）／制作
22）／制作
23）／複合課題提出
24）／総合課題②説明（大学院ポスター.3年のみ）、テーマ検討
25）／制作
26）／テーマ検討
27）／制作
28）／総合課題②エスキース
28）／制作
30）／総合課題②提出

その他
受講は基礎デザイン I 、 II を履修した者とする。
デザインを卒業研究にする者は3年次必修。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
工芸	-67	工芸制作 I	2	通年　月 5, 6	北川 幸治

授業の概要
陶磁工芸の基本演習等から基礎技法を体得し、焼成することで「やきもの」になることを学習する。
1 陶磁器概説
2 陶磁工芸の基礎実習

学習の目的　陶磁工芸の基礎的普遍的知識と基礎技法を修得し、児童及び生徒の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につける。

学習の到達目標　陶磁工芸の基礎知識と基本技法を習得し、「やきもの」の特質を理解する。

教科書　随時配布資料を使用

成績評価方法と基準　出席率、制作態度、技術の習得度と課題作品の総合評価

学習内容
前期
1～2 ガイダンス、陶磁器概説 土練り練習 石膏型によるテストピース成形 焼成
3～9 手びねりによる制作（ひねり出し ひも作り たたら作り）加飾技法 釉薬掛け →作品提出
10～12 電動ろくろ練習
13～15 絵付け、釉薬掛け、焼成 →作品提出
後期
前期の学習をもとに技法の習熟を図る。

その他　基本的な道具類と素材は各自の負担とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
工芸	-66	工芸制作 II	2	通年　月 7, 8	北川 幸治

授業の概要
工芸制作Iで学習した技法を基に、より高度な技術を習得し「やきもの」の特質を理解する。
1 陶磁器概論
2 陶磁工芸の基礎〜応用実習

学習の目的　陶磁工芸の基礎的普遍的知識とより高度な基礎技法を修得し、児童及び生徒の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につける。

学習の到達目標　陶磁工芸の基本実習と課題制作等を通して「やきもの」の特質を理解する。

受講要件
工芸制作 I を履修した者対象
美術教育コースの学生は2年次必修
実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

教科書　随時配布資料を使用

成績評価方法と基準　出席率、制作態度、技術の習得度と課題作品の総合評価

学習内容
工芸 I の学習をもとに、切り抜き、接合と新たにレリーフを加えることでより高度な立体作品を作る。
前期 穴のある立方体による作品の制作
1、ガイダンス
2、デザイン検討
3〜14、制作
15、作品提出及び講評
後期 銅の打ち出しレリーフによる作品制作
1、ガイダンス
2、デザイン検討
3〜14、制作
15、作品提出及び講評

その他　基本的な道具類と素材は各自の負担とする

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術理論及び美術史	67	総合美術基礎論	2	前期　水 3, 4	山口泰弘・上山 浩・関俊一・岡田博明・山田康彦・奥田真澄

授業の概要　美術教育コースを専攻する学生を対象とした、美術及び美術教育を追求していくための入門的講義。美術・美術教育のそれぞれの領域や様々な側面から、それらを追求していく実践的・理論的課題を歴史的にあるいは現代的に提示したり、ディスカッションを行う。

学習の目的　美術・美術教育のそれぞれの領域や様々な側面からのアプローチによって、美術がもつ多様性を理解する。

学習の到達目標　美術の各分野と美術教育の概要とそれらの実践的・理論的課題を知る。

教科書　適宜指示する。

成績評価方法と基準　出席およびレポートによる。

学習内容
（1）美術教育理論の視点から
（2）美術教育理論の視点から
（3）美術教育理論の視点から
（4）デザインの視点から
（5）デザインの視点から
（6）デザインの視点から
（7）美術史の視点から
（8）美術史の視点から
（9）美術史の視点から
（10）美術教育の視点から
（11）美術教育の視点から
（12）美術教育の視点から
（13）彫刻の視点から
（14）彫刻の視点から
（15）彫刻の視点から
定期試験

その他　オリエンテーション科目。美術教育コース1年生は必修。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術理論及び美術史	67	造形芸術論	2	後期　木 1, 2	山口泰弘

授業の概要
江戸時代を中心とした日本と西洋とのあいだの美術上の接触を検証し、異文化体験の衝撃が促した文化の変容について探っていく。さらに、それを基点にして日本文化の特性を浮き彫りにしていく。
江戸文化というと、鎖国によって閉ざされたなかで密やかに成熟した文化と思われがちである。しかし、長崎の出島に開かれた小さな戸口からは、西洋という未知なものへの好奇心をかき立てる様々なイメージが意外なほど多く流れ込んだ。歌川広重の「東海道五十三次」や葛飾北斎の「富嶽三十六景」は、実は、江戸文化の伝統と新たな西洋イメージとの相克と融合の結果生まれたともいえる。この授業では、西洋という異文化に接触したときに発生した江戸文化の変容を、美術史の視点から考察する。
また、学期中、数回展覧会見学を実施し、実作品を鑑賞する機会をつくる。

学習の目的　具体的な作品提示によって多くの知識を得ることができるほか、作品相互の関係性を明らかにすることで、文化の多様性、広汎性を理解する。

学習の到達目標　美術史の基礎的な概念や研究方法について学習する。

予め履修が望ましい科目　美術史概説I

教科書　適宜提示する。

成績評価方法と基準　出席と記述試験・展覧会見学レポートの成績を総合評価する。

オフィスアワー
芸術学研究室（教育学部2号館2階）
毎週木曜日 12:00~13:00

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 概説 南蛮美術と洋風画および浮世絵
第3回 南蛮美術（1） 世界図上の日本
第4回 南蛮美術（2） 南蛮屏風
第5回 南蛮美術（3） 洋人奏楽図屏風
第6回 中国における西洋イメージ（1） 円明園・北京のベルサイユ宮殿
第7回 中国における西洋イメージ（2） カスティリオーネ・郎世寧
第8回 洋風画（1） 円山応挙と眼鏡絵
第9回 洋風画（2） 秋田蘭画
第10回 洋風画（3） 司馬江漢
第11回 浮世絵（1） 浮絵
第12回 浮世絵（2） 葛飾北斎
第13回 浮世絵（3） 歌川広重
第14回 浮世絵（4） 歌川国芳
第15回 まとめ
定期試験

その他　展覧会見学（三重県・愛知県・岐阜県等東海地域）に必要な交通費・入館料等の諸経費は受講生の負担とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術理論及び美術史	67	美術史概説 I	2	前期　木 1, 2	山口泰弘

授業の概要
琳派・文人画・洋風画など、江戸時代の絵画の主要なジャンルについて概観し、江戸絵画を生み出した美意識について考察していく。それを通して、近代とは異なった江戸文化の固有の特質を明らかにしていく。
また、学期中、数回展覧会見学を実施し、実作品を鑑賞する機会をつくる。

学習の目的　江戸絵画を生み出した美意識について考察することによって、近代以降とは異なった江戸文化の固有の特質について知識を得るほか、時代の変遷による文化の多様性を理解する。

学習の到達目標　美術史についての基礎的な知識を身につける。また展覧会見学を通して、美術への接し方を学ぶ。

教科書　適宜提示する。

成績評価方法と基準　出席および記述試験・展覧会見学レポートの成績を総合評価する。

オフィスアワー
芸術学研究室（教育学部2号館2階）
毎週木曜日 12:00~13:00

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 日本絵画史概説（1）
第3回 日本絵画史概説（2）
第4回 江戸時代の絵画概説
第5回 宗達光琳派（1）
第6回 宗達光琳派（2）
第7回 狩野派（1）
第8回 狩野派（2）
第9回 文人画（1）
第10回 文人画（2）
第11回 円山四条派（1）
第12回 円山四条派（2）
第13回 曾我蕭白・伊藤若冲
第14回 洋風画
第15回 まとめ
定期試験

その他　展覧会見学（三重県・愛知県・岐阜県等東海地域）に必要な交通費・入館料等の諸経費は受講生の負担とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術理論及び美術史	66	美術史演習 I	2	前期　水 1, 2	山口泰弘

授業の概要　三重県内あるいは京阪神・東海地方を中心とした寺院・美術館等の見学を実施することによって実作品に触れて鑑賞を深める。さらに見学の成果をもとにディスカッション等を行い、美術品に対する理解を一層深いものにしていく。

学習の目的　美術の実作品に触れることがいかに大切かを学ぶ。

学習の到達目標　美術を見るだけではなく、解釈できる基礎的な力を養成する。

予め履修が望ましい科目　美術史概説I、造形芸術論、古美術見学

教科書　適宜提示する。

成績評価方法と基準　研究発表の内容、ディスカッションでの発言とレポートを総合評価する。

オフィスアワー
芸術学研究室（教育学部2号館2階）
毎週木曜日 12:00~13:00

学習内容
第1回 ガイダンス
第2・3回 見学プランの作成
第4回 見学
第5-7回 見学の成果に基づいた研究発表とディスカッション
第8回 見学
第9-11回 見学の成果に基づいた研究発表とディスカッション
第12回 見学
第13-15回 見学の成果に基づいた研究発表とディスカッション

その他
見学は、授業のない休日等に行うことがある。
交通費・入館料等の諸経費は受講生の負担とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術理論及び美術史	66	美術史演習 II	2	後期　水 1, 2	山口泰弘

授業の概要　「美術史演習III」の準備授業として、論文（副論）作成のための基礎的知識と方法について、発表や討議を行なう。

学習の目的　論文執筆のための知識や方法を学ぶ。

学習の到達目標　論文執筆のための基礎を身につけることができる。

予め履修が望ましい科目　美術史演習I

教科書　適宜提示する。

成績評価方法と基準　研究発表の内容、ディスカッションでの発言とレポートを総合評価する。

オフィスアワー
芸術学研究室（教育学部2号館2階）
毎週木曜日 12:00~13:00

学習内容
第1回 ガイダンス
第2-4回 研究テーマの検討
第5-7回 研究テーマに基づいたディスカッション
第8-11回 研究テーマの再検討
第12-14回 プレゼンテーション資料の検討
第5回 研究発表とディスカッション

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術理論及び美術史	65	美術史演習 III	②	通年　木 5, 6	山口泰弘

授業の概要　美術史・芸術学・美術教育の基礎的総合的演習を行い、その成果を論文にまとめる。

学習の目的　美術史に関する理解力の深化と論文作成能力を身につけることができる。

学習の到達目標　副論文の作成を行う。

受講要件　美術史演習I・美術史演習IIを履修済みであること。

教科書　適宜提示する。

成績評価方法と基準　期末の論文による。

オフィスアワー
芸術学研究室（教育学部2号館2階）
毎週木曜日 12:00~13:00

学習内容
第1回 ガイダンス
第2・3回 研究課題の提出と課題の検討
第4-7回 論文の読解
第8-9回 論文執筆の方法
第10-11回 調査の方法・資料の収集方法
第12-13回 研究課題の再検討
第14-15回 個別指導
第16-17回 調査過程の中間発表と課題の検討
第18-27回 個別研究発表と内容の検討
第28-30回 論文内容の再検討

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術理論及び美術史	67	古美術研究	2	後期集中	山口泰弘

授業の概要　前期「古美術見学」に引き続き、京都・奈良等への古美術見学旅行を行い、飛鳥時代から江戸時代にわたる建築・仏像・絵画等の実作品に接することにより、古美術への理解を深める。併せて、東海地域（三重県内）で開催される様々な展覧会を見学し、幅広い美術体験を行う。

学習の到達目標　作品の見方を学ぶとともに、授業や書籍による間接的な美術体験では得ることのできない深い理解を得ることを目標とする。

予め履修が望ましい科目　美術史概説Ⅰ 古美術見学

成績評価方法と基準　出席とレポート

オフィスアワー
毎週木曜日12:00～13:00
芸術学研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2・3回 見学先についての検討
第6-9回 見学のための資料作成
第4-7回 京都・奈良等の古社寺・美術館見学（1）
第10-13回 京都・奈良等の古社寺・美術館見学（2）
第14-15回 ディスカッション

その他　必修科目ではないが、美術教育コースの1年生は必ず受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術理論及び美術史	67	古美術見学	2	前期集中	山口泰弘

授業の概要　京都・奈良等への古美術見学旅行を行い、飛鳥時代から江戸時代にわたる建築・仏像・絵画等の実作品に接することにより、古美術への理解を深める。併せて、東海地域（三重県内）で開催される様々な展覧会を見学し、幅広い美術体験を行う。

学習の到達目標　作品の見方を学ぶとともに、授業や書籍による間接的な美術体験では得ることのできない深い理解を得ることを目標とする。

成績評価方法と基準　出席とレポート

オフィスアワー
毎週木曜日12:00～13:00
芸術学研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2・3回 見学先についての検討
第6-9回 見学のための資料作成
第4-7回 京都・奈良等の古社寺・美術館見学（1）
第10-13回 京都・奈良等の古社寺・美術館見学（2）
第14-15回 ディスカッション

その他　必修科目ではないが、美術教育コースの1年生は必ず受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
図法及び製図		製図Ⅰ	2	後期　水3,4	岡田博明

授業の概要
・ガイダンス
・用具の説明と使い方
・コンピュータを利用したデザイン表示の基礎的図法と製図の基礎知識を習得し
これに伴う実技を演習する。

学習の目的　基本的な図面の見方と描き方を習得する

学習の到達目標　基本的なコンピューターによる製図の習熟、および基本的な図法の習得

教科書　資料は課題に合わせて研究室で用意する。

成績評価方法と基準　課題提出作品の評価の平均

オフィスアワー　毎週水曜日13：00～14：00

学習内容
第1回：授業内容の説明と用具の説明
第2回：製図に必要なアプリケーションの説明
第3回：基本図形の製図（解説）
第4回：基本図形の製図 （実践）
第5回：三面図（解説）
第6回：三面図 （実践）
第7回：アイソメ図（解説）
第8回：アイソメ図 （実践）
第9回：ミリタリ図（解説）
第10回：ミリタリ図 （実践）
第11回：平行透視投象（解説）
第12回：平行透視投象 （実践）
第13回：有角透視投象（解説）
第14回：有角透視投象 （実践）
第15回：まとめ

その他
＊隔年開講なので注意すること。（平成26年度は休講）
設備の問題から受講者数制限有り、受講者多数の場合は高校一種工芸免許希望者で4年次の者を優先する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コンピュータ教育	67	造形メディア基礎演習	2	後期　金 1, 2	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　専用ソフトを用いた3Dアニメーション作成教材について，実習的に研究する。

学習の目的　表現教育においてコンピュータを積極的に使用できるスキルを身につける。

学習の到達目標　自らの感性を活かして3DCGソフトと映像編集ソフトを用いてアニメション作品が制作できる。

受講要件　美術教育コース66期生必修

成績評価方法と基準　期末の提出作品およびレポートを主とし，その他出席率等を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス，3Dアニメの概念
2．グラフィックソフトの基本操作
3．基本立体とテクスチャ
4．スキンとスイープ
5．自由立体モデリング
6．部品構成によるモデリング
7．レンダーリングの各種
8．アニメーション設定の基本
9．アニメーション設定の応用
10．キーフレームの基礎
11．動画編集の基本，各種の編集効果，音声の操作
12．自由制作
13．自由制作
14．自由制作
15．自由制作

その他　機器の都合により受講者数を美術教育コースを優先して10名程度に制限している。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 図画工作	〜62 63〜66	小学校専門美術 小学校専門美術B	1 2	前期　火 7, 8	奥田 真澄

授業の概要
3つの立体造形課題をとおして、小学校の図画工作で用いる基本的な道具の扱い方や様々な素材の味わい方を学ぶ。
（1）針金とアルミ缶を使ったモビール制作
（2）紙粘土を用いた造形表現（身近にある素材を押し当てて模様をつくる）
（3）ストローによる立体表現（ストローの造形素材としての可能性を考える）

学習の目的　小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につけることを目的とする。

学習の到達目標　小学校の図画工作に用いる道具や素材の正しい扱い方と性質について学ぶ。そして、同じ素材においても、小学校児童の発育段階に即して扱い方を変えて、工夫して用いることの大切さを理解する。また、ひとつの素材から様々な造形効果が得られることも学ぶ。そして、この授業は特別な材料を使わなくても、身近に存在する素材を用いて様々な造形表現が可能であることを理解することも目標としている。

受講要件　2年生以上を対象とする

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00 彫刻研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：針金とアルミ缶によるモビール制作（スライドレクチャー・道具説明・エスキース）
第3回：針金とアルミ缶によるモビール制作（針金曲げ）
第4回：針金とアルミ缶によるモビール制作（アルミ缶加工の粗取り）
第5回：針金とアルミ缶によるモビール制作（アルミ缶加工の仕上げ）
第6回 ：針金とアルミ缶によるモビール制作（講評会）
第7回 ：紙粘土を用いた造形表現（お面原型制作）
第8回 ：紙粘土を用いた造形表現（抽象彫刻原型制作）
第9回 ：紙粘土を用いた造形表現（お面, 抽象彫刻着色）
第10回：紙粘土を用いた造形表現（講評会）
第11回：ストローによる立体表現（笛の製作①）
第12回：ストローによる立体表現（笛の製作②）
第13回：ストローによる立体表現（レリーフ制作①）
第14回：ストローによる立体表現（レリーフ制作②）
第15回：ストローによる立体表現（講評会）

その他
制作環境を考慮して、受講者数を制限をすることがある。
実習で使用する材料は履修者が準備する。（詳細はガイダンス時に説明する）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 図画工作	～62	小学校専門美術	1	前期　月 9, 10	北川 幸治（教育学部非常勤講師）
	63～66	小学校専門美術C	2		

授業の概要　生活の身近にある土（粘土）を用いて立体作品を制作し、その特質を発見する。焼成する事で「やきもの」ができることを学習する。

学習の目的　粘土で小学校児童の造形力と豊かな感性を引き出すことを学習し、小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につける。

学習の到達目標　粘土の特質を知り、その造形技術と「やきもの」を焼成するまでの全般的な知識を習得する。

教科書　基本的になし。随時配布資料使用

成績評価方法と基準　出席率及び提出作品・レポート等の総合評価

学習内容
1．ガイダンス
2．原土から粘土を作る
3．粘土を調べる
4．やきもの概論
5．粘土を焼いてみる →（レポート提出）
6．粘土で作る（タイル作品の試作とデザイン）
7．粘土で作る（タイル作品の制作）→作品提出
8．粘土で作る（手びねり成形での立体作品の試作）
9．粘土で作る（手びねり成形での立体作品制作）→作品提出
10．粘土で作る（電動ろくろ成形の練習）
11～15．大型陶板による共同制作と焼成
15．レポート提出

その他
基本的な道具類と素材は各自の負担とする。
受講制限を行う。26名。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 図画工作	62-59	小学校専門美術	1	前期　木 3, 4	山田康彦（教育学部美術教育講座）
	63～66	小学校専門美術A	2		

授業の概要　小学校の図画工作科の教科に関する科目として、図工・美術の専門基礎能力を養う。

学習の目的　造形活動のための基礎的な材料と技法を体験を通して理解するため、スクリブル、点描、コラージュ、写真、ペインティングなどの造形活動を行い、造形による表現を知る。

学習の到達目標
・造形活動のための基礎的な材料と技法を活用できる。
・複数の造形活動による表現を体験的に理解する。

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品提出による

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部2号館2階美術教育学（山田）研究室

学習内容
1．ガイダンス
2．スクリブルに見る世界
3．樹との対話
4.点描が拓く表現（1）スケッチ
5.点描が拓く表現（2）展開
6.点描が拓く表現（3）完成
7．コラージュによる表現（1）構想
8.コラージュによる表現（2）制作
9．空間を切り取る－写真による表現（1）構想
10.空間を切り取る－写真による表現（2）取材
11.空間を切り取る－写真による表現（3）制作
12．重ね刷り版画による表現（1）構想
13.重ね刷り版画による表現（2）下書き、版制作
14.重ね刷り版画による表現（3）印刷
15.重ね刷り版画による表現（4）作品完成

その他
必要に応じて材料費を徴収する。
受講制限がある（50名）。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・図画工作	～62	小学校専門美術	1	後期　月 9, 10	北川 幸治
	63～66	小学校専門美術C	2		

授業の概要　生活の身近にある土（粘土）を用いて平面・立体作品を制作しその特質を発見する。焼成する事で「やきもの」ができることを学習する。

学習の目的　粘土で小学校児童の造形力と豊かな感性を引き出すことを学習し、小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につける。

学習の到達目標　粘土の特質を知り、その造形技術と「やきもの」を焼成するまでの全般的な知識を習得する。

教科書　随時配布資料を使用。

成績評価方法と基準　出席率、制作態度、技術の習得度と課題作品の総合評価

学習内容
1．ガイダンス
2．原土から粘土を作る
3・粘土を調べる
4．やきもの概論
5．粘土を焼いてみる →（レポート提出）
6．粘土で作る（タイル作品の試作とデザイン）
7．粘土で作る（タイル作品の制作）→作品提出
8．粘土で作る（手びねり成形での立体作品の試作）
9．粘土で作る（手びねり成形での立体作品制作）→作品提出
10．粘土で作る（電動ろくろ成形の練習）
11～14．大型陶板による共同制作と焼成
15．レポート提出

その他
基本的な道具類と素材は各自の負担とする。
受講制限を行う。26名まで。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 図画工作	～62 63～	小学校専門美術 小学校専門美術B	1 2	後期　火7,8	関 俊一

授業の概要
図画工作における基礎的な絵画表現の実習。
技法研究、表現のバリエーションを実技を通し体得する。

学習の目的　小学校児童の発育段階に即した学習環境の構築ができる能力を身につけることを目的とする。

学習の到達目標　教員免許および、図画工作の授業展開に必要な、知識技能を身に付ける。

受講要件　2年生以上を対象とする

教科書　適宜プリントを配布する

成績評価方法と基準　課題作品 50% 発想30% 創意工夫20%

オフィスアワー　毎週月曜日15：00～16:00美術棟3階絵画研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：小学生図工作品例
第3回：鉛筆デッサン⑴靴
第4回：⑵手
第5回：⑶顔
第6回：技法研究⑴フロッタージュ自然物
第7回：⑵フロッタージュ人工物
第8回：⑶コラージュ•コピー
第9回：⑷コラージュ•壁紙
第10回：絵の具による制作⑴①デカルコマニー
第11回：②吹き流し
第12回：絵の具による制作⑵①下地（ジェッソ）塗装とアイディアスケッチ
第13回：②彩色
第14回：③仕上げ•描き込み
第15回：まとめ

その他
実習で使用する消耗品は履修者が事前に準備する
詳細はガイダンス時に説明
実技中心の授業のため、作業環境を考慮し受講者数を制限をすることがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・図画工作	～62 63～66	小学校専門美術 小学校専門美術A	1 2	後期　木3,4	山田康彦（教育学部美術教育講座）

授業の概要　小学校の図画工作科の教科に関する科目として、図工・美術の専門基礎能力を養う。

学習の目的　造形活動のための基礎的な材料と技法を体験を通して理解するため、スクリブル、点描、コラージュ、写真、ペインティングなどの造形活動を行い、造形による表現を知る。

学習の到達目標
・造形活動のための基礎的な材料と技法を活用できる。
・複数の造形活動による表現を体験的に理解する。

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品提出による

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
1．ガイダンス
2．スクリブルに見る世界
3．樹との対話
4.点描が拓く表現（1）スケッチ
5.点描が拓く表現（2）展開
6.点描が拓く表現（3）完成
7．コラージュによる表現（1）構想
8.コラージュによる表現（2）制作
9．空間を切り取る－写真による表現（1）構想
10.空間を切り取る－写真による表現（2）取材
11.空間を切り取る－写真による表現（3）制作
12．重ね刷り版画による表現（1）構想
13.重ね刷り版画による表現（2）下書き、版制作
14.重ね刷り版画による表現（3）印刷
15.重ね刷り版画による表現（4）作品完成

その他
必要に応じて材料費を徴収する。
受講制限がある（50名）。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技		水泳	1	前期　月 1, 2	重松良祐（教育学部）

授業の概要
1.水慣れ、けのび
2.近代泳法（バタフライ、背泳、平泳ぎ、クロール）
3.横泳ぎ、立ち泳ぎ、水中ボールゲーム
4.水中安全教育（救助法、着衣泳）
5.飛び込み

学習の到達目標
1.水慣れ、けのび
2.近代泳法（バタフライ、背泳、平泳ぎ、クロール）
3.横泳ぎ、立ち泳ぎ、水中ボールゲーム
4.水中安全教育（救助法、着衣泳）
5.飛び込み
ができるようになること。

受講要件　学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書
高橋伍郎・糸山直文「初心者のための水泳教室」高橋書店.
柴田義晴「基礎からの水泳」ナツメ社.

成績評価方法と基準
出席、実技テスト、レポート、筆記テストで評価する。実技試験は4種類ある。各々の基準内で泳ぐこと。

男子50ｍ速泳43秒、100ｍ個人メドレー2分20秒、横泳ぎ25ｍ（15あおり）、400m連続泳（クロール）、立ち泳ぎ1分間
女子50ｍ速泳48秒、100ｍ個人メドレー2分30秒、横泳ぎ25ｍ（15あおり）、400m連続泳（クロール）、立ち泳ぎ1分間

オフィスアワー　適宜対応する。

学習内容
1回目 ガイダンス、着衣泳ビデオ
2回目 水慣れ
3回目 クロール
4回目 背泳ぎ
5回目 平泳ぎ
6回目 バタフライ
7回目 横泳ぎ
8回目 立ち泳ぎ
9回目 個人メドレー
10回目 潜水
11回目 逆飛び込み
12回目 着衣泳、救助法
13回目 筆記テスト、実技テスト（50 m速泳、立ち泳ぎ）
14回目 実技テスト（100 m個人メドレー、30分間泳）
15回目 実技テスト（400 m泳、横泳ぎ）

その他　4～6月は学外の室内プールを利用する予定（1回につき約300円の負担）。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技		器械運動	1	前期　木 3, 4	鶴原 清志

授業の概要　器械運動における基本的な種目である、マット・跳び箱・鉄棒の基本的な技の習得し、それぞれの技の理想像を理解するとともに、実施された技を正しく評価できること、並びに指導法、補助の方法をも実践する。

学習の目的　器械運動における基本的な種目であるマット・跳び箱・鉄棒の指導についての基本を理解、習得する。

学習の到達目標　マット・跳び箱・鉄棒の基本的な技の習得と理想像を理解する。

受講要件　実技であるため、毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

教科書　プリント資料を配布する。

成績評価方法と基準　基本の技を習得すること及び、その技の理想型・指導法のレポートを提出する

オフィスアワー　毎週木曜日12：00から1時間程度

学習内容
1，器械運動の基本的な考え方、倒立
2，マット運動の基本（前転、後転等）
3，マット運動の基本（側方倒立回転、前方倒立回転とび等）
4，跳び箱運動の基本（開脚跳び、閉脚跳び等）
5，跳び箱運動の基本（台上前転、倒立回転跳び等）
6，鉄棒運動の基本（懸垂振動等）
7，鉄棒運動の基本（前方支持回転、後方支持回転等）
8～15 基本技の習得、トランポリン
16 基本技の試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技	～67	陸上競技	1	前期　月 3, 4	杉田 正明

授業の概要　陸上競技における走・跳・投の各所目についての基本的理論及び基礎技術を習得する。同時に各種目の特性を理解し、トレーニングの方法も含めた指導法などについても学習する。

学習の目的　陸上競技の基本的理論及び基礎技術を習得することができるとともに、トレーニングの方法も含めた指導法を身につけることができる。

学習の到達目標　陸上競技の基本的理論及び基礎技術を習得するとともに、陸上競技の指導ができるようになる。

受講要件　実技では怪我の危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

教科書　適宜、プリントを配布する

成績評価方法と基準　試験（100m、100mハードル、走幅跳、砲丸投の基準記録）に合格し、レポート及び学習態度などから総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日お昼休み 杉田研究室（教育学部1階1号館）

学習内容
第1回 はじめに（授業内容および準備方法など）
第2回 100m走（動き作り、正しい走り方）
第3回 100m走（各種スタート法）
第4回 100m走（トライアル）
第5回 ハードル走（ドリル、様々な障害物、リズム走）
第6回 ハードル走（スタート、ハードリングとインターバル）
第7回 ハードル走（トライアル）
第8回 走幅跳（動き作り、助走：至適距離・歩数）
第9回 走幅跳（踏切、空中の姿勢とバランス、踏切から着地）
第10回 走幅跳（トライアル）
第11回 砲丸投（投げの基本動作）
第12回 砲丸投（グライド、構えからつきだし）
第13回 砲丸投（トライアル）
第14回 トライアル I （100m走、砲丸投）
第15回 トライアル II （ハードル走、走幅跳）

その他　実技の際のシューズは、走る、跳ぶに支障のないものを準備すること。授業以外にも積極的に予習、練習を行うこと。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技	64～67	体操	1	前期　火 3, 4	後藤洋子（教育学部保健体育講座）

授業の概要　体操の基礎技術を習得し、体操の課題や運動の構成方法について実習する。同時に体ほぐしの運動を含めた体操領域の特性や捉え方について理解を深める。

学習の目的　徒手での体操および手具・用具を活用した体操の基本的な運動を習得し、運動を組み合わせたり構成したりすることができる。体操領域の運動の特性や学校体育での取り扱い方について説明することができる。

学習の到達目標　徒手での体操および手具・用具を活用した体操の基本的な運動を習得する。多様な運動を組み合わせたり、ねらいに応じた体操を構成したりすることができる。体操領域の運動の特性や学校体育での取り扱い方について説明することができる。

教科書　特に指定しない。授業中、必要に応じて適宜、紹介する。

成績評価方法と基準　主体的な活動（30%）を重視し、これらの状況と授業における積極性（20%）、実技テストの成績（30%）、ノートやレポート等（20%）を総合して評価する。

オフィスアワー　時間：水曜日12時～13時、場所：保体（運動方法学 II ）研究室（後藤）

学習内容
第1回 ガイダンス： 学校体育における体操領域の取り扱いについて、目標、内容などを概説する。
第2回ラジオ体操： ラジオ体操の基本および発展
第3～5回 徒手での体操： 歩く、走る、弾む、振る、支える等の基礎的な運動について組み合わせたり運動を変化、発展させる方法を実習する。
第6回 発表1： 徒手での体操をグループで演技発表し、同時に評価の観点について理解する。
第7～8回ボールを使った体操： 体操ボールやGボールを使った基礎的な運動と活用方法について学習する。
第9回 縄を使った体操： 縄を使った基礎的な運動と活用方法について学習する。
第10～11回 用具を活用した体操： 身近な用具を利用したり、運動を誘発する新しい用具を活用し、動きつくりを促進する運動プログラムについて学習する。
第12～13回 ラートを使った運動： ラートを使った基本的な運動（直転を中心に）、補助法、安全管理の方法などについて実習する。
第14～15回 発表2： 手具、用具を使った体操を構成し、グループで演技発表する。同時に相互評価し、評価の観点について理解を深める。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技	64-66	バレーボール	1	後期　月 3, 4	大隈節子

授業の概要　バレーボールを競技として行う上で必要な技術習得、並びに指導者としての基本知識について学ぶ

学習の目的　バレーボールで求められる基本的な動きを理解し技術の向上をめざすと共に、バレーボール指導者としての素養を身につける。

学習の到達目標　バレーボールを競技として行う上で必要な基本技術、並びにルール・基礎知識を身につける。

受講要件　バレーボールのルールについて理解していること。

教科書　必要に応じて適宜資料を配布する

成績評価方法と基準　出席の状況や授業への取り組みを重視し、実技試験ならびにレポートも含めて総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日12：15〜12：45

学習内容

第1回 ：バレーボールのルールおよび用具等使用方法の説明
第2回 ：バレーボール向けの準備運動の理解とレクリエーションバレーボール
第3回 ：個人技術と動きの理解（オーバーパス・アンダーパス）
第4回 ：個人技術の練習と動きの理解（スパイク）
第5回 ：個人技術の練習と動きの理解（レシーブ・トス）
第6回 ：個人技術の練習と動きの理解（ブロック）
第7回 ：個人技術の練習と動きの理解（サーブ・サーブレシーブ）
第8回 ：プレーヤーの役割とフォーメーションについての理解
第9回 ：コンビプレーの練習と動きの理解（レシーブ→トス）
第10回 ：コンビプレーの練習と動きの理解（トス→スパイク）
第11回 ：コンビプレーの練習と動きの理解（ゲームを想定した総合的な練習）
第12回 ：審判法ならびに試合運営方法の習得
第13回 ：第1回リーグ戦
第14回 ：第2回リーグ戦
第15回 ：第3回リーグ戦

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技	〜66	サッカー	1	前期　金 3, 4	片山靖富（非常勤講師）

授業の概要　サッカーの基本的技術の習得と指導法，戦術（サッカーの楽しみ）やルール・競技規則について学習する．

学習の目的　サッカーの基本的技術を習得するとともに，サッカー初心者に指導できる指導力と指導法を身につける．また戦術（サッカーの楽しみ）やルール・競技規則について理解する．

学習の到達目標
①基本的技術を習得し，手本となることができる．サッカー初心者に対して指導できるようになる．
②サッカーのルールを把握し，レフェリングができるようになる．
③戦術を理解し，ゲーム分析ができ，サッカー観戦を深く楽しむことができる．

受講要件　学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

教科書　適宜，資料を配布する

成績評価方法と基準　出席状況・学習態度50%，実技・スキルテスト25%，競技規則に関するテスト25%で評価し，合計60%以上で合格とする

オフィスアワー　金曜日10：00〜10：30，12：10〜12：30（保健体育研究室）

学習内容
第1回：ガイダンス，チーム分け
第2回：ボールコントロール（ボールタッチ，リフティング，ドリブル）
第3回：ボールコントロール（ショートパス，トラップ）
第4回：ボールコントロール（ロングパス，ヘディング）
第5回：ボールコントロール（シュート）
第6回：ゴールキーピング（キャッチ，パンチング，セービング）
第7回：ゴールキーピング（スローイング，ポジショニング）
第8回：フリーキック（スローイング，コーナーキック）
第9回：フリーキック（直接／間接フリーキック）
第10〜12回：戦術理解（ゲーム）
第13〜14回：ルール理解・レフェリング
第15回：スキルテスト，ルールテスト，まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技	〜66	柔道	1	前期　水 3, 4	中西 義雄（教育学部非常勤講師）

授業の概要　柔道（じゅうどう）は、1882年（明治15年）に嘉納治五郎が日本の講道館において創始した武道であり、格闘技、スポーツ、武術にも分類される。日本の国技の一つであると同時に広く各国でも普及しており、オリンピック種目にもなっている。また、2012年より中学校での保健体育に武道が必修科目となる。保健体育の指導者として、中学校・高等学校での必修科目である柔道を理解し初心者の指導が行なえるようになる。

学習の目的　柔道の初心者や初級者を対象に指導するために必要な事柄として、柔道の知識・基本動作・基本技能・応用技能について修得する。

学習の到達目標　柔道の初心者や初級者を対象に指導するために必要な事柄として、柔道の知識・基本動作・基本技能・応用技能が習得できる。

受講要件　受講生は柔道着を各自用意すること。

成績評価方法と基準　出席60%、授業への取り組み40%

学習内容

1）基本動作1 知識・礼法・姿勢・動き方・組み方
2）基本動作2 くずし・体さばき・受身・寝技のための動き方
3）基本技能1 膝車・支え釣込足・約束練習・けさ固め・くずれけさ固め
4）基本技能2 大腰・背負投・まくらけさ固め・後ろけさ固め
5）基本技能3 大外刈・乱取・横四方固め・くずれ横四方固め
6）基本技能4 払い腰・体落とし・上四方固め・くずれ上四方固め
7）基本技能5 小内刈・大内刈・送り足払い・縦四方固め・縦四方変化
8）応用技能1 跳腰・内股・一本背負・絞め技
9）応用技能2 技の防ぎ方3つ・関節技
10）応用技能3 連続技2つ・寝技の上からの攻め方
11）応用技能4 既習の投げ技反復練習・寝技の下からの攻め方
12）応用技能5 既習の投げ技反復練習・寝技の横からの攻め方
13）審判法
14）技能実技テスト
15）簡易試合

その他　受講生は柔道着を各自用意すること

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技	～66	テニス	1	後期　火 3, 4	米川直樹（教育学部非常勤講師）

授業の概要　テニスの初心者や初級者を対象に指導するために必要な事柄として、ストロークの基礎技術の習得、テニス指導の方法論、テニスの理論及び審判法などについて学習する。

受講要件　2年生以上に限る。

教科書　（財）日本テニス協会編「テニス教本」

成績評価方法と基準　実践の中で学ぶことが重要であるので、出席を重視する。評価に当たっては、出席、態度、技能などを総合して評価する。

オフィスアワー　火曜日12:00～12:10

学習内容

第1部：ガイダンス及びストロークの初歩
第2部：スポンジボールを使用し、ラケットとボールに慣れるための各種動きの実践とショートテニスゲーム
第3部：実際のボールを使用し、基本練習（ストローク、ボレー、サーブ）とショートテニスゲーム
第4部：テニスに関する基礎（フォーム、ボディーコントロール、ゲームの進め方、審判法、マナーなど）と指導法
第5部:：応用練習（ドロップショットなど）と基本練習と応用練習で獲得した技術を使ってのゲーム
第6部：初心者や初級者に対する指導法
第7部：ゲームと技術などのテスト
第8部：まとめと反省

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技		バドミントン	1	後期　金 3, 4	冨樫健二

授業の概要　様々な打ち方（ストローク）やルールを習得することにより、レクリエーション（生涯スポーツ）としてのバドミントン、競技スポーツとしてのバドミントンを知る。バドミントンを通して身体運動を科学する事を知る。

学習の目的　小・中学校における正課授業、および課外活動において、バドミントンの指導が十分にできるだけの理論的、技術的な力をつける。

学習の到達目標　レクリエーションとしてのバドミントンから競技スポーツとしてのバドミントンを経験することにより、その奥深さを体感する。各ストロークや様々な技術、知識を習得することにより、自分自身が興味・感心を持つとともに、他者への指導能力が高まる。

受講要件　履修希望者が多かった場合には履修制限を行うので、授業開始時期には保健体育科の掲示板を注意してみておくこと

教科書　適宜資料等を配布する

成績評価方法と基準　実技試験、ノート提出、ルール・審判法に関する筆記試験、態度点

オフィスアワー　木曜12：20～12：40

学習内容
1.ガイダンス、バドミントンとは（概要、コート、道具）、ラケット・シャトル慣れ
アンダーハンドストロークⅠ（ロングハイサービス）、ミニゲーム
2.ストロークプロダクションとは
オーバーヘッドストロークⅠ（ハイクリアー、ドロップ）
アンダーハンドストロークII（ロビング、ヘアピン）
競技規則・審判法、ミニゲーム
3.オーバーヘッドストロークⅡ（スマッシュ、プッシュ）、
サイドアームストローク（ドライブ）、ダブルスゲームの進め方
4.筆記試験、基礎打ち、バックハンドストローク（ハイバック、スマッシュ、ドロップ）
ルールに基づいたダブルスゲーム
5.クロスコートを利用した練習、ノック法 他、各種練習方法
6.フットワーク、チャイニーズステップ他、各種練習方法
7 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（ロングハイサービス、ロブの指導）
8 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（ハイクリア、ドロップの指導）
9 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（スマッシュ、プッシュの指導）
10 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（ヘアピン、ドライブの指導）
11 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（バックハンドの指導）
11 ダブルスゲームフォーメーション
12 各ストロークにおける技術課題の確認
13 ICTを用いた授業実践（携帯電話、iPad等、プロジェクタ等を用いて）
14 実技試験（サービス、ハイクリア、ドロップ＆ロブ）
15 実技試験（ドライブ、スマッシュ＆レシーブ、ヘアピン）
16 まとめ

その他　授業用のノート（A4サイズが貼れるもの）を作成し、各時限のポイントをまとめること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技	64～67	レクリエーショナルスポーツ	1	前期　木 1, 2	大隈節子

授業の概要
レクリエーショナルスポーツは中高年者層に限らず学校体育の授業や青少年層を対象として盛んに行われ，その普及振興が制度的にも整備されるようになった。都市化の進展、ライフスタイルの変化、余暇時間の増大などにより、幅広い社会層の人々が簡易なスポーツや気軽にできる運動遊びに関心を寄せ，日常のライフスタイルに組み込むようになっている。
この授業ではレクリエーショナルスポーツを体験し、各種目の楽しさについて探求すると共に、新たな種目の開発や指導法についても学ぶ。

学習の目的　レクリエーションとしてのスポーツ活動を創造し、展開・支援する能力を身につける。

学習の到達目標　既存の各種レクリエーショナルスポーツの特性やルールを理解すると共に、支援に必要な知識を得る。

教科書　必要に応じて資料を配付する

成績評価方法と基準　出席・授業態度40%、発表内容50%、実技点10%

オフィスアワー　水曜日12：15～12：45

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 ニュースポーツ体験①（ゴルフ系）
第3回 ニュースポーツ体験②（ネット系）
第4回 ニュースポーツ体験③（ディスク系）
第5回 ニュースポーツ体験④（ボール系）
第6回 ニュースポーツ体験⑤（パラリンピック種目体験）
第7回 レクリエーション支援について①（ホスピタリティトレーニング）
第8回 レクリエーション支援について②（アイスブレーキング）
第9回 企画案づくり①講義
第10回 企画案づくり②グループワーク
第11回 発表①
第12回 発表②
第13回 発表③
第14回 発表④
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技	64-67	野外運動Ⅰ（スキー）	1	後期集中	大隈節子、重松良祐、加納岳拓、本多広国（非常勤講師）

授業の概要　スキーに関する基本的な技能の習得、ならびに指導方法を学習する。

学習の目的　スキーに関する技能習得、ならびに指導方法を身につける

学習の到達目標　全日本スキー連盟「技能検定3級」程度の技能を身につける

受講要件　実習であるため、毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

成績評価方法と基準　最終日に実施する実技試験、レポート等を総合的に評価して単位を認定する。

オフィスアワー　実習期間中夕食後

学習内容
1日目；技能別班分け、スキー技術の基礎（プルークスタンス、プルークスタンスでの回転）
2日目：スキー技術の基礎（プルークスタンスでの回転、パラレルターン（大回り））
3日目：スキー技術の基礎（パラレルターン（大回り）、パラレルターン（小回り）、総合滑走）
4日目：実技試験

その他　スキー用具等は各自で用意し、実習に関わる交通費、リフト代、宿泊費は各自自己負担

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育実技	～67	野外運動Ⅱ（キャンプ）	1	前期集中	岡野 昇，冨樫健二，重松良祐，加納岳拓

授業の概要　学校教育や社会教育における野外教育の意味・意義を追求し，野外運動(キャンプ)に必要な知識・技術を学びながら指導者としての力量形成を目指す。

学習の目的　学校教育や社会教育における野外教育の意味・意義について理解し，野外運動(キャンプ)に必要な知識・技術を獲得することができる。

学習の到達目標　野外運動(キャンプ)プログラムの作成とプログラムの実施を行うことができ，野外教育の意味・意義を踏まえた実践報告書の作成を行うことができる。

教科書　キャンプ指導者入門（日本キャンプ協会）

成績評価方法と基準　事前指導・本実習・事後指導の参加状況及び参加態度，実習報告書を総合して評価する。

オフィスアワー　・前・後期 水曜日12:00～13:00，保体（保健体育科教育学Ⅱ）研究室（岡野）

学習内容
1.ガイダンス：5月中旬の予定。履修確認，個人調査票の作成など。
2.事前指導：6月中旬の予定。グループ編成，担当係，プログラム担当・企画など。
3.本実習Ⅰ：7月11日の予定。キャンプの基礎理論を知り，大学構内及びその周辺で，アイスブレイキング，イニシアティブゲーム，コミュニケーションゲーム，レクダンスなどの実習を通して，主として人と人とのかかわりに焦点をあてたキャンププログラムの構成の仕方を学ぶ。
4.本実習Ⅱ：7月18日～20日（2泊3日）の予定。大杉谷林間キャンプ村及びその周辺で，野外炊事法，ウォークラリー，ネイチャーゲーム，登山，キャンプファイヤー，キャンドルファイヤーなどの実習を通して，主として人と自然とのかかわりに焦点をあてたキャンププログラムの構成の仕方を学ぶ。
5.事後指導：7月下旬の予定。実習報告書の提出など。

その他
・1年次より履修可能。
・単位履修の関係上，保健体育科の学生の履修を優先する。
・実習時期は7月11日，7月18日～20日（2泊3日）を予定。
・受講前に必ず保健管理センターにて心電図検査を受診のこと。
・実習にかかわる交通費，宿泊費，実習費などは自己負担。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	67	保健体育学概説	2	前期　水 3, 4	八木規夫、後藤洋子、鶴原清志、冨樫健二、杉田正明、岡野昇、重松良祐、大隈節子、加納拓岳（教育学部保健体育講座）

授業の概要　4年間の大学生活を有意義なものとするため、大学での学習活動のあり方や各施設の利用方法などを紹介するとともに附属学校園での教育実習見学などを行う。また将来、教師を目指す者に対して、どのようなカリキュラムが構成されており、学ばなければならないものにはどのようなものがあるかを概説する。

学習の目的　各自の目的意識を再確認し、キャンパスライフを充実させるための必要事項やカリキュラムの内容について理解を深める。

学習の到達目標　4年間で学ぶ学習内容の概略が分かり、大学生活の見通しと卒業後の進路について考えていく基礎を身につける。

受講要件　67期保健体育コースは必修

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　授業態度、レポート等の内容と合わせて総合的に判断する。

オフィスアワー　各教員に問い合わせること

学習内容
1.教職員対面式、オリエンテーション
2.コースカリキュラムの概要
3.スポーツ交流（第一体育館）
4.図書館の使い方
5.学校保健分野の紹介
6.体育・スポーツ学分野の紹介
7.運動学分野の紹介
8.保健体育科教育分野の紹介
9.附属小学校教育実習（2W）見学
10.資格について
11.就職について
12.ディベート1
13.ディベート2
14.ディベート3
15.まとめ

その他　学外の施設を見学・利用する場合には、服装、言動等に注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	64	保健体育学ゼミナール	2	前期　火 9, 10	大隈節子

授業の概要　体育・スポーツに関する現象に着目し体育社会学的な研究方法により卒業論文を作成する。

学習の目的　体育・スポーツに関する社会学的な現象について自ら問題を提起し、体育社会学的な研究方法により卒業論文を作成する。

学習の到達目標　体育・スポーツ社会学の研究方法を習得すると共に卒業論文を作成する。

受講要件　体育社会学および体育社会学演習を履修し単位を取得していること

予め履修が望ましい科目　体育社会学および体育社会学演習

教科書
これからレポート・卒論を書く若者のために
酒井聡樹 協立出版
ISBN978-4-320-00574-7

成績評価方法と基準　論文作成に対する取り組み状況と論文内容によって判断する

オフィスアワー　毎週水曜日昼休み

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：問題意識の形成
第3回：テーマについて考える
第4回：文献検索の方法
第5回：文献の収集
第6回：文献の購読
第7回：文献のまとめ
第8回：論文の構想について
第9回：社会調査法について
第10回：アンケート調査の方法について
第11回：データ処理の方法
第12回：SPSSの使い方
第13回：論文執筆の方法について
第14回：日本語の文章技術
第15回：プレゼンテーションの方法
第16回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	64	保健体育学ゼミナール	2	前期　月 3, 4	冨樫健二

授業の概要　関連文献の抄読、実験・調査の実習、データ整理、プレゼンテーション。

学習の目的　卒業論文作成・発表に必要な基礎的知識を学ぶ。

学習の到達目標　テーマに関連した情報収集、整理・加工能力、実験・調査技術、論理的な考察能力、プレゼンテーション技術を身に付けることができる。

受講要件　原則として健康管理学，健康管理学演習，健康管理学実験を履修した（履修中を含む）4年生に限る

予め履修が望ましい科目　健康管理学、健康管理学演習、健康管理学実験

教科書　各自がテーマに合わせて選定する

成績評価方法と基準　出席、プレゼンテーション内容、授業時の発言等

オフィスアワー　木曜12：20〜12：40

学習内容
1.研究テーマを設定する上での注意
2.テーマに関連する情報収集の方法、文献検索・収集・管理手順
3.取得した論文等の読み取り方、利用方法
4.コンピュータ、インターネットの応用利用
5.実験・調査により得られたデータの整理方法（実験室実験）
6.実験・調査により得られたデータの整理方法（フィールド実験）
7.実験・調査により得られたデータの整理方法（調査紙）
8.論文作成に必要な統計処理の基礎
9.論文作成に必要な統計処理の基礎
10.図・表の効果的な作成方法
11.学術的なレポートや論文の作成手順
12.効果的なプレゼンテーション技術
13.論文抄読（和文原著論文）
14.論文抄読（和文総説）
15.論文抄読（英文原著論文）
16.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	-64	保健体育学ゼミナール	2	後期　月 9, 10	杉田 正明

授業の概要　運動生理学の研究方法を学ぶとともに卒業論文を作成するための基礎的知識を習得する。

学習の目的　運動生理学の手法を用いて、種々の測定や実験及び分析、考察を行うことができるようになる。

学習の到達目標　正確な測定や実験を行うことができ、そこから得られた結果の解釈および表現の仕方に関する能力を身につけ、自らの主体的な知の技法を習得する。

受講要件　4年生以上に限る

予め履修が望ましい科目　運動生理学、トレーニング論

成績評価方法と基準　レポート及び学習態度により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日昼休み

学習内容
第1回 ：保健体育学の研究とは何か？
第2回 ：研究（論文を書く）とはどういうことか？
第3回： 研究テーマを深く考える（論文とは？）
第4回：研究テーマを深く考える（過去の論文テーマ）
第5回：研究テーマを深く考える（今日的話題）
第6回：研究テーマを深く考える（論文の構成）
第7回：運動生理学的実験
第8回：運動生理学の測定データについて
第9回：運動生理学の測定データから見えること
第11回：先行研究との比較から見えること
第12回：解釈（考察）の仕方
第13回：研究データのまとめ方（目次、構成）
第14回：研究レポートのまとめ方（考察）
第15回：総合プレゼンテーション
第15回 第16回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	64	保健体育学ゼミナール	2	前期　金 9, 10	八木規夫（教育学部保健体育講座）

授業の概要　文献あるいは実験的な手法を用いて、運動技能向上に関する効果的な学習法あるいは指導法について探求する。

学習の目的　文献あるいは実験的な手法を用いて、運動技能向上に関する効果的な学習法あるいは指導法について探求し、卒業論文作成のための知識を得る。

学習の到達目標　文献あるいは実験的な手法を用いて、運運動技能向上に関する効果的な学習法あるいは指導法について探求し、卒業論文の目的を明確にするとともにその手法を把握する。

受講要件　4年生以上

予め履修が望ましい科目　運動方法学、運動生理学

成績評価方法と基準　授業への取り組む態度、レポート等によって総合的に評価する。

オフィスアワー　金曜日12時〜13時 場所教育学部八木研究室

学習内容
1回：オリエンテーション
2〜5回：運動技能習得に関して自分自身が最も関心のあるものを選び、資料や文献を収集し吟味する。
5〜10回：先に吟味した資料及び文献から、実践できるものを選び、実践する。
10〜14回：実践した結果を整理して検討する。
15回：まとめ

その他　4年生以上に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	64	保健体育学ゼミナール	2	後期　火 9, 10	後藤洋子（教育学部保健体育講座）

授業の概要　各自が興味のある内容についてテーマを設定し、論文等の資料を購読して要旨を発表し、論議を通して内容の理解を深める。

学習の目的　設定したテーマに関する文献、資料の内容を理解し、議論を通して課題を発見し解決の方向性を探る。

学習の到達目標　設定したテーマに関する文献、資料の内容が説明できる。議論を通して課題を発見し解決の方向性を検討することができる

受講要件　A類保健体育コースの学生で、体操・ダンス領域に関するテーマでの卒業研究を希望する者。

予め履修が望ましい科目　体操、ダンス、身体運動表現論

教科書　特に指定しない

成績評価方法と基準　授業への積極的な参加を重視し（40%）、要旨のまとめ方（30%）や内容の理解度等（30%）を総合して評価する

オフィスアワー　時間：毎週水曜日12時〜13時、場所：保体（運動方法学2）研究室（後藤洋子）

学習内容
第1回ガイダンス：授業計画の提示、研究課題の設定など
第2〜5回文献収集および講読：各自が選択したテーマに基づいて、必要な文献を収集し、要旨を整理して発表する。
第6〜13回資料収集および分析：問題解決のための資料を収集し、分析する。。
第14〜15回まとめ：得られた資料、分析結果をまとめて考察する。

その他　原則として4年生を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	64	保健体育学ゼミナール	2	後期　月 9, 10	重松良祐（教育学部）

授業の概要
1．健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読
中高年者、有疾患者、肥満者、地域住民、他
2．研究の進め方の習得
研究論文における問題・用語の定義・限界・意義についての理解
先行研究の精読・批評
分析能力・記述能力の習得
プレゼンテーション方法の習得
3．各自の興味のある研究論文の選択と課題設定
2の学習内容を踏まえた各自の課題の遂行（ユニークな課題も歓迎）

学習の到達目標
1．健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の知見の把握
2．研究の進め方とその実践力

受講要件　重松研究室に所属して卒業論文を書くこと。

予め履修が望ましい科目　「衛生学及び公衆衛生学」「衛生学及び公衆衛生学演習」「健康科学実験」。

教科書　その都度指定する。

成績評価方法と基準　レポート 100%。

オフィスアワー　月曜日の昼休み、重松研究室。

学習内容
1回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（文献検索）
2回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（中高年者）
3回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（有疾患者）
4回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（肥満者）
5回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（地域住民）
6回目 研究の進め方の習得（研究論文における問題・用語の定義）
7回目 研究の進め方の習得（限界・意義について）
8回目 研究の進め方の習得（先行研究の精読・批評
9回目 研究の進め方の習得（分析能力・記述能力の習得）
10回目 研究の進め方の習得（プレゼンテーション方法の習得）
11回目 各自の興味のある研究論文の選択と課題設定（緒言）
12回目 各自の興味のある研究論文の選択と課題設定（方法）
13回目 各自の興味のある研究論文の選択と課題設定（結果）
14回目 各自の興味のある研究論文の選択と課題設定（考察）
15回目 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	64	保健体育学ゼミナール	2	後期　木 9, 10	岡野 昇

授業の概要　これまでの教材研究・演習・運動実践・教育実習で得られた知見をもとにし，体育科教育を窓口にした学校教育の根底に横たわる「自らの問題」を設定し，それを受講生で共有しながら考究していく。また，自らの問題意識にそった研究テーマを設定し，研究論文を作成する。

学習の目的　研究テーマに基づいた論文を作成することができる。

学習の到達目標　研究テーマに基づいた論文を作成することができる。

予め履修が望ましい科目　体育教材研究，保健体育科教育法，教育実習

成績評価方法と基準　出席状況と共に，授業過程における問題提起と討議，学習課題の内容，研究論文を成績評価の資料とする。

オフィスアワー　・前・後期 水曜日12:00～13:00，保体（保健体育科教育学Ⅱ）研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.教科教育学・学校教育学・教育実践学研究の動向，今日的課題，アプローチ
3.研究文献・実践研究論文・研究論文読解演習
4.実践研究論文の作成
5.実践研究論文の発表
6.個別研究課題への取り組みと発表
7.研究論文テーマの設定（問いへの問い，問題の所在と意図，方法の探索と計画立案，テーマ設定と発表）
8.研究論文項立ての設定（文献・調査・授業分析研究，内容の考察と整理，項立ての作成と発表）
9.研究データの収集
10.研究データの分析・考察
11.研究論文の作成
12.研究論文の中間発表
13.研究論文の再構成・作成
14.研究論文の要約作成（論文の作成・読み合わせ・修正，論文要約の作成と発表）
15.まとめ

その他　4年生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理		保健体育学ゼミナール	2	前期　火 9, 10	鶴原 清志

授業の概要　各自の問題意識に基づいたテーマに即して、問題の設定、文献研究、データの収集等をとおして、保健体育研究の方法を修得する

学習の目的　卒業卒業論文作成に向けての基礎知識、作成準備ができるようになる。

学習の到達目標　卒業論文作成に向けての基礎知識、作成準備ができる

予め履修が望ましい科目　体育心理学、体育心理学演

教科書　授業時に紹介する。

成績評価方法と基準　授業への取り組む態度、レポート等によって総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日12：00から1時間程度

学習内容
1，テーマの設定
2，具体的研究問題への展開
3～5，文献研究（検索・入手方法等）
6～8，文献研究（まとめ方、発表等）
9～10，研究問題へのアプローチの方法
11～12，データの収集方法
13～14，分析方法
15，まとめ方

その他　4年生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	64	保健体育学ゼミナール	2	後期　火 9, 10	加納 岳拓（教育学部）

授業の概要　これまでの教材研究・演習・運動実践・教育実習で得られた知見をもとにし，体育科教育を窓口にした学校教育の根底に横たわる「自らの問題」を設定し，それを受講生で共有しながら考究していく。また，自らの問題意識にそった研究テーマを設定し，研究論文を作成する。

学習の目的　研究テーマに基づいた論文を作成することができる。

学習の到達目標　研究テーマに基づいた論文を作成することができる。

予め履修が望ましい科目　体育教材研究，小学校専門体育，保健体育科教育法，教育実習

成績評価方法と基準　出席状況と共に，授業過程における問題提起と討議，学習課題の内容，研究論文を成績評価の資料とする。

学習内容
1.ガイダンス
2.教科教育学・学校教育学・教育実践学研究の動向，今日的課題，アプローチ
3.研究文献・実践研究論文・研究論文読解演習
4.実践研究論文の作成
5.実践研究論文の発表
6.個別研究課題への取り組みと発表
7.研究論文テーマの設定（問いへの問い，問題の所在と意図，方法の探索と計画立案，テーマ設定と発表）
8.研究論文項立ての設定（文献・調査・授業分析研究，内容の考察と整理，項立ての作成と発表）
9.研究データの収集
10.研究データの分析・考察
11.研究論文の作成
12.研究論文の中間発表
13.研究論文の再構成・作成
14.研究論文の要約作成（論文の作成・読み合わせ・修正，論文要約の作成と発表）
15.まとめ

その他　4年生に限る

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
体育心理学	60～66	体育心理学	2	前期　木 7, 8	鶴原 清志

授業の概要　体育心理学の各領域における主問題をテキストの章に従い概説する。

学習の目的　体育心理学の全体的な基礎知識を学習する。

学習の到達目標　体育心理学の基礎知識を学習することによって、運動やスポーツの心理的側面からの理解ができるようになる。

教科書　新版 運動心理学入門、大修館書店

成績評価方法と基準　試験（授業期間中のレポートも含む）

オフィスアワー　毎週木曜日12：00から1時間程度

学習内容
1，体育心理学の意義
2，運動支配の生理心理
3，運動と認知（運動における認知）
4，運動と認知（視覚，聴覚，運動感覚と認知）
5，運動と動機づけ（動づけの意味）
6，運動と動機づけ（原因帰属）
7，運動と動機づけ（動機づけの方法）
8，運動の発達
9，運動の制御と運動学習（運動と注意）
10，運動の制御と運動学習（運動学習理論）
11，運動の指導（運動の指導の方法）
12，運動の指導（メンタルプラクティス）
13，運動とパーソナリティー
14，運動の社会心理（運動と競争）
15，運動の社会心理（チームワーク）
16，試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
体育社会学	64-66	体育社会学	2	前期　火 5, 6	大隈節子

授業の概要　体育・スポーツ社会学の基礎理論について学ぶと共に体育・スポーツ領域において重要と思われるテーマや課題について学ぶ。

学習の目的　体育・スポーツ社会学の基礎理論や重要と思われるテーマや課題についての知識を得る。

学習の到達目標　体育・スポーツ領域において重要と思われるテーマや課題について社会学的な視点から考えることができる。

教科書　教科書等の指定はない。授業時に適宜資料を配付する

成績評価方法と基準　レポートとテストによって評価を行う

オフィスアワー　毎週水曜日の昼休み（12：15～12：45）

学習内容
第1回 ：ガイダンス
第2回 ：体育・スポーツ社会学の意義
第3回 ：スポーツ・システムについて
第4回 ：スポーツの社会化
第5回 ：社会的自我論
第6回 ：スポーツと政治
第7回 ：社会の変化とスポーツ
第8回 ：スポーツと産業化
第9回 ：日本のスポーツプロモーションの特徴
第10回：スポーツ立国戦略
第12回：スポーツ基本計画
第13回：総合型地域スポーツクラブ
第14回：運動部活動の現状
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
体育経営管理学	～66	体育経営学	2	前期集中	赤松喜久（教育学部非常勤講師）

授業の概要　学校および地域において、学習者あるいは地域住民が運動やスポーツに親しんでいくために、どのような条件整備が求められるか、また各種事業を提供していく経営組織がどのように内外の環境に対処していくことになるのかについて理解を深める。

学習の到達目標　学校及び地域の公共・公益的な領域における体育事業・スポーツサービス、および、民間のスポーツサービスの効果的・効率的な提供の基礎となる理論的な枠組みを理解し、事業のプランニングができるようになることをめざす。

教科書　体育経営管理学講義 大修館書店

成績評価方法と基準　小テスト60%、期末試験40%

学習内容
第1回 体育事業論
第2回 エリア・サービス
第3回 プログラム・サービス
第4回 クラブサービス
第5回 関連的体育事業
第6回 学校の領域における体育経営
第7回 地域の公益的な領域の体育経営
第8回 スポーツマーケティング
第9回 スポーツ経営とプロダクト
第10回 プロモーション
第11回 経営組織の環境適応
第12回 経営組織の経営戦略
第13回 スポーツ経営組織の構造と意思決定過程
第14回 リスク・マネジメント
第15回 事業計画
第16回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
運動学	～65	運動方法学	2	前期　金 3, 4	八木規夫（教育学部保健体育講座）

授業の概要　子ども達の体力・運動能力の発育・発達及び様々な身体活動における動作様式を、バイオメカニクスや運動生理学的な観点から分析し、体育授業における運動学習の在り方や、指導法について検討する。

学習の目的　子ども達の体力・運動能力の発育・発達及び様々な身体活動における動作様式を、運動生理学やバイオメカニクスの観点から学習し、体育・スポーツの指導場面において適切なアドバイスや補助ができるようになる。

学習の到達目標　子ども達の体力・運動能力の発育・発達及び様々な身体活動における動作様式を、運動生理学やバイオメカニクスの観点から学習することによって、体育・スポーツの指導の場において具体的にどのようなアドバイスや補助を工夫すれば良いのか模索することができるようになる。

受講要件　2年生以上に限る。

予め履修が望ましい科目　運動生理学

教科書　プリント資料を配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、中間試験30%、総合試験50%, 計100%

オフィスアワー　金曜日12時10分～13時00分 場所教育学部八木研究室

学習内容
1回：オリエンテーション
2回：運動学的観点からの学習指導要領の検討
3回：運動の観察・分析方法
4回：集団スポーツ（ゲーム）の観察・分析方法
5回：運動の観察・分析データの収集
6回：データの解析・検討、スポーツ成果の要因
7回：体力・運動能力の発育・発達 （巧みさ）
8回：体力・運動能力の発育・発達 （筋力・筋パワー）
9回：体力・運動能力の発育・発達 （全身持力）
10回：中間まとめ・試験
11回：各種身体運動における動作様式の検討 （走運動）
12回：各種身体運動における動作様式の検討 （跳運動）
13回：各種身体運動における動作様式の検討 （投運動）
14回：各種身体運動における動作様式の検討 （その他のスポーツ）
15回：まとめ
16回：総合試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
運動学	65-60	運動方法学演習	2	後期　金 3, 4	八木規夫（教育学部保健体育講座）

授業の概要　文献講読を通して、子ども達の運動技能習得に関する効果的な学習法あるいは指導法について検討し、さらに具体的な運動動作に焦点をあて、文献等を参考にしながらその動作の指導法について検討を深める。

学習の目的　子ども達の運動技能習得に関する効果的な学習法あるいは指導法について検討し、確かな指導力を身につける。

学習の到達目標　子ども達の運動技能習得に関する効果的な学習法あるいは指導法について検討し、動作の指導法について検討を深めることによって、対象に応じた指導法を工夫することができる。

受講要件　運動方法学を履修済みであること

予め履修が望ましい科目　運動生理学

教科書　プリント資料を配布する。

成績評価方法と基準　担当種目の報告発表とレポートによって評価する。

オフィスアワー　金曜日12:00～13:00 場所教育学部八木研究室

学習内容
1回 オリエンテーション
2回 体つくりに関する指導法について討議する
3回 陸上競技（トラック競技）に関する指導法について討議する
4回 陸上競技（フィールド競技）に関する指導法について討議する
5回 水泳に関する指導法について討議する
6回 器械運動（マット運動、鉄棒運動）に関する指導法について討議する
7回 器械運動（平均台運動、跳び箱運動に関する指導法について討議する
8回 球技（ネット型）に関する指導法について討議する
9回 球技（ゴール型）に関する指導法について討議する
10回 球技（ベースボール型）に関する指導法について討議する
11回 ダンスに関する指導法について討議する
12回 武道に関する指導法について討議する
13回 これまでに討議された内容から好評であったものを選び実践してみる（1）。
14回 これまでに討議された内容から好評であったものを選び実践してみる（2）
15回 まとめ
16回 レポート作成

その他　3年生以上に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
身体運動科学実験		身体運動科学実験	1	前期　火 1, 2	八木規夫・鶴原清志・杉田正明

授業の概要　身体運動に関わる様々な実験手法を学習する。また、得られたデータのまとめ方（解析と統計処理）を学習する。

学習の目的　実験手法を修得するとともに得られたデータをまとめる（解析と統計処理）力を身につける。

学習の到達目標　実験から導き出された結果を通して運動やスポーツの仕組みやメカニズムを深く理解できるようにする。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　運動方法学、体育心理学、運動生理学、

教科書　適宜、資料等を配付する

成績評価方法と基準　実験への取り組み、結果のレポート提出と授業態度などから総合的に評価する。

オフィスアワー
窓口
杉田正明 火曜日の昼休み 杉田研究室

学習内容
授業計画
第1回： ガイダンス
第2回： 実験計画の立て方
第3回： 発想法による問題解決法
第4回： 質問紙の作成
第5回： 運動学習実験1
第6回： 運動学習実験2
第7回： VTRを利用した画像解析の基礎
第8回： VTRを利用した画像解析の実際
第9回： 床反力計を利用した運動の記録と解析
第10回： 画像解析及び床反力計を利用した運動の記録と解析
第11回： 運動中の心拍数の測定と解析
第12回： 運動中の酸素摂取量の測定と解析
第13回： トレッドミルを用いた最大酸素摂取量と無酸素性作業閾値の測定と解析
第14回： 運動時の血中乳酸濃度、筋内酸素動態の測定と解析
第15回： まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生理学	～66	運動生理学	2	後期　木 3, 4	脇田 裕久（教育学部非常勤講師）

授業の概要　身体運動にともなう生体諸機能の変化およびその効果の実態を明確化し、そのメカニズムを理解する。

学習の目的　運動生理学の基礎的な理論を理解し、これらの理論に基づいた体育・スポーツの指導ができるようになる。

学習の到達目標　運動生理学の基礎的な理論を理解することにより、スポーツの指導能力を向上させる。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　生物・物理

教科書　資料等配付

成績評価方法と基準　講義毎のレポート提出と試験で評価する。

学習内容
第1回 現代社会における運動と健康の関係
第2回 体力の分類
第3回 運動と身体組成
第4回 運動と骨
第5回 運動と筋
第6回 筋力トレーニング
第7回 運動と関節
第8回 運動と姿勢
第9回 運動と神経
第10回 敏捷性とトレーニング
第11回 運動と呼吸
第12回 運動と循環
第13回 運動処方
第14回 運動と栄養
第15回 まとめ
第16回 テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生理学	～65	運動生理学演習	2	前期　月 5, 6	杉田 正明

授業の概要　運動生理学の授業内容を踏まえた上で、文献精読を通して身体運動に対する生体の反応やメカニズムを深く考察する。

学習の目的　身体運動に対する生体の反応やメカニズムについて運動生理学的見地からの知識を得ること。

学習の到達目標　身体運動に対する生体の反応やメカニズムについて、運動生理学的見地から深く考察することができる能力を身につけること。

受講要件　「運動生理学」、「トレーニング論」を履修しておくこと。

予め履修が望ましい科目　「運動生理学」、「トレーニング論」

教科書
本授業で取り扱う文献について記載する。
和書：体育学研究、トレーニング科学、体力科学、体育の科学、乳酸をどう活かすかなど
洋書：Med Sci Sports Exerc., Eur J Appl Physiol.など

成績評価方法と基準　授業態度、発表および抄録を総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日の昼休み、杉田研究室。

学習内容
授業計画 毎回、各テーマに関しての論文精読をし、レジュメを作成、発表し、議論をしながら考察し理解を深める
第1回：ガイダンス及び運動生理学とは？の解説
第2回：運動と環境（低酸素・高地環境）
第3回：運動と環境（寒冷・暑熱環境）
第4回：高地・低酸素トレーニングと有酸素能力
第5回：高地・低酸素トレーニングと瞬発系能力
第6回：スポーツパフォーマンスとATP・CP系
第7回：スポーツパフォーマンスと解糖系（含・酸素借）
第8回：スポーツパフォーマンスと有酸素系
第9回：運動選手のための運動生理学的テスト
第10回：運動とコンディショニング
第11回：運動と酸化ストレス、抗酸化力
第12回：運動と自律神経活動
第13回：運動とリカバリー（疲労）
第14回：運動とリカバリー（入浴）
第15回：運動とリカバリー（高酸素）
第16回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生理学	～66	トレーニング論（実習を含む）	2	後期　月 5, 6	杉田 正明

授業の概要　様々なトレーニングに関する目的・方法・特殊性及びトレーニング効果などについて理解を深める。併せて体力測定などの実習を通し、スポーツ科学を応用したトレーニング方法の考え方を学習する。

学習の目的　スポーツ科学を応用したトレーニング方法の考え方や実践ができるようになる。

学習の到達目標　スポーツ科学を応用したトレーニング方法の考え方や実践の仕方を知り、理解できるようになる。

受講要件　実習を行うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

予め履修が望ましい科目　運動方法学、運動生理学

教科書　授業時に資料を配布する。

成績評価方法と基準　定期試験（60点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日昼休み，場所：教育学部1号館1階杉田研究室

学習内容
第1回 トレーニングの考え方、授業内容
第2回 トレーニングの期分け、原理
第3回 体力の評価と測定（理論）
第4回 体力の評価と測定（実習）
第5回 筋力トレーニング（基礎理論、方法）
第6回 筋力トレーニング（効果、実習）
第7回 エネルギー供給系（基礎理論）
第8回 ハイパワートレーニング（基礎理論）
第9回 ハイパワートレーニング（実習）
第9回 ミドルパワートレーニング （基礎理論）
第10回 ミドルパワートレーニング（実習）
第11回 ローパワートレーニング （基礎理論）
第12回 ローパワートレーニング（実習）
第13回 運動処方（トレーニングプログラムの組み立て）
第14回 コンディショニング （基礎理論）
第15回 これまでのまとめ
試験（筆記）

その他　実習を含むので人数制限を行う場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
衛生学及び公衆衛生学		衛生学及び公衆衛生学	2	後期　木 7, 8	重松良祐（教育学部）

授業の概要　衛生学はHygiene、公衆衛生学はPublic healthと表現されるが、本授業ではこれらを「健康づくりのための学問」と解釈して授業を展開する。体育・スポーツを専攻する学生が主対象になることから、衛生学・公衆衛生学が疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくために活用される科学的な手法であることを学ぶとともに、「体育・スポーツが人々の健康づくりにどのように貢献できるのか」について考えるきっかけとなればと思っている。教育現場には一般社会と同様、年齢、健康、体力面においてさまざまな人がいるが、誰もが生涯を健康に過ごすための知識や視野、実践力を必要としている。このことから講義では、昨今の健康ブームをどう解釈するのか、運動嫌いな人にはどのようなアドヴァイスをすればよいのか、国単位・学会単位で打ち出されている運動の指針には何が書かれているのか、地方行政に健康づくりムーヴメントを働きかける際の資料（ストラテジー）をどう作成するか、個別アドヴァイスが重要視されているがその実際は？などをトピックとして扱う。この授業を受けることで、健康づくりに関して「主体的に考えて実践し、かつ他人を支援する人」になってくれることを期待している。

学習の到達目標　健康づくりに関して「主体的に考えて実践し、かつ他人を支援する人」になれること。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書
岡浩一朗・中村好男「行動科学を活かした身体活動・運動支援」大修館書店.
授業やレポート等に用いるので準備しておくこと。

成績評価方法と基準　8割以上の出席があり、かつ、レポートを提出し、テストを受けた場合、評価の対象となる。その際の評価方法は出席35%、授業への貢献15%、レポート10%、テスト40%である。

オフィスアワー　適宜対応する。

学習内容
1回目 「体育・スポーツが人々の健康づくりにどのように貢献できるのか」について考える。
2回目 テキスト（第1章）
3回目 テキスト（第2章）
4回目 テキスト（第3章）
5回目 テキスト（第4章）
6回目 テキスト（第5章）
7回目 テキスト（第6章）
8回目 個人を対象にした介入（寸劇）
9回目 テキスト（第7章）
10回目 テキスト（第8章）
11回目 テキスト（第9章）
12回目 テキスト（第10章）
13回目 テキスト（第11章）
14回目 集団を対象にした介入
15回目 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
衛生学及び公衆衛生学		衛生学及び公衆衛生学演習	2	前期　金 5, 6	重松良祐（教育学部）

授業の概要　「衛生学及び公衆衛生学」の授業内容を踏まえた上で当該分野の評価手法を学び、演習する。特に測定原理および統計解析についての理解を深める。

学習の到達目標　「衛生学及び公衆衛生学」分野の評価手法を学び、理解する。測定原理および統計解析についても理解する。

予め履修が望ましい科目　「衛生学及び公衆衛生学」

教科書
教科書として、以下の書籍を挙げる。
「フリーソフトjs-STARでかんたん統計データ分析」中野・田中著（技術評論社）
参考書として、以下の書籍を挙げる。
「人間科学計測ブック」日本生理人類学会計測研究部会編（技報堂出版）
「生活の統計学」大澤著（建帛社）
「教育・心理統計と実験計画法」田中＆山際著（教育出版）
「体力測定法」松浦著（朝倉書店）

成績評価方法と基準　出席及び授業態度50%、レポート・試験50%。

オフィスアワー　月曜日の昼休み、重松研究室。

学習内容
1．統計について
2．統計データ・グラフについて
3．分布について
4．尺度について
5．相関分析について
6．回帰分析について
7．時系列変化データについて
8．標本抽出について
9．仮説検定について
10．平均の差の検定について
11．分散分析について
12．比率について
13.測定データの解析
14.測定データの発表
15．まとめ

その他　「衛生学及び公衆衛生学」の単位を取得しておくこと。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校保健	～66	学校保健	2	前期　月 7, 8	大野 素子（教育学部非常勤講師）

授業の概要　学校保健の全体像を理解し、健康教育が学齢期のみならず生涯に通じる健康の視座を持つことを目的とする。 学校保健は「生きる力」の基盤となる健康な発育発達の促進と健康生活の実践能力をつけることを目指して行われる。学校保健の教育現場における領域構造や内容を具体的な実践活動を含め概説し、教育活動全体で取り組む健康教育が次世代の健康推進に関与していることを学ぶ。

学習の到達目標　学校保健に関する法的根拠や構造を学ぶ。体育・健康に関する指導は、学校教育活動全体を通じ行われるものであることを理解する。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特になし

教科書　特になし

成績評価方法と基準　レポート20%、期末試験70%、授業態度10%、計100%

学習内容

第1回 学校保健の考え方、歴史
第2回 健康の評価 健康状態のチェック
第3回 疾病及び健康障害
第4回 感染症とその対応
第5回 心の健康問題とその対応
第6回 発達や行動上の課題と特別支援教育
第7回 保健室の役割ー学校保健センターとして
第8回 セーフティ・プロモーションと学校安全
第9回 救急処置及び看護法
第10回 現代的な健康課題1（喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育）
第11回 現代的な健康課題2（性教育・生活習慣病）
第12回 学校環境衛生
第13回 健康教育
第14回 食育と学校給食
第15回 生涯の健康をめざす地域と連携した学校保健活動
第16回 試験

その他　「学習指導要領ー体育、保健体育」や「学校保健安全法」の理解を深める

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校保健		健康管理学演習	2	後期　金 7, 8	冨樫 健二

授業の概要　健康管理に関連する原著論文抄読・討議により、最新の情報や知識を得るとともにプレゼンテーション技術を高める

学習の目的　健康管理や健康科学に関する今日的課題をもとに、自ら情報収集（論文検索）を行い、我が国における最新情報を得ることができる。知識を知識として理解するだけでなく、知識を人に伝達できるよう資料のまとめ方、プレゼンテーションの技術を向上する

学習の到達目標　論文の検索、取得方法や読み込む事による健康管理に関わる知識の習得、プレゼンテーション能力の向上などが見込める

受講要件　事前に健康管理学の単位を取得していること

予め履修が望ましい科目　健康管理学、運動生理学

教科書　授業の中で随時指示する

成績評価方法と基準　出席、プレゼンテーション内容、討議における発言、レポート等

オフィスアワー　木曜12：20～12：40

学習内容
教員が指定する学術雑誌の中から自分の読みたい論文を検索・収集し、抄読・討議する事により現代における身体活動（運動・スポーツ）の健康に及ぼす功罪について考察する。主な引用雑誌を以下に示す。

・体力科学
・体育学研究
・日本運動生理学雑誌
・健康支援
・運動疫学研究
また、インターネットなどを利用した文献や図書、雑誌などの検索・収集法、プレゼンテーションの方法などについても学ぶ
＜扱うテーマ＞
1.子どもの身体活動量、低体力化
2.食育(基本法)、食事バランスガイド
3.小中学校における保健授業の実態問題点
4.やせ志向、ダイエット、拒食症、サプリメント、成人病胎児期発症説
5.心の病、ストレス、自殺、キレる子ども
6.メタボリックシンドローム、生活習慣病
7.アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎
8.介護予防と運動、介護保険制度、後期高齢者医療制度
9.健康日本21(健康増進法)、中間評価、健康フロンティア戦略
10.すこやか親子21、母子保健
11.テレビゲーム、インターネット、携帯等の功罪
12.行動変容、運動継続
13.新しい健康づくりのための運動基準指針
14.エイズ、性教育
15.タバコ、薬物依存、アルコール
16.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校保健	〜66	スポーツ医学	2	後期　火 7, 8	福田 亜紀(教育学部非常勤講師)

授業の概要　スポーツにより発生する外傷・障害の疫学、病態、診断、予防対策、治療についてわかりやすく解説する。病態では、人体の模型や図などを用いて理解を容易にする。診断では、レントゲン像、CT像、MRIなどの画像所見を解説し、簡単な徒手テストや理学所見などを紹介する。治療については、現場で行うべき救急処置や病院での保存療法、手術療法など解説する。その他、スポーツと医学との関わりをいろいろなエピソードを交えて講義する。理解をより深くしてもらうため、教科書のみでなく、時にはスライドを用いて講義する。

学習の到達目標　スポーツ医学の基本的知識、学校スポーツでのスポーツ外傷・障害の病態と応急処置の習得する。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特になし

教科書　「スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・障害」市川宣恭編集 南江堂 2900円

成績評価方法と基準　講義中の発言、学習態度、レポート、その他で総合的に行う。

学習内容
第1回 総論
第2回 外傷処置
第3回 腰・骨盤・大腿の外傷・障害
第4回 下腿・足の外傷・障害(1)
第5回 下腿・足の外傷・障害(2)
第6回 頭・頚部の外傷・障害
第7回 上肢の外傷・障害(1)
第8回 上肢の外傷・障害(2)
第9回 膝の外傷・障害(1)
第10回 膝の外傷・障害(2)
第11回 膝の外傷・障害(3)
第12回 成長期の外傷・障害(1)
第13回 成長期の外傷・障害(2)
第14回 成長期の外傷・障害(3)
第15回 まとめ(1)
第16回 まとめ(2)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・体育	64~66	小学校専門体育A	2	後期　木 3, 4	加納 岳拓（教育）

授業の概要　一方的に概念や技能を伝達するのではなく，運動実践を通して自らの〈からだ〉で感じる気づきを手がかりとしながら，小学校における体育学習の意味について考える。

学習の目的　小学校における体育学習の意味と価値の再検討

学習の到達目標
・対話的実践に基づく自己形成
・小学校体育の授業を行うということの自覚と責任

予め履修が望ましい科目　体育教材研究

成績評価方法と基準　出席状況と共に，授業過程における参加態度，及び学習課題の内容を成績評価の資料とする。なお，評価の観点は，「問題把握の深さ」と「授業を通した自己の脱構築性」である。

オフィスアワー　・水曜日 12:00-13:00，保健体育科教育学III研究室（加納）

学習内容
1.学びへの誘い
2.脱・意志
3.遊びの成り立ち
4.表現運動・ダンスの分類―その意味世界―
5.ルールの意味
6.世界としての運動
7.運動の中心的なおもしろさ
8.わざの形成
9.協同的な学び
10.模擬授業実践①（子どもが夢中になる「運動の世界」づくり）
11.模擬授業実践②（子どもが夢中になる「運動の世界」づくり）
12.模擬授業実践③（子どもが夢中になる「運動の世界」づくり）
13.模擬授業実践④（子どもが夢中になる「運動の世界」づくり）
14.模擬授業実践⑤（子どもが夢中になる「運動の世界」づくり）
15.私の学びを振り返る

その他
・本授業は「小学校教員を目指す学生のための小学校専門体育」である。受講人数が多い場合は，この観点から第1回目の授業で受講制限を行う。
・受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。なお，運動のできる服装で第一体育館に集合すること。
・学習内容と学習課題の変更はあり得る。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 体育	64〜66	小学校専門体育B	2	後期　火 3, 4	八木規夫（教育学部保健体育講座） 鶴原清志（教育学部保健体育講座）

授業の概要　バスケットボールの基礎理論及び基本技術を学習する。また、器械運動（マット、跳び箱、鉄棒）の基本技能、指導法を習得する。

学習の目的　小学校の体育授業についての実施と知識をバスケットと器械運動を通して習得する

学習の到達目標　バスケットボール、器械運動の基礎理論及び基本技能を習得し、確かな指導力を身につける。

受講要件　学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

教科書　プリント資料を配布する。

成績評価方法と基準　実践の中で学ぶことが重要であるので、授業での取り組みを重視する。基本の技を習得し、技能テストに合格すること。

オフィスアワー
八木：金曜日12:00~13:00 場所教育学部八木研究室
鶴原：木曜日12:00~13:00 場所教育学部鶴原研究室

学習内容
バスケットボール
1.バスケットボールの施設・用具・の知識及び安全の理解
2.バスケットボールの個人的技術の理解と習得
3.バスケットボールの集団的技術の理解と習得
4.バスケットボールゲームの運営と審判法
器械運動
1.器械運動の基本的な考え方及び倒立
2.マット運動の基本
3.鉄棒運動の基本
4.跳び箱運動の基本
5.基本技の習得

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目体育	64・65・66	小学校専門体育C（ソフトバレーボール・水泳）	2	前期　月 3, 4	大隈節子，重松良祐

授業の概要　小学校体育で扱う運動領域のうち、ボール運動（ソフトバレーボール）と水泳実習

学習の目的　小学校体育で扱われるボール運動（ソフトバレーボール）と水泳の概要が理解できる

学習の到達目標
ソフトバレーボール：小学生用のソフトバレーボールのルールを理解し、ゲーム中に必要な基本プレーができるようになる。
水泳：水中運動における安全について理解し、水中運動に親しむ資質や能力の基礎を身につける。

教科書　日本野外運動研究会編「水泳の指導」杏林書院、斉藤秀俊「命を守る着衣泳」新潟日報事業社

成績評価方法と基準　出席状況、学習態度、試験結果の総合的評価

オフィスアワー
大隈（ソフトバレーボール）：水曜日 12：15〜12：45
重松（水泳）：月曜日 12：00〜13：00

学習内容
≪1回〜7回≫
1.ボール運動（ソフトバレーボール） 大隈担当
1）基本的なボール操作
2）基本技術・戦術の学習① パス
3）基本技術・戦術の学習② サーブ
4）基本技術・戦術の学習③レシーブ→トス
5）基本技術・戦術の学習④トス→アタック
6）簡単なゲーム分析の学習
7）ボール運動（ソフトバレーボール）のまとめ
≪8〜14回 ≫
2．水泳 重松担当
1）水慣れ、水遊び各種
2）水中の基本姿勢、浮身、潜水
3）けのび、ばた足
4）呼吸確保、クロール
5）着衣泳
6）平泳ぎ
7）背泳ぎ
≪15回≫ まとめ

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 体育	64〜66	小学校専門体育D（表現運動）	2	後期　火3, 4	後藤洋子（教育学部保健体育講座）

授業の概要　体つくり、動きつくりの観点から体操、表現運動、ダンスの基礎的な運動を学習し、これらの領域の特性や指導法の理解を深める

学習の目的　体つくり運動や表現運動の特性および学校体育での位置付けについて説明できる。多様な運動を組み合わせたり簡単な作品が構成できるようになる。

学習の到達目標　体つくり運動や表現運動の特性および学校体育での位置付けについて説明できる。リズム体操を活用して多様な運動を組み合わせることができるようになる。ダンスの簡単な作品を構成できるようになる。

受講要件　小学校の免許を取得しようとする者

成績評価方法と基準　授業での積極的な活動を重視する。評価に当たっては、授業での参加、活動状況（40%）と実技テストの成績（30%）、レポートなど（30%）を総合して評価する。

オフィスアワー　時間：水曜日12時から13時、場所：保体（運動方法学Ⅱ）研究室（後藤）

学習内容
第1回：ガイダンス；学校体育における体操・ダンス領域の取り扱いについて概説する。
第2回：ラジオ体操の変化と発展、ペア・ラジオ体操
第3〜5回：リズムに合わせて；リズム体操やリズムダンスの基礎的な動きについて実習し、身体への意識を高めると同時に動きつくりについて理解する。
第6回：発表1；課題作品をグループで演技発表し、同時に評価の観点について理解を深める。
第7〜8回：身体表現；動きのコントラスト、即興表現などについて実習する。
第9回〜12回：手具、用具の活用；動きを誘発する運動課題について理解する。また、運動の組み合わせ、変化、発展の方法について学習する。
第13〜14回：発表2；自由作品を構成してグループで発表する。同時に相互評価し、評価の観点について理解を深める。
第15回：まとめ

その他　受講の受け入れは施設、用具の関係から40名を上限とし、A類の上級生を優先する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
技術学		技術学概論	1	前期　水 3, 4	松岡 守（教育学部），魚住明生（教育学部），松本金矢（教育学部），中西康雅（教育学部）

授業の概要　技術・ものづくり教育コースの概要を理解する。

学習の目的　技術・ものづくり教育コース1年生にとって基礎となる必須の講義である。技術・ものづくり教育コースの概要を知り、卒業研究に向けて各研究室、各教員の研究内容を知る。

学習の到達目標
・技術教育コース全体の概要を理解する。
・各教員の担当する専門科目および研究内容について理解する。
・卒業研究のイメージが持てる。

教科書　教員が準備します。

成績評価方法と基準　授業態度 70%，各回のレポート30% 。ただし、レポート課題は教員により異なる。

オフィスアワー
松岡：毎週月曜日12:00〜13:00，場所：技術棟2階 電気教員室
魚住：毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟2階 技術教育第1教員室
松本：毎日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 機械工学第一実験室
中西：毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室
連絡窓口教員：松本金矢（教育学部技術教育講座）

学習内容
1．技術教育コースの概要
2．技術教育と材料加工（1）
3．技術教育と材料加工（2）
4．技術教育と材料加工（3）
5．技術教育と電気（1）
6．技術教育と電気（2）
7．技術教育と電気（3）
8．オリテン：現代社会と技術
9．技術と人類の歴史
10．技術と人間形成
11．まとめ：技術科教育の意義
12．技術教育と機械（1）
13．技術教育と機械（2）
14．技術教育と機械（3）
15．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
木材加工	67	木材工学概論	1	後期　木 3, 4	中西康雅（教育学部）

授業の概要　木材および木材加工に関する基礎的知識について学ぶ

学習の目的　木材および木材加工に関する基礎的知識と技能について学び、中学校技術科における材料加工に関する領域の基礎を習得する。

学習の到達目標
木材の組織、構造そして性質について理解し、製作に活かすことが出来る。
木工具を使用し、木材を加工する技術を習得する。

受講要件　作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

教科書　山下晃功編「木材の性質と加工」開隆堂

成績評価方法と基準　試験40%，レポート課題30%，授業ポートフォリオ10%，授業態度20%

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
第1回 概論、学校教育課程における木材に関する教育について
第2回 木工具と基本工作法（1）のこぎり
第3回 木工具と基本工作法（2）かんな
第4回 木工具と基本工作法（3）きり、つち
第5回 木材の分類と種類
第6回 木材の組織構造
第7回 木材の物理的性質
第8回 木材の機械的性質
第9回 木質材料
第10回 木材の強度試験（強度試験の準備）
第11回 木材の強度試験（強度試験）
第12回 木材の強度試験（試験結果の考察）
第13回 木工機械（1）丸のこ盤
第14回 木工機械（2）自動かんな盤、ボール盤
第15回 まとめ 中学校技術科における木材加工教育の実践と展望
第16回 試験

その他　作業服が必要です。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
木材加工	59期生〜66	木材加工実習及び製図	1	前期　木 7, 8, 9	中西康雅（教育学部）, 松本金矢（教育学部）

授業の概要　木工具を使用した木製品の製作実習を通して，設計法と製図，道具の手入れと使用法を習得する．

学習の到達目標
・木材や木質材料の特性を理解し、設計・製図することができる。
・木工具および木工機械を適切に使用し、手入れすることができる。
・木材、木質材料の特性を理解し、それに応じて製作することができる。

受講要件
のこぎり，かんなと作業服が必要です．
製作に必要な材料代を徴収ます（数千円程度）．
作品（スピーカ）は持ち帰ってもらいます．
欠席した場合は基本的に単位は取得できません．
やむを得ない事由がある場合に限り，時間外に追実習を行います．
なお，スピーカボックス以外の製作でもかまいません．

予め履修が望ましい科目　木材工学概論

教科書　資料，材料は教員が準備します．

成績評価方法と基準　設計と製作品の完成度，および実習状況（準備・清掃を含む）を総合的に評価します．

オフィスアワー
中西：毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室
松本：毎日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 機械工学第一実験室
連絡窓口教員：中西康雅（教育学部）

学習内容
第1回 実習の概要と安全教育，課題の説明
第2回 のこぎりの構造と使用法
第3回 かんなの構造と調整法，使用法
第4回 スピーカボックスの設計（設計図）
第5回 スピーカボックスの設計（製作図）
第6回 スピーカボックスの製作（けがき・材料取り）
第7回 スピーカボックスの製作（切断）
第8回 スピーカボックスの製作（穴あけ）
第9回 スピーカボックスの製作（かんながけ）
第10回 スピーカボックスの製作（仮組）
第11回 スピーカボックスの製作（修正）
第12回 スピーカボックスの製作（接着）
第13回 スピーカボックスの製作（塗装）
第14回 スピーカボックスの製作（ ユニット組み付け）
第15回 音響特性測定実験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
金属加工	67	金属加工学概論	1	後期　木 1, 2	中西 康雅（教育学部）

授業の概要　金属材料を中心に機械材料の特性ならびにその加工法等について学ぶ。

学習の目的　金属材料を中心に機械材料の特性ならびにその加工法等についての理論を習得する。

学習の到達目標
鋼やアルミニウムに代表される金属材料や、エンジニアリングプラスチック等の非金属材料といった、機械材料の機械的性質に関する知識を習得する。
またこのような材料に関する知識をもとに、ものづくり教育における材料工学の役割について説明できるようになる。

受講要件　実習時の作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　機械工学概論

教科書　冨士明好 著、「工業材料入門」、東京電機大学出版局、ISBN:978-4-501-41800-7

成績評価方法と基準　定期試験40%、レポート課題30%，授業態度20%，授業ポートフォリオ10%

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
第1回 概論 材料と機械の発展と技術教育・工業科教育
第2回 金属材料の機械的性質
第3回 金属材料の強度評価実習（設計・製作）
第4回 金属材料の強度評価実習（強度試験）
第5回 材料の力学1（応力とひずみ）
第6回 材料の力学2（フックの法則）
第7回 材料の力学3（許容応力に基づく設計）
第8回 材料の力学4（演習）
第9回 鉄系金属材料1（炭素鋼の性質、熱処理と機械特性）
第10回 鉄系金属材料2（ステンレス鋼・鋳鉄等の性質と機械特性）
第11回 非鉄系金属材料（アルミニウム、銅）
第12回 非金属材料（プラスチック等）
第13回 金属材料の加工実習（1）加工法の基礎
第14回 金属材料の加工実習（2）鋳造
第15回 学校教育課程における材料加工学の位置づけ
第16回 試験

その他　作業服が必要です。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
金属加工	59期生～66	金属加工実習及び製図	1	後期　木 7, 8, 9	中西康雅（教育学部）、松本金矢（教育学部）

授業の概要　板金加工、旋盤加工、溶接加工や鍛造等の金属加工領域の実習を通して、中学校技術科教員に必要な製図の知識、金属加工技術を学ぶ。

受講要件
材料代（2000円）を徴収します。作業服が必要です。
欠席した場合は基本的に単位は取得できません。
やむを得ない事由がある場合に限り、時間外に追実習を行います。
実習時の作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目
機械工学概論
金属加工学概論
材料力学

教科書　資料、材料は教員が準備します。

成績評価方法と基準　製作品の完成度および実習状況を総合的に評価します。

オフィスアワー
中西：毎週水曜日12:00～13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室
松本：毎日12:00～13:00，場所：技術棟1階 機械工学第一実験室
連絡窓口教員：中西康雅（教育学部技術教育講座）

学習内容
第1回 実習テーマの説明，実習準備，安全教育
第2回 設計（アンプボックスの部品図・展開図）
第3回 板金加工（金切りばさみの練習）
第4回 板金加工（はんだ付けの練習）
第5回 板金加工（アンプボックスのけがき・切断）
第6回 板金加工（アンプボックスの曲げ）
第7回 手仕上げ（側板の切断、塗装、取り付け）
第8回 機械加工（アンプボックスの穴あけ）
第9回 機械加工（化粧板の切断・穴あけ）
第10回 機械加工（つまみの旋盤加工）
第11回 手仕上げ（アンプボックス・つまみのねじ切り）
第12回 手仕上げ（化粧板・つまみの研磨）
第13回 アンプ回路の製作（はんだ付け）
第14回 アンプ回路の組み付け（配線）
第15回 アンプの試聴・評価、修正

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
機械	59～67	機械工学概論	1	前期　木 5, 6	松本金矢（教育学部技術教育講座）

授業の概要　PBL教育による課題を通して、技術教育における機械工学分野の概要について理解し、機械に対する興味関心を育み、専門知識の重要性を認識するとともに、コミュニケーション能力などのスキルアップを目指す。

学習の目的　機械に対する興味関心を持ち、機械工学に関する基礎的な知識を身につける。

学習の到達目標　中学校技術科、工業高校機械科における機械工学分野についての基礎を身につけ、機械のもつ可能性を理解するとともに、発展する機械工学を持続的に見つめる力をつける。

教科書　資料・材料は教員が準備します。

成績評価方法と基準　与えられた課題と発表・討論の内容、さらにはレポートを総合的に評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00～13:00、場所：技術棟1階機械工学第一実験室

学習内容
第1回 技術教育と機械工学，講義概要の説明（講義）
第2回 工学的センスを磨こう①「疑問を持つ」日頃感じている機械に関する疑問（発表）
第3回 工学的センスを磨こう①「疑問を持つ」日頃感じている機械に関する疑問（討論）
第4回 工学的センスを磨こう②「繊細な神経を持つ」 日頃感じている機械製品の不満（発表）
第5回 工学的センスを磨こう②「繊細な神経を持つ」 日頃感じている機械製品の不満（討論）
第6回 工学的センスを磨こう③「アイディアを持つ」 新たな発電システムの提案（発表）
第7回 工学的センスを磨こう③「アイディアを持つ」 新たな発電システムの提案（討論）
第8回 「最近の機械製品の話題」（講義）
第9回 工学的センスを磨こう④「志しを持つ」機械工学に託す夢を語る（発表）
第10回 工学的センスを磨こう④「志しを持つ」機械工学に託す夢を語る（討論）
第11回 夢プロジェクト①（説明・グループ分け）
第12回 夢プロジェクト②（テーマ選択）
第13回 夢プロジェクト③（自主学習・調査）
第14回 夢プロジェクト④（発表準備）
第15回 夢プロジェクト⑤（発表・討論）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
機械	59期生〜65	機械工学実験実習	1	前期　火 7, 8, 9	松本金矢（教育学部），中西康雅（教育学部）

授業の概要　自転車，エンジン等の分解・組立・整備を模擬講義形式で行うとともに，エンジン効率の測定実験や，引張試験など機械工学実験を行う．

学習の目的　実験。実習を通して、機械の分解整備を体験するとともに、基礎的な機械実験の内容を理解する。

学習の到達目標　実習を通して、機械のメカニズムを理解するとともに、分解・整備の技術を身につける。また、機械工学に関する基礎的な実験能力を身につける。

受講要件　実験実習の作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　機械工学概論

教科書　資料，材料は教員が準備します．

成績評価方法と基準　実験状況およびレポートにより評価します．

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学第一実験室

学習内容
第1回 実験の概要と安全教育，グループ編成，課題の説明，レポートの書き方
第2回 自転車の分解・組み立て（模擬講義形式）・前輪部
第3回 自転車の分解・組み立て（模擬講義形式）・ハンガー部
第4回 自転車の分解・組み立て（模擬講義形式）・後輪部
第5回 エンジンの分解・組み立て（模擬講義形式）・4ストローク大
第6回 エンジンの分解・組み立て（模擬講義形式）・4ストローク小
第7回 エンジンの分解・組み立て（模擬講義形式）・2ストローク
第8回 エンジンの効率測定
第9回 機械工学実験・引張試験
第10回 機械工学実験・たわみ試験
第11回 機械工学実験・硬さ試験
第12回 機械工学実験・衝撃試験
第13回 機械工学実験・ねじり試験
第14回 機械工学実験・レポート検討会
第15回 実験装置の整備

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
電気		電気工学概論	1	後期　月 5, 6	松岡 守

授業の概要
技術における電気の学習は得手不得手が激しい。電気工学の基礎知識を広く浅く捉えようとすると，人により全く上滑りで，興味をさらに削ぐ結果になりかねない。そこでこの授業では電気工学の全般について興味・関心を引くトピックを交えて講義する。
具体的には以下の項目を取り上げる。
・電気工学として必要な実務的な知識，技能
・交流回路の理論的な取り扱いの理解
・電子回路の実際の知識
・電気にまつわる工夫とその技術的な有用性の理解
を深めつつ直接には目に見えない電気についての興味・関心を持つことを目的とする。

学習の目的　電気工学の基礎とその応用、その意義について理解を深め、興味の浅かった人は深く、すでに興味のある人はより深く、興味を持ち、それを他者に伝えることができるようになる。

学習の到達目標
・電気工学として必要な実務的な知識，技能
・交流回路の理論的な取り扱いの理解
・電子回路の実際の知識
・電気にまつわる工夫とその技術的な有用性の理解
を深めつつ
・電気についての興味・関心を持つ

教科書　大熊康弘著「図解でわかる はじめての電気回路」技術評論社

成績評価方法と基準　レポート、試験により総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日12:00〜13:00 研究室
メールにて随時 matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1週 電気回路基礎の学び方、電流と電圧
第2週 電気回路、合成抵抗、キルヒホッフの法則
第3週 ホイートストンブリッジ、直流回路と回路素子
第4週 電流が作る磁界
第5週 磁気回路、電磁力
第6週 電磁誘導作用
第7週 静電気とコンデンサ
第8週 中間試験
第9週 交流の基礎
第10週 交流回路
第11週 複素数による交流の計算
第12週 三相交流
第13週 半導体
第14週 トランジスタ回路
第15週 電界効果トランジスタ、直流電源

その他　電気工学実験実習の前に受講しておくこと。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
電気	66	電気工学実験実習	1	後期　火 1, 2, 3	松岡 守（教育学部）

授業の概要
1．オシロスコープの使用法実習
2．回路計（テスタ）の製作
3．蛍光灯回路の製作・実験
4．ブザー回路の製作実習・実験
5.ゲルマラジオの製作・実験

学習の目的　中学校技術科で行う電気ないし電子工学に関する実習よりも高度の内容について実験実習を行い、中学校の技術科の電気ないし電子工学に関する多様な制作等の指導に対応できるようになる。

学習の到達目標
・電気，電子回路を取り扱う基礎的な知識，技能を獲得する
・電気，電子回路の実際についての興味，関心を持つ

予め履修が望ましい科目　電気工学概論，電気回路

教科書　随時資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席，レポート，試験により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12:00～13:00、技術棟2階電気工学研究室

学習内容
第1回 概要説明，安全に関する注意，オシロスコープの説明
第2回 オシロスコープ実習（1）
第3回 オシロスコープ実習（2）
第4回 回路計の説明，回路計製作（1）
第5回 回路計製作（2）
第6回 回路計製作（3）
第7回 回路計試験
第8回 蛍光灯の説明
第9回 蛍光灯実験（1）
第10回 蛍光灯実験（2）
第11回 ブザー回路製作，試験
第12回 ブザー回路改造（1），試験
第13回 ゲルマラジオの製作
第14回 ゲルマラジオの実験（1）
第15回 ゲルマラジオの実験（2）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報とコンピュータ		情報工学概論	1	後期集中	長谷川元洋（教育学部非常勤講師）

授業の概要　プログラミングを通して、コンピュータの基本的なしくみを理解する。

学習の目的　中学校・技術・家庭科の「情報に関する技術」を指導する教師として必要な知識と技術を習得する。

学習の到達目標
コンピュータや情報通信ネットワークの基本的な知識を習得する。プログラミングの基本を身につける。

受講要件　なし

予め履修が望ましい科目　教養教育の情報科学基礎

教科書　平成25年度 イメージ＆クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室 CBT対応 ISBN 978-4-7741-5399-5

成績評価方法と基準
試験 30%、担当箇所の説明資料とその説明 70%
ただし、出席が授業回数の2／3に満たないものは試験の受験を認めない（失格とする）。また、遅刻1回につき、0.5回欠席として扱う。

オフィスアワー
授業の前後。その他、電子メールで時間、場所等を相談。
連絡窓口教員：松岡 守（教育学部教授）matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．講義概要、コンピュータの基本構成
2．2進数、論理演算
3．基数変換・補数
4．入出力装置等
5．確認とまとめ
6．ソフトウェアとマルチメディア
7．システム構成
8.ネットワーク
9．セキュリティ
10．データベース
11．アルゴリズムとプログラミング
12．マネジメント
13．経営戦略とシステム戦略
14．総合問題
15．総合問題

その他　テキストは大学生協等で各自購入すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報とコンピュータ		情報工学実験実習	1	前期集中	長谷川元洋（教育学部非常勤講師）

授業の概要　コンピュータを利用した計測・制御の基礎を実験・実習を通じて学習する。なお、制作するロボットは共通の形態のものとすることを基本とし、制御プログラムの作成演習を中心の内容とする。

学習の目的　中学校・技術・家庭科の授業において、ロボット制御の授業を実践するために必要な知識と技術を習得する。

学習の到達目標
ロボット制御や自動計測などの基本を知る。
制御プログラムを作成する能力を身につける。

受講要件　情報工学概論を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　情報工学概論、電気工学概論

教科書　ドリトル、eBASICによる計測・制御とプログラミング 紅林秀治、青木浩幸（著）

成績評価方法と基準　レポート20%、作品（制御プログラムも含む）80% 計100%。 ただし、3分の2以上の出席であること。（欠席は減点する）

オフィスアワー
授業の前後の時間。
連絡窓口教員：松岡 守（教育学部教授）matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.概要説明・プログラミング言語ドリトルの解説
2.ロボット制御に必要なプログラミングの講義・演習（1）
3.ロボット制御に必要なプログラミングの講義・演習（2）
4.ロボット制御に必要なプログラミングの講義・演習（3）
5.ロボットの製作、ドリトルによる基本的な制御プログラミング（3モーター制御）（1）
6.ロボットの製作、ドリトルによる基本的な制御プログラミング（3モーター制御）（2）
7.ロボットの製作、ドリトルによる基本的な制御プログラミング（3モーター制御）（3）
8.ロボットコンテストに必要な動作をさせるプログラミング演習（1）
9.ロボットコンテストに必要な動作をさせるプログラミング演習（2）
10.ロボットコンテストに必要な動作をさせるプログラミング演習（3）
11.ドリトルによる制御プログラムの製作（1）
12.ドリトルによる制御プログラムの製作（2）
13.ドリトルによる制御プログラムの製作（3）
14.ドリトルによる制御プログラムの製作（4）
15.ドリトルによる制御プログラムの製作（5）
16.ドリトルによる制御プログラムの製作（6）
17.ドリトルによる制御プログラムの製作（7）
18.ドリトルによる制御プログラムの製作（8）
19.ドリトルによる制御プログラムの製作（9）
20.発表資料の作成（ロボットの動作の様子を撮影したビデオデータの加工を含む）
21.プレゼンテーション（相互評価）
22.ドリトルによる計測プログラムの製作
22.5 まとめ

その他
テキストや実習に用いるロボット教材を、事前に各自で購入して、授業を受けること。購入方法は授業までに掲示で連絡する。
使用教材： スタジオMyuが販売しているロボット教材（最新機種を使用するため、夏に型番と金額を連絡する）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
栽培		栽培学概論・実習	1	前期　金 5, 6, 7	井田俊彦（教育学部非常勤講師）

授業の概要　その時間のテーマごとに，約30分の講義の後に，実際に圃場に出て実習を行う。それらを通して，農作物の栽培理論や技術を体得し，植物の生育メカニズムや植物を取り巻く栽培環境にも深く関心を持ち，併せて農業や食糧問題にも関心を深める。

学習の目的　学生が，実習を通して，植物の栽培・管理についての理論と技術を習得すると共に，勤労観や観察力，忍耐力，協調性を身につけることをねらいとしている。

学習の到達目標
・植物栽培・管理についての理論と技術を習得する。
・実習を通して，勤労観や観察力，忍耐力，協調性を身につける。

受講要件　実習時の作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　基礎教育科目の基礎生物学 I

教科書　毎回授業ごとにプリントを準備し，配布する。

成績評価方法と基準　授業態度，レポート，小テスト，実習態度等を総合的に評価する。

オフィスアワー
授業時間の前後
また、連絡窓口教員（中西康雅）のオフィスアワーは次の通り。
毎週水曜日 12時〜14時 場所：材料加工教員室

学習内容
1回 ガイダンス
2回 水稲の移植
3回 ミニトマトの定植
4回 茶の収穫・加工
5回 サツマイモの定植
6回 ナシの着果調節
7回 水稲の生育調査
8回 サツマイモの栽培管理
9回 バレイショの収穫
10回 刈り払い機の安全操作
11回 大型トラクターの操作法
12回 ダイズの利用
13回 ナシの袋掛け
14回 ミニトマトの収穫
15回 ミカンの栽培管理
内容は農場の計画により変更されることがあります。

その他　実習を伴う授業であるため、実習のできる服装で授業に取組み、安全に配慮すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
木材加工	～65	木質材料学	2	前期　火 3, 4	中西 康雅（教育学部）

授業の概要　木質材料の基本的特性および加工法について学ぶ。

学習の目的　木質材料の特性および加工法について学び，製作活動を通じてその理論と技能を身につけることを目的とする。

学習の到達目標
木質材料の材料構造や性質について理解し、製作に活かすことが出来る。
木工機械を利用して、材料を加工することが出来る。

受講要件　実習時の作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目
木材工学概論
木材加工実習及び製図

教科書　山下晃功編「木材の性質と加工」開隆堂

成績評価方法と基準　定期試験40%，レポート課題40%，授業態度20%

オフィスアワー　毎週水曜日12:00～13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
第1回 材料教育における木質材料の位置づけ
第2回 木質材料の特徴と分類
第3回 製材
第4回 木質材料の製造方法
第5回 木質材料と地球環境
第6回 木質材料の加工と工具
第7回 木質材料を利用した加工実習（概念設計）
第8回 木質材料を利用した加工実習（詳細設計）
第9回 木質材料を利用した加工実習（製図）
第10回 木質材料を利用した加工実習（材料加工1）
第11回 木質材料を利用した加工実習（材料加工2）
第12回 木質材料を利用した加工実習（組み立て1）
第13回 木質材料を利用した加工実習（組み立て2）
第14回 木質材料を利用した加工実習（塗装）
第15回 木質材料を利用した加工実習（評価）
第16回 試験

その他　作業服が必要です。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
機械	59期生～66	材料力学	2	前期　火 5, 6	松本金矢（教育学部）

授業の概要　機械工学分野において構造物の設計について学ぶ。

学習の目的　材料と構造の関係を理解し、設計の基礎を身につける。

学習の到達目標　梁など簡単な構造物の設計ができる。

教科書　ビジュアルアプローチ材料力学、石田良平、秋田剛著、森北出版

成績評価方法と基準　講義中に課されるレポートおよび期末試験の結果を総合的に評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00～13:00、場所：技術棟1階機械工学第一実験室

学習内容
第1回 材料力学と設計問題
第2回 静力学の基礎
第3回 応力とひずみ
第4回 材料の基本的特性
第5回 許容応力と安全率
第6回 軸力を受ける棒の問題
第7回 熱応力
第8回 梁の曲げ応力と曲げモーメント
第9回 せん断応力とせん断力
第10回 せん断力と曲げモーメント
第11回 せん断力図と曲げモーメント線図
第12回 梁の基本的な例題
第13回 梁のたわみの基礎式
第14回 梁のたわみに関する例題
第15回 不静定梁
第16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
機械	59期生～65	原動機工学	2	後期　木 3, 4	松本金矢（教育学部）

授業の概要　外燃機関、内燃機関等の原動機の原理、機構や特性について講義し、環境問題について考える。自動車の見学・調査も行う。

学習の目的　外燃機関、内燃機関等の原動機の原理、機構や特性について、さらには環境問題についての基礎原理を理解する。

学習の到達目標　原動機の基礎を理解し、原動機に関する教材を開発する力を身につける。

教科書　竹花有也著『内燃機関工学入門』理工学社

成績評価方法と基準　講義中に課されるレポートおよび期末試験の結果を総合的に評価します。また、出席も重視します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00～13:00、場所：技術棟1階機械工学第一実験室

学習内容
第1回 原動機と内燃機関の分類
第2回 往復動機関
第3回 ガソリン機関1
第4回 ガソリン機関2
第5回 ディーゼル機関
第6回 ロータリ機関とその他の機関
第7回 排出ガス浄化対策と環境問題
第8回 ガスタービン
第9回 ジェット機関，ロケット機関
第10回 燃料と燃焼
第11回 熱力学
第12回 内燃機関の性能
第13回 原動機に関する教材開発1
第14回 原動機に関する教材開発2
第15回 原動機に関する教材開発（発表）
第16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
機械	57期生〜66	設計製図	2	後期　火 5, 6	松本金矢（教育学部技術教育講座）

授業の概要　課題を通してJISによる機械製図について講義し、CADの基礎についても学ぶ。

学習の目的　機械製図を読むこと、描くことができるようになる。CADの基礎を理解する。

学習の到達目標　機械製図を読むこと書くことができる。

教科書　大西清著『JISに基づく標準製図法』理工学社

成績評価方法と基準　課題である製作図（5〜6回提出）により評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学第一実験室

学習内容
第1回 製図について
第2回 製図機材とその使い方
第3回 図面の大きさ，尺度，線，文字
第4回 基礎となる図法
第5回 投影法
第6回 寸法記入法
第7回 オリジナル製図の発表
第8回 主要な機械部品の図示法（ねじ）
第9回 主要な機械部品の図示法（ばね）
第10回 主要な機械部品の図示法（歯車）
第11回 図面の管理と見取り図
第12回 建築製図，電気製図，化学製図
第13回 二次元CADの基礎および実習
第14回 三次元CADの基礎および実習
第15回 三次元CADによる設計

その他　製図のための機材（定規，コンパスなど）と用紙が必要となります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
機械・工業	59期生〜65	工業力学	2	前期　木 3, 4	松本金矢（教育学部）

授業の概要　機械工学分野において構造物の設計に必要となる、力のつり合いや分布力の作用などの静力学と、運動方程式を用いた物体の運動と力の関係およびエネルギの概念等の動力学について学ぶ。

学習の目的　静力学・動力学について理解する。

学習の到達目標　工業力学の基礎を理解し、具体的な力学問題を解くことができる。

教科書　入江敏博・山田元著『工業力学』理工学社

成績評価方法と基準　講義中に課されるレポートおよび期末試験の結果を総合的に評価します。また、出席も重視します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学第一実験室

学習内容
第1回 力学とは
第2回 単位系，力の合成と分解
第3回 平面内の力と力のモーメント
第4回 平面内の力の合成とつり合い
第5回 立体的な力と力のモーメント
第6回 立体的な力の合成とつり合い
第7回 重心と分布力
第8回 運動学について
第9回 剛体の平面運動
第10回 剛体の空間運動
第11回 相対運動
第12回 運動の法則と運動方程式
第13回 仕事とエネルギ
第14回 摩擦・衝突
第15回 振動問題
第16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
電気		電気回路	2	前期　火 3, 4	松岡 守

授業の概要　電気の物理的な理解とは異にして電気工学では複雑な電気・電子回路を効率よく解析するための手法がある。その理論と実際を演習を含めて理解，活用できるようにする。

学習の目的　電気技術者の電気理論の取り扱い方を理解し、それに基づいて電気技術について中学生に語れるようになる。

学習の到達目標
・電気回路に関する法則を理解する
・直流回路，交流回路の回路解析ができる

教科書　講義の際に指定する。

成績評価方法と基準　ミニレポート，期末試験により総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日12:00〜13:00、研究室
メールにて随時 matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 直流回路1
第2回 直流回路2
第3回 交流回路1
第4回 交流回路2
第5回 記号法1
第6回 記号法2
第7回 記号法3
第8回 中間テスト
第9回 三相交流1
第10回 三相交流2
第11回 三相交流3
第12回 各種の波形1
第13回 各種の波形2
第14回 各種の波形3
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
電気・工業		電磁気学	2	前期　月 5, 6	松岡 守（教育学部技術教育講座）

授業の概要　技術的な応用の際に求められる電気，磁気現象の理論的取り扱いを実際の例を示しつつわかりやすく講義する。

学習の目的　中学校の技術の授業で電気に関わる応用について説明したり、工夫を要するものづくり教育を進めるにはその基となっている電磁気学の基本的な理解が不可欠である。たとえば発変電に関する説明、センサやモーターを用いたロボット作りを適切に進めるにはその背景にある電磁気学上の基本原理を理解していることが不可欠で、そうした知識を本授業を通じて獲得する。

学習の到達目標
・技術的な応用に使われている電気，磁気現象を理論的に解釈できる。
・技術的な応用に電気，磁気現象を理論的に正しく適用できる。

予め履修が望ましい科目　電気工学概論

成績評価方法と基準　小テスト，レポート，期末試験により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12:00〜13:00 教育学部技術棟2階電気工学研究室

学習内容
1 概要，電荷とクーロン力
2 電界
3 電位
4 導体
5 誘電体1
6 誘電体2
7 電流に働く力と磁界I
8 電流に働く力と磁界II
9 磁性体I
10 磁性体II
11 電磁誘導I
12 電磁誘導II
13 電磁波I
14 電磁波II
15 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
電気		エネルギー変換工学	2	後期　水 1, 2	松岡 守（教育学部）

授業の概要　電気エネルギーと動力等との変換を行う機器の仕組みと使用法を理解する。

学習の目的　エネルギー変換の観点から省エネルギーについて説明できるようになる。

学習の到達目標　変圧器，発電機，電動機等の電気機器の仕組み，理論，設計の要点がわかる。

予め履修が望ましい科目　電気工学概論，電気回路

成績評価方法と基準　小テスト，レポート，期末試験により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12:00〜13:00 教育学部技術棟2階教員室

学習内容
1 概要，変圧器1
2 変圧器2
3 変圧器3
4 直流発電機1
5 直流発電機2
6 直流電動機1
7 直流電動機2
8 直流電動機3
9 誘導電動機1
10 誘導電動機2
11 交流発電機1
12 交流発電機2
13 交流整流子電動機
14 その他の電気機器1
15 その他の電気機器2，まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
電気	65	電子工学	2	後期　月 1, 2	松岡 守（教育学部）

授業の概要　電子回路の解析法，電子回路の応用製品の原理を理解する

学習の目的　ダイオードやトランジスタといった半導体素子の動作原理とその応用利用を理解し、語れるようになる。

学習の到達目標
・電子回路素子の原理，特性を理解する
・簡単な電子回路について動作原理と解析法を理解する
・電子回路の応用製品についてその仕組みのあらましを理解する

予め履修が望ましい科目　電気工学概論，電気回路

教科書　講義の際に指定する。

成績評価方法と基準　ミニレポート，試験により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12:00〜13:00、技術棟2階電気工学研究室

学習内容
第1回 半導体素子1
第2回 半導体素子2
第3回 半導体素子3
第4回 アナログ回路の基礎1
第5回 アナログ回路の基礎2
第6回 アナログ回路の基礎3
第7回 アナログ回路の基礎4
第8回 中間テスト
第9回 パルス回路
第10回 通信システム1
第11回 通信システム2
第13回 通信システム3
第14回 マルチメディア機器の基礎1
第15回 マルチメディア機器の基礎2

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
電気	67	工業数学	2	前期　月 5, 6	中西 康雅（教育学部）

授業の概要　技術・工業に必要な数学について講義する．

学習の目的　工学的な諸問題を数学的にとらえ、数式モデルにより解くための基礎的内容に関する知識を得る。

学習の到達目標
1.工業事象を、方程式、連立方程式、関数を利用し、数式モデルにより解くことができること。
2.工業事象を、ベクトル・行列を利用し、数式モデルにより解くことができること。
3.工業事象を、微分、積分、微分方程式を利用し、数式モデルにより解くことができること。

成績評価方法と基準　試験40%，レポート課題30%，授業ポートフォリオ20%，授業態度10%

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
1．概論 数
2．ベクトルと行列
3．ベクトル・行列による数式モデル
4．関数とグラフ
5．初等関数
6．関数による数式モデル
7．関数の極限と微分
8．初等関数の微分
9．初等関数の積分法
10．積分による数式モデル
12．微分方程式の基礎
13．微分方程式による数式モデル
14．偏微分
15．変数分離法
16．試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
電気		計測・制御	2	後期　月 9, 10	松岡 守（教育学部）

授業の概要　日常生活や，産業を支える計測と制御の基本を講義する。

学習の目的　日常生活や産業を支える計測と制御の基本を理解し，中学校技術・家庭科技術分野や工業高校の計測・制御等に応用できるようになるとともに，計測と制御の基本について指導するための専門知識を獲得する。

学習の到達目標
・計測と制御の基本を理解する。
・計測・制御が日常生活や産業でどのように応用されているのかを知る。

予め履修が望ましい科目　電気工学概論

成績評価方法と基準　小テスト，レポート，期末試験により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12:00〜13:00 教育学部技術棟2階電気教員室

学習内容
第1回 電子計測制御の考え方、センサとアクチュエータ
第2回 データ変換とデータ処理、電子計測機器
第3回 シーケンス制御の基礎、シーケンス制御に使われる機器
第4回 シーケンス回路の基本回路、プログラマブルロジックコントローラ
第5回 フィードバック制御の基礎、フィードバック制御システムの応答と安定性
第6回 フィードバック制御システムの応答と安定性
第7回 中間テスト
第8回 フィードバック制御システムの制御装置、フィードバック制御の実例
第9回 コンピュータによる制御
第10回 メカトロニクス実習（1）
第12回 メカトロニクス実習（2）
第13回 プログラマブルコントローラ実習（1）
第14回 プログラマブルコントローラ実習（2）
第15回 プログラマブルコントローラ実習（3）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報とコンピュータ	66	情報処理工学	2	後期　木 5, 6	中西 康雅（教育学部）

授業の概要
・現代社会において情報技術が果たしている役割について学習する。
・計測と制御のためのプログラミングについて学習する。
・情報通信ネットワークシステムの仕組みについて学習する。

学習の目的
・現代社会において情報技術が果たしている役割について学習する。
・計測と制御のためのプログラミングについて学習する。
・情報通信ネットワークシステムの仕組みについて学習する。

学習の到達目標
・現代社会における情報技術の役割を理解し、その役割と技術について指導することができる。
・プログラミング技法の基礎を習得し、実装できる。
・通信ネットワークシステムの基本的な仕組みを理解し、説明できる。

受講要件　情報工学概論を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　情報工学概論、情報工学実験実習

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　出席、レポート、試験などにより総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00～13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
第1回 ：ガイダンス、学校教育における位置づけ、データと情報
第2回 ：情報処理の進化と産業界での利用
第3回 ：データの表現とコード、アルゴリズム
第4回 ：ハードウエアの基本構成と進化
第5回 ：プログラムの基本概念
第6回 ：プログラミング演習（1）：構造化プログラミングの基礎（順次、反復、分岐）
第7回 ：プログラミング演習（2）：手続きと例外処理
第8回 ：計測技術、制御技術とコンピュータ
第9回 ：コンピュータによる計測技術演習（計測と通信，プログラミング）
第10回 ：コンピュータによる制御技術演習（制御のためのプログラミング）
第11回 ：コンピュータによる計測技術・制御技術演習（1）（設計・製作・プログラミング）
第12回 ：コンピュータによる計測技術・制御技術演習（2）（プログラム実装・動作確認）
第13回 ：通信ネットワークの仕組み
第14回 ：通信ネットワーク演習
第15回 ：まとめ
第16回 ：試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報とコンピュータ	62-59	電子計算機基礎	2	後期　木 5, 6	中西 康雅（教育学部）

授業の概要
・現代社会において情報技術が果たしている役割について学習する。
・計測と制御のためのプログラミングについて学習する。
・情報通信ネットワークシステムの仕組みについて学習する。

学習の目的
・現代社会において情報技術が果たしている役割について学習する。
・計測と制御のためのプログラミングについて学習する。
・情報通信ネットワークシステムの仕組みについて学習する。

学習の到達目標
・現代社会における情報技術の役割を理解し、その役割と技術について指導することができる。
・プログラミング技法の基礎を習得し、実装できる。
・通信ネットワークシステムの基本的な仕組みを理解し、説明できる。

受講要件　情報工学概論を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　情報工学概論、情報工学実験実習

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　出席、レポート、試験などにより総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00～13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
第1回 ：ガイダンス、学校教育における位置づけ、データと情報
第2回 ：情報処理の進化と産業界での利用
第3回 ：データの表現とコード、アルゴリズム
第4回 ：ハードウエアの基本構成と進化
第5回 ：プログラムの基本概念
第6回 ：プログラミング演習（1）：構造化プログラミングの基礎（順次、反復、分岐）
第7回 ：プログラミング演習（2）：手続きと例外処理
第8回 ：計測技術、制御技術とコンピュータ
第9回 ：コンピュータによる計測技術演習（計測と通信，プログラミング）
第10回 ：コンピュータによる制御技術演習（制御のためのプログラミング）
第11回 ：コンピュータによる計測技術・制御技術演習（1）（設計・製作・プログラミング）
第12回 ：コンピュータによる計測技術・制御技術演習（2）（プログラム実装・動作確認）
第13回 ：通信ネットワークの仕組み
第14回 ：通信ネットワーク演習
第15回 ：まとめ
第16回 ：試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
電気・工業		工場見学	1	通年	松岡守（教育学部）

授業の概要　毎年不定期に開講される見学に参加し、相手側担当者と討論を行うとともに、見学内容及び周辺の技術に関するレポートを作成する。

学習の目的　産業の実際を知り、将来の技術教育、工業教育に資する。

学習の到達目標　中学校の技術科、工業高校の教員に就いた際に産業の実際を語れるような現場の実際を知る。

受講要件
見学日程は掲示にて通知する。
危険を伴うこともあるため，学生教育研究災害傷害保険等に必ず加入すること。
見学に支障のない服装で参加すること。

教科書　必要に応じて書籍を紹介したり、プリントを配布する。

成績評価方法と基準
参加態度50%、レポート50%。
通常授業のない時期に不定期に実施する。各回の参加は、見学先についてあらかじめ予習し、見学時はメモ・質問等をするなど積極的に対応、見学後に所定のレポート提出をもって認定する。授業としての認定時間は
半日の見学 4時間
一日の見学 8時間
であり、合わせて30時間以上の参加をもって単位認定の対象とする。

オフィスアワー
松岡 守（教育学部）
毎週月曜日12:00〜13:00，技術棟2階 電気工学研究室

学習内容
通常授業のない時期に不定期に実施する。各回の工場見学の構成は訪問先の状況により時間配分は変わりうるが、以下に示すように訪問先についての事前説明、訪問（前半、後半）、訪問後の振り返りからなる。
1 工場見学（1）全体オリエンテーション、訪問先について
2 工場見学（1）訪問（前半）
3 工場見学（1）訪問（後半）
4 工場見学（1）振り返り
5 工場見学（2）訪問先について
6 工場見学（2）訪問（前半）
7 工場見学（2）訪問（後半）
8 工場見学（2）振り返り
9 工場見学（3）訪問先について
10 工場見学（3）訪問（前半）
11 工場見学（3）訪問（後半）
12 工場見学（3）振り返り
13 工場見学（4）訪問先について
14 工場見学（4）訪問（前半）
15 工場見学（4）訪問（後半）
16 工場見学（4）振り返り、全体まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	67	生活経営学概論	2	前期　水3, 4	乗本秀樹（教育学部）

授業の概要　よく知られている書物（小説）によって「経営」のイメージをつかんだ後に、さまざまな問題や可能性に気づきこれを持続させることの大切さ、目的合理的に対応することの大切さ、ならびに個人や家族を越えた協働の大切さについて考えます。

学習の目的　生活や人生の経営的な側面について理解すること、および個人・家族・地域・社会という生活場を醸成してゆくために欠かせないいくつかのスタンス（姿勢）を理解することが目的です。

学習の到達目標　生活の問題や改善方向について、別掲のキーワードを用いて説明できるようになることをめざします。

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　試験で70%を、質問や提出物提出状況で30%を評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日14:40〜16:10 教育学部1号館3階 家庭経営研究室 norimoto@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 授業の進め方の説明
第2回 マネジするとはどういうことか
第3〜6回 生活の構造と気づき
第7〜10回 生活の目標と経営過程
第11〜14回 協働と地域形成
第15回 整理と確認
第16回 試験

その他　家政教育コース1年生のオリエンテーション科目。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	66	家庭経済論	2	前期　金1, 2	乗本秀樹（教育学部）

授業の概要　家庭生活や消費生活の経済動向、ならびにそれらを分析把握するための基礎的な概念について講義する。

学習の目的　中学・高校の家庭経済的内容について、わからない事項がなくなり、実感をもって教えられるようになる。また、インターネットにより手軽に得られる基礎資料である総務省家計調査を、見ること使うことができるようになる。

学習の到達目標　家庭科のなかの経済（学）用語がきちんと理解できること、見聞きする経済問題に関心が向けられるようになること。

予め履修が望ましい科目　生活経営学概論

教科書　教科書は用いない予定です。必要に応じて資料を配付します。

成績評価方法と基準　試験80%、メモ・提出物20%。

オフィスアワー　毎週火曜日14:40〜16:10 教育学部1号館3階 家庭経営研究室 norimoto@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ＜オリエンテーション＞
第2回 家庭科教科書の経済的内容の点検
第3回 家庭の収支把握の枠組み
第4回 同上
第5回 物価と実質計算
第6回 消費と社会経済の関係
第7回 ＜質疑応答＞]
第8回 割引の概念
第9回 利子の概念
第10回 利子の計算
第11回 保険の考え方と私的保険加入の意思決定
第12回 社会保険の制度
第13回 所得税の計算
第14回 家庭の生活資金循環と生活設計
第15回 ＜質疑応答＞と家庭科教科書の経済的内容の確認
第16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	66	家族関係論	2	後期　金7, 8	林未和子(教育学部)

授業の概要　家庭科教育における家族領域について考えるための基礎となる授業

学習の目的　人間にとって最も身近で親密な関係の一つである家族を多様な視点で捉え、現代家族の抱える問題を理解する。

学習の到達目標　家庭科の家族領域を教える際に、どのような点に留意すればよいか、自分なりの考えを持つことができる。

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
前期・後期 毎週金曜日16:30〜17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
具体的なテーマとしては、以下のような内容で講義を進めていく予定であるが、場合によっては、講義項目の変更・追加もあり得る。
1〜3回多様な家族概念、家族イメージ
4〜6回家族の定義について考える
7・8回家族と仕事、キャリア、ジェンダー
9・10回現代家族の抱える問題
11・12回日本の家族と外国の家族
13・14回家庭科における家族領域の授業実践
15回各自の関心あるテーマに基づき調べ学習

その他　中・高等学校「家庭」の教員免許に必要な科目であるため、受講生には、まず学校の教科としての家庭科に関心を持ってもらいたいと思っています。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	65	家政学原論	2	後期　金 9, 10	乗本秀樹（乗本秀樹）

授業の概要　家庭科・家政学の中心概念である意思決定について述べている外国語（英語）の文献を精読する。

学習の目的　日常の消費生活でよりよく選択するための環境とスキルについて、知識を得る。

学習の到達目標
教材資料に書かれている選択に関する考察を、じっくりと考えながら読むこと。
そして、わが国における選択行為の現状と照らし合わせてみること。

予め履修が望ましい科目　生活経営学概論

教科書　初回授業で指示します。

成績評価方法と基準　和訳発表と討議への参加状況（50%）、レポート（50%）によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日14:40〜16:10 教育学部1号館3階 家庭経営研究室 norimoto@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2・3回 和文文献をもとに講義（英文を読む意義について）。
第4〜13回 英文文献の和訳発表と討議。
第14回 各自が論点を設定し、文献講読をふまえて意見発表。
第15回 論点についてまとめて提出する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	67−64	消費者教育論	2	前期　火 7, 8	吉本敏子（教育学部）

授業の概要　情報化、国際化等のめまぐるしい社会経済の動きの中で、消費生活の変化も激しく、また多様な消費者問題が発生している。2004年には消費者基本法が公布・施行されたが、そこには「消費者の権利の尊重」と「消費者の自立の支援」を消費者政策の基本とすること等が規定されている。そこで、この授業では、現代の消費生活や消費者問題に関する理解を深め、自立した消費者とは何かを考える。また、消費者教育の重要性を認識し、その基本的な知識を習得する。

学習の目的
・現代の消費生活や消費者問題に関する理解を深める。
・自立した消費者としての意思決定能力や実践能力を高める。
・消費者教育の基本的な知識を習得する。

学習の到達目標
・現代の消費生活の特徴や消費者問題を理解し、その事象や原因について説明することができる。
・自立した消費者としての意思決定能力や実践能力を高めるために、問題解決学習等を通して、具体的・実践的な手立てを考えることができる。
・消費者教育の基本的な知識を習得し、消費者教育の必要性や基本的な考え方について説明することができる。

教科書
日本消費者教育学会編『新消費者教育Q＆A』 中部日本教育文化会(420円)
その他講義内容に応じてプリント等を配布する。

成績評価方法と基準　レポート80%、出席20%

オフィスアワー
毎週火曜日13:00〜14:30
教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 e-mail: ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp
Tel: 059-231-9304（内線9304）

学習内容
1．現代の消費生活と課題
2．消費者問題とその原因(1)
3．消費者問題とその原因(2)
4．消費者の権利と責任
5．消費者教育の理念
6．消費者教育の内容
7．消費者教育と環境教育
8．消費者教育の方法
9．行政における消費者教育
10．企業における消費者教育
11．学校における消費者教育
12．〜16．消費者啓発資料の作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
被服学（被服製作実習を含む。）	66－64	被服学概論	2	前期　月 5, 6	増田智恵（教育学部）

授業の概要　”ひとが“衣服”を身につけることの価値を社会的機能と心理的効能から見出す。また、環境を配慮した衣服素材や廃棄も踏まえた管理について考究する。さらに衣生活の具体的な問題，例えば 衣環境の管理・廃棄問題などの現状と対策など，高齢化社会に対応した身体にやさしい衣服や既製服などの問題点をグループで見つけ，解決する方法についてはPBL形式の能動的学習と研究をグループで行う。

学習の目的　人として自立し社会人としてコミュニケーションがとれる衣生活のための知識を得て，衣服を選択・管理することができるようになる。

学習の到達目標　衣生活の改善とそのための情報を習得することが出来る。さらに，衣服を通しての自分づくりを見出すことができる。

受講要件　被服構成学を受講しておくと，衣服に関する内容が理解しやすい。

予め履修が望ましい科目　被服構成学

教科書
ファッショナブル衣生活，プリント配布予定

追加の場合もある。

成績評価方法と基準　出欠20%，レポート2セット60%，テスト（発表評価の予定）30%

オフィスアワー　毎週水曜日9:30〜10:30 教育学部1号館3階 被服学研究室 tomoem@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1〜2回 衣服の起源と役割について
3〜5回 日本の衣服の歴史
6〜7回 現代の衣服 I ファションと流行と衣服による心理的効果
8〜9回 現代の衣服 II 環境を配慮した衣服素材と管理 (廃棄を含む)
10〜14回 1〜8回の講義を踏まえ、現代社会における衣生活などに関する課題をグループにより抽出、調査・研究を行って発表する。なお，課題を究明するため1〜8回のなかでも学外調査およびグループ学習時間を取り入れる。
15〜16回 発表結果を全員で討議と評価を行って、まとめる。
なお，受講人数と受講者の被服に関する基礎知識の程度により追加・変更を行う場合がある。

その他　受講者の専門によって，被服に関する知識がばらつくことがあるため，それに対応した内容に変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
被服学（被服製作実習を含む。）	67－63	被服構成学	2	後期　月 5, 6	増田智恵（教育学部）

授業の概要　被服学の基礎となる衣服の構成に必要な基礎的な理論と技術について講義する。今日の既製服生産状況を把握し，今後の新しい衣服に求めらる衣服設計について，様々な観点から考える。とくに，ITやパソコンを利用した衣服設計を取り，実体験学習をとり入れる。

学習の目的　着心地の良い衣服の構成を設計するための，3次元人体形状から型紙の自動作成，衣服設計までの一連の学習を行い，衣服に関する知識を得る。

学習の到達目標　衣服の構造と人体との関係に関する，衣服購入や管理のための常識的基本情報を被服学全体で学ぶための知識と実技を学ぶための能力を身につけることができる。また，グループ学習と成果発表により，人間関係の育成と発表能力を養うきっかけを作ることができる。

受講要件　1．被服設計の体験学習としてオリジナルマイドレス製作をするので，設計道具は準備できるようにすること。授業中講義内容を記録し，講義時間中に処理できない内容は復習して質問できるようにしておくと，本講義の意義が理解しやすい。2．被服実習室が無くなったため，机と床の設備を毎回整える必要があります。時間外に被服実習用に教室を使用時にも必ず机と床の設備は整えて下さい。他の講義や実習に教室を使用する学生さんやその持ち物にアイロンや針などによる危険が及ばないように注意してください。授業時間以外の教室使用は必ず申し出で許可を得ること。

予め履修が望ましい科目　1年生が中心の科目のためとくになし。

教科書　ファッショナブル衣生活，パソコンによるパターンメーキング，プリント配布予定

成績評価方法と基準　出欠20%，レポート2セット60%，テスト（発表評価の予定）30%

オフィスアワー　毎週水曜日9:30〜10:30 教育学部1号館3階 被服学研究室 tomoem@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1〜 4回 衣服設計のための人体形状の把握
・人体の構造と人体計測について
5〜 8回 衣服の構造理論とパターンの構成
・人体寸法と衣服寸法
・衣服原型の構成とコンピュータによる原型作成の試み
→ マイドレス・ガーメント
9〜11回 衣服の裁断・縫製・補正方法と適合性評価について
12〜16回 11回の講義を踏まえ、年代別の人体寸法の変化、既製服や介護服パターン構成について
グループで研究して発表を行う。全員で討議、評価してまとめる
なお，受講人数と受講者の被服に関する基礎知識の程度により追加・変更を行う場合がある。

その他　本講義において，「被服学概論」「被服実習 I ・II」「消費生活科学実習 I 」を受講するための基礎的な被服の構成の知識と個人の衣服製作パターンを把握しておくことが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
被服学（被服製作実習を含む。）	66-	衣生活科学	2	前期　火 5, 6	長井 茂明 （非常勤講師）

授業の概要　衣生活を支える衣料品の特に素材面についての内容を科学的観点から詳述する。ヒトにおける被服の意義、役割、機能、取り扱い方などの概略を扱い、被服を構成している素材である繊維、糸、布について、それらの種類や特徴や性質を概説し、被服の消費過程での手入れにおける洗濯や仕上げについても述べる。

学習の目的　衣食住という基本を構成している衣服について学び、対身体的かつ対社会的な衣服の重要性を認識することによって、衣服の面から、健康、快適、安全な生活が営めるようになれる知識を習得すること。

学習の到達目標　学習の到達目標 ヒトにとっての衣服の重要性を知り、また素材的な認識を深めることにより、衣服が単なる物ではなく、人間の第2の皮膚であることを知って、より合理的な衣生活が営めるようになれるはずである。

成績評価方法と基準　出席と期末試験を勘案して評価する。

オフィスアワー　窓口 増田 毎週水曜日 9:30〜10:30

学習内容
衣生活を支える衣料品の素材面についての内容で、ヒトにおける意義、役割、機能、取り扱い方等の概略を扱い、被服の素材である繊維、糸、布について、以下の講義を行う。
1．被服序説ー起源、着用目的、機能
2．被服序説2ー被服の管理、被服の材料
3．繊維の変遷、ミクロ構造
4．繊維の分類、構造
5．各種繊維の性質
6．糸の性能
7．布の分類と特徴
8．織物の組織や構造
9．織物の外観的、着心地的、形態安定的性能
10．織物の保健衛生的、理化学的抵抗、強さの性能
11．織物の材料的な仕上げや加工
12．被服の洗濯
13．被服の洗濯後の仕上げ
14．被服の損傷劣化
15．講義のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
被服学（被服製作実習を含む。）	66-64	被服実習 I	1	後期　火 5, 6, 7	増田智恵（教育学部）

授業の概要
被服構成学における理論的な衣服構成の解釈を踏まえて，実際に個々の衣服を人体形状の把握から，パターンメーキング，製作の実習を行い，衣服設計の理論と技術の基礎を習得する。
パソコンにより求めたトルソーパターンをもとに，コンセプトを設定してデザイン展開から実物製作を行う。
家庭科教材の開発を試み，提案資料を作成する。

学習の目的　人が身につける衣服（下半身を覆う）の構成を理解し，製作ができるようになる。実際の家庭科教材でのこものづくりなどの情報を集め，製作方法の知識と技術を得る。

学習の到達目標　衣服製作方法と衣服選択のための知識を習得する。小・中・高の教職を希望する人は，家庭科被服では「ものづくり」の実習が重視されているため受講しておくことが望ましい。

受講要件　被服構成学と被服学概論履修済みのこと。

予め履修が望ましい科目　被服構成学と被服学概論

教科書　ファッショナブル衣生活，パソコンによるパターンメーキング，プリント配布予定

成績評価方法と基準　出欠20%，レポート2セット60%，テスト（発表評価の予定）30%

オフィスアワー　毎週水曜日9:30〜10:30 教育学部1号館3階 被服学研究室 tomoem@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1〜 2回 被服構成学での情報を復習と衣服の種類と作製方法の一部の紹介
3〜 4回 人体を包む衣服の構成とデザイン(素材選択)
3次元着装シミュレーションによりデザイン構想と製作手順を習得する
5〜 6回 個々の着用目的，体形，嗜好に適合したデザインパターンの作成。
（被服構成学で作製した胴部とパターンを自動作成して利用）
7〜14回 裁断・縫製
15回 完成作品の感性，設計などの個人と他者による評価を行い，まとめる。
16回 グループにより小中学校教材について，刺繍も含めて小物作製をしてまとめてレポートする。
＊受講生の技術力により追加・変更する場合があります。

その他　1．縫製道具など必要なものを揃えておくこと。2．被服実習室が無くなったため，机と床の設備を毎回整える必要があります。時間外に被服実習用に教室を使用時にも必ず机と床の設備は整えて下さい。他の講義や実習に教室を使用する学生さんやその持ち物にアイロンや針などによる危険が及ばないように注意してください。授業時間以外の教室使用は必ず申し出で許可を得ること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
被服学（被服製作実習を含む。）	65-63	被服実習 II	1	前期　火 2, 3, 4	増田智恵（教育学部）

授業の概要
被服構成学における理論的な衣服構成の解釈を踏まえて，家庭科教育に必要な衣生活における衣服設計を考究する。被服実習 II では立体と平面構成の被服実習を行う。和服としては「浴衣」，洋服ではワンピース・ブラウスを取り上げ，教材研究に発展できる縫製技術と開発を学ぶ。

学習の目的　ひとを包む衣服の機能と着装効果の両面から衣服設計のための知識を得る。さらに，そのための素材やデザインを選択し製作するための基本縫製技術を学ぶ。

学習の到達目標　衣服製作方法と衣服選択のための知識を習得する。小・中・高の教職を希望する人は，必須ではないが現場での「ものづくり」が取り上げられ実技の力が要求されるため受講をすすめます。

受講要件　中高の非常勤を含めて教職を希望の学生は受講しておくこと。

予め履修が望ましい科目　被服構成学，被服学概論，被服実習 I

教科書　Clothing Construction ，ファッショナブル衣生活，パソコンによるパターンメーキング，プリント配布予定

成績評価方法と基準　出欠20%，レポート2セット60%，テスト（発表評価の予定）30%

オフィスアワー　毎週水曜日9:30〜10:30 教育学部1号館3階 被服学研究室 tomoem@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1回 私たちの着用している平面構成の衣服について
Tシャツ，きものなどの特徴を調べる。浴衣などのきものの構成と着用方法（道具を含む）
2〜3回 立体構成の衣服としてワンピース・ブラウスのデザイン・設計を行う。
4〜12回 立体もしくは平面構成のいずれかの衣服縫製を実施する。
13〜16回 被服製作教材を取り上げ，製作案と製作方法
を研究して発表を行い，全員で評価してまとめる。
受講生の技術力により変更する場合がある。

その他　1．縫製道具など必要なものを揃えておくこと。2．被服実習室が無くなったため，机と床の設備を毎回整える必要があります。時間外に被服実習用に教室を使用時にも必ず机と床の設備は整えて下さい。他の講義や実習に教室を使用する学生さんやその持ち物にアイロンや針などによる危険が及ばないように注意してください。授業時間以外の教室使用は必ず申し出で許可を得ること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
食物学（栄養学・食品学及び調理実習を含む。）	67-	栄養学概論	2	後期　木 9, 10	磯部由香（教育学部）

授業の概要　身体の健全な発育や健康を維持していくために必要な栄養に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

学習の目的　家庭科などの教科において、栄養に関する内容についての指導ができる。

学習の到達目標　栄養学の基礎知識、分析力、コミュニケーション能力を身につける

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書　「食の視点」今井勝行、磯部由香（文理閣）

成績評価方法と基準　出席・提出物・試験・発表によって評価する

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00 教育学部1号館3階 食品学研究室

学習内容
1．健康と栄養
2．栄養素の種類とはたらき 炭水化物
3．栄養素の種類とはたらき たんぱく質
4．栄養素の種類とはたらき 脂質
5．栄養素の種類とはたらき ビタミン・ミネラル
6．消化と吸収
7．エネルギー代謝
8．食事摂取基準
9．ライフステージの栄養学 幼少期・学童期・青少年期
10．ライフステージの栄養学 成人期・老齢期
11．ライフステージの栄養学 妊娠期・授乳期
12．スポーツ・労働と栄養
13．日本人の食生活の現状
14．自由課題による発展学習
15．自由課題による発展学習の発表
16．試験

その他
初回に必ずテキストを持参すること。
電卓を持参する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
食物学（栄養学・食品学及び調理実習を含む。）	66-63	食品学	2	前期　金 3, 4	磯部由香（教育学部）

授業の概要　食品中に含有される主要な成分の化学的性質と特徴について講述する。また、加工・貯蔵などによる変化および成分間の反応、食品の安全と衛生に関する問題などについての知識を身につけることを目標とする

学習の目的　家庭科などの教科において、食品に関する内容についての指導ができる。

学習の到達目標　食品学の基礎知識、読解力、分析力、コミュニケーション能力を身につける

予め履修が望ましい科目　栄養学概論

教科書
「食品学Ⅰ」 食品の化学・物性と機能性 加藤保子ら編（南江堂）
「食の視点」今井勝行ら著（文理閣）

成績評価方法と基準　出席、レポート、期末試験によって評価する

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00 教育学部1号館3階 食品学研究室

学習内容
1．食品の成分について
2．水分の性質と特徴
3．タンパク質の化学的性質と特徴
4．脂質の化学的性質と特徴
5．炭水化物の化学的性質と特徴
6．ビタミンの化学的性質と特徴
7．ミネラルの化学的性質と特徴
8．五大栄養素以外の成分の化学的性質と特徴
9．香気成分と化学的性質と特徴
10．色素成分と化学的性質と特徴
11．呈味成分と化学的性質と特徴
12．補足解説
13．食品学分野の文献講読
14．食品学分野の文献についての発表
15．食品学分野の文献についての解説
16 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
食物学（栄養学・食品学及び調理実習を含む。）	66―64	食生活論	2	後期　月 5, 6	平島 円（教育学部）

授業の概要　日本人のライフスタイルの変化による食生活の変化について理解を深めることにより，その問題点について考え，より良い食生活を送るための基礎的知識を身につける．

学習の目的　自分の食生活を見直し，よりよい食生活が送れるようになる．また，日本の食文化や外国の食文化についての知識を得る．

学習の到達目標　自分の食生活を見直し，より健康な生活を送るための知識と実行力を身につける．

予め履修が望ましい科目　「栄養学概論」，「食品学」

教科書　食生活論 第3版（朝倉書店）

成績評価方法と基準　課題への取り組み態度50%，期末試験50%，計100%

オフィスアワー　毎週月曜日17:00〜18:00 教育学部1号館3階 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．食生活とは？
2〜3．日本人の食生活の現状と食生活指針
4〜8．世界の食生活，食習慣と食文化
9〜12．食に関係する疾病（生活習慣病や食物アレルギー）
13〜15．食品の消費と流通
4〜14．は課題発表およびその準備の時間も含む．
16．定期試験

その他　環境教育該当科目

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
食物学（栄養学・食品学及び調理実習を含む。）	66-64	食品材料学	2	後期　月 3, 4	磯部由香（教育学部）

授業の概要　食品を植物性食品、動物性食品、加工食品などに分類し、それぞれの食品材料学的特性を知る。

学習の目的　家庭科などの教科において、食品に関する内容についての指導ができる。

学習の到達目標　食品材料および加工食品に関する基礎知識、科学的思考力、分析力、コミュニケーション能力を身につける

予め履修が望ましい科目　栄養学概論、食品学

成績評価方法と基準　レポート、報告会または試験によって評価する

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00 教育学部1号館3階 食品学研究室

学習内容
1．ガイダンス（食品材料学とは、食品群の分類について）
2.食品加工の原理および食品保存の原理
3〜13．加工実習を通して、植物性食品および動物性食品についての特徴を知る。
14、15．3〜13の内容についてのまとめおよび発展学習

その他　本授業は環境に関する資格「消費生活アドバイザー」取得に関わる分野を扱う科目である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
食物学（栄養学・食品学及び調理実習を含む。）	65―64	調理科学	2	後期　月3, 4	平島 円（教育学部）

授業の概要　食品のおいしさとは何かということを考慮し，調理操作や食品の調理性について科学的に把握する．食品の組織や成分が変化を起こすことについて理解を深め，調理技術の向上に役立たせる．

学習の目的　おいしく食べる工夫ができるようになる，調理における科学的な実験方法の知識を得る，調理に関する授業ができるようになる．また，食品や栄養に関する知識と調理科学を結びつけて考えられるようになる．

学習の到達目標　おいしさの要因について理解し，おいしく食べるための知識を身につける．また，各自で調理の科学性について調べることにより調理についての関心度を高める．

受講要件　「食品学」，「栄養学概論」を履修済みであること

予め履修が望ましい科目　「調理実習I」または「消費生活科学実習II」，「食品材料学」

教科書　新食品・栄養科学シリーズ 調理学（化学同人），食品学I（南江堂）

成績評価方法と基準　課題への取り組み態度50%，期末試験50%，計100%

オフィスアワー　毎週月曜日17:00〜18:00 教育学部1号館3階 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1〜4．おいしさとその測定方法について
5．調理操作について（非加熱操作と加熱操作）
6〜15．主要な食品とその調理法についての科学的解明（植物性食品，動物性食品，成分抽出素材）
6〜15．は課題発表とするため，その準備時間も含む．
16．定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
食物学（栄養学・食品学及び調理実習を含む。）	65-64	食物学実験	1	前期　火7, 8, 9	磯部由香（教育学部）

授業の概要　実験を安全に行うために必要な知識や基本的な操作方法を習得する。また、食品の成分及び消化に関する知識を実験により確認する。

学習の目的　家庭科などの教科において、食品に関する内容についての指導ができる。

学習の到達目標　科学的思考力、企画力、分析力、コミュニケーション能力を見につける

予め履修が望ましい科目　食品学、食品材料学

成績評価方法と基準　出席、実験中の態度、レポート、発表によって評価する

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00 教育学部1号館3階 食品学研究室

学習内容
第1回 ガイダンス、基本実験
第2回 成分を目で見る1（水分、灰分、脂肪）
第3回 成分を目で見る2（炭水化物・ビタミン）
第4回 食品からの脂肪の抽出
第5回 調理によるビタミンCの変化
第6回 塩分の定量（沈殿滴定）
第7回 油の酸化（中和滴定）
第8回 食品の色について
第9回 調理による食品の色の変化
第10回 褐変防止（ポリフェノール）
第11回 ポリフェノールの定量
第12回 糖の定量
第13回 酵素に関する実験（アミラーゼ、プロテアーゼ）
第14回 発展実験
第15回 実験から授業案を考える・まとめ

その他　実験の内容は変更になる場合があります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
食物学（栄養学・食品学及び調理実習を含む。）	66―64	調理実習 I	1	前期　火1, 2, 3	平島 円（教育学部）

授業の概要　日本料理の実習を主に，中華・西洋料理の実習を行う．この実習により，食品を扱う時の衛生面，実際の調理に必要な食品の知識および調理器具の取り扱い方と調理操作の基本的な技術を修得する．また，材料の重さを量ることや栄養価計算することにより，食品の栄養素についての知識も習得する．

学習の目的　食品を扱う時の衛生面についての知識を得る，学校教育における調理実習の指導ができるようになる

学習の到達目標　基礎的な調理方法を学ぶことにより，調理の基本操作を修得する．また，様々な調理を行うことで料理のレパートリーを増やし，バランスの良い食生活を送ることのできる能力を身につける．

教科書　基礎調理実習 食品・栄養・大量調理へのアプローチ（化学同人）

成績評価方法と基準　実習への取り組み態度20%，レポート60%，定期試験20%，計100%

オフィスアワー　毎週月曜日17:00〜18:00 教育学部1号館3階 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．オリエンテーション
（手の洗い方，身なりの整え方，実習室の使い方，実習内容について，当番の割振り）
2．食品成分表の使い方および栄養価計算の仕方，材料発注の仕方，包丁の扱い方，材料の切り方
食材の洗い方，調理器具の種類と取り扱い方，盛り付けや配膳方法によるもてなし方について
3〜8．日本料理の実習
9〜11．西洋料理の実習
12〜14．中国料理の実習
15．課題実習（弁当）
16．実技試験

その他
五訂増補食品成分表，白衣，三角巾および上履きを用意すること．
受講希望者多数の場合は家政教育コースの学生を優先する．

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
食物学（栄養学・食品学及び調理実習を含む。）	66－64	調理実習 II	1	後期　金 2, 3, 4	平島 円（教育学部）

授業の概要　日本・中華・韓国・西洋料理の実習を行うことにより食文化や食習慣に対する理解を深め，望ましい食生活を営む能力を養う．また，各自が考えた献立により授業を行い，家庭科教員に必要な実践的を技能を高める．さらに学校給食において指導する力をも身につける．

学習の目的　学校教育における調理実習の指導ができるようになる

学習の到達目標　複数の献立を組み合わせて実習を行い，その手順を考えることにより，実習をスムーズに行うための調理技術およびコミュニケーション能力を身につける．

受講要件　「調理実習 I 」または「消費生活科学実習 II 」を履修済であること

教科書　基礎調理実習 食品・栄養・大量調理へのアプローチ（化学同人）

成績評価方法と基準　実習への取り組み態度 20%，レポート 60%，定期試験20%，計100%

オフィスアワー　毎週月曜日17:00〜18:00 教育学部1号館3階 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．オリエンテーション（実習内容について，当番の割振り）
2〜3．日本料理の実習（魚介類の処理方法，煮物のポイント，正月料理）
4〜6．中華料理（乾物の料理法，あんかけ料理，揚げ物および点心のポイント）
7．韓国料理（味付け方法）
8〜10．西洋料理（煮込み料理，ソース，蒸し物，ケーキのポイント，クリスマス料理）
11〜15．課題実習（郷土料理，アジア料理，欧米料理）
16．定期試験

その他
五訂増補食品成分表，白衣，三角巾および上履きを用意すること．
受講希望者多数の場合は家政教育コースの学生を優先する．

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
住居学（製図を含む。）	〜66	住居学概論	2	前期　金 5, 6	伊東 理恵（非常勤講師）

授業の概要
1．中学校家庭科に位置づけられている住居領域の指導に必要な基礎的知識を得ることを目的とする．
2．生活者の視点から住まいを見つめなおし，快適かつ安全に暮らしていくための問題意識をもち，さらに
これらをふまえ豊かな住まいのあり方について学ぶ．

学習の目的
家庭科などの教科において，住居分野についての指導ができる．

学習の到達目標
1．住まいに対する関心を持ち，生活者としてよりよい住生活を見つめる姿勢を養う．
2．住まいや住環境を快適に維持することがらについての指導ができる．

教科書　図解住居学編集委員会 『図解住居学1 住まいと生活(第2版）』 彰国社 （2011）

成績評価方法と基準　出席、レポート、期末試験により総合的に評価を行う。

学習内容
第1回 ：ガイダンス／住居学について
第2回 ：日本の住まい
第3回 ：世界の住まい
第4回 ：風土と住宅
第5回 ：住まいの維持管理
第6回 ：家族の変容と住まい
第7回 ：住まいと環境（1）（音環境、光環境）
第8回 ：住まいと環境（2）（暖かい住まい）
第9回 ：住まいと環境（3）（涼しい住まい）
第10回：住まいと環境（4）（換気と結露、シックハウス）
第11回：地域に住まう（1）地域コミュニティ
第12回：地域に住まう（2）住民参加とまちづくり
第13回：地域に住まう（3）居住地計画
第14回：新しい集住のかたち
第15回：これからの住まい

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
住居学（製図を含む。）	66～	住生活環境論	2	後期　木 3, 4	伊東 理恵（非常勤講師）

授業の概要
1．中学校家庭科に位置づけられている住居領域の指導に必要な基礎的知識を得ることを目的とする。
2．高齢者問題や地球環境問題など、現代社会の抱える住まいと関わる問題に着目し、生活者の視点から住まいを見つめなおし、快適かつ安全に暮らしていくための問題意識をもつ。さらにこれらをふまえ豊かな住まいのあり方について学ぶ。

学習の目的
家庭科などの教科において、住居分野についての指導ができる。

学習の到達目標
1．持続可能な住まいに対する積極的な関心を持ち、生活者としてよりよい住生活を見つめる姿勢を養う。
2．住まいや住環境を快適に維持することがらや防災を考慮した住み方についての指導ができる。

受講要件　住居学概論を履修済みであること

教科書　『住まいのデザイン』（仮題） 朝倉書店、2015年発行予定

学習内容
第1回 ：ガイダンス
第2回 ：環境と循環型社会
第3回 ：住まい方・ライフスタイル
第4回 ：地域生活と協働の住まいづくり
第5回 ：災害に備える
第6回 ：住まいのかたち
第7回 ：集合住宅の住まい方
第8回 ：人間工学
第9回 ：福祉住環境
第10回：住まいの設計と表現
第11回：住まいと住生活の管理
第12回：住まいの安全と健康
第13回：住まいの快適性
第14回：色彩計画
第15回：高齢者の住まい

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
住居学（製図を含む。）	65~	住居学実習(製図を含む。）	1	後期　木 5, 6, 7	伊東 理恵（非常勤講師）

授業の概要
家庭科の住生活領域の指導において必要となる住空間の表現に関する基礎知識を身につけ、住生活と住空間の対応関係を考察し、図面や模型に表現できることを目指す。

学習の目的
1．住宅広告などの平面図から空間情報を読み取り、正しい評価や選択ができる。
2．住宅が居住者の生活や行動をに基づいて構成されていることを理解することができる。
3．平面図を書いたり模型を作成することを通して、住空間を表現することができる。

学習の到達目標
1．住宅平面のトレースや模型作成をとおし、空間情報や暮らしの読み取りができる。
2．家族と住まいの関わりを理解し、豊かな住生活について自分の考えを提案することができる。

受講要件　住居学概論を履修済みであること

教科書　原知子他著『図説住まいの計画 住まい方から住空間をデザインする 新訂版』 彰国社

成績評価方法と基準　出席および実習中の態度、課題ごとの提出物や発表により総合的に評価する。

学習内容
第1回 ：ガイダンス（実習の進め方，設計・製図の方法の説明など）
／家庭科における住生活領域の内容と実習の意義
第2回 ：間取りの学習の必要性について（家庭科教科書掲載の住宅図面を教材にして）
第3回 ：住宅の選択、住宅の分類、好きな建築家を見つけよう
第4回 ：住宅広告図面を読む（戸建住宅、集合住宅）
第5回 ：平面図を見ながら人体寸法，生活行為，各空間について学ぶ
第6回 ：地震と住まいについて学ぶ
第7回 ：設計図の種類と書き方について学ぶ
第8回 ：住宅を計画する1－単身者の住まい（1）
第9回 ：住宅を計画する1－単身者の住まい（2）
第10回：住宅を計画する2－将来の自分の住まい（1）
第11回：住宅を計画する2－将来の自分の住まい（2）
第12回：住宅を計画する2－将来の自分の住まい（3）
第13回：住宅模型を作る（1）
第14回：住宅模型を作る（2）
第15回：作品発表および講評

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育学（実習及び家庭看護を含む。）	65	保育学概論(実習を含む。)	2	前期　金 7, 8	林 未和子(教育学部)

授業の概要　家庭科教育における保育領域について考えるための基礎となる授業

学習の目的　保育をめぐる家庭や社会の今日的課題に対して関心を持つとともに、乳幼児期の子どもに積極的に関わろうとすることができるようになる。

学習の到達目標　家庭科の保育領域を教える際に、どのような点に留意すればよいか、自分なりの考えを持つことができる。

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
前期・後期 毎週金曜日16:30〜17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
具体的なテーマとしては、以下のような内容で講義を進めていく予定であるが、場合によっては、講義項目の変更・追加もあり得る。
1・2回家庭科教科書にみられる保育領域
3回育児関連情報(雑誌、パンフレットなど)と商品の検討
4・5回子どもの発達と生活(離乳食・おやつの試食)
6回乳幼児期の特徴と子どもへの関わり方
7・8回家庭科における保育領域の授業実践
9・10回保育実習の事前指導
11〜14回保育園または幼稚園での観察・体験実習
15回各班あるいは各自のテーマに基づき調べ学習

その他　中・高等学校「家庭」の教員免許に必要な科目であるため、受講生には、まず学校の教科としての家庭科に関心を持ってもらいたいと思っています。(注)幼稚園教諭や保育士をめざす学生に対応した授業ではありません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育学（実習及び家庭看護を含む。）	64	家庭看護学	2	後期　火 3, 4	川瀬浩子（教育学部非常勤講師），宮﨑つた子（教育学部非常勤講師）

授業の概要　少子・高齢化社会となった現在の家族機能と発達課題に関する理解を深め、ライフサイクルからみた健康問題や健康管理について必要な知識と基本的な看護技術を習得する。本授業では、子どもから高齢者までの家庭看護について、講義と一部に演習（学外を含む）を取り入れながら学ぶ。

学習の目的　家族の「発達課題の達成」「健康的なライフスタイルの獲得」「健康問題への対応」を支援する能力を身につけることを目的とする。

学習の到達目標
① 健康・看護の定義を説明できる
② 家庭看護の役割を説明できる
③ 家族の発達課題を列挙できる
④ 家族の発達課題の達成を支援するための家庭看護を具体的に述べる
⑤ 健康的なライフスタイルが説明できる
⑥ 家族が健康的なライフスタイルを獲得することを支援するための家庭看護を具体的に述べる
⑦ 各ライフステージの健康問題を列挙できる
⑧ 各ライフステージの健康問題への対応を支援するための家庭看護を具体的に述べる
⑨ 家庭看護に必要な基本技術が説明できる
⑩ 家庭看護に必要な基本技術を実施する
⑪ 家族に対し、家庭看護を行う

成績評価方法と基準　個人・グループ発表25%、課題レポート提出15%、最終課題レポート60%、計100%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー
世話役 吉本敏子
毎週火曜日13:00〜14:30
教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 e-mail: ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp
Tel: 059-231-9304（内線9304）

学習内容
1）健康、看護、家庭看護；講義・演習
2）家族の機能と発達課題；講義・演習
3）ライフサイクルからみた健康問題と健康管理：小児期；講義・演習
4）〜5）学外演習（乳幼児：発育・発達を促す方法）
6）ライフサイクルからみた健康問題と健康管理：思春期・成熟期；講義・演習
7）ライフサイクルから見た健康問題と健康管理：更年期・老年期；講義・演習
8）健康的なライフスタイル（望ましい生活習慣）、健康行動論；講義・演習
9）家庭看護に必要な基本技術（1：家庭で測定可能な健康に関する測定項目の意義と方法）；講義・演習
10）家庭看護に必要な基本技術（2：身体の清潔）；講義・演習
11）家庭看護に必要な基本技術（3：食事の世話など）〜12）家庭看護に必要な基本技術（4：薬の飲ませ方など）；講義・学外演習
13）家庭看護に必要な基本技術（5：主要な症状とその危険性の見分け方、および看護）；講義・演習
14）家庭看護に必要な基本技術（6：救急の対応が必要な身体のサインとその対応）；講義・演習
15-16）課題発表

その他
学外実習について
第4〜5回（乳幼児：発育・発達を促す方法）は、実習場所の関係で、第4週の火曜日午前中を予定。
第11〜12回の家庭看護に必要な基本技術（3：食事の世話など）と（4：薬の飲ませ方など）は、高齢者疑似体験も加えて学外演習とし、火曜日の午前半日を予定。
これらの日程は、授業開始時調整する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
家庭電気・機械・情報処理	67-64	家庭電気・機械	2	後期　火 9, 10	松本金矢（教育学部技術科）

授業の概要　家庭で利用される電気・機械製品の原理や構造を理解するために、材料、構造、エネルギ等に関する基礎と、具体的な製品について講義する。

学習の目的　家庭における電気・機械・情報機器の基礎とメカニズムを理解する。

学習の到達目標　能動的な消費者を育成するための家庭における電気・機械・情報機器製品のメカニズムの基礎を理解する。

教科書　岡部巍編著「新家庭機械・電気」医歯薬出版

成績評価方法と基準　レポートおよび期末試験により総合評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学研究室

学習内容
第1回 家庭における電気・機械・情報機器とは
第2回 最近の家庭機器に関する話題（機器の性能と選択）
第3回 機械製図
第4回 家庭機器材料（鉄鋼材料・非鉄金属材料・非金属材料）
第5回 電気の基礎（電気回路と電力）
第6回 エネルギー変換（エネルギーと環境問題・地球温暖化）
第7回 食生活環境に関する家電機器（冷蔵庫と冷凍サイクル、オゾンホール）
第8回 食生活環境に関する家電機器（調理機器と加熱の原理、オール電化）
第9回 住生活環境に関する家電機器（空調機器、照明機器と発光の原理）
第10回 住生活環境に関する家電機器（音響・映像機器、記録媒体と人間の視覚・聴覚）
第11回 レポート発表
第12回 住生活環境に関する家電機器（情報・通信機器と周辺装置）
第13回 衣生活環境に関する家電機器（裁縫機器と洗濯・乾燥機器）
第14回 その他の家電機器（自動車、発電装置）
第15回 その他の家電機器（浄化設備、コジェネレーションシステム）
第16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報処理	66-64	家庭情報処理	2	前期　木 3, 4	石田 修二（教育学部非常勤講師）

授業の概要　私たちの生活，そしてそれを支える商品・サービスにおいて、現在、多くの情報処理技術が使われている。それが具体的にどのように活用されているのか，そこに問題はないのかを学ぶ。

学習の目的　生活や産業において情報技術がどのように使われているのか、講師と一緒に検討し、また理解することを目的とする。また、実習を通じて、集めた情報を自分なりに編集、加工できるようにする。

学習の到達目標　私たちの生活ならびに生活産業の分野において、情報技術がどのように活用されているか、その基礎知識を得ることができる。そして，それを自分の言葉で人に伝えることができる。

受講要件　情報科学基礎を履修済みであること

教科書　なし

成績評価方法と基準　出席点30%、レポート30%、期末試験30%，授業への参加点10%、計100%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　世話役：磯部由香：毎週12：00〜13：00，教育学部1号館3階食品学研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション、タイピング練習
第2回 高度情報化社会とコンピュータ（1）
第3回 高度情報化社会とコンピュータ（2）
第4回 情報化社会への対応のしかた（1）
第5回 情報化社会への対応のしかた（2）
第6回 情報化社会への対応のしかた（3）
第7回 コンピュータの機能
第8回 ワープロソフトの利活用
第9回 表計算ソフトの基礎（計算，表作成機能の復習）
第10回 表計算ソフトの基礎（関数，グラフの復習）
第11回 表計算ソフトのマクロ機能（1）
第12回 表計算ソフトのマクロ機能（2）
第13回 表計算ソフトのマクロ機能（3）
第14回 生活産業とコンピュータ（1）
第15回 生活産業とコンピュータ（2）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
家庭	65	家政教育研究	2	後期　月 11, 12	○平島 円、増田 智恵、吉本 敏子、磯部 由香、林 未和子（教育学部） 上記6名の教員がそれぞれ1コマ（15週）ずつ、授業を担当する

授業の概要　家政教育の各専門領域に関わる諸問題の解決を目指した科学的・実践的な研究

学習の目的　家政教育の各専門領域に関わる諸問題の解決に向けて、これまでに学んできたことを統合して、研究を進めていく力を養うことを目的とする。

学習の到達目標　家政教育の各専門領域に関わる授業科目履修から得た知見を応用し、卒業研究に取り組めるまでに高める。

成績評価方法と基準　各担当教員から提示される

オフィスアワー
場所：教育学部1号館3階
平島 円（代表）：毎週月曜日17:00～18:00 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp
増田 智恵（代表）：毎週水曜日9:30～10:30 被服学研究室 tomoem@edu.mie-u.ac.jp
吉本敏子：火曜日 5・6限 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp
磯部由香：毎週金曜日12:00～13:00 食品学研究室 isobe@edu.mie-u.ac.jp
林 未和子: 毎週金曜日16:30～17:30 家庭科教育第2研究室 miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2回～第15回 家政教育の各専門領域（家庭科教育、家庭経営学、家族関係学、被服学、食物学、保育学など）の中から、学生各自が問題（課題・テーマ）を見出し、その解決の方途を探究するとともに、これまでに学んできたことを活用して、科学的・実践的な研究を進めていく。

その他　3年で履修する。本科目については、履修指導を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 家庭	66以前	小学校専門家庭A	2	後期　火 5, 6	乗本秀樹
	62以前	小学校専門家庭A	1		

授業の概要　家庭科という教科の目標ならびに「家庭生活と家族」という領域について講義する。

学習の目的　便利で豊かな時代に子どもたちが家庭科を学ぶ意義が理解できる。

学習の到達目標
家庭科の学習指導要領や指導案や教科書を深く読むことができるようになる。
教材や授業の内容について自分で工夫することができるということを知る。

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　試験70%、メモ30%、計100%。合計60%以上が合格。

オフィスアワー　毎週火曜日14:40～16:10、教育学部1号館3F家庭経営研究室。

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2～8回 社会・生活の移り変わりと家庭科の目標の移り変わり
第9～12回 便利で豊かな時代における家庭科の意義
第13・14回「家庭生活と家族」に注目して教科書のサーベイ
第15回 まとめ
第16回 試験

その他
受講希望者が多い場合には、制限することがあります。
授業時間内に書いていただくメモの内容（名前も含む）を授業中に公表して、授業に生かします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 家庭	66-	小学校専門家庭A	2	前期　火5, 6	乗本秀樹（教育学部），磯部由香（教育学部）
	-62	小学校専門家庭A	1		

授業の概要
・便利で豊かな時代に家庭科を学ぶ意義について講義する。
・小学校家庭科の内容を知り、教える際に最低限必要なバックグラウンドとなる知識と実践について考える。食物分野の内容については講義する。

学習の目的　・教育と時代・社会・生活の関係について自分で考える力、家庭科を教えるための基礎知識、討論等により思考を展開させる力を身につけることを目的とする。

学習の到達目標
・教育と時代・社会・生活の関係について自分で考える力を身につける。
・家庭科を教えるための基礎知識を身につける。
・討論等により思考を展開させる力を身につける。

教科書　教科書は用いません。

成績評価方法と基準
・乗本（前半担当）による評価と磯部（後半担当）による評価を総合して、最終評価とする。
・乗本は、<筆記試験70%＋質問感想メモ20%＋出席10%>で評価する。
・磯部は発表および課題により評価する。

オフィスアワー
乗本：毎週火曜日14:40〜16:10 教育学部1号館3階 家庭経営研究室
磯部：毎週金曜日12：00〜13：00 教育学部1号館3階 食品学研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2〜4回 「学習指導要領の内容」と「社会・生活の移り変わり」を見ながら、家庭科の特質につ いて考える。
第5〜7回豊かで便利な時代における家庭科の意義と可能性について考える。
第8回 質疑応答と試験
第9回以降のガイダンス
第9回 食物分野の内容についての解説
第10回 食物分野の基礎知識
第11回 家庭科の各分野の授業案を作成する
第12回 家庭科の各分野の授業案を提案する
第13回 家庭科を教えるために必要な知識について考える
第14回 家庭科を教えるための必要な知識を確認する
第15回 まとめ 家庭科観について考える
【第1〜8回は乗本が担当。第8〜15回は磯部が担当。】

その他　受講者多数の場合には、人数制限をすることがあります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目・家庭	〜62	小学校専門家庭B	1	前期　火9, 10	平島 円，増田智恵（教育学部）
	66〜64	小学校専門家庭B	2		

授業の概要
小学校家庭科の被服分野および食物分野を中心に学ぶ.
被服分野では被服との関わり，衣服の起源，衣服の歴史を踏まえて現代の衣服の役割を考える．被服心理・材料・構成・衛生・管理を中心に衣生活論を展開する.
食物分野では食習慣および食文化，食品の栄養，調理，食環境を踏まえて食事の役割について考える.
また，衣食共通のグループ学習も行い，収集した情報による研究発表を企画・実践してまとめる.

学習の目的　小学校家庭科を教えるために必要な知識を得る．また，授業を行うための企画力および実践力を身につける.

学習の到達目標
小学校家庭科の被服分野における教材情報を習得し，未来型衣服購入システムなどについてITを利用した教育方法の知識を得る．食物分野においては現在の日本人の栄養状態および食品と栄養の関係の知識を得る．また，日本の食文化・食習慣について伝えることができるようになる.
衣・食生活を総合的に考えることができるようになる.

受講要件　最後まで熱心に授業に参加すること

成績評価方法と基準　出席点30%，課題への取り組み態度30%，課題発表20%，レポート20%

オフィスアワー
平島円：毎週月曜日17:00〜18:00 教育学部1号館3階 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp
増田智恵：毎週水曜日9：30〜10：30 教育学部1号館3階 被服学研究室 tomoem@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：オリエンテーション（小学校家庭科について）
第2〜8回：被服分野の講義とグループでの教材研究
第9〜14回：食物分野の講義とグループでの教材研究
第15〜16回：グループでの課題発表
受講者によって内容を変更する場合あり

その他　受講希望者多数の場合は抽選にて受講者を決めるため，初回の授業には必ず出席すること

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
英語学	～67期	英語学概論	2	前期　火 1, 2	西村秀夫（教育学部英語科）

授業の概要　英語の構造と機能について、英語を専攻する学生が身につけておくべき基本的な事項を解説する。

学習の目的　単に英語に関する知識を身につけるというレベルに留まるのではなく、多様な言語現象(データ)を観察・分析する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標　英語以外の言語（主として日本語）のデータも取り入れ、言語の構造と機能の個別性、普遍性に対する理解を深めることを心がけながら講義を進める。

教科書　影山太郎他編_First Steps in English Linguistics_2nd ed.（くろしお出版 2004)

成績評価方法と基準　教室での活動（発表・小テスト）40%、期末試験 60%（予定）

オフィスアワー
前期 月曜 7-8限（事前調整要）
後期 火曜 5-6限（事前調整要）
西村秀夫研究室

学習内容
1.What is language
2.Why Study English Linguistics
3.How Words Are Made: Morphology
4.How Words Mean: Semantics I
5.How English Phrases Are Formed: Syntax I
6.How English Sentences Are Formed: Syntax II
7.How Sentences Mean: Semantics II
8.Review (1)
9.How to Communicate with Other People: Pragmatics
10.The Sounds of English: Phonetics and Phonology
11.Regional Varieties of English: Sociolinguistics I
12.English in Society: Sociolinguistics II
13.How English is Acquired: Psycholinguistics
14.Review (2)
15.Final Examination

その他　3-4年次対象の英語学関係科目を受講しようとする者は、この授業を履修済みか履修中でなければならない。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
英語学	～66	英文法ゼミナール I	2	前期　月 3, 4	宮崎 彰男（教育学部 非常勤講師）

授業の概要　英語の定形動詞節における形式と意味との関係 (1)

学習の目的　英語の定形節における動詞の形式（時制と相）とそれが表すことの可能な意味との関わりについての知識を得る。

学習の到達目標　英語の現在時制と過去時制、ならびに、進行相とこれらの形式がが表すことの可能な意味との関わりを分析的に理解することができ、それを実際の運用において生かす基本的能力を身につける。

受講要件　「英語学概論」を履修済、または、履修中であること。

教科書
G.N.Leech (2004).Meaning and the English Verb (3rd edition). Pearson Education Limited, London.
G.N.Leech (1987).Meaning and the English Verb (2nd edition). Longman, London.

成績評価方法と基準
・毎週のレポート提出と理解度も含めたその内容（25～30%程度）、発表などの授業関与（15～20%程度）、定期試験（60～50%程度）などで総合的に評価する。
・欠席が3回を超えた場合、単位取得はきわめて難しい。

オフィスアワー　連絡窓口：英語科代表

学習内容
1 Introduction: finite/non-finite verbs, tense and time etc.
2-3 Three uses of the Simple Present Tense
4 State and event
5 The Simple Present Tense in reference to past and future time
6 Main uses of the Simple Past Tense
7 'Historic present' and imaginary use of the Simple Present Tense
8 Three semantic features of the Progressive Aspect
9 Temporal point of reference [point of orientation]
10-12 Categories of the verb that go with Progressive Aspect
13-14 Exceptions
15 Peripheral uses of the Progressive Aspect
16 Term test

その他
「英語学ゼミナールI」「英語学ゼミナールII」を履修するためには、この授業科目を履修中か履修済みでなければならない。
・教育学部他専攻には開放するが、他学部には開放しない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語学	～66	英文法ゼミナールII	2	後期　月3, 4	宮崎 彰男（教育学部非常勤講師）

授業の概要　英語の定形動詞節における形式と意味との関係 (2)

学習の目的　英語の定形節における動詞の形式（時制と相）とそれが表すことの可能な意味との関わりについての知識を得る。

学習の到達目標　過去の時とそれを表すことのできる英語の動詞の諸形式との関わり、ならびに、未来の時とそれを表すことのできる英語の動詞の諸形式との関わりを分析的に理解することができ、それを実際の運用において生かす基本的能力を身につける。

受講要件　「英語学概論」を履修済、または、履修中であること。

教科書
G.N.Leech (2004).Meaning and the English Verb (3rd edition). Pearson Education Limited, London.
G.N.Leech (1987).Meaning and the English Verb (2nd edition). Longman, London.

成績評価方法と基準
・毎週のレポート提出と理解度も含めたその内容（25～30%程度）、発表などの授業関与（15～20%程度）、定期試験（60～50%程度）などで総合的に評価する。
・欠席が3回を超えた場合、単位取得はきわめて難しい。

オフィスアワー　連絡窓口：英語科代表

学習内容
1-2 Uses of the Perfect Present Tense
3-4 The Perfect Present Tense and the Simple Past Tense
5-6 Adverbials combined with the Perfect Present Tense and/or the Simple Past Tense
7 The Perfect Past Tense
8 Combination of the Progressive and Perfective Aspects in the Present and Past Tenses
9 Future in past time
10 Expressions of future time (1)――will and shall
11-12 Expressions of future time (2)――be going to
13 Expressions of future time (3)――Progressive Aspect
14 Expressions of future time (4)――Simple Present Tense
15 Expressions of future time (5)――will/shall + Progressive Aspect
16 Term test

その他
・選択科目となっているが、3年次の必修科目である「英語学ゼミナールI」「英語学ゼミナールII」を履修するためには、この授業科目を履修中か履修済みでなければならない。
・教育学部他専攻には開放するが、他学部には開放しない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語学	～67	英語音声学演習	1	後期　月5, 6	宮崎 彰男（教育学部非常勤講師）

授業の概要　英語の音声、音の連結、音の脱落、リズム、イントネーション等

学習の目的
・英語の子音や母音等について基本的知識を得る。
・コミュニカティブな発音を身につける。

学習の到達目標
・英語の個々の音声がどのような発音器官を使い、どのような方法で調音されているのか、また、生じる環境によりどのような調音上の変異が起こるのか、といったことについて基本的な説明をすることができる。
・個々の音声等の基本的知識に基づき、コミュニケーションにおいて誤解を生じさせないような調音をすることができる。

受講要件　「英語学概論」を履修済か履修中であること。

教科書　最初の授業で指示する。

成績評価方法と基準
・授業への関与、毎週提出する調音実践課題、実技・筆記試験、出席等により総合的に評価する。
・欠席が3回を超える場合、単位取得はきわめてむずかしい。

オフィスアワー　連絡窓口：英語科代表

学習内容
1 イントロダクション - 英語音声の一般的特徴、発音器官など
2-6 母音、子音
7-14 リズム、強勢群、連結、脱落、同化、弱形、イントネーション
15 実技検査
16 試験

その他
受講者数が多い場合は、テスト等により20名程度に制限する。
3－4年次対象の英語学関係科目を受講しようとする者はこの科目をすでに履修しているか履修中でなければならない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語学	～66	英語史	2	後期　月 7, 8	西村秀夫（教育学部英語科）

授業の概要　Thomas Malory (—1471) の手になる散文ロマンス『アーサーの死 (Le Morte d'Arthur)の講読を通じて、英語の歴史的変化の諸相を学ぶ。

学習の目的
近代英語への過渡期となる後期中英語の散文を精読することにより、英語の連続性について考察する。あわせて今日の英語文化に深く根を下ろしているアーサー王伝説の特性についても考える。

学習の到達目標
次の2点に集約される。
(1) 中英語散文の精読を通じて現代英語に対する理解を深める
(2) アーサー王文学について関心を深める

受講要件　「英語学概論」を履修済みか履修中であること。あわせて中学校英語免許を主免許とする学生（AIIの学生）は、「英語音声学演習」および「英文法ゼミナールⅠ, Ⅱ」をすでに履修しているか履修中であること。

予め履修が望ましい科目　英語学概論

教科書
家入葉子『ベーシック英語史』（ひつじ書房 2007年）
※Maloryのテキストについては追って連絡する。

成績評価方法と基準　教室での活動（発表・小テスト）60%、期末試験 40%を予定。

オフィスアワー　後期 火曜5-6限（事前調整要）

学習内容
1-2 英語史概説
3 アーサー王文学概観
4-7 アーサーの誕生
8-11 ランスロットとグィネヴィア
11-15 アーサーの死
16 期末試験

その他　いわば「古文」を読むわけであるので、根気強く丁寧によむ努力が要求される。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語学	～65	英語学講義 I	2	前期　月 5, 6	宮崎 彰男（教育学部非常勤講師）

授業の概要　言語は体系として考察することが可能である一方で、実際のコミュニケーションの場面においてどのように作用しているかという点から考察することも可能である。この講義では、後者の観点から具体的な場面のなかで人間の認識と密接にかかわっていると考えられる英語のディスコースを扱う。

学習の目的　言語の働きは起こっている出来事などの現実を報告するという側面を持っているが、一方で私たちの認識に深くかかわり、認識された現実・意味を作り出す側面も持っている。このような言語の働きに気づくことができると同時に、ディスコースから適切な意味を引き出すことができるようになる。

学習の到達目標　新聞のディスコースを、言語の単に現実を報告するという点からよりもむしろ、認識された現実・意味を作り出すという働きの点から分析することができる。また、日常のディスコースのなかに見られる比喩に気づき、そこに人間の認識が深く関与していることを自らの収集事例により分析的に記述することができるようになる。

受講要件　「英語学概論」を履修済みか履修中であること。あわせて中学校英語免許を主免許とする学生（AIIの学生）は、「英語音声学演習」および「英文法ゼミナールⅠ, Ⅱ」をすでに履修しているか履修中であること。

教科書
1.D.Reah.1998.The Language of Newspapers.London: Routledge.
2.G.Lakoff and M.Johnson.1980.Metaphors We Live By.Chicago: Univ.of Chicago Pr.

成績評価方法と基準
・毎週のレポート提出と理解度も含めたその内容、発表などの授業関与、期末レポート、出席などで総合的に評価する。
・欠席が3回を超えた場合、単位取得はきわめて難しい。

オフィスアワー　連絡窓口：英語科代表

学習内容
1 Introduction: Language as system, its use, situational contexts, etc.
2 Situational contexts: classification of the newspaper, its social role etc.
3 Situational contexts: definition of news, sender, receiver, sender's intention & receiver's interpretation, etc.
4 Headline and its functions
5-7 Linguistic features and devices of the headline at phonological, lexical and syntactic levels.
8 Introduction: Metaphorical concepts
9 Metaphorical systematicity
10-11 Highlighting and hiding
12-13 Orientational metaphors
14-15 Ontological metaphors

その他　この講義は選択科目であるが、中学校英語免許を主免許とする学生（AII）は必ず受講すること。また、中学校英語免許を副免許とする学生（AI）もできる限り受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語学	～65	英語学講義 II	2	後期　火 7, 8	西村秀夫（教育学部英語科）

授業の概要　現代英語をよりよく理解するための英語史

学習の目的　現代英語で不規則、例外とされる現象を取り上げ、言語変化のメカニズムを理解することを目的とする。

学習の到達目標　通時的な視点を身につけることにより、現代英語の文法記述を批判的に読めるようになることを目標とする。

受講要件　「英語学概論」を履修済みか履修中であること。あわせて中学校英語免許を主免許とする学生（AIIの学生）は、「英語音声学演習」および「英文法ゼミナール I, II」をすでに履修しているか履修中であること。

予め履修が望ましい科目　2年次までの英語学関係科目を一通り履修していることが望ましい。

教科書　Norbert Schmitt and Richard Marsden, _Why Is English Like That?_(The University of Michigan Press, 2006)

成績評価方法と基準　教室での活動（発表・小テスト）50%、期末試験 50%。

オフィスアワー
前期 月曜 7-8限（事前調整要）
後期 火曜 5-6限（事前調整要）
西村秀夫研究室

学習内容
1.Introduction
2-3.Why English?
4-5.A Brief History of the English Language
6-8.English Grammar
9-10.English Vocabulary
11-12.The Sounds of English
13-14.The Spelling of English
15-16.Review and Examination

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語学	～65	英語学ゼミナール I （英語の構造）	2	前期　水 3, 4	西村秀夫（教育学部英語科）

授業の概要　「語(word)」を手掛かりに、音韻論、形態論、意味論、さらには言語習得、英語史など英語の諸相について学ぶ。

学習の目的　英語の構造・機能を分析するための多様な視点を身につけることを目的とする。

学習の到達目標
・「英語学概論」で学んだ内容をさらに深めること。
・英語の構造に対する理解を深めること。
・自らのvocabulary buildingをより精密なものとすることができるようになること。

受講要件　「英語学概論」を履修済みか履修中であること。あわせて中学校英語免許を主免許とする学生（AIIの学生）は、「英語音声学演習」および「英文法ゼミナール I, II」をすでに履修しているか履修中であること。

予め履修が望ましい科目　2年次までの英語学関係科目はすべて履修していることが望ましい。

教科書　Heidi Harley (2006) English Words: A Linguistic Introduction (Blackwell Publishing)（予定）

成績評価方法と基準　教室での活動（発表・小テスト）40%、期末試験 60%

オフィスアワー
前期 月曜 7-8限（事前調整要）
後期 火曜 5-6限（事前調整要）
西村秀夫研究室

学習内容
1-2.What Is a Word?
3-4.Sound and Fury: English Phonology
5-7.Phonological Words: Calling All Scrabble Players!
8.Review (1)
9-11.Where Do Words Come From?
12-14.Pre- and Suf-fix-es: Engl-ish Morph-o-log-y
15.Review (2)
16.Final Examination

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語学	～65	英語学ゼミナール II （英語の機能）	2	後期　水 3, 4	西村秀夫（教育学部英語科）

授業の概要　「語(word)」を手掛かりに、音韻論、形態論、意味論、さらには言語習得、英語史など英語の諸相について学ぶ。

学習の目的　英語の構造・機能を分析するための多様な視点を身につけることを目的とする。

学習の到達目標
・「英語学概論」で学んだ内容をさらに深めること。
・自らのvocabulary buildingをより精密なものとすることができるようになること。

受講要件　「英語学概論」を履修済みか履修中であること。あわせて中学校英語免許を主免許とする学生（AIIの学生）は、「英語音声学演習」および「英文法ゼミナール I, II」をすでに履修しているか履修中であること。

予め履修が望ましい科目　2年次までの英語学関係科目はすべて履修していることが望ましい。

教科書　Heidi Harley (2006) English Words: A Linguistic Introduction (Blackwell Publishing)（予定）

成績評価方法と基準　教室での活動（発表・小テスト）40%、期末試験 60%

オフィスアワー
前期 月曜 7-8限（事前調整要）
後期 火曜 5-6限（事前調整要）
西村秀夫研究室

学習内容
1-3.Morphological Idiosyncrasies
4-7.Lexical Semantics: The Structure of Meaning, the Meaning of Structure
8.Review (1)
9-11.Children Learning Words
12-14.Accidents of History: English in Flux
15.Review (2)
16.Final Examination

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語学	～65	英語学ゼミナールIII（英語と社会）	2	前期　火 7, 8	西村秀夫（教育学部英語科）

授業の概要　標準英語の成立

学習の目的　英語史の各時代の原典資料の講読を通じて、英語における標準語の成立のプロセスをたどる。

学習の到達目標　英語の過去を知ることを通じて、21世紀の英語の状況に対する理解を深めることを目標とする。

受講要件　「英語学概論」を履修済みか履修中であること。あわせて中学校英語免許を主免許とする学生（AIIの学生）は、「英語音声学演習」および「英文法ゼミナールI, II」をすでに履修しているか履修中であること。

予め履修が望ましい科目　3年次までの英語学関係科目はすべて履修していることが望ましい。

教科書　Jan Svartvik and Geoffrey Leech, English: One Tongue, Many Voices (Palgrave Macmillan, 2006)

成績評価方法と基準　教室での活動（発表・小テスト）40%、期末試験 60%

オフィスアワー
前期 月曜 7-8限（事前調整要）
後期 火曜 5-6限（事前調整要）
西村秀夫研究室

学習内容
1.英語史の復習
2.古英語(1)：King Alfred
3.古英語(2)：Aelfric
4.中英語(1)：Robert of Gloucester
5.中英語(2)：William Caxton (1)
6.中英語(3)：William Caxton (2)
7.近代英語(1)：George Puttenham on inkhorn terms
8.近代英語(2)：John Hart's _An Orthographie_
9.近代英語(3)：Shakespeare
10.近代英語(4)："Ascertainment"
11.近代英語(5)：Jonathan Swift's _Proposal_
12.近代英語(6)：Prescriptive grammar (Robert Lowth, Lindley Murray)
14.現代英語(1)：English in the 20th century
15.現代英語(2)：English in the 21st century

その他　英語学関係科目の集大成と位置づけているので、4年次で受講することが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	66-60	英米文学概論	2	前期　火 3, 4	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要　英米文学の作品（主に小説）を具体的に読む経験を通して、英米文学の特質を知るとともに、文学テクストを構成する基本的な要素について学び、文学作品のとらえ方と分析方法を学ぶ。

学習の目的
・英米の代表的な文学作品を読み、英米文学の特質について認識を深める。
・文学テクストのとらえ方と分析的研究方法について学ぶ。
・レポートを書く技術と豊かな表現能力を身につける。

学習の到達目標
・文学を構成する要素（キャラクター・プロット・視点等）について基礎的な知識を得る。
・英米の代表的な文学作品を具体的に読み、英米文学の歴史と特質を知る。
・文学テクストの分析的研究方法について知識を得、作品を分析できるようになる。
・数回のレポート作成を通して、レポートを書く技術と適切な表現能力を身につける。

教科書　Leon T.Dickinson, An Guide to Literary Study (Nan'un-do)
［変更の可能性あり］

成績評価方法と基準
テキストの内容理解：約10%
授業中の発表・ディスカッションへの参加：約15%
学期中の数回のレポート：約75%

オフィスアワー
水曜日3－4限（10：30－12：00）
宮地研究室

学習内容
1.Guidance （文学の愉しみ）
2.Introduction to English and American Literature
3.W.Shakespeare
4.レポート分析・レポートの書き方
5-6.文学研究方法
7.文学の要素（キャラクター1）
8.文学の要素（キャラクター2）
9.文学の要素（プロットとストーリー）
10.文学の要素（場面設定）
11.文学の要素（視点）
12.文学の要素（比喩の種類）
13.文学の要素（比喩の機能）
14.文学の分析方法
15.英詩の特質
上記の主題にもとづいて、英米の代表的な文学作品をいくつか扱い、それぞれについてレポートを作成し、授業中に発表してもらいます（具体的な作品については未定）。レポートの書き方についても検討します。詳しくは初回の授業で説明します。

その他
・3-4年次対象の英米文学関係科目を履修しようとする者はこの授業を履修済みか履修中でなければならない。
・講義であるが、演習的要素も含む。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	66-64	英米文学講読演習Ⅰ（短編小説）	1	前期　水 1, 2	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要　20世紀のアメリカ短編小説を取り上げ、精密な読解を通して、プロット、主題、キャラクター、視点、表現技巧等を分析していく。

学習の目的
1) 英米の文学作品に親しみつつ、英語読解力の向上を伸ばす。
2) 文法に即して英文を正確に読む姿勢を養う。
3) 文学テクストを分析的に読む意識と能力を身につける。
4) 英文レポートを作成することにより、英語表現力を伸ばす。

学習の到達目標
1) 英米の短編小説に親しみ、その特質を説明できるようになる。
2) 作品の精読と分析を通して感じる力や考える力を身につける。
3) 辞書を活用することにより、複雑な英文を読みこなせるようになる。
4) 英語でレポートを作成することで、文法に基づいた英文が書けるようになる。

予め履修が望ましい科目　英米文学概論

教科書
Jean A.McConochie (ed.), 20th Century American Short Stories (Heinle & Heinle Publishers)
開講前に各受講生にAmazonでの購入指示をします。

成績評価方法と基準
授業に取り組む姿勢：10%
担当部分の要約（ハンドアウト）：10%
授業中の理解度：10%
期末試験及び英文レポート（試験の一部をレポート課題とする）：70%

オフィスアワー
水曜日3－4限（10：30－12：00）
宮地研究室

学習内容
第1回：授業概要説明。テキスト紹介。短編小説の特質
第2回：Sandra Cisneros, ”No Speak English”
第3回：Raymond Carver, ”Popular Mechanics”
第4回：James Thurber, ”The Unicorn in the Garden”
第5-6回：Wiliam Saroyan, ”The Summer of the Beautiful White Horse”
第7-8回：Grace Paley, ”Samuel”
第9回：John Collier, ”The Chaser”
第10-13回：Hisaye Mamamoto, ”The Brown House”
第14-15回：Jesse Stuart, ”Love”
第16回：期末試験（一部レポートになることもある）
授業は担当形式で行います。
担当者は担当部分の内容を要約したハンドアウトを準備し、テクストの問題点とそれに対する自分の考えを発表します。その後、表現語句、登場人物の性格や心理、作品の主題などに注意を払いながら、重要な個所を精読します。詳しくは初回の授業で説明します。

その他　AIIの学生（中学校英語一種免許取得希望者）で3-4年生対象の英米文学関係科目を受講しようとする者は、必ずこの授業を履修すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	66-64	英米文学講読演習 II （小説）	1	後期　水 1, 2	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要　20世紀英米文学の中で、ファンタジー文学の傑作の一つとされるLe GuinのThe Earthsea Cycleの第2作（The Tombs of Atuan）を読み、ファンタジー文学の特質について考えることを目的として、プロット、主題、キャラクター、表現技巧等を分析していく。

学習の目的
1) 英米の文学作品に親しみ、その特質を知る。
2) 原書で文学作品を読むことを通して、英語読解能力の向上をはかる。
3) 作品の精読と分析を通して感じる力や考える力を養う。
4) 英文レポートを作成することで、適切な英語表現力を身につける。
5）文学レポートの書き方に関する知識を得る。

学習の到達目標
1) Le Guinのファンタジー小説について説明できるようになる。
2) 辞書を活用することにより、複雑な英文を読みこなせるようになる。
3) 作品の精読と分析を通して作品の主題を説明できるようになる。
4) 英語でレポートを作成することで、文法に基づいた正しい英文が書けるようになる。

予め履修が望ましい科目　英米文学講読演習 I

教科書
Ursula Le Guin, The Tombs of Atuan (Aladdin Fanasy)
各自Amazonで購入してもらいます（後期開講前に購入に必要な情報を提供します）。

成績評価方法と基準
授業に取り組む姿勢（授業中の発表・ハンドアウト等）：約10%
授業中の理解度：約10%
冬休み期間の宿題：10%
期末テストおよび英文レポート（試験の一部をレポートとする）：約70%

オフィスアワー
水曜日3－4限（10：30－12：00）
宮地研究室

学習内容
第1回：授業概要説明。著者紹介および作品紹介。
第2回：Prologue 内容要約と重要箇所の精読。問題点の指摘と分析（以下同じ）
第3回：The Eaten One
第4回：The Wall around the Place
第5回：The Prisoners
第6回：Dreams and Tales
第7回：Light under the HIll 1
第8回：Light under the HIll 2
第9回：The Man Trap
第10回：The Great Treasure
第11回：Names
第12回：The Ring of Erreth-Akbe
第13回：The Anger of the Dark
第14回：The Western Mountains
第15回：Voyage
授業は担当形式で行います。
担当者は担当部分の内容を要約したハンドアウトを準備し、テクストの問題点とそれに対する自分の考えを発表します。その後、表現語句、登場人物の性格や心理、作品の主題などに注意を払いながら、重要な個所を精読します。また平易な英語で書かれているので一部速読を行います。詳しくは最初の授業で説明します。

その他
・AIIの学生（中学校英語一種免許取得希望者）で3-4年生対象の英米文学関係科目を受講しようとする者は、必ずこの授業を履修すること。
・授業で扱う”The Tombs of Atuan”の前作である”A Wizard of Earthsea”（Earthsea cycle 第1巻）を読んでおくことが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	～66	英米文学史	2	後期　月 5, 6	ジョン・ロバーツ （教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which we will read poems in a variety of styles and forms.There will be small and large-group discussions and projects.This class will have a creative component, requiring students to compose individual and group poems.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to learn about 20th century poetry.Additionally students will improve reading, discussion, and writing skills.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have a general understanding of contemporary trends in poetry. Additionally, students are expected to improve their reading, writing, and discussion skills.

教科書　Instructor will provide necessary materials.

成績評価方法と基準　There will be quizzes and a final project. Students will also submit a portfolio which includes a collection of in-class writings, homework, and students' original poetry. Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction
2.Harlem Renaissance
3.Harlem Renaissance
4.Harlem Renaissance
5.Review and Activities
6.Beat
7.Beat
8.Beat
9.Review and Activities
10.Oulipo
11.Oulipo
12.Oulipo
13.Review and Activities
14.Final Portfolios Due
15.Final Projects

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	～65	英米文学講義 I	2	前期　木 5, 6	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which we will read 3 short stories depending on class dynamics.The historical focus will be on the post-WWII American Short Story.There will be small and large-group discussions and projects.This class will have a creative component, requiring students to compose a short story of their own.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to learn about contemporary American society through the short story.Additionally students will improve reading, discussion, and writing skills.

学習の到達目標
At the end of this class, students are expected to have a general understanding of the American short story.Additionally, students are expected to improve their reading, writing, and discussion skills.

受講要件　「英米文学概論」をすでに履修しているか履修中であること。加えてAIIの受講生は「英米文学講読演習 I、II」をすでに履修しているか履修中であること。

教科書　Instructor will provide necessary materials.

成績評価方法と基準　There will be quizzes and a final project. Students will also submit a portfolio which includes a collection of in-class writings, homework, and students' original short stories. Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction
2.Story 1
3.Story 1
4.Story 1
5.Review and Activities
6.Story 2
7.Story 2
8.Story 2
9.Review and Activities
10.Story 3
11.Story 3
12.Story 3
13.Review and Activities
14.Final Portfolios Due
15.Final Projects

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	～65	英米文学講義 II	2	後期　木 5, 6	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which we will read short one-act plays depending on class dynamics.The historical focus will be on American and British plays.There will be small and large-group discussions and projects.This class will have a creative component, requiring students to compose short plays in groups.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to learn about contemporary American and British culture through the plays.Additionally students will improve reading, discussion, and writing skills.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have a general understanding of the plays studied, historical context of the play, and hone communication skills through group activities.Additionally, students are expected to improve their reading, writing, and discussion skills.

受講要件　「英米文学概論」をすでに履修しているか履修中であること。さらにAIIの受講生は「英米文学講読演習 I、II」をすでに履修しているか履修中であること。

予め履修が望ましい科目　英米文学講義 I（Lecture on English and American Literature I）

教科書　Instructor will provide necessary materials.

成績評価方法と基準　There will be quizzes and a final project. Students will also submit a portfolio which includes a collection of in-class writings, homework, and students' original plays. Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction
2.Play 1
3.Play 1
4.Play 1
5.Review and Activities
6.Play 2
7.Play 2
8.Play 2
9.Review and Activities
10.Play 3
11.Play 3
12.Play 3
13.Review and Activities
14.Final Portfolios Due
15.Final Projects

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	66-65	英米文学ゼミナールⅠ（詩・劇）	2	前期　金 5, 6	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要　英国ヴィクトリア朝における重要な作家の一人であるオスカー・ワイルドの代表的な劇”The Importance of Being Earnest”を読み、ワイルドの劇の特質とその理念について学ぶ。合わせて英国ヴィクトリア朝の文化的特質について理解を深める。

学習の目的
1）イギリス20世紀初頭の劇に親しみ、イギリスにおける演劇の伝統を知る。
2）Oscar Wildeの文学の特質を体験する。
3）作品精読を通して英語読解力の向上を目指す。
4）英文レポートを書くことにより英語表現能力を身につける。

学習の到達目標
1）英国の演劇の特質が言えるようになる。
2）精読の重要性を認識し、英詩を知的・分析的に解釈できるようになる。
3）具体的作品の精読を通して、英語読解力を伸ばし、思考力を深める。
4）英文レポートの作成を通して適切な英語で考えを表現できるようになる。

受講要件　「英米文学概論」を履修済みか履修中であること。あわせてAIIの学生（中学校英語一種免許取得希望者）は「英米文学講読演習Ⅰ」及び「英米文学講読演習Ⅱ」を履修済みか履修中であること。

予め履修が望ましい科目
英米文学概論
英米文学講読演習Ⅰ-Ⅱ

教科書
Oscar Wilde, The Importance of Being Earnest (W.W.Norton)
Amazonで各自購入してもらいます。開講前に購入に必要な情報を提供します。

成績評価方法と基準
授業に取り組む姿勢：約10%
授業中の発表・ハンドアウト：約25%
期末試験および英文レポート：約65%

オフィスアワー
水曜日3－4限（10：30－12：00）
宮地研究室

学習内容
第1回：授業の概要説明。作者（Oscar Wilde）紹介
第2-5回：First Act 精読による内容理解と問題点の検討・分析（以下同じ）
第6回：進度調整
第7-10回：Second Act
第11回：進度調整
第12-15回：Third Act
第16回：試験（一部を英文レポートにする）

その他　英語専攻生必修

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	66-65	英米文学ゼミナールII（小説）	2	後期　金5, 6	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
イギリス小説購読。
世界的に有名な名探偵シャーロック・ホームズが活躍するSherlock Holmes Sagaの第2作The Sign of Four（1890）を取り上げ、シャーロック・ホームズが活躍する時代背景や探偵文学の構造・特質等を分析的に読解し、文学的な位置づけについて考察する。

学習の目的
1）英国小説を読み、イギリス文学の伝統を知る。
2）文学テクストの精読を通して思考力を深め、文学作品を分析的に解釈する。
3）原文で文学作品を読むことを通して英語読解力を伸ばす。
4）英文レポートを作成することにより適切な英語表現力を身につける。

学習の到達目標
1）探偵シャーロック・ホームズの特質を理解し、説明できるようになる。
2）文学作品の精読を通してその主題と技巧を分析できるようになる。
3）原書で文学作品を読むことにより、十分な英語読解能力を身につける。
4）英文レポートを作成することで、適切な英語で自分の考えを表現できるようになる。

受講要件　「英米文学概論」を履修済みか履修中であること。あわせてAIIの学生（中学校英語一種免許取得希望者）は「現代英米文学演習I」及び「現代英米文学演習II」を履修済みか履修中であること。

予め履修が望ましい科目
英米文学概論
現代英米文学演習I - II
英米文学ゼミナールI

教科書
Arthur Conan Doyle, The Sign of Four (Penguin Classics 又は Oxford World's Classics)
＊テキストは各自Amazonで購入してもらいます（後期開講前に購入に必要な情報を提供します）。

成績評価方法と基準
授業に取り組む姿勢（授業中の発表・ハンドアウト等）：約10%
授業中の理解度：約15%
冬休み期間の宿題：約15%
期末テストおよび英文レポート（試験の一部をレポートとする）：約60%

オフィスアワー
水曜日3－4限（10：30－12：00）
宮地研究室

学習内容
第1回：授業の概要説明。著者およびシャーロック・ホームズについて。
第2回：The Science of Deduction.テクストの内容要約および重要箇所の精読と分析（以下同じ）
第3回：The Statement of the Case
第4回：In Quest of a Solution
第5回：The Story of the Bald-headed Man
第6回：The Tragedy of Pondicherry Lodge
第7回：Sherlock Holmes Gives a Demonstration
第8回：The Episode of the Barrel
第9回：The Baker Street Irregulars
第10回：A Break in the Chain
第11回：The End of the Islander
第12回：The Great Agra Treasure 1
第13回：The Great Agra Treasure 2
第14回：The Strange Story of Jonathan Small 1
第15回：The Strange Story of Jonathan Small 2
第16回：期末テスト・ レポートトピックのアナウンス
授業は担当形式で行います。
担当者は担当部分の内容を要約したハンドアウトを準備し、テクストの問題点とそれに対する自分の考えを発表します。その後、表現語句、登場人物の性格や心理、作品の主題などに注意を払いながら重要な個所を精読します。詳しくは最初の授業で指示します。

その他　英語専攻生必修。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	～65	英米文学ゼミナールIII（小説）	2	後期　月3, 4	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which we will read _Of Mice and Men_.There will be small and large-group discussions and projects.Additionally, there will be a final essay along with a final project.Students will keep notebooks and turn in all work in portfolios at the end of the semester.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to learn about 1930's America by reading a classic novel from the time period.Additionally students will improve reading, discussion, and writing skills.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have an in-depth understanding of _Of Mice and Men_.Additionally, students are expected to improve their reading, writing, and discussion skills.

受講要件　「英米文学概論」をすでに履修しているか履修中であること。加えてAIIの受講生は「英米文学講読演習I、II」をすでに履修しているか履修中であること。

教科書　_Of Mice and Men_

成績評価方法と基準　There will be quizzes, a final essay and final project.Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction and Historical Context
2.Chapter 1
3.Chapter 2
4.Review and Activities
5.Chapter 3
6.Chapter 4
7.Review and Activities
8.Chapter 5
9.Chapter 6
10.Review and Activities
11.Film: _Of Mice and Men_
12.Preparations
13.Preparations
14.Final Projects (Dramatizations/Presentations/etc.To be determined)
15.Peer and Self-Critiques (Videos)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英米文学	～65	英米文学ゼミナールIV（小説）	2	前期　月 3, 4	ジョン・ロバーツ （教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which we will read _The Great Gatsby_.There will be small and large-group discussions and projects.Additionally, there will be a final essay along with a final project.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的
The goals of this class are to learn about 1920's America by reading a classic novel from the time period.Additionally students will improve reading, discussion, and writing skills.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have an in-depth understanding of _The Great Gatsby_, and a general appreciation of _The Jazz Age_of the 1920's.Additionally, students are expected to improve their reading, writing, and discussion skills.

受講要件　「英米文学概論」をすでに履修しているか履修中であること。加えてAIIの受講生は「英米文学講読演習 I、II 」をすでに履修しているか履修中であること。

予め履修が望ましい科目
Seminar in English and American Literature I
History of English and American Literature

教科書　_The Great Gatsby_

成績評価方法と基準
There will be quizzes, a final essay and final project.Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction and Historical Context
2.Chapter 1
3.Chapter 2
4.Chapter 3
5.Review and Activities
6.Chapter 4
7.Chapter 5
8.Chapter 6
9.Review and Activities
10.Chapter 7
11.Chapter 8
12.Chapter 9
13.Film: The Great Gatsby
14.Final Essay Due
15.Final Projects (Dramatizations/Presentations/etc.To be determined)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～67	英語スピーキング I （自己表現） （英語教育コース対象）	1	前期　月 1, 2	インドゥ・ジュネジャ（教育学部 外国人非常勤講師）

授業の概要　The course is centered around a variety of interactive and discussion activities with emphasis on real life skills.

学習の目的　The main objective of this course is to develop students' abilities to express themselves in English with more fluency and to provide an atomsphere for free and open discussion.

学習の到達目標　The students' should be able to learn critical thinking skills and expressing opinions with reasoning.They would also be developing the communication and cultural skills needed for effective conversations in English.

教科書　Kirsty McLean, Topic Talk Issues, EFL Press

成績評価方法と基準
Students will be evaluated on the following basis: Attendance, Class attitude and Participation:
60%, Preparation and Review: 20%, Final assessment:20%.

オフィスアワー　Thursday mornings

学習内容
1.Self introductions and the course introduction
2.Health -brain storming, health habits, health and safety
3.Health -nutrition, food facts and euthansia
4.Animals -brain stormiimg, pet problems, vegetarianism
5.Animals -animal rights, endangered species
6.Fashion -brain stormimg, image and the language of fashion
7.Fashion -eating disorders, the game of truth, sweat shops
8.Watching a DVD
9.Culture -brain stormimg, cultural misunderstandings, experiencing a new culture
10.Culture -preserving traditional culture, the destruction of culture
11.Jobs -brain storming, ideal job, work for love or money, changing jobs
12.Jobs -men and women in work, job interviews .
13.Shopping -brain storming, commercial and shopping, shopping and environment
14.Schools -schools in Japan, school troubles, success at school
15, 16 Review and final assessment

その他　Try to be regular and be on time.If you miss a class, contact a classmate and find out what was done in the class and the assigned homework for the next class.

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～67期生	英語スピーキングⅠ（自己表現）（他コース対象）	1	前期　月7, 8	インドゥ・ジュネジャ（教育学部 外国人非常勤講師）

授業の概要　The course is centered around a variety of interactive and discussion activities with emphasis on real life skills.

学習の目的　The main objective of this course is to develop students' abilities to express themselves in English with more fluency and to provide an atomsphere for free and open discussion.

学習の到達目標
The students' should be able to learn critical thinking skills and expressing opinions with reasoning.
They would also be developing the communication and cultural skills needed for effective conversations in English.

教科書　Gerry McLeallan, Everyday English, MGS-Publications

成績評価方法と基準
Students will be evaluated on the following basis: Attendance, Class attitude and Participation:
60%, Preparation and Review: 20%, Final assessment:20%.

オフィスアワー　Thursday mornings

学習内容
1 Introductions and course description
2.What's in a name?
3, 4 Addresses, postal codes, types of accomodations and an ideal house
5, 6 Birthdays & birthday traditions & other major events
7, 8 Sports abilities
9.Watching a DVD
10, 11Talking about routines and other events
12, 13 How to get som.ewhere (asking for and giving directions)
14, 15 How to make something -favorite foods and receipes
16 Final assessment

その他　Try to be regular and be on time.If you miss a class, contact a classmate and find out what was done in the class and the assigned homework for the next class.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～67	英語スピーキングⅡ（プレゼンテーション）（英語教育コース対象）	1	後期　月1, 2	インドゥ・ジュネジャ（教育学部 外国人非常勤講師）

授業の概要　The course is designed to provide students with lots of opportunities to think about the ideas and issues related to their immediate lives and future jobs.

学習の目的　The main aim of this course is to help students plan, organize and deliver in-class individual and group presentations on a variety of topics.They will think about and express their opinions on important ideas and issues and take active part in class discussions.

学習の到達目標　The students will develop proficiency in presentation techniques and giving feed back.

教科書　Kobayashi Toshihiko, Shown M Clankie, Your First Speech and Presentation, NAN'UN-DO.

成績評価方法と基準　Students will be evaluated on the following basis; Attendance, Class attitude and Participation: 50%:Presentations: 30% Semester end exam: 20%

オフィスアワー　Thursday mornings

学習内容
1 Course description and outline for preparing a presentation
2 How commited are you to learning English?
3 What do you want to do with your life?
4 How do you keep fit?
5 Individual/group presentations
6 Individual/group presentations
7 Should English be taught in primary schools.
8 Should we let children use cellphones.
9 Should alcohal abuse and domestic violence be tolerated?
10 Individual and group presentations.
11 Individual and group presentstions.
12 Watching a DVD.
13 What's wrong with downloading?
14 Should the driving age and age of adulthood be lowered in Japan?
15 Presentations and final assessment.
16 Presentations and final assessment

その他　Try to be regular and be on time.If you miss a class, contact a classmate and find out what was done in the class and the assigned homework for the next class.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～67	英語スピーキングII（プレゼンテーション）（他コース対象）	1	後期　月7,8	インドゥ・ジュネジャ（教育学部 外国人非常勤講師）

授業の概要　The course is designed to provide students with lots of opportunities to think about the ideas and issues related to their immediate lives and future jobs.

学習の目的　The main aim of this course is to help students plan, organize and deliver in-class individual and group presentations on a variety of topics.They will think about and express their opinions on important ideas and issues and take active part in class discussions.

学習の到達目標　The students will develop proficiency in presentation techniques and giving feed back.

受講要件　Modifying the class contents and the teaching materials according to the students' abilities, their expectations and requirements.

教科書　Kobayashi Toshihiko, Shown M Clankie, Your First Speech and Presentation, NAN'UN-DO

成績評価方法と基準　Students will be evaluated on the following basis; Attendance, Class attitude and Participation: 50%:Presentations: 30% Semester end exam: 20%

オフィスアワー　Thursday mornings

学習内容
1 Course description and outline for preparing a presentation
2 How commited are you to learning English?
3 What do you want to do with your life?
4 How do you keep fit?
5 Individual/group presentations
6 Individual/group presentations
7 Should English be taught in primary schools.
8 should we let children use cellphones.
9 Should alcohal abuse and domestic violence be tolerated?
10 Individual and group presentations.
11 Individual and group presentstions.
12 Watching a DVD.
13 What's wrong with downloading?
14 Should the driving age and age of adulthood be lowered in Japan?
15 Presentations and final assessment.
16 Presentations and final assessment

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～66	英語スピーキングIII（スピーチ）	1	前期　金1,2	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which students will work on delivering effective speeches.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to improve speech delivery skills and to build confidence in public speaking.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have developed the skills and confidence to deliver effective speeches.

受講要件　63期生以降：「英語スピーキングI（自己表現）」または「英語スピーキングII（プレゼンテーション）」をすでに履修していること。

予め履修が望ましい科目　63期生以降：「英語スピーキングI（自己表現）」「英語スピーキングII（プレゼンテーション）」

教科書　Speaking of Speech; Instructor will provide necessary material

成績評価方法と基準　Students will be evaluated on the content of their speeches, delivery, props, self and peer critiques, and the depth of notebook reflections.Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Introductions and Preparations
2.Preparations
3.Preparations
4.Mini- Speech 1
5.Peer and Self-Critiques (Videos)
6.Preparations
7.Preparations
8.Preparations
9.Mini-Speech 2
10.Peer and Self-Critiques (Videos)
11.Preparations
12.Preparations
13.Mini-Speech 3
14.Peer and Self-Critique (Videos)
15.Final Speech

その他
・テスト等により受講生数を制限することがあります。
・この授業は教育学部開放科目です。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～66	英語スピーキングIV（ディスカッション）	1	後期　金1,2	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which students will focus on English discussion skills..A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to improve English discussion skills by focusing on collaborative projects, which will be presented to the class.Students will also keep a notebook with reflections on the process.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have increased their overall confidence in using English in collaborative settings in order to identify social issues and come to solutions to those issues.

受講要件　63期生以降：「英語スピーキングI（自己表現）」または「英語スピーキングII（プレゼンテーション）」をすでに履修していること。

予め履修が望ましい科目　63期生以降：「英語スピーキングI（自己表現）」、「英語スピーキングII（プレゼンテーション）」、「英語スピーキングIII（スピーチ）」

教科書　Instructor will provide necessary material.

成績評価方法と基準　Students will be evaluated on active participation in speaking groups, depth of notebook reflections, peer and self-critiques, and presentations.Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容

1.Introductions
2.Group Discussions
3.Group Discussions
4.Group Discussions
5.Group Discussions
6.Presentations
7.Presentations
8.Peer and Self-Critiques (Videos)
9.Discussions and Preparations
10.Discussions and Preparations
11.Discussions and Preparations
12.Discussions and Preparations
13.Final Group Presentations
14.Final Group Presentations
15.Peer and Self-Critiques (Videos)

その他

・テスト等により受講生数を制限することがあります。
・この授業は教育学部開放科目です。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	64-67 ~62	英語リスニングI 現代英語演習I	1 1	前期　火7,8	早瀬 光秋

授業の概要　Under the conviction that listening plays a central role in language learning, this course presents an intensive training program in listening fluency development.The listening passages cover interesting topics such as computers, part-time jobs, partites, movies, celebrities, health, news, and travel.The exercises based on listening are varied and meaningful.Useful Internet sites for listening practice will also be introduced with specific suggestions for listening comprehension.

学習の目的　To develop listening skills.

学習の到達目標　To develop listenings skills in the areas interesting to the students.

教科書　Tom Kenny and Tamami Wada.2004.Listening Advantage 3.CENGAGE Learning.

成績評価方法と基準　Practice Tests (30%), Final exam (70%)

オフィスアワー　13:00-14:30 on Mondays

学習内容

第1回： Introduction of the course
第2回： Unit 1: Using Computers
第3回： Unit 2: Study after School
第4回： Unit 3: Part-time Jobs
第5回： Unit 4: Parties
第6回： Unit 5: Movies
第7回： Unit 6: Hanging Out
第8回： Practice Test 1
第9回： Unit 7: Cyber Friends
第10回： Unit 8: Boyfriends and Girlfriends
第11回： Unit 9: Celebrities
第12回： Unit 10: Health and Body
第13回： Unit 11: News
第14回： Unit 12: Travel
第15回： Practice Test 2
第16回： Final Exam

その他　Classes will be conducted in English.Positive attitude and willingness to use English in class will be strongly required.

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	64〜67 〜62	英語リスニングII 現代英語演習II	1 1	後期　金7, 8	荒尾浩子（教育学部）

授業の概要　多様なテーマに関してリスニング視聴覚教材を用いて英語のリスニングの訓練をし、聴解能力を高めていく。

学習の目的　英語のリスニング能力の総合的な向上。

学習の到達目標　多様なテーマについての英語を聞き必要に応じて細部、また概要を理解できる能力を養うことで英語の基本的なコミュニケーションにおいて困難が生じないレベルにまで到達する。

予め履修が望ましい科目
[63期生以降] 英語リスニングI
[62期生以前] 現代英語演習I

成績評価方法と基準　課題の提出状況、授業参加度、小テスト、試験を総合的に評価

オフィスアワー　水曜日3，4時限

学習内容
第1回 オリエンテーション 練習問題1，2，3
第2回 練習問題4，5，6 ディクトグロス1 ディクテーション1 内容把握問題1
第3回 練習問題7，8，9 ディクトグロス2 ディクテーション2 内容把握問題2
第4回 練習問題10，11，12 ディクトグロス3 ディクテーション3 内容把握問題3
第5回 練習問題13，14，15 ディクトグロス4 ディクテーション4 内容把握問題4
第6回 練習問題16，17，18 ディクトグロス5 ディクテーション5 内容把握問題5
第7回 練習問題19，20，21 ディクトグロス6 ディクテーション6 内容把握問題6
第8回 練習問題22，23，24 ディクトグロス7 ディクテーション7 内容把握問題7
第9回 練習問題25，26，27 ディクトグロス8 ディクテーション8 内容把握問題8
第10回 練習問題28，29，30 ディクトグロス9 ディクテーション9 内容把握問題9
第11回 練習問題31，32，33 ディクトグロス10 ディクテーション10 内容把握問題10
第12回 練習問題34，35，36 ディクトグロ11 ディクテーション11 内容把握問題11
第13回 練習問題37，38，39 ディクトグロ12 ディクテーショ12 内容把握問題12
第14回 練習問題40，41，42 ディクトグロス13 ディクテーション13 内容把握問題13
第15回 練習問題43，44，45 ディクトグロ14 ディクテーショ14 内容把握問題14
第16回 まとめ テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	〜66	英語リスニングIII	1	前期　月5, 6	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which we will watch episodes of _The Simpsons_in order to develop listening skills and appreciation of cultural differences and similarities, primarily between Japan and the U.S.There will be listening activities, small and large-group discussions and projects.Additionally, there will be a final project.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to improve listening and speaking skills.We will practice through watching episodes of _The Simpsons_, and through live conversations with classmates.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have improved listening and speaking skills.

予め履修が望ましい科目
「英語リスニングI」「英語リスニングII」

教科書　None

成績評価方法と基準　There will be quizzes, poster projects, and speaking tests, with emphasis on active listening.Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction
2.Theme 1
3.Theme 1
4.Theme 1 Timed Conversations
5.Review and Activities
6.Theme 2
7.Theme 2
8.Theme 2 Timed Conversations
9.Review and Activities
10.Theme 3
11.Theme 3
12.Theme 3 Timed Conversations
13.Poster Preparations
14.Poster Presentations
15.Poster Presentations

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～66	英語リスニングIV	1	後期　金 3, 4	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which we will watch segments of films and television shows in order to develop listening skills and appreciation of cultural differences and similarities, primarily between Japan and the U.S.There will be listening activities, small and large-group discussions and projects.Additionally, there will be a final project.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to improve listening and speaking skills.We will practice through watching segments of films and television shows, and through live conversations with classmates.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have improved listening and speaking skills.

予め履修が望ましい科目　63期生以降：「英語リスニングI - III」

教科書　None

成績評価方法と基準　There will be quizzes, poster projects, and speaking tests, with emphasis on active listening.Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction
2.Theme 1
3.Theme 1
4.Theme 1 Timed Conversations
5.Review and Activities
6.Theme 2
7.Theme 2
8.Theme 2 Timed Conversations
9.Review and Activities
10.Theme 3
11.Theme 3
12.Theme 3 Timed Conversations
13.Poster Preparations
14.Poster Presentations
15.Poster Presentations

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	64～67	英語リーディングI（多読I）	1	前期　金 7, 8	荒尾浩子（教育学部）
	～63	現代英語演習III	1		

授業の概要　授業内では多読教材を用いて、毎週本一冊を読み、それに関してレポートをする。

学習の目的　授業内、外で多量の英語を読むことでリーディング力を高める。

学習の到達目標　辞書を使用せず流暢に英語を読解できる能力を習得する。

教科書　授業内で指示する

成績評価方法と基準　授業参加、小テスト、試験を総合的に評価

オフィスアワー　毎週木曜日7，8限 荒尾浩子研究室

学習内容
第1回： 授業紹介、多読の方法、効果等について
第2回：Oxford Bookworms 2
第3回：Oxford Bookworms 2
第4回：Oxford Bookworms 3
第5回：Oxford Bookworms 3
第6回：Oxford Bookworms 4
第7回： Oxford Bookworms 4
第8回：Oxford Bookworms 4
第9回：Oxford Bookworms 5
第10回：Oxford Bookworms 5
第11回：Oxford Bookworms 6
第12回：Oxford Bookworms 6
第13回：Oxford Bookworms 6
第14回：Oxford Bookworms 6
第15回：Oxford Bookworms 6
第16回：Oxford Bookworms 6

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	64-67	英語リーディングII（精読I）	1	後期　月7, 8	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
英語教師に求められる基礎的な英語読解能力の養成。
さまざまなトピックを扱った英文を読み、文法的に正しく英文を読みこなす技術を身につける。

学習の目的
（1）ある程度の長さの英文を、論旨を追いつつ、文法に基づいて正確に読みこなす技術を身につける。
（2）語彙力を伸ばすとともに英語的な発想や表現パターンを学ぶ。

学習の到達目標
（1）辞書を活用して、長めの英文を文法的に正確に読みこなせるようになる。
（2）長い英文の論旨を簡潔に要約できるようになる。
（3）新出単語や英語表現を覚えて、英語会話や英作文で使えるようになる。
（4）CDを聴いて音読練習を繰り返すことで正確な発音ができようになる。
（5）今日的なトピックを扱った英文を読み、グローバルな視点を得る。

予め履修が望ましい科目　英語リーディングI（多読I）

教科書
Beth M.Pacheco and Joan Young Gregg、The Powerful Reader: Basic [Second Edition]
（英文講読の新技法:基礎編［改定新版］）

成績評価方法と基準
授業参加（10%）
単語・表現小テスト（30%）
期末試験（60%）

オフィスアワー
水曜日3－4限（10：30－12：00）
宮地研究室

学習内容
1：授業概要説明。辞書活用の勧め・精読と速読の意義
2.Crossing Borders: Stolen Treasures and Interpol (1)
3.Crossing Borders: Stolen Treasures and Interpol (2)
4.Fashion Fusion: East and West (1)
5.Fashion Fusion: East and West (2)
6.Language Lost and Found (1)
7.Language Lost and Found (2)
8.進度調整
9.Impressionism: Beauty Knows No Borders (1)
10.Impressionism: Beauty Knows No Borders (2)
11.The Hamburger and the Rain Forest (1)
12.The Hamburger and the Rain Forest (2)
13.Smoke Gets in Our Eyes
14.The Global Economy: A World Turned Upside Down
15.Take the Challenge: Go Green
16.試験
＊受講生の理解の度合いにより、進度を調節することがあります。

その他　隔週ごとに単語と表現の小テストを行います。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～66	英語リーディングIII（多読II）	1	前期　木3, 4	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which students will work on extensive reading (reading for fun).As such there will be few mandatory texts, but students are expected to keep journals, participate in, and lead, reading-circles, and improve speed reading and comprehension.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to improve speed reading, comprehension, and to hopefully develop a deep appreciation for the act of reading

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have improved reading skills.

予め履修が望ましい科目　：「英語リーディングI（多読I）」「英語リーディングII（精読I）」

教科書　None

成績評価方法と基準　There will be reading circles, and poster presentations.Students will also be graded on the content of their notebooks, which will contain reflections on the reading process. Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction
2-12.Independent Reading, Reading Circles, Notebook Logging and Reflections, Oral Summaries.
13.Poster Preparations
14.Poster Presentations
15.Poster Presentations

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～66	英語リーディングⅣ（精読Ⅱ）	1	後期　火3,4	西村秀夫（教育学部英語科）

授業の概要　主として20世紀以降に書かれた文学（的な）テキストを材料に精読の訓練を行う。

学習の目的　文構造や単語の意味の理解を通じて英語に対する感覚を磨くことを目的とする。

学習の到達目標　教科書に収録されたそれぞれのパッセージに付された設問に解答しながら読み進めるとともに、意味の十分な理解に基づいた音読ができるようになることをめざす。

教科書　薬袋善郎著『名文で養う英語精読力』 研究社 2009年.

成績評価方法と基準　教室での活動（発表・小テスト）60%、期末試験 40%

オフィスアワー　後期 火曜5-6限（事前調整要）

学習内容
第1回: 序論 精読と多読
第2回: William Willkie Collins:The Family Secret (1)
第3回: William Willkie Collins:The Family Secret (2)
第4回: Henry David Thoreau:Walden (1)
第5回: Henry David Thoreau:Walde (2)
第6回: William Somerset Maugham: Summing Up
第7回: William Somerset Maugham: A Writer's Notebook
第8回: Arthur Waley: The Tale of Genji (1)
第9回: Arthur Waley: The Tale of Genji (2)
第10回: William Henry Davies: The Autobiography of a Super-Tramp (1)
第11回: William Henry Davies: The Autobiography of a Super-Tramp (2)
第12回: Winston Churchill: My Early Life (1)
第13回: Winston Churchill: My Early Life (2)
第14回: Robert Lynd: Afternoon Tea (1)
第15回: Robert Lynd: Afternoon Tea (2)
第16回：期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	66-64	英作文Ⅰ（トランスレーション）	1	前期　月7,8	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
英語教師に必要な英作文の基礎的能力を養う。
日本人学習者が犯しがちな誤用例を参考にして、正しい文法と英語らしい表現パターンに基づいた英訳練習を行う。

学習の目的
英語ライティング・スキルの向上。
（1）誤用例をもとに日本語と英語の発想の違いと特徴を認識する。
（2）文法的正確さを重視する意識を身につける。
（3）日本語を英語に変換していく際の英語的な発想や表現パターンを学ぶ。

学習の到達目標
（1）誤用例を参考にして日本語と英語の発想の違いと特徴を認識する。
（2）文法的に正確な英文が書けるようになる。
（3）英語的な発想や表現構造に基づいた英文が書けるようになる。

教科書　Haruo Kizuka /Roger Northridge, Common Errors in English Writing [six edition] (Macmillan LanguageHouse)

成績評価方法と基準
授業参加・小テスト（40%）
授業の課題提出（20%）
期末試験（40%）

オフィスアワー
水曜日3－4限（10：30－12：00）
宮地研究室

学習内容
第1回：スクリーニングテスト・授業の概要説明・英訳の基本ルールの概要説明
第2回：接続詞の誤り（1）
第3回：接続詞の誤り（2）
第4回：接続詞の誤り（3）
第5回：前置詞の誤り（1）
第6回：前置詞の誤り（2）
第7回：前置詞の誤り（3）
第8回：主語の選択・態・否定などの誤り（1）
第9回：主語の選択・態・否定などの誤り（2）
第10回：主語の選択・態・否定などの誤り（3）
第11回：語順の誤り（1）
第12回：語順の誤り（2）
第13回：語順の誤り（3）
第14回：カタカナ語の誤り（1）
第15回：カタカナ語の誤り（2）
第16回：試験
＊テキストの途中から始めます（テキストは、理解積み上げ型ではなく、単元完結型で構成されているので支障はありません）。前の単元（unit）は各自で学習しておくことが望ましい。

その他
テスト等により受講生を15名程度に制限します。
ある程度の基本的な英語力が求められます。
質の高い英文を書こうというスキル向上への意欲が求められます。
授業の予習・復習、また日頃の英語への親しみが求められます。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	64〜66	英作文 II （パラグラフライティング）	1	後期　木 7, 8	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which students will work on developing clear and concise paragraphs.As such, students will practice different writing techniques.Students will also revise their paragraphs and keep a portfolio with all work produced in class, in addition to reflections on the writing process.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to improve paragraph essay writing on different topics by demonstrating knowledge of basic paragraph structures.Additionally, students will be able to hone their grammar.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have improved their paragraph writing skills.Students will also improve their discussion skills through writing workshops.

予め履修が望ましい科目　[63期生以降]「英作文 I （トランスレーション）」

教科書　None

成績評価方法と基準　Students will be evaluated on their paragraphs, content, workshop participation and final portfolios. Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction
2.Exercises
3.Paragraph 1 Due
4.Mini-Workshops
5.Exercises
6.Paragraph 2 Due
7.Mini-Workshops
8.Exercises
9.Paragraph 3 Due
10.Mini-workshops
11.Large Writing Workshops (Revised Essay)
12.Large Writing Workshops (Revised Essay)
13.Large Writing Workshops (Revised Essay)
14.Portfolios Due
15.Final Project

その他　受講者数をテスト等により20名程度に制限する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	〜65	英作文 III （エッセイライティング）	1	前期　火 3, 4	西村秀夫（教育学部英語教育講座）

授業の概要　エッセイライティングの理論的基盤を学んだあと、パラグラフライティング、エッセイライティングを実践する。

学習の目的　エッセイライティングに必要な文章構成の技法を学ぶ。

学習の到達目標　実習を通じて、英語による発信能力の向上を目ざす。

受講要件　「英作文 I」または「英作文 II」をすでに履修していること。

予め履修が望ましい科目　「英作文I]「英作文II」

教科書　Jann Huizenga, et al._Introduction to Essay Writing_（松柏社 1997年）

成績評価方法と基準　教室で出す課題への取り組み方がすべて。

オフィスアワー
前期 月曜 7-8限（事前調整要）
後期 火曜 5-6限（事前調整要）
西村秀夫研究室

学習内容
1.Introduction: Some basic points about pragraph writing
2-3.Let's DO Away with the Traditional Japanese-English Translation Work
4-5.Giving Instructions
6-7.Objective Reporting
8-9.Illustrations/Examples
10-11.Cause and Effect
12-13.Comparison/Contrast
14-15.Classification/Definition

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～65	英作文 IV（エッセイライティング）	1	後期　木 3, 4	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which students will work on developing coherent essays, utilizing basic essay structure and styles.As such, students will write mini-essays to argue their point. Students will also revise their essays and keep a portfolio with all work produced in class, in addition to reflections on the writing process.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to improve essay writing by providing composing different essay styles.Additionally, students will be able to hone their grammar.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have improved their essay writing skills.Students will also improve their discussion skills through writing workshops.

受講要件　「英作文 I 」または「英作文 II」をすでに履修していること。

予め履修が望ましい科目　英作文III

教科書　None

成績評価方法と基準　Students will be evaluated on their essays, arguments, workshop participation and final portfolios. Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction
2.Exercises
3.Essay 1 Due
4.Mini-Workshops
5.Exercises
6.Essay 2 Due
7.Mini-Workshops
8.Exercises
9.Essay 3 Due
10.Mini-workshops
11.Large Writing Workshops (Revised Essay)
12.Large Writing Workshops (Revised Essay)
13.Large Writing Workshops (Revised Essay)
14.Portfolios Due
15.Final Project

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～64	英作文 V（アカデミックライティング）	1	前期　木 7, 8	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which students will work on developing clear and concise thesis statements.As such, students will write mini-essays to argue their point.Students will also revise their essays and keep a portfolio with all work produced in class, in addition to reflections on the writing process.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to improve academic essay writing by providing strong thesis statements and supporting that thesis statement with argumentative points.Additionally, students will be able to hone their grammar.

学習の到達目標
At the end of this class, students are expected to have improved their academic writing skills.Students will also improve their discussion skills through writing workshops.

受講要件　この科目は卒業論文作成準備を目的としているので、4年次で履修すること。

予め履修が望ましい科目　English Composition III

教科書　None

成績評価方法と基準
Students will be evaluated on their thesis statements, arguments, workshop participation and final portfolios.Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Course Introduction
2.Exercises
3.Essay 1 Due
4.Mini-Workshops
5.Exercises
6.Essay 2 Due
7.Mini-Workshops
8.Exercises
9.Essay 3 Due
10.Mini-workshops
11.Large Writing Workshops (Revised Essay)
12.Large Writing Workshops (Revised Essay)
13.Large Writing Workshops (Revised Essay)
14.Portfolios Due
15.Final Project

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	64	英作文VI（ペーパーライティング）	1	後期　月7, 8	早瀬光秋（教育学部英語教育講座）

授業の概要　Conventions and styles of professional paper writing will be studies while the students keep writing one professional rather lengthy paper.Skills in writing good English will be also focused.

学習の目的　Students will be able to write professional papers in English in terms of English, convenions, and styles.

学習の到達目標　Students can write academic papers in English with good quality.

予め履修が望ましい科目　Other classes of English composition

教科書　Will be introduced in the first class meeting.

成績評価方法と基準　Participation, paper writing

オフィスアワー
Mondays, 13:00-14:30
Email address: hayase@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1st-3rd Meetings: Significance and purposes of academic paper writing
4th-5th Meetings: Conventions of academic papaer writing based on
the APA style
6th Meeting: Finding a specific topic
7th-9th Meetings: Investigation and literature survey
10th-13th Meetings: Academic paper writing
14th-15th Meetings: Peer reading
16th Meeting: Further direction

その他　Those students who are to write their graduation theses under the instructor's guidance are required to take this course.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	64	英作文VI（ペーパーライティング）	1	後期　月5, 6	西村秀夫（教育学部英語教育講座）

授業の概要　卒業論文作成に際して、心得ておくべき事項について解説する。

学習の目的
・英作文能力を全般的に向上させる。
・英語学系の論文に特有の表現や議論の方法に習熟する。

学習の到達目標　卒業論文の完成。

受講要件　「英作文I」および「英作文II」

予め履修が望ましい科目　「英作文III－VII」

教科書　教室で紹介する。

成績評価方法と基準　毎回の提出物、および期末のレポートで評価する。

オフィスアワー
前期 月曜 7-8限（事前調整要）
後期 火曜 5-6限（事前調整要）
西村秀夫研究室

学習内容
1.ガイダンス
2-3.アカデミックライティング概説
4-5.構造(1)（パラグラフ）
6-7.アウトライン
8-9.構造(2)（エッセイ）
10-11.文献資料の扱い方(1)（収集と整理）
12-13.文献資料の扱い方(2)（引用、出典の示し方）
14-15.論文発表 (Peer review)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	-64	英作文VI（ペーパーライティング）	1	後期　木9, 10	荒尾浩子（教育学部英語教育講座）

授業の概要　各自関心のあるテーマについて文献研究を行い、考察、議論を通して自分の研究内容について英語で論文を書く。

学習の目的　英語での読解を通して論理的思考を深め、それに基づいて研究を行い英語で論文を執筆する書記能力を高める。

学習の到達目標　基本的な論文で使用する表現を習得し、英語で思考し流暢な英語で正しい形式で研究論文が執筆できるようになる。

教科書　講義中に指示する

成績評価方法と基準　レポート、授業関与、出席、提出物による総合評価

オフィスアワー　毎週金曜7・8時限 荒尾浩子研究室 arao@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：論文のテーマ
第3回：文献の探し方
第4回： 定義の仕方
第5回：トピックの着眼点
第6回：トピックの深め方
第7回：議論の仕方
第8回：問題点の定義
第9回：引用の仕方
第10回：参考文献の書き方
第11回：表現の工夫
第12回：執筆指導
第13回：執筆指導
第14回：執筆指導
第15回：校正
題16回：まとめ

その他
・卒業論文の指導を受ける学生は必ず受講すること。
・英語専攻生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	64	英作文VI（ペーパーライティング）	1	後期　金7, 8	宮地 信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
論文作成演習。
関心のあるトピックを自身で選択し、内容展開に必要な文献調査および情報収集を行い、これまでの英作文の授業で習得した作文技術を生かして論理的で説得力のある論文作成の訓練を行う。

学習の目的
1）英語論文における書式の知識を身につける。
2）論理的思考に基づく文章構成とパラグラフ構成能力の向上。
3）英語表現能力の向上と英語論文作成に習熟する。

学習の到達目標
1）英語表現の豊かなスキルを身につける。
2）論理的思考とパラグラフ構成について実践的知識を得る。
3）実践を通して論文作成の基本的技術を身に付ける。

予め履修が望ましい科目　3年次までの英作文関連科目

教科書　MLA Style SheetおよびAPA Style Sheet（授業中に電子ファイルで配布）その他

成績評価方法と基準
授業への取組み（20%）
授業中の提出物（40%）
英語による論文（40%）

オフィスアワー
水曜日3－4限（10：30－12：00）
宮地研究室

学習内容
1.ガイダンス
2-3.研究課題及び方法について受講者によるレポート
4-5 研究課題及び方法について検討・目標設定
6-9 英語による中間口頭発表原稿作成
10-13.受講生の英語論文作成指導
14-16 英語論文の内容・構成・表現等の検討

その他
・卒業論文の指導を受ける学生は必ず受講すること。
・英語専攻生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	64	英語スキル総合演習	1	前期　金3, 4	ジョン・ロバーツ（教育学部外国人教師）

授業の概要　This will be a 15 week class in which students will focus on comprehensive English skills.In addition to timed free conversations, students will write original skits and perform them for the class.A more detailed syllabus will be provided on the first day of class.

学習の目的　The goals of this class are to improve comprehensive English skills by using English in “live” settings.Students will hone their confidence and skills in conversations, active listening, and appropriate body language.Additionally, students will demonstrate these skills through original plays.Students will also keep a notebook with reflections on the process.

学習の到達目標　At the end of this class, students are expected to have increased their overall confidence in using English in live settings.

教科書　_By the Way_; Instructor will provide necessary material.

成績評価方法と基準　Students will be evaluated on active participation in speaking groups, depth of notebook reflections, peer and self-critiques, and performances.Additionally, class participation and attendance will be mandatory in order to receive a passing score.

学習内容
1.Introductions, Conversation Steps and Practice
2.Conversation Steps and Practice
3.Conversation Steps and Practice
4.Conversation Steps and Practice
5.Conversation Tests and Skit Preparation
6.Group Skits (Theme to be determined)
7.Peer and Self-Critiques (Videos)
8.Conversations
9.Conversations
10.Conversations
11.Conversations
12.Conversations
13.Conversation Tests and Skit Preparations
14.Final Original Performances
15.Peer and Self-Critiques (Videos)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
異文化理解	65-60	異文化理解ゼミナール	2	前期　木 3, 4	荒尾浩子（教育学部英語教育講座）

授業の概要　異文化コミュニケーション、得に英米人と日本人とのコミュニケーションを主軸に、文化によるコミュニケーションの方法の違い、ものの考え方、それを反映する言語行動、また非言語コミュニケーションの違いにも着目し、その重要性も認識する。異文化体験を分かち合い、誤解の起こる原因を探求する。

学習の目的　異文化の人と英語でコミュニケーションする際に理解しておくべき異文化理解についての知識をコミュニケーションを軸として学んでいくことを目的とする。

学習の到達目標　日本人と英米人のコミュニケーションの仕方の違いを中心に、異文化コミュニケーションの基礎知識を習得し、言語と人間関係の相互作用が、各文化の中で、どのようにコミュニケーションに反映されているかを理解し実際の場面に遭遇した時、柔軟に対応できるようになる。

教科書　講義中に指示する

成績評価方法と基準　レポート、授業関与、出席、提出物による総合評価

オフィスアワー　毎週木曜7・8時限 荒尾浩子研究室 arao@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 異文化とは
第2回 異文化コミュニケーションとは
第3回 英米人と日本人の自己と他者
第4回 英米人と日本人の自立の考え方
第5回 英米人と日本人の他者への思いやり、心遣い
第6回 英米人と日本人の集団と自己
第7回 英米人と日本人の間のコミュニケーションにおける困難
第8回 英語表現に表れた文化的な考え方
第9回 宗教的考えが反映した英語、日本語の表現
第10回 英米文化以外の文化
第11回 文化による空間、時間に関する考え方の違い
第12回 異文化とステレオタイプ
第13回 異文化適応とカルチャーショック
第14回 異文化摩擦、誤解の事例
第15回 学生の異文化理解に関する発表
第16回 学生の異文化理解に関する発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育入門	67	学校教育入門ゼミナール	2	前期　水 3, 4	森脇 健夫

授業の概要　今日の学校教育にどのような問題が存在するかということを、現代の子どもの発達や特性、背景となる社会や情報環境等の変化からとらえ、問題解決の方向性を探る。

学習の目的
1．学校教育の使命や目的についての知見を得る
2．自らの被教育体験を相対化し、背景や文脈の中に位置づけることができる
3．問題の所在とコンテクストを知る
4．問題解決に向かって専門知識を学んだり、協力する大切さを知る
5．実践の場で問題解決にあたっている人の知恵（実践知）を知る

学習の到達目標　学習の目的について、ほぼ達成する。

成績評価方法と基準　平常点、レポート

学習内容
1．学校とは？学校の使命
2．教師の仕事や生きがい
3．専門家としての教師
4．学校における問題
子どもの問題行動
教師をめぐる人間関係
5．授業って何？
6．学力や評価の問題
7．教師の力量形成
8．教育と社会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究法		心理統計法	2	前期　金 3, 4	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
この授業では，心理統計学について学ぶという大きなテーマについて，実際に調査データを集め，分析し，それをまとめるという一連の流れについても学習をしながら進めていきたいと考えています。
統計という「数学」を扱った授業は，苦手意識を感じる人も多いかもしれませんが，できるかぎり「ああ，このために高校まで数学を勉強してきたのか」と思えるような授業にしたいと考えています。
そのためのポイントとして考えているのが，「発見」ということです。心理統計学について学ぶという際にも，単に知識を伝達するのではなく，できるだけみなさんに「発見」をしていただく中で学んでいければと思っています(「発見学習」)。また，実際にデータを集め，分析していただくところでも，これまで誰も知らなかった「発見」を見つける活動にしていきたいと考えています。
なお，学習を進める上では，グループの活動を中心として，進めていきたいと考えています。
この授業は3コマ目の心理データ解析（松浦先生ご担当）と連動して進めていきますので、両者を一緒に受講されることを「強く」お勧めします。

学習の目的
心理学研究の中で用いられている統計的手法がどのようなものか理解し，そこで示されている結果を正しく理解することができる
自らがデータ収集・データ分析・結果の記載を行うときの適切な方法を理解する
（心理統計の授業を通して数学の有用性・面白さに気づく）

学習の到達目標
まずは，心理統計学の理解と活用ができることや，調査法によるデータ収集とその分析，そして分析結果をまとめられることが，学生のみなさんにみにつけていただきたいところです。
しかし，理想的には，それを越えて「数学について学ぶ意義・面白さ」について語れるようになっていただきたいと思います。近年，よくいわれているとおり，子どもの「数学嫌い」が取り上げられます。こういった子どもを目の前にしたときに，「なぜ数学を学ばないといけないのか」についてきちんと語れるかどうかが重要になってきます。しかし，教師自身がそれを感じられないと語ることができません。ぜひ，「数学について学ぶ意義・面白さ」を見つけていただければと思います。

受講要件　「やってみようかな」という気持ちがあること

予め履修が望ましい科目　心理学I・II，PBLセミナー，コミュニケーション実習

教科書　よくわかる心理統計 山田剛史・村井潤一郎著 ミネルヴァ書房

成績評価方法と基準　グループでのレポートと小テスト，出席によって評価を行います。

オフィスアワー　金曜日9:00〜10:30

学習内容
1．イントロダクション：授業概要の説明，グループ分け
2．心理学の研究に触れる（「心理学研究を行う」とは？，様々な研究法，データ解析はなぜ必要なのか？）
3．データとは？(様々なデータの特徴) - 質問紙作成(1)
4．データを分析するとは？（自己流で分析してみる） - 質問紙作成(2)
5．データの代表値 - 質問紙作成(3)
6．質問紙調査の構想発表と調査の留意点
7．そう！簡単「相関」（1） - 質問紙作成(4)：完成
8．そう！簡単「相関」（2） - データ入力
9．Excel・SPSSによる簡単データ解析
10.検定の考え方とt検定 - データ解析(1)
11.隅々まで効くデータ解析に分散分析 - データ解析(2)
12, 大変な多変量解析（重回帰分析・因子分析）
13.心理学研究のまとめかた - データ解析(3)
14.レポート作成および発表準備
15.最終発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究法	64~66	心理データ解析法	2	前期　金 5, 6	松浦 均（教育学部）

授業の概要
心理学研究の方法論として調査法および統計的処理を学ぶ．
質問紙調査の作成および実施法を学ぶ．

学習の目的　心理学研究の方法論として極めて重要な調査法を修得し，調査票（質問紙）の作成から，実施，データ入力，データ処理，統計的分析までの一連の過程を学び，卒業研究等で調査を行う場合の基礎的知識の習得を目指す．

学習の到達目標
質問紙調査を実施すること．
データ入力およびデータ処理ができるようになること．
基本的な統計的処理を修得すること．
結果の解釈ができること．
調査法の概要を理解すること．

受講要件　同時期に開講される「心理統計法」も履修すること

予め履修が望ましい科目　同時期に開講される「心理統計法」も履修すること

教科書　心理学基礎演習Vol.2「質問紙調査の手順」 小塩真司・西口利文編 ナカニシヤ出版

成績評価方法と基準　出席30%，課題遂行およびレポート70%

オフィスアワー　会議のない水曜日の午後

学習内容
1．心理学研究法の概要
2．質問紙調査法の概要の説明
3．質問紙調査の実施に向けての準備等，諸事項の説明
4．質問紙調査の作成（準備）
5．質問紙調査の作成（完成）
6．質問紙調査の実施
7．データ入力・整理
8．データ処理・データ解析（記述統計）
9．データ処理・データ解析（推測統計）
10．統計分析の説明
11．統計分析結果の解釈
12．考察のしかた
13．質問紙調査報告の準備
14．全体発表会
15．報告書の作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究法	～67	行動科学基礎実験	2	後期　月 9, 10	南 学（教育学部人間発達科学課程）

授業の概要　心理学では科学的にデータを採集することが求められます。この授業では、心理学における実験法、観察法および心理測定法の基本を学ぶことを目的とします。授業はグループによる実習形式を中心に進められます。いくつかのテーマについて、説明とデータ収集、結果の整理とレポートの作成をおこなっていきます。

学習の到達目標　心理学論文の型の体得、データ収集の習得

予め履修が望ましい科目　心理統計法

教科書　参考文献などは授業時に紹介する

成績評価方法と基準　出席は必須。実習のレポート、グループでの協力度などを総合的に評価する。

学習内容
1～5．心理学における実験計画とは
6～8．知覚の測定
9～10．意欲の測定
11～12．記憶の測定
13～14．認知の測定
15．総合講評

その他
データ収集やレポート作成は授業時間外におこなうことが必要となります。
この授業に関するWEBページ
http://www.minamis.net/kougi.html

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究法	66, 65, 64	文献講読法	2	前期　火 7, 8	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　ルソーの『エミール』を読み、人間形成の本質について考える。さらに、ルソーに関する近年の論文を読むことで、ルソーのもつ現代的意義について考察する。

学習の目的　現代の教育を問いなおす。

学習の到達目標　現代の教育を相対化して考察する力。

受講要件　人間形成への関心。

教科書
ルソー『エミール』

成績評価方法と基準　小レポート20%、発表80%、計100%。

オフィスアワー　火曜日10：30～12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①導入
②ルソーについて
③『エミール』（自然とは）
④『エミール』（子どもと大人の関係）
⑤『エミール』（社会とは）
⑥『エミール』（習慣とは）
⑦『エミール』（経験とは）
⑧『エミール』（理性とは）
⑨『エミール』（両親とは）
⑩ルソーに関する論文（子ども観）
⑪ルソーに関する論文（母性）
⑫ルソーに関する論文（成長）
⑬ルソーに関する論文（宗教観）
⑭ルソーに関する論文（解釈）
⑮ルソーの現代的意義
⑯まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究法	67-	授業観察・分析法	2	後期　木 3, 4	森脇 健夫

授業の概要　授業の臨床的な研究。授業の記録・分析、また授業づくりを通して教師の仕事の実際に触れる。

学習の目的　授業という現象の本質を「みる」ことができるようになるとともに、授業をつくってみることをとおして、教師の仕事の一端に触れ、その価値と意味を知る。

学習の到達目標
1 授業の観察の基本的なマナーを身につける
2 エピソード記述の方法論を身につける
3 授業の基本要素（教師、子ども、材）に視点を置いた授業分析が行えるようになる
4 ストップモーション方式による授業の検討について、その方法論を身につける
5 反省的実践家としての教師の思考をたどることによって、授業中の教師の多面的、多角的な思考の あり方と指導の背景にある理由（根拠）の存在を推測できる。
6 授業づくりの基本的な方法論（教材づくり、授業案づくり）を会得する。
7 協同作業としての指導案づくりを通して、お互い知恵を出し合いながら一つの目的を達成すること の楽しさを感じる
8 実際の授業の施行において授業案と実際の授業とのずれをとらえ、その原因を追究し、次に生かし ていく方策をたてることができる。

教科書　講義で指定

成績評価方法と基準　授業記録レポート、および平常点

オフィスアワー　ムードルを設置します。

学習内容
1 授業を「みる」とは？「みる」ことと「みえる」こと
2 「見る」から「観る」へ
3 授業の中で「みえる」もの
4 授業記録の方法・・・TC記録の生誕と科学主義
5 授業記録の方法・・・TC記録の限界
6 ストップモーション方式による授業検討
7 エピソード記録
8 授業の参観と記録の作成
9 授業記録の共有
10 授業者を招いての授業検討
11 教材・授業づくり1・・・問題意識の醸成
12 教材・授業づくり2・・・教科書や先行実践の分析
13 教材・授業づくり3・・・指導案の作成
14 実験授業
15 実験授業の記録作成と分析
16 振り返り

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65	学校教育研究演習 I	2	前期　月 9, 10	佐藤 年明

授業の概要　教育課程論研究の課題と方法の検討

学習の目的　卒業論文執筆に向けて、個人の研究に即して指導を行なう。

学習の到達目標　卒業論文のテーマ設定に向けての基礎的準備を完了する。

受講要件　原則として教育課程論研究室所属学生に限定する。

予め履修が望ましい科目　教育課程論 I

教科書　教科書は使用しない。

成績評価方法と基準　授業中における研究発表によって評価する。

オフィスアワー　月4コマ、木2〜4コマ いずれも研究室にて

学習内容
第1回〜第15回 個人研究指導
個人研究発表を中心とする。
同時間帯開講の学校教育研究演習IIIを受講する4年次学生と調整しながら授業計画を立案していく。
また教育実習事前指導スケジュール等もにらみながら、本授業においても教育実習に向けての指導も行なっていく（教育実習は個人研究テーマの決定に大きな影響を与えると考えるため）。
これらの理由から、詳細なスケジュールは2015年度に入り開講までの期間に決定する。

その他　大学院生等をオブザーバー参加させる場合もある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	64~65	学校教育研究演習 I	1	前期　月 9, 10	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行い、卒業論文作成に向けての研究指導を行う。

学習の目的　卒業論文のテーマ設定と執筆に向けて，基礎的な知識と技術を習得すること。

学習の到達目標　自分の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマを設定し，理論的・実証的に記述・説明できるようになること。

受講要件　原則として学校経営学研究室所属学生に限定する

予め履修が望ましい科目　学校経営学，教育経営学特別講義

教科書　教科書は使用しない。参考図書や参考資料は授業中に随時紹介する。

成績評価方法と基準　毎回の授業における発表から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
個人の研究発表を中心として以下のような内容で進める。
1回：演習の方針や進め方の概要を説明する。
2〜3回：過去の卒業生のゼミ発表資料や卒業論文をもとに、卒業論文執筆に向けたイメージをつかむ。
4〜7回：各自の問題関心に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、研究の方法論や手続きについて説明する。
8〜14回：引き続き、各自の研究関心に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、基本的な概念や研究枠組みについて検討を行う。
15回：必要に応じて個別的な指導を行う
16回：個別課題の提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65	学校教育研究演習 I	1	前期　月 9, 10	大日方 真史（教育学部）

授業の概要　自らの課題を明確化しつつ、生活指導研究を進める。

学習の目的　卒業論文の作成に向けた構えを形成すること。

学習の到達目標　研究を進め、研究の成果を記述できること。

教科書　適宜指示する。

成績評価方法と基準　発表、討論への参加等から総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜12:50、研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回〜第7回 課題の設定
第8回〜第15回 文献の批評、研究発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65, 64	学校教育研究演習 I	1	前期　火 9, 10	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　日常的な営みである教育にさまざまな疑問符を投げかけその本質を捉えなおす作業を論文指導も含めながら進める。

学習の目的　自身の関心を鮮明化し、探究する。

学習の到達目標　自身の関心に基づいて発言・執筆する能力を身につける。

受講要件　教育哲学分野に関心を持つこと。

予め履修が望ましい科目　「教育哲学」

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　発表50%、レポート50%、計100%。ただし、80%以上出席したことを条件とする。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育と哲学の関係を哲学する（概論）
②教育と哲学の関係を哲学する（各論）
③人間と教育の関係を哲学する（概論）
④人間と教育の関係を哲学する（各論）
⑤子供と教育の関係を哲学する（概論）
⑥子供と教育の関係を哲学する（各論）
⑦世界と教育の関係を哲学する（概論）
⑧世界と教育の関係を哲学する（各論）
⑨歴史と教育の関係を哲学する（概論）
⑩歴史と教育の関係を哲学する（各論）
⑪教師と教育の関係を哲学する（概論）
⑫教師と教育の関係を哲学する（各論）
⑬現代教育の条件を哲学する（概論）
⑭現代教育の条件を哲学する（各論）
⑮まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65	学校教育研究演習 I	1	前期　木 9, 10	松浦均（教育学部）

授業の概要　社会心理学および教育心理学を中心としながら，その周辺領域，関連領域も含めて心理学研究の方法論を学び，各自が卒業研究に向けて研究テーマを見つけ検討していく．授業はゼミ形式で実施する．1年間のゼミ共同研究を立案計画し，研究テーマに基づいてデータ収集，データ分析を行う．また文献講読をベースに議論を深めながら進めていく．

学習の目的
心理学，社会心理学，教育心理学の研究や実践を行いながら，心理学の研究方法論を習得する．
ゼミ形式の授業のなかで，議論の進め方，論文の読み方書き方，データの収集法，分析方法，発表の仕方などを学習する．

学習の到達目標
社会的行動を心理学的に説明できるようなモノの見方，
社会心理学研究に関する基本的な理解，
積極的な心理学的問題設定の視点，
卒業研究の実施と完成．

受講要件　とくになし

予め履修が望ましい科目　社会心理学等，教育心理学関係の科目全般

教科書　原岡一馬著 心理学研究の基礎 ナカニシヤ出版 他

成績評価方法と基準　授業への取り組み，日常的な活動，100%

オフィスアワー　本授業（＝ゼミ）で対応します

学習内容
文章作成，言語表現，プレゼンテーションに関する演習を行う．
心理学に関する研究方法論について多数の文献を講読する．
社会心理学文献講読をしながら研究論文の読み方書き方などを学習する．
フィールドや社会へ出て見聞を広め，感性を磨く．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	63-	学校教育研究演習 I	1	前期　木 9, 10	森脇健夫

授業の概要　卒業論文研究に向けての指導をする

学習の目的
卒業論文執筆にあたっての基本的な知識・技能を獲得する。
具体的には以下のとおりである。
① 質的な研究について量的な研究との異同を把握する。
② 質的な研究の目的や方法について理解する。
③ 事例研究、一回性、参与観察、インタビュー、等質的研究の特徴を知る。
④ 質的な研究のプロセスについて理解する。
⑤ 質的な研究論文の執筆過程でのさまざまな問題を解決する。

学習の到達目標
① 質的な研究について量的な研究との異同を把握する。
② 質的な研究の目的や方法について理解する。
③ 事例研究、一回性、参与観察、インタビュー、等質的研究の特徴を知る。
④ 質的な研究のプロセスについて理解する。
⑤ 質的な研究論文の執筆過程でのさまざまな問題を解決する。

学習内容
卒業論文の準備として次のようなことを踏まえておく必要がある。
1．質的研究についての基礎・基本をおさえる。
2．参加観察とインタビューについての基礎知識をおさえる。
3．研究仮説の検証と事例研究の特質をおさえる。
4．質的な研究の意義を課題をおさえる
5．対話的な検証による信頼性と妥当性の確保の重要さを知る

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究		学校教育研究演習 I	1	前期　木 9, 10	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
「学習」を生活場面における全ての「学び」であると広くとらえ、「学び」の背景にある心理学的プロセスを、研究活動を通じて理解することを目指す。そのために、まず文献の講読を通じて、これまでの研究における知見に触れ、そこから一般化可能な知識を獲得する。そして、研究活動を通じて、自らの視点から現実場面での「学び」を理解できる能力を身につけることをめざすとともに、研究を実施するための方法を身につける。さらに、自らが「学び」に関わり、その「学び」をよりよいものにするための実践的な知識の修得も目指したい。
また、人間行動における「動機づけ」の問題も考えて欲しい。

学習の目的　学習の心理学的プロセスの理解と実践スキルの獲得、心理学研究法に関する知識の獲得

学習の到達目標　上記の活動を通して、実生活における様々な場面において自分自身が「より良く学ぶ」方法を身につけ、「モティベーショナル」に振る舞えるようになってもらえればと考えている。また、研究方法の基礎も身につけて欲しい。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教育心理学・学習心理学・学習心理学実践技法・モティベーションサイエンス

教科書　授業内で適宜指定する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
・学習心理学に関する文献購読
・心理学的研究法の学習
・学習心理学に関する教員との共同研究の実施
・学習心理学に関するディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	63〜64	学校教育研究演習 I	1	前期　木 9, 10	南 学（教育学部学校教育講座）

授業の概要　成人の思考活動に関する研究領域を中心に、認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解を目的とする。具体的には、当該領域の文献講読と各自の学習・研究成果の報告を通じ、相互に研鑽していく。

学習の到達目標　認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解

予め履修が望ましい科目　心理学、心理統計法、行動科学基礎実験

教科書　授業時に指示する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
心理学研究の方法
文献検索と文献講読
データ分析
論文執筆

その他　無断欠席は認めない。積極的に参加し、相互に高めあうことを期待する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	～64	学校教育研究演習 I	1	前期　木 9, 10	瀬戸美奈子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　子どもの発達に関して、臨床実践と研究の両面から理解する。そこから得られた各自の問題意識をもとに卒業研究に向けて研究テーマを検討していく。具体的には、事例研究、文献講読を行い、子どもの発達や臨床的な問題について討議しながら進めていく。

学習の目的　事例研究、調査研究の方法論が理解できる。子どもの発達について臨床的な視点から理解できる。

学習の到達目標
心理学の研究法を理解し、論文の読み方、書き方が理解できる。
自分の問題意識から研究テーマを卒業論文を完成させる。

予め履修が望ましい科目　教育臨床、発達臨床、教育心理学

教科書　授業時に適宜紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表などを総合的に評価する。

学習内容
子どもの臨床事例の検討
子どもの発達に関する論文の講読
子どもの発達臨床に関するトピックについてのディスカッションなど

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65	学校教育研究演習 II	1	後期　月 9, 10	佐藤 年明

授業の概要　教育課程論研究の課題と方法の検討

学習の目的　卒業論文執筆に向けて、個人の研究に即して指導を行なう。

学習の到達目標　卒業論文のテーマ設定に向けての基礎的準備を完了する。

受講要件　原則として教育課程論研究室所属学生に限定する。

予め履修が望ましい科目　教育課程論 I

教科書　教科書は使用しない。

成績評価方法と基準　授業中における研究発表によって評価する。

オフィスアワー　月4コマ、火3コマ いずれも研究室にて

学習内容
第1回～第15回 個人研究指導
個人研究発表を中心とする。
本授業は研究室ゼミとして運営しており、今期においては単位取得の対象としていない4年次生も参加し、卒業研究の進行に応じて発表も行なう。従って本授業の受講対象である3年次生の研究発表・指導も、4年次生の研究進行との兼ね合いを考慮して決定する必要がある。
これらの理由から、詳細なスケジュールは2015年度後期開講までに研究室各指導生の研究進行状況を見極めつつ決定する。

その他　大学院生等をオブザーバー参加させる場合もある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65	学校教育研究演習 II	1	後期　月 9, 10	織田 泰幸（教育学部）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行い、卒業論文作成に向けての研究指導を行う。

学習の目的　卒業論文のテーマ設定と執筆に向けて，基礎的な知識と技術を習得すること。

学習の到達目標　自分の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマを設定し，理論的・実証的に記述・説明できるようになること。

受講要件　原則として学校経営学研究室所属学生に限定する

予め履修が望ましい科目　学校経営学，教育経営学特別講義

教科書　教科書は使用しない。

成績評価方法と基準　毎回の授業における発表から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
個人の研究発表を中心として以下のような内容で進める。
1回：演習の方針や進め方の概要を説明する。
2～3回：各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行う。
4～7回：引き続き各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、研究上の意義や課題について検討を行う。
8～14回：引き続き各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、卒業研究の総仕上げに向けた検討を行う。
15回：必要に応じて個別的な指導を行う
16回：個別課題の提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65	学校教育研究演習 II	1	後期　月 9, 10	大日方 真史（教育学部）

授業の概要　自らの課題を明確化しつつ、生活指導研究を進める。

学習の目的　卒業論文の作成に向けた構えを形成すること。

学習の到達目標　研究を進め、研究の成果を記述できること。

教科書　適宜指示する。

成績評価方法と基準　発表、討論への参加等から総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容
第1回～第6回 研究法の探究
第7回～第10回 文献の批評と整理
第11回～第15回 研究発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65, 64	学校教育研究演習 II	1	後期　火 9, 10	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　日常的な営みである教育にさまざまな疑問符を投げかけその本質を捉えなおす作業を論文指導も含めながら進める。

学習の目的　自身の関心を鮮明化し、探究する。

学習の到達目標　自身の関心に基づいて発言・執筆する能力を身につける。

受講要件　教育哲学分野に関心を持つこと。

予め履修が望ましい科目　「教育哲学」

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　発表50%、レポート50%、計100%。ただし、80%以上出席したことを条件とする。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育と哲学の関係を哲学する（概論）
②教育と哲学の関係を哲学する（各論）
③人間と教育の関係を哲学する（概論）
④人間と教育の関係を哲学する（各論）
⑤子供と教育の関係を哲学する（概論）
⑥子供と教育の関係を哲学する（各論）
⑦世界と教育の関係を哲学する（概論）
⑧世界と教育の関係を哲学する（各論）
⑨歴史と教育の関係を哲学する（概論）
⑩歴史と教育の関係を哲学する（各論）
⑪教師と教育の関係を哲学する（概論）
⑫教師と教育の関係を哲学する（各論）
⑬現代教育の条件を哲学する（概論）
⑭現代教育の条件を哲学する（各論）
⑮まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	64, 65	学校教育研究演習 II	1	後期　木 9, 10	松浦均（教育学部）

授業の概要　社会心理学および教育心理学を中心としながら，その周辺領域，関連領域も含めて心理学研究の方法論を学び，各自が卒業研究に向けて研究テーマを見つけ検討していく．授業はゼミ形式で実施する．1年間のゼミ共同研究を立案計画し，研究テーマに基づいてデータ収集，データ分析を行う．また文献講読をベースに議論を深めながら進めていく．

学習の目的
心理学，社会心理学，教育心理学の研究や実践を行いながら，心理学の研究方法論を習得する．
ゼミ形式の授業のなかで，議論の進め方，論文の読み方書き方，データの収集法，分析方法，発表の仕方などを学習する．

学習の到達目標
社会的行動を心理学的に説明できるようなモノの見方，
社会心理学研究に関する基本的な理解，
積極的な心理学的問題設定の視点，
卒業研究の実施と完成．

受講要件　とくになし

予め履修が望ましい科目　社会心理学等，教育心理学関係の科目全般

教科書　原岡一馬著 心理学研究の基礎 ナカニシヤ出版 他

成績評価方法と基準　授業への取り組み，日常的な活動，100%

オフィスアワー　本授業（＝ゼミ）で対応します

学習内容
文章作成，言語表現，プレゼンテーションに関する演習を行う．
心理学に関する研究方法論について文献を輪読する．
社会心理学文献講読をしながら研究論文の読み方書き方などを学習する．
フィールドや社会へ出て見聞を広め，感性を磨く．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	64〜65	学校教育研究演習 II	1	後期　木 9, 10	森脇 健夫

授業の概要　卒業研究の準備を行う

学習の目的　卒業研究の準備を行う

学習内容
卒業論文の準備として次のようなことを踏まえておく必要がある。
1．質的研究についての基礎・基本をおさえる。
2．参加観察とインタビューについての基礎知識をおさえる。
3．研究仮説の検証と事例研究の特質をおさえる。
4．質的な研究の意義を課題をおさえる
5．対話的な検証による信頼性と妥当性の確保の重要さを知る

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究		学校教育研究演習 II	1	後期　木 9, 10	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
「学習」を生活場面における全ての「学び」であると広くとらえ、「学び」の背景にある心理学的プロセスを、研究活動を通じて理解することを目指す。そのために、まず文献の講読を通じて、これまでの研究における知見に触れ、そこから一般化可能な知識を獲得する。そして、研究活動を通じて、自らの視点から現実場面での「学び」を理解できる能力を身につけることをめざすとともに、研究を実施するための方法を身につける。さらに、自らが「学び」に関わり、その「学び」をよりよいものにするための実践的な知識の修得も目指したい。
また、人間行動における「動機づけ」の問題も考えて欲しい。

学習の目的
学習の心理学的プロセスの理解と実践スキルの獲得、心理学研究法に関する知識の獲得

学習の到達目標　上記の活動を通して、実生活における様々な場面において自分自身が「より良く学ぶ」方法を身につけ、「モティベーショナル」に振る舞えるようになってもらえればと考えている。また、研究方法の基礎も身につけて欲しい。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教育心理学・学習心理学・学習心理学実践技法・モティベーションサイエンス

教科書　授業内で適宜指定する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
・学習心理学に関する文献購読
・心理学的研究法の学習
・学習心理学に関する教員との共同研究の実施
・学習心理学に関するディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	63〜64	学校教育研究演習 II	1	後期　木 9, 10	南 学（教育学部学校教育講座）

授業の概要　成人の思考活動に関する研究領域を中心に、認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解を目的とする。具体的には、当該領域の文献講読と各自の学習・研究成果の報告を通じ、相互に研鑽していく。

学習の到達目標　認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解

予め履修が望ましい科目　心理学、心理統計法、行動科学基礎実験

教科書　授業時に指示する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
心理学研究の方法
文献検索と文献講読
データ分析
論文執筆

その他　無断欠席は認めない。積極的に参加し、相互に高めあうことを期待する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	〜64	学校教育研究演習 II	1	後期　木 9, 10	瀬戸美奈子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　子どもの発達に関して、臨床実践と研究の両面から理解する。そこから得られた各自の問題意識をもとに卒業研究に向けて研究テーマを検討していく。具体的には、事例研究、文献講読を行い、子どもの発達や臨床的な問題について討議しながら進めていく。

学習の目的　事例研究、調査研究の方法論が理解できる。子どもの発達について臨床的な視点から理解できる。

学習の到達目標
心理学の研究法を理解し、論文の読み方、書き方が理解できる。
自分の問題意識から研究テーマを卒業論文を完成させる。

予め履修が望ましい科目　教育臨床、発達臨床、教育心理学

教科書　授業時に適宜紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表などを総合的に評価する。

学習内容
子どもの臨床事例の検討
子どもの発達に関する論文の講読
子どもの発達臨床に関するトピックについてのディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	64	学校教育研究演習 III	1	前期　月 9, 10	佐藤 年明

授業の概要　教育課程論研究の課題と方法の検討

学習の目的　卒業論文執筆に向けて、個人の研究に即して指導を行なう。

学習の到達目標　卒業論文のテーマを設定し、方法論の検討を行ない、研究情報収集のための準備を完了する。

受講要件　教育課程論研究室所属学生に限定する。

予め履修が望ましい科目　教育課程論 I 、教育課程論特殊講義

教科書　教科書は使用しない。

成績評価方法と基準　授業中における研究発表によって評価する。

オフィスアワー　月4コマ、火4コマ いずれも研究室にて

学習内容
第1回〜第15回 個人研究指導
個人研究発表を中心とする。
学校教育研究演習 I と同時に開講し、3年生と4年生の研究指導を並行して進めていく。詳細なスケジュールは2015年度に入り開講までの期間に決定する。

その他　大学院生等をオブザーバー参加させる場合もある。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	64~65	学校教育研究演習III	1	前期　月 9, 10	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行い、卒業論文作成に向けての研究指導を行う。

学習の目的　卒業論文のテーマ設定と執筆に向けて，基礎的な知識と技術を習得すること。

学習の到達目標　自分の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマを設定し，理論的・実証的に記述・説明できるようになること。

受講要件　原則として学校経営学研究室所属学生に限定する

予め履修が望ましい科目　学校経営学，教育経営学特別講義

教科書　教科書は使用しない。参考図書や参考資料は授業中に随時紹介する。

成績評価方法と基準　毎回の授業における発表から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
個人の研究発表を中心として以下のような内容で進める。
1回：演習の方針や進め方の概要を説明する。
2〜3回：過去の卒業生のゼミ発表資料や卒業論文をもとに、卒業論文執筆に向けたイメージをつかむ。
4〜7回：各自の問題関心に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、研究の方法論や手続きについて説明する。
8〜14回：引き続き、各自の研究関心に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、基本的な概念や研究枠組みについて検討を行う。
15回：必要に応じて個別的な指導を行う
16回：個別課題の提出

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65, 64	学校教育研究演習III	1	前期　火 9, 10	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　日常的な営みである教育にさまざまな疑問符を投げかけその本質を捉えなおす作業を論文指導も含めながら進める。

学習の目的　自身の関心を鮮明化し、探究する。

学習の到達目標　自身の関心に基づいて発言・執筆する能力を身につける。

受講要件　教育哲学分野に関心を持つこと。

予め履修が望ましい科目　「教育哲学」

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　発表50%、レポート50%、計100%。ただし、80%以上出席したことを条件とする。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育と哲学の関係を哲学する（概論）
②教育と哲学の関係を哲学する（各論）
③人間と教育の関係を哲学する（概論）
④人間と教育の関係を哲学する（各論）
⑤子供と教育の関係を哲学する（概論）
⑥子供と教育の関係を哲学する（各論）
⑦世界と教育の関係を哲学する（概論）
⑧世界と教育の関係を哲学する（各論）
⑨歴史と教育の関係を哲学する（概論）
⑩歴史と教育の関係を哲学する（各論）
⑪教師と教育の関係を哲学する（概論）
⑫教師と教育の関係を哲学する（各論）
⑬現代教育の条件を哲学する（概論）
⑭現代教育の条件を哲学する（各論）
⑮まとめ

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	64〜65	学校教育研究演習III	1	前期　木 9, 10	松浦均（教育学部）

授業の概要　社会心理学および教育心理学を中心としながら，その周辺領域，関連領域も含めて心理学研究の方法論を学び，各自が卒業研究に向けて研究テーマを見つけ検討していく．授業はゼミ形式で実施する．1年間のゼミ共同研究を立案計画し，研究テーマに基づいてデータ収集，データ分析を行う．また文献講読をベースに議論を深めながら進めていく．

学習の目的
心理学，社会心理学，教育心理学の研究や実践を行いながら，心理学の研究方法論を習得する．
ゼミ形式の授業のなかで，議論の進め方，論文の読み方書き方，データの収集法，分析方法，発表の仕方などを学習する．

学習の到達目標
社会的行動を心理学的に説明できるようなモノの見方，
社会心理学研究に関する基本的な理解，
積極的な心理学的問題設定の視点，
卒業研究の実施と完成．

受講要件　とくになし

予め履修が望ましい科目　社会心理学等，教育心理学関係の科目全般

教科書　原岡一馬著 心理学研究の基礎 ナカニシヤ出版 他

成績評価方法と基準　授業への取り組み，日常的な活動，100%

オフィスアワー　本授業（＝ゼミ）で対応します

学習内容
文章作成，言語表現，プレゼンテーションに関する演習を行う．
心理学に関する研究方法論について多数の文献を講読する．
社会心理学文献講読をしながら研究論文の読み方書き方などを学習する．
フィールドや社会へ出て見聞を広め，感性を磨く．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	64	学校教育研究演習III	1	前期　木 9, 10	森脇 健夫

授業の概要　卒業研究の準備を行う

学習の目的　卒業研究の準備を行う

学習内容
卒業論文の準備として次のようなことを踏まえておく必要がある。
1．質的研究についての基礎・基本をおさえる。
2．参加観察とインタビューについての基礎知識をおさえる。
3．研究仮説の検証と事例研究の特質をおさえる。
4．質的な研究の意義を課題をおさえる
5．対話的な検証による信頼性と妥当性の確保の重要さを知る

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究		学校教育研究演習III	1	前期　木 9, 10	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
「学習」を生活場面における全ての「学び」であると広くとらえ、「学び」の背景にある心理学的プロセスを、研究活動を通じて理解することを目指す。そのために、まず文献の講読を通じて、これまでの研究における知見に触れ、そこから一般化可能な知識を獲得する。そして、研究活動を通じて、自らの視点から現実場面での「学び」を理解できる能力を身につけることをめざすとともに、研究を実施するための方法を身につける。さらに、自らが「学び」に関わり、その「学び」をよりよいものにするための実践的な知識の修得も目指したい。
また、人間行動における「動機づけ」の問題も考えて欲しい。

学習の目的　学習の心理学的プロセスの理解と実践スキルの獲得、心理学研究法に関する知識の獲得

学習の到達目標　上記の活動を通して、実生活における様々な場面において自分自身が「より良く学ぶ」方法を身につけ、「モティベーショナル」に振る舞えるようになってもらえればと考えている。また、研究方法の基礎も身につけて欲しい。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教育心理学・学習心理学・学習心理学実践技法・モティベーションサイエンス

教科書　授業内で適宜指定する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
・学習心理学に関する文献購読
・心理学的研究法の学習
・学習心理学に関する教員との共同研究の実施
・学習心理学に関するディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	-63	学校教育研究演習III	1	前期　木 9, 10	南 学（教育学部学校教育講座）

授業の概要　成人の思考活動に関する研究領域を中心に、認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解を目的とする。具体的には、当該領域の文献講読と各自の学習・研究成果の報告を通じ、相互に研鑽していく。

学習の到達目標　認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解

予め履修が望ましい科目　心理学、心理統計法、行動科学基礎実験

教科書　授業時に指示する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
心理学研究の方法
文献検索と文献講読
データ分析
論文執筆

その他　無断欠席は認めない。積極的に参加し、相互に高めあうことを期待する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	～64	学校教育研究演習III	1	前期　木 9, 10	瀬戸美奈子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　子どもの発達に関して、臨床実践と研究の両面から理解する。そこから得られた各自の問題意識をもとに卒業研究に向けて研究テーマを検討していく。具体的には、事例研究、文献講読を行い、子どもの発達や臨床的な問題について討議しながら進めていく。

学習の目的　事例研究、調査研究の方法論が理解できる。子どもの発達について臨床的な視点から理解できる。

学習の到達目標
心理学の研究法を理解し、論文の読み方、書き方が理解できる。
自分の問題意識から研究テーマを卒業論文を完成させる。

予め履修が望ましい科目　教育臨床、発達臨床、教育心理学

教科書　授業時に適宜紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表などを総合的に評価する。

学習内容
子どもの臨床事例の検討
子どもの発達に関する論文の講読
子どもの発達臨床に関するトピックについてのディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	64~65	学校教育研究演習Ⅳ	1	後期　月 9, 10	織田 泰幸（教育学部）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行い、卒業論文作成に向けての研究指導を行う。

学習の目的　卒業論文のテーマ設定と執筆に向けて，基礎的な知識と技術を習得すること。

学習の到達目標　自分の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマを設定し，理論的・実証的に記述・説明できるようになること。

受講要件　原則として学校経営学研究室所属学生に限定する

予め履修が望ましい科目　学校経営学，教育経営学特別講義

教科書　教科書は使用しない。

成績評価方法と基準　毎回の授業における発表から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
個人の研究発表を中心として以下のような内容で進める。
1回：演習の方針や進め方の概要を説明する。
2〜3回：各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行う。
4〜7回：引き続き各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、研究上の意義や課題について検討を行う。
8〜14回：引き続き各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、卒業研究の総仕上げに向けた検討を行う。
15回：必要に応じて個別的な指導を行う
16回：個別課題の提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	65, 64	学校教育研究演習Ⅳ	1	後期　火 9, 10	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　日常的な営みである教育にさまざまな疑問符を投げかけその本質を捉えなおす作業を論文指導も含めながら進める。

学習の目的　自身の関心を鮮明化し、探究する。

学習の到達目標　自身の関心に基づいて発言・執筆する能力を身につける。

受講要件　教育哲学分野に関心を持つこと。

予め履修が望ましい科目　「教育哲学」

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　発表50%、レポート50%、計100%。ただし、80%以上出席したことを条件とする。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育と哲学の関係を哲学する（概論）
②教育と哲学の関係を哲学する（各論）
③人間と教育の関係を哲学する（概論）
④人間と教育の関係を哲学する（各論）
⑤子供と教育の関係を哲学する（概論）
⑥子供と教育の関係を哲学する（各論）
⑦世界と教育の関係を哲学する（概論）
⑧世界と教育の関係を哲学する（各論）
⑨歴史と教育の関係を哲学する（概論）
⑩歴史と教育の関係を哲学する（各論）
⑪教師と教育の関係を哲学する（概論）
⑫教師と教育の関係を哲学する（各論）
⑬現代教育の条件を哲学する（概論）
⑭現代教育の条件を哲学する（各論）
⑮まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	64〜65	学校教育研究演習Ⅳ	1	後期　木 9, 10	松浦均（教育学部）

授業の概要　社会心理学および教育心理学を中心としながら，その周辺領域，関連領域も含めて心理学研究の方法論を学び，各自が卒業研究に向けて研究テーマを見つけ検討していく．授業はゼミ形式で実施する．1年間のゼミ共同研究を立案計画し，研究テーマに基づいてデータ収集，データ分析を行う．また文献講読をベースに議論を深めながら進めていく．

学習の目的
心理学，社会心理学，教育心理学の研究や実践を行いながら，心理学の研究方法論を習得する．
ゼミ形式の授業のなかで，議論の進め方，論文の読み方書き方，データの収集法，分析方法，発表の仕方などを学習する．

学習の到達目標
社会的行動を心理学的に説明できるようなモノの見方，
社会心理学研究に関する基本的な理解，
積極的な心理学的問題設定の視点，
卒業研究の実施と完成．

受講要件　とくになし

予め履修が望ましい科目　社会心理学等，教育心理学関係の科目全般

教科書　原岡一馬著 心理学研究の基礎 ナカニシヤ出版 他

成績評価方法と基準　授業への取り組み，日常的な活動，100%

オフィスアワー　本授業（＝ゼミ）で対応します

学習内容
文章作成，言語表現，プレゼンテーションに関する演習を行う．
心理学に関する研究方法論について文献を輪読する．
社会心理学文献講読をしながら研究論文の読み方書き方などを学習する．
フィールドや社会へ出て見聞を広め，感性を磨く．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究		学校教育研究演習IV	1	後期　木 9, 10	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
「学習」を生活場面における全ての「学び」であると広くとらえ、「学び」の背景にある心理学的プロセスを、研究活動を通じて理解することを目指す。そのために、まず文献の講読を通じて、これまでの研究における知見に触れ、そこから一般化可能な知識を獲得する。そして、研究活動を通じて、自らの視点から現実場面での「学び」を理解できる能力を身につけることをめざすとともに、研究を実施するための方法を身につける。さらに、自らが「学び」に関わり、その「学び」をよりよいものにするための実践的な知識の修得も目指したい。
また、人間行動における「動機づけ」の問題も考えて欲しい。

学習の目的　学習の心理学的プロセスの理解と実践スキルの獲得、心理学研究法に関する知識の獲得

学習の到達目標　上記の活動を通して、実生活における様々な場面において自分自身が「より良く学ぶ」方法を身につけ、「モティベーショナル」に振る舞えるようになってもらえればと考えている。また、研究方法の基礎も身につけて欲しい。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教育心理学・学習心理学・学習心理学実践技法・モティベーションサイエンス

教科書　授業内で適宜指定する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
・学習心理学に関する文献購読
・心理学的研究法の学習
・学習心理学に関する教員との共同研究の実施
・学習心理学に関するディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究	～64	学校教育研究演習IV	1	後期　木 9, 10	南 学（教育学部学校教育講座）

授業の概要　成人の思考活動に関する研究領域を中心に、認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解を目的とする。具体的には、当該領域の文献講読と各自の学習・研究成果の報告を通じ、相互に研鑽していく。

学習の到達目標　認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解

予め履修が望ましい科目　心理学、心理統計法、行動科学基礎実験

教科書　授業時に指示する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
心理学研究の方法
文献検索と文献講読
データ分析
論文執筆

その他　無断欠席は認めない。積極的に参加し、相互に高めあうことを期待する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究		学校教育研究演習IV	1	後期　木 9, 10	森脇 健夫

授業の概要　卒業研究の準備を行う

学習の目的　卒業論文の執筆の過程において、生起するさまざまな問題について検討し、その修正をしながらさらに探究を行えるように支援する。

学習の到達目標　質的な研究論文の基礎・基本をふまえ、卒業論文として、また質的な研究の論文として一定の水準に到達する。

学習内容

質的な研究としての基礎・基本を踏まえ、文献研究、や質的な研究の方法（参与観察、インタビュー）を用いて、データを整理し、構造化して根拠のある主張を展開できるようにする。その際に起こるさまざまな問題に対して適切な処理ができるように力をつける。
質的な研究の意義と課題について事例研究を通して理解し、その特徴をさまざまな分野の問題の解決にいかすことができるように自分のものとする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育実地研究	66	学校教育実地研究 I	2	前期集中	織田 泰幸（教育学部）

授業の概要　三重県内の小学校を3日間にわたって訪問し、ベテラン教師の助言を受けながら，授業観察や児童との交流を通じて、子どもの実態や教師の仕事の概要を把握する。詳細については，2013年度がスタートしてから協議・確定する。

学習の目的　本授業では，小学校における参与観察を通じた児童や教職員との交流によって、将来教師をめざす学生が自分の様々な教育観（教師観、子ども観，学校観など）を見つめなおして深めることを目的とする。

学習の到達目標　授業の参与観察および観察後の集団討論を通じた振り返りによって，自らの教育観を意識的に問い直すこと，そのことによって今後の教育学部における自己の学習・研究の見通しをより明確にすること。とりわけ1年後の4週間教育実習に向けての自己課題を認識すること。

受講要件　将来教職に就くことを希望する学生が望ましい（詳細についてはガイダンスにおいて説明する）。

予め履修が望ましい科目　特になし

教科書　特になし

成績評価方法と基準
次の2種類のレポートから総合的に評価する。
学校訪問日における「Daily Report」（原則当日中に提出）
学校訪問終了後における「最終レポート」（締切日までに提出）
（いかなる事情があれ，この授業における遅刻や欠席は認めないので注意すること）

オフィスアワー　本授業の受講を検討している学生は，事前に担当教員の研究室を訪問して受講の意思を伝えること。また，その後の事前学習には必ず参加すること。

学習内容
この授業における小学校の訪問・実地体験の日程と内容は，2015年4月以降に具体化する。実施期間は2015年9月である（具体的な日程は学校と相談のうえ決定する）。
現段階での授業担当者のプランは以下のとおりである。
第1回 4月：事前学習・ミーティング1（実地研究の概要説明）
第2回 8月：事前学習・ミーティング2（実地研究受講生の心構えと注意点）
第3〜14回 9月：3日間の実地研究（授業観察、学校見学、集団討論）
1日目：午前：授業見学 午後：協議会
2日目：午前：授業見学 午後：協議会
3日目：午前：授業見学 午後：協議会
第15〜16回 事後学習・ミーティング
現地での参与観察とその後の協議会以外には，大学における事前学習・ミーティング（2コマ分）および事後学習・ミーティングの時間（2コマ分）を設ける。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育実地研究	64, 66	学校教育実地研究 II	2	前期集中	佐藤 年明

授業の概要　The University of Auckland (New Zealand)が提供する大学教育への参加プログラムと幼稚園・小学校・中学校・高等学校訪問、園児児童生徒及び教職員との交流を経験する。

学習の目的　日本とは先進資本主義国としての共通性も持ちながら、一方で成熟した多文化教育など異なる側面も持つNew Zealandの高等教育及び幼児教育・初等中等教育の実際から実地で学ぶことにより、社会・文化と教育の関係、学校教育における教師の指導と児童生徒の自主性形成の関係などについて考察し、近い将来教師となりゆく上での糧とすること。

学習の到達目標
・英語圏での日常生活において不自由のないコミュニケーション能力を形成すること（事前準備を含めて）。
・The University of Aucklandにおける講義・演習参加及び幼・小・中・高訪問において、疑問や意見を主体的に表明し、現地の人々との交流を通じて学びを深めること。
・英語による思考をベースとして教育学上の諸問題を考察することができる基礎能力を形成すること。

受講要件　原則として2014年度中に「2015年Auckland教育研修」の参加申込済みであるものに限るが、参加枠（10〜15名）に余裕がある場合は2015年度に入っても追加申込及び本授業の受講を受け付ける。

教科書　なし。

成績評価方法と基準　事前学習20%、現地研究への参加50%、帰国後の「学校教育最先端ゼミナール」における帰国報告と総括レポート30%

オフィスアワー　木曜2・3・4コマ

学習内容
・4月当初に、今年度オークランド研修参加者のミーティングを行なう。
・5月頃、オークランド大学教育学部副学部長Dr.John Hopeが来学され、New Zealandの文化・教育とオークランド大学についてのガイダンスが行なわれる予定である。
・それ以降9月の出発直前までに何度かのミーティングを行ない、現地研修のためのパンフレットづくり、New Zealandの文化と教育に関する事前学習、演習を実施する。
・現地研修は9月1日〜9日の9日間である。その詳細は、現地との交渉を経て事前学習期間中に発表する。

その他　オークランド大学教育研修参加費として、概算30万円程度が必要である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育実地研究		学校教育実地研究III	2	通年	松浦 均(教育学部学校教育講座)，南 学(同学校教育講座), 中西良文(同学校教育講座), 松本金矢(同技術教育講座)

授業の概要　三重県志摩市の幼・小・中学校で4日間の教師見習いをする。また、その前後に授業案の作成・リフレクションを行う。

学習の到達目標　大学での学習と現場での実践を往還することにより、知識と実践とを結びつける力を身につけるのが、究極的な目標である。

受講要件　意欲とコミュニケーション力。

予め履修が望ましい科目　教師と生徒の心理II およびI、教育心理学、学習心理学、社会心理学、クリティカルシンキング、コミュニケーション実習

教科書　指定はしないが、適宜、必要な文献にはあたって欲しい。

成績評価方法と基準　授業案立案の際の活動状態、立案された授業案、実地先での活動状態、実地研究後に提出するレポート、事後リフレクションを総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　担当教員の予定が空いているときは、いつでも対応する。

学習内容
・実地研究の説明
・授業案の作成・ブラッシュアップ
・授業案の検討
・実地での実践活動
・リフレクション

その他　この授業は通年開講であるが、9月に行う現場での活動に向け、5月頃から授業案作成が始まるため、履修申請・受講には注意すること！。5月頃に掲示による案内を行うため、注意して見ておいてください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育研究		学校教育研究演習IV	1	後期　木 9, 10	瀬戸美奈子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　子どもの発達に関して、臨床実践と研究の両面から理解する。そこから得られた各自の問題意識をもとに卒業研究に向けて研究テーマを検討していく。具体的には、事例研究、文献講読を行い、子どもの発達や臨床的な問題について討議しながら進めていく。

学習の目的　事例研究、調査研究の方法論が理解できる。子どもの発達について臨床的な視点から理解できる。

学習の到達目標
心理学の研究法を理解し、論文の読み方、書き方が理解できる。
自分の問題意識から研究テーマを卒業論文を完成させる。

予め履修が望ましい科目　教育臨床、発達臨床、教育心理学

教科書　授業時に適宜紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表などを総合的に評価する。

学習内容
子どもの臨床事例の検討
子どもの発達に関する論文の講読
子どもの発達臨床に関するトピックについてのディスカッションなど

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育ゼミナール	67	学校教育最先端ゼミナールI	2	後期　水 3, 4	森脇健夫

授業の概要　学校教育講座の教員の研究を紹介し、そのことによって教育学、教育心理学への興味・関心を高める。

学習の目的　教育学・教育心理学への知見をもてるようになり、興味関心を高める。

学習の到達目標　知見と興味関心

学習内容

1．ガイダンス
2〜13 各教員の講義
14〜16 まとめ
この講義では、教育学、教育心理学の教員が自分の専門分野について、その最新の研究状況を踏まえて自分の研究について語っていく。一回一回の講義の内容が学習内容であり、また研究室決定の参考資料となるよう期待する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育ゼミナール	66	学校教育ゼミナール	2	前期集中	大日方 真史（教育学部）

授業の概要　学校教育が、子どもの育ちにおいていかなる意義を有し、社会においていかに位置づけられるのかを研究的に議論し、理論的に考察する。

学習の目的　教育の今日的な問題を多面的にかつ深く捉えつつ、学校教育の意義を実践的・理論的に探究し続ける構えを形成すること。

学習の到達目標　学びと育ちに関わる実践と理論の蓄積を検討し、学校教育の課題に迫りうる研究を構想できるようになること。

受講要件　学校教育入門ゼミナールを履修済であること

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（討論への参加、提出物等）50%、レポート50%

オフィスアワー　毎週火曜日12：00～12：50、研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回～第4回 研究の基礎
第5回～第8回 課題の設定
第9回～第12回 文献の検討
第13回～第16回 研究発表、まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学校教育ゼミナール		コミュニケーション実習 I	2	前期集中	中西良文(教育学部学校教育講座)・瀬戸美奈子(教育学部学校教育講座)

授業の概要
大学での学習においては、学習者がグループで活動を行うことがあり、その際には一定のコミュニケーション力を求められることも多い。そこで、本授業ではコミュニケーション力を刺激するエクササイズを行い、受講生のコミュニケーション力育成を目指す。
さらに、コミュニケーション力を育成する方法についてもできれば習得を目指したい。

学習の到達目標　グループコミュニケーション力の獲得。そして、それを支援するスキルの獲得。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教師と生徒の心理II

教科書　適宜講義中に紹介する。

成績評価方法と基準　グループでの活動における関与の度合いと授業内で出されるレポート。欠席は認められない。

オフィスアワー　担当教員が研究室に在室の際に随時対応する

学習内容
・アイスブレーキング
・コミュニケーションとグループ活動について考える
・グループワークを通したコミュニケーション実習
・コミュニケーション力支援の方法と評価

その他　特になし

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育哲学	67, 66, 65, 64	教育哲学	2	後期　月 7, 8	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　教育が伝達および創造の対象とみなす価値ある＜もの＞という主題へのアプローチを＜直観＞という概念に手がかりを求めながら試みる。

学習の目的　教育という営みを先入観を排して問い直す。

学習の到達目標　教育という営みを自ら思考できるようになる。

受講要件　教育事象への関心。

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、発表80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30～12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育哲学の沿革
②直観の位置づけ（日本）
③直観の位置づけ（西洋）
④コメニウスの直観論（思想形成）
⑤コメニウスの直観論（教育構想）
⑥ルソーの直観論（思想形成）
⑦ルソーの直観論（教育構想）
⑧バセドウの直観論（思想形成）
⑨バセドウの直観論（教育構想）
⑩ペスタロッチーの直観論（思想形成）
⑪ペスタロッチーの直観論（教育構想）
⑫ペスタロッチーの直観論（教育実践）
⑬現代の直観論（日本）
⑭現代の直観論（西洋）
⑮現代の直観論（展望）
⑯まとめ

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
教育哲学	66, 65, 64	教育哲学特殊講義	2	前期　月 7, 8	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　教育の思想を受容するとはどういうことなのか。西洋から東洋、東洋から西洋という双方向性からのアプローチを試みる。

学習の目的
身近に感じている教育思想の来歴を知る。
教育思想の受容過程に生じた変容について考える。
現代において教育思想がどのように生かされうるかを検討する。

学習の到達目標　教育思想を踏まえて教育の役割を自ら思考できるようになる。

教科書　教科書：適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、発表80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室。

学習内容
①教育思想の系譜（近代以前）
②教育思想の系譜（近代以降）
③西洋へのまなざし（戦前）
④西洋へのまなざし（戦後）
⑤東洋へのまなざし（戦前）
⑥東洋へのまなざし（戦後）
⑦ペスタロッチーの場合（戦前）
⑧ペスタロッチーの場合（戦後）
⑨フレーベルの場合（戦前）
⑩フレーベルの場合（戦後）
⑪デューイの場合（戦前）
⑫デューイの場合（戦後）
⑬受容の型（戦前のまとめ）
⑭受容の型（戦後のまとめ）
⑮まとめ

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
教育方法学	64-66 67	教育課程論特殊講義 教育課程構成法	2 2	後期　月 3, 4	佐藤 年明

授業の概要
学習指導要領による拘束を受けている学校教育課程を教育の主体である子どもと教師の手に取り戻すことを見通しながら、近い将来に教師となる学生諸君自身が主体的に教育課程を構成していく活動を経験する。
教育課程の領域は幅広いので、性に関する学習に焦点を絞り、小学校を中心に中高への発展も見通しながら「性を学ぶ教育課程」の創造に取り組む。

学習の目的　近い将来教師となった時、単なる「学習指導要領の消費者」になりさがるのではなくて、「教育課程編成全体にわたる視野」（1998年教育課程審議会答申）を持った主体的な教育課程の創造者となるために、学生時代に基礎力量と構え・覚悟を形成することが望ましい。

学習の到達目標　学習指導要領に根拠があるなしにかかわらず、「子どもたちにこのことをこそ教えたい」という教育内容上の信条を持てること。またそれをより豊かにし、強化し、また柔軟に修正していける姿勢を形成すること。

受講要件
教育課程論研究室所属学生は、3年次または4年次に必ず履修してほしい。
学校教育コース対象の授業であるが、人間発達科学コース学生にも自由選択科目として受講してもらいたい。

予め履修が望ましい科目　「教育課程論Ⅰ」または「教育課程論Ⅱ」

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　授業中にmoodle上に提出を求める「課題レポート」及び期末の「最終レポート」によって評価する。

オフィスアワー　木2・3・4コマ いずれも研究室にて

学習内容
※以下はあくまで当初計画であり、授業での議論の展開等によって変更する可能性もある。
第1回：学習指導要領と教師の関係〜初期学習指導要領と現行学習指導要領を比較する〜
第2回：教師の教育課程に対する裁量権〜教科書検定訴訟杉本判決を読む〜
第3回：教育課程編成権をわがものとするために、何から始めたらよいか？（討論）
第4回：小学校性教育の領域で編成権行使を試行する(1)学習指導要領の該当箇所を批判的に検討する
第5回：小学校性教育の領域で編成権行使を試行する(2)検定教科書（1992・1996・2000・2002・2005・2011年版）の記述から学習指導要領が容認する教育内容の可能性と限界を検討する。
第6回：中学校・高等学校学習指導要領における性の扱いの批判的検討
第7回：鳥羽市における小学校・中学校性教育カリキュラムの検討
第8回：学習指導要領の限界を打破して教育課程を創造する可能性と教師の責務
第9回：自主編成したい教育内容（学習テーマ）を提案しあい、いくつかの教育課程作成グループを編成する
（以後の回は班活動とその発表を行なう）
第10回：学習テーマの「親学問」(parent discipline)を探究する
第11回：「親学問」から教育内容をどう選択、抽出するのか？
第12回：子どもたちの興味・関心との接点をどう設定するのか？
第13回：研究の方法と学習の方法をどう区別するのか？
第14回：知識・技能の習得と学習活動の展開をどう関連づけるのか？
第15回：各グループの学習プランの発表・交流
※試験は行なわず、日常点と最終レポートで評価する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育方法学	～65	生活指導論特殊講義	2	前期　月7,8	大日方 真史（教育学部）

授業の概要　子ども自身の「語り」と、教師・おとなの子どもをめぐる「語り」において、いかに子どもを捉えることができるのか、その営みにはいかなる意義を見出しうるのかを探究する。

学習の目的　子どもの生活と学びにおいて、子どもの「語り」あるいは子どもをめぐる「語り」にいかなる意義があるかを認識し、対話の場の生成に向けた実践を構想できること。

学習の到達目標　「語り」の成立条件と、「語り」から子どもに迫る方法を、具体的な実践に即して理解できること。

教科書　適宜指示する。

成績評価方法と基準　平常点（討論への参加、提出物）50%、レポート50%

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容

1 ガイダンス
2 物語のなかの子ども（1）
3 物語のなかの子ども（2）
4 教育実践記録のなかの子ども（1）
5 教育実践記録のなかの子ども（2）
6 子どもの「語り」の意義（1）
7 子どもの「語り」の意義（2）
8 子どもをめぐる教師・おとなの対話の意義（1）
9 子どもをめぐる教師・おとなの対話の意義（2）
10 教育実践記録・学級通信の意義（1）
11 教育実践記録・学級通信の意義（2）
12 「語り」に着目する探究の意義と課題（1）
13 「語り」に着目する探究の意義と課題（2）
14 「語り」に着目する探究の方法（1）
15 「語り」に着目する探究の方法（2）
16 まとめ（レポート提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
社会教育	66～63	社会教育概説	2	前期集中	蓮尾直美

授業の概要　＜授業の概要＞ 地域社会における諸個人が、家庭・学校・職場においてよりよく学習活動を進めていくための方法、関連施設・情報提供の場について講述する。この際、「学社融合」の見地から、社会教育と学校教育との連携の仕方、たとえば美術館や博物館との「博学融合」等についても具体的に検討する。さらに、生涯学習の視点に立つ社会教育を推進する立場から課題を取り上げて集団討議を試み、受講生各自が地域や学校を支援するリーダーとしての任務を果たすための構えや技法について実地に社会教育活動の現場見学の場をとおして習得を図る。

学習の目的
＜学習の目的＞
生涯学習社会における社会教育の意義と役割、また社会教育関連のキー概念の理解を通じ、個人が自らのライフ・コースにおいて自己形成を図るための支援組織や形態・技法について知識を得る。

学習の到達目標
1．生涯教育・生涯学習の視点から学校教育や人間形成を考える。
2．地域社会やメディアなどを含む社会教育の領域との協働により、より広い視野から、学校教育、家庭教育の問題について考え対処する力を養うことができる。
3．一般になじみのある生涯学習概念の「社会教育」における位置づけや関連性について考察を深め実地に社会教育施設見学を行うことによって「社会教育」の今日的意義を自覚する。

予め履修が望ましい科目　教育社会学

教科書　「社会教育」（財団法人 全日本社会教育連合会）他、適宜紹介する。

成績評価方法と基準　出席の構え・小レポート20%、調査発表・レポート20%学科試験60%、計100%。

オフィスアワー　学校教育講座（事務室 平日）

学習内容
1回 講義の概要・方針・進め方について説明する。
2～3回 社会教育とは何か。生涯教育や生涯学習との関連について講究する。
4～7回 地域社会における諸個人が、家庭・学校・職場においてよりよく学習活動を進めていくための方法、関連施設・情報提供の場について講述する。また、地域からゲストティーチャーを招き家庭教育の課題や青少年のキャリア教育について講話を予定している。
8～10回 「学社融合」の見地から、社会教育と学校教育との連携の仕方、たとえば美術館や博物館との「博学融合」また学校における部活動と地域スポーツの問題など、実地見学を通して具体的に検討する。
11～14回 生涯学習の視点に立つ社会教育を推進する立場から各自関心のある社会的課題を取り上げて実地調査をもとに報告し集団討議を試み、リーダーとしての資質能力の育成を図る。
15回 まとめ
16回 筆記試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学習心理学		学習心理学	2	後期　金3,4	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
人が新たなものを学んでいく中で、どのような心理学的プロセスが働いているのであろうか。これを理解することができれば、効率的に人を「賢く」する方法が分かるはずであろう。
本講義では、学習心理学の研究知見の中から、記憶や動機づけなど重要なトピックについて取り上げて話題提供する。さらに、特に興味深いトピックについては、学習者主体型の活動を通して、学習を進める。これらを通して、授業で学んだ心理学的知見をいかに生かせばよいかについて習得できることを目指す。

学習の到達目標　学びの過程を心理学的に理解し、より良い学習指導を行ったり、自らの学びを改善するスキルを身につける。

受講要件　最低限の意欲とコミュニケーション力

予め履修が望ましい科目　教育心理学

教科書　参考書:「授業を変える」 米国学術研究推進会議編 北大路出版 ・「自己形成の心理―自律的動機づけ」 速水敏彦 金子書房

成績評価方法と基準　レポートや授業活動への関与

オフィスアワー　前期・金曜13:00～14:30・学習心理学（中西）研究室

学習内容
イントロダクション
様々な学習理論とその応用
様々な動機づけ理論とその応用
学習・動機づけに関する重要な研究とその解釈
学んだ知識をどのように活かせばよいか

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
学習心理学		学習心理学実践技法	2	後期　木 1, 2	中西良文（教育学部学校教育講座）

授業の概要　この授業では、「実際に」授業を企画・実施します。それによって、「現場に密着した学習心理学の知見」を理解するとともに、そこで学んだ「学習心理学」の知見を「実際に使えるようになる」ことを目指します。

学習の到達目標
まず、学習心理学に関するこれまでの研究の知見を「理解」することが挙げられます。そして、学習心理学の研究で蓄積されてきた知見を知るだけではなく、実際に「生かす力」を身につけて欲しいと思います。その際に特に「学習者の視点」に立って考えられるようになって欲しいと考えています。
この授業では、実際に「教える」という活動をすることによって、これら以外に様々な力を身につけて欲しいと考えていますし、実際に身につくと思います。教員免許の取得を考えている人には、それに直接役立つ経験ができる機会になると思います。

受講要件
実際の教育現場に出て授業を実施することを含んでいるため、社会常識を持ち、積極的に授業に関与を行う人のみ受講を認めます。
なお、学生教育研究災害傷害保険には加入しておいてください。

予め履修が望ましい科目　学習心理学・教育心理学・モティベーションサイエンス・教師と生徒の心理・発達心理学・教育臨床

教科書　授業内で指定するが、図書を数冊購入していただく予定である。

成績評価方法と基準
授業後半に行う「授業実施」とその後に出される「レポート」で評価を行う。

ただし、授業実施までの授業での活動も重視し（欠席不可）、それまでの受講態度如何によっては、授業実施に参加させないことがある。そのあたりは、十分に理解をしておいて欲しい。

オフィスアワー　後期・月曜34限・学習心理学（中西）研究室

学習内容
1回目：インストラクション
2回目：自ら授業を体験してみる（ビデオ課題を使った協調学習）
3回目：体験授業に対する考察
4回目：体験授業に対する考察の発表
5回目：学習心理学関連文献購読のテーマ設定（ジグソー学習）
6回目：学習心理学関連文献購読 自己学習（ジグソー学習）
7回目：学習心理学関連文献購読 グループディスカッション1（ジグソー学習）
8回目：学習心理学関連文献購読 グループディスカッション2（ジグソー学習）
9回目：授業案づくり 1
10回目：授業案づくり 2
11回目：授業案検討会
12回目：授業準備
13回目：授業実施
14回目：授業実施
15回目：実施授業のリフレクションとまとめ

その他　実際に学校において授業を行う予定であるため、正規の授業開始時間よりも早く、当該の学校に来てもらうことがあったり、また、（できるだけそうならないように最大限の配慮をしますが）次の時間の授業に食い込む可能性や授業時間とは別の時間に実践活動がありうることをご承知おきください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
発達臨床	～66	発達臨床	2	後期　月 5, 6	瀬戸美奈子

授業の概要　発達障害の特性について理解し、学校場面での援助の方法について考える。具体的には学習や行動面での問題をかかえる子どもの事例のアセスメントおよびアセスメントに基づく教材作りを行う。

学習の目的　発達障害の理解と子どもへの具体的な援助方法が理解できる。

学習の到達目標
発達障害の特徴を理解できる。
子どもの特性に応じて援助方針を考え、教材や指導方法を考案することができる。

予め履修が望ましい科目　発達心理学

教科書　適宜資料配布、文献を紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表、レポートを総合的に評価する。

学習内容
第1回 はじめに
第2回 発達障害の理解
第3回 学習におけるつまづきと援助
第4回～6回 事例検討
第7～9回 教材作成①
第10回～13回 教材作成②
第14回～15回 教材発表と振り返り

その他　授業では事例をもとにした討議やグループワークを行うため、積極的に意見を述べることが求められる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
発達臨床		発達臨床実践技法	2	前期　月 3, 4	瀬戸美奈子

授業の概要　個別知能検査の特徴を理解し、検査の実施とこどもの特徴について理解する。

学習の目的
個別知能検査の実施と特徴について理解できる。
子どもの発達上の問題についてアセスメントできる。

学習の到達目標
個別知能検査（WISCIV）の実施と結果について理解できる。
知能検査を用いた子どものアセスメントについて理解できる。

受講要件　実習形式を取り入れるため、定員は最大15名とする。

予め履修が望ましい科目　発達心理学

教科書　適宜紹介する。

成績評価方法と基準　実習参加態度、レポート、出席を総合的に評価する。

学習内容
1アセスメントとは何か
2心理検査の概要
3K-ABC検査の実施と解釈
4田中ビネー検査の実施と解釈
5WISCIVの実施と解釈
6検査実習
7事例検討
8まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
社会心理学	66期以前	社会心理学	2	後期　火 3, 4	松浦 均（教育学部学校教育講座）

授業の概要
社会心理学の中で構築されてきた諸理論を紹介しながら，日常の社会的行動のメカニズムを説明する．
とくに人間関係，対人関係にまつわる諸理論を紹介する形で各論概説的な講義を展開する．

学習の到達目標　人間の社会的行動をより具体的に説明する形で理論の紹介などをしていくので，各自の心理学研究のテーマを見つけるべく，高い意識を持ってもらいたい．また，社会心理学の諸理論が社会の中の人間行動とどのように整合しているのか日頃より意識をして観察するような視点を養ってもらいたい．

受講要件　特になし

教科書　社会心理学の概論書を授業中に紹介する．授業ではプリント資料を配付する．

成績評価方法と基準　出席状況30%，試験70%

オフィスアワー　水曜日の午後，教育学部1号館2階研究室

学習内容

1．オリエンテーション （第1週）
社会心理学が心理学の中でどのような領域を占めており，どのようなポジションにあるか概説する．この他，前期半年間の授業の進め方を説明する．また学習方法や学習目標を説明し，授業方法，成績評価方法なども説明する．
2．自己の過程 （第1週〜7週）
自己の問題は，心理学に限らず様々な分野で深い洞察が加えられてきたが，自己心理学の諸理論を踏まえて解説する．自己意識，社会的比較の過程，自己知覚の過程，自己提示の種類，自己開示の機能などについて解説する．
3．自己と他者 （第9週〜12週）
対人的な場面では，他者がどのような人物なのか推測判断するところから始まるといってもよい．対人知覚の問題を社会心理学の知見を紹介しながら解説する．印象形成，感情の知覚，対人認知の過程，社会的推論，社会的認知，帰属過程，社会的スキル，コミュニケーションなどについて解説する．
4．社会心理学の諸相 （第13〜14週）
社会心理学を概観して，社会心理学の対象，社会心理学の研究方法について述べる．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
認知発達心理学	〜66	認知発達心理学	2	後期　火 5, 6	南 学（教育学部学校教育講座）

授業の概要　人間の認知的側面に関する生涯発達について学びます。子どもの認知発達や概念発達に関する理論、老年期の認知発達を対象とします。

学習の到達目標　認知的側面に関する生涯発達の全体像を把握する。

予め履修が望ましい科目　発達心理学を履修済みもしくは同時履修中であることが望ましい。

教科書　テキストは特に指定しない。参考書等については随時紹介する。

成績評価方法と基準　出席状況，小レポート等，定期試験を総合的に評価する

学習内容
第1回 乳幼児の知覚研究法
第2回 奥行き知覚の形成
第3回 弁別知覚
第4回 乳幼児の記憶(1)
第5回 乳幼児の記憶(2)
第6回 乳幼児の記憶(3)
第7回 乳幼児のワーキングメモリ
第8回 概念の獲得と発達
第9回 科学的理解の発達
第10回 論理的理解の発達
第11回 言語獲得
第12回 認知・知覚のエイジング
第13回 記憶のエイジング(1)
第14回 記憶のエイジング(2)
第15回 認知障害

その他
この授業に関するWEBページ
http://www.minamis.net/kougi.html

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
認知発達心理学	～66	認知発達心理学実践技法	2	前期　月 9, 10	南 学（教育学部学校教育講座）

授業の概要　近年教育現場や社会では「生きる力」や「考える力」が求められていますが、それらを実際に育てるためには、単によい授業をするというだけでは難しく、授業担当者が意識して思考を引き出すようなしかけや応答が必要です。本授業では、思考を引き出し、実践する技法として近年注目を集めている「ゲーミング＆シミュレーション」に焦点をあてます。これらのねらいについて学ぶとともに、実際に参加してみることで、自身の思考がどのように引き出されるのか、また他者の行動がどのように変わるのかを体験的に考えてもらいたいと思います。

学習の到達目標
思考を引き出すということについて明確なイメージをもつ
ゲーミング＆シミュレーションについての正しい理解をえる
それぞれの技法のより深い理解と可能性への筋道を知る

予め履修が望ましい科目　心理学

成績評価方法と基準　出席状況40%、課題への取り組みの度合い60%

オフィスアワー　水曜3コマ目

学習内容
以下の計画にそって進めていくが、履修者数等によっても変更がありうる。
1)ゲーミング＆シミュレーション
ゲーミング＆シミュレーションとは
思考とコミュニケーション
アイスブレーキング
チームワークを引き出すゲーミング
思考を引き出すゲーミング

その他　無断欠席は認められません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
臨床心理学	~66	精神医学概論	2	前期　月 1, 2	大谷正人（教育学部特別支援教育講座）

授業の概要
精神医学の概要についての講義だが、小児期・青年期について、詳しく扱う。
科目名は、AIII類63, 64, 65, 66期生においては、免許状に定められる特別支援教育領域以外の領域に関する科目。A類は臨床心理学、C類は課程共通科目、D類は③地域人間発達援助となる。

学習の到達目標　精神医学の概要を理解することにより、社会・学校・家庭などで生じやすい精神衛生上の問題に対して、より適切に対処する力が培われる。

教科書　プリントを用意して配布する。

成績評価方法と基準　試験と発表による。具体的には、小テストを2回行い、受講生による発表も行う。小テストの成績合計と発表の内容が不十分な受講生に対して、レポートを追加する。

オフィスアワー　月曜日17:00~18:00、教育学部2号館4階大谷研究室

学習内容
1．精神医学について
2．精神医学における症状
3．気分障害（うつ病と躁うつ病）
4．統合失調症
5．神経性障害と心身症
6．ストレスと自殺について
7．中毒・パーソナリティの障害
8ー9．児童期精神医学
10ー11．思春期・青年期精神医学
12．中年期精神医学、老年期精神医学
13．精神科治療学
14ー16．学生による発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育評価学	64～67	教育評価学	2	後期集中	西口 利文（非常勤講師）

授業の概要　教育という営為が適切に行われるためには，評価に関する知識や技能を習得することが必要条件となる。そこで本授業では，教育における評価活動に焦点を当てて，評価に関する知識および，具体的な評価の手法についての基礎的な技術について学ぶ。

学習の目的　教育における評価の意義および，評価活動にまつわる重要な概念および事項についての知識を得る。また，教育場面において評価活動を行うための技術を習得する。

学習の到達目標　教育現場において，目的に沿った評価活動を，適切に選択し実践するための知識および技能を習得する。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書　特に指定しない。必要に応じて授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート50%，テスト50%，計100%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　授業以外の連絡では，メールを使用する。メールアドレスは，授業内で適宜伝える。

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2回 評価の目的・時期
第3回 評価における比較基準
第4回 評価のあり方を踏まえた学習理論（完全習得学習
第5回 測定値の分布
第6回 測定値を扱った分析の基礎事項（独立・従属変数，研究法）
第7回 統計的推論についての考え方
第8回 相関および代表的な多変量解析の考え方
第9回 テストの評価1（項目分析）
第10回 テストの評価2（信頼性，妥当性）
第11回 教育評価の実践1（学力）
第12回 教育評価の実践2（パーソナリティ）
第13回 教育評価の実践3（知能）
第14回 教育評価の実践4（アセスメント）
第15回 まとめ

その他　特になし。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実践演習		教育実践演習	2	後期　月 3, 4	須曽野 仁志

授業の概要
学校現場、生涯学習の場において必要なプレゼンテーション技法やコンピュータ操作スキルを習得するため、以下の演習を行う。
1．さまざまな方法での自己紹介・プレゼンテーション（3〜4回分）
パワーポイントなど
2．デジタルストーリーテリングの制作(10〜11回分）

学習の目的
・自分らしさを大切にした自己表現する方法や内容を知る。
・実際にプレゼンテーションやデジタルストーリーテリングにとり組み、学習や教育の場での活かし方を知る。
・授業に参加する仲間のとり組みから学び合う。

学習の到達目標
・情報機器を用いて、わかりやすくプレゼンテーションができるようになる。
・ストーリーテリング制作の方法がわかり、個性豊かな作品を制作できるようになる。

教科書　教科書は使用しない。参考図書は授業時に紹介する

成績評価方法と基準　授業時の発表、作品、電子掲示板でのコメントなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教育実践総合センター須曽野研究室

学習内容
1．さまざまな方法での自己紹介・プレゼンテーション（3〜4回分）
パワーポイントの使い方
2．デジタルストーリーテリングの制作(10〜11回分）
ストーリーテリング(Storytelling)とは、文字、画像、音などを用いて、現実に起こったことや、空想上のできごとを描いたものであり、日本語では「物語」や「お話」を意味する。テクノロジーの発達により、コンピュータで、ナレーション、写真、BGM等を合わせ、ストーリーテリングを容易に作成できるようになり、こうしてできたストーリーテリングをデジタルストーリーテリングと呼ぶようになっている。本授業では、ストーリーのシナリオをまず作成し、以下に示す方法で作品制作を進める。
1）コンピュータで音声録音用ソフトを用いて、ナレーションの録音
2）ムービー作成ソフト（Windows XP用「ムービーメーカー」）を用いて、録音された音声と用意された画像の配列・長さの調整、必要に応じてBGMの挿入
3）ムービーファイル(WMVファイルなど）の作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育工学		教育工学	2	前期　月 5, 6	須曽野 仁志
	〜65	教育工学 I	2		
	66〜	教育の方法と技術 I	2		

授業の概要　学校の教室には、コンピュータ、プロジェクタ、電子黒板、携帯用タブレット端末などが導入されてきており、紙の教科書も、近い将来、電子教科書に置き換えられるかもしれない。本授業では、これらの情報機器の活用について学び、自分自身のプレゼンテーション力やメディアリテラシーを向上させる。教育工学というと、難しい授業名に聞こえるかもしれないが、「夫」という漢字を一字入れ、教育工（夫）学とするとわかりやすい。上記のメディアやネットを用いて、授業や教育活動をいかに工夫・改善するかを内容とする。新しい教育機器だけでなく、従来からある書画カメラや伝統的な教育支援法についても重視する。

学習の目的
・学校現場における「教育の方法と技術」について知る。
・教育における技術(Technology in Educaiton)の中で、今日的課題となっている内容や支援技法について、理解・習得する。
・授業において、様々な教育機器の使い方がわかるようになる。

学習の到達目標
・手書きで書画カメラ用シートを作成し、わかりやすいプレゼンテーションができるようになる。
・学校現場での情報教育の現状を知り、どのようにテクノロジー（技術）を学習利用すればよいかがわかるようになる。
・個人でデジタルストーリーテリング（デジタル紙芝居）にとり組み、2分以内の作品を作る。
・構成主義（含む社会的構成主義）の考え方でコンピュータを学習利用できるようになる。

教科書　教科書は使用しない。参考図書は授業時に紹介する。

成績評価方法と基準　ミニレポート、プレゼンテーション、デジタルストーリーテリング作品制作、最終テストなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教育実践総合センター須曽野研究室

学習内容
1.授業導入「教育工学とはどんな分野か」
2.教育の方法「写真を大勢に見せる方法」
ビデオプロジェクタ、書画カメラ等の使い方
3.「教育における技術」の背景と特徴
4.プレゼンテーションの方法と技術
5〜6.情報教育・コンピュータ利用学習の現状と課題
7〜10.コンピュータを利用した学習の方法と支援
静止画（画像、写真、絵など）とナレーションを用いたデジタルストーリーテリング制作 11.米国学校におけるコンピュータと教育機器の利用
12.ポートフォリオ学習、学習成果の活用と評価
13〜14.授業設計と授業改善
15.授業まとめ

その他　情報処理センター第4端末室コンピュータを使用し、プレゼンテーション活動やデジタルストーリー制作を行う。情報処理センター第4端末室定員超過の場合は、上の学年優先、A，D類優先を原則とする。掲示に注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育工学	66-64	教育工学演習	2	前期　火 7, 8	下村 勉（教育学部学校教育講座）

授業の概要
コンピュータを活用して、絵・グラフ・文字を組み合わせて、情報を効果的に伝える方法や改善するプロセスを実践的に学ぶ。
1 コンピュータを用いた情報表現1：ワープロ（Word）のグラフィック機能を利用して、絵と文字により一枚の情報表現作品（ポスター）を作成する。テーマは授業時に提案する。
2 コンピュータを用いた情報表現2：表計算ソフト（Excel）を利用して、自分の興味あるデータをわかりやすくグラフ化して説得力ある情報表現作品を作成する。
3 作品発表会と相互評価のフィードバックによる改善
なお、グラフ作品の優秀作は三重県グラフコンクールへ応募している。

学習の目的　ICTを用いての情報活用能力やメディアリテラシーの向上を図る。

学習の到達目標
（1）情報をわかりやすく伝えるためには、どのような点に留意して作成したらよいかがわかり、実際にパソコンを利用して情報伝達作品を作ることができる。わかりやすいグラフの作成能力、ポスターセッション（展示発表）のポスター作成などに役立つ。
（2）パソコンの活用能力の向上、とくにワープロソフト（描画機能）、表計算ソフト（グラフ作成）の活用法が習得できる。
（3）メディアからの情報を発信するとき及び受信するときの留意点がわかる。

受講要件　パソコンを毎回利用する。基本的な操作能力（キーボード・マウス）を有すること。

教科書　教科書は使用しない。適宜プリントやWeb資料を使用する。

成績評価方法と基準　授業への参加状況20%、作品40%、レポート40%.

オフィスアワー　毎週火曜日13：00-14：30 教育実践総合センター教育工学研究室(下村)

学習内容
第1回 ガイダンス：授業のねらい、Moodleの使い方、過去の作品の閲覧、アンケート
第2回 絵と文字による情報表現、Wordの描画機能
第3回 情報表現作品1の制作
第4回 続き
第5回 作品の相互閲覧と相互評価
第6回 作品の修正と再評価
第7回 グラフを用いた情報表現、Excelのグラフ機能
第8回 情報表現作品2の制作
第9回 続き
第10回 グループ内発表
第11回 全体発表とコメントのフィードバック
第12回 改訂版の制作と提出
第13回 データベースについて（登録・利用)
第14回 メディアリテラシーについて
第15回 まとめ（ポートフォリオの作成）

その他　パソコン実習等の関係上、受講制限（40名）を行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	67	特別支援教育ゼミナールⅠ	2	前期　水3,4	郷右近 歩、荒川 哲郎、大谷 正人、菊池 紀彦、栗田 季佳

授業の概要　障害のある人たちの基本的課題について学習し、障害、生きること、教育等のテーマを取り上げ、討論をしながらわかりやすく概説する。学生からの自主的発表を尊重する。特別支援教育コースのオリエンテーション科目であるため、AIII類の1年生に限定する。

学習の目的　特別支援教育の基本や概要について理解する。

学習の到達目標　特別支援教育の基本や概要について理解を深め、2年次からの専門科目の学習をより有意義なものにする。

受講要件　AIII類1年次に限定する。

成績評価方法と基準　出席率と各自の意見発表、レポートによる総合評価。特に出席を重視する。

学習内容
1回 ガイダンス
2回 知的障害のある人と生きることについて
3回 肢体不自由のある人と生きることについて
4回 病弱という状況と生きることについて
5ー6回 重度・重複障害児の教育について
7ー9回 発達障害児の教育について
10回 知的障害のある人への治療とカウンセリングについて
11回 肢体不自由のある人へのコミュニケーションについて
12回 病弱という状況にある人への治療とカウンセリングについて
13ー14回 病弱児の教育について
15-16回 まとめ（学生による自主的な発表）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	67	特別支援教育ゼミナールⅡ	2	後期　水3,4	郷右近 歩、荒川 哲郎、大谷 正人、菊池 紀彦、栗田 季佳

授業の概要　今日の社会における障害のある人をとりまく諸問題について学習し、障害、生きること、教育等のテーマを取り上げ、討論しながらわかりやすく解説する。特別支援教育ゼミナールⅡは、AIII類1年生のオリエンテーション科目であるが、AIII類以外の学生も特別支援教育ゼミナールⅠとして受講可能である。

学習の目的　特別支援教育に関する基礎的課題について、理解を深める。

学習の到達目標　特別支援教育の基礎を習得し、特別支援教育に関わる今後の教育・研究を深めることができるようになるだけでなく、生きる力を獲得する。

成績評価方法と基準　出席率と各自の意見発表、レポートによる総合評価。特に、出席を重視する。

オフィスアワー　特別支援（心理）第2研究室（郷右近 歩）

学習内容
1回 ガイダンス (郷右近担当)
2回 障害（知的障害）のある人たちの「障害と人生」
3回 障害（肢体不自由・病弱・聴覚障害等の身体障害）のある人たちの「障害と人生」
4ー5回 障害（軽度発達障害）のある人たちの「障害と人生」
（以上、栗田担当）
6回 重度・重複障害児の教育について
7回 コミュニケーションについて（以上、菊地担当）
8回 聴覚障害児の教育について
9回 知的障害児の教育について
10回 身体障害、特に肢体不自由、病気のある子どもの教育について（以上、荒川担当）
11ー12回 障害のある人への治療とカウンセリングについて（大谷担当）
13ー14回 病弱児の教育について（郷右近担当）
15ー16回 まとめ（学生による自主的な発表）

その他　各自、図書館を利用して、特別支援教育関連の図書を探して読み、知識や興味・関心を広げてください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	67	特別支援教育観察参加	2	通年	菊池 紀彦・郷右近 歩・荒川 哲郎・大谷 正人・栗田 季佳

授業の概要　障害のある人たちの教育、福祉、療育関係の施設を見学して、具体的実践の講義、実習をとおして基本的問題について考える。この授業は、AIII類学生においては、教育実地研究基礎を受講する前提として位置づけている。

学習の目的　日本の社会における障がいのある人たちの教育、福祉についての一つの現実を知る。

学習の到達目標　特別支援教育の現場を体験することにより、特別支援教育に関わる教師としての将来の目標を明確に持つこと。

成績評価方法と基準　出席70%、レポート30%

オフィスアワー　代表（責任者）：菊池 紀彦

学習内容
下記の施設について事前学習を行った上で見学をし、実習及び講義を受け、報告をまとめる。
（1）三重県立聾学校
（2）三重県立盲学校
（3）三重県立城山特別支援学校
（4）三重県いなば園
（5）AJU自立の家サマリアハウス
（6）AJU自立の家わだちコンピュータハウス
（7）三重県小児心療センターあすなろ学園・高茶屋小学校あすなろ分校

その他　基本的にはAIII類1年生の学生を対象とする。他専攻の学生や大学院生が受講する場合には、4月中に特別支援教育講座の教員まで必ず申し出ること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	～67	精神医学概論	2	前期　月 1, 2	大谷正人（教育学部特別支援教育講座）

授業の概要
精神医学の概要についての講義だが、小児期・青年期について、詳しく扱う。
科目名は、AIII類 63, 64, 65, 66, 67期生においては、免許状に定められる特別支援教育領域以外の領域に関する科目。C類は課程共通科目、D類は③地域人間発達援助となる。

学習の目的　社会人として、特に教育に関わる人間として、必要な精神医学の基礎知識を身につけ、幼児・児童・生徒や保護者に対して、適切な対応をとることができる力を身につけることを目的とする。

学習の到達目標　精神医学の概要を理解することにより、社会・学校・家庭などで生じやすい精神衛生上の問題に対して、より適切に対処する力が培われる。

教科書　プリントを用意して配布する。

成績評価方法と基準　試験と発表による。具体的には、小テストを2回行い、受講生による発表も行う。小テストと発表の成績合計が不十分な受講生に対して、レポートを課する。

オフィスアワー　月曜日17:00~18:20、教育学部2号館4階大谷研究室

学習内容
1．精神医学について
2．精神医学における症状
3．気分障害（うつ病と躁うつ病）
4．統合失調症
5．神経性障害と心身症
6．ストレスと自殺について
7．中毒・パーソナリティの障害
8ー9．児童期精神医学
10ー11．思春期・青年期精神医学
12．中年期精神医学、老年期精神医学
13．精神科治療学
14-16．学生による発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	～64	知的障害教育論	2	前期　火 3, 4	荒川哲郎

授業の概要　知的な障がいのある人たちの権利擁護へ向き合う支援の課題を考える。さらに卒業後の社会での地域での労働、生活をとらえていくことで教育において配慮することを討議し、課題を発見する。

学習の目的　知的な障がいのある人たちの教育において基本的な前提になる事を考え、教育において配慮しなければならないことを学習する。

学習の到達目標
教育を始める前提になる基本的な事柄、特に権利擁護に関する態度を
考え、自己変革への道を考えていく基軸を形成する。

予め履修が望ましい科目　特別支援教育概論

成績評価方法と基準　討議への参加と報告、さらに課題を整理するレポート作成

オフィスアワー　金曜日13:00～14:00、教育学部専門校舎2号館5階・荒川哲郎研究室

学習内容
1～2回 知的障がいのある人たちの人の生活の現実
3～5回 障害者権利条約批准における権利獲得の問題
6～8回 知的障がいのある人たちの合理的配慮の課題
9～10回 日本の学校での特別支援教育・インクルーシブ教育
11~12回 就労および労働の問題と課題
13～14回 知的障がいのある人たちの結婚等の課題
15回 討論とまとめ
16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	～67	知的障害者の教育と福祉	2	後期　火 5, 6	栗田季佳 荒川哲郎

授業の概要　障害者を取り巻く環境や制度・施策について概観し、共生社会を実現するための今日的課題について、受講者を中心に議論する。障害と福祉に関する現場へ訪問する。

学習の目的　障害者の教育と福祉の現状を知り、共に社会に暮らす者として社会のあり方について考える。

学習の到達目標　障害者と共に生きる社会のあり方について自らの考えを深める。

教科書　授業で適宜指定する

成績評価方法と基準　出席、授業中の取り組み、及びレポート

オフィスアワー　木曜日17：00～18：00

学習内容
授業計画
第1回-2回 障害者福祉・教育の歴史と現状
第3-4回 障害者に対する差別と権利
第5-6回 地域生活と自立支援
第7-11回 共生に向けての課題
第12-15 課題解決のための議論と提案
第16回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	-67	知的障害者の心理・生理・病理	2	前期　金3,4	大谷正人（教育学部特別支援教育コース）

授業の概要
発達障害、特に知的障害に関係の多い疾患など、障害児の医学的諸問題について全般的に述べる。
62~67期生においては「知的障害者の心理・生理・病理」として開講する。

学習の目的　知的障害の心理・生理・病理の全般的な問題について十分な知識をもち、特別支援学校、特別支援学級の教師として、十分に対応できる力を獲得することを目標とする。

学習の到達目標　知的障害など、発達障害のある子どもと接する上で、子どもの障害の医学的内容、その治療方法、心理的特徴、また生理学的に配慮が必要なこと等を知ることにより、特別支援学校や特別支援学級などにおいて、より適切な配慮をすることが可能となる。

教科書　プリントを用意して配布する。

成績評価方法と基準　試験、発表、講義に取り組む態度による。小テストを2回実施し、小テストの合計点と発表の合計点の不十分な受講生に対して、レポートを課する。

オフィスアワー　月曜日17:00~18:00、教育学部2号館4階大谷研究室

学習内容
1．知的障害（精神遅滞）
2．子ども虐待
3．染色体異常とダウン症候群
4．広汎性発達障害
5．乳幼児の心の発達
6．発達障害に伴いやすい行動障害・精神障害
7．てんかん
8．脳性麻痺
9．重症心身障害児
10．知的障害を伴うことのある他の疾患
11．救急の実際
12．知的障害児の保健
13．芸術療法、特に音楽療法
14-16．学生による発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	64-66	心理生理実験（障害者） 心理生理実験	2 2	前期　金7,8,9	大谷 正人、荒川 哲郎、郷右近 歩、栗田 季佳

授業の概要　(1)きこえの程度の測定、(2)補聴器の音響特性の測定、(3)知能検査の実施、(4)脳波の測定などの障害のあるこどもの教育の基本となる心理、生理の実験、実習を行う。AIII類学生は3年次に履修することが望ましい。

学習の目的　実験、実習の方法、報告書の作成の方法の取得

学習の到達目標　聴覚の障害、知的障害のあるこどもの心理・生理の諸問題を実験・実習を通して理解する。

受講要件　実験科目のため受講人数を制限することがある。

予め履修が望ましい科目
特別支援教育概論
特別支援教育入門

成績評価方法と基準　出席、レポートの内容を評価する

オフィスアワー
連絡先：大谷正人
月曜日17:00-18:20

学習内容
それぞれの実験、実習を2週間ずつおこない、報告書を各自がまとめて提出する。
(1)脳波測定、事象関連電位の測定
(2)聴覚測定、
(3)補聴器の検査
(4)知能の測定
実験に先立ち、初回にガイダンス、および講義を最初3回行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	~67	軽度発達障害者の心理・生理・病理	2	後期　月1,2	大谷正人

授業の概要　いわゆる軽度発達障害児の心理・生理・病理と、その基盤となる心理学・医学的な概要について講義する。

学習の目的　軽度発達障害に関する十分な心理学・医学の知識をもち、教育や保育の現場で十分な指導・支援ができる力を獲得することを目標とする。

学習の到達目標　いわゆる軽度発達障害の要因などについて理解した上で、教育現場などで、より適切な対処が可能となる。

教科書　プリントを用意して配布する。

成績評価方法と基準
授業での自主的発表と2回の小テストの合計点による。出席も参考にする。
特に1月は、学生による自主的発表の期間とする。

オフィスアワー　月曜日17:00-18:00、2号館4階大谷研究室

学習内容
1．中枢神経系の発生と発達
2．中枢神経系の構造と機能
3．乳幼児の心理・生理
4．自閉症スペクトラム障害（広汎性発達障害）
5．神経心理学
6．発達障害の神経心理学
7．学習障害
8．注意欠陥／多動性障害
9．子ども虐待と愛着の形成
10．言語障害
11．児童期に多い他の情緒障害（情緒不安定）
12．軽度発達障害の治療・教育
13．障害児の親への支援
14ー16．学生による発表

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	61以降	聴覚障害教育概論	2	後期　木 3, 4	荒川 哲郎、栗田 季佳

授業の概要
ろう文化宣言等のろう者の主張を考え、きこえの障がいのある人の教育における今日的課題を解説し、参加型の学習により問題を把握する。
聞こえの障がいのある人たちの教育の課題について具体的に考える。

学習の目的　きこえに障がいのある人たちのさまざまな思いを知り、コミュニケーション、言語の機能の多様性を認識する。

学習の到達目標
きこえの障がいのある人の教育の基本的な問題を把握する。
特にろう者の立場より教育の基本的課題を考察する。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特別支援教育概論

成績評価方法と基準　出席、レポートの内容を評価する

オフィスアワー　金曜日午前、午後

学習内容
授業計画
荒川の担当
1‐3.きこえの障がいとコミュニケーション
4‐5.聴覚活用と教育の基本的考え
6‐7.教育の目標の再考
栗田の担当
8-9.聴覚障害教育の変遷
10—11.聴覚障害児に対する教育の考え方
12‐13.コミュニケーション論争
14‐15.インクルージョンとろう教育

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	61以降	言語・コミュニケーションと障害	2	前期　火 7, 8	栗田季佳 荒川哲郎

授業の概要　特別なニーズのある人とのコミュニケーションについて概説して、コミュニケーションについての討議する。

学習の目的　特別なニーズのある人とのコミュニケーションについての課題を知る。

学習の到達目標
特別なニーズのある人とのコミュニケーションの具体的問題を把握することで、
コミュニケーションの方法の多様性を知り、コミュニケーションの能力を向上させる。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特になし

成績評価方法と基準　出席、レポートの内容を評価する

オフィスアワー
火曜日 10:00-12:00 場所 2号館 5階 荒川哲郎研究室
木曜日 17:00-18:00 場所 2号館 5階 栗田季佳研究室

学習内容
第1回‐第3回コミュニケーションの基本課題
第4回‐第7回特別なニーズのある人とのコミュニケーションの課題と具体的コミュニケーションの方法について
第8回‐第10回 コミュニケーションの多様性と実際
第11回‐第13回 情報通信技術(ICT)と障害
第14回‐第15回 異なる方法によるコミュニケーションの課題
第16回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	65	特別支援教育演習 II	②	通年　火 1, 2	荒川哲郎

授業の概要　卒業研究の基礎的学習として、教育に関する文献を講読すると共に、教育の研究方法についての理解を深める。

学習の目的　卒業研究に向けて、教育、福祉等の研究方法を考える。

学習の到達目標　卒業研究に向けて必要とされる研究の知識・技術等を習得する。

予め履修が望ましい科目　特別支援教育概論、知的障害教育論

教科書　資料を随時用意する。

成績評価方法と基準　出席率と毎回のレポート発表による総合評価。

オフィスアワー　水曜日13:00〜14:00、荒川哲郎研究室(教育学部専門校舎2号館5階)

学習内容
1〜10回 各人の研究に関する文献の講読
11〜15回 教育現場への訪問（幼稚園・小学校・特別支援学校等）の観察・調査
16〜30回 関心のある研究内容についての発表と討議

その他　AIII類、3年生が基本対象。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	65	特別支援教育演習 I	②	通年　月 7, 8	栗田季佳

授業の概要　卒業研究に向けて、特別支援教育における研究方法を学ぶとともに、受講生の関心を学術的な見地から深めてゆく。受講者の主体的学習、発表、議論を中心とする。前期では研究法の基礎を学び、後期においてはグループによる研究の実践学習を行う。

学習の目的　教育現場に必要な科学的思考や研究スキルを身につける。

学習の到達目標　研究の考え方、方法、報告の仕方を習得できる。

教科書　授業で適宜指定する

成績評価方法と基準　出席、授業中の取り組み、及びレポート

オフィスアワー　木曜日 17：00〜18：00

学習内容
通年の授業
前期1-15回
1.オリエンテーション
2-6.特別支援教育研究法の基礎
7-10.文献講読とレポート・論文の執筆方法
11-15.受講者の関心の探求と発表
後期16回-30回
16.グループ研究テーマの決定
17-20.文献・資料収集
21-28.データ収集と分析
29.発表
30.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	〜66	病弱者の心理・生理・病理	2	前期　木 9, 10	菅 秀（独立行政法人国立病院機構三重病院 臨床研究部長）

授業の概要　障害児（者）の発生要因について小児科学の立場から解説するとともに、広く小児慢性疾患や急性疾患の病因・病態を説明し、障害を持った児（者）との関わりについて学ぶ。

学習の到達目標　障害児（者）や慢性疾患児の心理や病理を理解し、障害を持った児（者）への共感を獲得する。

成績評価方法と基準　レポート70%、出席30%

オフィスアワー　連絡窓口：大谷正人

学習内容
1〜2．障害と出生前・出生時の問題
3〜4．小児の成長発達と障害
5〜10．小児慢性疾患児（喘息・食物アレルギー、肥満、糖尿病、腎疾患・神経疾患など）の病態 と心理
11〜13．小児急性疾患の病態と対策
14〜15．その時の話題の小児疾患の病態と対策
16．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	66	肢体不自由教育	2	後期　月 5, 6	郷右近 歩（教育学部特別支援教育講座）

授業の概要　肢体不自由児における教育目標、教育課程、教育課題等について概説し、指導法や授業づくりについても講義する。あわせて、肢体不自由について理解する上で関連の深い、病弱（身体虚弱）、知的障害、重複障害等の領域についても、考察を深める。

学習の目的　肢体不自由児を対象とする教育について、その理論と実践に関する知識を修得できる。

学習の到達目標　肢体不自由児への教育的支援について、必要な知識を学び、今日的課題について積極的な考察を行うことにより、教職を担う上での資質を養う。

受講要件　「特別支援教育入門」もしくは「特別支援教育概論」を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　同年度に開講している「病弱教育」もあわせて履修することが望ましい。

教科書　使用しない。プリントを用意して適宜配布する。

成績評価方法と基準
出席状況40%、期末レポート60%とする。
ただし、原則として4回以上欠席した者については単位を認めない。

オフィスアワー　月曜日14:40‐16:10 教育学部2号館4階 特別支援（心理）第2研究室（郷右近 歩）

学習内容
1．オリエンテーション：肢体不自由とは
2．肢体不自由教育の歴史
3‐4．肢体不自由教育の教育課程
5‐7．肢体不自由児の特性と指導法
8‐10．脳機能と身体機能との関係について
11‐13．個別の指導計画の作成と授業づくり
14‐15．個別の教育支援計画の作成について
16．まとめ

その他　AIII類2年次の学生は、翌年の教育実習に臨む際、過去には特別支援学校（肢体不自由）で行った事例もあるため、必ず2年次の内に本講義を履修すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	66	病弱教育	2	後期　月 3, 4	郷右近 歩（教育学部特別支援教育講座）

授業の概要　病弱（身体虚弱）児における教育目標や指導法、教育課程、教育課題等について概説し、今日的課題の幾つかについて検討する。あわせて、病弱（身体虚弱）について理解する上で関連の深い、肢体不自由、知的障害、重複障害等の領域についても、考察を深める。

学習の目的　病弱（身体虚弱）児を対象とする教育について、その理論と実践に関する知識を修得できる。

学習の到達目標　病弱（身体虚弱）児への教育的支援について、必要な知識を学び、今日的課題について積極的な考察を行うことにより、教職を担う上での資質を養う。

受講要件　「特別支援教育入門」もしくは「特別支援教育概論」を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　同年度に開講している「肢体不自由教育」もあわせて履修することが望ましい。

教科書　使用しない。プリントを用意して適宜配布する。

成績評価方法と基準

出席状況40%、期末レポート60%とする。
ただし、原則として4回以上欠席した者については単位を認めない。

オフィスアワー　月曜日14:40 - 16:10 教育学部2号館4階 特別支援（心理）第2研究室（郷右近 歩）

学習内容

1．オリエンテーション：病弱（身体虚弱）とは
2．病弱教育の歴史
3．病弱（身体虚弱）と生涯発達（心理機能の発達）
4．病弱（身体虚弱）の目指すもの
5 - 6．病弱（身体虚弱）教育の教育課程
7 - 9．病弱（身体虚弱）教育における指導法
10 - 12．病弱（身体虚弱）教育の内容
13 - 15．病弱（身体虚弱）教育における諸課題
16．まとめ

その他　AIII類2年次の学生は、翌年の教育実習に臨む際、過去には特別支援学校（病弱）で行った事例もあるため、必ず2年次の内に本講義を履修すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	65	特別支援教育演習 V	②	通年　月 9, 10	郷右近 歩（教育学部特別支援教育講座）

授業の概要　特別支援教育における諸課題について、受講生の主体的な発表を積み重ねながら、討論を深めてゆく。本演習は卒業論文執筆の準備としての役割も担うため、学術的な研究論文に基づく発表を通して、論文執筆の基礎を学ぶ。（中心となる領域：病弱および肢体不自由．含まれる領域：発達障害、脳損傷）

学習の目的　特別支援教育における諸課題を探求することにより、学術研究へと発展させるための基礎を築くことができる。

学習の到達目標　特別支援教育における諸課題について、主体的に学び、発表を重ねることにより、教職を担う上での学術的な資質や態度を養う。

受講要件　AIII類の学生は指導教員が開講するゼミを履修すること。

予め履修が望ましい科目　「病弱教育」と「肢体不自由教育」を履修済みであること。

教科書　使用しない。プリントを用意して配布する。

成績評価方法と基準　出席状況20%、討論における積極性や発言内容20%、発表課題（レポート）60%とする。

オフィスアワー　月曜日14:40 - 16:10 教育学部2号館4階 特別支援（心理）第2研究室（郷右近 歩）

学習内容

1．オリエンテーション（第1回）
2．教育と医療との連携（第2-3回）
3．特別支援教育における課題：学術論文から学ぶ（第4-7回）
4．特別支援教育における課題：受講者による発表（第8-11回）
5．特別支援教育における課題：海外の文献から学ぶ（第12-15回）
6．まとめ（第16回）
7．オリエンテーション（第17回：後期の第1回）
8．レポートや論文の執筆方法（第18-21回）
9．特別支援教育と関連する研究テーマの検討：受講者による発表（第22-26回）
10．国内外における研究状況の外観：受講者による発表（第27-31回）
11．まとめ（第32回）
（なお、受講者の人数に応じて、上述した講義日程の調整を行う場合がある。）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
視覚障害者概論	~67	視覚障害者概論	2	後期　火 9, 10	前川賢一 枚本昌彦（三重大学大学院医学系研究科 臨床医学系講座 眼科学 講師）

授業の概要　視覚障害児（者）の実情を把握しながら、日常生活支援機器の紹介と日常生活訓練（点字・歩行訓練を含む）をロールプレイ等で体験することを通して、自分たちが『今』できる支援方法を考える。同時に『バリアフリー』『ユニバーサルデザイン』について身近なところに視点を置いて考え、視覚障害教育から障害教育への視点をふまえて生涯教育への広がりについて考える。後半では、特別支援教育で出会う眼科的疾患について、眼機能も合わせて系統的に講義する。

学習の目的　視覚障害のある人の教育的支援について考えることができるようになる。

学習の到達目標　日常生活訓練（点字・歩行訓練を含む）をロールプレイ等で体験することを通して、自分たちが『今』できる支援方法を考え、『バリアフリー』『ユニバーサルデザイン』について考えることで、視覚障害教育から障害教育への視点をふまえた生涯教育への広がりについて考える力がつく。

受講要件　学生教育研究災害障害保険には加入していることが望ましい。

教科書
授業で配布する資料、および
系統看護学講座 専門17 成人看護学13 眼疾患患者の看護 医学書院（定価1, 785円）

成績評価方法と基準　学習に取り組む意欲を基本に、出席、態度、レポート等で総合的に判断する。

オフィスアワー
連絡窓口：郷右近 歩（前川先生担当分）
連絡窓口：大谷 正人（枚本先生担当分）

学習内容
1．障害受容について
2．視覚障害児（者）の特性
3．幼児教育の必要性
4．『自立活動』における指導、ならびに日常生活支援機器の活用
5．指導上の取り組み方、留意すべき事情について
6〜7．日常生活訓練（点字・歩行訓練を含む）のロールプレイ等を通しての体験
8．視覚障害教育から障害教育への視点をふまえて生涯教育への広がりを試みる
9．目の構造・色覚異常
10．視力・屈折異常
11．視力の発達・弱視
12．眼球の運動・斜視
13．先天性白内障
14．視野・緑内障
15．目の発生・白色瞳孔
16．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	65	知的障害教育 II	2	前期　月 5, 6	矢田 昌也（教育学部附属特別支援学校）、丹羽 克文（教育学部附属特別支援学校）、岸田 謙介（教育学部附属特別支援学校）、溝川 陽子（教育学部附属特別支援学校）

授業の概要　特別支援学校・養護学校（知的障がい）の教育やカリキュラムについて概観し、自閉症の特性、構造化、個別の教育支援計画・個別の指導計画、センター機能、授業づくりについて実際的な観点から理解を深める。

学習の到達目標　附属特別支援学校において、教育実習を受けるに当たり、その準備として、実践力を高める。

受講要件　附属特別支援学校で教育実習を受ける者は受講すること。

教科書　なし

成績評価方法と基準　期末レポート、授業毎のレポート

オフィスアワー　連絡窓口：郷右近 歩

学習内容
1．特別支援学校（養護学校）における知的障がい児教育の概要
2〜3．自閉症の特性理解と構造化
4〜5．コミュニケーション
6〜7．問題行動への対応
8〜9．認知発達療法
10〜11．特別支援学校のセンター機能
12〜13．個別の教育支援計画、個別の指導計画
14〜15．特別支援学校における授業づくり
16．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	～66	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	前期　木5,6	菊池 紀彦（教育学部）

授業の概要　肢体不自由のある人を中心としながら、重度・重複障害、進行性筋萎縮のある人、さらには、医療的ケアを濃厚に必要とされる人たち（超重症児）について概説する。その上で、彼らに対する心理学的評価と発達支援、家族支援について講義する。あわせて彼らの社会参加（自立支援）のあり方についても考察を深める。

学習の目的

1.肢体不自由のある人の身体的・心理的諸問題について理解する。
2.肢体不自由のある人に対する心理教育的支援について知る。
3.肢体不自由のある人の家族の心理と支援のあり方について理解する。

学習の到達目標

1.肢体不自由のある人について基本的な知識を習得することができる。
2.肢体不自由のある人の心理的評価とその支援の在り方について理解できる。
3.人がより良く生きるということの意味と、そのために必要とされることを、社会的視点をも踏まえて考えることができるようになる。

教科書　授業の中で適宜紹介します。

成績評価方法と基準

出席50%、小レポート50%により評価する
授業開始時に毎回出席を取るので遅刻しないこと（遅刻者は欠席とみなす）

オフィスアワー　木曜日14:40~16:10 教育学部2号館5階 菊池研究室

学習内容

1.オリエンテーション: 授業方針の説明について
2.肢体不自由の特性－(1)脳性まひについて: 肢体不自由の特性、分類について講義する。また、肢体不自由の中でも代表的な疾患である脳性まひについて、発達の特徴について講義する。
3.肢体不自由の特性－(2)重度・重複障害/重症心身障害について: 重度・重複障害/重症心身障害の総論について講義するとともに、彼らの特性（生理調節機能、摂食・嚥下機能、運動機能、コミュニケーション機能等）について概説する。
4.肢体不自由の特性－(3)進行性筋萎縮について: 進行性筋萎縮症（筋原性疾患、神経原性疾患）について概説する。病気と障害の関係についてICFの観点から講義する。
5.肢体不自由の特性－(4)デュシェンヌ型筋ジストロフィーの子どもたちの理解と支援について: 筋原性疾患のデュシェンヌ型筋ジストロフィーを取り上げ、学校教育上の問題や彼らが抱える心理的問題について講義する。
6.肢体不自由の特性－(5)医療的ケアを濃厚に必要とされる超重度障害児（超重症児）について: 近年増加している超重度障害児（超重症児）について、その概念および教育上の問題、医療上の問題について講義する。
7.肢体不自由児・者への心理教育的支援(1): 肢体不自由のある子どもの発達評価と支援について概説する
8.肢体不自由児・者への心理教育的支援(2): 肢体不自由のある子どもの発達評価と支援について、映像資料等を交えながらその実際について講義する。
9.肢体不自由児・者への心理教育的支援－コミュニケーションについて(1): 特に重度・重複障害（重症心身障害）のある人たちとのコミュニケーションについて概説する。
10.肢体不自由児・者への心理教育的支援－コミュニケーションについて(2): 特に重度・重複障害（重症心身障害）のある人たちとのコミュニケーションについて、その実際を映像資料等を交えながら講義する。
11.肢体不自由児・者への心理教育的支援－生理心理学的評価について(1): 生理心理学について概説する
12.肢体不自由児・者への心理教育的支援－生理心理学的評価について(2): 働きかけに対する反応が乏しいといわれる重度・重複障害児（重症心身障害児（者））の評価について、生理心理学的視点（主に心拍）から講義する。
13.肢体不自由児・者への心理教育的支援－生理心理学的評価について(3): 濃厚な医療的ケアを必要とされる超重症児の生理学的評価、心理学的評価について概説する。特に、NIRS（近赤外分光法）に基づく評価について講義する。
14.肢体不自由児・者への心理教育的支援－家族支援について: 障害のある子どもを抱える家族、きょうだいの心理について概説するとともに、支援のあり方について講義する。
15.肢体不自由児・者への心理教育的支援－自立における問題・社会参加について: 学校教育修了後の重度・重複障害者（重症心身障害者）が、地域社会で生活していくためにはどのような社会資源を必要とするのかについて講義する
16.講義のまとめ: これまでの講義を振り返るとともに、学んだ内容についてレポートを作成する

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	65	障害者心理演習III	2	通年　木 9, 10	菊池 紀彦（教育学部）

授業の概要　特別支援教育における諸課題について、心理学の見地から学生が主体的に学び、発表を重ねることにより、教職を担う上での学術的な資質や態度を養う。心身に障害の（肢体不自由、知的障害、病弱）のある人の心理理解と心理的支援のあり方につながるテーマの中から、各自がテーマを選んで演習形式で発表・討議を進める。卒業研究のための基礎学習・橋渡しとする。

学習の目的　さまざまな障害について理解できるようになるとともに、障害のある人たちへの支援の方法について考えることができるようになる。

学習の到達目標　研究的な思考を養い、自身の卒業研究のテーマ選択につなげていくことができる。

受講要件　特別支援教育コース学生対象

教科書
細川徹（編）: 発達障害の子どもたち.中央法規, 2003.
河原仁志（編）: 筋ジストロフィーってなあに？.診断と治療社, 2008.
細渕富夫: 重症児の発達と指導.全障研出版部, 2007.

成績評価方法と基準　発表70%、出席30%

オフィスアワー　木曜日14:40~16:10 教育学部2号館5階 菊池研究室

学習内容
1.オリエンテーション: 演習の進め方について
2.発達期におけるさまざまな障害について: 細川徹（編）: 発達障害の子どもたち.中央法規, 2003.を購読しつつ、発達期におけるさまざまな障害について概説する。
3.知的障害について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
4.ダウン症について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
5.ウィリアムズ症候群について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
6.自閉症スペクトラムについて(1): 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
7.自閉症スペクトラムについて(2): 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
8.学習障害について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
9.注意欠陥・多動性障害について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
10.成人期の知的障害について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
11.筋ジストロフィーについて、テキストを用いて授業担当者が説明する: 本演習から新しいテキストを使用する。河原仁志（編）: 筋ジストロフィーってなあに？.診断と治療社, 2008.を用いる
12.小学校・中学校における筋ジストロフィー児への支援（1）: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
13.小学校・中学校における筋ジストロフィー児への支援（2）: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
14.小学校・中学校における筋ジストロフィー児への支援（3）: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
15.筋ジストロフィー児の家族への支援（1）: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
16.筋ジストロフィー児の家族への支援（2）: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
17.筋ジストロフィー児（者）のための医療・福祉制度（1）: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
18.筋ジストロフィー児（者）のための医療・福祉制度（2）: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
19.重症心身障害児について、テキストを用いて授業担当者が説明する: 本演習から新しいテキストを使用する。細渕富夫: 重症児の発達と指導.全障研出版部, 2007.を用いる
20.発達へのまなざし: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
21.いのちをみつめ、ともに生きる: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
22.発達をとらえる視点について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
23.外界へ向かう力を育てることについて: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
24.目と手の働きについて: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
25.姿勢・運動への取り組みについて: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
26.コミュニケーションの成り立ちについて: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
27.コミュニケーションの展開について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
28.「関係づける」ことの発達的意味について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
29.人格発達について: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
30.超重症児について（1）: 活発な討論を行うべく、発表以外の受講学生についても授業の主題についてしっかりと調べておくこと。
31.超重症児について（2）: 受講学生による発表（30分程度）を行った上で、ゼミ生で討論を行う。
32.まとめ: 授業のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	63-66	心理アセスメント実習	2	後期　火 5, 6, 7	菊池 紀彦（教育学部）

授業の概要　心理アセスメントの理論の基礎を学ぶとともに、実習形式において障害のある子どもの心理的支援や親支援に役立つアセスメントの方法を学ぶ。

学習の目的
1.心理アセスメントの基礎的知識を得る。
2.実習をとおして、アセスメントの実際について知るとともに、アセスメントに基づいた支援のありかたについて考えることができるようになる。

学習の到達目標
1.心理アセスメントが心理的支援につながるものであることを理解できる。
2.代表的な心理アセスメントについて、その実施方法を習得するとともに、アセスメントに基づいた支援方法の立案ができるようになる。

教科書　授業のなかで適宜紹介します。

成績評価方法と基準　レポート50%、出席30%、授業中における発表20%

オフィスアワー　木曜日14:40~16:10 教育学部2号館5階 菊池研究室

学習内容
1.オリエンテーション: 授業説明、グループ分け
2.心理アセスメント序説: 心理テストの選択と実施、倫理的問題、知的能力の測定理論
3.診断ツールとしてのWISC-III、WISCIV: WISC-III、WISCIVの理論について概説
4.アセスメントの一部としてのIQ検査結果の利用について: WISC-III、WISCIVの理論について概説
5.WISC-IVの実際（1): グループ演習
6.WISC-IVの実際（2): グループ演習
7.WISC-IVの実際（3): グループ演習
8.FSIQとGAIの臨床的解釈: 全検査IQおよび一般能力指標について理解する
9.指標得点の解釈（1）: VCI, PRI, WMI, PSIについての解釈
10.指標得点の解釈（2）: VCI, PRI, WMI, PSIについての解釈
11.WISC-IVによる注意欠陥多動性障害のアセスメント（1）: ADHDの診断分類、概念、アセスメントと知能測定の役割
12.WISC-IVによる注意欠陥多動性障害のアセスメント（2）: ADHDにおけるウェクスラー検査の心理測定的特性
13.知的障害のアセスメント（1): 診断上および臨床上の問題
14.知的障害のアセスメント（2): 診断上および臨床上の問題
15.WISC-IVに伴う検査行動のアセスメント: 検査結果に及ぼす重要な特性
16.実習のまとめ: 今回の実習のまとめを行う

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育領域に関する科目	65	障害者保健演習IV	②	通年　金 1, 2, 10, 11	大谷正人

授業の概要　卒業研究に向けての基礎学習として位置づけられている。受講者は交互に関心のあるテーマを提議して、全員で議論する。

学習の到達目標　学生が自主的に発表などの準備をし、授業時に討論しあうことにより、卒業研究のみならず、今後の人生において、生きる力、コミュニケーション力などを獲得することが期待されている。

成績評価方法と基準　発表の内容、授業に取り組む態度、出席によって評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日17:00-18:00

学習内容
交代して順に発表することを原則とするために、十分な準備が必要となります。
第1回：オリエンテーション
第2、3回：自閉症スペクトラム
第4，5回：ADHDと学習障害
第6，7回：愛着と子ども虐待
第8〜10回：その他の幼児・児童における精神医学的諸問題について
第11〜13回：その他の思春期・青年期の精神医学的諸問題について
第14、15回：カウンセリングと精神療法
第16〜18回：脳機能と行動について
第19、20回：保護者支援と保護者との連携
第21、22回：芸術療法
第23〜25回：障害児の保健上の諸問題
第26〜28回：障害児医学に関する最近の動向
第29〜30回：まとめ

その他　他の専攻生で履修を希望される場合は、あらかじめ大谷の方に相談に来ていただくこと

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		軽度発達障害教育	2	後期　木 7, 8	栗田 季佳

授業の概要　発達障害という概念，その特性や支援について学ぶ。特別な教育的ニーズを要する子どもに対する教育について議論する。

学習の目的　発達障害の特性，指導や支援を学び，子どもの視点から教育のあり方について考える。

学習の到達目標　発達障害を通して、様々なニーズをもつ子どもの教育，子どもの多様性について考えを深める。

教科書　授業で適宜指定する。

成績評価方法と基準　出席率およびレポート

オフィスアワー　木曜日17:00〜18:00

学習内容
1.発達障害と特別な教育的ニーズ
2~4.自閉症スペクトラム障害
5~7.AD/HD
8~9.学習障害
10.その他の発達障害・重複障害
11~12.発達障害の二次障害
13~15.「発達障害」という概念と子どもの多様性
16.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	63.64.65, 66	重度重複障害教育	2	前期　金 1, 2	荒川哲朗, ○菊池 紀彦

授業の概要　重度・重複障害児に対する教育について理解を深める。具体的には、重度・重複障害児の発達と指導法について概説するとともに、自立活動やコミュニケーション支援のあり方について学ぶ。また、一生涯の支援という観点から、学校教育終了後の支援や、地域生活支援についても概説する。

学習の目的
重度・重複障害児に対する教育支援の現状と課題について理解する。
重度・重複障害児に対するコミュニケーション支援のあり方について理解する。
学校教育終了後の支援や、地域生活支援のあり方について理解する。

学習の到達目標
重度・重複障害児の特性と指導法に関する知識を得る。
重度・重複障害児の全体像を把握し、教育の可能性と意義について理解できるようになる。

予め履修が望ましい科目
肢体不自由教育
病弱教育
肢体不自由者の心理・生理・病理

教科書　授業のなかで適宜紹介します。

成績評価方法と基準　出席30%、授業のなかでの討論30%、小レポート40%により評価する。

オフィスアワー　木曜日14:40〜16:10 教育学部2号館5階 菊池研究室

学習内容
1〜2回：重度・重複障害児の定義と教育
3〜4回：重度・重複障害児の発達と学習
5〜6回：教材の製作と活用法
7〜9回：自立活動と個別の指導計画
10〜11回：訪問教育の現状と課題
12〜13回：青年・成人期の生活ニーズと支援
14〜15回：重度・重複障害児の医療課題
16回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別支援教育の基礎理論に関する科目	65	特別支援教育概論	2	前期　水 1, 2	荒川哲郎、栗田季佳

授業の概要
障がいのある人たちと共に生きていく社会づくりを目標とするインクルーシブ教育を概説する。
また特別支援教育の理念・制度・カリキュラム等の説明、今後の課題について考える。
特別支援教育の履修での入門の授業としている。

教科書　随時、資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席率とレポート・試験等による総合評価。

オフィスアワー
栗田:木曜日17:00〜18:00、教育学部専門校舎2号館5階・栗田研究室
荒川:金曜日10:00〜14:00 面接検査室

学習内容
（前半、栗田担当）
1〜3回 特別支援教育の理念と実際
4〜5回 特別支援学校と特別支援学級
6〜7回 インクルージョンにおける課題
（後半、荒川担当）
8〜9回 障害者権利条約と教育について
10〜11回 障がいのある人たちへの差別と教育
12〜13回 障がいのある人たちの地域での生活の問題と課題
14〜15回 特別支援教育の問題と今後の課題
16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児教育総合科目	67	幼児教育基礎ゼミナール	2	前期　木3, 4	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）

授業の概要　自分や家族，子ども，保育・幼児教育，及び保育士・幼稚園教諭について集団内で発表，協議しあう中で，子どもについての基本的な理解，保育・幼児教育に関する基本的な知識，課題解決や情報発信に関する基本的な能力を身に付ける。

学習の目的
子ども，保育・幼児教育，及び保育士・幼稚園教諭についての基本的な知識を身に付ける。
問題解決や情報発信についての基本的な能力を習得する。
自己を開示し語り合う中で学びあう集団をつくる。

学習の到達目標
子ども，保育・幼児教育，及び保育士・幼稚園教諭についての基本的な知識を身に付ける。
問題解決や情報発信についての基本的な能力を習得する。
自己を開示し語り合う中で学びあう集団をつくる。

受講要件　原則的に幼児教育コース1年生に限る

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　レポート・発表内容70%，授業への取り組み状況30%

オフィスアワー　オフィスアワーについては、授業時に説明する。

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：フリースピーチ①：子どもの頃の思い出
第3回：フリースピーチ②：私が出会った先生
第4回：個人発表①：マイ・ベスト50（準備）
第5回：個人発表②：マイ・ベスト50（前半）
第6回：個人発表③：マイ・ベスト50（後半）
第7回：幼稚園見学
第8回：幼稚園見学反省会
第9回：個人発表④：私が通った幼稚園・保育所（前半）
第10回：個人発表⑤：私が通った幼稚園・保育所（後半）
第11回：グループ発表①：保育・幼児教育情報（準備）
第12回：グループ発表②：保育士・幼稚園教員養成カリキュラム情報
第13回：グループ発表③：保育所・幼稚園の採用試験情報
第14回：グループ発表④：保育所・幼稚園の保育内容情報（生活編）
第15回：グループ発表⑤：保育所・幼稚園の保育内容情報（遊び・活動編）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容研究	67	保育内容研究概論 I	2	前期　金5, 6	吉田真理子

授業の概要
・教科書をもとに，保育内容の基本を概観する。
・実際に体験しながら保育内容に関する知識・技術を習得する。

学習の目的　・保育内容や保育実践について基本的な知識を得ることができる。

教科書　後日指定します。

成績評価方法と基準　レポート30%，出席70%

オフィスアワー　毎週金曜日14:40〜15:40 吉田研究室（専門2号館3階）

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：畑の土づくり＆夏野菜づくりの計画
第3回：自然や畑づくりに関する保育実践の紹介
第4回：種＆苗植え
第5回：里山保育に関する映像鑑賞
第6回：ルールあそびで遊ぼう：しっぽとりのバリエーション
第7回：ルールあそびで遊ぼう：氷鬼のバリエーション
第8回：ルールあそびで遊ぼう：かくれんぼ
第9回：梅ジュースづくり
第10回：保育内容に関する文献講読
第11回：保育内容に関する文献講読
第12回：保育内容に関する文献講読
第13回：保育内容に関する文献講読
第14回：クッキングの準備と計画
第15回：夏野菜の収穫とクッキング
※幼児教育現場への見学が入ることがあります

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児心理学	67	幼児心理学講義	2	後期　金1, 2	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）

授業の概要　幼児心理学の研究内容や，研究方法としての観察法，実験・面接法，質問紙法等について学び，理解を深める。研究法の実践も行い，体験的にも理解を深める。

学習の目的　幼児心理学の研究内容や研究方法についての理解を得ることができる。

学習の到達目標　幼児心理学の研究内容や研究方法についての理解を得ることができる。

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　定期試験50%，課題・レポート20%，授業への取り組み状況30%

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：観察法①
第3回：観察法②
第4回：観察法③
第5回：観察法④
第6回：実験・面接法①
第7回：実験・面接法②
第8回：実験・面接法③
第9回：実験・面接法④
第10回：質問紙法①
第11回：質問紙法②
第12回：質問紙法③
第13回：質問紙法④
第14回：心理統計法①
第15回：心理統計法②

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児造形	67	幼児の造形	2	後期　水 3, 4	松本 愛子(教育学部非常勤講師)

授業の概要　理論と実際の双方を軸に授業を展開しながら幼児の造形世界を理解し、その上でいかに幼児の能力を効果的に 伸長させるかを研究し学習する。

学習の目的　幼児造形の基礎的知識を習得し教育者、保育者として必要な指導力、支援力を身につけることが出来る。

学習の到達目標
1．幼児の絵画、造形における発達段階を理解し、幼児一人ひとりの豊かな想像力及び創造力を育む力を養う..。
2．幼児の多彩な造形あそびを支援する為に画材や技法の特色を把握し、その発展的指導法を習得する。
3．幼児期における絵画、造形制作の有意性を理解し、状況に応じた指導を工夫し実践していく能力を身に着ける.
4．教育者・保育者として自らが豊かな感性を養おうとする精神を持つ。

教科書　プリント及びワークシートを講義で配布。

成績評価方法と基準　作品発表と提出・制作過程・出席状況・レポートなどにより総合的に評価する。

学習内容
1．ガイダンス(幼児造形の内容と意味)
2．3．幼児期における描画の発達段階
4．幼児画の特徴と描画材料について
5．教育史における幼児教育の理念（美術教育を中心として）
6．触覚的な造形(海岸での造形あそび『幼児の視点・感性の追懐』)
7．〜9．基礎技法の実習（デカルコマニー、スパッタリング、フロッタージュ等)
10．聴覚的な造形(音楽を聴きながら、コラージュと水彩絵具を使って描く。)
11．絵本の技法による絵画制作
12．〜14．立体造形(モビール、紙粘土による造形、円柱からの展開等)
15．色と形の基礎的知識
〈都合で内容の変更があります。〉
＊準備物は事前に連絡します。水彩道具一式、クレパス、鉛筆（2B)、色鉛筆、はさみ、定規、コンパス、糊を持参すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児教育学	66	幼児教育方法	2	前期　水 1, 2	須永進

授業の概要　発達主体である幼児の望ましい成長・発達のための幼児教育方法について、実践事例を通して学ぶことがこの授業の主たる目的であり、中心的テーマである。したがって、幼稚園をはじめ、保育所や近年広がりつつある子育て支援の事例を取り上げながら、幼児教育の方法を学習する。

学習の目的　事例を通して、幼稚園教育や幼児教育全般に通じる方法の基礎理論を学習できることを目的としている。また、そこで得られた知識や方法を自らの教育活動に活かしていけるようになることを期待している。

学習の到達目標　この授業で学習した内容を理解し、それを自らの学習や教育活動に活かせることができるようになる。

教科書　特に指定はない。

成績評価方法と基準　レポート50%、授業での取り組み方（意欲、積極性、発表力、協調性など）50%

オフィスアワー　毎週月曜日 14：40〜16：10 須永研究室

学習内容
授業では、次の内容で進めていくことを予定している。なお、必要に応じて幼児関連の施設見学。・観察等と行い、レポートや各自の課題に沿った発表・話し合いを行う予定でいる。
1．幼児教育方法 を学ぶ意義とその方法について
2．幼児の生活と成長・発達について－家族、保育者、地域の人々
3．幼児の生活と成長・発達について－生活の変化とその問題点
4．幼児の成長・発達の特性と環境－乳児
5．幼児の成長・発達の特性と環境－幼児
6．乳幼児の遊びとその意義
7．乳幼児の発達と遊びについて－乳児の遊びと留意点
8．乳幼児の発達と遊びについて－幼児の遊びと留意点
9．保育・教育の形態とその特性－家庭、家庭的保育施設
10．保育・教育の形態とその特性－幼稚園、保育所、認定子ども園他
11．幼児保育・教育方法の概要－外国（人）による教育方法（論）
12．幼児保育・教育方法の概要－日本（人）による教育方（論）.
13．保護者への相談・支援－基本的原理とその方法
14．保護者への相談・支援－事例による理解
15．全体のまとめ－望ましい幼児教育について

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容研究	66	保育内容研究概論 II	2	前期　金 1, 2	吉田真理子

授業の概要
・保育内容の体験や幼稚園での観察を通して，子どもを見る目や遊びを豊かにするかかわり方を学ぶ。
・保育士資格試験の対策を含む。

学習の目的
・子どもの反応や感性，考え方などを記述しながら丁寧にみることによって，子どもを見る目やその面白さに気づくようになる。
・対話的な保育のあり方を探ることができるようになる。

成績評価方法と基準　レポート30%，出席70%

オフィスアワー　毎週金曜日14:30〜15:30 吉田研究室（専門2号館3階）

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：クッキング保育の実践紹介＆レシピ作成
第3回：クッキング実践
第4回：粉ミルクづくり＆おむつ換え
第5回：幼稚園で観察・実習①
第6回：幼稚園で観察・実習②
第7回：エピソード発表会（エピソードの書き方）
第8回：幼稚園で観察・実習③
第9回：幼稚園で観察・実習④
第10回：エピソード発表会（エピソードの面白さ）
第11回：親子活動の企画
第12回：親子活動の製作
第13回：乳児用のおもちゃ作り（おもちゃの決定）
第14回：乳児用のおもちゃ作り（製作）
第15回：乳児用のおもちゃ作り（披露）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
児童文化	66	児童文化	2	後期　火 3, 4	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）

授業の概要　絵本の読み聞かせ，素話，劇，歌，ダンス，手遊び，ふれあい遊びなど児童文化的活動についての基本的な知識と技術について学ぶとともに，附属幼稚園の未就園児の会での実践を通して体験的に深める。

学習の目的　絵本の読み聞かせ，素話，劇，歌，ダンス，手遊び，ふれあい遊びなど児童文化的活動についての基本的な知識と技術を身に付けることができる。

学習の到達目標　絵本の読み聞かせ，素話，劇，歌，ダンス，手遊び，ふれあい遊びなど児童文化的活動についての基本的な知識と技術を身に付けることができる。

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　レポート・発表内容70%，授業への取り組み状況30%

学習内容
第1回： オリエンテーション
第2回～第14回：学内での実践計画の作成・準備と附属幼稚園での実践・反省を繰り返す
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
児童福祉	66	児童福祉	2	前期　火 7, 8	須永 進

授業の概要　1945年の敗戦による貧困、困窮的状況から半世紀余りを経て物質的豊かさを迎えた今日に至り、その間子どもを取り巻く環境は、大きく変容を遂げてきた。同様に、子どもの生命・生存から豊かな成長と発達を保障する社会的支援も変容を迫られている。ここでは、こうした経緯を振り返りながら、子どもや子どもを支える人的パワーに焦点をあて、その過程や問題点を明らかにする。また、社会的支援としての子ども家庭支援の動向を理解し、子どもにとって必要な、すなわち、「子どもの最善の利益」が保障され、実現化されるための課題について考えていくことがこの授業の全体の概要である。

学習の目的　子ども福祉に関して、特に戦後の子ども福祉の動向に目を向けることにより、いま子どもが置かれている状況の理解につながることになる。また、これからの子どもへの福祉を考えるための基本的な枠組みや知識の獲得を目的としている。このように、過去や現在をふまえながら、これからの子どもの福祉の在り方を考えていける力を培うことを主目的としている。

学習の到達目標　子どもの福祉に関して、その経緯や社会的背景、動向などが理解できる。また、いま子どもの置かれている状況を理解することができる。 さらには、今後も予想される社会的、経済的、文化的変動のなかにあって、子どもの最善の利益を保障し、実現化するために望まれる社会的支援の「あるべき姿」を思い描くことができる。

教科書　須永 進編著 「改革期の保育と子どもの福祉」八千代出版

成績評価方法と基準　課題レポート 50%、授業での取り組み方（意欲や積極性、参加意識など） 50% 計 100%

オフィスアワー　毎週月曜日 14：40～16：10 2号館3階 須永研究室

学習内容
授業目的を達成するために、この「児童福祉」では以下の内容を中心に進めていく予定でいる。
1．「児童福祉」を学ぶ意義とその方法
2．日本の現代社会と子どもたち
3．日本の子どもの福祉とその理念
4．子どもと現代の家庭
5．子どもの福祉を支える制度と関係機関 （1）
6．（2）
7．子どものための福祉施設 （1）
8．（2）
9．子どものための福祉施策 （1）
10．（2）
11．子育て支援の現状と課題
12．外国の子どもへの福祉 （1）ー アメリカ、イギリス
13．（2）- フランス、スウェーデンその他
14．子どもの福祉を支える職員の専門性と職務
15．全体のまとめーこれからの望ましい子どもへの福祉について

その他
・当日冒頭に資料を配布し，テキストを読み進めながら適宜説明を加えていく形式で進める。
・授業開始までにテキストを「必ず」用意しておくこと。
・随時，保育士資格試験の過去問題も紹介する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児教育学	65	幼児教育学演習 I	1	前期　月 5, 6	須永 進

授業の概要　この「幼児教育学演習 I 」では、自己の取り組む課題を設定し、全体的な構想、具体的な道筋、また必要と考えられる資料や文献検索、収集、分析及び位置づけなどを行うための演習である。

学習の目的　この授業の過程を通して、自己の課題に取り組む基本ベースをつくり、さらなる課題の完成に向けた後期の「幼児教育学演習 II 」に結びつけることが目的になる。

学習の到達目標　前期の「幼児教育学演習 I 」を学習することで、課題に向けた基礎的段階を構築し、後期に予定されている「幼児教育学演習 II 」における学習にスムースに取り組めるようになる。

成績評価方法と基準　授業への取り組み方、課題に向けた主体的学習態度、発表、レポートなどを総合的に評価。

オフィスアワー　毎週月曜日14：.40から16：10 2号館3階 須永研究室

学習内容
「幼児教育学演習 I 」では、自己の課題を設定し、構想、具体的方法、関連資料、文献の検索、収集、分析などを中心に進めていくが、その大筋については以下の内容になっている。
1．オリエンテーション
2～4．自己の課題設定にあたって、関連するテーマの文献・資料の収集、分析（1） （2） （3）
5～7．自己の課題に関する構想と文献・資料についての報告（1） （2） （3）
8～10．構想の文章化と文献・資料のリストの作成（1） （2） （3）
11～14．課題へのアプローチについての検討（1） （2） （3） （4）
15．進捗状況の確認と今後の進め方についてー報告

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児教育学	65	幼児教育学演習 II	1	後期　月 5, 6	須永 進

授業の概要　この「幼児教育学演習 I」では、自己の取り組む課題を設定し、全体的な構想、具体的な道筋、また必要と考えられる資料や文献検索、収集、分析及び位置づけなどを行うための演習である

学習の目的　この授業の過程を通して、自己の課題に取り組む基本ベースをつくり、さらなる課題の完成に向けた後期の「幼児教育学演習 II」に結びつけることが目的になる。

学習の到達目標　前期の「幼児教育学演習 I」を学習することで、課題に向けた基礎的段階を構築し、後期に予定されている「幼児教育学演習 II」における学習にスムースに取り組めるようになる。

予め履修が望ましい科目　幼児教育学演習 I

成績評価方法と基準　授業への取り組み方、課題に向けた主体的学習態度、発表、レポートなどを総合的に評価。

オフィスアワー　毎週月曜日14：.40から16：10 2号館3階 須永研究室

学習内容

「幼児教育学演習 I」では、自己の課題を設定し、構想、具体的方法、関連資料、文献の検索、収集、分析などを中心に進めていくが、その大筋については以下の内容になっている。

1．オリエンテーション
2〜4．自己の課題設定にあたって、関連するテーマの文献・資料の収集、分析（1）（2）（3）
5〜7．自己の課題に関する構想と文献・資料についての報告（1）（2）（3）
8〜10．構想の文章化と文献・資料のリストの作成（1）（2）（3）
11〜14．課題へのアプローチについての検討（1）（2）（3）（4）
15．進捗状況の確認と今後の進め方について－報告

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児教育学	65	幼児教育史	2	前期　火 3, 4	須永 進

授業の概要　この授業では、幼児教育の歴史に目を向け、過去の遺産とも言うべき教育的営為とそれに関わった教育者を取り上げ、時代背景や文化、社会構造など考慮しながら、歴史的及び今日的意義の視点にたって講義する。

学習の目的　この講義は、幼児教育の歴史を学びつつ、その現代的視点からの評価や歴史的位置づけをすることを主目的としている。そのことにより、過去のすぐれた教育者による教育方法や内容を理解し、現代の幼児教育の抱える課題や問題点の解決に資することを目的としている。

学習の到達目標　この講義により、これまで幼児教育に影響を与えてきた教育者の教育的営為やその歴史的価値を理解できる。また、これからの幼児教育の望ましい方向性を考える上で、こうした先駆者から学ぶところは少なくない。さらに自己の幼児教育観の形成に影響を与えることができる。

受講要件　文献の講読や関連するテーマについての発表、意見交換など行うため、その点をよく理解する必要がある。

教科書　特に、指定しない。

成績評価方法と基準　レポート 50% 、 取り組み方（意欲、積極性、文章読解力、発表力など） 50% 計100%

オフィスアワー　毎週月曜日 14:40〜16・10 須永研究室

学習内容

この「幼児教育史」では、教育に関する歴史をたどりつつ、幼児教育の位置づけを理解する。また、幼児教育者とその教育的営為について資料や参考文献を通して講義を行い、それを参考に教育的意義や現代的視点による評価などを検討し、理解を深めることにする。

1．講義の目的と進め方について
2．歴史のなかの子ども観 ー 日本
3．外国
4〜6．幼児教育に影響を与えた教育者（外国）①②③
7．幼児教育に影響を与えた教育者について検討（話し合い）
8〜10．日本の近代幼児教育の歴史ー幼稚園、保育所の歩み①②③
11〜12．障がい児教育の歴史とその動向①② 13．幼児教育の直面する課題 ①早期教育
14．②幼稚園か保育所か
15．全体のまとめー幼児教育者は、過去の歴史から何を学ぶべきか（話し合い）

その他

・後期を通じて保育に関係するテキストを読む。
・担当者は，発表を担当する章をレジュメにまとめて発表する。出席者からの質問にも答えることができるように，関連語句や関連情報を調べてくるなど事前に準
備をしてくること。
・出席者も毎回テキストを事前に読んでくること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児教育学	65	幼児教育臨床	1	前期　木 1, 2	須永 進

授業の概要　今日、幼児の成長・発達を保障する場である家庭や幼稚園、保育所、関連施設などでは、社会変動や価値観の多様化のなかで、その役割や存在が改めて問われている。例えば、家庭では保護者の養育力の低下や子どもへの不適切な対応が、また幼稚園や保育所では一体化への新たな保育施設の在り方に関心が集まっている。この授業では、こうした幼児を中心に子どもの教育や保育の場が直面している臨床的課題について、資料や文献を参考に問題の所在や具体的な対応、保育者の役割などを検討し、共通認識として共有できる授業を目指している。

学習の目的　この授業を通して、現在保育や幼児教育の場で直面する問題点や対応が求められている課題などを明らかにし、その解決に向けた具体的な方法や取り組み方、また考え方を理解することを主目的としている。

学習の到達目標　この学習を通して、幼児教育の現場が抱える今日的な課題や問題点を理解し、その解決に向けた方法や具体的な道筋を構築できるようになることが期待される。

教科書　特に、指定はない。

成績評価方法と基準　レポート 50% 授業への取り組み方（積極性、学習への意欲、資料分析力など） 50%

オフィスアワー　毎週月曜日 14：40〜16：10 須永研究室

学習内容
「幼児教育臨床」の授業では、保育や幼児教育の場で直面し、臨床的視点からその解決を図る方法を考えていくことを目的に、以下のように進めていく。
1．「幼児教育臨床」を学ぶ意義と進め方について
2．今日、保育や幼児教育の場における臨床的課題について （1）
3．（2）
4．（3）
5〜9．事例を取り上げ、問題の所在、状況、保育者の対応、評価を検討 （1）（2）（3）（4）（5）
10．受講生による問題提起 （事例の紹介、解説、対応への考えなどを発表）（1）
11．（2）
12．臨床的課題解決における保育者の役割について （1）
13．（2）
14．保護者理解とその対応
15．全体のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児心理学	65	幼児心理学特講	2	後期　木 1, 2	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）
	〜64	幼児心理学特講 I	2		

授業の概要　幼稚園教諭や保育士の立場から乳幼児期の子どもとかかわる場合に必要となる心理学の基本的な知識や技術について概説し，それにより保育・教育現場における子どもとのかかわりについての理解を深める。幼児教育・保育の現場に見学・観察に行き，実践に参加することを通して，現場で活きる心理学について体験的に学ぶ。

学習の目的　幼児教育・保育の現場に活きる心理学の知識や技術を身に着けることができる。

学習の到達目標　幼児教育・保育の現場に活きる心理学の知識や技術を身に着けることができる。

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　レポート・発表内容70%，授業への取り組み状況30%

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：乳幼児期の発達と生活（講義）①
第3回：乳幼児期の発達と生活（講義）②
第4回：乳幼児期の発達と生活（講義）③
第5回：保育園見学・観察・参加①
第6回：保育園見学・観察・参加②
第7回：報告会
第8回：幼稚園見学・観察・参加①
第9回：幼稚園見学・観察・参加②
第10回：報告会
第11回：グループ学習①：テーマの選択・決定
第12回：グループ学習②：調べたことを持ち寄る
第13回：グループ学習③：発表準備
第14回：グループ学習④：発表
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児心理学	65	幼児心理学演習 I	1	前期　木 5, 6	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）

授業の概要　幼児心理学という専門分野について学び，研究を進めていくにあたってどのような知識や技術が必要なのかについて体験的に学ぶ。また，ゼミでの議論の仕方や卒業論文の執筆の仕方について学ぶ。

学習の目的
専門の学び方や研究の仕方についての理解を得ることができる。
卒業論文を書くうえで必要な知識と技術を身に着けることができる。
ゼミでの議論の仕方についての理解を得ることができる。

学習の到達目標
専門の学び方や研究の仕方についての理解を得ることができる。
卒業論文を書くうえで必要な知識と技術を身に着けることができる。
ゼミでの議論の仕方についての理解を得ることができる。

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　レポート・発表内容70%，授業への取り組み状況30%

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：研究の進め方①
第3回：研究の進め方②
第4回：研究の進め方③
第5回：文献の集め方①
第6回：文献の集め方②
第7回：論文の書き方①
第8回：論文の書き方②
第9回：論文の書き方③
第10回：図表のつくり方①
第11回：図表のつくり方②
第12回：図表のつくり方③
第13回：卒論の書き進め方①
第14回：卒論の書き進め方②
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児心理学	65	幼児心理学演習 II	1	後期　金 5, 6	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）

授業の概要　乳幼児の発達心理学に関する文献を精読し，発達理論や発達段階，各発達期の特徴，遊びや生活における指導援助，現代の子どもにおける諸問題，子どもと大人の関わりなどについて意見を交換し，理解を深める。また，発達心理学における種々の研究法についても理解を深める。

学習の目的
乳幼児の発達心理学に関する古典的な発達理論から最新の知見まで理解を得ることができる。
発達心理学の研究法についての理解を得ることができる。

学習の到達目標
乳幼児の発達心理学に関する古典的な発達理論から最新の知見まで理解を得ることができる。
発達心理学の研究法についての理解を得ることができる。

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　レポート・発表内容70%，授業への取り組み状況30%

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2回～第7回 文献精読・発表・討議（1）～（6）
第8回 中間まとめ
第9回～第14回 文献精読・発表・討議（7）～（12）
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児心理学	65	幼児心理学実験	1	前期　水 2, 3, 4	富田 昌平（教育学部学校教育講座）

授業の概要　乳幼児の保育・教育における子どもの遊びと生活，及び保育者の指導・援助について，実地観察を通して理解を深める。また，個別のテーマ設定に基づく観察結果の記録と整理・分析，考察，発表を通して，発達心理学の研究的視点や手法も身に付ける。

学習の目的　乳幼児期の各年齢の発達的特徴と年齢に応じた保育・教育のあり方について，実際の子どもの行動や保育者の行動を詳細に記述することで知見を深める。観察の視点や記録の仕方についても同時に学び，グループ討議を通して実践の具体性を知るとともに，理論に裏付けられた実践についての考察を深める。

学習の到達目標　乳幼児期の各年齢の発達的特徴と年齢に応じた保育・教育のあり方について，実際の子どもの行動や保育者の行動を詳細に記述することで知見を深める。観察の視点や記録の仕方についても同時に学び，グループ討議を通して実践の具体性を知るとともに，理論に裏付けられた実践についての考察を深める。

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　レポート・発表内容70%，授業への取り組み状況30%

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：実地観察（1）
第3回：実地観察（2）
第4回：実地観察（3）
第5回：実地観察（4）
第6回：レポートの報告と検討（1）
第7回：実地観察（5）
第8回：実地観察（6）
第9回：実地観察（7）
第10回：実地観察（8）
第11回：レポートの報告と検討（2）
第12回：実地観察（9）
第13回：実地観察（10）
第14回：全体のまとめ（1）
第15回：全体のまとめ（2）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容研究	65	保育内容特別研究 I	2	前期　木 5, 6, 7	吉田真理子

授業の概要
・保育内容に関する最新の文献を講読することを通して，子どもの見方や保育教育現場の問題をクリティカルにみる態度を身に着ける。
・県内の保育園に足を運ぶことによって，研究と実践を往還する。

学習の目的
・最新の知見や現状に触れることができる。
・学術書や論文の読み方を身に着けるとともに、クリティカルな態度と複眼的な思考を習得することができるようになる。
・保育現場の現状や課題について，問題意識をもつことができるようになる。

教科書　後日指定する

成績評価方法と基準　レポート30%，出席70%

オフィスアワー　毎週金曜日14:30〜15:30 吉田研究室（専門2号館3階）

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：県内の保育園を見学（母子分離の様子など）
第3回：保育内容に関する学術書の講読・発表（2人）
第4回：保育内容に関する学術書の講読・発表（2人）
第5回：4年生との合同ゼミ（3年全員でグループワーク）
第6回：県内の保育園で観察・実習（田植え，畑づくりなど）
第7回：他大学との学びの合同合宿
第8回：保育内容に関する文献の講読・発表（2人）
第9回：保育内容に関する文献の講読・発表（2人）
第10回：県内の保育園で観察・実習（畑づくりの様子など）
第11回：4年生との合同ゼミ（3年全員でグループワーク）
第12回：保育内容に関する文献の講読・発表（2人）
第13回：保育内容に関する文献の講読・発表（2人）
第14回：県内の保育園で観察・実習（川遊びなど）
第15回：4年生との合同ゼミ（3年全員でグループワーク）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容研究	65	保育内容特別研究 II	2	後期　木 5, 6, 7	吉田真理子

授業の概要
・各自が自分の関心に基づいて文献を選んで読み，発表し，それについて皆でディスカッションをおこなう。
・卒業論文に向けて、各自が研究テーマ・問題意識をもち、それについて研究計画を立てる。

学習の目的
・興味のあるテーマに関する問題を掘り下げ、それに関する資料や文献を収集し、分析する力を身に着ける。
・問いの立て方や分析方法，研究計画書の作り方など，卒論に必要な力を習得することができる。

予め履修が望ましい科目　保育内容特別研究 I

教科書　・なし（参加生が論文を選択する）

成績評価方法と基準　レポート30%，出席70%

オフィスアワー　毎週金曜日16:30〜17:30 吉田研究室（専門2号館3階）

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：県内の保育園に観察・実習（稲刈りなど）
第3回：保育内容に関する文献の講読・発表（2人）
第4回：保育内容に関する文献の講読・発表（2人）
第5回：4年生との合同ゼミ（3年全員でグループワーク）
第6回：県内の保育園に観察・実習（地域の祭り，秋の散策など）
第7回：保育内容に関する英語文献の講読・発表（2人）
第8回：保育内容に関する英語文献の講読・発表（2人）
第9回：4年生との合同ゼミ（3年生全員でグループワーク）
第10回：県内の保育園に観察・実習（クリスマス会など）
第11回：保育内容に関する文献の講読・発表（2人）
第12回：保育内容に関する文献の講読・発表（2人）
第13回：4年生との合同ゼミ（卒論の研究計画書）
第14回：研究計画書の作成，現場への依頼
第15回：予備観察開始

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	コンピュータの基礎	2	前期　木 3, 4	山守 一徳

授業の概要　コンピュータの構成や動作原理に関する基礎的知識について講義する。

学習の目的　2進数の取り扱い、計算機の中の動きなどが理解できるようになる。

学習の到達目標　情報処理技術者の技術分野に関する知識を身に付けることが到達目標である。

教科書　「ハードウェアの基礎」 富澤儀一 朝倉書店

成績評価方法と基準
試験、レポート、出席状況を総合して評価する。
試験で60点以上取得しないと合格ラインに到達しない。
計算手法の理解が曖昧のままでは、試験問題の正解に辿り着けず、60点に到達しないので注意が必要である。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
1．コンピュータの概要：コンピュータの基本的構成や基本的機能など
2．基数変換
3～4．記憶装置：主記憶装置や補助記憶装置の構造、記憶容量、平均アクセス時間
5～6．中央処理装置：CPUの構成や動作原理
7．命令形式とアドレス修飾
8．入出力装置：チャネル動作
9～10．データの表現：数値データや文字データの表現
11．誤り検出・訂正コード
12．ブール代数：ブール代数の基本公式など
13．カルノー図による論理関数の簡略化
14～15．論理回路設計：組合せ回路や順序回路の設計など
16．まとめ

その他　第1回目より教科書を用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	情報教育概論	2	前期　月 5, 6	奥村 晴彦

授業の概要　コンピュータの歴史から始め，梅棹忠夫の情報教育の提案（1969年），学習指導要領の変遷，教科「情報」の生い立ちと現状，情報教育の将来（電子教科書も含む話題）等について講義する。後半は，講義と体験を織り交ぜて，情報科の教員として必須の概念を学んでいく。

学習の目的　情報教育課程の新入生がぜひとも知っていなければならない基本知識を学ぶのが目的。

学習の到達目標　情報教育の目的，歴史，問題点，将来を理解し，情報教育におけるさまざまな概念を体験しながら学ぶ。

教科書　授業中に指示する。

成績評価方法と基準　毎回課題を与え，その取り組みを総合評価する。

オフィスアワー　私のホームページに予定表があるので空いている時間ならいつでもどうぞ。Moodleやメールでの質問も歓迎します。

学習内容
第1回：オリエンテーション・情報教育の目的
第2回：情報教育の歴史
第3回：情報教育の現状（小・中学校）
第4回：情報教育の現状（高校）
第5回：情報教育の将来
第6回：コンピュータを使わない情報教育：Computer Science Unpluggedの紹介
第7回：Alan Kayと情報教育（Squeak Etoysの体験を含む）
第8回：MITの取り組み（Scratchの体験を含む）
第9回：日本におけるプログラミング教育（「プログラミン」「アルゴロジック」の体験を含む）
第10回：日本におけるプログラミング教育（「ドリトル」の体験を含む）基本
第11回：日本におけるプログラミング教育（「ドリトル」の体験を含む）応用
第12回：情報教育の現場での情報発信：HTMLとCSS の体験
第13回：Webでのプログラミング：JavaScriptの体験
第14回：教育におけるデータ解析：Rの体験
第15回：全体のまとめ
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	計算機科学概論	2	前期　金 5, 6	萩原克幸（教育学部）

授業の概要　ソフトウェアを作成するためのプログラミングの技能は，情報分野に携わる人材にとって必要不可欠なであり，情報教育に携わる人材も一度は経験しておくべき内容である。本講義では，C言語の基礎について，変数，関数，制御文，ポインタなど，基本的な概念・記述方法を順番に解説するとともに，各学習事項について，逐次，プログラミング演習を通して，それらを実践的に理解する。

学習の目的　現在では，様々なプログラミング言語が存在するが，本講義では，その最も基本的かつ典型的なC言語の基礎を修得することを目的とする。また，プログラムとソフトウェア・ハードウェアとの関連性など，情報分野の位置づけを理解する。

学習の到達目標　基本的な問題が与えられた時に、それを解くアルゴリズムを考え、C言語によりプログラミングができるようになること。

教科書　新C言語入門ービギナー編ー，林晴比古著，SoftBank Creative

成績評価方法と基準　出席状況，授業態度，演習課題、期末試験により総合的に評価する．

オフィスアワー

日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：C言語の基礎
第2回：変数とデータ型
第3回：演算子
第4回：if文
第5回：switch文
第6回：for文，while文
第7回：配列
第8回：ポインタの基礎
第9回：ポインタの応用
第10回：文字列
第11回：関数の基礎
第12回：関数の応用
第13回：構造体
第14回：ファイル操作
第15回：エラー処理
期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	プログラミング I	2	後期　金 9, 10	丁 亜希

授業の概要　C言語によるプログラミングの知識と技法について講義する。

学習の目的　配列，構造体，ポインタやファイル使用に関連する知識と技法を身につける。

学習の到達目標　より高度なC言語プログラミングができるようになる。

受講要件　計算機科学概論を履修済であること。

教科書　C言語プログラミングレッスン入門編改定第2版 結城浩 ソフトバンク

成績評価方法と基準　出席状況、試験成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週金曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館4階情報教育研究室

学習内容
1-3．関数
4-5．配列
6-9．構造体
10-12．ポインタ
13-15．動的領域確保
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	プログラミング II	2	前期　木 9, 10	山守 一徳

授業の概要　プログラミング言語Javaの基礎について、実習を行いながら講義する。

学習の目的　Javaプログラミングの基礎を身に付けることを目的とする。

学習の到達目標　演習レベルのプログラムならば、一人で作成できるようになることが到達目標である。

予め履修が望ましい科目　プログラミングI

教科書　「3日で解るJava 例題学習方式 第2版」桑原恒夫 共立出版

成績評価方法と基準
試験、レポート、出席状況を総合して評価する。
すべての課題を提出し、試験で60点以上取得することが合格の最低ラインである。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
第1回～第3回 変数、クラス、インスタンス、継承
第4回～第5回 文字列、配列
第6回～第8回 パッケージ、アクセス制限
第9回～第11回 GUI、イベント処理
第12回～第14回 スレッド、例外処理
第15回 ファイル入出力
第16回 テスト

その他
第1回目より教科書を用意すること。
教科書は必須である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	プログラミングIII	2	後期　木 9, 10	山守 一徳

授業の概要　プログラミングIIの内容を基礎として、プログラミング言語Javaについて、実習を行いながら講義する。サーブレットのプログラミング演習も行う。

学習の目的　Javaプログラムの動きがわかり、機能実現させるために提示されているサンプルソースプログラムが理解できるようになる。

学習の到達目標　サンプルソースプログラムを元に、改良したプログラムを一人で作成できるようになることが到達目標である。

受講要件　初歩のLinuxのコマンド操作を覚えている必要がある。

予め履修が望ましい科目　プログラミングII

教科書　「Javaによるインターネットプログラミング」下村隆夫 近代科学社

成績評価方法と基準
試験、レポート、出席状況を総合して評価する。
すべての課題を提出し、試験で60点以上取得することが、合格の最低ラインである。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
1．スタイルシート
2．アプレット
3．サーブレット基礎
4．サーブレット応用
5．JSP
6．セッション管理
7.アプレットとサーブレット間通信
8．データベース、JDBC
9．JavaBeans
10．ソケット通信
11.グラフィックス
12．JavaからC言語の呼び出し、JavaからUNIXコマンドの呼び出し
13.GUI
14.ダイアログ

その他
第1回目に遅れないよう出席すること。
教科書が必須である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	情報ネットワーク	2	前期　木 1, 2	丁 亜希

授業の概要　インターネットを有効に利用するための基礎知識と技術について講義する。

学習の目的　ネットワーク構成の仕組み，原理と技術を理解する。

学習の到達目標　自らネットワークを構築することや，一般的なネットワークを利用するときに発生し得るトラブルを解決することができるようになる。

教科書　「ネットワーク利用の基礎」 野口健一郎 サイエンス社

成績評価方法と基準　出席状況、試験成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館4階情報教育教員研究室

学習内容
1回目 デジタル通信とデータの符号化
2－3回目 ネットワークの構成
4－6回目 プロトコルの階層化
7－10回目 TCP／IP
11－12回目 通信アプリケーション
13－15回目 セキュリティ
16回目 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	情報化社会論	2	前期　火 9, 10	奥村 晴彦

授業の概要　メールのマナー，ウイルス，迷惑メール，情報教育，情報セキュリティ，情報モラル，著作権，特許，インターネットの精神，ハッカー倫理，フリーソフトウェア運動とオープンソース，不正アクセス禁止法，個人情報保護法，プロバイダ責任制限法，P2Pソフトといった話題を通じて，情報と社会とのかかわりについて考える。

成績評価方法と基準　Moodle上の課題で評価する。

オフィスアワー
私のホームページにある予定表で空いている時間ならいつでもどうぞ。
Moodleやメールでも質問してください。

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：メール・SNSの利用
第3回：情報の歴史1
第4回：情報の歴史2
第5回：情報の歴史3
第6回：著作権法1
第7回：著作権法2
第8回：特許とその問題点
第9回：フリーソフトウェア運動とオープンソース
第10回：Creative Commons
第11回：個人情報保護法
第12回：情報セキュリティ1
第13回：情報セキュリティ2
第14回：情報倫理
第15回：情報と社会のかかわり

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	情報学概論	2	後期　木 1, 2	萩原克幸（教育学部）

授業の概要　コンピュータおよび情報通信ネットワークは，今日の情報化社会を支える技術であり，多くの学生が実際に活用してきている。情報分野の専門的内容の学修への導入として，コンピュータ・ハードウェア，ソフトウェア，情報通信ネットワークについて一般に利用されている用語を，過度に専門的にならないように解説するとともに，それらの用語間の関係等を示す。また，コンピュータによる実習を通して，そうした用語を実体験として理解する。

学習の目的　本講義の目的は，コンピュータおよび情報通信ネットワークについて，一般に知られている知識（用語）・経験を，専門的な立場から概要的に理解することを目的とする。

学習の到達目標　コンピュータ・ハードウェア，ソフトウェア，情報通信ネットワークの仕組みについて基本的な知識を得る。

教科書　講義資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席状況，授業態度，レポート，期末試験により総合的に評価する。

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：コンピュータの歴史
第2回：ハードウェアの基礎（CPU・メモリなど）
第3回：ハードウェアの基礎（記憶装置）
第4回：ハードウェアの基礎（周辺装置）
第5回：ハードウェアの基礎（演習）
第6回：ソフトウェアの基礎（オペレーティングシステム）
第7回：ソフトウェアの基礎（ハードウェアの制御）
第8回：ソフトウェアの基礎（プログラムとプロセス）
第9回：ソフトウェアの基礎（演習）
第10回：情報通信ネットワークの基礎（WAN・LAN・IPアドレスなど）
第11回：情報通信ネットワークの基礎（プロトロコル・通信の仕組み）
第12回：情報通信ネットワークの基礎（ネットワーク・ツール）
第13回：情報通信ネットワークの基礎（演習）
第14回：マルチメディアの基礎
第15回：ソフトウェア産業
期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	情報数理解析学III	2	前期　火 1, 2	肥田野 久二男（教育学部）

授業の概要　授業の概要は情報科学の基礎理論をなす離散的数学である。数論、集合論、数の体系の分野から離散代数、離散関係等へと授業内容を深める。

学習の目的　「授業概要」で示したような情報科学の専門的知識・技能を習得し、広く情報科学及びその応用分野に活用できる知識を得ることを学習の目的とする。

学習の到達目標
上記の「学習の目的」を達成することを学習の到達目標とする。

教科書
はじめての離散数学 小倉久和著 近代科学社

成績評価方法と基準
試験による。ただし出席状況、レポート提出状況、学習態度等を総合的に考慮して評価をする。

学習内容
第1回～第3回 数え上げと帰納法
第4回～第6回 数の体系
第7回～第9回 数の拡張・行列
第10回～第12回 剰余演算
第13回～第15回 離散代数
第16回 まとめと試験

その他　毎回、出席をとる。無断で欠席をすると試験を受けられない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	情報数理解析学IV	2	後期　月 5, 6	萩原克幸

授業の概要
講義内容は以下のとおりである．
1． 回帰分析
2． 主成分分析
3． 判別分析
4． クラスター分析

学習の目的　コンピュータを利用してデータ解析，特に，多変量解析を行う場合の基礎理論を修得する．

学習の到達目標　コンピュータを利用してデータ解析，特に，多変量解析を行う場合の基礎理論を修得する．

予め履修が望ましい科目
・確率・統計
・微分積分
・線形代数

教科書
教科書：永田・棟近，「多変量解析入門」，サイエンス社
参考書：柳井・高根，「多変量解析法」，朝倉書店；浅野・江島，「基本 多変量解析」，日本規格協会

成績評価方法と基準　試験，レポート，出席状況を総合して評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.多変量解析とは
2.回帰分析(1)：単回帰
3.回帰分析(2)：信頼区間など．
4.回帰分析(3)：重回帰
5.回帰分析(4)：重回帰と数量化I類
6.判別分析(1)：1変量
7.判別分析(2)：誤り確率など．
8.判別分析(3)：多変量
9.主成分分析(1)：問題の定式化
10.主成分分析(2)：固有地問題への帰着
11.主成分分析(3)：寄与率・因子負荷など．主成分数の決め方など．
12.クラスター分析(1)
13.クラスター分析(2)
14.クラスター分析(3)
15.演習
16.期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	数値解析 I	2	前期　金 1, 2	萩原克幸

授業の概要
講義内容は以下のとおりである．
1．数値計算の基礎
2．多項式補間法
3．線形方程式の直接解法
4．非線形方程式の数値解法
5．数値積分
6．常微分方程式の数値解法

学習の目的　コンピュータを利用した数値計算・解析のアルゴリズムと基礎理論を修得する．

学習の到達目標　コンピュータを利用した数値計算・解析のアルゴリズムと基礎理論を修得する．

予め履修が望ましい科目
・微分積分
・線形代数
・計算機科学概論
・プログラミングI

教科書
教科書：杉浦洋，「数値計算の基礎と応用」，サイエンス社
参考書：森正武，「数値解析」第2版，共立出版株式会社

成績評価方法と基準　試験，レポート，出席状況を総合して評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1-2.数値解析とは．数値解析の基礎．
3.多項式補間(1)
4.多項式補間(2)
5.多項式補間(3)
6.線形方程式・逆行列(1)
7.線形方程式・逆行列(2)
8.線形方程式・逆行列(3)
9.中間試験
10.非線形方程式(1)
11.非線形方程式(2)
12.数値積分(1)
13.数値積分(2)
14.常微分方程式の数値解法(1)
15.常微分方程式の数値解法(2)
16.期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	計算機システムⅠ	2	後期　月 3, 4	丁 亜希

授業の概要　ネットワークシステム管理に必要な知識と技術を習得することを目標とし，サーバ用OSのインストール手順からよく使われるサーバの管理方法まで講義する。また，理解を深めるために，講義内容に基づく課題を完成させることもある。

学習の目的
ネットワークシステム管理やサーバセキュリティ対策の基本知識及び技能を習得する。

学習の到達目標
この授業に通じて，学習者がネットワークシステムの日常運用や保守だけでなく，障害時の対処能力も身につける。

教科書　適宜、プリントなどを配布する。

成績評価方法と基準　出席状況、試験成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館4階情報教育教員研究室

学習内容
第1回：サーバ・クライアント・モデル
第2回：サーバ用OSと仮想化
第3回：サーバOSインストール
第4回：ユーザ管理
第5回：SSH設定と管理
第6回：メールサーバ管理
第7回：メーリングリスト管理
第8回：DNSサーバ管理
第9回：WEBサーバ管理
第10回：暗号化とSSL
第11回：ネット攻撃と侵入手法
第12回：ファイアウォール
第13回：侵入検知
第14回：運営体制とポリシー
第15回：まとめと復習

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	オペレーティングシステム	2	前期　月 9, 10	丁 亜希

授業の概要　オペレーティングシステムの仕組み，原理と技術について講義する。

学習の目的　計算機システムのプロセス管理，主記憶管理，ファイルシステム管理，I/O装置管理を理解する。

学習の到達目標　計算機システムの管理者としての基本知識を身につける。

教科書　オペレーティングシステムの基礎 大久保英嗣 サイエンス社

成績評価方法と基準　出席状況、試験成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館4階情報教育教員研究室

学習内容
1．OSの構成と利用
2-4．CPU管理
5-7．プロセス同期と通信
8-10．メモリ管理
11-13．ファイル管理
14-15．入出力管理
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	ソフトウェア工学	2	後期　火 5, 6	丁 亜希

授業の概要　効果的なシステム開発に関する学問「ソフトウェア工学」の基本知識と技法を講義する。

学習の目的　システム開発に関連する知識や技法を学問的に理解する。

学習の到達目標　大規模なシステム開発に参加できるようになる。

受講要件　プログラミングⅠを履修済であること。

教科書　効果的プログラム開発技法 国友義久 近代科学社

成績評価方法と基準　出席状況、試験成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週金曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館4階情報教育教員研究室

学習内容
1-2．ソフトウェア工学の概要
3-7．構造化分析・設計
8-12．オブジェクト指向分析・設計
13-15．UML
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	電子計算機実習Ⅰ	1	前期　火 7, 8, 9	丁 亜希

授業の概要　システム開発の全過程を実践するために，いくつかのグループを分け，それぞれのテーマにおいてシステム開発を行う。

学習の目的　システム開発技法およびシステム開発中に必要となる開発メンバー間のコミュニケーション能力を身につける。

学習の到達目標　システム開発チームに参加することができるようになる。

受講要件　ソフトウェア工学を履修済であること。

教科書　指定なし

成績評価方法と基準　出席、課題完成状況等を総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日10：30～12：00 2号館4階情報教育教員室

学習内容
1-3.要求分析
4-6.基本設計
7-9.詳細設計
10-13.コーディング
14-15.テスト
16.発表会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 必修科目	～65	電子計算機実習 II	1	後期　火 7, 8, 9	山守 一徳

授業の概要
Javaサーバサイドプログラミング演習を行なう。JSP, JavaBeans, Javaサーブレット, PostgreSQLを用いたシステムのシステム開発を行なう。
さらに、VisualC++を用いたWindowsプログラミング演習を行なう。

学習の目的　与えられた要求を満たすシステムを構築できるようになるために、要求事項を整理する能力、ドキュメントとしてまとめる能力、そして、システム設計＆開発ができる能力を身に付けることを目的とする。

学習の到達目標
実際に、プログラミングも行い、デバッグして、期日までにシステムを作り上げることと、
要求仕様書とシステム仕様書のドキュメントを書くことができるようになることを到達目標とする。

受講要件　Linuxのコマンド操作に慣れている必要がある。

予め履修が望ましい科目　プログラミングIII

成績評価方法と基準
開発システム、レポート、出席状況を総合して評価する。
レポートをすべて提出し、与えられた課題のシステムを作り上げることが合格の最低ラインである。
内容の劣るレポートは合格ラインに達することができるまで、再提出が必要である。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
第1回～第2回 Javaを用いるシステムの要求仕様書の作成：要求定義に従って、要求仕様書を作成する。
第3回～第4回 システム仕様書の作成：外部設計を行ない、システム仕様書を作成する。
第5回～第6回 コーディング：システムを具体的に開発する。動作試験：動作試験を行なう。
第7回 プレゼンテーション：開発したシステムのプレゼンテーションをPowerPointを用いて行なう。
第8回～第9回 C++を用いるシステムの要求仕様書の作成：要求定義に従って、要求仕様書を作成する。
第10回～第11回 システム仕様書の作成：外部設計を行ない、システム仕様書を作成する。
第12回～第14回 コーディング：システムを具体的に開発する。動作試験：動作試験を行なう。
第15回 プレゼンテーション：開発したシステムのプレゼンテーションをPowerPointを用いて行なう。

その他　第1回目に遅れないように出席すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	情報理論	2	前期　火 1, 2	奥村 晴彦

授業の概要　まずはShannonの“A Mathematical Theory of Communication”を読んでみよう。その後，エントロピーの計算，いろいろな符号化，特にデータ圧縮，誤り訂正符号（ECC）などの原理を，実際にプログラミングを通じて学ぶ。言語はCまたはRを使う（Excelでもある程度可能）。

学習の到達目標　データ量と情報量の違いがわかる。エントロピーの概念を使いこなすことができる。

成績評価方法と基準　Moodle上で毎回出す課題により評価する。

オフィスアワー
私のホームページにある予定表で空いているときならいつでもどうぞ。
メールやMoodleでもどうぞ。

学習内容
第1回：シャノンと情報理論
第2回：シャノン以前
第3回：エントロピー1
第4回：エントロピー2
第5回：エントロピー3
第6回：エントロピー4
第7回：エントロピー5
第8回：データ圧縮1
第9回：データ圧縮2
第10回：データ圧縮3
第11回：データ圧縮4
第12回：データ圧縮5
第13回：情報理論特論1
第14回：情報理論特論2
第15回：情報理論特論3

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～64	ネットワーク文化論	2	後期　月 5, 6	奥村 晴彦

授業の概要　クライアント側はHTML5＋CSS＋JavaScript，サーバ側はLinux＋Apache＋SQLite＋PHPで，実際に情報システムを構築しながら，Webによる高度な情報発信の技術を学ぶ。最終的にはAjaxを駆使したシステムを構築する。

成績評価方法と基準　毎回の提出課題・作品で評価する。

オフィスアワー
私のホームページにある予定表で空いているときならいつでもどうぞ。
メールやMoodleでもどうぞ。

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：HTML5 (1)
第3回：HTML5 (2)
第4回：HTML5 (3)
第5回：JavaScript (1)
第6回：JavaScript (2)
第7回：JavaScript (3)
第8回：PHP (1)
第9回：PHP (2)
第10回：PHP (3)
第11回：PHP+SQLite (1)
第12回：PHP+SQLite (2)
第13回：Ajax (1)
第14回：Ajax (2)
第15回：Ajax (3)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～64	コンピュータアルゴリズム	2	後期　月 9, 10	奥村 晴彦

授業の概要　アルゴリズムとは，コンピュータプログラムからCやJavaといった個々の言語についての決まりごとを除いたもの，つまりプログラミングの考え方のこと。ここでは，探索，整列といった基本的なアルゴリズムから始めて，種々の有用なアルゴリズムを取り上げ，手を動かしながらプログラミングの考え方を身につける。基本的なデータ構造や，計算量の考え方も学ぶ。言語はCを中心とするが，必要に応じて他の言語も使う。

学習の到達目標　教科書にあるアルゴリズムを理解し，必要な改変を加えて，具体的なプログラムを作成し，コンパイル・実行・テストできるようになることが目標である。

教科書　奥村晴彦『C言語による最新アルゴリズム事典』（技術評論社，1991年）

成績評価方法と基準　Moodle上の毎回の提出物で評価する。期末試験は行わない。

オフィスアワー
私のホームページにある予定表で空いているときならいつでもどうぞ。
メールやMoodleでもどうぞ。

学習内容
第1回：アルゴリズムとは何か
第2回：探索アルゴリズム
第3回：整列アルゴリズム1
第4回：整列アルゴリズム2
第5回：数値計算アルゴリズム1
第6回：数値計算アルゴリズム2
第7回：グラフィックス1
第8回：グラフィックス2
第9回：グラフと最短路1
第10回：グラフと最短路2
第11回：アルゴリズム特論1
第12回：アルゴリズム特論2
第13回：アルゴリズム特論3
第14回：アルゴリズム特論4
第15回：アルゴリズム特論5

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	マルチメディア論	2	後期　木 1, 2	山守 一徳

授業の概要　人間の五感に対応する情報メディアを幅広く解説する。

学習の目的　マンマシンインターフェースで使われているコミュニケーション技術の中身がわかるようになることを目的とする。

学習の到達目標　将来を見据えてマルチメディアはどうあるべきかが掴めるようになる。

教科書　「情報メディア工学」美濃導彦・西田正吾 オーム社

成績評価方法と基準　試験、レポート、出席状況を総合して評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
1～2．人間の知覚のしくみ
3．アフォーダンス、マガーク効果
4．自然言語処理
5．文字コード、点字
6．形態素解析、構文解析、意味解析、機械翻訳
7．XML
8．音声認識
9．サウンドスペクトログラム
10．隠れマルコフモデル
11．メディアとしての音楽
12．音楽情報処理
13．画像処理
14．映像理解、オプティカルフロー、ダイナミックプログラミング
15．情報メディアと感性
16．まとめ

その他　第1回目より教科書を用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	データベース	2	後期　火 1, 2	山守 一徳

授業の概要　データベースシステム、特に、リレーショナルデータベースシステムを中心として講義する。

学習の目的　リレーショナルデータベースのテーブル設計ができるようになることが目的である。

学習の到達目標　データベーススペシャリストの試験問題が解けるようになることが到達目標である。

教科書　「データベース」石川 博 森北出版

成績評価方法と基準　試験、レポート、出席状況を総合して評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30～12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
1．データベースの歴史
2．ファイル編成
3．データベース管理システム
4．リレーショナル型データベース
5．関係代数
6．データ制約
7～9．SQL
10．関数従属性
11～12．正規形
13．同時実行制御
14．RAID
15．ER図
16．まとめ

その他　第1回目より教科書を用意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	情報システム概論	2	前期　月 3, 4	萩原克幸

授業の概要　本講義では，データ解析の方法について，統計解析ソフトウェアRを用いた実習を通して学ぶ．内容としては，基本統計量の推定，統計的検定，回帰分析・判別分析・主成分分析・クラスター分析などの多変量解析の方法を実際のデータを解析しながら学ぶ．

学習の目的　統計解析ソフトウェアRを用いて，統計的手法，特に多変量解析に対する理解を深めるとともに，実践的なデータ分析法を習得する．

学習の到達目標　統計解析ソフトウェアRを用いて，統計的手法，特に多変量解析に対する理解を深めるとともに，実践的なデータ分析法を習得する．

受講要件　「確率・統計」および「情報数理解析学IV」を履修済みであること．

予め履修が望ましい科目　数値解析I・数値解析II

教科書　教科書：なし．適宜講義資料を配布する．

成績評価方法と基準　レポート・出席状況を総合して評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1-4：統計解析ソフトRについて・基本統計量の推定
5-7：回帰分析
8-10：判別分析
11-13：主成分分析
14-15：クラスター分析

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	シミュレーション概論	2	後期　月 7, 8	萩原克幸

授業の概要
音声・画像情報処理を中心として必要とされるディジタル信号処理について講義する．
1.周期信号・連続時間信号・フーリエ変換
2.離散時間信号・サンプリング・離散時間フーリエ変換
3.離散フーリエ変換
4.ディジタル・フィルタ

学習の目的　画像・音声を主として様々な信号をコンピュータ上で扱う上で必要不可欠なディジタル信号処理の基本的な知識を修得する．

学習の到達目標　画像・音声を主として様々な信号をコンピュータ上で扱う上で必要不可欠なディジタル信号処理の基本的な知識を修得する．

受講要件　「微分積分学I・II」および「基礎線形代数I・II」を履修済みであること．

教科書
なし．適宜資料を配布する．

成績評価方法と基準　レポート・出席状況を総合して評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.ディジタル信号処理とは
2.複素数・周期信号
3.フーリエ級数展開・フーリエ変換(1)
4.フーリエ級数展開・フーリエ変換(2)
5.離散時間信号・サンプリング・離散時間フーリエ変換(1)
6.離散時間信号・サンプリング・離散時間フーリエ変換(1)
7.離散フーリエ変換(1)
8.離散フーリエ変換(2)
9.離散フーリエ変換(3)
10.窓関数
11.ディジタル・フィルタ(1)
12.ディジタル・フィルタ(2)
13.ディジタル・フィルタ(3)
14.-15.総合演習

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	情報政策学	2	後期　金 1, 2	石田 修二（非常勤）

授業の概要　企業や政府が、戦略や政策を策定、決定する際、情報をどのように取り扱い、情報通信技術をどう利活用しているのか学ぶ

学習の目的　情報通信技術の利活用が、政府や企業の業務や組織の形を変えている。しかしその一方で限界・問題も多々あることを知ることができる。

学習の到達目標
組織業務のIT化を進めるにあたって、いきなり導入というのはダメで、まずは、業務の見直し、そして組織のトップの経営方針がいかに重要かを理解することができる。
また経営とITとテーマにした書籍や資料を理解する、あるいはベンダーやITストラテジストとコミュニケーションする際に必要な知識、用語を得ることができる。

教科書　なし

成績評価方法と基準　出席点30%、レポート30%、期末試験30%，授業への参加点10%、計100%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　授業開講日の11時から13時。教育学部1号館1階の非常勤講師室にて。

学習内容
1テーマに2週間かけて、以下の内容に関する基礎知識を説明する。
第1回 情報政策とは
第2～3回 プロジェクトマネジメント
第4～5回 サービスマネジメント
第6～7回 システム監査
第8～9回 情報戦略
第10～11回 経営戦略
第12回 会計知識
第13回 標準化とガイドライン
第14回 法制度
第15回 政府，自治体，NPO等公共分野におけるIT活用の現状と課題
テーマ終了後に、知識が定着しているか確認するため、宿題ならびに小テストを課す。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	情報産業論	2	後期　金 5, 6	伊藤貞夫（教育学部非常勤講師）

授業の概要　高度情報化社会の到来は産業の構造にさまざまな変革をもたらした。特にインターネットの出現以降、若者達が独自のアイディアを生かしベンチャー起業するなど、新しい産業も目白押しである。 情報関連のこれまでの産業、新しく生まれた産業を理解するとともに、そこに従事するIT技術者の仕事内容・生甲斐・楽しみ・苦しみ等も学ぶ。

学習の到達目標
1）高度情報化社会の理解
（新しい産業・職業、IT技術の流れ、情報セキュリティ、情報モラル等）
2）IT技術者の理解（今後の進路設定の参考となる）
（IT技術者の必要スキル、生きがい、報酬、苦しみ、他）

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書　教科書：なし 適宜プリントを配布

成績評価方法と基準　出席状況、授業中の課題、小テスト、レポートを総合して評価する

オフィスアワー
授業がある日の13:00～15:00 非常勤講師室
連絡先は講義開始時に通知する。
世話役教員名 山守教授

学習内容
第1回 ガイダンス（情報産業論とは、IT技術者とは）
第2～3回 コンピュータの発達と産業
第4～5回 情報産業 「世界の中の日本と日本政府の戦略」
第6～7回 電子商取引（BtoB、SCM、e-マーケットプレイス、BtoCと新ビジネス 他）
第8～9回 IT技術者の生き様（ビデオ鑑賞と感想文）
第10～11回 情報化を支える環境基盤（セキュリティ・知的財産権・職業倫理）
第12～13回 情報産業歴史上の人物調査（レポート作成とプレゼンテーション演習）
第14～15回 新しく生まれた産業例（アマゾン、グーグル 他）

その他　講義はプロジェクターを使用、演習・レポートはインターネットを活用する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	社会システム科学概論	2	後期　金 3, 4	疋田 眞也（非常勤講師）

授業の概要
社会の様々な仕組みを「システム」として捉え、問題解決をはかっていく「システム思考」の習得を目的とする。
有効性の高いシステムを作成していくにはプログラミング技法だけでなく、システム設計の基礎的な能力としての「システム思考」を活用できる能力が必要である。授業を通じて社会のさまざな場面で利用されている「システム思考」について、そのツール・考え方を取り上げ、演習を通して身につけることを目的とする。

学習の目的　社会で実際に使用しているツール・モデリング技術を習得して、社会での仕事やシステム設計に直結する「システム思考」能力を身につける。授業内容は概念レベルのモデリングを中心として、記載の詳細ルールよりも「システム思考」という考え方を理解し、問題解決に活用できる基礎能力取得を目標とする。

学習の到達目標　「システム思考」を情報システムの設計に活用するため、DOA・OOAなど設計技法を理解し、問題解決を促進する情報システム構想から情報システムの概念設計ができるようになるシステム設計の基礎的能力取得を到達目標とする。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特になし

教科書　なし、適時プリントを配布する。

成績評価方法と基準　出席点40%、授業での貢献度（課題提出）20%、試験40%、計100%（合計60%以上で合格）

学習内容
1）システム思考とは
・システム概念
・問題解決サイクル
・問題解決手法・ツール
2）モデリング技術
・図解技法
・社会システムのモデリング
3）システム・シンキング
・システム・シンキングの特徴
・因果ループ図
・シナリオプラニング
4）要件定義演習
・現状分析と戦略分析
・要件定義
5）概念モデルの作成
・ビジネスプロセス図
・業務フロー図
・データモデル
・仕様書作成

その他　Moodleにて授業の捕捉情報を閲覧可能とし、質問応対を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	数理統計学要論	2	後期　火 5, 6	奥村 晴彦

授業の概要
調査結果などをまとめる際には，見やすいグラフの作成に加え，p値や信頼区間の計算が必要になる。この授業では，実際に手を動かしながら，データ解析や統計計算の初歩から論文のまとめ方までを学ぶ。
オープンソースの統計・データ解析ソフト「R」を主に使う。

成績評価方法と基準　毎回Moodle上に出す課題により評価する。

オフィスアワー
私のホームページにある予定表で空いているところならいつでもどうぞ。
Moodleやメールでも質問をどうぞ。

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：初めてのR言語
第3回：基本統計量
第4回：中心極限定理と正規分布
第5回：正規分布に基づくいろいろな分布
第6回：p値と検定の考え方
第7回：信頼区間の考え方
第8回：2項分布とポアソン分布
第9回：2×2の表，オッズ比，相対危険度
第10回：Fisherの正確検定
第11回：t検定
第12回：相関と回帰
第13回：重回帰分析
第14回：ロジスティック回帰とROC曲線
第15回：主成分分析と因子分析
詳しくは次のサイトも参照してください：
http://oku.edu.mie-u.ac.jp/~okumura/stat/

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	数式処理	2	前期　月 7, 8	萩原克幸

授業の概要
数式処理ソフトウェアMathematicaの利用法を習得するとともに，それが数学の諸概念を理解する上でどのように役に立つか把握することを目的とする．講義内容は以下のとおりである．
1．数式処理ソフトウェアMathematicaの基礎
2．因数分解，極限，数列など
3．グラフィックス
4．微分・積分・微分方程式
5．線形代数

学習の目的　数式処理ソフトの利用方法を修得するとともに，それを通して，数式処理および数学概念への理解を深める．

学習の到達目標　数式処理ソフトの利用方法を修得するとともに，それを通して，数式処理および数学概念への理解を深める．

予め履修が望ましい科目
・微分積分
・線形代数
・確率・統計

教科書
教科書：なし．適宜講義資料を配布する．
参考書：吉田，「もっとMathematicaで数学を」，培風館

成績評価方法と基準　レポート，出席状況を総合して評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.数式処理とMathematica．式の展開・因数分解
2.Mathematicaの基本操作(1)
3.Mathematicaの基本操作(2)
4.グラフ(1)
5.グラフ(2)
6.グラフ(3)
7.方程式
8.極限
9.微分・積分・Taylor展開(1)
10.微分・積分・Taylor展開(2)
11.微分方程式
12.線形代数・行列(1)
13.線形代数・行列(2)
14.確率・統計(1)
15.確率・統計(2)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	数値解析 II	2	後期　木 7, 8	萩原克幸

授業の概要
数値解析のアルゴリズムをC言語によるプログラミングを通して理解する．
内容は以下のとおりである．
1．数値積分（中点則，台形則，シンプソン則）
2．常微分方程式の数値解法(オイラー法，ホイン法，古典的ルンゲクッタ法)
3．擬似乱数とモンテカルロ法
4．多項式補間（ニュートン法）
5．線形方程式の数値解法

学習の目的　コンピュータを利用した数値計算・数値解析の方法について実際にプログラミングし，実行することで，理解を深める．

学習の到達目標　コンピュータを利用した数値計算・数値解析の方法について実際にプログラミングし，実行することで，理解を深める．

予め履修が望ましい科目
・数値解析I
・計算機科学概論
・プログラミングI・II

教科書　教科書：なし．適宜講義資料を配布する．

成績評価方法と基準　レポート，出席状況を総合して評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.データの入出力(ファイル操作)(1)
2.データの入出力(ファイル操作)(2)
3.数値積分(1)
4.数値積分(2)
5.常微分方程式の数値解法(1)
6.常微分方程式の数値解法(2)
7.擬似乱数(1)
8.疑似乱数(2)
9.モンテカルロ法(1)
10.モンテカルロ法(2)
11.多項式補間(1)
12.多項式補間(2)
13.多項式補間(3)
14.線形方程式(1)
15.線形方程式(2)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目		代数学概論	4	通年　木 5, 6	川向 洋之（教育学部）

授業の概要　「基礎線形代数学 I , II」の続きを学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．

学習の目的　「基礎線形代数学 I , II」の続編を学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．そして更なる発展的な内容の学習のために必要な土台の確立を目指す．

学習の到達目標　線形代数学全般に関する基礎学力を身につけることが学習の到達目標である．

受講要件
(1) 初めて代数学概論を受講する学生を対象とする．（再履修の学生は木曜3・4限の代数学概論を履修すること）．
(2) 前年度までに，線形代数 I, II を履修した人（単位が習得できてなくてもよい）のみ，受講を認める．

教科書　1年時のときに使った線形代数の教科書を，代数学概論の教科書とする．

成績評価方法と基準　試験の点数，受講態度，レポート点，出席点を総合的に判断する．

オフィスアワー　水曜日の 12:00 - 13:00 解析学第3研究室

学習内容
1．ベクトルの1次独立と1次従属（第1回～第3回）
2．1次独立なベクトルの最大個数（第4回～第5回）
3．ベクトル空間とその基底および次元（第6回～第8回）
4．線形写像と次元定理（第9回～第10回）
5．線形写像の表現行列（第11回～第12回）
6．固有値と固有ベクトル（第13回～第14回）
7．固有空間（第15回）
8．前期期末試験（第16回）
9．夏休み明け試験（第17回）
10．行列の対角化（第18回～第20回）
11．内積（第21回～第22回）
12．正規直交基底と直交行列（第23回～第25回）
13．対称行列の直交化（第26回～第28回）
14．2次形式の標準化，2次曲面の分類（第29回～第31回）
15．後期期末試験（第32回）
ただし，これは計画であり，多少の変更を行なう場合がある．
学習課題(予習・復習) 各回とも，予め教科書をよく読んで講義に出席することが望まれる．
講義を聴くだけですべてを理解できることはないだろうから，毎回よく復習することが大切である．

その他
【重要】今年は，初めて代数学概論を受講する人用の授業と，そうでない人用の授業を開く．初めて受講する人は木曜の5・6限の授業を登録し，再履修の人は木曜の3・4限の授業を登録すること．
【重要】代数学演習（木曜9・10限）とこの授業は密接に関係しているので，代数学演習も合わせて取ることを強く勧める．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目		代数学概論	4	通年　木 3, 4	川向 洋之（教育学部）

授業の概要　「基礎線形代数学 I , II」の続きを学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．

学習の目的　「基礎線形代数学 I , II」の続編を学び，線形代数学全般にわたる基礎学力の修得を目指す．そして更なる発展的な内容の学習のために必要な土台の確立を目指す．

学習の到達目標　線形代数学全般に関する基礎学力を身につけることが学習の到達目標である．

受講要件
(1) 代数学概論を再履修する学生を対象とする．初めて代数学概論を受講する学生は木曜5・6限の代数学概論を受講すること．
(2) 前年度までに，線形代数 I, II を履修した人（単位が習得できてなくてもよい）のみ，受講を認める．

教科書　1年時のときに使った線形代数の教科書を，代数学概論の教科書とする．

成績評価方法と基準　試験の点数，受講態度，レポート点，出席点を総合的に判断する．

オフィスアワー　水曜日の 12:00 - 13:00 解析学第3研究室

学習内容
1．ベクトルの1次独立と1次従属（第1回〜第3回）
2．1次独立なベクトルの最大個数（第4回〜第5回）
3．ベクトル空間とその基底および次元（第6回〜第8回）
4．線形写像と次元定理（第9回〜第10回）
5．線形写像の表現行列（第11回〜第12回）
6．固有値と固有ベクトル（第13回〜第14回）
7．固有空間（第15回）
8．前期期末試験（第16回）
9．夏休み明け試験（第17回）
10．行列の対角化（第18回〜第20回）
11．内積（第21回〜第22回）
12．正規直交基底と直交行列（第23回〜第25回）
13．対称行列の直交化（第26回〜第28回）
14．2次形式の標準化，2次曲面の分類（第29回〜第31回）
15．後期期末試験（第32回）
ただし，これは計画であり，多少の変更を行なう場合がある．
学習課題(予習・復習) 各回とも，予め教科書をよく読んで講義に出席することが望まれる．
講義を聴くだけですべてを理解できることはないだろうから，毎回よく復習することが大切である．

その他
【重要】今年は，初めて代数学概論を受講する人用の授業と，そうでない人用の授業を開く．初めて受講する人は木曜の5・6限の授業を登録し，再履修の人は木曜の3・4限の授業を登録すること．
【重要】代数学演習（木曜9・10限）とこの授業は密接に関係しているので，代数学演習も合わせて取ることを強く勧める．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目		幾何学概論	4	通年　月 1, 2	新田 貴士

授業の概要　集合論と距離空間、位相空間を講義する。

学習の目的　集合、距離、位相の概念の修得を目的とする。

学習の到達目標　集合、距離、位相の概念を修得する。更に具体的な例を知り、そのイメージを持てるようにする。

教科書　集合位相入門、松坂和夫、岩波書店

成績評価方法と基準　出席、レポート、試験から総合的におこなう。

オフィスアワー　月曜日 12:00 から 13:00、水曜日 12：00 から 13:00。

学習内容
1-10、集合論の基礎、
11-15、順序、
16-24、距離、
25-30、位相
集合論、位相の基礎を学習する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	〜65	解析学概論	4	通年　木 7, 8	森山 貴之（教育学部）

授業の概要　「基礎微分積分学 I , II」の続きとして、多変数の関数の微分と積分を学ぶ。

学習の目的　1年次に履修した「基礎微分積分学 I , II」に続いて、解析学の基礎を学ぶことが学習の目的になる。

学習の到達目標　2変数関数を実際に微分したり積分したりすることを通して、個々の関数がもつ性質や量をきちんと調べることが出来る能力を身につけることも大事な目標になる。

受講要件　基礎微分積分学 I , II を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　解析学演習を履修する事が望ましい。

教科書　「入門微分積分」三宅敏恒著、倍風館

成績評価方法と基準　試験の結果のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日12：00〜13：00, 教育学部一号棟4階 研究室

学習内容
1.多変数の連続関数（第1回〜第2回）
2.全微分と偏微分（第3回〜第5回）
3.テイラーの定理、極大値・極小値（第6回〜第9回）
4.陰関数定理、逆関数定理、条件付極値問題（第10回〜第15回）
5.前期期末試験（第16回）
1.重積分の定義と性質（第17回〜第20回）
2.累次積分と積分の計算（第21回〜第25回）
3.変数変換、線積分（第26回〜第28回）
4.体積と曲面積（第29回〜第31回）
5.後期期末試験（第32回）
ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	代数学演習	2	通年　木 9, 10	川向 洋之（教育学部数学）

授業の概要
線形代数に関する演習問題を解き，「代数学概論」の講義内容の理解を深める．
受講生一人ひとりが問題解法の解説を行なうことにより，発表力・討論力の向上を目指す．

学習の目的　線形代数学全般の基礎力の向上を目指す．

学習の到達目標　線形代数学全般に関する基礎力の向上．

受講要件　代数学概論を履修していること．

成績評価方法と基準　試験の点数，受講態度，出席点，レポート点などを総合的に判断する．

オフィスアワー　毎週水曜日 12:00 ～ 13:00

学習内容
1．行列の演算（第1回～第5回）
2．連立1次方程式，正則性の判定，逆行列（第6回～第10回）
3．行列の階数とベクトルの1次独立性（第11回～第14回）
4．前期期末テスト（第15回）
5．行列式（第16回～第20回）
6．固有値，固有ベクトル，三角化，対角化，2次形式の標準形（第21回～第29回）
7．後期期末試験（第30回）
ただし，これは計画であり，多少の変更を行なう場合がある．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	幾何学演習	②	通年　金 9, 10	古関 春隆（教育学部）

授業の概要
「幾何学概論」とペアになった授業である。
「幾何学概論」と併せて履修することで、理解を深める。

学習の目的　集合、写像、同値関係、濃度、順序集合、距離、位相、連続写像について基礎学力を養成する。

学習の到達目標　集合、写像、同値関係、濃度、順序集合、距離、位相、連続写像について基本問題が解けるようになること。

受講要件　「幾何学概論」とペアになった授業であるから必ず「幾何学概論」と併せて履修すること。

成績評価方法と基準　定期試験の成績を中心にし、演習での発表回数・発表内容も考慮して総合的に評価する。

オフィスアワー　前期は月曜5コマ目、後期は木曜5コマ目。

学習内容
前期
1回～4回：集合
5回～9回：写像
10回～12回：同値関係
13回～15回：濃度
16回：定期試験
後期
1回～4回：順序集合
5回～7回：距離
8回～15回：位相
16回：定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択必修科目		解析学演習	2	通年　火 3, 4	森山 貴之（教育学部）

授業の概要　微分と積分および，解析学の基本的事項に関して演習を行い，理解を深める

学習の目的
微分と積分の意味について理解し，応用できるようになる
解析学における基本的な定理を理解し，応用できるようになる

学習の到達目標　関数の連続性, 偏微分を理解し，極値問題などに応用できるようになる。また、積分および重積分を理解し，具体的な積分が計算できるようになることを目標とする。

受講要件　基礎微分積分学Ⅰ、Ⅱ、及び解析学概論を履修済みであること。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　試験結果と発表成績のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日12：00～13：00, 教育学部一号棟4階 研究室

学習内容
1.数列の極限、実数の連続性（第1回～第2回）
2.関数の連続性、微分（第3回～第5回）
3.偏微分、テイラーの定理、極大値・極小値（第6回～第9回）
4.陰関数定理、逆関数定理、条件付極値問題（第10回～第15回）
5.前期期末試験（第16回）
1.定積分、不定積分（第17回～第20回）
2.積分の計算、広義積分（第21回～第25回）
3.重積分、線積分（第26回～第28回）
4.体積と曲面積（第29回～第31回）
5.後期期末試験（第32回）
ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	情報数学要論	③	通年　月 1, 2	武本 行正 （教育学部非常勤）

授業の概要　C言語文法の復習ののち、サブプログラム（関数、Ftの関数やサブルーチンに相当）での引数の与え方、引数の戻り値について学習する。その後C言語による常備分方程式の解法を有限差分法により学ぶ。特にルンゲ・クッタ法について理解を深める。円の式やBOD減衰曲線などを例にとって数値解を得る。次に偏微分方程式について、拡散を例にとりながら、この拡散方程式の導出方法、対流項などの差分近似の方法について詳しく学習する。偏微分方程式の解については、解析解が得られるケースは少ないので、この数値解の求め方に習熟しておくことが実際現象の把握・解析にはとても大切です。

受講要件　受講要件 3年次以上を対象とする。

教科書　プリントを配布する。参考書としては「リースのやさしい微分方程式」（現代数学社）など

学習内容
第1回～第4回 C言語文法の復習
第5回～第8回 サブプログラム（関数、Fortranの関数やサブルーチンに相当）での引数の与え方、引数の戻り値について学習
第9回～第15回 C言語による常微分方程式の解法を有限差分法により学ぶ。
第16回 定期試験
第17回～第20回 ルンゲ・クッタ法について理解
第21回～第24回 円の式やBOD減衰曲線などを例にとって数値解
第25回～第31回 拡散方程式の導出方法、対流項などの差分近似
第32回 定期試験
偏微分方程式の解については、解析解が得られるケースは少ないので、この数値解の求め方に習熟しておくことが実際現象の把握・解析にはとても大切です。なお、補足的な事項として、FortranやVBA(Excel内)についても学習します。また、Excelも簡単なグラフ化で使用します。

その他　C言語については全然知らなくてもかまいません。最初から学習します（知っている人は復習と思って）。ただ、微積分や微分方程式の知識は多少必要です。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	応用数学要論	2	前期　金 5, 6	石谷 寛

授業の概要　測度空間について学ぶ

学習の目的　測度空間について学び，測度が長さ，面積，体積といったものの大きさを表す概念の拡張になっていることを理解できるようになる．

学習の到達目標
可測空間が理解できるようになる．
測度および測度空間が理解できるようになる．
ルベーグ測度空間を理解し，それが，長さ，面積，体積．．．に対応していることを理解できるようになる．
非可測集合を理解できるようになる．

受講要件　基礎線形代数学Ⅰ・Ⅱ，基礎微分積分学Ⅰ・Ⅱ，代数学概論，幾何学概論，解析学概論，確率・統計学を受講していること．

予め履修が望ましい科目　代数学演習，幾何学演習，解析学演習

教科書　追って指示する。場合によっては資料を配布し教科書を使わない。

成績評価方法と基準　数回の小テスト 50 %，期末試験 50 %、計 100 %．(合計が 60 %以上で合格)

学習内容
0．序論（はじめに）・・・第1回
1．可測空間・・・・・・・第2回～第4回
定義，性質，例
2．測度・・・・・・・・第5回～第7回
定義，性質，例
3．測度の構成・・・・・第8回～第11回
4．ルベーグ測度空間・・第12回～第14回
構成，性質
5．非可測集合・・・・・第15回
6．期末試験・・・・・第16回

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	工業数学	2	前期　月 5, 6	中西 康雅（教育学部）

授業の概要　技術・工業に必要な数学について講義する．

学習の目的　工学的な諸問題を数学的にとらえ、数式モデルにより解くための基礎的内容に関する知識を得る。

学習の到達目標
1.工業事象を、方程式、連立方程式、関数を利用し、数式モデルにより解くことができること。
2.工業事象を、ベクトル・行列を利用し、数式モデルにより解くことができること。
3.工業事象を、微分、積分、微分方程式を利用し、数式モデルにより解くことができること。

成績評価方法と基準　試験80%、レポート10%、授業態度10%

オフィスアワー　毎週水曜日12:00～13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
1．概論 数
2．ベクトルと行列
3．ベクトル・行列による数式モデル
4．関数とグラフ
5．初等関数
6．関数による数式モデル
7．関数の極限と微分
8．初等関数の微分
9．初等関数の積分法
10．積分による数式モデル
12．微分方程式の基礎
13．微分方程式による数式モデル
14．偏微分
15．変数分離法
16．試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	63〜65	計測・制御	2	後期　月 9, 10	松岡 守（教育学部）

授業の概要　日常生活や，産業を支える計測と制御の基本を講義する。

学習の目的　日常生活や産業を支える計測と制御の基本を理解し，中学校技術・家庭科技術分野や工業高校の計測・制御等に応用できるようになるとともに，計測と制御の基本について指導するための専門知識を獲得する。

学習の到達目標
・計測と制御の基本を理解する。
・計測・制御が日常生活や産業でどのように応用されているのかを知る。

成績評価方法と基準　小テスト，レポート，期末試験により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12:00〜13:00 教育学部技術棟2階電気教員室

学習内容
第1回 電子計測制御の考え方、センサとアクチュエータ
第2回 データ変換とデータ処理、電子計測機器
第3回 シーケンス制御の基礎、シーケンス制御に使われる機器
第4回 シーケンス回路の基本回路、プログラマブルロジックコントローラ
第5回 フィードバック制御の基礎、フィードバック制御システムの応答と安定性
第6回 フィードバック制御システムの応答と安定性
第7回 中間テスト
第8回 フィードバック制御システムの制御装置、フィードバック制御の実例
第9回 コンピュータによる制御
第10回 メカトロニクス実習（1）
第12回 メカトロニクス実習（2）
第13回 プログラマブルコントローラ実習（1）
第14回 プログラマブルコントローラ実習（2）
第15回 プログラマブルコントローラ実習（3）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	63〜65	情報処理工学	2	後期　木 5, 6	中西 康雅（教育学部）

授業の概要
・現代社会において情報技術が果たしている役割について学習する。
・計測と制御のためのプログラミングについて学習する。
・情報通信ネットワークシステムの仕組みについて学習する。

学習の目的
・現代社会において情報技術が果たしている役割について学習する。
・計測と制御のためのプログラミングについて学習する。
・情報通信ネットワークシステムの仕組みについて学習する。

学習の到達目標
・現代社会における情報技術の役割を理解し、その役割と技術について指導することができる。
・プログラミング技法の基礎を習得し、実装できる。
・通信ネットワークシステムの基本的な仕組みを理解し、説明できる。

受講要件　情報工学概論を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　情報工学概論、情報工学実験実習

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　出席、レポート、試験などにより総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
第1回 ：ガイダンス、学校教育における位置づけ、データと情報
第2回 ：情報処理の進化と産業界での利用
第3回 ：データの表現とコード、アルゴリズム
第4回 ：ハードウエアの基本構成と進化
第5回 ：プログラムの基本概念
第6回 ：プログラミング演習（1）：構造化プログラミングの基礎（順次、反復、分岐）
第7回 ：プログラミング演習（2）：手続きと例外処理
第8回 ：計測技術、制御技術とコンピュータ
第9回 ：コンピュータによる計測技術演習（計測と通信，プログラミング）
第10回 ：コンピュータによる制御技術演習（制御のためのプログラミング）
第11回 ：コンピュータによる計測技術・制御技術演習（1）（設計・製作・プログラミング）
第12回 ：コンピュータによる計測技術・制御技術演習（2）（プログラム実装・動作確認）
第13回 ：通信ネットワークの仕組み
第14回 ：通信ネットワーク演習
第15回 ：まとめ
第16回 ：試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	コミュニケーション論	2	前期　火 7, 8	栗田季佳 荒川哲郎

授業の概要　特別なニーズのある人とのコミュニケーションについて概説して、コミュニケーションについての討議する。

学習の目的　特別なニーズのある人とのコミュニケーションについての課題を知る。

学習の到達目標
特別なニーズのある人とのコミュニケーションの具体的問題を把握することで、
コミュニケーションの方法の多様性を知り、コミュニケーションの能力を向上させる。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特になし

成績評価方法と基準　出席、レポートの内容を評価する

オフィスアワー
水曜日 10:30-12:00 場所 2号館 5階 荒川哲郎研究室
木曜日 17:00-18:00 場所 2号館 5階 栗田季佳研究室

学習内容
第1回~第3回
コミュニケーションの基本課題
第4回~第7回
特別なニーズのある人とのコミュニケーションの課題と具体的コミュニケーションの方法について
第8回~第10回 コミュニケーションの多様性と実際
第11回~第13回 情報通信技術(ICT)と障害
第14回~第15回 異なる方法によるコミュニケーションの課題
第16回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	現代語講義	2	前期　月 1, 2	丹保健一（教育学部）

授業の概要
日本語文法・学校文法
現代日本語文法の概要
日本人として知っておきたい文法的知識を得る。

学習の目的　日本語文法に関する基本的知識を得る。

学習の到達目標　日本語文法の基本的な知識を得る。

予め履修が望ましい科目　国語学概説

教科書　『国語教師が知っておきたい日本語文法』（山田敏弘著）

成績評価方法と基準　授業中の発言、テスト、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー　火曜日7～8時限

学習内容
1－2．ことばについて （ことばの働き、文章．文．文節、単語）
3．文の組み立て
4．品詞
5.活用
6－8．助詞
9．連用修飾・連体修飾
10－12．助動詞
13．助動詞のような働きをする形式
14．敬語
15．文法教育の目的

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	情報処理講究 I	②	通年　火 11, 12	山守 一徳

授業の概要　卒業研究に向けて、文献調査、技術調査を行い、プログラミング演習に取り組む。Windowsプログラミング技術、UNIX操作技術、新技術の調査方法の習得を目指す。

教科書　後で指示する。

成績評価方法と基準　出席状況とテーマへの取り組みを総合して評価する。

学習内容
第1回～第6回 技術調査活動
第7回～第14回 プログラミング演習
第15回～第21回 技術調査活動
第22回～第30回 プログラミング演習

その他　山守研究室で卒業研究を行うゼミ生向き。ゼミ生で単位未取得者は必ず履修すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	65	情報処理講究 I	②	通年　金 7, 8	萩原克幸

授業の概要　卒業研究に向けて，多変量解析・機械学習・信号処理の方法を統計解析ソフトRを通して学ぶ．多変量解析については回帰分析・判別分析・主成分分析・クラスター分析、機械学習については非線形回帰・非線形パターン分類法・混合分布モデル・確率推論、信号処理についてはウェーブレット変換など、これらの中からいくつかのテーマを選び、それらについての基礎理論を理解する。

学習の目的　多変量解析・機械学習・信号処理の方法の基礎理論を修得する．

学習の到達目標　多変量解析・機械学習・信号処理の方法の基礎理論を修得する．

予め履修が望ましい科目
・情報数理解析学IV
・シミュレーション概論
・情報システム概論
・数値解析I・II

教科書　教科書：初回に指定する．

成績評価方法と基準　レポート，出席状況およびテーマへの取り組みを総合して評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20〜17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1-10回目：回帰分析の理論
11-20回目：ロジスティック回帰の理論
21-30回目：主成分分析・クラスタ分析の理論

その他　萩原研究室で卒業研究を行う3年生は必ず受講すること．人数制限あり．夏期休業中の補講あり．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	〜64	情報処理講究 I	②	通年　水 3, 4	奥村 晴彦

授業の概要
卒業研究に向けて，各人のテーマを設定し，それぞれのテーマについて調査・研究を開始する。
調査から研究成果の発表まで，広い意味での研究方法の習得を目指す。

成績評価方法と基準　出席状況とテーマへの取り組みを総合して評価する。

オフィスアワー
私のホームページの予定表で空いているときならいつでもどうぞ。
メールやMoodleでもどうぞ。

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：各自の研究内容の検討
第3回：各自の研究内容の決定
第4回：ディスカッション1
第5回：ディスカッション2
第6回：ディスカッション3
第7回：ディスカッション4
第8回：ディスカッション5
第9回：ディスカッション6
第10回：ディスカッション7
第11回：ディスカッション8
第12回：ディスカッション9
第13回：ディスカッション10
第14回：中間発表1
第15回：中間発表2
第16回：ディスカッション11
第17回：ディスカッション12
第18回：ディスカッション13
第19回：ディスカッション14
第20回：ディスカッション15
第21回：ディスカッション16
第22回：ディスカッション17
第23回：ディスカッション18
第24回：ディスカッション19
第25回：ディスカッション20
第26回：最終発表準備1
第27回：最終発表準備2
第28回：最終発表準備3
第29回：最終発表1
第30回：最終発表2

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	〜65	情報処理講究 I	②	通年　火 11, 12	丁 亜希

授業の概要　情報処理分野の研究やシステム開発に必要となる文献調査，論文の書き方，および開発技術について，ゼミナール方式で取り込む。

学習の目的　資料収集やシステム開発の基本を取得する。

学習の到達目標　卒業研究に必要となる研究方法やシステム開発方法を身につける。

教科書　後で指示する。

成績評価方法と基準　出席状況とテーマへの取り組みを総合して評価する。

学習内容
1-6）技術資料調査
7-12) 技術資料調査の発表
13-19）技術論文講読
20-25) 技術論文の書き方
26-28）ソフトウェア開発環境
29-32）プログラミング演習

その他　丁研究室で卒業研究を行う3年生を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	情報処理講究 II	②	通年　木 11, 12	山守 一徳

授業の概要　卒業研究に向けて、各人の研究テーマを設定し、それぞれのテーマについて文献調査、技術調査を行い、新規システムの設定＆開発に取り組む。研究内容の報告技術、新技術の調査方法の習得を目指す。

教科書　後で指示する。

成績評価方法と基準　出席状況とテーマへの取り組みを総合して評価する。

学習内容

第1回～第6回 技術調査活動
第7回～第12回 システムの設計
第13回～第18回 システム開発
第19回～第21回 技術調査活動
第22回～第24回 システムの再設計
第25回～第30回 システム再開発

その他　山守研究室で卒業研究を行う3年生向き。ゼミ3年生は必ず履修すること。ゼミ4年生で単位未取得者も必ず履修すること。夏季休業中に補講あり。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	65	情報処理講究 II	②	通年　水 3, 4	萩原克幸

授業の概要　卒業研究に向けて，多変量解析・機械学習・信号処理の方法を統計解析ソフトRを通して学ぶ．多変量解析については回帰分析・判別分析・主成分分析・クラスター分析、機械学習については非線形回帰・非線形パターン分類法・混合分布モデル・確率推論、信号処理についてはウェーブレット変換など、これらの中からいくつかのテーマを選び、それらについて、数値実験と実際のデータ解析をとおして理解する。

学習の目的　多変量解析・機械学習・信号処理の方法によるデータの処理・解析方法を修得する．

学習の到達目標　多変量解析・機械学習・信号処理の方法によるデータの処理・解析方法を修得する．

予め履修が望ましい科目
・情報数理解析学IV
・シミュレーション概論
・情報システム概論
・数値解析I・II

教科書　教科書：初回に指定する．

成績評価方法と基準　レポート，出席状況およびテーマへの取り組みを総合して評価する．

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1-10回目：回帰分析の応用
11-20回目：ロジスティック回帰の応用
21-30回目：主成分分析・クラスタ分析の応用

その他　萩原研究室で卒業研究を行う3年生は必ず受講すること．人数制限あり．夏期休業中の補講あり．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	情報処理講究 II	②	通年　木 9, 10	奥村 晴彦

授業の概要
卒業研究に向けて，各人のテーマを設定し，それぞれのテーマについて調査・研究を開始する。
調査から研究成果の発表まで，広い意味での研究方法の習得を目指す。

成績評価方法と基準　出席状況とテーマへの取り組みを総合して評価する。

オフィスアワー
私のホームページの予定表で空いているときならいつでもどうぞ。
メールやMoodleでもどうぞ。

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：各自の研究内容の検討
第3回：各自の研究内容の決定
第4回：ディスカッション1
第5回：ディスカッション2
第6回：ディスカッション3
第7回：ディスカッション4
第8回：ディスカッション5
第9回：ディスカッション6
第10回：ディスカッション7
第11回：ディスカッション8
第12回：ディスカッション9
第13回：ディスカッション10
第14回：中間発表1
第15回：中間発表2
第16回：ディスカッション11
第17回：ディスカッション12
第18回：ディスカッション13
第19回：ディスカッション14
第20回：ディスカッション15
第21回：ディスカッション16
第22回：ディスカッション17
第23回：ディスカッション18
第24回：ディスカッション19
第25回：ディスカッション20
第26回：最終発表準備1
第27回：最終発表準備2
第28回：最終発表準備3
第29回：最終発表1
第30回：最終発表2

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報教育課程 選択科目	～65	情報処理講究 II	②	通年　木 11, 12	丁 亜希

授業の概要　卒業研究に向かって，ゼミナール方式で，各自のテーマに関連するシステム開発に実践的に取り込む。

学習の目的　システム要件定義，設計，製作，テスト，運用評価までの知識と技術を確実に身につける。

学習の到達目標　システムを開発することができるようになる。

教科書　後で指示する。

成績評価方法と基準　出席状況とテーマへの取り組みを総合して評価する。

学習内容
1－5回目 資料収集と問題点洗出
6－10回目 システム企画と分析
11－15回目 システム設計
15－25回目 システム開発
26－32回目 システム評価と考察

その他　丁研究室で卒業研究を行う4年生以上を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
情報処理講究 II	～65	情報処理講究 II	2	通年　木 7, 8	須曽野 仁志、下村勉（教育学部）

授業の概要
学校教育および生涯学習で利用できる学習用ソフトウェアを開発するため、基礎的な教育設計力や研究遂行力を身につける。
そのために、過去に卒業生が研究・開発した学習ソフトウェアについて調べ、論文を読んだり、必要となるプログラミング学習を進める。

学習の目的　卒業研究を進めるため、基礎的なことや研究方法を知る。

学習の到達目標　卒業研究を進めるために、学習用ソフトウェアの開発またはそれと関連した研究ができるようになる。

成績評価方法と基準　授業への参加状況（発表・討論）50%、、レポート50%

オフィスアワー　毎週月曜日16:20～17:50、附属教育実践総合センター須曽野研究室

学習内容
第1回
ガイダンス：問題の設定、研究の背景・意義の説明
第2回
研究レポートの書き方
第3回
研究の進め方（1）文献の読み方
第4回
研究の進め方（2）先行研究の読み方
第5回
研究の進め方（3）卒業論文での着目点
基礎となる学習理論・考え方
第6回
研究の進め方（4）レジメの作り方
第7回
研究の発表(1) プレゼンテーションのポイント
第8回
研究の発表(2) 個別発表と質疑 ゼミ生1
第9回
研究の発表(3) 個別発表と質疑 ゼミ生2
第10回
研究の発表(4) 個別発表と質疑 ゼミ生3
第11回
研究の発表(5) 個別発表と質疑 ゼミ生4
第12回
中間発表の準備(1) 個別発表と質疑 ゼミ生1
第13回
中間発表の準備(2) 個別発表と質疑 ゼミ生2
第14回
中間発表の準備(3) 個別発表と質疑 ゼミ生3
第15回
中間発表の準備(4) 個別発表と質疑 ゼミ生4
第16回
卒論研究中間発表会
第17回
卒論研究中間発表の振り返り
第18回
卒論研究の軌道修正
第19回
卒論研究のためのソフト開発 アニメーション(1)
第20回
卒論研究のためのソフト開発 アニメーション(2)
学習ソフトウェア開発のためのプログラミング
第21回
卒論研究のためのソフト開発 Web(1)
第22回
卒論研究のためのソフト開発 Web(2)
第23回
卒論研究のためのソフト開発 データベース(1)
第24回
卒論研究のためのソフト開発 データベース(2)
第25回
最終発表の準備(1) 個別発表と質疑 ゼミ生1
第26回
最終発表の準備(2) 個別発表と質疑 ゼミ生2
第27回
最終発表の準備(3) 個別発表と質疑 ゼミ生3
第28回
最終発表の準備(4) 個別発表と質疑 ゼミ生4
第29回
最終発表
第30回
最終発表の振り返り、次年度に向けて

その他　教育実践総合センターで卒業研究を行うものは必ず受講すること

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程共通科目	～65	生涯学習論	2	前期集中	榊原 博美（教育学部非常勤講師）

授業の概要　この授業では、生涯学習論の背景となる歴史の流れを、学校教育と社会教育との関連の中でとらえた上で、ユネスコにおける世界的な生涯教育理念の登場とその発展、日本へのその受容と変容を把握し、政策主導の生涯学習の問題点を明らかにし、本来あるべき生涯学習の真の姿をとらえ直すことを目的とする。

学習の目的　生涯教育、生涯学習とは何か、人が生涯学ぶことの意義について自分の考えを持つことが出来るようになる。

学習の到達目標　自ら社会教育の施設や生涯学習の機関などに出向き実際の学習活動について興味をもって観察したり参加したりするようになる。

教科書　特に指定しない。

成績評価方法と基準　授業内の課題20% 最終課題80%（60%以上で合格）

オフィスアワー
教育学部美術教育講座美術史研究室
山口泰弘
毎週木曜日12:00～13:00，2号館2階 美術史研究室

学習内容
①オリエンテーション
②学校の起源と歴史
③日本における社会教育の歴史（1）
④日本における社会教育の歴史（2）
⑤ユネスコにおける生涯教育論の登場
⑥ユネスコにおける生涯教育論の発展
⑦学習権宣言の意義
⑧日本における生涯学習論の受容と変容
⑨日本の生涯学習政策の問題点
⑩ユネスコにおける学習権の発展
⑪映画から学ぶ（1）
⑫映画から学ぶ（2）
⑬生涯学習の土台となる学校教育の問題点
⑭生涯学習の現場
⑮まとめ
⑯試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程共通科目	66~63	社会教育概説	2	前期集中	蓮尾直美

授業の概要
＜授業の概要＞
地域社会における諸個人が、家庭・学校・職場においてよりよく学習活動を進めていくための方法、関連施設・情報提供の場について講述する。この際、「学社融合」の見地から、社会教育と学校教育との連携の仕方、たとえば美術館や博物館との「博学融合」等についても具体的に検討する。さらに、生涯学習の視点に立つ社会教育を推進する立場から課題を取り上げて集団討議を試み、受講生各自が地域や学校を支援するリーダーとしての任務を果たすための構えや技法についての習得を図る。

学習の目的
＜学習の目的＞
生涯学習社会における社会教育の意義と役割、また社会教育関連のキー概念の理解を通じ、個人が自らのライフ・コースにおいて自己形成を図るための支援組織や形態・技法について知識を得る。

学習の到達目標
1．生涯教育・生涯学習の視点から学校教育や人間形成を考える。
2．地域社会やメディアなどを含む社会教育の領域との協働により、より広い視野から、学校教育、家庭教育の問題について考え対処する力を養うことができる。

受講要件　家政教育・保健体育講座（平日 事務室）

教科書　「社会教育」（財団法人 全日本社会教育連合会）他、適宜紹介する。

成績評価方法と基準　出席の構え・小レポート20%、調査発表・レポート20%（学内外で実施される社会教育活動への参加を含む）、学科試験60%、計100%。

学習内容
1回 講義の概要・方針・進め方について説明する。
2～3回 社会教育とは何か。生涯教育や生涯学習との関連について講究する。
4～7回 地域社会における諸個人が、家庭・学校・職場においてよりよく学習活動を進めていくため の方法、関連施設・情報提供の場について講述する。また、地域の関係機関から家庭教育の課題について講話を予定している。
8～10回 「学社融合」の見地から、社会教育と学校教育との連携の仕方、たとえば美術館や博物館との「博学融合」、また学校における部活動と地域スポーツの問題など、具体的に検討す る。
11～14回 生涯学習の視点に立ち社会教育を推進する立場から社会教育施設に実地見学に出かけ、この見学調査をもとに集団討議を試みる。、
15回 まとめ
16回 試験の実施

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程共通科目	62-65	精神医学概論	2	前期　月 1, 2	大谷正人（教育学部特別支援教育講座）

授業の概要　精神医学の概要についての講義だが、小児期・青年期について、詳しく扱う。

学習の到達目標　精神医学の概要を理解することにより、社会・学校・家庭などで生じやすい精神衛生上の問題に対して、より適切に対処する力が培われる。

教科書　プリントを用意して配布する。

成績評価方法と基準　試験と講義に取り組む態度による。具体的には、小テストを数回行い、学生による発表の時間も設ける。小テストの成績と発表の内容の合計が不十分な受講生に対して、レポートを追加する。

オフィスアワー　月曜日17:00~18:00、教育学部2号館4階大谷研究室

学習内容
1．精神医学について
2．精神医学における症状
3．気分障害（うつ病と躁うつ病）
4．統合失調症
5．神経性障害と心身症
6．ストレスと自殺について
7．中毒・パーソナリティの障害
8ー9．児童期精神医学
10ー11．思春期・青年期精神医学
12．中年期精神医学、老年期精神医学
13．精神科治療学
14ー16．学生による発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程指定科目	64-65	現代社会の課題と国民的教養	2	後期　火 3, 4	佐藤 年明

授業の概要　性の学習を窓口としながら、学習指導要領の強い拘束を受けている日本の教育課程とは対照的な特徴を持つスウェーデン及びニュージーランドの学校教育課程を紹介し、それらとの比較をしながら日本の教育課程の今後の可能性を探る。

学習の目的　学習指導要領に拘束された日本の教育課程を相対化して捉える視野を持つこと。

学習の到達目標　学校教育課程を既存のものとして受け入れてしまう姿勢ではなく、教師が創造の主体となるその対象として能動的に捉える姿勢に立ってほしい。日本以外の国の教育課程を学ぶことがそのための刺激となることを期待する。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　授業中にmoodle上に提出を求める「課題レポート」及び期末の「最終レポート」によって評価する。

オフィスアワー　木2・3・4コマ いずれも研究室にて

学習内容

※以下はあくまで当初計画であり、授業担当者の研究の進展や授業での議論の展開等によって変更する可能性もある。
第1〜5回：１．スウェーデンにおけるsex och samlevnad（性と共生）のVTR視聴と分析
(1)Dalaro skolaの基礎学校7学年・9学年の授業実践
(2)Blackeberg gymnasiumにおける授業実践
第6〜7回：２．スウェーデンにおける性教育の歴史
第8回：３．スウェーデンの学校教育課程における「性教育必修」の意味
第9〜10回：４．ニュージーランドの初等中等教育の概要とAuckland市近郊の小中高の参観報告
第11〜12回：５．ニュージーランドの性教育の現況と性教育研究者との交流報告
第13回：６．性と文化、性と社会の関係をめぐって
第14回：７．日本の性文化の現状をどう見るか、教育者としてそれにどう切り込むか？
第15回：８．日本の性教育への提案を行なう（グループ活動）
※試験は行なわず、日常点と最終レポートで評価する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース必修科目	〜65	テニス	1	後期　火 3, 4	米川直樹（教育学部非常勤講師）

授業の概要　テニスの初心者や初級者を対象に指導するために必要な事柄として、ストロークの基礎技術の習得、テニス指導の方法論、テニスの理論及び審判法などについて学習する。

教科書　（財）日本テニス協会編「テニス教本」

成績評価方法と基準　実践の中で学ぶことが重要であるので、出席を重視する。評価に当たっては、出席、態度、技能などを総合して評価する。

オフィスアワー　火曜日12:00〜12:10

学習内容
第1部：ガイダンス及びストロークの初歩
第2部：スポンジボールを使用し、ラケットとボールに慣れるための各種動きの実践とショートテニスゲーム
第3部：実際のボールを使用し、基本練習（ストローク、ボレー、サーブ）とショートテニスゲーム
第4部：テニスに関する基礎（フォーム、ボディーコントロール、ゲームの進め方、審判法、マナーなど）と指導法
第5部:：応用練習（ドロップショットなど）と基本練習と応用練習で獲得した技術を使ってのゲーム
第6部：初心者や初級者に対する指導法
第7部：ゲームと技術などのテスト
第8部：まとめと反省

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース必修科目	64・65	レクリエーショナルスポーツ	1	前期　木 1, 2	大隈節子

授業の概要
レクリエーショナルスポーツは中高年者層に限らず学校体育の授業や青少年層を対象として盛んに行われ，その普及振興が制度的にも整備されるようになった。都市化の進展、ライフスタイルの変化、余暇時間の増大などにより、幅広い社会層の人々が簡易なスポーツや気軽にできる運動遊びに関心を寄せ，日常のライフスタイルに組み込むようになっている。
この授業ではレクリエーショナルスポーツを体験し、各種目の楽しさについて探求すると共に、新たな種目の開発や指導法についても学ぶ。

学習の目的　レクリエーションとしてのスポーツ活動を創造し、展開・支援する能力を身につける。

学習の到達目標　既存の各種レクリエーショナルスポーツの特性やルールを理解すると共に、支援に必要な知識を得る。

教科書　必要に応じて資料を配付する

成績評価方法と基準　出席・授業態度40%、発表内容50%、実技点10%

オフィスアワー　水曜日12：15〜12：45

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 ニュースポーツ体験①（ゴルフ系）
第3回 ニュースポーツ体験②（ネット系）
第4回 ニュースポーツ体験③（ディスク系）
第5回 ニュースポーツ体験④（ボール系）
第6回 ニュースポーツ体験⑤（パラリンピック種目体験）
第7回 レクリエーション支援について①（ホスピタリティトレーニング）
第8回 レクリエーション支援について②（アイスブレーキング）
第9回 企画案づくり①講義
第10回 企画案づくり②グループワーク
第11回 発表①
第12回 発表②
第13回 発表③
第14回 発表④
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース必修科目		体育心理学	2	前期　木 7, 8	鶴原 清志

授業の概要　体育心理学の各領域における主問題をテキストの章に従い概説する。

学習の目的　体育心理学の全体的な基礎知識を学習する。

学習の到達目標　体育心理学の基礎知識を学習することによって、運動やスポーツの心理的側面からの理解ができるようになる。

教科書　新版 運動心理学入門、大修館書店

成績評価方法と基準　試験（授業期間中のレポートも含む）

オフィスアワー　毎週木曜日12：00から1時間程度

学習内容
1，体育心理学の意義
2，運動支配の生理心理
3，運動と認知（運動における認知）
4，運動と認知（視覚，聴覚，運動感覚と認知）
5，運動と動機づけ（動づけの意味）
6，運動と動機づけ（原因帰属）
7，運動と動機づけ（動機づけの方法）
8，運動の発達
9，運動の制御と運動学習（運動と注意）
10，運動の制御と運動学習（運動学習理論）
11，運動の指導（運動の指導の方法）
12，運動の指導（メンタルプラクティス）
13，運動とパーソナリティー
14，運動の社会心理（運動と競争）
15，運動の社会心理（チームワーク）
16，試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育社会学		体育社会学	2	前期　火 5, 6	大隈節子

授業の概要　体育・スポーツ社会学の基礎理論について学ぶと共に体育・スポーツ領域において重要と思われるテーマや課題について学ぶ。

学習の目的　体育・スポーツ社会学の基礎理論や重要と思われるテーマや課題についての知識を得る。

学習の到達目標　体育・スポーツ領域において重要と思われるテーマや課題について社会学的な視点から考えることができる。

教科書　教科書等の指定はない。授業時に適宜資料を配付する

成績評価方法と基準　レポートとテストによって評価を行う

オフィスアワー　毎週水曜日の昼休み（12：15〜12：45）

学習内容
第1回 ：ガイダンス
第2回 ：体育・スポーツ社会学の意義
第3回 ：スポーツ・システムについて
第4回 ：スポーツの社会化
第5回 ：社会的自我論
第6回 ：スポーツと政治
第7回 ：社会の変化とスポーツ
第8回 ：スポーツと産業化
第9回 ：日本のスポーツプロモーションの特徴
第10回：スポーツ立国戦略
第12回：スポーツ基本計画
第13回：総合型地域スポーツクラブ
第14回：運動部活動の現状
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース必修科目	〜65	スポーツ行政	2	後期　火 5, 6	藤川誠一（教育学部非常勤講師）

授業の概要　スポーツ行政の概念やねらい、その仕組みなどについて講義及び演習する。

学習の到達目標　スポーツは、行政の対象に成り得る重要な人間の営みであることを認識する。

受講要件　なし

予め履修が望ましい科目　なし

教科書　必要に応じて講義資料を作成し配布する。

成績評価方法と基準　小テスト20%、レポート40%、受講中の活動状況40%、計100%

学習内容
第1回 スポーツ行政の概念(1)
第2回 スポーツ行政の概念(2)
第3回 スポーツ行政のねらい
第4回 スポーツ行政の組織・体制(1)
第5回 スポーツ行政の組織・体制(2)
第6回 競技スポーツと生涯スポーツの振興(1)
第7回 競技スポーツと生涯スポーツの振興(2)
第8回 スポーツ行政と法律(1)
第9回 スポーツ行政と法律(2)
第10回 国のスポーツ行政
第11回 地域（津市及び三重県）のスポーツ行政(1)
第12回 地域（津市及び三重県）のスポーツ行政(2)
第13回 地域（津市及び三重県）のスポーツ行政(3)
第14回 地域（津市及び三重県）のスポーツ行政(4)
第15回 地域（津市及び三重県）のスポーツ行政(5)
第16回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース必修科目	65-59	運動方法学	2	前期　金 3, 4	八木規夫（教育学部保健体育講座）

授業の概要　子ども達の体力・運動能力の発育・発達及び様々な身体活動における動作様式を、バイオメカニクスや運動生理学的な観点から分析し、体育授業における運動学習の在り方や、指導法について検討する。

学習の目的　子ども達の体力・運動能力の発育・発達及び様々な身体活動における動作様式を、運動生理学やバイオメカニクスの観点から学習し、体育・スポーツの指導場面において適切なアドバイスや補助ができるようになる。

学習の到達目標　子ども達の体力・運動能力の発育・発達及び様々な身体活動における動作様式を、運動生理学やバイオメカニクスの観点から学習することによって、体育・スポーツの指導の場において具体的にどのようなアドバイスや補助を工夫すれば良いのか模索することができるようになる。

受講要件　2年生以上に限る。

予め履修が望ましい科目　運動生理学

教科書　プリント資料を配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、中間試験30%、総合試験50%, 計100%

オフィスアワー　金曜日12:10〜13:00 場所教育学部八木研究室

学習内容
1回：オリエンテーション
2回：運動学的観点からの学習指導要領の検討
3回：運動の観察・分析方法
4回：集団スポーツ（ゲーム）の観察・分析方法
5回：運動の観察・分析データの収集
6回：データの解析・検討、スポーツ成果の要因
7回：体力・運動能力の発育・発達 （巧みさ）
8回：体力・運動能力の発育・発達 （筋力・筋パワー）
9回：体力・運動能力の発育・発達 （全身持力）
10回：中間まとめ・試験
11回：各種身体運動における動作様式の検討 （走運動）
12回：各種身体運動における動作様式の検討 （跳運動）
13回：各種身体運動における動作様式の検討 （投運動）
14回：各種身体運動における動作様式の検討 （その他のスポーツ）
15回：まとめ
16回：総合試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース必修科目	〜65	トレーニング論（実習を含む）	2	後期　月 5, 6	杉田 正明

授業の概要　様々なトレーニングに関する目的・方法・特殊性及びトレーニング効果などについて理解を深める。併せて体力測定などの実習を通し、スポーツ科学を応用したトレーニング方法の考え方を学習する。

学習の目的　スポーツ科学を応用したトレーニング方法の考え方や実践ができるようになる。

学習の到達目標　スポーツ科学を応用したトレーニング方法の考え方や実践の仕方を知り、理解できるようになる。

受講要件　実習を行うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

予め履修が望ましい科目　運動方法学、運動生理学

教科書　トレーニングの科学的基礎（ブックハウスHD）、トレーニング科学ハンドブック（朝倉書店）、身体活動と体力トレーニング（日本出版サービス）

成績評価方法と基準　定期試験（60点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日昼休み 場所：教育学部1号館1階杉田研究室

学習内容
第1回 トレーニングの考え方、授業内容
第2回 トレーニングの期分け、原理
第3回 体力の評価と測定（理論）
第4回 体力の評価と測定（実習）
第5回 筋力トレーニング（基礎理論、方法）
第6回 筋力トレーニング（効果、実習）
第7回 エネルギー供給系（基礎理論）
第8回 ハイパワートレーニング（基礎理論）
第9回 ハイパワートレーニング（実習）
第9回 ミドルパワートレーニング （基礎理論）
第10回 ミドルパワートレーニング（実習）
第11回 ローパワートレーニング （基礎理論）
第12回 ローパワートレーニング（実習）
第13回 運動処方（トレーニングプログラムの組み立て）
第14回 コンディショニング （基礎理論）
第15回 これまでのまとめ
試験（筆記）

その他　実習を含むので人数制限を行う場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース必修科目	～65	スポーツ医学	2	後期　火 7, 8	福田 亜紀(教育学部非常勤講師)

授業の概要　スポーツにより発生する外傷・障害の疫学、病態、診断、予防対策、治療についてわかりやすく解説する。病態では、人体の模型や図などを用いて理解を容易にする。診断では、レントゲン像、CT像、MRIなどの画像所見を解説し、簡単な徒手テストや理学所見などを紹介する。治療については、現場で行うべき救急処置や病院での保存療法、手術療法など解説する。その他、スポーツと医学との関わりをいろいろなエピソードを交えて講義する。理解をより深くしてもらうため、教科書のみでなく、時にはスライドを用いて講義する。

学習の到達目標　スポーツ医学の基本的知識、学校スポーツでのスポーツ外傷・障害の病態と応急処置の習得する。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特になし

教科書　「スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・障害」市川宣恭編集 南江堂 2900円

成績評価方法と基準　講義中の発言、学習態度、レポート、その他で総合的に行う。

学習内容
第1回 総論
第2回 外傷処置
第3回 腰・骨盤・大腿の外傷・障害
第4回 下腿・足の外傷・障害(1)
第5回 下腿・足の外傷・障害(2)
第6回 頭・頚部の外傷・障害
第7回 上肢の外傷・障害(1)
第8回 上肢の外傷・障害(2)
第9回 膝の外傷・障害(1)
第10回 膝の外傷・障害(2)
第11回 膝の外傷・障害(3)
第12回 成長期の外傷・障害(1)
第13回 成長期の外傷・障害(2)
第14回 成長期の外傷・障害(3)
第15回 まとめ(1)
第16回 まとめ(2)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
水泳		水泳	1	前期　月 1, 2	重松良祐（教育学部）

授業の概要
1.水慣れ、けのび
2.近代泳法（バタフライ、背泳、平泳ぎ、クロール）
3.横泳ぎ、立ち泳ぎ、水中ボールゲーム
4.水中安全教育（救助法、着衣泳）
5.飛び込み

学習の到達目標
1.水慣れ、けのび
2.近代泳法（バタフライ、背泳、平泳ぎ、クロール）
3.横泳ぎ、立ち泳ぎ、水中ボールゲーム
4.水中安全教育（救助法、着衣泳）
5.飛び込み
ができるようになること。

受講要件　学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書
高橋伍郎・糸山直文「初心者のための水泳教室」高橋書店.
柴田義晴「基礎からの水泳」ナツメ社.

成績評価方法と基準
出席、実技テスト、レポート、筆記テストで評価する。実技試験は4種類ある。各々の基準内で泳ぐこと。
男子50ｍ速泳43秒、100ｍ個人メドレー2分20秒、横泳ぎ25ｍ（15あおり）、400m連続泳（クロール）
女子50ｍ速泳48秒、100ｍ個人メドレー2分30秒、横泳ぎ25ｍ（15あおり）、400m連続泳（クロール）

オフィスアワー　月曜日の昼休み、重松研究室。

学習内容
1回目 ガイダンス、着衣泳ビデオ
2回目 水慣れ
3回目 クロール
4回目 背泳ぎ
5回目 平泳ぎ
6回目 バタフライ
7回目 横泳ぎ
8回目 立ち泳ぎ
9回目 個人メドレー
10回目 潜水
11回目 逆飛び込み
12回目 着衣泳、救助法
13回目 筆記テスト、実技テスト（50ｍ速泳、立ち泳ぎ）
14回目 実技テスト（100ｍ個人メドレー、30分間泳）
15回目 実技テスト（400ｍ泳、横泳ぎ）

その他　4～6月は学外の室内プールを利用する予定（1回につき約300円の負担）。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
コース選択必修科目	64・65	器械運動	1	前期　木 3, 4	鶴原 清志

授業の概要　器械運動における基本的な種目である、マット・跳び箱・鉄棒の基本的な技の習得し、それぞれの技の理想像を理解するとともに、実施された技を正しく評価できること、並びに指導法、補助の方法をも実践する。

学習の目的　器械運動における基本的な種目であるマット・跳び箱・鉄棒の指導についての基本を理解、習得する。

学習の到達目標　マット・跳び箱・鉄棒の基本的な技の習得と理想像を理解する。

受講要件　実技であるため、毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

教科書　プリント資料を配布する。

成績評価方法と基準　基本の技を習得すること及び、その技の理想型・指導法のレポートを提出する

オフィスアワー　毎週木曜日12：00から1時間程度

学習内容
1，器械運動の基本的な考え方、倒立
2，マット運動の基本（前転、後転等）
3，マット運動の基本（側方倒立回転、前方倒立回転とび等）
4，跳び箱運動の基本（開脚跳び、閉脚跳び等）
5，跳び箱運動の基本（台上前転、倒立回転跳び等）
6，鉄棒運動の基本（懸垂振動等）
7，鉄棒運動の基本（前方支持回転、後方支持回転等）
8〜15 基本技の習得、トランポリン
16 基本技の試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	〜67	陸上競技	1	前期　月 3, 4	杉田 正明

授業の概要　陸上競技における走・跳・投の各所目についての基本的理論及び基礎技術を習得する。同時に各種目の特性を理解し、トレーニングの方法も含めた指導法などについても学習する。

学習の目的　陸上競技の基本的理論及び基礎技術を習得することができるとともに、トレーニングの方法も含めた指導法を身につけることができる。

学習の到達目標　陸上競技の基本的理論及び基礎技術を習得するとともに、陸上競技の指導ができるようになる。

受講要件　実技では怪我の危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

教科書　適宜、プリントを配布する

成績評価方法と基準　試験（100m、100mハードル、走幅跳、砲丸投の基準記録）に合格し、レポート及び出席・学習態度などから総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日昼休み杉田研究室（教育学部1階1号館）

学習内容
第1回 はじめに（授業内容および準備方法など）
第2回 100m走（動き作り、正しい走り方）
第3回 100m走（各種スタート法）
第4回 100m走（トライアル）
第5回 ハードル走（ドリル、様々な障害物、リズム走）
第6回 ハードル走（スタート、ハードリングとインターバル）
第7回 ハードル走（トライアル）
第8回 走幅跳（動き作り、助走：至適距離・歩数）
第9回 走幅跳（踏切、空中の姿勢とバランス、踏切から着地）
第10回 走幅跳（トライアル）
第11回 砲丸投（投げの基本動作）
第12回 砲丸投（グライド、構えからつきだし）
第13回 砲丸投（トライアル）
第14回 トライアル Ⅰ（100m走、砲丸投）
第15回 トライアル Ⅱ（ハードル走、走幅跳）

その他　実技の際のシューズは、走る、跳ぶに支障のないものを準備すること。授業以外にも積極的に予習、練習を行うこと。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	64〜67	体操	1	前期　火 3, 4	後藤洋子（教育学部保健体育講座）

授業の概要　体操の基礎技術を習得し、体操の課題や運動の構成方法について実習する。同時に体ほぐしの運動を含めた体操領域の特性や捉え方について理解を深める。

学習の目的　徒手での体操および手具・用具を活用した体操の基本的な運動を習得し、運動を組み合わせたり構成したりすることができる。体操領域の運動の特性や学校体育での取り扱い方について説明することができる。

学習の到達目標　徒手での体操および手具・用具を活用した体操の基本的な運動を習得する。多様な運動を組み合わせたり、ねらいに応じた体操を構成したりすることができる。体操領域の運動の特性や学校体育での取り扱い方について説明することができる。

教科書　特に指定しない。授業中、必要に応じて適宜、紹介する。

成績評価方法と基準　主体的な活動（30%）を重視し、これらの状況と授業における積極性（20%）、実技テストの成績（30%）、ノートやレポート等（20%）を総合して評価する。

オフィスアワー　時間：水曜日12時〜13時、場所：保体（運動方法学Ⅱ）研究室（後藤）

学習内容

第1回 ガイダンス： 学校体育における体操領域の取り扱いについて、目標、内容などを概説する。
第2回ラジオ体操： ラジオ体操の基本および発展
第3〜5回 徒手での体操： 歩く、走る、弾む、振る、支える等の基礎的な運動について組み合わせたり運動を変化、発展させる方法を実習する。
第6回 発表1： 徒手での体操をグループで演技発表し、同時に評価の観点について理解する。
第7〜8回ボールを使った体操： 体操ボールやGボールを使った基礎的な運動と活用方法について学習する。
第9回 縄を使った体操： 縄を使った基礎的な運動と活用方法について学習する。
第10〜11回 用具を活用した体操： 身近な用具を利用したり、運動を誘発する新しい用具を活用し、動きつくりを促進する運動プログラムについて学習する。
第12〜13回 ラートを使った運動： ラートを使った基本的な運動（直転を中心に）、補助法、安全管理の方法などについて実習する。
第14〜15回 発表2： 手具、用具を使った体操を構成し、グループで演技発表する。同時に相互評価し、評価の観点について理解を深める。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
コース選択必修科目	64・65	バレーボール	1	後期　月 3, 4	大隈節子

授業の概要　バレーボールを競技として行う上で必要な技術習得、並びに指導者としての基本知識について学ぶ

学習の目的　バレーボールで求められる基本的な動きを理解し技術の向上をめざすと共に、バレーボール指導者としての素養を身につける。

学習の到達目標　バレーボールを競技として行う上で必要な基本技術、並びにルール・基礎知識を身につける。

受講要件　バレーボールのルールについて理解していること。

教科書　必要に応じて適宜資料を配布する

成績評価方法と基準　出席の状況や授業への取り組みを重視し、実技試験ならびにレポートも含めて総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日12：15〜12：45

学習内容

第1回 ：バレーボールのルールおよび用具等使用方法の説明
第2回 ：バレーボール向けの準備運動の理解とレクリエーションバレーボール
第3回 ：個人技術と動きの理解（オーバーパス・アンダーパス）
第4回 ：個人技術の練習と動きの理解（スパイク）
第5回 ：個人技術の練習と動きの理解（レシーブ・トス）
第6回 ：個人技術の練習と動きの理解（ブロック）
第7回 ：個人技術の練習と動きの理解（サーブ・サーブレシーブ）
第8回 ：プレーヤーの役割とフォーメーションについての理解
第9回 ：コンビプレーの練習と動きの理解（レシーブ→トス）
第10回 ：コンビプレーの練習と動きの理解（トス→スパイク）
第11回 ：コンビプレーの練習と動きの理解（ゲームを想定した総合的な練習）
第12回 ：審判法ならびに試合運営方法の習得
第13回 ：第1回リーグ戦
第14回 ：第2回リーグ戦
第15回 ：第3回リーグ戦

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	~65	サッカー	1	前期　金 3, 4	片山靖富（非常勤講師）

授業の概要　サッカーの基本的技術の習得と指導法，戦術（サッカーの楽しみ）やルール・競技規則について学習する．

学習の目的　サッカーの基本的技術を習得するとともに，サッカー初心者に指導できる指導力と指導法を身につける．また戦術（サッカーの楽しみ）やルール・競技規則について理解する．

学習の到達目標
①基本的技術を習得し，手本となることができる．サッカー初心者に対して指導できるようになる．
②サッカーのルールを把握し，レフェリングができるようになる．
③戦術を理解し，ゲーム分析ができ，サッカー観戦を深く楽しむことができる．

受講要件　学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

教科書　適宜，資料を配布する

成績評価方法と基準　出席状況・学習態度50%，実技・スキルテスト25%，競技規則に関するテスト25%で評価し，合計60%以上で合格とする

オフィスアワー　金曜日10：00〜10：30，12：10〜12：30（保健体育研究室）

学習内容
第1回：ガイダンス，チーム分け
第2回：ボールコントロール（ボールタッチ，リフティング，ドリブル）
第3回：ボールコントロール（ショートパス，トラップ）
第4回：ボールコントロール（ロングパス，ヘディング）
第5回：ボールコントロール（シュート）
第6回：ゴールキーピング（キャッチ，パンチング，セービング）
第7回：ゴールキーピング（スローイング，ポジショニング）
第8回：フリーキック（スローイング，コーナーキック）
第9回：フリーキック（直接／間接フリーキック）
第10〜12回：戦術理解（ゲーム）
第13〜14回：ルール理解・レフェリング
第15回：スキルテスト，ルールテスト，まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	64・65	バドミントン	1	後期　金 3, 4	冨樫健二

授業の概要　様々な打ち方（ストローク）やルールを習得することにより、レクリエーション（生涯スポーツ）としてのバドミントン、競技スポーツとしてのバドミントンを知る。バドミントンを通して身体運動を科学する事を知る。

学習の目的　小・中学校における正課授業、および課外活動において、バドミントンの指導が十分にできるだけの理論的、技術的な力をつける。

学習の到達目標　レクリエーションとしてのバドミントンから競技スポーツとしてのバドミントンを経験することにより、その奥深さを体感する。各ストロークや様々な技術、知識を習得することにより、自分自身が興味・感心を持つとともに、他者への指導能力が高まる。

受講要件　履修希望者が多かった場合には履修制限を行うので、授業開始時期には保健体育科の掲示板を注意してみておくこと

教科書　適宜資料等を配布する

成績評価方法と基準　実技試験、ノート提出、ルール・審判法に関する筆記試験、態度点

オフィスアワー　木曜12：20〜12：40

学習内容
1.ガイダンス、バドミントンとは（概要、コート、道具）、ラケット・シャトル慣れ
アンダーハンドストロークⅠ（ロングハイサービス）、ミニゲーム
2.ストロークプロダクションとは
オーバーヘッドストロークⅠ（ハイクリアー、ドロップ）
アンダーハンドストロークII（ロビング、ヘアピン）
競技規則・審判法、ミニゲーム
3.オーバーヘッドストロークII（スマッシュ、プッシュ）、
サイドアームストローク（ドライブ）、ダブルスゲームの進め方
4.筆記試験、基礎打ち、バックハンドストローク（ハイバック、スマッシュ、ドロップ）
ルールに基づいたダブルスゲーム
5.クロスコートを利用した練習、ノック法 他、各種練習方法
6.フットワーク、チャイニーズステップ他、各種練習方法
7 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（ロングハイサービス、ロブの指導）
8 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（ハイクリア、ドロップの指導）
9 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（スマッシュ、プッシュの指導）
10 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（ヘアピン、ドライブの指導）
11 現場における指導の工夫、アイデアコンペ（バックハンドの指導）
11 ダブルスゲームフォーメーション
12 各ストロークにおける技術課題の確認
13 ICTを用いた授業実践（携帯電話、iPad等、プロジェクタ等を用いて）
14 実技試験（サービス、ハイクリア、ドロップ＆ロブ）
15 実技試験（ドライブ、スマッシュ＆レシーブ、ヘアピン）
16 まとめ

その他　授業用のノート（A4サイズが貼れるもの）を作成し、各時限のポイントをまとめること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	～65	柔道	1	前期　水 3, 4	中西 義雄（教育学部非常勤講師）

授業の概要　柔道（じゅうどう）は、1882年（明治15年）に嘉納治五郎が日本の講道館において創始した武道であり、格闘技、スポーツ、武術にも分類される。日本の国技の一つであると同時に広く各国でも普及しており、オリンピック種目にもなっている。また、2012年より中学校での保健体育に武道が必修科目となる。保健体育の指導者として、中学校・高等学校での必修科目である柔道を理解し初心者の指導が行なえるようになる。

学習の目的　柔道の初心者や初級者を対象に指導するために必要な事柄として、柔道の知識・基本動作・基本技能・応用技能について修得する。

学習の到達目標　柔道の初心者や初級者を対象に指導するために必要な事柄として、柔道の知識・基本動作・基本技能・応用技能が習得できる。

受講要件　受講生は柔道着を各自用意すること。

成績評価方法と基準　出席60%、授業への取り組み40%

学習内容

1）基本動作1 知識・礼法・姿勢・動き方・組み方
2）基本動作2 くずし・体さばき・受身・寝技のための動き方
3）基本技能1 膝車・支え釣込足・約束練習・けさ固め・くずれけさ固め
4）基本技能2 大腰・背負投・まくらけさ固め・後ろけさ固め
5）基本技能3 大外刈・乱取・横四方固め・くずれ横四方固め
6）基本技能4 払い腰・体落とし・上四方固め・くずれ上四方固め
7）基本技能5 小内刈・大内刈・送り足払い・縦四方固め・縦四方変化
8）応用技能1 跳腰・内股・一本背負・絞め技
9）応用技能2 技の防ぎ方3つ・関節技
10）応用技能3 連続技2つ・寝技の上からの攻め方
11）応用技能4 既習の投げ技反復練習・寝技の下からの攻め方
12）応用技能5 既習の投げ技反復練習・寝技の横からの攻め方
13）審判法
14）技能実技テスト
15）簡易試合

その他　受講生は柔道着を各自用意すること

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択必修科目	64・65	野外運動Ⅰ（スキー）	1	後期集中	大隈節子、重松良祐、加納岳拓、本多広国（非常勤講師）

授業の概要　スキーに関する基本的な技能の習得、ならびに指導方法を学習する。

学習の目的　スキーに関する技能習得、ならびに指導方法を身につける

学習の到達目標　全日本スキー連盟「技能検定3級」程度の技能を身につける

受講要件　実習であるため、毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

成績評価方法と基準　最終日に実施する実技試験、レポート等を総合的に評価して単位を認定する。

オフィスアワー　実習期間中夕食後

学習内容
1日目；技能別班分け、スキー技術の基礎（プルークスタンス、プルークスタンスでの回転）
2日目：スキー技術の基礎（プルークスタンスでの回転、パラレルターン（大回り））
3日目：スキー技術の基礎（パラレルターン（大回り）、パラレルターン（小回り）、総合滑走）
4日目：実技試験

その他　スキー用具等は各自で用意し、実習に関わる交通費、リフト代、宿泊費は各自自己負担

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	～65	野外運動 II （キャンプ）	1	前期集中	岡野 昇，冨樫健二，重松良祐，加納岳拓

授業の概要　学校教育や社会教育における野外教育の意味・意義を追求し，野外運動(キャンプ)に必要な知識・技術を学びながら指導者としての力量形成を目指す。

学習の目的　学校教育や社会教育における野外教育の意味・意義について理解し，野外運動(キャンプ)に必要な知識・技術を獲得することができる。

学習の到達目標　野外運動(キャンプ)プログラムの作成とプログラムの実施を行うことができ，野外教育の意味・意義を踏まえた実践報告書の作成を行うことができる。

教科書　キャンプ指導者入門（日本キャンプ協会）

成績評価方法と基準　事前指導・本実習・事後指導の参加状況及び参加態度，実習報告書を総合して評価する。

オフィスアワー　・前・後期 水曜日12:00～13:00，保体（保健体育科教育学 II ）研究室（岡野）

学習内容
1.ガイダンス：5月中旬の予定。履修確認，個人調査票の作成など。
2.事前指導：6月中旬の予定。グループ編成，担当係，プログラム担当・企画など。
3.本実習 I ：7月11日の予定。キャンプの基礎理論を知り，大学構内及びその周辺で，アイスブレイキング，イニシアティブゲーム，コミュニケーションゲーム，レクダンスなどの実習を通して，主として人と人とのかかわりに焦点をあてたキャンププログラムの構成の仕方を学ぶ。
4.本実習 II ：7月18日～20日（2泊3日）の予定。大杉谷林間キャンプ村及びその周辺で，野外炊事法，ウォークラリー，ネイチャーゲーム，登山，キャンプファイヤー，キャンドルファイヤーなどの実習を通して，主として人と自然とのかかわりに焦点をあてたキャンププログラムの構成の仕方を学ぶ。
5.事後指導：7月下旬の予定。実習報告書の提出など。

その他
・1年次より履修可能。
・単位履修の関係上，保健体育科の学生の履修を優先する。
・実習時期は7月11日，7月18日～20日（2泊3日）を予定。
・受講前に必ず保健管理センターにて心電図検査を受診のこと。
・実習にかかわる交通費，宿泊費，実習費などは自己負担。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	64	スポーツ健康科学ゼミナール	2	後期　月 9, 10	重松良祐（教育学部）

授業の概要
1．健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読
中高年者、有疾患者、肥満者、地域住民、他
2．研究の進め方の習得
研究論文における問題・用語の定義・限界・意義についての理解
先行研究の精読・批評
分析能力・記述能力の習得
プレゼンテーション方法の習得
3．各自の興味のある研究論文の選択と課題設定
2の学習内容を踏まえた各自の課題の遂行（ユニークな課題も歓迎）

学習の到達目標
1．健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の知見の把握
2．研究の進め方とその実践力

受講要件　重松研究室に所属して卒業論文を書くこと。

予め履修が望ましい科目　「衛生学及び公衆衛生学」「衛生学及び公衆衛生学演習」「健康科学実験」。

教科書　その都度指定する。

成績評価方法と基準　レポート 100%。

オフィスアワー　月曜日の昼休み、重松研究室。

学習内容
1回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（文献検索）
2回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（中高年者）
3回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（有疾患者）
4回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（肥満者）
5回目 健康・体力に関する体育・スポーツの研究論文の検索および精読（地域住民）
6回目 研究の進め方の習得（研究論文における問題・用語の定義）
7回目 研究の進め方の習得（限界・意義について）
8回目 研究の進め方の習得（先行研究の精読・批評
9回目 研究の進め方の習得（分析能力・記述能力の習得）
10回目 研究の進め方の習得（プレゼンテーション方法の習得）
11回目 各自の興味のある研究論文の選択と課題設定（緒言）
12回目 各自の興味のある研究論文の選択と課題設定（方法）
13回目 各自の興味のある研究論文の選択と課題設定（結果）
14回目 各自の興味のある研究論文の選択と課題設定（考察）
15回目 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	64	スポーツ健康科学ゼミナール	2	前期　金 9, 10	八木規夫（教育学部保健体育講座）

授業の概要　文献あるいは実験的な手法を用いて、運動技能向上に関する効果的な学習法あるいは指導法について探求する。

学習の目的　文献あるいは実験的な手法を用いて、運動技能向上に関する効果的な学習法あるいは指導法について探求し、卒業論文作成のための知識を得る。

学習の到達目標　文献あるいは実験的な手法を用いて、運運動技能向上に関する効果的な学習法あるいは指導法について探求し、卒業論文の目的を明確にするとともにその手法を把握する。

受講要件　4年生以上

予め履修が望ましい科目　運動方法学、運動生理学

成績評価方法と基準　授業への取り組む態度、レポート等によって総合的に評価する。

オフィスアワー　金曜日12:10〜13:00 場所教育学部八木研究室

学習内容
1回：オリエンテーション
2〜5回：運動技能習得に関して自分自身が最も関心のあるものを選び、資料や文献を収集し吟味する。
5〜10回：先に吟味した資料及び文献から、実践できるものを選び、実践する。
10〜14回：実践した結果を整理して検討する。
15回：まとめ

その他　4年生以上に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	64	スポーツ健康科学ゼミナール	2	後期　火 9, 10	後藤洋子（教育学部保健体育講座）

授業の概要　各自が体操、ダンスに関する興味のある内容についてテーマを設定し、論文等の資料を講読して要旨を発表し、論議を通して内容の理解を深める。

学習の目的　設定したテーマに関する文献、資料の内容を理解し、議論を通して課題を発見し解決の方向性を探る。

学習の到達目標　設定したテーマに関する文献、資料の内容が説明できる。議論を通して課題を発見し解決の方向性を検討することができる。

受講要件　C類スポーツ健康科学コースの学生で、体操・ダンス領域に関するテーマでの卒業研究を希望する者。

予め履修が望ましい科目　体操、ダンス、身体運動表現論

教科書　特に指定しない

成績評価方法と基準　授業への積極的な参加（40%）、要旨のまとめ方（30%）や内容の理解度等（30%）を総合して評価する。

オフィスアワー　時間：毎週水曜日12時〜13時、場所：保体（運動方法学 II）研究室（後藤洋子）

学習内容
第1回ガイダンス：授業計画の提示、研究課題の設定など
第2〜5回文献収集および講読：各自が選択したテーマに基づいて、必要な文献を収集し、要旨を整理して発表する。
第6〜13回資料収集および分析：問題解決のための資料を収集し、分析する。。
第14〜15回まとめ：得られた資料、分析結果をまとめて考察する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	64	スポーツ健康科学ゼミナール	2	後期　木 9, 10	岡野 昇

授業の概要　これまでの教材研究・演習・運動実践・教育実習で得られた知見をもとにし，体育科教育を窓口にした学校教育の根底に横たわる「自らの問題」を設定し，それを受講生で共有しながら考究していく。また，自らの問題意識にそった研究テーマを設定し，研究論文を作成する。

学習の目的　研究テーマに基づいた論文を作成することができる。

学習の到達目標　研究テーマに基づいた論文を作成することができる。

予め履修が望ましい科目　体育教材研究，保健体育科教育法，教育実習

成績評価方法と基準　出席状況と共に，授業過程における問題提起と討議，学習課題の内容，研究論文を成績評価の資料とする。

オフィスアワー　・前・後期 水曜日12:00〜13:00，保体（保健体育科教育学 II）研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.教科教育学・学校教育学・教育実践学研究の動向，今日的課題，アプローチ
3.研究文献・実践研究論文・研究論文読解演習
4.実践研究論文の作成
5.実践研究論文の発表
6.個別研究課題への取り組みと発表
7.研究論文テーマの設定（問いへの問い，問題の所在と意図，方法の探索と計画立案，テーマ設定と発表）
8.研究論文項立ての設定（文献・調査・授業分析研究，内容の考察と整理，項立ての作成と発表）
9.研究データの収集
10.研究データの分析・考察
11.研究論文の作成
12.研究論文の中間発表
13.研究論文の再構成・作成
14.研究論文の要約作成（論文の作成・読み合わせ・修正，論文要約の作成と発表）
15.まとめ

その他　4年生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	64	スポーツ健康科学ゼミナール	2	前期　月 3, 4	冨樫健二

授業の概要　関連文献の抄読、実験・調査の実習、データ整理、プレゼンテーション。

学習の目的　卒業論文作成・発表に必要な基礎的知識を学ぶ。

学習の到達目標　テーマに関連した情報収集、整理・加工能力、実験・調査技術、論理的な考察能力、プレゼンテーション技術を身に付けることができる。

受講要件　原則として健康管理学，健康管理学演習，健康管理学実験を履修した（履修中を含む）4年生に限る

予め履修が望ましい科目　健康管理学、健康管理学演習、健康管理学実験

教科書　各自がテーマに合わせて選定する

成績評価方法と基準　出席、プレゼンテーション内容、授業時の発言等

オフィスアワー　木曜12：20〜12：40

学習内容
1.研究テーマを設定する上での注意
2.テーマに関連する情報収集の方法、文献検索・収集・管理手順
3.取得した論文等の読み取り方、利用方法
4.コンピュータ、インターネットの応用利用
5.実験・調査により得られたデータの整理方法（実験室実験）
6.実験・調査により得られたデータの整理方法（フィールド実験）
7.実験・調査により得られたデータの整理方法（調査紙）
8.論文作成に必要な統計処理の基礎
9.論文作成に必要な統計処理の基礎
10.図・表の効果的な作成方法
11.学術的なレポートや論文の作成手順
12.効果的なプレゼンテーション技術
13.論文抄読（和文原著論文）
14.論文抄読（和文総説）
15.論文抄読（英文原著論文）
16.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	-64	スポーツ健康科学ゼミナール	2	後期　月 9, 10	杉田正明

授業の概要　特に自然科学的手法を用いた保健体育学の研究テーマ、測定方法について学び、測定や実験から得られた結果の解釈および表現の仕方に関する能力を身につけ、自らの主体的な知の技法を習得する。

学習の目的　研究目的に合致した実験計画を立て、実験を正確に行い、正しい結果を得ることができるようになる。

学習の到達目標　測定や実験から得られた結果の解釈および表現の仕方に関する能力を身につけ、自らの主体的な知の技法を習得する。

受講要件　4年生以上に限る

予め履修が望ましい科目　トレーニング論、運動生理学

教科書　体育・スポーツ科学研究法（大修館書店）

成績評価方法と基準　レポート、学習態度により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00杉田研究室

学習内容
第1回 ：保健体育学の研究とは何か？
第2回 ：研究（論文を書く）とはどういうことか？
第3回： 研究テーマを深く考える（論文とは？）
第4回：研究テーマを深く考える（過去の論文テーマ）
第5回：研究テーマを深く考える（今日的話題）
第6回：研究テーマを深く考える（論文の構成）
第7回：運動生理学的実験
第8回：運動生理学の測定データについて
第9回：運動生理学の測定データから見えること
第11回：先行研究との比較から見えること
第12回：解釈（考察）の仕方
第13回：研究データのまとめ方（目次、構成）
第14回：研究レポートのまとめ方（考察）
第15回：総合プレゼンテーション
第16回 ：まとめ

その他　4年生以上に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	64	スポーツ健康科学ゼミナール	2	前期　火 9, 10	大隈節子

授業の概要　体育・スポーツに関する現象に着目し、体育社会学的な研究方法により卒業論文を作成する。

学習の目的　体育・スポーツに関する現象について自ら問題を提起し、体育社会学的な研究方法により卒業論文を作成する。

学習の到達目標　体育・スポーツ社会学の研究方法を習得すると共に卒業論文を作成する。

受講要件　体育社会学および体育社会学演習を履修し単位を取得していること

予め履修が望ましい科目　体育社会学および体育社会学演習

教科書
これからレポート・卒論を書く若者のために
酒井聡樹 協立出版
ISBN978-4-320-00574-7

成績評価方法と基準　論文作成に対する取り組み状況と論文内容によって判断する

オフィスアワー　毎週水曜日昼休み

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：問題意識の形成
第3回：テーマについて考える
第4回：文献検索の方法
第5回：文献の収集
第6回：文献の購読
第7回：文献のまとめ
第8回：論文の構想について
第9回：社会調査法について
第10回：アンケート調査の方法について
第11回：データ処理の方法
第12回：SPSSの使い方
第13回：論文執筆の方法について
第14回：日本語の文章技術
第15回：プレゼンテーションの方法
第16回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択必修科目		スポーツ健康科学ゼミナール	2	前期　火 9, 10	鶴原 清志

授業の概要　各自の問題意識に基づいたテーマに即して、問題の設定、文献研究、データの収集等をとおして、保健体育研究の方法を修得する

学習の目的　卒業卒業論文作成に向けての基礎知識、作成準備ができるようになる。

学習の到達目標　卒業論文作成に向けての基礎知識、作成準備ができる

予め履修が望ましい科目　体育心理学、体育心理学演

教科書　授業時に紹介する。

成績評価方法と基準　授業への取り組む態度、レポート等によって総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日12：00から1時間程度

学習内容
1，テーマの設定
2，具体的研究問題への展開
3〜5，文献研究（検索・入手方法等）
6〜8，文献研究（まとめ方、発表等）
9〜10，研究問題へのアプローチの方法
11〜12，データの収集方法
13〜14，分析方法
15，まとめ方

その他　4年生に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
体育原理	64	スポーツ健康科学ゼミナール	2	後期　火 9, 10	加納 岳拓（教育学部）

授業の概要　これまでの教材研究・演習・運動実践・教育実習で得られた知見をもとにし，体育科教育を窓口にした学校教育の根底に横たわる「自らの問題」を設定し，それを受講生で共有しながら考究していく。また，自らの問題意識にそった研究テーマを設定し，研究論文を作成する。

学習の目的　研究テーマに基づいた論文を作成することができる。

学習の到達目標　研究テーマに基づいた論文を作成することができる。

予め履修が望ましい科目　体育教材研究，小学校専門体育，保健体育科教育法，教育実習

成績評価方法と基準　出席状況と共に，授業過程における問題提起と討議，学習課題の内容，研究論文を成績評価の資料とする。

学習内容
1.ガイダンス
2.教科教育学・学校教育学・教育実践学研究の動向，今日的課題，アプローチ
3.研究文献・実践研究論文・研究論文読解演習
4.実践研究論文の作成
5.実践研究論文の発表
6.個別研究課題への取り組みと発表
7.研究論文テーマの設定（問いへの問い，問題の所在と意図，方法の探索と計画立案，テーマ設定と発表）
8.研究論文項立ての設定（文献・調査・授業分析研究，内容の考察と整理，項立ての作成と発表）
9.研究データの収集
10.研究データの分析・考察
11.研究論文の作成
12.研究論文の中間発表
13.研究論文の再構成・作成
14.研究論文の要約作成（論文の作成・読み合わせ・修正，論文要約の作成と発表）
15.まとめ

その他　4年生に限る

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	～65	体育経営学	2	前期集中	赤松喜久（教育学部非常勤講師）

授業の概要　学校および地域において、学習者あるいは地域住民が運動やスポーツに親しんでいくために、どのような条件整備が求められるか、また各種事業を提供していく経営組織がどのように内外の環境に対処していくことになるのかについて理解を深める。

学習の到達目標　学校及び地域の公共・公益的な領域における体育事業・スポーツサービス、および、民間のスポーツサービスの効果的・効率的な提供の基礎となる理論的な枠組みを理解し、事業のプランニングができるようになることをめざす。

教科書　体育経営管理学講義 大修館書店

成績評価方法と基準　小テスト60%、期末試験40%

学習内容
第1回 体育事業論
第2回 エリア・サービス
第3回 プログラム・サービス
第4回 クラブサービス
第5回 関連的体育事業
第6回 学校の領域における体育経営
第7回 地域の公益的な領域の体育経営
第8回 スポーツマーケティング
第9回 スポーツ経営とプロダクト
第10回 プロモーション
第11回 経営組織の環境適応
第12回 経営組織の経営戦略
第13回 スポーツ経営組織の構造と意思決定過程
第14回 リスク・マネジメント
第15回 事業計画
第16回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	～65	運動方法学演習	2	後期　金 3, 4	八木規夫（教育学部保健体育講座）

授業の概要　文献講読を通して、子ども達の運動技能習得に関する効果的な学習法あるいは指導法について検討し、さらに具体的な運動動作に焦点をあて、文献等を参考にしながらその動作の指導法について検討を深める。

学習の目的　子ども達の運動技能習得に関する効果的な学習法あるいは指導法について検討し、確かな指導力を身につける。

学習の到達目標　子ども達の運動技能習得に関する効果的な学習法あるいは指導法について検討し、動作の指導法について検討を深めることによって、対象に応じた指導法を工夫することができる。

受講要件　運動方法学を履修済みであること

予め履修が望ましい科目　運動生理学

教科書　プリント資料を配布する。

成績評価方法と基準　担当種目の報告発表とレポートによって評価する。

オフィスアワー　金曜日12:10～13:00 場所教育学部八木研究室

学習内容
1回 オリエンテーション
2回 体つくりに関する指導法について討議する
3回 陸上競技（トラック競技）に関する指導法について討議する
4回 陸上競技（フィールド競技）に関する指導法について討議する
5回 水泳に関する指導法について討議する
6回 器械運動（マット運動、鉄棒運動）に関する指導法について討議する
7回 器械運動（平均台運動、跳び箱運動に関する指導法について討議する
8回 球技（ネット型）に関する指導法について討議する
9回 球技（ゴール型）に関する指導法について討議する
10回 球技（ベースボール型）に関する指導法について討議する
11回 ダンスに関する指導法について討議する
12回 武道に関する指導法について討議する
13回 これまでに討議された内容から好評であったものを選び実践してみる（1）
14回 これまでに討議された内容から好評であったものを選び実践してみる（2）
15回 まとめ
16回 レポート作成

その他　3年生以上に限る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
身体運動科学実験		身体運動科学実験	1	前期　火 1, 2, 3	八木規夫・鶴原清志・杉田正明

授業の概要　身体運動に関わる様々な実験手法を学習する。また、得られたデータのまとめ方（解析と統計処理）を学習する。

学習の目的　実験手法を修得するとともに得られたデータをまとめる（解析と統計処理）力を身につける。

学習の到達目標　実験から導き出された結果を通して運動やスポーツの仕組みやメカニズムを深く理解できるようにする。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　運動方法学、体育心理学、運動生理学

教科書　適宜、資料等を配付する

成績評価方法と基準　実験への取り組み、結果のレポート提出と授業態度などから総合的に評価する。

オフィスアワー
窓口
杉田正明 火曜日の昼休み 杉田研究室

学習内容
授業計画
第1回： ガイダンス
第2回： 実験計画の立て方
第3回： 発想法による問題解決法
第4回： 質問紙の作成
第5回： 運動学習実験1
第6回： 運動学習実験2
第7回： VTRを利用した画像解析の基礎
第8回： VTRを利用した画像解析の実際
第9回： 床反力計を利用した運動の記録と解析
第10回： 画像解析及び床反力計を利用した運動の記録と解析
第11回： 運動中の心拍数の測定と解析
第12回： 運動中の酸素摂取量の測定と解析
第13回： トレッドミルを用いた最大酸素摂取量と無酸素性作業閾値の測定と解析
第14回： 運動時の血中乳酸濃度、筋内酸素動態の測定と解析
第15回： まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	64〜65	身体運動表現論	2	後期　木 5, 6	後藤洋子（教育学部保健体育講座）

授業の概要　身体の運動による表現について、文献・資料を講読し、この領域の特性や指導方に対する理解を深めるとともに実践力を養う。

学習の目的　身体に対する意識や感覚を高め、基本的な操作を習得するとともに、身体表現について概要を理解する。

学習の到達目標　身体に対する意識や感覚を高め、基本的な操作を習得するとともに、身体表現について概要を説明することができる。

予め履修が望ましい科目　体育実技「体操」、体育実技「ダンス」

教科書　特に指定しない

成績評価方法と基準　積極的な発言や参加を重視し（40%）、発表内容および技法（30%）、レポートなど（30%）を総合して評価する。

オフィスアワー　時間：毎週水曜日12時〜13時、場所：保体（運動方法学 II）研究室（後藤洋子）

学習内容
第1回 ガイダンス
資料の配布と授業の全体計画について解説する。
第2〜4回 様々な「出発点」
身体運動において即興、創作をする「出発点」となる様々な要素について扱う。
第5〜8回 「構成基準」について
運動構成に対する表現の可能性として「空間」「時間」「力動」「形式」の概念について扱う。
第9〜12回 「実施基準」について
表現者の運動の質的基準について考察する。
第13〜15回 まとめ
各自テーマを設定し、作品を発表するとともに相互評価する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	〜65	運動生理学	2	後期　木 3, 4	脇田 裕久（教育学部非常勤講師）

授業の概要　身体運動にともなう生体諸機能の変化およびその効果の実態を明確化し、そのメカニズムを理解する。

学習の目的　運動生理学の基礎的な理論を理解し、これらの理論に基づいた体育・スポーツの指導ができるようになる。

学習の到達目標　運動生理学の基礎的な理論を理解することにより、スポーツの指導能力を向上させる。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　生物・物理

教科書　資料等配付

成績評価方法と基準　講義毎のレポート提出と試験で評価する。

学習内容
第1回 現代社会における運動と健康の関係
第2回 体力の分類
第3回 運動と身体組成
第4回 運動と骨
第5回 運動と筋
第6回 筋力トレーニング
第7回 運動と関節
第8回 運動と姿勢
第9回 運動と神経
第10回 敏捷性とトレーニング
第11回 運動と呼吸
第12回 運動と循環
第13回 運動処方
第14回 運動と栄養
第15回 まとめ
第16回 テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択科目	～65	運動生理学演習	2	前期　月 5, 6	杉田 正明

授業の概要　運動生理学の授業内容を踏まえた上で、文献精読を通して身体運動に対する生体の反応やメカニズムを深く考察する。

学習の目的　身体運動に対する生体の反応やメカニズムについて運動生理学的見地からの知識を得ること。

学習の到達目標　身体運動に対する生体の反応やメカニズムについて、運動生理学的見地から深く考察することができる能力を身につけること。

受講要件　「運動生理学」、「トレーニング論」を履修しておくこと。

予め履修が望ましい科目　「運動生理学」、「トレーニング論」

教科書
本授業で取り扱う文献について記載する。
和書：体育学研究、トレーニング科学、体力科学、体育の科学、乳酸をどう活かすかなど
洋書：Med Sci Sports Exerc., Eur J Appl Physiol.など

成績評価方法と基準　授業態度、発表および抄録を総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日の昼休み、杉田研究室。

学習内容
授業計画 毎回、各テーマに関しての論文精読をし、レジュメを作成、発表し、議論をしながら考察し理解を深める
第1回：ガイダンス及び運動生理学とは？の解説
第2回：運動と環境（低酸素・高地環境）
第3回：運動と環境（寒冷・暑熱環境）
第4回：高地・低酸素トレーニングと有酸素能力
第5回：高地・低酸素トレーニングと瞬発系能力
第6回：スポーツパフォーマンスとATP・CP系
第7回：スポーツパフォーマンスと解糖系（含・酸素借）
第8回：スポーツパフォーマンスと有酸素系
第9回：運動選手のための運動生理学的テスト
第10回：運動とコンディショニング
第11回：運動と酸化ストレス、抗酸化力
第12回：運動と自律神経活動
第13回：運動とリカバリー（疲労）
第14回：運動とリカバリー（入浴）
第15回：運動とリカバリー（高酸素）
第16回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目		衛生学及び公衆衛生学	2	後期　木 7, 8	重松良祐（教育学部）

授業の概要　衛生学はHygiene、公衆衛生学はPublic healthと表現されるが、本授業ではこれらを「健康づくりのための学問」と解釈して授業を展開する。体育・スポーツを専攻する学生が主対象になることから、衛生学・公衆衛生学が疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくために活用される科学的な手法であることを学ぶとともに、「体育・スポーツが人々の健康づくりにどのように貢献できるのか」について考えるきっかけとなればと思っている。教育現場には一般社会と同様、年齢、健康、体力面においてさまざまな人がいるが、誰もが生涯を健康に過ごすための知識や視野、実践力を必要としている。このことから講義では、昨今の健康ブームをどう解釈するのか、運動嫌いな人にはどのようなアドヴァイスをすればよいのか、国単位・学会単位で打ち出されている運動の指針には何が書かれているのか、地方行政に健康づくりムーヴメントを働きかける際の資料（ストラテジー）をどう作成するか、個別アドヴァイスが重要視されているがその実際は？などをトピックとして扱う。この授業を受けることで、健康づくりに関して「主体的に考えて実践し、かつ他人を支援する人」になってくれることを期待している。

学習の到達目標　健康づくりに関して「主体的に考えて実践し、かつ他人を支援する人」になれること。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書
岡浩一朗・中村好男「行動科学を活かした身体活動・運動支援」大修館書店.
授業やレポート等に用いるので準備しておくこと。

成績評価方法と基準　8割以上の出席があり、かつ、レポートを提出し、テストを受けた場合、評価の対象となる。その際の評価方法は出席35%、授業への貢献15%、レポート10%、テスト40%である。

学習内容
1回目 「体育・スポーツが人々の健康づくりにどのように貢献できるのか」について考える。
2回目 テキスト（第1章）
3回目 テキスト（第2章）
4回目 テキスト（第3章）
5回目 テキスト（第4章）
6回目 テキスト（第5章）
7回目 テキスト（第6章）
8回目 個人を対象にした介入（寸劇）
9回目 テキスト（第7章）
10回目 テキスト（第8章）
11回目 テキスト（第9章）
12回目 テキスト（第10章）
13回目 テキスト（第11章）
14回目 集団を対象にした介入
15回目 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目		衛生学及び公衆衛生学演習	2	前期　金5, 6	重松良祐（教育学部）

授業の概要　「衛生学及び公衆衛生学」の授業内容を踏まえた上で当該分野の評価手法を学び、演習する。特に測定原理および統計解析についての理解を深める。

学習の到達目標　「衛生学及び公衆衛生学」分野の評価手法を学び、理解する。測定原理および統計解析についても理解する。

予め履修が望ましい科目　「衛生学及び公衆衛生学」

教科書
教科書として、以下の書籍を挙げる。
「フリーソフトjs-STARでかんたん統計データ分析」中野・田中著（技術評論社）
参考書として、以下の書籍を挙げる。
「人間科学計測ブック」日本生理人類学会計測研究部会編（技報堂出版）
「生活の統計学」大澤著（建帛社）
「教育・心理統計と実験計画法」田中＆山際著（教育出版）
「体力測定法」松浦著（朝倉書店）

成績評価方法と基準　出席及び授業態度50%、レポート・試験50%。

オフィスアワー　月曜日の昼休み、重松研究室。

学習内容
1．統計について
2．統計データ・グラフについて
3．分布について
4．尺度について
5．相関分析について
6．回帰分析について
7．時系列変化データについて
8．標本抽出について
9．仮説検定について
10．平均の差の検定について
11．分散分析について
12．比率について
13.測定データの解析
14.測定データの発表
15．まとめ

その他　「衛生学及び公衆衛生学」の単位を取得しておくこと。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目	～65	学校保健	2	前期　月7, 8	大野 素子（教育学部非常勤講師）

授業の概要　学校保健の全体像を理解し、健康教育が学齢期のみならず生涯に通じる健康の視座を持つことを目的とする。学校保健は「生きる力」の基盤となる健康な発育発達の促進と健康生活の実践能力をつけることを目指して行われる。学校保健の教育現場における領域構造や内容を具体的な実践活動を含め概説し、教育活動全体で取り組む健康教育が次世代の健康推進に関与していることを学ぶ。

学習の到達目標　学校保健に関する法的根拠や構造を学ぶ。体育・健康に関する指導は、学校教育活動全体を通じ行われるものであることを理解する。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特になし

教科書　特になし

成績評価方法と基準　レポート20%、期末試験70%、授業態度10%、計100%

学習内容
第1回 学校保健の考え方、歴史
第2回 健康の評価 健康状態のチェック
第3回 疾病及び健康障害
第4回 感染症とその対応
第5回 心の健康問題とその対応
第6回 発達や行動上の課題と特別支援教育
第7回 保健室の役割ー学校保健センターとして
第8回 セーフティ・プロモーションと学校安全
第9回 救急処置及び看護法
第10回 現代的な健康課題1（喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育）
第11回 現代的な健康課題2（性教育・生活習慣病）
第12回 学校環境衛生
第13回 健康教育
第14回 食育と学校給食
第15回 生涯の健康をめざす地域と連携した学校保健活動
第16回 試験

その他　「学習指導要領ー体育、保健体育」や「学校保健安全法」の理解を深める

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
スポーツ健康科学コース選択必修科目		健康管理学演習	2	後期　金 7, 8	冨樫 健二

授業の概要　健康管理に関連する原著論文抄読・討議により、最新の情報や知識を得るとともにプレゼンテーション技術を高める

学習の目的　健康管理や健康科学に関する今日的課題をもとに、自ら情報収集（論文検索）を行い、我が国における最新情報を得ることができる。知識を知識として理解するだけでなく、知識を人に伝達できるよう資料のまとめ方、プレゼンテーションの技術を向上する

学習の到達目標　論文の検索、取得方法や読み込む事による健康管理に関わる知識の習得、プレゼンテーション能力の向上などが見込める

受講要件　事前に健康管理学の単位を修得していること

予め履修が望ましい科目　健康管理学、運動生理学

教科書　授業の中で随時指示する

成績評価方法と基準　出席、プレゼンテーション内容、討議における発言、レポート等

オフィスアワー　木曜12：20〜12：40

学習内容
教員が指定する学術雑誌の中から自分の読みたい論文を検索・収集し、抄読・討議する事により現代における身体活動（運動・スポーツ）の健康に及ぼす功罪について考察する。主な引用雑誌を以下に示す。
・体力科学
・体育学研究
・日本運動生理学雑誌
・健康支援
・運動疫学研究
また、インターネットなどを利用した文献や図書、雑誌などの検索・収集法、プレゼンテーションの方法などについても学ぶ
＜扱うテーマ＞
1.子どもの身体活動量、低体力化
2.食育(基本法)、食事バランスガイド
3.小中学校における保健授業の実態問題点
4.やせ志向、ダイエット、拒食症、サプリメント、成人病胎児期発症説
5.心の病、ストレス、自殺、キレる子ども
6.メタボリックシンドローム、生活習慣病
7.アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎
8.介護予防と運動、介護保険制度、後期高齢者医療制度
9.健康日本21(健康増進法)、中間評価、健康フロンティア戦略
10.すこやか親子21、母子保健
11.テレビゲーム、インターネット、携帯等の功罪
12.行動変容、運動継続
13.新しい健康づくりのための運動基準指針
14.エイズ、性教育
15.タバコ、薬物依存、アルコール
16.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース必修科目	65以前	消費経済論	2	後期　金 3, 4	乘本秀樹（教育学部）

授業の概要　ミクロ経済学の基礎概念と基本枠組みを説明する。

学習の目的　消費者のおかれた状況や行動を経済学の枠組みで説明できるようになる。

学習の到達目標
・消費生活の現実を価格概念等によって説明できるようになる。
・環境問題などに経済学の枠組みを応用できるようになる。

教科書　教科書は用いません（必要に応じて資料を配ります）。

成績評価方法と基準　試験100%。

オフィスアワー　毎週火曜日14:40〜16:10 教育学部1号館 家庭経営研究室 norimoto@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2〜4回 消費者家計の均衡
第5〜7回 完全競争企業の均衡
第8〜10回 独占・寡占企業の均衡
第11〜12回 余剰・市場の失敗など
第13〜15回 現実問題（税、環境、貿易）を例にした考察
第16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース必修科目	62-65	生活調査法	2	後期　火 9, 10	吉本敏子，乘本秀樹，増田智恵，磯部由香，林未和子，平島円（教育学部）

授業の概要　生活を対象として調査を実施するために必要な知識・技術について学習する。テーマの設定、作業仮説の設定、調査票の作成、調査の実施、調査結果の集計および分析等について学習する。

学習の目的　調査実施能力、データの集計と分析力、コンピュータによる統計処理を得る。

学習の到達目標　課題に対して適切な調査を行うための基礎的な知識および能力を身につける。

オフィスアワー
場所 教育学部1号館3階
吉本敏子（代表） 毎週火曜日13:00~14:30 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp
乘本秀樹 毎週火曜日14:40〜16:10 家庭経営研究室norimoto@edu.mie-u.ac.jp
増田智恵 毎週水曜日9:30〜10:30 被服学研究室tomoem@edu.mie-u.ac.jp
磯部由香 毎週金曜日12:00〜13:00 食品学研究室isobe@edu.mie-u.ac.jp
林未和子 毎週金曜日16:30-17:30 家庭科教育第2研究室 miwako82@edu.mie-u.ac.jp
平島円 毎週月曜日17:00〜18:00 調理学研究室madoka@edu.mie-u.ac.

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 調査とは
第3〜10回 様々な調査事例から学ぶ
第11回 調査票の作成について
第12回 データ集計と整理について
第13回 統計処理について
第14回 調査結果の提示方法について
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース必修科目	65-63	商品実験	1	前期　月 7, 8, 9	磯部由香（教育学部）

授業の概要　実験を安全に行うために必要な知識や基本的な操作方法を習得する。また、食品成分の性質や加工による変化、衛生に関する知識、被服材料に関する知識を実験により確認する。

学習の目的　この授業を通して身につけた知識を活用できるよりよい消費者となることを目的とする。

学習の到達目標　科学的思考力、企画力、分析力、コミュニケーション能力を見につける

予め履修が望ましい科目　食品学、食品材料学、衣生活科学

成績評価方法と基準　出席、実験中の態度およびレポート、発表によって評価する

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00 教育学部1号館3階 食品学研究室 isobe@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 ガイダンス
第2〜6回 栄養成分の分析（水分、糖質、タンパク質、ビタミンなど）
第7〜12回 色についての分析
第13〜15回 衛生に関する実験
第16回 報告会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース必修科目	65-62 期生	現場実習 II	2	通年	増田智恵，乗本秀樹，増田智恵，磯部由香，吉本敏子, 林未和子，平嶋円（教育学部）

授業の概要　消費生活にかかわる財・サービス生産現場の現場を体験する．

学習の目的　消費生活にかかわる財・サービス生産の現場を体験することを通して，現場実習 I を中心にこれまでに学習した知識や理論を総合的に理解し吸収するとともに，職業に対する意欲や態度を養う．また，消費社会に対する洞察力や提言力を養い，社会人としての自己育成につなげる．

学習の到達目標　消費生活の現状を知り体験することで，卒業研究等の専門的学習に対してより意欲的になる．また，社会人としての自己を高め，職業意識を養う．

受講要件
学生教育研究災害傷害保険ならびに学研災付帯賠償責任保険に必ず加入すること
「現場実習I」を履修済であること

成績評価方法と基準　学習会，体験実習や報告会への出席40%，体験実習にかかわるレポート40%，体験実習先からの評価など20%，合計100%

オフィスアワー　増田智恵：毎週水曜日9：30〜10：30 教育学部1号館3階 被服研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2〜5回 NPOでの体験実習
第6〜10回 三重県庁での体験実習
第11〜14回 百貨店での体験実習
2〜14回には体験実習先の事前学習および事後報告会の時間も含む
第15〜16回 全体の振り返り・報告会

その他　通年の集中講義形式で実習を行う．相手方とのスケジュール調整や現場での学習態度など，充分に配慮できる体制で臨むこと．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース必修科目	62-65	消費生活科学研究	2	後期　火 11, 12	乗本秀樹、増田智恵、吉本敏子、磯部由香、林未和子、平島円

授業の概要　消費生活に関わる諸問題の解決をめざす科学的・実践的な研究

学習の目的　消費生活に関わる諸問題を知り、解決するための知識と情報を学び、さらに改善・解決するための方法を考える力を養うことを目的とする。

学習の到達目標　現場実習等の専門科目履修から得た知見を反芻し、卒業研究に取り組めるまでに高める。

教科書　各担当教員の指導に従う。

成績評価方法と基準　各担当教員の指導に従う。

オフィスアワー
場所 教育学部1号館3階
吉本敏子（代表） 毎週火曜日13:00~14:30 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp
乗本秀樹 毎週火曜日14:40〜16:10 家庭経営研究室norimoto@edu.mie-u.ac.jp
増田智恵 毎週水曜日9:30〜10:30 被服学研究室tomoem@edu.mie-u.ac.jp
磯部由香 毎週金曜日12:00〜13:00 食品学研究室isobe@edu.mie-u.ac.jp
林未和子 毎週金曜日16:30-17:30 家庭科教育第2研究室 miwako82@edu.mie-u.ac.jp
平島円 毎週月曜日17:00〜18:00 調理学研究室madoka@edu.mie-u.ac.

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2〜15回 消費生活（消費者と消費経済、消費の諸制度、消費者教育、家族と生活、消費者と食生活・衣生活・住生活など）について、学生各自が問題や課題を見出し、解決や達成の方法を学ぶ。

その他　3年次で履修する。本科目については履修指導を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	65-63	消費生活科学実習 I	1	後期　火 5, 6, 7	増田智恵（教育学部）

授業の概要　消費による衣生活のスタイルが通常となった現在，その問題点を抽出し，解決できる衣服設計のための能力を養う。現場実習 I での被服関係の見学なども含む。

学習の目的　消費者と生産者の両面からの衣服構成とデザインを含む設計について，知識と技術を学習する。家庭科の教職希望者は被服では「ものづくり」が重要になってきつつありますので，受講することを進めます。

学習の到達目標　消費衣生活の現状を知ることで既製服などの「ファション」の現状を把握するとともに，現状の問題点を抽出することができる。同時に新しい衣服購入システムをパソコンなどを利用して購入できる消費者情報を実習を通して身につけることが出来る。

受講要件　教職科目による実習項目のため，希望により内容を変更する場合有り。

予め履修が望ましい科目　被服構成学

教科書　Clothing Construction, ファッショナブル衣生活 など, 資料配付予定

成績評価方法と基準　出欠20%，レポート2セット60%，テスト（発表評価の予定）30%

オフィスアワー　毎週水曜日 9:30〜10:30 教育専門1号館3階 被服学研究室 tomoem@edu.mie-u.ac.jp

学習内容

1〜 2回 既製服の歴史と生産・流通などについて
3〜 4回 快適な衣服の設計のためのファクターについて
5〜 6回 着心地のよい上着の設計・製作コンセプトの構築 グループ実習
7〜10回 新しい衣服販売と購入に関するグループ実習
デザインソフトによる衣服設計
3次元着装シミュレーションによるデザインと
消費者支援情報の収集
11〜14回 設計したデザイン服の設計実習 グループ実習
15〜16回 完成作品の感性，設計などの個人と他者による評価を行い，まとめる。
＊受講者の教職希望や衣服設計実力などにより変更する場合もある。

その他

実習を進める上で「被服構成学」を受講しておくこと。パソコン操作の操作なども勉強しておくことが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	65	消費生活科学演習 II	1	前期　金 3, 4	乗本秀樹（教育学部）

授業の概要　官庁統計資料にじかにふれて、関心に応じてこれを利用するトレーニングを行う。

学習の目的　統計資料を読み使いこなす力、まとめる力、発表する力を身につける。

学習の到達目標　自身が設定した消費テーマについて、統計資料を用いて、整然として説得的な報告書が作成できる。

予め履修が望ましい科目　生活経営学概論、消費経済論

教科書　必要に応じて資料を配る。

成績評価方法と基準　報告や討議の状況によって50%を、レポートによって50%を評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日14:40〜16:10 教育学部1号館 家庭経営研究室 norimoto@edu.mie-u.ac.jp

学習内容

第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 注目する商品の確定、総務省「家計調査」の説明
第 3 回 物価指数の把握、など
第 4 回 可処分所得・消費支出（名目・実質）の把握、など
第 5 回 注目する商品の購入量・価格・支出金額の把握、など
第 6 回 注目する商品の価格弾力性の把握、など
第 7 回 注目する商品の所得弾力性の把握、など
第 8 回 注目する商品をめぐるトピックの探索（1回目）、など
第 9 回 注目する商品の家族1人当たり消費量の把握、など
第10回 注目する商品の地域別消費量の把握、など
第11回 注目する商品の世帯主年齢別消費量の把握、など
第12回 注目する商品の所得規模別消費量の把握、など
第13回 注目する商品をめぐる回帰分析、
第14回 注目する商品をめぐるトピックの探索（2回目）、など
第15回 とりまとめ方法の指示
第16回 レポートの報告と提出
＊毎回、報告と質疑応答を行います。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	65	消費生活科学演習III	1	前期　金5, 6	林 未和子(教育学部)

授業の概要　できるだけ体験的・実践的な学習活動を採り入れ、消費を含む人間生活全体に関する問題意識を高めたい。

学習の目的　消費生活科学コースでこれまでに学んできたことを踏まえ、受講者が協同で主体的に取り組めるような課題を追求する。

学習の到達目標　コミュニケーション能力、企画力、構築力、協調性、プレゼンテーション能力を身につける。

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
毎週金曜日16:30〜17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
インタビューや施設見学などのフィールドワーク、関心あるテーマに基づく調べ学習、討議、発表などを行い、生活の主体者として、消費を含む人間生活に関わる実態や特徴を分析する。グループでの活動が多く、学生主体で企画・立案・実施を行うため、協同作業への積極的参加が要求される。本授業では、教師は、ファシリテーター的役割を担う。
1回オリエンテーション
2回テーマ設定のための話し合い
3・4回テーマに関わる調べ学習
5回グループでの役割分担と実施計画の作成
6回〜12回協同でのテーマ追求の実践
13・14回報告書作成
15回まとめ（成果発表）

その他　正規の授業への出席が前提であるが、内容によっては、活動が授業時間以外にも及ぶことがあり得る。受講希望者は、まず初回の授業に出席すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	62-65	消費生活科学実習III	1	後期　木5, 6, 7	伊東 理恵（非常勤講師）

授業の概要　家庭科の住生活領域の指導において必要となる住空間の表現に関する基礎知識を身につけ、住生活と住空間の対応関係を考察し、図面や模型に表現できることを目指す。

学習の目的
1．住宅広告などの平面図から空間情報を読み取り、正しい評価や選択ができる。
2．住宅が居住者の生活や行動をに基づいて構成されていることを理解することができる。
3．平面図を書いたり模型を作成することを通して、住空間を表現することができる。

学習の到達目標
1．住宅平面のトレースや模型作成をとおし、空間情報や暮らしの読み取りができる。
2．家族と住まいの関わりを理解し、豊かな住生活について自分の考えを提案することができる。

受講要件　住居学概論を履修済みであること

教科書　原知子他著『図説住まいの計画 住まい方から住空間をデザインする 新訂版』彰国社

成績評価方法と基準　出席および実習中の態度、課題ごとの提出物や発表により総合的に評価する。

学習内容
第1回 ：ガイダンス（実習の進め方，設計・製図の方法の説明など）
／家庭科における住生活領域の内容と実習の意義
第2回 ：間取りの学習の必要性について（家庭科教科書掲載の住宅図面を教材にして）
第3回 ：住宅の選択、住宅の分類、好きな建築家を見つけよう
第4回 ：住宅広告図面を読む（戸建住宅、集合住宅）
第5回 ：平面図を見ながら人体寸法，生活行為，各空間について学ぶ
第6回 ：地震と住まいについて学ぶ
第7回 ：設計図の種類と書き方について学ぶ
第8回 ：住宅を計画する1－単身者の住まい（1）
第9回 ：住宅を計画する1－単身者の住まい（2）
第10回：住宅を計画する2－将来の自分の住まい（1）
第11回：住宅を計画する2－将来の自分の住まい（2）
第12回：住宅を計画する2－将来の自分の住まい（3）
第13回：住宅模型を作る（1）
第14回：住宅模型を作る（2）
第15回：作品発表および講評

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	65以前	生活設計論	2	後期　金 1, 2	乘本秀樹（教育学部）

授業の概要　人生・生活を経済の観点から設計するための知識について講義する。

学習の目的　生活設計するうえで必要とされる知見を得るとともに、経済を中心にした展望を通して非経済的な視点やコミュニケーションなどの切実さを知る。

学習の到達目標
・人生を経済面からシミュレーションする力を養う。
・保険、金融、税などについて計算する力を養う。
・文化、生き方などに関心を向け、積極的に構想する力を養う。

教科書　とくに用いない。必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　試験およびレポート80%、発表等20%によって評価する。

オフィスアワー
毎週火曜日14:40〜16:10。教育学部一号館3階家庭経営研究室。
e-mail: norimoto@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2回 生活保障をめぐる諸問題（就業）
第3回 生活保障をめぐる諸問題（社会保険）
第4回 生活保障をめぐる諸問題（その他）
第5回 生活保障をめぐる諸問題（質疑応答）
第6回 生活経済のノウハウ（私的保険加入の意思決定）
第7回 生活経済のノウハウ（ローンと返済）
第8回 生活経済のノウハウ（所得税額の算出）
第9回 生活経済のノウハウ（老齢年金のしくみ）
第10回 生活経済のノウハウ（質疑応答）
第11回 中長期の経済設計（生活構想）
第12回 中長期の経済設計（マネーフロー表の作成）
第13回 中長期の経済設計（焼き直し）
第14回 中長期の経済設計（経済から生き方や文化へ）
第15回 中長期の経済設計（質疑応答）
第16回 試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
被服学（被服製作実習を含む）	〜65	衣生活科学	2	前期　火 5, 6	長井 茂明 （非常勤講師）

授業の概要　衣生活を支える衣料品の特に素材面についての内容を科学的観点から詳述する。ヒトにおける被服の意義、役割、機能、取り扱い方などの概略を扱い、被服を構成している素材である繊維、糸、布について、それらの種類や特徴や性質を概説し、被服の消費過程での手入れにおける洗濯や仕上げについても述べる。

学習の目的　衣食住という基本を構成している衣服について学び、対身体的かつ対社会的な衣服の重要性を認識することによって、衣服の面から、健康、快適、安全な生活が営めるようになれる知識を習得すること。

学習の到達目標　ヒトにとっての衣服の重要性を知り、また素材的な認識を深めることにより、衣服が単なる物ではなく、人間の第2の皮膚であることを知って、より合理的な衣生活が営めるようになれるはずである。

成績評価方法と基準　出席と期末試験を勘案して評価する。

オフィスアワー　代理 増田 毎週水曜日 9:30〜10:30

学習内容
衣生活を支える衣料品の素材面についての内容で、ヒトにおける意義、役割、機能、取り扱い方等の概略を扱い、被服の素材である繊維、糸、布について、以下の講義を行う。
1．被服序説ー起源、着用目的、機能
2．被服序説2ー被服の管理、被服の材料
3．繊維の変遷、ミクロ構造
4．繊維の分類、構造
5．各種繊維の性質
6．糸の性能
7．布の分類と特徴
8．織物の組織や構造
9．織物の外観的、着心地的、形態安定的性能
10．織物の保健衛生的、理化学的抵抗、強さの性能
11．織物の材料的な仕上げや加工
12．被服の洗濯
13．被服の洗濯後の仕上げ
14．被服の損傷劣化
15．講義のまとめ（テストを含む）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	62-65	家族関係論	2	後期　金 7, 8	林 未和子(教育学部)

授業の概要　家庭科教育における家族領域について考えるための基礎となる授業

学習の目的　人間にとって最も身近で親密な関係の一つである家族を多様な視点で捉え、現代家族の抱える問題を理解する。

学習の到達目標　家庭科の家族領域を教える際に、どのような点に留意すればよいか、自分なりの考えを持つことができる。

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
毎週金曜日16:30〜17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
具体的なテーマとしては、以下のような内容で講義を進めていく予定であるが、場合によっては、講義項目の変更・追加もあり得る。
1〜3回多様な家族概念、家族イメージ
4〜6回家族の定義について考える
7・8回家族と仕事、キャリア、ジェンダー
9・10回現代家族の抱える問題
11・12回日本の家族と外国の家族
13・14回家庭科における家族領域の授業実践
15回各自の関心あるテーマに基づき調べ学習

その他　中・高等学校「家庭」の教員免許に必要な科目であるため、受講生には、まず学校の教科としての家庭科に関心を持ってもらいたいと思っています。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	65―64	食生活論	2	後期　月 5, 6	平島 円（教育学部）

授業の概要　日本人のライフスタイルの変化による食生活の変化について理解を深めることにより，その問題点について考え，より良い食生活を送るための基礎的知識を身につける．

学習の目的　自分の食生活を見直し，よりよい食生活が送れるようになる．また，日本の食文化や外国の食文化についての知識を得る．

学習の到達目標　自分の食生活を見直し，より健康な生活を送るための知識と実行力を身につける．

予め履修が望ましい科目　「栄養学概論」，「食品学」

教科書　食生活論 第3版（朝倉書店）

成績評価方法と基準　課題への取り組み態度50%，期末試験50%，計100%

オフィスアワー　毎週月曜日17:00〜18:00 教育専門1号館3階 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．食生活とは？
2〜3．日本人の食生活の現状と食生活指針
4〜8．世界の食生活，食習慣と食文化
9〜12．食に関係する疾病（生活習慣病や食物アレルギー）
13〜15．食品の消費と流通
4〜15．は課題発表およびその準備の時間も含む．
16．定期試験

その他　環境教育該当科目

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	〜65	食品学	2	前期　金 3, 4	磯部由香（教育学部）

授業の概要　食品中に含有される主要な成分の化学的性質と特徴について講述する。また、加工・貯蔵などによる変化および成分間の反応、食品の安全と衛生に関する問題などについての知識を身につけることを目標とする

学習の目的　この授業を通して身につけた知識を活用できるよりよい消費者となることを目的とする。

学習の到達目標　食品学の基礎知識、読解力、分析力、コミュニケーション能力を身につける

予め履修が望ましい科目　栄養学概論

教科書
「食品学Ｉ」 食品の化学・物性と機能性 加藤保子ら編（南江堂）
「食の視点」今井勝行ら著（文理閣）

成績評価方法と基準　出席、課題、試験によって評価する

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00 教育学部1号館3階 食品学研究室

学習内容
1．食品の成分について
2．水分の性質と特徴
3．タンパク質の化学的性質と特徴
4．脂質の化学的性質と特徴
5．炭水化物の化学的性質と特徴
6．ビタミンの化学的性質と特徴
7．ミネラルの化学的性質と特徴
8．五大栄養素以外の成分の化学的性質と特徴
9．香気成分と化学的性質と特徴
10．色素成分と化学的性質と特徴
11．呈味成分と化学的性質と特徴
12．補足解説
13．食品学分野の文献講読
14．食品学分野の文献についての発表
15．食品学分野の文献についての解説
16 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	65-63	食品材料学	2	後期　月 3, 4	磯部由香（教育学部）

授業の概要　食品を植物性食品、動物性食品、加工食品などに分類し、それぞれの食品材料学的特性を知る。

学習の目的　この授業を通して身につけた知識を活用できるよりよい消費者となることを目的とする。

学習の到達目標　食品材料および加工食品に関する基礎知識、科学的思考力、分析力、コミュニケーション能力を身につける

予め履修が望ましい科目　栄養学概論、食品学

成績評価方法と基準　出席、レポート、報告会または試験によって評価する

オフィスアワー　毎週金曜日12：00〜13：00 教育学部1号館3階 食品学研究室

学習内容
1．ガイダンス（食品材料学とは、食品群の分類について）
2.食品加工の原理および食品保存の原理
3〜13．加工実習を通して、植物性食品および動物性食品についての特徴を知る。
14、15．3〜13の内容についてのまとめおよび発展学習

その他
「食品学」を受講しておくことが望ましい。
本授業は環境に関する資格「消費生活アドバイザー」取得に関わる分野を扱う科目である。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	65―62	調理科学	2	後期　月 3, 4	平島 円（教育学部）

授業の概要　食品のおいしさとは何かということを考慮し，調理操作や食品の調理性について科学的に把握する．食品の組織や成分が変化を起こすことについて理解を深め，調理技術の向上に役立たせる．

学習の目的　おいしく食べる工夫ができるようになる，調理における科学的な実験方法の知識を得る．また，食品や栄養に関する知識と調理科学を結びつけて考えられるようになる．

学習の到達目標　おいしさの要因について理解し，おいしく食べるための知識を身につける．また，各自で調理の科学性について調べることにより調理についての関心度を高める．

受講要件　「食品学」，「栄養学概論」を履修済であること

予め履修が望ましい科目　「調理実習I」または「消費生活科学実習II」，「食品材料学」

教科書　新食品・栄養科学シリーズ 調理学（化学同人），食品学 I（南江堂）

成績評価方法と基準　課題への取り組み態度50%，期末試験50%，計100%

オフィスアワー　毎週月曜日17:00〜18:00 教育専門1号館3階 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1〜4．おいしさとその測定方法について
5．調理操作について（非加熱操作と加熱操作）
6〜15．主要な食品とその調理法についての科学的解明（植物性食品，動物性食品，成分抽出素材）
6〜15．は課題発表とするため，その準備時間も含む．
16．定期試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	62-65	住居学概論	2	前期　金 5, 6	伊東 理恵（非常勤講師）

授業の概要
1．中学校家庭科に位置づけられている住居領域の指導に必要な基礎的知識を得ることを目的とする．
2．生活者の視点から住まいを見つめなおし，快適かつ安全に暮らしていくための問題意識をもち，さらに
これらをふまえ豊かな住まいのあり方について学ぶ．

学習の目的　家庭科などの教科において，住居分野についての指導ができる．

学習の到達目標
1．住まいに対する関心を持ち，生活者としてよりよい住生活を見つめる姿勢を養う．
2．住まいや住環境を快適に維持することがらについての指導ができる．

教科書　図解住居学編集委員会 『図解住居学1 住まいと生活(第2版）』 彰国社 （2011）

成績評価方法と基準　出席、レポート、期末試験により総合的に評価を行う。

学習内容
第1回 ：ガイダンス／住居学について
第2回 ：日本の住まい
第3回 ：世界の住まい
第4回 ：風土と住宅
第5回 ：住まいの維持管理
第6回 ：家族の変容と住まい
第7回 ：住まいと環境（1）（音環境、光環境）
第8回 ：住まいと環境（2）（暖かい住まい）
第9回 ：住まいと環境（3）（涼しい住まい）
第10回：住まいと環境（4）（換気と結露、シックハウス）
第11回：地域に住まう（1）地域コミュニティ
第12回：地域に住まう（2）住民参加とまちづくり
第13回：地域に住まう（3）居住地計画
第14回：新しい集住のかたち
第15回：これからの住まい

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	62-65	住生活環境論	2	後期　木 3, 4	伊東 理恵（非常勤講師）

授業の概要
1．中学校家庭科に位置づけられている住居領域の指導に必要な基礎的知識を得ることを目的とする。
2．高齢者問題や地球環境問題など、現代社会の抱える住まいと関わる問題に着目し、生活者の視点から住まいを見つめなおし、快適かつ安全に暮らしていくための問題意識をもつ。さらにこれらをふまえ豊かな住まいのあり方について学ぶ。

学習の目的　家庭科などの教科において、住居分野についての指導ができる。

学習の到達目標
1．持続可能な住まいに対する積極的な関心を持ち、生活者としてよりよい住生活を見つめる姿勢を養う。
2．住まいや住環境を快適に維持することがらや防災を考慮した住み方についての指導ができる。

受講要件　住居学概論を履修済みであること

教科書　『住まいのデザイン』（仮題） 朝倉書店、2015年発行予定

成績評価方法と基準　出席、レポート、期末試験により総合的に評価を行う。

学習内容
第1回 ：ガイダンス
第2回 ：環境と循環型社会
第3回 ：住まい方・ライフスタイル
第4回 ：地域生活と協働の住まいづくり
第5回 ：災害に備える
第6回 ：住まいのかたち
第7回 ：集合住宅の住まい方
第8回 ：人間工学
第9回 ：福祉住環境
第10回：住まいの設計と表現
第11回：住まいと住生活の管理
第12回：住まいの安全と健康
第13回：住まいの快適性
第14回：色彩計画
第15回：高齢者の住まい

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	65	保育学概論(実習含む)	2	前期　金 7, 8	林 未和子(教育学部)

授業の概要　家庭科教育における保育領域について考えるための基礎となる授業

学習の目的　保育をめぐる家庭や社会の今日的課題に対して関心を持つとともに、乳幼児期の子どもに積極的に関わろうとすることができるようになる。

学習の到達目標　家庭科の保育領域を教える際に、どのような点に留意すればよいか、自分なりの考えを持つことができる。

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
毎週金曜日16:30〜17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
具体的なテーマとしては、以下のような内容で講義を進めていく予定であるが、場合によっては、講義項目の変更・追加もあり得る。
1・2回家庭科教科書にみられる保育領域
3回育児関連情報(雑誌、パンフレットなど)と商品の検討
4・5回子どもの発達と生活(離乳食・おやつの試食)
6回乳幼児期の特徴と子どもへの関わり方
7・8回家庭科における保育領域の授業実践
9・10回保育実習の事前指導
11〜14回保育園または幼稚園での観察・体験実習
15回各班あるいは各自のテーマに基づき調べ学習

その他　中・高等学校「家庭」の教員免許に必要な科目であるため、受講生には、まず学校の教科としての家庭科に関心を持ってもらいたいと思っています。(注)幼稚園教諭や保育士をめざす学生に対応した授業ではありません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	〜64	家庭看護学	2	後期　火 3, 4	川瀬浩子（教育学部非常勤講師），宮﨑つた子（教育学部非常勤講師）

授業の概要　少子・高齢化社会となった現在の家族機能と発達課題に関する理解を深め、ライフサイクルからみた健康問題や健康管理について必要な知識と基本的な看護技術を習得する。本授業では、子どもから高齢者までの家庭看護について、講義と一部に演習（学外を含む）を取り入れながら学ぶ。

学習の目的　家族の「発達課題の達成」「健康的なライフスタイルの獲得」「健康問題への対応」を支援する能力を身につけることを目的とする。

学習の到達目標
① 健康・看護の定義を説明できる
② 家庭看護の役割を説明できる
③ 家族の発達課題を列挙できる
④ 家族の発達課題の達成を支援するための家庭看護を具体的に述べる
⑤ 健康的なライフスタイルが説明できる
⑥ 家族が健康的なライフスタイルを獲得することを支援するための家庭看護を具体的に述べる
⑦ 各ライフステージの健康問題を列挙できる
⑧ 各ライフステージの健康問題への対応を支援するための家庭看護を具体的に述べる
⑨ 家庭看護に必要な基本技術が説明できる
⑩ 家庭看護に必要な基本技術を実施する
⑪ 家族に対し、家庭看護を行う

成績評価方法と基準　個人・グループ発表25%、課題レポート提出15%、最終課題レポート60%、計100%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー
世話役 吉本敏子
毎週火曜日13:00〜14:30
教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 e-mail: ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp
Tel: 059-231-9304（内線9304）

学習内容
1）健康、看護、家庭看護；講義・演習
2）家族の機能と発達課題；講義・演習
3）ライフサイクルからみた健康問題と健康管理：小児期；講義・演習
4）〜5）学外演習（乳幼児：発育・発達を促す方法）
6）ライフサイクルからみた健康問題と健康管理：思春期・成熟期；講義・演習
7）ライフサイクルから見た健康問題と健康管理：更年期・老年期；講義・演習
8）健康的なライフスタイル（望ましい生活習慣）、健康行動論；講義・演習
9）家庭看護に必要な基本技術（1：家庭で測定可能な健康に関する測定項目の意義と方法）；講義・演習
10）家庭看護に必要な基本技術（2：身体の清潔）；講義・演習
11）家庭看護に必要な基本技術（3：食事の世話など）〜12）家庭看護に必要な基本技術（4：薬の飲ませ方など）；講義・学外演習
13）家庭看護に必要な基本技術（5：主要な症状とその危険性の見分け方、および看護）；講義・演習
14）家庭看護に必要な基本技術（6：救急の対応が必要な身体のサインとその対応）；講義・演習
15-16）課題発表

その他
学外実習について
第4〜5回（乳幼児：発育・発達を促す方法）は、実習場所の関係で、第4週の火曜日午前中を予定。
第11〜12回の家庭看護に必要な基本技術（3：食事の世話など）と（4：薬の飲ませ方など）は、高齢者疑似体験も加えて学外演習とし、火曜日の午前半日を予定。
これらの日程は、授業開始時調整する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	62-65	家庭電気・機械	2	後期　火 10, 11	松本金矢（教育学部技術科）

授業の概要　家庭で利用される電気・機械製品の原理や構造を理解するために、材料、構造、エネルギ等に関する基礎と、具体的な製品について講義する。

学習の目的　家庭における電気・機械・情報機器の基礎とメカニズムを理解する。

学習の到達目標　能動的な消費者を育成するための家庭における電気・機械・情報機器製品のメカニズムの基礎を理解する。

教科書　岡部巍編著「新家庭機械・電気」医歯薬出版

成績評価方法と基準　レポートおよび期末試験により総合評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学研究室

学習内容
第1回 家庭における電気・機械・情報機器とは
第2回 最近の家庭機器に関する話題（機器の性能と選択）
第3回 機械製図
第4回 家庭機器材料（鉄鋼材料・非鉄金属材料・非金属材料）
第5回 電気の基礎（電気回路と電力）
第6回 エネルギー変換（エネルギーと環境問題・地球温暖化）
第7回 食生活環境に関する家電機器（冷蔵庫と冷凍サイクル、オゾンホール）
第8回 食生活環境に関する家電機器（調理機器と加熱の原理、オール電化）
第9回 住生活環境に関する家電機器（空調機器、照明機器と発光の原理）
第10回 住生活環境に関する家電機器（音響・映像機器、記録媒体と人間の視覚・聴覚）
第11回 レポート発表
第12回 住生活環境に関する家電機器（情報・通信機器と周辺装置）
第13回 衣生活環境に関する裁縫機器と洗濯・乾燥機器）
第14回 その他の家電機器（自動車、発電装置）
第15回 その他の家電機器（浄化設備、コジェネレーションシステム）
第16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	65-62	情報化社会論	2	前期　火 9, 10	奥村 晴彦（教育学部）

授業の概要　メールのマナー，ウイルス，迷惑メール，情報教育，情報セキュリティ，情報モラル，著作権，特許，インターネットの精神，ハッカー倫理，フリーソフトウェア運動とオープンソース，不正アクセス禁止法，個人情報保護法，プロバイダ責任制限法，P2Pソフトといった話題を通じて，情報と社会とのかかわりについて考える。

成績評価方法と基準　Moodle上の課題で評価する。

オフィスアワー
私のホームページにある予定表で空いている時間ならいつでもどうぞ。
Moodleやメールでも質問してください。

学習内容
1.情報化社会
2.コンピュータの歴史
3.インターネットの歴史
4.Webの歴史
5.Unixの歴史
6.MacとPCの歴史
7.オープンソース
8.Creative Commons
9-10.著作権法
11.ファイル共有ソフト
12.特許
13.住基カードと住基ネット
14-15.個人情報保護法
16.情報セキュリティ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
消費生活科学コース選択必修科目	62-65	教育と福祉	2	後期　火 5, 6	栗田 季佳，荒川 哲郎

授業の概要　障害者を取り巻く環境や制度・施策について概観し、共生社会を実現するための今日的課題について、受講者を中心に議論する。障害と福祉に関する現場へ訪問する。

学習の目的　障害者の教育と福祉の現状を知り、ともに社会に暮らす者として社会のあり方について考える。

学習の到達目標
障害者と共に生きる社会のあり方について自らの考えを深める。

教科書　授業で適宜指定する。

成績評価方法と基準　出席、授業中の取り組み、及びレポート

オフィスアワー　木曜：17：00〜18：00

学習内容
授業計画
第1回-2回
障害者福祉・教育の歴史と現状
第3-4回
障害者に対する差別と権利
第5-6回
地域生活と自立支援
第7-11回
共生に向けての課題
第12-15回
課題解決のための議論と提案
第16回
まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程共通科目	67	人間発達科学入門	2	前期　水 3, 4	松浦 均（教育学部学校教育講座）

授業の概要　人間発達科学コースとして，これらの内容を4年間学んでいくにあたり，基礎的な内容について学習するとともに，その基礎となる力を身につけることを目指す。

学習の到達目標　人間発達科学コースでの4年間の学習を進めていく上で，必要となる基礎的な知識・技能を獲得することを目指す。

受講要件　人間発達科学コース1年生

成績評価方法と基準　授業での活動をもとに総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日13時～14時30分 教育学部社会心理学研究室(会議のある月曜日を除く）

学習内容
互いのことを知り合おう。
人間発達科学コースの先生方について知ろう。
共同しながら活動を進めていくには？
自らの学修成果を発表しよう。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース基本科目	64-66	人間発達実地研究 II	2	前期集中	佐藤 年明

授業の概要　The University of Auckland (New Zealand)が提供する大学教育への参加プログラムと幼稚園・小学校・中学校・高等学校訪問、園児児童生徒及び教職員との交流を経験する。

学習の目的　日本とは先進資本主義国としての共通性も持ちながら、一方で成熟した多文化教育など異なる側面も持つNew Zealandの高等教育及び幼児教育・初等中等教育の実際から実地で学ぶことにより、社会・文化と教育の関係、学校教育における教師の指導と児童生徒の自主性形成の関係などについて考察し、教師を含め教育専門家として社会に出ていく上での糧とすること。

学習の到達目標
・英語圏での日常生活において不自由のないコミュニケーション能力を形成すること（事前準備を含めて）。
・The University of Aucklandにおける講義・演習参加及び幼・小・中・高訪問において、疑問や意見を主体的に表明し、現地の人々との交流を通じて学びを深めること。
・英語による思考をベースとして教育学上の諸問題を考察することができる基礎能力を形成すること。

受講要件　原則として2014年度中に「2015年Auckland教育研修」の参加申込済みであるものに限るが、参加枠（10～15名）に余裕がある場合は2015年度に入っても追加申込と本授業受講を受け付ける。

教科書　なし。

成績評価方法と基準　事前学習20%、現地研究への参加50%、帰国後の「学校教育最先端ゼミナール」における帰国報告と総括レポート30%

オフィスアワー　木曜2・3・4コマ

学習内容
・4月当初に、今年度オークランド研修参加者（確定）のミーティングを行なう。
・5月頃、オークランド大学教育学部副学部長Dr.John Hopeが来学され、New Zealandの文化・教育とオークランド大学についてのガイダンスが行なわれる予定である。
・それ以降9月の出発直前までに何度かのミーティングを行ない、現地研修のためのパンフレットづくり、New Zealandの文化と教育に関する事前学習、演習を実施する。
・現地研修は9月上旬～中旬の約10日間である。その詳細は、現地との交渉を経て事前学習期間中に発表する。

その他　オークランド大学教育研修参加費として、概算30万円程度が必要である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程共通科目		人間発達実地研究III	2	通年	松浦 均(教育学部学校教育講座), 南 学(同学校教育講座), 中西良文(同学校教育講座), 松本金矢(同技術教育講座)

授業の概要　三重県志摩市の幼・小・中学校で4日間の教師見習いをする。また、その前後に授業案の作成・リフレクションを行う。

学習の到達目標　大学での学習と現場での実践を往還することにより、知識と実践とを結びつける力を身につけるのが、究極的な目標である。

受講要件　意欲とコミュニケーション力。

予め履修が望ましい科目　教師と生徒の心理II およびI、教育心理学、学習心理学、社会心理学、クリティカルシンキング、コミュニケーション実習

教科書　指定はしないが、適宜、必要な文献にはあたって欲しい。

成績評価方法と基準　授業案立案の際の活動状態、立案された授業案、実地先での活動状態、実地研究後に提出するレポート、事後リフレクションを総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　担当教員の予定が空いているときは、いつでも対応する。

学習内容
・実地研究の説明
・授業案の作成・ブラッシュアップ
・授業案の検討
・実地での実践活動
・リフレクション

その他　この授業は通年開講であるが、9月に行う現場での活動に向け、5月頃から授業案作成が始まるため、履修申請・受講には注意すること！。5月頃に掲示による案内を行うため、注意して見ておいてください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程共通科目	～67	人間発達実地研究Ⅴ	2	後期　月7,8	林朝子（教育学部）・服部明子（教育学部）・徐川（天津師範大学外国人特任教員）

授業の概要　学校現場における多文化共生について考える基礎力を身につける。小学校に在籍する外国人児童との交流を行う予定である。

学習の目的　日本語を母語としない外国人児童が学校教育の現場で置かれている状況と彼らの気持ちを知り、彼らに必要とされる教育について考える基盤を作る。

学習の到達目標　多文化共生につながる実践が可能となる基礎力を身につける。

受講要件
日本語教育学概論を履修済のこと。
学外へ見学に行くので、学生教育研究災害障害保健に加入しておくこと。

成績評価方法と基準　レポート、積極的な態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　林：毎週木曜日昼休み（教育学部1号館4階・林研究室）

学習内容
1）授業説明、三重県の外国につながる子どもたちの現状
2）多文化共生
3）学校における多文化共生
4）中国の文化と教育①
5）中国の文化と教育②
6）小学校訪問①
7）振り返り①
8）学生発表（日中文化比較）①
9）学生発表（同上）②
10）小学校訪問②
11）振り返り②
12）クラブ活動の企画①
13）クラブ活動の企画②
14）小学校訪問③
15）振り返り③とまとめ

その他　小学校児童数との関係で、受講生は15名程度に限定することがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目		心理統計法	2	前期　金3,4	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
この授業では，心理統計学について学ぶという大きなテーマについて，実際に調査データを集め，分析し，それをまとめるという一連の流れについても学習をしながら進めていきたいと考えています。
統計という「数学」を扱った授業は，苦手意識を感じる人も多いかもしれませんが，できるかぎり「ああ，このために高校まで数学を勉強してきたのか」と思えるような授業にしたいと考えています。
そのためのポイントとして考えているのが，「発見」ということです。心理統計学について学ぶという際にも，単に知識を伝達するのではなく，できるだけみなさんに「発見」をしていただく中で学んでいければと思っています(「発見学習」)。また，実際にデータを集め，分析していただくところでも，これまで誰も知らなかった「発見」を見つける活動にしていきたいと考えています。
なお，学習を進める上では，グループの活動を中心として，進めていきたいと考えています。
この授業は3コマ目の心理データ解析（松浦先生ご担当）と連動して進めていきますので、両者を一緒に受講されることを「強く」お勧めします。

学習の目的
心理学研究の中で用いられている統計的手法がどのようなものか理解し，そこで示されている結果を正しく理解することができる
自らがデータ収集・データ分析・結果の記載を行うときの適切な方法を理解する
（心理統計の授業を通して数学の有用性・面白さに気づく）

学習の到達目標
まずは，心理統計学の内容を理解し，論文購読において出会う統計的手法を正しく読み取れるようになることや，（特にセットとなる授業である「心理データ解析」の授業で）自らデータ収集と分析，そして分析結果の記述をする際に，適切にそれらができるようになることが，学生のみなさんに到達していただきたい目標です。
しかし，理想的には，それを越えて「数学について学ぶ意義・面白さ」について語れるようになっていただきたいと思います。近年，よくいわれているとおり，子どもの「数学嫌い」が取り上げられます。こういった子どもを目の前にしたときに，「なぜ数学を学ばないといけないのか」についてきちんと語れるかどうかが重要になってきます。しかし，教師自身がそれを感じられないと語ることができません。ぜひ，「数学について学ぶ意義（有用性・面白さ）」を見つけていただければと思います。

受講要件　「やってみようかな」という気持ちと、物事に真剣に向き合って最後までやりきる姿勢

予め履修が望ましい科目
心理学Ⅰ・Ⅱ，PBLセミナー，コミュニケーション実習
そして、心理データ解析はセットになる科目ですので、この科目の受講を強く求めます

教科書　よくわかる心理統計 山田剛史・村井潤一郎著 ミネルヴァ書房

成績評価方法と基準　レポートと小テスト，出席によって評価を行います。

オフィスアワー　金曜日9:00～10:30

学習内容
1．イントロダクション：授業概要の説明，グループ分け
2．心理学の研究に触れる（「心理学研究を行う」とは？，様々な研究法，データ解析はなぜ必要なのか？）
3．データとは？(様々なデータの特徴)
4．データを分析するとは？（自己流で分析してみる）
5．データの代表値
6．そう！簡単「相関」（1）
7．そう！簡単「相関」（2）
8．検定の考え方とt検定
9．隅々まで効くデータ解析に分散分析
10.大変な多変量解析（1）（重回帰分析）
11.大変な多変量解析（2）（因子分析）
12, 尺度を信頼せい！（信頼性）そして、妥当性
13.ノンパラメトリックな検定
14.心理学研究のまとめかた
15.心理統計、陥りやすい罠

その他　授業は小グループを組んで進めていきますので、良好なグループ活動を意識しながら学習を進めていって下さい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	64~66	心理データ解析法	2	前期　金 5, 6	松浦 均（教育学部）

授業の概要
心理学研究の方法論として調査法および統計的処理を学ぶ．
質問紙調査の作成および実施法を学ぶ．

学習の目的　心理学研究の方法論として極めて重要な調査法を修得し，調査票（質問紙）の作成から，実施，データ入力，データ処理，統計的分析までの一連の過程を学び，卒業研究等で調査を行う場合の基礎的知識の習得を目指す．

学習の到達目標
質問紙調査を実施すること．
データ入力およびデータ処理ができるようになること．
基本的な統計的処理を修得すること．
結果の解釈ができること．
調査法の概要を理解すること．

受講要件　同時期に開講される「心理統計法」も履修すること

予め履修が望ましい科目　同時期に開講される「心理統計法」も履修しておくこと

教科書　心理学基礎演習Vol.2「質問紙調査の手順」 小塩真司・西口利文編 ナカニシヤ出版

成績評価方法と基準　出席30%，課題遂行およびレポート70%

オフィスアワー　会議のない水曜日の午後

学習内容
1．心理学研究法の概要
2．質問紙調査法の概要の説明
3．質問紙調査の実施に向けての準備等，諸事項の説明
4．質問紙調査の作成（準備）
5．質問紙調査の作成（完成）
6．質問紙調査の実施
7．データ入力・整理
8．データ処理・データ解析（記述統計）
9．データ処理・データ解析（推測統計）
10．統計分析の説明
11．統計分析結果の解釈
12．考察のしかた
13．質問紙調査報告の準備
14．全体発表会
15．報告書の作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	～66	行動科学基礎実験	2	後期　月 9, 10	南 学（教育学部人間発達科学課程）

授業の概要　心理学では科学的にデータを採集することが求められます。この授業では、心理学における実験法、観察法および心理測定法の基本を学ぶことを目的とします。授業はグループによる実習形式を中心に進められます。いくつかのテーマについて、説明とデータ収集、結果の整理とレポートの作成をおこなっていきます。

学習の到達目標　心理学論文の型の体得、データ収集の習得

予め履修が望ましい科目　心理統計法

教科書　参考文献などは授業時に紹介する

成績評価方法と基準　出席は必須。実習のレポート、グループでの協力度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週金曜日7, 8時限（南研究室）

学習内容
【昨年度の授業の流れ】
1～5．心理学における実験計画とは
6～8．知覚の測定
9～10．意欲の測定
11～12．記憶の測定
13～14．認知の測定
15．総合講評

その他
文献講読、レポート作成は授業時間外におこなうことが必要となります。
この授業に関するWEBページ
http://www.minamis.net/kougi.html

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	66, 65, 64	文献購読法	2	前期　火 7, 8	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　ルソーの『エミール』を読み、人間形成の本質について考える。さらに、ルソーに関する近年の論文を読むことで、ルソーのもつ現代的意義について考察する。

学習の目的　現代の教育を問いなおす。

学習の到達目標　現代の教育を相対化して考察する力。

受講要件　人間形成への関心。

教科書　ルソー『エミール』

成績評価方法と基準　小レポート20%、発表80%、計100%。

オフィスアワー　火曜日10：30～12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①導入
②ルソーについて
③『エミール』（自然とは）
④『エミール』（子どもと大人の関係）
⑤『エミール』（社会とは）
⑥『エミール』（習慣とは）
⑦『エミール』（経験とは）
⑧『エミール』（理性とは）
⑨『エミール』（両親とは）
⑩ルソーに関する論文（子ども観）
⑪ルソーに関する論文（母性）
⑫ルソーに関する論文（成長）
⑬ルソーに関する論文（宗教観）
⑭ルソーに関する論文（解釈）
⑮ルソーの現代的意義
⑯まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	67-	授業観察・分析法	2	後期　木 3, 4	森脇 健夫

授業の概要　授業の臨床的な研究。授業の記録・分析、また授業づくりを通して教師の仕事の実際に触れる。

学習の目的　授業という現象の本質を「みる」ことができるようになるとともに、授業をつくってみることをとおして、教師の仕事の一端に触れ、その価値と意味を知る。

学習の到達目標
1 授業の観察の基本的なマナーを身につける
2 エピソード記述の方法論を身につける
3 授業の基本要素（教師、子ども、材）に視点を置いた授業分析が行えるようになる
4 ストップモーション方式による授業の検討について、その方法論を身につける
5 反省的実践家としての教師の思考をたどることによって、授業中の教師の多面的、多角的な思考の あり方と指導の背景にある理由（根拠）の存在を推測できる。
6 授業づくりの基本的な方法論（教材づくり、授業案づくり）を会得する。
7 協同作業としての指導案づくりを通して、お互い知恵を出し合いながら一つの目的を達成すること の楽しさを感じる
8 実際の授業の施行において授業案と実際の授業とのずれをとらえ、その原因を追究し、次に生かし ていく方策をたてることができる。

教科書　講義で指定

成績評価方法と基準　授業記録レポート、および平常点

オフィスアワー　ムードルを設置します。

学習内容
1 授業を「みる」とは？「みる」ことと「みえる」こと
2 「見る」から「観る」へ
3 授業の中で「みえる」もの
4 授業記録の方法・・・TC記録の生誕と科学主義
5 授業記録の方法・・・TC記録の限界
6 ストップモーション方式による授業検討
7 エピソード記録
8 授業の参観と記録の作成
9 授業記録の共有
10 授業者を招いての授業検討
11 教材・授業づくり1・・・問題意識の醸成
12 教材・授業づくり2・・・教科書や先行実践の分析
13 教材・授業づくり3・・・指導案の作成
14 実験授業
15 実験授業の記録作成と分析
16 振り返り

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	64〜65	人間発達科学研究演習 I	1	前期　月 9, 10	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行い、卒業論文作成に向けての研究指導を行う。

学習の目的　卒業論文のテーマ設定と執筆に向けて，基礎的な知識と技術を習得すること。

学習の到達目標　自分の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマを設定し，理論的・実証的に記述・説明できるようになること。

受講要件　原則として学校経営学研究室所属学生に限定する

予め履修が望ましい科目　学校経営学，教育経営学特別講義

教科書　教科書は使用しない。参考図書や参考資料は授業中に随時紹介する。

成績評価方法と基準　毎回の授業における発表から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
個人の研究発表を中心として以下のような内容で進める。
1回：演習の方針や進め方の概要を説明する。
2〜3回：過去の卒業生のゼミ発表資料や卒業論文をもとに、卒業論文執筆に向けたイメージをつかむ。
4〜7回：各自の問題関心に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、研究の方法論や手続きについて説明する。
8〜14回：引き続き、各自の研究関心に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、基本的な概念や研究枠組みについて検討を行う。
15回：必要に応じて個別的な指導を行う
16回：個別課題の提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	65	人間発達科学研究演習 I	1	前期　月 9, 10	大日方 真史（教育学部）

授業の概要　自らの課題を明確化しつつ、生活指導研究を進める。

学習の目的　卒業論文の作成に向けた構えを形成すること。

学習の到達目標　研究を進め、研究の成果を記述できること。

教科書　適宜指示する。

成績評価方法と基準　発表、討論への参加等から総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜12:50、研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回〜第7回 課題の設定
第8回〜第15回 文献の批評、研究発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	65, 64	人間発達科学研究演習 I	1	前期　火 9, 10	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　日常的な営みである教育にさまざまな疑問符を投げかけその本質を捉えなおす作業を論文指導を含めながら進める。

学習の目的　自身の関心を鮮明化し、探究する。

学習の到達目標　自身の関心に基づいて発言・執筆する能力を身につける。

受講要件　教育哲学分野に関心を持つこと。

予め履修が望ましい科目　「教育の哲学」

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　発表50%、レポート50%、計100%。ただし、80%以上出席したことを条件とする。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育と哲学の関係を哲学する（概論）
②教育と哲学の関係を哲学する（各論）
③人間と教育の関係を哲学する（概論）
④人間と教育の関係を哲学する（各論）
⑤子供と教育の関係を哲学する（概論）
⑥子供と教育の関係を哲学する（各論）
⑦世界と教育の関係を哲学する（概論）
⑧世界と教育の関係を哲学する（各論）
⑨歴史と教育の関係を哲学する（概論）
⑩歴史と教育の関係を哲学する（各論）
⑪教師と教育の関係を哲学する（概論）
⑫教師と教育の関係を哲学する（各論）
⑬現代教育の条件を哲学する（概論）
⑭現代教育の条件を哲学する（各論）
⑮まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	64, 65	人間発達科学研究演習 I	1	前期　木 9, 10	松浦均（教育学部）

授業の概要
社会心理学および教育心理学を中心としながら，その周辺領域，関連領域も含めて心理学研究の方法論を学び，各自が卒業研究に向けて研究テーマを見つけ検討していく．
授業はゼミ形式で実施する．1年間のゼミ共同研究を立案計画し，研究テーマに基づいてデータ収集，データ分析を行う．また文献講読をベースに議論を深めながら進めていく．

学習の目的
心理学，社会心理学，教育心理学の研究や実践を行いながら，心理学の研究方法論を習得する．
ゼミ形式の授業のなかで，議論の進め方，論文の読み方書き方，データの収集法，分析方法，発表の仕方などを学習する．

学習の到達目標
社会的行動を心理学的に説明できるようなモノの見方，
社会心理学研究に関する基本的な理解，
積極的な心理学的問題設定の視点，
卒業研究の実施と完成．

受講要件　社会心理学研究室に配属された学生対象の授業

予め履修が望ましい科目　社会心理学等，教育心理学関係の科目全般

教科書　原岡一馬著 心理学研究の基礎 ナカニシヤ出版 他

成績評価方法と基準　授業への取り組み，日常的な活動，100%

オフィスアワー　本授業（＝ゼミ）で対応します

学習内容
半期を通して．
心理学，とくに社会心理学を中心に据えた心理学研究法の習得と理解．
文章作成，言語表現，プレゼンテーションに関する演習を行う．
心理学に関する研究方法論について多数の文献を講読する．
社会心理学文献講読をしながら研究論文の読み方書き方などを学習する．
フィールドや社会へ出て見聞を広め，感性を磨く．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目		人間発達科学研究演習 I	1	前期　木 9, 10	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
「学習」を生活場面における全ての「学び」であると広くとらえ、「学び」の背景にある心理学的プロセスを、研究活動を通じて理解することを目指す。そのために、まず文献の講読を通じて、これまでの研究における知見に触れ、そこから一般化可能な知識を獲得する。そして、研究活動を通じて、自らの視点から現実場面での「学び」を理解できる能力を身につけることをめざすとともに、研究を実施するための方法を身につける。さらに、自らが「学び」に関わり、その「学び」をよりよいものにするための実践的な知識の修得も目指したい。
また、人間行動における「動機づけ」の問題も考えて欲しい。

学習の目的　学習の心理学的プロセスの理解と実践スキルの獲得、心理学研究法に関する知識の獲得

学習の到達目標　上記の活動を通して、実生活における様々な場面において自分自身が「より良く学ぶ」方法を身につけ、「モティベーショナル」に振る舞えるようになってもらえればと考えている。また、研究方法の基礎も身につけて欲しい。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教育心理学・学習心理学・学習心理学実践技法・モティベーションサイエンス

教科書　授業内で適宜指定する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
・学習心理学に関する文献購読
・心理学的研究法の学習
・学習心理学に関する教員との共同研究の実施
・学習心理学に関するディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	63-64	人間発達科学研究演習 I	1	前期　木 9, 10	南 学（教育学部人間発達科学課程）

授業の概要　成人の思考活動に関する研究領域を中心に、認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解を目的とする。具体的には、当該領域の文献講読と各自の学習・研究成果の報告を通じ、相互に研鑽していく。

学習の到達目標　認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解

予め履修が望ましい科目　心理学、心理統計法、行動科学基礎実験

教科書　授業時に指示する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
心理学研究の方法
文献検索と文献講読
データ分析
論文執筆

その他　無断欠席は認めない。積極的に参加し、相互に高めあうことを期待する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	～65	人間発達科学研究演習 I	1	前期　木 9, 10	瀬戸美奈子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　子どもの発達に関して、臨床実践と研究の両面から理解する。そこから得られた各自の問題意識をもとに卒業研究に向けて研究テーマを検討していく。具体的には、事例研究、文献講読を行い、子どもの発達や臨床的な問題について討議しながら進めていく。

学習の目的　事例研究、調査研究の方法論が理解できる。子どもの発達について臨床的な視点から理解できる。

学習の到達目標
心理学の研究法を理解し、論文の読み方、書き方が理解できる。
自分の問題意識から研究テーマを卒業論文を完成させる。

予め履修が望ましい科目　教育臨床、発達臨床、教育心理学

教科書　授業時に適宜紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表などを総合的に評価する。

学習内容
子どもの臨床事例の検討
子どもの発達に関する論文の講読
子どもの発達臨床に関するトピックについてのディスカッションなど

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	64～65	人間発達科学研究演習 II	1	後期　月 9, 10	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行い、卒業論文作成に向けての研究指導を行う。

学習の目的　卒業論文のテーマ設定と執筆に向けて，基礎的な知識と技術を習得すること。

学習の到達目標　自分の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマを設定し，理論的・実証的に記述・説明できるようになること。

受講要件　原則として学校経営学研究室所属学生に限定する

予め履修が望ましい科目　学校経営学，教育経営学特別講義

教科書　教科書は使用しない。参考図書や参考資料は授業中に随時紹介する。

成績評価方法と基準　毎回の授業における発表から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
個人の研究発表を中心として以下のような内容で進める。
1回：演習の方針や進め方の概要を説明する。
2～3回：各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行う。
4～7回：引き続き各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、研究上の意義や課題について検討を行う。
8～14回：引き続き各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、卒業研究の総仕上げに向けた検討を行う。
15回：必要に応じて個別的な指導を行う
16回：個別課題の提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	65	人間発達科学研究演習 II	1	後期　月 9, 10	大日方 真史（教育学部）

授業の概要　自らの課題を明確化しつつ、生活指導研究を進める。

学習の目的　卒業論文の作成に向けた構えを形成すること。

学習の到達目標　研究を進め、研究の成果を記述できること。

教科書　適宜指示する。

成績評価方法と基準　発表、討論への参加等から総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容
第1回～第6回 研究法の探究
第7回～第10回 文献の批評と整理
第11回～第15回 研究発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	64-65	人間発達科学研究演習 II	1	後期　木 9, 10	南 学（教育学部人間発達科学課程）

授業の概要　成人の思考活動に関する研究領域を中心に、認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解を目的とする。具体的には、当該領域の文献講読と各自の学習・研究成果の報告を通じ、相互に研鑽していく。

学習の到達目標　認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解

予め履修が望ましい科目　心理学、心理統計法、行動科学基礎実験

教科書　授業時に指示する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
心理学研究の方法
文献検索と文献講読
データ分析
論文執筆

その他　無断欠席は認めない。積極的に参加し、相互に高めあうことを期待する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	～65	人間発達科学研究演習 II	1	後期　木 9, 10	瀬戸美奈子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　子どもの発達に関して、臨床実践と研究の両面から理解する。そこから得られた各自の問題意識をもとに卒業研究に向けて研究テーマを検討していく。具体的には、事例研究、文献講読を行い、子どもの発達や臨床的な問題について討議しながら進めていく。

学習の目的　事例研究、調査研究の方法論が理解できる。子どもの発達について臨床的な視点から理解できる。

学習の到達目標
心理学の研究法を理解し、論文の読み方、書き方が理解できる。
自分の問題意識から研究テーマを卒業論文を完成させる。

予め履修が望ましい科目　教育臨床、発達臨床、教育心理学

教科書　授業時に適宜紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表などを総合的に評価する。

学習内容
子どもの臨床事例の検討
子どもの発達に関する論文の講読
子どもの発達臨床に関するトピックについてのディスカッションなど

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	65, 64	人間発達科学研究演習 II	1	後期　火 9, 10	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　日常的な営みである教育にさまざまな疑問符を投げかけその本質を捉えなおす作業を論文指導を含めながら進める。

学習の目的　自身の関心を鮮明化し、探究する。

学習の到達目標　自身の関心に基づいて発言・執筆する能力を身につける。

受講要件　教育哲学分野に関心を持つこと。

予め履修が望ましい科目　「教育の哲学」

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　発表50%、レポート50%、計100%。ただし、80%以上出席したことを条件とする。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30～12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育と哲学の関係を哲学する（概論）
②教育と哲学の関係を哲学する（各論）
③人間と教育の関係を哲学する（概論）
④人間と教育の関係を哲学する（各論）
⑤子供と教育の関係を哲学する（概論）
⑥子供と教育の関係を哲学する（各論）
⑦世界と教育の関係を哲学する（概論）
⑧世界と教育の関係を哲学する（各論）
⑨歴史と教育の関係を哲学する（概論）
⑩歴史と教育の関係を哲学する（各論）
⑪教師と教育の関係を哲学する（概論）
⑫教師と教育の関係を哲学する（各論）
⑬現代教育の条件を哲学する（概論）
⑭現代教育の条件を哲学する（各論）
⑮まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	64, 65	人間発達科学研究演習 II	1	後期　木 9, 10	松浦均（教育学部）

授業の概要
社会心理学および教育心理学を中心としながら，その周辺領域，関連領域も含めて心理学研究の方法論を学び，各自が卒業研究に向けて研究テーマを見つけ検討していく．
授業はゼミ形式で実施する．1年間のゼミ共同研究を立案計画し，研究テーマに基づいてデータ収集，データ分析を行う．また文献講読をベースに議論を深めながら進めていく．

学習の目的
心理学，社会心理学，教育心理学の研究や実践を行いながら，心理学の研究方法論を習得する．
ゼミ形式の授業のなかで，議論の進め方，論文の読み方書き方，データの収集法，分析方法，発表の仕方などを学習する．

学習の到達目標
社会的行動を心理学的に説明できるようなモノの見方，
社会心理学研究に関する基本的な理解，
積極的な心理学的問題設定の視点，
卒業研究の実施と完成．

受講要件　社会心理学研究室に配属された学生対象の授業

予め履修が望ましい科目　社会心理学等，教育心理学関係の科目全般

教科書　原岡一馬著 心理学研究の基礎 ナカニシヤ出版 他

成績評価方法と基準　授業への取り組み，日常的な活動，100%

オフィスアワー　本授業（＝ゼミ）で対応します

学習内容
半期を通して．
心理学，とくに社会心理学を中心に据えた心理学研究法の習得と理解．
文章作成，言語表現，プレゼンテーションに関する演習．
社会心理学文献講読をしながら研究論文の読み方書き方などの学習．
フィールドや社会へ出て見聞を広め，感性を磨く．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目		人間発達科学研究演習 II	1	後期　木 9, 10	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
「学習」を生活場面における全ての「学び」であると広くとらえ、「学び」の背景にある心理学的プロセスを、研究活動を通じて理解することを目指す。そのために、まず文献の講読を通じて、これまでの研究における知見に触れ、そこから一般化可能な知識を獲得する。そして、研究活動を通じて、自らの視点から現実場面での「学び」を理解できる能力を身につけることをめざすとともに、研究を実施するための方法を身につける。さらに、自らが「学び」に関わり、その「学び」をよりよいものにするための実践的な知識の修得も目指したい。
また、人間行動における「動機づけ」の問題も考えて欲しい。

学習の目的　学習の心理学的プロセスの理解と実践スキルの獲得、心理学研究法に関する知識の獲得

学習の到達目標　上記の活動を通して、実生活における様々な場面において自分自身が「より良く学ぶ」方法を身につけ、「モティベーショナル」に振る舞えるようになってもらえればと考えている。また、研究方法の基礎も身につけて欲しい。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教育心理学・学習心理学・学習心理学実践技法・モティベーションサイエンス

教科書　授業内で適宜指定する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
・学習心理学に関する文献購読
・心理学的研究法の学習
・学習心理学に関する教員との共同研究の実施
・学習心理学に関するディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	64~65	人間発達科学研究演習 III	1	前期　月 9, 10	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行い、卒業論文作成に向けての研究指導を行う。

学習の目的　卒業論文のテーマ設定と執筆に向けて，基礎的な知識と技術を習得すること。

学習の到達目標　自分の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマを設定し，理論的・実証的に記述・説明できるようになること。

受講要件　原則として学校経営学研究室所属学生に限定する

予め履修が望ましい科目　学校経営学，教育経営学特別講義

教科書　教科書は使用しない。参考図書や参考資料は授業中に随時紹介する。

成績評価方法と基準　毎回の授業における発表から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
個人の研究発表を中心として以下のような内容で進める。
1回：演習の方針や進め方の概要を説明する。
2〜3回：過去の卒業生のゼミ発表資料や卒業論文をもとに、卒業論文執筆に向けたイメージをつかむ。
4〜7回：各自の問題関心に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、研究の方法論や手続きについて説明する。
8〜14回：引き続き、各自の研究関心に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、基本的な概念や研究枠組みについて検討を行う。
15回：必要に応じて個別的な指導を行う
16回：個別課題の提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	65, 64	人間発達科学研究演習III	1	前期　火 9, 10	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　日常的な営みである教育にさまざまな疑問符を投げかけその本質を捉えなおす作業を論文指導を含めながら進める。

学習の目的　自身の関心を鮮明化し、探究する。

学習の到達目標　自身の関心に基づいて発言・執筆する能力を身につける。

受講要件　教育哲学分野に関心を持つこと。

予め履修が望ましい科目　「教育の哲学」

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　発表50%、レポート50%、計100%。ただし、80%以上出席したことを条件とする。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育と哲学の関係を哲学する（概論）
②教育と哲学の関係を哲学する（各論）
③人間と教育の関係を哲学する（概論）
④人間と教育の関係を哲学する（各論）
⑤子供と教育の関係を哲学する（概論）
⑥子供と教育の関係を哲学する（各論）
⑦世界と教育の関係を哲学する（概論）
⑧世界と教育の関係を哲学する（各論）
⑨歴史と教育の関係を哲学する（概論）
⑩歴史と教育の関係を哲学する（各論）
⑪教師と教育の関係を哲学する（概論）
⑫教師と教育の関係を哲学する（各論）
⑬現代教育の条件を哲学する（概論）
⑭現代教育の条件を哲学する（各論）
⑮まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース基本科目	64〜65	人間発達科学研究演習III	1	前期　木 9, 10	松浦均（教育学部）

授業の概要
社会心理学および教育心理学を中心としながら，その周辺領域，関連領域も含めて心理学研究の方法論を学び，各自が卒業研究に向けて研究テーマを見つけ検討していく．
授業はゼミ形式で実施する．1年間のゼミ共同研究を立案計画し，研究テーマに基づいてデータ収集，データ分析を行う．また文献講読をベースに議論を深めながら進めていく．

学習の目的
心理学，社会心理学，教育心理学の研究や実践を行いながら，心理学の研究方法論を習得する．
ゼミ形式の授業のなかで，議論の進め方，論文の読み方書き方，データの収集法，分析方法，発表の仕方などを学習する．

学習の到達目標
社会的行動を心理学的に説明できるようなモノの見方，
社会心理学研究に関する基本的な理解，
積極的な心理学的問題設定の視点，
卒業研究の実施と完成．

受講要件　社会心理学研究室に配属された学生対象の授業

予め履修が望ましい科目　社会心理学等，教育心理学関係の科目全般

教科書　原岡一馬著 心理学研究の基礎 ナカニシヤ出版 他

成績評価方法と基準　授業への取り組み，日常的な活動，100%

オフィスアワー　本授業（＝ゼミ）で対応します

学習内容
半期を通して．
心理学，とくに社会心理学を中心に据えた心理学研究法の習得と理解．
文章作成，言語表現，プレゼンテーションに関する演習を行う．
心理学に関する研究方法論について多数の文献を講読する．
社会心理学文献講読をしながら研究論文の読み方書き方などを学習する．
フィールドや社会へ出て見聞を広め，感性を磨く．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目		人間発達科学研究演習III	1	前期　木 9, 10	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
「学習」を生活場面における全ての「学び」であると広くとらえ、「学び」の背景にある心理学的プロセスを、研究活動を通じて理解することを目指す。そのために、まず文献の講読を通じて、これまでの研究における知見に触れ、そこから一般化可能な知識を獲得する。そして、研究活動を通じて、自らの視点から現実場面での「学び」を理解できる能力を身につけることをめざすとともに、研究を実施するための方法を身につける。さらに、自らが「学び」に関わり、その「学び」をよりよいものにするための実践的な知識の修得も目指したい。
また、人間行動における「動機づけ」の問題も考えて欲しい。

学習の目的　学習の心理学的プロセスの理解と実践スキルの獲得、心理学研究法に関する知識の獲得

学習の到達目標　上記の活動を通して、実生活における様々な場面において自分自身が「より良く学ぶ」方法を身につけ、「モティベーショナル」に振る舞えるようになってもらえればと考えている。また、研究方法の基礎も身につけて欲しい。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教育心理学・学習心理学・学習心理学実践技法・モティベーションサイエンス

教科書　授業内で適宜指定する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
・学習心理学に関する文献購読
・心理学的研究法の学習
・学習心理学に関する教員との共同研究の実施
・学習心理学に関するディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	64	人間発達科学研究演習III	1	前期　木 9, 10	南 学（教育学部人間発達科学課程）

授業の概要　成人の思考活動に関する研究領域を中心に、認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解を目的とする。具体的には、当該領域の文献講読と各自の学習・研究成果の報告を通じ、相互に研鑽していく。

学習の到達目標　認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解

予め履修が望ましい科目　心理学、心理統計法、行動科学基礎実験

教科書　授業時に指示する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
心理学研究の方法
文献検索と文献講読
データ分析
論文執筆

その他　無断欠席は認めない。積極的に参加し、相互に高めあうことを期待する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	～64	人間発達科学研究演習III	1	前期　木 9, 10	瀬戸美奈子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　子どもの発達に関して、臨床実践と研究の両面から理解する。そこから得られた各自の問題意識をもとに卒業研究に向けて研究テーマを検討していく。具体的には、事例研究、文献講読を行い、子どもの発達や臨床的な問題について討議しながら進めていく。

学習の目的　事例研究、調査研究の方法論が理解できる。子どもの発達について臨床的な視点から理解できる。

学習の到達目標
心理学の研究法を理解し、論文の読み方、書き方が理解できる。
自分の問題意識から研究テーマを卒業論文を完成させる。

予め履修が望ましい科目　教育臨床、発達臨床、教育心理学

教科書　授業時に適宜紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表などを総合的に評価する。

学習内容
子どもの臨床事例の検討
子どもの発達に関する論文の講読
子どもの発達臨床に関するトピックについてのディスカッションなど

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	64~65	人間発達科学研究演習IV	1	後期　月 9, 10	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行い、卒業論文作成に向けての研究指導を行う。

学習の目的　卒業論文のテーマ設定と執筆に向けて，基礎的な知識と技術を習得すること。

学習の到達目標　自分の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマを設定し，理論的・実証的に記述・説明できるようになること。

受講要件　原則として学校経営学研究室所属学生に限定する

予め履修が望ましい科目　学校経営学，教育経営学特別講義

教科書　教科書は使用しない。参考図書や参考資料は授業中に随時紹介する。

成績評価方法と基準　毎回の授業における発表から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
個人の研究発表を中心として以下のような内容で進める。
1回：演習の方針や進め方の概要を説明する。
2～3回：各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行う。
4～7回：引き続き各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、研究上の意義や課題について検討を行う。
8～14回：引き続き各自の研究課題に即した発表を行う。発表後には、集団で討論を行うとともに、卒業研究の総仕上げに向けた検討を行う。
15回：必要に応じて個別的な指導を行う
16回：個別課題の提出

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
コース基本科目	64〜65	人間発達科学研究演習Ⅳ	1	後期　木 9, 10	松浦均（教育学部）

授業の概要
社会心理学および教育心理学を中心としながら，その周辺領域，関連領域も含めて心理学研究の方法論を学び，各自が卒業研究に向けて研究テーマを見つけ検討していく．
授業はゼミ形式で実施する．1年間のゼミ共同研究を立案計画し，研究テーマに基づいてデータ収集，データ分析を行う．また文献講読をベースに議論を深めながら進めていく．

学習の目的
心理学，社会心理学，教育心理学の研究や実践を行いながら，心理学の研究方法論を習得する．
ゼミ形式の授業のなかで，議論の進め方，論文の読み方書き方，データの収集法，分析方法，発表の仕方などを学習する．

学習の到達目標
社会的行動を心理学的に説明できるようなモノの見方，
社会心理学研究に関する基本的な理解，
積極的な心理学的問題設定の視点，
卒業研究の実施と完成．

受講要件　社会心理学研究室に配属された学生対象の授業

予め履修が望ましい科目　社会心理学等，教育心理学関係の科目全般

教科書　原岡一馬著 心理学研究の基礎 ナカニシヤ出版 他

成績評価方法と基準　授業への取り組み，日常的な活動，100%

オフィスアワー　本授業（＝ゼミ）で対応します

学習内容
半期を通して．
心理学，とくに社会心理学を中心に据えた心理学研究法の習得と理解．
文章作成，言語表現，プレゼンテーションに関する演習．
社会心理学文献講読をしながら研究論文の読み方書き方などの学習．
フィールドや社会へ出て見聞を広め，感性を磨く．

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	65, 64	人間発達科学研究演習Ⅳ	1	後期　火 9, 10	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　日常的な営みである教育にさまざまな疑問符を投げかけその本質を捉えなおす作業を論文指導を含めながら進める。

学習の目的　自身の関心を鮮明化し、探究する。

学習の到達目標　自身の関心に基づいて発言・執筆する能力を身につける。

受講要件　教育哲学分野に関心を持つこと。

予め履修が望ましい科目　「教育の哲学」

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　発表50%、レポート50%、計100%。ただし、80%以上出席したことを条件とする。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育と哲学の関係を哲学する（概論）
②教育と哲学の関係を哲学する（各論）
③人間と教育の関係を哲学する（概論）
④人間と教育の関係を哲学する（各論）
⑤子供と教育の関係を哲学する（概論）
⑥子供と教育の関係を哲学する（各論）
⑦世界と教育の関係を哲学する（概論）
⑧世界と教育の関係を哲学する（各論）
⑨歴史と教育の関係を哲学する（概論）
⑩歴史と教育の関係を哲学する（各論）
⑪教師と教育の関係を哲学する（概論）
⑫教師と教育の関係を哲学する（各論）
⑬現代教育の条件を哲学する（概論）
⑭現代教育の条件を哲学する（各論）
⑮まとめ

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目		人間発達科学研究演習Ⅳ	1	後期　木 9, 10	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
「学習」を生活場面における全ての「学び」であると広くとらえ、「学び」の背景にある心理学的プロセスを、研究活動を通じて理解することを目指す。そのために、まず文献の講読を通じて、これまでの研究における知見に触れ、そこから一般化可能な知識を獲得する。そして、研究活動を通じて、自らの視点から現実場面での「学び」を理解できる能力を身につけることをめざすとともに、研究を実施するための方法を身につける。さらに、自らが「学び」に関わり、その「学び」をよりよいものにするための実践的な知識の修得も目指したい。
また、人間行動における「動機づけ」の問題も考えて欲しい。

学習の目的　学習の心理学的プロセスの理解と実践スキルの獲得、心理学研究法に関する知識の獲得

学習の到達目標　上記の活動を通して、実生活における様々な場面において自分自身が「より良く学ぶ」方法を身につけ、「モティベーショナル」に振る舞えるようになってもらえればと考えている。また、研究方法の基礎も身につけて欲しい。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教育心理学・学習心理学・学習心理学実践技法・モティベーションサイエンス

教科書　授業内で適宜指定する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
・学習心理学に関する文献購読
・心理学的研究法の学習
・学習心理学に関する教員との共同研究の実施
・学習心理学に関するディスカッション など

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	～64	人間発達科学研究演習Ⅳ	1	後期　木 9, 10	南 学（教育学部人間発達科学課程）

授業の概要　成人の思考活動に関する研究領域を中心に、認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解を目的とする。具体的には、当該領域の文献講読と各自の学習・研究成果の報告を通じ、相互に研鑽していく。

学習の到達目標　認知的発達的側面に関わる研究に関する基礎的な理解

予め履修が望ましい科目　心理学、心理統計法、行動科学基礎実験

教科書　授業時に指示する

成績評価方法と基準　授業に関する活動への関与の度合い

学習内容
心理学研究の方法
文献検索と文献講読
データ分析
論文執筆

その他　無断欠席は認めない。積極的に参加し、相互に高めあうことを期待する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース基本科目	～65	人間発達科学研究演習Ⅳ	1	後期　木 9, 10	瀬戸美奈子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　子どもの発達に関して、臨床実践と研究の両面から理解する。そこから得られた各自の問題意識をもとに卒業研究に向けて研究テーマを検討していく。具体的には、事例研究、文献講読を行い、子どもの発達や臨床的な問題について討議しながら進めていく。

学習の目的　事例研究、調査研究の方法論が理解できる。子どもの発達について臨床的な視点から理解できる。

学習の到達目標
心理学の研究法を理解し、論文の読み方、書き方が理解できる。
自分の問題意識から研究テーマを卒業論文を完成させる。

予め履修が望ましい科目　教育臨床、発達臨床、教育心理学

教科書　授業時に適宜紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表などを総合的に評価する。

学習内容
子どもの臨床事例の検討
子どもの発達に関する論文の講読
子どもの発達臨床に関するトピックについてのディスカッションなど

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目ＡⅠ 人間教育の基礎	66, 65, 64	教育学	2	前期　火 5, 6	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　人間にとって固有の営みである教育とは何か、学ぶとは何か、子どもの発達とは何か、教育の本質を複眼的に探る。

学習の目的　教育の役割を問い直す。

学習の到達目標　教育の役割を自ら思考できるようになる。

受講要件　教育への関心。

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、期末試験80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30～12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①はじめに
②教育とは何かⅠ 教育の生起
③教育とは何かⅡ 教育の変容
④教育学とは何かⅠ 教育学の誕生
⑤教育学とは何かⅡ 教育学の発展
⑥教育学とは何かⅢ 教育学の普及
⑦教育学とは何かⅣ 教育学と今日の教育
⑧教育と人間Ⅰ ヒトを人間へと形成するために
⑨教育と人間Ⅱ 世代という縦の糸を紡ぐ
⑩教育と人間Ⅲ 社会という横の糸を紡ぐ：問題意識
⑪教育と人間Ⅳ 社会という横の糸を紡ぐ：現状と課題
⑫教育と人間Ⅴ 自己を向上させる：問題意識
⑬教育と人間Ⅵ 自己を向上させる：現状と課題
⑭教育と人間Ⅶ 生きることの意義を追求する：問題意識
⑮教育と人間Ⅷ 生きることの意義を追及する：現状と課題
⑯試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AⅠ 人間教育の基礎	67, 66, 65, 64	教育学	2	後期　火5, 6	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　人間にとって固有の営みである教育とは何か、学ぶとは何か、子どもの発達とは何か、教育の本質を複眼的に探る。

学習の目的　教育の役割を問い直す。

学習の到達目標　教育の役割を自ら思考できるようになる。

受講要件　教育への関心。

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、期末試験80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①はじめに
②教育とは何かⅠ 教育の生起
③教育とは何かⅡ 教育の変容
④教育学とは何かⅠ 教育学の誕生
⑤教育学とは何かⅡ 教育学の発展
⑥教育学とは何かⅢ 教育学の普及
⑦教育学とは何かⅣ 教育学と今日の教育
⑧教育と人間Ⅰ ヒトを人間へと形成するために
⑨教育と人間Ⅱ 世代という縦の糸を紡ぐ
⑩教育と人間Ⅲ 社会という横の糸を紡ぐ：問題意識
⑪教育と人間Ⅳ 社会という横の糸を紡ぐ：現状と課題
⑫教育と人間Ⅴ 自己を向上させる：問題意識
⑬教育と人間Ⅵ 自己を向上させる：現状と課題
⑭教育と人間Ⅶ 生きることの意義を追求する：問題意識
⑮教育と人間Ⅷ 生きることの意義を追及する：現状と課題
⑯試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目 AⅠ 人間教育の基礎	67, 66, 65, 64	教育の哲学	2	後期　月7, 8	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　教育が伝達および創造の対象とみなす価値ある＜もの＞という主題へのアプローチを＜直観＞という概念に手がかりを求めながら試みる。

学習の目的　教育という営みを先入観を排して問い直す。

学習の到達目標　教育という営みを自ら思考できるようになる。

受講要件　教育事象への関心。

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、発表80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教育哲学の沿革
②直観の位置づけ（日本）
③直観の位置づけ（西洋）
④コメニウスの直観論（思想形成）
⑤コメニウスの直観論（教育構想）
⑥ルソーの直観論（思想形成）
⑦ルソーの直観論（教育構想）
⑧バセドウの直観論（思想形成）
⑨バセドウの直観論（教育構想）
⑩ペスタロッチーの直観論（思想形成）
⑪ペスタロッチーの直観論（教育構想）
⑫ペスタロッチーの直観論（教育実践）
⑬現代の直観論（日本）
⑭現代の直観論（西洋）
⑮現代の直観論（展望）
⑯まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択科目AI 人間教育の基礎	66, 65, 64	教育の人間学	2	前期　月7, 8	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　教育の主体であり客体である＜人間＞という主題へのアプローチをロマン主義人間学に手がかりを求めながら行う。

学習の目的　教育と人間の連関を先入観を排して問い直す。

学習の到達目標　教育と人間の連関を自ら思考できるようになる。

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、発表80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室。

学習内容
①人間学の沿革1（日本の場合）
②人間学の沿革2（西洋の場合）
③教育と人間学1（古典のまなざし）
④教育と人間学2（現代のまなざし）
⑤ロマン主義の人間学1（時代背景）
⑥ロマン主義の人間学2（人的文脈）
⑦シラーの人間学1（思想形成）
⑧シラーの人間学2（教育構想）
⑨フレーベルの人間学1（思想形成）
⑩フレーベルの人間学2（教育構想）
⑪エマソンの人間学1（思想形成）
⑫エマソンの人間学2（教育構想）
⑬現代の人間学1（臨床教育学からの発信）
⑭現代の人間学2（教育臨床学からの発信）
⑮現代の人間学3（臨床的人間形成論からの発信）
⑯まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AⅠ 人間教育の基礎	64-67	教育行政学	2	後期　金 7, 8	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　教育行政学に関する基礎的・基本的な考え方（原理・原則）を幅広く紹介し，今後の教育行政をめぐる様々な課題と展望について考察する。

学習の目的　この授業の目的は、①教育行政に関する基礎的・基本的な知識を習得すること，②それらを活用して我が国の教育行政の様々な特徴や課題について思考できるようになること，である。

学習の到達目標　学校行政学に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、これまでの自分が享受してきた教育制度に関する考え方を問い直すことができる。

受講要件　教育行政学に関心をもつ学生

予め履修が望ましい科目　特になし。

成績評価方法と基準　期末テスト60%、出席40%

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
01回 オリエンテーション（授業の対象と受講状の注意点）
02回 現代教育の諸問題（学校問題の変遷）
03回 現代の公教育制度（日本国憲法）
04回 教育法規（教育基本法、義務教育）
05回 文部科学省／教育委員会（公選制と任命制、素人支配と専門的指導性）
06回 教員の養成と採用（開放性、競争と選考、教員免許状）
07回 教職員の職種（学校教育法、校長、教頭・副校長、主幹・主任、指導教諭、教諭他）
08回 学校評価（学校評価ガイドライン、自己評価、関係者評価、第三者評価）
09回 教職員の職務・服務（職務上・身分上の義務、懲戒、分限）
10回 児童・生徒の管理（体罰）
11回 教員研修制度（研修の体系化）
12回 教育財政（義務教育費国庫負担金）
13回 特別支援教育（言語障害、自閉症、情緒障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）、アスペルガー症候群）
14回 現代の教育行政改革の動向と課題1（学校選択制）
15回 現代の教育行政改革の動向と課題2（教職大学院）
16回 試験（教員採用試験）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AⅠ 人間教育の基礎		教育心理学	2	前期　水 1, 2	中西良文（教育学部学校教育講座）

授業の概要
心理学は、教育に応用できる様々な知見を生み出しているとともに、教育に関わる様々な場面をその研究対象として扱っており、この授業ではそれらを紹介する。これらの内容について十分に学習しておかないと、教育場面において、真面目に教育活動を行っても、かえって学習者の学習を「阻害する」場合がある。その意味で本授業は、発達心理学とならび、教育に関わる者が知っておくべき基本的な事項を扱ったものであるといえる。
本授業では特に、教育現場で「実際に使える」ような心理学的知識を提供することを目指す。その中で幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について理解を深めていきたい。

学習の目的　「実際に使える」教育や発達に関わる心理学的知識の習得を目指す。

学習の到達目標　教育や子どもの心身の発達に関わる心理学的な知識を獲得するとともに、実際にそれをどう使えばよいかについて考えることができるようになる。

受講要件　他の受講生の学習の妨害となるような行為(私語や協同学習への不参加)を行うものには、厳格に対応する

予め履修が望ましい科目　心理学I II 共通PBLセミナー

教科書　授業内に連絡する

成績評価方法と基準　授業内で出される課題・グループ活動およびレポートにより評価する。

オフィスアワー　前期・金曜9:00～10:30・学習心理学（中西）研究室

学習内容
第1回：学習するとは？：学習理論からみた望ましい学習
第2回：効果的に学習指導を行うにはどうすればよいか？：学習理論の応用①（記憶と学習理論）
第3回：効果的に学習指導を行うにはどうすればよいか？：学習理論の応用②（知識の重要性）
第4回：生徒のやる気を高めるにはどうすればよいか？：様々な動機づけ理論とその応用①（内発的動機づけ）
第5回：生徒のやる気を高めるにはどうすればよいか？：様々な動機づけ理論とその応用②（期待価値理論、社会的動機づけ）
第6回：どの教科でも同じ学習？：教科に応じた学習指導（数学、科学、文章作成・読解）
第7回：生徒は「勉強」だけできればよいのか？：社会的な能力を伸ばす教育
第8回：生徒と教師のよい関係：教師－生徒関係と学習
第9回：生徒の学力や知能をとらえる試み：望ましい評価の方法と知能テスト①（信頼性・妥当性）
第10回：生徒の学力や知能をとらえる試み：望ましい評価の方法と知能テスト②（知能を測定する）
第11回：子どもは、いかに発達していくか：幼児、児童及び生徒の心身の発達
第12回：障がいを有する子どもの理解・障がいを有する子どもの発達及び学習とその支援：特別支援教育を視野に入れて①（障害について理解する）
第13回：障がいを有する子どもの理解・障がいを有する子どもの発達及び学習とその支援：特別支援教育を視野に入れて②（障がいを有する子どもの発達と学習）
第14回：障がいを有する子どもの理解・障がいを有する子どもの発達及び学習とその支援：特別支援教育を視野に入れて③（障がいを有する子どもの支援）
第15回：教育心理学的知見から望ましい授業を考える
定期試験（レポート提出）

その他　なし

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/ＡＩ 人間教育の基礎	～66	教育心理学	2	前期　月3, 4	宇田光（教育学部非常勤講師）

授業の概要　児童・生徒を教師が効果的に支援するために、知っておくべき発達・学習に関する基本事項を理解する。当日ブリーフレポート方式を用いて講義をおこなう。

学習の目的
児童・生徒の発達と学習に関して、心理学的な観点から理解し、指導に役立てることができるようになる。
他の人たちと協力しながら、主体的に問題解決に挑む態度を身につける。

学習の到達目標　児童・生徒の発達と学習に関して、心理学的な観点から理解し、指導に役立てることができるようになる。

教科書　鈴木真男ほか 2009 発達と学習の過程 福村出版

成績評価方法と基準　当日レポート集 100%

オフィスアワー　教育学部の中西良文先生を通じて、連絡してください。

学習内容
1 教育心理学とは
2 研究方法(1) 観察法・実験法
3 研究方法(2) 調査法・面接法
4-5 発達の過程(1) 遺伝と環境、臨界期
6-7 発達の過程(2) 愛着、認知発達、青年の心理
8-9 学習と記憶
10 認知過程
11 知能 とIQ テスト
＜当日ブリーフレポート集の提出＞
12-13 発達障害
14-15 いじめ、体罰、授業のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択科目AI 人間教育の基礎	～67	教育心理学	2	後期　火1, 2	安藤直樹（教育学部 非常勤講師）

授業の概要　この授業では、教育と発達のかかわりに関する基本的な考え方や、教育における心理学的な側面について学びます。授業では、教育における心理学的な側面として、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習指導、学習環境、測定と評価を取り上げます。

学習の目的　教師として子どもとかかわる際に役立てられるように、教育における心理学的な側面についての基礎的な知識を習得する。

学習の到達目標
●教育と発達のかかわりに関する基本的な考え方について述べることができる。
●教育における心理学的な側面について具体的に述べることができる。

教科書　教科書は使用しません。必要な資料を適宜配布します。

成績評価方法と基準
出席状況を40%、期末試験の得点を60%、計100%として評価します。60%以上が合格です。
授業では毎回出席を確認します。特別な理由なく、出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は評価の対象外となりますので、注意してください。

学習内容
以下の予定で進めていきますが、進行状況によって変更することもあります。
1．オリエンテーション（シラバスの内容確認）、教育と発達のかかわり
2．知識の獲得過程（熟達化）
3．知識の獲得過程（状況的学習論）
4．知識の獲得過程（学習の転移）
5．知識の獲得過程（教科の学習＜国語＞）
6．知識の獲得過程（教科の学習＜算数＞）
7．知識の獲得過程（教科の学習＜理科＞）
8．学習の動機づけ（外発的動機づけと内発的動機づけ）
9．学習の動機づけ（原因帰属、学習された無力感、自己効力感、学習目標）
10．学習指導（発見学習、有意味受容学習）
11．学習指導（プログラム学習、完全習得学習）
12．学習環境（授業形態）
13．学習環境（オープン・エデュケーション）
14．測定と評価（学習・教育の成果を調べる）
15．測定と評価（学習・教育の成果を評価する）

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
教育評価学	64〜67	教育評価学	2	後期集中	西口 利文

授業の概要　教育という営為が適切に行われるためには，評価に関する知識や技能を習得することが必要条件となる。そこで本授業では，教育における評価活動に焦点を当てて，評価に関する知識および，具体的な評価の手法についての基礎的な技術について学ぶ。

学習の目的　教育における評価の意義および，評価活動にまつわる重要な概念および事項についての知識を得る。また，教育場面において評価活動を行うための技術を習得する。

学習の到達目標　教育現場において，目的に沿った評価活動を，適切に選択し実践するための知識および技能を習得する。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書　特に指定しない。必要に応じて授業中に資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート50%，テスト50%，計100%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　授業以外の連絡では，メールを使用する。メールアドレスは，授業内で適宜伝える。

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2回 評価の目的・時期
第3回 評価における比較基準
第4回 評価のあり方を踏まえた学習理論（完全習得学習）
第5回 測定値の分布
第6回 測定値を扱った分析の基礎事項（独立・従属変数，研究法）
第7回 統計的推論についての考え方
第8回 相関および代表的な多変量解析の考え方
第9回 テストの評価1（項目分析）
第10回 テストの評価2（信頼性，妥当性）
第11回 教育評価の実践1（学力）
第12回 教育評価の実践2（パーソナリティ）
第13回 教育評価の実践3（知能）
第14回 教育評価の実践4（アセスメント）
第15回 まとめ

その他　特になし。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目ＡＩ 人間教育の基礎	66〜64	教育社会学	2	前期　水 5, 6	蓮尾直美

授業の概要
＜授業の概要＞
生物学的存在として誕生した個人が、そのライフステージにおける家族、仲間、および学校などの所属集団や本人の判断や選択の基準となる準拠集団によって具体的に形成され、やがて「一人前」の社会的存在となっていく社会化の過程について社会学の立場から講述する。 また、今日生起する社会的かつ教育の諸課題を取り上げ討論の場を設ける。教育や人間形成の概念を、あるべき理想論からではなく、社会学の立場からありのままの事実により認識しようとする視点や枠組みを手がかりに考察を加える。

学習の目的
＜学習の目的＞
人間形成の過程で、個人が一人前の社会人・職業人となるために知的・身体的・道徳的諸状態を身につける「社会化」された存在となる。そこに「自立」した個性ある存在となりうる社会的事実を見いだすことが出来る。このように事物を社会学的な立場から考察を加えることの意味や教師役割にとっての有効性について理解を深める。
ニックネームやユーモア、若者文化、また家族や学校における「社会化」の担い手としての保護者や教師役割について具体事例を手がかりに講究する。

教科書　学級の社会学（蓮尾・安藤共編著、ナカニシヤ出版）

成績評価方法と基準
出席・講義への積極的な構え・小レポート40%、論述試験60%、計100%
指定する研究会、授業見学への参加者には加点する。

オフィスアワー
毎週水曜日14:40〜16:10
場所 教育学部専門校舎1号館（適切な部屋）

学習内容
1回 講義の概略・方針・進め方について説明する。
2回 教育とは何か。人間形成における意図的作用と無意図的作用
3回 教育における外在的・内在的作用
4〜5回 言葉による社会化と文化の概念
6〜8回 家族における社会化：家族における親子関係の意味
9回 児童虐待等を含む今日的教育課題について事例（ゲストティーチャーによる講話）、
10〜12回 仲間集団と社会化：青年期の準拠人物とアイデンティティの形成
13回 学校における社会化：集団討論
14回 学級における社会化：同上
15回 講義のまとめ
16回 筆記試験

その他　受講を通して、自己形成への手がかりを得ようとする、意欲ある受講生を歓迎する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AII 人間関係発達支援	～67	発達臨床	2	後期　月5,6	瀬戸美奈子

授業の概要　発達障害の特性について理解し、学校場面での援助の方法について考える。具体的には学習や行動面での問題をかかえる子どもの事例のアセスメントおよびアセスメントに基づく教材作りを行う。

学習の目的　発達障害の理解と子どもへの具体的な援助方法が理解できる。

学習の到達目標
発達障害の特徴を理解できる。
子どもの特性に応じて援助方針を考え、教材や指導方法を考案することができる。

予め履修が望ましい科目　発達心理学

教科書　適宜資料配布、文献を紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加態度、発表、レポートを総合的に評価する。

学習内容
第1回 はじめに
第2回 発達障害の理解
第3回 学習におけるつまづきと援助
第4回～6回 事例検討
第7～9回 教材作成①
第10回～13回 教材作成②
第14回～15回 教材発表と振り返り

その他　授業では事例をもとにした討議やグループワークを行うため、積極的に意見を述べることが求められる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AII 人間関係発達支援	～65	発達臨床実践技法	2	前期　月3,4	瀬戸美奈子

授業の概要　個別知能検査の特徴を理解し、検査の実施とこどもの特徴について理解する。

学習の目的
個別知能検査の実施と特徴について理解できる。
子どもの発達上の問題についてアセスメントできる。

学習の到達目標
個別知能検査（WISCIV）の実施と結果について理解できる。
知能検査を用いた子どものアセスメントについて理解できる。

受講要件　実習形式を取り入れるため、定員は最大15名とする。

予め履修が望ましい科目　発達心理学

教科書　適宜紹介する。

成績評価方法と基準　実習参加態度、レポート、出席を総合的に評価する。

学習内容
1アセスメントとは何か
2心理検査の概要
3K-ABC検査の実施と解釈
4田中ビネー検査の実施と解釈
5WISCIVの実施と解釈
6検査実習
7事例検討
8まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/AII 人間関係発達支援	～66	カウンセリング実習	1	前期　月1,2	石川 憲雄

授業の概要
カウンセリングの基本的態度と基礎的技法を学び，それらを基盤としたカウンセリングの基礎実習を通して，
学校教育現場におけるカウンセリングの知見を活かしたより適切な支援のあり方を探求する。

学習の目的
カウンセリングの基本的態度と基礎的技法を身につけ，カウンセリングを活かしたより適切な支援を学校教育現場の必要に応じて，展開できる基盤を身につける。

学習の到達目標
カウンセリングの基本的態度と基礎的技法を身につけ，カウンセリングを活かしたより適切な支援を学校教育現場
の必要に応じて，検討していけるようになる。

予め履修が望ましい科目　教育臨床Ⅰ・教育臨床Ⅱ・学校カウンセリング

教科書　授業中に適宜，紹介する

成績評価方法と基準　授業の出席（8割必須）・受講態度30%，授業中行う小レポート30%・学期末のテスト（あるいはレポート）40%などを総合的に評価する。

学習内容
1．オリエンテーション
2．自己理解と他者理解①
3．自己理解と他者理解②
4．自己理解と他者理解③
5．自己理解と他者理解④
6．カウンセリングの基礎基本①
7．カウンセリングの基礎基本②
8．カウンセリングの基礎基本③
9．カウンセリングの基礎技法①
10．カウンセリングの基礎技法②
11．カウンセリングの基礎実習①
12．カウンセリングの基礎実習②
13．カウンセリングの基礎実習③
14．カウンセリングの基礎実習④
15．カウンセリングの基礎実習⑤
16．まとめ（テストかレポート）

その他　実習中心とするため、定員を20名程度とする。受講希望者が多い場合には履修制限を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AII 人間関係発達支援	～66	精神医学概論	2	前期　月1,2	大谷正人（教育学部特別支援教育講座）

授業の概要　精神医学の概要についての講義だが、小児期・青年期について、詳しく扱う。

学習の到達目標　精神医学の概要を理解することにより、社会・学校・家庭などで生じやすい精神衛生上の問題に対して、より適切に対処する力が培われる。

教科書　プリントを用意して配布する。

成績評価方法と基準　試験と講義に取り組む態度による。具体的には、小テストを2回行い、受講生による発表も行う。小テストと発表の成績合計が不十分な受講生に対して、レポートを課する。

オフィスアワー　月曜日17:00~18:00、教育学部2号館4階大谷研究室

学習内容
1．精神医学について
2．精神医学における症状
3．気分障害（うつ病と躁うつ病）
4．統合失調症
5．神経性障害と心身症
6．ストレスと自殺について
7．中毒・パーソナリティの障害
8ー9．児童期精神医学
10ー11．思春期・青年期精神医学
12．中年期精神医学、老年期精神医学
13．精神科治療学
14ー16．学生による発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/AII 人間関係発達支援	～67	児童臨床心理学	2	後期　月3,4	渡邉賢二（非常勤講師）

授業の概要
精神疾患、カウンセリング、心理検査について学習する。
不登校やいじめの現状と支援について学習する。

学習の目的　発達段階における精神疾患を理解すること、様々なカウンセリングの技法や心理検査について習得すること、教育現場での不登校やいじめの問題と支援方法について習得することを目的とする。

学習の到達目標
・乳児期から青年期の精神疾患について理解を深める。
・様々な問題や悩みを抱える子どもに対して、どのような心理検査をし、どのようなカウンセリング技法を用いるのかについて理解を深める。
・教育現場で問題となっている不登校やいじめについての現状や支援方法について理解を深める。

受講要件　教育現場の心理学に興味関心がある人

教科書　「教育相談・学校精神保健の基礎知識」 大芦治 ナカニシヤ出版

成績評価方法と基準　授業中に実施する小レポート50%、試験50%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　毎週月曜日3、4限後、（連絡の窓口）瀬戸美奈子先生

学習内容
1回目：児童臨床心理学とは？
2回目：心理学における臨床心理学の位置づけ
3回目：精神・行動の障害①：精神・行動の障害の分類
4回目：精神・行動の障害②：精神病、神経症
5回目：精神・行動の障害③：発達途上に起こる精神・行動の障害
6回目：不登校の現状と支援について
7回目：いじめの現状と支援について
8回目：心理検査①：心理アセスメントの分類
9回目：心理検査②：知能検査、作業検査
10回目：心理検査③：性格検査（質問紙法）
11回目：心理検査④：性格検査（投影法）
12回目：心理療法①：カウンセリングと心理療法、クライエント中心療法
13回目：心理療法②：行動療法、精神分析療法
14回目：心理療法③：遊戯療法、箱庭療法、芸術療法
15回目：まとめと全体の振り返り

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/A II 人間関係発達支援	66	教育相談 I	2	前期　木 7, 8	鈴木 誠(教育学部非常勤講師)
	～65	教育臨床 I	2		

授業の概要　幼稚園・小学校での日常場面で、遭遇する園児や児童、保護者や同僚との問題や人間関係の問題について学ぶ。

学習の目的　この時期に子どもや親、職場で生じる問題の多くは、幼児期の心性によって生じることが少ない。むしろより退行（子ども返りした）乳幼児心性や乳幼児心性と直面する大人の心理的混乱に影響を受けることが多い。したがって、授業では、妊娠から出産、乳児から幼児期の心性や親子関係の発達と心理的課題について、知的学習を行う。その知的理解を体験レベルの知にするために、グループ・ワークを行う。

学習の到達目標　狭い意味での個別相談だけでなく、より日常場面での子どもや保護者、同僚との交流場面を観察し、グループでの話し合い、深く理解することを学ぶ。この効果は、個人を対象とする教育相談の基礎となる。

受講要件　グループワークにおいて、子どもの観察事例を全員で検討します。ディスカッションに積極的に関与することが不可欠です。オリエンテーションに必ず参加すること。

教科書
①子どもを理解する〈0～1歳〉（タビストック 子どもの心と発達シリーズ）岩崎学術出版社
②子どもを理解する〈2～3歳〉<タビストック 子どもの心と発達シリーズ>岩崎学術出版社

成績評価方法と基準　出席日数、レポート50% 最終レポート50%

学習内容　3～4名の小グループに分けます。1名は小学生以下の15～20分程度の子どもの様子を詳細な観察事例として報告します。それをクラス全体で、子どものこころの動きや観察状況の無意識的な交流について、ディスカッションします。授業の2/3をこの議論に費やします。残りの時間で、1名は、授業で振り分けられたテキストの要約を発表します。残りの1～2名は、テキストの内容と幼稚園や小学校での問題と関連づけて、話題発表をします。その後、不足分を講師が解説します。学習には、学生の積極的な参加が、不可欠です。

その他　グループディスカッションを中心とするので、履修制限をします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/A II 人間関係発達支援		教育相談 I	2	前期　木 9, 10	鈴木 誠(教育学部非常勤講師)
		教育臨床 I	2		

授業の概要　幼稚園・小学校での日常場面で、遭遇する園児や児童、保護者や同僚との問題や人間関係の問題について学ぶ。

学習の目的　この時期に子どもや親、職場で生じる問題の多くは、幼児期の心性によって生じることが少ない。むしろより退行（子ども返りした）乳幼児心性や乳幼児心性と直面する大人の心理的混乱に影響を受けることが多い。したがって、授業では、妊娠から出産、乳児から幼児期の心性や親子関係の発達と心理的課題について、知的学習を行う。その知的理解を体験レベルの知にするために、グループ・ワークを行う。

学習の到達目標　狭い意味での個別相談だけでなく、より日常場面での子どもや保護者、同僚との交流場面を観察し、グループでの話し合い、深く理解することを学ぶ。この効果は、個人を対象とする教育相談の基礎となる。

受講要件　グループワークにおいて、子どもの観察事例を全員で検討します。ディスカッションに積極的に関与することが不可欠です。オリエンテーションに必ず参加すること。

教科書
①子どもを理解する〈0～1歳〉（タビストック 子どもの心と発達シリーズ）岩崎学術出版社
②子どもを理解する〈2～3歳〉<タビストック 子どもの心と発達シリーズ>岩崎学術出版社

成績評価方法と基準　出席日数、レポート50% 最終レポート50%

学習内容　3～4名の小グループに分けます。1名は小学生以下の15～20分程度の子どもの様子を詳細な観察事例として報告します。それをクラス全体で、子どものこころの動きや観察状況の無意識的な交流について、ディスカッションします。授業の2/3をこの議論に費やします。残りの時間で、1名は、授業で振り分けられたテキストの要約を発表します。残りの1～2名は、テキストの内容と幼稚園や小学校での問題と関連づけて、話題発表をします。その後、不足分を講師が解説します。学習には、学生の積極的な参加が、不可欠です。

その他　グループディスカッションを中心とするので、履修制限をします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択科目AII 人間関係発達支援	～65	教育臨床 I	2	前期　木 5, 6	水谷 久康
	66	教育相談 I	2		

授業の概要　子どもを育む家族を取り巻く環境は今日厳しさを増している。学校だけで子どもたちの問題解決を図ることは難しい場合もある。子供を直接支援するだけではなく、学校と保護者との協働によって効果的な支援が可能となることも多い。教員の行う相談活動はいかにあるべきかを理解する。

学習の目的　教員による学校教育相談は心理臨床の専門家である臨床心理士によるスクールカウンセリングとは共通点もあるが、目的、構造など教育の専門家として求められ期待されていることが異なることを明確に理解し、学校生活における子どもたちの発達段階に応じた課題を見抜く目を身に付け、より有効な対応の方法や支援スキルを基本から家族療法の応用まで学習する。

学習の到達目標　子どもたちは様々な家族の一んであり、様々な保護者の思いがあることを理解した上で、子供であれ保護者であれ、問題を抱え支援を必要とする側に存在する解決のための資源を見出しそれらを活性化させる視点やスキルを身に付け、効果的な支援力を獲得する。

教科書　事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談一小学校編(遠見書房)

成績評価方法と基準　授業への参加態度など50%、期末試験50%、計100%

オフィスアワー　連絡窓口：学校教育領域 松浦 均 先生

学習内容
①オリエンテーション・学習ガイダンス
②教育相談とスクールカウンセリング
③カウンセリングの理論と技法 I
④カウンセリングの理論と技法 II
⑤子ども理解の基礎
⑥子どもの発達課題と支援の在り方
⑦具体的な問題：不登校
⑧具体的な問題：いじめ
⑨具体的な問題：非行、学校不適応
⑩発達障害と特別支援教育 I
⑪発達障害と特別支援教育 II
⑫学校と関係機関との連携
⑬子どもの精神医学的問題、虐待など
⑭チーム支援
⑮危機対応と緊急支援
以上の内容について講義と演習、ロールプレイ、グループディスカッションなどインターラクティブな授業展開を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択科目AII 人間関係発達支援	～65	教育臨床 I	2	後期　木 5, 6	水谷 久康
	66、67	教育相談 I	2		

授業の概要　子どもを育む家族を取り巻く環境は今日厳しさを増している。学校だけで子どもたちの問題解決を図ることは難しい場合もある。子供を直接支援するだけではなく、学校と保護者との協働によって効果的な支援が可能となることも多い。教員の行う相談活動はいかにあるべきかを理解する。

学習の目的　教員による学校教育相談は心理臨床の専門家である臨床心理士によるスクールカウンセリングとは共通点もあるが、目的、構造など教育の専門家として求められ期待されていることが異なることを明確に理解し、学校生活における子どもたちの発達段階に応じた課題を見抜く目を身に付け、より有効な対応の方法や支援スキルを基本から家族療法の応用まで学習する。

学習の到達目標　子どもたちは様々な家族の一んであり、様々な保護者の思いがあることを理解した上で、子供であれ保護者であれ、問題を抱え支援を必要とする側に存在する解決のための資源を見出しそれらを活性化させる視点やスキルを身に付け、効果的な支援力を獲得する。

教科書　事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談一小学校編(遠見書房)

成績評価方法と基準　授業への参加態度など50%、期末試験50%、計100%

オフィスアワー　連絡窓口：学校教育領域 松浦 均 先生

学習内容
①オリエンテーション・学習ガイダンス
②教育相談とスクールカウンセリング
③カウンセリングの理論と技法 I
④カウンセリングの理論と技法 II
⑤子ども理解の基礎
⑥子どもの発達課題と支援の在り方
⑦具体的な問題：不登校
⑧具体的な問題：いじめ
⑨具体的な問題：非行、学校不適応
⑩発達障害と特別支援教育 I
⑪発達障害と特別支援教育 II
⑫学校と関係機関との連携
⑬子どもの精神医学的問題、虐待など
⑭チーム支援
⑮危機対応と緊急支援
以上の内容について講義と演習、ロールプレイ、グループディスカッションなどインターラクティブな授業展開を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/A II 人間関係発達支援	66	教育相談 II	2	後期　木 9, 10	鈴木 誠(教育学部非常勤講師)
	～65	教育臨床 II	2		

授業の概要　中学校や高校での日常場面で、遭遇する生徒、保護者や同僚との問題や人間関係の問題について学ぶ。

学習の目的　この時期に生徒や親、職場で生じる問題の多くは、思春期・青年期の心性だけでなく、それ以前の幼児期の心性によって生じることが少ない。激動の思春期青年期心性、より退行（子ども返りした）学童期や乳幼児心性と直面する大人の心理的混乱に影響を受けることが多い。したがって、授業では、幼児期から潜伏期、青年期までの発達と心理的課題について、知的学習を行う。その知的理解を体験レベルの知にするために、グループ・ワークを行う。

学習の到達目標　狭い意味での個別相談だけでなく、より日常場面での生徒や保護者、同僚との交流場面を観察し、グループでの話し合い、深く理解することを学ぶ。この効果は、個人を対象とする教育相談の基礎となる。

受講要件　グループワークにおいて、子どもの観察事例を全員で検討します。ディスカッションに積極的に関与することが不可欠です。オリエンテーションに必ず参加すること。

教科書
●学校現場に生かす精神分析【実践編】
―学ぶことの関係性
岩崎学術出版社

成績評価方法と基準　出席日数、レポート50% 最終レポート50%

学習内容　3～4名の小グループに分けます。1名は子どもの15～20分程度の子どもの様子を詳細な観察事例として報告します。それをクラス全体で、子どものこころの動きや観察状況の無意識的な交流について、ディスカッションします。授業の2/3をこの議論に費やします。残りの時間で、1名は、授業で振り分けられたテキストの要約を発表します。残りの1～2名は、テキストの内容と中学や高校での生徒の悩みや問題行動と関連づけて、話題発表をします。その後、不足分を講師が解説します。学習には、学生の積極的な参加が、不可欠です。

その他　グループディスカッションを中心とするので、履修制限をします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/A II 人間関係発達支援		教育相談 II	2	後期　木 7, 8	鈴木 誠(教育学部非常勤講師)
		教育臨床 II	2		

授業の概要　中学校や高校での日常場面で、遭遇する生徒、保護者や同僚との問題や人間関係の問題について学ぶ。

学習の目的　この時期に生徒や親、職場で生じる問題の多くは、思春期・青年期の心性だけでなく、それ以前の幼児期の心性によって生じることが少ない。激動の思春期青年期心性、より退行（子ども返りした）学童期や乳幼児心性と直面する大人の心理的混乱に影響を受けることが多い。したがって、授業では、幼児期から潜伏期、青年期までの発達と心理的課題について、知的学習を行う。その知的理解を体験レベルの知にするために、グループ・ワークを行う。

学習の到達目標　狭い意味での個別相談だけでなく、より日常場面での生徒や保護者、同僚との交流場面を観察し、グループでの話し合い、深く理解することを学ぶ。この効果は、個人を対象とする教育相談の基礎となる。

受講要件　グループワークにおいて、子どもの観察事例を全員で検討します。ディスカッションに積極的に関与することが不可欠です。オリエンテーションに必ず参加すること。

教科書
●学校現場に生かす精神分析【実践編】
―学ぶことの関係性
岩崎学術出版社

成績評価方法と基準　出席日数、レポート50% 最終レポート50%

学習内容　3～4名の小グループに分けます。1名は子どもの15～20分程度の子どもの様子を詳細な観察事例として報告します。それをクラス全体で、子どものこころの動きや観察状況の無意識的な交流について、ディスカッションします。授業の2/3をこの議論に費やします。残りの時間で、1名は、授業で振り分けられたテキストの要約を発表します。残りの1～2名は、テキストの内容と中学や高校での生徒の悩みや問題行動と関連づけて、話題発表をします。その後、不足分を講師が解説します。学習には、学生の積極的な参加が、不可欠です。

その他　グループディスカッションを中心とするので、履修制限をします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目A II 人間関係発達支援	66	教育相談 II	2	前期　木 1, 2	瀬戸美奈子

授業の概要　学校教育の場における生徒の適応上の諸問題に関する教育・心理臨床的な理解と支援について学ぶ。

学習の目的　生徒の適応上の問題と対応を理解し、教育相談の理論と技法を身につける。

学習の到達目標
(1)学校における教育相談の理論と技法がわかる。
(2)教師が行う教育相談の特徴と限界、専門機関の連携の構造がわかる。
(3)生徒の適応上の問題のアセスメントと対応がわかる。
(4)特別支援教育に関する生徒の問題を理解し、支援の方法や保護者対応がわかる。

教科書　適宜文献紹介、資料を配布する。

成績評価方法と基準　毎回の授業ごとの小レポート（30%）、テスト（70%）などを総合的に評価する。

学習内容
1 学校における生徒の諸問題
2 生徒指導と教育相談
3 進路指導と教育相談
4 学習指導と教育相談
5 生徒の発達と問題(1)青年期前
6 生徒の発達と問題(2)青年期への移行
7 生徒の発達と問題(3)青年期
8 教育相談における生徒へのかかわり(1)アセスメント
9 教育相談における生徒へのかかわり(2)カウンセリング技法
10 教育相談の実際(1)不登校
11 教育相談の実際(2)いじめ
12 教育相談の実際(3)発達障害
13 事例研究(1)対人関係の問題と適応
14 事例研究(2)学習の問題と適応
15 保護者・教師への助言と指導
16 テスト

その他　授業では事例検討などのグループワークを行う予定である。他の受講生と積極的にコミュニケーションをはかり、討議をすることが求められる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目A II 人間関係発達支援	～65	教育臨床 II	2	前期　木 1, 2	瀬戸美奈子

授業の概要　学校教育の場における生徒の適応上の諸問題に関する教育・心理臨床的な理解と支援について学ぶ。

学習の目的　生徒の適応上の問題と対応を理解し、教育相談の理論と技法を身につける。

学習の到達目標
(1)学校における教育相談の理論と技法がわかる。
(2)教師が行う教育相談の特徴と限界、専門機関の連携の構造がわかる。
(3)生徒の適応上の問題のアセスメントと対応がわかる。
(4)特別支援教育に関する生徒の問題を理解し、支援の方法や保護者対応がわかる。

教科書　適宜文献紹介、資料を配布する。

成績評価方法と基準　毎回の授業ごとの小レポート（30%）、テスト（70%）などを総合的に評価する。

学習内容
1 学校における生徒の諸問題
2 生徒指導と教育相談
3 進路指導と教育相談
4 学習指導と教育相談
5 生徒の発達と問題(1)青年期前
6 生徒の発達と問題(2)青年期への移行
7 生徒の発達と問題(3)青年期
8 教育相談における生徒へのかかわり(1)アセスメント
9 教育相談における生徒へのかかわり(2)カウンセリング技法
10 教育相談の実際(1)不登校
11 教育相談の実際(2)いじめ
12 教育相談の実際(3)発達障害
13 事例研究(1)対人関係の問題と適応
14 事例研究(2)学習の問題と適応
15 保護者・教師への助言と指導
16 テスト

その他　授業では事例検討などのグループワークを行う予定である。他の受講生と積極的にコミュニケーションをはかり、討議をすることが求められる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目A II 人間関係発達支援	64-67	幼児の発達と生活	2	後期　火 7, 8	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）

授業の概要　人間発達の心理学的プロセスについて，その古典的な理論から最新の知見まで学ぶとともに，保育・幼児教育実践の現場における記録やエピソードを読みとりながら，実践への応用可能性についても考察を深める。

学習の目的　乳児期から幼児期までの発達の理論や最新の知見を学び，実践に役立つ知識と技術を身に付ける。

学習の到達目標
発達の理論や各発達期の特徴についての基本的な知識を得る。
発達理論と保育・幼児教育の実践とを結び付けて考えることができる。

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　定期試験50%，課題・レポート20%，授業への取り組み状況30%

学習内容
第1回：幼児の発達と生活（概要）
第2回：遺伝と環境
第3回：生物学的な基礎
第4回：親子関係（1）
第5回：親子関係（2）
第6回：学習のしくみ（1）
第7回：学習のしくみ（2）
第8回：発達段階と発達課題
第9回：乳児期の発達と生活（1）
第10回：乳児期の発達と生活（2）
第11回：幼児前期の発達と生活（1）
第12回：幼児前期の発達と生活（2）
第13回：幼児後期の発達と生活（1）
第14回：幼児後期の発達と生活（2）
第15回：学童期に向けて

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目A II 人間関係発達支援	63-65	幼児の生活と保育	2	前期　水 1, 2	須永 進

授業の概要　発達主体である幼児の望ましい成長・発達のための幼児教育方法について、実践事例を通して学ぶことがこの授業の主な目的であり、中心的テーマである。したがって、幼稚園をはじめ、保育所や近年広がりつつある子育て支援の事例を取り上げながら、幼児教育の方法を学習する。

学習の目的　事例を通して、幼稚園教育や幼児教育全体に通じる方法の基礎理論を学習できることを目的としている。また、そこで得られる知識や方法を自らの教育活動に活かしていけるようになることを期待している。

学習の到達目標　この授業で学習した内容を理解し、それを自らの学習や教育活動に活かせることができるようになる。

教科書　特に指定はない。

成績評価方法と基準　レポート50%、授業での取り組み方（意欲、積極性、発表力、協調性など）50%

オフィスアワー　毎週 月曜日16：20から17：50

学習内容
授業では、次の内容で進めていくことを予定している。なお、適宜幼稚園での観察を通してのレポートや各自の課題に沿った発表を行う。
1．授業では、次の内容で進めていくことを予定している。なお、必要に応じて幼児関連の施設見学。・観察等と行い、レポートや各自の課題に沿った発表・話し合いを行う予定でいる。
1．幼児教育方法 を学ぶ意義とその方法について
2．幼児の生活と成長・発達について－家族、保育者、地域の人々
3．幼児の生活と成長・発達について－生活の変化とその問題点
4．幼児の成長・発達の特性と環境－乳児
5．幼児の成長・発達の特性と環境－幼児
6．乳幼児の遊びとその意義
7．乳幼児の発達と遊びについて－乳児の遊びと留意点
8．乳幼児の発達と遊びについて－幼児の遊びと留意点
9．保育・教育の形態とその特性－家庭、家庭的保育施設
10．保育・教育の形態とその特性－幼稚園、保育所、認定子ども園他
11．幼児保育・教育方法の概要－外国（人）による教育方法（論）
12．幼児保育・教育方法の概要－日本（人）による教育方（論）.
13．保護者への相談・支援－基本的原理とその方法
14．保護者への相談・支援－事例による理解
15．全体のまとめ－望ましい幼児教育について

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目A II 人間関係発達支援	～67	認知発達心理学	2	後期　火 5, 6	南 学（教育学部人間発達科学課程）

授業の概要　人間の認知的側面に関する生涯発達について学びます。子どもの認知発達や概念発達に関する理論、老年期の認知発達を対象とします。

学習の到達目標　認知的側面に関する生涯発達の全体像を把握する。

予め履修が望ましい科目　発達心理学を履修済みもしくは同時履修中であることが望ましい。

教科書　テキストは特に指定しない。参考書等については随時紹介する。

成績評価方法と基準　出席状況，小レポート等，定期試験を総合的に評価する

学習内容
第1回 乳幼児の知覚研究法
第2回 奥行き知覚の形成
第3回 弁別知覚
第4回 乳幼児の記憶(1)
第5回 乳幼児の記憶(2)
第6回 乳幼児の記憶(3)
第7回 乳幼児のワーキングメモリ
第8回 概念の獲得と発達
第9回 科学的理解の発達
第10回 論理的理解の発達
第11回 言語獲得
第12回 認知・知覚のエイジング
第13回 記憶のエイジング(1)
第14回 記憶のエイジング(2)
第15回 認知障害

その他
この授業に関するWEBページ
http://www.minamis.net/kougi.html

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AII	～66	認知発達心理学実践技法	2	前期　月 9, 10	南 学（教育学部人間発達科学課程）

授業の概要　近年教育現場や社会では「生きる力」や「考える力」が求められていますが、それらを実際に育てるためには、単によい授業をするというだけでは難しく、授業担当者が意識して思考を引き出すようなしかけや応答が必要です。本授業では、思考を引き出し、実践する技法として近年注目を集めている「ゲーミング＆シミュレーション」に焦点をあてます。これらのねらいについて学ぶとともに、実際に参加してみることで、自身の思考がどのように引き出されるのか、また他者の行動がどのように変わるのかを体験的に考えてもらいたいと思います。

学習の到達目標
思考を引き出すということについて明確なイメージをもつ
ゲーミング＆シミュレーションについての正しい理解をえる
それぞれの技法のより深い理解と可能性への筋道を知る

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　心理学

教科書　ゼックミスタ＆ジョンソン（著）クリティカルシンキング「入門篇」北大路書房

成績評価方法と基準　出席状況40%、課題への取り組みの度合い60%

オフィスアワー　水曜3コマ目

学習内容
以下の計画にそって進めていくが、履修者数等によっても変更がありうる。
1)ゲーミング＆シミュレーション
ゲーミング＆シミュレーションとは
思考とコミュニケーション
アイスブレーキング
チームワークを引き出すゲーミング
思考を引き出すゲーミング

その他　無断欠席は認められません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AII 人間関係発達支援		心理的問題解決論	2	後期　火9, 10	鈴木 英一郎（学生総合支援センター）

授業の概要　短期療法（ブリーフサイコセラピー）と呼ばれる心理的援助の方法を中心に、こころの問題に対して解決を導くための理論と技法について解説し、実習を交えて理解をはかる。

学習の目的　心理的な問題が形成される背景や状況の捉え方を知り、実習や事例検討を通して効果的・効率的な心理的問題解決の方法を理解する。

学習の到達目標　日々の生活の中で生じる心理的な問題に対して、その状況の理解や具体的支援策の検討を行う際に、本授業で扱った内容を参考にすることができる。

受講要件　特になし。

予め履修が望ましい科目　基礎的な心理学に関する科目をあらかじめ履修していることが望ましい。

教科書　特になし。

成績評価方法と基準　出席状況40%、グループ発表の内容20%、期末レポート40%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：00〜12：00、学生なんでも相談室

学習内容
1.ブリーフサイコセラピーについて（1）：・授業オリエンテーション
・「人生相談」ワーク＆解説
・リソース中心の会話の重要性
・リソースマップ作り
2.ブリーフサイコセラピーについて（2）：・3つのセントラルフィロソフィー
・「変化」について
・「解決」について
・リソースについて
3.「コンプリメント」と「例外」（1）：・リソース探しのためのキーワード
「例外」「成功の責任追及（例外の原因追究）」
・見つけたリソースに対して「コンプリメント」する
4.「コンプリメント」と「例外」（2）：・「例外」を見つけるワーク
・リソースに対して「コンプリメント」するワーク
5.リフレーミング技法（1）：・「リフレーミング」とは？
・「リフレーミング」の種類
・いわゆる「ポジティブシンキング」との異同
6.リフレーミング技法（2）：・リフレーミング技法を使いこなすワーク
7.「問題の外在化」技法（1）：・外在化する会話
・外在化することの利点
8.「問題の外在化」技法（2）：・「問題の外在化」ワーク
9.解決志向アプローチに見られる質問技法: ・ミラクルクエスチョン
・スケーリングクエスチョン
・コーピングクエスチョン
・それぞれの使い方ワーク
10.解決志向アプローチにおける面接の構成（1）：・リソースを生かすカウンセリングの進め方
・適切な課題設定
・関係性のアセスメント
11.解決志向アプローチにおける面接の構成（2）：・逐語録を使って振り返り
・解決志向による面接の実習
12.ソリューションバンク実習（1）：・大学生活のソリューションバンク（長谷川, 2005）を作ろう
（グループワーク）
13.ソリューションバンク実習（2）：・大学生活のソリューションバンクを作ろう
（グループワーク）
14.ソリューションバンク実習（3）：・各グループによる発表会
15.事例検討（まとめ）：・ブリーフサイコセラピー（解決志向アプローチ）を用いた事例の検討を通して、半期の学びを振り返る。

その他　本授業と「家族システム支援論」は隔年で開講される。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース・コース基本科目	66期生以上	社会心理学	2	後期集中	松浦 均（教育学部）

授業の概要
社会心理学の中で構築されてきた諸理論を紹介しながら，日常の社会的行動のメカニズムを説明する．
とくに人間関係，対人関係にまつわる諸理論を紹介する形で各論概説的な講義を展開する．

学習の到達目標　人間の社会的行動をより具体的に説明する形で理論の紹介などをしていくので，各自の心理学研究のテーマを見つけるべく，高い意識を持ってもらいたい．また，社会心理学の諸理論が社会の中の人間行動とどのように整合しているのか日頃より意識をして観察するような視点を養ってもらいたい．

受講要件　特になし

教科書　社会心理学の概論書を授業中に紹介する．授業ではプリント資料を配付する．

成績評価方法と基準　出席状況30%，試験70%

オフィスアワー　水曜日の午後，教育学部1号館2階研究室

学習内容
1．オリエンテーション （第1週）
社会心理学が心理学の中でどのような領域を占めており，どのようなポジションにあるか概説する．この他，前期半年間の授業の進め方を説明する．また学習方法や学習目標を説明し，授業方法，成績評価方法なども説明する．
2．自己の過程 （第1週〜7週）
自己の問題は，心理学に限らず様々な分野で深い洞察が加えられてきたが，自己心理学の諸理論を踏まえて解説する．自己意識，社会的比較の過程，自己知覚の過程，自己提示の種類，自己開示の機能などについて解説する．
3．自己と他者 （第9週〜12週）
対人的な場面では，他者がどのような人物なのか推測判断するところから始まるといってもよい．対人知覚の問題を社会心理学の知見を紹介しながら解説する．印象形成，感情の知覚，対人認知の過程，社会的推論，社会的認知，帰属過程，社会的スキル，コミュニケーションなどについて解説する．
4．集団および社会心理学の諸相 （第13〜15週）
最後に集団の過程を解説して社会心理学を概観して，社会心理学の対象，社会心理学の研究方法について述べる．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AII 人間関係発達支援	～66	発達心理学	2	前期　火5,6	南 学（教育学部人間発達科学課程）

授業の概要　人間の発達について、とくに心理学的な観点から学びます。近年発達心理学は子どもだけでなく、中高年までその対象をひろげつつあります。この授業では子どもの発達だけでなく、発達障害、青年期、老年期の知的能力の変化まで論じていきます。

学習の到達目標　人間の発達過程の全体像に関する基礎知識

予め履修が望ましい科目　心理学（共通教育）

成績評価方法と基準　出席状況，小レポート等，定期試験を総合的に評価する

学習内容
第1回 発達心理学とは
第2回 遺伝か環境か
第3回 遺伝と環境をめぐる問題
第4回 人との関わりの中での発達
第5回 発達段階
第6回 物理法則の理解と心の理論
第7回 言語獲得
第8回 社会性の発達
第9回 発達障害
第10回 青年期
第11回 仕事に対する意識
第12回 現代青年の幸福感
第13回 成人期
第14回 老年期(1)
第15回 老年期(2)

その他
この授業に関するWEBページ
http://www.minamis.net/kougi.html

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/AII 人間関係発達支援	～66	発達心理学	2	前期　火7,8	杉本英晴(教育学部，非常勤講師)

授業の概要　人間の発達の様相を理解することを目指す。各回の講義で領域ごとのテーマを取り上げながら，年齢に応じた発達的特徴について解説していく。

学習の目的　人間は常に発達・変化をし続ける存在であり，年齢や発達段階に応じて多様な特徴を見せる。各回の講義では領域ごとに解説していく。受講生には15回の講義を通じて発達段階ごとの特徴の理解を求める。人間の発達という身近でありながら複雑な現象が，発達心理学の領域でどのように捉えられてきたのかを知り，発達心理学の基礎を理解することが目標である。

学習の到達目標　発達心理学の領域に関する理論について知識を得ることができ、子どもの年齢に応じて、どのような現象があてはまるのか、どのような理論があるのかという視点から客観的に行動などを捉える事が可能になる。

教科書　シードブック発達心理学―保育・教育に活かす子どもの理解― 本郷一夫（編著） 建帛社 （ISBN 9784767932101）

成績評価方法と基準
毎回のレポート提出を始めとした，授業への参加・貢献30%，定期試験70%（合計60%以上で合格）。
公欠・病欠・忌引など以外の理由のない欠席が5回以上になった時点で不可とする。

オフィスアワー　対応窓口は，松浦 均教員（学校教育講座）

学習内容
第1回 イントロダクション：人間の発達とは
第2回 第Ⅰ部（人間発達論概論）：身体と運動の発達
第3回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：認知の発達
第4回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：言語の発達
第5回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：知能と思考の発達
第6回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：情動の発達
第7回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：気質の発達
第8回 第Ⅲ部（発達障害）：発達の遅れと障害
第9回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：遊び
第10回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：親子関係の発達①
第11回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：親子関係の発達②
第12回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：仲間・きょうだい関係の発達
第13回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：道徳性の発達
第14回 第Ⅴ部（社会・情動の発達）：自己の発達
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AII 人間関係発達支援	～67	発達心理学	2	後期　火3,4	安藤直樹（教育学部 非常勤講師）

授業の概要　この授業では、発達に関する基本的な考え方や、子どもの具体的な発達の様子について学びます。授業では、具体的な発達の様子として、身体の発達、運動機能の発達、感覚・知覚の発達、認知機能の発達、社会性の発達（母子関係、仲間関係）を取り上げます。

学習の目的　子どもとかかわる際に役立てられるように、発達に関する基礎的な知識を習得する。

学習の到達目標
●発達に関する基本的な考え方について述べることができる。
●子どもの具体的な発達の様子について述べることができる。

教科書　教科書は使用しません。必要な資料を適宜配布します。

成績評価方法と基準
出席状況を40%、期末試験の得点を60%、計100%として評価します。60%以上が合格です。
授業では毎回出席を確認します。特別な理由なく、出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は評価の対象外となりますので、注意してください。

学習内容
以下の予定で進めていきますが、進行状況によって変更することもあります。
1．オリエンテーション（シラバスの内容確認）、発達とは
2．身体の発達（胎生期の身体発達）
3．身体の発達（出生後の身体発達）
4．運動機能の発達（胎生期の身体運動、原始反射）
5．運動機能の発達（粗大運動、微細運動の発達）
6．感覚・知覚の発達（赤ちゃんの感覚・知覚）
7．認知機能の発達（感覚運動期）
8．認知機能の発達（前操作期）
9．認知機能の発達（具体的操作期、形式的操作期）
10．母子関係の発達（愛着とは）
11．母子関係の発達（愛着行動の発達）
12．母子関係の発達（愛着行動の質）
13．仲間関係の発達（乳児同士の相互作用）
14．仲間関係の発達（幼児期の遊びといざこざ）
15．仲間関係の発達（児童期以降の友人関係）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造	～65	生活指導論	2	前期　火3,4	○大日方 真史（教育学部）, 池田 修（非常勤講師）
	66～	特別活動論 II	2		

授業の概要　生徒に対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容
第1回：特別活動の意義
第2回：生徒の生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
第3回：特別活動の歴史的展開
第4回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（1）親密性
第5回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（2）公共性
第6回：模擬授業（1）学級集団の特性と学級活動（ホームルーム活動）の意義
第7回：模擬授業（2）学級活動（ホームルーム活動）の課題
第8回：模擬授業（3）生徒会活動の意義
第9回：模擬授業（4）生徒会活動の課題
第10回：模擬授業（5）学校行事の意義
第11回：模擬授業（6）学校行事の課題
第12回：模擬授業（7）学校の規範と特別活動の課題
第13回：特別活動における教師間の協働の意義と課題
第14回：特別活動における保護者との連携の意義と課題
第15回：今日における特別活動の課題
定期試験（レポートの提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造	～65	生活指導論	2	前期　火7,8	○大日方 真史（教育学部）, 池田 修（非常勤講師）
	66～	特別活動論 II	2		

授業の概要　生徒に対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容
第1回：特別活動の意義
第2回：生徒の生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
第3回：特別活動の歴史的展開
第4回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（1）親密性
第5回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（2）公共性
第6回：模擬授業（1）学級集団の特性と学級活動（ホームルーム活動）の意義
第7回：模擬授業（2）学級活動（ホームルーム活動）の課題
第8回：模擬授業（3）生徒会活動の意義
第9回：模擬授業（4）生徒会活動の課題
第10回：模擬授業（5）学校行事の意義
第11回：模擬授業（6）学校行事の課題
第12回：模擬授業（7）学校の規範と特別活動の課題
第13回：特別活動における教師間の協働の意義と課題
第14回：特別活動における保護者との連携の意義と課題
第15回：今日における特別活動の課題
定期試験（レポートの提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造	～65	生活指導論	2	前期　木3,4	○大日方 真史（教育学部）, 池田 修（非常勤講師）
	66～	特別活動論 II	2		

授業の概要　生徒に対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容
第1回：特別活動の意義
第2回：生徒の生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
第3回：特別活動の歴史的展開
第4回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（1）親密性
第5回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（2）公共性
第6回：模擬授業（1）学級集団の特性と学級活動（ホームルーム活動）の意義
第7回：模擬授業（2）学級活動（ホームルーム活動）の課題
第8回：模擬授業（3）生徒会活動の意義
第9回：模擬授業（4）生徒会活動の課題
第10回：模擬授業（5）学校行事の意義
第11回：模擬授業（6）学校行事の課題
第12回：模擬授業（7）学校の規範と特別活動の課題
第13回：特別活動における教師間の協働の意義と課題
第14回：特別活動における保護者との連携の意義と課題
第15回：今日における特別活動の課題
定期試験（レポートの提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目 AIII 教育実践創造	～65 66	生活指導論 特別活動論 I	2 2	前期集中	○石垣 雅也（教育学部非常勤講師）, 石川 正（教育学部非常勤講師）

授業の概要　学校には、子どもが多様な人々と出会って関係を形成する機会と、数々の活動が用意されている。そこでの子どもには、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめたり、社会に主体的に参加していく道筋を見出したりする機会を得ることが期待されている。こうした経験を保障する特別活動の意義と課題について、実践事例にも触れながら具体的に探っていく。

学習の目的　学校教育活動における特別活動の役割と、子どもの人格発達、民主的な集団形成において、特別活動の果たす意義と役割について理解する

学習の到達目標　教職についたときに自身が行う特別活動の実際についてイメージが持て、子どもの人格発達、民主的な集団形成において特別活動の果たす役割についての理解とイメージを持つ事ができるようになる。

成績評価方法と基準　期末試験60% 出席を含めた受講状況40%

学習内容
1．ガイダンス
2．学習指導要領上の位置づけ
3．集団活動とはどういうことか
4．学級活動の実際
5．学級活動と子ども理解
6．児童会活動の実際と子ども理解
7．クラブ活動の実際
8．学校行事と職員の共同
9・10 模擬学級会をしてみよう
11・12 模擬全校集会を企画しよう
13．子どもの安心と学級づくり
14．いじめと学級・学校
15．特別活動を通して育むもの
16．試験
1から8、13から16を石垣が、9から12を石川が担当する

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目 AIII 教育実践創造	～65 66～	生活指導論 特別活動論 I	2 2	後期集中	○石垣 雅也（教育学部非常勤講師）, 石川 正（教育学部非常勤講師）

授業の概要　学校には、子どもが多様な人々と出会って関係を形成する機会と、数々の活動が用意されている。そこでの子どもには、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめたり、社会に主体的に参加していく道筋を見出したりする機会を得ることが期待されている。こうした経験を保障する特別活動の意義と課題について、実践事例にも触れながら具体的に探っていく。

学習の目的　学校教育活動における特別活動の役割と、子どもの人格発達、民主的な集団形成において、特別活動の果たす意義と役割について理解する

学習の到達目標　教職についたときに自身が行う特別活動の実際についてイメージが持て、子どもの人格発達、民主的な集団形成において特別活動の果たす役割についての理解とイメージを持つ事ができるようになる。

成績評価方法と基準　期末試験60% 出席を含めた受講状況40%

学習内容
1．ガイダンス
2．学習指導要領上の位置づけ
3．集団活動とはどういうことか
4．学級活動の実際
5．学級活動と子ども理解
6．児童会活動の実際と子ども理解
7．クラブ活動の実際
8．学校行事と職員の共同
9・10 模擬学級会をしてみよう
11・12 模擬全校集会を企画しよう
13．子どもの安心と学級づくり
14．いじめと学級・学校
15．特別活動を通して育むもの
16．試験
1から8、13から16を石垣が、9から12を石川が担当する

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造	～65	生活指導論	2	後期　火 7, 8	○大日方 真史（教育学部），本田 清春（教育学部非常勤講師），石川 正（教育学部非常勤講師）
	66～	特別活動論 I	2		

授業の概要　子どもに対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書
小学校学習指導要領
適宜紹介する

成績評価方法と基準
平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。
授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12：50、生活指導論研究室

学習内容
1．ガイダンス
2．子どもの生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
3．特別活動の教育課程上の位置と歴史的な展開
4．子どもの困難と指導の課題
5．子ども理解と学級づくり・学級活動
6．安心と自由を生かす実践の課題
7．教師の指導性
8．子どもの権利と実践課題
9．模擬授業（1）活動の計画における課題
10．模擬授業（2）児童会活動の意義
11．模擬授業（3）児童会活動の課題
12．模擬授業（4）学校行事の意義
13．模擬授業（5）学校行事の課題
14．クラブ活動の意義と課題
15．今日における特別活動の課題
16．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース専門科目AIII 教育実践創造	63～66	教育技術論 I	2	後期集中	瓦林 亜希子
	67-	教育技術論	2		

授業の概要　フレネ教育（現代学校運動）における教育技術の検討を通して、日本の教育の問題点と改革の方向を探る

学習の目的
自己の被教育体験を相対化する力
個性化教育を構想する力

オフィスアワー　単位認定用レポートが合格水準にあることを前提として、講義時のミニレポート 40%、単位認定用レポート 60%

学習内容
毎講義で自主的な意見発表を求める。講義の展開はその発表と関わりをもって進む。
講義者が用意しているものは以下の内容である。
・フランスの現代学校運動提唱者、C.フレネの教育論・教育技術（自由テクスト、学校間通信、興味 の複合論、学習文庫、学校協同組合など）の検討
・日本における実践の検討

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択科目AIII 教育実践創造	67-	学習支援論	2	後期　金 3, 4	森脇 健夫

授業の概要
学習支援とは何か？勉強をしていてわからない子どもを支援する方法・技術？それももちろん学習支援論のテーマである。しかし、もっと根本的な問題を考えなくてはならない。子どもの内面世界はどうなっているのか？子どもはどのように自分の周りの対象を認識しているのか？
そして子どもはどのように大人になっていくのか？その際に大きな役割を果たしているのが学校である。学校という装置はどのように生まれたのか？どのような役割を果たしているのか？そもそも学校は何を子どもたちに伝えないといけないのか？子どもがわからなくて悩んでいるときに、そうしたことはコトの背景にある。学習支援論では、こうした問題をまず取り扱う。
大きな視野を持ちながらしかも小さな具体的な問題を解決できるように皆さんを「支援」したい。

学習の目的　学習支援のために必要なことは対象の世界をできるだけ文脈をたどるような理解の仕方で理解することである。そのためには対象に寄り添い、内側の目で見ていくことができなければならない。また同時にこちら側の願いの強さや教育内容研究の深まりも必要とされる。この一見、相反する両方のことについて、その必要性と探究の準備ができている状態を目指す。

学習の到達目標
1 子どもの内面世界、外界認識について、そのイメージを描くことができる
2 子どもに寄り添う、ということはどういうことかその方法について思い描くことができる
3 学校という装置が成立した経緯および、学校の役割について多角的に考えることができる
4 建前と本音、スクールワイズがうまれる理由（わけ）
5 政治的空間としての教室・・・「23分間の奇跡」が起こる理由
6 学校的な学びとそうでない学びが存在し、お互いに影響を受けあっているということについて知る
7 コーチングの考え方と基礎的な技術を会得する
8 グループで交流し、ものごとを考え合っていく楽しさを知る
9 教育実践の理論、実践事例に親しむ

受講要件　1年生から4年生まで教室にいてほしいと思っています。例年受講希望が多いため、オリエンテーションにおいて、受講動機などをもとに受講者を人数制限しています。

教科書　講義で指定

成績評価方法と基準　レポート、平常点

学習内容
1 「異文化」しての子ども
2 子どもに「寄り添う」とは？
3 大人と子ども
4 子どものころのふしぎ
5 問いが消えていく！？
6 教室の「政治学」――権威と権力
7 潜在カリキュラムとスクールワイズ
8 子どもの「つまずき」と「学び」
9 学校での「学び」と学校外での「学び」
10 教師の力量の核ー「二重の応答性」について
11 「聴くこと」「つながる」こと
12 「待つこと」の意味
13 コーチングの技術、その1 聴くこと
14 コーチングの技術、その2 質問すること
15 教育と支援
16 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造		教育工学 教育工学 I	2 2	前期　月 5, 6	須曽野 仁志

授業の概要　学校の教室には、コンピュータ、プロジェクタ、電子黒板、携帯用タブレット端末などが導入されてきており、紙の教科書も、近い将来、電子教科書に置き換えられるかもしれない。本授業では、これらの情報機器の活用について学び、自分自身のプレゼンテーション力やメディアリテラシーを向上させる。教育工学というと、難しい授業名に聞こえるかもしれないが、「夫」という漢字を一字入れ、教育工（夫）学とするとわかりやすい。上記のメディアやネットを用いて、授業や教育活動をいかに工夫・改善するかを内容とする。新しい教育機器だけでなく、従来からある書画カメラや伝統的な教育支援法についても重視する。

学習の目的
・学校現場における「教育の方法と技術」について知る。
・教育における技術(Technology in Educaiton)の中で、今日的課題となっている内容や支援技法について、理解・習得する。
・授業において、様々な教育機器の使い方がわかるようになる。

学習の到達目標
・手書きでOHPシートor書画カメラ用シートを作成し、わかりやすいプレゼンテーションができるようになる。
・学校現場での情報教育の現状を知り、どのようにテクノロジー（技術）を学習利用すればよいかがわかるようになる。
・個人でデジタルストーリーテリング（デジタル紙芝居）にとり組み、2分以内の作品を作る。
・構成主義（含む社会的構成主義）の考え方でコンピュータを学習利用できるようになる。

教科書　教科書は使用しない。参考図書は授業時に紹介する。

成績評価方法と基準　ミニレポート、プレゼンテーション、コンピュータを用いた作品制作、最終テストなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教育実践総合センター須曽野研究室

学習内容
1.授業導入「教育工学とはどんな分野か」
2.教育の方法「写真を大勢に見せる方法」
ビデオプロジェクタ、書画カメラ等の使い方
3.「教育における技術」の背景と特徴
4.プレゼンテーションの方法と技術
5〜6.情報教育・コンピュータ利用学習の現状と課題
7〜10.コンピュータを利用した学習の方法と支援
静止画（画像、写真、絵など）とナレーションを用いたデジタルストーリーテリング制作
11.米国学校におけるコンピュータと教育機器の利用
12.ポートフォリオ学習、学習成果の活用と評価
13〜14.授業設計と授業改善
15.授業まとめ

その他　情報処理センター第4端末室コンピュータを使用し、プレゼンテーション活動やデジタルストーリー制作を行う。情報処理センター第4端末室定員超過の場合は、上の学年優先、A，D類優先を原則とする。掲示に注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目 AIII 教育実践創造		教育工学 教育の技術と方法 I	2 2	前期　月 5, 6	須曽野 仁志

授業の概要　学校の教室には、コンピュータ、プロジェクタ、電子黒板、携帯用タブレット端末などが導入されてきており、紙の教科書も、近い将来、電子教科書に置き換えられるかもしれない。本授業では、これらの情報機器の活用について学び、自分自身のプレゼンテーション力やメディアリテラシーを向上させる。上記のメディアやネットを用いて、授業や教育活動をいかに工夫・改善するかを内容とする。新しい教育機器だけでなく、従来からある書画カメラや伝統的な教育支援法についても重視する。

学習の目的
・学校現場における「教育の方法と技術」について知る。
・教育における技術(Technology in Educaiton)の中で、今日的課題となっている内容や支援技法について、理解・習得する。
・授業において、様々な教育機器の使い方がわかるようになる。

学習の到達目標
・手書きで書画カメラ用シートや3sカードを作成し、わかりやすいプレゼンテーションができるようになる。
・学校現場での情報教育の現状を知り、どのようにテクノロジー（技術）を学習利用すればよいかがわかるようになる。
・個人でデジタルストーリーテリング（デジタル紙芝居）にとり組み、2分以内の作品を作る。
・構成主義（含む社会的構成主義）の考え方でコンピュータを学習利用できるようになる。

教科書　教科書は使用しない。参考図書は授業時に紹介する。

成績評価方法と基準　ミニレポート、プレゼンテーション、コンピュータを用いた作品制作、最終テストなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教職支援センター須曽野研究室

学習内容
1.授業導入「教育工学とはどんな分野か」
2.教育の方法「写真を大勢に見せる方法」
ビデオプロジェクタ、書画カメラ等の使い方
3.「教育における技術」の背景と特徴
4.プレゼンテーションの方法と技術
5〜6.情報教育・コンピュータ利用学習の現状と課題
7〜10.コンピュータを利用した学習の方法と支援
静止画（画像、写真、絵など）とナレーションを用いたデジタルストーリーテリング制作
11.米国学校におけるコンピュータと教育機器の利用
12.ポートフォリオ学習、学習成果の活用と評価
13〜14.授業設計と授業改善
15.授業まとめ

その他　情報処理センター第4端末室コンピュータを使用し、プレゼンテーション活動やデジタルストーリー制作を行う。情報処理センター第4端末室定員超過の場合は、上の学年優先、A，D類優先を原則とする。掲示に注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目 AIII 教育実践創造	〜62 63〜65 66, 67	教育工学 教育工学 II 教育の方法と技術 II	2 2 2	後期　火 7, 8	下村 勉（教育学部学校教育講座）

授業の概要
情報社会の教育においては、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する新しい教育（情報発信型教育）に対応した教育方法・技術を習得する必要がある。
本授業では、授業設計・実施・評価・改善にかかわる知識・技術を習得して実践的な力量を形成することをねらいとする。具体的には、基礎となる学習理論、授業設計、教材開発、プレゼンテーション、教育評価の方法などである。なお、授業に際して、eラーニングシステム（Moodle）を活用し、学生がICT活用の有効性や留意点を実践的に学ぶようにする。

学習の到達目標
・授業の設計・実施・評価・改善にかかわる新しい知識・技術を知ることができる。
・ICTを活用した効果的なプレゼンテーション（情報発信）ができる。意義や留意点を実感できる。
・自己評価・相互評価の意義を知り、フィードバックによる改善ができる。

教科書　教科書は使用しないが、適宜、プリント・Web資料を使用する。

成績評価方法と基準　授業への参加状況20%、作品40%、レポート40%.

オフィスアワー　毎週金曜日13：00-14：30 教職実践支援センター（旧教育実践総合センター）教育工学研究室(下村)

学習内容
・ガイダンス；教育工学の考え方、情報発信型教育
・基礎となる学習理論（歴史・意義）
・授業設計の基礎（目標・内容の構造化）
・授業設計の基礎（指導計画の作成法）
・教材開発・教材活用の方法（情報収集法）
・教材開発・教材活用の方法（データベースの開発と活用）
・プレゼンテーションの方法と技術
・プレゼンテーション資料の作成法
・学習集団とコミュニケーション技術
・授業におけるコミュニケーション技術
・教育評価の方法と技術（形成的評価とフィードバック）
・教育評価の方法と技術（ポートフォリオ評価）
・情報教育の現状と課題
・eラーニング（ブレンディッド・ラーニング）
・まとめ
（近隣学校からの要請で、パソコン活用の支援活動を扱うことがある）

その他　パソコン実習や発表等の都合上、受講制限（40名）を行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造		教師と生徒の心理 II	2	後期　火 7, 8	松浦均（教育学部学校教育講座）

授業の概要
教育現場で起きる様々な問題について，学校，教師，児童生徒，それぞれの観点から受講生を中心にして議論を行っていきたい．授業では，議論して考えを深めたい複数のテーマを設定し，これについてグループを作って検討してもらう．それを発表し，受講生全体で討議を行う．

学習の目的
教師と生徒に関するさまざまな問題について
簡単に答えの出るものではないが，
受講生のなかで一定の見解を作り上げる作業を行い，
考えを深めていくこと，問題意識を持つことを目的とする．

学習の到達目標
学校，教師，児童生徒に関する様々な社会的問題について，様々な観点から見ることができるようにする複眼的視野をもつこと．
それらの問題について議論し，自分の考えを構築していくことができるようになること．

受講要件　とくになし

予め履修が望ましい科目　とくになし

教科書　授業中に紹介できるものを提示する

成績評価方法と基準　授業出席およびコメント提出40%，グループ発表および最終レポート60%

オフィスアワー　水曜日午後（ただし会議のある日を除く），研究室で対応

学習内容
第1週：イントロダクション，この授業の方法についての説明
第2〜4週（第1クール）学校教育の観点からの話題提供とそれについての議論
第5〜7週（第2クール）生徒の心理の観点からの話題提供とそれについての議論
第8〜10週（第3クール）教師の心理の観点からの話題提供とそれについての議論
第11〜13週（第4クール）生徒と教師の相互作用の観点からの話題提供とそれについての議論
第14週：最後のまとめと議論および授業総括
授業のやり方としては，3週間を1クールとして，グループ活動を通して各クールのテーマについて議論していく形になる．毎クールの初回に討議事項について，こちらから話題提供を行い，クール第2週でグループ発表，第3週でそのクールの議論についての総括を行う．これを繰り返していく．各自は毎週授業コメントを作成し議論を深めていく．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/AIII 教育実践創造	66	生徒指導・進路指導論 I	2	前期　火 9, 10	杉本英晴(教育学部，非常勤講師)
	〜65	教師と生徒の心理 I	2		

授業の概要
保育者や教員は，幼児や児童の発達を促す上で，大きな役割を担っている。そのため，保育者や教員には，子どもに対する個別の関わりや子ども集団・組織の運営に必要な「コミュニケーション」方法の習得が求められる。
そこで，本授業では，学校場面における「コミュニケーション」について取り上げ，教育心理学や社会心理学の知見をもとに概説していく。

学習の目的
・教育心理学や「社会心理学に基づく「コミュニケーション」の基礎知識を習得すること
・そうした基礎知識をもとに，学校場面でのコミュニケーション（とくに，教師と子どものコミュニケーション）について，客観的に理解することができるようになること

学習の到達目標
・習得した基礎知識をもとに，学校場面でのコミュニケーションはもちろんのこと，普段のコミュニケーションについて振り返り，客観的に理解することができるようになること
・グループ討論などの協同学習を行うことで，子どもを理解する多様な視点も習得すること

教科書　なし。適宜プリントを用意する。

成績評価方法と基準　授業への取り組み30%、期末試験70%、計100%（合計60%以上で合格）。

オフィスアワー　対応窓口は，松浦 均教員（学校教育講座）

学習内容
第1回 イントロダクション：人間の発達とは
第2回 子どものコミュニケーションの発達の基礎：認知・記憶
第3回 子どもの社会性の発達：心の理論
第4回 子どもの社会性の発達：道徳性の発達
第5回 子どものコミュニケーション方法：非言語的コミュニケーション
第6回 子どものコミュニケーション方法：言語的コミュニケーション
第7回 児童期の環境の発達：物理的環境と社会的環境
第8回 児童期から青年初期の親子関係
第9回 教師の働きかけが子どもに及ぼす影響
第10回 教師の認知が子どもに及ぼす影響
第11回 効果的なリーダーシップ
第12回 学級集団におけるコミュニケーションの特徴
第13回 教師による評価
第14回 教師同士のコミュニケーション
第15回 まとめ

その他　学校場面や日常生活での「コミュニケーション」について，主観的に捉えるのではなく，客観的にどのように理解することができるのか，授業の中で考えていきたいと思います。日常生活における自分や周囲の「コミュニケーション」に意識を向けて考えながら，授業を受けてください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/AIII 教育実践創造	66	生徒指導・進路指導論 I	2	前期　金 1, 2	廣岡 雅子（教育学部非常勤講師）
	～65	教師と生徒の心理 I	2		

授業の概要　生徒指導・進路指導の意義を理解し、幼稚園・小学校において生徒指導・進路指導を実践できるような心理学的知識や具体的な手法を学習する。

学習の目的　体験ワークや具体的事例の学習をすることにより、幼児児童の発達的特徴や、幼児児童の健全な成長を教育現場で促すために必要とされる心理学理論や具体的な手法などが、生徒指導・進路指導の観点から理解できる。

学習の到達目標
SGEやSSEを学び具体例を体験した後に授業案を考えることにより、教育現場での実践力がつく。
学級集団の作り方、幼児児童や保護者などとの良好な関わり方や支え方、信頼される教師になる方法など、発達段階を踏まえた上で、教師として生徒指導・進路指導を進めるための具体的行動がわかる。

教科書　なし（授業用の資料を用意する）

成績評価方法と基準
出席状況30%、レポート20%、期末試験50%。
ただし、原則として4回以上の欠席者とレポート未提出者には単位取得を認めない。

オフィスアワー　毎週金曜日10:30～11:00、学校教育事務室

学習内容
1 生徒指導・進路指導とは
2 構成的グループエンカウンター
3 社会的スキル教育
4 教育相談、アサーション
5 感情統制の指導・支援
6 乳幼児期の心理発達
7 児童期の心理発達とキャリア教育
8 保護者・地域との連携
9 わかる授業1
10 わかる授業2
11 特別支援教育1
12 特別支援教育2
13 不適応行動1：学級崩壊、不登校
14 不適応行動2：いじめ
15 教師のソーシャル・サポート、メンタルヘルス
16 筆記試験

その他
・授業に20分以上遅刻した場合は、出席点を減点する。
・レポートは、授業時に指示する提出期限を厳守すること。なお、レポート未提出者は単位を取得できない。
・履修希望者が多数の場合は、抽選を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導		生徒指導・進路指導論 I	2	後期　金 1, 2	廣岡 雅子（教育学部非常勤講師）
		教師と生徒の心理 I	2		

授業の概要　生徒指導・進路指導の意義を理解し、幼稚園・小学校において生徒指導・進路指導を実践できるような心理学的知識や具体的な手法を学習する。

学習の目的　体験ワークや具体的事例の学習をすることにより、幼児児童の発達的特徴や、幼児児童の健全な成長を教育現場で促すために必要とされる心理学理論や具体的な手法などが、生徒指導・進路指導の観点から理解できる。

学習の到達目標
SGEやSSEを学び具体例を体験した後に授業案を考えることにより、教育現場での実践力がつく。
学級集団の作り方、幼児児童や保護者などとの良好な関わり方や支え方、信頼される教師になる方法など、発達段階を踏まえた上で、教師として生徒指導・進路指導を進めるための具体的行動がわかる。

教科書　なし（授業用の資料を用意する）

成績評価方法と基準
出席状況30%、レポート20%、期末試験50%。
ただし、原則として4回以上の欠席者とレポート未提出者には単位取得を認めない。

オフィスアワー　毎週金曜日10:30～11:00、学校教育事務室

学習内容
1 生徒指導・進路指導とは
2 構成的グループエンカウンター
3 社会的スキル教育
4 教育相談、アサーション
5 感情統制の指導・支援
6 乳幼児期の心理発達
7 児童期の心理発達とキャリア教育
8 保護者・地域との連携
9 わかる授業1
10 わかる授業2
11 特別支援教育1
12 特別支援教育2
13 不適応行動1：学級崩壊、不登校
14 不適応行動2：いじめ
15 教師のソーシャル・サポート、メンタルヘルス
16 筆記試験

その他
・授業に20分以上遅刻した場合は、出席点を減点する。
・レポートは、授業時に指示する提出期限を厳守すること。なお、レポート未提出者は単位を取得できない。
・履修希望者が多数の場合は、抽選を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育指導・進路指導		生徒指導・進路指導論 II 教師と生徒の心理 II	2 2	前期　月 5, 6	亀田研（教育学部 非常勤講師）

授業の概要　様々な教育心理学的な研究知見を紹介し，それらに基づいて，より適応的な生徒指導や学習指導について考える。

学習の目的
教育心理学に関する生徒指導や学習指導に関する知識を習得する。生徒指導・学習指導について各自が深く考え，自分の意見を持つことができるようになる。

学習の到達目標
生徒指導・学習指導に関する教育心理学的な知見を知り，理解できる。
それらの知識を活かし，適切な生徒指導について，各自が考え，具体的にはどのような行動をとればいいのかが分かる。

受講要件　なし

予め履修が望ましい科目　なし

教科書　なし（授業中に資料を配付する）

成績評価方法と基準　出席20%，小レポート20%，期末試験60%

オフィスアワー　毎週月曜日12:30〜13:00，場所教育学部非常勤講師控え室（世話役：教育学部 松浦均先生）

学習内容
1 ガイダンス(生徒指導の定義と目的)
2 認知発達と生徒指導・学習指導1
3 認知発達と生徒指導・学習指導2
4 学習プロセスと生徒指導・学習指導1
5 学習プロセスと生徒指導・学習指導2
6 学習プロセスと生徒指導・学習指導3
7 心理社会的発達1
8 心理社会的発達2
9 教師―生徒関係1
10 教師―生徒関係2（障害をもった生徒の理解）
11 学級集団1（集団の理解）
12 学級集団2（いじめの理解と対策）
13 進路と生徒指導1
14 進路と生徒指導2
15 まとめと授業の総括
16 試験

その他　なし

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育指導・進路指導		生徒指導・進路指導論 II 教師と生徒の心理 II	2 2	前期　月 7, 8	亀田研（教育学部 非常勤講師）

授業の概要　様々な教育心理学的な研究知見を紹介し，それらに基づいて，より適応的な生徒指導や学習指導について考える。

学習の目的
教育心理学に関する生徒指導や学習指導に関する知識を習得する。生徒指導・学習指導について各自が深く考え，自分の意見を持つことができるようになる。

学習の到達目標
生徒指導・学習指導に関する教育心理学的な知見を知り，理解できる。
それらの知識を活かし，適切な生徒指導について，各自が考え，具体的にはどのような行動をとればいいのかが分かる。

受講要件　なし

予め履修が望ましい科目　なし

教科書　なし（授業中に資料を配付する）

成績評価方法と基準　出席20%，小レポート20%，期末試験60%

オフィスアワー　毎週月曜日12:30〜13:00，場所教育学部非常勤講師控え室（世話役：教育学部 松浦均先生）

学習内容
1 ガイダンス(生徒指導の定義と目的)
2 認知発達と生徒指導・学習指導1
3 認知発達と生徒指導・学習指導2
4 学習プロセスと生徒指導・学習指導1
5 学習プロセスと生徒指導・学習指導2
6 学習プロセスと生徒指導・学習指導3
7 心理社会的発達1
8 心理社会的発達2
9 教師―生徒関係1
10 教師―生徒関係2（障害をもった生徒の理解）
11 学級集団1（集団の理解）
12 学級集団2（いじめの理解と対策）
13 進路と生徒指導1
14 進路と生徒指導2
15 まとめと授業の総括
16 試験

その他　なし

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
コース選択科目AIII 教育実践創造	66期生以降	生徒指導・進路指導論 II	2	後期　火 7, 8	松浦均（教育学部学校教育講座）

授業の概要
教育現場で起きる様々な問題について，学校，教師，児童生徒，それぞれの観点から受講生を中心にして議論を行っていきたい．
授業では，議論して考えを深めたい複数のテーマを設定し，これについてグループを作って検討してもらう．それを発表し，受講生全体で討議を行う．

学習の目的
教師と生徒に関するさまざまな問題について
簡単に答えの出るものではないが，
受講生のなかで一定の見解を作り上げる作業を行い，
考えを深めていくこと，問題意識を持つことを目的とする．

学習の到達目標
学校，教師，児童生徒に関する様々な社会的問題について，様々な観点から見ることができるようにする複眼的視野をもつこと．
それらの問題について議論し，自分の考えを構築していくことができるようになること．

受講要件　とくになし

予め履修が望ましい科目　とくになし

教科書　授業中に紹介できるものを提示する

成績評価方法と基準　授業出席およびコメント提出40%，グループ発表および最終レポート60%

オフィスアワー　水曜日午後（ただし会議のある日を除く），研究室で対応

学習内容
第1週：イントロダクション，この授業の方法についての説明
第2〜4週（第1クール）学校教育の観点からの話題提供とそれについての議論
第5〜7週（第2クール）生徒の心理の観点からの話題提供とそれについての議論
第8〜10週（第3クール）教師の心理の観点からの話題提供とそれについての議論
第11〜13週（第4クール）生徒と教師の相互作用の観点からの話題提供とそれについての議論
第14週：最後のまとめと議論および授業総括
授業のやり方としては，3週間を1クールとして，グループ活動を通して各クールのテーマについて議論していく形になる．毎クールの初回に討議事項について，こちらから話題提供を行い，クール第2週でグループ発表，第3週でそのクールの議論についての総括を行う．これを繰り返していく．各自は毎週授業コメントを作成し議論を深めていく．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造		学習心理学	2	後期　金 3, 4	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
人が新たなものを学んでいく中で、どのような心理学的プロセスが働いているのであろうか。これを理解することができれば、効率的に人を「賢く」する方法が分かるはずであろう。
本講義では、学習心理学の研究知見の中から、記憶や動機づけなど重要なトピックについて取り上げて話題提供する。さらに、特に興味深いトピックについては、学習者主体型の活動を通して、学習を進める。これらを通して、授業で学んだ心理学的知見をいかに生かせばよいかについて習得できることを目指す。

学習の到達目標　学びの過程を心理学的に理解し、より良い学習指導を行ったり、自らの学びを改善するスキルを身につける。

受講要件　最低限の意欲とコミュニケーション力

予め履修が望ましい科目　教育心理学

教科書　参考書:「授業を変える」 米国学術研究推進会議編 北大路出版 ・「自己形成の心理―自律的動機づけ」 速水敏彦 金子書房

成績評価方法と基準　レポートや授業活動への関与

オフィスアワー　前期・金曜13:00〜14:30・学習心理学（中西）研究室

学習内容
イントロダクション
様々な学習理論とその応用
様々な動機づけ理論とその応用
学習・動機づけに関する重要な研究とその解釈
学んだ知識をどのように活かせばよいか

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造		学習心理学実践技法	2	後期　木 1, 2	中西良文（教育学部学校教育講座）

授業の概要　この授業では、「実際に」授業を企画・実施します。それによって、「現場に密着した学習心理学の知見」を理解するとともに、そこで学んだ「学習心理学」の知見を「実際に使えるようになる」ことを目指します。

学習の到達目標
まず、学習心理学に関するこれまでの研究の知見を「理解」することが挙げられます。そして、学習心理学の研究で蓄積されてきた知見を知るだけではなく、実際に「生かす力」を身につけて欲しいと思います。その際に特に「学習者の視点」に立って考えられるようになって欲しいと考えています。
この授業では、実際に「教える」という活動をすることによって、これら以外に様々な力を身につけて欲しいと考えていますし、実際に身につくと思います。教員免許の取得を考えている人には、それに直接役立つ経験ができる機会になると思います。

受講要件
実際の教育現場に出て授業を実施することを含んでいるため、社会常識を持ち、積極的に授業に関与を行う人のみ受講を認めます。
なお、学生教育研究災害傷害保険には加入しておいてください。

予め履修が望ましい科目　学習心理学・教育心理学・モティベーションサイエンス・教師と生徒の心理・発達心理学・教育臨床

教科書　授業内で指定するが、図書を数冊購入していただく予定である。

成績評価方法と基準
授業後半に行う「授業実施」とその後に出される「レポート」で評価を行う。
ただし、授業実施までの授業での活動も重視し（欠席不可）、それまでの受講態度如何によっては、授業実施に参加させないことがある。そのあたりは、十分に理解をしておいて欲しい。

オフィスアワー　後期・月曜34限・学習心理学（中西）研究室

学習内容
1回目：インストラクション
2回目：自ら授業を体験してみる（ビデオ課題を使った協調学習）
3回目：体験授業に対する考察
4回目：体験授業に対する考察の発表
5回目：学習心理学関連文献購読のテーマ設定（ジグソー学習）
6回目：学習心理学関連文献購読 自己学習（ジグソー学習）
7回目：学習心理学関連文献購読 グループディスカッション1（ジグソー学習）
8回目：学習心理学関連文献購読 グループディスカッション2（ジグソー学習）
9回目：授業案づくり 1
10回目：授業案づくり 2
11回目：授業案検討会
12回目：授業準備
13回目：授業実施
14回目：授業実施
15回目：実施授業のリフレクションとまとめ

その他　実際に学校において授業を行う予定であるため、正規の授業開始時間よりも早く、当該の学校に来てもらうことがあったり、また、（できるだけそうならないように最大限の配慮をしますが）次の時間の授業に食い込む可能性や授業時間とは別の時間に実践活動がありうることをご承知おきください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造	64-66	現代社会の課題と国民的教養	2	後期　火 3, 4	佐藤 年明
	67	教育課程の国際比較	2		

授業の概要　性の学習を窓口としながら、学習指導要領の強い拘束を受けている日本の教育課程とは対照的な特徴を持つスウェーデン及びニュージーランドの学校教育課程を紹介し、それらとの比較をしながら日本の教育課程の今後の可能性を探る。

学習の目的　学習指導要領に拘束された日本の教育課程を相対化して捉える視野を持つこと。

学習の到達目標　学校教育課程を既存のものとして受け入れてしまう姿勢ではなく、教師が創造の主体となるその対象として能動的に捉える姿勢に立ってほしい。日本以外の国の教育課程を学ぶことがそのための刺激となることを期待する。

受講要件
人間発達科学コース対象の授業であるが、学校教育コース学生にも自由選択科目として受講してもらいたい。
人間発達科学コース64-62期生は「現代社会の課題と国民的教養」として、同67期生は「教育課程の国際比較」として履修すること。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　授業中にmoodle上に提出を求める「課題レポート」及び期末の「最終レポート」によって評価する。

オフィスアワー　木2・3・4コマ いずれも研究室にて

学習内容
※以下はあくまで当初計画であり、授業担当者の研究の進展や授業での議論の展開等によって変更する可能性もある。
第1〜5回：１．スウェーデンにおけるsex och samlevnad（性と共生）のVTR視聴と分析
(1)Dalaro skolaの基礎学校7学年・9学年の授業実践
(2)Blackeberg gymnasiumにおける授業実践
第6〜7回：２．スウェーデンにおける性教育の歴史
第8回：３．スウェーデンの学校教育課程における「性教育必修」の意味
第9〜10回：４．ニュージーランドの初等中等教育の概要とAuckland市近郊の小中高の参観報告
第11〜12回：５．ニュージーランドの性教育の現況と性教育研究者との交流報告
第13回：６．性と文化、性と社会の関係をめぐって
第14回：７．日本の性文化の現状をどう見るか、教育者としてそれにどう切り込むか？
第15回：８．日本の性教育への提案を行なう（グループ活動）
※試験は行なわず、日常点と最終レポートで評価する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造	67-63	教育工学演習	2	前期　火 7, 8	下村 勉（教育学部学校教育講座）

授業の概要
コンピュータを活用して、絵・グラフ・文字を組み合わせて、情報を効果的に伝える方法や改善するプロセスを実践的に学ぶ。
1 コンピュータを用いた情報表現1：ワープロ（Word）のグラフィック機能を利用して、絵と文字により一枚の情報表現作品（ポスター）を作成する。テーマは授業時に提案する。
2 コンピュータを用いた情報表現2：表計算ソフト（Excel）を利用して、自分の興味あるデータをわかりやすくグラフ化して説得力ある情報表現作品を作成する。
3 作品発表会と相互評価のフィードバックによる改善
なお、グラフ作品の優秀作は三重県グラフコンクールへ応募している。

学習の目的　ICTを用いての情報活用能力やメディアリテラシーの向上を図る。

学習の到達目標
（1）情報をわかりやすく伝えるためには、どのような点に留意して作成したらよいかがわかり、実際にパソコンを利用して情報伝達作品を作ることができる。わかりやすいグラフの作成能力、ポスターセッション（展示発表）のポスター作成などに役立つ。
（2）パソコンの活用能力の向上、とくにワープロソフト（描画機能）、表計算ソフト（グラフ作成）の活用法が習得できる。
（3）メディアからの情報を発信するとき及び受信するときの留意点がわかる。

教科書　教科書は使用しない。適宜プリントやWeb資料を使用する。

成績評価方法と基準　授業への参加状況20%、作品40%、レポート40%.

オフィスアワー　毎週金曜日13：00-14：30 教職支援センター（旧教育実践総合センター）教育工学研究室(下村)

学習内容
第1回 ガイダンス：授業のねらい、Moodleの使い方、過去の作品の閲覧、アンケート
第2回 絵と文字による情報表現、Wordの描画機能
第3回 情報表現作品1の制作
第4回 続き
第5回 作品の相互閲覧と相互評価
第6回 作品の修正と再評価
第7回 グラフを用いた情報表現、Excelのグラフ機能
第8回 情報表現作品2の制作
第9回 続き
第10回 グループ内発表
第11回 全体発表とコメントのフィードバック
第12回 改訂版の制作と提出
第13回 データベースについて（登録・利用)
第14回 メディアリテラシーについて
第15回 まとめ（ポートフォリオの作成）

その他　パソコン実習等の関係上、受講制限（40名）を行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造	66-59	教育実践演習	2	後期　月 3, 4	須曽野 仁志

授業の概要
学校現場、生涯学習の場において必要なプレゼンテーション技法やコンピュータ操作スキルを習得するため、以下の実習を行う。
1．さまざまな方法での自己紹介・プレゼンテーション（3〜4回分）
パワーポイントなど
2．デジタルストーリーテリングの制作(10〜11回分)

学習の目的
・自分らしさを大切にした自己表現する方法や内容を知る。
・実際にプレゼンテーションやデジタルストーリーテリングにとり組み、学習や教育の場での活かし方を知る。
・授業に参加する仲間のとり組みから学び合う。

学習の到達目標
・情報機器を用いて、わかりやすくプレゼンテーションができるようになる。
・ストーリーテリング制作の方法がわかり、個性豊かな作品を制作できるようになる。

教科書　教科書は使用しない。参考図書は授業時に紹介する

成績評価方法と基準　授業時の発表、作品、電子掲示板でのコメントなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教育実践総合センター須曽野研究室

学習内容
1．さまざまな方法での自己紹介・プレゼンテーション（3〜4回分）
パワーポイントの使い方
2．デジタルストーリーテリングの制作(10〜11回分)
ストーリーテリング(Storytelling)とは、文字、画像、音などを用いて、現実に起こったことや、空想上のできごとを描いたものであり、日本語では「物語」や「お話」を意味する。テクノロジーの発達により、コンピュータで、ナレーション、写真、BGM等を合わせ、ストーリーテリングを容易に作成できるようになり、こうしてできたストーリーテリングをデジタルストーリーテリングと呼ぶようになっている。本授業では、ストーリーのシナリオをまず作成し、以下に示す方法で作品制作を進める。
1）コンピュータで音声録音用ソフトを用いて、ナレーションの録音
2）ムービー作成ソフト（Windows XP用「ムービーメーカー」）を用いて、録音された音声と用意された画像の配列・長さの調整、必要に応じてBGMの挿入
3）ムービーファイル(WMVファイルなど）の作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造	64-66	外国の教育制度	2	後期　木 7, 8	織田 泰幸（教育学部）

授業の概要　外国の教育制度について紹介し，その動向をめぐる様々な課題と展望について，わが国との比較を交えながら考察する。

学習の目的　この授業の目的は、①外国の教育制度に関する幅広い知識を獲得すること，②それらを活用して我が国の教育上の様々な特徴や課題について思考できるようになること，である。

学習の到達目標　外国の教育制度に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、これまでの自分が享受してきた教育制度に関する考え方について問い直すこと。

受講要件　諸外国の教育制度に関心をもつ学生

予め履修が望ましい科目　ある程度の専門的な知識を有することが前提となるため、授業者（織田）の開講する授業（学校経営学および教育行政学）を受講した者の履修を強く希望する。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　期末テスト60%、出席40%

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
1.イントロダクション（本講義のルール）
2．比較教育文化論への誘い（比較することの意味は何か？）
3．諸外国の学力向上政策（PISA）
4.諸外国における教育改革の潮流（分権化・権限委譲，選択・競争）
5.諸外国における学校問題（コールマンレポート，効果的な学校）
6.諸外国における学校問題（学校の組織，校長のリーダーシップ）
7.諸外国における教職員（教員の社会的地位，離職・退職）
8．諸外国の学校における子どもの問題（虐待，10代の妊娠）
9.教室の荒れ（人種差別，ドラッグ，学力）
10.教師の取り組み（協同学習）
11.学校における貧困・格差の問題（人種統合政策）
12.学校と保護者・地域社会（連携・協働）
13.学生による発表1（日本と諸外国の比較）
14.学生による発表2（日本と諸外国の比較）
15.学生による発表3（日本と諸外国の比較）
16．まとめ（外国からみた日本の学校教育）

その他　1〜2年生の受講生にとっては内容がやや高度であるため3年生以上の受講をお奨めする。なお、授業者の関心により，特にアメリカの教育制度と学校を中心に扱う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目AIII 教育実践創造		特別なニーズをもつ子どもの教育	2	後期　木 7, 8	栗田 季佳

授業の概要
発達障害という概念，その特性や支援について学ぶ。特別な教育的ニーズを要する子どもに対する教育について議論する。

学習の目的　発達障害の特性，指導や支援を学び，子どもの視点から教育のあり方について考える。

学習の到達目標　発達障害を通して、様々なニーズをもつ子どもの教育，子どもの多様性について考えを深める。

教科書　授業で適宜指定する。

成績評価方法と基準　出席およびレポート

オフィスアワー　木曜：17：00〜18：00

学習内容
1.発達障害と特別な教育的ニーズ
2~4.自閉症スペクトラム障害
5~7.AD/HD
8~9.学習障害
10.その他の発達障害・重複障害
11~12.発達障害の二次障害
13~15.「発達障害」という概念と子どもの多様性
16.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択科目AIII 教育実践創造	66-	異文化理解と教育	2	前期　月 3, 4	森脇 健夫

授業の概要　異文化とは何か、というところから講義を始めたい。異文化とは何か、なぜ人は異文化であることを意識するのか？異文化という問題をどう扱えばいいのか？異文化を理解することはどのようなことか？といった原理的な問題から、なぜ差別や偏見が生まれるのか？そのことがどのような暗い影を人間社会になげかけているのか？また教育に課せられた役割とは何かについて考えていく。

学習の目的　異文化とは何か、理解とは、といった原理的な問題にここで答えが一応もてるようになること、またそのためにどのような努力が必要なのか、ということについて自分の考えを持ち、行動ができるようになること。

学習の到達目標　自分自身の経験やこれからの展望において、異文化理解の観点からある一定の知見を持ち、行動ができること

学習内容

1 異文化とは何か
2 異文化と帰属集団
3 異文化として目に見えるもの、こと
4 異文化として目に見えないもの、見えにくいもの
5 異文化を理解するとは？
6 差別と偏見の心理学
7 4つの窓
8 異文化体験ゲーム（ばふぁばふぁ）を通して感じる異文化
9 感情のコントロールとクリティカルマインド
10 日本の文化
11 日本人の気性
12 異文化理解教育の最前線1
13 異文化理解教育の最前線2
14 異文化理解への道
15 教育の意味
16レポート

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目B		教育と福祉	2	後期　火 5, 6	栗田 季佳，荒川 哲郎

授業の概要　障害者を取り巻く環境や制度・施策について概観し、共生社会を実現するための今日的課題について、受講者を中心に議論する。障害と福祉に関する現場へ訪問する。

学習の目的　障害者の教育と福祉の現状を知り、ともに社会に暮らす者として社会のあり方について考える。

学習の到達目標
障害者と共に生きる社会のあり方について自らの考えを深める。

教科書　授業で適宜指定する。

成績評価方法と基準　出席、授業中の取り組み、及びレポート

オフィスアワー　木曜：17：00〜18：00

学習内容
授業計画
第1回-2回
障害者福祉・教育の歴史と現状
第3-4回
障害者に対する差別と権利
第5-6回
地域生活と自立支援
第7-11回
共生に向けての課題
第12-15回
課題解決のための議論と提案
第16回
まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
総合科目		人権と教育	2	後期　月 7, 8	森脇健夫 余健 菊池紀彦 馬原潤二

授業の概要　社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る

学習の目的　これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため

学習の到達目標　社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に対峙し解決をはかるか、自分で考えることができるようになる。

成績評価方法と基準　一回一回のレポートと出席。

学習内容
1．オリエンテーション
2．被差別部落問題について その1 現状と課題
3．被差別部落問題について その2 解決に向けて
4．被差別部落問題について その3 事例
5．教室の中での人権 その1 いじめや体罰
6．教室の中での人権 その2 事例研究
7．教室の中での人権 その3 授業の中で
8．在日外国人の人権問題 その2 事例1
9．在日外国人の人権問題 その3 事例2
10．在日外国人の人権問題 その1 事例3
11．障がい者の人権問題 その1 事例1
12．障がい者の人権問題 その2 事例2
13．障がい者の人権問題 その3 事例1
14．討論
15．まとめ
16．レポート

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目B	66~	教職入門	2	前期　木 5, 6	森脇 健夫

授業の概要
教師の仕事をとりまく状況について把握する。
専門職としての教師とは、ということについて考えてみる。
教職の魅力について考えてみる
「教えること」について、また教師と児童・生徒との関係について考えてみる
教師の力量、と力量形成について
三重県の教育、三重県の教育改革の方向について
いま、地域教育においてどのようなことが課題か、どんな教師像が求められているか？
教師として人権問題、体罰やいじめ問題にどう対処していくかをあらためて考えてみる
自分にとって教職とはあらためて考えてみる

学習の到達目標　教職という仕事の性格・特徴を理解し、また日本、三重県の教師がどのような状況の下で日々「教える」という営みを行っているかを知り、また実際の教師の生き方にもふれながら、自分自身にとって教職の持っている意味を問い直すことができることを期待したい。

教科書　佐藤学・秋田喜代美 新しい時代の教職入門 有斐閣アルマ

成績評価方法と基準
平常点（平常レポート）・・・30%
レポート・・・30%
テスト・・・・40%

オフィスアワー　木曜日 2コマ目

学習内容
1 ガイダンス
2 教師という仕事
3 教職の専門性
4 教師の仕事の現状と困難性
5 教職の置かれてきた歴史
6 教えることと育てること 1 大村はまにまなぶ
7 教えることと育てること 2 23分間の奇跡に学ぶ
8 初任者研修、10年研修
9 教師の力量形成と研修
10 中間まとめ
11 教師をとりまく環境の変化と抱える問題
12 三重県の教育改革1
13 三重県の教育改革2
14 人権教育の問題
15 教師研究の最前線
16 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目B	67	教職入門	2	後期　火 7, 8	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　教職の意義および教員の役割を考え教員の職務内容を知ることによって、学校現場に関わる講師の談話を交えながら、教職に対する意識を高める。

学習の目的　自身の職業の選択肢としての教職への姿勢を問い直す。

学習の到達目標　自身の職業の選択肢としての教職への姿勢を明確にする。

受講要件　教職への関心。

予め履修が望ましい科目　省察科目「教職入門」は体験科目「教育実地研究基礎」に対応しています。

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、レポート80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教職の今日的位置づけ I 「教職入門」開講の目的
②教職の今日的位置づけ II 免許法とは
③教職の沿革 I 教員養成制度の変化
④教職の沿革 II 教師像の変化
⑤教育の現場から I 「三重県の教育改革」
⑥教育という仕事 I 学校の仕事
⑦教育という仕事 II 社会の要求
⑧教育の現場から II 「子ども理解にもとづく授業づくり」
⑨教育の現場からIII 「子ども理解にもとづく生徒指導」
⑩教育が職業であるために I 教員に求められる資質
⑪教育が職業であるために II 資質向上のための研修
⑫教員の現場からIV 「初任者・10年経験者研修」
⑬教員が職業であるためにIII 新しい動き
⑭教育の現場からV 「危機管理・信頼獲得の学校経営」
⑮まとめ
⑯レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目B	64-67	教職入門	2	後期　金 3, 4	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　わが国で特色ある教育実践を行っている人物に着目しながら、教職の意義や課題について検討していく。

学習の目的　この授業の目的は、①学校経営に関する基礎的・基本的な知識を習得すること，②それらを活用して我が国の学校経営の様々な特徴や課題について思考できるようになること，である。

学習の到達目標　教職に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、これまでの自分の教師観を問い直すこと。専門用語を使いながら自分なりに思考できるようになること。

受講要件　将来教師を目指す学生

成績評価方法と基準　期末テスト60%、出席40%

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
1 イントロダクション（本講義のルールと受講状の注意点）
2 戦後教育言説の展開（学校の語源）
3 学校の教育力を探る（教育問題の変遷）
4 教職の性格を理解する（教職の独自性・特殊性）
5 授業から学ぶ教師（総合的な学習の時間）
6 カリキュラムをデザインする（研究者としての教師）
7 教師の専門的力量とは何か（教育的瞬間）
8 教師のスキルとしての傾聴・共感・受容（構成的グループエンカウンター）
9 学級の「荒れ」に対処する（割れ窓理論）
10 新任期の教師①（リアリティショック）
11 新任期の教師②（同僚性・協働性）
12 教師にとって大切な心構え（勉強するのは何のため？）
13 児童中心主義的な教育言説の再検討（子どもはみんな天才？）
14 「教えること」と「待つこと」の間（最も重要な教師の資質とは？）
15 公教育の未来を模索する（新しい学校づくりのイメージ）
16 まとめ（「教える専門職」から「学ぶ専門職」へ）

その他　1年生および2年生は受講制限に注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択科目B		教育原理	2	後期　木 1, 2	寶來敬章（教育学部非常勤講師）

授業の概要　本授業では、教育の原理・原則について学習します。そのために、教育の歴史や制度、思想などの視点から教育や学校が各時代においてどのように位置づけられてきたのかを検討します。そして諸外国の教育についても概観することを通して、現代の日本における教育にはどのような特徴や課題があるのか、現代の教育者に求められる資質能力とは何かなどについて示したいと思います。

学習の目的　時代や歴史的変遷、時間的連続性を踏まえながら学習を進めることで、現代社会が教育にどのような「まなざし」を向けているのか理解を深める。

学習の到達目標　教育の原理や理念、思想の他にこれまでの教育改革について学ぶことで、教育とは社会的な営みであることや現代教育者に求められる資質能力等について考えることができる。

受講要件　特に指定しません。

教科書　特に指定しません。授業時に資料を配布します。

成績評価方法と基準　小テスト40%、期末試験60%、計100%（合計60%以上で合格）。

オフィスアワー
教育学部学校教育講座の伊藤敏子が対応します。
毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室。

学習内容
第1回：イントロダクション（教育の「原理」とは、その目的と本質）
第2回：教育の歴史的変遷①（古代〜中世）
第3回：教育の歴史的変遷②（中世〜近代）
第4回：教育の歴史的変遷③（近代〜現代）
第5回：教育基本法と学校教育法（学校という「場」、教師という「人」とは）
第6回：教育課程とカリキュラム（学校は「何を」伝えるのか）
第7回：隠れたカリキュラムとジェンダー（子どもは「何を」学ぶのか）
第8回：学校選択と学校間競争（教育の多様化とは何か）
第9回：消費される教育（誰が教育サービスを「購入」するのか）
第10回：諸外国の教育①（欧米の教育改革）
第11回：諸外国の教育②（教育・学力格差の構造）
第12回：変動する社会での子ども（子どもを取り巻く「環境」とは何か）
第13回：問われる学力（数値化される・されない力とは何か）
第14回：教師という仕事①（これまでの教師）
第15回：教師という仕事②（これからの教師）
定期試験

その他　特にありません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択科目B	66, 65, 64	教育原理	2	前期　木 1, 2	寶來敬章（教育学部非常勤講師）

授業の概要　本授業では、教育の原理・原則について学習します。そのために、教育の歴史や制度、思想などの視点から教育や学校が各時代においてどのように位置づけられてきたのかを検討します。そして諸外国の教育についても概観することを通して、現代の日本における教育にはどのような特徴や課題があるのか、現代の教育者に求められる資質能力とは何かなどについて示したいと思います。

学習の目的　時代や歴史的変遷、時間的連続性を踏まえながら学習を進めることで、現代社会が教育にどのような「まなざし」を向けているのか理解を深める。

学習の到達目標　教育の原理や理念、思想の他にこれまでの教育改革について学ぶことで、教育とは社会的な営みであることや現代教育者に求められる資質能力等について考えることができる。

受講要件　特に指定しません。

教科書　特に指定しません。授業時に資料を配布します。

成績評価方法と基準　小テスト40%、期末試験60%、計100%（合計60%以上で合格）。

オフィスアワー
教育学部学校教育講座の伊藤敏子が対応します。
毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室。

学習内容
第1回：イントロダクション（教育の「原理」とは、その目的と本質）
第2回：教育の歴史的変遷①（古代〜中世）
第3回：教育の歴史的変遷②（中世〜近代）
第4回：教育の歴史的変遷③（近代〜現代）
第5回：教育基本法と学校教育法（学校という「場」、教師という「人」とは）
第6回：教育課程とカリキュラム（学校は「何を」伝えるのか）
第7回：隠れたカリキュラムとジェンダー（子どもは「何を」学ぶのか）
第8回：学校選択と学校間競争（教育の多様化とは何か）
第9回：消費される教育（誰が教育サービスを「購入」するのか）
第10回：諸外国の教育①（欧米の教育改革）
第11回：諸外国の教育②（教育・学力格差の構造）
第12回：変動する社会での子ども（子どもを取り巻く「環境」とは何か）
第13回：問われる学力（数値化される・されない力とは何か）
第14回：教師という仕事①（これまでの教師）
第15回：教師という仕事②（これからの教師）
定期試験

その他　特にありません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目B	64-66	学校経営学	2	前期　木 3, 4	織田 泰幸（教育学部）

授業の概要　学校経営学の理論（組織論やリーダーシップ論）に関する基礎的・基本的な考え方を幅広く紹介し，今後の学校経営をめぐる様々な課題と展望について考察する。

学習の目的　この授業の目的は、①学校経営の理論に関する幅広い知識を獲得すること，②それらを活用して我が国の学校経営の様々な特徴や課題について思考できるようになること，である。

学習の到達目標　学校経営学に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、これまでの自分の学校観を問い直すこと。

受講要件　学校経営学に関心をもつ学生

予め履修が望ましい科目　特になし。

成績評価方法と基準　期末テスト60%、出席40%

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.「経営」とは何か？（科学的管理法）
3.学校の組織論（学校組織の特殊性）
4.学校経営のビジョン（学校の組織マネジメント）
5.教員評価（360度評価）
6.学校評価（自己評価・関係者評価・第三者評価）
7.教職員の力量形成（授業研究）
8.教育課程経営（カリキュラム）
9.学校組織開発（組織の変革と改善）
10.校長のリーダーシップ1（変革型リーダーシップ）
11.校長のリーダーシップ2（サーバントリーダーシップ）
12.学校の組織文化論（シンボル）
13.学校の危機管理（予防と対応）
14.学校と保護者との関係づくり（無理難題要求）
15.学校と地域の連携・協働（社会関係資本）
16.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目B	～66	生涯学習論	2	前期集中	榊原 博美（教育学部非常勤講師）

授業の概要　この授業では、生涯学習論の背景となる歴史の流れを、学校教育と社会教育との関連の中でとらえた上で、ユネスコにおける世界的な生涯教育理念の登場とその発展、日本へのその受容と変容を把握し、政策主導の生涯学習の問題点を明らかにし、本来あるべき生涯学習の真の姿をとらえ直すことを目的とする。

学習の目的　生涯教育、生涯学習とは何か、人が生涯学ぶことの意義について自分の考えを持つことが出来るようになる。

学習の到達目標　自ら社会教育の施設や生涯学習の機関などに出向き実際の学習活動について興味をもって観察したり参加したりするようになる。

教科書　特に指定しない。

成績評価方法と基準　授業内の課題20% 最終課題80%（60%以上で合格）

オフィスアワー
教育学部美術教育講座美術史研究室
山口泰弘
毎週木曜日12:00～13:00，2号館2階 美術史研究室

学習内容
①オリエンテーション
②学校の起源と歴史
③日本における社会教育の歴史（1）
④日本における社会教育の歴史（2）
⑤ユネスコにおける生涯教育論の登場
⑥ユネスコにおける生涯教育論の発展
⑦学習権宣言の意義
⑧日本における生涯学習論の受容と変容
⑨日本の生涯学習政策の問題点
⑩ユネスコにおける学習権の発展
⑪映画から学ぶ（1）
⑫映画から学ぶ（2）
⑬生涯学習の土台となる学校教育の問題点
⑭生涯学習の現場
⑮まとめ
⑯試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目B	64-66	道徳教育論	2	前期　月 7, 8	伊藤 敏雄（非常勤講師）

授業の概要　道徳教育の理論と日本における道徳課題を理解し、その課題解決のための実践的指導力を身につけるために、本講義では道徳に関する諸概念の検討、道徳教育の歴史、道徳理論の歴史等を踏まえて、現代日本における道徳課題の検討と具体的な事例に基づく解決策を自ら考える授業とする。

学習の目的　現代の道徳課題を、歴史的背景を踏まえて正しく理解するとともに、その解決のための視点や具体的方策について自主的に考えることのできる力を身につける。

学習の到達目標　学校における道徳課題を深く理解し、その解決のための手がかりが得られる。

受講要件
教室の収容能力や学習効果を考慮して80名を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、この講義の窓口担当である学校教育講座佐藤年明教授研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、当初の受講申請締切段階で80名に満たない場合はその旨を掲示して追加受講申請を受け付ける（佐藤年明教授宛てにメールのみでtsatou@edu.mie-u.ac.jp宛てに）。追加受講申請は先着順で、80名に達した時点で打ち切る。

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート30%、試験70%、計100%（合計60%以上で合格）

学習内容
1．オリエンテーション（受講態度に関する全般的な注意、授業のやり方、評価方法等）
2．道徳、道徳性、道徳教育とは
3．道徳教育の歴史（1）
4．道徳教育の歴史（2）
5．道徳教育の歴史（3）
6．学習指導要領と道徳
7．道徳教育の諸理論（1）
8．道徳教育の諸理論（2）
9．道徳教育の諸理論（3）
10．近代社会の性格と道徳
11．現代における道徳諸問題（1）
12．現代における道徳諸問題（2）
13．現代における道徳諸問題（3）
14．現代における道徳諸問題（4）
15．現代における道徳諸問題（5）
16．試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目B	64-67	道徳教育論	2	後期　月 7, 8	伊藤 敏雄（非常勤講師）

授業の概要　道徳教育の理論と日本における道徳課題を理解し、その課題解決のための実践的指導力を身につけるために、本講義では道徳に関する諸概念の検討、道徳教育の歴史、道徳理論の歴史等を踏まえて、現代日本における道徳課題の検討と具体的な事例に基づく解決策を自ら考える授業とする。

学習の目的　現代の道徳課題を、歴史的背景を踏まえて正しく理解するとともに、その解決のための視点や具体的方策について自主的に考えることのできる力を身につける。

学習の到達目標　学校における道徳課題を深く理解し、その解決のための手がかりが得られる。

受講要件
教室の収容能力や学習効果を考慮して80名を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生、1年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、この講義の窓口担当である学校教育講座佐藤年明教授研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、当初の受講申請締切段階で80名に満たない場合はその旨を掲示して追加受講申請を受け付ける（佐藤年明教授宛てにメールのみでtsatou@edu.mie-u.ac.jp宛てに）。追加受講申請は先着順で、80名に達した時点で打ち切る。

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート30%、試験70%、計100%（合計60%以上で合格）

学習内容
1．オリエンテーション（受講態度に関する全般的な注意、授業のやり方、評価方法等）
2．道徳、道徳性、道徳教育とは
3．道徳教育の歴史（1）
4．道徳教育の歴史（2）
5．道徳教育の歴史（3）
6．学習指導要領と道徳
7．道徳教育の諸理論（1）
8．道徳教育の諸理論（2）
9．道徳教育の諸理論（3）
10．近代社会の性格と道徳
11．現代における道徳諸問題（1）
12．現代における道徳諸問題（2）
13．現代における道徳諸問題（3）
14．現代における道徳諸問題（4）
15．現代における道徳諸問題（5）
16．試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース選択科目B	64〜66	道徳教育論	2	前期集中	岩瀬 真寿美（非常勤講師）

授業の概要　現代の道徳教育と倫理の諸問題について、教育の歴史、教育思想、学校の道徳教育の実践などの観点から概観し、理解を深める。

学習の目的　わが国で行なわれてきたこれまでの道徳教育の基本を基盤にしながらも、新しい道徳教育の可能性として定型の道徳授業を乗り越える方法の探究や、諸外国の道徳教育の現状の知識を得ることができる。

学習の到達目標　本講義によって、将来、教職を希望する学生が、道徳理論や技術を知ることを通して、道徳教育について深く考える機会となることを期待したい。

受講要件
受講希望者多数の場合、使用教室に収容可能な人数まで受講制限を行なう。
受講許可に関しては、本講義の学校教育講座窓口担当である佐藤年明が、受講申請締切後に岩瀬講師と相談の上で、学務前掲示板に掲示する。

教科書　小柳正司編『現場と結ぶ教職シリーズ9 道徳教育の基礎と応用 生き生きと学ぶ道徳の教育』あいり出版

成績評価方法と基準　ミニレポート40%、試験60%

オフィスアワー　集中講義のため、講義期間の間の連絡の方法、また相談の機会は別途、指示する。

学習内容
1、学校の道徳教育
2、学習指導要領の改訂と道徳教育
3、道徳教育の歴史
4、道徳性の認知発達理論
5、ポスト・コールバーグの道徳性発達理論と道徳教育
6、価値の明確化
7、ソーシャルスキル・トレーニング
8、総合単元的道徳教育
9、学級集団づくりと道徳教育
10、宗教的情操教育
11、人権教育
12、現代アメリカのキャラクター・エデュケーション
13、台湾の道徳教育
14、韓国の道徳教育
15、中国の道徳教育
〃

その他
日程は3月末頃に掲示する。
全4日間のうち丸一日、もしくはそれ以上出席できないと予めわかっている者は、受講できない。窓口担当の佐藤年明まで辞退を届け出ること。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
社会教育	66~63	社会教育概説	2	前期集中	蓮尾直美

授業の概要　＜授業の概要＞ 地域社会における諸個人が、家庭・学校・職場においてよりよく学習活動を進めていくための方法、関連施設・情報提供の場について講述する。この際、「学社融合」の見地から、社会教育と学校教育との連携の仕方、たとえば美術館や博物館との「博学融合」等についても具体的に検討する。さらに、生涯学習の視点に立つ社会教育を推進する立場から課題を取り上げて集団討議を試み、受講生各自が地域や学校を支援するリーダーとしての任務を果たすための構えや技法について実地に社会教育活動の現場見学の場をとおして習得を図る。

学習の目的
＜学習の目的＞
生涯学習社会における社会教育の意義と役割、また社会教育関連のキー概念の理解を通じ、個人が自らのライフ・コースにおいて自己形成を図るための支援組織や形態・技法について知識を得る。

学習の到達目標
1．生涯教育・生涯学習の視点から学校教育や人間形成を考える。
2．地域社会やメディアなどを含む社会教育の領域との協働により、より広い視野から、学校教育、家庭教育の問題について考え対処する力を養うことができる。
3．一般になじみのある生涯学習概念の「社会教育」における位置づけや関連性について考察を深め実地に社会教育施設見学を行うことによって「社会教育」の今日的意義を自覚する。

予め履修が望ましい科目　教育社会学

教科書　「社会教育」（財団法人 全日本社会教育連合会）他、適宜紹介する。

成績評価方法と基準　出席の構え・小レポート20%、調査発表・レポート20%学科試験60%、計100%。

学習内容
1回 講義の概要・方針・進め方について説明する。
2〜3回 社会教育とは何か。生涯教育や生涯学習との関連について講究する。
4〜7回 地域社会における諸個人が、家庭・学校・職場においてよりよく学習活動を進めていくための方法、関連施設・情報提供の場について講述する。また、地域からゲストティーチャーを招き家庭教育の課題や青少年のキャリア教育について講話を予定している。
8〜10回 「学社融合」の見地から、社会教育と学校教育との連携の仕方、たとえば美術館や博物館との「博学融合」また学校における部活動と地域スポーツの問題など、実地見学を通して具体的に検討する。
11〜14回 生涯学習の視点に立つ社会教育を推進する立場から各自関心のある社会的課題を取り上げて実地調査をもとに報告し集団討議を試み、リーダーとしての資質能力の育成を図る。
15回 まとめ
16回 筆記試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程共通科目	67	人間発達科学入門（日本語教育コース）	2	前期　水3,4	林朝子、余健、秋元ひろと、早瀬光秋、荒尾浩子、森脇健夫、守田庸一、服部明子、原田三千代

授業の概要　オムニバス形式の講義で、時に討論を交えながら、日本語とは何か、言語とは、社会と言語とは、人間と言語の関わりとは、日本語と英語の相関関係は、教育そして授業とは、等々について考え、また、問題提起する。

学習の目的　様々な視点や観点を持って、日本語教育に関わる分野の課題に気づける基礎力を身につける。

教科書　講義の際に適宜指定する。

成績評価方法と基準　授業に関する活動や課題への関与の度合い。レポートを課す。

学習内容

1）～3）日本語教育とは
4～7）日本語とは
8）9）言語とは
10）言語教育とは
11）12）英語と日本語
13）社会と日本語
14）言語と哲学
15）言語とコミュニケーション
※人間発達科学課程「日本語教育コース」に関するオリエンテーション科目に位置付けられる。

その他　授業に出席し、積極的に関わることが求められる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程共通科目		コミュニケーション実習 I	2	前期集中	中西良文(教育学部学校教育講座)・瀬戸美奈子(教育学部学校教育講座)

授業の概要
大学での学習においては、学習者がグループで活動を行うことがあり、その際には一定のコミュニケーション力を求められることも多い。そこで、本授業ではコミュニケーション力を刺激するエクササイズを行い、受講生のコミュニケーション力育成を目指す。さらに、コミュニケーション力を育成する方法についてもできれば習得を目指したい。

学習の到達目標　グループコミュニケーション力の獲得。そして、それを支援するスキルの獲得。

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　教師と生徒の心理II

教科書　適宜講義中に紹介する。

成績評価方法と基準　グループでの活動における関与の度合いと授業内で出されるレポート。欠席は認められない。

オフィスアワー　担当教員が研究室に在室の際に随時対応する

学習内容
・アイスブレーキング
・コミュニケーションとグループ活動について考える
・グループワークを通したコミュニケーション実習
・コミュニケーション力支援の方法と評価

その他　特になし

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コミュニケーション実習 II	67	コミュニケーション実習 II	2	後期　火5,6	原田三千代（教育学部）

授業の概要　コミュニケーションの諸相を、体験や対話を通して学ぶ。

学習の到達目標　異文化接触でおこる問題、異文化適応過程、他者とのコミュニケーションのとり方などについて学び、自身の価値観や生き方を捉え直す。

教科書　作成したプリントを配布

成績評価方法と基準　出席、事前課題・ふり返り、活動への参加度、中間・期末テストを総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日13:00～15:00（教育学部1号館4階・原田研究室）

学習内容
1.オリエンテーション、お互いを知り合う
2.異文化とは
3.自己開示とコミュニケーション
4.自己開示とコミュニケーション
5.ステレオタイプ
6.ステレオタイプ
7.言語によるコミュニケーション
8.非言語によるコミュニケーション、中間テスト
9.非言語によるコミュニケーション
10.異文化との接触
11.異文化との接触
12.対人関係とコミュニケーション
13.価値観
14.価値観
15.期末テスト

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
国際理解と共生社会	67以前	国際理解と共生社会	2	前期　月 5, 6	原田三千代（教育学部）

授業の概要　グローバル化に伴い、異なる文化との接触が日常化している。この授業では、グループワークや議論を通して、多文化共生を考える際に浮上する様々な問題を知り、新たな視点を得る方策を考える。

学習の到達目標　多文化共生をめぐる様々な問題を知り、様々な活動をデザインし実施することによって、自分自身の考え方や生き方を捉え直す契機とする。

教科書　作成したプリントを配布

成績評価方法と基準　出席、活動のデザイン・参加度、ふり返り、期末テストなど総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日13:00〜15:00（教育学部1号館4階 原田研究室）

学習内容

1.オリエンテーション、グローバリゼーションとは
2.グローバリゼーションと社会変動
3.多文化共生のパースペクティブ
4.文化とは何か
5.活動準備
6.現実は作られる 女性と男性
7.外国人として生きる
8.マイノリティとマジョリティ
9.多文化社会と社会統合のあり方
10.活動準備
11.つながる世界
12.南北問題を考える
13.環境問題を考える
14.国際協力と開発
15.まとめと期末テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
コース基本科目	67	人間発達科学最先端ゼミナールⅠ	2	後期　水 3, 4	松浦均(教育学部学校教育講座)

授業の概要　学校教育講座所属の教員により紹介された最新の教育研究を手がかりに，事前に抱いた各自の興味や関心を，さらに発展させたり，実際に発達支援に関わる上での基本となる視点や構えを培うことを目指す。

学習の到達目標　本授業が目標とする，学校教育や人間形成に関する興味・関心や，将来，教師を始め教育分野，人間発達科学に関係する分野に進んでいく意欲を喚起する。

成績評価方法と基準　出席状況，授業・発表・討論に臨む意欲や態度，レポートを想像して判断する。

オフィスアワー　月曜日13時〜14時30分 社会心理学研究室（ただし，会議のある月曜日を除く）

学習内容

今日の社会，学校，家族をめぐる人間形成上の課題について，研究者としての教員が自らの専門性により接近して，最新の教育的知見を提示する。これらの内容や研究手法に触発され，自らの教育学的・心理学的関心を広げたり，深めたりしながら，各自が取り組む研究テーマの発見に結びつける。
1イントロダクション
2〜14 教育学，心理学の最先端(各教員が担当)
15 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
コース基本科目	~66	人間発達科学最先端ゼミナールⅡ	2	後期　水 3, 4	松浦均(教育学部学校教育講座)

授業の概要　学校教育講座所属の教員により紹介された最新の教育研究を手がかりに，事前に抱いた各自の興味や関心を，さらに発展させたり，実際に発達支援に関わる上での基本となる視点や構えを培うことを目指す。

学習の到達目標　本授業が目標とする，学校教育や人間形成に関する興味・関心や，将来，教師を始め教育分野，人間発達科学に関係する分野に進んでいく意欲を喚起する。

成績評価方法と基準　出席状況，授業・発表・討論に臨む意欲や態度，レポートを想像して判断する。

オフィスアワー　月曜日13時〜14時30分 社会心理学研究室（ただし，会議のある月曜日を除く）

学習内容

今日の社会，学校，家族をめぐる人間形成上の課題について，研究者としての教員が自らの専門性により接近して，最新の教育的知見を提示する。これらの内容や研究手法に触発され，自らの教育学的・心理学的関心を広げたり，深めたりしながら，各自が取り組む研究テーマの発見に結びつける。
1イントロダクション
2〜14 教育学，心理学の最先端(各教員が担当)
15 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース基本科目		日本語学概説	2	後期　水3,4	○丹保健一（教育学部）,余健（教育学部）

授業の概要
日本語の基本的事項を理解する。
日本語に関する専門的知識
将来教師となる学生が日本語全般について知る。

学習の目的　日本語全般について知る。

学習の到達目標　日本語の基本的知識を得る。

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　授業中の発言、提出物、テスト（またはレポート）を総合的に評価する。

オフィスアワー
丹保健一：毎週 火曜日7－8時限
余 健：毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1．言語とは：丹保
2．日本語の特徴：丹保
3．文字、表記：丹保
4．文章表現法（正書法）：丹保
5．語彙：丹保
6．語（語形成）：丹保
7．文（構文1）：丹保
8．文（構文2）：丹保
9．音声言語（音韻）：余
10．文章（談話）・文体：余
11．共通語と地域語：余
12．社会と言語(1)：余
13．社会と言語(2)：余
14．国語の歴史：余
15．国語政策の歴史：余

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース基本科目		日本語教育学概論	2	前期　木3,4	林朝子

授業の概要　「日本語教育とは何か」を学び、理解する

学習の目的　日本語教育の基礎を習得する

学習の到達目標　日本語教育の実践と研究への基礎力が身に付く

教科書　『日本語教育を学ぶ―その歴史から現場まで』遠藤織枝編（三修社）

成績評価方法と基準　出席、毎時授業時の積極性、課題の提出と内容、試験を総合的に判断する

オフィスアワー　木曜日昼休み（教育学部1号館4階林研究室）

学習内容
1．日本語を学ぶ・教える
2～4．言語学と日本語の構造
5．6．異文化理解、異文化コミュニケーション
7．様々な外国語教授法
8．9．日本語教授法、評価法
10．11．言語習得
12．13．社会とことば
14．日本語教育史
15．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース基本科目		異文化コミュニケーション	2	前期　月3,4	森脇 健夫

授業の概要　異文化とは何か、というところから講義を始めたい。異文化とは何か、なぜ人は異文化であることを意識するのか？異文化という問題をどう扱えばいいのか？異文化を理解することはどのようなことか？といった原理的な問題から、なぜ差別や偏見が生まれるのか？そのことがどのような暗い影を人間社会になげかけているのか？また教育に課せられた役割とは何かについて考えていく。

学習の目的　異文化とは何か、理解とは、といった原理的な問題にここで答えが一応もてるようになること、またそのためにどのような努力が必要なのか、ということについて自分の考えを持ち、行動ができるようになること。

学習の到達目標　自分自身の経験やこれからの展望において、異文化理解の観点からある一定の知見を持ち、行動ができること

学習内容

1 異文化とは何か
2 異文化と帰属集団
3 異文化として目に見えるもの、こと
4 異文化として目に見えないもの、見えにくいもの
5 異文化を理解するとは？
6 差別と偏見の心理学
7 4つの窓
8 異文化体験ゲーム（ばふぁばふぁ）を通して感じる異文化
9 感情のコントロールとクリティカルマインド
10 日本の文化
11 日本人の気性
12 異文化理解教育の最前線1
13 異文化理解教育の最前線2
14 異文化理解への道
15 教育の意味
16レポート

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース基本科目	64-66	世界の中の日本Ⅰ（日本文化論）	2	前期　火3, 4	大坪慶之（教育学部）

授業の概要　世界が一体化するモンゴル帝国以後の東アジアの歴史を、日本と中国の関係を軸に見ていく。

学習の目的　自国や相手国の歴史・文化を学ぶ際に大切なのは、世界各地には多種多様な歴史・文化が存在し一様ではないこと、異なった歴史的背景を持つ民族や文化の絶え間ない交流によって各地域、さらには世界が形成されてきたことである。本講義では、以上の二点を中心に考察する。

学習の到達目標　現代の東アジアの成立、世界史上の東アジアの位置について理解する。

受講要件　月期木曜9・10限の世界の中の日本Ⅰ／外国史概論（担当：鈴木宏節講師）を履修する学生は受講不可。

教科書　教科書は使用しない。

成績評価方法と基準　小テスト20%、試験80%

学習内容
・元から明へ：大航海時代と日本銀
1．クビライの軍事・通商帝国
2．明と東アジアの国際秩序
3．北虜南倭と日本銀
・東アジア世界における清朝と日本
4．明清交替
5．清の支配構造
・清末の動乱と日本・欧米諸国
6．アヘン戦争・アロー戦争と太平天国
7．十九世紀後半の国際情勢と欧米・日本
・辛亥革命、第一次世界大戦と日本
8．義和団から辛亥革命へ
9．中華民国の成立と第一次世界大戦
10．北京政府と軍閥
・中華民国期の中国情勢と日中戦争
11．南京国民政府の成立
12．日中戦争
・戦後世界の中の日中関係
13．国共内戦と中華人民共和国の成立
14．大躍進・文化大革命と日中国交正常化
15・改革開放と現代中国

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース基本科目	64〜66	世界の中の日本Ⅰ（日本文化論）	2	前期　月9, 10	鈴木 宏節（教育学部非常勤講師）

授業の概要　世界が一体化するモンゴル帝国成立までの東アジアの歴史を、日本と中国の関係を軸に概観する。

学習の目的
自国や相手国の歴史・文化を学ぶ際に大切なのは、世界各地には多種多様な歴史・文化が存在し一様ではないこと、異なった歴史的背景を持つ民族や文化の絶え間ない交流によって各地域、さらには世界が形成されてきたことである。本講義では、世界がユーラシア規模で一体化する以前の東アジアの歴史を、中国に存在した王朝・国家の構造、諸民族の動向、国際関係を軸に見ていくことで、当該地域について理解することを目指します。

学習の到達目標　東アジア世界がどのように成立したか、世界史上の東アジアの位置について理解する。

受講要件
前期火曜日3・4限の外国史概論／世界の中の日本Ⅰ（担当：大坪慶之）を履修する学生は受講不可。
前年度開講の外国史概論／世界の中の日本Ⅰ（担当：大坪慶之）の単位取得者は受講不可。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　小テスト20%、試験80%

学習内容
本講義は、次の2つのテーマを柱として進める。
1．中国に関する基本知識（3回）
・ユーラシアとアジア
・地理的環境と言語・民族
・中国の地理
2．各時代史
・中国初期王朝の形成（1回）
・秦漢帝国と周辺地域（2回）
・中華の分裂と統合（2回）
・隋唐帝国の形成（3回）
・宋と北方諸民族（2回）
・モンゴル帝国の成立（2回）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース基本科目		現代青年文化	2	後期　金3, 4	別府直苗（非常勤講師）

授業の概要　文化や社会を通して、現代の日本の在り方を考える

学習の目的　文化や社会を通して、現代の日本の在り方を考える力を身に付ける

学習の到達目標　文化や社会を通して、現代の日本の在り方を考える力を身に付け、日本語の理解を深めることができる。

教科書　授業時にプリント配布

成績評価方法と基準　授業態度（出席を含む）と最終レポート

オフィスアワー　授業時に連絡

学習内容
1）オリエンテーション
2）日本と文化①
3）日本と文化②
4）日本と社会①
5）日本と社会②
6）日本とことば①
7）日本とことば②
8）日本とことば③
9）日本と外国①
10）日本と外国②
11）日本と外国③
12）〜14）学生による発表とディスカッション
15）まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース基本科目	~66	言語表現と非言語表現（音楽）	2	前期集中	根津知佳子

授業の概要
未分化な段階を経て「言語的コミュニケーション」「非言語的（音楽的）コミュニケーション」に分化していく過程は、「表出から表現へ変容する過程」と置き換えることができる。一方、感性情報処理の視点では、「感じたこと」を変換するシステムの違いと捉えることもできる。
本講座の第1の目標は、その過程を体験的に辿りながら、ヒトの「表現行為の発達や変容」を理解することである。この体験には、他者の存在が不可欠である。第2の目標は、「音風景」や「音響コミュニティー」の違いから、「生活・習慣」の違いを読み解くこと、そして、その違いが「文化」を形成する基盤となっていることを理解することである。

学習の目的
第1の目的は、その過程を体験的に辿りながら、ヒトの「表現行為の発達や変容」を理解することである。この体験には、他者の存在が不可欠である。
第2の目的は、「音風景」や「音響コミュニティー」の違いから、「生活・習慣」の違いを読み解くこと、そして、その違いが「文化」を形成する基盤となっていることを理解することである。

学習の到達目標
音楽に内在する「文化内容」や、音楽表現によって象徴される「意味」の読み取りができるようになる。
5領域（創る・動く・聴く・奏でる・語る）の体験について言語化することができる。

教科書　随時配布する。

成績評価方法と基準　毎回の省察80% レポート20%

オフィスアワー　火曜日5~6限

学習内容
①創る
動きを表す音・気持ちを表す音・情景を表す音などを表現する。
身近なモノを使って楽器を造り、合奏する。
②動く
テンポ・ダイナミクス・メロディ・リズム・テクスチャーなどの音楽的要素を身体や言葉で表現する。
③聴く
音風景や音響コミュニティーを言語や非言語で表現する。
④奏でる
歌唱 歌詞の意味を考え、想像する。
同じ内容（イメージ）の中国の楽曲を表現し、説明する。
楽器 和楽器の演奏を通して、日本の歴史・文化を理解する。
合奏を通して、「音でつながり、重なること」の意味を理解する。
両国の音楽構造の違いを理解し、説明する。
⑤語る
音楽を鑑賞し、感じたことを語る。他者の語りを理解する。
自分にとって大切な音楽や、自国の音楽について語る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース基本科目	66以前	日本語と論理的表現 I	2	後期　水 1, 2	秋元ひろと（教育学部）

授業の概要　練習問題を解きながら，日本語をその論理的表現と構造という観点から取り上げて考察する。

学習の到達目標　論理的な読解力，思考力，表現力を磨くための練習問題を解くことを通じて，日本語能力の向上を目指す。

教科書　授業中に指示する

成績評価方法と基準　授業中の課題と期末試験によって評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日16:30〜18:00

学習内容
1.論理とは何か
2-4.接続関係と接続表現
5-7.論証と論証図
8-10.各種の論証
11-14.論証の批判と評価
15.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学課程日本語教育コース・コース基本科目	66	異文化間教育	2	前期　火 5, 6	原田三千代（教育学部）

授業の概要　グローバル化に伴い、多様な文化的背景を持つ人々が急増し、異なる文化との接触が日常化している。この授業では、発表や議論を通して、異文化を巡る教育の現状と問題点を多角的な視点から考察する。

学習の到達目標　大学コミュニティーや地域社会における多文化共生や、外国につながる子どもたち・中国帰国者・難民・企業研修生・実習生などの抱える問題を認識し、理解を深める。その上で、それらの問題に対する自身の考え方や態度を捉え直す。

教科書　授業でプリントを配布

成績評価方法と基準　出席、授業での積極的な態度、発表・レポート、期末テストなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日13:00〜15:00（教育学部1号館4階・原田研究室）

学習内容
1.オリエンテーション
2.異文化間教育とは
3.日本の外国人の抱える問題
4.大学コミュニティにおける多文化共生①
5.海外の日本人駐在家族と移動する子どもたち②
6.国際結婚で母語を身につけるバイリンガル③
7.①②③ディスカッション、まとめ
8.外国につながる子どもたちの困難・サポート・対処行動から見る現状④
9.地域社会と多文化共生⑤
10.中国帰国者の抱える問題⑥
11.④⑤⑥ディスカッション、まとめ
12.難民認定申請者の生活とこころ⑦
13.企業と研修生⑧
14.⑦⑧討論
15.期末テスト

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース基本科目	～66	社会心理学	2	後期集中	松浦 均（教育学部）

授業の概要
人間の日常の心理社会的行動のメカニズムを説明する．
心理学を紹介する形で，できるだけわかりやすく各論概説的な講義を展開する．

学習の到達目標
人間の社会的行動をより具体的に説明する形で理論の紹介などをしていく．
また，心理学の諸理論が社会の中での人間行動とどのように整合しているのか日頃より意識をして観察するような視点を養ってもらいたい．

受講要件　特になし

教科書　社会心理学の概論書を授業中に紹介する．授業ではプリント資料を配付する．

成績評価方法と基準　出席状況30%，試験70%

オフィスアワー　水曜日の午後，教育学部1号館2階研究室

学習内容
1．オリエンテーション（第1週） 前期半年間の授業の進め方の説明．学習方法や学習目標を説明し，授業方法，成績評価方法なども説明する．
2．感覚と知覚のプロセス（第2週～4週） いわゆる五感は重要なセンサーとして人間行動の基本的な部分をコントロールしている．これらは単なるセンサーではなく意識が介在することによって積極的に情報を取り込むチャンネルとなっている．とくに視覚を例に置いて「知覚すること」の意味を説明し，その仕組みや特徴を解説する．具体的には視覚における知覚の体制化や錯視，パターン認識などについて解説する．
3．学習と記憶 （第5週～7週） 心理学における記憶の過程，学習の過程を解説する．記憶の仕組みと種類，学習の基本的家庭である条件付けとそのメカニズム，その他の学習の過程について解説する．
4．成長と発達 （第9週～11週） 人間が生まれてから死ぬまでの身体的精神的変化の過程，つまり発達の概念について解説する．発達の法則性や，遺伝や環境との関連について，発達の具体的な過程について，諸理論を踏まえて説明し，また発達の考え方や個人差の問題について，発達研究の手法なども解説する．
5．パーソナリティ（第12週～14週） 人間の成長発達の過程で，個々人の特徴を示す「その人らしさ」という概念がある．つまり「パーソナリティ・個人差」である．性格や人格といったパーソナリティは，その人の行動傾向を顕在化させ，自己と他者の関係のあり方なども規定する．パーソナリティについての諸理論を踏まえて，その意味について解説する．また，種々のパーソナリティ・テストを紹介し，その解釈とテストそのものの意味についても解説する．
なお，第8週に中間テストを，最終週に期末テストを実施する

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース コース基本科目	67以前	日本語教育の現状と課題	2	後期　木 5, 6	原田三千代（教育学部）

授業の概要　実際の日本語教育機関の見学や体験、ビデオ視聴を通して、日本語教育の現状と課題を考察する。

学習の到達目標　地域のボランティア日本語教室や日本語学校の見学や留学生との交流、資料や見学のまとめの発表を通して、今日的な日本語教育の問題を考える。

教科書　作成したプリントの配布

成績評価方法と基準　日本語教育機関への見学や留学生との交流への参加、またその態度、発表、レポート、期末テストなど総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日13:00～15:00（教育学部1号館4階 原田研究室）

学習内容
1.オリエンテーション、授業の進め方、見学について
2.大学における留学生教育
3.地域の日本語教育
4.留学生ゲストとの話し合い
5.日本語教材、日本語の文型の教え方
6.日本語学校の見学
7.見学の報告
8.外国につながる子どもに対する日本語教育
9.「わたしも移動する子どもだった」発表・討論
10.「わたしも移動する子どもだった」発表・討論
11.留学生ゲストとの活動のデザイン
12.地域の日本語教室見学の報告
13.地域の日本語教室見学の報告
14.留学生ゲストとの交流
15.まとめ、期末テスト

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
日本語表現	66以前	日本語表現	2	前期　火 9, 10	原田三千代（教育学部）

授業の概要　説明文と意見文を中心に、様々なテーマを通して、課題の設定、文献収集、引用、文章構成、パラグラフ・ライティング、接続表現、データの活用などに関する課題作文を書く。最終的に2000字ほどのレポートをまとめる。

学習の到達目標　アカデミック・ライティングの技法（論理展開、表現技術）とともに、協働活動によって多角的な視点や批判的思考力を身につけ、自己表現力の向上につなげる。

教科書　作成したプリント配布

成績評価方法と基準
最終レポートの提出を義務づける。
出席、授業への参加態度、毎回の課題提出を総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日13:00〜15:00（教育学部1号館4館 原田研究室）

学習内容
1.オリエンテーション、自己紹介文
2.説明文と意見文
3.説明文①
4.説明文②
5.意見文① 文章の構成 テーマ設定
6.意見文② 反論と反駁 テーマ設定
7.パラグラフ・ライティング① 情報収集
8.パラグラフ・ライティング② 情報収集
9.データの活用① 問いを持つ
10.データの活用② 問いを持つ
11.アウトライン作成 文の引用
12.レポート作成 文の引用
13.レジュメ作成 接続表現
14.レポートの発表 自己・相互評価
15.要約 最終レポートの提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学講義表現法・音声 I	2	前期　木 7, 8	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語(方言含む)の母音、子音、アクセント、音節構造等の特徴について、諸言語(韓国語、中国語、英語等)の特徴と比較しながら明らかにする。その際、早口ことばや遊びことばの掛け声等、できる限り身近な例に基づき考え、音声学・音韻論的な知見を教育現場にどのように生かすことが可能か、議論を深める。

学習の目的
①発声器官の重要性について具体的に説明できる。
②日本語の母音や子音の分類基準について、他言語と比較しながら実感を持って説明ができる。
③国際音声字母(IPA)を読めて書ける。

学習の到達目標
①音声学レベルと音韻論レベルの違いを具体的に説明できる。
②音声教材作成のヒントを得られる。

予め履修が望ましい科目　日本語学概説(論)

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　質問・コメント30%、出欠30%、レポート40%、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00〜19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1．発音の仕組み(ビデオ)
2．重要な発声器官
3．母音の分類基準(1)
4．母音の分類基準(2)
5．子音の分類基準・調音点
6．子音の分類基準・調音法(1)
7．子音の分類基準・調音法(2)
8．子音の分類基準・有声or無声
9．母音と子音との連続性における中和化現象
10．音声学と音韻論(1)ミニマルペアーと音素
11.音声学と音韻論(2)相補分布と異音(単音)
12．アクセント
13．方言音声の体系と実態
14.早口ことばや遊びの掛け声(選び歌等)の分析
15．教科書の教材分析

その他　発声器官の特徴については、手鏡やサーチライト(こちらで準備)を駆使して確認する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学講義 文法・語彙 I	2	前期　月 1, 2	丹保健一（教育学部）

授業の概要
学校文法
日本語の専門的知識
将来教師として指導する際に必要な日本語文法・学校文法に関する基本的知識・考え方を学ぶ。

学習の目的　日本語文法・学校文法に関する知識・考え方・問題点を知る。

学習の到達目標
日本語文法・学校文法の基本的な考え方を理解する。
日本語文法・学校文法の知識を得る。
学校文法の問題点を理解する。

予め履修が望ましい科目　日本語学概説

教科書　『国語教師が知っておきたい日本語文法』（山田敏弘著 ろしお出版 ￥1600）

成績評価方法と基準　授業中の発言、提出物、レポートまたはテストなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　前期 毎週火曜日7−8時限

学習内容
1−2．ことばについて（ことばの働き、文章．文．文節、単語）
3．文の組み立て
4．品詞
5.活用
6−8．助詞
9．連用修飾・連体修飾
10−12．助動詞
13．助動詞のような働きをする形式
14．敬語
15．文法教育の目的

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学講義方言・語史Ⅰ	2	前期　火7, 8	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語の方言を中心的な題材として、言語変化や言語政策に関する諸問題を取り上げる。

学習の目的　学校教育で現在、取り上げられている方言的な事項と本来取り上げるべき方言的な事項とを整理して、押さえる。

学習の到達目標　日本語のバリエーションを知ること。言語変化のプロセスを客観的に説明できるようになり、言語政策についても意見を持てるようになること。

予め履修が望ましい科目　日本語学概説(論)

教科書
参考書：真田信治(2001)『標準語の成立事情』PHP文庫、真田信治(2001)『関西・ことばの動態』大阪大学出版会、井上史雄(2006)『変わる方言動く標準語』ちくま新書
プリントを配布する。

成績評価方法と基準　授業に対する姿勢・コメント(30%)、出席(30%)、レポート又は試験(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1．日本語の分類
2．方言とは
3.ネオ方言とは
4．新方言とは
5．気付きにくい方言とは
6．言語変化の要因
7．言語地理学の考え方(1)
8．言語地理学の考え方(2)
9．方言と自然環境
10．比較言語学の考え方(1)
11．比較言語学の考え方(2)
12．方言分布と語史との関係(1)
13．方言分布と語史との関係(2)
14．言語政策(1)
15．言語政策(2)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース基本科目	～66	日本語教授法	2	前期　月5, 6	服部 明子

授業の概要
日本語教育の実施は、さまざまな側面からの多角的な検討によって成り立つものである。
実際に日本語を教える上では、その社会的背景や多様性の認識が欠かせない。
また、さまざまな外国語教授法とその教授法が生まれた背景、現在日本語教育に取り入れられている教授法等を知り、どのように応用させていくかという視点も必要である。
そのため、この授業では日本語教授法をひろく取り上げ、日本語教育への理解を深めることを目的とする。

学習の目的
・日本語を教える際に必要となる基本的知識と教授法への理解と考察を深める。
・日本語授業のコースデザインをイメージできるようになる。

学習の到達目標
・授業で示す教授法のいくつかを実際に行えるようになる。
・日本語授業の教案が作成できるようになる。

予め履修が望ましい科目
・人間発達科学入門
・日本語教育学概論
・日本語学概論

教科書　『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』高見澤孟、アスク

成績評価方法と基準　授業参加度、課題、期末レポートあるいは期末試験の結果を総合的に評価する。

学習内容
1.日本語を学ぶことと教えること
2.日本語教育と異文化コミュニケーション
3.コース・デザイン
4、5.さまざまな外国語教授法
6, 7.教材・教具論
8.技能別教授法 話す
9.技能別教授法 聞く
10.技能別教授法 読む
11.技能別教授法 書く
12.初級の指導
13.中級の指導
14.上級の指導
15.評価法

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目	64-65	第二言語習得論	2	後期　月 1, 2	早瀬 光秋（教育学部英語教育講座）

授業の概要　第一言語習得に言及しながら第二言語習得について学ぶ。

学習の目的　言語習得について基礎的な知識を得る。

学習の到達目標　将来日本語を教える学生が第二言語習得のあり方を学び教室指導に役立つ知識を得る。

教科書

大関浩美(2010).日本語を教えるために第二言語習得論入門．くろしお出版.

成績評価方法と基準

期末試験。

オフィスアワー

月曜日 13:00-14:30
メールアドレス：hayase@edu.mie-u.ac.jp
教育学部棟3階、早瀬研究室

学習内容
1，2．第二言語習得とは
3．中間言語：学習者独自の言語体系
4．学習者の母語は第二言語にどう影響するか
5．習得には決まった順序があるのか
6，7．必要なのはインプットかアウトプットか
8．文法を教えることに効果はあるのか
9，10，11．教室で何ができるのか
12．言語習得に及ぼす年齢の影響
13，14．言語習得に及ぼす個人差の影響
15．まとめ：教室で私たちにできること
16．期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学演習表現法・音声 I	1	前期　金 7, 8	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語の母音、子音、モーラ、音節について、フリーの音声分析ソフト(プラート)を使い、文系レベルにおける音響音声学的事項を確認する。その際、「聞きやすい声の特徴」の特徴等の具体的な現象を取り上げる中で、受講者各自(或いは各グループ)が興味のある音響音声学的に分析可能なテーマを見つける。そのテーマの考察を行い、最終的には各自(或いは各グループ)の発表を通じて、受講者間での議論を深める。

学習の目的　日本語教育や国語教育での使用可能な音声教材につながるヒントをつかむ。

学習の到達目標
①音声分析ソフト(プラート)を使用し、文系レベルの音響音声学的分析ができる。
②聞きやすい声の基本的な条件を具体的に説明でき、自分でも実践できる。
③モーラと音節との違いについて、具体的に説明ができる。

予め履修が望ましい科目　日本語学関連の演習、講義

成績評価方法と基準　授業に取り組む姿勢・コメント(30%)、出欠(30%)、発表又はレポート(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1．音響音声学の基礎、音声分析ソフト(プラート)の使用法
2．日本語の母音の音響音声学的分析例
3．日本語の子音の音響音声学的分析例
4．自分の母音と子音の音響音声学的分析ーアナウンサーとの比較ー
5．聞きやすい声の特徴とは？
6．音節とモーラの実態(1) ーリズムの基本的な単位ー
7．音節とモーラの実態(2) ーリズムの基本的な単位ー
8．方言音声の音響音声学的分析(1)
9．方言音声の音響音声学的分析(2)
10～12．個別ワークorグループワーク
13．中間発表
14．個別ワークorグループワーク
15．最終発表

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目	63〜66	日本語学講義表現法・音声 II	2	後期　月 7, 8	福岡昌子（国際交流センター）

授業の概要
1．日本語の音声学の基礎を実際の音声テープを聞きながら学ぶ。
2．外国人日本語学習者にとってどのような音声が難しいかを知る。
3．日本語教育における音声教育の現状、学習者の誤りの傾向、指導方法について理解を深める。

学習の目的
1．日本語の音声学の基礎を実際の音声を通して学ぶことができる。
2．外国人日本語学習者にとってどのような音声が難しいかを理解できる。
3．日本語教育における音声教育の現状、学習者の誤りの傾向、指導方法について理解できる。

学習の到達目標
1．日本語の音声学の基礎を学ぶことができるようになる。
2．外国人日本語学習者にとってどのような音声が難しいかを理解できるようになる。
3．日本語教育における音声教育の現状、学習者の誤りの傾向、指導方法について理解できるようになる。

教科書　『日本語教師トレーニングマニュアル1日本語の音声入門』（バベル・プレス）、『よくわかる音声』(アルク）など ＊テキストは、コピー配布する。

成績評価方法と基準　出席率・授業態度20%、中間試験40%、期末試験40%

オフィスアワー　毎週月曜日9:00〜10:30、12：00〜13：00(国際交流センター福岡研究室)

学習内容
第1回 1−1 基礎を固める Ⅰ
①五十音図について、②話し言葉の語形
第2回 1−2 基礎を固める Ⅱ
③母語の干渉、誤用分析
第3回 1−3 基礎を固めるⅢ
④アクセントの感覚、表記、式と型 ＊復習
第4回 2−1 音声記号を学ぶ Ⅰ
①子音 Ⅰ、②子音 Ⅱ
第5回 2−2 音声記号を学ぶ Ⅱ
③唇音退化、ハ行転呼
第6回 2−3 音声記号を学ぶⅢ
④四つ仮名、＊中間試験（筆記、聴解を含む）
第7回 3−1 耳を鍛える Ⅰ
①拗音、②環境による音声変化
第8回 3−2 耳を鍛える Ⅱ
③母語の分類、④プロミネンスとポーズ
第9回 3−3 耳を鍛えるⅢ
⑤イントネーション、＊復習
第10回 4−1 考える音声 Ⅰ
①用言、複合語のアクセント、②音節構造
第11回 4−2 考える音声 Ⅱ
③音韻論、④ストラテジー ＊復習
第12回 5−1 日本語の指導に活かす Ⅰ
①音声教育の現状、②学習者の発音
第13回 5−2 日本語の指導に活かす Ⅱ
③学習者の誤りの傾向、④拍の指導
第14回 5−3 日本語の指導に活かすⅢ
⑤分節音の指導、⑥超分節音の指導 ＊復習
第15回 期末テスト（筆記、聴解を含む）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学演習文法・語彙 Ⅰ	1	後期　月 1, 2	丹保健一（教育学部）

授業の概要
現代日本語の文法・語彙現象に見られる法則を探る。
日本語の専門的知識
現代日本語の文法・語彙現象の背後にある法則
将来教員として言語指導をするための基本的素養

学習の目的　現代日本語の文法・語彙的現象の背後に見られる規則性を探るための方法を身につける。

学習の到達目標
日本語研究文献の収集法を修得
日本語の資料収集法を修得
日本語の資料分析法を修得

受講要件
日本語学概説

予め履修が望ましい科目　日本語学講義文法語彙 Ⅰ

教科書　各テーマごとに指導する。

成績評価方法と基準　授業中の発言、発表資料、テスト(またはレポート)を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日 7−8時限

学習内容
1．研究発表原稿の作成について（①−③）
分析データ。用例の採集法・分析法。
2．各自のテーマにそっての発表（④−⑮）
(1)遅くとも発表4週間前までにテーマと方法を届ける。→指導
(2)発表1週間前に発表予定原稿を提出する。→指導
(3)発表前日に発表資料・内容を受講者に配布する。
(4)発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学講義方言・語史 II	2	後期　火 7, 8	余 健(教育学部)

授業の概要　現代敬語を中心に待遇表現としての敬語の特質を幅広い観点(文法的、社会言語学的等)から捉える。又具体的な事例を通して、学校教育や就職活動等で直面する問題も検討する。

学習の目的　待遇表現の枠組みと敬語史の変遷から、「語形・機能・適用の範囲」の観点に基づき、これまでの敬語3分類と新しい5分類とにおける特徴と問題点を理解し、説明できること。

学習の到達目標　敬語の長所・短所を理解し、良識のある教員や社会人としての自覚を持って、敬語を使用していけるようになること。

予め履修が望ましい科目　日本語学概説、日本語学講義方言・語史 I

教科書　プリントを配布する。

成績評価方法と基準　授業に対する姿勢・コメント(30%)、出席(30%)、レポート(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00〜19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1．待遇表現とは
2．待遇表現選択までのモデル(使い分けに関わる要因)
3．敬語の定義
4．いわゆる尊敬語
5．いわゆる謙譲語
6．いわゆる丁寧語
7．各地の特色(三重・京都・北陸の状況、地域差)
8．変化の方向性(敬語の光と影)
9．敬語研究の調査法(全集落調査、自然談話)
10．敬語に関するいくつかのトピックス(二重敬語・過剰敬語等)
11．相対敬語と絶対敬語
12．敬語の人称暗示機能
13．敬語3分類の問題点1(丁寧語と美化語)
14．敬語3分類の問題点2(2種類の謙譲語)
15．敬語の指針(答申案)の問題点

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育学研究 I	66以前	日本語教育学研究 I	2	前期　水 1, 2	原田三千代（教育学部）

授業の概要　言語習得過程の視点から見た日本語教育の四技能のうち、理解過程（読む）を取り上げ、理論と実践の研究をみていく。最終的に実際に「読む」活動のデザインを行う。

学習の到達目標　日本語教育の理解過程（読む）に焦点を当てて、知識を深め、理論・研究を「読解過程」にどうつなげていけばよいかを考える。

教科書　作成したプリントを配布

オフィスアワー　水曜日13:00〜15:00（教育学部1号館4階・原田研究室）

学習内容
1.オリエンテーション、言語習得とは
2.言語習得過程の視点から見た日本語教育
3.第一言語習得と第二言語習得の関係
4.第二言語習得研究の成果
5.第二言語習得研究の成果
6.第二言語習得研究の成果
7.「読むこと」をめぐる研究と実践
8.「読むこと」をめぐる研究と実践
9.「読むこと」をめぐる研究と実践
10.「読むこと」に関する論文の発表と討議
11.「読むこと」に関する論文の発表と討議
12.「読むこと」に関する論文の発表と討議
13.「読むこと」の活動のデザイン
14.「読むこと」の活動を発表
15.まとめ、レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育学研究 II	66以前	日本語教育学研究 II	2	後期　火 1, 2	原田三千代（教育学部）

授業の概要　言語習得過程の視点からみた日本語教育の四技能のうち、日本語教育学研究 I で取り上げた「読む」以外の理解・産出過程（聞く・話す・書く）について、理論的背景を知る。グループで論文を輪読・発表し、自分自身の問題意識につなげる。

学習の到達目標　日本語教育の理解・産出過程に焦点を当てて、知識を深め、理論・研究を教育にどうつなげていくかを考える。

教科書　作成したプリントを配布

成績評価方法と基準　出席、事前課題、発表とレポート、授業参加度、期末テストによって総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日13:00〜15:00（教育学部1号館4階） 原田研究室

学習内容
1.オリエンテーション、言語習得理論の復習
2.言語習得理論の復習
3.言語習得過程の視点から見た日本語教育
4.言語習得過程の視点から見た日本語教育
5.言語習得過程の視点から見た日本語教育
6.「聴くこと」をめぐる研究と実践
7.「聴くこと」をめぐる研究と実践
8.「聴くこと」をめぐる研究と実践
9.「話すこと」をめぐる研究と実践
10.「話すこと」をめぐる研究と実践
11.「話すこと」をめぐる研究と実践
12.「書くこと」をめぐる研究と実践
13.「書くこと」をめぐる研究と実践
14.「書くこと」をめぐる研究と実践
15.まとめ、期末テスト

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目	64〜66	日本語教育学研究III	2	後期　火5, 6	服部 明子

授業の概要　日本語教育および多文化共生について、体験や議論を通し、よりいっそうの理解を深める。

学習の目的　・多角的な視点から日本語教育に関連する領域への知識を深める。

学習の到達目標　・日本語教育に関する内容に自ら関心を持ち、課題や問題点を見つけることができる。

受講要件　学外での見学等を予定しているので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

教科書　川上郁雄・尾関史・太田裕子（2014）『日本語を学ぶ／複言語で育つ 子どものことばを考えるワークブック』くろしお出版

成績評価方法と基準　課題への取り組み、授業への積極的態度、レポート、発表などを総合して評価する。

オフィスアワー　毎週火曜 12：00〜13：00

学習内容
(1)日本語教育、国際交流、多文化共生などに関連する場への見学等を行う。
(2)各自興味を持ったテーマを掘り下げ、レポートを作成し、発表する。
1．子どもの直面する課題を考える
2．子どものことばの学びと実践を考える
（1）移動する時代と子どもたち
（2）日本で日本語を学ぶ子どもたち
（3）ことばの学びとことばの力
（4）海の向こうで日本語を学ぶ子どもたち
（5）ことばとアイデンティティ
（6）それぞれの「日本語」
（7）複数のことばの中で育つということ
（8）社会の中で育つことば
（9）子どもたちの心とことばの学び
（10）ことばの学びを支える「教材」1
（11）ことばの学びを支える「教材」2
（12）ことばの学びを支える言語活動
（13）見学（学外）
（14）まとめ

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目	64〜66	メディアリテラシーと情報表現 I	2	前期　火7, 8	下村 勉（教育学部学校教育講座）

授業の概要
コンピュータを活用して、絵・グラフ・文字を組み合わせて、情報を効果的に伝える方法や改善するプロセスを実践的に学ぶ。また、情報の発信・受信における留意点や情報評価について学ぶ。
1 コンピュータを用いた情報表現1：ワープロ（Word）の描画機能を利用して、絵と文字により一枚の情報表現作品（ポスター）を作成する。
2 コンピュータを用いた情報表現2：表計算ソフト（Excel）を利用して、自分の興味あるデータをわかりやすくグラフ化して説得力ある情報表現作品を作成する。
3 作品発表会と相互評価のフィードバックによる改善
なお、グラフ作品の優秀作は三重県グラフコンクールへ応募している。

学習の目的　ICTを用いての情報活用能力やメディアリテラシーの向上を図る。

学習の到達目標
（1）情報をわかりやすく伝えるためには、どのような点に留意して作成したらよいかがわかり、実際にパソコンを利用して情報伝達作品を作ることができる。わかりやすいグラフの作成能力、ポスターセッション（展示発表）のポスター作成などに役立つ。
（2）パソコンの活用能力の向上、とくにワープロソフト（描画機能）、表計算ソフト（グラフ作成）の活用法が習得できる。
（3）メディアからの情報を発信するとき及び受信するときの留意点がわかる。

教科書　教科書は使用しない。適宜プリントやWeb資料を使用する。

成績評価方法と基準　授業への参加状況20%、作品40%、レポート40%.

オフィスアワー　毎週金曜日13：00-14：30 教育実践総合センター教育工学研究室(下村)

学習内容
第1回 ガイダンス：授業のねらい、Moodleの使い方、過去の作品の閲覧
第2回 絵と文字による情報表現、Wordの描画機能
第3回 情報表現作品1の制作
第4回 情報表現作品1の制作（続き）
第5回 作品の相互閲覧と改善のための相互評価
第6回 作品の修正と総括評価
第7回 グラフを用いた情報表現、Excelのグラフ機能
第8回 情報表現作品2の制作
第9回 情報表現作品2の制作（続き）
第10回 グループ内発表
第11回 全体発表とコメントのフィードバック
第12回 改訂版の制作と提出
第13回 データベースについて（登録・利用）
第14回 メディアリテラシーについて
第15回 まとめ（ポートフォリオの作成）

その他　その他 パソコン実習や発表等の関係上、受講制限（40名）を行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		メディアリテラシーと情報表現 II	2	後期　月 3, 4	須曽野 仁志（教育学部）

授業の概要
学校現場、生涯学習の場において必要なプレゼンテーション技法やコンピュータ操作スキルを習得するため、以下の実習を行う。
1．さまざまな方法での自己紹介・プレゼンテーション（3〜4回分）
パワーポイントなど
2．デジタルストーリーテリングの制作(10〜11回分)

学習の目的
・自分らしさを大切にした自己表現する方法や内容を知る。
・実際にプレゼンテーションやデジタルストーリーテリングにとり組み、学習や教育の場での活かし方を知る。
・授業に参加する仲間のとり組みから学び合う。

学習の到達目標
・情報機器を用いて、わかりやすくプレゼンテーションができるようになる。
・ストーリーテリング制作の方法がわかり、個性豊かな作品を制作できるようになる。

教科書　教科書は使用しない。参考図書は授業時に紹介する。

成績評価方法と基準　授業時の発表、作品、電子掲示板でのコメントなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教育実践総合センター須曽野研究室

学習内容
1．さまざまな方法での自己紹介・プレゼンテーション（2〜3回分）
2．デジタルストーリーテリングの制作(11〜12回分)
ストーリーテリング(Storytelling)とは、文字、画像、音などを用いて、現実に起こったことや、空想上のできごとを描いたものであり、日本語では「物語」や「お話」を意味する。テクノロジーの発達により、コンピュータで、ナレーション、写真、BGM等を合わせ、ストーリーテリングを容易に作成できるようになり、こうしてできたストーリーテリングをデジタルストーリーテリングと呼ぶようになっている。本授業では、ストーリーのシナリオをまず作成し、以下に示す方法で作品制作を進める。
1）コンピュータで音声録音用ソフトを用いて、ナレーションの録音
2）ムービー作成ソフト（Windows XP用「ムービーメーカー」）を用いて、録音された音声と用意された画像の配列・長さの調整、必要に応じてBGMの挿入
3）ムービーファイル(WMVファイルなど）の作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目	64, 65	言語情報の処理と過程	2	前期　火 7, 8	服部 明子

授業の概要　本授業では、子どもの言語獲得を取り上げる。また、ことばを科学的に見るための方法や知見を紹介し、これまで言語学で議論されてきた主なテーマとその背景について解説する。

学習の目的
人間がことばをどのように獲得・習得し、理解しているのか、言語情報の処理と過程に関する知識を深める。
言語学、応用言語学などにおいて議論されてきたテーマについて学び、ことばを科学的に見るとはどのようなことか理解できるようになる。

学習の到達目標　授業内で取り上げた内容について理解し、自分のことばで説明できるようになる。

教科書　小林春美他（2008）『新・子どもたちの言語獲得』大修館書店

成績評価方法と基準　授業への参加度、課題、期末レポートから総合的に評価する。

学習内容
1．言語獲得理論の動きー生得性とはー
2．音声の獲得 言語的音声の産出
3．音声の獲得 単語音声の抽出
4．身振りとことば
5．語彙の獲得
6．文法の獲得（動詞、助詞）
7．言語獲得の臨界期
8．初期言語発達と認知発達の関係
9．手話の獲得
10．アフォーダンス理論

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目	～62 63～65	第二言語習得と情意的要素 言語と文化	2 2	前期　木 3, 4	荒尾浩子（教育学部）

授業の概要
言語に反映される文化的要素、コミュニケーションについての理解を深める。
特に日本人と英米人のコミュニケーションの仕方の違いを中心に、異文化コミュニケーションの基礎知識を学び、言語と人間関係の相互作用が、各文化の中で、どのようにコミュニケーションに反映されているかを理解することを目標とする。また文化による非言語コミュニケーションの違いにも着目し、その重要性も認識する。また異文化体験を分かち合い、誤解の起こる原因を探求すると同時に日本人として日本の文化を他文化の人々に伝える方法も考察していく。

学習の目的　言語と文化の関係について理解し知識を得る。

学習の到達目標　言語、文化、コミュニケーションに関して理解を深め、実際の異文化コミュニケーションの場面で柔軟に対応できる。

受講要件　文献理解のために、英語での読解能力がある程度必要。毎回の授業の予習を必須とし、レポーターはさらに発表するために、分かりやすくレジュメにするといった一連の課題をこなせることが必要条件。

教科書　授業内で指示する。

成績評価方法と基準　授業への出席、参加度、宿題提出、レポート、期末試験等を総合的に判断する。

オフィスアワー　毎週木曜7・8時限 荒尾浩子研究室 arao@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 文化とは
第2回 言語と文化の関わり
第3回 言語理解と文化理解
第4回 英米人の文化と英語、日本人の文化と日本語
第5回 人間関係と言語使用
第6回 ことばに反映さらた文化
第7回 コミュニケーションの方法
第8回 ノンバーバルコミュニケーションの使用
第9回 文化によるノンバーバルコミュニケーションの違い
第10回 異文化摩擦
第11回 カルチャーショック
第12回 異文化コミュニケーションと誤解
第13回 ことばに表れた心
第14回 ことばの背後にある心
第15回 宗教的な考えと言語
第16回 プレゼンテーション

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
世界の中の日本 II	66以前	世界の中の日本 II	2	後期　木 3, 4	原田三千代（教育学部）

授業の概要　日本や世界の言語政策、言語教育、および、その変遷を知り、言語と国家・社会との関わりや言語現象の特徴について考察を深める。

学習の到達目標　日本および世界の言語政策・言語教育を通して、国家や社会との関わり、文化や言語接触の中で生じる様々な問題や現象を知り、自身の問題として、主体的に捉える態度を養う。

教科書　作成されたプリントを配布

成績評価方法と基準　出席、発表・レポート、参加態度、中間・期末テストなど総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日13:00～15:00（教育学部1号館4階 原田研究室）

学習内容
1.オリエンテーション、言語政策
2.公用語・国家語
3.国語・国字問題
4.漢字・敬語
5.敬語の指針
6.外来語の問題
7.文化の変容と言語、中間テスト
8.多文化社会と多言語社会
9.多文化社会と多言語社会
10.世界の言語
11.世界の言語
12.日本および海外の日本語教育政策
13.世界の言語政策発表
14.世界の言語政策発表
15.期末テスト、レポート提出

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
現代日本教育事情	66以前	現代日本教育事情	2	前期　木 5, 6	原田三千代（教育学部）

授業の概要　現代の日本語教育の諸問題や言語教育観・学習観を取り上げ、その理論的背景を知り、考察する。

学習の到達目標　現代の日本語教育の諸問題に関する知識とそれに対する考察を通して、自分自身の言語教育観・学習観をふり返る契機とする。

教科書　作成したプリントを配布

成績評価方法と基準　出席、発表、レポート、授業への参加態度によって、総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日13:00～15:00（教育学部1号館4階、原田研究室）

学習内容
1.オリエンテーション、社会的背景と日本語教育
2.日本語学習者と日本語教育の多様化
3.言語教育の変化と教育観・学習観の転換
4.協働学習
5.ZPDとスキャフォールディング
6.学習者のオートノミー
7.内容重視の日本語教育
8.外国につながる子どもたちの日本語教育
9.イマージョンプログラム
10.地域社会と日本語教育
11.日本語教育の多様化 発表
12.日本語教育の多様化 発表
13.学習者参加型評価
14.レポート紹介
15.レポート紹介、提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学ゼミナールIII	1	前期　月 9, 10	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語の音声・音韻・アクセントや社会言語学(方言の地域差・世代差等)の諸問題を先行研究を検証する中で受講者が確認し、卒業論文のテーマを探す。卒業論文作成に必要な論文の書き方、参考文献の調べ方、調査法等については随時説明する。

学習の目的　教員や社会人として不可欠な「広い視野に基づく論理的な思考能力」を高めること。

学習の到達目標
①得られた成果を研究史上に位置づけること。
②得られた成果の日本語教育や国語教育への効果的な援用の仕方を身につけること。

予め履修が望ましい科目　日本語学関連の講義、演習。

教科書　適宜紹介する。

成績評価方法と基準　出席(30%)、授業参加への積極的な姿勢(30%)、発表(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00～19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
第1回：ガイダンス、発表者の順番決定
第2～15回：発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学ゼミナールIII	1	前期　金 3, 4	丹保健一（教育学部）

授業の概要
日本語分析の方法
具体的な言語現象を分析する。
日本語教師として必要となるであろう教材（言語）分析力を得る。

学習の目的　日本語現象の背後にある様々な法則を探究することができる。

学習の到達目標
これまでの研究を調べることができる。
言語資料を集めることができる。
言語資料を分析することができる。
分析結果から法則性を探究することができる。
それらをまとめ発表することができる。

受講要件　日本語学概説

予め履修が望ましい科目
国語学概説
日本語学講義文法・語彙 I

教科書　その都度示す。

成績評価方法と基準　授業中の発言、発表、レポート

オフィスアワー　毎週火曜日7～8 場所：研究室

学習内容
第1回～第2回
言語資料の収集、分析の方法について講義する。
テーマについてのアドバイスを各自求め、言語資料の収集等を行う。
第3回～15回
順次発表する。
注：
（1）発表4週間前にテーマの相談、及び進め方の相談をすること。
（2）1週間前には発表原稿・資料を提出して指導を受けること。
（3）発表時の指摘等を踏まえ、単位論文を完成させ提出する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学ゼミナールIV	1	後期　金 3, 4	丹保健一（教育学部）

授業の概要
日本語分析の方法
具体的な言語現象を分析する。
日本語教師として必要となるであろう教材（言語）分析力を得る。

学習の目的　日本語現象の背後にある様々な法則を探究することができる。

学習の到達目標
これまでの研究を調べることができる。
言語資料を集めることができる。
言語資料を分析することができる。
分析結果から法則性を探究することができる。
それらをまとめ発表することができる。

受講要件　日本語学概説

予め履修が望ましい科目　日本語学講義文法・語彙 I

教科書　その都度示す。

成績評価方法と基準　授業中の発言、発表、レポート

オフィスアワー　毎週火曜日7～8 場所：研究室

学習内容
第1回～第2回
言語資料の収集、分析の方法について講義する。
テーマについてのアドバイスを各自求め、言語資料の収集等を行う。
第3回～15回
順次発表する。
注：
（1）発表4週間前にテーマの相談、及び進め方の相談をすること。
（2）1週間前には発表原稿・資料を提出して指導を受けること。
（3）発表時の指摘等を踏まえ、単位論文を完成させ提出する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語学ゼミナールIV	1	後期　月 9, 10	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語の音声・音韻・アクセントや社会言語学(方言の地域差・世代差等)の諸問題を先行研究を検証する中で受講者が確認し、卒業論文のテーマを探す。卒業論文作成に必要な論文の書き方、参考文献の調べ方、調査法等については随時説明する。

学習の目的　教員や社会人として不可欠な「広い視野に基づく論理的な思考能力」を高めること。

学習の到達目標
①得られた成果を研究史上に位置づけること。
②得られた成果の日本語教育や国語教育への効果的な援用の仕方を身につけること。

予め履修が望ましい科目　日本語学関連の講義、演習。

教科書　適宜紹介する。

成績評価方法と基準　出席(30%)、授業参加への積極的な姿勢(30%)、発表(40%)、計100%。

オフィスアワー　毎週月曜日(18：00〜19：00)、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
第1回：ガイダンス、発表者の順番決定
第2〜15回：発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース専門科目	〜64	日本語教育学ゼミナールIII	1	前期　月 9, 10	原田三千代

授業の概要　日本語教育に関する内容を取り上げ、演習中心で授業を進める

学習の到達目標　日本語教育に関する内容に自ら問題点を見つけ、研究に取り組む姿勢を身につける

成績評価方法と基準　課題への取り組み、授業への積極的態度、レポートなどを総合して評価する

オフィスアワー　水曜日13:00〜15:00（教育学部1号館4階・原田研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2〜6回 4年生による卒業研究の報告
第7回 3年生中心の文献講読（社会・文化・地域、言語と社会）
第8回 3年生中心の文献講読（言語と心理、言語と教育）
第9〜10回 4年生による卒業研究の報告
第11回 3年生中心の文献講読（言語一般）
第12回 3年生中心の文献講読（日本語の構造）
第13〜14回 4年生による卒業研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語教育学ゼミナールIII	1	前期　月 9, 10	林朝子

授業の概要　日本語教育に関する内容を取り上げ、演習中心で授業を進める

学習の到達目標　日本語教育に関する内容に自ら問題点をみつけ、研究に取り組む姿勢を身につける

成績評価方法と基準　課題への取り組み、授業への積極的態度、レポートなどを総合して評価する

オフィスアワー　林：木曜日昼休み（教育学部1号館4階・林研究室）

学習内容
第1回 ガイダンス
第2〜6回 4年生による卒業研究の報告
第7回 3年生中心の文献講読（社会・文化・地域、言語と社会）
第8回 3年生中心の文献講読（言語と心理、言語と教育）
第9〜10回 4年生による卒業研究の報告
第11回 3年生中心の文献講読（言語一般）
第12回 3年生中心の文献講読（日本語の構造）
第13〜14回 4年生による卒業研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語教育学ゼミナールIII	1	前期　月 9, 10	服部明子

授業の概要　日本語教育に関する内容を取り上げ、演習中心で授業を進める

学習の到達目標　日本語教育に関する内容に自ら問題点をみつけ、研究に取り組む姿勢を身につける

成績評価方法と基準　課題への取り組み、授業への積極的態度、レポートなどを総合して評価する

オフィスアワー　林：木曜日昼休み（教育学部1号館4階・林研究室）

学習内容
第1回 ガイダンス
第2〜6回 4年生による卒業研究の報告
第7回 3年生中心の文献講読（社会・文化・地域、言語と社会）
第8回 3年生中心の文献講読（言語と心理、言語と教育）
第9〜10回 4年生による卒業研究の報告
第11回 3年生中心の文献講読（言語一般）
第12回 3年生中心の文献講読（日本語の構造）
第13〜14回 4年生による卒業研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目	62〜65	日本語教育学ゼミナールIII	1	前期　火 3, 4	守田 庸一（教育学部）

授業の概要
1．国語科教育研究の検討
2．国語科教育実践の検討
3．教材・カリキュラムの開発
4．模擬授業・実験授業の企画及び実施

学習の目的
1．国語科教育に関する知見を深化・拡充させる。
2．国語科教育実践力を向上させる。

学習の到達目標
1．国語科教育に関する幅広い知識を獲得する。
2．国語科の授業を創造し実践することができるようになる。

教科書　開講時に指示する。

成績評価方法と基準　研究発表の内容や出席状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容
受講者による資料作成・発表・討議によって各回の学習を進める（初回・最終回を除く）。
第1回 ガイダンス
第2〜7回 4年生による卒業研究の報告
第8〜14回 3年生による共同研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語教育学ゼミナールIV	1	後期　月 9, 10	林朝子

授業の概要　日本語教育に関する内容を取り上げ、演習中心で授業を進める

学習の到達目標　日本語教育に関する内容に自ら問題点をみつけ、研究に取り組む姿勢を身につける

成績評価方法と基準　課題への取り組み、授業への積極的態度、レポートなどを総合して評価する

学習内容
第1回 ガイダンス
第2〜6回 4年生による卒業研究の報告
第7回 3年生中心の文献講読（社会・文化・地域、言語と社会）
第8回 3年生中心の文献講読（言語と心理、言語と教育）
第9〜10回 4年生による卒業研究の報告
第11回 3年生中心の文献講読（言語一般）
第12回 3年生中心の文献講読（日本語の構造）
第13〜14回 4年生による卒業研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目	62〜65	日本語教育学ゼミナールIV	1	後期　火 3, 4	守田 庸一（教育学部）

授業の概要
1．国語科教育研究の検討
2．国語科教育実践の検討
3．教材・カリキュラムの開発
4．模擬授業・実験授業の企画及び実施

学習の目的
1．国語科教育に関する知見を深化・拡充させる。
2．国語科教育実践力を向上させる。

学習の到達目標
1．国語科教育に関する幅広い知識を獲得する。
2．国語科の授業を創造し実践することができるようになる。

予め履修が望ましい科目　日本語教育学ゼミナールIII

教科書　開講時に指示する。

成績評価方法と基準　研究発表の内容や出席状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容
受講者による資料作成・発表・討議によって各回の学習を進める（初回・最終回を除く）。
第1回 ガイダンス
第2〜7回 4年生による卒業研究の報告
第8〜14回 3年生による共同研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース専門科目	〜65	日本語教育学ゼミナールIV	1	後期　月 9, 10	原田三千代

授業の概要　日本語教育に関する内容を取り上げ、演習中心で授業を進める

学習の到達目標　日本語教育に関する内容に自ら問題点を見つけ、研究に取り組む姿勢を身につける

成績評価方法と基準　課題への取り組み、授業への積極的態度、レポートなどを総合して評価する

オフィスアワー　水曜日13:00〜15:00（教育学部1号館4階・原田研究室）

学習内容
第1回 ガイダンス
第2〜6回 4年生による卒業研究の報告
第7回 3年生中心の文献講読（社会・文化・地域、言語と社会）
第8回 3年生中心の文献講読（言語と心理、言語と教育）
第9〜10回 4年生による卒業研究の報告
第11回 3年生中心の文献講読（言語一般）
第12回 3年生中心の文献講読（日本語の構造）
第13〜14回 4年生による卒業研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース専門科目		日本語教育学ゼミナールIV	1	後期　月 9, 10	服部明子

授業の概要　日本語教育に関する内容を取り上げ、演習中心で授業を進める

学習の到達目標　日本語教育に関する内容に自ら問題点をみつけ、研究に取り組む姿勢を身につける

成績評価方法と基準　課題への取り組み、授業への積極的態度、レポートなどを総合して評価する

学習内容

第1回 ガイダンス
第2〜6回 4年生による卒業研究の報告
第7回 3年生中心の文献講読（社会・文化・地域、言語と社会）
第8回 3年生中心の文献講読（言語と心理、言語と教育）
第9〜10回 4年生による卒業研究の報告
第11回 3年生中心の文献講読（言語一般）
第12回 3年生中心の文献講読（日本語の構造）
第13〜14回 4年生による卒業研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース専門科目	64	日本語教育実習	3	通年	林朝子

授業の概要　日本語教育の現場での見学・実習を通し、教育の方法・工夫・問題などに気づき、今後の実践・研究に生かす。

学習の目的　様々な日本語教育に対応できる基礎力を身に付ける。

学習の到達目標　教育現場に入ることで、教育の実践を見ることができ、教育上の様々な問題点に気づき解決していく力へとつなげる。

受講要件　実習は学外に行くこともあるので、学生教育研究災害傷害保険に加入しておくこと。

予め履修が望ましい科目　日本語教授法（必須）

成績評価方法と基準　レポート、模擬授業、実習先での様子を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日昼休み（教育学部1号館4階・林研究室）

学習内容
1）オリエンテーション
2）外国語教育と体験談
3）〜5）教材分析の方法
6）〜8）授業分析
9）〜11）初級文法の導入と練習方法
12）〜14）教案作成とディスカッション
15）〜18）模擬授業とディスカッション
19）〜21）日本語教育機関見学
22）〜44）各機関での日本語教育支援
（定期的に記録ノートの提出とディスカッションを行う）
45）まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育実習	64	日本語教育実習	3	通年	原田三千代

授業の概要　日本語教育の現場での見学・実習を通し、教育の方法・工夫・問題などに気づき、今後の実践・研究に生かす。

学習の到達目標　教育現場に入ることで、教育の実践を見ることができ、教育上の様々な問題点に気づき、解決していく力へとつなげる。

受講要件　実習は学外に行くこともあるので、学生教育研究災害傷害保険に加入しておくこと

予め履修が望ましい科目　日本語教授法（必須）

成績評価方法と基準　模擬実習、内省レポート、実習先での様子を総合的に評価する

オフィスアワー　水曜日13:00〜15:00（教育学部1号館4館・原田研究室）

学習内容
1）オリエンテーション
2）外国語教育と体験談
3）〜5）教材分析の方法
6）〜8）授業分析
9）〜11）初級文法の導入と練習方法
12）〜14）教案作成とディスカッション
15）〜18）模擬授業とディスカッション
19）〜21）日本語教育機関見学
22）〜44）各機関での日本語教育支援
（定期的に記録ノートの提出とディスカッションを行う）
45）まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース専門科目		日本語教育実習	3	通年	服部明子

授業の概要　日本語教育の現場での見学・実習を通し、教育の方法・工夫・問題などに気づき、今後の実践・研究に生かす。

学習の到達目標　教育現場に入ることで、教育の実践を見ることができ、教育上の様々な問題点に気づき解決していく力へとつなげる。

受講要件　実習は学外に行くこともあるので、学生教育研究災害傷害保険に加入しておくこと。

予め履修が望ましい科目　日本語教授法（必須）

成績評価方法と基準　レポート、模擬授業、実習先での様子を総合的に評価する。

学習内容
1）オリエンテーション
2）外国語教育と体験談
3）〜5）教材分析の方法
6）〜8）授業分析
9）〜11）初級文法の導入と練習方法
12）〜14）教案作成とディスカッション
15）〜18）模擬授業とディスカッション
19）〜21）日本語教育機関見学
22）〜44）各機関での日本語教育支援
（定期的に記録ノートの提出とディスカッションを行う）
45）まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目	～66	中国語概説 I	2	前期　木 3, 4	服部明子

授業の概要
中国語と日本語を対照的に観察し、それぞれの言語の特徴を探る。また、中国語／日本を学ぶ学習者にとって、どのような点が困難となるのかを考察する。
中国語を理解する上で必要となる、文化的側面についても、必要に応じて取り上げる。

学習の目的
日本語および中国語という言語をさまざまな視点から認識することができるようになる。
言語の対照分析に関する基本的な知識を得、それを基に、日本語教育に寄与する実践力を身につける。

学習の到達目標
日本語および中国語について言語学的視点から説明できる。
言語の対照分析に関する基本的な知識を身につける。

受講要件　・現代中国語のピンイン（拼音pinyin）が読めること

教科書　沖森卓也・蘇紅 編著（2014）『中国語と日本語』朝倉書店

成績評価方法と基準
・出席、発表、授業での積極的な態度、課題提出の総合的な評価（60%）
・期末評価（40%）
評価基準は初回の授業で配布する。

学習内容
授業方法は、講義および演習
学習内容
1．代名詞
2．動詞・形容詞
3．数量詞
4．主語・述語
5．アスペクトとテンス
6．態
7．比較文
8．モダリティー
9．共起
11．敬語
12．日中同形語
13．親族語彙
14．諧声、ことわざ・慣用句
15．擬音語・擬態語
16．漢字

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目		中国語概説 II	2	前期　火 5, 6	服部明子

授業の概要　中国語母語話者の日本語使用および誤用について、日本語教育の立場から分析する。また、中国語母語話者が日本語を学習する際に困難となる点についても考察する。

学習の目的
・日本語教育に対する理解を深める。
・論文講読を通して、論理的・批判的思考力を身につける。

学習の到達目標
・日本語教育に関する論文を多角的に読み、批評することができる。
・得た知識を基に、日本語教育に寄与できる実践力を身につける。

受講要件　・現代中国語のピンイン（拼音pinyin）が読めること

予め履修が望ましい科目　・中国語概説 I

教科書　研究論文を講読するため、教科書は用いない。（授業時配布）

成績評価方法と基準
出席、発表、授業での積極的な態度と発言内容、課題提出から総合的に判断する。
期末評価として、最終レポートを課す。

学習内容
日本語教育と中国語、日本語と中国語の対照に関する論文を講読する。
発表、ディスカッションを中心に進める。
1・2 オリエンテーション
3～15 論文講読

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目		中国語会話 I	2	前期　木 1, 2	王 文齢（教育学部非常勤講師）

授業の概要　様々な場面設定を通じて中国語で自由会話を楽しむと同時に、場に応じたコミュニケーション力を身につけることを目指す。中国語検定試験合格も目指す。

学習の目的　中国語で楽しくやりとりができる

学習の到達目標　中国語検定試験3級合格

教科書　プリントを配布する

成績評価方法と基準　出席状況、授業態度、テストなどを総合的に判断する。

学習内容
第1、2回：場面（1）自己紹介してみよう
第3、4回：場面（2）友達を紹介し合おう
第5、6回：場面（3）電話してみよう
第7、8回：場面（4）ショッピングしよう
第9、10回：クリスマスの曲を歌おう
第11、12回：場面（5）十二支やお正月の過ごし方を語り合おう
第13、14回：場面（6）体調を伝えよう
第15回：期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目		中国語会話 II	2	後期　木 1, 2	徐川（天津師範大学外国人特任教員）

授業の概要　直接法による中国語学習。

学習の目的　中国語による会話能力を伸ばし、簡単な中国語でコミュニケーションができるようになる。

学習の到達目標　初級中国語の正確な発音と表現方法を学び、実際のコミュニケーションで生かすことができる。また、中級レベルへとつなげられる中国語能力を身につける。

予め履修が望ましい科目　共通教育の中国語科目、中国語会話 I、中国語概説 I（予め履修していなくても履修可）

成績評価方法と基準　授業態度、レポート、試験等を総合的に判断し、評価する

学習内容
1）授業説明、中国語レベル判定
2）～4）発音練習
5）初対面・挨拶
6）家族について
7）趣味について
8）ホテルで
9）両替
10）道をたずねる
11）買い物
12）郵便局で
13）レストランで
14）会話作成
15）作成会話を発表

その他　授業では積極的に発話することが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
比較言語文化科目		中国語会話III	2	前期　水 3, 4	徐川（天津師範大学外国人特任教員）

授業の概要　中国語によるコミュニケーションに役立つ使用場面・言語機能を重視して授業を進める。自らの意思伝達、そして、相手との意思疎通ができるように、中国語を楽しく学ぶと同時に「使える言語」として身につけることを目指したい。

学習の目的　中国語での日常会話能力を伸ばす。

学習の到達目標　中国語での日常会話が可能になる。

予め履修が望ましい科目　中国語会話 I・II（予め履修していなくても履修可）

教科書　特になし。適宜プリント使用。

成績評価方法と基準　授業態度、レポート、試験等を総合的に判断し、評価する。

学習内容
1）授業説明、中国語レベルの確認
2）～12）「わたしの一日」のテーマで会話練習
・一日の始まり
・交通機関の利用
・職場で
・銀行で
・学校で
・昼食をとる
・家事
・病院で
・帰宅後
・余暇を過ごす
・その他
13）14）「わたしの一日」学生発表
15）まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目	～67	日本語・日本事情 I	2	前期　月 7, 8	服部 明子

授業の概要
日本語と日本事情に関するトピックを取り上げ、その内容について考察を深める。
口頭発表や討論、ライティングなどの課題を通して、日本語運用能力の向上を目指す。

学習の目的
・日本語と日本事情に対して理解を深める
・日本語運用能力を高める

学習の到達目標
1．講義を聴く力を高める
2．説明する・報告することができるようになる
3．レポートの書き方が分かるようになる

受講要件
日本語を母語としない外国人留学生を対象とする。
受講生は毎回授業に出席し、積極的に取り組むことが求められる。

教科書
・二通信子他（2009）『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
・東京外国語大学留学生日本語教育センター（2014）『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解[中上級]』スリーエーネットワーク
以上の他に、受講生の専門、興味・関心に即した資料を配布・使用する。

成績評価方法と基準
口頭発表、ディスカッションへの参加度、課題レポートを総合的に判断する。
評価基準については、授業内で別紙配布する。

学習内容
授業内容
1．オリエンテーション
2．日本語レベルチェック、日本語ニーズ調査
3．図書の探し方、資料の探し方
4．見学（三翠会館、高田本山専修寺など）
授業方法
1．ニュースについて話す（要約する・報告する・説明する・おしゃべりする）
2．講義の理解（聴解）練習
3．見学・活動

その他　学外での見学を予定しています。保険に加入しておいてください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目	～67	日本語・日本事情 II	2	後期　火 7, 8	服部 明子（教育学部）

授業の概要
・日本のビジネスに関する話題やニュースを取り上げ、日本のビジネス社会とその慣習などへの理解を深める。
・ビジネスの現場で役立つ表現を学ぶ。
・敬語を使って、実際の場面に応じた会話ができるようになる。

学習の目的
・日本語と日本事情に対して理解を深める。
・受講生が自らの日本語学習を客観的に捉え、主体的に学べるようになる。

学習の到達目標
・日本語の運用能力を高める。（要約する、説明する、意見を明確に伝える）
・日本のビジネス社会とその慣習への知識を得る。

受講要件
日本語を母語としない外国人留学生を対象とする。
受講生は毎回授業に出席し、積極的に取り組むことが求められる。

教科書　授業初回で配布

成績評価方法と基準
口頭発表、ディスカッションへの参加度、課題レポートを総合的に判断する。
評価基準については、授業内で別紙配布する。

学習内容
1．日本企業に関する話題やニュースについてディスカッションする
2．ディスカッションの司会の練習、議事録を書く練習
3．日本のビジネス社会を知る ー四季報を読むー
4．企業の求める人材を知る
5．企業のダイバーシティとコミュニケーション上の摩擦 ーケース学習ー
6．企業訪問、企業関係者へのインタビュー
7．就職活動ガイド
・面接（表情、姿勢、動作、態度、話し方）
・会話のマナー（敬語、ことば遣い）
・電話のかけ方、電話の受け方

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目	64～67	国文学概説	2	前期　月 5, 6	和田 崇

授業の概要　明治・大正期の文学について、同時期に書かれた評論と小説の両方を読むことで、近代小説を史的に概観する。国語教科書に掲載されている作品を同時代の評論文と結びつけることで、作品の背景を立体的に考察する。

学習の目的
明治・大正期の日本文学史に関する基礎的な知識を学ぶ。
近代小説の主題や文学史的意義を作品に即して捉える。

学習の到達目標　明治・大正期の日本文学史の基礎的な知識を得て、近代の評論や小説の読解法を学ぶ。

教科書　テキストはPDFファイル等で配布する。

成績評価方法と基準
授業への積極的参加度50%＋期末レポート50%＝計100%（合計60%以上で合格）
3分2以上の出席を要す。
※履修者数に応じて別途課題・発表を課し、その評価は「授業への積極的参加度」に含む。

オフィスアワー　木曜日・昼休み及び14：40～16：10

学習内容
第1回…イントロダクション―文学評論と小説の関係―
第2回…森鴎外と没理想論争①―「早稲田文学の没理想」（評論）を読む―
第3回…森鴎外と没理想論争②―「舞姫」（小説）を読む―
第4回…田山花袋と自然主義①―「露骨なる描写」（評論）を読む―
第5回…田山花袋と自然主義②―「蒲団」（小説）を読む―
第6回…夏目漱石と明治の精神①―「私の個人主義」（評論）を読む―
第7回…夏目漱石と明治の精神②―「こころ（抄）」（小説）を読む―
第8回…夏目漱石と明治の精神③―「こころ（抄）」（小説）を読む―
第9回…白樺派の文学①―広津和郎「志賀直哉論」（評論）を読む―
第10回…白樺派の文学②―志賀直哉「小僧の神様」（小説）を読む―
第11回…新感覚派の文学①―千葉亀雄「新感覚派の誕生」（評論）を読む―
第12回…新感覚派の文学②―横光利一「頭ならびに腹」（小説）を読む―
第13回…プロレタリア文学①―青野季吉「「調べた」芸術」（評論）を読む―
第14回…プロレタリア文学②―葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」（小説）を読む―
第15回…まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目	64〜67	国文学概説	2	後期　月 5, 6	和田 崇（教育学部）

授業の概要　明治・大正期の文学について、同時期に書かれた評論と小説の両方を読むことで、近代小説を史的に概観する。国語教科書に掲載されている作品を同時代の評論文と結びつけることで、作品の背景を立体的に考察する。

学習の目的
明治・大正期の日本文学史に関する基礎的な知識を学ぶ。
近代小説の主題や文学史的意義を作品に即して捉える。

学習の到達目標　明治・大正期の日本文学史の基礎的な知識を得て、近代の評論や小説の読解法を学ぶ。

教科書　テキストはPDFファイル等で配布する。

成績評価方法と基準
授業への積極的参加度50%＋期末レポート50%＝計100%（合計60%以上で合格）
3分2以上の出席を要す。
※履修者数に応じて別途課題・発表を課し、その評価は「授業への積極的参加度」に含む。

オフィスアワー　木曜日の、昼休み及び14：40−16：10

学習内容
第1回…イントロダクション―文学評論と小説の関係―
第2回…森鴎外と没理想論争①―「早稲田文学の没理想」（評論）を読む―
第3回…森鴎外と没理想論争②―「舞姫」（小説）を読む―
第4回…田山花袋と自然主義①―「露骨なる描写」（評論）を読む―
第5回…田山花袋と自然主義②―「蒲団」（小説）を読む―
第6回…夏目漱石と明治の精神①―「私の個人主義」（評論）を読む―
第7回…夏目漱石と明治の精神②―「こころ（抄）」（小説）を読む―
第8回…夏目漱石と明治の精神③―「こころ（抄）」（小説）を読む―
第9回…白樺派の文学①―広津和郎「志賀直哉論」（評論）を読む―
第10回…白樺派の文学②―志賀直哉「小僧の神様」（小説）を読む―
第11回…新感覚派の文学①―千葉亀雄「新感覚派の誕生」（評論）を読む―
第12回…新感覚派の文学②―横光利一「頭ならびに腹」（小説）を読む―
第13回…プロレタリア文学①―青野季吉「「調べた」芸術」（評論）を読む―
第14回…プロレタリア文学②―葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」（小説）を読む―
第15回…まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目	〜66	国文学史概説	2	前期　金 5, 6	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　A類用「国文学史概説」に同じ

学習の目的　A類用「国文学史概説」に同じ

学習の到達目標　A類用「国文学史概説」に同じ

教科書　A類用「国文学史概説」に同じ

成績評価方法と基準　A類用「国文学史概説」に同じ

オフィスアワー　月曜日2コマ@研究室

学習内容　A類用「国文学史概説」に同じ

その他　留学生の方は、受講が可能か、予備的な選抜をすることがあります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
比較言語文化	66期以前	日本史概論	2	前期　木 9, 10	藤田達生（教育学部）

授業の概要
この授業では、将来、自分自身が日本史の授業をする際に役立つよう、近年の日本史学の新視点を紹介し、また人物史・地域史を授業であつかう際の方法論について講義する。

学習の目的
この授業を通して、日本史の授業をする際の技術や予備知識の獲得はもちろん、「なぜ日本史を教えるのか」という問いに対して自分ならではの答えを確立できるようにしたい。

学習の到達目標
日本史の授業をする際には、自分の好きな時代だけではなく、また他の学問分野との関わりについても知っておいた方が、より豊かな授業ができると思う。“引き出し”の多い教員をめざしてもらいたい。

受講要件　とくに無し

教科書
『天下統一』（中公新書、2014年）

成績評価方法と基準
出席と期末試験（60%以上で合格）

オフィスアワー
毎週水曜10時30分〜12時

学習内容
第1回：天下統一を問い直す
第2回：室町幕府の復興
第3回：義昭―信長政権
第4回：鞆幕府
第5回：安土幕府
第6回：近世公権力の創出
第7回：天下人と鉢植大名
第8回：価値観の転換
第9回：安土幕府の継続
第10回：政権交代
第11回：豊臣国分の第一段階
第12回：豊臣国分の第二段階
第13回：仕置の強制
第14回：政権崩壊への序曲
第15回：天下統一がもたらしたもの

その他
将来、日本史の教員になる人向けに、日本史の教育や研究の方法について学ぶ授業である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目		日本地理概説	2	後期　金 5, 6	宮﨑 清（教育学部）

授業の概要
世界の中での日本の地理的特色、及び日本各地の地理について学習する。
（授業科目名「地誌学概論」と同じにつき、参照のこと）

学習の目的　世界の中での日本の地理的特色、及び日本各地の地理について理解する。

学習の到達目標　世界の中での日本の地理的特色、及び日本各地の地理に関する知識を修得する。

予め履修が望ましい科目　地理学概論

教科書　『中学校学習指導要領解説社会編』文部科学省

成績評価方法と基準　試験およびレポート

オフィスアワー　毎週木曜日10：30〜12：00

学習内容
①導入
②国土
③地理要素と環境
④地域区分
⑤〜⑦身近な地域
⑧〜⑩世界の中における日本
⑪〜⑮日本の諸地域

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目	66〜	日本美術史概説	2	後期　木 1, 2	山口泰弘

授業の概要
江戸時代を中心とした日本と西洋とのあいだの美術上の接触を検証し、異文化体験の衝撃が促した文化の変容について探っていく。さらに、それを基点にして日本文化の特性を浮き彫りにしていく。
江戸文化というと、鎖国によって閉ざされたなかで密やかに成熟した文化と思われがちである。しかし、長崎の出島に開かれた小さな戸口からは、西洋という未知なものへの好奇心をかき立てる様々なイメージが意外なほど多く流れ込んだ。歌川広重の「東海道五十三次」や葛飾北斎の「富嶽三十六景」は、実は、江戸文化の伝統と新たな西洋イメージとの相克と融合の結果生まれたともいえる。この授業では、西洋という異文化に接触したときに発生した江戸文化の変容を、美術史の視点から考察する。
また、学期中、数回展覧会見学を実施し、実作品を鑑賞する機会をつくる。

学習の目的　具体的な作品提示によって多くの知識を得ることができるほか、作品相互の関係性を明らかにすることで、文化の多様性、広汎性を理解する。

学習の到達目標　美術史の基礎的な概念や研究方法について学習する。また、文化の多様性や相互性についても理解できるようになる。

教科書　適宜提示する。

成績評価方法と基準　出席と記述試験の成績を総合評価する。

オフィスアワー
芸術学研究室（教育学部2号館2階）
毎週木曜日 12:00~13:00

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 概説 南蛮美術と洋風画および浮世絵
第3回 南蛮美術(1) 世界図上の日本
第4回 南蛮美術(2) 南蛮屏風
第5回 南蛮美術(3) 洋人奏楽図屏風
第6回 中国における西洋イメージ(1) 円明園・北京のベルサイユ宮殿
第7回 中国における西洋イメージ(2) カスティリオーネ・郎世寧
第8回 洋風画(1) 円山応挙と眼鏡絵
第9回 洋風画(2) 秋田蘭画
第10回 洋風画(3) 司馬江漢
第11回 浮世絵(1) 浮絵
第12回 浮世絵(2) 葛飾北斎
第13回 浮世絵(3) 歌川広重
第14回 浮世絵(4) 歌川国芳
第15回 まとめ
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目	64-66	東洋史概説	2	後期　火 3, 4	大坪慶之（教育学部）

授業の概要　台湾を主要な舞台として、東アジアの近世・近現代史について考察する。

学習の目的　現在の東アジア世界（日本・中国・韓国・台湾など）は、人と人との交流が、かつてより密接になっている。しかし諸国家・諸地域間の相互認識は、観光と大衆文化のレベルで進展を見せる一方で、歴史においては必ずしも深まっていないように思われる。また、頻繁に起こる歴史問題や領土問題は、各国家・各地域の戦前の歴史的経験が、21世紀の現在に依然として作用しており、日本史だけにとどまらない、東アジアの歴史を学ぶことの重要性を教えてくれる。以上の点をふまえ本講義では、近世の台湾、日本による植民地統治、および戦後におけるその影響を中心に見ていく。

学習の到達目標　日本が、かつて植民地として支配した地域のひとつである台湾の歴史について、その統治期・戦後を中心に理解する。

予め履修が望ましい科目　世界の中の日本 I

教科書　教科書は使用しません。

成績評価方法と基準　小テスト10%、試験90%。

学習内容
本講義は、次の三つのテーマを柱として進める。
Ⅰ．東アジア世界の中の台湾（5回）
1．地理的環境と民族
2．時代区分
3．オランダ統治、鄭氏政権の時代
4．清朝統治時代
5．清朝による台湾領有の変化
Ⅱ．日本統治時代（5回）
6．日本による植民地支配の開始
7．日本統治の基礎づくり
8．植民統治下の近代化
9．植民統治と先住民族
10．戦時下の台湾
Ⅲ．「中華民国」の台湾定着（5回）
11．台湾の祖国復帰と二・二八事件
12．国民党による一党独裁と蒋家
13．奇跡の経済発展
14．民主化への動き
15．両岸関係の現在

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
比較言語文化科目		中国語・中国事情 I	2	前期　金 3, 4	徐川（天津師範大学外国人特任教員）

授業の概要　中国語基礎力の向上とともに、中国文化や歴史等について学ぶ

学習の目的　中国文化等を踏まえ、基礎的な中国語を身に付ける

学習の到達目標　基礎的な中国語を使って、より細やかなコミュニケーションができるようになる

予め履修が望ましい科目　共通教育の中国語科目

教科書　プリント配布

成績評価方法と基準　授業態度、レポート、試験等を総合的に判断し、評価する

学習内容
1）授業説明・中国の文化①
2）中国の文化②
3）中国の文化③
4）中国の歴史①
5）中国の歴史②
6）中国の歴史③
7）中国の観光①
8）中国の観光②
9）中国の観光③
10）11）各自でテーマを決め、中国について調べる
12）学生発表①
13）学生発表②
14）学生発表③
15）まとめ

その他　授業では積極的に発話することが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
日本語教育コース 比較言語文化科目		中国語・中国事情 II	2	後期　月 5, 6	徐川（天津師範大学外国人特任教員）

授業の概要　初級レベルの中国語習得を目指すともに、中国文化や歴史等について学ぶ

学習の目的　中国文化等を踏まえ、初級レベルの中国語を身に付ける

学習の到達目標　初級レベルの中国語を使って、より細やかなコミュニケーションができるようになる

予め履修が望ましい科目　共通教育の中国語科目

教科書　プリント配布

成績評価方法と基準　授業態度、レポート、試験等を総合的に判断し、評価する

学習内容
1）授業説明、中国に関する知識の確認
2）中国の文化①
3）中国の文化②
4）中国の芸術①
5）中国の芸術②
6）中国の映画①
7）中国の映画②
8）中国の映画③
9）中国の教育①
10）中国の教育②
11）中国の教育③
12）学生発表①
13）学生発表②
14）学生発表③
15）まとめ

その他　授業では積極的に発話することが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
コース選択科目B	66 65-	教育内容・方法論 授業論	2 2	前期　金 3, 4	森脇 健夫

授業の概要
授業を「つくる」基本的な技術、姿勢を身につける
授業の三要素（教師、子ども、教材）について分析的にとらえるとともに、とくに教材研究、教材づくりについて、その理論と方法、実際に行ってみる中で理解できるようにする。

学習の目的　100%の授業（すごくすばらしい授業）ではなく、60%の授業ができるように基礎・基本を身につける。そして自分のモチーフを大事にした授業が一応つくれることを目標にしたい。

学習の到達目標　授業づくりの基本的な枠組みについての知識および実践的能力

教科書　講義にて指定

成績評価方法と基準　レポート 及び 平常点

学習内容

1 子どもの学びをどうとらえるか
2 「教え」と「学び」の関係
3 「学び」を創造する「（教）材」
4 「メッセージ」と「（教）材」
5 「（教）材」の要件
6 （教）材の具体性
7 （教）材の意外性
8「教授行為」――説明・発問・指示
9「教授行為」――説明・発問・指示2
10 授業の構造と展開
11 臨床的な対応
12 教師の仕事、資質・力量
13 教師の力量形成
14 教師のライフヒストリーと力量形成
15 現代の教師に求められること
16 レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程共通科目	66	人間発達実地研究 I	2	前期集中	織田 泰幸（教育学部）

授業の概要　三重県内の小学校を3日間にわたって訪問し、ベテラン教師の助言を受けながら，授業観察や児童との交流を通じて、子どもの実態や教師の仕事の概要を把握する。詳細については，2013年度がスタートしてから協議・確定する。

学習の目的　本授業では，小学校における参与観察を通じた児童や教職員との交流によって、将来教師をめざす学生が自分の様々な教育観（教師観、子ども観，学校観など）を見つめなおして深めることを目的とする。

学習の到達目標　授業の参与観察および観察後の集団討論を通じた振り返りによって，自らの教育観を意識的に問い直すこと，そのことによって今後の教育学部における自己の学習・研究の見通しをより明確にすること。とりわけ1年後の4週間教育実習に向けての自己課題を認識すること。

受講要件　将来教職に就くことを希望する学生が望ましい（詳細についてはガイダンスにおいて説明する）。

予め履修が望ましい科目　特になし

教科書　特になし

成績評価方法と基準
次の2種類のレポートから総合的に評価する。
学校訪問日における「Daily Report」（原則当日中に提出）
学校訪問終了後における「最終レポート」（締切日までに提出）
（いかなる事情があれ，この授業における遅刻や欠席は認めないので注意すること）

オフィスアワー　本授業の受講を検討している学生は，事前に担当教員の研究室を訪問して受講の意思を伝えること。また，その後の事前学習には必ず参加すること。

学習内容
この授業における小学校の訪問・実地体験の日程と内容は，2015年4月以降に具体化する。実施期間は2015年9月である（具体的な日程は学校と相談のうえ決定する）。
現段階での授業担当者のプランは以下のとおりである。
第1回 4月：事前学習・ミーティング1（実地研究の概要説明）
第2回 8月：事前学習・ミーティング2（実地研究受講生の心構えと注意点）
第3〜14回 9月：3日間の実地研究（授業観察、学校見学、集団討論）
1日目：午前：授業見学 午後：協議会
2日目：午前：授業見学 午後：協議会
3日目：午前：授業見学 午後：協議会
第15〜16回 事後学習・ミーティング
現地での参与観察とその後の協議会以外には，大学における事前学習・ミーティング（2コマ分）および事後学習・ミーティングの時間（2コマ分）を設ける。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職入門	66-	教職入門	2	前期　木 5, 6	森脇 健夫

授業の概要
教師の仕事をとりまく状況について把握する。
専門職としての教師とは、ということについて考えてみる。
教職の魅力について考えてみる
「教えること」について、また教師と児童・生徒との関係について考えてみる
教師の力量、と力量形成について
三重県の教育、三重県の教育改革の方向について
いま、地域教育においてどのようなことが課題か、どんな教師像が求められているか？
教師として人権問題、体罰やいじめ問題にどういう姿勢でのぞむか、あらためて考えてみる。
自分にとって教職とはあらためて考えてみる

学習の目的
教職という仕事の具体的なイメージを持つことができる。
教職に対して課題や困難さもありながらも、夢が持てる。
インタビューや文献に触れながら、教職の在り方を問うことができる。

学習の到達目標　教職という仕事の性格・特徴を理解し、また日本、三重県の教師がどのような状況の下で日々「教える」という営みを行っているかを知り、また実際の教師の生き方にもふれながら、自分自身にとって教職の持っている意味を問い直すことができることを期待したい。

教科書
グループ・ディダクティカ『教師になること、教師であり続けること』勁草書房 2011

成績評価方法と基準
平常点（平常レポート）・・・30%
レポート・・・30%
テスト・・・・40%

オフィスアワー　木曜日 2コマ目

学習内容
1 ガイダンス
2 教師という仕事
3 教職の専門性
4 教師の仕事の現状と困難性
5 教職の置かれてきた歴史
6 教えることと育てること 1 大村はまにまなぶ
7 教えることと育てること 2 23分間の奇跡に学ぶ
8 初任者研修、10年研修
9 教師の力量形成と研修
10 中間まとめ
11 教師をとりまく環境の変化と抱える問題
12 三重県の教育改革1
13 三重県の教育改革2
14 人権教育の問題
15 教師研究の最前線
16 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職入門	64-67	教職入門	2	後期　金 3, 4	織田 泰幸（教育学部）

授業の概要　わが国において特色ある教育実践を行っている人物に着目しながら，様々な取り組みの意義と課題について検討していく。

学習の目的　この授業の目的は、①教職に関する基礎的・基本的な知識を習得すること，②それらを活用して現代の教職の特徴や課題について思考できるようになること，である。

学習の到達目標　教職に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、これまでの自分の教師観を問い直すこと。専門用語を使いながら自分なりに思考できるようになること。

受講要件　将来教師を目指す学生

成績評価方法と基準　期末テスト60%、出席40%

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
1 イントロダクション（本講義のルールと受講状の注意点）
2 戦後教育言説の展開（学校の語源）
3 学校の教育力を探る（教育問題の変遷）
4 教職の性格を理解する（教職の独自性・特殊性）
5 授業から学ぶ教師（総合的な学習の時間）
6 カリキュラムをデザインする（研究者としての教師）
7 教師の専門的力量とは何か（教育的瞬間）
8 教師のスキルとしての傾聴・共感・受容（構成的グループエンカウンター）
9 学級の「荒れ」に対処する（割れ窓理論）
10 新任期の教師①（リアリティショック）
11 新任期の教師②（同僚性・協働性）
12 教師にとって大切な心構え（勉強するのは何のため？）
13 児童中心主義的な教育言説の再検討（子どもはみんな天才？）
14 「教えること」と「待つこと」の間（最も重要な教師の資質とは？）
15 公教育の未来を模索する（新しい学校づくりのイメージ）
16 まとめ（「教える専門職」から「学ぶ専門職」へ）

その他　1年生および2年生の学生は，受講制限に注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職入門	67	教職入門	2	後期　火 7, 8	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　教職の意義および教員の役割を考え教員の職務内容を知ることによって、学校現場に関わる講師の談話を交えながら、教職に対する意識を高める。

学習の目的　自身の職業の選択肢としての教職への姿勢を問い直す。

学習の到達目標　自身の職業の選択肢としての教職への姿勢を明確にする。

受講要件　教職への関心。

予め履修が望ましい科目　省察科目「教職入門」は体験科目「教育実地研究基礎」に対応しています。

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、レポート80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①教職の今日的位置づけ I 「教職入門」開講の目的
②教職の今日的位置づけ II 免許法とは
③教職の沿革 I 教員養成制度の変化
④教職の沿革 II 教師像の変化
⑤教育の現場から I 「三重県の教育改革」
⑥教育という仕事 I 学校の仕事
⑦教育という仕事 II 社会の要求
⑧教育の現場から II 「子ども理解にもとづく授業づくり」
⑨教育の現場からIII 「子ども理解にもとづく生徒指導」
⑩教育が職業であるために I 教員に求められる資質
⑪教育が職業であるために II 資質向上のための研修
⑫教員の現場からIV 「初任者・10年経験者研修」
⑬教員が職業であるためにIII 新しい動き
⑭教育の現場から V 「危機管理・信頼獲得の学校経営」
⑮まとめ
⑯レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育学・教育史	66, 65, 64	教育学	2	前期　火 5, 6	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　人間にとって固有の営みである教育とは何か、学ぶとは何か、子どもの発達とは何か、教育の本質を複眼的に探る。

学習の目的　教育の役割を問い直す。

学習の到達目標　教育の役割を自ら思考できるようになる。

受講要件　教育への関心。

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、期末試験80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①はじめに
②教育とは何か I 教育の生起
③教育とは何か II 教育の変容
④教育学とは何か I 教育学の誕生
⑤教育学とは何か II 教育学の発展
⑥教育学とは何かIII 教育学の普及
⑦教育学とは何かIV 教育学と今日の教育
⑧教育と人間 I ヒトを人間へと形成するために
⑨教育と人間 II 世代という縦の糸を紡ぐ
⑩教育と人間III 社会という横の糸を紡ぐ：問題意識
⑪教育と人間IV 社会という横の糸を紡ぐ：現状と課題
⑫教育と人間 V 自己を向上させる：問題意識
⑬教育と人間VI 自己を向上させる：現状と課題
⑭教育と人間VII 生きることの意義を追求する：問題意識
⑮教育と人間VIII 生きることの意義を追及する：現状と課題
⑯試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育学・教育史	67, 66, 65, 64	教育学	2	後期　火 5, 6	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　人間にとって固有の営みである教育とは何か、学ぶとは何か、子どもの発達とは何か、教育の本質を複眼的に探る。

学習の目的　教育の役割を問い直す。

学習の到達目標　教育の役割を自ら思考できるようになる。

受講要件　教育への関心。

教科書　適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、期末試験80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①はじめに
②教育とは何か I 教育の生起
③教育とは何か II 教育の変容
④教育学とは何か I 教育学の誕生
⑤教育学とは何か II 教育学の発展
⑥教育学とは何かIII 教育学の普及
⑦教育学とは何かIV 教育学と今日の教育
⑧教育と人間 I ヒトを人間へと形成するために
⑨教育と人間 II 世代という縦の糸を紡ぐ
⑩教育と人間III 社会という横の糸を紡ぐ：問題意識
⑪教育と人間IV 社会という横の糸を紡ぐ：現状と課題
⑫教育と人間 V 自己を向上させる：問題意識
⑬教育と人間VI 自己を向上させる：現状と課題
⑭教育と人間VII 生きることの意義を追求する：問題意識
⑮教育と人間VIII 生きることの意義を追及する：現状と課題
⑯試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
教育学・教育史	67, 66, 65, 64	教育原理	2	後期　木 1, 2	寶來敬章（教育学部非常勤講師）

授業の概要　本授業では、教育の原理・原則について学習します。そのために、教育の歴史や制度、思想などの視点から教育や学校が各時代においてどのように位置づけられてきたのかを検討します。そして諸外国の教育についても概観することを通して、現代の日本における教育にはどのような特徴や課題があるのか、現代の教育者に求められる資質能力とは何かなどについて示したいと思います。

学習の目的　時代や歴史的変遷、時間的連続性を踏まえながら学習を進めることで、現代社会が教育にどのような「まなざし」を向けているのか理解を深める。

学習の到達目標　教育の原理や理念、思想の他にこれまでの教育改革について学ぶことで、教育とは社会的な営みであることや現代教育者に求められる資質能力等について考えることができる。

受講要件　特に指定しません。

教科書　特に指定しません。授業時に資料を配布します。

成績評価方法と基準　小テスト40%、期末試験60%、計100%（合計60%以上で合格）。

オフィスアワー
教育学部学校教育講座の伊藤敏子が対応します。
毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室。

学習内容
第1回：イントロダクション（教育の「原理」とは、その目的と本質）
第2回：教育の歴史的変遷①（古代〜中世）
第3回：教育の歴史的変遷②（中世〜近代）
第4回：教育の歴史的変遷③（近代〜現代）
第5回：教育基本法と学校教育法（学校という「場」、教師という「人」とは）
第6回：教育課程とカリキュラム（学校は「何を」伝えるのか）
第7回：隠れたカリキュラムとジェンダー（子どもは「何を」学ぶのか）
第8回：学校選択と学校間競争（教育の多様化とは何か）
第9回：消費される教育（誰が教育サービスを「購入」するのか）
第10回：諸外国の教育①（欧米の教育改革）
第11回：諸外国の教育②（教育・学力格差の構造）
第12回：変動する社会での子ども（子どもを取り巻く「環境」とは何か）
第13回：問われる学力（数値化される・されない力とは何か）
第14回：教師という仕事①（これまでの教師）
第15回：教師という仕事②（これからの教師）
定期試験

その他　特にありません。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
教育学・教育史	66, 65, 64	教育原理	2	前期　木 1, 2	寶來敬章（教育学部非常勤講師）

授業の概要　本授業では、教育の原理・原則について学習します。そのために、教育の歴史や制度、思想などの視点から教育や学校が各時代においてどのように位置づけられてきたのかを検討します。そして諸外国の教育についても概観することを通して、現代の日本における教育にはどのような特徴や課題があるのか、現代の教育者に求められる資質能力とは何かなどについて示したいと思います。

学習の目的　時代や歴史的変遷、時間的連続性を踏まえながら学習を進めることで、現代社会が教育にどのような「まなざし」を向けているのか理解を深める。

学習の到達目標　教育の原理や理念、思想の他にこれまでの教育改革について学ぶことで、教育とは社会的な営みであることや現代教育者に求められる資質能力等について考えることができる。

受講要件　特に指定しません。

教科書　特に指定しません。授業時に資料を配布します。

成績評価方法と基準　小テスト40%、期末試験60%、計100%（合計60%以上で合格）。

オフィスアワー
教育学部学校教育講座の伊藤敏子が対応します。
毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室。

学習内容
第1回：イントロダクション（教育の「原理」とは、その目的と本質）
第2回：教育の歴史的変遷①（古代〜中世）
第3回：教育の歴史的変遷②（中世〜近代）
第4回：教育の歴史的変遷③（近代〜現代）
第5回：教育基本法と学校教育法（学校という「場」、教師という「人」とは）
第6回：教育課程とカリキュラム（学校は「何を」伝えるのか）
第7回：隠れたカリキュラムとジェンダー（子どもは「何を」学ぶのか）
第8回：学校選択と学校間競争（教育の多様化とは何か）
第9回：消費される教育（誰が教育サービスを「購入」するのか）
第10回：諸外国の教育①（欧米の教育改革）
第11回：諸外国の教育②（教育・学力格差の構造）
第12回：変動する社会での子ども（子どもを取り巻く「環境」とは何か）
第13回：問われる学力（数値化される・されない力とは何か）
第14回：教師という仕事①（これまでの教師）
第15回：教師という仕事②（これからの教師）
定期試験

その他　特にありません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
発達と学習		教育心理学	2	前期　水 1, 2	中西良文（教育学部学校教育講座）

授業の概要
心理学は、教育に応用できる様々な知見を生み出しているとともに、教育に関わる様々な場面をその研究対象として扱っており、この授業ではそれらを紹介する。これらの内容について十分に学習しておかないと、教育場面において、真面目に教育活動を行っても、かえって学習者の学習を「阻害する」場合がある。その意味で本授業は、発達心理学とならび、教育に関わる者が知っておくべき基本的な事項を扱ったものであるといえる。
本授業では特に、教育現場で「実際に使える」ような心理学的知識を提供することを目指す。その中で幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について理解を深めていきたい。

学習の目的　「実際に使える」教育や発達に関わる心理学的知識の習得を目指す。

学習の到達目標　教育や子どもの心身の発達に関わる心理学的な知識を獲得するとともに、実際にそれをどう使えばよいかについて考えることができるようになる。

受講要件　他の受講生の学習の妨害となるような行為(私語や協同学習への不参加)を行うものには、厳格に対応する

予め履修が望ましい科目　心理学I II 共通PBLセミナー

教科書　授業内に連絡する

成績評価方法と基準　授業内で出される課題・グループ活動およびレポートにより評価する。

オフィスアワー　前期・金曜9:00〜10:30・学習心理学（中西）研究室

学習内容
第1回：学習するとは？：学習理論からみた望ましい学習
第2回：効果的に学習指導を行うにはどうすればよいか？：学習理論の応用①（記憶と学習理論）
第3回：効果的に学習指導を行うにはどうすればよいか？：学習理論の応用②（知識の重要性）
第4回：生徒のやる気を高めるにはどうすればよいか？：様々な動機づけ理論とその応用①（内発的動機づけ）
第5回：生徒のやる気を高めるにはどうすればよいか？：様々な動機づけ理論とその応用②（期待価値理論、社会的動機づけ）
第6回：どの教科でも同じ学習？：教科に応じた学習指導（数学、科学、文章作成・読解）
第7回：生徒は「勉強」だけできればよいのか？：社会的な能力を伸ばす教育
第8回：生徒と教師のよい関係：教師ー生徒関係と学習
第9回：生徒の学力や知能をとらえる試み：望ましい評価の方法と知能テスト①（信頼性・妥当性）
第10回：生徒の学力や知能をとらえる試み：望ましい評価の方法と知能テスト②（知能を測定する）
第11回：子どもは、いかに発達していくか：幼児、児童及び生徒の心身の発達
第12回：障がいを有する子どもの理解・障がいを有する子どもの発達及び学習とその支援：特別支援教育を視野に入れて①（障害について理解する）
第13回：障がいを有する子どもの理解・障がいを有する子どもの発達及び学習とその支援：特別支援教育を視野に入れて②（障がいを有する子どもの発達と学習）
第14回：障がいを有する子どもの理解・障がいを有する子どもの発達及び学習とその支援：特別支援教育を視野に入れて③（障がいを有する子どもの支援）
第15回：教育心理学的知見から望ましい授業を考える
定期試験（レポート提出）

その他　なし

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
発達と学習	〜66	教育心理学	2	前期　月 3, 4	宇田光（教育学部非常勤講師）

授業の概要　児童・生徒を教師が効果的に支援するために、知っておくべき発達・学習に関する基本事項を理解する。当日ブリーフレポート方式を用いて講義をおこなう。

学習の目的
児童・生徒の発達と学習に関して、心理学的な観点から理解し、指導に役立てることができるようになる。
他の人たちと協力しながら、主体的に問題解決に挑む態度を身につける。

学習の到達目標　児童・生徒の発達と学習に関して、心理学的な観点から理解し、指導に役立てることができるようになる。

教科書　鈴木真男ほか 2009 発達と学習の過程 福村出版

成績評価方法と基準　当日レポート集 100%

オフィスアワー　教育学部の中西良文先生を通じて、連絡してください。

学習内容
1 教育心理学とは
2 研究方法(1) 観察法・実験法
3 研究方法(2) 調査法・面接法
4-5 発達の過程(1) 遺伝と環境、臨界期
6-7 発達の過程(2) 愛着、認知発達、青年の心理
8-9 学習と記憶
10 認知過程
11 知能 とIQ テスト
＜当日ブリーフレポート集の提出＞
12-13 発達障害
14-15 いじめ、体罰、授業のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
発達と学習	～67	教育心理学	2	後期　火 1, 2	安藤直樹（教育学部 非常勤講師）

授業の概要　この授業では、教育と発達のかかわりに関する基本的な考え方や、教育における心理学的な側面について学びます。授業では、教育における心理学的な側面として、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習指導、学習環境、測定と評価を取り上げます。

学習の目的　教師として子どもとかかわる際に役立てられるように、教育における心理学的な側面についての基礎的な知識を習得する。

学習の到達目標
●教育と発達のかかわりに関する基本的な考え方について述べることができる。
●教育における心理学的な側面について具体的に述べることができる。

教科書　教科書は使用しません。必要な資料を適宜配布します。

成績評価方法と基準
出席状況を40%、期末試験の得点を60%、計100%として評価します。60%以上が合格です。
授業では毎回出席を確認します。特別な理由なく、出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は評価の対象外となりますので、注意してください。

学習内容
以下の予定で進めていきますが、進行状況によって変更することもあります。
1．オリエンテーション（シラバスの内容確認）、教育と発達のかかわり
2．知識の獲得過程（熟達化）
3．知識の獲得過程（状況的学習論）
4．知識の獲得過程（学習の転移）
5．知識の獲得過程（教科の学習＜国語＞）
6．知識の獲得過程（教科の学習＜算数＞）
7．知識の獲得過程（教科の学習＜理科＞）
8．学習の動機づけ（外発的動機づけと内発的動機づけ）
9．学習の動機づけ（原因帰属、学習された無力感、自己効力感、学習目標）
10．学習指導（発見学習、有意味受容学習）
11．学習指導（プログラム学習、完全習得学習）
12．学習環境（授業形態）
13．学習環境（オープン・エデュケーション）
14．測定と評価（学習・教育の成果を調べる）
15．測定と評価（学習・教育の成果を評価する）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
発達と学習	～66	発達心理学	2	前期　火 5, 6	南 学（教育学部学校教育講座）

授業の概要　人間の発達について、とくに心理学的な観点から学びます。近年発達心理学は子どもだけでなく、中高年までその対象をひろげつつあります。この授業では子どもの発達だけでなく、発達障害、青年期、老年期の知的能力の変化まで論じていきます。

学習の到達目標　人間の発達過程の全体像に関する基礎知識

予め履修が望ましい科目　心理学（共通教育）

成績評価方法と基準　出席状況，小レポート等，定期試験を総合的に評価する

学習内容
第1回 発達心理学とは
第2回 遺伝か環境か
第3回 遺伝と環境をめぐる問題
第4回 人との関わりの中での発達
第5回 発達段階
第6回 物理法則の理解と心の理論
第7回 言語獲得
第8回 社会性の発達
第9回 発達障害
第10回 青年期
第11回 仕事に対する意識
第12回 現代青年の幸福感
第13回 成人期
第14回 老年期(1)
第15回 老年期(2)

その他
この授業に関するWEBページ
http://www.minamis.net/kougi.html

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
発達と学習	～66	発達心理学	2	前期　火 7, 8	杉本英晴(教育学部，非常勤講師)

授業の概要　人間の発達の様相を理解することを目指す。各回の講義で領域ごとのテーマを取り上げながら，年齢に応じた発達的特徴について解説していく。

学習の目的　人間は常に発達・変化をし続ける存在であり，年齢や発達段階に応じて多様な特徴を見せる。各回の講義では領域ごとに解説していく。受講生には15回の講義を通じて発達段階ごとの特徴の理解を求める。人間の発達という身近でありながら複雑な現象が，発達心理学の領域でどのように捉えられてきたのかを知り，発達心理学の基礎を理解することが目標である。

学習の到達目標　発達心理学の領域に関する理論について知識を得ることができ、子どもの年齢に応じて、どのような現象があてはまるのか、どのような理論があるのかという視点から客観的に行動などを捉える事が可能になる。

教科書　シードブック発達心理学―保育・教育に活かす子どもの理解― 本郷一夫（編著） 建帛社 （ISBN 9784767932101）

成績評価方法と基準
毎回のレポート提出を始めとした，授業への参加・貢献30%，定期試験70%（合計60%以上で合格）。
公欠・病欠・忌引など以外の理由のない欠席が5回以上になった時点で不可とする。

オフィスアワー　対応窓口は，松浦 均教員（学校教育講座）

学習内容
第1回 イントロダクション：人間の発達とは
第2回 第Ⅰ部（人間発達論概論）：身体と運動の発達
第3回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：認知の発達
第4回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：言語の発達
第5回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：知能と思考の発達
第6回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：情動の発達
第7回 第Ⅱ部（認知・言語の発達）：気質の発達
第8回 第Ⅲ部（発達障害）：発達の遅れと障害
第9回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：遊び
第10回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：親子関係の発達①
第11回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：親子関係の発達②
第12回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：仲間・きょうだい関係の発達
第13回 第Ⅳ部（社会・情動の発達）：道徳性の発達
第14回 第Ⅴ部（社会・情動の発達）：自己の発達
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
発達と学習	～67	発達心理学	2	後期　火 3, 4	安藤直樹（教育学部 非常勤講師）

授業の概要　この授業では、発達に関する基本的な考え方や、子どもの具体的な発達の様子について学びます。授業では、具体的な発達の様子として、身体の発達、運動機能の発達、感覚・知覚の発達、認知機能の発達、社会性の発達（母子関係、仲間関係）を取り上げます。

学習の目的　子どもとかかわる際に役立てられるように、発達に関する基礎的な知識を習得する。

学習の到達目標
●発達に関する基本的な考え方について述べることができる。
●子どもの具体的な発達の様子について述べることができる。

教科書　教科書は使用しません。必要な資料を適宜配布します。

成績評価方法と基準
出席状況を40%、期末試験の得点を60%、計100%として評価します。60%以上が合格です。
授業では毎回出席を確認します。特別な理由なく、出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は評価の対象外となりますので、注意してください。

学習内容
以下の予定で進めていきますが、進行状況によって変更することもあります。
1．オリエンテーション（シラバスの内容確認）、発達とは
2．身体の発達（胎生期の身体発達）
3．身体の発達（出生後の身体発達）
4．運動機能の発達（胎生期の身体運動、原始反射）
5．運動機能の発達（粗大運動、微細運動の発達）
6．感覚・知覚の発達（赤ちゃんの感覚・知覚）
7．認知機能の発達（感覚運動期）
8．認知機能の発達（前操作期）
9．認知機能の発達（具体的操作期、形式的操作期）
10．母子関係の発達（愛着とは）
11．母子関係の発達（愛着行動の発達）
12．母子関係の発達（愛着行動の質）
13．仲間関係の発達（乳児同士の相互作用）
14．仲間関係の発達（幼児期の遊びといざこざ）
15．仲間関係の発達（児童期以降の友人関係）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
発達と学習	～67	児童臨床心理学	2	後期　月3, 4	渡邉賢二（非常勤講師）

授業の概要
精神疾患、カウンセリング、心理検査について学習する。
不登校やいじめの現状と支援について学習する。

学習の目的　発達段階における精神疾患を理解すること、様々なカウンセリングの技法や心理検査について習得すること、教育現場での不登校やいじめの問題と支援方法について習得することを目的とする。

学習の到達目標
・乳児期から青年期の精神疾患について理解を深める。
・様々な問題や悩みを抱える子どもに対して、どのような心理検査をし、どのようなカウンセリング技法を用いるのかについて理解を深める。
・教育現場で問題となっている不登校やいじめについての現状や支援方法について理解を深める。

受講要件　教育現場の心理学に興味関心がある人

教科書　「教育相談・学校精神保健の基礎知識」 大芦治 ナカニシヤ出版

成績評価方法と基準　授業中に実施する小レポート50%、試験50%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　毎週月曜日3、4限後、（連絡の窓口）瀬戸美奈子先生

学習内容
1回目：児童臨床心理学とは？
2回目：心理学における臨床心理学の位置づけ
3回目：精神・行動の障害①：精神・行動の障害の分類
4回目：精神・行動の障害②：精神病、神経症
5回目：精神・行動の障害③：発達途上に起こる精神・行動の障害
6回目：不登校の現状と支援について
7回目：いじめの現状と支援について
8回目：心理検査①：心理アセスメントの分類
9回目：心理検査②：知能検査、作業検査
10回目：心理検査③：性格検査（質問紙法）
11回目：心理検査④：性格検査（投影法）
12回目：心理療法①：カウンセリングと心理療法、クライエント中心療法
13回目：心理療法②：行動療法、精神分析療法
14回目：心理療法③：遊戯療法、箱庭療法、芸術療法
15回目：まとめと全体の振り返り

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育社会・制度・経営学	66～63	教育社会学	2	前期　水5, 6	蓮尾直美

授業の概要
＜授業の概要＞
生物学的存在として誕生した個人が、そのライフステージにおける家族、仲間、および学校などの所属集団や本人の判断や選択の基準となる準拠集団によって具体的に形成され、やがて「一人前」の社会的存在となっていく社会化の過程について社会学の立場から講述する。 また、今日生起する社会的かつ教育の諸課題を取り上げ討論の場を設ける。教育や人間形成の概念を、あるべき理想論からではなく、教師や保護者役割の立場からありのままの事実を認識しようとする社会学の視点や枠組みを手がかりに考察を加える。

学習の目的
＜学習の目的＞
人間形成の過程で、個人が一人前の社会人・職業人となるために知的・身体的・道徳的諸状態を身につける「社会化」された存在となる。そこに「自立」した個性ある存在となりうる社会的事実を見いだすことが出来る。このように事物を社会学的な立場から考察を加えることの意味や教師役割にとっての有効性について理解を深める。
ニックネームやユーモア、若者文化、また家族や学校における「社会化」の担い手としての保護者や教師役割について具体的事例を手がかりに講究する。

教科書　学級の社会学（蓮尾・安藤共編著、ナカニシヤ出版）

成績評価方法と基準
出席・講義への積極的な構え・小レポート40%、論述試験60%、計100%
指定する研究会、授業見学への参加者には加点する。

オフィスアワー
毎週水曜日14:40～16:10
場所 教育学部専門校舎1号館（適切な部屋）

学習内容
1回 講義の概略・方針・進め方について説明する。
2回 教育とは何か。人間形成における意図的作用と無意図的作用
3回 教育における外在的・内在的作用
4～5回 言葉による社会化と文化の概念
6～8回 家族における社会化：家族における親子関係の意味
9回 児童虐待等を含む今日的教育課題について事例報告と集団討論
10～12回 仲間集団と社会化：青年期の準拠人物とアイデンティティの形成
13回 学校における社会化：ゲストティーチャーによる講話、集団討論
14回 学級における社会化：同上
15回 講義のまとめ
16回 筆記試験

その他　受講を通して、自己形成への手がかりを得ようとする、意欲ある受講生を歓迎する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育社会・制度・経営学	64-67	教育行政学	2	後期　金 7, 8	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　教育行政学に関する基礎的・基本的な考え方（原理・原則）を幅広く紹介し，今後の教育行政をめぐる様々な課題と展望について考察する。

学習の目的　この授業の目的は、①教育行政に関する基礎的・基本的な知識を習得すること，②それらを活用して我が国の教育行政の様々な特徴や課題について思考できるようになること，である。

学習の到達目標　学校行政学に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、これまでの自分が享受してきた教育制度に関する考え方を問い直すことができること。

受講要件　教育行政学に関心をもつ学生

予め履修が望ましい科目　特になし。

成績評価方法と基準　期末テスト60%、出席40%

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
01回 オリエンテーション（授業の対象と受講状の注意点）
02回 現代教育の諸問題（学校問題の変遷）
03回 現代の公教育制度（日本国憲法）
04回 教育法規（教育基本法、義務教育）
05回 文部科学省／教育委員会（公選制と任命制、素人支配と専門的指導性）
06回 教員の養成と採用（開放性、競争と選考、教員免許状）
07回 教職員の職種（学校教育法、校長、教頭・副校長、主幹・主任、指導教諭、教諭他）
08回 学校評価（学校評価ガイドライン、自己評価、関係者評価、第三者評価）
09回 教職員の職務・服務（職務上・身分上の義務、懲戒、分限）
10回 児童・生徒の管理（体罰）
11回 教員研修制度（研修の体系化）
12回 教育財政（義務教育費国庫負担金）
13回 特別支援教育（言語障害、自閉症、情緒障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）、アスペルガー症候群）
14回 現代の教育行政改革の動向と課題1（学校選択制）
15回 現代の教育行政改革の動向と課題2（教職大学院）
16回 試験（教員採用試験）

その他　特に1年生は受講制限に注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育社会・制度・経営学	64-66	学校経営学	2	前期　木 3, 4	織田 泰幸（教育学部）

授業の概要　学校経営学の理論（組織論やリーダーシップ論）に関する基礎的・基本的な考え方を幅広く紹介し，今後の学校経営をめぐる様々な課題と展望について考察する。

学習の目的　この授業の目的は、①学校経営の理論に関する幅広い知識を獲得すること，②それらを活用して我が国の学校経営の様々な特徴や課題について思考できるようになること，である。

学習の到達目標　学校経営学に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、これまでの自分の学校観を問い直すこと。

受講要件　学校経営学に関心をもつ学生

予め履修が望ましい科目　特になし。

成績評価方法と基準　期末テスト60%、出席40%

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.「経営」とは何か？（科学的管理法）
3.学校の組織論（学校組織の特殊性）
4.学校経営のビジョン（学校の組織マネジメント）
5.教員評価（360度評価）
6.学校評価（自己評価・関係者評価・第三者評価）
7.教職員の力量形成（授業研究）
8.教育課程経営（カリキュラム）
9.学校組織開発（組織の変革と改善）
10.校長のリーダーシップ1（変革型リーダーシップ）
11.校長のリーダーシップ2（サーバントリーダーシップ）
12.学校の組織文化論（シンボル）
13.学校の危機管理（予防と対応）
14.学校と保護者との関係づくり（無理難題要求）
15.学校と地域の連携・協働（社会関係資本）
16.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育課程の意義及び編成	64-66	教育課程論Ⅰ	2	前期　金 5, 6	佐藤 年明

授業の概要
教師をめざす学生諸君が、「教育課程」を遠いもの、動かしがたいものではなく、変えていけるもの、自ら関わっていけるものととらえてくれるような実りある学習をめざしたい。そのために＜教育課程＝学習指導要領＞という固定観念を打破したい。
日本においては「学習指導要領は法的拘束力を持つ」というのが「公式見解」とされ、学校現場で日々子どもと接する当事者である教師にとって、「教育課程」は 遠いもの、動かしがたいものととらえられがちである。しかし本来そうであってはならない。教育課程とは「学校における子どもの活動とそれに対する教師の指導の全体計画」である。その立案・実践・評価にもっとも大きな責任を負うのは現場教師でなければならない。

学習の目的　「教育課程編成全体にわたる視野をもつこと」（1998教育課程審議会答申）という提起に応え、教育課程編成をわがこととして引き受け取り組む小学校教師となりゆくための基礎的力量を形成する。

学習の到達目標
自らの「教育課程観」を構築していくための基礎的となる情報収集や判断力形成の訓練をすること。
講義の冒頭で提起する新時代の小学校教師の資質としての「教育課程編成全体にわたる視野」とは何かについて、この講義の学習過程を通じて自分なりのビジョンを描けるようになること。

受講要件
教室の収容能力や学習効果を考慮して80名程度を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、佐藤研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、前期金曜9・10限にも「教育課程論Ⅰ」を開講するので、ある学生が5・6限で受講制限を受け、9・10限に移ることを希望していて、かつ9・10限の受講者数に余裕があれば受け入れる。
その場合は、第1回講義以前にメールで受け付け、先着順とする。
また、佐藤以外にも李美錦講師が前期金曜7・8限に「教育課程論Ⅰ」を開講する。

教科書　教育課程に関わる基礎知識や必須情報は、moodle上に掲載する。

成績評価方法と基準
日常点（授業後に毎回moodleで提出する「課題レポート」のポイント、他者の「課題レポート」へのコメントのポイント、授業中の自発的発言のポイント）及び期末の「最終レポート」のポイントの総計によって評価する。
「課 題レポート」1回につき5ポイント（但し締切に遅れた場合3ポイント又は0ポイント）、moodle上での他者の「課題レポート」へのコメント1回につき 2ポイント、授業中における自発発言2ポイント、「最終レポート」を満点で20ポイントとし、ポイント総計を10点法での評点に換算する。
詳細な成績評価基準は、初回授業において提示する。

オフィスアワー　木曜2・3・4コマ 教育学部1号館2階佐藤年明研究室にて

学習内容
第1回：1．教育課程の定義
2．教育課程編成と教師の役割
第2・3回：3．小学校学習指導要領の原点をさぐる（1947年版・1951年版）
第4回：4．1950－1970年代の学習指導要領の変遷と最大の問題点＝「法的拘束力」の付与
第5回：5．New Zealandの教育課程の特徴から考える
第6回：6．「ゆとり教育」は存在しなかった～1970－2000年代教育課程の変遷史から
第7回：7．「生きる力」は教育目標たり得ない～1996年・2008年中央教育審議会答申批判～
第8回：8．「総合的な学習の時間」について考える
(1)総合的な学習とは何か？
(2)自らの「総合的な学習の時間」体験を振り返る
第9回：（同）(3)すぐれた総合学習実践に学ぶ（長野県伊那市立伊那小学校など）
第10回：9．教育課程編成のシミュレーション(1)あらためて東日本大震災を知る
第11～13回：（同）(2)東日本大震災の学習を小学校教育課程にどう位置づけるか（各班の教育課程プランの作成）
第14回：（同）(3)各班プランの発表会
第15回：10.本講義の学習の全体総括
※試験は行なわず、日常点と最終レポートで評価する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育課程論の意義及び編成	64-66	教育課程論Ⅰ	2	前期　金 7, 8	李 美錦（非常勤講師）

授業の概要
教育課程の定義，意義及び編成原理について学ぶとともに，教育課程の歴史的変遷について紹介する．
また，学習指導要領の改訂にともなう小学校教育課程の変化について考察する．

学習の目的
教育課程の定義，意義，果たす役割など教育課程に関わる基本的な概念や原理について理解する．
また，教育課程の編成に関する理解を基に，授業づくりの演習を経て，実践力を身につける．

学習の到達目標
以下に示す内容が理解できる．
1．教育課程及びその編成に関する基本的な理論と方法
2．教育課程の歴史的変遷及び評価
3．学習者のニーズに合った授業の立案及び実施

受講要件
教室の収容能力や学習効果を考慮して80名程度を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、この授業の窓口担当の学校教育講座佐藤年明教授が、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、佐藤研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、この授業以外にも佐藤年明教授が前期金曜5・6限及び9・10限に「教育課程論Ⅰ」を開講する。

教科書　テキストは使用しない．必要に応じてプリントを配付する．

成績評価方法と基準
・出席50%，
・課題遂行30%
・授業中に指定する小レポート20%

オフィスアワー　毎週金曜日午前11時以降（4コマ授業時間は除く）、18時まで、非常勤講師控室（教育学部1F）

学習内容
1．教育課程の定義及び意義
2．教育課程の歴史
日本における教育課程の歩み
学習指導要領及び学力観の変遷
3．教育課程の思想と構造
教育課程の編成
教育課程の類型
教育課程の構造
4．学習指導要領からみる教育課程の変遷①学習指導要領の前史
5．学習指導要領からみる教育課程の変遷②戦後の学習指導要領
（経験主義・児童中心主義時代）
（系統主義カリキュラム）
6．学習指導要領からみる教育課程の変遷③ゆとり教育
7．小学校学習指導要領の特徴と構成
8．小学校学習指導要領に基づいた教科書研究
9．カリキュラム開発①
授業の構成要素，教育目標，教材開発
10．カリキュラム開発②
今日的な課題への挑戦（いのち，生きる力）
11．カリキュラム開発③
授業案づくり
12．カリキュラム開発④
授業案発表
13．カリキュラム開発⑤
学校間の連携及び接続
14．諸外国の教育課程
15．教育課程の評価及び今後の課題

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育課程の意義及び編成	64-66	教育課程論Ⅰ	2	前期　金 9, 10	佐藤 年明

授業の概要
教師をめざす学生諸君が、「教育課程」を遠いもの、動かしがたいものではなく、変えていけるもの、自ら関わっていけるものととらえてくれるような実りある学習をめざしたい。そのために＜教育課程＝学習指導要領＞という固定観念を打破したい。
日本においては「学習指導要領は法的拘束力を持つ」というのが「公式見解」とされ、学校現場で日々子どもと接する当事者である教師にとって、「教育課程」は遠いもの、動かしがたいものととらえられがちである。しかし本来そうであってはならない。教育課程とは「学校における子どもの活動とそれに対する教師の指導の全体計画」である。その立案・実践・評価にもっとも大きな責任を負うのは現場教師でなければならない。

学習の目的　「教育課程編成全体にわたる視野をもつこと」（1998教育課程審議会答申）という提起に応え、教育課程編成をわがこととして引き受け取り組む小学校教師となりゆくための基礎的力量を形成する。

学習の到達目標
自らの「教育課程観」を構築していくための基礎的となる情報収集や判断力形成の訓練をすること。
講義の冒頭で提起する新時代の小学校教師の資質としての「教育課程編成全体にわたる視野」とは何かについて、この講義の学習過程を通じて自分なりのビジョンを描けるようになること。

受講要件
教室の収容能力や学習効果を考慮して80名程度を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、佐藤研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、前期金曜5・6限にも「教育課程論Ⅰ」を開講するので、ある学生が9・10限で受講制限を受け、5・6限に移ることを希望していて、かつ5・6限の受講者数に余裕があれば受け入れる。
その場合は、第1回講義以前にメールで受け付け、先着順とする。
また、佐藤以外にも李美錦講師が前期金曜7・8限に「教育課程論Ⅰ」を開講する。
受講制限を受け、他のコマへの移動もできずに今期の「教育課程論Ⅰ」を受講できなかった学生のデータは保存しておき、来年度前期の「教育課程論Ⅰ」にその学生が受講申請をした場合は必ず受け入れる。つまり、「教育課程論Ⅰ」で2度以上受講制限対象となることはない。

教科書　教育課程に関わる基礎知識や必須情報は、moodle上に掲載する。

成績評価方法と基準
日常点（授業後に毎回moodleで提出する「課題レポート」のポイント、他者の「課題レポート」へのコメントのポイント、授業中の自発的発言のポイント）及び期末の「最終レポート」のポイントの総計によって評価する。
「課題レポート」1回につき5ポイント（但し締切に遅れた場合3ポイント又は0ポイント）、moodle上での他者の「課題レポート」へのコメント1回につき2ポイント、授業中における自発発言2ポイント、「最終レポート」を満点で20ポイントとし、ポイント総計を10点法での評点に換算する。
詳細な成績評価基準は、初回授業において提示する。

オフィスアワー　木曜2・3・4コマ 教育学部1号館2階佐藤年明研究室にて

学習内容
第1回：1．教育課程の定義
2．教育課程編成と教師の役割
第2・3回：3．小学校学習指導要領の原点をさぐる（1947年版・1951年版）
第4回：4．1950－1970年代の学習指導要領の変遷と最大の問題点＝「法的拘束力」の付与
第5回：5．New Zealandの教育課程の特徴から考える
第6回：6．「ゆとり教育」は存在しなかった〜1970－2000年代教育課程の変遷史から
第7回：7．「生きる力」は教育目標たり得ない〜1996年・2008年中央教育審議会答申批判〜
第8回：8．「総合的な学習の時間」について考える
(1)総合的な学習とは何か？
(2)自らの「総合的な学習の時間」体験を振り返る
第9回：（同）(3)すぐれた総合学習実践に学ぶ（長野県伊那市立伊那小学校など）
第10回：9．教育課程編成のシミュレーション(1)あらためて東日本大震災を知る
第11〜13回：（同）(2)東日本大震災の学習を小学校教育課程にどう位置づけるか（各班の教育課程プランの作成）
第14回：（同）(3)各班プランの発表会
第15回：10.本講義の学習の全体総括
※試験は行なわず、日常点と最終レポートで評価する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育課程の意義及び編成	64-67	教育課程論 II	2	後期　金 5, 6	佐藤 年明

授業の概要
教師をめざす学生諸君が、「教育課程」を遠いもの、動かしがたいものではなく、変えていけるもの、自ら関わっていけるものととらえてくれるような実りある学習をめざしたい。そのために＜教育課程＝学習指導要領＞という固定観念を打破したい。
日本においては「学習指導要領は法的拘束力を持つ」というのが「公式見解」とされ、学校現場で日々子どもと接する当事者である教師にとって、「教育課程」は 遠いもの、動かしがたいものととらえられがちである。しかし本来そうであってはならない。教育課程とは「学校における子どもの活動とそれに対する教師の指導の全体計画」である。その立案・実践・評価にもっとも大きな責任を負うのは現場教師でなければならない。
とりわけ中学校・高等学校は教科担任制であるため、担当教科の枠内に留まらず「教育課程編成全体にわたる視野」（1998教育課程審議会答申）を持つために、意識的な努力が必要となる。そのための基礎訓練を本講義において行なう。

学習の目的　「教育課程編成全体にわたる視野をもつこと」（1998教育課程審議会答申）という教師に対する提起に応え、教育課程編成をわがこととして引き受け取り組む中学校・高等学校教師となりゆくための基礎的力量を形成する。

学習の到達目標
自らの「教育課程観」を構築していくための基礎的となる情報収集や判断力形成の訓練をすること。
講義の冒頭で提起する新時代の中学校・高等学校教師の資質としての「教育課程編成全体にわたる視野」とは何かについて、この講義の学習過程を通じて自分なりのビジョンを描けるようになること。

受講要件
教室の収容能力や学習効果を考慮して80名程度を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生、1年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、佐藤研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、後期金曜9・10限にも「教育課程論 II」を開講するので、ある学生が5・6限で受講制限を受け、9・10限に移ることを希望していて、かつ9・10限の受講者数に余裕があれば受け入れる。
その場合は、第1回講義以前にメールで受け付け、先着順とする。
また、佐藤以外にも李美錦講師が後期木曜7・8限に「教育課程論 I」を開講する。

教科書　教育課程に関わる基礎知識や必須情報は、moodle上に掲載する。

成績評価方法と基準
日常点（授業後に毎回moodleで提出する「課題レポート」のポイント、他者の「課題レポート」へのコメントのポイント、授業中の自発的発言のポイント）及び期末の「最終レポート」のポイントの総計によって評価する。
「課題レポート」1回につき5ポイント（但し締切に遅れた場合3ポイント又は0ポイント）、moodle上での他者の「課題レポート」へのコメント1回につき 2ポイント、授業中における自発発言2ポイント、「最終レポート」を満点で20ポイントとし、ポイント総計を10点法での評点に換算する。
詳細な成績評価基準は、初回授業において提示する。

オフィスアワー　木3・4コマ 教育学部1号館2階佐藤年明研究室にて

学習内容
第1回：1．教育課程の定義
2．教育課程編成と教師の役割
第2回：3．教科担任制を前提とした中学校・高等学校教育課程の特徴
第3回：4．中学校・高等学校学習指導要領の原点をさぐる（第1期＝1947年版・第2期＝1951年版）
第4回：5．第3期（中＝1958年版、高＝1956年版）～現在（中＝第8期2008年版、高＝第9期2009年版）までの中学校・高等学校学習指導要領の変遷の概略
第5回：6．「『ゆとり教育』批判」を批判する
(1)＜「ゆとり教育」→学力低下＞論を検証する
第6回：（同）(2)生徒から見た学校生活のゆとりとは？
第7回：7．「総合的な学習の時間」について考える
(1)総合的な学習とは何かー「総合」の概念にこだわって
(2)「総合的な学習の時間」のテーマ例
第8回：（同）(3)中学校・高等学校の優れた総合的学習実践
第9回：8．東日本大震災をテーマとして中高6年間の「総合的な学習の時間」カリキュラムを考える(1)あらためて東日本大震災を知る
第10～13回：（同）(2)東日本大震災の学習を中学校高等学校6年間の「総合的な学習の時間」カリキュラムにどう位置づけるか（各班の教育課程・学習指導プランの作成）
第14回：（同）(3)各班プランの発表会
第15回：9.本講義の学習の全体総括
※試験は行なわず、日常点と最終レポートで評価する。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
教育課程の意義及び編成	63〜66	教育課程論 II	2	後期　金 9, 10	佐藤 年明

授業の概要
教師をめざす学生諸君が、「教育課程」を遠いもの、動かしがたいものではなく、変えていけるもの、自ら関わっていけるものととらえてくれるような実りある学習をめざしたい。そのために＜教育課程＝学習指導要領＞という固定観念を打破したい。
日 本においては「学習指導要領は法的拘束力を持つ」というのが「公式見解」とされ、学校現場で日々子どもと接する当事者である教師にとって、「教育課程」は 遠いもの、動かしがたいものととらえられがちである。しかし本来そうであってはならない。教育課程とは「学校における子どもの活動とそれに対する教師の指導の全体計画」である。その立案・実践・評価にもっとも大きな責任を負うのは現場教師でなければならない。
とりわけ中学校・高等学校は教科担任制であるため、担当教科の枠内に留まらず「教育課程編成全体にわたる視野」（1998教育課程審議会答申）を持つために、意識的な努力が必要となる。そのための基礎訓練を本講義において行なう。

学習の目的　「教育課程編成全体にわたる視野をもつこと」（1998教育課程審議会答申）という教師に対する提起に応え、教育課程編成をわがこととして引き受け取り組む中高教師となりゆくための基礎的力量を形成する。

学習の到達目標
自らの「教育課程観」を構築していくための基礎的となる情報収集や判断力形成の訓練をすること。
講義の冒頭で提起する新時代の中学校・高等学校教師の資質としての「教育課程編成全体にわたる視野」とは何かについて、この講義の学習過程を通じて自分なりのビジョンを描けるようになること。

受講要件
教室の収容能力や学習効果を考慮して80名程度を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生、1年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、佐藤研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、後期金曜5・6限にも「教育課程論 II」を開講するので、ある学生が9・10限で受講制限を受け、5・6限に移ることを希望していて、かつ5・6限の受講者数に余裕があれば受け入れる。
その場合は、第1回講義以前にメールで受け付け、先着順とする。
また、佐藤以外にも李美錦講師が後期木曜7・8限に「教育課程論 I」を開講する。

教科書　教育課程に関わる基礎知識や必須情報は、moodle上に掲載する。

成績評価方法と基準
日常点（授業後に毎回moodleで提出する「課題レポート」のポイント、他者の「課題レポート」へのコメントのポイント、授業中の自発的発言のポイント）及び期末の「最終レポート」のポイントの総計によって評価する。
「課 題レポート」1回につき5ポイント（但し締切に遅れた場合3ポイント又は0ポイント）、moodle上での他者の「課題レポート」へのコメント1回につき 2ポイント、授業中における自発発言2ポイント、「最終レポート」を満点で20ポイントとし、ポイント総計を10点法での評点に換算する。
詳細な成績評価基準は、初回授業において提示する。

オフィスアワー　木3・4コマ 教育学部1号館2階佐藤年明研究室にて

学習内容
第1回：1．教育課程の定義
2．教育課程編成と教師の役割
第2回：3．教科担任制を前提とした中学校・高等学校教育課程の特徴
第3回：4．中学校・高等学校学習指導要領の原点をさぐる（第1期＝1947年版・第2期＝1951年版）
第4回：5．第3期（中＝1958年版、高＝1956年版）〜現在（中＝第8期2008年版、高＝第9期2009年版）までの中学校・高等学校学習指導要領の変遷の概略
第5回：6．「『ゆとり教育』批判」を批判する
(1)＜「ゆとり教育」→学力低下＞論を検証する
第6回：（同）(2)生徒から見た学校生活のゆとりとは？
第7回：7．「総合的な学習の時間」について考える
(1)総合的な学習とは何かー「総合」の概念にこだわって
(2)「総合的な学習の時間」のテーマ例
第8回：（同）(3)中学校・高等学校の優れた総合的学習実践
第9回：8．東日本大震災をテーマとして中高6年間の「総合的な学習の時間」カリキュラムを考える(1)あらためて東日本大震災を知る
第10〜13回：（同）(2)東日本大震災の学習を中学校高等学校6年間の「総合的な学習の時間」カリキュラムにどう位置づけるか（各班の教育課程・学習指導プランの作成）
第14回：（同）(3)各班プランの発表会
第15回：9.本講義の学習の全体総括
※試験は行なわず、日常点と最終レポートで評価する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育課程論の意義及び編成	64-67	教育課程論 II	2	後期　木 3, 4	李 美錦（非常勤講師）

授業の概要
教育課程の定義，意義及び編成原理について学ぶとともに，教育課程の歴史的変遷について理解する．
学習指導要領の改訂にともなう中学校教育課程の変遷について考察する．

学習の目的
教育課程の定義，意義，果たす役割など教育課程に関わる基本的な概念や原理について理解する．
中学生の健康行動に関する実態や関連要因について理解し，教育的アプローチの具体的内容について考察する．

学習の到達目標
以下に示す内容が理解できる．
1．教育課程及びその編成に関する基本的な理論と方法
2．教育課程の歴史的変遷及び評価
3．中学生の実態とニーズに合った授業計画・実践

受講要件
教室の収容能力や学習効果を考慮して80名程度を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生、1年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、この授業の窓口担当の学校教育講座佐藤年明教授が、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、佐藤研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、この授業以外にも佐藤年明教授が後期金曜5・6限及び9・10限に「教育課程論 II」を開講する。

教科書　テキストは使用しない．必要に応じてプリントを配付する．

成績評価方法と基準
・出席50%，
・課題遂行30%
・授業中に指定する小レポート20%

オフィスアワー　毎週金曜日午前11時以降（4コマ授業時間は除く）、18時まで、非常勤講師控室（教育学部1F）

学習内容
1．教育課程の定義及び意義
2．教育課程の歴史
日本における教育課程の歩み
学習指導要領及び学力観の変遷
3．教育課程の思想と構造
教育課程の編成
教育課程の類型
教育課程の構造
4．学習指導要領からみる教育課程の変遷①学習指導要領の前史
5．学習指導要領からみる教育課程の変遷②戦後の学習指導要領（経験主義・児童中心主義時代）
（系統主義カリキュラム）
6．学習指導要領からみる教育課程の変遷③ゆとり教育
7．中学校学習指導要領の特徴と構成
8．中学校学習指導要領に基づいた教科書研究
9．カリキュラム開発①
授業の構成要素，教育目標，教材開発
10．カリキュラム開発②
いのち，生きる力（中学生における早期性行動の実態）
11．カリキュラム開発③
いのち，生きる力（ライフスキルとは）
12．カリキュラム開発④
いのち，生きる力（ライフスキル形成に焦点を当てた中学生用性教育プログラム）
13．諸外国の教育課程
14．諸外国の性教育
15．教育課程の評価

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育課程の意義及び編成	64-66	教育課程総論	2	後期　木 1, 2	須永進

授業の概要　幼児教育の意義，目的，制度，内容，方法等，幼児教育の基本的な理論について知識を得ることを目的とする。

学習の目的　幼児教育の意義や目的、制度、内容、方法など、幼児教育に関する基本的な理論や関連する知識を理解する。

学習の到達目標　幼児教育に関する基本理論や必要とされる知識が獲得され、その後の幼児教育の学習の基礎になる。

受講要件　この科目の目的を理解し、意欲的に学ぶ姿勢が重要な受講要件になる。

予め履修が望ましい科目　関連する科目には、事前に目を通しておくことが望ましい。

教科書　「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」

成績評価方法と基準　レポート70% 受講態度（積極性、意欲、参加意識、協調性、探究心など）30% 計100%

オフィスアワー　毎週月曜日14:40〜16：10 2号館3階 須永研究室

学習内容
この授業では、発達の連続性を考慮し、乳児を含めた幼児教育について進めていく予定。
授業の進め方としては、基本的な内容について講義するが、必要に応じて全体による討論やグループによる課題発表を行う。内容は以下のとおりである。
1．「教育課程総論」を学ぶ意義について
2．「教育課程総論」の学び方・取り組み方（全体による討論）
3．乳児の成長・発達の特性と教育の必要性について
4．幼児の成長・発達の特性と教育の必要性について－基礎理論
5．幼児の成長・発達の特性と幼児教育の必要性について
6．教育課程と幼児教育の関連について
7．「幼稚園教育要領」の位置づけと教育課程との関連性について
8．教育課程の視点による「幼稚園教育要領」の内容分析
9．「保育所保育指針」の位置づけと教育（保育）課程との関連性について
10．教育（保育）課程の視点による「保育所保育指針」の内容分析
11．教育課程の実際 － 事例（1）（全体の討論）
12．教育課程の実際 － 事例（2）（全体の討論）
13．望ましい教育課程について（1）（グループ発表）
14．望ましい教育課程について（2）（グループ発表）
15．全体のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育の方法・技術	67- 62-	教育技術論 I 教育技術論	2 2	後期集中	瓦林 亜希子

授業の概要　フレネ教育（現代学校運動）における教育技術の検討を通して、日本の教育の問題点と改革の方向を探る

学習の目的
自己の被教育体験を相対化する力
個性化教育を構想する力

オフィスアワー　単位認定用レポートが合格水準にあることを前提として、講義時のミニレポート 40%、単位認定用レポート 60%

学習内容
毎講義で自主的な意見発表を求める。講義の展開はその発表と関わりをもって進む。
講義者が用意しているものは以下の内容である。
・フランスの現代学校運動提唱者、C.フレネの教育論・教育技術（自由テクスト、学校間通信、興味 の複合論、学習文庫、学校協同組合など）の検討
・日本における実践の検討

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育の方法及び技術	65- 67	授業論 教育内容・方法論	2 2	前期　金 3, 4	森脇 健夫

授業の概要
授業を「つくる」基本的な技術、姿勢を身につける
授業の三要素（教師、子ども、教材）について分析的にとらえるとともに、とくに教材研究、教材づくりについて、その理論と方法、実際に行ってみる中で理解できるようにする。

学習の目的　100%の授業（すごくすばらしい授業）ではなく、60%の授業ができるように基礎・基本を身につける。そして自分のモチーフを大事にした授業が一応つくれることを目標にしたい。

学習の到達目標　授業づくりの基本的な枠組みについての知識および実践的能力

教科書　講義にて指定

成績評価方法と基準　レポート 及び 平常点

学習内容

1 子どもの学びをどうとらえるか
2「教え」と「学び」の関係
3「学び」を創造する「（教）材」
4「メッセージ」と「（教）材」
5「（教）材」の要件
6（教）材の具体性
7（教）材の意外性
8「教授行為」――説明・発問・指示
9「教授行為」――説明・発問・指示2
10 授業の構造と展開
11 臨床的な対応
12 教師の仕事、資質・力量
13 教師の力量形成
14 教師のライフヒストリーと力量形成
15 現代の教師に求められること
16 レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育の方法及び技術	65- 66	授業論 教育内容・方法論	2 2	前期　月 5, 6	前原 裕樹

授業の概要
授業を「つくる」基本的な技術、姿勢を身につける
授業の三要素（教師、子ども、教材）について分析的にとらえるとともに、とくに教材研究、教材づくりについて、その理論と方法、実際に行ってみる中で理解できるようにする。

学習の目的　100%の授業（すごくすばらしい授業）ではなく、60%の授業ができるように基礎・基本を身につける。そして自分のモチーフを大事にした授業が一応つくれることを目標にしたい。

学習の到達目標　授業づくりの基本的な枠組みについての知識および実践的能力

教科書　講義にて指定

成績評価方法と基準　レポート 及び 平常点

学習内容
1 オリエンテーション(本講義の説明、教育方法とは、子どもの頃の不思議、問いの消滅)
概要：自分の子どもの頃を振り返り、「子どもの頃の不思議」が消えていくメカニズムを教育方法論の観点から考察する。
2 子どもの学びをどうとらえるか(大人と子ども、学校の成立、学校の役割)
概要：映像資料の分析を通して、「子どもの問い」と「学校的な問い」の違いを考察する。
3 「教え」と「学び」の関係①(権威・権力、政治的空間)
概要：映像資料および文献資料の分析を通して、教室における教師の権威・権力について考察する。
4、教え」と「学び」の関係②
概要：事例の分析を通して、教育の可能性と限界について考察する。
5 授業編成の一般的原則① 小・中学校の授業実践の解釈・分析 (教育方法論 、教育の意図・目的)
概要：授業の実践の分析を通して、授業における教育の目的・意図について考察する。
6 授業編成の一般的原則② 中学・高校の授業実践の解釈・分析 (教材論、文化内容と材、「材」の要件)
概要：授業実践の分析を通して、授業における教材の要件について考察する。
7 授業編成の一般的原則③ 海外の授業実践の解釈・分析（教育方法論、）
概要：海外の授業実践の分析を通して、授業の方法について考察する。
8 授業づくり① 魅力的な材づくりの原理・原則と実践（具体性、典型性、意外性）
概要：これまでの学習を踏まえ、実際に授業プランを立てる。
9 授業づくり② 教科書と材の関係（教科書、材）
概要：教科書と材の関係について理解する。
10 授業づくり③ 魅力的な発問の原理・原則と実践（教室談話、発問）
概要：発問理論を踏まえ、実際に質の高い問いを考える。
11 子どもの学びをどうとらえるか(学び論、個体能力主義学力観、関係論的学力観)
概要：近年の学習理論をベースに、他者と学ぶことの意義について理解する。
12 教育評価の立場とその理論①(絶対評価、相対評価、目標準拠型評価)
概要：映像資料の分析を通して、評価の意義と課題につい考察する。
13 教育の評価と立場とその理論②(ルーブリック、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価)
概要：ルーブリックづくりを通して、評価方法を理解する。
14 教師の専門性(聴く、待つ、寄り添う)
概要：実践の分析を通して、教師の子どもの接し方、心構えについて考察する。
15 授業づくりの改革(ICT、反転授業)
概要：映像資料の分析を通して、現在の授業改革の現状と教師の専門性について考察する。
16 レポート 本講義の学習の全体総括 (自己省察)
概要：本講義を通して、自身の教育観や子ども観、教師観や授業観がどのように変容したのかについて省察を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育の技術と方法 I		教育の技術と方法 I 教育の技術と方法 I	2 2	前期　月 5, 6	須曽野 仁志

授業の概要　学校の教室には、コンピュータ、プロジェクタ、電子黒板、携帯用タブレット端末などが導入されてきており、紙の教科書も、近い将来、電子教科書に置き換えられるかもしれない。本授業では、これらの情報機器の活用について学び、自分自身のプレゼンテーション力やメディアリテラシーを向上させる。上記のメディアやネットを用いて、授業や教育活動をいかに工夫・改善するかを内容とする。新しい教育機器だけでなく、従来からある書画カメラや伝統的な教育支援法についても重視する。

学習の目的
・学校現場における「教育の方法と技術」について知る。
・教育における技術(Technology in Educaiton)の中で、今日的課題となっている内容や支援技法について、理解・習得する。
・授業において、様々な教育機器の使い方がわかるようになる。

学習の到達目標
・手書きで書画カメラ用シートや3sカードを作成し、わかりやすいプレゼンテーションができるようになる。
・学校現場での情報教育の現状を知り、どのようにテクノロジー（技術）を学習利用すればよいかがわかるようになる。
・個人でデジタルストーリーテリング（デジタル紙芝居）にとり組み、2分以内の作品を作る。
・構成主義（含む社会的構成主義）の考え方でコンピュータを学習利用できるようになる。

教科書　教科書は使用しない。参考図書は授業時に紹介する。

成績評価方法と基準　ミニレポート、プレゼンテーション、デジタルストーリーテリング作品制作、最終テストなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教職支援センター須曽野研究室

学習内容
1.授業導入「教育工学とはどんな分野か」
2.教育の方法「写真を大勢に見せる方法」
ビデオプロジェクタ、書画カメラ等の使い方
3.「教育における技術」の背景と特徴
4.プレゼンテーションの方法と技術
5〜6.情報教育・コンピュータ利用学習の現状と課題
7〜10.コンピュータを利用した学習の方法と支援
静止画（画像、写真、絵など）とナレーションを用いたデジタルストーリーテリング制作
11.米国学校におけるコンピュータと教育機器の利用
12.ポートフォリオ学習、学習成果の活用と評価
13〜14.授業設計と授業改善
15.授業まとめ

その他　情報処理センター第4端末室コンピュータを使用し、プレゼンテーション活動やデジタルストーリー制作を行う。情報処理センター第4端末室定員超過の場合は、上の学年優先、A，D類優先を原則とする。掲示に注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育の方法及び技術	 66〜	教育工学 I 教育工学 教育の方法と技術 I	2 2 2	前期　月 5, 6	須曽野 仁志

授業の概要　学校の教室には、コンピュータ、プロジェクタ、電子黒板、携帯用タブレット端末などが導入されてきており、紙の教科書も、近い将来、電子教科書に置き換えられるかもしれない。本授業では、これらの情報機器の活用について学び、自分自身のプレゼンテーション力やメディアリテラシーを向上させる。教育工学というと、難しい授業名に聞こえるかもしれないが、「夫」という漢字を一字入れ、教育工（夫）学とするとわかりやすい。上記のメディアやネットを用いて、授業や教育活動をいかに工夫・改善するかを内容とする。新しい教育機器だけでなく、従来からある書画カメラや伝統的な教育支援法についても重視する。

学習の目的
・学校現場における「教育の方法と技術」について知る。
・教育における技術(Technology in Educaiton)の中で、今日的課題となっている内容や支援技法について、理解・習得する。
・授業において、様々な教育機器の使い方がわかるようになる。

学習の到達目標
・手書きでOHPシートor書画カメラ用シートを作成し、わかりやすいプレゼンテーションができるようになる。
・学校現場での情報教育の現状を知り、どのようにテクノロジー（技術）を学習利用すればよいかがわかるようになる。
・個人でデジタルストーリーテリング（デジタル紙芝居）にとり組み、2分以内の作品を作る。
・構成主義（含む社会的構成主義）の考え方でコンピュータを学習利用できるようになる。

教科書　教科書は使用しない。参考図書は授業時に紹介する。

成績評価方法と基準　ミニレポート、プレゼンテーション、デジタルストーリーテリング作品制作、最終テストなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教育実践総合センター須曽野研究室

学習内容
1.授業導入「教育工学とはどんな分野か」
2.教育の方法「写真を大勢に見せる方法」
ビデオプロジェクタ、書画カメラ等の使い方
3.「教育における技術」の背景と特徴
4.プレゼンテーションの方法と技術
5〜6.情報教育・コンピュータ利用学習の現状と課題
7〜10.コンピュータを利用した学習の方法と支援
静止画（画像、写真、絵など）とナレーションを用いたデジタルストーリーテリング制作
11.米国学校におけるコンピュータと教育機器の利用
12.ポートフォリオ学習、学習成果の活用と評価
13〜14.授業設計と授業改善
15.授業まとめ

その他　情報処理センター第4端末室コンピュータを使用し、プレゼンテーション活動やデジタルストーリー制作を行う。情報処理センター第4端末室定員超過の場合は、上の学年優先、A，D類優先を原則とする。掲示に注意すること。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
教育の方法及び技術	63〜66	教育工学 II	2	後期　火 7, 8	下村 勉（教育学部学校教育講座）
	〜62	教育工学	2		
	66-67	教育の方法と技術 II	2		

授業の概要
情報社会の教育においては、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する新しい教育（情報発信型教育）に対応した教育方法・技術を習得する必要がある。
本授業では、授業設計・実施・評価・改善にかかわる知識・技術を習得して実践的な力量を形成することをねらいとする。具体的には、基礎となる学習理論、授業設計、教材開発、プレゼンテーション、教育評価の方法などである。なお、授業に際して、eラーニングシステム（Moodle）を活用し、学生がICT活用の有効性や留意点を実践的に学ぶようにする

学習の到達目標
・授業の設計・実施・評価・改善にかかわる新しい知識・技術を知ることができる。
・ICTを活用した効果的なプレゼンテーション（情報発信）ができる。意義や留意点を実感できる。
・自己評価・相互評価の意義を知り、フィードバックによる改善ができる。

教科書
教科書は使用しないが、適宜、プリント・Web資料を使用する。
参考書 (1)織田守矢、下村勉 教育情報工学シリーズ3 概念形成と評価 コロナ社、 (2)教育技術研究会：教育の方法と技術、ぎょうせい、（3）永野和男編著 これからの情報教育 高陵社書店

成績評価方法と基準　授業への参加状況20%、作品40%、レポート40%.

オフィスアワー　毎週金曜日13：00-14：30 教職支援センター（旧教育実践総合センター）教育工学研究室(下村)

学習内容
・ガイダンス；教育工学の考え方、情報発信型教育
・基礎となる学習理論（歴史・意義）
・授業設計の基礎（目標・内容の構造化）
・授業設計の基礎（指導計画の作成法）
・教材開発・教材活用の方法（情報収集法）
・教材開発・教材活用の方法（データベースの開発と活用）
・プレゼンテーションの方法と技術
・プレゼンテーション資料の作成法
・学習集団とコミュニケーション技術
・授業におけるコミュニケーション技術
・教育評価の方法と技術（形成的評価とフィードバック）
・教育評価の方法と技術（ポートフォリオ評価）
・情報教育の現状と課題
・eラーニング（ブレンディッド・ラーニング）
・まとめ
（近隣学校からの要請で、パソコン活用の支援活動を扱うことがある）

その他　パソコンによる教材作成やプレゼンテーション等の都合上、受講制限（40名）を行うことがある。 定員超過の場合はA類, D類を優先する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
教育の方法と技術	66	教育の方法と技術 II	2	後期　火 7, 8	下村 勉（教育学部学校教育講座）

授業の概要
情報社会の教育においては、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する新しい教育（情報発信型教育）に対応した教育方法・技術を習得する必要がある。
本授業では、授業設計・実施・評価・改善にかかわる知識・技術を習得して実践的な力量を形成することをねらいとする。具体的には、基礎となる学習理論、授業設計、教材開発、プレゼンテーション、教育評価の方法などである。なお、授業に際して、eラーニングシステム（Moodle）を活用し、学生がICT活用の有効性や留意点を実践的に学ぶようにする

学習の目的
教育の方法と技術の習得
ICTの活用方法の理解
プレゼンテーション能力の向上

学習の到達目標
・授業の設計・実施・評価・改善にかかわる新しい知識・技術を知ることができる。
・ICTを活用した効果的なプレゼンテーション（情報発信）ができる。意義や留意点を実感できる。
・自己評価・相互評価の意義を知り、フィードバックによる改善ができる。

教科書
教科書は使用しないが、適宜、プリント・Web資料を使用する。

成績評価方法と基準　授業への参加状況（Moodleへの投稿を含む）20%、学習成果（作品）40%、最終レポート40%.

オフィスアワー　毎週金曜日13：00-14：30 教育実践総合センター教育工学研究室(下村)

学習内容
・ガイダンス；教育工学の考え方、情報発信型教育
・基礎となる学習理論（歴史・意義）
・授業設計の基礎（目標・内容の構造化）
・授業設計の基礎（指導計画の作成法）
・教材開発・教材活用の方法（情報収集法）
・教材開発・教材活用の方法（データベースの開発と活用）
・プレゼンテーションの方法と技術
・プレゼンテーション資料の作成法
・学習集団とコミュニケーション技術
・授業におけるコミュニケーション技術
・教育評価の方法と技術（形成的評価とフィードバック）
・教育評価の方法と技術（ポートフォリオ評価）
・情報教育の現状と課題
・eラーニング（ブレンディッド・ラーニング）
・まとめ
（近隣学校からの要請で、パソコン活用の支援活動を扱うことがある）

その他　パソコンによる教材作成やプレゼンテーション等の都合上、受講制限（40名）を行うことがある。 定員超過の場合はA類, D類を優先する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育の方法及び技術	67-	学習支援論	2	後期　金 3, 4	森脇 健夫

授業の概要
学習支援とは何か？勉強をしていてわからない子どもを支援する方法・技術？それももちろん学習支援論のテーマである。しかし、もっと根本的な問題を考えなくてはならない。子どもの内面世界はどうなっているのか？子どもはどのように自分の周りの対象を認識しているのか？
そして子どもはどのように大人になっていくのか？その際に大きな役割を果たしているのが学校である。学校という装置はどのように生まれたのか？どのような役割を果たしているのか？そもそも学校は何を子どもたちに伝えないといけないのか？子どもがわからなくて悩んでいるときに、そうしたことはコトの背景にある。学習支援論では、こうした問題をまず取り扱う。
大きな視野を持ちながらしかも小さな具体的な問題を解決できるように皆さんを「支援」したい。

学習の目的　学習支援のために必要なことは対象の世界をできるだけ文脈をたどるような理解の仕方で理解することである。そのためには対象に寄り添い、内側の目で見ていくことができなければならない。また同時にこちら側の願いの強さや教育内容研究の深まりも必要とされる。この一見、相反する両方のことについて、その必要性と探究の準備ができている状態を目指す。

学習の到達目標
1 子どもの内面世界、外界認識について、そのイメージを描くことができる
2 子どもに寄り添う、ということはどういうことかその方法について思い描くことができる
3 学校という装置が成立した経緯および、学校の役割について多角的に考えることができる
4 建前と本音、スクールワイズがうまれる理由（わけ）
5 政治的空間としての教室・・・「23分間の奇跡」が起こる理由
6 学校的な学びとそうでない学びが存在し、お互いに影響を受けあっているということについて知る
7 コーチングの考え方と基礎的な技術を会得する
8 グループで交流し、ものごとを考え合っていく楽しさを知る
9 教育実践の理論、実践事例に親しむ

受講要件　1年生から4年生まで教室にいてほしいと思っています。例年受講希望が多いため、オリエンテーションにおいて、受講動機などをもとに受講者を人数制限しています。

教科書　講義で指定

成績評価方法と基準　レポート、平常点

学習内容
1 「異文化」しての子ども
2 子どもに「寄り添う」とは？
3 大人と子ども
4 子どものころのふしぎ
5 問いが消えていく！？
6 教室の「政治学」――権威と権力
7 潜在カリキュラムとスクールワイズ
8 子どもの「つまずき」と「学び」
9 学校での「学び」と学校外での「学び」
10 教師の力量の核ー「二重の応答性」について
11 「聴くこと」「つながる」こと
12 「待つこと」の意味
13 コーチングの技術、その1 聴くこと
14 コーチングの技術、その2 質問すること
15 教育と支援
16 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	66以前	国語教材研究	2	前期　月 7, 8	守田庸一（教育学部）

授業の概要　小学校の国語科について、教科書の教材や関連資料等を取り上げて具体的に考察する。

学習の目的　小学校における国語科の授業を実践することができるようになる。

学習の到達目標
1．子どもの言語能力の発達をとらえることができる。
2．小学校の国語科の教育目標を説明することができる。
3．小学校の国語教科書に載っている教材を研究することができる。
4．小学校の国語科の授業を創造することができる。

教科書　授業時に資料を配付する。

成績評価方法と基準　レポートまたは試験、提出物、出欠席の状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～13:00

学習内容
第1回 小学校国語科の目標について
第2回 小学校国語科における領域と教材のジャンルについて
第3回 子どもの言語能力の発達について
第4回 読むことの学習指導について(1)文学の教材研究と授業のあり方（低学年）
第5回 読むことの学習指導について(2)文学の教材研究と授業のあり方（中学年）
第6回 読むことの学習指導について(3)文学の教材研究と授業のあり方（高学年）
第7回 読むことの学習指導について(4)説明文の教材研究と授業のあり方（低学年）
第8回 読むことの学習指導について(5)説明文の教材研究と授業のあり方（中学年）
第9回 読むことの学習指導について(6)説明文の教材研究と授業のあり方（高学年）
第10回 書くことの学習指導について(1)低学年
第11回 書くことの学習指導について(2)中学年
第12回 書くことの学習指導について(3)高学年
第13回 話すこと・聞くことの学習指導について(1)低学年
第14回 話すこと・聞くことの学習指導について(2)中学年
第15回 話すこと・聞くことの学習指導について(3)高学年
＊授業は講義によって進めますが、可能な範囲で受講生間の意見交流の場を設けます。

その他　60名を限度として受講制限を行います。越えた場合は、初回の授業時に抽選を行います。初回を無届けで欠席した者は履修しない者とみなします。優先順位は、履修登録をすませた3年生以上、履修登録をすませた2年生、出席した未登録の学生の順とし、第2回目以降の追加受講は、いずれの学年も認めません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の教育法	66以前	国語教材研究	2	前期　木 7, 8	中垣清人（教育学部非常勤講師）

授業の概要
小学校国語科の現状と課題を知る。
・作文教育の現状と課題を知るとともに、児童の作文をとおして、「子どもたちの今」を考える。
・説明文の授業記録の検討をとおして、説明文教材分析の方法と授業構想の方法を知る。
・文学作品の授業記録の検討をとおして、文学教材分析の方法と授業構想の方法を知る。
・ひらがなの授業記録の検討をとおして、文字指導の有効な方法を考える。

学習の目的
小学校国語科の各領域について、その「ねらい」と「方法」の基礎的な知識を得る。
小学校において、国語科の授業を実践することができるようになる。

学習の到達目標
国語科に興味を持ち、教材分析の力を伸ばす。
子どもとともに授業をつくっていく力をつける。

教科書　教材文、授業の実践記録などそのつど配布する。

成績評価方法と基準　期末レポートを中心に、課題や授業のまとめ、出席の状況を加味して評価する。

オフィスアワー
講義前20分（毎週木曜日14：20〜14：40）非常勤講師控え室
連絡の窓口となる教員：守田庸一

学習内容
小学校国語科の現状と課題（学習指導要領、教科書の物語・説明文教材）
・作文教育の現状と課題、作文をとおして「子どもたちの今」を考える。（第1回〜第2回）
・説明文の教材分析、実践記録の検討(第3回〜第5回)
・文学作品の教材分析、実践記録の検討（第6回〜10回）
・ひらがなを中心とする文字指導の現状と課題、実践記録の検討（第11〜13回）
・総論・まとめ（14回〜15回）
※授業は講義によって進めますが、教材分析など可能な範囲で受講生間の意見交流の場を設けます。

その他　60名を限度として受講制限を行います。越えた場合は、初回の授業時に抽選を行います。初回を無届けで欠席した者は履修しない者とみなします。優先順位は、履修登録をすませた3年生以上、履修登録をすませた2年生、出席した未登録の学生の順とし、第2回目以降の追加受講は、いずれの学年も認めません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の教育法	66以前	国語教材研究	2	後期　木 7, 8	中垣清人（教育学部非常勤講師）

授業の概要
小学校国語科の現状と課題を知る。
・作文教育の現状と課題を知るとともに、児童の作文をとおして、「子どもたちの今」を考える。
・説明文の授業記録の検討をとおして、説明文教材分析の方法と授業構想の方法を知る。
・文学作品の授業記録の検討をとおして、文学教材分析の方法と授業構想の方法を知る。
・ひらがなの授業記録の検討をとおして、文字指導の有効な方法を考える。

学習の目的
小学校国語科の各領域について、その「ねらい」と「方法」の基礎的な知識を得る。
小学校において、国語科の授業を実践することができるようになる。

学習の到達目標
国語科に興味を持ち、教材分析の力を伸ばす。
子どもとともに授業をつくっていく力をつける。

教科書　教材文、授業の実践記録などそのつど配布する。

成績評価方法と基準　期末レポートを中心に、課題や授業のまとめ、出席の状況を加味して評価する。

オフィスアワー
講義前20分（毎週木曜日14：20〜14：40）非常勤講師控え室
連絡の窓口となる教員：守田庸一

学習内容
小学校国語科の現状と課題（学習指導要領、教科書の物語・説明文教材）
・作文教育の現状と課題、作文をとおして「子どもたちの今」を考える。（第1回〜第2回）
・説明文の教材分析、実践記録の検討(第3回〜第5回)
・文学作品の教材分析、実践記録の検討（第6回〜10回）
・ひらがなを中心とする文字指導の現状と課題、実践記録の検討（第11〜13回）
・総論・まとめ（14回〜15回）
※授業は講義によって進めますが、教材分析など可能な範囲で受講生間の意見交流の場を設けます。

その他　60名を限度として受講制限を行います。越えた場合は、初回の授業時に抽選を行います。初回を無届けで欠席した者は履修しない者とみなします。優先順位は、履修登録をすませた3年生以上、履修登録をすませた2年生、出席した未登録の学生の順とし、第2回目以降の追加受講は、いずれの学年も認めません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	66以前	国語教材研究	2	後期　火1, 2	守田庸一（教育学部）

授業の概要　小学校の国語科について、教科書の教材や関連資料等を取り上げて具体的に考察する。

学習の目的　小学校における国語科の授業を実践することができるようになる。

学習の到達目標
1．子どもの言語能力の発達をとらえることができる。
2．小学校の国語科の教育目標を説明することができる。
3．小学校の国語教科書に載っている教材を研究することができる。
4．小学校の国語科の授業を創造することができる。

教科書　授業時に資料を配付する。

成績評価方法と基準　レポートまたは試験、提出物、出欠席の状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容
第1回 小学校国語科の目標について
第2回 小学校国語科における領域と教材のジャンルについて
第3回 子どもの言語能力の発達について
第4回 読むことの学習指導について(1)文学の教材研究と授業のあり方（低学年）
第5回 読むことの学習指導について(2)文学の教材研究と授業のあり方（中学年）
第6回 読むことの学習指導について(3)文学の教材研究と授業のあり方（高学年）
第7回 読むことの学習指導について(4)説明文の教材研究と授業のあり方（低学年）
第8回 読むことの学習指導について(5)説明文の教材研究と授業のあり方（中学年）
第9回 読むことの学習指導について(6)説明文の教材研究と授業のあり方（高学年）
第10回 書くことの学習指導について(1)低学年
第11回 書くことの学習指導について(2)中学年
第12回 書くことの学習指導について(3)高学年
第13回 話すこと・聞くことの学習指導について(1)低学年
第14回 話すこと・聞くことの学習指導について(2)中学年
第15回 話すこと・聞くことの学習指導について(3)高学年
＊授業は講義によって進めますが、可能な範囲で受講生間の意見交流の場を設けます。

その他　60名を限度として受講制限を行います。越えた場合は、初回の授業時に抽選を行います。初回を無届けで欠席した者は履修しない者とみなします。優先順位は、履修登録をすませた3年生以上、履修登録をすませた2年生、出席した未登録の学生の順とし、第2回目以降の追加受講は、いずれの学年も認めません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	-65	社会教材研究	2	前期　火1, 2	山根 栄次(教育学部社会科教育講座)

授業の概要　小学校社会科の目標・内容及び指導法等についての理解を深め、実践例をもとに授業展開に関する基礎的な力を養う。実際に社会科授業のための教材研究をして、指導案を作成する。

学習の目的　小学校社会科の目標・内容及び指導法等について理解すると共に、授業展開に関する基礎的な力をつける。社会科授業のため教材研究ができ、指導案が書ける。

学習の到達目標　小学校社会科の目標・内容及び指導法等について理解すると共に、授業展開に関する基礎的な力をつける。社会科授業のため教材研究ができ、指導案が書ける。

受講要件　3年生以上での履修。2年生以下は受講できない。

予め履修が望ましい科目　小学校専門社会

教科書
山根・市川、他編『個の育成をめざす授業』三晃書房、2010年
魚住・山根他編『21世紀社会科への招待』学術図書出版、2010年

成績評価方法と基準　レポート50% 期末試験50% 計100%。但し、如何なる理由にかかわらず、授業出席回数が授業回数の3分の2を上回っていること。

オフィスアワー　毎週火曜日10:30〜11:30、場所:山根研究室

学習内容
1.社会科の意義
2.3.小学校社会科の簡単な歴史
4.5.小学校社会科の教育課程
6.7.社会科の授業づくりと教材研究の方法
8.9.10.具体的な教材研究
12.13.具体的な学習指導案作成
14.15 教材と学習指導案のプレゼンテーション
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	65-	社会教材研究	2	前期　火 3, 4	永田 成文(三重大学教育学部)

授業の概要　初等社会科教育とはどのような目的で，どのような内容があり，どのような授業の進め方がなされるのかをつかむ。また，授業実践例から教育現場における授業づくりのあり方を学ぶ。

学習の目的　小学校の社会科教育ではどのような目的・内容・方法で授業を組み立てていけばよいのかをつかみ，実際に授業を構想できる。

学習の到達目標
小学校社会科高学年の内容の特色を記述できるようになる。
小学校社会科高学年の内容の授業を分析できるようになる。

受講要件　3年生以上に限定する。

予め履修が望ましい科目　小専社会

教科書
小学校学習指導要領解説社会編（購入）
社会認識教育学会編『小学校社会科教育』学術図書（購入）

成績評価方法と基準　「参加態度(出席)」= 25%，「提出物」= 25%，「教材研究」= 25%，「テスト」= 25%

オフィスアワー　毎週木曜日13:00〜14:00，共通教育1号館3F社会科教育第2研究室

学習内容
1.初等社会科教育の特色
2.初等社会科教育の意義と目的
3.初等社会科教育の歴史
4.初等社会科教育の内容
5.初等社会科教育の方法
6.初等社会科教育の単元構成
7.初等社会科教育の授業構成
8.初等社会科教育の実践事例の分析(中学年)
9.初等社会科教育の実践事例の分析(高学年－5学年)
10.初等社会科教育の実践事例の分析(高学年－6学年)
11.高学年社会科の授業記録をとる
12.高学年社会科の優れた実践発表
13.高学年社会科の授業構想
14.高学年社会科の授業構想発表
15.初等社会科教育の評価

その他
高学年社会科の内容(国土・産業・環境・歴史・政治・国際)を中心に行います。
◎席指定で毎回出席確認 ◎遅刻3回で欠席1 ◎連続3回・通算5回欠で単位不認定

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	65-	社会教材研究	2	前期　水 1, 2	永田 成文(三重大学教育学部) 金野誠志(鳴門教育大学)1コマ予定

授業の概要　初等社会科教育とはどのような目的で，どのような内容があり，どのような学習の進め方がなされるのかをつかむ。また，現場では中学年の地域を中心とするどのような授業が行われているのかを先行実践をもとに考察する。

学習の目的　小学校の社会科教育，特に中学年の地域学習ではどのような目的・内容・方法で授業を組み立てればよいのかをつかむ。

学習の到達目標
小学校社会科の目的・内容・方法を理解する。
指導案や授業記録を読めるようになる。
教材をつくることができる。

受講要件　3年生以上に限定する。受講者数は60名までとする。社会科教育コース，4年生，小学校主免（4週間教育実習が小学校）の学生を優先する。

予め履修が望ましい科目　小専社会

教科書
小学校学習指導要領解説社会編（購入）
社会認識教育学会編『初等社会科教育学』学術図書出版（購入）

成績評価方法と基準　「参加態度(出席)」= 25%，「提出物」= 25%，「教材レポート」= 25%，「テスト」= 25%

オフィスアワー　毎週木曜日13:00〜14:00，共通教育1号館3F社会科教育第2研究室

学習内容
1.初等社会科教育の特色
2.初等社会科教育の意義と目的
3.初等社会科教育の歴史
4.初等社会科教育の内容
5.初等社会科教育の方法
6.初等社会科教育の単元構成
7.初等社会科教育の授業構成
8.初等社会科教育の実践事例(中学年：3学年)
9.初等社会科教育の実践事例(中学年：4学年)
10.初等社会科教育の実践事例(高学年)
11.中学年の地域レポート(教材)作成
12.中学年の地域レポート(教材)発表
13.中学年の地域レポート(教材)に基づく単元作成
14.授業記録の取り方
15.社会科教育の評価問題と評価

その他
出席を重視します。朝きちんと出席できる学生のみ受講してください。
中学年社会科(地域教材)を中心に行います。高学年社会科(国土・産業・環境・歴史・政治・国際)に興味がある学生は前期火曜日3~4コマの社会教材研究を履修してください。
◎席指定で毎回出席確認 ◎遅刻3回で欠席1 ◎連続3回・通算5回欠で単位不認定

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	-65	社会教材研究	2	後期　火 1, 2	山根 栄次(教育学部社会科教育講座教授)

授業の概要　小学校社会科の目標・内容及び指導法等についての理解を深め、実践例をもとに授業展開に関する基礎的な力を養う。社会科の教材研究ができ、指導案が書けるようにする。

学習の目的　小学校社会科の目標・内容及び指導法等について理解すると共に、授業展開に関する基礎的な力をつける。社会科の教材研究の方法を体得し、指導案が書けるようになる。

学習の到達目標　小学校社会科の目標・内容及び指導法等について理解すると共に、授業展開に関する基礎的な力をつける。社会科の教材研究の方法を体得し、指導案が書けるようになる。

受講要件　3年生以上での履修。2年生は履修できない。

予め履修が望ましい科目　小専社会

教科書
山根・市川、他編『個の育成をめざす授業づくり』三晃書房、2010
魚住・山根編『21世紀社会科への招待』学術図書出版、2010

成績評価方法と基準　レポート50% 期末試験50% 計100%。但し、如何なる理由があるにせよ、授業出席回数が授業回数の3分の2以上でなければならない。

オフィスアワー　毎週火曜日10:30〜11:30山根研究室

学習内容
1.社会科の意義
2.3.小学校社会科の簡単な歴史
4.5.小学校社会科の教育課程
6.7.社会科の授業づくりと教材研究の方法
8.9.10.具体的な教材研究
12.13.具体的な学習指導案作成
14.15 教材と学習指導案のプレゼンテーション
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	〜66	算数教材研究	2	前期　月 3, 4	中西正治（教育学部）

授業の概要　小学校算数科で扱う諸教材に関する理論的・実践的問題について講義する。

学習の目的　現場で実践をしていく上で基本的な知識の獲得をする。

学習の到達目標　授業で得た知識を基礎として、実践での授業構成を一定できるようになること。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　出席、試験の結果をもとに、総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日
12：00〜13：00、場所・中西研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
1．算数教育のあゆみ
2．1年生の数指導について①
3．1年生の数指導について②
4．加法・減法の意味
5．加法・減法の計算
6．乗法・除法の意味
7．乗法・除法の計算
8．文章題について
9．量の指導について①
10．量の指導について②
11．図形の指導について①
12．図形の指導について②
13．分数について
14．分数の計算（加減法）
15．分数の計算（乗除法）
16．試験

その他　2年生以上を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法		算数教材研究	2	前期　木 5, 6	中西正治（教育学部）

授業の概要　小学校算数科で扱う諸教材に関する理論的・実践的問題について講義する。

学習の目的　現場で実践をしていく上で基本的な知識の獲得をする。

学習の到達目標　授業で得た知識を基礎として、実践での授業構成を一定できるようになること。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　出席、試験の結果をもとに、総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日
12：00〜13：00、場所・中西研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
1．算数教育のあゆみ
2．加法・減法の意味
3．加法・減法の計算
4．乗法・除法の意味
5．乗法・除法の計算
6．文章題について
7．量の指導について①
8．量の指導について②
9．図形の指導について①
10．図形の指導について②
11．分数について
12．分数の計算
13．数量関係の指導について
14．図形関係の指導について
15．試験

その他　その他 2年生以上を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～66	算数教材研究	2	後期　月 3, 4	中西正治（教育学部）

授業の概要　小学校算数科で扱う諸教材に関する理論的・実践的問題について講義する。

学習の目的　現場で実践をしていく上で基本的な知識の獲得をする。

学習の到達目標　授業で得た知識を基礎として、実践での授業構成を一定できるようになること。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　出席、試験の結果をもとに、総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日
12：00～13：00、場所・中西研究室（教育学部1号館4階）

学習内容

1．算数教育のあゆみ
2．加法・減法の意味
3．加法・減法の計算
4．乗法・除法の意味
5．乗法・除法の計算
6．文章題について
7．量の指導について①
8．量の指導について②
9．図形の指導について①
10．図形の指導について②
11．分数について
12．分数の計算
13．数量関係の指導について
14．図形関係の指導について
15．試験

その他　その他 2年生以上を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	66-63	算数教材研究	2	後期　月 5, 6	田中伸明（教育学部数学教育講座）

授業の概要　小学校算数科で扱う諸教材に関する理論と実践について学ぶ。

学習の目的
小学校「算数」の教材理論が分かる。
小学校「算数」の指導理論が分かる。

学習の到達目標　小学校「算数」の教材理論、指導理論を理解し、算数科の授業づくりの基礎力を得る。

教科書　自主作成教材（プリント等）による。

成績評価方法と基準　定期試験結果に、レポート・平常の学習意欲などを加味し、総合的に評価する。

オフィスアワー
火曜日12:00～13:00
教育学部4F 数学教育第1研究室

学習内容
1.算数教育の歩み
2.数とは何か
3.加法
4.減法
5.加減の計算
6.乗法
7.除法
8.乗除の計算
9.量の指導
10.数量関係の指導1
11.数量関係の指導2
12.分数
13.分数の計算
14.図形の指導1
15.図形の指導2
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	66-62	理科教材研究 I	2	後期　金 3, 4	平賀伸夫（教育学部理科教育講座）

授業の概要
授業展開中への実験教材の位置づけ方について学ぶ。学生が2〜3名のグループを組み、各グループは、小学校理科の単元から一つを選び、模擬授業を計画・実施する。実施後、実験教材の位置づけ方について全体で検討する。検討内容の例を示す。
1 実験の目的は明確であったか。法則を発見するためか、仮説を検証するためか等。
2 実験前の展開は適切であったか。
3 実験結果のまとめ方は適切であったか。
4 実験結果から結論へ導く際の展開は適切であったか。

学習の目的　授業展開中への実験教材の位置づけ方の検討を通して、理科授業の目的と構成のしかた、授業を実施する上での基本的な態度、技術を身につける。

学習の到達目標
・ 理科授業の目的、構成のしかたを理解する。
・ 授業を実施する上での基本的な態度、技術を習得する。

教科書
『新学習指導要領に応える理科教育』理科教育研究会著，東洋館出版社
『小学校学習指導要領解説(理科編)』文部科学省著，大日本図書

成績評価方法と基準
出席状況30%、模擬授業の内容30%、レポート40%。
ただし、欠席は4回で不可とする。遅刻は1/2回の欠席とする。

オフィスアワー
毎週金曜日8:50〜10:20，理科教育第1研究室(平賀研究室),
E-mail hiraga@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．オリエンテーション1；本授業の目的と内容
2．オリエンテーション2；模擬授業について，班分け，レポートの書き方，理科における観点別評価，教科書配布
3．模擬授業1，2の実施，全体討論
4．模擬授業3，4の実施，全体討論
5．模擬授業5，6の実施，全体討論
6．模擬授業7，8の実施，全体討論
7．模擬授業9，10の実施，全体討論
8．模擬授業11，12の実施，全体討論
9．模擬授業13，14の実施，全体討論
10．模擬授業15，16の実施，全体討論
11．模擬授業17，18の実施，全体討論
12．模擬授業19，20の実施，全体討論
13．模擬授業21，22の実施，全体討論
14．模擬授業23，24の実施，全体討論
15．模擬授業25，26の実施，全体討論
16．レポート提出，まとめ

その他
各自が1回、模擬授業を行う。
人数制限することがあるので、第1回目の講義日は必ず出席すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	66-62	理科教材研究 I	2	前期　金 3, 4	平賀伸夫（教育学部理科教育講座）

授業の概要
授業展開中への実験教材の位置づけ方について学ぶ。学生が2〜3名のグループを組み、各グループは、小学校理科の単元から一つを選び、模擬授業を計画・実施する。実施後、実験教材の位置づけ方について全体で検討する。検討内容の例を示す。
1 実験の目的は明確であったか。法則を発見するためか、仮説を検証するためか等。
2 実験前の展開は適切であったか。
3 実験結果のまとめ方は適切であったか。
4 実験結果から結論へ導く際の展開は適切であったか。

学習の目的　授業展開中への実験教材の位置づけ方の検討を通して、理科授業の目的と構成のしかた、授業を実施する上での基本的な態度、技術を身につける。

学習の到達目標
・ 理科授業の目的、構成のしかたを理解する。
・ 授業を実施する上での基本的な態度、技術を習得する。

教科書
『新学習指導要領に応える理科教育』理科教育研究会著，東洋館出版社
『小学校学習指導要領解説(理科編)』文部科学省著，大日本図書

成績評価方法と基準
出席状況30%、模擬授業の内容30%、レポート40%。
ただし、欠席は4回で不可とする。遅刻は1/2回の欠席とする。

オフィスアワー
毎週金曜日8:50〜10:20，理科教育第1研究室(平賀研究室),
E-mail hiraga@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．オリエンテーション1；本授業の目的と内容
2．オリエンテーション2；模擬授業について，班分け，レポートの書き方，理科における観点別評価，教科書配布
3．模擬授業1，2の実施，全体討論
4．模擬授業3，4の実施，全体討論
5．模擬授業5，6の実施，全体討論
6．模擬授業7，8の実施，全体討論
7．模擬授業9，10の実施，全体討論
8．模擬授業11，12の実施，全体討論
9．模擬授業13，14の実施，全体討論
10．模擬授業15，16の実施，全体討論
11．模擬授業17，18の実施，全体討論
12．模擬授業19，20の実施，全体討論
13．模擬授業21，22の実施，全体討論
14．模擬授業23，24の実施，全体討論
15．模擬授業25，26の実施，全体討論
16．レポート提出，まとめ

その他
各自が1回、模擬授業を行う。
人数制限することがあるので、第1回目の講義日は必ず出席すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～66	理科教材研究 II	2	前期　金 5, 6	荻原彰

授業の概要　実験教材とその背景について扱う

学習の目的　小学校理科で扱う教材について実験手法や実験の目的について知る。

学習の到達目標
・温度計など基本的な実験用具の使い方を知る
・単元の目的にてらして適切な実験の選択について知る。
・実際に実験することを通して実験手法について知る。

教科書　「魅力ある理科教育」小中学校編（オーム社）

成績評価方法と基準　レポート及び課題提出による

オフィスアワー　火曜日5，6

学習内容
小学校（一部中学校を含む）の実験教材について扱う。
授業計画
第1回：理科の考え方
第2回：教材 風やゴムの働き
第3回：教材 振り子の運動
第4回：教材 テコの規則性
第5回：教材 電気の利用
第6回：教材 ものの重さとかさ
第7回：教材 金属、水，空気と温度
第8回：教材 ものの溶け方
第9回：教材 燃焼の仕組み
第10回：教材 太陽と地面の様子
第11回：教材 気温の変化
第12回：教材 流水のはたらき
第13回：教材 月と太陽
第14回：教材 粒子モデル
第15回：教材 火山

その他　2年生以上、人数を制限することがある

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～66	理科教材研究 II	2	後期　金 5, 6	荻原彰

授業の概要　実験教材とその背景について扱う

学習の目的

小学校理科で扱う教材について実験手法や実験の目的について知る。

学習の到達目標

・温度計など基本的な実験用具の使い方を知る
・単元の目的にてらして適切な実験の選択について知る。
・実際に実験することを通して実験手法について知る。

教科書　「魅力ある理科教育」小中学校編（オーム社）

成績評価方法と基準　レポートと課題提出による

オフィスアワー　火曜5，6

学習内容
小学校（一部中学校を含む）の実験教材について扱う。
授業計画
第1回：理科の考え方
第2回：教材 風やゴムの働き
第3回：教材 振り子の運動
第4回：教材 テコの規則性
第5回：教材 電気の利用
第6回：教材 ものの重さとかさ
第7回：教材 金属、水，空気と温度
第8回：教材 ものの溶け方
第9回：教材 燃焼の仕組み
第10回：教材 太陽と地面の様子
第11回：教材 気温の変化
第12回：教材 流水のはたらき
第13回：教材 月と太陽
第14回：教材 粒子モデル
第15回：教材 火山

その他　2年生以上、人数を制限することがある

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科教育法	64〜65	音楽教材研究	2	前期　火5, 6	川村 有美（教育学部音楽教育コース）

授業の概要
・小学校音楽授業のタイプを分類する。この作業を踏まえ、そこに内在する問題点、課題についてディスカッションを行う。
・音楽教材の特質を踏まえた上で、異なる3パターンの授業づくりについて講義する。
・表現領域及び鑑賞領域の授業の実際について紹介し、どのような視点で授業をデザインするかについて講義する。
・学習指導案のもつ意義について講義する。また、数種類の学習指導案を比較検討し、授業記録という観点から学習指導案についても講義する。
・模擬授業を行う。
・今後の小学校音楽科のあり方について問題提起を行い、ディスカッションを行う。

学習の目的　小学校音楽科における授業構成法について、その基本的な考え方を理解し、授業をつくる実践的な力量を身につける。同時に、授業構成法に関して、理解を深めるための授業分析及び授業の記述方法等の力量も身につける。

学習の到達目標

予め履修が望ましい科目　「小学校専門音楽Ⅰa, A」を履修済みであることが望ましい。

教科書　『音楽の授業をつくる』大学図書出版

成績評価方法と基準　平常点（50点）、最終課題（50点）。

オフィスアワー　毎週木曜日13：00〜14：00、場所：川村研究室

学習内容
1.ガイダンス
授業の目的、授業の進め方などについて説明する。
2.小学校音楽科の授業の問題点
小学校音楽授業のタイプを分類し、そこに内在する問題点と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。
3.授業の構成要素と授業構成
小学校音楽科の授業の構成要素、授業の構成法について学ぶ。
4.音楽教材の特質と授業づくりの3つの道筋
音楽教材の特質をふまえた上で、異なる3パターンの授業づくりについて学ぶ。
5.授業づくりの実際（1）
歌唱表現の授業をどうつくるかについて学ぶ。
6.授業づくりの実際（2）
器楽表現の授業をどうつくるかについて学ぶ。
7.授業づくりの実際（3）
鑑賞の授業をどうつくるかについて学ぶ。
8.授業づくりの実際（4）
音楽づくりの授業をどうつくるかについて学ぶ。
9.授業づくりの実際（5）
音楽的概念やしくみ等の獲得を目指すことを教育内容とした場合の授業づくりの特質及びその実際について学ぶ。
10.授業実践のヒント（1）
教授行為という視角から授業実践について学ぶ。
11.授業実践のヒント（2）
学習活動の工夫という視角から授業実践について学ぶ。
12.学習指導案の書き方
いくつかの学習指導案を比較検討し、授業記録という観点から学習指導案について学ぶ。
13.模擬授業
14.小学校音楽科の評価について
小学校音楽科の特質を踏まえた上で、評価のもつ意味、評価のあり方について考える。
15.今後の授業の展望
今後の小学校音楽科のあり方について考える。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科教育法	63-66	音楽教材研究	2	前期　火1, 2	根津知佳子

授業の概要　具体的な音楽的体験を通して、小学校における音楽教育の目的や子どもの表現を育てる音楽教育のあり方について考える。

学習の目的
小学校における音楽科の目標について理解する。
発達に即した音楽活動や授業を構成することができる。

学習の到達目標　自分なりの音楽教育観を持つことができる。

教科書　特に指定しない。楽器、五線紙など必要なものは随時指示する。

成績評価方法と基準　授業開始時の自己目標に対する自己評価、および、表現活動への取り組みなど、総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日12：00〜13：00

学習内容
発達段階に即した「音楽の活動・授業」に関する理論的なアプローチ
（1）幼年期
（2）児童期前半
（3）児童期後半
（4）思春期
発達段階に即した「音楽の活動・授業」に関する実践的なアプローチ
（5）幼年期
（6）児童期前半
（7）児童期後半
（8）思春期
カリキュラムのスコープとシークエンス
（9）表現
（10）鑑賞
（11）理論・概念
（12）生活科と音楽科
（13）総合的な学習の時間と音楽科
（14）音楽療法と音楽教育
（15）まとめ

その他　音楽的な技術・能力は問わず、学生自身の個性や専門領域をいかした活動を期待する。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科教育法	64〜65	音楽教材研究	2	後期　火 5, 6	川村 有美（教育学部音楽教育コース）

授業の概要
・小学校音楽授業のタイプを分類する。この作業を踏まえ、そこに内在する問題点、課題についてディスカッションを行う。
・音楽教材の特質を踏まえた上で、異なる2パターンの授業づくりについて講義する。
・表現領域及び鑑賞領域の授業の実際について紹介し、どのような視点で授業をデザインするかについて講義する。
・学習指導案のもつ意義について講義する。また、数種類の学習指導案を比較検討し、授業記録という観点から学習指導案についても講義する。
・模擬授業を行う。
・今後の小学校音楽科のあり方について問題提起を行い、ディスカッションを行う。

学習の目的　小学校音楽科における授業構成の方法について、その基本的な考え方を理解し、実際に授業をつくる実践的な力量を身につける。同時に、授業構成法に関する理解を深めるための授業分析及び授業の記述方法等の力量も身につける。

予め履修が望ましい科目　「小学校専門音楽A」を履修済みであることが望ましい。

教科書　『音楽の授業をつくる』大学図書出版

成績評価方法と基準　平常点（50点）、最終課題（50点）。

オフィスアワー　毎週木曜日13：00〜14：00、場所：川村研究室

学習内容
1.ガイダンス
授業の目的、授業の進め方などについて説明する。
2.小学校音楽科の授業の問題点
小学校音楽授業のタイプを分類し、そこに内在する問題点と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。
3.授業の構成要素と授業構成
小学校音楽科の授業の構成要素、授業の基本的な構成法について学ぶ。
4.音楽教材の特質と授業づくりの3つの道筋
音楽教材の特質をふまえた上で、異なる3パターンの授業づくりについて学ぶ。
5.授業づくりの実際（1）
歌唱表現の授業をどうつくるかについて学ぶ。
6.授業づくりの実際（2）
器楽表現の授業をどうつくるかについて学ぶ。
7.授業づくりの実際（3）
鑑賞の授業をどうつくるかについて学ぶ。
8.授業づくりの実際（4）
音楽づくりの授業をどうつくるかについて学ぶ。
9.授業づくりの実際（5）
音楽的概念やしくみ等の獲得をめざすことを教育内容とした場合の授業づくりの特質及びその実際について学ぶ。
10.授業実践のヒント（1）
教授行為という視角から授業実践について学ぶ。
11.授業実践のヒント（2）
学習活動の工夫という視角から授業実践について学ぶ。
12.学習指導案の書き方
いくつかの学習指導案を比較検討し、授業記録という観点から学習指導案について学ぶ。
13.模擬授業
14.小学校音楽科の評価について
小学校音楽科の特質を踏まえた上で、評価のもつ意味、評価のあり方について考える。
15.今後の授業の展望
今後の小学校音楽科のあり方について考える。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科教育法	64-66	音楽教材研究	2	後期　火 1, 2	根津知佳子

授業の概要　具体的な音楽的体験を通して、小学校における音楽教育の目的や子どもの表現を育てる音楽教育のあり方について考える。

学習の目的
小学校における音楽教育の目的について知る。
発達段階に即した実践や授業を構成することができる。

学習の到達目標　自分なりの音楽教育観をもつことができる。

教科書　特に指定しない。楽器、五線紙など必要なものは随時指示する。

成績評価方法と基準　出席、表現活動への取り組みについての自己評価などを含めて総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日12：00〜13：00

学習内容
発達段階に即した「音楽の活動・授業」に関する理論的なアプローチ
（1）幼年期
（2）児童期前半
（3）児童期後半
（4）思春期
発達段階に即した「音楽の活動・授業」に関する実践的なアプローチ
（5）幼年期
（6）児童期前半
（7）児童期後半
（8）思春期
カリキュラムのスコープとシークエンス
（9）表現
（10）鑑賞
（11）理論・概念
（12）生活科と音楽科
（13）総合的な学習の時間と音楽科
（14）音楽療法と音楽教育
（15）まとめ

その他　音楽的な技術・能力は問わず、学生自身の個性や専門領域をいかした活動を期待する。小学校専門音楽を履修した学生を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	59-66	図工教材研究	2	前期　金 5, 6	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　講義に加え実習として，表現教材を小学生の立場で体験し指導者の立場から分析する。その分析から，実例を交え学習指導案の成り立ちを理解する。さらにグループワークとして具体的な教材を開発し，指導案を作成し，模擬授業を行う。その指導案および模擬授業のビデオ記録について，講師に招いた小学校教員から実際の児童の現状にそった指導を受ける。

学習の目的　図画工作科にて身につく学力とは何か。それを身につけさせるには，どのような教材が適切で，どのような授業運営が可能か。これらの問題に各受講者が確信をともなう答を獲得することをねらいとする。

学習の到達目標　小学校の図画工作科について，自分なりに題材を考えて授業ができる基礎能力の獲得。

成績評価方法と基準　期末のレポートを主とし、その他講義期間内の小レポート、受講状況を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1 .描画に見る児童理解
2 .図工の授業は何を目的とするか
3 .学習指導要領にみる現状
4 .造形遊びにみる学習のありかた
5 .図工の教材と授業の成立
6 .表現教材の体験と教材としての分析
7 .学習指導案による授業設計
8 .教材開発（表現活動・指導案作成）
9 .教材開発（指導案作成）
10.教材開発（細部検討・模擬授業準備）
11.模擬授業，授業分析
12.模擬授業，授業分析
13.模擬授業，授業分析
14.実地指導（附属校教員による授業分析）
15.実地指導（一般校教員による授業分析）

その他　美術教育コース学生及び上級生を優先して48名を上限とした受講制限を行う。授業初回のガイダンスの際にグルーピングを行う。初回に出席しない場合，受講上（受講制限・グルーピング）不利になることがある。受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	〜66	図工教材研究	2	前期　木 7, 8	山田康彦（教育学部美術教育コース）

授業の概要　小学校図画工作科の教職に関する科目として、図画工作科の教育内容、方法の基本的に理解を図る。

学習の目的
・図工科の教科内容を理解し、教材を開発できる。
・図工科の指導法を知り、指導案を作成できる

学習の到達目標
児童の造形活動の実際を知り、生徒の作品を教育的に批評できる。
図工教育の理論を知り、図工科の内容と方法を理解することができる。
授業の事例シナリオ及び教科の基礎知識を通して、指導上の問題を発見し解決する方法を考察できる。
実際に教材を開発し、指導案を作成することができる。

教科書　文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

成績評価方法と基準　出席、授業期間中の小レポートと提出物、期末レポートの結果を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日 10:30〜12:00 場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回：ガイダンス、子どもの美術表現の現状
第2回：児童の造形活動の実際と見方（1）
第3回：児童の造形活動の実際と見方（2）
第4回：図工教育5つの考え方と実際
第5回：図工科学習指導要領の特徴と内容
第6回：事例シナリオによる図工科授業研究（1）児童の現状に応じた題材設定
第7回：事例シナリオによる図工科授業研究（2）鑑賞の授業
第8回：授業の設計と学習指導案作成の視点
第9回：教材開発① 題材の設定
第10回：教材開発② 指導案の作成
第11回：教材開発③ 作例の作成と模擬授業準備
第12回：模擬授業と振り返り①
第13回：模擬授業と振り返り②
第14回：模擬授業と振り返り③
第15回：模擬授業と振り返り④
第16回：小学校図画工作科の授業課題

その他　受講制限あり(50名)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	59-66	図工教材研究	2	後期　金 5, 6	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　講義に加え実習として，表現教材を小学生の立場で体験し指導者の立場から分析する。その分析から，実例を交え学習指導案の成り立ちを理解する。さらにグループワークとして具体的な教材を開発し，指導案を作成し，模擬授業を行う。その指導案および模擬授業のビデオ記録について，講師に招いた小学校教員から実際の児童の現状にそった指導を受ける。

学習の目的　図画工作科にて身につく学力とは何か。それを身につけさせるには，どのような教材が適切で，どのような授業運営が可能か。これらの問題に各受講者が確信をともなう答を獲得することをねらいとする。

学習の到達目標　小学校の図画工作科について，自分なりに題材を考えて授業ができる基礎能力の獲得。

成績評価方法と基準　期末のレポートを主とし、その他講義期間内の小レポート、受講状況を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1 .描画に見る児童理解
2 .図工の授業は何を目的とするか
3 .学習指導要領にみる現状
4 .造形遊びにみる学習のありかた
5 .図工の教材と授業の成立
6 .表現教材の体験と教材としての分析
7 .学習指導案による授業設計
8 .教材開発（表現活動・指導案作成）
9 .教材開発（指導案作成）
10.教材開発（細部検討・模擬授業準備）
11.模擬授業，授業分析
12.模擬授業，授業分析
13.模擬授業，授業分析
14.実地指導（附属校教員による授業分析）
15.実地指導（一般校教員による授業分析）

その他　美術教育コース学生及び上級生を優先して48名を上限とした受講制限を行う。授業初回のガイダンスの際にグルーピングを行う。初回に出席しない場合，受講上（受講制限・グルーピング）不利になることがある。初回に欠席せざるを得ない事情がある場合は，事前に申し出ること。受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	〜66	図工教材研究	2	後期　木 7, 8	山田康彦（教育学部美術教育コース）

授業の概要　小学校図画工作科の教職に関する科目として、図画工作科の教育内容、方法の基本的に理解を図る。

学習の目的
・図工科の教科内容を理解し、教材を開発できる。
・図工科の指導法を知り、指導案を作成できる

学習の到達目標
児童の造形活動の実際を知り、生徒の作品を教育的に批評できる。
図工教育の理論を知り、図工科の内容と方法を理解することができる。
授業の事例シナリオ及び教科の基礎知識を通して、指導上の問題を発見し解決する方法を考察できる。
実際に教材を開発し、指導案を作成することができる。

教科書　文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

成績評価方法と基準　出席、授業期間中の小レポートと提出物、期末レポートの結果を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日 10:30〜12:00 場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回：ガイダンス、子どもの美術表現の現状
第2回：児童の造形活動の実際と見方（1）
第3回：児童の造形活動の実際と見方（2）
第4回：図工教育5つの考え方と実際
第5回：図工科学習指導要領の特徴と内容
第6回：事例シナリオによる図工科授業研究（1）児童の現状に応じた題材設定
第7回：事例シナリオによる図工科授業研究（2）鑑賞の授業
第8回：授業の設計と学習指導案作成の視点
第9回：教材開発① 題材の設定
第10回：教材開発② 指導案の作成
第11回：教材開発③ 作例の作成と模擬授業準備
第12回：模擬授業と振り返り①
第13回：模擬授業と振り返り②
第14回：模擬授業と振り返り③
第15回：模擬授業と振り返り④
第16回：小学校図画工作科の授業課題

その他　受講制限あり(50名)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～66	図工教材研究演習	1	前期　火 9, 10	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　小学校図工科にて従来はあまり取り上げられなかった教材について研究する。近年は、コンピュータ教育教材を取り上げているが、受講生の要望や状況に応じて変更する。下記の「学習内容」には，参考として過去に行ったものを記載する。

学習の到達目標　小学校の図画工作科について，自分なりに題材を考えて授業ができる基礎能力の獲得。

予め履修が望ましい科目　図工教材研究

教科書　授業開始後、指定することがある。

成績評価方法と基準　期末の提出作品およびレポートを主とし、その他講義期間内の小レポート、出席率等を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00～13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス，コンピュータの基本理解
2．グラフィックスの基本と操作の基本
3．画像合成の基本
4．WWWブラウザー操作の基本
5．テキスト編集とHTMLの基礎
6．タグの基礎
7．グラフィックスの貼付
8．ページの階層化とリンク
9．ページソースの解読
10．音や映像の取り込み
11．映像編集の基礎
12．アニメーションの基礎
13．モデリングの基礎
14．自由制作
15．自由制作

その他
本授業は「図工教材研究」ではない（必修の単位数にはカウントできない）ので留意するように。設備の都合により受講者数を制限している。
尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動を含む場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～66	体育教材研究	2	後期　木 1, 2	岡野 昇

授業の概要　私たちがいつの間にか，そういうものだと思い込んでいる思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究する。私たちが変わらずして，子どもと運動のよりよい関係をひらくことはできないからである。

学習の目的
・小学校体育の授業を行うということの自覚と責任を身につけることができるようになる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究することができるようになる。
・小学校体育科学習指導案を作成することができるようになる。

学習の到達目標
・小学校体育の授業を行うということの自覚と責任を身につけることができるようになる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究することができるようになる。
・小学校体育科学習指導案を作成することができるようになる。

教科書
・岡野昇・佐藤学（2015）『体育における「学びの共同体」の実践と探究』大修館書店
・文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説体育編』

成績評価方法と基準　授業過程におけるグループ討議，及び学習課題の内容を成績評価の資料とする。評価の観点は，「問題把握の深さ」と「授業を通した自己の脱構築性」である。

オフィスアワー　・前・後期 水曜日12:00～13:00，保体（保健体育科教育学Ⅱ）研究室

学習内容
1.体育観への気づき
2.自己の体育観を引き出す―個体主義と関係主義―
3.体育観形成における問題点 ―「問題」のとらえ方―
4.学習指導要領（小学校体育科）の読み取り―カリキュラムデザイナーとしての教師―
5.子どもの体を育てるということ―相互主体論―
6.教材研究の視点― 運動の中心的なおもしろさ―
7.新しい視点に立った学びのデザイン①―器械運動系―
8.新しい視点に立った学びのデザイン②―陸上運動系―
9.新しい視点に立った学びのデザイン③―水泳系―
10.新しい視点に立った学びのデザイン④―ボール運動系―
11.新しい視点に立った学びのデザイン⑤―表現運動系―
12.新しい視点に立った学びのデザイン⑥―体つくり運動―
13.新しい視点に立った学びのデザイン⑦―保健―
14.体育の単元計画―内容構成と展開構成―
15.振り返り

その他
・受講希望者は，第1回目の授業に出席すること。
・学習内容と学習課題の変更はあり得る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～65	体育教材研究	2	前期　木 1, 2	加納 岳拓（教育学部）

授業の概要　私たちがいつの間にか，そういうものだと思い込んでいる思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探求する。私たちが変わらずして，子どもと運動のよりよい関係をひらくことはできないからである。

学習の目的
・小学校体育の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身につけることができる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究することができる。

学習の到達目標
・小学校体育の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身につけることができる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究することができる。

成績評価方法と基準　授業過程におけるグループ討議，及び学習課題の内容を成績評価の資料とする。評価の観点は，「問題把握の深さ」と「授業を通した自己の脱構築性」である。

学習内容
1.体育観への気づき
2.自己の体育観を引き出す―個体主義と関係主義―
3.体育観形成における問題点 ―「問題」のとらえ方―
4.学習指導要領（小学校体育科）の読み取り―カリキュラムデザイナーとしての教師―
5.子どもの体を育てるということ―相互主体論―
6.教材研究の視点― 運動の中心的なおもしろさ―
7.新しい視点に立った学びのデザイン①―器械運動系―
8.新しい視点に立った学びのデザイン②―陸上運動系―
9.新しい視点に立った学びのデザイン③―水泳系―
10.新しい視点に立った学びのデザイン④―ボール運動系―
11.新しい視点に立った学びのデザイン⑤―表現運動系―
12.新しい視点に立った学びのデザイン⑥―体つくり運動―
13.新しい視点に立った学びのデザイン⑦―保健―
14.体育の単元計画―内容構成と展開構成―
15.振り返り

その他
・受講希望者は，第1回目の授業に出席すること。
・学習内容と学習課題の変更はあり得る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法		体育教材研究	2	後期　木 3, 4	岡野 昇

授業の概要　私たちがいつの間にか，そういうものだと思い込んでいる思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究する。私たちが変わらずして，子どもと運動のよりよい関係をひらくことはできないからである。

学習の目的
・小学校体育の授業を行うということの自覚と責任を身につけることができるようになる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究することができるようになる。
・小学校体育科学習指導案を作成することができるようになる。

学習の到達目標
・小学校体育の授業を行うということの自覚と責任を身につけることができるようになる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究することができるようになる。
・小学校体育科学習指導案を作成することができるようになる。

教科書
・岡野昇・佐藤学（2015）『体育における「学びの共同体」の実践と探究』大修館書店
・文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説体育編』

成績評価方法と基準　授業過程におけるグループ討議，及び学習課題の内容を成績評価の資料とする。評価の観点は，「問題把握の深さ」と「授業を通した自己の脱構築性」である。

オフィスアワー　・前・後期 水曜日12:00～13:00，保体（保健体育科教育学 II）研究室

学習内容
1.体育観への気づき
2.自己の体育観を引き出す―個体主義と関係主義―
3.体育観形成における問題点 ―「問題」のとらえ方―
4.学習指導要領（小学校体育科）の読み取り―カリキュラムデザイナーとしての教師―
5.子どもの体を育てるということ―相互主体論―
6.教材研究の視点― 運動の中心的なおもしろさ―
7.新しい視点に立った学びのデザイン①―器械運動系―
8.新しい視点に立った学びのデザイン②―陸上運動系―
9.新しい視点に立った学びのデザイン③―水泳系―
10.新しい視点に立った学びのデザイン④―ボール運動系―
11.新しい視点に立った学びのデザイン⑤―表現運動系―
12.新しい視点に立った学びのデザイン⑥―体つくり運動―
13.新しい視点に立った学びのデザイン⑦―保健―
14.体育の単元計画―内容構成と展開構成―
15.振り返り

その他
・受講希望者は，第1回目の授業に出席すること。
・学習内容と学習課題の変更はあり得る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～65	体育教材研究	2	前期　木 3, 4	加納 岳拓（教育学部）

授業の概要　私たちがいつの間にか，そういうものだと思い込んでいる思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探求する。私たちが変わらずして，子どもと運動のよりよい関係をひらくことはできないからである。

学習の目的
・小学校体育の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身につけることができる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究することができる。

学習の到達目標
・小学校体育の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身につけることができる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，小学校体育のあり方について探究することができる。

成績評価方法と基準　授業過程におけるグループ討議，及び学習課題の内容を成績評価の資料とする。評価の観点は，「問題把握の深さ」と「授業を通した自己の脱構築性」である。

学習内容

1.体育観への気づき
2.自己の体育観を引き出す―個体主義と関係主義―
3.体育観形成における問題点 ―「問題」のとらえ方―
4.学習指導要領（小学校体育科）の読み取り―カリキュラムデザイナーとしての教師―
5.子どもの体を育てるということ―相互主体論―
6.教材研究の視点― 運動の中心的なおもしろさ―
7.新しい視点に立った学びのデザイン①―器械運動系―
8.新しい視点に立った学びのデザイン②―陸上運動系―
9.新しい視点に立った学びのデザイン③―水泳系―
10.新しい視点に立った学びのデザイン④―ボール運動系―
11.新しい視点に立った学びのデザイン⑤―表現運動系―
12.新しい視点に立った学びのデザイン⑥―体つくり運動―
13.新しい視点に立った学びのデザイン⑦―保健―
14.体育の単元計画―内容構成と展開構成―
15.振り返り

その他
・受講希望者は，第1回目の授業に出席すること。
・学習内容と学習課題の変更はあり得る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	66－64	家庭教材研究	2	前期　金 3, 4	吉本敏子（教育学部）

授業の概要　小学校の家庭科のカリキュラムや目的、内容について理解する。また、具体的に家庭科の教材研究の仕方を学習する。

学習の目的
・小学校家庭科のカリキュラムや目的、内容について理解する。
・体験的な学習を通して、実践的な教材研究の仕方を学ぶ。

学習の到達目標
・学習指導要領に基づいた小学校家庭科のカリキュラムや目的、内容について理解し、説明できる。
・衣食住等の体験的な学習を通して、実践的な教材研究の仕方を学ぶとともに、工夫して教材研究ができるようになる。

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート60%、作品20%、出席20%

オフィスアワー
毎週火曜日13:00～14:30

教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．オリエンテーション
2．家庭科のカリキュラムと課題
3．小学校家庭科の目標と内容
4．教材研究の方法
5．子供の生活実態
6．～15．教材研究「家庭生活と家族」
「日常の食事と調理の基礎」
「快適な衣服と住まい」
「身近な消費生活と環境」
16．社会の変化に対応した学習指導
＊学習指導要領の内容に配慮しながら、家庭科の教材研究について考える。

その他　2～4年次に履修。教室等の都合により受講制限を行う場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	66－64	家庭教材研究	2	前期　金 7, 8	吉本敏子（教育学部）

授業の概要　小学校の家庭科のカリキュラムや目的、内容について理解する。また、具体的に家庭科の教材研究の仕方を学習する。

学習の目的
・小学校家庭科のカリキュラムや目的、内容について理解する。
・体験的な学習を通して、実践的な教材研究の仕方を学ぶ。

学習の到達目標
・学習指導要領に基づいた小学校家庭科のカリキュラムや目的、内容について理解し、説明できる。
・衣食住等の体験的な学習を通して、実践的な教材研究の仕方を学ぶとともに、工夫して教材研究ができるようになる。

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート60%、作品20%、出席20%

オフィスアワー
毎週火曜日13:00～14:30

教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．オリエンテーション
2．家庭科のカリキュラムと課題
3．小学校家庭科の目標と内容
4．教材研究の方法
5．子供の生活実態
6．～15．教材研究「家庭生活と家族」
「日常の食事と調理の基礎」
「快適な衣服と住まい」
「身近な消費生活と環境」
16．社会の変化に対応した学習指導
＊学習指導要領の内容に配慮しながら、家庭科の教材研究について考える。

その他　2～4年次に履修。教室等の都合により受講制限を行う場合がある。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	66－64	家庭教材研究	2	後期　金 7, 8	吉本敏子（教育学部）

授業の概要　小学校の家庭科のカリキュラムや目的、内容について理解する。また、具体的に家庭科の教材研究の仕方を学習する。

学習の目的
・小学校家庭科のカリキュラムや目的、内容について理解する。
・体験的な学習を通して、実践的な教材研究の仕方を学ぶ。

学習の到達目標
・学習指導要領に基づいた小学校家庭科のカリキュラムや目的、内容について理解し、説明できる。
・衣食住等の体験的な学習を通して、実践的な教材研究の仕方を学ぶとともに、工夫して教材研究ができるようになる。

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート60%、作品20%、出席20%

オフィスアワー
毎週火曜日13:00〜14:30

教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．オリエンテーション
2．家庭科のカリキュラムと課題
3．小学校家庭科の目標と内容
4．教材研究の方法
5．子供の生活実態
6．〜15．教材研究「家庭生活と家族」
「日常の食事と調理の基礎」
「快適な衣服と住まい」
「身近な消費生活と環境」
16．社会の変化に対応した学習指導
＊学習指導要領の内容に配慮しながら、家庭科の教材研究について考える。

その他　2〜4年次に履修。教室等の都合により受講制限を行う場合がある。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	66-64	家庭教材研究	2	後期　金 5, 6	林 未和子(教育学部)

授業の概要　家庭科教育の理念、目的、カリキュラム、学習内容、指導方法等の基本を理解する。

学習の目的　小学校の家庭科教員として必要な家庭科教育観、教材研究、授業研究の視点を養う。

学習の到達目標　小学校で家庭科を教える際に、どのような点に留意すればよいか、自分なりの考えを持つことができる。

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
前期・後期 毎週金曜日16:30〜17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
具体的なテーマとしては、以下のような内容で講義を進めていく予定であるが、場合によっては、講義項目の変更・追加もあり得る。
1〜3回小学校の家庭科教科書の変遷
4回家庭科の歴史的背景と教科としての特質
5回現行の学習指導要領と新学習指導要領
6〜8回家庭科の現代的課題と学習内容
9〜11回家庭科カリキュラム・指導法について
12〜14回教材研究・授業実践について
15回各グループ別のテーマに基づく調べ学習

その他　教室等の都合により受講制限を行う場合がある。その際、特に、教員免許の取得が必須であり、卒業年が近い学生を最優先する。受講希望者は、まず初回の授業に出席すること。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	66以前	国語科教育法 I	2	前期　木 3, 4	守田庸一（教育学部）

授業の概要　中学校及び高等学校の国語科について、教科書の教材や関連資料等を具体的に取り上げて検討する。

学習の目的　中学校・高等学校における国語科の授業を実践することができるようになる。

学習の到達目標
1．中学校・高等学校の国語教科書に載っている教材を研究することができる。
2．中学校・高等学校の国語科の授業を創造することができる。

教科書　授業時に資料を配付する。

成績評価方法と基準　レポートまたは試験、提出物、出欠席の状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容
第1回 国語科の目的
第2回 国語科の構造
第3回 文学教材（物語）の学習指導（中学校）
第4回 文学教材（小説）の学習指導（中学校）
第5回 文学教材（小説）の学習指導（高校・国語総合）
第6回 文学教材（小説）の学習指導（高校・現代文）
第7回 古典教材の学習指導（中学校）
第8回 古典教材の学習指導（高校）
第9回 説明的文章教材（説明文）の学習指導（中学校）
第10回 説明的文章教材（論説文）の学習指導（中学校）
第11回 説明的文章教材（評論文）の学習指導（高校・国語総合）
第12回 説明的文章教材（評論文）の学習指導（高校・現代文）
第13回 読むことの学習指導における今日的課題
第14回 書くことの学習指導
第15回 話すこと・聞くことの学習指導

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	66以前	国語科教育法 II	2	後期　月 5, 6	守田 庸一（教育学部）

授業の概要　中学校及び高等学校における国語科教材の価値と指導方法について、具体的に検討する。

学習の目的　中学校・高等学校における国語科の授業を実践することができるようになる。

学習の到達目標
1．中学校・高等学校の国語科教材について、その価値を考察することができる。
2．中学校・高等学校の国語科教材について、その指導方法を考案することができる。

予め履修が望ましい科目　国語科教育法 I

教科書　授業時に資料を配付する。

成績評価方法と基準　レポート、提出物、出欠席の状況、授業への参加状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容
中学校・高等学校の国語科における読むことの教材（教科書掲載の教材）を取り上げて、それらを具体的に研究し、学習指導の内容と方法を検討する。発表したり質疑に応じたりすることを通じて、国語科教育に関する実践的な知見をさらに深め広げられるようにする。
第1回 国語科における教材のジャンル
第2回 国語科における教材研究のあり方
第3回 国語科における学習指導案作成の方法
第4回 文学（物語）の教材研究と学習指導の検討（中学校）
第5回 文学（小説）の教材研究と学習指導の検討（中学校）
第6回 文学（小説）の教材研究と学習指導の検討（高校・国語総合）
第7回 文学（小説）の教材研究と学習指導の検討（高校・現代文）
第8回 随筆の教材研究と学習指導の検討（中学校）
第9回 随筆の教材研究と学習指導の検討（高校）
第10回 説明的文章（説明文）の教材研究と学習指導の検討（中学校）
第11回 説明的文章（論説文）の教材研究と学習指導の検討（中学校）
第12回 説明的文章（評論文）の教材研究と学習指導の検討（高校・国語総合）
第13回 説明的文章（評論文）の教材研究と学習指導の検討（高校・現代文）
第14回 中学校国語科における読むことの学びに関する総括討議
第15回 高校国語科における読むことの学びに関する総括討議

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65以前	国語科教育法III	2	前期集中	丹藤博文（教育学部非常勤講師）

授業の概要
中学校文学教材の研究
文学理論をふまえた読みの方法について概説したうえで、中学校国語教科書に掲載される文学教材について研究する。扱う予定の教材は以下の通り。
『少年の日の思い出』（ヘルマン・ヘッセ）『走れメロス』（太宰治）『故郷』（魯迅）『高瀬舟』（森鴎外）『言葉の力』（池田晶子）『よだかの星』（宮澤賢治）。
それぞれについて書誌・読まれ方などの概説を聴いたしたうえで討論・発表しレポートにまとめる。なお、教材は変更する場合がある。

学習の目的　文学教材の方法を意識して読むとともに、個々の教材について読みをもつことができる。

学習の到達目標　個々の文学教材について、読みのポイントや教材としての価値を明らかにしたうえで、授業を構想することができる。

予め履修が望ましい科目　国語科教育法 I ・ II

教科書　丹藤博文『文学教育の転回』教育出版 2014

成績評価方法と基準　レポート60%・出席20%・討論への参加・発表（20%）

オフィスアワー　連絡の窓口となる教員：守田庸一

学習内容
第1・2回 授業の進め方・評価などガイタンス。言語論（ソシュール言語学・ウィトゲンシュタインの言語ゲーム）、文芸批評理論（構造主義・テクスト論・記号論）、物語論の概説。
第3・4回 教材研究①「少年の日の思い出」（ヘッセ）:書誌・教材史・学校における受容の実際・先行研究の説明、グループによる読みの検討と発表、読みと教材価値の検討（以下、同様）。
第5・6回 教材研究②「走れメロス」（太宰治）。
第7・8回 教材研究③「故郷」（魯迅）。
第9・10回 教材研究④「高瀬舟」（森鴎外）。
第11・12回 教材研究⑤「言葉の力」（池田晶子・大岡信）。
第13・14回 教材研究⑥「よだかの星」（宮澤賢治）。
第15回 全体のまとめ、レポート提出。

その他　授業で扱う作品について事前に読んでおくことが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65以前	国語科教育法IV	2	後期集中	丹藤博文（教育学部非常勤講師）

授業の概要
高等学校文学教材の研究
日本近代文学研究および戦後文学教育の変遷を概説したうえで、高等学校国語教科書に掲載される文学教育の読みおよび教材価値について考察する。扱う予定の教材は以下の通り。
『羅生門』（芥川龍之介）『なめとこ山の熊』『注文の多い料理店』（宮澤賢治）『山月記』（中島敦）『舞姫』（森鴎外）『夢十夜』（夏目漱石）『空と風と星と詩』（尹東柱）。
それぞれについて書誌・読まれ方についての解説を聴いたうえで討論を行い、レポートにまとめる。なお、教材は変更する場合がある。

学習の目的　高等学校の文学教材について教材としての歴史、読まれ方などを理解するとともに、個々の教材について読みをもつことができる。

学習の到達目標　個々の教材について理解を深めるとともに、教材価値についての認識を持ち、授業を構想することができる。

予め履修が望ましい科目　国語科教育法III

教科書　丹藤博文『文学教育の転回』教育出版、2014

成績評価方法と基準　レポート60%・出席20%・討論への参加20%

オフィスアワー　連絡の窓口となる教員：守田庸一

学習内容
第1・2回 授業進め方・評価などガイダンス。戦後日本近代文学研究の展開（作家論・作品論・テクスト論・文化研究）の概説。
第3・4回 教材研究①「羅生門」（芥川龍之介）:書誌・教材史・学校における受容の実際・先行研究等の説明、グループによる読みの検討と発表、読みと教材価値の研究（以下、同様）。
第5・6回 教材研究②「なめとこ山の熊」（宮澤賢治）。
第7・8回 教材研究③「注文の多い料理店」（宮澤賢治）。
第9・10回 教材研究④「山月記」（中島敦）。
第11・12回 教材研究⑤「舞姫」（森鴎外）。
第13回 教材研究⑥「夢十夜」（夏目漱石）。
第14回 教材研究⑦「空と風と星と詩」（尹東柱）。
第15回 全体のまとめ、レポート提出。

その他　授業で扱う作品について事前に読んでおくことが望ましい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校の教科教育法	65- -63	社会科教育法Ｉb 社会科教育法Ｉ	2 2	前期　木3,4	永田 成文(三重大学教育学部)

授業の概要　地理的分野と歴史的分野を中心とした中学校社会科教育はどのような目的で，どのような内容があり，どのような方法がなされているのかをつかむ。また，教育現場で歴史的分野のモデル授業を分析し，授業案を構想する。

学習の目的　中学校の地理的分野と歴史的分野の目的・内容・方法をつかみ，どのようなことに心がけて歴史的分野の授業案を構想していけばよいのかをつかむ。

学習の到達目標　中学校の歴史的分野の授業案を構想し，評価できるようになる。

受講要件　3年生以上に限定する。社会科教育コース以外の学生は，社会科の専門科目を6単位以上取得しておくこと（10単位以上が望ましい）。第一回目の授業で調査する。

予め履修が望ましい科目　社会教材研究

教科書
魚住・山根ほか編『新版 21世紀社会科への招待』学術図書出版（購入）
中学校学習指導要領解説社会編（購入）
※それぞれ社会科教育法ⅡａorⅡｂでも使用

成績評価方法と基準　「参加態度(出席)」= 25%，「提出物」= 25%，「指導案」= 25%，「テスト」= 25%

オフィスアワー　毎週木曜日13:00〜14:00，共通教育1号館3F社会科教育第2研究室

学習内容
1．社会科の評価方法
2．社会科の評価問題の分析(歴史的分野)
3．中学校社会科教育の目標
4．中学校社会科教育の内容構成
5．地理的分野の目標と内容構成
6．地理的分野の内容と方法
7．歴史的分野の目標と内容構成
8．歴史的分野の内容と方法
9．中学校社会科歴史的分野の実践事例分析Ｉ
10.中学校社会科歴史的分野の実践事例分析Ⅱ
11.中学校社会科地理的分野の実践事例分析
12.単元構想(歴史的分野)
13.本時指導案構想(歴史的分野)
14.本時指導案作成(歴史的分野)
15.本時指導案評価(歴史的分野)

その他
地理的分野と歴史的分野を対象とし，Ｉbでは歴史的分野を中心に行います。Ｉa(地理的分野中心)とＩbは隔年開講です。社会科教育法ⅡａorⅡｂ(公民的分野)まで連続してとること。教育学部と人文学部に開講しています。
◎席指定で毎回出席確認 ◎遅刻3回で欠席1 ◎連続3回・通算5回欠で単位不認定

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校の教科教育法	64, 65	社会科教育法 II b	2	後期　木 3, 4	山根 栄次(教育学部社会科教育講座教授)
	-63	社会科教育法 II	2		

授業の概要
中学校社会科公民的分野の目標と内容、教材、指導法がわかるようにする。
公民的分野の教材研究と指導案作成ができるようにする。

学習の目的
中学校社会科公民的分野の教育について、その目標、内容と指導法がわかる。
公民的分野の教材研究と指導案作成ができる。

学習の到達目標
中学校社会科公民的分野の教育について、その目標、内容と指導法がわかる。
公民的分野の教材研究と指導案作成ができる。

受講要件　社会科教育法IIaもしくはIaを履修(単位取得)した者

予め履修が望ましい科目　法律学概論、政治学概論、経済学概論、社会学概論

教科書
魚住・山根他編『新版21世紀社会科への招待』、学術図書出版、2010年
文部科学省『中学校学習指導要領解説ー社会編、平成20年9月』日本文教出版

成績評価方法と基準　出席(如何なる理由があろうと、講義回数の三分の二以上の出席がなければ受験資格を認めない)。レポート50%、試験50%、計100%

オフィスアワー　毎週火曜日10:30〜11:30、山根研究室

学習内容
第1回：中学校社会科教育課程の歴史的変遷1(1955年まで)
第2回：中学校社会科教育課程の歴史的変遷2(1958年以降)
第3回：現在の中学校社会科の教育目標と教育課程
第4回：現在の中学校社会科公民的分野の目標と教育課程
第5回：学校における経済教育の根本問題1（経済的社会化と経済への参画）
第6回：学校における経済教育の根本問題2（経済における市場と政府の役割）
第7回：世界の学校における経済教育
第8回：経済学習の諸指導方法
第9回：経済教育領域の学習指導案の様式
第10回：経済教育領域の学習指導案の作成準備
第11回：経済教育領域の学習指導案の作成
第12回：経済教育領域の学習指導案の発表と検討
第13回：経済教育領域の学習指導案の修正
第14回：政治教育領域の学習指導
第15回：国際関係領域の学習指導
第16回 : 定期試験
(株式学習ゲームに参加する。)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
高校の教科教育法	65-	地理・歴史科教育法	④	その他(学習要項・履修要項等を参照してください)　木1,2	地理：永田 成文(三重大学教育学部)，歴史：深草 正博(皇學館大学教育学部)

授業の概要　高等学校地理歴史科教育とはどのような目的で，どのような内容や方法があるのかるのかをつかむ。また，地理教育における現代世界の諸課題や歴史教育における文化と環境を取り上げる意義を理解する。

学習の目的　高等学校の地理歴史科教育ではどのような視点から授業を組み立てていけばよいのかをつかむ。

学習の到達目標　高等学校の地理歴史科教育のカリキュラムと単元構成をつかみ，授業構成の背景を説明することができるようになる。

受講要件　受講は3年生以上に限定する。地理歴史科の専門科目を10単位以上取得しておくこと。第一回目に調査するので取得した単位を調べておくこと。地理教育(永田担当)と歴史教育(深草担当)を総合して評価する。同年度で地理教育の後期と，歴史教育の後期集中をとらなければ単位は取得できない。

予め履修が望ましい科目　社会教材研究，社会科教育法Ⅰa or Ⅰb・社会科教育法Ⅱa or Ⅱb

教科書
地理
『データブックオブザワールド』二宮書店（購入）
高等学校学習指導要領解説地理歴史編（購入）
歴史
必要に応じてプリントを配布する。

成績評価方法と基準　「参加態度(出席)」= 25%，「提出物」= 25%，「レポート」= 25%，「テスト」= 25%

オフィスアワー　毎週木曜日13:00〜14:00，共通教育1号館3F社会科教育第2研究室

学習内容
地理(永田担当)後期
1．地理の評価問題
2．高校地理歴史科の創設の背景
3．高校地理教育の目標
4．高校地理教育の内容構成
5．地誌の内容構成
6．地誌の指導計画
7．系統地理の内容構成
8．系統地理の指導計画
9．テーマ地理の内容構成
10.テーマ地理の指導計画
11.現代世界の諸課題のレポート作成方法
12.現代世界の諸課題のレポート作成
13.地誌の評価問題
14.系統地理・テーマ地理の評価問題
15.現代世界の諸課題のレポート発表
歴史(深草担当)後期集中
学習指導要領をベースにしながら，どのような理念で新たなものを創造するか，創造的歴史教育を構築することの必要性と楽しさを理解する。
1〜4回の内容
世界史教育のあり方をめぐって，ヨーロッパ中心史観からの脱却を目指すということ。
5〜8回の内容
日本史を世界史の文脈で捉え直すということ。
9〜12回の内容
歴史教育に環境問題を組み込むことの必要性について，主に気候と森林破壊といった二つの側面から考察すること。
13〜15回の内容
歴史そのものを異文化として捉えるということ。
16回の内容
講義内容のまとめ

その他　教育学部と人文学部に開講しています。集中講義(冬期休業中12月予定)を意識しておくこと。永田担当分(地理)と深草担当分(歴史)を合わせて通年4単位となる。地理では席指定で毎回出席確認，遅刻3回で欠席1，連続3回・通算5回欠で単位不認定とします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
高校の教科教育法	64	公民科教育法	④	通年　火 7, 8	山根 栄次(教育学部社会科教育講座教授) 北川 淳一(三重県立亀山高校教諭)

授業の概要
・公民科の目標を理解する。
・公民科の基本的な内容が分かる。
・公民科の授業を構成するための教材研究ができる。
・公民科の学習指導案が書ける。
・公民科に関する模擬授業ができる。

学習の目的　・公民科の教科目標、カリキュラムが理解できるとともに公民科の学習指導案が書け、授業ができるようになる。

学習の到達目標　・公民科の教科目標、カリキュラムが理解できるとともに公民科の学習指導案が書け、授業ができるようになる。

受講要件　教育学部は、3年次に社会科教育法I、及びIIを履修している者。人文学部は3年次以上の学生。

予め履修が望ましい科目　経済学概論、社会学原論、政治学概論、法学概論

教科書
日本公民教育学会編、『テキストブック公民教育』、第一学習社
文部科学省『高等学校学習指導要領解説ー公民編 平成22年6月』教育出版

成績評価方法と基準　出席(原則として、遅刻を含まず、講義回数の三分の二以上の出席がなければ、試験の受験資格を認めない。)授業への参加度10%、レポート40%、定期試験50%。

オフィスアワー　毎週水曜9:20〜10:20、社会科教育第1研究室

学習内容
前期(山根分)
第1回 公民の概念
第2回 公民科教育の目標
第3回 公民教育の歴史(戦前)
第4回 公民教育の歴史(戦後)
第5回 高校公民科の成立と推移
第6回 公民科の諸科目と内容構成
第7回 公民教育の現代的課題
第8回 公民科の内容(社会関係)
第9回 公民科の内容(倫理関係)
第10回 公民科の内容(政治教育関係)
第11回 公民教育の内容(法教育関係)
第12回 公民科の内容(経済教育関係)
第13回 公民科の内容(租税・財政教育関係)
第14回 公民教育の内容(国際政治関係)
第15回 公民教育の内容(国際経済関係)
定期試験
後期(北川分) (教材の研究、学習指導案づくり、模擬授業)
第1回 公民科学習指導案の形式と内容
第2回 公民科の様々な学習指導法
第3回 グループ構成と授業テーマの決定
第4回 授業目標の構成と内容の理解
第5回 授業テーマに関係する学習指導案の分析
第6回 授業に係わる教材の研究(教科書の検討)
第7回 授業に係わる教材の研究(関連図書、関連文献、インターネット)
第8回 学習指導案(素案)の作成
第9回 学習指導案の作成(素案の修正)
第10回 学習指導案の作成(成案の作成)
第11回 模擬授業の準備(授業で用いる資料等の作成)
第12回 模擬授業Aと授業についての考察
第13回 模擬授業Bと授業についての考察
第14回 模擬授業Cと授業についての考察
第15回 模擬授業Dと授業についての考察
振り返り

その他　教育学部は、4年生が受講可能。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高等学校の教科教育法		数学科教育法 II	④	通年　木 5, 6	田中伸明（教育学部）

授業の概要　中学校および高等学校における数学教育の理念・目的・カリキュラム構成・内容・方法の基本を修得する。

学習の目的　中学校および高等学校の数学科教員として必要な教育観を修得し、教材研究、授業研究の視点を養う。

学習の到達目標
数学教育の目的・目標を理解する。
数学教育の現状と課題を理解する。
数学教育の教育課程を理解する。
数学教育の教材研究を通して、授業づくりの基本を習得する。
数学教育の学習指導案作成を通して、授業構成力を培う。
数学教育の学習指導法研究を通して、授業実践力を培う。
数学教育の評価について理解し、学習者評価、授業評価ができるようになる。

受講要件
その他 3年生以上が履修可能。下記の専門科目より、10単位以上を修得済みであること。
代数学概論、代数学演習、幾何学概論、幾何学演習、解析学概論、解析学演習、確率・統計学

教科書　中学校用数学教科書『未来へひろがる数学』1, 2, 3（啓林館）

成績評価方法と基準　定期試験及び学習への意欲・関心・態度等を総合的に評価する。

オフィスアワー
火曜日12:00~13:00
教育学部一号館4F 数学教育第1研究室

学習内容
1．戦後の数学教育史概観
2〜3．正負の数
4．文字式（計算の規則、文字式の有効性）
5．一次方程式（計算配列と応用）
6〜8．比例
9．平面図形
10〜11．空間図形（正多面体・切断・求積）
12．連立方程式
13〜15．一次関数
16．前期試験
17〜20．図形と論証
21〜22．展開と因数分解
23〜24．平方根
25．二次方程式
26．2乗に比例する関数
27〜28．相似
29〜30．円（いろいろな定理）
31．三平方の定理
32．後期試験
一身田校区の中学校での実地的研究（生徒への学習支援）を行なう。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65-62	理科教育法 I	2	前期　木 1, 2	平賀伸夫，荻原彰

授業の概要　理科教育法は，I と II を連続して行う．主として，一身田中学校区の小・中学校の理科授業に参加し，I では理科授業への心構え，準備，安全管理，児童・生徒への接し方などを学ぶ．II では学生自身による理科授業の計画（plan)・実践(do)・見直し(see)を行い，それらの体験を通じて理科授業の運営について学ぶ．

学習の目的　小・中学校の理科授業への参加を通して，理科授業を計画・実施するための基本技能を習得する．

学習の到達目標　理科授業を計画・実施するための基本技能を習得できたか．

成績評価方法と基準　取り組み状況，レポートによる．

オフィスアワー
平賀：毎週金曜日8:50〜10:20，理科教育第1研究室(平賀研究室),
E-mail hiraga@edu.mie-u.ac.jp
荻原：毎週火曜日14：40〜16:10，理科教育第2研究室（荻原研究室），
E-mail ogi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容　理科授業に関わる基本技能(理科授業への心構え，準備，安全管理，児童・生徒への接し方等）の講義，及び，一身田中学校区を中心とした小・中学校の理科授業への参加を組み合わせて，授業を計画・実施する．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	64-60	理科教育法 II	2	後期　木 1, 2	荻原彰, 平賀伸夫

授業の概要　理科教育法は I と II を連続して行う。主として、一身田中学校区の小中学校の理科授業に参加し、I では理科授業への心構え、準備、安全管理、児童・生徒への接し方などを学ぶ。II では学生自身による理科授業の計画（plan)、実践（do)、見直し（see)を行い、それらの体験を通じて理科授業の運営について学ぶ。

学習の目的　小中学校の理科授業への参加を通して、理科授業を計画・実施するための基本技能を習得する。

学習の到達目標　理科授業を計画・実施するための基本技能を習得できたか

受講要件　3年生以上を対象とする

成績評価方法と基準　取り組み状況とレポートによる

オフィスアワー
荻原：毎週金曜日9・10限，理科教育第2研究室（荻原研究室），
E-mail ogi@edu.mie-u.ac.jp
平賀：毎週金曜日8:50〜10:20，理科教育第1研究室(平賀研究室),
E-mail hiraga@edu.mie-u.ac.jp

学習内容　理科授業に関わる基本技能（理科授業への心構え、準備、安全管理、児童・生徒への接し方等）の講義及び一身田中学校区を中心とした小中学校の理科授業への参加を組み合わせて授業を計画・実施する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	66	音楽科教育法 I	2	前期　木 7, 8	川村 有美（教育学部音楽教育コース）

授業の概要
中学校・高等学校の音楽科の授業づくりに関する基本的な考え方について講義する。
授業は基本的に講義形式で進めるが、内容によってはグループ学習を行ったり、具体的な事例に即して体験的に学ぶこともある。

学習の目的
中学校・高等学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な考え方への理解を深める。
音楽授業をつくる力量を身につける。

学習の到達目標

教科書　音楽の授業づくり研究会編『新・音楽の授業づくり』（教育芸術社）

成績評価方法と基準　平常点（50点）、期末試験（50点）。

オフィスアワー　毎週木曜日13：00〜14：00、場所：川村研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：日本の音楽教育の歴史
第3回：世界各国の音楽教育の現状
第4回：学習指導要領の変遷
第5回：音楽科における3つの授業構成法
第6回：[共通事項]と音楽の授業づくり
第7回：評価と音楽の授業づくり
第8回：音楽理解と子どもの発達
第9回：授業づくりの実際（1）ー歌唱を中心に
第10回：授業づくりの実際（2）ー器楽・合奏を中心に
第11回：授業づくりの実際（3）ー音楽づくりを中心に
第12回：授業づくりの実際（4）ー鑑賞を中心に
第13回：授業づくりの実際（5）ー日本の音・音楽を中心に
第14回：学習指導案の意味と作成手順
第15回：中学校・高等学校音楽科の課題と展望
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65-66	音楽科教育法 II	2	後期　火 3, 4	根津 知佳子

授業の概要　中学校音楽科のカリキュラム構成について、理論的・実践的に理解し、発達課題に即した音楽科の授業および活動を検討する。

学習の目的
中学校段階の発達課題を理解する（小中高との関連も含む）。
中学校音楽科のカリキュラム構成について理解する。
中学校音楽科の教材について、発達的視点による理解ができる。

学習の到達目標
中学校音楽科のカリキュラム構成について、理論的・実践的に理解できる。
発達課題に即した音楽科の授業および活動を考案できる。

教科書　資料を配布する。

成績評価方法と基準　毎回の授業における課題の達成度を総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日 12：00〜13：00

学習内容
① オリエンテーション
② 中学校の音楽科をめぐる今日的課題
③ 中学校の音楽科のカリキュラム構成
④ スコープ
⑤ シークエンス
⑥ 内外のカリキュラム比較
⑦ 発達理論とカリキュラム
⑧ 思春期の発達課題と音楽表現
⑨ 比較 歌唱領域
⑩ 比較 器楽領域
⑪ 比較 鑑賞領域
⑫ 比較 創作領域
⑬ 教科指導と特別活動
⑭ 総合的な学習の時間と音楽科
⑮ まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65-66	音楽科教育法III	2	前期　水 3, 4	根津 知佳子

授業の概要
思春期から青年期の発達課題を理解し、中学校〜高等学校音楽に必要な理論・知識を身につける。
「総合的な学習の時間」と音楽科とのかかわりについて学ぶ。

学習の目的　中学校〜高等学校の授業を発達論、カリキュラム論を軸として俯瞰し、音楽教育の意義について学ぶ。

学習の到達目標　中等科音楽の授業構成や音楽教育の意義について学ぶ。

教科書　資料を配布する。

成績評価方法と基準　課題に対する達成度を総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日 12：00〜13：00

学習内容
第1回：オリエンテーション
第2回：思春期の発達特性と音楽① 成熟
第3回：思春期の発達特性と音楽② 自我の発達
第4回：認知の発達と音楽
第5回：音楽科教育における感性
第6回：思春期の発達特性をふまえた音楽科教育の在り方
第7回：カリキュラムにおけるスコープ ① 歌唱
第8回：カリキュラムにおけるスコープ ② 器楽
第9回：カリキュラムにおけるシークエンス ① 小学校とのつながり
第10回：カリキュラムにおけるシークエンス ② 高等学校とのつながり
第11回：創造的な音楽学習の課題と展望
第12回：総合的な学習の時間とのかかわり
第13回：音楽をコアとした総合的な学習の時間
第14回：地域文化と音楽科教育
第15回：中等科音楽の意義〜自我形成の視点から〜
定期試験：レポートの提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65	音楽科教育法IV	2	後期　木 1, 2	川村有美（教育学部）

授業の概要
中学校・高等学校の音楽科の授業づくりについて、一層の理解を深めることを授業のコンセプトとする。具体的には、授業記述の方法、授業分析の方法、教材のつくり方等々について講義する。授業は基本的に講義形式で進めるが、内容によってはグループ学習を行ったり、具体的な事例に即して演習形式で学ぶこともある。

学習の目的　中学校・高等学校の音楽科の授業づくりについて、一層の理解を深める。具体的には、授業を記録する力、授業を分析する力、主題による教材の組織化の方法に関する力を高める。

学習の到達目標　中学校・高等学校の音楽科の授業づくりについて、一層の理解を深める。具体的には、授業を記録する力、授業を分析する力、主題による教材の組織化の方法に関する力の獲得。

受講要件　音楽科教育法Ⅰ～Ⅲを履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　「音楽科教育法Ⅰ」

教科書　授業中、指示する。

オフィスアワー　木曜日：12時～13時

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：授業記録の意味
第3回：授業記録と音楽授業
第4回：授業記録を書く
第5回：授業分析の意味
第6回：授業分析と音楽授業－ストップモーション方式を中心に
第7回：音楽授業と教材開発
第8回：教材開発の視点－[共通事項]を中心に
第9回：教材開発の視点－場の生成を中心に
第10回：教材開発の視点－社会・メディアを中心に
第11回：教材づくり（1）
第12回：教材づくり（2）
第13回：教材づくり（3）
第14回：模擬授業の実施と検討
第15回：授業の振り返り
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	59-66	美術科教育法Ⅰ	2	後期　火 7, 8	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　美術科とはどういう教科か。それにより身につく学力とは何か。それを身につけさせるには，どのような教材が適切で，どのような授業運営が可能か。これらの問題に各受講者が確信をともなう答を獲得することをねらいとする。講義に加え，実際の授業教材例を分析し，実例を交えた学習指導案の成り立ちを理解する。さらにグループワークとして具体的な教材を開発し，指導案を作成し，模擬授業を行う。その指導案および模擬授業のビデオ記録について，講師に招いた中学校教員から生徒の現状にそった指導を受ける（附属中学校での教育実習にて開発した教材による授業が可能）。

学習の到達目標　中・高等学校の美術科について，自分なりに題材を考えて授業ができる基礎能力の獲得。

予め履修が望ましい科目　教育実地研究基礎（上山開講分）

教科書　文部科学省『中学校学習指導要領解説美術科編』開隆堂・竹内博編『美術教育を学ぶ人のために』世界思想社・宮脇理編『ベーシック造形技法』建帛社

成績評価方法と基準　期末のレポートを主とし、その他講義期間内の小レポート、出席率等を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00～13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス，事前実習にみる生徒理解
2．美術教育の理念と目的
3．美術教育の発生と近代化の歴史
4．学習指導要領にみる美術科の現状
5．創造主義，DBAE，マニュアル化問題
6．美術科教材の機能と評価
7．授業の成立と教師の仕事
8．美術科教材の事例の分析
9．学習指導案による授業設計
10．教材開発（表現活動・指導案作成）
11．教材開発（指導案作成）
12．教材開発（細部検討・模擬授業準備）
13．模擬授業，授業分析
14．実地指導（附属校教員による授業分析）
15．実地指導（一般校教員による授業分析）

その他
美術教育コース65期生は全員受講する必要がある。(美術教育コース教育実習事前必修科目)
受講に先立ち，事前実習を履修する必要がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65-59	美術科教育法 II	2	前期　金 3, 4	山田康彦（教育学部美術教育講座）

授業の概要
美術科教育の目的、内容、方法を総合的に学習する
中学校・高等学校の美術免許の教職科目としての必修科目である。

学習の目的
思春期の美術活動の実際を知り、生徒の作品を見る目を養う。
美術教育の歴史と理論を概観し、現代の美術科の内容と方法の課題を知る。
授業の事例シナリオを通して、美術の指導に当たっての問題を発見し解決する方法を考察する。
教育実習等を念頭に置いて、実際に教材を研究し、指導案を作成する。

学習の到達目標
思春期の美術活動の実際を知り、生徒の作品に対する教育的なコメントができるようになる。
美術教育の歴史と理論を概観し、現代の美術科の内容と方法の課題を示すことができる。
授業の事例シナリオを通して、美術の指導に当たっての問題を発見し解決する方法を考察することができる。
教育実習等を念頭に置いて、実際に教材を研究し、指導案を作成することができる。

予め履修が望ましい科目
図工教材研究
美術科教育法 I

教科書　文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』日本文教出版

成績評価方法と基準　出席、授業期間中の小レポートと提出物、期末レポートの結果を総合的に評価する。

オフィスアワー
水曜日 10:30〜12:00
場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回：ガイダンス、授業計画と教育実習までの準備過程・心構え
第2回：思春期の美術活動の発達と見方（1）
第3回：思春期の美術活動の発達と見方（2）
第4回：美術教育の歴史と理論（1）
第5回：美術教育の歴史と理論（2）
第6回：美術科学習指導要領の内容と到達点
第7回：新しい美術教育の理論と課題
第8回：事例シナリオによる美術教育授業研究（1）導入の授業場面
第9回：事例シナリオによる美術教育授業研究（2）作品を通した制作過程シュミレーション
第10回：事例シナリオによる美術教育授業研究（3）制作過程でのトラブルへの対応
第11回：事例シナリオによる美術教育授業研究（4）制作が困難な生徒への対応
第12回：教材研究と指導案の作成（1）題材の設定
第13回：教材研究と指導案の作成（2）目標の設定の仕方
第14回：教材研究と指導案の作成（3）指導上の考察の検討
第15回：指導案の発表
第16回：美術科教育の課題の総合的検討

その他　美術教育3年次生（65期生）以降の履修になる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	64-66	美術科教育法III	2	前期　火 7, 8	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　美術科教育のあり方について様々な角度から検討し，指導者として必要な観念を形成する。

学習の目的　今日的な問題に対応した美術科授業実施の基礎力を得る。

学習の到達目標　美術科により身につく学力とは何か。それを身につけさせるのに適切な教材や授業運営はどのようなものが可能か。これらの問題を協同学習・映像メディア表現をキーワードに研究し，それを活かした授業実践能力を獲得する。

予め履修が望ましい科目　美術科教育法 I

教科書　授業開始後，指定することがある。

成績評価方法と基準　期末の提出作品およびレポートを主とし，その他講義期間内の小レポート，受講状況を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学演習室1

学習内容
第1回：ガイダンス，美術科教育実践の現代史
第2回：美術科教育実践の近年の動向
第3回：美術科授業題材のバリエーション
第4回：中等教育の教育現場における現代の諸課題
第5回：「学びの共同体」の考え方
第6回：「学びの共同体」の実践事例
第7回：協同学習の基礎理論
第8回：協同学習と美術教育の関係
第9回：協同学習と共同制作・鑑賞
第10回：協同学習を中心にした美術科授業実践の理解
第11回：協同学習を中心にした美術科授業実践の開発
第12回：協同学習を中心にした美術科授業実践の課題
第13回：映像メディア表現とICT利用
第14回：映像メディア表現の教材化
第15回：映像メディア表現を内容とした授業実践

その他
受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。
尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動を含む場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	66-64	美術科教育法Ⅳ	2	前期　木 9, 10	山田康彦（教育学部美術教育講座）

授業の概要
美術科教育の目的、内容、方法の発展的な学習をする
中学校・高等学校の美術免許の教職科目としての選択科目である。

学習の目的
各自が授業の目的を立て、それにふさわしい題材設定と指導案の作成を行う。
様々な美術教育実践を実際に参観して分析する。
子どもの美術作品の見方とその指導方法を深化させる。
各自が展望する美術教育実践構想を立てる。

学習の到達目標
各自が授業の目的を立て、それにふさわしい題材設定と指導案の作成を行うことができる
様々な美術教育実践を実際に参観して分析することができる。
子どもの美術作品の見方とその指導方法を深化させることができる。
各自が展望する美術教育実践を構想することができる。

予め履修が望ましい科目　美術科教育法Ⅱ

成績評価方法と基準　出席、授業期間中の小レポートと提出物、期末レポートの結果を総合的に評価する。

オフィスアワー
水曜日 10:30〜12:00
場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回：ガイダンス、美術教育の現代的課題
第2回：各自の授業目的と教材・指導案の作成（1）
第3回：各自の授業目的と教材・指導案の作成（2）
第4回：各自の授業目的と教材・指導案の作成（3）
第5回：美術教育実践の実地分析（1）
第6回：美術教育実践の実地分析（2）
第7回：美術教育実践の実地分析（3）
第8回：美術教育実践の実地分析（4）
第9回：子どもの美術作品の見方と指導（1）自画像の例に
第10回：子どもの美術作品の見方と指導（2）風景画を例に
第11回：子どもの美術作品の見方と指導（3）絵本作りを例に
第12回：美術教育実践構想（1）構想
第13回：美術教育実践構想（2）計画
第14回：美術教育実践構想（3）発表
第15回：美術科教育の課題

その他　美術教育3年次生（65期生）以降の履修になる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	64〜66 63以前	保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅰ	2 2	前期　火 1, 2	岡野 昇

授業の概要　被教育者体験や身体論・学習論・学習指導要領をもとに「体育と体育授業（学習）」のあり方について探究すると同時に，各領域の授業デザインの検討を通して体育の授業計画・教材開発について学ぶ。

学習の目的
・中学校・高校の保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身につけることができる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，中学校・高校の保健体育科のあり方について探究することができる。

学習の到達目標
・中学校・高校の保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身につけることができる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，中学校・高校の保健体育科のあり方について探究することができる。

受講要件　中・高1種（保健体育）免許状取得希望する2年生は必ず受講すること。

教科書
・岡野昇・佐藤学（2015）『体育における「学びの共同体」の実践と探究』大修館書店
・文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説保健体育編』
・文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』

成績評価方法と基準　授業過程における討議，学習課題（レポート，授業デザインなど）の内容を成績の資料とする。評価の観点は，「問題把握の深さ」と「授業を通した自己の脱構築性」とする。

オフィスアワー　前・後期 水曜日12:00〜13:00，保体（保健体育科教育学Ⅱ）研究室

学習内容
第1回：ガイダンス―授業概要，授業の進め方など―
第2回：「体育と体育授業（学習）」の探究①―被教育者体験から―
第3回：「体育と体育授業（学習）」の探究②―身体論から―
第4回：「体育と体育授業（学習）」の探究③―学習指導要領から―
第5回：「体育と体育授業（学習）」の探究④―学習論から―
第6回：保健体育科教材研究①―器械運動の授業デザイン―
第7回：保健体育科教材研究②―陸上競技の授業デザイン―
第8回：保健体育科教材研究③―水泳の授業デザイン―
第9回：保健体育科教材研究④―球技の授業デザイン―
第10回：保健体育科教材研究⑤―武道の授業デザイン―
第11回：保健体育科教材研究⑥―ダンスの授業デザイン―
第12回：保健体育科教材研究⑦―体つくり運動の授業デザイン―
第13回：保健体育科教材研究⑧―保健の授業デザイン―
第14回：保健体育科教材研究⑨―体育理論の授業デザイン―
第15回：保健体育科授業観察法―授業観察と授業研究―

その他　「保健体育科教育法Ⅲ」を履修する前に，本講義を受講しておくこと。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	64〜66 63以前	保健体育科教育法III 保健体育科教育法II	2 2	後期　火1,2	岡野 昇

授業の概要　授業者の意図と自らの問題をもとに「体育と体育授業（学習）」のあり方について探究すると同時に，各領域の学習指導案作成・実践・省察を通して体育の授業計画・教材開発・授業研究について学ぶ。

学習の目的
・中学校・高校の保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身につけることができる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，中学校・高校の保健体育科のあり方について探究することができる。
・保健体育科学習指導案を作成することができる。

学習の到達目標
・中学校・高校の保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身につけることができる。
・自らの思考の枠組みをくずしながら，中学校・高校の保健体育科のあり方について探究することができる。
・保健体育科学習指導案を作成することができる。

受講要件
・保健体育科教育法Ⅰの単位を取得した者。
・中・高1種（保健体育）免許状取得希望する2年生は必ず受講すること。

教科書
・岡野昇・佐藤学（2015）『体育における「学びの共同体」の実践と探究』大修館書店
・文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説保健体育編』
・文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』

成績評価方法と基準　授業過程における討議，学習課題（レポート，学習指導案，エピソード記述等）の内容を成績の資料とする。評価の観点は，「問題把握の深さ」と「授業を通した自己の脱構築性」とする。

オフィスアワー　前・後期 水曜日12:00〜13:00，保体（保健体育科教育学Ⅱ）研究室

学習内容
第1回：保健体育科授業研究―単元計画の作成①―
第2回：保健体育科授業研究―単元計画の作成②―
第3回：保健体育科授業研究①―器械運動の授業デザインと模擬授業―
第4回：保健体育科授業研究①―器械運動の模擬授業省察―
第5回：保健体育科授業研究②―陸上競技の授業デザインと模擬授業―
第6回：保健体育科授業研究②―陸上競技の模擬授業省察―
第7回：保健体育科授業研究③―球技の授業デザインと模擬授業―
第8回：保健体育科授業研究③―球技の模擬授業省察―
第9回：保健体育科授業研究④―武道の授業デザインと模擬授業―
第10回：保健体育科授業研究④―武道の模擬授業省察―
第11回：保健体育科授業研究⑤―体つくり運動・ダンスの授業デザインと模擬授業―
第12回：保健体育科授業研究⑤―体つくり運動．ダンスの模擬授業省察―
第13回：保健体育科授業研究⑥―保健の授業デザインと模擬授業―
第14回：保健体育科授業研究⑥―保健の模擬授業省察―
第15回：保健体育科教育小論文発表会
＊9月の教育実習と11月の附属中学校公開研究会における授業観察を行う。詳細は後日連絡する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
	66	技術科教育法Ⅰ	2	前期　水1,2	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　主に初等教育（幼児教育や小学校教育等）におけるものづくりを中核とした教材を取り上げ，実際に指導できるための基礎・基本の知識・技能を習得すると共に，この発達段階における教材を実際に構想し開発して，さらに学習過程を構築することができることを目的とする。

学習の目的　この授業を履修することにより，初等教育でのものづくり教育における教材を開発することができるようになる。

学習の到達目標
・初等教育におけるものづくり教育での教材について理解する。
・初等教育における教材作成に関わる基礎・基本の知識・技能を習得する。
・初等教育のものづくり教育における教材研究の方法を理解する。
・初等教育のものづくり教育における教材を構想して開発し，それを基にした学習過程を構築することができる。

予め履修が望ましい科目　技術学概論

教科書
・幼稚園学習指導要領解説
・小学校学習指導要領解説 生活
・小学校学習指導要領解説 図画工作
その他，授業に必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議等を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00〜13:00，技術科教育学研究室

学習内容
1回 オリテン：事前アンケート，小学校におけるものづくり教育の現状と課題
2回 幼児教育における教材と製作
・折紙（手を使ったものづくり）
3回 ・紙飛行機（目的をもったものづくり）
4回 小学校の生活科・図画工作科における教材と製作
・秋を見つけよう（木の実，枯れ葉，草花等を用いたものづくり）
5回 ・切り絵（はさみをを用いたものづくり）
6回 ・モビール（カッターナイフを用いたものづくり）
7回 ・バターナイフ（竹を用いたものづくり）
8回 ・Tパズル（木材を用いたものづくり）
9回 ・サファリパークを作ろう（段ボール紙を用いたものづくり）
10回 ・カードクリップ（セメントを素材としたものづくり）
11回 ・タワーコンテスト（コンテスト形式のものづくり）
12回 幼稚園または小学校でのものづくり教育における教材の構想
13回 幼稚園または小学校でのものづくり教育における教材の製作
14回 教材と学習過程の提案と協議
15回 まとめ

その他　状況に応じては，実習材料費等を徴収することもある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校の教科教育法	～66	技術科教育法 II	2	後期　火 7, 8	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）
	～63	技術科教材研究	2		

授業の概要　中学校技術・家庭科（技術分野）における教材開発の方法について理解すると共に，実際に教育実習での教材を開発し，学習過程を構築できることをねらいとする。

学習の目的　この授業を履修することにより，中学校技術・家庭科技術分野での教材開発を行うことができるようになる。

学習の到達目標
・技術科教育の授業における教材の役割を理解することができる。
・技術科教育における教材開発の方法を理解し，実際に教材を開発し，学習過程を構築することができる。
・中学校技術・家庭科（技術分野）の学習指導案を作成することができる。

予め履修が望ましい科目　技術学概論，技術科教育法 I

教科書
新技術科教育総論，中学校学習指導要領解説 技術・家庭編
その他，授業に必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議等を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00～13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 ○ オリエンテーション：本授業の概要説明
2回 1．技術科教育の授業における教材の意義と役割
(1)「教材」の定義と分類
3回 (2) 技術科教育における「教材」・「教具」・「題材」
4回 2．技術科教育における教材研究
(1) 教材研究の意義
(2) 教材解釈と教材開発
(3) 教材開発の手順
5回 3．技術科教育における教材の実際
(1) ガイダンス的内容での教材：タワーコンテストの実施
6回 (2) ガイダンス的内容での教材の検討
7回 (3) 材料加工での教材：万年カレンダーの製作
8回 (4) 材料加工での教材の検討
9回 (5) 生物育成での教材：スプラウトの栽培の実施
10回 (6) 生物育成での教材の検討
11回 (7) エネルギー変換と情報での教材：ブレッドボードを用いた教材の実践
12回 (8) エネルギー変換と情報での教材の検討
13回 4．技術科教育における教材開発の実際
(1) 課題の成立
(2) 教育内容の研究
14回 (3) 教材化
15回 5．教材の解説と模擬授業における検証

その他　小・中学校の研究発表会に参加し，学校現場の実践と教材について検討する取組を行うこともある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65	技術科教育法III	2	前期　火 5, 6	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）
	～63	技術科教育法 I	2		

授業の概要　技術科教育での授業を行うために必要とされる基礎・基本の知識・技能を習得する。

学習の目的　この授業を受講することにより，教育実習において実際に授業を遂行できることをねらいとしている。

学習の到達目標
・技術科教育の目標と内容を理解できる。
・技術科教育における主な学習指導方法を理解できる。
・技術科教育の教育課程を理解し，学習指導案を作成できる。
・技術科教育における安全教育について理解できる。
・模擬授業を計画し，実践できる。
・授業での評価の観点を理解し，実際に評価できる。
・授業において評価を活用した学習支援を構想することができる。

予め履修が望ましい科目　ものづくり教材研究，技術科教育法 I，技術科教育法 II

教科書
新技術科教育総論，中学校学習指導要領解説 技術・家庭編
その他，授業に必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議，模擬授業，試験 等を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00～13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 ○ オリテン：技術学概論の復習，本授業の概要説明
2回 1．技術科教育の役割と目的についての考察
(1) 技術と人類
3回 (2) 技術と人間形成
4回 (3) 技術と今日的課題
5回 2．技術科教育における教育課程の編成
6回 3．技術科教育における目標と内容の検討
(1) 上位法並びに中学校学習指導要領総則の検討
7回 (2) 技術・家庭科（技術分野）の学習指導要領の検討
8回 4．技術科教育における授業の設計と学習過程の構築
(1) 授業設計の基本的な考え方
(2) 授業設計の方法
9回 (3) 授業での評価と支援
10回 (4) 授業での教授技術
(5) 授業での安全教育
11回 5．技術科教育における授業の実践
(1) 学習指導案の考え方
12回 (2) 学習指導案の作成
13回 (3) 模擬授業の準備
14回 (4) 模擬授業の実施と協議
15回 まとめ
16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65	技術科教育法IV	2	後期　月5,6	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）
	～63	技術科教育法II	2		

授業の概要　技術科教育法IIIの深化・発展として，教育実習での授業を分析し，授業改善の方法について理解すると共に，これからの社会に求められる中学校技術・家庭科（技術分野）の授業を創造できることをねらいとする。

学習の目的　この授業を履修することにより，これからの社会に求められる技術科教育での授業を自ら創造していくことができるようになる。

学習の到達目標
・教育実習での自らの授業を分析・検討することができる。
・授業を改善する方法について理解すると共に，より良い授業を構想し設計することができる。
・これからの社会に求められる技術科教育での授業を創造することができる。

受講要件　技術科教育法IIIを履修していること。

予め履修が望ましい科目　ものづくり教材研究または技術教育法Ⅰ，技術科教育法II，技術科教育法III

教科書
・文部科学省：中学校学習指導要領解説 総則編，2009
・文部科学省：中学校学習指導要領解説 技術・家庭編，2010
・日本産業技術教育学会：新 技術科教育総論，2009
その他，授業に必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議等を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00～13:00，場所：技術科教育研究室

学習内容
1回 ○ オリテン：教育実習の振り返り，本授業の概要説明
2回 1．教育実習での授業の発表と協議
3回 2．教育実習での授業の分析と検討
(1) 単元案の分析と検討
① 指導計画の作成と単元の位置づけ
② 単元目標の見直しと評価計画の作成
4回 ③ 単元観の検討
5回 (2) 本時案の分析と検討
① 目標の設定と分析
② 学習過程の検討
6回 ③ 机間指導での個々の課題に応じた具体的な支援の検討
④ 具体的な評価と支援の設定
7回 (3) 教材の分析と検討
8回 (4) 改善した学習指導案の発表と協議
9回 3．これからの技術科教育に求められる授業の創造
(1) 技術科教育の授業における現状と課題
10回 (2) 3年間を見通した教育課程の構築
① 技術の本質についての検討
② 主題，並びに題材・単元の設定
11回 ③ 教育計画の作成
12回 (3)「学びの共有」を目指した授業の構想
① これからの社会に求められる学力と日本の現状
② 技術科教育における「学びを共有」する授業の検討
③ 言語活動を活性する学習指導・教材の検討
13回 (4) 模擬授業の準備（学習指導案・教材の作成）
14回 (5) 模擬授業の実施
15回 (6) 模擬授業の検討

その他　複数回，小・中学校の研究発表会に参加し，学校現場の実践について検討する取組も行うことがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
高校の教科教育法	～65	工業科教育法 I	2	前期　木 1, 2	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　工業高校の教師に求められる工業科教育に関する基礎・基本の知識・技能を，講義，演習等を通して習得すると共に，教師としての資質を養う。

学習の目的　この授業を履修することにより，工業科教育の概要について理解することができる。

学習の到達目標
・工業科教育の目的と役割について説明できる。
・諸外国の工業技術教育について説明できる。
・今日の日本における工業高校の実際について説明できる。
・これからの日本に求められる工業科教育について自らの考えを述べることができる。

予め履修が望ましい科目
技術科教育法に関する科目
技術教育の各専門科目

教科書
・文部科学省：高等学校学習指導要領解説 総則編，2009
・文部科学省：高等学校学習指導要領解説 工業編，2010
その他，授業に必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議，試験等を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00～13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 ○ オリテン：本授業の概要説明
2回 1．工業科教育の位置づけ（R：工業科教育の位置づけについての検討）
3回 2．工業科教育の目的と役割
(1)「工業」の概念
(2) 工業科教育の基本原則
4回 3．日本における工業教育の歴史
(1) 明治以前
5回 (2) 明治（R：各種学校の概要とその役割についての検討）
6回 (3) 大正
7回 (4) 昭和（R：戦後教育改革の問題点についての検討）
8回 4．諸外国の工業技術教育（R：諸外国の工業技術教育についての検討）
○ 歴史・概要
・ドイツ
9回 ・フランス
10回 ・イギリス
11回 ・アメリカ 等
12回 5．今日の日本における工業科教育（R：各種工業高校についての検討）
・工業高校
13回 ・科学技術高等学校
14回 ・工業系総合高等学校，スーパー専門高校 等
15回 6．これからの日本の工業科教育に求められるもの（R:これからの工業科教育についての検討）
16回 ○試験
※R：レポート課題

その他　この科目を履修していないと工業科教育法 II は履修できません。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	66	家庭科教育法 I	2	前期　木 7, 8	林 未和子(教育学部)

授業の概要　家庭科教育の理念、目的、カリキュラム、学習内容、指導方法等の基本を理解する。

学習の目的　中学校および高等学校の家庭科教員として必要な家庭科教育観、教材研究、授業研究の視点を養う。

学習の到達目標　中学校または高等学校で家庭科を教える際に、どのような点に留意すればよいか、自分なりの考えを持つことができる。

受講要件　教育実習関連科目であり、家政教育コースの学生にとっては教員免許取得に必須の授業です。「家庭科教育法 I 」を土台として、「家庭科教育法 II 」「家庭科教育法III」「家庭科教育法IV」へと発展していきますので、家政教育コースの学生および「家庭」の教員免許取得を考えている学生は、必ず受講してください。なお、家政教育コース・消費生活科学コースの学生以外で、「家庭」の免許を取得したい人は、前もって早めに相談してください。

教科書
多々納道子・福田公子編著『教育実践力をつける家庭科教育法』大学教育出版(2011年)
必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
前期・後期 毎週金曜日16:30～17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
具体的なテーマとしては、以下のような内容で講義を進めていく予定であるが、場合によっては、講義項目の変更・追加もあり得る。
1・2回小・中・高等学校の家庭科教育
3・4回家庭科の歴史的背景と教科としての特質
5回現行の学習指導要領と新学習指導要領
6～9回家庭科の現代的課題と学習内容
10・11回外国の家庭科教育・家庭科カリキュラム
12～14回指導方法・教材研究・授業実践について
15回これからの家庭科教育

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	66	家庭科教育法 II	2	後期　火 3, 4	吉本敏子(教育学部)

授業の概要　中学校「技術・家庭」及び高等学校の家庭科の教材研究、学習指導案や教材の作成を通して、家庭科の授業理解を深め、よりよい授業のための工夫や改善ができる。

学習の目的
・中学校及び高等学校の家庭科の教材研究の仕方を理解する。
・学習指導案や教材を作成し、より良い授業のための工夫について考えることができる。

学習の到達目標
・授業の単元(題材)設定を行い、教材研究を行うことができる。
・学習指導案や教材を作成することができる。
・学習指導案の検討を行い、工夫や改善をすることができる。

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　学習指導案と教材40%、レポート40%、出席20%

オフィスアワー
毎週火曜日13:30〜14:30
教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．家庭科教育の特性
2．中学校の家庭科の授業参観
3．中学校の家庭科の授業参観を基にした授業の検討
4．学習指導法
5．教材研究の視点と方法
6．授業評価の方法
7．学習指導案を読む
8．学習指導計画
9．学習指導案の書き方 板書計画
10．学習指導案の作成
11．教材の作成
12．学習指導案及び教材の発表と検討(1) 受講者全員が個別に発表する。
13．学習指導案及び教材の発表と検討(2) 〃
14．学習指導案及び教材の発表と検討(3) 〃
15．学習指導案の修正
16．定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65	家庭科教育法III	2	前期　水 3, 4	吉本敏子(教育学部)

授業の概要　中学校「技術・家庭」及び高等学校の家庭科の学習計画、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などを通して、家庭科の授業理解を深め実践力を身につける。

学習の目的
・中学校及び高等学校の家庭科の教材研究の仕方を理解する。
・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことによって、授業の実践力を身につける。

学習の到達目標
・授業の単元設定を行い、教材研究を行うことができる。
・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
・模擬授業について、授業評価を行うことによって、授業の見方や改善点がわかる。

予め履修が望ましい科目　家庭科教育法 I （必ず受講しておくこと）

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　模擬授業40%、レポート40%、出席20%

オフィスアワー
毎週火曜日13:00〜14:30
教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．良い授業の条件、教材研究の視点と方法
2．授業実践事例の紹介
3．授業をつくる（検討）
4．授業をつくる（発表）
3．学習指導計画、学習指導案の作成、板書計画
4．評価の意義と方法
5．〜15．模擬授業と授業の検討
16．模擬授業の反省と授業の改善
実際に学習指導案を書き、教材を作成して模擬授業を行うことによって、授業の実践力を身につける。

その他　「家庭科教育法 II 」(2年後期）履修後、3年次に履修。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	65	家庭科教育法IV	2	後期　水 3, 4	林 未和子(教育学部)

授業の概要　家庭科の教科理論、カリキュラム理論、教材・授業実践の事例を分析し、家庭・学校・地域の今日的課題を見据えた教材研究・授業研究の在り方を検討する。

学習の目的　子どもの生活課題・学校現場の教育課題を考察するとともに、家庭科教師に必要な教材研究・授業研究の基礎的素養を養う。

学習の到達目標
家庭科教員をめざして、研究的視点から、家庭科教育の理論と実践を捉えることができるようになる。

受講要件　家庭科教育コースで中・高等学校の教員免許を取得する予定の学生

予め履修が望ましい科目　家庭科教育法 I 家庭科教育法 II 家庭科教育法III

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
前期・後期 毎週金曜日16:30〜17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
具体的なテーマとしては、以下のような内容で講義を進めていく予定であるが、場合によっては、講義項目の変更・追加もあり得る。
1・2回家庭科教育の研究
3・4回家庭科教育の教科理論
5・6回：家庭科教育のカリキュラム理論
7〜9回家庭科の現代的課題と教材研究
10〜12回家庭科の現代的課題と授業研究
13〜15回世界の家庭科教育

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	60-65	英語科教育法 I	2	前期　火 5, 6	早瀬光秋（教育学部英語教育講座）

授業の概要　Following ”Introduction to English Teaching” in the second semester in the second year, this course will cover important areas of English teaching at schools.

学習の目的　Getting the knowledge on important areas of English teaching, the students will be ready to put it into practice.

学習の到達目標　The student.s are familar with varios aspects of importance of English teaching.

教科書　Michael Lewis & Jimmie Hill (2002) Practical Techniques for Language Teaching.Boton: Thomson.

成績評価方法と基準　Participation (5%), Weekly quiz (30%), (final exam (65%)

オフィスアワー
13:00-14:30 on Mondays
Mail address: hayase@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.Introduction
2~4.Various teaching methods including a history of English education in Japan
5~7.Team-teaching, use of multimedia
8~10.Class management
11~12.Teaching slow learners
13~15.Testing and evaluation
16.Examination

その他　The class will be conducted in English.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
中学校・高校の教科教育法	60-65	英語科教育法 II	2	後期　火 5, 6	早瀬光秋（教育学部英語教育講座）,

授業の概要
In the first semester, we learned English teaching methodology mostly in terms of improving four skills (speaking, listening, reading, and writing), student and teacher, language and language learning, vocabulary, and some misunderstood language points.
In other words, we learned basic techniques of English teaching.In this semester, we will look at English teaching through the examination of specific teaching methods put into practice in the history of language teaching.The combined knowledge and insight from the two semesters will help students be well-rounded teachers of English.

学習の目的　The students will be familiar with time-tested English teaching methods so that they can put them into practice upon becoming English teachers.

学習の到達目標　The students will be well-informed of important teaching methods tested up to now and be able to use them in one way or another in teaching situations.

受講要件　”English Teaching Methodology I” is the prerequisite course.

教科書　Diane Larsen-Freeman & Marti Anderson (2011). Techniques & Principles in Language Teaching.Oxford: University of Oxford Press.

成績評価方法と基準　Participation (5%), weekly quizzes (30%), and final exam (65%)

オフィスアワー　13:00-14:30 on Mondays

学習内容
1st week: Review of the final examination of the first semester, relationship between the first and second semesters
2nd week: Introduction
3rd week: The grammar-Translation Method
4th week: The direct-Method
5th week: The Audio-Lingual Method
6th week: The silent Way
7th week: Desuggestopedia
8th week: Community Language Teaching
9th week: Total Physical Response
10th week: Communicative Language Teaching
11th week: Content-based Instruction
12th week: Task-based Language Teaching
13th week: The Political Dimensions of Language Teaching and the Participatory Approach
14th week: Learning Strategy Training, Cooperative Learning, and Multiple Intelligences
15th week: Emerging Uses of Technology in Language Teaching and Learning
16th week: Final Examination

その他　The class will be conducted in English.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語教育	64 63	英語科教育法講義 第二言語習得論	2 2	後期　火 7, 8	早瀬 光秋 （教育学部）

授業の概要　The purpose of this course is twofold: to give students a theoretical background of second language acquisition and based on this background to present them ”a principled and evidence-based approach to language teaching.” Students will develop their theoretical understanding why a certain teaching method is applied.The course will help them to be equipped themselves with a reliable backbone in teaching a foreign language.

学習の目的　Students will be familiar with second language acquisition theoretically.Also, they will be able to connect the knowledge of second language acquisition and actual teaching of a foreign language.

学習の到達目標　Students will be ready to teach a foreign language with confidence with the knowledge of second language acquisition.

予め履修が望ましい科目　英語科教育法 I, II

教科書　Alessandro G.Benati (2013).Issues in Second Language Teaching.Bristol, CT: Equinox Publishing Ltd.

成績評価方法と基準　Participation (5%), Final exam (95%)

オフィスアワー　Mondays, 13:00-14:30

学習内容
Week 1: What do we know about second language acqusition?
Week 2: Introduction (of the textbook)
Week 3: Key Development in Second Language Teaching, Part One
Week 4: Key Development in Second Language Teaching, Part Two
Week 5: Key Issues in Grammar Teaching, Part One
Week 6: Key Issues in Grammar Teaching, Part Two
Week 7: Key Issues in Grammar Teaching, Part Three
Week 8: Key Issues in Interactional and Corrective Feedback
Week 9: Key Issues in the Teaching of Speaking, Part One
Week 10: Key Issues in the Teaching of Speaking, Part Two
Week 11: Key Issues in the Teaching of Listening, Part One
Week 12: Key Issues in the Teaching of Listening, Part Two
Week 13: Key Issues in the Teaching of Reading
Week 14: Key Issues in the Teaching of Writing
Week 15: Key Issues in Second Language Teaching: Implementing Principles of Learing
Concluing Remarks
Week 16: Final Examination

その他　The class is conducted in English.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
高校の教科教育法	～65	情報科教育法	④	通年　水 1, 2	下村勉（教育学部学校教育講座）

授業の概要　高校教科「情報」の目的・内容・方法などについて、実践的に学習する。講義、コンピュータ実習、グループ討論、発表会、学習指導案の作成、模擬授業、相互評価活動を交えての授業展開を行う。

学習の到達目標　前期は、わかりやすい資料の作成、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、相互評価能力をみがく。後期は、学習指導案の作成、教材の作成、模擬授業を通じて、授業の設計力、教材作成力、コミュニケーション力を養う。

教科書　教科書は使用しないが、適宜、プリントやWeb資料を使用する。

成績評価方法と基準　授業への参加状況（Moodleへの書き込みを含む）20%、学習成果（提出作品）40%、最終レポート（ポートフォリオ）40%.

オフィスアワー　毎週火曜日13：00-14：30 教職支援センター（旧教育実践総合センター）教育工学研究室(下村)

学習内容
前期 ：
・教科「情報」の目的、内容、方法
・情報機器を用いたプレゼンテーションの方法と意義
・OHCを用いた1分間プレゼンテーションの実施
・学習課題1の説明、情報表現作品の評価基準、ワープロの描画機能
・情報表現作品（ポスター）の作成
・情報表現作品の作成（続き）
・グループ内での作品交流と改善
・作品発表会と作品の相互評価および改善
・学習課題2の説明、数値・グラフを用いた情報表現、表計算ソフトのグラフ機能
・情報表現作品（グラフ）の作成
・情報表現作品（グラフ）の作成（続き）
・グループ内での作品交流と改善
・作品発表会と作品の相互評価および改善
・前期のまとめ
後期 ：
・後期ガイダンス、課題の説明
・グループ構成と役割分担、グループ討論
・教科「情報」の学習単元の設定と情報収集
・学習指導案の作り方
・教育実習の経験者からのアドバイス
・指導案の作成
・指導案の作成（続き）
・パワーポイントによる教材開発
・教材開発（続き）
・模擬授業の実施方法と留意点
・拡大グループ内での模擬授業の実施1
・拡大グループ内での模擬授業の実施2
・全体での模擬授業の実施
・電子ポートフォリオの作成法
・電子ポートフォリオの作成と提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
高校の教科教育法	66〜	情報科教育法I	2	前期　水 1, 2	下村勉（教育学部学校教育講座）

授業の概要　高校教科「情報」の目的・内容・方法などについて、実践的に学習する。講義、コンピュータ実習、グループ討論、発表会、相互評価活動を交えての授業展開を行う。

学習の到達目標　わかりやすい資料の作成、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、相互評価能力をみがく。

教科書　教科書は使用しないが、適宜、プリントやWeb資料を使用する。

成績評価方法と基準　授業への参加状況（Moodleへの書き込みを含む）20%、学習成果（提出作品）40%、最終レポート（ポートフォリオ）40%.

オフィスアワー　毎週火曜日13：00-14：30 教職支援センター（旧教育実践総合センター）教育工学研究室(下村)

学習内容

・教科「情報」の目的、内容、方法
・情報機器を用いたプレゼンテーションの方法と意義
・OHCを用いた1分間プレゼンテーションの実施
・学習課題1の説明、情報表現作品の評価基準、ワープロの描画機能
・情報表現作品（ポスター）の作成
・情報表現作品の作成（続き）
・グループ内での作品交流と改善
・作品発表会と作品の相互評価および改善
・学習課題2の説明、数値・グラフを用いた情報表現、表計算ソフトのグラフ機能
・情報表現作品（グラフ）の作成
・情報表現作品（グラフ）の作成（続き）
・グループ内での作品交流と改善
・作品発表会と作品の相互評価および改善
・前期のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
高校の教科教育法	66〜	情報科教育法II	2	後期　水 1, 2	下村勉（教育学部学校教育講座）

授業の概要　高校教科「情報」の目的・内容・方法などについて、実践的に学習する。講義、コンピュータ実習、グループ討論、発表会、学習指導案の作成、模擬授業、相互評価活動を交えての授業展開を行う。

学習の到達目標　学習指導案の作成、教材の作成、模擬授業を通じて、授業の設計力、教材作成力、コミュニケーション力を養う。

教科書　教科書は使用しないが、適宜、プリントやWeb資料を使用する。

成績評価方法と基準　授業への参加状況（Moodleへの書き込みを含む）20%、学習成果（提出作品）40%、最終レポート（ポートフォリオ）40%.

オフィスアワー　毎週火曜日13：00-14：30 教職支援センター（旧教育実践総合センター）教育工学研究室(下村)

学習内容

・後期ガイダンス、課題の説明
・グループ構成と役割分担、グループ討論
・教科「情報」の学習単元の設定と情報収集
・学習指導案の作り方
・教育実習の経験者からのアドバイス
・指導案の作成
・指導案の作成（続き）
・パワーポイントによる教材開発
・教材開発（続き）
・模擬授業の実施方法と留意点
・拡大グループ内での模擬授業の実施1
・拡大グループ内での模擬授業の実施2
・全体での模擬授業の実施
・電子ポートフォリオの作成法
・電子ポートフォリオの作成と提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
道徳教育	64-66	道徳教育論	2	前期　月 7, 8	伊藤 敏雄（非常勤講師）

授業の概要　道徳教育の理論と日本における道徳課題を理解し、その課題解決のための実践的指導力を身につけるために、本講義では道徳に関する諸概念の検討、道徳教育の歴史、道徳理論の歴史等を踏まえて、現代日本における道徳課題の検討と具体的な事例に基づく解決策を自ら考える授業とする。

学習の目的　現代の道徳課題を、歴史的背景を踏まえて正しく理解するとともに、その解決のための視点や具体的方策について自主的に考えることのできる力を身につける。

学習の到達目標　学校における道徳課題を深く理解し、その解決のための手がかりが得られる。

受講要件

教室の収容能力や学習効果を考慮して80名を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、この講義の窓口担当である学校教育講座佐藤年明教授研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、当初の受講申請締切段階で80名に満たない場合はその旨を掲示して追加受講申請を受け付ける（佐藤年明教授宛てにメールのみでtsatou@edu.mie-u.ac.jp宛てに）。追加受講申請は先着順で、80名に達した時点で打ち切る。

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート30%、試験70%、計100%（合計60%以上で合格）

学習内容

1．オリエンテーション（受講態度に関する全般的な注意、授業のやり方、評価方法等）
2．道徳、道徳性、道徳教育とは
3．道徳教育の歴史（1）
4．道徳教育の歴史（2）
5．道徳教育の歴史（3）
6．学習指導要領と道徳
7．道徳教育の諸理論（1）
8．道徳教育の諸理論（2）
9．道徳教育の諸理論（3）
10．近代社会の性格と道徳
11．現代における道徳諸問題（1）
12．現代における道徳諸問題（2）
13．現代における道徳諸問題（3）
14．現代における道徳諸問題（4）
15．現代における道徳諸問題（5）
16．試験

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
道徳教育	64〜66	道徳教育論	2	前期集中	岩瀬 真寿美（非常勤講師）

授業の概要　現代の道徳教育と倫理の諸問題について、教育の歴史、教育思想、学校の道徳教育の実践などの観点から概観し、理解を深める。

学習の目的　わが国で行なわれてきたこれまでの道徳教育の基本を基盤にしながらも、新しい道徳教育の可能性として定型の道徳授業を乗り越える方法の探究や、諸外国の道徳教育の現状の知識を得ることができる。

学習の到達目標　本講義によって、将来、教職を希望する学生が、道徳理論や技術を知ることを通して、道徳教育について深く考える機会となることを期待したい。

受講要件
受講希望者多数の場合、使用教室に収容可能な人数まで受講制限を行なう。
受講許可に関しては、本講義の学校教育講座窓口担当である佐藤年明が、受講申請締切後に岩瀬講師と相談の上で、学務前掲示板に掲示する。

教科書　小柳正司編『現場と結ぶ教職シリーズ9 道徳教育の基礎と応用 生き生きと学ぶ道徳の教育』 あいり出版

成績評価方法と基準　ミニレポート40%、試験60%

オフィスアワー　集中講義のため、講義期間の間の連絡の方法、また相談の機会は別途、指示する。

学習内容
1、学校の道徳教育
2、学習指導要領の改訂と道徳教育
3、道徳教育の歴史
4、道徳性の認知発達理論
5、ポスト・コールバーグの道徳性発達理論と道徳教育
6、価値の明確化
7、ソーシャルスキル・トレーニング
8、総合単元的道徳教育
9、学級集団づくりと道徳教育
10、宗教的情操教育
11、人権教育
12、現代アメリカのキャラクター・エデュケーション
13、台湾の道徳教育
14、韓国の道徳教育
15、中国の道徳教育
”

その他
日程は3月末頃に掲示する。
全4日間のうち丸一日、もしくはそれ以上出席できないと予めわかっている者は、受講できない。窓口担当の佐藤年明まで辞退を届け出ること。

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
道徳教育	64-67	道徳教育論	2	後期　月 7, 8	伊藤 敏雄（非常勤講師）

授業の概要　道徳教育の理論と日本における道徳課題を理解し、その課題解決のための実践的指導力を身につけるために、本講義では道徳に関する諸概念の検討、道徳教育の歴史、道徳理論の歴史等を踏まえて、現代日本における道徳課題の検討と具体的な事例に基づく解決策を自ら考える授業とする。

学習の目的　現代の道徳課題を、歴史的背景を踏まえて正しく理解するとともに、その解決のための視点や具体的方策について自主的に考えることのできる力を身につける。

学習の到達目標　学校における道徳課題を深く理解し、その解決のための手がかりが得られる。

受講要件
教室の収容能力や学習効果を考慮して80名を上限とし、それを越えた場合は受講制限を行なう。4年生（以上）、3年生、2年生、1年生の優先順で受講を許可していく。
受講制限を実施した場合は、第1回講義までに学務前掲示板、教室前、この講義の窓口担当である学校教育講座佐藤年明教授研究室前に受講許可者一覧を掲示する。
なお、当初の受講申請締切段階で80名に満たない場合はその旨を掲示して追加受講申請を受け付ける（佐藤年明教授宛てにメールのみでtsatou@edu.mie-u.ac.jp宛てに）。追加受講申請は先着順で、80名に達した時点で打ち切る。

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート30%、試験70%、計100%（合計60%以上で合格）

学習内容
1．オリエンテーション（受講態度に関する全般的な注意、授業のやり方、評価方法等）
2．道徳、道徳性、道徳教育とは
3．道徳教育の歴史（1）
4．道徳教育の歴史（2）
5．道徳教育の歴史（3）
6．学習指導要領と道徳
7．道徳教育の諸理論（1）
8．道徳教育の諸理論（2）
9．道徳教育の諸理論（3）
10．近代社会の性格と道徳
11．現代における道徳諸問題（1）
12．現代における道徳諸問題（2）
13．現代における道徳諸問題（3）
14．現代における道徳諸問題（4）
15．現代における道徳諸問題（5）
16．試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別活動の指導法	～65	生活指導論	2	前期　火3, 4	○大日方 真史（教育学部）, 池田 修（非常勤講師）

授業の概要　生徒に対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容
第1回：特別活動の意義
第2回：生徒の生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
第3回：特別活動の歴史的展開
第4回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（1）親密性
第5回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（2）公共性
第6回：模擬授業（1）学級集団の特性と学級活動（ホームルーム活動）の意義
第7回：模擬授業（2）学級活動（ホームルーム活動）の課題
第8回：模擬授業（3）生徒会活動の意義
第9回：模擬授業（4）生徒会活動の課題
第10回：模擬授業（5）学校行事の意義
第11回：模擬授業（6）学校行事の課題
第12回：模擬授業（7）学校の規範と特別活動の課題
第13回：特別活動における教師間の協働の意義と課題
第14回：特別活動における保護者との連携の意義と課題
第15回：今日における特別活動の課題
定期試験（レポートの提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別活動の指導法	～65	生活指導論	2	前期　火7, 8	○大日方 真史（教育学部）, 池田 修（非常勤講師）

授業の概要　生徒に対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容
第1回：特別活動の意義
第2回：生徒の生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
第3回：特別活動の歴史的展開
第4回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（1）親密性
第5回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（2）公共性
第6回：模擬授業（1）学級集団の特性と学級活動（ホームルーム活動）の意義
第7回：模擬授業（2）学級活動（ホームルーム活動）の課題
第8回：模擬授業（3）生徒会活動の意義
第9回：模擬授業（4）生徒会活動の課題
第10回：模擬授業（5）学校行事の意義
第11回：模擬授業（6）学校行事の課題
第12回：模擬授業（7）学校の規範と特別活動の課題
第13回：特別活動における教師間の協働の意義と課題
第14回：特別活動における保護者との連携の意義と課題
第15回：今日における特別活動の課題
定期試験（レポートの提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別活動の指導法	～65	生活指導論	2	前期　木3, 4	○大日方 真史（教育学部）, 池田 修（非常勤講師）

授業の概要　生徒に対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容
第1回：特別活動の意義
第2回：生徒の生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
第3回：特別活動の歴史的展開
第4回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（1）親密性
第5回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（2）公共性
第6回：模擬授業（1）学級集団の特性と学級活動（ホームルーム活動）の意義
第7回：模擬授業（2）学級活動（ホームルーム活動）の課題
第8回：模擬授業（3）生徒会活動の意義
第9回：模擬授業（4）生徒会活動の課題
第10回：模擬授業（5）学校行事の意義
第11回：模擬授業（6）学校行事の課題
第12回：模擬授業（7）学校の規範と特別活動の課題
第13回：特別活動における教師間の協働の意義と課題
第14回：特別活動における保護者との連携の意義と課題
第15回：今日における特別活動の課題
定期試験（レポートの提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別活動	～65	生活指導論	2	後期　火7, 8	○大日方 真史（教育学部），本田 清春（教育学部非常勤講師），石川 正（教育学部非常勤講師）
	66～	特別活動論Ⅰ	2		

授業の概要　子どもに対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書
小学校学習指導要領
適宜紹介する

成績評価方法と基準
平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。
授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12：50、生活指導論研究室

学習内容
1．ガイダンス
2．子どもの生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
3．特別活動の教育課程上の位置と歴史的な展開
4．子どもの困難と指導の課題
5．子ども理解と学級づくり・学級活動
6．安心と自由を生かす実践の課題
7．教師の指導性
8．子どもの権利と実践課題
9．模擬授業（1）活動の計画における課題
10．模擬授業（2）児童会活動の意義
11．模擬授業（3）児童会活動の課題
12．模擬授業（4）学校行事の意義
13．模擬授業（5）学校行事の課題
14．クラブ活動の意義と課題
15．今日における特別活動の課題
16．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別活動	～65	生活指導論	2	前期集中	○石垣 雅也（教育学部非常勤講師）, 石川 正（教育学部非常勤講師）
	66	特別活動論 I	2		

授業の概要　学校には、子どもが多様な人々と出会って関係を形成する機会と、数々の活動が用意されている。そこでの子どもには、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめたり、社会に主体的に参加していく道筋を見出したりする機会を得ることが期待されている。こうした経験を保障する特別活動の意義と課題について、実践事例にも触れながら具体的に探っていく。

学習の目的　学校教育活動における特別活動の役割と、子どもの人格発達、民主的な集団形成において、特別活動の果たす意義と役割について理解する

学習の到達目標　教職についたときに自身が行う特別活動の実際についてイメージが持て、子どもの人格発達、民主的な集団形成において特別活動の果たす役割についての理解とイメージを持つ事ができるようになる。

成績評価方法と基準　期末試験60% 出席を含めた受講状況40%

学習内容
1．ガイダンス
2．学習指導要領上の位置づけ
3．集団活動とはどういうことか
4．学級活動の実際
5．学級活動と子ども理解
6．児童会活動の実際と子ども理解
7．クラブ活動の実際
8．学校行事と職員の共同
9・10 模擬学級会をしてみよう
11・12 模擬全校集会を企画しよう
13．子どもの安心と学級づくり
14．いじめと学級・学校
15．特別活動を通して育むもの
16．試験
1から8、13から16を石垣が、9から12を石川が担当する

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別活動	～65	生活指導論	2	後期集中	○石垣 雅也（教育学部非常勤講師）, 石川 正（教育学部非常勤講師）
	66～	特別活動論 I	2		

授業の概要　学校には、子どもが多様な人々と出会って関係を形成する機会と、数々の活動が用意されている。そこでの子どもには、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめたり、社会に主体的に参加していく道筋を見出したりする機会を得ることが期待されている。こうした経験を保障する特別活動の意義と課題について、実践事例にも触れながら具体的に探っていく。

学習の目的　学校教育活動における特別活動の役割と、子どもの人格発達、民主的な集団形成において、特別活動の果たす意義と役割について理解する

学習の到達目標　教職についたときに自身が行う特別活動の実際についてイメージが持て、子どもの人格発達、民主的な集団形成において特別活動の果たす役割についての理解とイメージを持つ事ができるようになる。

成績評価方法と基準　期末試験60% 出席を含めた受講状況40%

学習内容
1．ガイダンス
2．学習指導要領上の位置づけ
3．集団活動とはどういうことか
4．学級活動の実際
5．学級活動と子ども理解
6．児童会活動の実際と子ども理解
7．クラブ活動の実際
8．学校行事と職員の共同
9・10 模擬学級会をしてみよう
11・12 模擬全校集会を企画しよう
13．子どもの安心と学級づくり
14．いじめと学級・学校
15．特別活動を通して育むもの
16．試験
1から8、13から16を石垣が、9から12を石川が担当する

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別活動の指導法	66	特別活動論 II	2	前期　火 3, 4	○大日方 真史（教育学部）, 池田 修（非常勤講師）

授業の概要　生徒に対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜12:50、研究室

学習内容
第1回：特別活動の意義
第2回：生徒の生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
第3回：特別活動の歴史的展開
第4回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（1）親密性
第5回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（2）公共性
第6回：模擬授業（1）学級集団の特性と学級活動（ホームルーム活動）の意義
第7回：模擬授業（2）学級活動（ホームルーム活動）の課題
第8回：模擬授業（3）生徒会活動の意義
第9回：模擬授業（4）生徒会活動の課題
第10回：模擬授業（5）学校行事の意義
第11回：模擬授業（6）学校行事の課題
第12回：模擬授業（7）学校の規範と特別活動の課題
第13回：特別活動における教師間の協働の意義と課題
第14回：特別活動における保護者との連携の意義と課題
第15回：今日における特別活動の課題
定期試験（レポートの提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別活動の指導法	66	特別活動論 II	2	前期　火 7, 8	○大日方 真史（教育学部）, 池田 修（非常勤講師）

授業の概要　生徒に対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜12:50、研究室

学習内容
第1回：特別活動の意義
第2回：生徒の生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
第3回：特別活動の歴史的展開
第4回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（1）親密性
第5回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（2）公共性
第6回：模擬授業（1）学級集団の特性と学級活動（ホームルーム活動）の意義
第7回：模擬授業（2）学級活動（ホームルーム活動）の課題
第8回：模擬授業（3）生徒会活動の意義
第9回：模擬授業（4）生徒会活動の課題
第10回：模擬授業（5）学校行事の意義
第11回：模擬授業（6）学校行事の課題
第12回：模擬授業（7）学校の規範と特別活動の課題
第13回：特別活動における教師間の協働の意義と課題
第14回：特別活動における保護者との連携の意義と課題
第15回：今日における特別活動の課題
定期試験（レポートの提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
特別活動の指導法	66	特別活動論 II	2	前期　木 3, 4	○大日方 真史（教育学部）, 池田 修（非常勤講師）

授業の概要　生徒に対し、集団の一員として活動を成し遂げる過程で関係を一段と深め、自らの役割や生き方を見つめ、社会に主体的に参加していく道筋を見出す機会を保障する特別活動の意義と課題について、学級・学校の内外をまたぐ広い視点から具体的・実践的に探る。実践的な探求の方法としては、模擬授業を取り入れる。

学習の目的　特別活動の意義・方法の理解と課題に対する意識化

学習の到達目標　学校教育における特別活動の意義、教師の役割、教師による指導の方法を理解しつつ、模擬授業を通じて実践的に指導法を構想することを到達目標とする。

教科書　適宜指示する

成績評価方法と基準　平常点（受講態度と提出物）30%とレポート70%。授業内容の理解度と思考・論理のオリジナリティを評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜12:50、研究室

学習内容
第1回：特別活動の意義
第2回：生徒の生活・発達上の課題と学級・学校における活動の意義
第3回：特別活動の歴史的展開
第4回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（1）親密性
第5回：生徒間の関係・コミュニケーションの特徴（2）公共性
第6回：模擬授業（1）学級集団の特性と学級活動（ホームルーム活動）の意義
第7回：模擬授業（2）学級活動（ホームルーム活動）の課題
第8回：模擬授業（3）生徒会活動の意義
第9回：模擬授業（4）生徒会活動の課題
第10回：模擬授業（5）学校行事の意義
第11回：模擬授業（6）学校行事の課題
第12回：模擬授業（7）学校の規範と特別活動の課題
第13回：特別活動における教師間の協働の意義と課題
第14回：特別活動における保護者との連携の意義と課題
第15回：今日における特別活動の課題
定期試験（レポートの提出）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導	〜65 66	教育臨床 I 教育相談 I	2 2	前期　木 5, 6	水谷 久康

授業の概要　子どもを育む家族を取り巻く環境は今日厳しさを増している。学校だけで子どもたちの問題解決を図ることは難しい場合もある。子供を直接支援するだけではなく、学校と保護者との協働によって効果的な支援が可能となることも多い。教員の行う相談活動はいかにあるべきかを理解する。

学習の目的　教員による学校教育相談は心理臨床の専門家である臨床心理士によるスクールカウンセリングとは共通点もあるが、目的、構造など教育の専門家として求められ期待されていることが異なることを明確に理解し、学校生活における子どもたちの発達段階に応じた課題を見抜く目を身に付け、より有効な対応の方法や支援スキルを基本から家族療法の応用まで学習する。

学習の到達目標　子どもたちは様々な家族の一んであり、様々な保護者の思いがあることを理解した上で、子供であれ保護者であれ、問題を抱え支援を必要とする側に存在する解決のための資源を見出しそれらを活性化させる視点やスキルを身に付け、効果的な支援力を獲得する。

教科書　事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談一小学校編(遠見書房)

成績評価方法と基準　連絡窓口：学校教育領域 松浦 均 先生

学習内容
①オリエンテーション・学習ガイダンス
②教育相談とスクールカウンセリング
③カウンセリングの理論と技法 I
④カウンセリングの理論と技法 II
⑤子ども理解の基礎
⑥子どもの発達課題と支援の在り方
⑦具体的な問題：不登校
⑧具体的な問題：いじめ
⑨具体的な問題：非行、学校不適応
⑩発達障害と特別支援教育 I
⑪発達障害と特別支援教育 II
⑫学校と関係機関との連携
⑬子どもの精神医学的問題、虐待など
⑭チーム支援
⑮危機対応と緊急支援
以上の内容について講義と演習、ロールプレイ、グループディスカッションなどインターラクティブな授業展開を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導	～65 66, 67	教育臨床 I 教育相談 I	2 2	後期　木 5, 6	水谷 久康

授業の概要　子どもを育む家族を取り巻く環境は今日厳しさを増している。学校だけで子どもたちの問題解決を図ることは難しい場合もある。子供を直接支援するだけではなく、学校と保護者との協働によって効果的な支援が可能となることも多い。教員の行う相談活動はいかにあるべきかを理解する。

学習の目的　教員による学校教育相談は心理臨床の専門家である臨床心理士によるスクールカウンセリングとは共通点もあるが、目的、構造など教育の専門家として求められ期待されていることが異なることを明確に理解し、学校生活における子どもたちの発達段階に応じた課題を見抜く目を身に付け、より有効な対応の方法や支援スキルを基本から家族療法の応用まで学習する。

学習の到達目標　子どもたちは様々な家族の一んであり、様々な保護者の思いがあることを理解した上で、子供であれ保護者であれ、問題を抱え支援を必要とする側に存在する解決のための資源を見出しそれらを活性化させる視点やスキルを身に付け、効果的な支援力を獲得する。

教科書　事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談一小学校編(遠見書房)

成績評価方法と基準　授業への参加態度など50%、期末試験50%、計100%

オフィスアワー　連絡窓口：学校教育領域 松浦 均 先生

学習内容
①オリエンテーション・学習ガイダンス
②教育相談とスクールカウンセリング
③カウンセリングの理論と技法 I
④カウンセリングの理論と技法 II
⑤子ども理解の基礎
⑥子どもの発達課題と支援の在り方
⑦具体的な問題：不登校
⑧具体的な問題：いじめ
⑨具体的な問題：非行、学校不適応
⑩発達障害と特別支援教育 I
⑪発達障害と特別支援教育 II
⑫学校と関係機関との連携
⑬子どもの精神医学的問題、虐待など
⑭チーム支援
⑮危機対応と緊急支援
以上の内容について講義と演習、ロールプレイ、グループディスカッションなどインターラクティブな授業展開を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導	66 ～65	教育相談 I 教育臨床 I	2 2	前期　木 7, 8	鈴木 誠(教育学部非常勤講師)

授業の概要　幼稚園・小学校での日常場面で、遭遇する園児や児童、保護者や同僚との問題や人間関係の問題について学ぶ。

学習の目的　この時期に子どもや親、職場で生じる問題の多くは、幼児期の心性によって生じることが少ない。むしろより退行（子ども返りした）乳幼児心性や乳幼児心性と直面する大人の心理的混乱に影響を受けることが多い。したがって、授業では、妊娠から出産、乳児から幼児期の心性や親子関係の発達と心理的課題について、知的学習を行う。その知的理解を体験レベルの知にするために、グループ・ワークを行う。

学習の到達目標　狭い意味での個別相談だけでなく、より日常場面での子どもや保護者、同僚との交流場面を観察し、グループでの話し合い、深く理解することを学ぶ。この効果は、個人を対象とする教育相談の基礎となる。

受講要件　グループワークにおいて、子どもの観察事例を全員で検討します。ディスカッションに積極的に関与することが不可欠です。オリエンテーションに必ず参加すること。

教科書
①子どもを理解する〈0～1歳〉（タビストック 子どもの心と発達シリーズ）岩崎学術出版社
②子どもを理解する〈2～3歳〉<タビストック 子どもの心と発達シリーズ>岩崎学術出版社

成績評価方法と基準　出席日数、レポート50% 最終レポート50%

学習内容　3～4名の小グループに分けます。1名は小学生以下の15～20分程度の子どもの様子を詳細な観察事例として報告します。それをクラス全体で、子どものこころの動きや観察状況の無意識的な交流について、ディスカッションします。授業の2/3をこの議論に費やします。残りの時間で、1名は、授業で振り分けられたテキストの要約を発表します。残りの1～2名は、テキストの内容と幼稚園や小学校での問題と関連づけて、話題発表をします。その後、不足分を講師が解説します。学習には、学生の積極的な参加が、不可欠です。

その他　グループディスカッションを中心とするので、履修制限をします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導		教育相談 I 教育臨床 I	2 2	前期　木 9, 10	鈴木 誠(教育学部非常勤講師)

授業の概要　幼稚園・小学校での日常場面で、遭遇する園児や児童、保護者や同僚との問題や人間関係の問題について学ぶ。

学習の目的　この時期に子どもや親、職場で生じる問題の多くは、幼児期の心性によって生じることが少ない。むしろより退行（子ども返りした）乳幼児心性や乳幼児心性と直面する大人の心理的混乱に影響を受けることが多い。したがって、授業では、妊娠から出産、乳児から幼児期の心性や親子関係の発達と心理的課題について、知的学習を行う。その知的理解を体験レベルの知にするために、グループ・ワークを行う。

学習の到達目標　狭い意味での個別相談だけでなく、より日常場面での子どもや保護者、同僚との交流場面を観察し、グループでの話し合い、深く理解することを学ぶ。この効果は、個人を対象とする教育相談の基礎となる。

受講要件　グループワークにおいて、子どもの観察事例を全員で検討します。ディスカッションに積極的に関与することが不可欠です。オリエンテーションに必ず参加すること。

教科書
①子どもを理解する〈0〜1歳〉（タビストック 子どもの心と発達シリーズ）岩崎学術出版社
②子どもを理解する〈2〜3歳〉<タビストック 子どもの心と発達シリーズ>岩崎学術出版社

成績評価方法と基準　出席日数、レポート50% 最終レポート50%

学習内容　3〜4名の小グループに分けます。1名は小学生以下の15〜20分程度の子どもの様子を詳細な観察事例として報告します。それをクラス全体で、子どものこころの動きや観察状況の無意識的な交流について、ディスカッションします。授業の2/3をこの議論に費やします。残りの時間で、1名は、授業で振り分けられたテキストの要約を発表します。残りの1〜2名は、テキストの内容と幼稚園や小学校での問題と関連づけて、話題発表をします。その後、不足分を講師が解説します。学習には、学生の積極的な参加が、不可欠です。

その他　グループディスカッションを中心とするので、履修制限をします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導	〜65 66〜	教育臨床 II 教育相談 II	2 2	前期　木 1, 2	瀬戸美奈子

授業の概要　学校教育の場における生徒の適応上の諸問題に関する教育・心理臨床的な理解と支援について学ぶ。

学習の目的　生徒の適応上の問題とその対応を理解し、学校における教育相談の理論と方法を身につける。

学習の到達目標
(1)学校における教育相談の理論と技法がわかる。
(2)教師が行う教育相談の特徴と限界、専門機関の連携の構造がわかる。
(3)生徒の適応上の問題のアセスメントと対応がわかる。
(4)特別支援教育に関する生徒の問題を理解し、支援の方法や保護者対応がわかる。

教科書　適宜文献紹介、資料を配布する。

成績評価方法と基準　毎回の授業ごとの小レポート（30%）、テスト（70%）などを総合的に評価する。

学習内容
1 学校における生徒の諸問題
2 生徒指導と教育相談
3 進路指導と教育相談
4 学習指導と教育相談
5 生徒の発達と問題(1)青年期前
6 生徒の発達と問題(2)青年期への移行
7 生徒の発達と問題(3)青年期
8 教育相談における生徒へのかかわり(1)アセスメント
9 教育相談における生徒へのかかわり(2)カウンセリング技法
10 教育相談の実際(1)不登校
11 教育相談の実際(2)いじめ
12 教育相談の実際(3)発達障害
13 事例研究(1)対人関係の問題と適応
14 事例研究(2)学習の問題と適応
15 保護者・教師への助言と指導
16 テスト

その他　授業では事例検討などのグループワークを行う予定である。他の受講生と積極的にコミュニケーションをはかり、討議をすることが求められる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導	66 ～65	教育相談 II 教育臨床 II	2 2	後期　木 9, 10	鈴木 誠(教育学部非常勤講師)

授業の概要　中学校や高校での日常場面で、遭遇する生徒、保護者や同僚との問題や人間関係の問題について学ぶ。

学習の目的　この時期に生徒や親、職場で生じる問題の多くは、思春期・青年期の心性だけでなく、それ以前の幼児期の心性によって生じることが少ない。激動の思春期青年期心性、より退行（子ども返りした）学童期や乳幼児心性と直面する大人の心理的混乱に影響を受けることが多い。したがって、授業では、幼児期から潜伏期、青年期までの発達と心理的課題について、知的学習を行う。その知的理解を体験レベルの知にするために、グループ・ワークを行う。

学習の到達目標　狭い意味での個別相談だけでなく、より日常場面での生徒や保護者、同僚との交流場面を観察し、グループでの話し合い、深く理解することを学ぶ。この効果は、個人を対象とする教育相談の基礎となる。

受講要件　グループワークにおいて、子どもの観察事例を全員で検討します。ディスカッションに積極的に関与することが不可欠です。オリエンテーションに必ず参加すること。

教科書
●学校現場に生かす精神分析【実践編】
―学ぶことの関係性
岩崎学術出版社

成績評価方法と基準　出席日数、レポート50% 最終レポート50%

学習内容　3～4名の小グループに分けます。1名は子どもの15～20分程度の子どもの様子を詳細な観察事例として報告します。それをクラス全体で、子どものこころの動きや観察状況の無意識的な交流について、ディスカッションします。授業の2/3をこの議論に費やします。残りの時間で、1名は、授業で振り分けられたテキストの要約を発表します。残りの1～2名は、テキストの内容と中学や高校での生徒の悩みや問題行動と関連づけて、話題発表をします。その後、不足分を講師が解説します。学習には、学生の積極的な参加が、不可欠です。

その他　グループディスカッションを中心とするので、履修制限をします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導		教育相談 II 教育臨床 II	2 2	後期　木 7, 8	鈴木 誠(教育学部非常勤講師)

授業の概要　中学校や高校での日常場面で、遭遇する生徒、保護者や同僚との問題や人間関係の問題について学ぶ。

学習の目的　この時期に生徒や親、職場で生じる問題の多くは、思春期・青年期の心性だけでなく、それ以前の幼児期の心性によって生じることが少ない。激動の思春期青年期心性、より退行（子ども返りした）学童期や乳幼児心性と直面する大人の心理的混乱に影響を受けることが多い。したがって、授業では、幼児期から潜伏期、青年期までの発達と心理的課題について、知的学習を行う。その知的理解を体験レベルの知にするために、グループ・ワークを行う。

学習の到達目標　狭い意味での個別相談だけでなく、より日常場面での生徒や保護者、同僚との交流場面を観察し、グループでの話し合い、深く理解することを学ぶ。この効果は、個人を対象とする教育相談の基礎となる。

受講要件　グループワークにおいて、子どもの観察事例を全員で検討します。ディスカッションに積極的に関与することが不可欠です。オリエンテーションに必ず参加すること。

教科書
●学校現場に生かす精神分析【実践編】
―学ぶことの関係性
岩崎学術出版社

成績評価方法と基準　出席日数、レポート50% 最終レポート50%

学習内容　3～4名の小グループに分けます。1名は子どもの15～20分程度の子どもの様子を詳細な観察事例として報告します。それをクラス全体で、子どものこころの動きや観察状況の無意識的な交流について、ディスカッションします。授業の2/3をこの議論に費やします。残りの時間で、1名は、授業で振り分けられたテキストの要約を発表します。残りの1～2名は、テキストの内容と中学や高校での生徒の悩みや問題行動と関連づけて、話題発表をします。その後、不足分を講師が解説します。学習には、学生の積極的な参加が、不可欠です。

その他　グループディスカッションを中心とするので、履修制限をします。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容の指導法	～65	健康	2	前期　金 7, 8	松井 妙実（教育学部非常勤講師）

授業の概要　幼児の健康に関する内容、健康な生活習慣に関する内容、運動・活動に関する内容を学び、その知識や技術を中心に保育者の役割について学習をすすめます。

学習の目的　幼児の心身の健康に関する知識や保育者として必要な支援力を身につけることができる。

学習の到達目標
1.. 幼児の健康について理解できる。
2．健康な幼児の生活の援助について理解できる。
3．自分自身の健康の自覚と健康の管理を考えることにより、幼児が成長・発達していく基盤が健康であることを理解できる。

教科書　講義の中で紹介します。

成績評価方法と基準　ミニレポート提出（50%）、単位認定レポート（50%）、計100%

学習内容
1・人間の健康
2・幼児の健康
3・幼児の身体の発達と精神発達①
4・幼児の身体の発達と精神発達②
5・幼児の遊びと健康①
6・幼児の遊びと健康②
7・幼児の生活環境
8・幼児の基本的生活習慣の形成（食事、排泄、衣服の着脱）
9・幼児の基本的生活習慣の形成（睡眠、清潔、生活リズム）
10・幼児期に起こりやすい傷病①
11・幼児期に起こりやすい傷病②
12・幼児の安全能力と事故防止対策
13・幼児の健康管理①
14・幼児の健康管理②
15・まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容の指導法	66	人間関係	2	後期　火 9, 10	吉田真理子

授業の概要
・乳幼時期における子どもの対人関係の発達と保育について、社会性の発達研究（理論）とそれに基づく保育の集団づくり（実践）の両方を、行き来しながら学ぶ。
・様々な子どもの姿に触れるため、特に対人関係に弱さのある子どもの実践・事例をとりあげる。

学習の目的
・乳幼児の対人関係の発達・保育に関する基本的な知識を得ることができる。
・個と集団の関係について問い直し、考えを深めることができるようになる。
・対人関係に弱さのある子どもの理解をその支援について学ぶことができる。

成績評価方法と基準　試験50%，出席40%，小テスト10%

オフィスアワー　毎週火曜日14:30〜15:30 吉田研究室（専門2号館3階）

学習内容
1．領域「人間関係」のねらいと内容
2．自他関係の発達理論
3．乳児期前半の自他関係の発達と保育
4．乳児期後半の自他関係の発達と保育
5．1歳前半の自他関係の発達と保育
6．1歳後半の自他関係の発達と保育
7．2歳児の自他関係の発達と保育
8．3歳児の自他関係の発達と集団づくり
9．4歳児の自他関係の発達と集団づくり
10．5歳児の自他関係の発達と集団づくり
11〜15．対人関係に弱さのある子どもの理解と援助
16．試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容の指導法	65	環境	2	前期　木 9, 10	河崎道夫

授業の概要
幼児の生活と発達における環境のあり方の問題を探る。現代社会における子どもの生活と発達の環境の実情をふまえ、子どもの生活体験、遊び体験の変容と問題を検討する。
保育実践として環境と遊びの問題をどのように取り組んでいけばよいか、実践と子どもの事実に即して検討する。

学習の到達目標　背景としての地球環境の変容と問題を視野に入れながら、子どもの成長と発達にとって環境の持つ意味を考えようとする姿勢と視点をもつ。そのために、歴史的時代的事実について基本的知識を獲得しながら現代の課題を見つめる。保育実践に学び、保育実践に連なって自らが課題の解決に取り組むべき姿勢と視点をもつ。

教科書　必要な資料を配付する

成績評価方法と基準　期末試験100%

オフィスアワー　河崎道夫 火曜日 13:00〜14:30 2号館4階研究室

学習内容
おおよその内容であり、受講生の習得、理解の具合や講義担当者が新たな保育実践の知見を得ることなどによって変更する場合がある。
1．子どもの成長と「環境と交渉すること」の意味
2．子どもの遊びの変化 −1 遊びの高揚期と「第一の変化」①
3．子どもの遊びの変化 −2 遊びの高揚期と「第一の変化」②
4．子どもの遊びの変化 −3 歴史的構成体としての子どもの遊び
5．子どもの遊びの変化 −4 子どもの遊びの「第二の変化」
6．子どもの自然体験の変化
7．二次現実世界（人工ファンタジー）の氾濫
8．遊び場運動と環境づくりの実践
9．保育における遊びの実践の展開 1 新しい「指導論・援助論」
10．保育における遊びの実践の展開 2 創造的保育実践①
11．保育における遊びの実践の展開 3 創造的保育実践②
12．保育における遊びの実践の展開 4 創造的保育実践③
13．生きもの環境づくりと命をいただく保育①
14．生きもの環境づくりと命をいただく保育②
15．まとめ
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容の指導法	65	言葉	2	前期　火 9, 10	吉田真理子（教育学部幼児教育）

授業の概要
・乳幼時期における子どもの言語発達をベースに、日常でみられる子どもの具体的な発話に触れながら、ことばを育むことの意味や手立てを学ぶ。
・ことばの遅れをもつ子どもの事例をとりあげながら、言葉の意味や機能（コミュニケーション・思考・調整）について考える。
・ことば遊びや絵本などの文化的素材に触れ、そのおもしろさや役割を知る。

学習の目的
・乳幼児の言葉の発達・保育に関する基本的な知識を得ることができる。
・言葉のもつ意味ついて考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶことができる。
・ことばが社会的関係の中で育まれていくという視点をもって、保育や援助を考える力が身につく

予め履修が望ましい科目　「人間関係」

成績評価方法と基準　試験50%，出席40%，小レポート10%

オフィスアワー　毎週金曜日14:30〜15:30（専門2号館3階）

学習内容
1．領域「言葉」のねらいと内容
2．言語発達の理論
3．乳児期前半の前言語コミュニケーション
4．乳児期後半の前言語コミュニケーション
5．身振りと言語
6．言語と進化
7．1歳前半の言葉の発達と保育
8．1歳後半の言葉の発達と保育
9．2歳児の言葉の発達と保育
10．3歳児の言葉の発達と保育
11．4歳児の言葉の発達と保育
12．5歳児の言葉の発達と保育
13〜14．言葉の遅れをもつ子どもの理解と援助
15．言葉と文化（絵本，ことば遊び）
16．試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容の指導法	65	表現ＩA	1	前期　金 3, 4	吉田真理子

授業の概要
グループで半期をかけて，絵本を題材としたペープサート劇作りに取り組み，期の終わりには実際の保育園や幼稚園にて実演をおこなう。
・劇づくりを通して，音楽，造形，身体などを含む総合的な表現技術を習得する。
・特に“音楽表現”に重点を置く

学習の目的
・年齢を考慮した，子どもにとって魅力的なペープサートを製作できるようになる
・題材となる絵本の内容を深く読み取ることができるようになる
・実際の園の発表会での取り組みに活かすことができる。
・実際に表現する経験を通して，表現活動の楽しさや魅力を知ることができる。

受講要件
・グループワークのため，遅刻・欠席には厳しく対処する
・表現ＩB・表現ⅡBと併せて受講することが望ましい
・受講希望者は必ず第1回目のガイダンスに出席すること

成績評価方法と基準　レポート50%，出席50%

オフィスアワー　金曜日14時30分〜15時30分

学習内容
第1回：領域「表現」のねらいと内容
第2回：演劇に関する映像の鑑賞
第3回：題材となる絵本のプレゼンテーション
第4回：絵本とグループの決定，及び計画の作成
第5回：役割決めと脚本づくり
第6回：ペープサートの製作と実演練習
第7回：ペープサートの製作と実演練習
第8回：ペープサートの製作と実演練習
第9回：ペープサートの製作と実演練習
第10回：ペープサートの製作と実演練習
第11回：グループ間での披露と意見交換
第12回：前回の反省をふまえた修正
第13回：リハーサルと反省会
第14回：実際の幼稚園でペープサート劇を実演
第15回：劇の反省会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容の指導法	65	表現ＩB	1	後期　金 1, 2	吉田真理子

授業の概要
グループで半期をかけて，絵本を題材としたペープサート劇作りに取り組み，期の終わりには実際の保育園や幼稚園にて実演をおこなう。
・劇づくりを通して，音楽，造形，身体などを含む総合的な表現技術を習得する。
・劇あそび・劇づくりの土台には、子どもの様々な力（想像力、言葉、身体表現、生活体験など）が関与していることを認識する。
・特に“身体表現”に重点を置く

学習の目的
・年齢を考慮した，子どもにとって魅力的なペープサートを製作できるようになる
・題材となる絵本の内容を深く読み取ることができるようになる
・実際の園の発表会での取り組みに活かすことができる。
・実際に表現する経験を通して，表現活動の楽しさや魅力を知ることができる。

受講要件
・表現ⅡBと併せて受講することを原則とする。
・グループワークのため，遅刻・欠席には厳しく対処する。
・受講希望者は必ず第一回目のガイダンスに出席すること。
・前期に表現IAを受講していることが望ましい。

予め履修が望ましい科目　表現ＩA

成績評価方法と基準　レポート50%，出席50%

オフィスアワー　毎週金曜日14:30〜15:00 吉田研究室（専門2号館3階）

学習内容
第1回：ガイダンス（題材の説明，昨年度の劇の映像を鑑賞）
第2回：絵本のプレゼンテーション，及び絵本の決定
第3回：計画書の作成，役割決定
第4回：製作・練習
第5回：製作・練習
第6回：製作・練習
第7回：製作・練習
第8回：製作・練習
第9回：1回目の通し練習披露
第10回：修正・練習
第11回：2回目の通し練習披露
第12回：修正・練習
第13回：実演（附属幼稚園）と反省会
第14回：実演（津市内の保育園）
第15回：実演（四日市市内の保育園）
第16回：実演（伊勢市内の保育園）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容の指導法	～65	表現ⅡA	1	前期　月7,8	北谷 正子（教育学部非常勤講師）

授業の概要
・領域「表現」造形を通して、「表現」のなりたちや、子どもたちに何を育てようとしているのか、内容を理解する。
・保育実践の場で、どのように環境を整え、どのように個々に向き合い、援助していけばよいか具体的に考える。
・造形を生む豊かな感性や表現とは、幼児の生活や遊びと共にある。
・前期では、理論と、実践例に沿った指導の諸問題を考える。

学習の目的
・領域「表現」のなりたちや内容を理解し、幼児の生活や遊びを充実させて，感性や表現力をはぐくむ。
・幼児が感じたことや考えたことを造形の様々な手法や材料を選んで表現することが出来るよう援助の方法を組み立てる。

学習の到達目標
・領域「表現」のなりたちや内容を知り、意義や課題を理解する。
・幼児が感じたことや考えたことを汲み取り、環境の構成を工夫していくことが出来る。
・造形につながる感性や表現力を培う環境とはどんなものか考えることができる。
・造形の手法や材料について知り、的確に援助することができる。
・造形活動についての指導計画を立案することができる。

成績評価方法と基準　ミニレポート50%、期末レポート50% 計100%（合計60%以上で合格）

学習内容
第1回 幼児教育の基本、授業の概要
第2回 幼稚園教育要領、領域「表現」とは、造形の意義
第3回 豊かな感性や表現をはぐくむ
第4回 幼児の生活や遊び
第5回 造形の基礎
第6回 生きるということと表現
第7回 ものとかかわって
第8回 造形的思考力
第9回 造形的思考力と表現
第10回 行事や季節にかかわる造形
第11回 幼児の発達と造形
第12回 幼稚園教育課程や年間計画から
第13回 1日の指導計画や指導案では
第14回 造形教育の問題と領域「表現」の課題
第15回 領域「表現」造形のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容の指導法	65	表現ⅡB	1	後期　金3,4	岩附啓子（教育学部非常勤講師）

授業の概要
・発達段階をふまえ，劇あそび，劇づくりの理論を学ぶ
・ペープサートづくりに取り組み，実演する
・共同製作を通しコミュニケーション能力を高める
・ペープサートの，特に製作面に力を入れる

学習の目的
・子どもの発達に応じた，劇あそび，劇づくりのプロセスを学ぶ
・劇あそび，劇づくりを通して，子どもの想像力，言葉，身体表現，
生活体験など様々な力が関与していることを学ぶ
・演じ方の基礎技術を学ぶとともに，子ども理解を深める
・日常にある身近なものが表現の材料になることを知る

学習の到達目標
・劇あそび，劇づくりにおける基礎的な知識の獲得
・子どもの視点に立った劇づくりを考える力
・ペープサートづくりを通して，子どもの表現全般への理解を深める
・身近なものを材料に，工夫して劇に取り入れることができる

受講要件
・表現IBと併せて受講することを原則とする
・グループワークのため，遅刻や欠席には厳しく対処する
・受講希望者は第1回目のガイダンスに必ず出席すること
・前期に表現IAの授業を受講していることが望ましい

予め履修が望ましい科目　表現ⅠA

成績評価方法と基準　出席50%，レポート50%

学習内容
第1回：ガイダンス（題材の説明，昨年度の劇の映像を鑑賞）
第2回：絵本のプレゼンテーション，及び絵本の決定
第3回：計画書の作成，役割決定
第4回：製作・練習
第5回：製作・練習
第6回：製作・練習
第7回：製作・練習
第8回：製作・練習
第9回：1回目の通し練習披露
第10回：修正・練習
第11回：2回目の通し練習披露
第12回：修正・練習
第13回：実演（附属幼稚園）と反省会
第14回：実演（津市内の保育園）
第15回：実演（四日市市内の保育園）
第16回：実演（伊勢市内の保育園）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
保育内容の指導法	66	保育指導論	2	後期　水 1, 2	須永 進

授業の概要　「保育指導論」では、今日社会的な期待の大きい、子育て支援を中心に学習する。保育所や幼稚園とは異なる視点をもつ子育て支援を、基礎的な考え方からはじめ、経緯や現状を理解し、実践的な方法を深める必要がある。授業では、こうした視点にたって、進めていくが、近年特に、保育者として求められている「相談支援」に対する知識や技術の理解は不可欠になっていることから、その点についても授業を通して学習する。

学習の目的　保育の分野において、子育て支援の学習は重要性を増している。この「保育指導論」では、そのための基礎的な力と同時に、現状への理解、課題やこれからのあるべき姿など、子育て支援に関する知識や基本的技術を習得することを目的としている。この過程を理解することにより、今後ますますニーズが多様化する子育て支援への理解とそれに対応できる保育者としての能力を身につけることが可能と考えられる。

学習の到達目標　子育て支援に関する基本的な知識や技術の獲得をひとつの到達目標としている。すなわち、保育所保育や幼稚園教育とは、異なる子育て支援の保育の内容や方法に関する知識や基本的技術を系統的に学習できているかどうか、またそれに対する自己の考えや意見を持ちえているかどうか、などがそれにあたる。

予め履修が望ましい科目　幼児教育や保育に関連する教科のうち、子育て支援に関する項目を予め理解しておくことが望ましい。

教科書　須永 進 編著 「事例に学ぶ保育のための相談援助・支援〜その方法と実際〜」 同文書院

成績評価方法と基準　レポート 50% 授業に取り組む意欲や積極性など、授業態度 50%など、総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日 14:40〜16：10 2号館3階 須永研究室

学習内容
子育て支援に関する理論の学習や施設見学などを通して、授業目的の達成を図る。具体的には次のような授業計画を。
1．オリエンテーションー授業の目的、進め方について
2．子育て支援の概要 I
3．子育て支援の概要 ii
4．子育て支援施設の見学、実践
5．施設見学後の考察ーグループによる検討（現状把握、保育者の役割、保育の方法など）
6．保育者養成機関による子育て支援教育
7．外国の子育て支援を学ぶーニュージーランドほか I
8．外国の子育て支援を学ぶーフィンランドほか ii
9．子育て支援施設の見学、実践
10．施設見学後の考察ーグループによる検討（現状把握、保育内容・方法、これからの課題など）
11．保育指導ー相談支援について 基礎 I （相談支援の理念、基本原則）
12．保育指導ー相談支援について 基礎 II （相談の基本的方法）
13．保育相談ー相談支援について 実践 I （事例の検討）
14．保育相談ー相談支援について 実践 ii （事例の検討、相談支援の方法のまとめ）
15．全体のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導	65期以前	教師と生徒の心理 II	2	後期　火 7, 8	松浦 均（教育学部学校教育講座）
	66〜	生徒指導・進路指導論 II	2		

授業の概要
教育現場で起きる様々な問題について，学校，教師，児童生徒，それぞれの観点から受講生を中心にして議論を行っていきたい．
授業では，議論して考えを深めたい複数のテーマを設定し，これについてグループを作って検討してもらう．
それを発表し，受講生全体で討議を行う．

学習の目的
教師と生徒に関する様々な問題について簡単に答えの出るものではないが，
受講生のなかで一定の見解を作り上げる作業を行うことでにより，考えを深めていくこと，いろいろな問題意識を持つことを目的とする．

学習の到達目標
学校，教師，児童生徒に関する様々な社会的問題について，様々な観点から見ることができるようにする複眼的視野をもつこと．
それらの問題について議論し，自分の考えを構築していくことができるようになること．

受講要件　とくになし

予め履修が望ましい科目　とくになし

教科書　授業中に紹介できるものを提示する

成績評価方法と基準　授業出席およびコメント提出40%，グループ発表および最終レポート60%

オフィスアワー　水曜日午後（ただし会議のある日を除く），研究室で対応

学習内容
第1週：イントロダクション，この授業の方法についての説明
第2〜4週（第1クール）学校教育の観点からの話題提供とそれについての議論
第5〜7週（第2クール）生徒の心理の観点からの話題提供とそれについての議論
第8〜10週（第3クール）教師の心理の観点からの話題提供とそれについての議論
第11〜13週（第4クール）生徒と教師の相互作用の観点からの話題提供とそれについての議論
第14週：最後のまとめと議論および授業総括
授業のやり方としては，3週間を1クールとして，グループ活動を通して各クールのテーマについて議論していく形になる．毎クールの初回に討議事項について，こちらから話題提供を行い，クール第2週でグループ発表，第3週でそのクールの議論についての総括を行う．これを繰り返していく．各自は毎週授業コメントを作成し議論を深めていく．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路指導	66	生徒指導・進路指導論 I	2	前期　金 1, 2	廣岡 雅子（教育学部非常勤講師）
	～65	教師と生徒の心理 I	2		

授業の概要　生徒指導・進路指導の意義を理解し、幼稚園・小学校において生徒指導・進路指導を実践できるような心理学的知識や具体的な手法を学習する。

学習の目的　体験ワークや具体的事例の学習をすることにより、幼児児童の発達的特徴や、幼児児童の健全な成長を教育現場で促すために必要とされる心理学理論や具体的な手法などが、生徒指導・進路指導の観点から理解できる。

学習の到達目標
SGEやSSEを学び具体例を体験した後に授業案を考えることにより、教育現場での実践力がつく。
学級集団の作り方、幼児児童や保護者などとの良好な関わり方や支え方、信頼される教師になる方法など、発達段階を踏まえた上で、教師として生徒指導・進路指導を進めるための具体的行動がわかる。

教科書　なし（授業用の資料を用意する）

成績評価方法と基準
出席状況30%、レポート20%、期末試験50%。
ただし、原則として4回以上の欠席者とレポート未提出者には単位取得を認めない。

オフィスアワー　毎週金曜日10:30～11:00、学校教育事務室

学習内容
1 生徒指導・進路指導とは
2 構成的グループエンカウンター
3 社会的スキル教育
4 教育相談、アサーション
5 感情統制の指導・支援
6 乳幼児期の心理発達
7 児童期の心理発達とキャリア教育
8 保護者・地域との連携
9 わかる授業1
10 わかる授業2
11 特別支援教育1
12 特別支援教育2
13 不適応行動1：学級崩壊、不登校
14 不適応行動2：いじめ
15 教師のソーシャル・サポート、メンタルヘルス
16 筆記試験

その他
・授業に20分以上遅刻した場合は、出席点を減点する。
・レポートは、授業時に指示する提出期限を厳守すること。なお、レポート未提出者は単位を取得できない。
・履修希望者が多数の場合は、抽選を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育指導・進路指導	66、67	生徒指導・進路指導論 I	2	後期　金 1, 2	廣岡 雅子（教育学部非常勤講師）
	～65	教師と生徒の心理 I	2		

授業の概要　生徒指導・進路指導の意義を理解し、幼稚園・小学校において生徒指導・進路指導を実践できるような心理学的知識や具体的な手法を学習する。

学習の目的　体験ワークや具体的事例の学習をすることにより、幼児児童の発達的特徴や、幼児児童の健全な成長を教育現場で促すために必要とされる心理学理論や具体的な手法などが、生徒指導・進路指導の観点から理解できる。

学習の到達目標
SGEやSSEを学び具体例を体験した後に授業案を考えることにより、教育現場での実践力がつく。
学級集団の作り方、幼児児童や保護者などとの良好な関わり方や支え方、信頼される教師になる方法など、発達段階を踏まえた上で、教師として生徒指導・進路指導を進めるための具体的行動がわかる。

教科書　なし（授業用の資料を用意する）

成績評価方法と基準
出席状況30%、レポート20%、期末試験50%。
ただし、原則として4回以上の欠席者とレポート未提出者には単位取得を認めない。

オフィスアワー　毎週金曜日10:30～11:00、学校教育事務室

学習内容
1 生徒指導・進路指導とは
2 構成的グループエンカウンター
3 社会的スキル教育
4 教育相談、アサーション
5 感情統制の指導・支援
6 乳幼児期の心理発達
7 児童期の心理発達とキャリア教育
8 保護者・地域との連携
9 わかる授業1
10 わかる授業2
11 特別支援教育1
12 特別支援教育2
13 不適応行動1：学級崩壊、不登校
14 不適応行動2：いじめ
15 教師のソーシャル・サポート、メンタルヘルス
16 筆記試験

その他
・授業に20分以上遅刻した場合は、出席点を減点する。
・レポートは、授業時に指示する提出期限を厳守すること。なお、レポート未提出者は単位を取得できない。
・履修希望者が多数の場合は、抽選を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路相談	66	生徒指導・進路指導論 I	2	前期　火 9, 10	杉本英晴(教育学部，非常勤講師)
	～65	教師と生徒の心理 I	2		

授業の概要
保育者や教員は，幼児や児童の発達を促す上で，大きな役割を担っている。そのため，保育者や教員には，子どもに対する個別の関わりや子ども集団・組織の運営に必要な「コミュニケーション」方法の習得が求められる。
そこで，本授業では，学校場面における「コミュニケーション」について取り上げ，教育心理学や社会心理学の知見をもとに概説していく。

学習の目的
・教育心理学や「社会心理学に基づく「コミュニケーション」の基礎知識を習得すること
・そうした基礎知識をもとに，学校場面でのコミュニケーション（とくに，教師と子どものコミュニケーション）について，客観的に理解することができるようになること

学習の到達目標
・習得した基礎知識をもとに，学校場面でのコミュニケーションはもちろんのこと，普段のコミュニケーションについて振り返り，客観的に理解することができるようになること
・グループ討論などの協同学習を行うことで，子どもを理解する多様な視点も習得すること

教科書　なし。適宜プリントを用意する。

成績評価方法と基準　授業への取り組み30%、期末試験70%、計100%（合計60%以上で合格）。

オフィスアワー　対応窓口は，松浦 均教員（学校教育講座）

学習内容
第1回 イントロダクション：人間の発達とは
第2回 子どものコミュニケーションの発達の基礎：認知・記憶
第3回 子どもの社会性の発達：心の理論
第4回 子どもの社会性の発達：道徳性の発達
第5回 子どものコミュニケーション方法：非言語的コミュニケーション
第6回 子どものコミュニケーション方法：言語的コミュニケーション
第7回 児童期の環境の発達：物理的環境と社会的環境
第8回 児童期から青年初期の親子関係
第9回 教師の働きかけが子どもに及ぼす影響
第10回 教師の認知が子どもに及ぼす影響
第11回 効果的なリーダーシップ
第12回 学級集団におけるコミュニケーションの特徴
第13回 教師による評価
第14回 教師同士のコミュニケーション
第15回 まとめ

その他　学校場面や日常生活での「コミュニケーション」について，主観的に捉えるのではなく，客観的にどのように理解することができるのか，授業の中で考えていきたいと思います。日常生活における自分や周囲の「コミュニケーション」に意識を向けて考えながら，授業を受けてください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育指導・進路指導	66, 67	生徒指導・進路指導論 II	2	前期　月 5, 6	亀田研（教育学部 非常勤講師）
	～65	教師と生徒の心理 II	2		

授業の概要　様々な教育心理学的な研究知見を紹介し，それらに基づいて，より適応的な生徒指導や学習指導について考える。

学習の目的
教育心理学に関する生徒指導や学習指導に関する知識を習得する。生徒指導・学習指導について各自が深く考え，自分の意見を持つことができるようになる。

学習の到達目標
生徒指導・学習指導に関する教育心理学的な知見を知り，理解できる。
それらの知識を活かし，適切な生徒指導について，各自が考え，具体的にはどのような行動をとればいいのかが分かる。

受講要件　なし

予め履修が望ましい科目　なし

教科書　なし（授業中に資料を配付する）

成績評価方法と基準　出席20%，小レポート20%，期末試験60%

オフィスアワー　毎週月曜日12:30～13:00，場所教育学部非常勤講師控え室（世話役：教育学部 松浦均先生）

学習内容
1 ガイダンス(生徒指導の定義と目的)
2 認知発達と生徒指導・学習指導1
3 認知発達と生徒指導・学習指導2
4 学習プロセスと生徒指導・学習指導1
5 学習プロセスと生徒指導・学習指導2
6 学習プロセスと生徒指導・学習指導3
7 心理社会的発達1
8 心理社会的発達2
9 教師―生徒関係1
10 教師―生徒関係2（障害をもった生徒の理解）
11 学級集団1（集団の理解）
12 学級集団2（いじめの理解と対策）
13 進路と生徒指導1
14 進路と生徒指導2
15 まとめと授業の総括
16 試験

その他　なし

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
人間発達科学コース/AIII 教育実践創造	66, 67	生徒指導・進路指導論 II	2	前期　月 7, 8	亀田研（教育学部 非常勤講師）
	～65	教師と生徒の心理 II	2		

授業の概要　様々な教育心理学的な研究知見を紹介し，それらに基づいて，より適応的な生徒指導や学習指導について考える。

学習の目的
教育心理学に関する生徒指導や学習指導に関する知識を習得する。生徒指導・学習指導について各自が深く考え，自分の意見を持つことができるようになる。

学習の到達目標
生徒指導・学習指導に関する教育心理学的な知見を知り，理解できる。
それらの知識を活かし，適切な生徒指導について，各自が考え，具体的にはどのような行動をとればいいのかが分かる。

受講要件　なし

予め履修が望ましい科目　なし

教科書　なし（授業中に資料を配付する）

成績評価方法と基準　出席20%，小レポート20%，期末試験60%

オフィスアワー　毎週月曜日12:30～13:00，場所教育学部非常勤講師控え室（世話役：教育学部 松浦均先生）

学習内容
1 ガイダンス(生徒指導の定義と目的)
2 認知発達と生徒指導・学習指導1
3 認知発達と生徒指導・学習指導2
4 学習プロセスと生徒指導・学習指導1
5 学習プロセスと生徒指導・学習指導2
6 学習プロセスと生徒指導・学習指導3
7 心理社会的発達1
8 心理社会的発達2
9 教師―生徒関係1
10 教師―生徒関係2（障害をもった生徒の理解）
11 学級集団1（集団の理解）
12 学級集団2（いじめの理解と対策）
13 進路と生徒指導1
14 進路と生徒指導2
15 まとめと授業の総括
16 試験

その他　なし

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
幼児理解の理論及び方法	～66	幼児の発達と生活	2	後期　火 7, 8	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）

授業の概要　乳幼児発達の心理学的プロセスについて，その古典的な理論から最新の知見まで学ぶとともに，家庭や保育所・幼稚園における記録やエピソードも交えながら，実践への応用可能性についても考察を深める。

学習の目的　乳児期から幼児期までの発達の理論や最新の知見を学び，実践に役立つ知識と技術を身に付ける。

学習の到達目標
発達の理論や各発達期の特徴についての基本的な知識を得る。
発達理論と保育・幼児教育の実践とを結び付けて考えることができる。

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　定期試験50%，課題・レポート20%，授業への取り組み状況30%

学習内容
第1回：幼児の発達と生活（概要）
第2回：遺伝と環境
第3回：生物学的な基礎
第4回：親子関係（1）
第5回：親子関係（2）
第6回：学習のしくみ（1）
第7回：学習のしくみ（2）
第8回：発達段階と発達課題
第9回：乳児期の発達と生活（1）
第10回：乳児期の発達と生活（2）
第11回：幼児前期の発達と生活（1）
第12回：幼児前期の発達と生活（2）
第13回：幼児後期の発達と生活（1）
第14回：幼児後期の発達と生活（2）
第15回：学童期に向けて

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（国語・幼小）	64	教職実践演習（国語・幼小）	2	後期　水1,2	○守田庸一，松本昭彦，丹保健一，余健，林朝子，和田崇（以上，教育学部）

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。
第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パートは、まず第6回において、国語科教育の課題に関して具体的な事例を基にディスカッションを行う。続く第7回〜12回では、第6回で確認した課題をふまえるとともに児童の発達にも留意して、グループで授業を構想・実践・記録し、それを分析・考察する。その上で、第13・14回において、それぞれの取り組んだ授業およびその分析・考察を報告し、意見を交換することを通じて、各自の省察をさらに深める。なお、第7〜14回を通じて、連携先の現職教員や、教員勤務経験者の指導を受け、実践の質的向上を促すこととする。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

教科書　開講後に指示する。

成績評価方法と基準　第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00，場所：国語教育学第1研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。幼小の連結に関する基礎的理解をする。
第2〜5回は，P1〜P4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
P1abcd
P2dabc
P3cdab
P4bcda
a）伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
b）中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
c）佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
d）瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
第6回以降の内容は以下の通りである。
第6回：国語科教育の課題に関するディスカッション
第7回：授業の構想（幼稚園との学びの接続及び小学校1〜3年生）
第8回：国語科授業の構想（小学校4〜6年生および中学校との学びの接続）
第9回：国語科授業の実践・記録I（小学校1〜3年生）
第10回：国語科授業の実践・記録II（小学校4〜6年生）
第11回：国語科授業の分析・考察I（小学校1〜3年生）
第12回：国語科授業の分析・考察II（小学校4〜6年生）
第13回：国語科授業実践の報告
第14回：国語科授業実践に関する意見交流
第15回：国語科授業実践の成果のまとめ／これからの国語科教育の課題に関する意見交流

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（国語・中高）	64	教職実践演習（国語・中高）	2	後期　水1,2	○守田庸一，松本昭彦，丹保健一，余健，林朝子，和田崇（以上，教育学部）

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は40人程度とし、原則として演習形式とする。
第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題やの中高の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6回以降）は、まず第6回において、国語科教育の課題に関して具体的な事例を基にディスカッションを行う。続く第7回～12回では、第6回で確認した課題をふまえるとともに生徒の発達にも留意して、グループで授業を構想・実践・記録し、それを分析・考察する。その上で、第13・14回において、それぞれの取り組んだ授業およびその分析・考察を報告し、意見を交換することを通じて、各自の省察をさらに深める。なお、第7～14回を通じて、連携先の現職教員や、教員勤務経験者の指導を受け、実践の質的向上を促すこととする。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

教科書　開講後に指示する。

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　火曜日12:00～13:00，場所：国語教育学第1研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：現代の中学校における問題の所在を，学生自らの教育実地経験とすりあわせの上，確定する。学校，学級，教師，生徒，文化，地域，連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
第2～5回は，J1～J4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
J1ABCD
J2DABC
J3CDAB
J4BCDA
A）織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで，これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
B）松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する。
C）大日方真史
近年の教育現場における関係性（生徒間、教師・生徒間）に関わる課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
D）南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定。
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を議論する。
第6回以降の内容は以下の通りである。
第6回：国語科教育の現状に関するディスカッション
第7回：国語科授業の構想I（中学校）
第8回：国語科授業の構想II（高校）
第9回：国語科授業の実践・記録I（中学校）
第10回：国語科授業の実践・記録II（高校）
第11回：国語科授業の分析・考察I（中学校）
第12回：国語科授業の分析・考察II（高校）
第13回：国語科授業実践の報告
第14回：国語科授業実践に関する意見交流
第15回：国語科授業実践の成果のまとめ／これからの国語科教育の課題に関する意見交流

科目	期生　類	授業科目	単位	期	曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（社会科・幼小）	2	その他(学習要項・履修要項等を参照してください)	水 1,2	永田 成文（三重大学教育学部）

授業の概要　社会科(幼・小)の教育実践を見据えて，授業の企画(連携校の先生方を含む)・教育実践(連携校の先生方を含む)・振り返り(連携校の先生方を含む)の一連の演習を行う。

学習の目的　社会科(幼・小)教師として，教科指導の実践力を育成する。

学習の到達目標
与えられたテーマの教材研究ができる。
ねらいに応じた指導案が作成できる。
児童に応じた指導ができる。
授業を振り返り，より望ましい授業を設計できる。

受講要件　社会科小学校の免許を取得するための単位がそろっていること

予め履修が望ましい科目
社会教材研究
小専社会

教科書　該当学年の社会科教科書

成績評価方法と基準
企画力
参加態度
実践力
出席

オフィスアワー　木曜13:00-14:00

学習内容
1〜5回は共通 ※10月
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。幼小の連結に関する基礎的理解をする。
第2〜5回は，P1〜P4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2 3 4 5
P1 a b c d
P2 d a b c
P3 c d a b
P4 b c d a
a）伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
b）中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
c）佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
d）瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
以下社会科(幼・小) ※主に8〜9月集中 と 11月に1回
6回目：連携校との話し合い
7回目：社会科授業の検討
8回目：社会科授業の改善
9回目：社会科授業の準備
10回目：模擬授業実施
11回目：授業実践Ⅰと反省(Aグループ)
12回目：授業実践Ⅱと反省(Bグループ)
13回目：授業実践Ⅲと反省(Cグループ)
14回目：授業実践Ⅳと反省(Dグループ)
15回目：連携校との授業実践の反省

その他　8〜10月。特に9月後半に集中的に行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習(社会科・中高)	64	教職実践演習(社会科・中高)	2	後期　水1,2	森脇健夫(学校教育)、織田泰幸(学校教育)、松浦均(学校教育)、岡田珠江(実践センター)、南学(学校教育)、○山根栄次(社会科教育)

授業の概要
授業は、2つのパートから成る。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。
第1パート(第1回～第5回)では、三重県を中心とした地域の教育問題や中学生の発達段階に関する問題(いじめなど)について話し合う。
第2パート(第6回～15回)は、中学校社会科の授業記録の分析、授業参観、参観した授業の分析、参観した授業に関する新たな授業の立案と模擬授業を行う。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身に付けた実践力が、中学校の社会科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
①学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
②生徒の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や中学生の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　受講対象学生の要件と同じ。

教科書　三重「個を育てる授業」研究会・山根栄次・市川則文編『個の育成をめざす21世紀の生活科・社会科・総合の授業づくり』黎明書房、2002年

成績評価方法と基準　第1回～5回まで30%、第6回～15回まで70%(合計60%以上で合格)

オフィスアワー　火曜日13時10分から14時10分

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：現代の中学校における問題の所在を，学生自らの教育実地経験とすりあわせの上，確定する。学校，学級，教師，生徒，文化，地域，連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
第2～5回は，J1～J4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
J1ABCD
J2DABC
J3CDAB
J4BCDA
A）織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで，これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
B）松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する。
C）大日方真史
近年の教育現場における関係性（生徒間、教師・生徒間）に関わる課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
D）南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定。
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を議論する。
第6回 山根栄次
教科の指導力 個を生かした社会科授業の検討Ⅰ(地理的分野)
第7回 山根栄次
教科の指導力 個を生かした社会科授業の検討Ⅱ(歴史的分野)
第8回 山根栄次
教科の指導力 個を生かした社会科授業の検討Ⅲ(公民的分野)
第9回 山根栄次
教育現場(附属中学校)における教科指導の検討Ⅰ(授業参観)
第10回 山根栄次
参観授業の省察Ⅰ(授業記録作成)
第11回 山根栄次
参観授業の省察Ⅱ(授業分析)
第12回 山根栄次
参観授業の省察Ⅲ(教材研究)
第13回 山根栄次
参観授業の改善の模索
第14回 山根栄次
参観授業の改善案の発表
第15回 山根栄次
改善案の模擬授業の実施

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（数学・幼小）	2	後期　水1,2	森脇健夫、伊藤敏子、瀬戸美奈子、佐藤年明、中西良文、田中伸明

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育•療育•教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　フィールドでの作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　小学校専門数学、算数教材研究、数学科教育法（数学教育コース）、教育実地研究基礎（数学教育コースのもの）

教科書　特になし（数学教育コース）

成績評価方法と基準　第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー
火曜日12:00〜13:00
教育学部4F 数学教育第1研究室

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。幼小の連結に関する基礎的理解をする。
第2〜5回は，P1〜P4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。

回	2	3	4	5
P1	a	b	c	d
P2	d	a	b	c
P3	c	d	a	b
P4	b	c	d	a

a）伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
b）中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
c）佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
d）瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
第6〜15回 田中伸明
地域連携校での以下の教育実践・活動における児童の支援・実践を終えた上で、その省察を行う。
・1年生の算数の授業
・2年生の算数の授業
・3年生の算数の授業
・4年生の算数の授業
・5年生の算数の授業
・6年生の算数の授業
・特別支援
・総合的な学習時間
・学級会活動
・学校行事

その他　学校現場に行くので、教育者としての自覚と責任が必要である。（数学教育コース）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（数学・中高）	2	後期　水 1, 2	森脇健夫、伊藤敏子、瀬戸美奈子、佐藤年明、中西良文、中西正治

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育•療育•教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　フィールドでの作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　小学校専門数学、算数教材研究、数学科教育法（数学教育コース）、教育実地研究基礎（数学教育コースのもの）

教科書　特になし（数学教育コース）

成績評価方法と基準　第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　月曜日12：00〜13：00 中西研究室（教育学部専門校舎1号館4F）

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。幼小の連結に関する基礎的理解をする。
第2〜5回は，P1〜P4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回 2 3 4 5
P1 a b c d
P2 d a b c
P3 c d a b
P4 b c d a
a）伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
b）中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
c）佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
d）瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
6回目〜15回目
中学校の数学の授業の学習支援（学生の意見・感想および現場と大学の教師の助言の往還）の省察
6回目〜15回目は、地域の中学校で行う。

その他　学校現場に行くので、教育者としての自覚と責任が必要である。（数学教育コース）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（理科・幼小）	63	教職実践演習（理科・幼小）	2	後期　水1,2	平賀伸夫、荻原彰、牧原義一、國仲寛人、新居淳二、後藤太一郎、平山大輔、伊藤信成、栗原行人

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、主に模擬授業の実践と討論を子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。”

成績評価方法と基準　第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。幼小の連結に関する基礎的理解をする。
第2〜5回は，P1〜P4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
P1abcd
P2dabc
P3cdab
P4bcda
a）伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
b）中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
c）佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
d）瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
第6回 初年次からの実践の省察と課題の確認 教科教育
第7回 指導案作成の手法 教科教育
第8回 教育現場における教科指導の検討（授業参観）
第9回 教育現場における教科指導の検討（授業参観） 教科教育
第10回 参観授業の省察 教科教育
第11回 理科授業（物理分野）の指導事例の検討と討論 教科教育・物理
第12回 理科授業（化学分野）の指導事例の検討と討論 教科教育・化学
第13回 理科授業（生物分野）の指導事例の検討と討論 教科教育・生物
第14回 理科授業（地学分野）の指導事例の検討と討論 教科教育・地学
第15回 理科授業実践の成果のまとめ／これからの理科教育の課題に関する意見交流 理科全教員

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（理科・中高）	63	教職実践演習（理科・中高）	2	後期　水1,2	平賀伸夫、荻原彰、牧原義一、國仲寛人、新居淳二、後藤太一郎、平山大輔、伊藤信成、栗原行人

授業の概要
”授業は、2つのパートからなる。授業の規模は40人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題やの中高の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6～15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、教科教育の内容や生徒の発達理解にもとづいた実践を行う。小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。”

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
”① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や中高の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。”

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～15回まで70%（合計60%以上で合格）

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：現代の中学校における問題の所在を，学生自らの教育実地経験とすりあわせの上，確定する。学校，学級，教師，生徒，文化，地域，連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
第2～5回は，J1～J4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
J1ABCD
J2DABC
J3CDAB
J4BCDA
A）織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで，これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
B）松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する。
C）岡田珠江
近年の教育現場における課題（いじめ・不登校など思春期の心理臨床など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
D）南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定。
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を議論する。
第6回 初年次からの実践の省察と課題の確認 教科教育
第7回 指導案作成の手法 教科教育
第8回 教育現場における教科指導の検討（授業参観）
第9回 教育現場における教科指導の検討（授業参観） 教科教育
第10回 参観授業の省察 教科教育
第11回 理科授業（物理分野）の指導事例の検討と討論 教科教育・物理
第12回 理科授業（化学分野）の指導事例の検討と討論 教科教育・化学
第13回 理科授業（生物分野）の指導事例の検討と討論 教科教育・生物
第14回 理科授業（地学分野）の指導事例の検討と討論 教科教育・地学
第15回 理科授業実践の成果のまとめ／これからの理科教育の課題に関する意見交流 理科全教員

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（幼小）	64	教職実践演習（音楽・幼小）	2	後期　水1,2	根津知佳子、川村有美、兼重直文、弓場徹、森川孝太朗、小畑真梨子

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育•療育•教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　1年次より、「はじめのいっぽの会」「学部長と教育実習を語る会」等に参加し、「学びのあしあと（学修履歴）」をすべて記入していること。

予め履修が望ましい科目　教員免許状取得に関わる科目群

成績評価方法と基準　第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

学習内容
第1回 オリエンテーション
4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する．学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。
幼小の連結に関する基礎的理解をする。
以下、グループに分かれて演習を行う。
第2回 伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
第3回 瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第4回 佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
第5回 中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第6回 初年次からの実践の省察と課題の確認
第7回 授業づくり
第8回 教材研究（編曲）
第9回 授業実践
第10回 実践の省察
第11回 表現と鑑賞（器楽）
第12回 表現と鑑賞（合奏•伴奏法）
第13回 表現と鑑賞（指揮法）
第14回 表現と鑑賞（重唱•合唱）
第15回 学校行事における鑑賞（総合芸術、著作権等）
第9回の実践は、隣接学校園（小学校高学年）で、12月に実施する。
第7回〜第8回では、小学校および中学校で扱う楽器（ソプラノリコーダー、和楽器等）を取り扱う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（音楽・中高）	2	後期　水1,2	根津知佳子、川村有美、兼重直文、弓場徹、森川孝太朗、小畑真梨子

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は40人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題やの中高の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6～15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、教科教育の内容や生徒の発達理解にもとづいた実践を行う。小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や中高の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　1年次より、「はじめのいっぽの会」「学部長と教育実習を語る会」等に参加し、「学びのあしあと（学修履歴）」をすべて記入していること。

予め履修が望ましい科目　教員免許状取得に関わる科目群

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～15回まで70%（合計60%以上で合格）

学習内容
第1回 森脇健夫
現代の中学校における問題の所在を、学生自らの教育実地経験とすりあわせの上、確定する。学校、学級、教師、生徒、文化、地域、連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
以下、グループに分かれて演習を行う。
第2回 織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで，これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
第3回 松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する．
第4回 岡田珠江
近年の教育現場における課題（いじめ・不登校など思春期の心理臨床など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第5回 南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定．
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を議論する。
第6回 初年次からの実践の省察と課題の確認
第7回 授業づくり
第8回 教材研究（編曲）
第9回 授業実践
第10回 実践の省察
第11回 表現と鑑賞（器楽）
第12回 表現と鑑賞（合奏•伴奏法）
第13回 表現と鑑賞（指揮法）
第14回 表現と鑑賞（重唱•合唱）
第15回 学校行事における鑑賞（総合芸術、著作権等）
第9回の実践は、隣接学校園（小学校高学年）で、12月に実施する。
第7回～第8回では、小学校および中学校で扱う楽器（アルトリコーダー、和楽器等）を取り扱う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（美術・幼小）	64-62	教職実践演習（美術・幼小）	2	後期　水1,2	山田康彦、上山浩、関俊一、奥田真澄、岡田博明、山口泰弘

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。
第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6～15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育•療育•教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　1年次より、『学びのあしあと（学修履歴）』等の蓄積をしている学生

教科書　授業で指示する

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー
毎週水曜日 10:30～12:00
場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。幼小の連結に関する基礎的理解をする。
第2～5回は，P1～P4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
P1abcd
P2dabc
P3cdab
P4bcda
a）伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
b）中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
c）佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
d）瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
以下、美術教育講座で実施する。
第6回 図工科・美術科教育の今日的課題①附属小・中教員の問題提起
第7回 図工科・美術科教育の今日的課題②隣接小学校の授業参観と検討
第8回 図工科・美術科教育の今日的課題③隣接中学校の授業参観と検討
第9回 図工科・美術科教育の指導力ー授業の事例検討
第10回 教材づくり・授業構想①教材の開発・検討（絵画・彫刻・デザイン・工芸・鑑賞の各分野の教材づくり）
第11回 教材づくり・授業構想②学習指導案の作成
第12回 教材づくり・授業構想③学習指導案の検討
第13回 授業実践と省察①（絵画、デザイン分野の実践を中心に）
第14回 授業実践と省察②（彫刻、工芸、鑑賞分野の実践を中心に）
第15回 授業実践の省察とまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（美術 中高）	64-62	教職実践演習（美術・中高）	2	後期　水1,2	山田康彦、上山浩、関俊一、奥田真澄、岡田博明、山口泰弘

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は40人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題やの中高の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6～15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、教科教育の内容や生徒の発達理解にもとづいた実践を行う。小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　1年次より、『学びのあしあと（学修履歴）』等の蓄積をしている学生

教科書　授業で指示する

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー
毎週水曜日 10:30～12:00
場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：現代の中学校における問題の所在を，学生自らの教育実地経験とすりあわせの上，確定する。学校，学級，教師，生徒，文化，地域，連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
第2～5回は，J1～J4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
J1ABCD
J2DABC
J3CDAB
J4BCDA
A）織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで，これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
B）松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する。
C）大日方真史
近年の教育現場における関係性（生徒間、教師・生徒間）に関わる課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
D）南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定。
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を議論する。
以下、美術教育講座で実施する。
第6回 図工科・美術科教育の今日的課題①附属小・中教員の問題提起
第7回 図工科・美術科教育の今日的課題②隣接小学校の授業参観と検討
第8回 図工科・美術科教育の今日的課題③隣接中学校の授業参観と検討
第9回 図工科・美術科教育の指導力ー授業の事例検討
第10回 教材づくり・授業構想①教材の開発・検討（絵画・彫刻・デザイン・工芸・鑑賞の各分野の教材づくり）
第11回 教材づくり・授業構想②学習指導案の作成
第12回 教材づくり・授業構想③学習指導案の検討
第13回 授業実践と省察①（絵画、デザイン分野の実践を中心に）
第14回 授業実践と省察②（彫刻、工芸、鑑賞分野の実践を中心に）
第15回 授業実践の省察とまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（保健体育・幼小）	64	教職実践演習（保健体育・幼小）	2	後期　水1,2	岡野 昇，加納 岳拓

授業の概要
授業は，2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし，原則として演習形式とする。
第1パート（第1回～第5回）では，三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6～15回）では，地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり，保育•療育•教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して，実地研究等で身につけた実践力が，保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され，確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し，問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し，関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論，模擬的な実践・分析検討を通して，三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%，第6回～15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　・前・後期 水曜日12:00～13:00，保体（保健体育科教育学Ⅱ）研究室

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。幼小の連結に関する基礎的理解をする。
第2～5回は，P1～P4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
P1abcd
P2dabc
P3cdab
P4bcda
a）伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
b）中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
c）佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
d）瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
以下，岡野昇と加納岳拓が担当する。なお，9～10月の実施予定である。
第6回 体育科等の指導力Ⅰ―小学校における教材開発
第7回 体育科等の指導力Ⅱ―小学校における授業デザイン
第8回 体育科等の指導力Ⅲ―小学校における授業観察
第9回 体育科等の指導力Ⅳ―小学校における事例検討
第10回 体育科等の指導力Ⅴ―小学校における事例報告の交流
第11回 運動遊びの実践と省察Ⅰ―幼稚園における実践①
第12回 運動遊びの実践と省察Ⅱ―幼稚園における実践②
第13回 運動遊びの実践と省察Ⅲ―幼稚園における実践の省察
第14回 運動遊びの実践と省察Ⅳ―幼稚園における実践記録の作成
第15回 運動遊びの実践と省察Ⅴ―幼稚園における実践記録の報告と交流

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（保健体育・中高）	64	教職実践演習（保健体育・中高）	2	後期　水 1, 2	岡野 昇，加納 岳拓

授業の概要
授業は，2つのパートからなる。授業の規模は40人程度とし，原則として演習形式とする。
第1パート（第1回〜第5回）では，三重県を中心とした地域の教育問題やの中高の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では，地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり，教科教育の内容や生徒の発達理解にもとづいた実践を行う。小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して，実地研究等で身につけた実践力が，教科教育に必要な理論と統合され，確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し，問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し，関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論，模擬的な実践・分析検討を通して，三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

予め履修が望ましい科目　保健体育科教育法

成績評価方法と基準　第1回〜第5回まで30%，第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　前・後期 水曜日12:00〜13:00，保体（保健体育科教育学 II）研究室

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：現代の中学校における問題の所在を，学生自らの教育実地経験とすりあわせの上，確定する。学校，学級，教師，生徒，文化，地域，連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
第2〜5回は，J1〜J4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回 2 3 4 5
J1 A B C D
J2 D A B C
J3 C D A B
J4 B C D A
A）織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで， これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
B）松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する。
C）大日方真史
近年の教育現場における関係性（生徒間、教師・生徒間）に関わる課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
D）南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定。
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を議論する。
以下，岡野昇と加納岳拓が担当する。なお，9〜10月の実施予定である。
第6回 保健体育科の指導力 I ―中学校における教材開発
第7回 保健体育科の指導力 II ―中学校における授業デザイン
第8回 保健体育科の指導力III ―中学校における授業観察
第9回 保健体育科の指導力IV ―中学校における事例検討
第10回 保健体育科の指導力 V ―中学校における事例報告の交流
第11回 保健体育科の授業実践と省察 I ―中学校における授業実践①
第12回 保健体育科の授業実践と省察 II ―中学校における授業実践②
第13回 保健体育科の授業実践と省察III ―中学校における授業実践の省察
第14回 保健体育科の授業実践と省察IV ―中学校における授業実践記録の作成
第15回 保健体育科の授業実践と省察 V ―中学校における授業実践記録の報告と交流

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（技術・幼小）	2	後期　火 9, 10; 水 1, 2	伊藤敏子、瀬戸美奈子、佐藤年明、中西良文（以上、学校教育講座） 松岡 守、松本金矢、中西康雅、魚住明生（以上、教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育•療育•教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　技術科教育法IIIと技術科教育法IVを履修済であること。

予め履修が望ましい科目　ものづくり教材研究または技術科教育法Ⅰ，技術科教育法Ⅱ，技術科教育法III，技術科教育法IV

教科書　授業において必要な教科書は適宜紹介する。

成績評価方法と基準　第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー
時間：水曜日12:00〜13:00
場所：技術科教育学研究室

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。幼小の連結に関する基礎的理解をする。
第2〜5回は，P1〜P4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回 2 3 4 5
P1 a b c d
P2 d a b c
P3 c d a b
P4 b c d a
a）伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
b）中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
c）佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
d）瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
以下、技術・ものづくり教育講座の教員が担当する。
第6回 学校現場における今日的課題について(1)（ガイダンス）
第7回 学校現場における今日的課題について(2)（学校現場の教員との対話）
第8回 学校現場における今日的課題について(3)（授業参観）
第9回 学校現場における今日的課題について(4)（参観後の検討）
第10回 今日的課題と実践案の作成（材料加工）
第11回 今日的課題と実践案の作成（エネルギー変換）
第12回 今日的課題と実践案の作成（情報）
第13回 今日的課題と実践案の作成（生物育成）
第14回 実践
第15回 協議

その他　演習では，附属中学校等の研究発表会に参加し，学校現場の今日的な課題について協議する取組を行う。さらに，本授業終了時には附属中学校に出向き，各自が取り組んだ内容を発表し，附属教員より指導・助言をしてもらう。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（技術・中高）	2	後期　火 9, 10; 水 1, 2	森脇建夫、小田泰幸、松浦 均、岡田珠江、南 学（以上、学校教育講座） 松岡 守、松本金矢、中西康雅、魚住明生（以上、教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は40人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題やの中高の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、教科教育の内容や生徒の発達理解にもとづいた実践を行う。小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　技術科教育法IIIと技術科教育法IVを履修済であること。

予め履修が望ましい科目　ものづくり教材研究または技術科教育法Ⅰ，技術科教育法Ⅱ，技術科教育法III，技術科教育法IV

教科書　授業において必要な教科書は適宜紹介する。

成績評価方法と基準　第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー
時間：水曜日12:00〜13:00
場所：技術科教育学研究室

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：現代の中学校における問題の所在を，学生自らの教育実地経験とすりあわせの上，確定する。学校，学級，教師，生徒，文化，地域，連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
第2〜5回は，J1〜J4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回 2 3 4 5
J1 A B C D
J2 D A B C
J3 C D A B
J4 B C D A
A）織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで，これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
B）松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する。
C）大日方真史
近年の教育現場における関係性（生徒間、教師・生徒間）に関わる課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
D）南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定。
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を議論する。
以下、技術・ものづくり教育講座の教員が担当する。
第6回 学校現場における今日的課題について(1)（ガイダンス）
第7回 学校現場における今日的課題について(2)（学校現場の教員との対話）
第8回 学校現場における今日的課題について(3)（授業参観）
第9回 学校現場における今日的課題について(4)（参観後の検討）
第10回 今日的課題と実践案の作成（材料加工）
第11回 今日的課題と実践案の作成（エネルギー変換）
第12回 今日的課題と実践案の作成（情報）
第13回 今日的課題と実践案の作成（生物育成）
第14回 実践
第15回 協議

その他　演習では，附属中学校等の研究発表会に参加し，学校現場の今日的な課題について協議する取組を行う。さらに，本授業終了時には附属中学校に出向き，各自が取り組んだ内容を発表し，附属教員より指導・助言をしてもらう。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（家政・幼小）	64	教職実践演習（家政・幼小）	2	後期　水1,2	○林 未和子、吉本敏子、乗本 秀樹、増田 智恵、磯部 由香、平島 円（教育学部）

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6～15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育•療育•教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　林未和子 毎週金曜日16:30～17:30 場所：教育学部1号館 家庭科教育第2研究室 miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。幼小の連結に関する基礎的理解をする。
第2～5回は，P1～P4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
P1abcd
P2dabc
P3cdab
P4bcda
a）伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
b）中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
c）佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
d）瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
第6回 初年次からの実践の省察と課題の確認 学習支援参加のガイダンス
第7回 家庭科の授業の学習支援(1)家族と家庭生活
第8回 家庭科の授業の学習支援(2)食生活、衣生活
第9回 家庭科の授業の学習支援(3)消費生活と環境
第10回 教材研究・授業作り(1)教材の検討・開発
第11回 教材研究・授業作り(2)学習指導案の作成
第12回 教材研究・授業作り(3)学習指導案の検討
第13回 学習支援校における授業実践(1) 担当する単元(題材）の授業 1回目
第14回 学習支援校における授業実践(2) 担当する単元(題材）の授業 1回目の続き
第15回 学習支援体験の報告・意見交流
（第6回～第15回は、家政教育コースの教員が担当する。）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（家政・中高）	64	教職実践演習（家政・中高）	2	後期　水1,2	○林 未和子、吉本敏子、乗本 秀樹、増田 智恵、磯部 由香、平島 円（教育学部）

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は40人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題やの中高の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6～15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、教科教育の内容や生徒の発達理解にもとづいた実践を行う。小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　林未和子 毎週金曜日16:30～17:30 場所：教育学部1号館 家庭科教育第2研究室 miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：現代の中学校における問題の所在を，学生自らの教育実地経験とすりあわせの上，確定する。学校，学級，教師，生徒，文化，地域，連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
第2～5回は，J1～J4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2345
J1ABCD
J2DABC
J3CDAB
J4BCDA
A）織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで， これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
B）松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する。
C）大日方真史
近年の教育現場における関係性（生徒間、教師・生徒間）に関わる課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
D）南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定。
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を議論する。
第6回 初年次からの実践の省察と課題の確認 学習支援参加のガイダンス
第7回 家庭科の授業の学習支援(1)家族と家庭生活
第8回 家庭科の授業の学習支援(2)食生活、衣生活
第9回 家庭科の授業の学習支援(3)消費生活と環境
第10回 教材研究・授業作り(1)教材の検討・開発
第11回 教材研究・授業作り(2)学習指導案の作成
第12回 教材研究・授業作り(3)学習指導案の検討
第13回 学習支援校における授業実践(1) 担当する単元(題材）の授業 1回目
第14回 学習支援校における授業実践(2) 担当する単元(題材）の授業 1回目の続き
第15回 学習支援体験の報告・意見交流
（第6回～第15回は、家政教育コースの教員が担当する。）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（英語・幼小）	2	後期　水1,2	荒尾浩子、伊藤敏子、瀬戸美奈子、佐藤年明、中西良文

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育•療育•教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

教科書　授業内で指定する

成績評価方法と基準
第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）
第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　木曜7・8限 第二英語教育研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション
4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する．学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。
幼小の連結に関する基礎的理解をする。
以下、グループに分かれて演習を行う。
第2回 伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
第3回 瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第4回 佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
第5回 中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
（以下15回まで荒尾浩子）
第6回 英語科の意義、目的
第7回 英語科教育の課題に関するディスカッション
第8回 英語科授業の構想Ⅰ（異文化理解分野の題材利用）
第9回 英語科授業の構想Ⅱ（英語学に基づく文法指導）
第10回 英語科授業の構想Ⅲ（英米文学分野の題材利用）
第11回 授業参観、授業検討会
第12回 模擬授業の練習Ⅰ
第13回 模擬授業の練習Ⅱ
第14回 模擬授業の実施・省察
第15回 模擬授業の実施・省察

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（英語・中高）	2	後期　水 1, 2	荒尾浩子

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は40人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題やの中高の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、教科教育の内容や生徒の発達理解にもとづいた実践を行う。小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

教科書　授業内で指定する

成績評価方法と基準
第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）
第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　木曜7・8限 第二英語教育研究室

学習内容
第1回 森脇健夫
現代の中学校における問題の所在を、学生自らの教育実地経験とすりあわせの上、確定する。学校、学級、教師、生徒、文化、地域、連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
以下、グループに分かれて演習を行う。
第2回 織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで，これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
第3回 松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する．
第4回 岡田珠江
近年の教育現場における課題（いじめ・不登校など思春期の心理臨床など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第5回 南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定．
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を議論する。
（以下15回まで荒尾浩子）
第6回 英語科の意義、目的
第7回 英語科教育の課題に関するディスカッション
第8回 英語科授業の構想Ⅰ（異文化理解分野の題材利用）
第9回 英語科授業の構想Ⅱ（英語学に基づく文法指導）
第10回 英語科授業の構想Ⅲ（英米文学分野の題材利用）
第11回 授業参観、授業検討会
第12回 模擬授業の練習Ⅰ
第13回 模擬授業の練習Ⅱ
第14回 模擬授業の実施・省察
第15回 模擬授業の実施・省察

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（学校教育・人間発達科学コース・幼小）	2	後期　水1,2	伊藤敏子、森脇健夫、瀬戸美奈子、佐藤年明、中西良文

授業の概要　授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。第2パート（第6回～第15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育・療育・教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育・療育・教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
①学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
②幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　1年次より、『学びのあしあと（学修履歴）』の蓄積をしている学生

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～第15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　毎週火曜日10:30～12:00, 場所教育哲学研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション
4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。
幼小の連結に関する基礎的理解をする。
以下、グループに分かれた演習を行う。
第2回 伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を探求する。
第3回 瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援、多国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を探求する。
第4回 佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
第5回 中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を探求する。
第6回 伊藤敏子・森脇健夫 （この回以降は、伊藤・森脇で担当）
自分の振り返りと教師としての資質・能力、教職実践演習における個々の目標の設定
第7回
学校における諸課題のPBL的探求1：児童・生徒の問題行動
第8回
学校における諸課題のPBL的探求2：学校における人間関係（同僚性等）
第9回
学校における諸課題のPBL的探求3：学校、クラスの経営
第10回
学校現場に課題をもって参加する。活動づくり
第11回
学校現場に課題をもって参加する。活動の運営
第12回
学校現場に課題をもって参加する。活動の振り返り
第13回
教師の教室実践の報告から学ぶ1：子どもの自主性、自立的な総合学習
第14回
教師の教室実践の報告から学ぶ2：教科を核にした横断的な総合学習
第15回
教師の教室実践の報告から学ぶ3：テーマ的総合学習

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（特別支援教育・幼小）	2	後期　水 1, 2	荒川哲郎・大谷正人・菊池紀彦・郷右近歩・栗田季佳

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や、学齢期の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行う。具体的には、幼稚園や小学校における特別支援教育について理解を深めるとともに、理解にもとづいた実践を行う。また、障がいのある人たちの就労についても理解を深める。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や学齢期の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

教科書　授業のなかで適宜紹介します。

成績評価方法と基準
第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）
出席とレポートにより評価する。

オフィスアワー　菊池研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション
4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する．学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。
幼小の連結に関する基礎的理解をする。
以下、グループに分かれて演習を行う。
第2回
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
第3回
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第4回
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
第5回
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第6回から第15回 特別支援教育講座の5名の教員が担当する。内容は以下のとおりである。
・小学校の特別支援学級における学習支援
・生活介護施設における日中活動支援
・療養介護施設における日中活動支援
・本学企画総務部定型業務等運営・支援センター職員との活動

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（特別支援教育・中高）	2	後期　水 1, 2	荒川哲郎・大谷正人・菊池紀彦・郷右近歩・栗田季佳

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や、学齢期の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行う。具体的には、中学校、特別支援学校（中学部・高等部）における特別支援教育について理解を深めるとともに、理解にもとづいた実践を行う。また、障がいのある人たちの就労についても理解を深める。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 生徒の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や学齢期の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

教科書　授業のなかで適宜紹介します。

成績評価方法と基準
第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）
出席とレポートにより評価する。

オフィスアワー　菊池研究室

学習内容
第1回
現代の中学校における問題の所在を、学生自らの教育実地経験とすりあわせの上、確定する。学校、学級、教師、生徒、文化、地域、連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
以下、グループに分かれて演習を行う。
第2回
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで，これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
第3回
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する．
第4回
近年の教育現場における課題（いじめ・不登校など思春期の心理臨床など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第5回
学びの履歴を基にした省察と目標設定．
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を議論する。
第6回から第15回 特別支援教育講座の5名の教員が担当する。内容は以下のとおりである。
・中学校の特別支援学級における学習支援
・生活介護施設における日中活動支援
・療養介護施設における日中活動支援
・本学企画総務部定型業務等運営・支援センター職員との活動

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（幼児・幼小）	2	後期　水 1, 2	吉田真理子、須永進 、富田昌平

授業の概要
授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回〜第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。
第2パート（第6〜15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育•療育•教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育•療育•教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　1年次より、「はじめのいっぽの会」「学部長と教育実習を語る会」等に参加し、「学びのあしあと（学修履歴）」をすべて記入していること。

予め履修が望ましい科目　教員免許状取得に関わる科目群

成績評価方法と基準　第1回〜第5回まで30%、第6回〜15回まで70%（合計60%以上で合格）

学習内容
第1回 オリエンテーション
4年前期までの教育実地研究やボランティア体験等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する．学びの履歴を基にした学生自身のカリキュラム体験の省察と目標設定を行う。
幼小の連結に関する基礎的理解をする。
以下、グループに分かれて演習を行う。
第2回 伊藤敏子
教育現場の多様性・学校の社会的役割と教師の資質について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
第3回 瀬戸美奈子
幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援，他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第4回 佐藤年明
教師として「教育課程編成全体にわたる視野をもつ」（1996教課審答申）活動とはどのようなものか？ 個人レベルと教師集団レベルの両方において検討しよう。
第5回 中西良文
コミュニケーション能力開発に焦点化される近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する．
第6回 既習実践の省察とこれからの課題確認
第7回 幼児教育の保育実践 I （未就園児）
第8回 幼児教育の保育実践 II 事後検討と省察
第9回 幼児教育の保育実践III（3、4歳児）
第10回 幼児教育の保育実践IV 事後検討と省察
第11回 指導計画の意義と実際についての事例検討
第12回 幼児教育の保育実践 V（5．6歳児）
第13回 幼児教育の保育実践VI 事後検討と省察
第14回 望ましい幼児教育環境についての意見交換
第15回 幼児教育者についての意見交換
これからの幼児教育の課題についての意見交流

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習（情報・中高）	64	教職実践演習（情報・中高）	2	後期　水1,2	○萩原克幸（教育学部），山守一徳（教育学部），丁亜希（教育学部），奥村晴彦（教育学部）

授業の概要　授業は、2つのパートからなる。授業の規模は40人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題やの中高の発達段階に関する知識・理解を確認する。第2パート（第6～15回）では、ディスカッション・能動的学習を通して、情報教育の実践の現状・課題などについて理解するとともに、そうした現状・課題を踏まえて、教科「情報」のあり方について考えるとともに、その授業実践を行う。さらに、小学校・中学校における情報教育も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
① 学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
② 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③ 学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④ 具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

教科書　授業時に指定する。

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20～17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 森脇健夫
オリエンテーション：現代の中学校における問題の所在を，学生自らの教育実地経験とすりあわせの上，確定する。学校，学級，教師，生徒，文化，地域，連携等に類別し探究の起点とする。その上でグループでの解決策を探求する。
第2～5回は，J1～J4の4グループに分かれて演習を行う。グループ分けは別途案内する。各回の授業内容と担当教員は以下のとおり。
回2 3 4 5
J1 A B C D
J2 D A B C
J3 C D A B
J4 B C D A
A）織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ，不登校，学級崩壊など）の現状について理解したうえで，これらの問題に取り組むための方策について，グループで探究する。
B）松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し，グループで解決策を議論する。
C）大日方真史
近年の教育現場における関係性（生徒間、教師・生徒間）に関わる課題について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を探求する。
D）南学
学びの履歴を基にした省察と目標設定。
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し，グループで解決策を議論する。
第6回以降は以下のとおりである。
第6回 教科「情報」を含む幅広い意味での情報教育についての導入
第7回 情報教育の現状と授業実践のテーマ設定
第8回 教材研究（コンピュータ・インターネットの仕組み）
第9回 教材研究（情報科学技術）
第10回 教材研究（情報倫理）
第11回 教材研究（プログラミング）
第12回 授業実践・省察・ディスカッション（コンピュータ・インターネットの仕組み）
第13回 授業実践・省察・ディスカッション（情報科学技術）
第14回 授業実践・省察・ディスカッション（情報倫理）
第15回 授業実践・省察・ディスカッション（プログラミング）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教職実践演習	64	教職実践演習（人間発達科学コース・中高）	2	後期	伊藤敏子、森脇健夫、松浦均、織田泰幸、大日方真史、南学

授業の概要　授業は、2つのパートからなる。授業の規模は20人程度とし、原則として演習形式とする。第1パート（第1回～第5回）では、三重県を中心とした地域の教育問題や幼・小の発達段階に関する知識・理解を確認する。第2パート（第6回～第15回）では、地域特有の課題やそれに対する取り組みについて具体的な事例を基にディスカッションを行ったり、保育・療育・教科教育の内容や子どもの発達理解にもとづいた実践を行う。幼児期から小学校低学年へのなめらかな接続や小学校高学年から中学校への連携も視野に入れる。

学習の目的　一人一人の履修状況や到達度の把握及び授業課題の遂行を通して、実地研究等で身につけた実践力が、保育・療育・教科教育に必要な理論と統合され、確かな実践的指導力が形成されているかを確認する。

学習の到達目標
①学校の社会的役割と教師の資質を理解し、問題解決することができる。
②幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題に対して適切な理解を示すことができる。
③学級・学校経営に必要な関係者との連携・協力の重要性を理解し、関係者との連携を活かした問題解決を示すことができる。
④具体的な課題に対するグループ討論、模擬的な実践・分析検討を通して、三重県を中心とした地域における現代的な教育問題や幼小の発達段階を踏まえた授業内容・方法を具体的に提示し考察することができる。

受講要件　1年次より、『学びのあしあと（学修履歴）』の蓄積をしている学生

成績評価方法と基準　第1回～第5回まで30%、第6回～第15回まで70%（合計60%以上で合格）

オフィスアワー　毎週火曜日10:30～12:00, 場所教育哲学研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション
以下、グループに分かれた演習を行う。
第2回 織田泰幸
様々な学校問題（例：いじめ、不登校、学級崩壊など）の現状について理解したうえで、これらの問題に取り組むための方策について、グループで探求する。
第3回 松浦均
学びの環境をめぐる現代の教育問題（生徒指導）について仮想的な問題を提起し、グループで解決策を議論する。
第4回 大日方真史
近年の教育現場における課題について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を探求する。
第5回 南学
教育現場において教師の判断が求められる様々な場面について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を議論する。
第6回 伊藤敏子・森脇健夫 （この回以降は、伊藤・森脇で担当）
自分の振り返りと教師としての資質・能力、教職実践演習における個々の目標の設定
第7回
学校における諸課題のPBL的探求1：児童・生徒の問題行動
第8回
学校における諸課題のPBL的探求2：学校における人間関係（同僚性等）
第9回
学校における諸課題のPBL的探求3：学校、クラスの経営
第10回
学校現場に課題をもって参加する。活動づくり
第11回
学校現場に課題をもって参加する。活動の運営
第12回
学校現場に課題をもって参加する。活動の振り返り
第13回
教師の教室実践の報告から学ぶ1：子どもの自主性、自立的な総合学習
第14回
教師の教室実践の報告から学ぶ2：教科を核にした横断的な総合学習
第15回
教師の教室実践の報告から学ぶ3：テーマ的総合学習

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育社会・制度・経営学	-66	生涯学習論	2	前期集中	榊原 博美（教育学部非常勤講師）

授業の概要　この授業では、生涯学習論の背景となる歴史の流れを、学校教育と社会教育との関連の中でとらえた上で、ユネスコにおける世界的な生涯教育理念の登場とその発展、日本へのその受容と変容を把握し、政策主導の生涯学習の問題点を明らかにし、本来あるべき生涯学習の真の姿をとらえ直すことを目的とする。

学習の目的　生涯教育、生涯学習とは何か、人が生涯学ぶことの意義について自分の考えを持つことが出来るようになる。

学習の到達目標　自ら社会教育の施設や生涯学習の機関などに出向き実際の学習活動について興味をもって観察したり参加したりするようになる。

教科書　特に指定しない。

成績評価方法と基準　授業内の課題20% 最終課題80%（60%以上で合格）

オフィスアワー
教育学部美術教育講座美術史研究室
山口泰弘
毎週木曜日12:00～13:00，2号館2階 美術史研究室

学習内容
①オリエンテーション
②学校の起源と歴史
③日本における社会教育の歴史（1）
④日本における社会教育の歴史（2）
⑤ユネスコにおける生涯教育論の登場
⑥ユネスコにおける生涯教育論の発展
⑦学習権宣言の意義
⑧日本における生涯学習論の受容と変容
⑨日本の生涯学習政策の問題点
⑩ユネスコにおける学習権の発展
⑪映画から学ぶ（1）
⑫映画から学ぶ（2）
⑬生涯学習の土台となる学校教育の問題点
⑭生涯学習の現場
⑮まとめ
⑯試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語教育	64- 63-60	英語科教育法入門 英語科教育特講 I	2 2	後期　木 3, 4	荒尾浩子（教育学部英語教育講座）

授業の概要　授業内では英語科教育全般に関する知識と情報を得るために、理論を学びながらも教育現場の現状も知りその応用について考察する。

学習の目的　英語科教育における目標を理解した上で、中学校、高等学校で英語を教えるために必要な理論とスキルを学ぶ。

学習の到達目標　英語の教員として基礎的な知識とスキルを習得し教育実践の場でいかすことができるようになる。

教科書　改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 望月昭彦（編著）

成績評価方法と基準　授業参加、レポート、試験を総合的に評価

オフィスアワー　水曜日3、4限 荒尾浩子研究室

学習内容
第1回： 授業紹介
第2回：英語教育と英語教育学
第3回：日本の英語教育
第4回： 学習指導要領
第5回：学習者の動機付け
第6回：学習者の認知スタイル、人格、適性
第7回：英語教員
第8回：外国語活動との接続
第9回：英語教授法1
第10回：英語教授法2
第11回：コミュニケーション活動
第12回：コミュニケーション活動の具体例
第13回：国際理解と英語教育
第14回：国際理解教育の実際
第15回：4技能の高め方
第16回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路相談	～65 66～	教育臨床 II 教育相談 II	2 2	後期　金 7, 8	廣崎 陽

授業の概要　教育相談の理論と方法を学ぶとともに、教育相談の視点から、学校現場での事例を通し、生徒の心理・発達上の様々な問題に対する理解と支援方法を学習する。

学習の目的　学校現場で教育活動を展開する素地として、生徒の学校適応上の諸問題について理解し、教師が行う教育相談の理論と方法を習得する。

学習の到達目標
1）学校における教育相談の理論と方法を習得する。
2）理論と方法から演習を通し、現場での生徒の諸問題へのアセスメントと支援の方法の基盤を形成する。
3）特別支援教育における支援の方法を習得する。
4）保護者、管理職、スクールカウンセラー、専門機関との連携の体制のあり方がわかる。

教科書　なし。資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート（毎授業内外で行う小レポート15回）30%、期末試験70%

学習内容
1）教育相談の必要性
2）生徒理解の生徒指導
3）進路指導と入試
4）青年期の発達課題と教師のサポート
5）教師が行うカウンセリング①理論
6）教師が行うカウンセリング①技法
7）教育相談活動のあり方
8）生徒の諸問題に対する理解と対応①いじめ
9）生徒の諸問題に対する理解と対応②不登校
10）生徒の諸問題に対する理解と対応③中途退学
11）生徒の諸問題に対する理解と対応④問題行動
12）障がいのある生徒への支援①
13）障がいのある生徒への支援②
14）保護者対応
15）教師の信念とメンタルヘルス

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
生徒指導・教育相談・進路相談	～65 66～	教育臨床 II 教育相談 II	2 2	後期　金 9, 10	廣崎 陽

授業の概要　教育相談の理論と方法を学ぶとともに、教育相談の視点から、学校現場での事例を通し、生徒の心理・発達上の様々な問題に対する理解と支援方法を学習する。

学習の目的　学校現場で教育活動を展開する素地として、生徒の学校適応上の諸問題について理解し、教師が行う教育相談の理論と方法を習得する。

学習の到達目標
1）学校における教育相談の理論と方法を習得する。
2）理論と方法から演習を通し、現場での生徒の諸問題へのアセスメントと支援の方法の基盤を形成する。
3）特別支援教育における支援の方法を習得する。
4）保護者、管理職、スクールカウンセラー、専門機関との連携の体制のあり方がわかる。

教科書　なし。資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート（毎授業内外で行う小レポート15回）30%、期末試験70%

学習内容
1）教育相談の必要性
2）生徒理解の生徒指導
3）進路指導と入試
4）青年期の発達課題と教師のサポート
5）教師が行うカウンセリング①理論
6）教師が行うカウンセリング①技法
7）教育相談活動のあり方
8）生徒の諸問題に対する理解と対応①いじめ
9）生徒の諸問題に対する理解と対応②不登校
10）生徒の諸問題に対する理解と対応③中途退学
11）生徒の諸問題に対する理解と対応④問題行動
12）障がいのある生徒への支援①
13）障がいのある生徒への支援②
14）保護者対応
15）教師の信念とメンタルヘルス

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語教育	65以前	国語教育ゼミナールIII	1	前期　火3,4	守田 庸一（教育学部）

授業の概要
1．国語科教育研究の検討
2．国語科教育実践の検討
3．教材・カリキュラムの開発
4．模擬授業・実験授業の企画及び実施

学習の目的
1．国語科教育に関する知見を深化・拡充させる。
2．国語科教育実践力を向上させる。

学習の到達目標
1．国語科教育に関する幅広い知識を獲得する。
2．国語科の授業を創造し実践することができるようになる。

教科書　開講時に指示する。

成績評価方法と基準　研究発表の内容や出席状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容
受講者による資料作成・発表・討議によって各回の学習を進める（初回・最終回を除く）。
第1回 ガイダンス
第2〜7回 4年生による卒業研究の報告
第8〜14回 3年生による共同研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
国語教育	65以前	国語教育ゼミナールIV	1	後期　火3,4	守田 庸一（教育学部）

授業の概要
1．国語科教育研究の検討
2．国語科教育実践の検討
3．教材・カリキュラムの開発
4．模擬授業・実験授業の企画及び実施

学習の目的
1．国語科教育に関する知見を深化・拡充させる。
2．国語科教育実践力を向上させる。

学習の到達目標
1．国語科教育に関する幅広い知識を獲得する。
2．国語科の授業を創造し実践することができるようになる。

予め履修が望ましい科目　国語教育ゼミナールIII

教科書　開講時に指示する。

成績評価方法と基準　研究発表の内容や出席状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容
受講者による資料作成・発表・討議によって各回の学習を進める（初回・最終回を除く）。
第1回 ガイダンス
第2〜7回 4年生による卒業研究の報告
第8〜14回 3年生による共同研究の報告
第15回 総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
社会科教育	65	社会科基礎	2	前期　水3,4	○大坪慶之（教育学部）、永田成文（教育学部）、内田秀昭（教育学部）

授業の概要　社会科における地理・歴史・公民に関する授業をするためには、効果的な授業を行うための方法・スキルに加え、内容面でも十分な知識を持つ必要がある。本授業では、模擬授業への準備、他の受講生の模擬授業に対する討論などを通じて、内容面を中心に、社会科の授業を行う能力の獲得・向上を目指します。

学習の目的　教育実習を前に、内容面について、地理・歴史・公民に関する授業を行うための能力を身につける。

学習の到達目標　地理・歴史・公民に関する授業を行うために必要な知識を身につけ、それ以上の関連情報についても事前に調べて、独力で授業の準備ができるようになる。

受講要件　社会科教育コース3年次の学生は、受講を強く推奨する。

予め履修が望ましい科目　社会科入門

教科書　テキストは、初回の授業時に配布する。

成績評価方法と基準　授業中の発表・態度、レポート等によって総合的に評価する。

学習内容
◎地理の模擬授業
1.地図の読み方
2.自然地理（日本）
3.自然地理（世界）
4.人文地理（日本）
5.人文地理（世界）
◎歴史の模擬授業
6.日本史（古代・中世）
7.日本史（近世・近現代）
8.世界史（西洋史）
9.世界史（東洋史）
10.テーマ史
◎公民の模擬授業
11.法律
12.日本の政治
13.国際関係
14.経済のしくみ
15.現代の日本と世界の経済

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
社会科教育	-66	社会科授業論	2	後期　火 5, 6	永田 成文(教育学部)

授業の概要
社会科教育と総合的な学習の時間として行われる授業の目的，内容，方法の違いをつかむ。また，社会科授業の1つの授業プロセスである知る過程→分かる過程→考える過程からなる単元構成をつかむ。
これらをもとに模擬授業を構想し，実践する。

学習の目的　社会科教育と総合的な学習の時間の違いを明確に意識でき，社会科としての授業を考え，模擬授業を構想し，実践できる。

学習の到達目標
社会科教育の特色を総合学習と比較して理解できる。
模擬授業を構想できる。
模擬授業を実践できる。

受講要件　社会科教育で卒業研究を予定している2年生は必修。

予め履修が望ましい科目　小専社会

教科書　田部俊充編『大学生のための社会科授業実践ノート』風間書房（購入）小学校学習指導要領解説社会編（購入），中学校学習指導要領解説社会編（購入）

成績評価方法と基準　「参加態度(出席)」= 25%，「提出物」= 25%，「模擬授業への取組」= 25%，「テスト」= 25%

オフィスアワー　毎週木曜日13:00〜14:00，共通教育1号館3F社会科教育第2研究室

学習内容
1．社会科と総合的な学習の時間の歴史
2．社会科と総合的な学習の時間の目的と内容
3．社会科と総合的な学習の時間の授業実践比較
4．社会科の授業の内容
5．社会科固有の授業とは(授業論)
6．構造的知識とは
7．概念探究過程とは
8．合理的意思決定とは
9．TC案を考える
10.模擬授業の効果を考える
11.模擬授業構想
12.模擬授業作成
13.模擬授業修正
14.模擬授業実践
15.模擬授業評価

その他
◎席指定で毎回出席確認 ◎遅刻3回で欠席1 ◎連続3回・通算5回欠で単位不認定
社会科教育で卒業論文を書く学生以外の社会科教育コースの学生も受講可

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
社会科教育	65	社会科教育ゼミナール	②	通年　木 9, 10	山根 栄次(三重大学教育学部), 永田 成文(三重大学教育学部)

授業の概要
前期は，卒業研究に向けて興味がある社会科教育のテーマを発表する。また，9月からの教育実習に向けて，授業構成，教材研究を行う。
後期は，4年生で行う卒業研究に向けて，社会科教育研究の方法，現在の社会科教育研究の課題について知り，学生各人の研究について問題意識を明らかにする。その後，テーマ設定を行い，それぞれのテーマについて基礎文献，重要文献を検討しあう。

学習の目的　社会科教育の文献に当たりながら追究したい社会科教育のテーマを設定する。社会科教育の発表報告に趣旨にそったコメントができる。

学習の到達目標
社会科教育の授業設計ができる。
社会科教育研究の研究テーマを見つけることができる。

受講要件
社会科教育で卒業研究をする3年次生
2年次生と4年次生も参加することが望ましい。

予め履修が望ましい科目
社会科教育学講義
社会科授業論

成績評価方法と基準　ゼミでの発言40，発表レポート60 計100%

オフィスアワー　毎週火曜日13:00〜14:00山根研究室、毎週木曜日13:00〜14:00永田研究室

学習内容
前期15回
第1回：社会科教育に関する文献の要約発表①（地域）
第2回：社会科教育に関する文献の要約発表②（歴史）
第3回：社会科教育に関する文献の要約発表③（社会）
第4回：社会科教育研究のキーワード調査①（地域）
第5回：社会科教育研究のキーワード調査②（歴史）
第6回：社会科教育研究のキーワード調査③（社会）
第7回：社会科教育の授業調査①（地域）
第8回：社会科教育の授業調査②（歴史）
第9回：社会科教育の授業調査③（社会）
第10回：教育実習の授業検討（単元）①（地域）
第11回：教育実習の授業検討（単元）②（歴史）
第12回：教育実習の授業検討（単元）③（社会）
第13回：教育実習の授業検討（本時）①（地域）
第14回：教育実習の授業検討（本時）②（歴史）
第15回：教育実習の授業検討（本時）③（社会）
後期15回
第1回：教育実習の授業の反省①（地域）
第2回：教育実習の授業の反省②（歴史）
第3回：教育実習の授業の反省③（社会）
第4回：社会科教育研究の文献分析①（地域）
第5回：社会科教育研究の文献分析②（歴史）
第6回：社会科教育研究の文献分析③（社会）
第7回：社会科教育卒業論文中間発表会参加・コメント①（地域）
第8回：社会科教育卒業論文中間発表会参加・コメント②（歴史）
第9回：社会科教育卒業論文中間発表会参加・コメント③（社会）
第10回：研究テーマを見据えた文献分析①（地域）
第11回：研究テーマを見据えた文献分析②（歴史）
第12回：研究テーマを見据えた文献分析③（社会）
第13回：研究テーマの決定①（地域）
第14回：研究テーマの決定②（歴史）
第15回：研究テーマの決定③（社会）

その他　社会科教育コースで社会科教育で卒業研究をする3年生は必修。その他のコースの学生は受講できない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
社会科教育	66	社会科教育学講義	2	前期　木 3, 4	山根 栄次(教育学部社会科教育講座教授)

授業の概要　社会科教育学の基礎概念について理解させる。

学習の目的　社会科教育学に関する基礎概念、社会科教育の歴史的変遷の概略がわかる。

学習の到達目標
社会科教育とは何かが、概略、説明できるようになる。
社会科教育学に関する基礎概念、社会科教育の歴史的変遷の概略がわかる。
外国の社会系教科について知る。

受講要件　社会科教育で卒業研究をする2年生は必修。それ以外でも、社会科教育コースの学生は履修可能。

予め履修が望ましい科目　共通教育科目の教育学

教科書
魚住・山根他編著『新版 21世紀社会科への招待』学術図書出版、2010年
日本社会科教育学会編、『新版・社会科教育事典』、ぎょうせい、2012年
外国の社会科教育関係論文(英文)も読む。

成績評価方法と基準　レポート50%。試験50%。

オフィスアワー　毎週火曜日10:30〜11:30、場所:山根研究室

学習内容
1.2.「社会科」の概念
3.4.5.社会科の授業論・学習論
6.7.8.社会科の教育課程論
9.10.11.日本における社会科教育の変遷
12.13.14.15 米英における社会系教科(英文講読)
16.試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
理科	67	理科ゼミナール	2	前期　水 3, 4	平賀伸夫、荻原彰、牧原義一、國仲寛人、新居淳二、後藤太一郎、平山大輔、伊藤信成、栗原行人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　理科教育を学ぶための指針を考える。

学習の目的　理科教育を学ぶための指針を得る。

学習の到達目標
・理科の様々な分野の概略を把握する
・教育現場における理科教育の状況を把握することができる

成績評価方法と基準
受講態度を重視するので、無断欠席は極めて低い評価を与える。
各教員がレポートや試験を課し、全教員の評価をもとに総合的に評価する。

学習内容
下記の内容を行う。講義の順番については第1回の講義の際に連絡する。
講座代表 講義の概要
牧原 身近で面白い物理の演示実験
國仲 粉体の物理
新居 固体・液体・気体の性質
後藤 プランクトンの感覚システム
平山 森と生物多様性
伊藤 太陽系の構造と特徴
栗原 地質時代の地球温暖化
荻原 環境教育の考え方と教材
平賀 生活との関連を重視した理科授業
実地見学や調査(時間外)
近隣学校での教育支援活動を含む

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
理科教育	65-62	理科教育ゼミナール	②	通年　金 7, 8	荻原彰, 平賀伸夫

授業の概要　理科教育の基本文献の講読、授業参観等

学習の目的　理科教育の基本文献の講読及び授業参観等等を通して、理科教育の理論と実践についての理解を深める

学習の到達目標　理科教育の理論と実践についての理解を深めることができたか

受講要件　3年生以上。理科教育の分野で卒業研究を行う者に限る。

成績評価方法と基準　レポート50%、出席状況50%。

オフィスアワー
荻原 彰：毎週金曜日9，10限 理科教育第2研究室(荻原研究室), E-mail ogi@edu.mie-u.ac.jp
平賀伸夫：毎週金曜日8:50〜10:20，理科教育第1研究室(平賀研究室), E-mail hiraga@edu.mie-u.ac.jp

学習内容　教員のアドバイスを受けながら、各自の研究の基礎となる理科教育の文献を調査し、その内容とその内容の各自の研究上の意味を発表する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
理科教育	～63	理科教育概論 I	2	前期　木 3, 4	荻原彰

授業の概要　理科教育を目的論、教材論、他領域（環境教育など）との関連等を概括的に講義する

学習の目的　理科教育の全体像を把握する

学習の到達目標　理科教育の目的、理科教材の特性、理科と環境教育など他領域の教育との関連について自分なりに意見を持ち、討議に参加することができる

教科書　新学習指導要領に応える理科教育

成績評価方法と基準　レポート、出席による

オフィスアワー　金曜日9，10限

学習内容
授業計画
第1回：理科教育の現代的課題
第2回：理科教育の目的・意義
第3回：理科教育の目的・意義
第4回：理科教育と動機付け
第5回：理科学習論
第6回：理科教育における探求学習
第7回：理科教育と思考力
第8回：物理教材の特性
第9回：化学教材の特性
第10回：生物教材の特性
第11回：地学教材の特性
第12回：理科授業の設計
第13回：理科教育と評価
第14回：環境教育と理科教育の関連
第15回：技術教育・エネルギー教育と理科教育の関連

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
理科教育	65-62	理科教育概論 II	2	後期　木 3, 4	平賀伸夫(教育学部理科教育講座)

授業の概要　主に、中学校理科を対象に、理科授業を計画、実践する基本的能力の育成をめざす。理科教育法の基礎理論を解説するとともに、指導案やビデオ等の授業記録の検討を通して、理論と実践の融合を図る。

学習の目的　理科授業を計画、実施する基本的能力を身につける。

学習の到達目標　理科授業を計画、実践する基本的能力を身につける。

教科書　特になし。

成績評価方法と基準　出席状況（毎時間の課題発表の評価を含む)60%、レポート40%。

オフィスアワー
毎週金曜日8:50～10:20，理科教育第1研究室(平賀研究室），
E-mail hiraga@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．理科教育の目標
2．理科教育カリキュラムの変遷
3．教材論①（観察・実験の意義）
4．教材論②（導入，展開等，場面ごとの観察・実験の具体的事例）
5．教材論③（観察・実験中の事故の事例，事故防止の心得）
6．評価①（絶対評価，観点別評価，指導と評価の一体化とは何か）
7．評価②（評価の具体的事例）
8．子ども論①（子どもの学習意欲の実態）
9．子ども論②（子どもの自然認識の実態）
10．授業分析①（指導案の構成）
11．授業分析②（授業記録を用いた，目的，展開，評価の対応関係）
12．授業分析③（授業記録を用いた，教師の発問，子どもの反応分析）
13．理科学習論①（構成主義学習論，有意味学習論等の紹介）
14．理科学習論②（環境教育，総合的学習の時間との連携）
15．理科学習論③（博物館等，地域の教育力の活かし方）
16．まとめ，レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽教育	64-65	音楽教育学ゼミナール1	1	前期　火 7, 8	根津知佳子

授業の概要　音楽教育を学ぶ上で必要な基礎的な読解力・論理的思考力・論述力を育成する。

学習の目的　自己の被教育体験を相対化できるようになる。

学習の到達目標　音楽教育を学ぶ上で必要な基礎的な読解力・論理的思考力・論述力を獲得する。

教科書　資料を配付する。

成績評価方法と基準　毎回の課題の達成度を総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日13：00～14：00

学習内容
（1） ガイダンス
（2）～（5） 音楽教育に必要な基礎的な力量
（6）～（9） 自己の音楽教育の相対化および報告
（10）～（11）音楽科の実践報告の購読
（12）～（14）プレゼンテーションの技法
（15） 意見交流

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽教育	65	音楽教育学ゼミナール1	1	前期　火 7, 8	川村 有美（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　本ゼミナールは音楽教育学について学ぶ土台づくりとして位置づけられる授業である。基本的文献の講読、討論、文献及び資料の収集、（仮）テーマの設定を行う。

学習の目的　基本的文献を分担しながら講読・討論をするなかで、音楽教育に関する理論的な知見の獲得を目指す。

学習の到達目標　基本的文献を分担しながら講読・討論をするなかで、音楽教育に関する理論的な知見を獲得する。

予め履修が望ましい科目　音楽教材研究、音楽科教育法Ⅰ

教科書　授業中、適宜指示する。

成績評価方法と基準　平常点（50点）、期末課題レポート（50点）。

オフィスアワー　毎週木曜日13：00〜14：00、場所：川村研究室

学習内容
1〜8．基本的文献の講読、討論を行う。
9〜10．文献や資料の収集、検索方法等について学ぶ。
11〜15．個人研究（仮テーマ）の発表を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽教育	64-65	音楽教育学ゼミナール2	1	後期　火 7, 8	根津知佳子

授業の概要　音楽科教育に必要な論理的思考およびプレゼンテーション力を学ぶ。

学習の目的　自分自身の素朴な感性と科学的な感性について、相対化できる。

学習の到達目標　音楽科教育に必要な論理的思考およびプレゼンテーション力を身に付ける。

予め履修が望ましい科目　音楽教育コースの必修科目群

教科書　資料を提示する。

成績評価方法と基準　毎回の課題に対する達成度を基盤とし、総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日13：00〜14：00

学習内容
（1）〜（4）教育実習における経験を相対化する。
（5）〜（8）実践現場で感じた問題意識を言語化し、論理的に説明する方法を学ぶ。
（9）〜（15）個人別研究発表、プレゼンテーションの方法を学ぶ。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽教育	65	音楽教育学ゼミナール2	1	後期　火 7, 8	川村有美（教育学部）

授業の概要　本ゼミナールでは「音楽教育学ゼミナール1」の成果を踏まえ、各自、論文のテーマを設定し、論文執筆を行う。

学習の目的　一人ひとりが課題意識を明確にし、設定した音楽教育関連のテーマに責任を持ってアプローチできるようにする。

学習の到達目標　一人ひとりが課題意識を明確にし、設定した音楽教育関連のテーマに責任を持ってアプローチできるようになる。

受講要件　「音楽教育学ゼミナールⅠ」を履修済であることが受講要件となる。

成績評価方法と基準　平常点（30点）、最終課題（70点）。

オフィスアワー　毎週木曜日13：00〜14：00、場所：川村研究室

学習内容
1〜6．（仮）テーマに関する先行研究を考察し、各自、その成果を個人発表する。
7〜8．論文の形式等について学ぶ。
9〜15．各自が課題意識を明確にし、論文のテーマを最終決定する。論文の執筆を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽教育	64-65	音楽教育学ゼミナール3	1	前期　火 9, 10	根津知佳子

授業の概要
音楽教育、隣接関連領域（福祉、医学、心理等）に関する研究を進める。
現場の課題を理解し、実践を構築することができる。

学習の目的
論文に関する先行研究を調べることができる。
実践を企画・構成することができる。

学習の到達目標　自らの理論的・実践的研究を構成することができる。

教科書　資料を配付する。

成績評価方法と基準　毎回の課題達成度により、総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日13：00〜14：00

学習内容
（1）〜（4）テーマを明確にし、論述する方法を学ぶ。
（5）〜（8）先行研究のレビューをまとめる。
（9）〜（15）論文の構成を検討し、作成する。

その他　音楽科教育に関する卒業研究を行う者を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽教育	64	音楽教育学ゼミナール3	1	前期　火 9, 10	川村有美

授業の概要　3年次「音楽教育学ゼミナールⅠ」及び「音楽教育学ゼミナールⅡ」における研究の集大成として卒業研究を行う。各々が選んだテーマに基づいて卒業論文を執筆する。

学習の目的　音楽科教育の理論と実践について、自らの考え方を確立する。

学習の到達目標　音楽科教育の理論と実践について、自らの考え方を確立することができるようになる。

受講要件　「音楽教育学ゼミナールⅠ」及び「音楽教育学ゼミナールⅡ」を履修済みの学生。

予め履修が望ましい科目

教科書　適宜、授業中に指示する。

成績評価方法と基準　平常点（50点）と最終課題レポート（50点）

オフィスアワー　木曜日：13:00〜14:00

学習内容
1〜8．基本的文献の講読、討論を行う。
9〜15．論文執筆計画の確認、論文の書き方の確認、個別執筆・指導
16．個人研究（仮テーマ）の発表を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽教育	64-65	音楽教育学ゼミナール4	1	後期　火 9, 10	根津知佳子

授業の概要　音楽教育、隣接関連領域（福祉、医学、心理）に関する研究を進める。

学習の目的　自らのテーマをまとめ、卒業論文としてまとめる。

学習の到達目標　自らのテーマをまとめ、卒業論文としてまとめることができる。

教科書　授業で提示する。

成績評価方法と基準　毎回の課題に対する達成度および論文の完成度で評価する。

オフィスアワー　火曜日13：00〜14：00

学習内容
（1）〜（4）教育に関するテーマを論理的に記述する。
（5）〜（8）内外の先行研究を購読し、新しい視座を確認する。
（9）〜（15）研究発表 プレゼンテーションをする。

その他　音楽教育に関する卒業研究を行う者を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
音楽教育	64	音楽教育学ゼミナール4	1	後期　火 9, 10	川村有美

授業の概要　3年次「音楽教育学ゼミナールⅠ」及び「音楽教育学ゼミナールⅡ」における研究の集大成として卒業研究を行う。各々が選んだテーマに基づいて卒業論文を執筆する。

学習の目的　音楽科教育の理論と実践について、自らの考え方を確立する。

学習の到達目標　音楽科教育の理論と実践について、自らの考え方を確立することができるようになる。

受講要件　「音楽教育学ゼミナールⅠ」「音楽教育学ゼミナールⅡ」「音楽教育学ゼミナールIII」を履修済みの学生。

予め履修が望ましい科目

教科書　適宜、授業中に指示する。

成績評価方法と基準　平常点（30点）と卒業論文（70点）

オフィスアワー　木曜日：13:00〜14:00

学習内容
1．論文テーマの確定
2~10.個別執筆・指導
11~12.卒業論文要旨の執筆
13~15.卒論発表の仕方、口頭発表の仕方、質疑応答のしかた

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術教育	〜66	美術教育演習Ⅰ	2	前期　金 3, 4	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　美術教育における教材論に関連する総合基礎演習。教育実践の分析，教材開発を主な方法とする。受講生の要望や状況に応じて変更することがある。下記の「学習内容」には，参考として過去に行ったものを記載する。

学習の到達目標　美術教育における教材観を獲得する。

教科書　授業開始後，指定することがある。

成績評価方法と基準　期末のレポートを主とし，その他授業期間内の小レポート，出席率等を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス
2．美術教育教材の基本
3．CG表現の現状
4．コンピュータと子どもの意識
5．CG表現とメディアリテラシ
6．WWWとコミュニケーション
7．3DCGの位置づけ
8．3DCGの展開
9．3DCGの展開
10．個別研究演習
11．個別研究演習
12．個別研究演習
13．個別研究演習
14．個別研究演習
15．個別研究演習

その他
美術教育コース65期生は，少なくとも美術教育演習I か美術史演習Iのいずれかを受講すること。
尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動を含む場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術教育	66	美術教育特講 I	2	前期集中	岡田博明, 奥田真澄

授業の概要　美術および美術教育についての総合的実践能力を獲得するための演習。具体的には公共的な場所に於いての作品展（毎年開催）の開催を目指し、企画運営、展示計画、作品制作等の実践を行う。

学習の目的　分析能力・企画力・実践的な行動力の獲得を目指す。

学習の到達目標　企画、実践力

教科書　未定、授業開始後に指定することがある。

成績評価方法と基準　実践と発表、出席率等を総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日12：00〜13：00 彫刻教室

学習内容
1.ガイダンス 、展覧会企画
2.図録、フライヤーデザイン制作
3.広報計画
4.フィールドワーク、ミーティング

その他　美術教育コース66期生は必ず受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術教育	66-60	美術教育演習 I	2	前期　金 9, 10	山田康彦（教育学部美術教育講座）

授業の概要　美術教育の実践論、特に社会的展開論に関連する総合基礎演習。

学習の目的
美術教育の実践論、社会展開についての理論と実際に関して学習する。
美術教育に関する個々の自由研究を進め、発表する。

学習の到達目標
・美術教育の実践論、特に社会的展開論に関連する理論と実際について理解することができる。
・美術教育関係の研究課題を設定して基礎的な学習を進め、発表することができる。

教科書　テキストとして、必要に応じてプリントまたは視聴覚資料を提示する。

成績評価方法と基準　出席と期末レポートの結果を総合的に評価する。

オフィスアワー
水曜日 10:30〜12:00
場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：子どもの絵の読みとり方①
第3回：子どもの絵の読みとり方②
第4回：子どもの絵の読みとり方③
第5回：美術教育実践論関係文献検討①
第6回：美術教育実践論関係文献検討②
第7回：美術教育実践論関係文献検討③
第8回：美術教育実践論関係文献検討④
第9回：美術教育実践論関係文献検討⑤
第10回：子どもの美術活動分析①
第11回：子どもの美術活動分析②
第12回：子どもの美術活動分析③
第13回：個人別自由研究課題発表①
第14回：個人別自由研究課題発表②
第15回：個人別自由研究課題発表③

その他　美術教育コース66期生は，少なくとも美術教育演習 I か美術史演習 I のいずれかを受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術教育	〜66	美術教育演習 II	2	後期　金 3, 4	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　美術教育論に関連する総合基礎演習，美術教育史と美術教育諸理論を中心とする。文献の読解を主な方法とする。受講生の要望や状況に応じて変更することがある。

学習の到達目標　美術教育における論理研究の基礎を獲得する。

予め履修が望ましい科目　美術教育演習 I

教科書　授業開始後，指定することがある。

成績評価方法と基準　期末のレポートを主とし，その他講義期間内の小レポート，出席率等を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス
2．美術教育論研究の基礎
3．美術教育論研究の現状
4．美術教育史研究の基礎
5．美術教育史研究の事例分析
6．美術教育史研究の事例分析
7．美術教育の理念の研究
8．美術教育の方法の研究
9．美術教育の方法の研究
10．文献読解演習
11．文献読解演習
12．文献読解演習
13．文献読解演習
14．文献読解演習
15．文献読解演習

その他
美術教育コース65期生は，少なくとも美術教育演習II か美術史演習IIのいずれかを受講すること。
尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動を含む場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術教育	66	美術教育特講 II	2	後期集中	岡田博明, 奥田真澄

授業の概要　美術および美術教育についての総合的実践能力を獲得するための演習。具体的には公共的な場所に於いての作品展（毎年開催）の開催を目指し、企画運営、展示計画、作品制作等の実践を行う。

学習の目的　分析能力・企画力・実践的な行動力の獲得を目指す。

学習の到達目標　企画、実践力

教科書　未定、授業開始後に指定することがある。

成績評価方法と基準　実践と発表、出席率等を総合的に評価する。

オフィスアワー　火曜日12：00〜13：00 彫刻教室

学習内容
1.ガイダンス 、展示計画実践、作品セッティング
2.フィールドワーク①
3.フィールドワーク②
4.搬出、ミーティング

その他　美術教育コース66期生は必ず受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術教育	〜66	美術教育演習 II	2	後期　金 9, 10	山田康彦（教育学部美術教育講座）

授業の概要　美術教育の実践論、特に社会的展開論に関連する総合基礎演習。

学習の目的
美術教育の実践論、社会展開についての理論と実際に関して学習する。
美術教育に関する個々の自由研究を進め、発表する。

学習の到達目標
・美術教育の実践論、特に社会的展開論に関連する理論と実際について理解することができる。
・美術教育関係の研究課題を設定して基礎的な学習を進め、発表することができる。

予め履修が望ましい科目　美術教育演習 I

教科書　テキストとして、必要に応じてプリントまたは視聴覚資料を提示する。

成績評価方法と基準　出席と期末レポートの結果を総合的に評価する。

オフィスアワー
水曜日 10:30〜12:00
場所：専門2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：個人別自由研究計画発表①
第3回：個人別自由研究計画発表②
第4回：個人別自由研究計画発表③
第5回：社会に開かれた美術活動論
第6回：パブリックアートの歴史と現在
第7回：アートプロジェクトの展開
第8回：アートプロジェクトの実際
第9回：コミュニティアートの展開
第10回：アートワークショップの実際①
第11回：アートワークショップの実際②
第12回：個人別自由研究発表①
第13回：個人別自由研究発表②
第14回：個人別自由研究発表③
第15回：個人別自由研究発表④

その他　美術教育コース66期生は，少なくとも美術教育演習 II か美術史演習 II のいずれかを受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術教育	～65	美術教育演習III	2	通年　金 1, 2	山田康彦(教育学部美術教育講座)

授業の概要　・美術を中心とした芸術・芸術教育に関する総合的な学習研究

学習の目的　各自の問題意識に沿った研究の検討と論文作成指導。

学習の到達目標　卒業研究ないしは，卒業研究副論文を作成することができる。

予め履修が望ましい科目　美術教育演習 II

教科書　テキストとして、必要に応じてプリントまたは視聴覚資料を提示する。

成績評価方法と基準　出席と数回のレポートの結果を総合的に評価する。

オフィスアワー
水曜日 10:30～12:00
場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
1.ガイダンス
2.共通事例研究①
3.共通事例研究②
4.共通事例研究③
5.論文読解演習①
6.論文読解演習②
7.論文読解演習③
8.論文読解演習④
9.論文読解演習⑤
10．共通美術活動分析①
11．共通美術活動分析②
12．共通美術活動分析③
13．個人別論文テーマ・構成発表①
14．個人別論文テーマ・構成発表②
15.個人別論文テーマ・構成発表③
16.中間オリエンテーション
17.個人別論文作成計画検討①
18.個人別論文作成計画検討②
19.個人別論文作成計画検討③
20.共通文献研究①
21.共通文献研究②
22.共通文献研究③
23.共通文献研究④
24.共通文献研究⑤
25.共通文献研究⑥
26.共通文献研究⑦
27.論文作成個人指導①
28.論文作成個人指導②
29.論文作成個人指導③
30.論文作成個人指導④

その他　美術教育コース65期生は，少なくとも美術教育演習III か美術史演習III のいずれかを受講すること。受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
美術教育	～65	美術教育演習III	②	通年　金 7, 8	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　各自の問題意識に沿った研究を行い，論文を作成する。

学習の到達目標　卒業研究ないしは，卒業研究副論文を作成する。

予め履修が望ましい科目　美術教育演習 II

教科書　授業開始後，指定することがある。

成績評価方法と基準　完成論文を主とし，出席率等を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00～13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス
2．論文とは何か
3．研究の方法について
4．情報収集の方法について
5．論文テーマのたてかた
6．論文の細目について
7．論文読解演習
8．論文読解演習
9．論文読解演習
10．論文読解演習
11．論文項目の読み合わせ
12．論文項目の個別指導
13．論文項目の個別指導
14．発表要約について
15．発表個別指導
16．発表個別指導
17．発表個別指導
18．口頭発表について
19．論文としての文章表現
20．論文内容個別指導
21．論文内容個別指導
22．論文内容個別指導
23．論文内容個別指導
24．論文内容個別指導
25．論文要約作成について
26．要約個別指導
27．論文の修正について
28．修正論文の読み合わせ
29．予備日
30．予備日

その他
美術教育コース64期生は，少なくとも美術教育演習III か美術史演習III のいずれかを受講すること。受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。
尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動を含む場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科又は教職に関する科目	64-60	早期英語教育論	2	前期　金 3, 4	荒尾浩子（教育学部）

授業の概要　早期英語教育について特に小学校ので外国語活動に着目しその目的や教育実践内容を学ぶ。授業時間内で小学校に出向いて外国語活動に補助として参加することで実践を通して学ぶ。

学習の目的　小学校の外国語活動を理解する。

学習の到達目標　小学校の外国語活動の知識と実践的指導スキルを習得する。

教科書　授業内で指示する。

成績評価方法と基準　授業参加、レポート、試験を総合的に評価

オフィスアワー　木曜日7，8限 荒尾浩子研究室

学習内容
第1回： 授業紹介、子供と英語教育
第2回：リスニングと動作
第3回：リスニングと作成
第4回： サポートを基にしたスピーキング
第5回：自由なスピーキング
第6回：ショウアンドテル
第7回：絵本利用
第8回：ストーリーテリング
第9回：ストーリーと活動
第10回：効果的な教室での英語使用
第11回：文字と音声
第12回：音楽の利用
第13回：英語教材作成
第14回：英語活動への参加
第15回：英語活動への参加
題16回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科又は教職に関する科目	64~67	早期英語教育論	2	前期　月 9, 10	ロベルト・カルロス・エスクデロ（教育学部特任教員）

授業の概要　Official “Early English Education” in public schools in Japan has been a topic of discussion for some time now.In years to come, it will become part of the curriculum of elementary schools, at the same level with other current subjects.As such, there is a need to prepare not only the young students for this change, but also the Japanese teachers who will be in charge of instructing them. Offering this new generation of instructors the basic knowledge, tools and skills to engage positively young children in giving their first steps towards learning English, is of paramount importance.

学習の目的　The course is planned to give Mie University Students not just theory of Early Child Education, but also a hands-on experience on a variety of topics from a Foreign Instructor’s Perspective. Some of those topics include the preparation of successful lesson plans, planning of interesting activities, classroom management, proper use of teaching material, singing chants and songs, Total Physical Response techniques, knowledge of group ages and their learning abilities, solo and team teaching.Future English Teachers will have the opportunity to learn and practice in both sides situations, as teachers, and as students themselves.Active individual and group participation on different situations is encouraged and will help students become more confident.Peer and group evaluations will give them awareness of strong and weak points in their individual teaching skills, and present ways to improve them.

学習の到達目標
Goals
After completion of this course, students will be able to:
☒ Assess the learning capabilities of different elementary school grades to define teaching objectives
☒ Prepare meaningful and interesting lesson plans and material, according to various learning capabilities
☒ Use a variety of techniques and resources to deliver English lessons at different levels, in a professional and confident manner

教科書　No textbook used

成績評価方法と基準
Evaluation
10% Classroom Participation
5% Homework
10% Activities Preparation and Demonstration
15% Small-Group Lesson Plan Micro-Teaching
15% Individual Lesson Plan Micro-Teaching
5% Peer and Group In-Class Advice and Evaluation
40% Individual Lesson Plan Presentation (Final)

オフィスアワー　授業中に説明します。

学習内容
1.Introduction to Early English Education: Age groups, types of students, special children
2.Learning Styles: Visual, Auditory, Kinesthetic
3.Introduction to “Hi, friends!”: Content topics, activities, and how to use it
4.Presentation skills introduction
5.Teaching Methods: Lecture, Interactive Lecture, and Group Work
6.Teaching Techniques, TPR, Team Teaching
7.Teaching Material and aids
8.Classroom Activities and Games: Preparation, introduction, and demonstration
9.Classroom Activities: Songs and Chants, Phonics
10.Classroom Management, and Classroom English
11.Lesson Planning Introduction: Structure, objective, development, resources and evaluation
12.Small-Group Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
13.Individual Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
14.Individual Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
15.Individual Lesson Plan and Group Evaluations (Final)
16.Individual Lesson Plan and Group Evaluations (Final)

その他　受講希望者多数の場合、抽選などにより人数を制限することがあります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科又は教職に関する科目	64~67	早期英語教育論	2	前期　水 7, 8	ロベルト・カルロス・エスクデロ（教育学部特任教員）

授業の概要　Official “Early English Education” in public schools in Japan has been a topic of discussion for some time now.In years to come, it will become part of the curriculum of elementary schools, at the same level with other current subjects.As such, there is a need to prepare not only the young students for this change, but also the Japanese teachers who will be in charge of instructing them. Offering this new generation of instructors the basic knowledge, tools and skills to engage positively young children in giving their first steps towards learning English, is of paramount importance.

学習の目的　The course is planned to give Mie University Students not just theory of Early Child Education, but also a hands-on experience on a variety of topics from a Foreign Instructor’s Perspective. Some of those topics include the preparation of successful lesson plans, planning of interesting activities, classroom management, proper use of teaching material, singing chants and songs, Total Physical Response techniques, knowledge of group ages and their learning abilities, solo and team teaching.Future English Teachers will have the opportunity to learn and practice in both sides situations, as teachers, and as students themselves.Active individual and group participation on different situations is encouraged and will help students become more confident.Peer and group evaluations will give them awareness of strong and weak points in their individual teaching skills, and present ways to improve them.

学習の到達目標

Goals
After completion of this course, students will be able to:
☒ Assess the learning capabilities of different elementary school grades to define teaching objectives
☒ Prepare meaningful and interesting lesson plans and material, according to various learning capabilities
☒ Use a variety of techniques and resources to deliver English lessons at different levels, in a professional and confident manner

教科書　No textbook used

成績評価方法と基準

Evaluation
10% Classroom Participation
5% Homework
10% Activities Preparation and Demonstration
15% Small-Group Lesson Plan Micro-Teaching
15% Individual Lesson Plan Micro-Teaching
5% Peer and Group In-Class Advice and Evaluation
40% Individual Lesson Plan Presentation (Final)

オフィスアワー　授業中に説明します。

学習内容

1.Introduction to Early English Education: Age groups, types of students, special children
2.Learning Styles: Visual, Auditory, Kinesthetic
3.Introduction to “Hi, friends!”: Content topics, activities, and how to use it
4.Presentation skills introduction
5.Teaching Methods: Lecture, Interactive Lecture, and Group Work
6.Teaching Techniques, TPR, Team Teaching
7.Teaching Material and aids
8.Classroom Activities and Games: Preparation, introduction, and demonstration
9.Classroom Activities: Songs and Chants, Phonics
10.Classroom Management, and Classroom English
11.Lesson Planning Introduction: Structure, objective, development, resources and evaluation
12.Small-Group Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
13.Individual Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
14.Individual Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
15.Individual Lesson Plan and Group Evaluations (Final)
16.Individual Lesson Plan and Group Evaluations (Final)

その他　受講希望者多数の場合、抽選などにより人数を制限することがあります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科又は教職に関する科目	64~67	早期英語教育論	2	後期　月 9, 10	ロベルト・カルロス・エスクデロ（教育学部特任教員）

授業の概要　Official “Early English Education” in public schools in Japan has been a topic of discussion for some time now.In years to come, it will become part of the curriculum of elementary schools, at the same level with other current subjects.As such, there is a need to prepare not only the young students for this change, but also the Japanese teachers who will be in charge of instructing them. Offering this new generation of instructors the basic knowledge, tools and skills to engage positively young children in giving their first steps towards learning English, is of paramount importance.

学習の目的　The course is planned to give Mie University Students not just theory of Early Child Education, but also a hands-on experience on a variety of topics from a Foreign Instructor’s Perspective. Some of those topics include the preparation of successful lesson plans, planning of interesting activities, classroom management, proper use of teaching material, singing chants and songs, Total Physical Response techniques, knowledge of group ages and their learning abilities, solo and team teaching.Future English Teachers will have the opportunity to learn and practice in both sides situations, as teachers, and as students themselves.Active individual and group participation on different situations is encouraged and will help students become more confident.Peer and group evaluations will give them awareness of strong and weak points in their individual teaching skills, and present ways to improve them.

学習の到達目標

Goals
After completion of this course, students will be able to:
☒ Assess the learning capabilities of different elementary school grades to define teaching objectives
☒ Prepare meaningful and interesting lesson plans and material, according to various learning capabilities
☒ Use a variety of techniques and resources to deliver English lessons at different levels, in a professional and confident manner

教科書　No textbook used

成績評価方法と基準

Evaluation
10% Classroom Participation
5% Homework
10% Activities Preparation and Demonstration
15% Small-Group Lesson Plan Micro-Teaching
15% Individual Lesson Plan Micro-Teaching
5% Peer and Group In-Class Advice and Evaluation
40% Individual Lesson Plan Presentation (Final)

オフィスアワー　授業中に説明します。

学習内容

1.Introduction to Early English Education: Age groups, types of students, special children
2.Learning Styles: Visual, Auditory, Kinesthetic
3.Introduction to “Hi, friends!”: Content topics, activities, and how to use it
4.Presentation skills introduction
5.Teaching Methods: Lecture, Interactive Lecture, and Group Work
6.Teaching Techniques, TPR, Team Teaching
7.Teaching Material and aids
8.Classroom Activities and Games: Preparation, introduction, and demonstration
9.Classroom Activities: Songs and Chants, Phonics
10.Classroom Management, and Classroom English
11.Lesson Planning Introduction: Structure, objective, development, resources and evaluation
12.Small-Group Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
13.Individual Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
14.Individual Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
15.Individual Lesson Plan and Group Evaluations (Final)
16.Individual Lesson Plan and Group Evaluations (Final)

その他　受講希望者多数の場合、抽選などにより人数を制限することがあります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科又は教職に関する科目	64~67	早期英語教育論	2	後期　水 7, 8	ロベルト・カルロス・エスクデロ（教育学部特任教員）

授業の概要　Official “Early English Education” in public schools in Japan has been a topic of discussion for some time now.In years to come, it will become part of the curriculum of elementary schools, at the same level with other current subjects.As such, there is a need to prepare not only the young students for this change, but also the Japanese teachers who will be in charge of instructing them. Offering this new generation of instructors the basic knowledge, tools and skills to engage positively young children in giving their first steps towards learning English, is of paramount importance.

学習の目的　The course is planned to give Mie University Students not just theory of Early Child Education, but also a hands-on experience on a variety of topics from a Foreign Instructor’s Perspective. Some of those topics include the preparation of successful lesson plans, planning of interesting activities, classroom management, proper use of teaching material, singing chants and songs, Total Physical Response techniques, knowledge of group ages and their learning abilities, solo and team teaching.Future English Teachers will have the opportunity to learn and practice in both sides situations, as teachers, and as students themselves.Active individual and group participation on different situations is encouraged and will help students become more confident.Peer and group evaluations will give them awareness of strong and weak points in their individual teaching skills, and present ways to improve them.

学習の到達目標
Goals
After completion of this course, students will be able to:
☒ Assess the learning capabilities of different elementary school grades to define teaching objectives
☒ Prepare meaningful and interesting lesson plans and material, according to various learning capabilities
☒ Use a variety of techniques and resources to deliver English lessons at different levels, in a professional and confident manner

教科書　No textbook used

成績評価方法と基準
Evaluation
10% Classroom Participation
5% Homework
10% Activities Preparation and Demonstration
15% Small-Group Lesson Plan Micro-Teaching
15% Individual Lesson Plan Micro-Teaching
5% Peer and Group In-Class Advice and Evaluation
40% Individual Lesson Plan Presentation (Final)

オフィスアワー　授業中に説明します。

学習内容
1.Introduction to Early English Education: Age groups, types of students, special children
2.Learning Styles: Visual, Auditory, Kinesthetic
3.Introduction to “Hi, friends!”: Content topics, activities, and how to use it
4.Presentation skills introduction
5.Teaching Methods: Lecture, Interactive Lecture, and Group Work
6.Teaching Techniques, TPR, Team Teaching
7.Teaching Material and aids
8.Classroom Activities and Games: Preparation, introduction, and demonstration
9.Classroom Activities: Songs and Chants, Phonics
10.Classroom Management, and Classroom English
11.Lesson Planning Introduction: Structure, objective, development, resources and evaluation
12.Small-Group Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
13.Individual Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
14.Individual Lesson Plan Micro-Teaching: Practice and giving advice
15.Individual Lesson Plan and Group Evaluations (Final)
16.Individual Lesson Plan and Group Evaluations (Final)

その他　受講希望者多数の場合、抽選などにより人数を制限することがあります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科又は教職に関する科目	63-66	学校における食に関する指導	2	後期　火 7, 8	磯部 由香（教育学部）

授業の概要　食に関する指導の目標を押さえるとともに、学校給食、教科等における具体的な食に関する指導の内容について、具体的な実践や事例に基づき検討する。

学習の目的　小学校の給食、教科、総合的な学習の時間、特別活動等における食に関する指導方法を理解し、実践できる力を身につけることを目的とする。

学習の到達目標　子どもの食生活の現状から課題を見出し、学校における食に関する指導の重要性を理解し、小学校における食に関する指導のための、基礎知識および実践力を身につける。

成績評価方法と基準　出席10%、授業態度10%、発表30%、レポート50%

オフィスアワー　毎週金曜日12：00〜13：00

学習内容
第1回 今、なぜ食育なのか
第2回 食生活の現状と課題および学童期の食生活の特徴
第3回 食に関する指導の全体計画の作成および展開
第4回 給食の時間における食に関する指導
第5回 生活科における食に関する指導
第6回 家庭科における食に関する指導
第7回 総合的な学習の時間における食に関する指導
第8回 その他の教科における食に関する指導
第9回 発達段階に応じた指導案、教材づくりおよび評価について
第10回 授業案作成
第11回 授業案検討
第12回 授業案発表
第13回 授業案発表
第14回 授業案についての振り返り
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
課程指定科目	67	特別支援教育入門	2	後期　火 1, 2	荒川哲郎、大谷正人、菊池紀彦、郷右近歩、栗田季佳、根津知佳子、磯部由香、吉田真理子、高田明裕、大井雅博、飯田幸雄、藤井郁子、横山美香

授業の概要　今日、学校現場では子どもたち一人ひとりのニーズに応じた適切な教育を行う特別支援教育が求められている。この講義では、特別支援教育の理念や制度とともに、特別支援学校、小・中学校等の教育現場に求められている具体的な指導内容や方法等について講義する。さらにこの講義を通して、介護等体験のより深い理解と実践につながることを目指す。

学習の目的　特別支援教育の理念などを知り、特別な二ーズがある子どもたちの教育について概括できる。

学習の到達目標　特別なニーズのある子どもを学校で支援するにあたって、必要な知識・考え方等を身につける。また介護等体験の事前学習としての役割も期待される。

成績評価方法と基準　毎回の振り返りおよびレポート課題により総合的に評価する

オフィスアワー　教務委員会（特別支援教育入門担当）

学習内容
1.オリエンテーション「特別支援教育とは」
2.保護者支援について
3.一人ひとりの人権尊重とインクルーシブ教育への展開
4.知覚の個人差とその障害
5.特別支援教育と食育
6.特別支援教育の理念と実際
7.医療的ケアが必要な子どもたちへの教育
8.乳幼児期の発達診断と保育・療育
9.音・音楽を介した児童生徒の理解
10．”特別支援教育の現場から 緑ヶ丘特別支援学校校長 飯田幸雄氏
11．”特別支援教育の現場から 県教委特別支援教育室主幹 大井雅博氏
12．”特別支援教育の現場から 津市立明合小学校教諭 藤井郁子氏
13．”特別支援教育の現場から 津市立高岡小学校校長 高田明裕氏
14．”特別支援教育の現場から 三重県自閉症協会事務局 横山美香氏
15．まとめ

その他　教員免許を取得する予定の1年次学生は履修すること。（AIII類学生を除く。）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
英語コミュニケーション	～65	ICTと英語教育	2	後期　水 1, 2	早瀬光秋（教育学部英語教育講座）

授業の概要
In this course, the students will get familiar with using ITC in learning and teaching languages mainly through the following two activities improving their four skills in English at the same time.
First, the students will engage themselves in four video-conferences (VCs) with students of the University of Michigan (UM) in which both the Japanese and American students give presentations on Japanese and American cultures and have discussions on the presentations.
Second, the students will improve their English skills by reading and discussing articles about on-line courses and other artcles related to ITC gaining an image of a future education system.

学習の目的
1.The students will be familiar with use of ICT in teaching and learning English
2.The students will improve their English in the four skills.

学習の到達目標　.

教科書　The reading materials will be given in class.

成績評価方法と基準
(1) Participation (10 %)
(2) VC presentations (50%)
(3) Article reading (40%)

オフィスアワー　Mondays, 13:00-14:30

学習内容
(tentative plan)
I.Four class meetings will be used for the videoconfereces (VCs) with the University of Michigan.
II.Four class meetings will be used for the preparations of the VCs.
III.Seven class meetings will be used for article reading.

その他　The class will be conducted in English.

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 生活	～62期 63-66	小学校専門生活A 小学校専門生活A	1 2	前期　水3, 4	栗原行人、松浦均、須永進、新居淳二、牧原義一、早瀬光秋、松本金矢、兼重直文、小畑真梨子、山口泰弘、宮岡邦任、田中伸明

授業の概要　生活科の教育目標・内容方法について、生活科に関わるさまざまな領域の事例に触れることで、その理論的・実践的な理解をはかる

学習の目的　生活科に関わる様々な領域に触れることで、教科としての生活科の特徴を理解する。

学習の到達目標　生活科の教育目標・内容と自身の学習内容を系統的に結びつけ、理論，実践の両側面から生活科を俯瞰することができるようになる。

教科書　準備物はガイダンスおよび授業中に指示する。教育現場で使用している教科書は、学修サポート室で閲覧可。

成績評価方法と基準　各回を担当する教員の評価を総合して判断する。

オフィスアワー　代表：栗原 毎週月曜12:00～13:00，教育学部1号館2階 栗原研究室

学習内容
第1回 4/15 栗原 ガイダンス・防災教育を考える
第2回 4/22 伊藤 いのちを考える
第3回 5/13 須永 変わる子供の生活
第4回 5/20 新居 化学で遊ぶ
第5回 5/27 國仲 身近なもので作る科学おもちゃ
第6回 6/3 早瀬 ことばを覚えるとは
第7回 6/10 松本 モノとの出会い
第8回 6/17 兼重 生活と音・音楽
第9回 6/24 小畑 音で遊んでみよう
第10回 7/1 岡田 マークをつくろう
第11回 7/8 岡田 マークをつくろう
第12回 7/15 宮岡 身近な地域の環境マップ
第13回 7/22 宮岡 身近な地域の環境マップ
第14回 7/29 田中 コマとブーメランで遊ぶ ー気付きの質を高める実践ー
第15回 8/5 國仲 ふりかえり・レポート作成

その他　学籍番号によるクラス分けを行う。同じ講座の学生であっても受講クラスが異なるので、事前に必ず自分の受講クラスを確認すること

科目	期生　　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 生活	～62 63-65	小学校専門生活B 小学校専門生活B	1 2	前期　水3, 4	松本金矢、田中伸明、栗原行人、牧原義一、新居淳二、兼重直文、小畑真梨子、山口泰弘、平島円、須永進、荒尾浩子、松浦均（教育学部）

授業の概要　生活科の教育目標・内容方法について、生活科に関わるさまざまな領域の事例に触れることで、その理論的・実践的な理解をはかる。

学習の目的　生活科に関わる様々な領域に触れることで、教科としての生活科の特徴を理解する。

学習の到達目標　生活科の教育目標・内容と自身の学習内容を系統的に結びつけ、理論，実践の両側面から生活科を俯瞰することができるようになる。

教科書　準備物はガイダンスおよび授業中に指示する。教育現場で使用している教科書は、学修サポート室で閲覧可。

成績評価方法と基準　各回を担当する教員の評価を総合して判断する。

オフィスアワー
代表：松本金矢
時間：毎日12:00～13:00、場所：技術棟1階機械工学研究室

学習内容
第1回 4/15 松本 ガイダンス・モノとの出会い
第2回 4/22 田中 コマとブーメランで遊ぶ ー気付きの質を高める実践ー
第3回 5/13 栗原 防災教育を考える
第4回 5/20 國仲 身近なもので作る科学おもちゃ
第5回 5/27 新居 化学で遊ぶ
第6回 6/3 兼重 生活と音・音楽
第7回 6/10 小畑 音で遊んでみよう
第8回 6/17 岡田 マークをつくろう
第9回 6/24 岡田 マークをつくろう
第10回 7/1 平島 学校給食とは
第11回 7/8 平島 食べ物について
第12回 7/15 須永 変わる子どもの生活
第13回 7/22 荒尾 ことばを観察してみよう
第14回 7/29 伊藤 いのちを考える
第15回 8/5 松本 ふりかえり・レポート作成

その他　学籍番号によるクラス分けを行う。同じ講座の学生であっても受講クラスが異なるので、事前に必ず自分の受講クラスを確認すること

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 生活	～62 63-66	小学校専門生活C 小学校専門生活C	1 2	後期　水 3, 4	宮岡邦任、富田昌平、奥田真澄、杉田正明、弓場徹、早瀬光秋、松本金矢、松浦均、田中伸明（教育学部）

授業の概要　生活科の教育目標・内容方法について、生活科に関わるさまざまな領域の事例に触れることで、その理論的・実践的な理解をはかる。

学習の目的　生活科に関わる様々な領域に触れることで、教科としての生活科の特徴を理解する。

学習の到達目標　生活科の教育目標・内容と自身の学習内容を系統的に結びつけ、理論，実践の両側面から生活科を俯瞰することができるようになる。

教科書　準備物はガイダンスおよび授業中に指示する。教育現場で使用している教科書は、学修サポート室で閲覧可。

成績評価方法と基準　各回を担当する教員の評価を総合して判断する。

学習内容
第1回 10/7 宮岡 ガイダンス・身近な地域の環境マップ
第2回 10/14 宮岡 身近な地域の環境マップ
第3回 10/21 富田 子ども時代に夢中になったこと
第4回 10/28 関 紙切りで昆虫をつくる
第5回 11/4 関 紙切りで昆虫をつくる
第6回 11/11 杉田 身体の調子を知る①
第7回 11/18 杉田 身体の調子を知る②
第8回 11/25 杉田 身体の調子を知る③
第9回 12/2 弓場 発声の基礎知識・実践
第10回 12/9 弓場 歌唱実践
第11回 12/16 早瀬 ことばを覚えるとは
第12回 1/6 松本 モノとの出会い
第13回 1/13 伊藤 いのちを考える
第14回 1/20 田中 コマとブーメランで遊ぶ ー気付きの質を高める実践ー
第15回 1/27 宮岡 ふりかえり・レポート作成

その他　社会科教育コースが世話役で開講します。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科に関する科目 生活	～62 63-65	小学校専門生活D 小学校専門生活D	1 2	後期　水 3, 4	平島円、加納岳拓、荒尾浩子、森川孝太朗、奥田真澄、松本金矢、田中伸明、富田昌平、松浦均（教育学部）

授業の概要　生活科の教育目標・内容方法について、生活科に関わるさまざまな領域の事例に触れることで、その理論的・実践的な理解をはかる

学習の目的　生活科に関わる様々な領域に触れることで、教科としての生活科の特徴を理解する。

学習の到達目標　生活科の教育目標・内容と自身の学習内容を系統的に結びつけ、理論，実践の両側面から生活科を俯瞰することができるようになる。

教科書　準備物はガイダンスおよび授業中に指示する。教育現場で使用している教科書は、学修サポート室で閲覧可。

成績評価方法と基準　各回を担当する教員の評価を総合して判断する。

オフィスアワー　代表：平島 毎週月曜日17:00～18:00 教育学部1号館3階 調理学研究室

学習内容
第1回 10/7 平島 ガイダンス・学校給食とは
第2回 10/14 平島 食べ物について
第3回 10/21 加納 自分自身ー分身作づくりー
第4回 10/28 加納 自然ーネーチャーゲームー
第5回 11/4 加納 かかわりー新聞紙で遊ぶ・新聞紙と遊ぶー
第6回 11/11 荒尾 ことばを観察してみよう
第7回 11/18 森川 生活と音・音楽
第8回 11/25 森川 生活と音・音楽
第9回 12/2 関 紙切りで昆虫をつくる
第10回 12/9 関 紙切りで昆虫をつくる
第11回 12/16 松本 モノとの出会い
第12回 1/6 田中 コマとブーメランで遊ぶ ー気付きの質を高める実践ー
第13回 1/13 富田 子ども時代に夢中になったこと
第14回 1/20 伊藤 いのちを考える
第15回 1/27 平島 ふりかえり・レポート作成

その他　学籍番号によるクラス分けを行う。同じ講座の学生であっても受講クラスが異なるので、事前に必ず自分の受講クラスを確認すること

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～66	生活教材研究A	2	後期　水 3, 4	荻原彰、山根栄次、川村有美、中西康雅、磯部由香（教育学部）、真川恭子（非常勤講師）

授業の概要　生活科の教育目標・内容方法について、いくつかの領域の具体例について検討することで、その理論的・実践的な理解を図る。

学習の目的　生活科に関わるいくつかの領域について、具体的な事例を検討することで、生活科の授業づくりに必要となる基礎的な知識・技能・教材について理解できるようになる。

学習の到達目標
生活科の教育目標・内容方法に基づいて、理論・実践の両側面からの検討を行い、
様々な視点に立脚した自分なりの授業計画を立案することができるようになる。

受講要件　2年生必修

教科書　文部科学省『小学校学習指導要領解説・生活編・平成20年8月』、日本文教出版

成績評価方法と基準　担当教員の評価を総合して判断する。

学習内容
第1回 10/7 荻原 ガイダンス・学内の環境地図を作成し、自然や施設と人との関わりを考える
第2回 10/14 荻原 学内の環境地図を作成し、自然や施設と人との関わりを考える
第3回 10/21 荻原 学内の環境地図を作成し、自然や施設と人との関わりを考える
第4回 10/28 山根 「秋で遊ぼう」の単元構想づくり
第5回 11/4 山根 「秋で遊ぼう」の単元構想づくり
第6回 11/11 真川(非常勤) 学校での具体的な実践や事例から生活科の指導について考える
第7回 11/18 川村 私たちの生活と音楽
第8回 11/25 川村 紙でつくる楽器
第9回 12/2 磯部 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業①活動の体験
第10回 12/9 磯部 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業②授業案作り
第11回 12/16 磯部 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業③模擬授業
第12回 1/6 中西康 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業④実践準備
第13回 1/13 中西康 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業⑤現場での実践（制作）
第14回 1/20 中西康 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業⑥現場での実践（遊び）
第15回 1/27 荻原 ふりかえり・レポート作成

その他　学籍番号によるクラス分けを行う。同じ講座の学生であっても受講クラスが異なるので、事前に必ず自分の受講クラスを確認すること

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～65	生活教材研究B	2	後期　水 3, 4	根津知佳子、守田庸一、平山大輔、山田康彦、永田成文（教育学部）、真川恭子（非常勤講師）

授業の概要
生活科に関する9つの学習項目について、具体的な実践や事例に基づき指導内容・方法を考える。
①生活に係わる活動を通して、感覚・感性が働くようにし、同時に様々な知的関心を高める。
②身近な自然観察や自然に関する活動を通して、人と自然の関わりへの関心を高める
③表現活動を通して、材との対話や、人との対話を深める体験をする。
③造形物の機能や音環境への興味を持つ。

学習の目的
生活科に関する9つの学習項目について確認する。
具体的な実践や事例に基づき指導内容・方法を考える。

学習の到達目標　生活科に関する9つの学習項目をふまえて、具体的な実践や事例に基づき指導内容・方法を考えることができる。

教科書　文部科学省『小学校学習指導要領解説・生活編・平成20年8月』、日本文教出版

成績評価方法と基準　授業者全員による総合評価。

オフィスアワー　代表者：根津 火曜日 12：00～13；00 音楽棟2階根津研究室

学習内容
音楽、美術、理科、社会、国語の担当教員による授業を展開する。日程は、オリエンテーションで確認する。
根津 サウンドスケープから見る生活科の学習内容 教科書を中心に
根津 生活科の授業づくり 音・音楽を中心に
山田 簡単な手作りおもちゃを作って遊ぼう
山田 紙で竹とんぼをつくって、とばそう
山田 紙でコマを作って、回そう
平山 身近な自然観察 ①観察会形式の自然観察
平山 身近な自然観察 ②ウォークラリー形式の自然観察の体験
平山 生活科における自然観察のあり方
真川(非常勤)学校での具体的な実践や事例から生活科の指導について考える
山根 「秋で遊ぼう」の単元構想づくり
山根 「秋で遊ぼう」の単元構想づくり
守田 身近な環境について、取材活動を行う。
守田 取材した内容を壁新聞にまとめる。
守田 壁新聞に基づいたプレゼンテーションを行い、その内容と方法を批評する
根津 ふりかえり・レポート作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	~66	生活教材研究C	2	前期　水 3, 4	永田成文、平賀伸夫、佐藤年明、中西康雅、真川恭子（非常勤講師）

授業の概要
生活科ではどのような具体的な活動や体験が求められているかをつかむ。
教育学的視点，社会科的視点，理科的視点，ものつくりの視点から生活科をとらえていく。

学習の到達目標
小学校生活科ではどのようなことに心がけて実践をすればよいのかをつかむ。
生活科の学習指導案が書けるようになる。
生活科の発展の流れをつかむ。

受講要件　2年生必修

教科書　文部科学省『小学校学習指導要領解説・生活編・平成20年8月』、日本文教出版

成績評価方法と基準　授業態度50パーセント、各授業者の出す課題・省察50パーセント

オフィスアワー　代表：永田 成文 毎週木曜13:00から14:00 社会科教育第2研究室

学習内容
第1回 4/15 永田 ガイダンス・生活科の成立と特質
第2回 4/22中西 子どもの生活や成長からみた生活科
第3回 5/13 中西 自然や季節と生活に関わる内容の検討1（教材の検討）
第4回 5/20 中西 自然や季節と生活に関わる内容の検討2（教材の交流）
第5回 5/27 真川 学校での具体的な実践や事例から生活科の指導について考える
第6回 6/3 永田 生活科と社会科の校区探検の違いを考える
第7回 6/10永田 生活科の校区探検を考える
第8回 6/17永田 社会認識の芽を育てる生活科の内容を考える
第9回 6/24佐藤 三重県川越町立川越南小学校の生活科実践（1993-94年度）の検討
第10回 7/1 佐藤 大阪府高石市立清高小学校の生活科実践（1993年度）の検討
第11回 7/8 佐藤 性を学ぶ生活科実践の検討
第12回 7/15 平賀 紙を使ったものづくり1ーものづくりの意義ー
第13回 7/22 平賀 紙を使ったものづくり2ーものづくりの紹介ー
第14回 7/29 平賀 紙を使ったものづくり3ーものづくり発表会ー
第15回 8/5 永田 ふりかえり・レポート作成

その他　社会科教育コースが世話役で開講します。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科の指導法	～65	生活教材研究D	2	前期　水 3, 4	磯部由香、後藤太一郎、守田庸一、永田成文（教育学部）、真川恭子（非常勤講師）

授業の概要　生活科の教育目標・内容方法について、いくつかの領域の具体例について検討することで、その理論的・実践的な理解を図る。

学習の目的　生活科に関わるいくつかの領域について、具体的な事例を検討することで、生活科の授業づくりに必要となる基礎的な知識・技能・教材について理解できるようになる。

学習の到達目標
生活科の教育目標・内容方法に基づいて、理論・実践の両側面からの検討を行い、
様々な視点に立脚した自分なりの授業計画を立案することができるようになる。

受講要件　ＡＩ類2年生必修

教科書　文部科学省『小学校学習指導要領解説・生活編・平成20年8月』、日本文教出版

成績評価方法と基準　担当教員の評価を総合して判断する。

オフィスアワー　代表 磯部 毎週金曜日12:00～13:00

学習内容
第1回 4/15 磯部 ガイダンス・仲間作りについて
第2回 4/22 磯部 生活科における食育の在り方
第3回 5/13 磯部 生活科における食育実践
第4回 5/20 後藤 ミニ生態系で生きものを育てる①
第5回 5/27 後藤 ミニ生態系で生きものを育てる②
第6回 6/3 後藤 ミニ生態系で生きものを育てる③
第7回 6/10 守田 身近な環境について、取材活動を行う。
第8回 6/17 守田 取材した内容を壁新聞にまとめる。
第9回 6/24 守田 壁新聞に基づいたプレゼンテーションを行い、その内容と方法を批評する（1）
第10回 7/1 守田 壁新聞に基づいたプレゼンテーションを行い、その内容と方法を批評する（2）
第11回 7/8 永田 生活科と社会科の校区探検の違いを考える
第12回 7/15 永田 生活科の校区探検の支援を行う
第13回 7/22 永田 社会認識の芽を育てる生活科の内容
第14回 7/29 真川(非常勤) 学校での具体的な実践や事例から生活科の指導について考える
第15回 8/5 磯部 ふりかえり・レポート作成

その他　今年度は学籍番号によるクラス分けを行う。同じ講座の学生であっても受講クラスが異なるので、事前に必ず自分の受講クラスを確認すること

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
小学校の教科教育法		生活教材研究A	2	後期	中西康雅、山根栄次、真川恭子、川村有美、磯部由香、荻原彰

授業の概要　2学年を通して、9つの項目で構成された内容について、具体的な実践や事例に基づき、教科の指導を考える

学習の到達目標　生活科で扱われる内容・手法について実践的に習得する

受講要件　2年生必修

教科書　授業内で適宜指定する。生活科教科書は学務チームにおいて閲覧可能

成績評価方法と基準　授業態度、課題の達成状況から総合的に判断する

オフィスアワー　金曜日 9・10限 荻原研究室

学習内容
第1回 10/7 荻原 ガイダンス・学内の環境地図を作成し、自然や施設と人との関わりを考える
第2回 10/14 荻原 学内の環境地図を作成し、自然や施設と人との関わりを考える
第3回 10/21 荻原 学内の環境地図を作成し、自然や施設と人との関わりを考える
第4回 10/28 山根 「秋で遊ぼう」の単元構想づくり
第5回 11/4 山根 「秋で遊ぼう」の単元構想づくり
第6回 11/11 真川(非常勤) 学校での具体的な実践や事例から生活科の指導について考える
第7回 11/18 川村 私たちの生活と音楽
第8回 11/25 川村 紙でつくる楽器
第9回 12/2 磯部 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業① 活動の体験
第10回 12/9 磯部 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業② 授業案作り
第11回 12/16 磯部 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業③模擬授業
第12回 1/6 中西康 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業④実践準備
第13回 1/13 中西康 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業⑤現場での実践（制作）
第14回 1/20 中西康 ものづくりと遊びを通して考える生活科の授業⑥現場での実践（遊び）
第15回 1/27 荻原 ふりかえり・レポート作成

その他
61期生の理科・数学・情報コース学生用の授業科目です。
理科教育コースが世話役で開講します。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	64以前	教育実地研究	1	後期　木 9, 10	守田庸一（教育学部）

授業の概要　「学習内容」の項を参照。

学習の目的
1．4年生前期までに得た教育に関する知識や経験を総括する。
2．自らが創造し実践した国語科の授業を内省し、その改善を図る。

学習の到達目標
1．他者との関わりの中で、これまでの学習や実践経験を通して得た知見を整理し、その位置づけを明確にすることができるようになる。
2．他者との関わりの中で、これまでに創造、実践した国語科の授業の記録を省察し、改善の方策を具体化することができるようになる。

受講要件　国語教育コースの学生を対象とする。

予め履修が望ましい科目　国語教育ゼミナールⅠ〜Ⅳ

教科書　開講時に指示する。

成績評価方法と基準　レポート等の提出物や受講の状況によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容
第1回〜15回において、次の3点に取り組む。
(1) 国語科教育の実践に関するテーマを設定し探究する。（第1〜5回）
(2)「国語教育ゼミナールⅣ」受講生による授業構想及び実践に関わって、適切な支援を行う。（第6〜10回）
(3)「教育実地研究基礎」受講生による授業観察に同行し、適切な支援を行うとともに、授業分析を通じて自らの実践を省察する。（第11〜15回）

その他　受講可能人数は5名までとする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	65	教育実地研究	1	後期　水 3, 4	牧原義一、國仲寛人、新居淳二、後藤太一郎、平山大輔、伊藤信成、栗原行人、荻原彰、平賀伸夫（教育学部理科教育講座）

授業の概要　毎年冬に行われる青少年のための科学の祭典においてブースを出展し、学校現場とは違った理科教育活動を体験する。

学習の目的　理科教育活動の立案, 運営, 演示活動を体験するとともに、学校現場とは違った場面における理科教育活動について理解を深める。

学習の到達目標
・市民参加型の理科実験の立案ができる。
・教材等の調達, 作成ができる。
・企画全体を見通した上で、各自の役割を把握し自発的に活動できる。
・現場の状況に即し、臨機応変な対応をとることができる。
・活動を振り返り、客観的な視点に立った自己評価ができる。

受講要件　学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること

予め履修が望ましい科目
教育実地研究基礎
理科教材研究

成績評価方法と基準　活動への参加姿勢をもとに評価する。

学習内容
・オリエンテーション（代表）
・事前活動 ： 科学の祭典への出展を念頭にグループ, 担当分野毎に活動を行う。
・科学の祭典への参加
・事後活動 ： 科学の祭典への参加を振り返る。
なお、参加計画の立案等については、理科の各分野の教員が適宜助言を行う。

その他
水曜3・4限を基本的な活動時間とするが、授業時間外での活動も含む。
グループ活動を基本とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	～66	教育実地研究	1	通年	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　教育実地研究基礎に参加する下級生の活動の支援を行う。実際の活動に際し，事前に講義および演習を行う予定である。ただし，受け入れ施設の都合に応じて，内容は流動的である。

学習の目的　教育活動の企画・運営能力を養う。

学習の到達目標　指導者の観点から，教育活動の実際について，イメージを持ち，実際に実行する力を獲得する。

受講要件　美術教育コースでの教育実地研究基礎を受講済みであること。

予め履修が望ましい科目　教育実地研究基礎

教科書　とくには事前には指定しないが，実施の過程で必要が生じた場合，指定することがある。

成績評価方法と基準　期末レポートに実際の活動への参加の様子を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00～13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス
2．実地実習
3．実地実習
4．実地実習
5．実地実習
6．実地実習
7．実地実習
8．実地実習
9．実地実習
10．実地実習
11．実地実習
12．実地実習
13．実地実習
14．実地実習
15．事後反省

その他
内容および実施時期は，新年度美術館などの受け入れ施設のでのイベントの開催状況により決定する。
尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動を含む場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	～64	教育実地研究	1	通年	山田康彦

授業の概要　1・2年次及び3年次までに学習・経験してきた美術及び美術教育の知識やスキルをふまえて、実践に生かす。

学習の目的　1・2年次及び3年次までに学習・経験してきた美術及び美術教育の知識やスキルを生かして、学校や美術館等で子どもたちを対象とした美術活動を企画、運営、実施を進め、美術教育実践力を高めるとともに、大学での学習研究の総括をする。

学習の到達目標
学校または美術館等で子どもたちを対象とした美術活動を企画、運営、実施を図る。
子どもたちの心と行動の理解の仕方を習得する。
学校等の現場との関係づくりを学ぶ。
学校や美術館等の美術活動の実際から、美術教育の課題等を考察する。

受講要件　美術教育コースの学生を対象とする

成績評価方法と基準　出席、レポート、受講態度から総合的に評価する

オフィスアワー　毎週水曜日3・4限目 教育学部2号館2階美術教育学（山田）研究室

学習内容
1 オリエンテーション
2 スタッフ会議の運営方法
3.若年スタッフの指導方法
4.学校での美術活動の調査
5.学校での美術活動の企画
6.学校での美術活動の実施
7.美術館での美術活動の調査
8.美術館での美術活動の企画
9.美術館での美術活動の実施
10.地域での美術活動の調査
11.地域での美術活動の企画
12.地域での美術活動の運営
13.地域での美術活動の実施
14.活動の振り返り
14.活動の考察

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	64	教育実地研究	1	通年　水 9, 10	磯部由香、平島円

授業の概要
1．1年生対象に開講されている「教育実地研究基礎」（磯部・平島担当）で実施する小学生を対象としたイベントにチューター的役割で関わり、3年次までに学んだ知識・経験を基に指導・助言を行う。
2．大学近隣の小・中学校の現場での授業補助を行う。

学習の目的　教員としての実践的指導力を身につける

学習の到達目標　企画力、実践力、教材開発能力、指導力、コミュニケーション力を身につける

予め履修が望ましい科目　教育実地研究基礎

成績評価方法と基準　出席、受講態度、レポートなどを総合して評価する。

オフィスアワー
磯部：毎週金曜日12：00～13：00 教育学部1号館食品学研究室
平島：毎週月曜日17：00～18：00 教育学部1号館調理学研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 教育実地研究基礎のガイダンスへの参加
第3～8回 教育実地研究基礎のイベント企画・実施の指導
第9～12回 近隣小・中学校における家庭科授業の補助
第13回 近隣小・中学校における家庭科授業の補助のふりかえり
第14回 一身田・橋北校区連携活動シンポジウムへの参加
第15回 まとめ

その他
詳しい日程は初回、ガイダンス時に連絡する。
イベントの実施当日以外の活動等は水曜日9・10時限に行う。
家政教育コース・消費生活科学コースの学生に限定する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	64	教育実地研究	1	前期　水 1, 2	荒川哲郎、大谷正人、菊池紀彦、郷右近歩、栗田季佳

授業の概要　特別なニーズのある人々について、教育・福祉・療育関係のボランティア経験を前提として、具体的実践・講義・ディスカッション・実習等を通して探究する。

学習の目的　各自の教育実習やボランティア活動の体験を系統的にまとめてゆくことで、教育・福祉・療育等に携わる上での実践力を養うことができる。

学習の到達目標　特別支援教育に関わる教師や、人間としての将来の目標を明確に持ち、実践力を身につける。

受講要件　AIII類の学生を対象とした「教育実地研究基礎」を履修済みであること。

教科書　授業の中で適宜紹介します。

成績評価方法と基準　出席70%、レポート30%

オフィスアワー　菊池研究室

学習内容
1.オリエンテーション
2.教育実習およびボランティア活動についての振り返り（1）
3.教育実習およびボランティア活動についての振り返り（2）
4.教育実習およびボランティア活動についての振り返り（3）
5.教育実習およびボランティア活動についての振り返り（4）
6.課題発表・演習（1）
7.課題発表・演習（2）
8.課題発表・演習（3）
9.課題発表・演習（4）
10.隣接する小・中学校、特別支援学校、障害者施設等における実践（1）
11.隣接する小・中学校、特別支援学校、障害者施設等における実践（2）
12.隣接する小・中学校、特別支援学校、障害者施設等における実践（3）
13.隣接する小・中学校、特別支援学校、障害者施設等における実践（4）
14.隣接する小・中学校、特別支援学校、障害者施設等における実践（5）
15.まとめ

その他　基本的はAIII類4年生を対象とする。受講要件を満たしている他コースの学生が受講を希望する場合には、必ず4月中に特別支援教育講座の教員まで申し出ること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	64	教育実地研究	1	スケジュール表による	吉田真理子・富田昌平

授業の概要
グループに分かれ、幼稚園での子育て支援現場における実践活動を実際に企画実施することを通して，下記の点について学び合う。
・公立幼稚園で毎週実施されている未就園児保育の運営に関わり、保育内容の一部を企画、創作、実演することを通して、それまで培ってきた実践力をより確かなものとする
・公立幼稚園が担う地域の子育て支援の具体的内容を知り、その課題と具体的対策について考察する。

学習の目的
・幼稚園職員、ボランティア、保護者と連携することで，協同で子どもの育ちを支えることの大切さを学ぶことができる。
・幼稚園と地域の関係の重要性を学ぶことができる。
・一年間を通して子どもの成長を見ることができる。
・保育内容に関する知識や経験が豊かなものになる。

予め履修が望ましい科目
教育実地研究基礎
児童文化

成績評価方法と基準　出席、レポート、受講態度から総合的に評価する。

オフィスアワー　吉田真理子毎週金曜日14:30〜15:30 教育学部専門2号館3階研究室

学習内容
●一年間を通じて，実際の幼稚園で子育て支援の実践活動をしながら、子どもと触れあいその成長を確かめるとともに，保護者とコミュニケーションをはかる。
●幼稚園職員と協議しながら保育者としての視点と技術を習得する。
幼稚園の子育て支援（未就園児保育）
1．オリエンテーション
2．子育て支援の企画・実施（計画・場面記録の書き方）
3．子育て支援の企画・実施（誕生日会の企画）
4．子育て支援の企画・実施（保育内容の教材研究：絵本）
5．子育て支援の企画・実施（保育内容の教材研究：遊具）
6．子育て支援の企画・実施（保育内容の教材研究：手遊び）
7．子育て支援の企画・実施（保育内容の教材研究：ペープサート）
8．子育て支援の企画・実施（1歳児の人間関係）
9．子育て支援の企画・実施（2歳児の人間関係）
10．子育て支援の企画・実施（3歳の人間関係）
11．子育て支援の企画・実施（クリスマス会の企画）
12．子育て支援の企画・実施（保護者支援）
13．子育て支援の企画・実施（職員間の連携）
14．子育て支援の企画・実施（実践記録の書き方）
15．総括

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	64	教育実地研究	1	通年　月 3, 4	森脇 健夫, 根津 知佳子, 松本 金矢

授業の概要　K市小規模特認校（小学校）への継続参観、エピソード記述の蓄積を通して子どもたちの変化と成長を追う。小学校における行事への参加や教員との交流の中で現場の抱える問題や教師の日常的な仕事を理解することもこの授業の目的である。

学習の到達目標
参与観察の方法（エピソード記述、振り返り）の習得
子どもたちや授業の見方、あるいは分析の仕方を習得する
現場との関係づくりにおけるモラルやマナーの習得
現場における問題を理論的に考察することができる
理論と実践の関係について理解することができる

受講要件　4年生で知的、肉体的体力がある人。現場との関係をきちんと構築できる人。学生保険に加入のこと。5人まで。

学習内容
1 オリエンテーション
2 エピソード記述の方法
3 参与観察の方法
4 現場での観察と振り返り
5 学期ごとの振り返り（小学校教員、大学教員と）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	～66	教育実地研究	1	スケジュール表による	後藤太一郎(教育学部理科教育講座）、荒尾浩子（教育学部英語教育講座）

授業の概要　教員を目指す学生の国際性を育むための海外教育研修プログラムの実施を中心とたものので、事前準備、研修実施、成果報告からなる。海外における教育方法・評価を学び、日本の教育現場の比較体験を行い、学生が新しい教師像を考えることを目指す。

学習の目的
・海外における教育方法・評価に関して理解できる
・日本における多文化教育のあり方について考える
・国際理解に対する意欲の向上

学習の到達目標
・教職に就くための意識の向上
・外国の教員養成の授業参観から、大学で何を学ぶべきか見直す
・外国の教員志望の学生との交流により、教員となるための新たな課題を見つける
・外国に置ける多文化教育についての教育現場を見ることで、日本に置けるあり方を考えることができ
・日本の教育の優れた点や、改善すべき点について考えることができる
・新しい視点での授業法や教材開発について考えることができる

成績評価方法と基準　取り組み状況と報告書

学習内容
1．研修の概要説明（2時間）
2．ニュージーランドの教育システム（2時間）
3．オークランドでの生活、ガイドブック制作、交流会の準備（8時間）
4．オークランド大学での研修（9月中に現地10日間、50時間）
5．研修の振り返り（2時間）
6．報告書作成（6時間）

その他　オークランド大学教育学部における海外教育研修への参加を必須とする

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	67	教育実地研究基礎	1	後期集中	守田庸一（教育学部）

授業の概要　実際の教育活動の場に身を置くことにより、既有の教育観の相対化を促す。このことを通して、望ましい教育実践を創造するための基盤を形成する。

学習の目的
1．教える側の立場から教育活動をとらえることによって、既有の教育観を相対化する視点を獲得する。
2．発達に応じた学び（とりわけ言語の学習）のイメージを描くことができるようになる。

学習の到達目標
1．教師の視点から授業を観察・記録・考察し、自らの教育観との相違点あるいは共通点を明らかにすることができる。
2．子どもの言語学習を観察・記録・考察し、発達の過程をたどりながら学びの筋道を想定することができる。

教科書　必要に応じて指示する。

成績評価方法と基準　レポート、提出物、出欠席の状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～13:00

学習内容
複数の小中学校における授業、または特定の学校における複数の授業を観察する。また、事前に教材及び学習指導案を分析・考察し、事後には授業の検討を行う。
第1回 ガイダンス
第2回 小学校低学年における授業実践（物語）の観察
第3回 小学校低学年における授業実践（説明文）の観察
第4回 小学校低学年における授業実践の検討
第5回 小学校中学年における授業実践（物語）の観察
第6回 小学校中学年における授業実践（説明文）の観察
第7回 小学校中学年における授業実践の検討
第8回 小学校高学年における授業実践（物語）の観察
第9回 小学校高学年における授業実践（説明文）の観察
第10回 小学校高学年における授業実践の検討
第11回 中学校における授業実践（小説）の観察
第12回 中学校における授業実践（論説文）の観察
第13回 中学校における授業実践の検討
第14回 小学校における授業実践に関する総括討議
第15回 中学校における授業実践に関する総括討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	67	教育実地研究基礎	1	前期集中	藤田達生など社会科教育講座教員

授業の概要　博物館業務の補助をおこない、歴史教育における博物館の活用のありかたを学ぶ

学習の目的　子ども達と親しみ、彼らの学習の補助をおこなう。

学習の到達目標　子ども達やその両親との意思の疎通を自然に行えるようにする。

受講要件　鈴鹿市立考古博物館への往復や作業には危険が伴うので、学生教育研究傷害保険には必ず加入すること。

成績評価方法と基準　出席と子どもとも関わりへの態度を重視する。

オフィスアワー　毎週水曜日午前10時～11時

学習内容
・博物館の社会的役割
・展示までの流れ
・研究と社会教育
・親子体験教室の意義
・曲玉づくり実習
・土笛づくり実習
・親子体験教室への参加
以上を、学芸員と一緒に3日間おこなう。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	67	教育実地研究基礎	①	通年	中西正治（教育学部）

授業の概要　一身田校区の小学校（栗真、白塚、一身田 南立誠 北立誠）における学習支援活動（教育アシスタント）を行なうことにより、学校及び子どもに関する理解を深める。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　小学校への出席と振り返りノートを中心として、総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12：00〜13：00、中西研究室（教育学部1号館4階）

学習内容
毎週1回1時限、小学校に行き、教育アシスタントを行う。
記録ノートを作成し、実地研究の内容の詳細を記録する。
毎週、ノートを担当教員に提出し評価・指導を受ける。

その他　数学教育コースの1年生を対象とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	67	教育実地研究基礎	1	通年	後藤太一郎、新居 淳二、伊藤信成、牧原義一(教育学部理科教育講座)

授業の概要　小学生を対象とした「子ども科学教室」を企画・実施し、参加児童とのふれあいを通じて指導の基礎を身につける。

学習の到達目標　児童にとって楽しい科学実験の企画と実践の基礎を身につけ、児童や保護者との接し方について考えることができるようになる。

成績評価方法と基準　取り組み状況と報告書

学習内容

1.「子ども科学教室」の概要説明（2時間）
2.「子ども科学教室」の企画運営について（2時間）
3.「子ども科学教室」で実施する実験の準備（8時間）
4.「子ども科学教室」の実施（夏季休暇中の2日間、16時間）
5.報告会（2時間）

その他　「子ども科学教室」は理科教育コースの2年生が中心となって進める。講義日程については理科教育コースの掲示板で確認すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	〜67	教育実地研究基礎	1	後期集中	根津知佳子、小畑真梨子、兼重直文、弓場徹、森川孝太朗、川村有美

授業の概要
授業参観を通して、音楽の授業の構造を理解する。
音楽活動を構成し、児童・生徒との交流を図る。
その体験を通して、児童・生徒の生活世界や実践現場を理解する。

学習の目的　教育現場、あるいは隣接関連領域の活動に参与する。

学習の到達目標
地域における学校の役割を理解する。
音楽活動による交流の可能性について自分なりの考えを持つことができる。

教科書　実施内容によって、楽譜や資料を用意する。

成績評価方法と基準　観察・企画・実施・省察のすべてのプロセスの出席を重視する。終了後にレポートを提出する。

オフィスアワー　火曜日 12：00〜13：00

学習内容
(1)観察 2コマ
(2)学習支援 10コマ
(3)音楽会の企画 1コマ
(4)実践 2コマ
(5)音楽会の振り返り 1コマ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	59-67	教育実地研究基礎	1	通年	上山 浩（教育学部美術教育講座）

授業の概要　美術館等の公共施設で開催される子どもの造形活動・鑑賞活動の教育的支援を行う。実際の活動に際し，事前に講義および演習を行う予定である。ただし，受け入れ施設の都合に応じて，内容は流動的である。下記の学習内容欄には，参考として，平成25年度実施実施分を元にした計画を示す。

学習の到達目標　指導者の観点から，教育活動の実際について，イメージを持ち，自らの活動の方針を立てる。

受講要件　美術作品についての専門知識をある程度もっているか，それについての強い関心のあることが必要。

教科書　とくには事前には指定しないが，実施の過程で必要が生じた場合，指定することがある。

成績評価方法と基準　期末レポートに実際の活動への参加の様子を加味する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス
2．美術館での過去の活動
3．子どもの活動の理解
4．本年度の美術館活動
5．美術館担当者による諸事項の注意
6．実地見学
7．自己の活動方針の検討
8．実地実習
9．実地実習
10．実地実習
11．実地実習
12．実地実習
13．実地実習
14．実地実習
15．事後反省

その他
内容および実施時期は，新年度美術館などの受け入れ施設のでのイベントの開催状況により決定する。概ね10名を上限とした受講制限を行う。美術教育コースの66期生の受講を推奨し，履修を優先する。
尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動を含む場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	〜67	教育実地研究基礎	1	通年	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座），松岡 守（教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要
以下の活動支援を行う。
1）合宿型ロボット製作教室での活動支援（津市内，8月中旬：3泊4日）
2）三重県中学生ロボコン大会での運営支援（県内中学校，11月中旬）
3）少年少女発明クラブでの活動支援（津市内，土曜日午後2時間程度，月2〜3回程度）
4）ロボコン体験教室活動支援（県内，9月〜12月，4回程度）
5）地域連携活動支援（大学近隣学校園，2回程度）
6）熊野古道に関する地元高校生等との合同活動
以上の各種活動について，所定回数・時間以上参加（準備，実施，振り返りを含む）する。複数の活動でもまた単独の活動でも所定回数・時間以上の参加で良いが，支援上，特定の活動についてある程度継続的に参加することが望ましい。
1・3）は，県内の小・中学生を対象として工作並びに生活指導・支援を行う。工作の仕方や手順，生活指導等については，事前に研修会を行うので経験がなくても支障はない。
2）は，司会や審判，大会進行支援，絵の指導，コンピュータ環境管理など支援内容に幅があり，それぞれの希望，適性に応じ作業を分担する。
4）は，地域公開講座として開催するロボット体験教室において，主に小学生を対象にロボットの操作等を指導・支援する。
5）は，教育学部が取り組んでいる地域連携活動の一貫として，大学近隣の学校園で行う，ものづくり出前授業において子どもたちへの活動支援を行う。

学習の目的　この授業を履修することにより，幼稚園から中学校までの子ども達に接することで，その発達段階に応じたものづくり教育での支援について体験的に学び，実践できるようになる。

学習の到達目標
・子ども達と一緒になって作業を進め，世代を超えた協同作業の楽しさ，良さを理解する。
・子ども達と同じ目線に立ち，気持ちを理解し，ふれあいを深めることができる。
・子ども達と共に工夫し，活動する体験ができる。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　学習活動支援状況や，Moodle上での計画，議論，振り返り（レポート，参加後必須）を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00〜13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 全体概要の説明
2回 合宿型ロボット製作教室での活動支援の準備
3回 合宿型ロボット製作教室での活動支援
4回 三重県中学生ロボコン大会での運営支援の準備
5回 三重県中学生ロボコン大会での運営支援
6回 少年少女発明クラブでの活動支援の準備
7回 少年少女発明クラブでの活動支援
8回 ロボコン体験教室活動支援の準備
9回 ロボコン体験教室活動支援
10回 地域連携活動支援の準備
11回 地域連携活動支援
12回 熊野古道に関する地元高校生等との合同活動の準備
13回 熊野古道に関する地元高校生等との合同活動
14回 各活動の振り返り
15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	67	教育実地研究基礎	1	通年　水 9, 10	磯部由香，平島円（教育学部）

授業の概要　食をテーマとした小学生を対象としたイベントを通して、子どもの理解を深め、教育について考える。

学習の目的　発達段階や特性に応じた授業を構成する力や、教師として子どもとのよりよい関係を構築する力を身につけることを目的とする。

学習の到達目標　子ども理解力、企画力、実践力、コミュニケーション力を身につける。

成績評価方法と基準　出席、受講態度、レポートなどを総合して評価する。

オフィスアワー
磯部：毎週金曜日12：00〜13：00 教育学部1号館3階食品学研究室
平島：毎週月曜日17：00〜18：00 教育専門1号館3階調理学研究室

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 近隣の小学校等へのリサーチ
第3回 リサーチ結果の共有
第4回 イベントで行う交流活動内容の検討
第5回 イベントで行う交流活動の試行
第6回 試行の振り返り
第7回 イベントで行う交流活動の改善
第8回 イベントで行う交流活動案の決定
第9〜13回 イベントの実施（終日）
第14回 イベントの反省会
第15回 まとめ

その他
4月にガイダンスを実施（日程は掲示で連絡）その後の詳しい日程については、ガイダンス時に連絡する。イベントの実施当日以外の活動等は水曜日9・10時限に行う。
尚，授業内容の一部に，附属学校園または隣接校区学校園等での実地活動を含む場合がある

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究基礎	67	教育実地研究基礎	1	通年	郷右近 歩、荒川 哲郎、大谷 正人、菊池 紀彦、栗田 季佳

授業の概要
特別なニーズのある人たちの教育、福祉、療育関係の施設を見学して、具体的実践の講義、実習をとおして基本的問題について考える。この授業は、観察・参加の後において、実際の現場について、討議して、自主的な研究を進め、報告をまとめる。
系統的な学習を教育実地研究基礎の授業として、位置づけている

学習の目的　見学、実地体験などの報告をまとめるために系統的な話し合いにより分析、整理する力を養う。

学習の到達目標　特別支援教育の現場を知り、情報を得ることにより、特別支援教育に関わる教師や人間としての将来の目標を明確に持つこと。

予め履修が望ましい科目　特別支援教育観察参加

成績評価方法と基準　出席70%、レポート30%

オフィスアワー　代表（責任者）：郷右近 歩

学習内容
下記の施設について見学後、
（1）三重県立聾学校
（2）三重県立盲学校
（3）三重県立城山養護学校
（4）三重県いなば園
（5）福祉法人AJU自立の家
（6）わだちコンピュータハウス
（7）三重県小児心療センターあすなろ学園・高茶屋小学校あすなろ分校
事後指導を受け、参加型学習を実施する。
三重大学教育学部附属特別支援学校など、現場において学ぶ。

その他　基本的にはAIII類1年生を対象とする。他専攻の学生が受講する場合には、申告期間中に特別支援教育講座の教員（郷右近）まで必ず申し出ること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	67	教育実地研究基礎	1	前期集中	富田 昌平、吉田 真理子

授業の概要　幼稚園における夏祭り（7月土曜日）の一部を企画、準備し、参加する。数回は幼稚園を訪れ、保育活動に協力する。幼稚園職員や保護者と協力して夏祭りを企画準備し成功させる活動を通して、幼稚園現場の一端と子どもの姿をを知る。4年間の幼児教育の学修、あるいは将来の幼児教育教員となることへの意欲と行動力を喚起する。

学習の目的　幼児教育現場の主役が子どもであり，教職員，保護者，地域の人々等の共同，協力から成り立っていることを体験的に理解する。幼児期の子どもの実際の姿に触れ子ども理解の出発点とする。

学習の到達目標
幼稚園についての初歩的な理解を得る。
幼児の遊びと発達についての初歩的な理解を得る。
協同的に問題を解決する力を得る。

教科書　特になし。適宜，資料等を配布する。

成績評価方法と基準　企画・準備・及び夏祭り当日に参加度。各活動に関する小レポートをもとに総合的に評価する。

学習内容
第1回： オリエンテーション
第2回〜第10回：夏祭り行事での遊び・活動の企画・準備
第11回〜第14回：夏祭り行事での遊び・活動の実施・反省
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究		教育実地研究基礎	1	通年	山守一徳

授業の概要　現場体験を通して、児童・生徒の生活世界や実践現場を理解する。

学習の目的　教育現場、あるいは隣接関連領域の活動に参与する。

学習の到達目標　児童・生徒への接し方について、自分なりの考えを持つことができる。

成績評価方法と基準　参加態度、終了後のレポートによる。

学習内容
（1）事前準備 1コマ
（2）高校での現場体験 12〜13コマ相当
（3）小学校での現場体験 1コマ相当
（4）振り返り 1コマ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究	67	教育実地研究基礎	1	前期集中	鶴原清志（教育学部）、杉田正明（教育学部）

授業の概要
教職入門科目の位置づけから、鈴鹿市適応教室において、教員や児童・生徒と実際にかかわることにより、教職の意義や教員の役割について学ぶ。

学習の目的　鈴鹿市適応教室の児童・生徒とのかかわりを通して、自ら問題、課題を見つけ、教員としての素養を身につける。

学習の到達目標　鈴鹿市適応教室の児童・生徒とのかかわりを通して、子どもとのかかわり方や体育・スポーツ活動などに対する企画運営能力を身につける。

受講要件　学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目　レクリエーショナルスポーツ、野外運動II（キャンプ）または野外運動III（臨海）を予め履修しておくことが望ましい。

教科書　当日配布する。

成績評価方法と基準　レポートおよび授業態度から総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週木曜日12:00〜13:00鶴原研究室
毎週火曜日12:00〜13:00杉田研究室

学習内容
鈴鹿市適応教室の児童・生徒とのかかわりを通して、子どもとのかかわり方や教師の役割を学ぶとともに、体育・スポーツ活動などに対する企画運営を行う。
1.事前ガイダンス
2.事前訪問、事前打ち合わせ
3.鈴鹿市適応教室での実習
4.三重大学内施設でスポーツ活動の運営補助
5.事後指導
実施時期は、ガイダンス：6月中旬頃、実習：9月中、事後指導10月初旬を予定。実習終了後すぐにレポートを提出。

その他　ガイダンスおよび事前・事後指導を実施する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究		教育実地研究基礎	1	後期集中　水 7, 8, 9, 10	松本金矢、根津知佳子、森脇健夫

授業の概要
教えるという営みは、学習者の学びを支えることを含んでいる。本講座では、敬和小学校、東橋内中学校の放課後の学習支援活動を行い、児童・生徒の学びに寄り添うLA(Learning Attendant)としての体験を重ねながら、現場において問題になったことを検討会・学習会などで理論的に学びながら、反省的実践としての教育活動を行う。

学習の目的　LA活動を通して、子どもたちの実態を知る。

学習の到達目標　放課後の学習に参加し[児童・生徒に寄り添う力」や「教科の指導について考える力」について、実践を通して自分なりに考える。

受講要件
敬和小学校の学習支援に参加できること（月・火・木のうち1日以上）
東橋内中学校の学習支援に参加できること（水曜日の放課後）

成績評価方法と基準　出席と毎回の振り返り、検討会への参加など総合評価とする。

オフィスアワー　毎週月曜日18：00〜19：00

学習内容
1．オリエンテーション
2．現場での観察
3．LA活動（1）
4．LA活動（2）
5．LA活動（3）
6．LA活動（4）
7．LA活動（5）
8．検討会（1）
9．LA活動（6）
10．LA活動（7）
11．LA活動（8）
12．LA活動（9）
13．LA活動（10）
14．検討会（2）
15．合同検討会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究		教育実地研究	1	通年	松浦 均(教育学部学校教育講座)，南 学(同学校教育講座), 中西良文(同学校教育講座), 松本金矢(同技術教育講座)

授業の概要　三重県志摩市の幼・小・中学校で4日間の教師見習いをする。また、その前後に授業案の作成・リフレクションを行う。

学習の到達目標　大学での学習と現場での実践を往還することにより、知識と実践とを結びつける力を身につけるのが、究極的な目標である。

受講要件　意欲とコミュニケーション力。

予め履修が望ましい科目　教師と生徒の心理II およびI、教育心理学、学習心理学、社会心理学、クリティカルシンキング、コミュニケーション実習

教科書　指定はしないが、適宜、必要な文献にはあたって欲しい。

成績評価方法と基準　授業案立案の際の活動状態、立案された授業案、実地先での活動状態、実地研究後に提出するレポート、事後リフレクションを総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　担当教員の予定が空いているときは、いつでも対応する。

学習内容
・実地研究の説明
・授業案の作成・ブラッシュアップ
・授業案の検討
・実地での実践活動
・リフレクション

その他　この授業は通年開講であるが、9月に行う現場での活動に向け、5月頃から授業案作成が始まるため、履修申請・受講には注意すること！。5月頃に掲示による案内を行うため、注意して見ておいてください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究		教育実地研究基礎	1	前期集中　水 7, 8, 9, 10	松本金矢、根津知佳子、森脇健夫

授業の概要　教えるという営みは、学習者の学びを支えることを含んでいる。本講座では、敬和小学校、東橋内中学校の放課後の学習支援活動を行い、児童・生徒の学びに寄り添うLA(Learning Attendant)としての体験を重ねながら、現場において問題になったことを検討会・学習会などで理論的に学びながら、反省的実践としての教育活動を行う。

学習の目的　LA活動を通して、子どもたちの実態を知る。

学習の到達目標　放課後の学習に参加し[児童・生徒に寄り添う力」や「教科の指導について考える力」について、実践を通して自分なりに考える。

受講要件
敬和小学校の学習支援に参加できること（月・火・木のうち1日以上）
東橋内中学校の学習支援に参加できること（水曜日の放課後）

成績評価方法と基準　出席と毎回の振り返り、検討会への参加など総合評価とする。

オフィスアワー　毎週月曜日18：00〜19：00

学習内容
1．オリエンテーション
2．現場での観察
3．LA活動（1）
4．LA活動（2）
5．LA活動（3）
6．LA活動（4）
7．LA活動（5）
8．検討会（1）
9．LA活動（6）
10．LA活動（7）
11．LA活動（8）
12．LA活動（9）
13．LA活動（10）
14．検討会（2）
15．合同検討会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
教育実地研究		教育実地研究	2	通年	松岡 守（教育学部），魚住明生（教育学部），松本金矢（教育学部），中西康雅（教育学部）

授業の概要
教育実地研究基礎で以下の活動を行う1年生をリードする。
1）合宿型ロボット製作教室での活動支援（津市内，8月中旬：3泊4日）
2）三重県中学生ロボコン大会での運営支援（県内中学校，11月中旬）
3）少年少女発明クラブでの活動支援（津市内，土曜日午後2時間程度，月2〜3回程度）
4）ロボコン体験教室活動支援（県内，9月〜12月，4回程度）
5）地域連携活動支援（大学近隣学校園，2回程度）
6）熊野古道に関する地元高校生等との合同活動
以上の各種活動について，所定回数・時間以上参加（準備，実施，振り返りを含む）する。複数の活動でもまた単独の活動でも所定回数・時間以上の参加で良いが，支援上，特定の活動についてある程度継続的に参加することが望ましい。
1・3）は，県内の小・中学生を対象として工作並びに生活指導・支援を行う。工作の仕方や手順，生活指導等については，事前に研修会を行うので経験がなくても支障はない。
2）は，司会や審判，大会進行支援，絵の指導，コンピュータ環境管理など支援内容に幅があり，それぞれの希望，適性に応じ作業を分担する。
4）は，地域公開講座として開催するロボット体験教室において，主に小学生を対象にロボットの操作等を指導・支援する。
5）は，教育学部が取り組んでいる地域連携活動の一貫として，大学近隣の学校園で行う，ものづくり出前授業において子どもたちへの活動支援を行う。

学習の目的　この授業を履修することにより，幼稚園から中学校までの子ども達に接する1年生をリードすることで，その発達段階に応じたものづくり教育での支援について俯瞰的に学び，実践できるようになる。

学習の到達目標
・子ども達と一緒になって作業を進め，世代を超えた協同作業の楽しさ，良さを理解する。
・子ども達と同じ目線に立ち，気持ちを理解し，ふれあいを深めることができる。
・子ども達と共に工夫し，活動する体験ができる。
・以上の活動を俯瞰し、リードできるようになる。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　学習活動支援状況や，Moodle上での計画，議論，振り返り（レポート，参加後必須）を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00〜13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 全体概要の説明
2回 合宿型ロボット製作教室での活動支援の準備
3回 合宿型ロボット製作教室での活動支援
4回 三重県中学生ロボコン大会での運営支援の準備
5回 三重県中学生ロボコン大会での運営支援
6回 少年少女発明クラブでの活動支援の準備
7回 少年少女発明クラブでの活動支援
8回 ロボコン体験教室活動支援の準備
9回 ロボコン体験教室活動支援
10回 地域連携活動支援の準備
11回 地域連携活動支援
12回 熊野古道に関する地元高校生等との合同活動の準備
13回 熊野古道に関する地元高校生等との合同活動
14回 各活動の振り返り
15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
総合科目	67-	人権と教育	2	後期　月 7, 8	森脇健夫 余健 菊池紀彦 馬原潤二

授業の概要　社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る

学習の目的　これから社会人（教師も含む）になるにあたって、必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため

学習の到達目標　社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に対峙し解決をはかるか、自分で考えることができるようになる。

成績評価方法と基準　一回一回のレポートと出席。

学習内容
1．オリエンテーション
2．被差別部落問題について その1 現状と課題
3．被差別部落問題について その2 解決に向けて
4．被差別部落問題について その3 事例
5．教室の中での人権 その1 いじめや体罰
6．教室の中での人権 その2 事例研究
7．教室の中での人権 その3 授業の中で
8．在日外国人の人権問題 その2 事例1
9．在日外国人の人権問題 その3 事例2
10．在日外国人の人権問題 その1 事例3
11．障がい者の人権問題 その1 事例1
12．障がい者の人権問題 その2 事例2
13．障がい者の人権問題 その3 事例1
14．討論
15．まとめ
16．レポート

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
総合科目	67-	総合的な学習の展望と実践	2	後期　水 3, 4	根津 知佳子、森脇健夫、佐藤年明、伊藤敏子、後藤太一郎、林 朝子、中西康雅、磯部由香、上垣渉

授業の概要　総合的な学習の時間について、その教育課程の中における位置づけや性格を明らかにする。また歴史的な実践、現在行われている実践を踏まえながら、あるべき姿をイメージできるようにする。

学習の目的　総合的な学習の時間、においてどのようなテーマでどのような実践を行っていったらいいのかイメージすることができる。

学習の到達目標
総合学習の歴史を知る。
総合的な学習の時間の教育課程における位置づけを理解する。
テーマ学習、横断的な学習についてのイメージを膨らませることができる。
実際におこなわれている授業実践について知り、評価ができる。
自分なりに総合的な学習の実践の展望をもつことができる。

成績評価方法と基準
各時間のコメント・・・50%
大レポート・・・50%

学習内容
オリエンテーション
1．「総合的な学習の時間」の成立、現状と課題（森脇健夫）
2．総合学習の源流、歴史的背景、各国における試み（伊藤敏子）
3．教育課程における「総合的な学習の時間」の位置付け、テーマ（佐藤年明）
4 「総合的な学習の時間」における児童・生徒の活動および支援の在り方（森脇健夫）
5〜7 体験学習としてのものづくり（中西 康雅）
8 総合的な学習の時間で取り組む生命教育（後藤太一郎）
9〜10 音楽と数学・音符と数字（根津知佳子 上垣渉）
11 学校における多文化共生（林 朝子）
12 総合学習としての食育（磯部 由香）
13〜15 現場実践の紹介（分割講義×3）
小幡さん（奈良のしごと学習）、日和佐さん(街角の算数)、高藤さん（三重・鈴鹿）
16 まとめ・・・「総合的な学習の時間」において求められる教師の力量（森脇健夫）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
職業指導		職業指導	2	前期　金 9, 10	世良 清（教育学部）

授業の概要　本科目は、高等学校教諭免許「工業」を取得するための必須科目であり、高等学校工業科で職業指導を実践するための基礎的な知識や技能を学習する。

学習の到達目標
1．高等学校工業科における職業指導の理念を理解する。
2．高等学校工業科における職業指導の内容と方法を理解する。
3．授業における職業指導の具体的な指導案を作成できるようになる。

予め履修が望ましい科目　生徒指導関係科目，教育心理学など

教科書
教科書：吉田辰雄、「最新生徒指導・進路指導論 ガイダンスとキャリア教育の理論と実践 教職課程シリーズ」、図書文化社
参考書：授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準
単位認定は、受講生が制作する「ポートフォリオ」に基づいて、受講生の自己評価と授業目標の達成度を総合的に評価することによって行う。
「ポートフォリオ」には、授業中における個別およびグループワーク、レポートなどの課題の成果、および関連する成果を綴じるものとする。
単位認定の判定は、試験日（＝第15回）に提出された「ポートフォリオ」に綴じられたものによってのみ、本人との面談を実施した上で行う。その際、少なくとも、授業で取り組んだワーク・シート類はすべて綴じておく必要がある。また、試験日における「ポートフォリオ」の提出に当たっては、面談を実施するので、受講生本人が出席する必要がある。
なお、「ポートフォリオ」に使用するA4タテ版2穴フラットファイル（色は自由）を購入し、持参すること。このことについては、第1回目の授業で詳しく説明する。

オフィスアワー
非常勤講師であるので問い合わせは基本的にメールにて（sera@cty-net.ne.jp）
学内連絡窓口：松岡 守（教育学部技術教育講座，231-9305，matsuoka@edu.mie-u.ac.jp）

学習内容
1．導入
2．職業指導の理念と内容（1）
3．職業指導の理念と内容（2）
4．職業指導の方法（1）
5．職業指導の方法（2）
6．職業指導の方法（3）
7．職業指導の方法（4）
8．職業指導の方法（5）
9．職業指導の方法（6）
10．職業指導指導案の作成（1）
11．職業指導指導案の作成（2）
12．職業指導指導案の検討（1）
13．職業指導指導案の検討（2）
14．職業指導指導案の検討（3）
15．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
博物館に関する科目	66~	博物館概論	2	前期　水 3, 4	岡野 智子

授業の概要　博物館の設置目的や存在意義と、建築から資料・作品の収蔵，管理，展示，普及などに至る学芸員の多様な業務について、具体例から検討する。現在の博物館が抱えている諸問題を探りつつ、これからの博物館に求められることとは何かを問い、その実現に向けて学芸員の為すべきことを見定める。

学習の到達目標　博物館学芸員としての基本的な理念と、様々な課題について考察する。多様化する社会の中で、博物館という組織において、学芸員に求められる知識や役割を学ぶ。博物館活動のさまざまや、学芸員の諸業務を知ることにより、広い視野、バランスのとれた考察力、的確で迅速な実行力などの必要性を把握し、そのスキルを培う。

受講要件
(1)各課題についてのレポート、及び最終レポートを期日までに必ず提出すること。
(2)4月19日（土）実施の三重県総合博物館（MieMu）見学会に必ず参加の事。詳細は初回講義時に伝達する。
(3)3年次に実施する博物館実習（学内実習）を受講するためには、この授業科目の単位が取得済み、あるいは取得見込みであること。

成績評価方法と基準　各回のレポート…30% 期末レポート…40% 討論等講義への参加度…10% 出席…10%

オフィスアワー
毎週木曜日12:00〜13:00
連絡窓口：芸術学研究室（山口泰弘）

学習内容
第1回 講義 博物館と学芸員 （1）―博物館の諸形態―
第2回 講義 博物館と学芸員 （2）―博物館設置の諸問題―
第3回 講義 博物館と学芸員 （3）―理念・目的と実状―
第4回 講義 資料の収蔵・管理（1）―資料収集―
第5回 講義 資料の収蔵・管理（2）―保存環境―
第6回 講義 資料の収蔵・管理（3）―資料の保管―
第7回 講義 展示と展覧会開催（1）―展示の基本―
第8回 講義 展示と展覧会開催（2）―展覧会の開催①―
第9回 講義 展示と展覧会開催（3）―展覧会の開催②―
第10回 講義 博物館の運営 ―年間計画と諸設備―
第11回 講義 博物館の普及事業（1）―地域連携―
第12回 講義 博物館の普及事業（2）―学校連携―
第13回 講義 博物館の普及事業（3）―体験教室ほか―
第14回 講義 博物館の広報活動 ―博物館からの発信―
第15回 講義 博物館見学

その他　受講希望者多数の場合は、15名を限度として人数調整を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
博物館に関する科目	66〜	博物館経営論	2	後期集中	道田 美貴

授業の概要　経営という用語からは、博物館の安定的経営を目指して、いかに入館者数を増やすかといった経済的な側面を想起しがちであるが、本来、方針を定め組織を整えて、目的を達成するよう持続的に事業を行うことを意味する。この授業では、博物館の歴史と現況、活動内容、組織と運営法等を経営論の立場から分析し、博物館の社会的意義等について考察する。

学習の到達目標　経営論の立場から、行財政制度、マネジメント論、組織・職員、教育普及活動、市民参画・博物館や大学など他機関との連係についての認識を深めることによって、社会教育機関として博物館が果たしている役割について学ぶ。

受講要件　必ず学芸員資格の取得を目指すこと。

教科書　特定の教科書は用いない。初回時に、参考文献リストを配布。

成績評価方法と基準　出席と受講態度60%、レポート40%

オフィスアワー
毎週木曜日12:00〜13:00
連絡窓口＝芸術学研究室（山口泰弘）

学習内容
第1回 講義 公立博物館の運営と行財政制度（1）
第2回 講義 公立博物館の運営と行財政制度（2）
第3回 講義 その他の博物館の運営と行財政制度
第4回 講義 マネジメント論とマーケティング論（1）
第5回 講義 マネジメント論とマーケティング論（2）
第6回 講義 博物館の組織・職員
第7回 講義 学芸員の実務業務と業務環境（1）
第8回 講義 学芸員の実務業務と業務環境（2）
第9回 講義 学芸員の実務業務と業務環境（3）
第10回 講義 教育普及活動と経営の活性化（1）
第11回 講義 教育普及活動と経営の活性化（2）
第12回 講義 博物館における連係（1）
第13回 講義 博物館における連係（2）
第14回 講義 諸外国の博物館経営（1）
第15回 講義 諸外国の博物館経営（2）
定期試験

その他　原則として欠席・遅刻は認めない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
博物館に関する科目	65〜	博物館実習（学内実習）	2	後期集中	平賀 麻子（非常勤講師）、生田 ゆき（非常勤講師）

授業の概要　実習形式で博物館学芸員の業務を理解し、基礎的能力を身につけることを目標とする。

学習の目的　博物館等実地で行われる「博物館実習（館園実習）」を受講するために必要な基礎的知識や経験を身につけることを目的とする。

学習の到達目標　博物館学芸員に必要な専門的技能の獲得。

受講要件　教育学部の学生は、「博物館概論」「博物館経営論」の単位を取得済み、又は取得見込みであること。

予め履修が望ましい科目　博物館概論 博物館経営論 生涯学習論

教科書　特定の教科書は用いない。適宜、参考文献を適宜提示。

成績評価方法と基準　出席と受講態度80%、レポート20%

オフィスアワー
毎週木曜日12:00〜13:00
連絡窓口＝山口泰弘（教育学部美術教育講座）

学習内容
第1部
第1回 事前指導
第2回 展覧会の企画
第3回 展覧会の準備（1）出品作品の選定
第4回 展覧会の準備（2）所蔵者への出品依頼
第5回 展覧会の準備（3）作品調査
第6回 作品の取り扱い（1）絵画
第7回 作品の取り扱い（2）彫刻
第8回 作品の集荷・返却
第9回 展示作業の実際（1）絵画
第10回 展示作業の実際（2）彫刻
第11回 博物館見学（1）美術系
第12回 博物館見学（2）歴史・自然系
第13回 広報資料・図録の作成
第14回 報告書作成
第15回 まとめ
第2部
第16回 ガイダンス
第17回 西洋美術の流れ① 中世からルネサンスへ
第18回 美術史の諸問題① 作者同定と年代設定
第19回 美術館の現場から① 展覧会とコンセプト
第20回 西洋美術の流れ② ルネサンスからバロックへ
第21回 美術史の諸問題② 「画家」の誕生とジャンルのヒエラルキー
第22回 西洋美術の流れ③ ロココからロマン主義へ
第23回 美術史の諸問題③ 美術館という制度
第24回 美術館の現場から② 展示構成とカタログ
第25回 西洋美術の流れ④ ロマン主義からリアリズムへ
第26回 美術史の諸問題④ 美術と社会
第27回 西洋美術の流れ⑤ 印象主義誕生
第28回 美術史の諸問題⑤ 前衛の意義
第29回 美術館の現場から③ 調査・研究の意義と普及教育の重要性
第30回 事後指導

その他
4年次を対象として開講する「博物館実習（館園実習）」の準備科目であるため、3年次で受講すること。
原則として欠席・遅刻は認めない。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
博物館学		博物館情報・メディア論	2	前期　木 9, 10	須曽野 仁志

授業の概要　博物館のおける情報とはどのようなものがあるか、情報化社会での博物館の役割、博物館活動を進める上でのメディア活用について、講義だけでなく、学習者が実際にプレゼンテーションを行ったり、デジタルストーリーテリングの手法で作品制作することにより、体験的に学んでいく。

学習の目的　博物館における情報活用や博物館におけるメディア活用の方法と技術について知り、メディア社会に積極的に参画できる実践的な知を身につける。

学習の到達目標
・博物館のおける情報とはどのようなものがあるかを知る。
・情報化社会での博物館の役割、博物館活動を進める上でのメディア活用についてわかるようになる。
・博物館教育のおけるプレゼンテーションやデジタルストーリーテリングの技法を具体的に習得する。

教科書　特に使用しない。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20-17:50、教育学部附属教職支援センター須曽野研究室

学習内容
第1回 講義 博物館における情報
博物館における情報提供は、近代的な博物館設立当初からの主要な役割であり、情報化社会の中ではますます重要となっている。「博物館における情報とは」という問いを考えてみる。
第2回 講義・実習 「1枚の写真の提示方法と情報提示機器の活用」
「小さな1枚の写真をどのように大勢の人に見せるか」についてアイデアを出し合い、情報をどのように提示するかについての方法と技法について学ぶ。
第3回 講義・演習 博物館におけるプレゼンテーションの方法と技術
博物館において、どのように展示物を見せるかや、情報を提示するかについて、プレゼンテーションの方法や技術を知り、実際にグループでミニプレゼンテーションを行う。
第4回 講義 博物館活動の情報化 とメディアの活用
博物館活動における情報化の進展とメデイアの活用について講義する。
第5回 講義 メディア論の系譜
19世紀、20世紀と、メディアがどのように発展し、活用されてきたかを振り返り、21世紀におけるメディア社会において、新しい時代に対応したメディア論について講義する。
第6回 講義 静止画と動画の活用
博物館教育において、静止画と動画をどのように活用するかについて考え、グループでそれらのメリットとデメリットについて話し合う。また、それらを博物館活動でどのように活かすかを検討する。
第7回 講義 博物館と情報通信技術
博物館において、どのような情報通信技術が活用されているか、実例を知る。
第8回 講義・演習 博物館における情報発信
博物館において、どのように情報発信されているかや、来館者による発信型学習をできるかを考え、情報発信のあり方や内容を知る。
第9回 講義・演習 デジタルストーリーテリングとは何か
コンピュータ上で静止画（写真や絵など）を自分自身のナレーションでつないでいくデジタルストーリーテリングの手法について紹介し、制作方法について学ぶ。
第10回 演習 デジタルストーリーテリングの制作(1)
博物館に関することで（例「私の博物館の思い出」「おすすめの博物館」等）で、約2分間のデジタルストーリー作品を作る
第11回 演習 デジタルストーリーテリングの制作(2)
第10回の続き、特に、デジタルストーリーテリングにとり組む上での著作物や著作権について留意する。
第12回 演習 デジタルストーリーの発表
制作したデジタルストーリー作品の発表会を開き、授業参加者同士で作品から学び合う。
第13回 講義・演習 博物館とメディアリテラシー
博物館学芸員が必要とするメディアリテラシーについて考える。博物館における著作権問題や情報モラルについても取り上げる。
第14回 講義・演習 博物館教育とメディア
博物館における教育活動を進める上で、メディアが果たす役割と利用について考える。
第15回 講義 21世紀メディア社会における学習
授業全体をふり返り、メディア論の構図を整理した上で、博物館における「学習」を振り返る。21世紀メディア社会で、いかに学ぶかについて、考え、学習してきたことをまとめる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
図書館学	65~66	読書と豊かな人間性	2	後期　火 7, 8	中垣清人（名古屋市立明徳小学校）

授業の概要
1．読書の意義と目的について理解し、読書によって人間の真実に触れることが子ども達にとってどんな意味を持つかを考える。
2．児童生徒の発達段階に応じた読書指導のねらいと指導方法を具体的に学ぶ。
3．現在の児童文学の現状について学び、今後の読書指導のあり方を考える。

学習の目的
・自分にとっての読書の意味を考えながら、児童生徒にとっての読書の意義を考える。
・読書指導の具体的方法について学ぶ。

学習の到達目標
・自分と人間にとっての読書の意味を問い、児童生徒にとっての読書の意義をつかむ。
・児童生徒の発達段階に応じた読書指導の方法を身につける。

学習内容
・読書の意義と目的：読書体験は「身につまされる」ということ
・読書と心の教育：「答え」よりも「問い」、いつも考える子どもの育成
・発達段階に応じた読書の指導と計画（幼稚園、小学校低学年、高学年、中学・高校）
・児童・生徒向け図書の種類と活用
・読書の指導方法：教科指導との関連と図書館司書の役割
・家庭・地域・図書館との連携
・私のこの一冊

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
図書館学	66-64	学校経営と学校図書館	2	前期　火 1, 2	川合佐代子（非常勤講師）

授業の概要
＜授業の概要＞
学校図書館の理念と教育的意義、教育行政と学校図書館、学校図書館の経営、学校図書館活動、司書教諭の任務と職務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館メディアの選択と収集などを中心に講義する。

学習の目的
＜学習の目的＞
学校教育における学校図書館の果たす役割を理解し、学校図書館の理念、教育行政とのかかわり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的事項の理解を深める。

学習の到達目標
＜授業の到達目標及びテーマ＞
学校図書館を理解するのに必要な基本的な意義や経営などについて把握することをねらいとしている。学校図書館は学校の中に位置するものであるから、学校図書館全般について基本的事項について理解する。

受講要件　履修資格は、学部2年以上。

教科書　全国学校図書館協議会編「学校経営と学校図書館」

成績評価方法と基準　定期試験成績にレポートの内容を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　平成27年度教室代表

学習内容
＜授業計画＞
第1回：学校教育の意義と理念と位置づけ
第2回：学校図書館の役割
第3回：日本の学校図書館の発展と課題
第4回：学校図書館の国際的な動向と将来展望
第5回：学校教育法と学校図書館法
第6回：教育サービスとしての学校図書館施策
第7回：学校経営組織における学校図書館
第8回：学校図書館におけるマネジメントサイクル
第9回：学校図書館環境のあり方とその整備
第10回：司書教諭の任務
第11回：学校内の協力体制と職務
第12回：学校図書館メディアの教育的意義
第13回：学校図書館メディアの選択と収集
第14回：学校図書館活動の対象と領域
第15回：学校図書館活動の内容と方法
定期試験

その他
司書教諭の資格取得のための5科目のなかでも総論的な科目なので、なるべく最初にとるのが望ましい。
定員は約80名とし、定員超過の場合は上級生を優先する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
図書館学	66-64	学校図書館メディアの構成	2	前期　木 1, 2	川合佐代子（非常勤講師）

授業の概要
＜授業の概要＞
高度情報社会における学校図書館メディア、学校図書館におけるメディアの種類と特性、学校図書館メディアの構築、学校図書館メディアの組織化の意義と展開、学校図書館メディアの組織化の実際、特別な支援を要する児童・生徒と学校図書館メディアなどを中心に講義する。

学習の目的
＜学習の目的＞
学校図書館に十分かつ適切なメディアが備わっていて、それが使いやすく組織化されていることが大切である。そこで、学校図書館メディアの種類・特定等を知り、実務能力の習得を図る。

学習の到達目標
＜授業の到達目標及びテーマ＞
学校図書館に十分かつ適切なメディアが備わっていて、それが使いやすく組織化されていることが大切である。そこで、学校図書館メディアの種類・特定等を知り、実務能力の習得を図る。

受講要件　履修資格は、学部2年以上。

教科書　全国学校図書館協議会編「学校図書館メディアの構成」

成績評価方法と基準　定期試験成績にレポートの内容を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　平成27年度教室代表

学習内容
＜授業計画＞
第1回：学校図書館におけるメディアの教育的意義と役割
第2回：学習環境の変化と学校図書館メディア
第3回：学校図書館メディアの種類
第4回：学校図書館メディアの特性と学習への活用
第5回：学校図書館メディアの構築の基本
第6回：学校図書館メディアの選択と収集方針
第7回：学校図書館メディアの選択のための情報源
第8回：情報ファイル資料の構築
第9回：学校図書館メディアの維持と発展
第10回：学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス
第11回：学校図書館メディアの配架
第12回：学校図書館メディアの目録
第13回：学校図書館メディアの目録法
第14回：学校図書館メディアの主題索引法
第15回：障害のある児童・生徒と学校図書館メディア
定期試験

その他
司書教諭の資格取得のための5科目のなか、なるべく初期にとるのが望ましい。
定員は80名とし、定員超過の場合は上級生を優先する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
図書館学	66-64	学習指導と学校図書館	2	後期　火 1, 2	川合佐代子（非常勤講師）

授業の概要
＜授業の概要＞
学校図書館の役割、学校教育カリキュラムと学校図書館、主体的学習と情報活用能力の育成、学校図書館における情報サービス、教職員に対する支援と働きかけなどを中心に講義する。

学習の目的
＜学習の目的＞
学校図書館は「教育課程の展開に寄与する」(学校図書館法第2条)ためのものであることから、児童生徒が図書館を学習に利用できる能力(学び方の技能) を育成するための指導の基本とその実際や教員に対する支援と働きかけについて理解できるようになる。

学習の到達目標
＜授業の到達目標及びテーマ＞
学校図書館を使って児童・生徒が学習に利用するためには、図書館ネットワークの利用の仕方を指導することが必要となる。そこで、図書館利用指導の具体的な内容を確認し、調べ学習等の指導・支援の内容方法について理解する。

受講要件　履修資格は、学部2年以上。

教科書　全国学校図書館協議会編「学習指導と学校図書館」

成績評価方法と基準　定期試験成績にレポートの内容を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　平成27年度教室代表

学習内容
＜授業計画＞
第1回：現代的諸課題にこたえる学びの必要性
第2回：これからの学びを支える学校図書館の役割
第3回：カリキュラム編成と学校図書館
第4回：学習・情報センターとしての学校図書館
第5回：情報活用能力育成の意義と目的
第6回：情報活用能力育成のための指導内容
第7回：計画作成のための基本原則と条件
第8回：学校図書館教育全体計画と情報活用指導計画の作成
第9回：指導方法
第10回：情報サービスとは
第11回：学校における情報サービスとネットワーク
第12回：学習支援と司書教諭の役割
第13回：教科学習における支援
第14回：総合的な学習の時間における支援
第15回：特別な支援を必要とする児童・生徒への支援
定期試験

その他
司書教諭の資格取得のための5科目のなか、なるべく初期にとるのが望ましい。
定員は80名とし、定員超過の場合は上級生を優先する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
図書館学	66-64	情報メディアの活用	2	後期　木 1, 2	川合佐代子（非常勤講師）

授業の概要
＜授業の概要＞
知識基盤社会と人間、情報メディアの特性と選択、情報メディアの教育利用、情報メディアの活用事例、情報メディアと児童生徒の保護・支援などを中心に講義する。

学習の目的
＜学習の目的＞
学校図書館に十分かつ適切なメディアが備わっていて、それが使いやすく組織化されていることが大切である。そこで、学校図書館メディアの種類・特定等を知り、実務能力の習得を図る。

学習の到達目標
＜授業の到達目標及びテーマ＞
学校図書館で選択・収集、受け入れ、整理等、多様な情報メディアの特性と活用方法を理解し、基礎的な知識・技能を習得する。

受講要件　履修資格は、学部2年以上。

教科書　全国学校図書館協議会編「情報メディアの活用」

成績評価方法と基準　定期試験成績にレポートの内容を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　平成27年度教室代表

学習内容
＜授業計画＞
第1回：情報メディアについて
第2回：情報メディアの種類
第3回：情報メディアの選択
第4回：コンピューター（概要、教育用ソフト等）
第5回：コンピューター（周辺機器）
第6回：コンピューター（情報検索）
第7回：インターネット
第8回：授業におけるコンテンツの活用
第9回：授業におけるICTの活用
第10回：学校図書館Webサイトの活用
第11回：司書教諭とその他の分掌との連携
第12回：特別な支援を要する児童生徒への活用
第13回：情報メディアの活用と知的財産権
第14回：自己防衛
第15回：情報メディアにかかわるトラブルとその対策
定期試験

その他
司書教諭の資格取得のための5科目のなか、なるべく初期にとるのが望ましい。
定員は約90名とし、定員超過の場合は上級生を優先する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
総合科目		小学校における現代的課題	2	前期　水 1, 2	松岡 守、松本金矢、中西康雅、ロベルト・エスクデロ、須曽野仁志

授業の概要　小学校における現代的課題としてICT教育・ものづくり教育・外国語活動について学ぶ。

学習の目的　小学校の教師を目指す学生にとって必要な現代的課題としてICT教育・ものづくり教育・外国語活動のあらましを理解する。

成績評価方法と基準　小テスト50%レポート50%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー
松岡 守
毎週月曜日12:00〜13:00、技術棟2階電気工学研究室
matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 全体ガイダンス、小学校におけるものづくりガイダンス（松岡）
第2回 ものづくり教材の試作（中西）
第3回 ものづくり教材の改良（中西）
第4回 製品の構造（松本）
第5回 故障と修理（松本）
第6回 Introduction to Early English Education.
Age groups, types of students, special children.
Learning styles: Visual, Auditory, Kinesthetic.
第7回 Teaching methods: Lecture, interactive lecture, and group work.
Teaching techniques.
Teaching material and aids.
第8回 Classroom activities and games, songs and chants, phonics.
Classroom management and classroom English.
第9回 Introduction to “Hi, friends!”: Content topics, activities.
Lesson planning introduction: Structure, objective, planning.
第10回 Individual lesson plan writing and giving advice.
第11回 小学校における情報教育、ICTの学習利用
情報教育における情報教育の目標と3本柱について学ぶ。さらに、児童が ICT(Information and Communication Technology)を利用したどのように学習 ができるかを考える。
第12回 学習ゲームを用いた教科学習
米国の学校や家庭で子どもたちが利用している学習ゲームを紹介し、どのよう にそれを教科学習で利用できるか検討する。
第13回 携帯情報タブレット端末の学習利用
小学校の教室でどのように携帯情報タブレット端末が使えるか、実際に三重県 内の先進実践例から学んでいく。
第14回 小学校における情報モラルや著作権学習
現在の小学校で問題となっている携帯電話やスマートフォンについて児童が使 う上での課題を取り上げる。さらに、情報モラルや著作権等につい てどのよう に教育するかを学ぶ。
第15回 学校行事や学級会活動のストーリー化、プレゼンテーションの方法、全体まとめ
デジタルストーリーテリングの手法で、学校行事や学級での活動を数分程度の 作品に仕上げ、活用する方法を学ぶ。さらに、児童が授業の中でど のようにプ レゼンテーションすれば効果的かについて取り上げる。
最後に本講義全体の振り返りの時間を設ける。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
博物館に関する科目	〜67	生涯学習論	2	前期集中	榊原 博美（教育学部非常勤講師）

授業の概要　この授業では、生涯学習論の背景となる歴史の流れを、学校教育と社会教育との関連の中でとらえた上で、ユネスコにおける世界的な生涯教育理念の登場とその発展、日本へのその受容と変容を把握し、政策主導の生涯学習の問題点を明らかにし、本来あるべき生涯学習の真の姿をとらえ直すことを目的とする。

学習の目的　生涯教育、生涯学習とは何か、人が生涯学ぶことの意義について自分の考えを持つことが出来るようになる。

学習の到達目標　自ら社会教育の施設や生涯学習の機関などに出向き実際の学習活動について興味をもって観察したり参加したりするようになる。

教科書　特に指定しない。

成績評価方法と基準　授業内の課題20% 最終課題80%（60%以上で合格）

オフィスアワー
教育学部美術教育講座美術史研究室
山口泰弘
毎週木曜日12:00〜13:00，2号館2階 美術史研究室

学習内容
①オリエンテーション
②学校の起源と歴史
③日本における社会教育の歴史（1）
④日本における社会教育の歴史（2）
⑤ユネスコにおける生涯教育論の登場
⑥ユネスコにおける生涯教育論の発展
⑦学習権宣言の意義
⑧日本における生涯学習論の受容と変容
⑨日本の生涯学習政策の問題点
⑩ユネスコにおける学習権の発展
⑪映画から学ぶ（1）
⑫映画から学ぶ（2）
⑬生涯学習の土台となる学校教育の問題点
⑭生涯学習の現場
⑮まとめ
⑯試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育哲学特論	2	前期　月 9, 10	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　ソクラテス式問答法およびカテキスム式問答法を支える教育観を、ドイツ語文化圏を対象として解明する。

学習の目的　日常化された教育の営みの来歴を問い直す。

学習の到達目標　日常化された教育の営みを自ら思考できるようになる。

受講要件　教育事象への関心。

教科書　教科書：プラトン著 藤沢令夫訳 『メノン』 岩波文庫

成績評価方法と基準　小レポート20%、発表80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30～12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
①導入
②問答法の今日的役割
③問答法の来歴・概観
④プラトン『メノン』（時代背景）
⑤プラトン『メノン』（登場人物）
⑥プラトン『メノン』（想起説）
⑦プラトン『メノン』（ドクサ）
⑧プラトン『メノン』（仮設法）
⑨プラトン『メノン』（徳）
⑩ソクラテス式問答法の特徴
⑪カテキスム的問答法の特徴
⑫近代教育における問答法（ドイツ）
⑬近代教育における問答法（日本・明治期）
⑭問答法の問題点
⑮問答法の可能性
⑯まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育哲学特論演習	2	通年　月 5, 6	伊藤敏子（教育学部学校教育講座）

授業の概要　啓蒙期および新教育運動における教育学的議論を検証し、その連続性・非連続性について考察する。

学習の目的　教育事象をコンテクストのなかで理解する。

学習の到達目標　教育事象をコンテクストのなかで自ら思考できるようになる。

受講要件　教育思想への関心。

教科書　教科書：適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準　小レポート20%、発表80%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30～12：00、場所教育哲学研究室

学習内容
第1回：導入
第2回：コンテクストのなかでの教育思想
第3回：啓蒙時代の特徴
第4回：啓蒙時代の教育
第5回：啓蒙時代の教育への挑戦（1）ルソー
第6回：啓蒙時代の教育への挑戦（2）ペスタロッチ
第7回：啓蒙時代の教育への挑戦（3）フレーベル
第8回：啓蒙時代の教育の例（1）百科全書派の視点から
第9回：啓蒙時代の教育の例（2）人間機械論の視点から
第10回：啓蒙時代の教育の例（3）自然人の視点から
第11回：新教育運動の時代の特徴
第12回：新教育運動における教育
第13回：新教育運動の例（1）モンテッソーリ（イタリア）
第14回：新教育運動の例（2）シュタイナー（ドイツ）
第15回：新教育運動の例（3）ペーターゼン（ドイツ）
第16回：新教育運動の例（4）レディ（イギリス）
第17回：新教育運動の例（5）リーツ（ドイツ）
第18回：新教育運動の例（6）ゲヘープ（ドイツ）
第19回：新教育運動の例（7）ヴィネケン（ドイツ）
第20回：新教育運動の例（8）ニール（イギリス）
第21回：新教育運動の例（9）デューイ（アメリカ）
第22回：新教育運動の例（10）パーカスト（アメリカ）
第23回：新教育運動の例（11）キルパトリック（アメリカ）
第24回：新教育運動の例（12）沢柳政太郎（日本）
第25回：新教育運動の例（13）小原国芳（日本）
第26回：新教育運動の例（14）赤井米吉（日本）
第27回：啓蒙時代の教育と新教育運動の異同
第28回：現代的意義の考察
第29回：現代教育の再考
第30回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		発達過程特論	2	後期　木 3, 4	南 学（教育学部学校教育講座）

授業の概要　キャリア発達の理論的枠組みや様相および日本におけるキャリア教育の現状と取り組みについて心理学的観点を中心に検討する。その中で、自分自身やあるいは自分の将来に向き合い、考えるとはどういうことであるのかについて考える。

学習の到達目標　キャリア発達の過程やキャリア教育の実際について理解する。

教科書　随時紹介する

成績評価方法と基準　レポートや試験等で評価する。ただし出席状況が芳しくないやレポートが不適切である場合は認定を取り消すことがある。

オフィスアワー　毎週木曜日7, 8時限（南研究室）

学習内容
働くことへの意識
ワークモチベーション(1)
ワークモチベーション(2)
フリーターの実際と心理(1)
フリーターの実際と心理(2)
青年期発達と職業観(1)
青年期発達と職業観(2)
キャリア発達の理論
中高生のキャリア発達
意思決定理論と職業選択の問題
小学校におけるキャリア教育の実際
中学校におけるキャリア教育の実際
高等学校におけるキャリア教育の実際(1)
高等学校におけるキャリア教育の実際(2)
まとめ

2

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		発達過程特論演習	1	前期　月 5, 6	南 学（教育学部学校教育講座）

授業の概要　人の発達に関する研究論文を講読します。

学習の到達目標　人の発達に関する心理学的研究を読み解くことができるようになる。

受講要件　時間外で研究論文を読むことを求めます。授業はそれを前提として進めていきます。

予め履修が望ましい科目　発達過程特論

教科書　随時紹介する。

成績評価方法と基準　グループ活動への関与の程度で判断する。ただし、出席状況が芳しくない場合は認定を取り消す場合がある。

オフィスアワー　毎週金曜日7, 8時限（南研究室）

学習内容
前半は発達心理学の概観の講義、後半は発達心理学系の研究論文の文献講読をおこないます。
発達の原理、生涯発達、発達の持つ意味
認知・思考の発達
アイデンティティ、職業選択、自己実現
社会性の発達
言語の発達
論文講読(1)
論文講読(2)
論文講読(3)
論文講読(4)
論文講読(5)
論文講読(6)
論文講読(7)
論文講読(8)
論文講読(9)
まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		児童心理学特論	2	前期　火 9, 10	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）

授業の概要　乳児期から児童期にかけての心理学的プロセスについて，その古典的な理論から最新の知見まで学ぶとともに，保育・幼児教育実践，学校教育実践の現場における記録やエピソードを読みとりながら，実践への応用可能性についても考察を深める。

学習の目的　乳児期から児童期までの発達の理論や最新の知見を学び，実践に役立つ知識と技術を身に付ける。

学習の到達目標　乳児期から児童期までの発達の理論や最新の知見を学び，実践に役立つ知識と技術を身に付ける。

教科書　バターワース，G．／ハリス，M．『発達心理学の基本を学ぶ』（村井潤一監訳）ミネルヴァ書房

成績評価方法と基準　授業内での発表，質疑応答，レポートをもとに総合的に評価する。

学習内容
第1回 児童心理学特論（概要）
第2回 発達心理学の起源
第3回 現代の発達心理学における理論の統合に向けて
第4回 出生前，新生児期の発達
第5回 乳児期における知覚発達
第6回 乳児期における運動発達
第7回 認識の起源
第8回 シンボルの出現
第9回 遊びと描画における象徴的な表象
第10回 幼児期における認知発達
第11回 児童期における認知発達
第12回 学校教育の影響
第13回 青年期
第14回 成人期の発達
第15回 児童心理学特論（まとめ）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		児童心理学特論演習	1	後期　火 9, 10	富田 昌平（教育学部幼児教育講座）

授業の概要　乳児期から児童期の子どもを対象とした発達心理学研究や教育心理学研究，教育・保育実践研究等の文献精読，レポート作成，発表，グループ討議を通して，最新の研究動向と課題についての理解を深める。また，理論的・学問的研究成果の実践への応用可能性についても考察を深める。

学習の目的　乳幼児・児童の発達研究の文献精読，レポート作成，発表，グループ討議を通して，最新の研究動向と課題について学び，理論的・学問的視点から実践を読み解く力を身に付ける。

学習の到達目標　乳幼児・児童の発達研究の文献精読，レポート作成，発表，グループ討議を通して，最新の研究動向と課題について学び，理論的・学問的視点から実践を読み解く力を身に付ける。

教科書　適宜，文献を指示する。

成績評価方法と基準　指定される論文の報告発表及び特定のテーマを決めてレポート（小論文）を課す。

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2回～第7回 文献精読・発表・討議（1）～（6）
第8回 中間まとめ
第9回～第14回 文献精読・発表・討議（7）～（12）
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育社会学特論	2	後期　水5,6	蓮尾直美

授業の概要
＜授業の概要＞
教師は自らの役割を果たす際に、学校を取り巻く地域社会や学級内外の生徒、保護者、および同僚教師等の役割群から寄せられる期待や要求に日々曝されている。教師は、このような、不断に迫られる危機的困難な場面で意思決定を試みつつ自らの職業的社会化を果たしている。講義では、ゲストティチャーによる被虐待児対応や保護者との関係、組織としての学校に関する具体的事例や観察・調査を手がかりに講究する。

学習の目的
＜学習の目的＞
1．学級社会を中心に学校組織内外の集団や社会との関係をとおして遂行される教師の役割について、社会学的接近法による理解を深める。
2．このような社会学的見地を培うことにより、学級社会をめぐる生徒や両親、教員組織などに対し、より客観的かつ主観的な理解を可能とし、教育事象をより正しく分析し深化させることにより教育現場や教師の役割達成に資する知見を得ることができる。

学習の到達目標
1．学校における学級や教師の役割を全体社会や学校内の組織構造に位置づけて見る力
2．学級社会内の教師ー生徒関係に潜む自明の領域に目を向ける視点とそこに存在する潜在的カリキュラムと深く結びつく潜在的教授法を発見する力
3．教師としての成長は、教師による瞬時の意思決定内容や質によってもたらされることを理解することにより、教師の職業的社会化への構えを身につける。

教科書　学級の社会学（蓮尾・安藤共編著 ナカニシヤ出版）

成績評価方法と基準　出席態度・質問・意見など積極的な受講の構え0%、レポート60%、計100%。

オフィスアワー
毎週水曜14：40〜16：10（事前の予約が望ましい。）
場所 教育学部専門校舎1号館2階（適切な部屋）

学習内容
1.講義のガイダンス（自己紹介・方針・概要）
2．学級・学校社会に関する視点と枠組み
3．教師と生徒関係に関する視点と枠組み（教師役割：意思決定の束）
4．同上 調査事例や文献の検討
5．VTR映像等による教育現場、家族、地域社会の今日的課題の検討6．組織としての学校と教師のキャリア形成
7．学校組織における学校文化、教師文化、生徒文化と教師役割
8．ゲストティチャーによる講話
9〜14．受講生による文献購読および報告
15．まとめ（レポート課題の提示）
16．レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育課程特論	2	後期　火7,8	佐藤 年明

授業の概要　1990年代ー2000年代教育課程について、「生きる力」論批判、「ゆとり教育」言説批判を中心とした検討を行なう。

学習の目的　教育課程に関する政策動向に影響を与える（与えようとする）様々の言説が学校教育の現実をどれだけ把握し得ているのかについて、徹底的に検証する。

学習の到達目標
以下の4点などについて、自分なりの見解を持てること。
・「生きる力」とは何であるか？ それは教育目標としてふさわしいのか？
・教育課程におけるゆとりとは何であり、それを実現することにどのような意義や、また問題点があるのか？
・人間の生と学校教育との関係
・学習過程における余裕の必要性と学習過程における負荷の必要性。両者の兼ね合い

教科書　「生きる力」関連、「ゆとり教育」言説関連の諸文献と、これを批判的に検討した佐藤の論文・学会報告資料を基本資料とし、その他関連資料を随時配付する。

成績評価方法と基準
毎回の授業後、moodle上に感想レポートの投稿を求める。回数は、12回を予定している。
各回のレポートを、期限内提出＝6ポイント、締切後提出＝3ポイントとして合算するす。満点で72ポイントになる。
最終レポートは28ポイント満点。提出（期限内）により15ポイント、内容が優れている場合にその程度に応じて最大13ポイント加点する。提出遅れその他の瑕疵がある場合は減点する。
ポイントから評点への換算は、以下の通り。
100ポイント＝10点
90〜99ポイント＝9点
80〜89ポイント＝8点
70〜79ポイント＝7点
60〜69ポイント＝6点
59ポイント以下＝不合格

オフィスアワー　月4コマ、木5コマ いずれも佐藤年明研究室にて

学習内容
※受講者の関心や授業での議論の展開によっては、下記の授業スケジュールを修正・一部削除したり、新規の内容を付け加えることもある。
第1〜2回：①戦後日本の学習指導要領の変遷を概観する
第3〜4回：②「生きる力」論の系譜
第5回：③「生きる力」を教育目標とすることへの批判
第6〜7回：④民間教育運動における子どもが生きること、生き方、生きる力をめぐる議論
第8〜9回：⑤佐藤年明報告(2010)「『ゆとり教育』言説批判」の検討（その1・2）
1．問題設定
2．教育言説としての「ゆとり教育」
第10回：⑤（その3）
3．国会会議録上の「ゆとり教育」言説における概念規定
4．文部科学省官僚の「ゆとり教育」言説
第11回：⑤（その4）
5．「ゆとり教育」概念の教育学的検討に関する先行研究
第12回：⑤（その5）
6．「ゆとり教育」批判の諸言説について
第11回：⑤（その6）
7．1998-99 年版学習指導要領実施時期に該当する世代の「ゆとり教育」認識
第12回：⑤（その8）
8．俗称「ゆとり教育」によって学力が低下したというのは事実か？
第13回：⑤（その9）
9．「ゆとり教育」言説に関して検討が残されている諸課題
第14〜15回：⑥総括討論（最終レポート発表 その1・2）
※試験は行なわず、日常点と最終レポートで評価する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育課程特論演習	2	通年　月 5, 6	佐藤 年明

授業の概要
現代の日本人の「生きる課題」に対応する下記の10領域を学校カリキュラムの中に位置づけることが必要である。
1．生と死
2．食
3．性
4．生産ー消費ー廃棄・資源再利用
5．環境
6．平和
7．パフォーマンスとコミュニケーション
8．情報とコンピュータ
9．原初的レベルの人間生活における共感・連帯・共同行動
10．価値葛藤
上記10領域のうちから受講者が関心を持つテーマに絞って、教育課程再構成と実践創造のあり方を検討する。

学習の目的　学習指導要領にとらわれない教育課程創造の力量の基礎を形成する。

学習の到達目標　上記10領域に含まれるか否かにかかわらず、「現代社会を生きる人間にとって必要な学習課題」を自分なりに発見し、自覚し、その課題を教育課程に位置づける展望を持つことができること。

受講要件　教育課程論研究室所属院生は受講すること。

教科書　指定しない。

成績評価方法と基準　授業における研究発表により評価する。

オフィスアワー　受講生と随時相談して決定する。

学習内容
まずは担当教員が掲げる10項目の学習テーマ例を受講生が検討し、自分の関心と合致するテーマを探し出すことから始まる。
担当教員は10項目のテーマについて均等に研究を進めているわけではない。
例えば、担当教員の専門領域である性教育などを取り上げるのであれば、これまでに収集した資料や執筆した論文等を、受講生の関心に応じて提示し、学習を勧める。
しかし、担当教員自身の研究蓄積が浅かったりなかったりするテーマを受講生が選択した場合は、一から共同研究を進めていくことになる。
選ばれるテーマによって、その後の学習過程の展開は全く異なってくるであろう。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教授学特論	2	後期　木 5, 6	森脇 健夫

授業の概要　質的な研究法についての基本的な考え方、実際の方法論について知見を深める

学習の目的　教育実践の質的研究法についての基本的な知見を得る。具体的には、方法論としての参加観察、インタビュー、またテーマの立て方から仮説、仮説とデータとの対話など、質的研究論文を作成する過程についてのイメージを得る。

学習の到達目標
1．質的研究についての基本的な知見を得る
2．テーマの設定、仮説の定立、サンプリングなどの研究方法論を理解し会得する。
3．教育実践の質的研究においてとくに重要な方法論である参加観察記述、インタビューについて、実際に行ってみて、その有効性と課題を把握する。
4．質的研究の論文作成の方法論を知る。

教科書　質的心理学ハンドブック（やまだようこ他編集、新曜社）を使います。

成績評価方法と基準
平常点
レポート

学習内容
1 教育実践の質的研究とはどういうものか？（量的研究との対比）
2 質的研究における信頼性と妥当性
3、質的研究における仮説の性格
4 質的研究におけるサンプリング
5 質的研究におけるフィールド
6 質的研究における立ち位置
7 質的研究におけるデータの正確・・事例研究とは？
8 質的研究の論文の性格
9 質的研究の方法としてのインタビュー
10 質的研究の方法としての参与観察
11 質的研究のテーマ性
12 質的研究としての授業研究
13 技術志向的授業研究と解釈志向的授業研究
14 解釈志向的授業研究から質的授業研究へ
15 授業研究史と質的研究
16 レポート

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教授学特論演習	2	通年　木 1, 2	森脇 健夫

授業の概要　実践研究としての質的な研究のアプローチについて、その概要を知ると同時に実践的にその方法論を使用して授業実践を記述し、分析する。質的研究の論文作成のために資料を探索し、準備を進める。先行研究の概観、研究仮説の提示、仮説の検証、その意義と課題等、質的研究の論文の基礎基本を習得する。

学習の目的　基本的には質的研究論文作成を目的とする。

学習の到達目標
質的な研究についての概要を把握する
質的な研究の特徴を量的な研究との比較の上に把握する
質的な研究として次のような方法論の概要と特徴を知り、その方法論を使うことができる
参与観察
インタビュー
その他

教科書
無藤隆他、質的心理学、新曜社 は教科書として使います。
やまだようこ他編集、質的心理学ハンドブック は参考書。

成績評価方法と基準　平常点

学習内容
1 質的な研究の目的、内容、特徴 その1
2 質的な研究の目的、内容、特徴 その2 量的な研究との比較
3 参与観察の方法論
4 インタビューの方法論
5 質的なデータの扱い方（コード化）
6 質的なデータの特質と課題
7 信頼性と妥当性 トライアンギュレーション
8 質的研究と量的研究
9 事例研究
10 質的研究の論文作成 その1 問題意識（生の問い）
11 質的研究の論文作成 その2 先行研究の概観
12 質的研究の論文作成 その3 サンプリング
13 質的研究の論文作成 その4 フィールド研究
14 質的研究の論文作成 その5 信頼関係の構築
15 質的研究の論文作成 その6 データの収集
16 質的研究の論文作成 その7 データのコード化
17 質的研究の論文作成 その8 文章作成
18 質的研究の論文作成 その9 論文へ
19 質的研究の論文作成 その10 共有
20 質的研究の意味
21 質的研究論文の読み方 その1 事例研究
22 質的研究論文の読み方 その2 立ち位置
23 質的研究論文の読み方 その3 批評
24 質的研究の実際
25 量的研究から示唆されるもの
26 授業研究史 その1 物語的時代
27 授業研究史 その2 科学としての授業研究
28 授業研究史 その3 教材づくり
29 授業研究史 その4 授業開発
30 事例研究の読み合わせ
31 レポート

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		授業心理学特論	2	後期　金 9, 10	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要
人が新たなものを学んでいく中で、どのような心理学的プロセスが働いているのであろうか。これを理解することができれば、効率的に人を「賢く」する方法が分かるはずであろう。
本講義では、学習心理学の研究知見の中から、特に重要なテーマについて注目し、これに関連する現実的問題を取り上げながら学習を進める。さらに、授業で学んだ心理学的知見をいかに生かせばよいかについて、実際に授業づくりをするという活動を通して学習し、より良い学習指導が行えるスキルの習得を目指す。

学習の目的　長期記憶、ワーキングメモリ、学習動機づけなど、学習に関わる基本概念を習得する。

学習の到達目標　学びの過程を心理学的に理解し、より良い学習指導を行うスキルを身につける。そして、理想的には、授業終了時点で、他の現職教員に学習心理学的な知識の指導ができるようになっていただければ、と考えている。

受講要件　意欲とコミュニケーション力

予め履修が望ましい科目　教育心理学(学部)

教科書
教科書:「授業を変える」 米国学術研究推進会議編 北大路書房 （購入してください）
参考書:「授業が変わる」 J.T.ブルーアー 北大路書房
「学習科学ハンドブック 」R.K.ソーヤー（編） 培風館

成績評価方法と基準　授業活動への関与とグループ活動ならびに授業最終課題(100%)

オフィスアワー　毎週金曜日 14:30〜16:00

学習内容
イントロダクション
学習に関するトピックを取り上げての協同学習
学習内容を利用した問題解決活動

その他　この授業を通して、「（教えることではなく）学ぶこと」に対する考え方をかえるきっかけになれば、と考えています。また、授業ではMoodleを活用するため、定期的にMoodleにログインすることを求められます。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		授業心理学特論演習	1	前期　火 1, 2	中西良文(教育学部学校教育講座)

授業の概要　学校心理学という観点から、学習・動機づけの理論について概説し、それらを実際に(個別場面を含む)学習指導・授業にどのようにいかしていけば良いかを考える

学習の目的　学校心理学という観点から、学びの過程・動機づけ過程を心理学的に理解し、教室場面で活かせる方法について知る。

学習の到達目標
学校心理学における「学習心理学」の意味を理解する
学習に関する理論・動機づけに関する理論を踏まえて、授業・学習指導について考えることができる
学習に関する理論・動機づけに関する理論を踏まえた先行実践を参考にしながら、自らの実践を考えることができる

受講要件　特にない（他コースからの受講も歓迎します）。ただし、学校心理士申請の基礎資格獲得のためにこの科目の単位を利用する場合は、特定の条件を満たす必要があるため、教員に相談してほしい。

予め履修が望ましい科目　授業心理学特論・教育心理学(学部)

教科書　授業内で指定する

成績評価方法と基準　授業活動への関与とグループ活動(100%)

学習内容
第1回 学校教育の基盤としての学習心理学 : 学校教育の中において、学習がどのような位置づけを担うのかを考え、その上で、学習の心理学を用いた援助の可能性を考える
第2回 記憶と学習（理解の重要性）1 : 記憶のプロセスの説明を行うとともに、主に、長期記憶の機能について学習を行う
第3回 記憶と学習（理解の重要性）2 : 短期記憶・ワーキングメモリーについて触れた後、長期記憶と短期記憶の協調について考える。
第4回 学習動機づけ 1 : 古典的な動機づけ理論から、内発的動機づけ理論、さらにその展開について触れる
第5回 学習動機づけ 2 : 動機づけにおける様々な理論(期待×価値理論、原因帰属理論など)についてふれ、やる気の上がらない学習者への援助を考える
第6回 学級集団と学習 1 : 教室での集団関係が、学習・動機づけにどのような影響を及ぼすか検討する
第7回 学級集団と学習 2 : 協同学習など、集団関係の中で学習を進める方法について理解し、そのスキルを学習する。
第8回 学習指導・授業について考える 1 : 学習指導・授業とはいかなるものかを概説し、これまで学んできた学習にかかわる様々な心理学的知見をどのように生かせばよいか考える
第9回 学習指導・授業について考える 2 : 受講者自身が持っている「学習」にまつわる課題・問題について、その解決の仕方を考える。
第10回 学習指導・授業について考える 3 : 協同での学習を行う授業について考える。そのような授業において、注意すべきところとその効用について考える。
第11回 学習指導・授業について考える 4 : 個別学習指導について考える。そのような指導場面において、注意すべきところとその効用について考える。
第12回 学習指導・授業について考える 5 : 情報技術を用いた学習指導について考える。そのような授業における限界点、注意すべきところとその効用について考える。
第13回 学習指導・授業について考える 6 : 教科を超えた内容における学習指導・授業をどのように展開していけばよいのか、また、そこで扱うべき内容はどのようであるかを考える。
第14回 学習指導・授業について考える 7 : 学習指導や授業と切っても切れない関係である教育の評価について、実際の授業とともに考える。
第15回 学校教育おける学習心理学の位置づけ : これまでの授業の全体を振り返り、学校教育おける学習心理学の位置づけについて、改めて考える。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		生活指導特論	2	後期　火 3, 4	大日方 真史（教育学部）

授業の概要　生活指導の実践的な意義について広い視野から考察する

学習の目的　歴史と社会に位置づけて学校教育における生活指導の意義を探究する

学習の到達目標　生活指導実践を意味づけ方向づける理論に関する意義の理解と、実践上の課題の明確化

成績評価方法と基準　授業への参加の度合い、レポートなどをもとに総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00～12:50、研究室

学習内容
1．ガイダンス
2．生活指導の社会的位置づけ
3．生活指導の歴史的位置づけ
4．生活指導実践の展開
5．生活指導理論の展開
6．教室という場の特性（1）教室の構造
7．教室という場の特性（2）教師と子どもの関係
8．教室という場の特性（3）子ども同士の関係
9．子ども参加の意義
10．子ども参加の課題
11．子ども参加における教師の役割
12．生活指導実践の今日的課題
13．生活指導理論の今日的課題
14．生活指導実践と生活指導理論の展望
15．まとめ
16．試験・レポートの提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		生活指導特論演習	2	通年　火 5, 6	大日方 真史（教育学部）

授業の概要　生活指導実践の理論的な分析と、生活指導理論の実践的意義に関する検討

学習の目的　生活指導に関する研究の深化

学習の到達目標　生活指導に関する研究成果の具体化

成績評価方法と基準　発表と討論への参加状況から総合的に判断する

オフィスアワー　毎週火曜日12：00～12：50、研究室

学習内容　受講生の研究発表と討論

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学校経営特論	2	前期　金 3, 4	織田泰幸（教育学部）

授業の概要　教育経営の組織論について学説史的に考察する。

学習の目的　この授業の目的は、①教育経営の組織論の学説史に関する基本的な知識を獲得すること，②それらの知識を活用して現在の学校経営上の問題や課題について考えること，である。

学習の到達目標　多角的な視点から学校組織について理解し、学校経営と関わる現象について思考できるようになること。

受講要件　資料を順番に発表する機会を設け、その内容について議論を深めていく形式をとる。文献講読の能力を備えていることが前提条件となる。

予め履修が望ましい科目　学部での学校経営学関連の授業を受講しておくことを強く希望する。

教科書　主に英語文献の翻訳を使用する。毎回の資料はこちらで準備する。

成績評価方法と基準　授業中の発表と最終レポートから総合的に判断する。

オフィスアワー

前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容
1 イントロダクション
2 科学とは何か
3 モダニズム・ポストモダニズム
4 科学的管理法・官僚制
5 人間関係論
6 一般システム論・コンティンジェンシー理論
7 ゴミ箱理論・ルースカップリング論
8 主観主義・批判理論
9 ミクロポリティクス
10 組織文化論
11 同僚性・協働性
12 品質管理論
13 学習する組織論
14 知識経営論
15 これまでの授業のまとめ
16 試験・レポートの提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学校経営特論演習	1	前期　月 1, 2	織田 泰幸（学校教育講座）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行う。

学習の目的　この授業の目的は、教育経営と関連する研究テーマに基づいて，修士論文を作成するための基礎的・基本的な知識や方法論を習得すること，である。

学習の到達目標　教育経営の基礎的な知識と技術の習得を通じて，修士論文の執筆を進めることができるようになること。

受講要件　事前に学部での学校経営学関連の授業を受講しておくことを強く希望する。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　授業中の発表内容や最終的な成果から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容　個人の研究発表を中心とするため、受講メンバーが確定したのちにスケジュール化する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学校経営特論演習	1	前期　月 1, 2	織田 泰幸（教育学部）

授業の概要　教育経営における研究の対象と方法について、個々の学生の研究テーマに即して検討を行う。

学習の目的　この授業の目的は、教育経営と関連する研究テーマに基づいて，修士論文を作成するための基礎的・基本的な知識や方法論を習得すること，である。

学習の到達目標　教育経営の基礎的な知識と技術の習得を通じて，修士論文の執筆を進めることができるようになること。

予め履修が望ましい科目　事前に学部での学校経営学関連の授業を受講しておくことを強く希望する。

教科書　特になし

成績評価方法と基準　授業中の発表内容や最終的な成果から総合的に判断する。

オフィスアワー
前期後期ともに月曜日7．8限
場所：教育学部学校経営研究室

学習内容　個人の研究発表を中心とするため、受講メンバーが確定したのちにスケジュール化する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		臨床心理学特論	2	前期　月3,4	渡邉賢二（非常勤講師）

授業の概要
教育現場おいて有用であると考えられるカウンセリングの技法、心理アセスメント、
児童・青年期の精神疾患などを学習する。

学習の目的
・教育現場で有用な来談者中心療法、行動療法などのカウンセリングや心理療法の理解
・面接法、検査法による心理アセスメントの理解
・児童期・青年期に生じる精神疾患の理解

学習の到達目標
児童期・青年期の心の問題を理解し、カウンセリングマインドやカウンセリングスキルを獲得して、
教育現場で活用することができる。

受講要件　教育現場の心理学に興味関心がある人

予め履修が望ましい科目　心理学の基本的な知識があると望ましい

教科書
資料などの配布する。
適宜文献などを紹介する。

成績評価方法と基準　レポート50%、授業での発表とディスカッション50%

オフィスアワー　毎週月曜日3、4限後、（連絡の窓口）瀬戸美奈子先生

学習内容
第1回：臨床心理学とは① 学校教育における臨床心理学の位置づけについて学習する。
第2回：臨床心理学とは② 学校教育の基盤としての臨床心理学を理解する。アセスメントと援助方法を学習する。
第3回：心理療法① カウンセリングの理論と技法① カウンセリングマインド・スキルを理解する。
第4回：心理療法② カウンセリングの理論と技法② 非言語的コミュニケーションを理解する。
第5回：心理療法③ カウンセリングの理論と技法③ カウンセリングの基本的技法を理解する。
第6回：心理療法④ 多様な臨床心理学的アプローチの理解① 来談者中心療法を理解する。
第7回：心理療法⑤ 多様な臨床心理学的アプローチの理解② 行動療法を理解する。
第8回：心理療法⑥ 多様な臨床心理学的アプローチの理解③ 家族療法，芸術療法を理解する。
第9回：事例検討① 心と行動の問題を学習する。 児童生徒の抱える精神的疾患について理解する。
第10回：事例検討② 学校における児童生徒の問題① 不登校の現状を理解する。
第11回：事例検討③ 学校における児童生徒の問題② 不登校の原因，アプローチの方法を理解する。
第12回：事例検討④ 学校における児童生徒の問題③ いじめの現状，メカニズム，対処方法を学習する。
第13回：事例検討⑤ 学校における児童生徒の問題④ 児童生徒が抱える精神的疾患，発達障害についてのアプローチの方法を学習する
第14回：事例検討⑥ 心理臨床等の専門家と専門機関との連携について学習する。スクールカウンセラー，病院や児童相談所などとの連携方法を学習する。
第15回：まとめ 全体のまとめを行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		臨床心理学特論演習	1	後期　月5,6	渡邉賢二（非常勤講師）

授業の概要　カウンセリングの理論や技法の理解、心理教育の理論やプログラムについて学習する。

学習の目的
児童生徒のいじめや不登校児、健常児の考えや価値観を学習する。
各種のカウンセリング技法や心理教育について学習する。

学習の到達目標
児童生徒の関わり方や支援方法について習得する。
心理教育の理論と研究について習得する。
カウンセリングの技法について習得する。

受講要件　教育現場の心理学に興味関心がある人

予め履修が望ましい科目　心理学の基本的な知識があると望ましい

教科書
資料などを配布する。
適宜文献などを紹介する。

成績評価方法と基準　レポート50%、授業での発表とディスカッション50%

オフィスアワー　毎週月曜日4、5限後、（連絡の窓口）瀬戸美奈子先生

学習内容
第1回：臨床心理学について：学校教育における臨床心理学の位置づけについて学習する。
第2回：カウンセリング① コミュニケーションの習得
第3回：カウンセリング② 基本技法の習得
第4回：カウンセリング③ 基本技法の習得
第5回：カウンセリング④ 来談者中心療法の技法と用い方の理解
第6回：カウンセリング⑤ 行動療法の技法と用い方の理解
第7回：カウンセリング⑥ 家族療法の技法と用い方の理解
第8回：心理教育① 心理教育の理論の理解
第9回：心理教育② ソーシャルスキルトレーニングの理論やプログラムの理解
第10回：心理教育③ ソーシャルスキルトレーニングの研究の理解
第11回：心理教育④ 構成的グループエンカウンターの理論やプログラムの理解
第12回：心理教育⑤ 構成的グループエンカウンターの研究の理解
第13回：心理教育⑥ ピアサポートとストレスマネジメントの理論とプログラムの理解
第14回：心理教育⑦ ピアサポートとストレスマネジメントの研究の理解
第15回：まとめ 全体のまとめを行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学校臨床心理学特論	2	前期　月 9, 10	川島 一晃（非常勤講師）

授業の概要
学校臨床心理学の理論的背景を学び、学校臨床心理学におけるアセスメント、資源の確認と連携、支援の実際について検討する。

学習の目的　学校臨床心理学の理論的背景を理解して、アセスメントをし、適切な支援法を具体的に検討できるようになることをめざす。

学習の到達目標　学校臨床心理学の理論的背景を理解して、アセスメントをし、適切な支援法を具体的に検討できるようになる。

予め履修が望ましい科目　学部開講科目：教育相談、学校カウンセリング、カウンセリング実習など臨床心理学領域の科目群

教科書　適宜、紹介する。

成績評価方法と基準　授業の出席（8割は必須）・小課題への取組（授業態度を含）60%・学期末のレポートの提出40%、計100%として評価する。

学習内容
Ⅰ 1〜4回：学校臨床心理学の理論とアセスメント
学校臨床心理学の理論とアセスメントを学び、学校で生じる児童生徒の様々な問題行動の意味を理解する。
Ⅱ 5から8回：アセスメントに基づいた支援の構築
学校臨床心理学におけるアセスメントから支援法を構築する。
Ⅲ 9〜12回：事例研究と討論
受講者の学校教育活動での実践経験を題材としてアセスメントや支援の構築について、前半の講義を踏まえて事例研究を行う。
Ⅳ 13〜15回：課題の整理と検討
児童生徒への支援を構築する上で必要な視点、課題を整理し、さらに探求する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学校臨床心理学特論演習	1	後期　月 9, 10	川島 一晃（非常勤講師）

授業の概要　学校臨床心理学の理論・技法の基礎知識を学び、グループ実習を通してそれらを体得する。そして学校教育場面で児童生徒の支援（実践）ができるようになることを目標とする。

学習の目的　学校臨床心理学の理論・技法に基づいて学校教育場面で児童生徒の支援（実践）ができるようになることを目指す。

学習の到達目標　学校臨床心理学の理論・技法に基づいて学校教育場面で児童生徒の支援（実践）が構築できるようになる。

予め履修が望ましい科目　大学院「学校臨床心理学特論」の受講が望ましい。

教科書　適宜、紹介する。

成績評価方法と基準　授業の出席（8割は必須）・小課題への取組（授業態度を含）60%・レポートの提出40%、計100%として評価する。

学習内容
Ⅰ 学校教育場面におけるカウンセリング①②
学校教育場面におけるカウンセリング・コンサルテーション・グループワーク（エンカウンター・社会的スキルトレーニング等）の必要性と有効性を受講者の自らの経験に照らして確認し、これらに関する理論・技法の基礎知識を深める。
Ⅱ 関係づくりに関するグループ実習①②③④⑤
非言語的コミュニケーションを用いた関係づくりを体験した後、受講生が考えたプログラムを実施する。グループ体験を振り返り、学校におけるグループワークの要点を会得する。
Ⅲ 傾聴実習（カウンセリング・ロールプレイ）①②③④
教師が児童生徒を支援する場面のロールプレイを通して傾聴実習とその振り返りを行う。これによりカウンセリングとロールプレイの基礎的技法とその要点を体得する。
Ⅳ 傾聴実習（コンサルテーション・コーディネーション）①②
保護者・教職員・関係諸機関等との連携場面のロールプレイを通して傾聴実習とその振り返りを行う。これによりコンサルテーション・コーディネーションの基礎的技法とその要点を体得する。
Ⅴ 学校教育場面でのカウンセリングにおける実践上の諸問題①②
学校教育場面で児童生徒の支援（カウンセリング）を実践する上で生じる諸問題と解決法についてさらに探究する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学校社会心理学特論	2	後期　金 7, 8	松浦均（教育学部学校教育講座）

授業の概要
学校心理学の定義や援助サービスの考え方を理解し，学校心理士資格取得のための中心的な授業として位置づける．
とくに「学校」「社会」「集団」等のキーワードを含む学術論文や教育実践論文を講読しながら，そこに提示された諸問題について討議をする．特に，教育場面で繰り広げられる対人関係に関する実践的取り組みに焦点を当て，問題解決のヒントを模索していく．

学習の目的　学校心理学を理解し，学校教育現場における学校心理士の実践活動の在り方を理解する．

学習の到達目標　学校社会集団におけるさまざまな問題点を理解し，具体的に問題解決の方法を考えていくこと．

受講要件　とくになし

教科書　国内外の諸学会において刊行された学術論文を資料として使う．

成績評価方法と基準　授業に出席し，論文講読時における発表と討論について評価する

オフィスアワー　水曜日午後（ただし会議のある日はのぞく），研究室

学習内容
第1回：学校社会心理学特論のオリエンテーション
第2〜3回：学校の諸問題：学校で起きている様々な問題を取り上げ，学校現場に資する心理学の役割について考える．関連文献購読．
第4〜5回：学校教育現場の現状と課題：学校教育現場の現状について事例をもとに考え，課題を見つけ出す作業を行う．関連文献購読．
第6〜7回：学校心理士の活動について：学校心理士の実践的活動であるアセスメント，コンサルテーション，コーディネーション，カウンセリングについて理解する．関連文献購読．
第8〜9回：学校における「援助」の考え方：心理教育的援助的サービスの考え方を説明し，学校心理学の枠組を理解する．関連文献購読
第10〜11回：学校心理士が行う支援について：教師や保護者へのチーム援助の考え方を理解する．関連文献購読.
第12〜13回：学校心理士の倫理について：心理教育的援助サービスに関わる学校心理士の持つべき倫理観について理解する．関連論文購読．
第14〜15回：学校社会への理解：学校心理学との隣接領域の異同を理解する．

その他　学校心理士資格取得を目指す学生は，この授業を取る必要があります．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学校社会心理学特論演習	1	前期　金 7, 8	松浦 均（教育学部）

授業の概要
児童生徒間相互，あるいは教師—生徒間の支援的援助関係について，スキル獲得の観点から考えを深めていく．
主に社会心理学研究をベースとしながら，文献講読も取り入れて，これらの問題について検討を行う。
各自の研究テーマを踏まえて，現場における実践的取り組みの方法を考えていく．

学習の目的　上と同じ．

オフィスアワー　水曜日の午後

学習内容
学校の中での児童生徒間の相互支援関係，あるいは教師の相互支援体制，教師ー生徒関係における支援的活動について，実践的活動の方法を検討する．
また社会の中での相互支援関係，援助行動，援助要請行動について，さまざまな実践的取り組みをレビューしながら考えを深めていく．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		心理アセスメント特論	2	前期　月 1, 2	瀬戸美奈子

授業の概要　学童期を中心に、幼児期から青年期までの子どもの発達のアセスメントについて理解し、適切なアセスメントに基づいた援助について検討する。

学習の到達目標
(1)目的に応じたアセスメントの方法が理解できる。
(2)アセスメントに基づいた援助案を作成できる。

教科書　授業時に資料を配布し、適宜文献を紹介する。

成績評価方法と基準　出席状況、授業への参加態度、レポートをふまえて総合的に評価する。

学習内容
1 子どもの認知の発達
2 子どもの社会性の発達
3 アセスメントの目的とプロセス
4 アセスメントの方法
5 知能のアセスメント 田中・ビネー V
6 学習のアセスメント LDI-R
7 キャリア発達とアセスメント
8 行動のアセスメント CBCL
9 パーソナリティのアセスメント TEG II YG性格検査
10 パーソナリティのアセスメント HTP バウム
11 学級環境のアセスメント Q-U
12 アセスメントと教育評価
13 アセスメントレポートの書き方
14 アセスメントと援助の実際(1)
15 アセスメントと援助の実際(2)

その他　実習やグループでの協議を行うため、積極的な討議、実習後のレポート提出が求められる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		心理アセスメント特論演習	1	後期　木 1, 2	瀬戸美奈子

授業の概要　心理検査実習を通し、心理アセスメントとアセスメントに基づく援助について学ぶ。

学習の目的　個別の知能検査の特徴を理解し、検査の実施、結果の解釈、心理教育的アセスメントに基づいた個別の指導計画を作成する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標　個別知能検査を実施、解釈でき、そこから指導計画を作成できること。

予め履修が望ましい科目　心理アセスメント特論

教科書　授業時に適宜資料を配布し、文献を紹介する。

成績評価方法と基準　実習参加態度、レポート、出席状況によって総合的に評価する。

学習内容
第1回 心理教育的アセスメントとは
アセスメントの意義、賢いアセスメントとは何かについて解説する。
第2回 アセスメントの方法
検査、行動観察、面接によるアセスメントについて解説する。
第3回 WISC-IIIとは
WISC-IIIの特徴、実施法について解説し、検査の手続きを理解する。
第4回 WISC-III検査実習
第5回 WISC-III結果の解釈
第6回 WISC-IV検査実習
第7回 WISC-IV結果の解釈
WISC-IVの検査結果の処理と解釈について実習を行う。
第8回 事例検討(1)
WISC-IIIの検査結果の解釈について、事例をもとに検討し、所見をまとめる。
第9回 事例検討(2)
WISC-IIIの検査結果の所見をまとめ、結果のフィードバックについて理解する。
第10回 個別の指導計画作成(1)
モデル事例（LD）についてWISC-IIIの検査結果、行動観察、面接のデータをもとにアセスメントを 行い、個別指導計画を作成する。
第11回 個別指導計画作成(2)
モデル事例（ADHD）についてWISC-IIIの検査結果、行動観察、面接のデータをもとにアセスメント を行い、個別指導計画を作成する。
第12回 個別指導計画作成(3)
モデル事例（PDD）についてWISC-IIIの検査結果、行動観察、面接のデータをもとにアセスメントを
行い、個別指導計画を作成する。
第13回 アセスメントに基づく援助の実際(1)
学校での検査実施における配慮や、アセスメントに基づく学校での援助について事例をもとに解説 する。
第14回 アセスメントに基づく援助の実際(2)
アセスメントに基づく学校での援助の実際について、校内委員会での取り組みをもとに解説する。
第15回 まとめ
検査実施における倫理、指導に生かすための検査のあり方について検討する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学習支援特論	2	前期　水 3, 4	須曽野 仁志

授業の概要　我が国の学校教育において、従来からの「知識詰め込み教育」「情報受信型教育」を反省し、「学習者参加型学習」「問題探索型学習」「情報発信型学習」を実現することが重要である。その実現には、ICT（情報通信技術）を積極的に活用した学習を導入したり、教師が学習支援を適切に行う必要がある。本授業では、教育実践の中での学習・情報機器の活用法、インストラクショナルデザイン、協働学習、背景となる学習理論について講義・討論する。

学習の目的　学校教育において実践研究を行う上で必要となる理論、実践、研究法を知る。

学習の到達目標
・学校教育や生涯学習の場で、情報機器やネットワーク等を活用し、いかに学習を進めるか、教師がいかに学習者を支援すればよいかがわかるようになる。
・ICTを利用した学習活動およびインストラクショナルデザインについて知り、学習・授業をいかに改善するか理解する。
・学習理論の中でも、構成主義および社会的構成主義の立場で、ICTを利用した協働学習について理解する。

教科書　教科書は使用しない。

成績評価方法と基準　授業でのプレゼンテーションおよび討論、デジタルストーリーテリング作品、最終レポートなどを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教育実践総合センター須曽野研究室

学習内容
第1回：授業ガイダンス, ICTを活用した学習の進展
第2回：「学習」と「教育」に関する用語、世界の学校では
第3回：情報化時代における学び
第4回：静止画と動画の活用
第5回：学習理論（行動・認知・構成・社会的構成主義）の変遷
第6回：学習理論に基づく学習環境デザイン
第7回：プレゼンテーションの方法と技術
第8回：認知科学・学習科学の知見を生かした教育実践
第9回：情報教育の現状と課題、コンピュータの学習利用
第10回：デジタルストーリーテリング制作の方法と学習支援
第11回：デジタルストーリーテリング制作を取り入れた教育実践
第12回：デジタルストーリーテリングとインストラクショナルデザイン
第13回：米国学校における教育機器利用
第14回：ポートフォリオ学習の方法と評価
第15回：授業改善の方法と支援、授業のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学習支援特論演習	1	後期　月 7, 8	須曽野 仁志

授業の概要
インストラクショナルデザインや学習理論に関する本や文献を購読し、授業や学習環境
の設計についてや、社会的構成主義の学習理論や学習環境の設計について学習する。また、遠隔学習、イーラーニング、質的研究の方法について理解を深める。

学習の目的　学校教育において実践研究を行う上で必要となる理論や研究法を知る。

学習の到達目標
・教育実践を進める上で基本となる学習理論（行動主義、認知主義、構成主義、社会的構成主義）についてわかるようになる。
・特に、構成主義および社会的構成主義に基づき、ICTを利用した学習活動をいかに設計・実現すればよいかがわかるようになる。
・インストラクショナルデザインやICTを利用した遠隔学習やeラーニングの方法についてわかるようになる。

教科書　久保田賢一著『構成主義パラダイムと学習環境デザイン』（関西大学出版部）

成績評価方法と基準
ミニレポート、授業でのプレゼンテーションおよび討論などを総合的に評価
する。

オフィスアワー　毎週月曜日16:20〜17:20、教育学部附属教職支援センター須曽野研究室

学習内容
久保田賢一著『構成主義パラダイムと学習環境デザイン』（関西大学出版部）を購読
し、社会的構成主義の学習理論や学習環境の設計について学習していく
第1回〜第2回：マルチメディア時代の学び
第3回〜第4回：教育理論の哲学的前提
第5回〜第6回：構成主義の教育理論
第7回〜第8回：質的研究の評価基準
第9回〜第10回：インターネットを活用した学習環境デザイン
第11回〜第12回：遠隔教育の学習環境デザイン
第13回〜第15回：インストラクナルデザインと教育実践

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育実践分析特論	2	前期　火 5, 6	須永 進

授業の概要　幼児教育に関する文献を講読し、幼児教育の課題を分析、検討し、問題の所在を理解する。

学習の目的　幼児教育に関する文献、資料等の講読を通して、幼児教育への関心を深め、自己の研究テーマの枠組みを構築できるようになる。また、文献、資料の収集、分析、まとめ等、論文作成に必要な知識や技術を獲得できるようになる。

学習の到達目標　実践分析を通して、幼児教育への考え方や問題の所在等を確認し、自己の研究に活かせるようにする。同時に、文献・資料の分析やまとめ方等を習得するようにする。

受講要件　事前に示された文献、資料は必ず目を通して授業に臨む姿勢が求められる。また、報告や討論のある授業であることから、積極的な発言や活動性が不可欠になる。

教科書　授業時に提示する。

成績評価方法と基準　レポート 50%、報告、討論50% 合計100%（合格は60%以上）

オフィスアワー　月曜日 7，8

学習内容　幼児教育に関する文献講読を通して，幼児教育の課題を分析，検討し，問題の所在を理解する．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育実践分析特論演習	1	後期　火 5, 6	須永 進

授業の概要　教育実践に関する文献、資料を、幼児教育・保育の視点から分析し、自己の研究課題に結びつけてまとめ、報告と討論を通して研究の枠組みの構築を図る。

学習の目的　幼児教育に関する文献・資料を教材に、幼児教育・保育の視点から、分析・考察を進め、自己の研究課題に関連付けて、これからの研究の課題の設定や枠組み等を明確にすることを目的とする。この過程を通して、自己の研究に対する方向性や方法論を見出すことができるようになる。

学習の到達目標　目的にもあるように、文献・資料の検討に加え、報告や討論により、自己の研究の計画や実際の研究活動に学習結果を活かすことを目標とする。

教科書　授業時に提示

成績評価方法と基準　課題レポート 50%、報告、討論の成績 50% 計100%（60%以上を合格）

オフィスアワー　月曜日 7．8

学習内容　教育実践に関する文献，資料を幼児教育・保育の視点から分析し，自己の研究課題に結びつけてまとめ，報告と討論を通して，研究の枠組みの構築を本演習課題とする．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育工学特論	2	前期　火 3, 4	下村 勉（教育学部附属教育実践総合センター）

授業の概要　学校現場へのインターネット環境の整備，情報教育・総合的な学習の展開を背景に，ICT（情報通信技術）を活用した教育は重要な課題となっている。そこでは，児童生徒の情報活用能力・情報発信能力を育成することが求められるが，そのためには，教師自身が情報活用能力をみがくとともに，その支援方法を身につけることが必要である。ここでは，個人またはグループで設定したテーマのもとに，現地取材や調査を行い，その成果をWebページ作品としてまとめる。授業においては，eラーニングシステム，企画や作品のプレゼンテーション，ブレーンストーミングによる討論などを活用して，受講生間の交流・相互作用をはかり，学習成果の質的向上を目指す。このプロセスを通じて，ICTの活用法，意義や留意点、学習支援方法などを学習する。

学習の目的
・情報社会における「新しい教育」の必要性を認識し、新しい教育を推進できる知識や技術を身につける。
・テーマ設定からWeb作品の発表にいたる情報活用能力をみがく。
・学習支援方法についての知識・技術を身につける。

学習の到達目標
・情報時代におけるICT（情報通信技術）の活用意義や留意点を説明できる。
・学習者主体の学習を推進するための学習支援方法についての知識・技術を知る。
・自分の設定したテーマに基づき、情報収集、情報の整理、情報の精選、情報表現、修正（改善）の過程を経て、わかりやすいWeb作品を作成できる。
・自分の実践をふり返り、次期受講生へのアドバイスを残すことができる。

教科書　適宜プリントやWeb資料を使用する

成績評価方法と基準　授業への参加状況（出欠、電子掲示板への投稿）30%、授業での課題提出物40%、最終レポート30%

オフィスアワー　毎週金曜日13：00-14：30 教職支援センター(旧教育実践総合センター）教育工学研究室(下村)

学習内容
・ガイダンス：新しい教育へのパラダイム、教育工学の考え方
・eラーニングシステムについて／学習成果の共有と継承
・グループワーク／発想支援技法（ブレーンストーミング・KJ法）
・企画書の作成方法
・企画の発表（プレゼンテーションの方法と技術）
・現地取材・調査
・Webページの作成法
・Webページの作成実習
・試作版の発表
・相互評価とフィードバックによる改善
・完成版の発表
・電子ポートフォリオの作成（最終レポート）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育工学特論演習	1	後期　木 3, 4	下村 勉（教育学部附属教育実践総合センター）

授業の概要　教育工学の考え方、手法、最新の研究成果および情報技術についての理解を深める。また、研究能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の育成をはかる。教育工学に関する研究論文や各自が設定した研究テーマに関して、レポーター制で報告し、全員で議論する。

学習の目的　教育実践研究能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上

予め履修が望ましい科目　教育工学特論

教科書　教科書は使用しない。

オフィスアワー　毎週金曜日13：00-14：30 教育実践総合センター教育工学研究室(下村)

学習内容
・ガイダンス：教育工学の考え方、授業の進め方
・レポーター制で各自の研究内容や先行研究をまとめて紹介する。レポーターは、発表資料を用意し、あらかじめMoodleに投稿する。授業では、定められた時間内で、プレゼンテーションを行う。その後、全員でディスカッションを行う。授業後に、レポーターはディスカッション内容をまとめて、Moodleに投稿する。他の受講者もコメントや感想などを返信する。各回、これを繰り返す。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育評価特論	2	前期集中	行廣隆次（非常勤講師）

授業の概要
児童生徒の状況や指導，援助の状況を把握し，教育の改善について検討する．
さまざまな評価の問題を考え，よりよい教育評価について考える．

成績評価方法と基準　授業参加とレポートによる

学習内容
児童生徒の状況や指導，援助の状況を把握し，教育の改善について検討する．
さまざまな評価の問題を考え，よりよい教育評価について考える．
1 教育評価特論のオリエンテーション 本授業の概要説明
2 学校における教育指導の諸問題について 学校現場における教育指導とその評価について考える．関係論文講読．
3 学校教育現現場における教育評価について 教育評価に関する理解 相対評価と絶対評価，個人内評価と形成的評価，診断的評価など．
4 学級内のアセスメントについて 校内組織構造・学校支援組織, 学級風土・学級内人間関係, 危機介入・児童生徒支援のための資源
5 テスト理論について 古典的テスト理論と項目反応理論の説明と理解 関連論文講読
6 教育評価の改善について これからの教育評価について 関連論文講読

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学校教育特別研究I	2	後期　月3,4	南 学

授業の概要
少子高齢化，情報化，国際化などの社会の変化の中で，学校教育も大きく変化してきている．この中にあって教師に求められる資質として，専門的な知識や技術を身につけるだけではなく，自らも課題を設定し，創意工夫ある教育実践を行い，成果を明らかにしていく力が必要とされてきている．いわば研究的実践能力の育成である．
本授業では，これからの各自の研究遂行に向けて，研究テーマの設定，研究計画の立案，研究の遂行，成果の報告に至るプロセスを理解し，とくに研究テーマの設定と計画立案の重点を置いた実践的な演習を行う．

学習の到達目標
研究と実践の能力の向上．

テーマ検討，テーマ設定，まとめかた，報告プレゼンの方法等を修得すること．

成績評価方法と基準　授業への参加状況および取り組みを評価する．

学習内容
教育学，教育心理学，教育工学，教育実践等の最新の研究状況の把握．
アイデア創出のためのグループディスカッション．
情報機器利用による情報収集．
研究計画立案と研究計画書の書き方．
プレゼンテーションの方法．
以上の各項について総合的に授業を進めていく．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		学校教育特別研究 II	2	前期　金1,2	佐藤 年明 （便宜上の代表。実際の担当教員は毎年異なる。）

授業の概要　小学校、中学校または高等学校において、教師と子どもはいかなる教授・学習活動によって、何を伝え習得するか、その実際を明らかにするために、子どもの個人レベル及び集団レベルの学習活動、あるいは組織として学校における学級社会の構造・過程をとらえる研究方法の指導を行なう。

学習の目的　（この授業は佐藤年明が責任者となり、学校教育領域所属の他の教員の協力を得てその年度のフィールドを決定し、実施している。従って学習目的は、実際にフィールドを紹介する教員が決定する。）

学習の到達目標　（この授業は佐藤年明が責任者となり、学校教育領域所属の他の教員の協力を得てその年度のフィールドを決定し、実施している。従って学習の到達目標は、実際にフィールドを紹介する教員が決定する。）

受講要件
定例授業時間帯を利用して何度かの文献学習を行なうとともに、9月の教育実習期間等を利用した集中的な学校見学、あるいはその他の時期における学校の公開研究会や各種イベント等への参加を要求する。
具体的には初回の授業（金曜1・2限）において提案する。

その他　2015年度にフィールドを紹介する教員は未定である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　木9,10	下村 勉（教育学部附属教育実践総合センター）

授業の概要　教育工学・教育実践の分野にかかわって、研究テーマの設定から研究成果のまとめにいたる研究能力の向上をめざす。とくに、研究分野の情報収集、研究テーマの設定、研究方法および研究計画について、研究指導する。

学習の到達目標　研究能力の向上（とくにテーマの設定能力、研究テーマにかかわる周辺知識、研究方法などについて）

成績評価方法と基準　研究の進捗状況のレポート20%、研究発表40%、成果レポート(論文)40%

オフィスアワー　毎週火曜日13：00-14：30 教育実践総合センター教育工学研究室(下村)

学習内容
個別研究指導：研究テーマの設定、研究方法・研究計画等について、レジメや資料に基づいて進捗状況を報告する。その内容をディスカッションし、次の方向を決めていく。これを繰り返す。
序盤は研究の位置づけや関連研究のレビュー、中盤は試行実践やデータ分析について、終盤は修士論文中間発表にむけての資料の作成とプレゼンテーションの準備に重点を置く。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水7,8	佐藤 年明

授業の概要　修士論文作成の指導。

学習の目的　第1年次における基礎的研究力量形成を図る。

学習の到達目標　卒業論文の課題設定を根本から再吟味し、修士論文の研究題目設定に向けた基礎的準備を行なうこと。

予め履修が望ましい科目　教育課程特論演習

教科書　なし。

成績評価方法と基準　具体的な研究進展の程度により評価する。

オフィスアワー　月4コマ、火5コマ いずれも佐藤年明研究室にて

学習内容　当該院生の研究計画とその進捗次第である

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 9, 10	森脇健夫（教育学部）

授業の概要　修士論文執筆のための基礎をつくる

学習の目的　質的な研究の基本的な方法論について習得する。

学習の到達目標　質的な研究を授業研究として行うための基礎的な力量を得る

学習内容　演習形式で、基礎的な文献を読んだり、また報告をしあって議論をする。この課題研究を通して、質的研究を方法論とした論文の作成にあたっての基礎的な力量形成を獲得する。そしてさまざまな分野の質的研究にふれることによって自分なりの修士論文構想をたてることができる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 9, 10	須曽野 仁志

授業の概要　学習科学・教育実践・教育工学等の分野に関わって、研究テーマの設定から研究成果のまとめにいたる研究能力の向上を目指す。特に、研究分野の情報収集、研究テーマの設定、研究方法および研究計画について、研究指導する。

学習の目的　大学院での研究の内容・方法を知る

学習の到達目標　研究能力の向上を目指す

オフィスアワー　毎週木曜日10:30〜12:00、教育学部附属教職支援センター須曽野研究室

学習内容　個別研究指導：研究テーマの設定、研究方法・研究計画等について、レジメや資料を基づいて、進捗状況を報告する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 7, 8	松浦 均（教育学部学校教育講座）

授業の概要
教育心理学を中心とする心理学諸分野における研究指導.
研究テーマ設定から研究成果のまとめにいたる研究能力向上を目指す.
学術論文の講読，研究方法論やデータ分析の方法の修得，修士論文の書き方の修得を目指す.
なお，本授業では，修士研究のテーマ設定に重点を置く.

学習の到達目標　研究能力の向上

成績評価方法と基準　各自の研究の遂行状況を評価する

オフィスアワー　水曜日午後

学習内容
基本的には，専門として社会心理学研究を行う．各自の研究についてレジメや資料を作成して進捗状況を報告し，これに基づいて，ディスカッションを行う.
学術論文の講読，研究方法論やデータ分析の方法の修得，修士論文の書き方の修得なども平行して進めていく.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水 9, 10	伊藤敏子 （教育学部学校教育講座）

授業の概要　学校教育における諸問題を、学生が諸分野の研究ないし実践研究を通して主体的に把握し、適切に処理し得るよう指導する。

学習の目的　研究課題を問い直す。

学習の到達目標　研究課題の明確化。

予め履修が望ましい科目　教育哲学特論

成績評価方法と基準　小レポート30%、発表70%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30〜12：00、場所教育哲学研究室。

学習内容
(1)導入
(2)〜(29)研究課題の明確化
(30)まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 7, 8	南 学

授業の概要　修士論文作成に向けた基本的研究方法を習得する

学習の到達目標
関連するテーマの文献を熟読し、テーマを深める
研究に必要な思考法を会得する

学習内容
関連するテーマの文献を熟読し、テーマを深める
研究に必要な思考法を会得する
受講生の研究計画と進捗状況に合わせて指導をしていく。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 7, 8	須永 進

授業の概要　修士論文作成を目標に、必要とされる基本的方法を学ぶ。

学習の目的　論文の作成に必要とされる研究方法を習得することを目的とする。

学習の到達目標　論文を作成できる知識や方法を習得できることが大きな到達目標になる。

学習内容　修士論文の作成指導

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　金 3, 4	瀬戸美奈子

授業の概要
学校心理学、発達臨床を中心とした心理学分野における研究指導。修士論文研究テーマ設定、研究方法や分析方法の習得、修士論文の書き方習得をめざす。

学習の目的　修士論文作成のための研究能力の向上

成績評価方法と基準　研究の遂行状況を評価する

学習内容　各自の問題意識に基づいて、学術論文の講読を行う。修士論文のテーマ設定やデータ分析に関する資料を作成して、ディスカッションを行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　木 9, 10	下村 勉（教育学部附属教育実践総合センター）

授業の概要　教育工学・教育実践の分野にかかわって、研究テーマの設定から研究成果のまとめにいたる研究能力の向上をめざす。とくに、研究成果のまとめ方、効果的なプレゼンテーションの方法、研究論文の書き方について、研究指導する。

学習の到達目標　研究能力の向上（とくに研究成果のまとめ方、効果的なプレゼンテーションの方法、研究論文の書き方について）

成績評価方法と基準　研究の進捗状況のレポート20%、研究発表40%、成果レポート(論文)40%

オフィスアワー　毎週金曜日13：00-14：30 教育実践総合センター教育工学研究室(下村)

学習内容
個別研究指導：研究テーマの設定、研究方法・研究計画等について、レジメや資料に基づいて進捗状況を報告する。その内容をディスカッションし、次の方向を決めていく。これを繰り返す。
序盤は研究の位置づけや関連研究のレビュー、中盤は試行実践やデータ分析について、終盤は修士論文中間発表にむけての資料の作成とプレゼンテーションの準備に重点を置く。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　水 9, 10	佐藤 年明

授業の概要　修士論文作成の指導。

学習の目的　第2年次における修士論文の完成に必要な研究力量形成を図る。

学習の到達目標　修士論文の研究題目を設定し、先行研究の批判的検討にもとづいて研究方法論を確立し、研究データの収集と分析、論文の執筆を完遂すること。

予め履修が望ましい科目

教育課程特論演習
課題研究 I

教科書　なし。

成績評価方法と基準　具体的な研究進展の程度により評価する。

オフィスアワー　月4コマ、火5コマ いずれも佐藤年明研究室にて

学習内容　当該院生の研究計画とその進捗次第である

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　月 9, 10	森脇 健夫

授業の概要　修士論文作成の支援

学習の到達目標　修士論文執筆に向けてさまざまな問題を乗り越える

学習内容　質的研究としてのレベルを保ちながら、自らの問題意識、課題意識にもとづき論文作成を進める。その支援をするのがこの課題研究 II の目標である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　月 9, 10	須曽野 仁志

授業の概要　学習科学・教育実践・教育工学等の分野に関わって、研究成果を論文にまとめていく。

学習の目的　大学院での研究を論文にまとめたり、成果をわかりやすく発表する

学習の到達目標　研究を修士論文にまとめる

オフィスアワー　毎週木曜日10：30〜12:00、教育学部附属教職支援センター須曽野研究室

学習内容　個別研究指導：研究テーマの設定、研究方法・研究計画等について、レジメや資料を基づいて、進捗状況を報告する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　月 7, 8	松浦 均（教育学部学校教育講座）

授業の概要
教育心理学を中心とする心理学諸分野における研究指導.
研究テーマ設定から研究成果のまとめにいたる研究能力向上を目指す.
学術論文の講読，研究方法論やデータ分析の方法の修得，修士論文の書き方の修得を目指す.
なお，本授業では，修士研究の計画実行およびデータ分析に重点を置く.

学習の到達目標　研究能力の向上，修士研究のデータ収集および分析の開始.

成績評価方法と基準　各自の研究の遂行状況を評価する

オフィスアワー　水曜日午後

学習内容
基本的には専門分野として社会心理学研究を行う．各自の研究についてレジメや資料を作成して進捗状況を報告し，これに基づいて，ディスカッションを行う.
学術論文の講読，研究方法論やデータ分析の方法の修得，修士論文の書き方の修得なども平行して進めていく.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　月 1, 2	伊藤敏子 （教育学部学校教育講座）

授業の概要　学校教育における諸問題を、学生が諸分野の研究ないし実践研究を通して主体的に把握し、適切に処理し得るよう指導する。

学習の目的　研究課題を問い直す。

学習の到達目標　研究課題の明確化。

予め履修が望ましい科目　教育哲学特論

成績評価方法と基準　小レポート30%、発表70%、計100%。

オフィスアワー　毎週火曜日10：30～12：00、場所教育哲学研究室。

学習内容
(1)導入
(2)～(29)研究課題の明確化
(30)まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	2	通年　月 7, 8	南 学

授業の概要　修士論文作成に向けた基本的研究方法を習得する

学習の到達目標
関連するテーマの文献を熟読し、テーマを深める
研究に必要な思考法を会得する

学習内容
関連するテーマの文献を熟読し、テーマを深める
研究に必要な思考法を会得する
受講生の研究計画と進捗状況に合わせて指導をしていく。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　月 7, 8	須永 進

授業の概要　修士論文作成を目標に、必要とされる基本的方法を学ぶ

学習の目的　論文の作成に必要とされる研究方法を習得することを目的とする

学習の到達目標　論文を作成できる知識と方法を習得できることが大きな到達目標になる。

学習内容　修士論文の作成指導

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　金 3, 4	瀬戸美奈子

授業の概要
学校心理学、発達臨床を中心とした心理学分野における研究指導。修士論文作成にむけて研究方法や分析方法の習得、修士論文の書き方習得をめざす。

学習の目的　修士論文作成のための研究能力の向上

予め履修が望ましい科目　課題研究 I

成績評価方法と基準　研究の遂行状況を評価する

学習内容　各自の修士論文テーマに基づいて、学術論文の講読を行う。修士論文の作成やデータ分析に関する資料を作成して、ディスカッションを行う。各自の進捗状況に応じて指導していく。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		特別支援教育特論 I	2	前期　火 9, 10	栗田季佳

授業の概要　特別支援教育の理念・制度、障害のある児童・生徒に対する教育・支援のあり方について講義を交えながら受講者同士で議論する。

学習の目的　特別支援教育に対する多角的な捉え方を養う。

学習の到達目標　特別支援教育の実践に対して多様な視点を獲得する。

教科書　特になし。授業中にプリントを配布する。

成績評価方法と基準　出席、授業中の取り組み、及びレポート

オフィスアワー　木曜17：00~18：00

学習内容
1.オリエンテーション、特別支援教育について
2~4.特別支援教育の変遷とインクルージョン
5~6.知的障害のある児童・生徒に対する教育と支援
7~8.発達障害のある児童・生徒に対する教育と支援
9~10.聴覚障害のある児童・生徒に対する教育と支援
11~12.視覚障害のある児童・生徒に対する教育と支援
13~15.肢体不自由・その他の障害のある児童・生徒に対する教育と支援
16.まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		特別支援教育特論演習 I	1	後期　金 9, 10	栗田季佳

授業の概要　障害の有無に関わらず共に学ぶ学校づくりの課題について討議する。授業で指定する、また受講者の関心に基づく国内外の文献を講読・発表し、全体で議論する。

学習の目的　特別支援教育の実践に重要な論理的思考力を身につける。

学習の到達目標　特別支援教育の研究方法、研究に必要な思考力が養成される。

教科書　授業で適宜指定する。

成績評価方法と基準　出席、授業中の取り組み、及びレポート

オフィスアワー　木曜17：00~18：00

学習内容
1.オリエンテーション、特別支援教育研究の基礎
2~6.指定された文献について講読、議論
7~14.受講者の関心に基づく文献の講読、発表、議論
15~16.受講者の関心の探求と発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		特別支援教育特論 II	2	前期　月 3, 4	荒川哲郎

授業の概要　インクルーシブ教育に向けた基本問題及び課題についての認識と具体的教育について考える。

学習の目的　一人ひとりの人権を尊重する教育について理解する。

学習の到達目標　インクルーシブ教育に関する知識を習得するとともに、今後の教育の目標を自ら考える基本的考えを形成する。

成績評価方法と基準　出席率と各自の意見発表、レポートにより総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週金曜日13:00～14:00、場所:荒川哲郎研究室(教育学部専門校舎2号館5階)

学習内容
1～3回目 障がい者の差別問題 教育の場の分離
4～5回目 就労における問題と課題
6・7回目 インクルーシブ教育の理念と具体的な制度改革
8～11回目 教員の意識改革と子どもとのコミュニケーション
12～15回目 これからのインクルーシブ教育に向けた特別支援教育のあり方について
16回目 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		特別支援教育特論演習 II	1	後期　月 3, 4	荒川哲郎

授業の概要　インクールシブ教育に関する理論・実践例に関する外国語文献の購読を行う。

学習の目的　外国語文献を読んで、インクールシブ教育に関する理論を考えるとともに、語学力を高める。

学習の到達目標　インクールシブ教育に関する理論を具体化することを考え、構想を作る。

予め履修が望ましい科目　特別支援教育特論 II、特別支援教育特別研究 I

成績評価方法と基準　出席率と各自のレポート発表により総合的に評価する。

オフィスアワー　水曜日13:00～14:00 教育学部専門校舎2号館5階・荒川哲郎特別支援教育研究室

学習内容
1～14回目 文献の購読・各自のレポート発表
15～16回目 全体討議

その他　授業の初回に、教科書の一部コピーを資料として配布するので、自分の担当箇所を訳してきて下さい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		特別支援教育特論演習III	1	前期　木7,8	荒川哲郎(教育学研究科特別支援教育専攻)、大谷正人(教育学研究科特別支援教育専攻)、菊地紀彦(教育学研究科特別支援教育専攻)、郷右近歩（教育学研究科特別支援教育専攻）、栗田季佳(教育学研究科特別支援教育専攻)

授業の概要　特別支援教育の理念を基に、多様なニーズのあるこどもの重要な教育的課題を理解する

学習の到達目標　知的障害のこどもの教育を主に、肢体不自由、病弱、重度重複、および軽度発達障害の各領域における重要な教育的課題を理解する

成績評価方法と基準　レポートと出席の点数

学習内容
1．知的障害児、肢体不自由児、病弱児の心理について概説する。保護者への支援の実際についても論じる。（郷右近・菊池担当）〈第1〜5回〉
2．知的障害のあるこどもへの福祉的支援における問題を中心として解説する。また視覚 障害、聴覚障害のある子どもの言語・コミュニケーション支援についての教育の理念について解説する。（荒川担当）〈第6〜8回〉
3．知的障害のこどもを主に、情緒障害、軽度発達障害のあるこどもにおける重要な医学的問題と事例研究について概説する。（大谷担当）〈第9〜11回〉
4．知的障害を主として、重度重複及び軽度発達障害における重要な教育的問題と特別支援教育について詳説する。（栗田担当）〈第12〜14回〉
5．まとめ〈第15回〉

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		障害者心理特論 I	2	前期　木3,4	郷右近 歩（教育学研究科特別支援教育専修）

授業の概要　発達障害、知覚障害、中途障害など、様々な障害を有する人々の心理機能や心理的側面について概説する。特に、知的障害、自閉症、ダウン症、ウィリアムズ症候群、サヴァン症候群、脳損傷、身体機能の障害、視知覚の障害などについては詳説する。

学習の目的　発達障害、知覚障害、中途障害など、様々な障害を有する人々の心理機能や心理的側面について、専門的な知識を学び、適切な教育的支援を行う上での知識を得る。

学習の到達目標　発達障害、知覚障害、中途障害など、様々な障害を有する人々の心理機能や心理的側面について、専門的な知識を学び、教育的支援に結びつけるための考察を深める。

教科書　使用しない。プリントを用意して適宜配布する。

成績評価方法と基準
出席状況（40%）と期末レポート（60%）により評価を行う。
ただし、原則として欠席4回以上の者については単位を認めない。

オフィスアワー
毎週月曜日14：40 - 16：10
特別支援（心理）第2研究室（郷右近歩）

学習内容
1．オリエンテーション：視知覚の機序を学ぶ
2．視知覚の障害
3．能力の代償作用
4．サヴァン症候群
5．ウィリアムズ症候群とダウン症
6．自閉症
7．知的障害
8．記憶のメカニズム
9．感情や人格のメカニズム
10．脳損傷後の機能回復（機序について）
11．脳損傷後の機能回復（リハビリについて）
12．身体機能の障害（機序について）
13．身体機能の障害（リハビリについて）
14．心理アセスメント
15．まとめ
16．試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		障害者心理特論演習 I	1	後期　木 3, 4	郷右近 歩（教育学研究科特別支援教育専修）

授業の概要　発達障害や脳機能の障害など、様々な障害を有する人々の心理機能や心理的側面について、英語文献を中心に講読する。特に、発達障害や脳機能の障害について、受講者が主体的な発表を行い、それに基づき討論を行う。

学習の目的　発達障害や脳機能の障害など、様々な障害を有する人々の心理機能や心理的側面について、海外の研究成果に触れることにより、専門的な知識を得る。

学習の到達目標　発達障害や脳機能の障害など、様々な障害を有する人々の心理機能や心理的側面について、海外の研究成果に触れることにより、専門的な見識を深める。

受講要件　『障害者心理特論 I 』を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目　障害者心理特論 I

教科書　使用しない。プリントを用意して適宜配布する。

成績評価方法と基準
出席状況（30%）、及び発表課題（50%）と討論における発言（20%）に基づき評価を行う。
ただし、原則として4回以上欠席した者については単位を認めない。

オフィスアワー
毎週月曜日14：40 - 16：10
特別支援（心理）第2研究室

学習内容
1．オリエンテーション
2．発達障害に関する英語文献の講読（自閉症など）
3．発達障害に関する英語文献の講読（染色体異常など）
4．発達障害に関する英語文献の講読（学習障害など）
5．発達障害に関する英語文献の講読（注意欠陥多動性障害など）
6．発達障害に関する英語文献の講読（知的障害など）
7．脳機能の障害に関する英語文献の講読（記憶など）
8．脳機能の障害に関する英語文献の講読（感情など）
9．脳機能の障害に関する英語文献の講読（言語など）
10．脳機能の障害に関する英語文献の講読（身体機能など）
11．受講者が選択した英語文献についての発表（知的障害など）
12．受講者が選択した英語文献についての発表（肢体不自由など）
13．受講者が選択した英語文献についての発表（病虚弱など）
14．受講者が選択した英語文献についての発表（視覚障害・聴覚障害など）
15．まとめ
16．試験

その他　毎時、英和辞典を持参すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		障害者心理特論 II	2	前期　火 1, 2	菊池 紀彦（教育学部）

授業の概要　重症心身障害児（者）は、心身の諸機能や諸側面に重度で重複した障害がみられる。彼らは働きかけに対して、「反応がない、乏しい」とされ、教育支援を行う上でさまざまな困難がある。教育支援を進める上で必要とされる知識について、主に生理心理学的な観点から講義する。具体的には、認知機能と発達、コミュニケーション機能と発達について取り上げる。また、周産期医療等の進歩にともない、「超重症児」といわれる子どもたちが増加している。こうした子どもたちに対する生理心理学的評価と教育支援についても概説する。

学習の目的　授業は基本的には、以下に記したテキストを用いる。テキストの内容について、受講学生が分担し発表を行う。その上で、授業担当者がテキストの内容や関連する事項について講義する。この授業における学習目的は以下のとおりである。重症心身障害児（者）および超重症児といわれる人たちについて、①社会的処遇の歴史についての知識を得る、②教育支援を進める上で必要とされる、生理心理学的評価のあり方についての知識を得る、③②に基づいた実際の支援についての知識を得る。

学習の到達目標　障害と発達、適応等の関係を捉える視点について検討することができ、それを支援につなげていく方法を考えることができる。

教科書　片桐和雄・小池敏英・北島善夫（1999）重症心身障害児の認知発達とその援助－生理心理学的アプローチの展開－.北大路書房.

成績評価方法と基準　授業における各自の発表（80%）と出席（20%）で評価します。

オフィスアワー　木曜日14:40~16:10 教育学部2号館5階 菊池研究室

学習内容
1.オリエンテーション: 授業の進め方について、受講学生の発表分担について
2.重症心身障害児施設のあゆみについて: 重症心身障害児（者）の歴史的背景について、テキストをもとに概説する。
3.認知発達における感覚系機能のとらえ方について(1): 受講者による発表①、ビデオ視聴
感覚の種類と信号の伝達経路、感覚間の相互作用について概説する。
4.認知発達における感覚系機能のとらえ方について(2): 受講者による発表②、ビデオ視聴
発達初期における感覚の役割について
5.認知発達における感覚系機能のとらえ方について(3): 受講者による発表③、ビデオ視聴
重症児における「反応がない」という問題、重症児への発達援助と感覚について
6.聴覚系機能と認知発達について（1）: 受講者による発表④
聴覚系機能とその評価、聴覚誘発電位による多水準的評価について
7.聴覚系機能と認知発達について（2）: 受講者による発表⑤
定位反応からみた聴覚刺激受容の発達について
8.聴覚系機能と認知発達について（3）: 受講者による発表⑥
呼名刺激に対する反応と認知について
9.視覚系機能と認知発達について(1): 受講者による発表⑦
視覚系機能と評価について
10.視覚系機能と認知発達について(2): 受講者による発表⑧
重症児における視知覚・視覚認知と発達援助について
11.コミュニケーション機能と発達(1): 受講者による発表⑨
重症児の要求伝達、yes, noの表出について
12.コミュニケーション機能と発達(2): 受講者による発表⑩
期待反応の発達とその援助について
13.コミュニケーション機能と発達(3): 受講者による発表⑩
重症児におけるコミュニケーション機能の発達とその援助について
14.超重度障害児（超重症児）について(1): 超重症児の判定基準、歴史的背景について概説する。また、地域社会で生活を送っている超重症児とその家族の生活の実態（医療的ケア、介護の問題）と支援について講義する
15.超重度障害児（超重症児）について(2): 超重症児に多する生理心理学的評価について、最新の話題（近赤外分光法を用いた評価）について概説する。また、教育支援の実際についても紹介する。
16.授業のまとめ: 各自の発表について振り返った上で、授業のまとめをする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		障害者心理特論演習 II	1	後期　木 1, 2	菊池 紀彦（教育学部）

授業の概要　論文講読をとおし、肢体不自由児・者、重度・重複障害児・者、病弱児・者の心理的支援、発達支援、教育支援について検討する。あわせて、障害児・者の家族への支援や社会参加のあり方について考察を深める。

学習の目的
1.肢体不自由や重度重複障害のある人たちを対象とした国内、海外の文献を購読することをとおし、彼らに対する生理心理学的アプローチの実際について理解する。
2.また、保護者や支援者の心理的問題についても考察を深める。

学習の到達目標
1.論文講読をとおし、生理心理学的アプローチにおける具体的な評価方法や、評価方法に基づいた支援について、学生自身の発表、討論から理解を深めることができるようになる。
2.同様に、保護者や支援者の心理的問題についても理解を深めることができるようになる。

予め履修が望ましい科目　障害者心理特論 II

教科書　授業の中で適宜紹介します。

成績評価方法と基準　出席10%、レポート45%、授業中の発表45%

オフィスアワー　木曜日14:40~16:10 教育学部2号館5階 菊池研究室

学習内容
1.オリエンテーション: 演習の進め方について
2.重度・重複障害児のコミュニケーションの特徴と支援に関する文献の講読（1）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
3.重度・重複障害児のコミュニケーションの特徴と支援に関する文献の講読（2）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
4.重度・重複障害児のコミュニケーションの特徴と支援に関する文献の講読（3）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
5.重度・重複障害児の生理心理学的評価（自律神経系指標）に関する文献の講読（1）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
6.重度・重複障害児の生理心理学的評価（自律神経系指標）に関する文献の講読（2）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
7.重度・重複障害児の生理心理学的評価（自律神経系指標）に関する文献の講読（3）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
8.近赤外線分光法による超重度障害児への評価に関する文献の講読（1）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
9.近赤外線分光法による超重度障害児への評価に関する文献の講読（2）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
10.近赤外線分光法による超重度障害児への評価に関する文献の講読（3）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
11.筋ジストロフィー児（者）の心理教育的支援に関する文献の講読（1）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
12.筋ジストロフィー児（者）の心理教育的支援に関する文献の講読（2）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
13.筋ジストロフィー児（者）の心理教育的支援に関する文献の講読（3）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
14.障害児・者の家族への支援や社会参加の現状に関する文献の講読（1）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
15.障害児・者の家族への支援や社会参加の現状に関する文献の講読（2）: 受講学生による発表を行った上で、討論を行う
16.まとめ: 授業のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		障害者病理特論 I	2	前期　金 1, 2	大谷正人（教育学研究科）

授業の概要　知的障害や発達障害の成因・治療・心理などについて、講義し討論する。特に自閉スペクトラム症（広汎性発達障害）、注意欠如多動性障害、他の主な精神障害や愛着など発達心理学上の臨床的問題などについては詳説する。学生による自主的にテーマを決めた発表も、課する。

学習の目的　発達障害、知的障害、児童思春期の精神医学等の諸問題について、学校内でコーディネーターや指導的な立場で、役割を果たすことができる人材となることを目的とします。

成績評価方法と基準　出席状況30%、発表の内容50%、その他の授業での発言20%、

オフィスアワー　月曜日17:00~18:30、教育学部2号館4階大谷研究室

学習内容
1．自閉症と知的障害
2．高機能広汎性発達障害
3．脳性麻痺と重症心身障害
4．注意欠如多動性障害
5．学習障害
6．愛着の重要性と子ども虐待
7．乳幼児の心と言葉の発達
8〜9．児童期思春期精神医学における他の重要な問題
10．保護者との連携・保護者の心理
11〜15．学生による自主的発表
16．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		障害者病理特論演習 I	1	前期　月 7, 8	大谷正人（教育学研究科特別支援教育領域）

授業の概要　知的障害や発達障害の成因・治療・心理などについて、英語文献も講読しテーマを決めて、討論する。特に自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、子ども虐待の問題などや、その基盤となる心理学・生理学・医学的事項について、また発達心理学で臨床上重要となる事項などについて、受講者が主体的に発表しながら、討論する。

学習の目的　特別支援教育の医学・心理学に関して、最新の知見を獲得することを目的の一つとします。

成績評価方法と基準　出席状況30%、発表内容50%、その他の授業での発言20%

オフィスアワー　月曜日17:00~18:30、2号館4階大谷研究室

学習内容
1．自閉症スペクトラム障害
2．保護者の心理と保護者への支援
3．てんかん
4．注意欠如多動性障害と学習障害
5．発達障害児に多い行動障害と情緒障害
6．愛着の形成と子ども虐待
7．その他の重要な問題
8〜15．上記の問題に関わる英語論文講読

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		障害者病理特論 II	2	前期　水 9, 10	村田博昭

授業の概要　障害児は様々な教育上の課題を抱えていて、その原因・病態は複雑なため、教育と医療との連携が不可欠である。その原因疾患・状態診断・治療・医療的ケア・療育について理解し、医療的視点を活用できると、個別の教育支援計画をたてる上で、より充実した教育が可能となる。そのために、障害児医療・療育についての基本的な医学的知識を講義し、その現場をみて、そこで行われている教育と医療との連携について、実践的知識とその応用について理解を深める。

オフィスアワー　世話役教員：大谷 正人

学習内容
1．広義の発達障害とは／その原因疾患（原因診断）と病態（状態診断）・治療・ケア
2．精神遅滞（知的障害）・行動異常（いわゆる発達障害：広汎性発達障害・ADHD・学習障害・情緒障害など）
3．運動障害（脳性麻痺・筋ジストロフィー症など）
4．感覚障害（視覚・聴覚障害など）
5．てんかん
6．障害児に起こりやすい症状・急性疾患とその治療・救急処置
7．常時医療的ケアを要する重度の障害児（呼吸障害・摂食嚥下障害障害など）
8．学校と医療との連携：学校での医療的ケア提供の仕組み
9ー14．実践現場の見学・研修：肢体不自由児施設・療育センター（児童デイサービス施設）・重症心身障害児施設・同通園事業施設・療育介護事業所（進行性筋萎縮症児療育委託施設）・自閉症児施設・発達障害者支援センターなどの現場を見て、その実践的応用を討論する。
15．医療・福祉・教育の連携：各ライフステージから見た障害児（者）の人生を、学際的に支援するという考え方を養う。
16．まとめ

その他　隔年開講の講義であり、翌年の平成28年度は開講しない年になります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		特別支援教育特別研究 I	2	前期　金 3, 4	郷右近 歩・荒川 哲郎

授業の概要　特別支援教育、インクールジョン等に関する教育・研究について理解を深める。

学習の目的　特別支援教育・インクールジョンに関する問題を認識する。

学習の到達目標　問題の認識と共に課題へ向き合う理念および行動の基本形成。

成績評価方法と基準　出席率と意見発表、レポートにより総合的に評価する。

オフィスアワー
郷右近：月曜日14:40‐16:10 教育学部2号館4階 特別支援（心理）第2研究室（郷右近 歩）
荒川：水曜日13:00‐14:00、教育学部専門校舎2号館5階・特別支援（教育）第2研究室 (荒川哲郎)

学習内容
1-8回目 知的障害児を主として、視覚障害児、聴覚障害児、肢体不自由児、病弱児の教育に関する研究方法について、文献をもとに理解を深める。(郷右近担当)
9-16回目 障害児への教育実践について理解を深める。（荒川担当）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		特別支援教育特別研究 II	2	前期　月 5, 6	大谷正人(教育学研究科特別支援教育専攻)、菊地紀彦(教育学研究科特別支援教育専攻)、栗田季佳(教育学研究科特別支援教育専攻)

授業の概要　学校、家庭、地域社会等において、主としてニーズのあるこどもに関わる教育的・福祉的課題について概説する。また、こどもの心理的問題についても同様に教育的に考える。

学習の到達目標
特別支援教育の理念の把握
具体的教育的な問題および課題の発見
その解決のための教育的方法、内容の創造

学習内容
1．主として、ニーズのあるこどものコミュニケーション支援について概説する〈第1〜4回、栗田担当〉
2．同様にこどもの親支援や関係機関との連携支援について概説する〈第5〜8回、菊池担当〉
3．障害のあるこどもや病気のこどもの医学的治療や学校保健の立場から論述する 〈第9〜12回、大谷担当〉
4．学生による自主的発表とまとめ〈第13〜16回〉

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水 5, 6	荒川哲郎、大谷正人、菊地紀彦、郷右近歩

授業の概要
研究テーマの意義を考え、その社会的意味、教育的意義を把握する。
様々な文献の講読、および、フィルドワークの手法の習得。

学習の目的　研究のテーマについて、その学術的意義・教育的意義・社会的意義について熟考する。文献の講読（英語論文を含む）やディスカッションを通して研究手法の基礎を修得する。

学習の到達目標　学術研究に取り組む上での基礎を培い、各々の研究課題に臨む。

教科書　各指導教員からの指示に従うこと。

成績評価方法と基準　文献講読における理解の度合い50%、レポート50%、計100%とする。ただし、出席状況も考慮する。

オフィスアワー　各指導教員からの指示に従うこと。

学習内容
第1回‐第5回 研究の基本的意義と倫理について
第6回‐第10回 文献渉猟の方法及びその講読
第11回‐第15回 研究の課題設定のための基本的調査とその意義

その他　指導教員が開講する「課題研究 I 」を履修すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　水 7, 8	荒川哲郎、大谷正人、菊地紀彦、郷右近歩

授業の概要
研究を進めるための調査の方法、観察の方法についての課題について考察を深める。
そして信頼性のある研究方法を習得する。
収集した資料の整理、分析についての考察の方法を知る。

学習の目的　研究をまとめて修士論文を作成する。

学習の到達目標
調査方法、特に聞き取り調査、アンケート調査による研究の方法を習得する。
資料分析の方法を知り、考察の方法を習得する。
実際に修士論文を作成する。

予め履修が望ましい科目　課題研究 I

成績評価方法と基準
毎回の課題についてレポートの提出
レポートの発表の評価
発表内容の評価

オフィスアワー　各指導教員に確認すること。

学習内容
第1回ー第5回
調査の方法、観察の方法についての討議
第6回ー第10回
調査資料の分析・考察についての討議
第11回ー第15回
修士論文についての討議

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		国語教育学特論 I	2	前期　火 9, 10	藤原 和好(非常勤講師)

授業の概要　国語教育の現状と課題の歴史的な分析を通して、これからの国語教育のあるべき姿を考察する。とりわけ小学校における物語教材の分析研究を行う。

学習の目的　小学校国語科教科書にある物語教材の具体的な分析を通して、文学教育の本質をふまえた授業の提案ができるようになる。

学習の到達目標　今日の文学教育の課題をのりこえる、個々の作品の教材価値を見いだすことができる。

教科書　その都度指示する。

成績評価方法と基準　レポート発表の内容、討議への主体的参加などから総合的に判断する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		国語教育学特論演習 I	1	前期　火 1, 2	藤原 和好(非常勤講師)

授業の概要　国語教育の諸理論の歴史的な検討を通して、これからの国語教育像を探求する。

学習の目的　歴史的到達点をふまえた国語科の授業実践批評ができる。

学習の到達目標　国語教育の今日的課題をつかみ、改善の方向を提案できる力を培う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		国語教育学特論 II	2	後期　月 3, 4	守田庸一（教育学部）

授業の概要　国語科教育の内容と方法について理論的あるいは実践的に考察する。

学習の目的　国語科教育に関する諸問題を解決するために、国語教育学の知見に基づき自ら探究することができるようになる。

学習の到達目標
1．国語教育学に関する知識・認識を得る。
2．上記の1．をふまえて、国語科教育の諸問題を分析・考察することができる。

予め履修が望ましい科目　国語教育学特論 I

教科書　開講時に指示する。

成績評価方法と基準　研究発表（レポート）の質・量、授業時の討論への参加の程度、出欠席の状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容　「授業の概要」の項を参照。毎回、受講者による研究発表と討論の時間を設けて、それをふまえた講義を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		国語教育学特論演習 II	1	後期　月 1, 2	守田庸一（教育学部）

授業の概要　国語科教育の内容と方法について理論的あるいは実践的に考察する。

学習の目的　国語科教育に関する諸問題を解決するために、国語教育学の知見に基づき自ら探究し、議論を通じてその質の向上を図ることができるようになる。

学習の到達目標
1．国語教育学に関する知識・認識を深め広げる。
2．上記の1．をふまえて、国語科教育の諸問題を分析・考察しそれを論じることができる。
3．他者との議論によって、上記の2．についてさらに探究することができる。

予め履修が望ましい科目
国語教育学特論I
国語教育学特論II
国語教育学特論演習I

教科書　開講時に指示する。

成績評価方法と基準　研究発表（レポート）の質・量、授業時の討論への参加の程度、出欠席の状況等によって評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日12:00〜13:00

学習内容　「授業の概要」の項を参照。毎回、受講者による研究発表とそれに基づく討論を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本語学特論ＩA	2	前期　火3,4	余 健(教育学部国語科)

授業の概要　日本語の音声・音韻に関わる諸現象の中でも特に母音と子音に焦点を当て、その法則性を中国語や英語等の諸言語や日本語の諸方言の特徴と比較しながら詳細に確認し、それらの研究成果の国語教育や日本語教育への援用の仕方を議論する。

学習の目的　授業で確認できた音声・音韻の諸知見を国語教育や日本語教育の教育現場にすぐに生かせる内容と、すぐには生かせないが教員として持っておきたい内容とに整理しつつ、理解を深めること。

学習の到達目標　日本語の音声・音韻に関わる諸現象について、客観的にわかりやすく説明でき、それに基づいた指導案を書けるようになること。

教科書　適宜、紹介する。

成績評価方法と基準　授業への積極的な姿勢、レポート、発表等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日18:00～19:00、場所：余研究室(yeo-ken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1回目 言語教育における音声学の重要性
2回目 発音の仕組み(ビデオ)
3回目 母音の分類(1)国際音声字母の基準の確認
4回目 母音の分類(2)母音らしい母音の特徴各国語の母音の特徴の確認
5回目 子音の分類(1) 国際音声字母の基準の確認
6回目 子音の分類(2) 子音らしい子音の特徴各国語の子音の特徴の確認
7回目 音声学と音韻論(1) 日本語方言の連母音の融合現象を例として
8回目 音声学と音韻論(2) 中国語の母音体系との比較から考察
9回目 音声学と音韻論(3) 韓国語の母音体系との比較から考察
10回目 四つ仮名の混同(1)四つ仮名の変遷
11回目 四つ仮名の混同(2)四つ仮名の地域差
12回目 ハ行転呼(1)ハ行転呼の変遷
13回目 ハ行転呼(2)ハ行音の地域差
14回目 母音の無声化
15回目 ザ・ダ・ラ行の混同

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本語学特論ＩB	2	後期　火3,4	余 健(教育学部)

授業の概要　日本語のモーラ、音節、フット、句、文レベルにおける音声・音韻現象について取り上げる。

学習の目的　音声分析ソフトを使用して、受講生自身の声の様子も音響音声学的に確認しつつ、音声教材の作成やそれに基づく指導案を検討する。

学習の到達目標　音声・音韻現象における知見の教育実践への生かし方をグループワークも行う中で習得する。音声教材を作成するために、音響音声学の基礎を押さえ、音声分析ソフトを使いこなせること。

予め履修が望ましい科目　日本語学特論ＩA

教科書　プリントを配布する

成績評価方法と基準　授業への積極的な姿勢、レポート、発表等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日18:00～19:00、場所：余研究室(yeo-ken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1回目 音節とモーラ(1) 音節とモーラの概念
2回目 音節とモーラ(2) モーラ音の言語差、方言差
3回目 フット(1) フットの概念
4回目 フット(2) 短歌・俳句に確認できるフットの特徴
5回目 アクセント(1) アクセントの定義
6回目 アクセント(2) アクセントの弁別機能
7回目 アクセント(3) アクセントの語境界表示機能
8回目 アクセント(4) アクセントの文法的機能
9回目 アクセント(5) アクセントの地域差
10回目 イントネーションとプロミネンス
11回目 音響音声学(1) 音の三大重要要素の確認
12回目 音響音声学(2) 聞きやすい声・さわやかな声を出すには？
13回目 音声教材の作り方(1) モーラ音の聴覚教材を例として
14回目 音声教材の作り方(2) アクセントの聴覚教材を例として
15回目 指導案作成に向けて

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本語学特論演習 I	2	通年　月 5, 6	余 健(教育学部)

授業の概要　最終的には三重県内の小学校での授業実践を目指して、語彙・文法・音声・アクセント・敬語等の方言調査を行う。4月から7月まで、調査準備として方言における特徴を概観し、調査項目(ビデオ撮影項目)を作成・検討する。8月に方言調査(ビデオ撮影調査)を行い、10月以降、方言調査の結果をグループ毎にビデオ教材化や言語地図教材化を行い、指導案の作成を進める。最終的に、調査当該地域の小学校で授業実践を行い、現場の先生方と共に議論を深める。

学習の目的　方言的事項の教育への援用の手掛かりを得ること。

学習の到達目標
①三重県を中心とした方言の特徴を押さえること
②ビデオ編集ソフト(ムービーメーカー等)を使って、ビデオ教材を編集できる
③①、②に基づいた指導案を書けること

受講要件　フィールドワークに出るので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入してください。

教科書　適宜、紹介する。

成績評価方法と基準　授業への積極的な姿勢、フィールドワークへの参加、発表等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日18:00～19:00、場所：余研究室(yeo-ken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
1回目 オリエンテーション(方言調査に向けて)
2回目 音声・音韻
3回目 アクセント
4回目 語彙(遊びことば・生活ことば・動植物のことば等)
5回目 意思・推量
6回目 アスペクト
7回目 否定
8回目 可能
9回目 助詞・接続助詞
10回目 待遇表現
11回目 調査項目の検討(1)遊びことば・生活ことば・動植物のことば
12回目 調査項目の検討(2)漁業、農作業のことば・自然環境のことば
13回目 調査準備(1)調査票の印刷
14回目 調査準備(2)調査時の注意点の確認
15回目 方言調査
16回目 オリエンテーション(授業実践に向けて)
17回目 前期の方言調査収録画像の確認(1) 遊びことば
18回目 前期の方言調査収録画像の確認(2) 生活ことば
19回目 前期の方言調査収録画像の確認(3) 動植物のことば
20回目 前期の方言調査収録画像の確認(4) 農業のことば
21回目 前期の方言調査収録画像の確認(5) 観望天気にまつわることば
22回目 前期の方言調査収録画像の確認(6) 自然環境のことば
23回目 方言調査の結果を生かした授業の事例紹介
24回目 ビデオ教材等の紹介、ムービーメーカーの使い方の説明指導 案例の紹介
25回目 グループワーク(1) 指導案のテーマ等の検討
26回目 グループワーク(2) 指導案のテーマ等の確定
27回目 グループワーク(3) 方言調査画像のビデオ教材への編集
28回目 グループワーク(4) 参考資料探し
29回目 グループワーク(5) 指導案の執筆、発表の準備
30回目 グループ毎の発表

その他　尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動を含む。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本語学特論 II A	2	前期　金 5, 6	丹保健一（教育学部）

授業の概要
日本語文法・語彙
国語教育の専門的知識
教師として必要な言語分析力を身につける。

学習の目的　日本語文法・語彙に対する疑問を解明する。

学習の到達目標
日本語の不思議に気づく。
日本語の文法・語彙的現象の背後にある法則に気づく。
日本語の文法・語彙的現象の背後にある法則性を理解する。
言語資料によって検証することができる。

教科書　その都度示す。

成績評価方法と基準　授業中の発言、提出物、単位論文

オフィスアワー　毎週火曜日7～8 場所：研究室

学習内容
学校文法の諸問題
1．文
2．文節
2．単語・接辞
3．単語・複合語
4．品詞（1）
5．品詞（2）
6．助詞・格助詞
7．助詞・副助詞
8．助詞・接続助詞
9．助動詞（ヴォイス）
10．助動詞（テンス）
11．助動詞（アスペクト）
12．助動詞（モダリティ）
13．主語・主題（1）
14．主語・主題（2）
15．指示詞
.
.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本語学特論ⅡB	2	後期　金5,6	丹保健一（教育学部）

授業の概要
日本語文法・語彙
国語教育の専門的知識
教師として必要な言語分析力を身につける。

学習の目的　日本語文法・語彙に対する疑問を解明する。

学習の到達目標
日本語の不思議に気づく。
日本語の文法・語彙的現象の背後にある法則に気づく。
日本語の文法・語彙的現象の背後にある法則性を理解する。
言語資料によって検証することができる。

教科書　その都度示す。

成績評価方法と基準　授業中の発言、提出物、単位論文

オフィスアワー　毎週火曜日7〜8 場所：研究室

学習内容
学年別漢字配当表の漢字選択基準をめぐって
1．学年別漢字配当表とは何か
2．学年別漢字配当表の変遷（1）
3．学年別漢字配当表の変遷（2）
4．当用・常用漢字表の変遷（1）
5．当用・常用漢字表の変遷（2）
6．学年別漢字配当表漢字選定基準をめぐって
7．常用漢字表漢字選定基準をめぐって
8．学年別漢字配当表漢字の使用実態（1）
各種言語データについて
9．学年別漢字配当表漢字の使用実態（2）
各種言語データの分析方法について
10．学年別漢字配当表漢字の使用実態（3）
「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の使用実態から
11．学年別漢字配当表漢字の使用実態（4）
「新聞」における使用実態から
12．学年別漢字配当表漢字の使用実態（5）
「教科書コーパス」における使用実態から
13．「学習難易度」「親密度」からのアプローチ
14．「音訓」「複雑度」等からのアプローチ
15．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本語学特論演習Ⅱ	2	通年　火3,4	川口 敦子

授業の概要　中世口語資料(キリシタン資料、狂言台本など)を題材に、日本語の諸問題について考察する。

学習の目的　用意されたテキストについて、その資料性を探り、また、そこに見いだせる諸問題を解決するために、適切な資料を収集し、論理的に説明して解決する力を身につける。

学習の到達目標
用意されたテキストを正確に読解することが出来る。
読解したテキストから日本語学に関連する諸問題を見いだし、適切な資料と論理的な思考で問題を解決することが出来る。

教科書　初回に受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法と基準　発表とレポート(70%), 授業への貢献度(30%)で総合的に判断する。

オフィスアワー　随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取ること)

学習内容
第1回 ガイダンス、テキストについて
第2回 中世口語資料について
第3〜14回
・テキストの読解
・問題発見
・考察, 発表
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		国文学特論ⅠA	2	前期　火7,8	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要
中島敦の作品「山月記」と、原拠となった中国文学作品の『人虎伝』等を、比較しながら読む。
昭和前期の作家のあり方や、戦争と作家の関係を視野にいれながら、作品が原拠を基にどのように構成されて行くか、考察する。

学習の目的　中島敦及び漢文教材について、中学・高校で授業を行えるだけの基礎知識を身に付け、文献等の調査の手法を会得する。

学習の到達目標　中学・高校での授業で使える話題・テーマについて、知識を得て、さらに深く調査できるようになる。

教科書　テキスト・資料は、ファイルをアップ、もしくはプリントを配布する。

成績評価方法と基準　・授業時の調査・考察、発表に対する積極性及びレポートの内容を総合して評価する。

オフィスアワー　月曜日・2コマ@研究室

学習内容
・「山月記」のテキストを、原拠となった中国文学作品と比較しながら、中島敦の作品構成の意図や、表現の工夫等を考察する。
・出席者の「感想」を大事にしながら、授業を進めたい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		国文学特論ＩＢ	2	後期　火7,8	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　和漢朗詠集に対する鎌倉時代の注釈書、永済注を読む。

学習の目的　和歌・漢詩、及び日本中世の文学史について、基本的知識及び読解能力を身に付ける。

学習の到達目標　中学・高校での授業で使える話題・テーマについて、知識を得て、さらに深く調査できるようになる。

教科書　テキストは配布する。但し、漢和辞典を各自用意すること。

成績評価方法と基準　予習の深度、レポート、授業時の積極性等を総合して評価する。

オフィスアワー
月曜日・2コマ@研究室

学習内容　毎回、和歌・漢詩の2首を、永済の注釈と比較しながら読む。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		国文学特論演習Ｉ	2	通年　火1,2	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　『古今和歌集』を、古注（特に、毘沙門堂本古今注）を視野にいれながら、その享受に重点をおいて考察する。一回に数首ずつ考察する。

学習の目的　中世における「注釈」というかたちの文学研究と、創作行為、表現活動の交渉を考察する。

学習の到達目標　中世における和歌の「注釈」の一つのあり方を検討し、和歌の読解ができる。

教科書　本文・資料は配布する

成績評価方法と基準　授業時の調査・考察、発表に対する積極性及びレポートの内容を総合して評価する。

オフィスアワー
月曜日・7・8限@研究室

学習内容　一回の授業につき、数首分を考察する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		国文学特論ＩＩＡ	2	前期　金7,8	松本 昭彦（教育学部）

授業の概要　芥川龍之介の『羅生門』を、原拠である『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』と比較しながら、作者の構築した物語世界を読解する。

学習の目的　原拠である古典作品を、芥川がどのように利用し、自らの物語を創作したのか、執筆過程を抑えながら、表現の意図を考察する。

学習の到達目標　中学・高校での授業で使える話題・テーマについて、知識を得て、さらに深く調査できるようになる。

教科書　テキスト・資料は、ファイルをアップ、もしくはプリントを配布する。

成績評価方法と基準　授業時の調査・考察、発表に対する積極性及びレポートの内容を総合して評価する。

オフィスアワー
月曜日・2コマ@研究室

学習内容
一回の授業で、少量（2〜3ページ分）ずつ進む予定である。
その範囲で、草稿や原拠と比較し、構成・表現がどう変えられたか考えることにより、作者の意図を考察する。
授業への出席者の「感想」を出し合うことにより進めたい。
また、「羅生門」は高校の国語の定番教材でもあるので、高校での授業化も意識する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		書道特論A	2	前期　水1,2	林朝子（教育学部）

授業の概要　楷書古典の臨書（鑑賞・書史を含む）に取り組み、書写指導・教材開発で生かせる毛筆硬筆による表現力を養う。

学習の目的　書写指導の向上を目指す。

学習の到達目標
・楷書の様々な運筆を学び、表現できるようにする。
・書写における問題点を考えながら、幅広い書写の実践ができる基礎力を身につける。

教科書　プリント配布、各自が選ぶ楷書古典

成績評価方法と基準　積極的に課題に向かう姿勢、実技課題、レポート課題、以上を総合的に評価

オフィスアワー　木曜日昼休み（教育学部1号館4階、林研究室）

学習内容
1．書写教育とは
2．書写の運筆
3．4．『九成宮醴泉銘』臨書と鑑賞
5．6．『孔子廟堂碑』臨書と鑑賞
7．8．『雁塔聖教序』臨書と鑑賞
9〜14．古典に基づき、制作と発表
15．まとめ
※毎時一人ずつ書や書写書道教育に関する発表を行う

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		書道特論B	2	後期　水3,4	林朝子（教育学部）

授業の概要　行書古典の臨書（鑑賞・書史を含む）に取り組み、書写指導・教材開発で生かせる毛筆硬筆による表現力を養う。

学習の目的　書写指導の向上を目指す。

学習の到達目標
・行書の様々な運筆を学び、表現できるようにする。
・書写における問題点を考えながら、幅広い書写の実践ができる基礎力を身につける。

予め履修が望ましい科目　書道特論A

成績評価方法と基準　積極的に課題に向かう姿勢、実技課題、レポート課題、以上を総合的に評価

オフィスアワー　木曜昼休み（教育学部1号館4階、林研究室）

学習内容
1．書写教育とは
2．書写の運筆
3．4．『蘭亭序』臨書と鑑賞
5．6．『風信帖』臨書と鑑賞
7〜14．古典に基づき、制作と発表
※古典は各自が関心のあるものを取り上げる
15．まとめ
※毎時一人ずつ書や書写書道教育に関する発表を行う

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		書道特論演習	2	通年　火1,2	林朝子

授業の概要　古典作品の鑑賞と書史における位置づけを考えながら、臨書に取り組み、書写指導・教材開発で生かせる毛筆硬筆による表現力を養う。

学習の目的　書写指導が可能な表現力を身に着け、書写指導の向上を目指す。

学習の到達目標
様々な古典の運筆を学び、表現できるようにする。
書写における問題点を考えながら、幅広い書写の実践ができる力を伸ばす。

予め履修が望ましい科目　書道特論A、書道特論B

教科書　プリント配布、各自が選ぶ古典作品

成績評価方法と基準　積極的に課題に向かう姿勢、実技課題、レポート課題、以上を総合的に評価する

オフィスアワー　木曜昼休み（教育学部1号館4階、林研究室）

学習内容
1．書写教育とは
2．運筆
3．〜8．古典の鑑賞と臨書（各自で取り上げた古典作品）
9．〜14．古典に基づき制作と発表
15．まとめ
※毎時一人ずつ書に関する発表を行う予定

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		社会科教育特論Ⅰ	2	前期　金5,6	山根栄次(教育学部社会科教育講座教授)

授業の概要　社会科教育に関する理論・歴史についての大学院水準の理解をさせる。

学習の目的　日本の学校で社会科という教科がどのように発足し、今日までどのように推移してきたのかを理解する。その過程において、どのような社会科理論が形成され、論争が行われたのか、どのような代表的な授業実践が行われたのかを知る。

学習の到達目標　社会科教育に関する理論・歴史について大学院水準の理解をする。

教科書　魚住、山根他編『21世紀社会科への招待』学術図書出版

成績評価方法と基準　レポート50%、授業中の質問・意見など授業への貢献50%。

オフィスアワー　毎週火曜13時00分〜14時00分、社会科教育第1研究室

学習内容
1.2.3.日本における社会科発足時における社会科教育の理論
4.5.6.7.8.日本における社会科教育課程の推移
9.10.11.12.日本における社会科教育学の理論的展開
13.14.15.今日の日本における社会科教育の諸課題
16.振り返りレポート作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		社会科教育特論演習 I	1	後期　金 5, 6	山根栄次(教育学部社会科教育講座教授)

授業の概要　学校における経済教育および政治教育など公民的資質・市民的資質の育成に関する理論と実践を紹介し、検討する。

学習の目的　学校における経済教育および政治教育など公民的資質？市民的資質の育成に関する深い理解を得る。

学習の到達目標　学校における経済教育および政治教育など公民的資質・市民的資質の育成に関する深い理解を得る。

受講要件　社会科教育特論Iを履修済であること。

予め履修が望ましい科目　経済学特論、法律学特論、政治学特論

教科書
魚住忠久・山根栄次他編著『グローバル時代の』経済リテラシー、ミネルヴァ書房、2005年
日本公民教育学会編『公民教育事典』第一学習社

成績評価方法と基準　レポートの内容50%、発表・討論への参加度50%

オフィスアワー　毎週火曜13:00〜14:00、場所:社会科教育第1研究室

学習内容
1.2.3.4.5 日本及び外国におけるシチズンシップ教育と経済教育の現状と課題
6.7.8.9 日本と外国におけるシチズンシップ教育と経済教育のカリキュラム
10.11.12.13.14.15 経済教育の新展開(税・財政教育、環境経済教育、消費者経済教育、福祉経済教育、金融経済教育、起業家教育)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		社会科教育特論 II	2	後期　木 7, 8	永田 成文(三重大学教育学部)

授業の概要　社会科の先行授業実践を分析し，三重県の地域に関するテーマ，異文化理解に関するテーマ，地球的課題に関するテーマ，自然科学・社会科学に関するテーマから選択して社会科授業を構想し，実践的な視点から検討し改善する。

学習の目的　社会科教育の先行実践を目的・内容・方法という視点から分析し，設定したテーマに基づく小単元の授業を構想できる。

学習の到達目標　先行実践に学び，設定したテーマに基づいて教材を集め，目的と手立てを意識した授業を構想することができる。

受講要件
人文・社会系教育領域の社会科教育を専攻する学生は受講することが望ましい。他専攻や他領域の学生も受講可能であるが，全受講生数を10名くらいまでとする。
2年前期の社会科教育特論演習 II まで連続して受講すること。

予め履修が望ましい科目
学部：社会科教育法 I ・ II
学部：社会教材研究

教科書　個々の設定する教材に関係する本や教科書を各自調達

成績評価方法と基準　「参加態度」= 50%，「提案教材」= 50%

オフィスアワー　毎週木曜日13:00〜14:00，共通教育1号館3F社会科教育第2研究室

学習内容
1回目 ガイダンス(教材開発のすすめ方)
2〜 6回目 教材開発事例から学ぶ(全体)
7〜10回目 希望教材開発の概要発表(個人)
11〜13回目 教材開発構想発表(個人)
14回目 研究テーマ・分担決定(グループ)
15回目 研究テーマの先行実践分析(グループ)

その他　社会科教育専攻の学生は社会科教育特論 II と社会科教育特論演習 II は連続しているので両方を受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		社会科教育特論演習 II	1	前期　木 7, 8	永田 成文(三重大学教育学部)

授業の概要　目標，内容，方法を明確にした社会科授業を開発し，仮説をたて，実際に実践することによって，開発した授業の目的が達成されたのかを分析し，さらに授業改善を図る。

学習の目的　グループで開発した小単元が，実際に設定した目標を達成したのか(児童・生徒にどのような教育効果があったのか)を分析し，授業の改善策を考える。

学習の到達目標　授業を開発し，教育現場で授業を実践し，仮説を基に開発した授業の効果を分析できる。

受講要件　社会科教育を専攻する学生は履修することが望ましい

予め履修が望ましい科目　社会科教育特論 II が必履修である

教科書　グループの実践に関係する本や教科書を各自調達

成績評価方法と基準　「参加態度」= 50%，「授業実践」= 50%

オフィスアワー　毎週木曜日13:00〜14:00，共通教育1号館3F社会科教育第2研究室

学習内容
1回目 ガイダンス(教育実践のすすめ方)
2〜 5回目 授業実践の改善案発表(グループ)
6〜 7回目 現場見学・打ち合わせ(実践校)
8〜 9回目 授業実践の準備・細案検討(グループ)
10〜13回目 授業実施(グループ)5月下旬〜6月上旬
14〜15回目 授業反省

その他　社会科教育専攻の学生は社会科教育特論 II と社会科教育特論演習 II は連続しているので両方を受講すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本史特論 I	2	前期　木 1, 2	藤田 達生（教育学部社会科教育）

授業の概要　戦国・織豊期から江戸前期の社会を、室町幕府論・織豊政権論・江戸幕府論・城郭論・都市論・村落論などの観点から総合的に分析する。

教科書　拙稿「戦争と城」（『日本史講座 近世1』東京大学出版会、2004年）拙著『天下統一』（中公新書、2014年）

成績評価方法と基準　報告と出席

オフィスアワー　水曜日午前10時～11時

学習内容　信長・秀吉・家康による天下統一像に新たな視点を提示することにしたい。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本史特論演習 I	1	後期　木 1, 2	藤田 達生（教育学部社会科教育）

授業の概要　城郭調査・荘園調査の方法を学び、文化財保存問題を検討する。

学習の目的　歴史学研究の方法を身につける。

学習の到達目標　修士論文のテーマを確定する。

教科書　拙稿「戦争と城」（『日本史講座 近世1』東京大学出版会、2004年）拙著『天下統一』（中公新書、2014年）

成績評価方法と基準　発表と出席

オフィスアワー　午前10時～11時

学習内容
1．オリエンテーション
2．論文の読み方 I
3．論文の読み方 II
4．論文の読み方III
5．調査の方法 I
6．調査の方法 II
7．調査の方法III
8．論文の書き方 I
9．論文の書き方 II
10．論文の書き方III
11．修論草稿発表 I
12．修論草稿発表 II
13．修論草稿発表III
14．修論草稿発表IV
15．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本史特論 II	2	前期　火 5, 6	山田 雄司（人文学部）

授業の概要　古代・中世の宗教について、さまざまな文献を通じてそのあり方について考察する。

学習の目的　修士論文作成に向けて文献の読解能力を向上させる。

学習の到達目標　古代・中世宗教に関する基本的知識を得る。

成績評価方法と基準　発表による。

オフィスアワー　毎週火曜日14:40～16:00、場所山田研究室

学習内容
第1回 授業概要
第2回～第5回 基礎的論文の輪読
第6回～第9回 古代・中世宗教史料の検討
第10回～第14回 修士論文作成に向けての発表
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		日本史特論演習 II	1	後期　火 5, 6	山田 雄司（人文学部）

授業の概要　古代・中世信仰に関する文献を講読して神道と仏教との関わりについて検討する。

学習の目的　修士論文作成にむけて古代・中世信仰に関する知識を深める。

学習の到達目標　修士論文の具体的内容について詰めていく。

成績評価方法と基準　発表による。

オフィスアワー　毎週火曜日14:40～16:00、場所山田研究室

学習内容
第1回 授業概要
第2回～第5回 基礎的論文の輪読
第6回～第9回 古代・中世信仰史料の検討
第10回～第14回 修士論文作成に向けての発表
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		東洋史特論	2	前期　月 9, 10	大坪 慶之

授業の概要　日本語・外国語文献の講読、史料講読などを行う。

学習の目的　東アジア史に関する幅広い専門知識の獲得を目指す。

学習の到達目標　修士論文を作成するための基礎となる知識・能力を養う。

成績評価方法と基準　出席点と平常点（発表・討論）による。

学習内容　担当者が、文献・史料に書かれた内容をまとめ、全員で討論する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		東洋史特論演習	1	後期　月 9, 10	大坪 慶之

授業の概要　研究報告、史料講読、外国語文献の講読などを行う。

学習の目的　東アジア史に関する研究方法を身につける。

学習の到達目標　本演習での発表を基に、修士論文を作成する能力を身につけることを目標とする。

予め履修が望ましい科目　東洋史特論

成績評価方法と基準　出席点と平常点（発表・討論）による。

学習内容　受講者の興味・関心に基づき、発表・討論を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		哲学特論	2	前期　月 3, 4	秋元ひろと

授業の概要　西洋哲学の諸問題について，基本的文献を講読しながら解説する。

学習の到達目標　哲学的な問題把握の方法を身につける。

学習内容
1 導入 授業計画説明
2-14 西洋哲学の諸問題
・存在論の諸問題
・認識論の諸問題
・価値論の諸問題
15 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		哲学特論演習	1	後期　月 3, 4	秋元ひろと

授業の概要　西洋哲学の諸問題について，文献等に基づいて各自が展開した思考をまとめて発表する。

学習の到達目標　哲学的に思考を展開し，表現する能力を身につける。

学習内容
1 導入 授業計画説明
2 レジュメ発表の基本
3-14 受講生によるレジュメ発表
15 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		倫理学特論	2	前期　月 1, 2	遠山 敦

授業の概要　伊藤仁斎『孟子古義』を読解し，朱子学との対比などからその思索の特質を理解する。

学習の目的　伊藤仁斎『孟子古義』の読解を通じて，宋学との対比などからその思想的特質を理解することができるようになる。

学習の到達目標　伊藤仁斎の『孟子』解釈の概要について，理解することができるようになる。

教科書　開講時に指示する。

成績評価方法と基準　毎時間課すレポートで評価する。

オフィスアワー　金曜日7・8限

学習内容
伊藤仁斎『孟子古義』の問題点について解説を加えていく。
なお，受講にあたっては漢文の基本的な読解力を求める。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		倫理学特論演習	1	後期　月 1, 2	遠山 敦

授業の概要　伊藤仁斎『孟子古義』を読解し，朱子学との対比などからその思索の特質を理解する。

学習の目的　伊藤仁斎『孟子古義』の読解を通じて，宋学との対比などからその思想的特質を理解することができるようになる。

学習の到達目標　伊藤仁斎の『孟子』解釈の概要について，理解することができるようになる。

教科書　開講時に指示する。

成績評価方法と基準　毎時間課すレポートで評価する。

オフィスアワー　金曜日7・8限

学習内容
毎時間，テキストのあらかじめ指定された範囲について，発表形式で授業を行う。
なお，受講者には漢文の基本的な読解力を求めるので，受講の際は注意すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		自然地理学特論	2	前期　月 9, 10	宮岡邦任

授業の概要　地球を取り巻く自然現象の諸要素のうち，特に水文現象・水文環境に焦点をあて，陸水の賦存量・性質・循環について講義する．人間生活の基盤として水文現象・水文環境を捉えることにより，水と地域，水と人間との相互関係について理解していく．

学習の到達目標　将来の環境教育・防災教育に役立てるために，現在の地球環境を水文循環と人間生活との関係からとらえ理解することができる．

教科書　教科書は用いず，資料を配付する．参考書は適宜紹介する．

成績評価方法と基準　レポート80%，出席20%

オフィスアワー
毎週火曜日14:40〜16:10 宮岡研究室．この時間外でも，研究室に在室時には常時対応する．
miyaoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．はじめに
2．自然地理学における水文学の位置づけ
3．人間生活と自然環境
4．地域学習の重要性
5．学校教育の中での地域学習・水文学の扱われ方を考える
6．身の回りの水にまつわる環境問題を考える
7．地域の環境問題について調べる
8．現地調査の計画
9．現地調査の実施
10．環境データの収集法
11．環境データの分析
12．環境データの解析
13．わかりやすい作図法
14．環境変化の解析と考え方
15．まとめ
16．試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		自然地理学特論演習	1	後期　月 9, 10	宮岡邦任

授業の概要　水資源の開発と利用や土地利用の変化に伴う水文環境の変貌をテーマに，水質汚染・地盤沈下・流出形態の変化など，実際的かつ今日的な事例を取り上げて指導する．併せて，環境保全の重要性について，改めて考え直す機会とする．また，社会科教科書の中で扱われている自然地理学の内容について，専門知識の理解の必要性についても触れていく．

学習の到達目標　身近な環境問題について，問題解決の手段が模索でき，実行できる足がかりを作る．

予め履修が望ましい科目　自然地理学特論，自然地理学野外実習

教科書　教科書は用いず資料を配付する．参考書は適宜紹介する．

成績評価方法と基準　レポート50%，出席50%

オフィスアワー
毎週火曜日14:40〜16:10 宮岡研究室．時間外でも研究室在室時には常時対応する．
miyaoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．はじめに
2．水文環境に関する文献購読
3．内容に関する討論
4．地下水環境に関する文献購読
5．内容に関する討論
6．河川環境に関する文献購読
7．内容に関する討論
8．地形に関係する文献購読
9．内容に関する討論
10．気候・気象に関する文献購読
11．内容に関する討論
12．環境変化に関する文献購読
13．内容に関する討論
14．自然災害に関する文献購読
15．内容に関する討論
16．試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		自然地理学野外実習	1	前期集中	宮岡邦任

授業の概要　自然地理学の野外調査の実際について，特に水文観測の方法に重点を置き，具体的な地域を対象に指導する．観測結果の解釈と考察の仕方に関しても指導する．

学習の到達目標　実際の自然地理学的現象が理解でき，観測機器の使い方を現地において習得する．

受講要件　フィールドでの作業には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること．

予め履修が望ましい科目　自然地理学特論

教科書　教科書は用いず，資料を配付する．参考書は適宜紹介する．

成績評価方法と基準　出席50%，レポート50%

オフィスアワー
毎週火曜日14:40〜16:10 宮岡研究室．時間外でも研究室在室時には常時対応する．
miyaoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 はじめに
第2〜4回 地域外観を把握する
第5〜14回 観測機器の使い方，実際の自然地理学的現象の見学
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		人文地理学特論	2	前期　木 3, 4	宮崎 清

授業の概要　人文地理学の方法を概説するとともに地域における諸問題を検討する。

学習の目的　地域を分析する方法を身につけることができる。

学習の到達目標　地域の諸問題について地域分析ができる。

成績評価方法と基準　レポート

オフィスアワー　毎週月曜日14：40～16：10、研究室

学習内容
現在話題となっている、あるいは受講生が関心を持っている地域の諸問題を、
学問成果、調査方法をもとに分析・検討する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		人文地理学特論演習	1	後期　木 3, 4	宮崎清

授業の概要　地域の諸問題を科学的に分析・検討する。

成績評価方法と基準　レポート

学習内容　受講生が興味を持つ地域問題について資料収集、調査し、発表を基に検討する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		人文地理学野外実習	1	前期集中	宮崎 清

授業の概要　フィールドで人文地理学調査をおこなう。

成績評価方法と基準　レポート

学習内容

フィールドの決定
資料収集
現地調査
まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		経済学特論	2	前期　火 7, 8	内田秀昭

授業の概要　マクロ経済学に関する基礎理論の習得を通じて、日本のマクロ経済問題に対して自ら考える能力を身に付けることを目指す。

学習の目的
・国民経済計算の考え方・使い方を習得する
・マクロ経済学に関する基礎理論を習得する
・日本のマクロ経済問題に対して自ら考える能力を身に付ける

学習の到達目標
・マクロ経済学に関する基礎理論を習得する
・日本のマクロ経済問題に対して自ら考える能力を身に付ける

教科書　授業開始時に配布します。

成績評価方法と基準　授業態度、テスト、レポートなどを総合的に評価する。

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 国民経済計算の考え方・使い方(1)
第3回 国民経済計算の考え方・使い方(2)
第4回 国民経済計算の考え方・使い方(3)
第5回 資金循環表と国際収支統計の作り方・見方(1)
第6回 資金循環表と国際収支統計の作り方・見方(2)
第7回 労働統計
第8回 マクロ経済モデルの基本的な考え方(1)
第9回 マクロ経済モデルの基本的な考え方(2)
第10回 マクロ経済モデルの基本的な考え方(3)
第11回 閉鎖経済の短期モデルの展開(1)
第12回 閉鎖経済の短期モデルの展開(2)
第13回 閉鎖経済の短期モデルの展開(3)
第14回 閉鎖経済の短期モデルの展開(4)
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		経済学特論演習	1	後期　火 3, 4	内田 秀昭（教育学部）

授業の概要　マクロ経済学に関する基礎理論の習得を通じて、日本のマクロ経済問題に対して自ら考える能力を身に付けることを目指す。

学習の目的
・マクロ経済学に関する基礎理論を習得する
・日本のマクロ経済問題に対して自ら考える能力を身に付ける

学習の到達目標
・マクロ経済学に関する基礎理論を習得する
・日本のマクロ経済問題に対して自ら考える能力を身に付ける

予め履修が望ましい科目　経済学特論

教科書　授業時に配布する。

成績評価方法と基準　授業態度、テスト、レポートなどを総合的に評価する。

学習内容
第1回 ガイダンス
第2回 閉鎖経済の中期モデルの展開（1）
第3回 閉鎖経済の中期モデルの展開（2）
第4回 閉鎖経済の中期モデルの展開（3）
第5回 開放経済の展開（1）
第6回 開放経済の展開（2）
第7回 開放経済の展開（3）
第8回 開放経済の展開（4）
第9回 労働市場の長期モデル（1）
第10回 労働市場の長期モデル（2）
第11回 閉鎖経済の長期モデル（1）
第12回 閉鎖経済の長期モデル（2）
第13回 閉鎖経済の長期モデル（3）
第14回 閉鎖経済の長期モデル（4）
第15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		法律学特論	2	前期　金 5, 6	手塚 和男

授業の概要　子どもにかかわる基本的人権の諸問題を採り上げ、学校教育においてとくに注意しなければならに事項を論述する。とくに2013年に我が国が批准した国連の障がい者権利条約を扱い、同条約24条に規定するインクルーシブ教育について検討を加える。

学習の目的　インクルーシブ教育が障害者の教育だけでないことを理解し、普通学校におけるインクルーシブ教育はどうあるべきか、どのようなプロセスなのかの理解を深める。

学習の到達目標　子どもにかかわる基本的人権の問題についての基本的理解を獲得し、教育における実践への応用が可能になる力をつけることができる。

受講要件　特になし。

成績評価方法と基準　レポート及びプレゼンテーション

オフィスアワー　金曜日13：00〜14：00法律学研究室（共通教育1号館、415号室）

学習内容
1．子どもの権利条約
2．子どもの権利条約
3．障がい者権利条約
4．障がい者権利条約
5．障がい者権利条約
6．障がい者権利条約
7．障がい児の教育を受ける権利
8．インクルーシブ教育への展開過程
9．インクルーシブ教育とは、
10．インクルーシブ教育
11．日本における特別支援教育
12．特別支援教育
13．特別支援教育
14．女性差別撤廃条約
15．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		法律学特論演習	2	後期　金 3, 4	手塚 和男(教育学部)

授業の概要　女性差別撤廃条約、子どもの権利条約、障害者権利条約などの国際人権条約について、日本における現状を踏まえて、判例、学説を検討する。差別、いじめ、体罰等についての子どもの権利委員会による日本政府への総括所見を素材に検討を進める。

学習の目的　差別の対象となる人々の基本的人権の問題を考えることによって、学校における児童・生徒の基本的人権の問題に対応できる基礎的な知識を得ることができる。

学習の到達目標　学校生活における子どもの人権をめぐる様々な問題に対して、国際的水準の権利保障制度の観点から対応できるようになる。

成績評価方法と基準　各人に報告とレポートの提出を課して、その取り組みを評価する。

オフィスアワー　毎週金曜日12：00〜13：00

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		政治学特論	2	前期　水 1, 2	馬原潤二（教育学部）

授業の概要　現代民主主義の問題点を検討するために、民主主義理論の古典的著作を輪読する。具体的に何を読むかは受講者と相談して決める。

学習の目的　政治的思考を涵養することを目的とする。

学習の到達目標　政治的思考ができるようになる。

教科書　受講者と相談して決める。

成績評価方法と基準　討論・報告100%

学習内容　現代民主主義の問題について検討するために、民主主義理論の著作を輪読する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		政治学特論演習	2	後期　水 1, 2	馬原潤二（教育学部）

授業の概要　現代政治の論点について取り扱った著作を講読し、その論点をめぐる各自の政治的見解についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。

学習の目的　政治学のテキストを講読し、テキストに内在する問題について議論し表現できるようにする。

学習の到達目標　政治学のテキストを講読し、テキストに内在する問題について議論し表現できるようにする。

予め履修が望ましい科目　政治学特論

教科書　受講者と相談して決定する。

成績評価方法と基準　討議・報告100%

オフィスアワー　随時

学習内容
1.イントロダクション
2-15.プレゼンテーション及びディスカッションを行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語科教育特論 I	2	前期　木 5, 6	荒尾浩子

授業の概要　英語科教育の成果を高めるためには、外国語学習に特有である学習者の情意的要因の重要性を英語教員が理解することは必須である。経験からくる勘にのみ依存して教育実践をしていてはいけないことを認識する。外国語学習者論、二言語習得理論、コミュニケーション心理、教育心理の知識を理解する。日本における英語科教育にそれらの知見を当てはめ、応用することによって授業を展開する方法や英語の教科書内の題材を活用する教育方法や技術について論じ考察する。

学習の目的　英語教育における学習者論に関する知識を得る。

学習の到達目標　英語科教育における指導法において学習者論を中心に理解を深めることにより、英語を学習する際の生徒の情意的要因を念頭においた指導の方法、教授技能を習得することを目標とする。

教科書　授業内で指示する。

オフィスアワー　毎週木曜7・8時限

学習内容
授業計画
第1回 英語科教育おける中学校、高等学校における指導の目標、教育の実態、学習者の問題、生徒の自立学習について
第2回 外国語教育における学習者論、第二言語習得理論と日本の英語教育について
第3回 外国語教育における情意要素とは何か
第4回 英語科における不安感に関す過去の実験、研究、理論、4技能との関係
第5回 英語のスピーキングにおける不安感軽減のための教育方法、教育技術
第6回 英語のリーディングにおける不安感軽減のための教育方法、教育技術
第7回 英語のライティングにおける不安感軽減のための教育方法、教育技術
第8回 英語のリスニングにおける不安感軽減のための教育方法、教育技術
第9回 英語の授業内における生徒の持つ不安感と動機付けの関係
第10回 英語学習における生徒の動機付けを高める目標設定や教師のフィードバックの方法
第11回 英語指導における動機付けを高める教材作成、活用の方法
第12回 英語の教科書内のリーディング教材の題材を重視した学習者の興味を高める指導方法
第13回 英語の教科書内の文化的要因を重視した学習者の興味を高める指導方法
第14回 英語の授業内における生徒の動機付けを高めるための情報メディアの活用方法
第15回 英語科教育における生徒の自立学習を支持する方法
第16回 英語科における生徒の達成感、自己効力を高め生涯英語学習者を育成する方法

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語科教育特論演習 I	1	後期　木 5, 6	荒尾浩子

授業の概要　英語を中心とする外国語学習、外国語教育に関する様々な文献、ジャーナルの論文を読み、議論を通してより専門的な知識を習得し、各々の修士論文へのテーマへ洞察を与える。

学習の目的　英語教育に関する全般的な知識を得る。

学習の到達目標　英語教育全般に関する広い知識が習得し、専門的論文を読みこなし自ら論じられるようになる。

オフィスアワー　毎週水曜3・4時限

学習内容
授業計画
第1回：外国語学習と学習者年齢
第2回：外国語学習と学習ストラテジー
第3回：外国語学習と学習者のパーソナリティー
第4回：外国語学習と学習者の情意的経験
第5回：外国語学習と学習者の制御感
第6回：外国語学習における学習者の自己決定
第7回：外国語学習と学習者の動機付け志向
第8回：英語教育研究における質的分析：学習者の観察
第9回：英語教育研究における質的分析：学習者ダイアリー
第10回：英語教育研究における量的分析：解釈の仕方
第11回：英語教育研究における量的分析：実際の数値を使って
第12回：日本の英語教育における学習者の問題
第13回：諸外国における英語教育の実態
第14回：英語教育における教員の役割
第15回：英語教育における題材の取り上げ方
第16回 英語教育における教材論

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語科教育特論 II	2	前期　月 3, 4	早瀬光秋（教育学部英語教育講座）

授業の概要　言語習得の最新理論を考察し実践への応用力をつける。

学習の目的　言語習得の最新理論についての理解を深め、実践へ応用できる。

学習の到達目標　最新の言語習得理論を身につけることができる。そしてその理論を日々の授業に生かすことができる。

教科書　最初の授業で指示する。

成績評価方法と基準　毎回の授業発表, 雑誌論文要約作成、期末論文

オフィスアワー
月曜日、13:00-14:30
メールアドレス：hayase@edu.mie-u.ac.jp
教育学部棟3階、早瀬研究室

学習内容　英語教育が言語習得の研究から学ぶ点は多い。そういう意味で授業では言語習得をテーマとし、第一言語習得、第二言語習得、学習者言語、教室における言語学習、学習者年齢、言語適正等について考察する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語科教育特論演習 II	1	後期　月 3, 4	早瀬 光秋（教育学部英語教育講座）

授業の概要　特論で学んだ理論の実践応用を考察する。

学習の目的　実践的知識・技術を身につける。

教科書　最初の授業に指示する。

成績評価方法と基準　毎週の発表, ジャーナル論文要旨、期末レポート。

オフィスアワー
月曜日、13:00-14:30
メールアドレス：hayase@edu.mie-u.ac.jp
教育学部棟一号館、3階、早瀬研究室

学習内容　特論での探求に基づき、言語習得の研究と英語の実践的な指導法についての接点を見出すことを目的とする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語学特論 I	2	前期　水 1, 2	西村秀夫

授業の概要　学校現場（中学校、高等学校）における英文法教育の質の向上をめざし、科学的英文法の研究成果を学習英文法、文法指導に生かすための方策について考察する。

学習の目的　受講者それぞれが、英文法を捉える視点、文法的な思考法を身につけること。

教科書　Depraetere Ilse and Chad Langford (2012) _Advanced English Grammar: A Linguistic Approach_(Continuum)

成績評価方法と基準　教室での活動（発表・小テスト）40%、期末レポート 60%

オフィスアワー　前期 月曜7-8限 西村研究室（事前調整要）

学習内容
第1回〜第2回 Getting started.
第3回〜第6回 Aspect and tense.
第7回〜第10回 Modals and modality.
第11回〜第14回 Discourse.
第15回 Report presentation.

その他　講義科目ではあるが演習形式で行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語学特論演習 I	1	後期　火 1, 2	西村秀夫

授業の概要　言語はそれを使用する人がいる限り変化する。この授業では、英語の通時的な変化の諸相を分析することを通じて、言語変化のダイナミズム、メカニズムを理解し、「国際語としての英語」のありように対する観察力・洞察力を深めることを目的とする。

学習の目的　言語変化のダイナミズム、メカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

教科書　R.Watts and P.Trudgill (eds.)_Alternative Histories of English_(Routledge 2002)

成績評価方法と基準　教室での活動（発表・小テスト）40%、期末レポート 60%

オフィスアワー　後期 火曜5-6限 西村研究室（事前調整要）

学習内容
指定した教科書から、言語変化の要因としての語用論と統語論の相互作用を扱った4編の論文を講読する。
1 Introduction
2 Watts論文の講読と検討(1)
3 Watts論文の講読と検討(2)
4 Watts論文の講読と検討(3)
5 Millar論文の講読と検討(1)
6 Millar論文の講読と検討(2)
7 Millar論文の講読と検討(3)
8 Nevalainen論文の講読と検討(1)
9 Nevalainen論文の講読と検討(2)
10 Nevalainen論文の講読と検討(3)
11 Jucker論文の講読と検討(1)
12 Jucker論文の講読と検討(2)
13 Jucker論文の講読と検討(3)
14 まとめ
15 レポート発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語学特論 II	2	前期　月 1, 2	宮崎彰男（非常勤講師）

授業の概要　Investigating how language creates reality rather than just reports it

学習の目的　コミュニケーションの単なる媒介としての言語というよりも私たちの認識に深く関わるものとしての言語の側面に関心を持ち、その働きについての専門的な知識を持つ。

学習の到達目標　言語についての上記の観点から、具体的なディスコースを分析的に観察することができる。

教科書　D.Lee (1992).Competing Discourses: Perspective and ideology in language (London & New York, Longman)

成績評価方法と基準　Participation and reports

オフィスアワー
連絡先窓口：
人文・社会系教育領域（英語教育部門）代表

学習内容
1 Introduction
2-3 Functions of language: categorization
4-5 Functions of language: selection
6-7 Relevant discourses that serve to show how the functions are working
8-12 Linguistic categories and conceptual categories: Saussure, Whorf, Dixon, Lakoff
13-14 Conceptualization and language as an aspect of human behaviour: mediation of a particular understanding as in Golding's The Inheritors and Faulkner's The Sound and the Fury
15 Recapitulation

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語学特論演習 II	1	後期　月 1, 2	宮崎彰男（非常勤講師）

授業の概要　Investigating how language creates reality rather than just reports it

学習の目的　コミュニケーションの単なる媒介としての言語というよりも私たちの認識に深く関わるものとしての言語の側面に関心を持ち、その働きについての専門的な知識を持つ。

学習の到達目標　言語についての上記の観点から、具体的なディスコースを分析的に観察することを通して一定の記述をすることができる。

教科書　D.Lee (1992).Competing Discourses: Perspective and ideology in language (London & New York, Longman)

成績評価方法と基準　Participation and reports

オフィスアワー
連絡先窓口：
人文・社会系教育領域（英語教育部門）代表

学習内容
1 Review: language and world-view
2 Everyday metaphor as a matter of conceptualization rather than of language
3-4 Metaphor on lexical level
5-9 Metaphor on discourse level
10-12 Language and perspective
13-14 Ideological transformation
15 Recapitulation

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語学特論 III	2	前期　火 5, 6	澤田 治（人文学部）

授業の概要　この授業では、英語と日本語におけるスケール表現の意味を詳細に検討しながら、理論言語学（とりわけ意味論・語用論）の基本的な考え方、分析方法を学ぶ。具体的には、日英語の「程度副詞」、「あいまい表現」、「感情表出表現」、「比較表現」等の意味、機能に焦点を当て、意味と構造の対応関係や、「前提」、「推意」、「発話行為」といったコンテクストと深く関わった意味の意味解釈メカニズムについて考察する。

学習の目的　英語、日本語におけるスケール表現の意味を詳細に検討し、ことばの意味解釈の背後にある原理や法則性・体系性を理解する。

学習の到達目標　具体的な言語現象を言語理論を用いて分析できるようになる。

教科書　教科書は使用しません。

成績評価方法と基準　授業での発表・ディスカッション50%、レポート50%

オフィスアワー　連絡先窓口：人文・社会系教育領域（英語教育部門）代表

学習内容
Week 1: Introduction (semantics/pragmatics)
Week 2-3: Adjective (vagueness)
Week 4-6: Imprecision
Week 7-9: Intensifiers and exclamatives
Week 10-12: Hedges
Week 13-14: Expressives
Week 15: Presentations

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英語学特論演習 III	1	後期　火 7, 8	澤田 治（人文学部）

授業の概要　本演習では、ことばの意味を談話構造(discoruse structure)の観点から考察する。具体的には、モダリティと談話標識（discourse particles）の意味に焦点を当て、(i) 我々は会話を進めていく中で、どのように聞き手と情報を共有しているのか、(ii) モダリティ、談話標識は情報のアップデートに関してどのような役割を果たしているのか、(iii) 非命題的意味（前提、慣習的推意）と命題的意味の間には情報のアップデートに関してどのような違いがあるのか、といった問題を、意味論、語用論および言語哲学の観点から考察する。

学習の目的　英語、日本語におけるモダリティ・談話表現の意味を詳細に分析し、ことばの意味解釈の背後にある原理や法則性・体系性を理解する。

学習の到達目標　具体的な言語現象を言語理論を用いて分析できるようになる。

予め履修が望ましい科目　英語学特論 III

教科書　教科書は使用しません。

成績評価方法と基準　授業での発表・ディスカッション50%、レポート50%

オフィスアワー
連絡先窓口：
人文社会系教育領域英語教育部門代表

学習内容
Week 1:　Introduction (common ground, update semantics, dynamic semantics)
Week 2-3: Assertion
Week 4-6: Modality
Week 7-9: Discourse particles
Week 10-12: Performativity, evidentiality
Week 13-15: At-issue vs.non-at-issue meanings
Week 16: Presentations

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英米文学特論 I	2	前期　月 5, 6	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
英語教員にとって最低限必要と思われる英詩の基礎知識の講義。
英詩についての理解を深めると同時に、文学テクストのとらえ方と分析的批評方法を学ぶ。
具体的な作品を提示し、その精読を通して、英詩の歴史と展開、各ジャンルの特徴、修辞技法・韻律法、詩的感受性や世界観等について学ぶ。

学習の目的
1）英詩に関する基礎知識を得る。
2）有名な英詩の読解経験を得る。
3）英詩鑑賞を通して言語の創造的機能について認識を深める。
4）文学テクストの分析的批評態度及び分析方法を修得する。

学習の到達目標
1）英詩についての基礎知識を得る。
2）有名な英詩の読解を経験する。
3）言語の創造的機能に対する認識する。
4）文学テクストをとらえる分析的批評態度を学ぶ。
5）文学テクストの分析方法を知る。

教科書
Harold Bloom (ed.), The Best of the English Language: from Chaucer through Robert Frost (Harper Perennial)［変更の可能性あり］
及びハンドアウト

成績評価方法と基準
毎回の予習状況および発表とレポート：30%
期末英文レポート：70%

オフィスアワー
水曜日3-4限（10:30-12:00）、宮地研究室
miyachi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：授業概要説明。英詩韻律法の概説
第2回：William Blake（1）象徴としての無垢：“Infant Sorrow”, “The Garden of Love”
第3回：William Blake（2）無垢と経験：“The Tyger”, “The Sick Rose” その他
第4回：William Wordsworth（1）教師としての自然：“The Table Turned”, “The Cuckoo”
第5回：William Wordsworth（2）記憶と詩：“The Daffodils”, “Resolution and Independence”
第6回：S.T.Coleridge（1）ロマン派の幻想性：“To the River Otter”, “Kubla Kahn”
第7回：S.T.Coleridge（2）永遠の女性：“Love”, “Genevieve” その他
第8回：G.G.Byron（1）ノスタルジア：“I Would I Were a Careless Child”, “The Ocean”
第9回：G.G.Byron（2）英雄への意志：“The Prometheus” その他
第10回：P.B.Shelley（1）プラトニズム：“To a Skylark”
第11回：P.B.Shelley（2）詩人と現世：“Ode to the West Wind” その他
第12回：John Keats（1）運命の女：“To Autumn”, “La Belle Dame sand Merci”
第13回：John Keats（2）時間と永遠：“Ode on a Grecian Urn”
第14回：John Keats（3）美と永遠：“Ode to a Nightingale”
第15回：まとめ ― イギリス・ロマン派詩の特質：共通性と個別性
受講生の知識や能力等を考慮し、授業計画を変更することがあります。

その他
・初回の授業で具体的な授業のガイダンスを行います。
・大学院生にふさわしい主体的学習姿勢が求められます。
・講義だが、演習的要素も含む。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英米文学特論演習 I	1	後期　月 5, 6	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
英国17世紀形而上詩（metaphysical poetry）講読演習。
英国17世紀形而上詩を代表する詩人John Donne の詩の精読を通して形而上詩の特質とダンの詩的感受性及びその詩的技法について理解を深める。

学習の目的
英詩の伝統を知る。
英詩の修辞技法について認識を深める。
初期近代（16-17世紀）の英語に親しむ。

学習の到達目標
1）英語読解力の向上
2）英詩の伝統と修辞技巧に関する認識の深化
3）文学テクストの分析能力と批評能力の向上

予め履修が望ましい科目　英米文学特論 II

教科書　A.J.Smith (ed.), John Donne: The Complete English Poems (Penguin Books)

成績評価方法と基準
毎授業の発表：30%
期末英文レポート：70%

オフィスアワー
水曜日3-4限（10:30-12:00）、宮地研究室
miyachi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：ガイダンス：John Donne 生涯と時代背景、年譜
第2回： 形而上詩（Metaphysical Poetry）の特質全般について
第3回：恋愛詩（Songs and Sonnets）17世紀の宇宙観
第4回：恋愛詩（Songs and Sonnets）奇想について
第5回：恋愛詩（Songs and Sonnets）知的遊戯性
第6回：恋愛詩（Songs and Sonnets）逆説的精神
第7回：恋愛詩（Songs and Sonnets）シニシズム
第8回：風刺詩（Saties）新科学への関心
第9回：風刺詩（Saties）時代への懐疑
第10回：風刺詩（Saties）懐疑精神
第11回：恋愛詩（Elegies）言語遊戯
第12回：恋愛詩（Elegies）肉体と世界
第13回：宗教詩（Divine Poems）連祷：神の賛美
第14回：宗教詩（Holy Sonnets）罪の意識と知的遊戯
第15回：宗教詩（Holy Sonnets）共同体への回帰
受講生の能力等に応じた授業形態や進行速度に修正することがあります。

その他
・初回の授業で具体的な授業のガイダンスを行います。
・大学院生にふさわしい主体的学習姿勢を期待します。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英米文学特論 II	2	前期　火 7, 8	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
英国ゴシック小説（恐怖小説）の発展形を考える。
英国ゴシック小説から発展した構造を持つ探偵小説を扱う。特にArhtur Conan Doyleのシャーロック・ホームズ・サーガに焦点を当て、ゴシック小説と探偵小説の構造の特質を類似性について考察していく。

学習の目的
1）英国ゴシック小説の特質と伝統について知識を得る。
2）シャーロック・ホームズ・サーガについて経験的に知識を得る。
3）文学テクスト読解の技術を深める。
4）文学テクストの分析的批評態度及び分析方法を修得する。

学習の到達目標
1）ゴシック小説と探偵小説の構造的類似性についての基礎知識を得る
2）探偵小説シャーロック・ホームズ・サーガの読解ができるようになる。
3）文学テクストをとらえる分析的批評態度を身につける。
4）文学テクストの分析方法を学ぶ。

予め履修が望ましい科目　英米文学特論演習 I

教科書　Arthur Conan Doyle, The Adventures of Sherlock Holmes (Oxford World's Classics)

成績評価方法と基準
毎回の予習状況および発表：30%
期末英文レポート：70%

オフィスアワー
水曜日3-4限（10:30-12:00）、宮地研究室
miyachi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：ガイダンス：英国ゴシック小説の特質と探偵小説の関連性
第2回：作者及びシャーロック・ホームズ・シリーズの特質全般について
第3回：A Scandal of Bohemia 読解と分析
第4回：A Case of Identity 読解と分析
第5回：The Red-Headed League 読解と分析
第6回：The Boscombe Valley Mystery 読解と分析
第7回：The Five Orange Pips 読解と分析
第8回：The Man with the Twisted Lip 読解と分析
第9回：進度調整
第10回：The Blue Carbuncle 読解と分析
第11回：The Speckled Band 読解と分析
第12回：The Engineer's Thumb 読解と分析
第13回：The Noble Bachelor 読解と分析
第14回：The Beryl Coronet 読解と分析
第15回：The Copper Beeches 読解と分析
第16回：The Adventures of Sherlock Holmes全体について
受講生の知識や能力等を考慮し、授業計画を変更することもある。

その他
・初回の授業で具体的な授業のガイダンスを行います。
・演習的要素も入ります。
・大学院生にふさわしい主体的学習姿勢を期待します。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		英米文学特論演習 II	1	後期　火 5, 6	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
イギリス・ゴシック小説講読演習。
18世紀後半におけるゴシック小説『ヴァセック』（Vathek）を精読し、そこに現れた幻想性・東洋性・異国性といったロマン派的特質をゴシック小説の伝統とのかかわりにおいて考察する。

学習の目的
1）中編小説の読解経験を得る
2）精読を通して英語読解力の向上を図る
3）ゴシック小説の特質を知る
4）文学テクストの分析能力と批評能力の向上

学習の到達目標
1）小説の読解経験を得る。
2）精読の意識を高め、英語読解力が向上する。
3）ゴシック小説の特質を知る。
4）文学テクストの分析能力と批評能力が向上する。

予め履修が望ましい科目　英米文学特論 I

教科書　William Beckford, Vathek (Oxford World's Classics)

成績評価方法と基準
毎回の発表：30%
期末英文レポート：70%

オフィスアワー
水曜日3-4限（10:30-12:00）、宮地研究室
miyachi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：ガイダンス：英国ゴシック小説、年譜等
第2回： ゴシック小説の特質全般について
第3回：pp.1-10 読解と内容分析
第4回：pp.11-20 読解と内容分析
第5回：pp.21-30 読解と内容分析
第6回：pp.31-40 読解と内容分析
第7回：pp.41-50 読解と内容分析
第8回：pp.51-60 読解と内容分析
第9回：pp.61-70 読解と内容分析
第10回：pp.71-80 読解と内容分析
第11回：pp.81-90 読解と内容分析
第12回：pp.91-100 読解と内容分析
第13回：pp.101-110 読解と内容分析
第14回：pp.111-120 読解と内容分析
第15回：作品の振り返りと批評（pp.vii-xxxi Introduction）
受講生の能力等に応じた授業形態や進行速度に修正することがあります。

その他
一定以上の英語読解力が求められます。
大学院生にふさわしい主体的学習姿勢を期待します。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育特別研究ＩＡ	2	後期　水3,4	守田 庸一，永田 成文，荒尾 浩子

授業の概要　人文・社会にかかわる現代的な教育課題に各領域からアプローチし、これらを統合的に理解することを通して克服の道筋を見いだす。

学習の目的　現代の様々な教育課題を、人文・社会領域の視点で見出し、統合的な理解を通して克服の方向を考えられるようになる。

学習の到達目標　現代の教育課題を、自分の専門領域から把握するとともに、他の視点からの考察を通じて、統合的に理解できるようになる。

教科書　その都度指示する。

学習内容　受講生の関心に応じて、課題提起しながら深める。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育特別研究ＩＩＡ	2	前期　水3,4	山根栄次，藤原和好,早瀬光秋,

授業の概要　人文・社会にかかわる教科の立場から教育の諸課題について探究し、その統合を求めることによって、幅広く国内外の社会や文化に精通した研究・教育能力の涵養を図る。

学習の目的　現代の教育課題を、人文・社会領域の教科教育の視点で見出し、それらを統合し、問題の核心と克服の方向が考えられるようになる。

学習の到達目標　現代の教育課題を、自分の専門領域から分析するとともに、他の教科の視点からの考察と重ねて統合的に理解し、克服の方向を考えることができる。

予め履修が望ましい科目　特別研究ＩＡ

教科書　その都度指示する。

成績評価方法と基準　課題のとりくみごとに評価し、レポート内容などを加味し、総合的に評価する。

学習内容
社会「小学校及び中学校の社会科の学習指導案や授業記録を具体的に検討しながら、教師の子どもに対する支援の在り方、授業における子ども間のコミュニケーション、ふさわしい教材等について検討する」
国語「小中学校の小説・物語教材を、語り手のメタ-レベルで読みなおし、配当学年を再検討する」
英語「南米からの児童・生徒の実情から日本の教育を考える。英文の文献講読を含む。」
の三つの課題を軸に総合的横断的に進める。

その他　具体的な研究内容は最初の授業時に示す。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ｉ	2	通年　金1,2	松本 昭彦

授業の概要　古典文学分野の修士論文作成にむけて、対象及び周辺作品の読解・資料収集等を行う。

学習の目的　修士論文作成のための基礎を作る。

学習の到達目標　学習の目的に同じ

成績評価方法と基準　レポート等による。

オフィスアワー　月曜日・2コマ@研究室

学習内容　修士論文執筆に向けて、資料の調査、先行研究の理解等を行う。

その他　詳しい内容は、受講者と打ち合わせる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ｉ	2	通年　金1,2	余 健(教育学部国語科)

授業の概要　各自のテーマを含む日本語学の音声・音韻・敬語表現・方言に関する先行研究の成果や問題点について、発表を通じて確認し、参加者間で議論を深める。

学習の目的　修士論文を執筆するための基礎を固めること。

学習の到達目標　研究を進めるための方法論を確認・検証し、修士論文を執筆する際の枠組みを具体的に提示できること。

予め履修が望ましい科目　日本語学の特論講義、演習

教科書　適宜、紹介する。

成績評価方法と基準　授業への積極的な姿勢、レポート、発表等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日18:00～19:00、場所：余研究室(yeo-ken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
第1回：はじめに（オリエンテーションと発表順の決定）
第2～15回：発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ｉ	2	通年　金1,2	守田 庸一

授業の概要　先行研究をふまえて各自の研究テーマを設定し、そのテーマにかかわる基礎資料を検討する。

学習の目的　先行研究に基づいて自らの研究テーマを設定し、そのテーマにおける基礎的な知見を獲得する。

学習の到達目標
・先行研究を収集して整理するとともに、その到達点を明らかにすることができる。
・自らの研究テーマを設定することができる。
・研究テーマに応じて調査等を実施し、修士論文を執筆する上で必要となる基礎的情報を得ることができる。

成績評価方法と基準　レポート等による。

オフィスアワー　火曜日12:00～13:00

学習内容　学習内容については、受講者と個別に相談して定める。

その他　授業にかかわる詳細については、受講者と打ち合わせの上、確定する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	2	通年　金3,4	山根栄次(教育学部社会科教育講座教授)

授業の概要　修士論文のテーマと研究方法・研究内容について吟味する。

学習の到達目標
修士論文のテーマを模索し、第一学年修了時にはテーマをほぼ確定する。
修士論文テーマに関連する先行研究を調べ、その内容を理解・整理する。

受講要件　社会科教育をテーマにした修士論文を書こうとする者

成績評価方法と基準　レポート50%、レポートに付いての質問に対する応答50%

オフィスアワー　毎週火曜13:00～14:00、社会科教育第1研究室

学習内容　修士論文のテーマを模索するために関連論文についてレポートしテーマについての研究状況を把握する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	②	通年　金3,4	永田成文(教育学部社会科教育講座)

授業の概要　修士論文の素材とテーマを検討する

学習の目的　修士論文の方向性をつかむ

学習の到達目標
修士論文に関わり，資料を収集できる
修士論文に関わり，テーマを設定できる

受講要件　社会科教育の地理歴史教育関連のテーマで修士論文を作成する学生

予め履修が望ましい科目
社会科教育法Ⅰa or Ⅰb，社会科教育法Ⅱa or Ⅱb
地理歴史科教育法

成績評価方法と基準　提案内容(70%)，プレゼンテーション(20%)

オフィスアワー　木(13:00-14:00)

学習内容
1．修士論文構想発表(1)
2．修士論文構想発表(2)
3．修士論文キーワード発表(1)
4．修士論文キーワード発表(2)
5．修士論文テーマ発表会参加
6．修士論文のキーワードに関する著書の内容分析(1)
7．修士論文のキーワードに関する著書の内容分析(2)
8．修士論文のキーワードに関する著書の内容分析(3)
9．修士論文のキーワードに関する著書の内容分析(4)
10．修士論文のキーワードに関する論文の内容分析(1)
11．修士論文のキーワードに関する論文の内容分析(2)
12．修士論文のキーワードに関する論文の内容分析(3)
13．修士論文のキーワードに関する論文の内容分析(4)
14．修士論文のキーワードに関する授業実践の内容分析(1)
15．修士論文のキーワードに関する授業実践の内容分析(2)
16．修士論文のキーワードに関する授業実践の内容分析(3)
17．修士論文のキーワードに関する授業実践の内容分析(4)
18．社会科修士論文中間発表参加・コメント(1)
19．社会科修士論文中間発表参加・コメント(2)
20．修士論文のテーマに関する著書の内容分析(1)
21．修士論文のテーマに関する著書の内容分析(2)
22．修士論文のテーマに関する著書の内容分析(3)
23．修士論文のテーマに関する著書の内容分析(4)
24．修士論文のテーマに関する論文の内容分析(1)
25．修士論文のテーマに関する論文の内容分析(2)
26．修士論文のテーマに関する論文の内容分析(3)
27．修士論文のテーマに関する論文の内容分析(4)
28．社会科修士論文発表会参加・コメント(1)
29．社会科修士論文発表会参加・コメント(2)
30．修士論文テーマの決定

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	2	通年　月3,4	藤田達生（教育学部社会科教育）

学習の到達目標　修士論文のテーマを検討する。

オフィスアワー　水曜日午前10時～11時

学習内容
1論文の読み方
2中世史研究の基本文献を読む
3中世史研究の基本文献を読む
4中世史研究の基本文献を読む
5中世史研究の基本文献を読む
6中世史研究の基本文献を読む
7中世史研究の基本文献を読む
8近世史研究の基本文献を読む
9近世史研究の基本文献を読む
10近世史研究の基本文献を読む
11近世史研究の基本文献を読む
12近世史研究の基本文献を読む
13近現代史研究の基本文献を読む
14近現代史研究の基本文献を読む
15近現代史研究の基本文献を読む

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	2	通年　月1,2	秋元ひろと

授業の概要　研究テーマについての考察を展開するのに必要な文献を明らかにし，研究計画を立て，それを実施に移す。

学習の到達目標　論文作成に向けた研究計画を立て，その実施に着手する。

学習内容
前期
1 導入 授業計画
2 参考文献の検索，収集
3-8 一次文献講読（第一次）
9-13 二次文献講読（第一次）
14-15 研究課題の設定と研究計画の立案（第一次）
後期
1-8 一次文献講読（第二次）
9-13 二次文献講読（第二次）
14-15 研究課題の設定と研究計画の立案（第二次）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	②	通年　月 7, 8	宮岡邦任

授業の概要　修士論文のテーマと研究方法の検討。

オフィスアワー　火曜日14:40〜16:10 宮岡研究室。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 5, 6	早瀬 光秋

授業の概要　修士論文執筆のための文献指導を行い、執筆テーマについて議論する。

学習の目的　修士論文執筆のために文献を読み、修士論文テーマについての方向性を見出す。

学習の到達目標　実際の論文執筆の準備を完成する。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　文献研究及び授業での議論内容。

オフィスアワー
月曜日、13:00-14:30
メールアドレス：hayase@edu.mie-u.ac.jp
教育学部棟3階、早瀬研究室

学習内容　修士論文作成のための研究課題を設定し、それに応じた文献購読及び基礎的なデータの収集をする。テーマに関わる諸問題を主体的に処理し得る能力の育成を図る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 9, 10	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
研究課題の設定と調査研究。
修士論文作成のための研究課題を設定し、それに応じた文献調査および資料読解を通して研究テーマに関わる諸問題を主体的に分析・総合する能力の育成を図る。

学習の目的
自ら課題を設定し、それを解明する学究的姿勢を習得する。
自らの課題に対して適切な文献調査を行い、課題について背景的知識を得る。

学習の到達目標
資料・テクスト読解及び分析能力の向上
参考文献読解能力の向上
研究課題に取り組む主体的姿勢の獲得

成績評価方法と基準
文献調査への取り組み：20%
修士論文のための予備レポート：80%

オフィスアワー
水曜日3-4限（10:30-12:00）、宮地研究室
miyachi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.受講生の課題意識および準備状況調査および
2.研究課題の絞込と研究テーマの設定
3.研究方法について
4.完成に向けてのロードマップ作成
5-15.論文作成支援

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 9, 10	西村秀夫

授業の概要　修士論文作成のために必要なノウハウを扱う。

学習の目的
・研究テーマの設定
・研究テーマに関わる文献の調査と読解
・研究テーマに関する課題の設定と分析

予め履修が望ましい科目　英語学関係科目を履修中であること。

教科書　教室で指示する。

成績評価方法と基準　修士論文の土台となるレポートの作成と発表 100%

オフィスアワー
前期 月曜7-8限
後期 火曜5-6限
※いずれも事前調整要

学習内容
1.研究テーマの確認
2-15.研究指導

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II		通年　水 9, 10	松本 昭彦

授業の概要　修士論文執筆のための研究指導

学習の目的　修士論文執筆

学習の到達目標　修士論文執筆

受講要件　課題研究 I を履修済みであること

成績評価方法と基準　レポート

オフィスアワー　月曜日・2コマ目@研究室

学習内容
先行研究の把握
論文の執筆

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　水 9, 10	余 健(教育学部国語科)

授業の概要　各自の修士論文のテーマについて、発表を通じて確認し、参加者間で議論を深める。

学習の目的　修士論文を仕上げること。

学習の到達目標　修士論文を執筆する中で、得られた研究成果の研究史上における位置づけと今後の課題を明確にすること。

予め履修が望ましい科目　課題研究 I

教科書　適宜、紹介する。

成績評価方法と基準　授業への積極的な姿勢、レポート、発表等を総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日18:00〜19:00、場所：余研究室(yeoken@edu.mie-u.ac.jp)

学習内容
第1回：はじめに（オリエンテーションと発表順の決定）
第2〜15回：発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　水 9, 10	守田 庸一

授業の概要　課題研究 I をふまえて、各自の研究テーマに応じた考察を進める。

学習の目的　課題研究 I の内容に基づいた分析・考察を行い、先行研究では達成できていなかった研究成果を得る。

学習の到達目標　国語教育学における修士論文を執筆することができる。

成績評価方法と基準　レポート及び修士論文等による。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00

学習内容　学習内容については、受講者と個別に相談して定める。

その他　授業にかかわる詳細については、受講者と打ち合わせの上、確定する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	2	通年　金 7, 8	山根栄次(教育学部社会科教育講座)

授業の概要　修士論文のテーマについての研究を深めさせる。

学習の目的　修士論文を書くための研究をし、その経過を発表し、教員の質問に答える。

学習の到達目標　修士論文のテーマについての研究を深める。

受講要件　山根の指導した課題研究Iを履修した者。

成績評価方法と基準　レポートの内容50%、レポートの内容についての質問に対する応答50%

オフィスアワー　毎週火曜10:30から11:30、社会科教育第1研究室

学習内容　修士論文のテーマに関する最新の著書・論文について研究し、修士論文を徐々に作成する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	②	火 7, 8	永田成文(教育学部社会科教育講座)

授業の概要　修士論文のテーマに基づき，論文を作成する

学習の目的　テーマ設定の趣旨に沿った社会科教育の論文を書く

学習の到達目標
論文テーマにそった論文の項目を設定できる。
項目に応じて論文を書くことができる。

受講要件　社会科教育の地理歴史関連の課題研究 I を履修したもの

予め履修が望ましい科目　課題研究 I （地理歴史教育関連）

成績評価方法と基準　論文作成力，プレゼンテーション力，論文改善力

オフィスアワー　木13:00-14:00

学習内容
1．修士論文の構想発表(1)
2．修士論文の構想発表(2)
3．修士論文のテーマ確定(1)
4．修士論文のテーマ確定(2)
5．修士論文テーマ発表会発表・参加
6．修士論文の内容の要約発表(1)
7．修士論文の内容の要約発表(2)
8．修士論文の内容の要約修正(1)
9．修士論文の内容の要約修正(2)
10．修士論文の第1章の内容発表(1)
11．修士論文の第1章の内容発表(2)
12．修士論文の第1章の内容修正(1)
13．修士論文の第1章の内容修正(2)
14．修士論文の第2章の内容発表(1)
15．修士論文の第2章の内容発表(2)
16．修士論文の第2章の内容修正(1)
17．修士論文の第2章の内容修正(2)
18．社会科修士論文中間発表会発表・参加(1)
19．社会科修士論文中間発表会発表・参加(2)
20．修士論文の第3章の内容発表(1)
21．修士論文の第3章の内容発表(2)
22．修士論文の第3章の内容修正(1)
23．修士論文の第3章の内容修正(2)
24．修士論文の第4章の内容発表(1)
25．修士論文の第4章の内容発表(2)
26．修士論文の第4章の内容修正(1)
27．修士論文の第4章の内容修正(2)
28．社会科修士論文発表会発表・参加(1)
29．社会科修士論文発表会発表・参加(2)
30．修士論文最終校正

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　木 9, 10	藤田達生（教育学部社会科教育）

学習の到達目標　修士論文のテーマを検討する。

オフィスアワー　水曜日午前10時〜11時

学習内容
1論文の読み方
2中世史研究の基本史料を読む
3中世史研究の基本史料を読む
4中世史研究の基本史料を読む
5中世史研究の基本史料を読む
6中世史研究の基本史料を読む
7中世史研究の基本史料を読む
8近世史研究の基本史料を読む
9近世史研究の基本史料を読む
10近世史研究の基本史料を読む
11近世史研究の基本史料を読む
12近世史研究の基本史料を読む
13近現代史研究の基本史料を読む
14近現代史研究の基本史料を読む
15近現代史研究の基本史料を読む

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　金 1, 2	秋元ひろと

授業の概要　研究計画を踏まえて論点整理を進め，研究論文を完成させる。

学習内容
前期
1 導入 授業計画
2-5 二次文献の論点整理
6-9 一次文献の論点整理
10-14 研究課題の論点整理
15 中間総括
後期
1-9 研究課題の論点の構造化
10-15 研究課題の最終まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	②	通年　金 3, 4	宮岡邦任

授業の概要　地理学研究の総括と授業への応用を考える。

受講要件　課題研究 I を履修していること。

オフィスアワー　火曜日14:40〜16:10，宮岡研究室。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　火 3, 4	早瀬 光秋（教育学部英語教育講座）

授業の概要　課題研究Iに引き続き、修士論文執筆のための文献を紹介し、内容について議論する。同時に受講生が修士論文論文執筆を開始できるよう指導する。

学習の目的　修士論文執筆のための文献を読み、修士論文の内容について考えをまとめる。又、実際に執筆を開始する。

学習の到達目標　内容及び英語の両面において優れた修士論文を執筆すること。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　文献研究、討論内容、実際に書かれた修士論文の一部。

オフィスアワー
月曜日、13:00-14:30
メールアドレス：hayase@edu.mie-u.ac.jp

学習内容　課題研究Iに引き続いて、関連する最新の文献調査及び購読と併せた各自の課題に対する探求を深化させる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　火 9, 10	宮地信弘（教育学部英語教育講座）

授業の概要
課題研究 I の深化。
課題研究 I に引き続いて、関連する最新の文献調査および文献講読を行い、自らの研究テーマに対する調査研究を深化させる。

学習の目的
1) 自ら設定した課題を解明していく学究的姿勢を習得する。
2) テクストを分析的にとらえる姿勢と分析能力を養う。
3) 参考文献読解力の向上をはかる。
4) 調査研究の成果を表現する英語力を身につける。

学習の到達目標
1) 資料・テクストの読解と分析技術の向上
2) 参考文献読解能力の向上
3) 英語論文に求められる英語表現力の向上
4) 研究課題に取り組む主体的態度の確立

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準
文献調査への取り組み：20%
修士論文のための基礎レポート：80%

オフィスアワー
水曜日3-4限（10:30-12:00）、宮地研究室
miyachi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1.受講生の研究論文進行状況調査
2-15.助言と指導：調査研究支援および修士論文作成支援

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　火 9, 10	西村秀夫

授業の概要　修士論文完成に向けて、研究課題を深化させるための方策を扱う。

学習の目的
・研究テーマに関わる文献の調査と読解
・研究テーマに関する課題の設定と分析
・修士論文の暫定的な構成

受講要件　英語学関係科目を履修済みであること。

教科書　教室で指示する。

成績評価方法と基準　随時課せられる課題への対応状況。

オフィスアワー　前期 月曜7-8限 西村研究室（事前調整要）

学習内容　各回、研究の進捗状況に応じた研究指導を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		数学教育特論 I	2	前期　月 5, 6	田中伸明（教育学部）

授業の概要　数学教材の背景に存在する数学的概念・教育課程上の位置づけ・教材の構成・指導法・評価・指導技術について、数学教育の構成主義的立場から論じる。

学習の目的　数学教育について高い専門性を培う。

学習の到達目標　数学教育における教育課程・教材・指導法・評価・指導技術について、構成主義的立場から分析・検討する力を身に付け、教科教育の高い専門性を培う。

教科書　自主作成プリント等による。

成績評価方法と基準　レポート等を利用して総合的に評価する。

オフィスアワー
火曜日12:00〜13:00
教育学部4F 数学教育第1研究室

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		数学教育特論演習 I	2	通年　火 3, 4	田中伸明（教育学部）

授業の概要　第15回までは、数学教育における教育課程・教材・指導法・評価・指導技術に関し、課題学習を行い、その成果発表を行う。また、第16回以降は、「学習指導案」作成し、実際の数学授業を構成する。さらに、作成した「学習指導案」をもとに模擬授業を行い、大学院生による自己評価・相互評価を行うこととする。

学習の目的　数学教育について高い専門性を培う。

学習の到達目標　数学教育における教育課程・教材・指導法・評価・指導技術について、構成主義的立場から分析・検討する力を身に付け、教科教育の高い専門性を培う。

教科書　自主作成プリント等による。

成績評価方法と基準　レポート等を利用して総合的に評価する。

オフィスアワー
火曜日12:00〜13:00
教育学部4F 数学教育第1研究室

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		数学教育特論 II	2	後期　火 7, 8	中西正治（教育学部）

授業の概要　数学教育の目標および指導内容の選択・配列の原理について、量の理論の立場から論じる

学習の目的　量の理論を学習し教材を分析する力を身につける

教科書　特になし。適宜資料を渡す

成績評価方法と基準　出席とレポートにもとづき、総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12：00〜13：00、場所・中西研究室（教育学部1号館4階）

学習内容　量の理論学習を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		数学教育特論演習 II	2	通年　木 3, 4	中西正治（教育学部）

授業の概要　前期は現在の小学校・中学校・高校の算数・数学教育の課題や問題点を整理し、算数・数学教育のあるべき姿を考える。特に後期は数学教育特論 II の講義内容に併行して、具体的な教材に関する解釈や指導法についてより深い教育実践力を身に付けるために、演習形式によって進める。

教科書　特になし。

成績評価方法と基準　出席とレポートにもとづき、総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12:00〜13：00、場所・中西研究室（教育学部1号館4階）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		代数学特論 I	2	前期　金 1, 2	新田貴士（教育学部）

授業の概要　ユークリッド幾何と代数の関係を講義する。

学習の到達目標　ユークリッド幾何と代数の関係を講義する。

受講要件　線形代数の基礎を習得していること。

予め履修が望ましい科目　線形代数学I, II

教科書　リー環の話、佐武一郎、日本評論社

成績評価方法と基準　出席、レポート。

オフィスアワー　毎週月曜日、12:00~13:00および毎週水曜日、12:00~13:00

学習内容
1−5。ユークッリド幾何の定義、
6−10。ヒルベルトの公理、
11−14。代数との関係。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		代数学特論演習 I	1	後期　金 1, 2	新田 貴士 （教育学部）

授業の概要　スペクトル系列につき講義する。

学習の到達目標　スペクトル系列につき理解を深める。

受講要件　群、環、体の基礎を習得していること。

予め履修が望ましい科目　代数学要論。

教科書　講義の時に紹介する。プリント等。

成績評価方法と基準　出席、レポート。

オフィスアワー　毎週月曜日12：00〜13：00および毎週水曜日12：00〜13：00

学習内容
1。スペクトル系列の例、
2。スペクトル系列の一般論、
3。スペクトル系列の計算。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		代数学特論II	2	前期　金 5, 6	露峰 茂明（教育学部数学教育専修）

授業の概要　群論環論体論の知識を前提にし発展的な代数学を講義する。

学習の目的　1次元及び高次元代数多様体を学ぶ。特に modular 多様体が中心となる。

学習の到達目標　modular 多様体の代数的な性質への理解を深める。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00、代数学第2研究室

学習内容
elliptic moduar form を他の automorphic form への lifting の話をする。
第1回ー第4回 2次形式の Theta 級数
第5回ー第8回 Theta lifting
第9回ー第10回 Shimura 対応
第11回ー第15回 Hilbert modular form, Siegel modular form, Hermitian modular form への lifting

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		代数学特論演習II	1	後期　金 5, 6	露峰 茂明（教育学部数学教育専修）

授業の概要　代数学特論 II についての基本的な問題や具体例について演習を行う。

学習の到達目標　代数学特論 II の内容について深く理解すること。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00，場所：代数学第2研究室

学習内容　抽象代数学、代数多様体、整数論などの関する演習を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		代数学特論III	2	前期　水 3, 4	古関 春隆

授業の概要　副有限群、完備群環、およびその上の加群について解説する。

学習の目的　上記の事項について、基本を修得する。

学習の到達目標　上記の事項の基本を修得し、自分の研究テーマのための刺激にする。

受講要件　群・環・体・加群の基礎、および集合と位相の基礎を修得済みであること。

成績評価方法と基準　試験

オフィスアワー　月曜5コマ目

学習内容
1回〜5回 逆極限と副有限群
6回〜10回 完備群環、岩澤代数
11回〜15回 完備群環上の加群、岩澤加群の擬同型を除く分類
16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		代数学特論演習III	1	後期　水 3, 4	古関 春隆

授業の概要　副有限群、完備群環、およびその上の加群について演習を行う。

学習の目的　上記の事項の基本を習得する。

学習の到達目標　上記の事項の基本を修得し、自分の研究テーマのための刺激にする。

受講要件　代数学特論IIIの内容を修得済みであること。

予め履修が望ましい科目　代数学特論III

成績評価方法と基準　試験

オフィスアワー　木曜5コマ目

学習内容
1回〜5回 逆極限と副有限群
6回〜10回 完備群環、岩澤代数
11回〜15回 完備群環上の加群、岩澤加群の擬同型を除く分類
16回 試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		幾何学特論 I	2	前期　火 7, 8	森山 貴之

授業の概要　リーマン幾何学

学習の目的　多様体上の曲率や測地線といった幾何学的構造を具体的な例を通して理解する。

予め履修が望ましい科目　幾何学特論演習 I

教科書　講義中に指定する

成績評価方法と基準　出席、レポート

オフィスアワー　水曜日12：00〜13：00, 教育学部一号棟4階 研究室

学習内容
1．多様体とベクトル束（第1回〜第5回）
2．接続とリーマン計量（第6回〜第10回）
3．曲率、測地線（第11回〜第15回）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		幾何学特論演習 I	1	後期　月 5, 6	森山 貴之

授業の概要　幾何学特論 I の講義内容の理解を深めるために、演習を行う。

学習の目的　多様体上の曲率や測地線といった幾何学的構造を演習問題を通して理解する。

予め履修が望ましい科目　幾何学特論 I

成績評価方法と基準　出席、レポート

オフィスアワー　水曜日12：00〜13：00, 教育学部一号棟4階 研究室

学習内容　幾何学特論 I の内容に沿った問題を各自解き、発表する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		幾何学特論 II	2	前期　金 7, 8	森山 貴之

授業の概要　複素幾何学

学習の目的　複素多様体における基本的な性質を理解し、Chern類といった特性類について学ぶ。

予め履修が望ましい科目　幾何学特論演習 II

教科書　講義中に指定する

成績評価方法と基準　出席、レポート

オフィスアワー　水曜日12：00〜13：00, 教育学部一号棟4階 研究室

学習内容
1．複素構造（第1回〜第4回）
2．層、コホモロジー（第5回〜第8回）
3．複素ベクトル束（第9回〜第12回）
4．複素線束と特性類（第13回〜第15回）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		幾何学特論演習 II	1	後期　金 7, 8	森山 貴之

授業の概要　幾何学特論IIの講義内容の理解を深めるために、演習を行う。

学習の目的　複素多様体に関連したコホモロジーや特性類の計算等を行う。

予め履修が望ましい科目　幾何学特論 II

成績評価方法と基準　出席、レポート

オフィスアワー　水曜日12：00〜13：00, 教育学部一号棟4階 研究室

学習内容　幾何学特論 II の内容に沿った問題を各自解き、発表する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		解析学特論 I	2	前期　月 3, 4	玉城 政和

授業の概要　関数解析学

学習の目的　関数解析学の主要な基礎部分であるバナッハ空間論とヒルベルト空間論について，その理論の基本的な部分を学ぶ．

学習の到達目標
バナッハ空間について理解し，その例を構成できるようになる．
ヒルベルト空間論について理解し，その例を構成できるようになる．

成績評価方法と基準　レポート 50 %、期末試験 50 %、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー　水曜日 12:00-13:00(解析学第1研究室)

学習内容
・線形空間の定義と例．
・位相空間と距離空間，例．
・ノルム空間とバナッハ空間，定義と例．
・内積空間とヒルベルト空間，定義と例．
・線形作用素の有界性とノルム．
・線形作用素の積，逆作用素，例．
・閉作用素．
・コンパクト作用素．
・スペクトルと固有値．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		解析学特論演習 I	1	後期　月 3, 4	玉城 政和

授業の概要　バナッハ空間論とヒルベルト空間論について，演習を行う

学習の目的
バナッハ空間について理解し，基本的な問題を解決できるようになる
ヒルベルト空間論について理解し，基本的な問題を解決できるようになる

学習の到達目標　関数解析学の主要な基礎部分であるバナッハ空間論とヒルベルト空間論について深く理解できるようになる

受講要件　解析学特論Iを履修していること

教科書　開講時に紹介する

成績評価方法と基準　レポート100%

オフィスアワー　毎週水曜日12：00〜13：00，解析学第1（玉城）研究室

学習内容
・線形空間に関する問題演習
・位相空間と距離空間に関する問題演習
・ノルム空間とバナッハ空間に関する問題演習
・内積空間とヒルベルト空間に関する問題演習
・線形作用素の有界性とノルに関する問題演習.
・線形作用素の積，逆作用素に関する問題演習
・閉作用素に関する問題演習

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		解析学特論 II	2	前期　木 5, 6	肥田野 久二男（教育学部）

授業の概要　微分方程式の導出とその解法を、いくつかの簡単な場合に解説する。

学習の目的　微分方程式論の基本に関する知識を得ることが目標になる。

学習の到達目標　微分方程式の基本的な解法と、それにあわせてフーリエ解析の基礎の習得が到達目標になる。

予め履修が望ましい科目　学部での「基礎微分積分学 I，II」、「解析学概論」

教科書　「偏微分方程式入門」（神保 秀一著、共立出版）

成績評価方法と基準　主にレポートによる。

学習内容
1．物理現象のモデル化。常微分方程式の例とその解法（第1回〜第8回）
2．熱の伝導と波の伝播。熱方程式と波動方程式の導出。フーリエの方法による解法（第9回〜第15回）
3．まとめ（第16回）
ただしこれは予定であり、受講生の興味によっては変更することがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		解析学特論演習 II	1	後期　木 5, 6	肥田野 久二男（教育学部）

授業の概要　フーリエ解析、微分方程式、複素関数論、特殊関数論に関して、基本的問題や具体例について演習を行う。

学習の目的　学部での学習で身につけた解析学の基礎を土台にして、様々な発展的内容を学ぶ。

学習の到達目標　解析学の様々な発展的内容の基礎を身につける。

予め履修が望ましい科目　解析学特論 II

成績評価方法と基準　小テストによる。

学習内容
1．フーリエ解析に関する演習と小テスト（第1回〜第3回）
2．微分方程式に関する演習と小テスト（第4回〜第9回）
3．複素関数論と特殊関数に関する演習と小テスト（第10回〜第15回）
ただしこれは予定であり、受講者の興味によっては変更をすることがある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		解析学特論III	2	前期　木 7, 8	川向 洋之（教育学部数学

授業の概要　複素関数論の基礎とその応用

学習内容
1〜 2回：複素平面
3〜 6回：正則関数
7〜 9回：有理関数と留数定理
10〜15回：楕円関数

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		解析学特論演習III	1	後期　木 7, 8	川向 洋之（教育学部）

授業の概要　解析学特論IIIの演習を行う.

オフィスアワー　毎週水曜日 12:00 〜 13:00

学習内容　解析学特論IIIに関する演習を行う.

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		応用数学特論	2	前期　木 1, 2	玉城 政和

授業の概要　確率論とその応用

学習の目的　測度論をベースにした現代確率論および数理統計学の基礎について講義を行う．さらに確率論における極限定理等について論じる．

学習の到達目標
確率空間について理解し，その例を構成できるようになる．
確率変数を理解し，その平均等を計算できるようになる．
特性関数を理解し，計算できるようになる．
大数の法則および中心極限定理を理解し，応用できるようになる．

成績評価方法と基準　レポート 50 %、期末試験 50 %、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー　水曜日 12:00-13:00(解析学第1研究室)

学習内容
1．σ−加法族と確率測度，確率空間
2．確率変数と分布
3．確率変数列の独立と収束
4．平均値，不等式
5．特性関数とモーメント
6．大数の法則と中心極限定理

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		応用数学特論演習	1	後期　木 1, 2	玉城 政和

授業の概要　確率論とその応用について演習を行う．

学習の目的　測度論をベースにした現代確率論および数理統計学の基礎について演習を行う．

学習の到達目標
確率空間の例を構成できるようになる．
確率変数の平均等を計算できるようになる．
特性関数を計算できるようになる．
大数の法則および中心極限定理の統計学への応用を理解し，計算できるようになる．

受講要件　応用数学特論を履修していること

教科書　開講時に紹介する

成績評価方法と基準　レポート100%

オフィスアワー　毎週水曜日12：00〜13：00，解析学第1（玉城）研究室

学習内容
1．確率測度と確率空間に関する演習
2．確率変数の分布に関する演習
3．確率変数の平均値に関する演習
4．確率変数の特性関数に関する演習
5．大数の法則と中心極限定理の応用に関する演習

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		統計科学特論	2	前期　月 9, 10	萩原克幸（教育学部）

授業の概要　統計科学は，工学的な音声・画像処理，経済・経営に係わるマーケッティング分析，地球科学データ解析，遺伝子データ解析など，幅広い分野において必要とされている．本講義では，統計科学の方法としてよく知られている統計的回帰と判別分析の問題に焦点をしぼる．統計的回帰については、最小二乗推定の下での線形回帰の統計的性質について述べ、それに基づいてモデル選択規準の導出に触れる。非線形回帰については、パラメータ推定法について言及するとともに、統計的性質の漸近理論に触れる。一方、判別分析の方法としては、ロジスティック回帰を考え、最尤法およびパラメータ推定アルゴリズムについて述べる。また、その漸近理論についても触れる。

学習の目的　統計的回帰およびロジスティック回帰について，推定からモデル選択に至るモデリングの理論を理解すること目的とする。

学習の到達目標　統計的回帰および判別分析のための統計的モデリングについての知識を得ることができ，それらを活用する際の基礎を形成できる。

教科書　適宜指示する。

成績評価方法と基準　出席状況、授業態度、レポートにより総合的に評価する。

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20〜17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第 1回：導入（統計的回帰・判別分析とは)
第 2回：確率モデル・最尤推定
第 3回：回帰モデル・最小二乗推定
第 4回：線形最小二乗推定量の統計的性質
第 5回：線形回帰におけるモデル選択規準
第 6回：線形回帰における正則化および縮小推定について
第 7回：非線形回帰
第 8回：非線形回帰のパラメータ推定
第 9回：非線形回帰の漸近論
第10回：リサンプリングによるモデル選択
第11回：判別分析・事後確率・ベイズ判別
第12回：ロジスティック回帰
第13回：ロジスティック回帰のパラメータ推定
第14回：ロジスティック回帰の漸近論とモデル選択
第15回：ノンパラメトリックロジスティック回帰

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		統計科学特論演習	1	後期　月 9, 10	萩原克幸（教育学部）

授業の概要　統計科学は，工学的な音声・画像処理，経済・経営に係わるマーケッティング分析，地球科学データ解析，遺伝子データ解析など，幅広い分野において必要とされている．本講義では，統計的回帰と判別分析の問題に焦点をしぼり、統計解析ソフトRを利用したシミュレーションを通して、それらの理論を理解するとともに、実データに対して活用する。

学習の目的　講義では，統計的回帰と判別分析の問題に焦点をしぼり、推定からモデル選択に至るモデリングの方法を理解し、活用できるようになることを目的とする。

学習の到達目標　線形回帰、非線形回帰、ロジスティック回帰などの多変量解析の方法を活用できるようになる。

教科書　適宜指定する。

成績評価方法と基準　出席状況、授業態度、演習課題により総合的に評価する。

オフィスアワー
日時：毎週金曜日16:20〜17:50
場所：教育学部2号館1F情報教育第2研究室(萩原克幸)
E-mail：hagi@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1回：統計解析ソフトRの利用方法（変数，ベクトル，関数）
第 2回：統計解析ソフトRの利用方法（データフレーム，グラフ）
第 3回：線形回帰モデルの統計的性質についてのシミュレーション
第 4回：線形回帰モデルのモデル選択についてのシミュレーション
第 5回：線形回帰モデルによる実データ解析
第 6回：非線形回帰モデルの推定についてのシミュレーション
第 7回：非線形回帰モデルのモデル選択についてのシミュレーション
第 8回：非線形回帰モデルによる実データ解析
第 9回：ロジスティック回帰の統計的性質についてのシミュレーション
第10回：ロジスティック回帰のモデル選択についてのシミュレーション
第11回：ロジスティック回帰による実データ解析（生物関連データ）
第12回：ロジスティック回帰による実データ解析（医療関連データ）
第13回：ノンパラメトリックロジスティック回帰の推定についてシミュレーション
第14回：ノンパラメトリックロジスティック回帰のモデル選択についてのシミュレーション
第15回：ノンパラメトリックロジスティック回帰による実データ解析

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		理科教育学特論 I	2	前期　木 3, 4	平賀 伸夫（教育学部理科教育講座）

授業の概要
1.講義を通して、理科教育の目的、内容、方法の従来のとらえ方を理解する。
2.輪読を通して、「新しい科学論」を理解する。
3.上記の1と2をふまえ、理科教育とは何かを受講者全員で話し合い、各自の考えを確立する。

学習の目的　理科教育の目的、内容、方法の従来のとらえ方を理解するとともに、「新しい科学論」にもとづき、理科教育とは何かを再考する。

学習の到達目標
・ 理科教育の目的、内容、方法の従来のとらえ方を理解できたか。
・ 「新しい科学論」にもとづき、理科教育とは何かを再考できたか。

教科書　「新しい科学論」講談社ブルーバックス

成績評価方法と基準　出席状況（課題への取り組み方を含む)60%、レポート40%。

オフィスアワー
毎週金曜日8:50〜10:20，理科教育第1研究室(平賀研究室),
E-mail hiraga@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：理科教育の目的
第2回：理科授業の手法
第3回：理科カリキュラムの歴史
第4回：理科のカリキュラム設計
第5回：学習指導案
第6回：「新しい科学論」の輪読①『序章 科学的なもの，人間的なもの』
第7回：「新しい科学論」の輪読②『第1章 科学についての常識的な考え方 第1節 帰納』
第8回：「新しい科学論」の輪読③『第1章 科学についての常識的な考え方 第2節 常識的科学観の特性』
第9回：「新しい科学論」の輪読④『第2章 新しい科学観のあらまし 第1節 文化史的観点から』
第10回：「新しい科学論」の輪読⑤『第2章 新しい科学観のあらまし 第2節 認知論的観点から』
第11回：「新しい科学論」のまとめ① 科学とは何か
第12回：「新しい科学論」のまとめ② 科学と理科との関係
第13回：新しい科学論にもとづく理科教育の再考① 目的について
第14回：新しい科学論にもとづく理科教育の再考② カリキュラムについて
第15回：新しい科学論にもとづく理科教育の再考③ 指導法について
レポート作成・提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		理科教育学特論演習 I	2	通年　月 3, 4	平賀 伸夫（教育学部理科教育講座）

授業の概要
1.ビデオや指導案等の授業記録をもとに、理科授業の具体的な場面で出会う諸課題を抽出する。
2.各課題について、個人、グループ、全体討論により追究し、自分なりのとらえ方・解決方法を検討する。

学習の目的　理科授業の具体的な場面で出会う諸課題について、自分なりのとらえ方・解決方法を検討する。

学習の到達目標　理科授業の具体的な場面で出会う諸課題について、自分なりのとらえ方・解決方法を示すことができる。

教科書　特になし。

成績評価方法と基準　出席状況（課題への取り組み方を含む)60%、レポート40%。

オフィスアワー
毎週金曜日8:50〜10:20，理科教育第1研究室(平賀研究室),
E-mail hiraga@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
理科授業の具体的な場面を対象として，講義，演習を行う．
第1回．理科授業の目的のとらえ方
第2回．観点別評価における「知識・理解」のとらえ方
第3回．観点別評価における「科学的思考」のとらえ方
第4回．観点別評価における「技能・表現」のとらえ方
第5回．観点別評価における「関心・意欲・態度」のとらえ方
第6回．授業記録（ビデオや指導案等）の分析－小学校物理領域の授業－
第7回．授業記録（ビデオや指導案等）の分析－小学校化学領域の授業－
第8回．授業記録（ビデオや指導案等）の分析－小学校生物領域の授業－
第9回．授業記録（ビデオや指導案等）の分析－小学校地学領域の授業－
第10回．小学校理科授業の分析から抽出された諸課題のまとめ
第11回．授業記録（ビデオや指導案等）の分析－中学校物理領域の授業－
第12回．授業記録（ビデオや指導案等）の分析－中学校化学領域の授業－
第13回．授業記録（ビデオや指導案等）の分析－中学校生物領域の授業－
第14回．授業記録（ビデオや指導案等）の分析－中学校地学領域の授業－
第15回．中学校理科授業の分析から抽出された諸課題のまとめ
第16回．課題の検討－導入のしかた－
第17回．課題の検討－展開（帰納法，演繹法）のしかた－
第18回．課題の検討－「主発問」の役割と効果－
第19回．課題の検討－「予想」の役割と効果－
第20回．課題の検討－「話し合い」の役割と効果－
第21回．課題の検討－「まとめ」の役割と効果－
第22回．課題の検討－「板書」の役割と効果－
第23回．課題の検討－「ワークシート」の役割と効果－
第24回．課題の検討－「演示実験」の役割と効果－
第25回．課題の検討－「生活との関連づけ」の役割と効果－
第26回．課題の検討－「科学技術社会との関連づけ」の役割と効果－
第27回．課題の検討－「おもしろ実験」の役割と効果－
第28回．課題の検討－「理科ぎらい」，「理科離れ」のとらえ方，対策方法－
第29回．課題の検討－一つ授業で行える評価の観点の数－
第30回．本演習のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		理科教育学特論 II	2	前期　月 5, 6	荻原彰

授業の概要
授業の到達目標及びテーマ
（1） 理科の持つ意義について、科学技術の発展という側面から理解する。
（2） 理科の持つ意義について、科学的素養にもとづいた意思決定という側面から理解する。
（3） 理科の持つ意義について、持続可能な社会の構築という側面から理解する。
（4） 理科の持つ意義について、防災教育という側面から理解する
（5）理科の持つ意義について、個人的効用という側面から理解する。

学習の目的　理科の持つ社会への意義について多面的に理解する

学習の到達目標　理科の持つ意義について、科学技術の発展への貢献、科学的素養にもとづいた個人的・社会的意思決定、持続可能な社会の構築、防災という4つの側面から説明できる。

教科書　特にない

成績評価方法と基準　出席とレポートにより行う

学習内容
授業計画
第1回：理科教育の制度的基盤
第2回：富国のための理科教育
第3回：大衆消費社会と教育
第4回：学力論争と教育格差論
第5回：科学者の説明責任と理科教育
第6回：科学の倫理と理科教育
第7回：環境教育の考え方（持続可能な社会を創る）
第8回：環境教育の考え方（環境倫理と環境的正義）
第9回：エネルギー・環境教育
第10回：総合学習と学力
第11回：生活の中の理科（ニセ科学にだまされないために）
第12回：生活の中の理科（身近な自然と理科）
第13回：生活の中の理科（防災教育―地震と理科）
第14回：生活の中の理科（防災教育―火山と理科）
第15回：生活の中の理科（防災教育―河川災害と理科

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		理科教育学特論演習 II	2	通年　木 5, 6	荻原彰

授業の概要
「授業に活かす理科教育法」の輪読を行う
理科という教科を、初等中等教育において実際に教える際に考えなければならない様々な側面を考え、授業や教材の具体例を通じて、単元や授業をどのように構成していくべきか各自が論じる

学習の目的　理科授業の目的、構成、手法、教材の編成について教科書をもとに各自が調べることを通じて、理科授業を概括的に理解する

学習の到達目標　理科授業の目的、構成、手法、教材の編成について各自が意見を持ち、その意見を他の学生や教員に説明し、議論できる

教科書　授業に活かす理科教育法

成績評価方法と基準　出欠とレポートによる

学習内容
授業計画
第1回：理科の学力調査
第2回：理科の学力観・能力観
第3回：知識・探究・活用を一体化した理科教育
第4回：楽しく分かる理科の授業（物理）
第5回：楽しく分かる理科の授業（化学）
第6回：楽しく分かる理科の授業（生物）
第7回：楽しく分かる理科の授業（地学）
第8回：理科教育の目的
第9回：物理分野の目標とカリキュラム
第10回：化学分野の目標とカリキュラム
第11回：生物分野の目標とカリキュラム
第12回：地学分野の目標とカリキュラム
第13回：学習指導案のポイント
第14回：各分野（物化生地）の学習指導案の具体例
第15回：理科の授業デザイン
第16回：理科授業と評価
第17回：理科学習論
第18回：理科における実験
第19回：探究活動の指導
第20回：探究活動の事例
第21回：教材開発の方法論
第22回：カリキュラム作りと教材開発
第23回：物理教材の開発
第24回：化学教材の開発
第25回：生物教材の開発
第26回：地学教材の開発
第27回：安全管理における教員の役割
第28回：事故防止の工夫
第29回：エネルギー・環境教育と理科
第30回：ICTの活用と理科

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		物性物理学特論	2	前期　木 1, 2	牧原義一(教育学部)

授業の概要　物質の示すいろいろな力学的性質・熱的性質・電気的性質・磁気的性質（マクロな物性）を，原子レベルの微視的視点から理解するための基礎となる概念および取り扱い方について講義する。

学習の目的　物質の示す多様な性質を，原子・電子レベルの微視的視点から説明する知識を得ること。

学習の到達目標　物質の示すマクロな性質(物性)を，原子，分子，電子などの性質（微視的視点）から理解するための基礎的な概念や方法を習得する。

受講要件　物理学の基礎知識（基礎物理学Ⅰ，Ⅱ）を有すること。物性物理学特論演習を同時に履修すること。

予め履修が望ましい科目　基礎物理学Ⅰ，同Ⅱ，物理学講義Ⅰ～Ⅳ，物理学実験

成績評価方法と基準　定期試験での成績により評価する（3分の2以上の出席を定期試験受験の条件とする）

オフィスアワー　金曜日 14：40～16：10

学習内容
第1回 原子と電子（1） 原子論と物性物理学，原子と分子
第2回：原子と電子（2） 原子内の電子
第3回：原子と電子（3） 元素の周期律，X線の発生
第4回：気体と分子（1） ボイル・シャルルの法則
第5回：気体と分子（2） エネルギー等分配の法則
第6回：気体と分子（3） マックスウェルの速度分布則
第7回：気体と分子（4） （まとめと補足）
第8回：液体・固体とゴム（1） 液体と固体，ガラス
第9回：液体・固体とゴム（2） 水と蒸発，ゴムの弾性
第10回：光と物質（1） 光子と物質波
第11回：光と物質（2） 電磁波と原子・分子の運動
第12回：光と物質（3） 電子状態の変化
第13回：金属と半導体（1） 局在電子と遍歴電子
第14回：金属と半導体（2） フェルミ・エネルギー，金属の比熱と電気抵抗
第15回：金属と半導体（3） バンド構造
第16回：定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		物性物理学特論演習	2	通年	牧原義一(教育学部理科教育講座)

授業の概要
前半は物性物理学特論で学ぶ内容についての演習を行い，物質の力学的性質・熱的性質・電気的性質・磁気的性質を，原子レベルの微視的視点から理解するための基礎となる概念およびモデルについて理解する。
後半は，固体物理の応用例として水素貯蔵材料の物性について学ぶ。論文または専門書の輪講を行う。

学習の目的　物質の多様な性質を，原子レベルの微視的視点から理解するための基礎的な問題が解けるようになること。水素貯蔵材料についての基礎および最新の知識を得ること。

学習の到達目標　物質の示すマクロな性質(物性)を，原子や分子の性質から理解するための基礎的な概念や方法とその運用能力を習得する。また，水素貯蔵材料という具体的な材料の物性を理解するための基礎的な概念や方法を学び，さらに私たちの生活に直結するエネルギーシステムに関する基礎知識を修得する。

受講要件　物性物理学特論を履修していること。

予め履修が望ましい科目　理科教育講座における物理学関連の専門科目

教科書　適宜，プリント，資料等を配布する

成績評価方法と基準　出席状況50%（輪講における発表内容および内容の理解度），レポート50%

オフィスアワー　金曜日 14：40〜16：10

学習内容
第1，2，3回 原子と電子
第4，5，6，7回 気体と分子
第8，9回 液体・固体とゴム
第10，11，12回 光と物質
第13，14，15回 金属と半導体
第16〜19回 水素エネルギーと水素貯蔵材料
第20〜30回 水素貯蔵材料の物性に関する原著論文の輪講

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		統計物理学特論	2	前期　金 5, 6	國仲 寛人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　平衡系の統計力学の基礎について学ぶ。

学習の目的　学部の熱力学の講義（物理学講義III）で学んだ内容を発展させ、平衡状態にある気体や液体などの系の状態を特徴づける方法を学ぶ。

学習の到達目標　平衡状態にある系に関する様々な問題を解決するための解析的手法を身につける。

受講要件　熱力学の基礎（物理学講義III）を学習済みであること。

教科書　『統計力学I, II』（田崎晴明著、培風館）

成績評価方法と基準　輪講における理解度とレポートにて決定する。

オフィスアワー　在室時随時

学習内容
第1回：統計力学の基礎(1) 確率論入門
第2回：統計力学の基礎(2) 物理量のゆらぎと大数の法則
第3回：統計力学の基礎(3) 連続変数の扱い☒第4回： エネルギー固有状態
第5回： 状態数
第6回： 平衡状態の本質☒第7回：カノニカル分布と自由エネルギー(1) カノニカル分布の導出
第8回：カノニカル分布と自由エネルギー(2) カノニカル分布の基本的な性質
第9回：カノニカル分布と自由エネルギー(3) カノニカル分布のまとめ☒第10回：理想気体
第11回：常磁性体と関連するモデル
第12回：比熱の一般的なふるまい☒第13回：調和振動子の平衡状態
第14回：古典的な粒子の系
第15回：二原子分子理想気体の熱容量

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		統計物理学特論演習	2	通年　金 7, 8	國仲 寛人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　平衡状態にある気体や液体などの系の状態を特徴づける方法を演習を通して学ぶ。

学習の目的　統計物理学特論で得た知識に関して、演習による理解を深める。また、統計物理学特論で触れることのできなかった話題に関しても学ぶ。

学習の到達目標　平衡系に関する様々な問題を解決するための解析的手法を身につける。

受講要件　熱力学の基礎（物理学講義III）を受講済みであること。

教科書　「統計力学I, II」（田崎晴明著、培風館）

成績評価方法と基準　輪講における理解度とレポートの内容で決定する。

オフィスアワー　在室時随時

学習内容
第1回：統計力学の基礎(1) 確率論入門
第2回：統計力学の基礎(2) 物理量のゆらぎと大数の法則
第3回：統計力学の基礎(3) 連続変数の扱い
第4回： エネルギー固有状態
第5回： 状態数
第6回： 平衡状態の本質
第7回：カノニカル分布と自由エネルギー(1) カノニカル分布の導出
第8回：カノニカル分布と自由エネルギー(2) カノニカル分布の基本的な性質
第9回：カノニカル分布と自由エネルギー(3) カノニカル分布のまとめ□
第10回：理想気体
第11回：常磁性体と関連するモデル
第12回：比熱の一般的なふるまい
第13回：調和振動子の平衡状態
第14回：古典的な粒子の系
第15回：二原子分子理想気体の熱容量
第16回：グランドカノニカル分布の基礎
第17回：グランドカノニカル分布の応用
第18回：熱力学の三つの形式
第19回：ミクロカノニカル分布
第20回：三つの確率モデルの等価性
第21回：等価性のまとめ
第22回：多粒子の量子力学
第23回：量子理想気体について
第24回：理想フェルミ気体
第25回：理想ボーズ気体
第26回：相転移と臨界現象
第27回：イジング模型(1) 強磁性
第28回：イジング模型(2) 一次元イジング模型
第29回：平均場近似
第30回：イジング模型の相転移と臨界現象

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		光・電気物理学特論	2	後期　火 1, 2	三宅 秀人 （工学研究科）

授業の概要　光学、電磁気学、電気回路の基礎知識を理解するための概念及び取り扱い方について講義する。また、それらをもとに科学技術と関連性を発光ダイオード、ディスプレイ、太陽電池などを具体例にして講義する。

学習の目的　光の性質やその種類、計測、制御などの光に関する基礎的な知識、電場と磁場、電磁誘導、電気回路などの電気に関する基礎的な知識を修得し、科学技術への結びつきを理解し、教授する方法を習得する。

学習の到達目標　光の性質やその種類、計測、制御などの光に関する基礎的な知識、電場と磁場、電磁誘導、電気回路などの電気に関する基礎的な知識を修得し、科学技術への結びつきを理解し、教授する方法を習得する。

教科書　プリント、光エレクトロニクス（濱川・西野，オーム社）

成績評価方法と基準
以下の方式で配点を行い、総合の60%以上を合格とする。
レポート ： 30%
定期試験 ： 70%（3分の2以上の出席を定期試験受験の条件とする）

学習内容
授業計画
第1回 ガイダンス，光の性質
第2回 光計測の基礎
第3回 光物性
第4回 光制御
第5回 電場と磁場（1）静電場とコイル、コンデンサー
第6回 電場と磁場（2）磁場と電流が作る磁場
第7回 電磁誘導
第8回 電気回路（1）直流回路
第9回 電気回路（2）交流回路
第10回 電気回路（3）非直線素子
第11回 光エレクトロニクス応用 （1）半導体
第12回 光エレクトロニクス応用 （2）発光ダイオード
第13回 光エレクトロニクス応用 （3）太陽電池、エネルギー問題
第14回 光エレクトロニクス応用 （4）ディスプレイの基礎技術
第15回 光ICと光情報処理
第16回 定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		有機化学特論	2	前期　月 1, 2	寺西 克倫 （生物資源学研究科）

授業の概要　非ベンゼン系芳香族化合物の化学を講義する。

学習の目的　芳香族性について理解し、有機合成の経路設計ができるようになる。

学習の到達目標　芳香族性について理解し、有機合成の経路設計ができるようになる。

教科書　使用しない。

成績評価方法と基準　受講態度及び期末試験

学習内容
授業計画
第1回： 芳香族性の歴史と定義
第2回： トロポノイド
第3回： アズレン、フェロセン
第4回： 2π電子系芳香族化合物
第5回： 6π電子系芳香族化合物
第6回： 10π電子系芳香族化合物
第7回： 14π電子系芳香族化合物
第8回： 18π電子系芳香族化合物
第9回： デヒドロアヌレン
第10回： 22π電子系芳香族化合物
第11回： 26π〜30π電子系芳香族化合物
第12回： 縮環系芳香族化合物
第13回： 反芳香族性の化学
第14回： 芳香環を含む環状共役系化合物
第15回： アヌレノアヌレン
第16回： 期末試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		有機化学特論演習	2	通年　月 3, 4	寺西 克倫（生物資源学研究科）

授業の概要　有機化合物の電子スペクトルの理論と応用に関する英文の書物を輪読する。

学習の目的
到達目標： 有機化合物の電子スペクトルについて、その理論を理解し、解析できるようになる。
テーマ： 有機化合物の電子スペクトル

学習の到達目標
到達目標： 有機化合物の電子スペクトルについて、その理論を理解し、解析できるようになる。
テーマ： 有機化合物の電子スペクトル

教科書　H.Jaffe and M.Orchin: “Theory and Applications of Ultraviolet Spectroscopy”, John Wiley and Sons Inc.

成績評価方法と基準　講読のための準備状況、講読の状況、及び提出レポート

学習内容
授業計画
第1回：光の吸収と測定 第2回：原子軌道と波動力学の基礎
第3回：混成原子軌道 第4回：分子軌道理論の基礎
第5回：等核二原子分子の分子軌道記述 第6回：多原子分子（メタンとエタン）
第7回：多原子分子（エチレンとブタジエン） 第8回：対称操作の基礎
第9回：多重対称操作 第10回：電子状態と吸収スペクトル(電子相関)
第11回：電子状態と吸収スペクトル（エチレンとアセチレン）
第12回：電子状態と吸収スペクトル（ブタジエンとベンゼン）
第13回：吸収強度の理論計算 第14回：選択律
第15回：吸収帯の分極 第16回：振動の相互作用
第17回：スピン・軌道間相互作用 第18回：幾何学的形と基底状態
第19回：励起状態の幾何学的理論 第20回：励起状態の物理的性質
第21回：分子軌道法と原子価結合法との比較 第22回：分子軌道理論による水素原子
第23回：大きな分子に対する原子価結合法と分子軌道法の一般化
第24回：原子価結合法表記における励起スペクトルの研究
第25回：電荷密度、結合次数、及び自由原子価 第26回：単純クロモフォアと溶媒効果
第27回：共役ジエン 第28回：α, β-不飽和カルボニル化合物
第29回：ポリエンのスペクトル

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		無機化学特論	2	前期　木 1, 2	新居淳二（教育学部）

授業の概要　無機固体の構造と反応性に関する講義

学習の目的　固体の構造と反応性を理解する。

学習の到達目標　金属やセラミックスなど無機固体材料の性質の特徴を理解する

教科書　プリント使用

成績評価方法と基準　レポート

オフィスアワー　毎週木曜日12:00-13:00, 場所：研究室

学習内容
第1回：イントロダクション
第2回：結晶学の基礎
第3回：主な結晶構造
第4回：イオン結晶
第5回：バンド構造
第6回：定比欠陥
第7回：不定比欠陥
第8回：固体電解質
第9回： 固体反応の熱力学
第10回：2成分系状態図
第11回：3成分系状態図
第12回：相転移
第13回：固ー気系の平衡（酸化物）
第14回：固ー気系の平衡（その他）
第15回：固ー気系の動力学

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		無機化学特論演習	2	通年	新居淳二

授業の概要　無機固体化学に関する英文テキストとその内容に関連する文献の講読

学習の目的　英文文献の講読を通して無機固体化学の基礎を理解する

学習の到達目標
金属やセラミックスなど無機固体材料の性質の特徴を理解する
英文の講読に慣れる

教科書　プリント使用

成績評価方法と基準　予習復習の状況とレポート

オフィスアワー　毎週月曜日12:00-13:00 場所：研究室

学習内容
固体化学や結晶構造に関する英文の入門書を講読する。また、その内容に関連する文献を講読することもある。
内容は、無機化学特論で講義した内容である。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		動物学特論	2	前期　火 3, 4	後藤太一郎（教育学部理科教育）

授業の概要　動物の形態や生理、および行動に関する概説し、これをふまえて、動物の感覚、行動発現の機構、および行動の遺伝・発達・学習について言及する。また、実際にいつくかの身近な動物を取り上げて具体的な実験例を示すことで理解を深める。

学習の目的　動物の形態、生理、行動に関する知識を習得し、動物における生命現象について理解できるようになることを目的とする。特に、身近な動物の光受容、化学受容、機械受容とそれによって発現する行動解析をテーマとする。

学習の到達目標
動物の感覚需要から行動発現に至るプロセスの基本的な知識を得る。
動物の形態、動物の行動に関心をもち、行動解析のための実験的手法を身につける。

教科書　Senior Biology (Biozone)

成績評価方法と基準　レポート50%、授業への取組み50%

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00（教育学部1号館2階 後藤研究室）

学習内容
第1回：授業ガイダンス 動物の感覚の世界
第2回：光受容
第3回：化学受容
第4回：機械受容
第5回：動物の神経系（1）神経系の発達
第6回：動物の神経系（2）中枢系
第7回：神経系における情報伝達（1）神経活動
第8回：神経系における情報伝達（2）統合機能
第9回：動物行動の要素
第10回：動物の定型的行動
第11回：動物のコミュニケーション
第12回：生物リズム
第13回：学習
第14回：動物の行動と遺伝
第15回： まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		動物学特論演習	2	通年	後藤太一郎（教育学部理科教育）

授業の概要　動物学特論で講述する内容に関する演習（研究のスキル）と論文購読を行う。

学習の目的　動物の形態、生理、行動に関する知識を習得し、動物における生命現象について理解できるようになるとともに、主体的に研究を進められるようになることを目的とする。身近な動物の感覚と行動解析に関する研究をどのように計画して実施するのかをテーマとする。併せて、教育現場で実施可能な実験開発を考える。

学習の到達目標
文献購読を通じて、動物の形態、生理、行動に関する知識を習得し、動物における生命現象について理解できるようになる。
身近な動物の感覚と行動解析に関する研究をどのように計画して実施する考えることができる。
教育現場で実施可能な実験開発を考えることができる。

成績評価方法と基準　論文紹介100%

学習内容
第1回：授業ガイダンス
第2回：実験動物の飼育技術 （1）魚類
第3回：実験動物の飼育技術 （2）水生無脊椎動物
第4回：実験動物の飼育技術 （3）昆虫
第5回：実験動物の飼育に関する文献購読（1）魚類
第6回：実験動物の飼育に関する文献購読（2）水生無脊椎動物
第7回：感覚器および神経の形態学的研究 （1）標本作製
第8回：感覚器および神経の形態学的研究 （2）色素染色法
第9回：感覚器および神経の形態学的研究 （3）抗体染色法
第10回：感覚器および神経の形態学的研究 （4）走査電顕
第11回：感覚器および神経の形態学的研究に関する文献購読（1）感覚
第12回：感覚器および神経の形態学的研究に関する文献購読（2）神経
第13回：課題：教育現場で実施可能な形態観察実験の開発について（1）魚類
第14回：課題：教育現場で実施可能な形態観察実験の開発について（2）水生無脊椎動物
第15回：行動記録の方法 （1）動画記録
第16回：行動記録の方法 （2）微速度記録
第17回：行動記録の方法 （3）ハイスピード記録
第18回：刺激と反応 （1）光受容
第19回：刺激と反応 （2）機械受容
第20回：刺激と反応 （3）化学受容
第21回：動物のコミュニケーション
第22回：動物の活動リズム
第23回：発達と行動
第24回：行動の週間比較
第25回：行動学的研究に関する文献購読（1）逃避
第26回：行動学的研究に関する文献購読（2）摂餌
第27回：行動学的研究に関する文献購読（3）配偶
第28回：課題：教育現場で実施可能な行動実験の開発について（1）魚類
第29回：課題：教育現場で実施可能な行動実験の開発について（2）水生無脊椎動物
第30回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		植物学特論	2	前期　火 7, 8	平山 大輔（教育学部理科教育講座）

授業の概要　植物学とその関連分野のこれまでの研究成果および現在注目されている話題について解説する。

学習の目的　植物の生態や系統についての知識を修得し，植物の形態や生活史にみられる類縁関係を理解できるようになることを目標とする。授業全体を通して，野外で目にする多様な植物はどのような進化的プロセスを経て現在ある姿に到ったのかをテーマとする。

学習の到達目標　植物の生態や系統についての知識を修得し，植物の形態や生活史にみられる類縁関係を理解できるようになる。

教科書　教科書は特に指定せず，スライドや配布資料・学術論文を用いて授業を行う。

成績評価方法と基準　平常点50%，レポート50%，合計100%で評価する（60%以上で合格）。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00-13:00、場所：教育学部1号館2階 平山研究室

学習内容
第1回：授業ガイダンス；植物学の魅力と重要性
第2回：植物の形態
第3回：植物の系統
第4回：植生調査の方法；概説
第5回：植生調査の方法；実践例
第6回：植物の生活史
第7回：生活史の調査方法；概説
第8回：生活史の調査方法；実践例
第9回：植物と地球環境
第10回：植物と学校教育
第11回：植物と人間の暮らし
第12回：植物の保全生態学
第13回：地域・学校園との協働による植物調査；概説
第14回：地域・学校園との協働による植物調査；事例
第15回：総合討論

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		植物学特論演習	2	通年　火 1, 2	平山 大輔（教育学部理科教育講座）

授業の概要　植物学特論の内容に関する演習（データ分析，論文の書き方を含む）と論文講読を行う。

学習の目的　植物の生態や系統についての知識を修得し，植物の形態や生活史にみられる類縁関係を理解できるようになるとともに，主体的に研究を進められるようになることを目標とする。植物生態学や系統分類に関する研究をどのように計画して実施するのかをテーマとする。

学習の到達目標　植物の生態や系統についての知識を修得し，植物の形態や生活史にみられる類縁関係を理解できるようになるとともに，主体的に研究を進められるようになる。

教科書　教科書は特に指定せず，スライドや配布資料・学術論文を用いて授業を行う。

成績評価方法と基準　平常点50%，レポート50%，合計100%で評価する（60%以上で合格）。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00-13:00、場所：教育学部1号館2階 平山研究室

学習内容
第1回：授業ガイダンス；植物学の研究の魅力と重要性
第2回：植物の形態
第3回：植物の系統
第4回：植生調査の方法；概説
第5回：植生調査の方法；実践例
第6回：植物の生活史
第7回：生活史の調査方法；概説
第8回：生活史の調査方法；実践例
第9回：植物と地球環境
第10回：植物と学校教育
第11回：植物と人間の暮らし
第12回：植物の保全生態学
第13回：地域・学校園との協働による植物調査；概説
第14回：地域・学校園との協働による植物調査；事例
第15回：植物学分野におけるデータ分析；データ整理の方法
第16回：植物学分野におけるデータ分析；統計的仮定
第17回：植物学分野におけるデータ分析；統計的推定
第18回：植物学分野におけるデータ分析；線形モデル
第19回：植物学分野におけるデータ分析；非線形モデル
第20回：論文講読；植物群落の組成と構造に関する論文
第21回：論文講読；植物群落の動態に関する論文
第22回：論文講読；植物の繁殖・更新特性に関する論文
第23回：論文講読；植物の系統分類に関する論文
第24回：論文講読；樹木の機能特性に関する論文
第25回：論文講読；希少種の保全生態学に関する論文
第26回：論文講読；自然再生事業に関する論文
第27回：論文講読；環境教育に関する論文
第28回：論文の書き方；序論
第29回：論文の書き方；方法・結果
第30回：論文の書き方；考察・その他

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		古生物学特論	2	前期　火 5, 6	栗原 行人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　様々な古生物学的研究の手法とその実例について，主に海産無脊椎動物を対象として解説を行う．

学習の目的　近年の古生物学の進展について理解を深め，それらを教材として扱う上でのポイントについて考える力を身につける．

学習の到達目標　古生物学上の重要なトピックスについて他者に説明でき議論できるようになること．

教科書　D.M.ラウプ・S.M.スタンレー著「古生物学の基礎」どうぶつ社．

成績評価方法と基準　レポートによる．

学習内容
第1回：イントロダクション
第2回：保存と化石記録
第3回：単一の標本を記載すること
第4回：個体発生的変異
第5回：単元としての集団
第6回：単元としての種
第7回：高次分類単位への種のまとめ
第8回：化石の同定
第9回：適応と機能形態
第10回：生層序
第11回：古生態
第12回：進化と化石記録
第13回：生物地理
第14回：大量絶滅
第15回：定常絶滅
第16回：トピックス

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		古生物学特論演習	2	通年　火 7, 8	栗原 行人（教育学部理科教育講座）

授業の概要　古生物学，特に海産無脊椎動物化石を扱った論文を輪読し，議論を行い，その理解を深める．輪読する論文は，受講者と相談して決める．

学習の目的　近年の古生物，地球環境変動史研究の進展について理解を深め，それらを教材として扱う上でのポイントについて考える力を身につける．

学習の到達目標　学術論文を読み，発表し，議論できること．

受講要件　地史学特論を受講していること．

成績評価方法と基準　レポートによる．

学習内容
以下の内容にそった論文の輪読を行う．
第1回：イントロダクション 第16回：生命の起源
第2回：保存と化石記録 第17回：先カンブリア時代の世界
第3回：単一の標本を記載すること 第18回：古生代（カンブリア・オルドビス紀）
第4回：個体発生的変異 第19回：古生代（シルル〜ペルム紀）
第5回：単元としての集団 第20回：中生代（三畳〜ジュラ紀）
第6回：単元としての種 第21回：中生代（白亜紀）
第7回：高次分類単位への種のまとめ 第22回：新生代（古第三紀）
第8回：化石の同定 第23回：新生代（新第三紀）
第9回：適応と機能形態 第24回：第四紀
第10回：生層序 第25回：人類の進化
第11回：古生態 第26回：日本海の拡大
第12回：進化と化石記録 第27回：新第三紀の日本列島の古地理
第13回：生物地理 第28回：大桑層に記録された氷河性海水準変動
第14回：大量絶滅 第29回：縄文海進
第15回：トピックス1 第30回：トピックス2

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		天文学特論	2	前期　金 3, 4	伊藤信成

授業の概要　天体から放射される電磁波は、宇宙の諸現象を解明する上で最も基本的な情報を我々に与えるものである。本講義では、天体からの電磁波情報からどのような情報を読み取ることができるのか、またそのための理論的背景について議論する。

学習の目的　天体現象の理論的背景を理解し、各種の天体観測の目的と意義を理解することができるようになる。

学習の到達目標
現代天文学で行われているいくつかの方法について、その原理を説明することができるようになる。
受講者自身が興味を持つ天体現象について、最適な観測を立案することができるようになる。

予め履修が望ましい科目
電磁気学・量子力学を履修しておくことが望ましい
講義の中でも復習を行う

成績評価方法と基準
小レポート20%
期末レポート 80%

オフィスアワー　毎週火曜日 14:30〜16:00 地学第一研究室

学習内容
第1-3回：天体位置と時刻系
第4-6回：黒体輻射と天体スペクトル
第7-9回：輝線と吸収線, 非熱的放射
第10-12回：測光，撮像，分光
第13-14回：検出限界とS/N
第15回：観測計画の立案

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		天文学特論演習	2	通年　金 1, 2	伊藤信成

授業の概要　天文特論の内容を受け、実際の観測データを解析することで内容の理解を深めることに加え、論文を批判的に読み解くことで、問題点の抽出と改善策の提案ができる能力の向上を図る。以上を踏まえることで、小中高校での天文教育における具体的・実践的な指導力を習得する。

学習の目的
・観測データの持つ意味を理解できる。
・観測データの質を評価できる。
・先行研究の課題を指摘し、対案を提案できる。
・小中高校での単元に即したデータ・教材を自作することができる。

学習の到達目標
可視赤外域における典型的な観測・解析手法について理解する。
基本的な天体画像処理手法について習得する。
受講者自身の興味・関心に応じた観測計画の立案，観測の実施，データ処理，報告書の作成までを行うことができる。

受講要件　天文学特論を履修していること

教科書　適宜、資料を配布する

成績評価方法と基準
演習課題 50%
レポート 50%

オフィスアワー　毎週火曜日 14:30-16:00 地学第一研究室

学習内容
前期：
01-05回：天体輻射理論の観測的検証と関連する論文の輪読。
06-10回：具体的天体に対する観測計画の立案
11-15回：学外施設における観測実習
後期：
01-05回：前期の内容に基づいた測光・分光データ解析
06-10回：観測・解析の報告書の作成
11-15回：上記内容を教育現場に活用するための方法論の検討

その他
長期休暇中に学外施設における実習を行う。
実習には夜間観測が含まれる。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		技術教育特論 I	2	前期　月 5, 6	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　技術教育が対象とする「技術」の概念について検討する。

学習の目的　技術教育に関わる研究を遂行しようとしている院生が，これからの研究の方向性を明確にすることをねらいとしている。

学習の到達目標　この授業を履修することで，技術教育が対象とする「技術」についてより深く理解するとともに，これから自分が遂行しよとしている技術教育に関わる研究での課題を明確することができる。

教科書　授業において，必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00〜13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 オリテン：本授業概要の説明
2回 1．技術教育が対象とする「技術」に関する考察
(1) 現代社会と「技術」
3回 (2) 人類と「技術」
4回 (3) 人間形成と「技術」
5回 (4) 教育と「技術」
6回 (5) 学校教育と「技術」
7回 (6) 生涯教育と「技術」
8回 2．各自が研究対象とする「技術」に関する検討
(1) 材料加工における「技術」
9回 (2) エネルギー変換における「技術」
10回 (3) 生物育成における「技術」
11回 (4) 情報における「技術」
12回 (5) 教科教育における「技術」
13回 3．院生各自の研究における課題の明確化
(1) 社会での「技術」に関わる今日的課題の検討
14回 (2) 学校現場での技術教育における今日的課題
15回 まとめ：本授業の総括

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		技術教育特論演習 I	1	前期　月 7, 8	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　技術教育が人間形成に果たしている役割について検討する。

学習の目的　技術教育に関わる研究を遂行している院生が，自らの研究についてより理解を深めるとともに，自ら主体的に研究を進めることができることをねらいとしている。

学習の到達目標　技術教育が人間形成に果たしている役割を，文献を基して検討することで，院生が取り組む研究について理解を深めるとともに，自ら主体的にその研究を推進することができる。

受講要件　技術教育特論 I を履修すること。

教科書　授業において，必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00〜13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 オリテン：本授業概要の説明
2回 1．院生各自が取り組んでいる研究概要の発表
3回 2．技術教育と人間形成に関わる文献の輪読と討論
(1) 技術論1：労働手段体系説
4回 (2) 技術論2：意識的適応説
5回 (3) 技術論3：元木健の技術論
6回 (4) 技術論4： 三木清の技術論
7回 (5) 技術論5：その他
8回 3．各自が取り組む研究と関連する教育研究の文献の輪読と討論
(1) 技術教育論1：労作教育
9回 (2) 技術教育論2：総合技術教育
10回 (3) 技術教育論3：スロイド教育
11回 (4) 技術教育論4：職業教育
12回 (5) 技術教育論5： STS教育
13回 (6) 技術教育論6：その他
14回 4．今後院生各自が取り組む教育研究の構想と今後の課題の検討
15回 まとめ：本授業の総括

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		技術教育特論 II	2	後期　水 1, 2	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　これからの社会に求められる技術教育について検討する。

学習の目的　技術教育に関わる研究を遂行している院生が，自らの研究を多面的に理解するとともに，研究をさらに進展させることをねらいとしている。

学習の到達目標　諸外国の技術教育に関わる文献を基に，これからの技術教育について検討することで，院生が取り組む研究を多面的に理解するとともに，自らの研究をさらに進展させることができる。

受講要件　技術教育特論 I と技術教育特論演習 I を履修済であること。

予め履修が望ましい科目　技術教育特論 I，技術教育特論演習 I

教科書　授業において，必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00〜13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 オリテン：本授業概要の説明
2回 1．諸外国の技術教育に関わる文献の輪読と討論
(1) アメリカにおける技術教育
①理念
3回 ②構造
4回 ③カリキュラム
5回 ④授業の実際
6回 (2) イギリスにおける技術教育
①理念
7回 ②構造
8回 ③カリキュラム
9回 ④授業の実際
10回 (3) フィンランドにおける技術教育
①理念
11回 ②構造
12回 ③カリキュラム
13回 ④授業の実際
14回 2．これからの我が国における技術教育の検討
15回 まとめ：本講義の総括

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		技術教育特論演習 II	1	後期　水 3, 4	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　技術教育に関する研究動向を確認するとともに，院生が遂行している研究に関して検討する。

学習の目的　院生が技術教育に関わる研究を進めていく際に必要とされる能力を身につけることをねらいとする。

学習の到達目標
・自らが研究したいと考えている技術教育に関する研究について，その動向がわかる。
・現実の問題を整理し，その中から研究可能な課題を選択することができる。
・選択した課題と関連した先行研究を検討し，自らの研究課題を明確にすることができる。
・明確にした研究課題を基にして研究を進めることができる。

受講要件　技術教育特論 I と技術教育特論演習 I を履修済で，技術教育特論 II を履修すること。

予め履修が望ましい科目　技術教育特論 I，技術教育特論演習 I

教科書　授業において，必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00〜13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 オリエンテーション：本授業の概要説明
2回 1．技術科教育特論演習 I の成果と課題の確認
3回 2．教育研究における実践的研究の進め方
4回 3．院生各自が取り組んでいる教育研究に関する中間報告と討論
(1) 1回目
①材料加工技術分野
5回 ②エネルギー変換技術分野
6回 ③生物育成技術分野
7回 ④情報技術分野
8回 (2) 2回目
①材料加工技術分野
9回 ②エネルギー変換技術分野
10回 ③生物育成技術分野
11回 ④情報技術分野
12回 4．院生各自が取り組んだ技術教育における教育研究のまとめ
①材料加工技術分野
13回 ②エネルギー変換技術分野
14回 ③生物育成技術分野
15回 ④情報技術分野

その他　複数回，小・中学校の研究発表会に参加し，学校現場の実践について検討する取組も行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		電子工学特論	2	前期　月 1, 2	松岡 守（教育学部）

授業の概要　中学校の技術科で電子工学の深い知識を伝授することは求められてはいない。しかしながら簡単な電子工作の実践の場合でも、その仕組みについて生徒が質問した場合、それに使われている素子や構成を正しく説明するにはある程度以上の深い知見が教師には求められる。また広く産業技術における電子工学の役割を授業で語りその重要性を理解させるためにも必要である。このために、いくつかのややレベルの高い電子工学に関する研究論文等の資料を中心に選び、その内容について徹底的に調べ、まとめ、中学生に説明できる内容を作成する練習を行う。

学習の目的　本授業ではこのように中学校の技術科の教師として有していることが望ましいレベルに電子工学の知識を高め、かつ未知の事項についてどのように調べ、まとめ、かみ砕いて生徒に解説できるスキルを身に付けることを目指す。これはまた専門性がある程度進んだ高等学校の専門教育における電子工学の授業を行う上でも有用な知見となるものである。

学習の到達目標
・電子工学の特定の事例について深い知識，知見を得る。
・電子工学の他の事例について理解の方法，見方の適切な姿勢を持つ。

成績評価方法と基準　小テスト，レポート，期末試験から総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日12:00〜13:00 研究室
メールにて随時 matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 授業の概要説明，授業で取り扱う資料の検討を行い，電子工学に関する資料1：時事的な解説記事，資料2，3：研究論文，資料4：教材資料，を決定する。
第2回 資料1について輪読し，調査すべき課題を抽出，分担を決定する
第3回 資料1について調査した結果を発表
第4回 資料1について中学生ないし専門高校生に説明することを想定した説明方法を検討する
第5回 資料2について輪読し，調査すべき不明部分を明確にし，分担を決定する
第6回 資料2について調査した結果を発表
第7回 資料2について中学生ないし専門高校生に説明することを想定した説明方法を検討する
第8回 中間まとめ
第9回 資料3について輪読し，調査すべき不明部分を明確にし，分担を決定する
第10回 資料3について調査した結果を発表
第11回 資料3について中学生ないし専門高校生に説明することを想定した説明方法を検討する
第12回 資料4について輪読し，教材の改良点，授業の利用の方法について議論する
第13回 資料4の教材を応用した授業案をまとめる
第14回 資料4の教材を応用した模擬授業を行い，教材の有効性，授業構成について議論する
第15回 全体まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		電気工学特論 I	2	前期　火 5, 6	松岡 守（教育学部）

授業の概要　中学校の技術科で電気工学の深い知識を伝授することは求められてはいない。しかしながら簡単な電気工作の実践の場合でも、その仕組みについて生徒が質問した場合、それに使われている素子や構成を正しく説明するにはある程度以上の深い知見が教師には求められる。また広く産業技術における電気工学の役割を授業で語りその重要性を理解させるためにも必要である。このために、いくつかの電気工学に関する研究論文等の資料を中心に選び、その内容について徹底的に調べ、まとめ、中学生に説明できる内容を作成する練習を行う。

学習の目的　本授業では中学校の技術科の教師として有していることが望ましいレベルに電気工学の知識を高め、かつ未知の事項についてどのように調べ、まとめ、かみ砕いて生徒に解説できるスキルを身に付けることを目指す。これはまた専門性がある程度進んだ高等学校の専門教育における電気工学の授業を行う上でも有用な知見となるものである。

学習の到達目標
・電気工学の特定の事例について深い知識，知見を得る。
・電気工学の他の事例について理解の方法，見方の適切な姿勢を持つ。

成績評価方法と基準　小テスト，レポート，期末試験から総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日12:00〜13:00 研究室
メールにて随時 matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 授業の概要説明，授業で取り扱う資料の検討を行い，電気工学に関する資料1：時事的な解説記事，資料2，3：研究論文，資料4：教材資料，を決定する。
第2回 資料1について輪読し，調査すべき課題を抽出，分担を決定する
第3回 資料1について調査した結果を発表
第4回 資料1について中学生ないし専門高校生に説明することを想定した説明方法を検討する
第5回 資料2について輪読し，調査すべき不明部分を明確にし，分担を決定する
第6回 資料2について調査した結果を発表
第7回 資料2について中学生ないし専門高校生に説明することを想定した説明方法を検討する
第8回 中間まとめ
第9回 資料3について輪読し，調査すべき不明部分を明確にし，分担を決定する
第10回 資料3について調査した結果を発表
第11回 資料3について中学生ないし専門高校生に説明することを想定した説明方法を検討する
第12回 資料4について輪読し，教材の改良点，授業の利用の方法について議論する
第13回 資料4の教材を応用した授業案をまとめる
第14回 資料4の教材を応用した模擬授業を行い，教材の有効性，授業構成について議論する
第15回 全体まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		電気工学特論演習 I	1	前期　木 7, 8	松岡 守（教育学部）

授業の概要　中学校の技術科で電気工学の深い知識を伝授することは求められてはいない。しかしながら例えば簡単な電子工作の実践の場合でも、その対象の生活及び産業技術上の意味、そしてその製作方法等について背景を深く理解していないと生徒の多様な質問に適切に答えることはできない。このために、いくつかの電気工学に関する設計・製作を伴うテーマを選び、その内容について徹底的に調べ、設計・製作を実際に行う。

学習の目的　本授業ではこのように中学校の技術科の教師として有していることが望ましい電気工学の実践的な知識・技能を得ることを目的とする。これはまた専門性がある程度進んだ高等学校の専門教育における電気工学の授業を行う上でも有用な知見となるものである。

学習の到達目標　・電気工学の特定の事例について深い知識，知見を実践的に体得する。

成績評価方法と基準　レポート，制作物，口頭試問により総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日12:00〜13:00 研究室
メールにて随時 matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 授業の概要説明，授業で取り扱う設計・製作を伴うテーマの検討。テーマは風力，太陽光等の発電，送配電，省電力機器，ソーラーカー等，時宜に即した電気機器について説明する教材の開発を目標として設定し，2テーマを選ぶ。
第2回 テーマ1について文献調査を行う
第3回 テーマ1について教材化の検討を行い，必要な部材をまとめる
第4回 テーマ1について教材の試作を行う
第5回 テーマ1について試作教材の課題を抽出し，改良を行う
第6回 テーマ1について教材の製作を進め完成させる
第7回 テーマ1について完成した教材を用いた模擬授業を行う
第8回 テーマ1についてまとめ、テーマ1の経験に基づきテーマ2について再検討を行う
第9回 テーマ2について文献調査を行う
第10回 テーマ2について教材化の検討を行い，必要な部材をまとめる
第11回 テーマ2について教材の試作を行う
第12回 テーマ2について試作教材の課題を抽出し，改良を行う
第13回 テーマ2について教材の製作を進め完成させる
第14回 テーマ2について成した教材を用いた模擬授業を行う
第15回 テーマ2についてまとめ，続いて全体のレビューを行う

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		電気工学特論 II	2	後期　月 7, 8	松岡 守

授業の概要　中学校の技術科で電気工学の深い知識を伝授することは求められてはいない。しかしながら簡単な電気工作の実践の場合でも、その仕組みについて生徒が質問した場合、それに使われている素子や構成を正しく説明するにはある程度以上の深い知見が教師には求められる。また広く産業技術における電気工学の役割を授業で語りその重要性を理解させるためにも必要である。このために、電気工学特論 I に続き、いくつかのややレベルの高い電気工学に関する研究論文等の資料を選び、その内容について徹底的に調べ、まとめ、中学生に説明できる内容を作成する練習を行う。

学習の目的　本授業では中学校の技術科の教師として有していることが望ましいレベルに電気工学の知識を高め、かつ未知の事項についてどのように調べ、まとめ、かみ砕いて生徒に解説できるスキルを身に付けることを目指す。これはまた授業内容は専門性がある程度進んだ高等学校の専門教育における電気工学の授業を行う上でも有用な知見となるものである。

学習の到達目標
・電気工学の特定の事例について深い知識，知見を得る。
・電気工学の他の事例について理解の方法，見方の適切な姿勢を持つ。

成績評価方法と基準　小テスト，レポート，期末試験から総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12:00〜13:00，技術棟2階電気工学研究室

学習内容
第1回 授業の概要説明，授業で取り扱う資料の検討を行い，電子工学に関する資料1：時事的な解説記事，資料2，3：研究論文，資料4：教材資料，を決定する。
第2回 資料1について輪読し，調査すべき課題を抽出，分担を決定する
第3回 資料1について調査した結果を発表
第4回 資料1について中学生ないし専門高校生に説明することを想定した説明方法を検討する
第5回 資料2について輪読し，調査すべき不明部分を明確にし，分担を決定する
第6回 資料2について調査した結果を発表
第7回 資料2について中学生ないし専門高校生に説明することを想定した説明方法を検討する
第8回 中間まとめ
第9回 資料3について輪読し，調査すべき不明部分を明確にし，分担を決定する
第10回 資料3について調査した結果を発表
第11回 資料3について中学生ないし専門高校生に説明することを想定した説明方法を検討する
第12回 資料4について輪読し，教材の改良点，授業の利用の方法について議論する
第13回 資料4の教材を応用した授業案をまとめる
第14回 資料4の教材を応用した模擬授業を行い，教材の有効性，授業構成について議論する
第15回 全体まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		電気工学特論演習 II	1	後期　金 1, 2	松岡 守（教育学部）

授業の概要　中学校の技術科で電気工学の深い知識を伝授することは求められてはいない。しかしながら例えば簡単な電子工作の実践の場合でも、その対象の生活および産業技術上の意味、そしてその製作方法等について背景を深く理解していないと生徒の多様な質問に適切に答えることはできない。このために、電気工学特論演習 I に続いて、いくつかのややレベルの高い電気工学に関する設計・製作を伴うテーマを選び、その内容について徹底的に調べ、設計・製作を実際に行う。

学習の目的　本授業ではこのように中学校の技術科の教師として有していることが望ましい電気工学の実践的な知識・技能を得ることを目的とする。これはまた専門性がある程度進んだ高等学校の専門教育における電気工学の授業を行う上でも有用な知見となるものである。。

学習の到達目標　・電気工学の特定の事例について深い知識，知見を実践的に体得する。

成績評価方法と基準　レポート，制作物，口頭試問により総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週月曜日12:00〜13:00 教育学部技術棟2階電気工学研究室

学習内容
第1回 授業の概要説明，授業で取り扱う設計・製作を伴うテーマの検討。テーマは風力，太陽光等の発電，送配電，省電力機器，ソーラーカー等，時宜に即した電気機器について説明する教材の開発を目標として設定し，2テーマを選ぶ。電気工学特論演習 I の経験を踏まえ，よりレベルの高い内容を設定する。
第2回 テーマ1について文献調査を行う
第3回 テーマ1について教材化の検討を行い，必要な部材をまとめる
第4回 テーマ1について教材の試作を行う
第5回 テーマ1について試作教材の課題を抽出し，改良を行う
第6回 テーマ1について教材の製作を進め完成させる
第7回 テーマ1について完成した教材を用いた模擬授業を行う
第8回 テーマ1についてまとめ、テーマ1の経験に基づきテーマ2について再検討を行う
第9回 テーマ2について文献調査を行う
第10回 テーマ2について教材化の検討を行い，必要な部材をまとめる
第11回 テーマ2について教材の試作を行う
第12回 テーマ2について試作教材の課題を抽出し，改良を行う
第13回 テーマ2について教材の製作を進め完成させる
第14回 テーマ2について成した教材を用いた模擬授業を行う
第15回 テーマ2についてまとめ，続いて全体のレビューを行う

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		機械工学特論 I	2	前期　金 3, 4	松本金矢（三重大学教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　振動工学の基礎から最適設計問題にいたる一連の設計問題を考える。

学習の到達目標　振動工学の基礎を理解し、連続体力学および有限要素法による固有値解析が理解できる。

予め履修が望ましい科目　工業力学、材料力学（学部科目）

教科書　資料は教員が準備します。

成績評価方法と基準　講義中に出す課題および最終レポートを総合的に評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学実験室

学習内容
第1回 概要
第2回 振動工学の歴史と学問体系
第3回 振動解析の基礎理論
第4回 離散系の振動問題
第5回 動吸振器の設計
第6回 連続体の振動問題（弦，梁）
第7回 連続体の振動問題（板，殻）
第8回 異方性材料の振動問題
第9回 モード解析法
第10回 不規則振動と信号処理
第11回 有限要素法の基礎とダランベールの原理
第12回 固有値解析法
第13回 直接積分法
第14回 実験モード解析
第15回 最適設計と遺伝的アルゴリズム

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		機械工学特論演習 I	1	前期　金 5, 6	松本金矢（三重大学教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　振動工学における解析手法を具体的な計算を通して学ぶ。

学習の到達目標　構造解析の基礎を理解し、具体的な構造設計が可能となる。

予め履修が望ましい科目　機械工学特論 I A、工業力学（学部授業）、材料力学（学部授業）

教科書　教員が資料を準備します。

成績評価方法と基準　毎回課す課題と、レポートを総合して評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学実験室

学習内容
第1回 概要
第2回 数値計算用言語によるプログラミングの基礎
第3回 ダランベールの原理と運動方程式
第4回 数式処理ソフト
第5回 離散系の振動解析
第6回 動吸振器の設計
第7回 連続体の振動解析（弦，梁）
第8回 連続体の振動解析（板，殻）
第9回 有限要素法の基礎とプログラミング
第10回 ビーム要素による固有値解析
第11回 シェル要素による固有値解析
第12回 ソリッド要素による固有値解析
第13回 実験モード解析
第14回 直接積分による解析
第15回 有限要素法による最適設計

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		機械工学特論 II	2	後期　金 3, 4	松本金矢（三重大学教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　中学校技術科技術とものづくり分野の機械領域に関する教材開発を考え，その成果を論文としてまとめる。

学習の到達目標　ものづくり教材の開発方法を理解し、研究的視点でまとめ発表することができる。

教科書　資料は教員が準備します。

成績評価方法と基準　毎回の課題と、教材開発に関する発表、レポートを総合して評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学実験室

学習内容
第1回 概要
第2回 技術教育・工業科教育におけるものづくり
第3回 身の回りにある機械部品
第4回 開発教材のテーマ設定
第5回 テーマの検討および課題設定
第6回 テーマおよび課題に関する討論
第7回 テーマ修正
第8回 ウェッビング等による資料集
第9回 中間報告資料作成
第10回 中間報告会および討論会
第11回 課題修正
第12回 ウェッビング等による資料集
第13回 開発教材プレゼンテーション作成
第14回 開発教材の発表会および討論
第15回 最終報告書作成

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		機械工学特論演習 II	1	後期　火 5, 6	中西 康雅（教育学部）

授業の概要　計算力学における代表的な解析手法である有限要素法ついて学習し、これを活用した構造解析技術の習得と、学校教育課程への導入について学習する。

学習の目的
計算力学の現状と展望を学習し、解析手法の一種である有限要素法を利用し、線形弾性体の応力解析の演習を行う。
このような学習を通じ、計算力学が現代のものづくり産業において果たしている役割を理解するとともに、学校教育課程のものづくり教育に導入することの意義について理解することができる。

学習の到達目標
計算力学の意義について説明することができる。
中学校の技術科教育、工業高校の教育課程において計算力学を位置づけることができる。

教科書　必要に応じて書籍を紹介したり、プリントを配布する。

成績評価方法と基準　期末試験50%、各回のレポート50%

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
1．計算力学とCAE
2．骨組構造のマトリックス構造解析
3．線形弾性体の境界値問題
4．1次元弾性体の有限要素法
5．トラス構造の解析法
6．トラス構造の解析法演習
7．三角形要素による有限要素法の基礎
8．三角形要素による有限要素法の演習（面内変形問題）
9．三角形要素による有限要素法の演習（曲げ変形問題）
10．三角形要素による有限要素法の演習
11．学校教育課程における計算力学の展開1：機械工学に関わるシミュレーション教材の意義と現状
12．学校教育課程における計算力学の展開2：機械工学に関わるシミュレーション教材の実践例
13．学校教育課程における計算力学の展開3：機械工学に関わるシミュレーション教材の検討
14．学校教育課程における計算力学の展開4：機械工学に関わるシミュレーション教材開発の報告
15．まとめ
16．試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		材料工学特論	2	前期　木 3, 4	中西 康雅（教育学部）

授業の概要
技術教育または工学教育において、材料の特性を理解し、その加工法や実用のための課題を理解することは、非常に重要であるのは言及するまでもない。
本授業では、様々な用途で用いられる材料、特に先端材料の一種である複合材料について、その特性を決定する種々の要素について学び、複合材料の構造と力学を題材とした授業実践例をもとに材料について学習することの意義と課題について討議する。

学習の目的
本授業では、様々な用途で用いられる材料、特に先端材料の一種である複合材料について、その特性を決定する種々の要素とその設計法について学習する。
したがって、複合材料の材料設計と構造設計について理解し、基礎的な設計法について習得することを目的としている。
また、習得した知識・技能を技術教育、およびものづくり教育において位置づけ、教材開発できるようになる。

学習の到達目標
・テーラードマテリアルとしての複合材料の力学的特性を理解している。
・基本的な構造において、複合材料の剛性設計、強度設計ができる。
・現代のものづくり産業において、材料開発が果たしている役割について説明することができる。
・これらの知識と技能をもとに、技術教育、およびものづくり教育において、材料工学が果たす役割について教材化できる。

教科書　必要に応じて書籍を紹介したり、プリントを配布する。

成績評価方法と基準　期末試験50%、各回のレポート50% 。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
第1回 ：ガイダンス、材料開発と現代社会
第2回 ：技術教育・工学教育における材料工学の位置づけ
第3回 ：結晶材料と高分子材料の変形と強度
第4回 ：破壊力学と損傷力学
第5回 ：複合材料の定義
第6回 ：複合材料の力学
第7回 ：積層複合材料と積層理論
第8回 ：複合材料の力学的特性と試験法
第9回 ：機能性材料としての複合材料
第10回：材料設計と構造設計
第11回：環境問題と複合材料
第12回：複合材料の課題と展望
第13回：複合材料を題材とした授業実践の検討1（中学校技術科における実践例の紹介）
第14回：複合材料を題材とした授業実践の検討2（学校教育課程から見た実践例の意義と課題）
第15回：複合材料を題材とした授業実践の検討3（学校教育課程における授業内容の検討）
第16回：定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		材料工学特論演習	1	後期　金 5, 6	中西 康雅（教育学部）

授業の概要
本授業では、様々な用途で用いられる材料、特に先端材料の一種である複合材料について、その特性を決定する種々の要素とその設計法について、実験やシミュレーション演習や学校教育における授業構想演習を通じて学習する。
したがって、複合材料の材料・構造設計について理解し、基礎的な設計法について習得し、また習得した知識・技能を、技術教育及びものづくり教育において位置づけ、授業を構築できるようになることを目的とする。

学習の目的
・複合材料の力学的特性を理解し、複合材料の剛性設計、強度設計ができるようになる。
・現代のものづくり産業において、材料開発が果たしている役割について説明することができるようになる。
・これらの知識と技能をもとに、技術教育、およびものづくり教育において、材料工学が果たす役割について学習する授業を構築できるようになる。

学習の到達目標
・複合材料の力学的特性を理解し、複合材料の剛性設計、強度設計ができる。
・現代のものづくり産業において、材料開発が果たしている役割について説明することができる。
・これらの知識と技能をもとに、技術教育、およびものづくり教育において、材料工学が果たす役割について学習する授業を構築できる。

教科書　必要に応じて書籍を紹介したり、プリントを配布する。

成績評価方法と基準　期末試験50%、各回のレポート50% 。

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00，場所：技術棟1階 材料加工教員室

学習内容
第1回 ：ガイダンス、複合材料の特徴と課題
第2回 ：複合材料の強度試験1（試験片製作と強度計算）
第3回 ：複合材料の強度試験2（試験片観察と強度試験）
第4回 ：複合材料の強度試験3（破断面の観察）
第5回 ：複合材料の振動試験1（試験片製作と固有振動数の算出）
第6回 ：複合材料の振動試験2（試験片観察と振動試験）
第7回 ：複合材料の振動試験3（金属材料との減衰性能の比較実験）
第8回 ：強化繊維と力学的特性（複合則に基づく剛性計算）
第9回 ：複合材料における材料設計と構造設計
第10回：繊維強化複合材料の有限要素解析演習（強化繊維と剛性の関係算出）
第11回：繊維強化複合材料の有限要素解析演習（材料設計と構造設計）
第12回：複合材料を題材とした授業1（授業構想案の作成）
第13回：複合材料を題材とした授業2（授業構想案の発表）
第14回：複合材料を題材とした授業3（授業構想案の検討）
第15回：先端材料の開発とものづくり教育
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		情報工学特論I	2	前期　火 3, 4	奥村晴彦

授業の概要　情報工学・情報教育分野（e-Learningシステム・Moodleを用いた教育等）に関する最新技術を取り上げ、それに関わる知識を習得し、学校現場に活かすことができるようにするとともに、院生が自らの研究を推進する上で必要とされる専門知識を学ぶ

学習の目的　情報工学・情報教育分野（e-Learningシステム・Moodleを用いた教育等）に関する最新技術を取り上げ、それに関わる知識を習得し、学校現場に活かすことができるようにするとともに、院生が自らの研究を推進する上で必要とされる専門知識を習得していくことをねらいとする

学習の到達目標　情報工学・情報教育分野（e-Learningシステム・Moodleを用いた教育等）に関する最新技術を取り上げ、それに関わる知識を習得し、学校現場に活かすことができるようにするとともに、院生が自らの研究を推進する上で必要とされる専門知識を習得することができる

教科書　特に用いない。

成績評価方法と基準　提出物および発表で評価する。

オフィスアワー　予定表 http://goo.gl/OWxl3 で空いているところはいつでもどうぞ。

学習内容
授業計画
第1回：オリエンテーション
第2回：e-Learningとは何か
第3回：Moodleなどのe-Learningシステムの概要
第4回：e-Learningシステムの設置方法
第5回：e-Learningシステムのコース作成方法
第6回：e-Learningシステムを用いた双方向コミュニケーション
第7回：e-Learningシステムによる課題提出
第8回：e-Learningシステムによるテストの自動採点
第9回：e-Learningシステムによる評価
第10回：インストラクショナルデザイン（ID）とは何か
第11回：インストラクショナルデザイン（ID）とe-Learning
第12回：インストラクショナルデザイン（ID）によるコース設計
第13回：古典的テスト理論の概要
第14回：項目反応理論の概要
第15回：まとめ
定期試験（発表会）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		情報工学特論演習I	1	後期　火 1, 2	奥村晴彦

授業の概要　情報工学・情報教育分野に関する知識・技能を習得し、学校現場に活かせること、刻々と新しい技術が導入されていく情報社会の動向を的確に把握することをねらいとし、演習形式で授業を行う。

学習の目的　情報工学・情報教育分野に関する知識・技能を習得し、学校現場に活かせること、刻々と新しい技術が導入されていく情報社会の動向を的確に把握することをねらいとする。

学習の到達目標　情報工学・情報教育分野に関する知識・技能を習得し、学校現場に活かせること、刻々と新しい技術が導入されていく情報社会の動向を的確に把握できるようになる。

教科書　特に用いない。

成績評価方法と基準　演習における発表で評価する。

オフィスアワー　予定表 http://goo.gl/OWxl3 で空いているところはいつでもどうぞ。

学習内容
授業計画
第1回：オリエンテーション
第2回：教育用サーバの構築1：ハードウェア
第3回：教育用サーバの構築2：OS
第4回：教育用サーバの構築3：e-Learningシステムの設置
第5回：e-Learningシステムの設定1：全体
第6回：e-Learningシステムの設定2：コース
第7回：e-Learningシステムの設定3：フォーラム
第8回：e-Learningシステムの設定4：小テスト
第9回：e-Learningシステムの設定5：評価
第10回：タブレット端末の教育利用1：設定
第11回：タブレット端末の教育利用2：ソフトウェア概要
第12回：タブレット端末の教育利用3：ソフトウェア構築法
第13回：コンピュータサイエンスアンプラグドの概要
第14回：コンピュータサイエンスアンプラグドの実例
第15回：まとめ
定期試験（発表）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		情報工学特論II	2	後期　木 3, 4	山守一徳（教育学部）

授業の概要　刻々と新しい技術が導入されていく情報社会において、世の中の動向を的確に把握するためだけでなく、最新技術を知識習得し、院生が自らの研究を推進する上で必要とされる専門知識を習得していくことをねらいとしている。特に、本授業では、ICT活用の技術面だけでなく、人間工学面からも調査把握し、今後の情報社会の未来像を理解するのに必要な知識の習得を目指す。

学習の目的　ICTを駆使する「情報科学」に関する知識およびヒューマンインターフェースに関する知識を習得することを目的とする。

学習の到達目標　専門知識を活かした学際的な研究について、自らがアイデアを出したり、考察ができるようになる。

教科書　講義において紹介する。

成績評価方法と基準　調査活動3割、レポート5割、発表2割の割合で評価し、60点以上を合格とする。

オフィスアワー　毎週月曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
第1回 検索技術
第2回 インターネット技術
第3回 Web2.0
第4回 衛星通信技術
第5回 本人認証技術
第6回 XML
第7回 情報システム
第8回 プレゼンテーション
第9回 情報倫理
第10回 ICタグ
第11回 情報セキュリティ
第12回 暗号化技術
第13回 電子透かし技術
第14回 電子政府
第15回 電子マネー
最終プレゼンテーション

その他　調べ学習方式を用いる

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		情報工学特論演習II	1	前期　水 1, 2	山守一徳（教育学部）

授業の概要　刻々と最新の情報技術が飛び交う世の中において、その情報技術を習得することは重要なことである。特に、サーバやネットワークを利用する技術は、学校現場でも利用され、使いこなしができることが求められている。本授業は、サーバやネットワークの知識習得をさせるための授業であり、その知識の習得を行う時に、受講者に身を持って習得させるために演習を行う。

学習の目的　情報化社会におけるネットワーク活用は、さまざまな基幹技術の要と成り得るものである。ネットワークを駆使する「サーバ」に関する知識を獲得することで、学校現場や研究活動に役立てる技術を習得することを目的とする。

学習の到達目標　演習を通して、ネットワークやOS動作を理解し、サーバ操作ができるようになる。

教科書　講義において紹介する。

成績評価方法と基準　演習活動3割、レポート5割、発表2割の割合で評価し、60点以上を合格とする。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30〜12：00、教育学部専門2号館1階情報教育第1研究室

学習内容
第1回 ガイダンス＋環境構築
第2回 OSインストール
第3回 メールサーバ構築
第4回 FireWall設定
第5回 SELinux設定
第6回 Linuxコマンド
第7回 Webサービス構築
第8回 HTML作成
第9回 JavaScript作成
第10回 PHPプログラミング
第11回 FTP操作
第12回 データベース構築
第13回 SNS構築
第14回 DNSサーバ構築
第15回 演習成果発表
まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		家庭科教育特論 I	2	前期　金 5, 6	吉本敏子

授業の概要　家庭科教育の学習的基盤の一つである家政学に基づいて、家庭科教育の目標および教育内容について検討を行い、適切な教材の精選や家庭科教育の課題について考究する。

学習の目的
1．家庭科教育の課題について理解することができる。
2．家庭科のカリキュラム開発や教材開発の視点を持つことができる。

学習の到達目標
1．家庭科教育の今日的な課題について知り、説明することができる。
2．家庭科のカリキュラム開発や教材開発の具体的なプランを考えることができる。

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート50%、受講態度40%、出席10%

オフィスアワー
毎週火曜日13:30〜14:30
教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．家政学の現状と家庭科教育との関連
2．家庭科教育の課題
3．家庭科教育学の構想
4．家庭科の目標と内容
5．家庭科の実践事例の紹介と分析
6．家庭科のカリキュラム開発の考え方
などの内容に関して扱う。
特に受講生の興味や関心にも配慮し、ディベートを取り入れながら思考が深められるような授業の工夫をする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		家庭科教育特論演習 I	1	後期　金 3, 4	吉本敏子(教育学部家政教育)

授業の概要　家庭科教育特論 I との関連において、教材の構造化、系列化に関する実践的研究を行う。さらに、新しい指導法や教材の開発についても研究し、その教育効果を実証する。

学習の目的
・教材の構造化や系列化について理論的に考える。
・新しい指導方法や教材の開発について研究し、その効果を実証する。

学習の到達目標
・教材の構造化や系列化について、自分の考えを述べることができる。
・新しい指導方法や教材を開発し、また実際に試すことによって、その教育効果を実証することができる。

予め履修が望ましい科目　家庭科教育特論 I

教科書　必要に応じて資料を配布する。

成績評価方法と基準　レポート50%、受講態度40%、出席10%

オフィスアワー
毎週火曜日14：40〜16：10
教育学部1号館3階 家庭科教育第1研究室 ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1．教材の構造化や系列化について検討する。
2．家庭科のカリキュラム開発を試みる。
3．教材開発をする：種々紹介されている実験・実習的な教材を試しながら、家庭科の教材として適不適を判断し、さらに授業展開を考える。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		家庭科教育特論 II	2	前期　木 5, 6	林 未和子(教育学部家政教育)

授業の概要　家庭科教育の現状と家庭・学校・地域における生活実践課題を踏まえ、様々な教科理論、家庭科カリキュラム、教授-学習過程を検討・吟味する。

学習の目的　理論と実践の統合を目指して、今後の家庭科教育の在り方を考究する。

学習の到達目標　家庭科教育の理念、本質、意義について理解を深める。

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
前期・後期 毎週金曜日16:30〜17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
本授業の第1回目は、オリエンテーション、第2回目以降は、受講生の興味・関心、専攻領域、研究テーマなども加味しながら、授業で使うテキストや教材・資料を決定し、進め方を考える。具体的には、以下のような授業を行う予定である。
第1回：オリエンテーション（本授業の目標、内容、進め方、課題、評価について説明するとともに、大学院生の興味・関心について話を聴く。）
第2回：家庭科教育の理念・本質・意義
第3回：日本の家庭科教育の歴史と現状
第4回：家庭科教育の教科理論の検討
第5回：アメリカの家庭科教育の動向と課題
第6回：日米の家庭科カリキュラム
第7回：教材開発と授業実践研究
第8回：家庭科教師に必要な能力
第9回：カナダの家庭科教育－教育改革と学校教育制度－
第10回：カナダの家庭科教育－カリキュラムと学習内容－
第11回：フィンランドの家庭科教育－教育改革と学校教育制度－
第12回：フィンランドの家庭科教育－カリキュラムと学習内容－
第13回：スウェーデンの家庭科教育－教育改革と学校教育制度－
第14回：スウェーデンの家庭科教育－カリキュラムと学習内容－
第15回：まとめ（今後の家庭科教育の在り方と各学生の新たな課題意識について話し合う。）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		家庭科教育特論演習 II	1	後期　木 5, 6	林 未和子(教育学部家政教育)

授業の概要　家庭科教育特論 II との関連において、内外の文献購読、討論、調べ学習等により、家庭科教育の多様な研究視点や方法論について理解を深める。

学習の目的　家庭科教育の充実・発展に寄与し得る研究視点を見出す。

学習の到達目標　広い視野から家庭科教育研究を捉えるとともに、自身の研究テーマへとつなげていく基礎を養う。

予め履修が望ましい科目　家庭科教育特論 II

教科書　必要に応じて資料を配付する。

成績評価方法と基準　出席・授業への参加状況、感想等の提出物、レポート等を総合して評価する。

オフィスアワー
前期・後期 毎週金曜日16:30〜17:30 教育学部1号館3階 家庭科教育第2研究室
miwako82@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
本授業の第1回目は、オリエンテーション、第2回目以降は、受講生の興味・関心、専攻領域、研究テーマなども加味しながら、授業で使うテキストや教材・資料を決定し、進め方を考える。具体的には、以下のような授業を行う予定である。
第1回：オリエンテーション（本授業の目標、内容、進め方、課題、評価について説明するとともに、大学院生の研究の進捗状況について話を聴く。）
第2回：家庭科教育の研究ー教育学における質的研究法と家庭科関連学会の取り組みー
第3回：アメリカの家庭科教育から学ぶ 教科書の内容分析とディスカッション①自己概念と自尊感情
第4回：アメリカの家庭科教育から学ぶ 教科書の内容分析とディスカッション②意思決定と問題解決
第5回：アメリカの家庭科教育から学ぶ 教科書の内容分析ディスカッション③生活の価値観と目標
第6回：アメリカの家庭科教育から学ぶ 教科書の内容分析とディスカッション④コミュニケーションと人間関係
第7回：アメリカの家庭科教育から学ぶ 教科書の内容分析とディスカッション⑤家庭・学校・地域の連携と私たちを取り巻く環境
第8回：アメリカの家庭科教育から学ぶ 教科書の内容分析とディスカッション⑥キャリア教育
第9回：『日本家庭科教育学会誌』掲載論文の分析とディスカッション ①アメリカにおける国、州、プロフェッションの状況ー家庭科教員養成に対するその影響は何かー
第10回：『日本家庭科教育学会誌』掲載論文の分析とディスカッション ②米国家庭科の実践的問題解決を通した批判的リテラシーの育成
第11回：『日本家庭科教育学会誌』掲載論文の分析とディスカッション ③アメリカ合衆国の家庭科教科書における「自分自身を見つめる」学習の検討（第1報）ー自己を知る視点ー
第12回：『日本家庭科教育学会誌』掲載論文の分析とディスカッション ④アメリカ合衆国の家庭科教科書における「自分自身を見つめる」学習の検討（第2報）ー自己と家族や他者とのかかわりのとらえ方ー
第13回：『日本家庭科教育学会誌』掲載論文の分析とディスカッション ⑤米国在住日本人ティーンに対するProject T.R.U.S.T.ティーンピアエデュケーターによるプレゼンテーションの効果について
第14回：『日本家庭科教育学会誌』掲載論文の分析とディスカッション ⑥授業研究の新たな動向：「実践化」の視点から
第15回：まとめ（家庭科教育の充実・発展に寄与し得る研究視点と各学生の研究テーマとのつながりについて話し合う。）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		食物学特論 I	2	前期　月 5, 6	平島円（教育学部家政教育）

授業の概要　食文化，食習慣などの食生活と調理科学に関係する研究方法や分析方法および考察の仕方について論じ，食生活と調理科学の結びつきについて考える．

学習の目的　食品と調理科学に関する知識を得る，食品に関する簡単な実験ができるようになる

学習の到達目標　家庭科教員として，食物学分野の視野を広げ，より多くの知識を身につける

予め履修が望ましい科目　食品学，栄養学および調理科学の知識を有することが望ましい

教科書　Janice VanCleave’s Food and Nutrition for every kid（予定）

成績評価方法と基準　課題への取り組み態度50%，レポート50%

オフィスアワー　毎週月曜日17:00〜18:00 教育専門1号館3階 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回： 授業のガイダンス
第2回：食生活と調理科学の関係について
第3回：食生活における栄養（五大栄養素，食物繊維）に関する疑問点や問題点
第4回：食生活における食品（穀物，イモ類，野菜，果物，海藻）に関する疑問点や問題点
第5回：食生活における調理（加熱方法，下処理方法）に関する疑問点や問題点
第6回：食生活における食環境（生活排水，生活家電）に関する疑問点や問題点
第7回：食生活における食の安全（食品表示，食品添加物）に関する疑問点や問題点
第8回：食生活を楽しむための疑問点や問題点
第9回：食生活と調理科学に関する疑問点や問題点からの課題発見
第10回：食生活と調理科学に関する課題についての調べ学習
第11回：食生活と調理科学に関する課題についての文献検索
第12回：食生活と調理科学に関する課題解決のための実験方法検索
第13回：食生活と調理科学に関する課題についての報告書作成
第14回：食生活と調理科学に関する課題についての報告準備
第15回：食生活と調理科学に関する課題についての討論
第16回：食生活と調理科学に関する課題レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		食物学特論演習 I	1	後期　金 5, 6	平島 円（教育学部家政教育）

授業の概要　食物学特論Iで考察した内容を深く掘り下げ，それらの中の不明点や問題点について解明または解決方法を考究する．

学習の目的　調理科学に興味を持って課題を見つけ，解決する手段を身につける．

学習の到達目標　さまざまな文献等を読むことにより，問題の解決法を見つける力を身につける．

受講要件　「食物学特論 I 」を履修済であること

予め履修が望ましい科目　食物学特論 II

成績評価方法と基準　課題への取り組み態度50%，レポート50%，計100%

オフィスアワー　毎週月曜日17:00〜18:00 教育専門1号館3階 調理学研究室 madoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回： 授業のガイダンス
第2回：調理科学に基づく食生活や食文化について
第3回：調理科学における栄養（炭水化物，食物栄養）に関する疑問点や問題点の発見
第4回：調理科学における食品（穀類，イモ類）に関する疑問点や問題点の発見
第5回：調理科学における調理（加熱方法，下処理方法）に関する疑問点や問題点の発見
第6回：調理科学における食環境（生活排水）に関する疑問点や問題点の発見
第7回：調理科学における食文化（日本料理，郷土料理）に関する疑問点や問題点の発見
第8回：調理科学における食生活全般に関する疑問点や問題点の発券
第9回：調理科学に関する疑問点や問題点からの課題発見
第10回：調理科学に関する課題についての調べ学習
第11回：調理科学に関する課題についての文献検索
第12回：調理科学に関する課題解決のための実験方法検索
第13回：調理科学に関する課題についての報告書作成
第14回：調理科学に関する課題についての報告準備
第15回：調理科学に関する課題についての討論
第16回：調理科学に関する課題レポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		食物学特論 II	2	前期　火 3, 4	磯部由香

授業の概要
家庭科食物分野の内容を栄養学及び食品学の視点から整理する。栄養学及び食品学の最新の知見について講述する。家庭科教育における食教育について講述する。
テーマ：家庭科食物分野のおける栄養学、食品学的内容、食教育について。

学習の目的　家庭科食物分野の栄養学及び食品学に関する発展的知識及び関連情報についての読解力、分析力を身につける。また、家庭科教育における食教育についての知識を身につける。

学習の到達目標　栄養学及び食品学に関する発展的知識及び関連情報を読み取り、分析をし、家庭科食物分野の授業内容を展開できる。また、家庭科教育における食教育についての知識を身につける。

成績評価方法と基準　出席10%、授業態度30%、レポート60%

オフィスアワー　毎週金曜日12：00〜13：00 教育学部1号館3階 食品学研究室

学習内容
第1回：家庭科食物分野の内容の概要
第2回：家庭科食物分野の栄養学的内容についての体系化：五大栄養素
第3回：家庭科食物分野の栄養学的内容についての体系化：水分、食物繊維、機能性成分
第4回：家庭科食物分野の食品学的内容について体系化：6つの基礎食品群
第5回：家庭科食物分野の食品学的内容について体系化：加工食品
第6回：栄養学分野の最新知見：五大栄養素
第7回：栄養学分野の最新知見：水分、食物繊維、機能性成分
第8回：食品学分野の最新知見：6つの基礎食品群
第9回：食品学分野の最新知見：加工食品
第10回：食教育における家庭科教育の役割：栄養学的分野
第11回：食教育における家庭科教育の役割：食品学的分野
第12回：食教育における家庭科教育の役割：栄養教育と食事教育
第13回：家庭科における食教育の実践：栄養学的分野
第14回：家庭科における食教育の実践：食品学的分野
第15回：課題研究発表、まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		食物学特論演習 II	1	後期　金 1, 2	磯部由香

授業の概要　食物学特論 II の内容をふまえ、栄養学、食品学関連の文献購読を行うとともに、栄養学・食品学実験の家庭科教育への応用について考える。食教育関連の文献購読を行い、家庭科における食教育の授業計画を作成する。

学習の目的　食物学特論 II で身につけた栄養学及び食品学に関する発展的知識をもとに、専門的な文献を考察する力と身につける。また、家庭科教育における食教育の授業を構築する力を身につける。

学習の到達目標　栄養学・食品学関連の文献からの専門的知識を習得する。家庭科教育における食教育の授業案作成ができるようになる。

成績評価方法と基準　出席10%、授業態度30%、レポート60%

オフィスアワー　毎週金曜日12：00〜13：00 教育学部1号館3階 食品学研究室

学習内容

第1回：家庭科食物分野の内容の概要
第2回：家庭科食物分野の栄養学的内容についての体系化：五大栄養素
第3回：家庭科食物分野の栄養学的内容についての体系化：水分、食物繊維、機能性成分
第4回：家庭科食物分野の食品学的内容について体系化：6つの基礎食品群
第5回：家庭科食物分野の食品学的内容について体系化：加工食品
第6回：栄養学分野の最新知見：五大栄養素
第7回：栄養学分野の最新知見：水分、食物繊維、機能性成分
第8回：食品学分野の最新知見：6つの基礎食品群
第9回：食品学分野の最新知見：加工食品
第10回：食教育における家庭科教育の役割：栄養学的分野
第11回：食教育における家庭科教育の役割：食品学的分野
第12回：食教育における家庭科教育の役割：栄養教育と食事教育
第13回：家庭科における食教育の実践：栄養学的分野
第14回：家庭科における食教育の実践：食品学的分野
第15回：課題研究発表、まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		被服学特論 I	2	前期　火 7, 8	増田智恵（家政教育）

授業の概要　衣生活教育の実態を究明し，これからの少子高齢社会での衣生活の提案とそれを実現するための被服設計を考究する。

学習の目的　衣生活を改善するための具体でより専門的な情報を得ると共に，具体的に改善するための実践や提案をすることができるようになる。

学習の到達目標　衣生活の改善と教材として提供できる被服情報を得ることが出来る。

受講要件　受講者の専門および希望により校外での見学や情報収集を行う場合もある。

予め履修が望ましい科目　学部での被服関係の講義などを受講しておくことが望ましい。

教科書　ファッショナブル衣生活

成績評価方法と基準　出欠10%，レポート1セット60%，テスト（発表評価の予定）30%

オフィスアワー　毎週水曜日 9:30〜10:30 教育専門1号館3階 被服学研究室 tomoem@edu.mie-u.ac.jp

学習内容

1〜2回 被服教育について
3〜5回 被服教育の改善についてディスカッションを行い，受講者の研究テーマを決める。
6〜14回 受講者の研究テーマについて講義と受講者による部分発表とディスカッションを行い，まとめを行う。
15〜16回 発表会を行い評価を行って、教材などの場合はとくに演習で開発する内容を企画してまとめる。
受講生の理解力により変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		被服学特論演習 I	1	後期　火 3, 4	増田智恵（家政教育）

授業の概要　被服学特論 I II の講義をふまえて，衣生活改善の新しい教材を企画提案する。

学習の目的　被服学特論 I などで提案した課題など，具体的な衣生活改善や情報を収集して教材などができるようにする。

学習の到達目標　実際の教材開発やその工夫を体験し，現場で実現出来る能力を養うことができる。

予め履修が望ましい科目　被服学特論 I II

教科書　ファッショナブル衣生活

成績評価方法と基準　出欠10%，レポート1セット60%，テスト（発表評価の予定）30%

オフィスアワー　毎週水曜日 9:30〜10:30 教育専門1号館3階 被服学研究室 tomoem@edu.mie-u.ac.jp

学習内容

1〜2回 オリエンテーションと被服教材についてのディスカッション
3〜5回 教材開発・改善のリサーチと企画設定を行う。
6〜10回 開発などした教材の実現化。
11〜14回 開発などした教材の実現化したものの発表会。
15〜16回 開発などした教材についてまとめ，ファイル冊子を作成する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		家庭管理学特論	2	前期　火 1, 2	乗本秀樹（教育学部）

授業の概要　生活を管理するための諸視点ならびに管理における構造維持と構造変革の2側面を理解する。これらの理解をふまえて、「気づき」の意義を再発見するなど、家庭科教材中に生活管理の契機を確かめる。

学習の目的　免許法に規定された科目でありながら、家庭経営や家庭管理は、教員や学生にその意味・内容がわかりにくいのが現状である。この点を克服すること、家庭経営や家庭管理の豊かな意味内容を知ることが、目的である。

学習の到達目標　人間観の多様さともむすびつく、家庭経営や家庭管理の多様・多層な意味・内容を感じることができるようになる。

教科書　教科書は用いない。

成績評価方法と基準　期末試験60%、質疑応答40%。

オフィスアワー　毎週火曜日14:40〜16:10，1号館3階家庭経営研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション（家庭経営学と家庭管理学の関係にも言及）
第2回 家庭管理の考え方（構想力と家庭管理1）
第3回 家庭管理の考え方（構想力と家庭管理2）
第4回 家庭管理の考え方（意思決定・対話と家庭管理1）
第5回 家庭管理の考え方（意思決定・対話と家庭管理2）
第6回 家庭管理の考え方（意思決定・対話と家庭管理3）
第7回 家庭管理の考え方（地域形成と家庭管理1）
第8回 家庭管理の考え方（地域形成と家庭管理2）
第9回 生活の構造・行為と家庭管理（とりひきをめぐって）
第10回生活の構造・行為と家庭管理（技術をめぐって）
第11回生活の構造・行為と家庭管理（意味をめぐって）
第12回生活の構造・行為と家庭管理（経済をめぐって）
第13回家庭科における家庭管理（生活設計など）
第14回家庭科における家庭管理（気づきの意義など）
第15回まとめ
第16回試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		家庭管理学特論演習	1	後期　火 1, 2	乗本秀樹（教育学部）

授業の概要　家庭管理学特論で学んだ家庭管理のための視点を実際の生活問題解決に活用できるように、トレーニングする。

学習の目的　今後の生活運営に重要になると思われる「協働による地域形成」について、具体的な事例を通して理解を深める。

学習の到達目標　現実に展開している協働を、生活経営の視点から位置づけられるようになる。

教科書　日本家政学会生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』、朝倉書店、2010年。

成績評価方法と基準　期末試験40%、各回の提出物30%、各回の報告内容30%。

オフィスアワー　毎週火曜14:40〜16:10、1号館3階家庭経営研究室。

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2回 生活問題への対応方法（生活資金問題の叙述）
第3回 生活問題への対応方法（生活資金問題への対応）
第4回 生活問題への対応方法（高齢期生活問題の叙述）
第5回 生活問題への対応方法（高齢期生活問題への対応）
第6回 生活問題への対応方法（商品購入をめぐる問題の叙述）
第7回 生活問題への対応方法（商品購入をめぐる問題への対応）
第8回 生活問題への対応方法のまとめ
第9回 家庭管理と地域形成・生活管理主体成長（子育ての支援）
第10回家庭管理と地域形成・生活管理主体成長（多重債務者のエンパワーメント）
第11回家庭管理と地域形成・生活管理主体成長（地域通貨とコミュニティデザイン）
第12回家庭管理と地域形成・生活管理主体成長（女性農業者とネットワーク）
第13回家庭管理と地域形成・生活管理主体成長（環境の保全）
第14回家庭管理と地域形成・生活管理主体成長（生活ガバナンス）
第15回家庭管理と地域形成・生活管理主体成長のまとめ
第16回試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育特別研究ＩＢ	2	後期　金9,10	田中 伸明、平賀 伸夫、魚住 明生、吉本 敏子

授業の概要　地域・環境・国際理解等の教育の現代的課題に様々な領域からアプローチし、これらの統合的理解を図る。

学習の目的
・技術と人間の関わりについて理解すると共に、これからの社会において技術とどのように向き合っていけばよいのかについて検討する。
・算数・数学の教科書ではどのような環境問題が取り上げられているかを知る。
・環境を、数理的・合理的視点で捉えるための算数・数学科教材開発が出来るようになる。
・地域の自然を活用した授業を、理科教育を中心に検討する。
・地域の博物館を学校教育に活用することの必要性、方法を検討する。
・家庭生活を取り巻く環境の変化とそれに関わる家庭科教育の内容について理解し、教材開発ができるようになる。

学習の到達目標
・人類にとって技術とは何なのかを説明できるようになる。
・これからの社会において技術とどのように関わっていけばよいのか、自分の考えを論述することができるようになる。
・算数・数学の教科書で取り上げられている環境問題を理解し、問題を解けるようになる。
・自然・社会・家庭などを題材とした算数・数学科教材研究を通して、児童・生徒に、環境を数理的・合理的に捉えさせる教材開発が出来るようになる。
・地域の自然を活用した授業を立案できるようになる。
・地域の博物館を活用した授業を立案できるようになる。
・家庭生活を取り巻く環境の変化の実態や方向性を理解し説明することができるようになる。
・家庭生活や環境の変化に対応できる能力を育てるための家庭科の授業を考えることができるようになる。

成績評価方法と基準　出席回数とレポートを含む総合評価

オフィスアワー　田中伸明 火曜日12：00～13：00、平賀伸夫 金曜日8:50～10：20、魚住明生 水曜日12：00～13：00、吉本敏子 火曜日14：40～16：10、

学習内容
1．教育の現代的課題（授業ガイダンス）
2．技術と人類の歴史
3．これからの社会における人間と科学技術のあるべき姿
4．算数の教科書で取り上げられている環境問題
5．数学の教科書で取り上げられている環境問題
6．学校教育における地域の自然を活用することの意義
7．地域の自然を活用した授業の事例紹介、検討
8．学校教育における地域の博物館を活用することの意義
9．地域の博物館を活用した授業の事例紹介、検討
10．環境問題と家庭科教育
11．消費者問題と家庭科教育
12．異文化理解・国際理解と家庭科教育
13．少子高齢化と家庭科教育
14．自然環境と算数・数学教育
15．社会環境と算数・数学教育
※ 上記2～15の講義順は、適宜変更することがあります。予めご了解ください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育特別研究ＩＩＢ	2	前期　月9,10	林 未和子、中西 正治、荻原 彰、魚住 明生

授業の概要　「生きる力」、「考える力」、「感じる力」、「コミュニケーション力」について、教科横断的な教育研究の内容を取り扱い、幅広く国内外の社会・文化に精通した研究・教育能力の涵養を図る。

学習の目的　専門領域における「発達•支援に関する洞察•省察力」「人間•関係に関する発信•受信力」「連携•連帯に関する互恵•協働力」「教材•教具に関する研究•開発力」等について、発達段階を踏まえた学習過程の考察をする。

学習内容
第1回：ガイダンス（全員）
第2回：理数・生活系教育領域における発達を考慮した「感じる力」の育成
第3回：理数・生活系教育領域における「感性」を育む教材
第4回：理数・生活系教育領域における「思考」を生む教材
第5回：理数・生活系教育領域における「教材・教具に関する研究・開発力」
第6回：理数・生活系教育領域における「総合力」を育成する教材
第7回：理数・生活系教育領域における「校種間の接続」
第8回：理数・生活系教育領域における「コミュニケーション力」の育成
第9回：理数・生活系教育領域における「考える力」の育成
第10回：理数・生活系教育領域における「生きる力の育成」
第11回：理数・生活系教育領域における「連携・連帯に関する互恵・協働力」
第12回：理数・生活系教育領域における「発達・支援に関する洞察・省察力」
第13回：理数・生活系教育領域における「つながり」を育てる教材
第14回：理数・生活系教育領域における「人間・関係に関する発信・受信力」
第15回：総合討論（全員）
※ 上記2~14の講義順は、適宜変更されることがあります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ｉ	2	通年　月7,8	中西正治（教育学部）

授業の概要　院生の研究計画にしたがって、修士論文作成のための土台となる数学教育的内容とその先行研究などについての講義と演習を行ない、論文作成の方向を見い出すとともに、その基礎的能力を身に付ける。

学習の目的　修士論文を仕上げるためにはどのような知識が必要になるかを知りある程度の研究方向の見通しがもてるようになる。

教科書　特になし。

成績評価方法と基準　レポート、出席、態度など総合的に判断する。

オフィスアワー　月曜日12：00～13：00 教育学部1号館4階中西研究室

学習内容　教材の歴史的観点、数学教育史的観点、教材の内容学的観点、教材に対する子どもの認識などを必要に応じて学習する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究I	2	通年　水 1, 2	新田貴士

授業の概要　代数学分野の研究。

学習の目的　代数学分野の研究を行えるようになる。

学習の到達目標　代数学分野において研究論文を執筆すること。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 7, 8	玉城政和（教育学部）

授業の概要　解析学分野から研究テーマを設定し、研究指導を行う。

学習の目的　解析学分野における深い知識と研究能力を高める

学習の到達目標　解析学分野に深い興味を持ち研究を行うための基礎を養う

オフィスアワー　毎週水曜日 12:00 – 13:00，教育学部解析学第1研究室

学習内容
1．測度論（1回ー9回）
2．フラクタル（10回ー15回）
3．力学系（16回ー20回）
4．カオス（21回ー30回）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　火 5, 6	肥田野 久二男（教育学部）

授業の概要　研究テーマの明確化を目指して、研究指導を行う。

学習の目的　今後の研究の方向性が定まるよう学習する。

学習の到達目標　研究テーマを明確化することが目標になる。

成績評価方法と基準　総合的に評価する。

学習内容　学部段階で身につけた知識も使って、今後の研究の方向性が定まってくるような偏微分方程式論に関する学習を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水 9, 10	牧原義一（教育学研究科理科教育専修）

授業の概要　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定を行う。

学習の目的　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定が行えるようになること。

学習の到達目標　修士論文作成のための研究内容を理解し，具体的な研究方法・研究計画を立案できる。

オフィスアワー　金曜日 14：40〜16：10

学習内容　研究テーマに関連する論文購読と基礎データの収集を行い，具体的な研究方法・研究計画についての議論を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水 9, 10	後藤太一郎（教育学研究科理科教育専修）

授業の概要　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定を行う。

学習の到達目標　修士論文作成のための研究内容を理解し，具体的な研究方法・研究計画を立案できる。

学習内容　研究テーマに関連する論文購読と基礎データの収集を行い，具体的な研究方法・研究計画についての議論を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水 9, 10	荻原 彰

授業の概要　修士論文のテーマに関する基礎知識の習得、関連論文の講読と理解、研究方法、計画の設定を行う。

学習の目的　修士論文作成のために研究内容・研究手法を理解する

学習の到達目標　修士論文作成のための研究内容を理解し、具体的な研究方法・研究計画を立案できる

学習内容　研究テーマに関する論文・資料の講読やデータ収集を行い、研究方法・研究計画についての議論を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水 9, 10	平賀伸夫（教育学研究科理数・生活系教育領域・理科）

授業の概要　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定を行う．

学習の目的　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定が行えるようになる．

学習の到達目標　修士論文作成のための研究内容を理解し，具体的な研究方法・研究計画を立案できる．

教科書　個別に指示する．

オフィスアワー　毎週金曜日8:50〜10:20，場所:平賀研究室

学習内容　研究テーマに関連する論文購読と基礎データの収集を行い，具体的な研究方法・研究計画についての議論を行う．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水 9, 10	伊藤信成（教育学研究科理数・生活系教育領域・理科）

授業の概要　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定を行う．

学習の目的　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定が行えるようになる．

学習の到達目標　修士論文作成のための研究内容を理解し，具体的な研究方法・研究計画を立案できる．

教科書　個別に指示する．

学習内容　研究テーマに関連する論文購読と基礎データの収集を行い，具体的な研究方法・研究計画についての議論を行う．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究I	2	通年　水 9, 10	栗原行人（教育学研究科理数・生活系教育領域・理科）

授業の概要　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定を行う．

学習の目的　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定が行えるようになる．

学習の到達目標　修士論文作成のための研究内容を理解し，具体的な研究方法・研究計画を立案できる．

教科書　個別に指示する．

学習内容　研究テーマに関連する論文購読と基礎データの収集を行い，具体的な研究方法・研究計画についての議論を行う．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　技術教育にかかわる教育実践研究を進める上で，必要となる研究手法や専門的知識を深めると共に，自らの研究計画を具体的に立案する。

学習の目的　学生が自らの修士論文を進めていくために必要な研究手法と専門的知識を深めると共に，自らの研究計画を具体的に立案することができる。

学習の到達目標
・教育実践研究の研究手法を理解し，実施できる。
・先行研究を収集し，分析ができる。
・教育実践研究の研究計画が立てられる。

予め履修が望ましい科目　技術科教育特論 I，技術科教育特論演習 I

教科書　授業において，必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00〜13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 オリテン：授業概要の説明
2回 1．技術科教育における実践的研究の解説
3回 2．先行研究の分析・検討
(1) 幼児教育での実践研究
4回 (2) 初等教育での実践研究
①生活科
5回 ②図画工作科
6回 ③理科
7回 (3) 中等教育における実践研究
①材料加工技術分野
8回 ②エネルギー変換技術分野
9回 ③生物育成技術分野
10回 ④情報技術分野
11回 3．研究計画の検討
(1) 研究主題
12回 (2) 研究仮説
13回 (3) 研究構想
14回 (4) 研究方法
15回 まとめ：本授業の総括

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年	松本金矢（三重大学教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　技術教育専攻機械工学コースの修士論文作成のための研究指導

学習の到達目標　研究成果を修士論文としてまとめることができる。

成績評価方法と基準　研究の進行状況を評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学実験室

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年	松岡 守（教育学部）

授業の概要　技術教育の特に電気に関わる分野において，院生が今後、研究を実施する手法の高度な専門的知識を深める具体的立案を行う。

学習の目的　技術教育の特に電気に関わる分野において，大学院修士の研究を進めるために必要となる技術的素養を身に付ける。

学習の到達目標　修士の研究の手法を学ぶ

成績評価方法と基準　レポート，口頭試問により総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日12:00〜13:00 研究室
メールにて随時 matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1 概要説明
2〜29 修士論文の研究に関連する論文を随時調査、講読し、発展的な検討を進める。
30 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究I	2	通年　月 3, 4	奥村晴彦

授業の概要　技術教育の特に情報工学にかかわる分野において，院生が研究を進めるための手法の高度な専門的知識を学ぶ。

学習の目的　技術教育の特に情報工学にかかわる分野において，院生が研究を進めるための手法の高度な専門的知識を学ぶことを目的とする。

学習の到達目標　技術教育の特に情報工学にかかわる分野において，院生が研究を進めるための手法の高度な専門的知識を得ることができる。

教科書　特に用いない。

成績評価方法と基準　提出物および発表で評価する。

オフィスアワー
予定表 http://goo.gl/OWxl3 で空いているところはいつでもどうぞ。

学習内容
1: オリエンテーション
2: 研究内容の打合せ
3〜29: 研究の進捗をゼミ形式で発表し，議論する
30: 最終発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	②	通年　月 3, 4	山守 一徳（教育学部）

授業の概要　教育実践研究を進める上で必要となる研究手法や専門的知識を深めると共に，自らの研究計画を具体的に立案する。

学習の目的　学生が自らの修士論文を進めていくために必要な研究手法と専門的知識を深めると共に，自らの研究計画を具体的に立案することができる。

学習の到達目標
・教育実践研究の研究手法を理解し，実施できる。
・先行研究を収集し，分析ができる。
・教育実践研究の研究計画が立てられる。

教科書
授業の中で指示する

成績評価方法と基準　出席状況とテーマへの取り組みを総合して評価する。

学習内容
1回 授業概要の説明
2〜10回 先行研究の分析と研究手法の演習
11〜15回 研究計画の検討

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 1, 2	磯部由香

授業の概要　修士論文作成のための研究課題を設定し、それぞれに応じた文献調査、研究データの蓄積などを行うことによって、研究の方法を指導する。

学習の目的　今日的課題や先行研究を踏まえて、修士論文の研究課題を設定し、研究方法を考えることができる。また、研究を行うために必要な知識やデータを得る。

学習の到達目標
修士論文の研究課題としてふさわしいテーマについて検討することができる。
研究課題に応じた研究方法を選択し、研究を行うために必要な知見を得る。

オフィスアワー　毎週金曜日12：00-13：00 教育学部1号館3階食品学研究室

学習内容
1．オリエンテーション
2〜5．研究課題の設定、研究計画の作成
6〜14．文献検索、文献講読、基礎的データの収集
15．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	②	通年　水 1, 2	露峰 茂明（教育学部数学教育専修）

オフィスアワー　毎週水曜日12:00〜13:00 代数学第2研究室

学習内容　院生の研究計画に基づき、主に代数学についての高度な専門的知識の涵養を図るとともに、今後の研究の具体的方法を定める。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	2	通年　水 1, 2	古関 春隆

授業の概要
研究テーマを設定し、研究指導を行う。

学習の目的
研究テーマについて自主的に研究できるレベルに到達すること。

学習の到達目標
研究テーマについて自主的に研究できるレベルに到達すること。

オフィスアワー　前期は月曜5コマ目、後期は木曜5コマ目

学習内容　学習の進展に応じて段階的に課題のレベルを上げてゆく。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　月 7, 8	川向 洋之（教育学部）

授業の概要　解析学に関する課題研究を行う

オフィスアワー　水曜 12:00- 13:00 解析学第3研究室

学習内容
数学の論文を読み，院生自身の知識を深め，課題研究を推進させる．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	2	通年　水 7, 8	牧原義一（教育学研究科理数・生活系研究領域・理科）

授業の概要　研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出し，調査・測定・解析方法に対する習熟度を高め，修士論文をまとめる．

学習の目的
研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出でき，測定・解析方法に対する習熟度を高める．
研究成果を論文にまとめることができるようになる．

学習の到達目標　これまでの研究データ，および，これまでの自身の研究データから，自分の研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出することができる．また，その課題を解決するために，測定・解析方法を自分なりに工夫して研究を進めることができるようになる．また，研究で得られた成果を論文にまとめることができるようになる．

成績評価方法と基準　研究課題への積極的な取り組みと内容の理解度．測定・解析方法に対する習熟度．問題解決能力．研究成果を論文にまとめる能力．

オフィスアワー　随時

学習内容　これまでの研究で得られた具体的なデータをもとに，測定方法・解析方法を検討し，研究課題の解明および研究内容の進展のための議論を行うとともに，その成果を修士論文にまとめる．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　水 7, 8	後藤太一郎（教育学研究科理科教育専修）

授業の概要　研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出し，調査・測定・解析方法に対する習熟度を高める。

学習の到達目標　これまでの研究データ，およびこれまでの自身の研究データから，自分の研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出することができる。また，その課題を解決するために，調査・測定・解析方法を自分なりに工夫して研究を進めることができる。

成績評価方法と基準　レポート100%

学習内容　これまでの研究で得られた具体的なデータをもとに，測定方法・解析方法を検討し，研究課題の解明および研究内容の進展のための議論を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	2	通年　水 7, 8	平賀 伸夫（教育学研究科理科教育専修）

授業の概要　研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出し，調査・測定・解析方法に対する習熟度を高め，修士論文をまとめる．

学習の目的
研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出でき，調査・測定・解析方法に対する習熟度が高まる．
研究成果を論文にまとめることができるようになる．

学習の到達目標　これまでの研究データ，および，これまでの自身の研究データから，自分の研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出することができる．また，その課題を解決するために，調査・測定・解析方法を自分なりに工夫して研究を進めることができるようになる．また，研究で得られた成果を論文にまとめることができるようになる．

教科書　個別に指示する．

オフィスアワー　毎週金曜日8:50〜10:20，場所:平賀研究室

学習内容　これまでの研究で得られた具体的なデータをもとに，測定方法・解析方法を検討し，研究課題の解明および研究内容の進展のための議論を行うとともに，その成果を修士論文にまとめる．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	2	通年　水 7, 8	伊藤信成（教育学研究科理数・生活系教育領域・理科）

授業の概要　研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出し，調査・測定・解析方法に対する習熟度を高め，修士論文をまとめる．

学習の目的
研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出でき，調査・測定・解析方法に対する習熟度が高まる．
研究成果を論文にまとめることができるようになる．

学習の到達目標　これまでの研究データ，および，これまでの自身の研究データから，自分の研究テーマに関する理論的・解析的課題を明確に抽出することができる．また，その課題を解決するために，調査・測定・解析方法を自分なりに工夫して研究を進めることができるようになる．また，研究で得られた成果を論文にまとめることができるようになる．

教科書　個別に指示する．

学習内容　これまでの研究で得られた具体的なデータをもとに，測定方法・解析方法を検討し，研究課題の解明および研究内容の進展のための議論を行うとともに，その成果を修士論文にまとめる．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	2	通年　水 7, 8	栗原行人（教育学研究科理数・生活系教育領域・理科）

授業の概要　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定を行う．

学習の目的　修士論文のテーマに関する基礎知識の修得，関連論文の講読と理解，研究方法・計画の設定が行えるようになる．

学習の到達目標　修士論文作成のための研究内容を理解し，具体的な研究方法・研究計画を立案できる．

教科書　個別に指示する．

学習内容　これまでの研究で得られた具体的データをもとに，研究の進展のための議論を行うとともに，その成果を修士論文にまとめる．

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　木 9, 10	魚住明生（教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　課題研究 I で立案した研究計画に基づき教育実践研究を遂行し，取り組んだ研究成果を修士論文としてまとめる。

学習の目的　院生が自ら立案した研究計画に基づき，先行研究の検討や教育実践計画の立案，データの収集・分析・考察，論文の執筆 等，修士論文を作成することができる。

学習の到達目標
・先行研究を収集し，分析ができる。
・教育実践研究の研究計画に沿って研究を進めることができる。
・研究結果について適切に考察することができる。
・研究成果を修士論文としてまとめることができる。

受講要件　課題研究 I

予め履修が望ましい科目　技術科教育特論 I ・ II，技術科教育特論演習 I ・ II，課題研究 I

教科書　授業において，必要な書籍は適宜紹介すると共に，資料を配布する。

成績評価方法と基準　出席，授業態度，提出物，発表・協議を基にして総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週水曜日の12:00〜13:00，場所：技術科教育学研究室

学習内容
1回 オリテン：授業概要の説明
2回 1．先行研究の分析と研究内容の検討
(1) 幼児教育での技術教育
3回 (2) 初等教育での技術教育
①生活科
4回 ②図画工作科
5回 ③理科
6回 ④算数科
7回 ⑤社会科
8回 (3) 中等教育における技術教育
①材料加工技術分野
9回 ②エネルギー変換技術分野
10回 ③生物育成技術分野
11回 ④情報技術分野
12回 2．研究計画の検討と関連する専門的知識の習得
(1) 研究主題
13回 (2) 研究仮説
14回 (3) 研究方法
15回 まとめ：本授業の総括

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年	松本金矢（三重大学教育学部技術・ものづくり教育講座）

授業の概要　技術教育専攻機械工学コースの修士論文作成のための研究指導

学習の到達目標　研究成果を修士論文としてまとめることができる。

成績評価方法と基準　研究の進行状況を評価します。

オフィスアワー　時間：毎日12:00〜13:00、場所：技術棟1階機械工学実験室

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　月 3, 4	松岡 守（教育学部）

授業の概要　技術教育の特に電気に関わる分野において，具体的立案をもとに、既発表論文の調査を行い、技術学の知識向上を図るとともに研究の実施を行う。

学習の目的　技術教育の特に電気に関わる分野において，大学院修士の研究を具体的に進められる。

学習の到達目標　修士の研究を実際に進める。

成績評価方法と基準　レポートおよび口頭試問により評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日12:00〜13:00 研究室
メールにて随時 matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
1 概要
2〜29 研究のチェック＆レビューを研究の進捗に応じて進める
30 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	2	通年　月 1, 2	奥村晴彦

授業の概要　技術教育の特に情報工学にかかわる分野において，院生が研究を進めるための手法の高度な専門的知識を深める。

学習の目的　技術教育の特に情報工学にかかわる分野において，院生が研究を進めるための手法の高度な専門的知識を深めることを目的とする。

学習の到達目標　技術教育の特に情報工学にかかわる分野において，院生が研究を進めるための手法の高度な専門的知識を深めることができる。

教科書　特に用いない。

成績評価方法と基準　提出物および発表で評価する。

オフィスアワー　予定表 http://goo.gl/OWxl3 で空いているところはいつでもどうぞ。

学習内容
1: オリエンテーション
2: 研究内容の打合せ
3〜29: 研究の進捗をゼミ形式で発表し，議論する
30: 最終発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	②	通年　月 1, 2	山守 一徳（教育学部）

授業の概要　課題研究 I で立案した研究計画に基づき教育実践研究を遂行し，取り組んだ研究成果を修士論文としてまとめる。

学習の目的　院生が自ら立案した研究計画に基づき，先行研究の検討や教育実践計画の立案，データの収集・分析・考察，論文の執筆 等，修士論文を作成することができる。

学習の到達目標
・先行研究を収集し，分析ができる。
・教育実践研究の研究計画に沿って研究を進めることができる。
・研究結果について適切に考察することができる。
・研究成果を修士論文としてまとめることができる。

教科書　授業の中で指示する

成績評価方法と基準　出席状況とテーマへの取り組みを総合して評価する。

学習内容
1回 授業概要の説明
2〜11回 先行研究の分析と研究内容の検討
12〜14回 研究計画の検討と関連する専門的知識の習得
15回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　木 1, 2	磯部由香

授業の概要　修士論文作成のための研究課題を設定し、それぞれに応じた文献調査、研究データの蓄積などを行うことによって、研究の方法を指導する。

学習の目的　今日的課題や先行研究を踏まえて、修士論文の研究課題を設定し、研究方法を考えることができる。また、研究を行うために必要な知識やデータを得る。

学習の到達目標
修士論文の研究課題としてふさわしいテーマについて検討することができる。
研究課題に応じた研究方法を選択し、研究を行うために必要な知見を得る。

オフィスアワー　毎週金曜日12：00-13：00 教育学部1号館3階食品学研究室

学習内容
1.ガイダンス
2．レポートの構造
3．緒言の構造
4．段落の構造
5〜8．緒言の作成と発表
9〜29「全体の構成」の作成、参考文献講読、参考書籍講読
30．まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		音楽科教育特論 I	2	前期　水 3, 4	根津知佳子

授業の概要　発達・構造の視座からヒトが表現する（奏でる）行為及びその変容について考え、教育課程編成に応用することができる。

学習の目的　音楽表現行為とその変容を軸とし、教育課程の意義および編成を考察する。

学習の到達目標　音楽表現行為に関わる研究領域についての基礎的知識を学ぶ。

教科書　随時、指定する。

成績評価方法と基準　毎回の課題を評価の対象にする。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00

学習内容
第1回：ヒトと動物との表現行為の相違
第2回：言語発達の基盤としての音声の感覚情報処理
第3回：教育課程におけるシークエンス
第4回：ピアジェとスワンビックのモデル論と教育課程
第5回：感覚運動的段階の認知とパフォーマンス
第6回：具体的操作段階の認知とパフォーマンス
第7回：形式的操作段階の認知とパフォーマンス
第8回：教育課程におけるスコープ
第9回：ブルーナーに依拠したモデル論と教育課程
第10回：感覚運動的段階と音楽教育方法のあり方
第11回：前操作的段階と音楽教育方法のあり方
第12回：具体的操作段階と音楽教育方法のあり方
第13回：形式的操作段階と音楽教育方法のあり方
第14回：アイデンティティ形成における音楽教育の意義
第15回：スコープとシークエンスにかかる課題の検討
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		音楽科教育特論演習 I	1	後期　水 1, 2	根津知佳子

授業の概要　音楽教育と、隣接関連領域の活動の構造について、理論に基づいた分析を行う。また、美術、身体表現、文学表現など様々な表現行為との比較を通して、音楽的場の独自性について考察し、音楽科の教育課程編成の意義を考察する。

学習の到達目標　表現する（奏でる）行為及びその変容について、理論に基づいた実践や分析をすることができる。他領域の教育課程との比較を通して、音楽教育の意義について考えることができる。

受講要件　音楽科教育特論 I を履修していること。

教科書　随時、指示する。

成績評価方法と基準　各課題に対して評価する。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00

学習内容
第1回：音楽的場の構造（相互反応性）
第2回：音楽的場の構造（フォーマット）
第3回：教育課程と音楽的場の構造
第4回：実践の分析（ミクロ分析）
第5回：実践の分析（マクロ分析
第6回：表現の変容と教育課程
第7回：表現の比較〜音楽と美術〜
第8回：表現の比較〜音楽と国語〜
第9回：音楽的場における教育技術の課題
第10回：文化人類学的アプローチ
第11回：発生的認識論的アプローチ
第12回：スコープに関する課題
第13回：シークエンスに関する課題
第14回：音楽教育における表現行為
第15回：音楽教育における指導者の表現行為
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		音楽科教育特論 II	2	前期　木 3, 4	川村有美（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　音楽科教育の基本的文献及び研究論文を講読する。具体的には、音楽科における授業研究の意義と方法について考察する。

学習の目的　音楽科教育に関する基本的な知識を獲得する。

学習の到達目標　音楽科教育に関する基本的な知識を得る。

成績評価方法と基準　平常点（50点）、最終課題レポート（50点）。

オフィスアワー　毎週木曜日13時〜14時 川村研究室

学習内容
音楽教育史、基本文献講読（1〜6回）
音楽科教育の授業研究と実践分析（7〜10回）
レポート検討（11〜15回）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		音楽科教育特論演習 II	1	後期　木 3, 4	川村有美（教育学部音楽教育コース）

授業の概要　音楽科における教育方法論について理解を深める。具体的には、教材解釈による授業構成・教材構成による授業構成、教授行為論について考察する。

学習の目的　音楽科における教育方法論に関する基本的な知見を獲得する。

学習の到達目標　音楽科における教育方法論に関する基本的な知見を得る。

成績評価方法と基準　平常点（50点）、最終課題（50点）。

オフィスアワー　毎週木曜日、川村研究室

学習内容
授業構成論を軸として演習形式で進める。
第1回 オリエンテーション
第2回〜第15回 レポート検討
第16回 ふり返り

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		器楽特論 I	2	前期　木 1, 2	小畑真梨子

授業の概要　ピアノを中心とした音楽表現方法、演奏法について、幅広い作品を取り上げ、歴史的、体系的に考察する。

学習の目的　器楽、主にピアノを通しての音楽表現の在り方を考察し、より深く追及する視点を持つことができる。

学習の到達目標　ピアノの歴史や時代別に異なる、あらゆる作品を学ぶことにより、音楽表現の可能性を考察できるようになる。

教科書　「正しい楽譜の読み方」(大島富士子 著)など

成績評価方法と基準　レポート 50%、提出物 20%、研究態度 30%、計100% (合計が60%以上で合格)

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：鍵盤楽器の歴史について(1)
第3回：鍵盤楽器の歴史について(2)
第4回：鍵盤楽器の歴史について(3)
第5回：楽器と演奏法について
第6回：文献講読(1) バロック期
第7回：文献講読(2) 古典派
第8回：文献講読(3) ロマン派
第9回：文献講読(4) 近・現代
第10回：演奏資料の比較検討(1) バロック・古典派作品
第11回：演奏資料の比較検討(2) 古典派作品
第12回：演奏資料の比較検討(3) ロマン派、近・現代作品
第13回：討論と考察(1)
第14回：討論と考察(2)
第15回：まとめ
定期試験・・・・・・・・・・演奏発表およびテーマについてのレポート提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		器楽特論演習 I	1	後期　木 1, 2	小畑真梨子

授業の概要　器楽のあらゆる観点から、ピアノ演奏技法についての実践を行う。また、ピアノ様々な作品でのアンサンブルを通して、より自在な演奏表現の可能性を研究する。

学習の目的　幅広いジャンルの作品に触れ、その中でのアンサンブルを通して広い視野で音楽をとらえることができるようになる。

学習の到達目標　多くの実践体験をを通して、幅広く音楽をとらえることにより、より深く表現力を広げることが出来る。

予め履修が望ましい科目　器楽特論 I

教科書　各自の使用楽譜

成績評価方法と基準　レポート50%、提出物20%、発表30%、計100% (合計が60%以上で合格)

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：ピアノを含むアンサンブルの実践について
第3回：ピアノ奏法の歴史とアンサンブル(1)
第4回：ピアノ奏法の歴史とアンサンブル(2)
第5回：ピアノ奏法の歴史とアンサンブル(3)
第6回：バロック期のアンサンブル作品について
第7回：古典派のアンサンブル作品について
第8回：ロマン派のアンサンブル作品について
第9回：近・現代のアンサンブル作品について
第10回：実践課題、弦楽器・管楽器を含む作品や編曲作品の比較
第11回：実践課題について検討
第12回：実践課題について考察
第13回：アンサンブル活動の課題討論・改善点の考察(1) 奏法について
第14回：アンサンブル活動の課題討論・改善点の考察(2) 表現方法について
第15回：発表、今後の課題や改善点などの考察
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		器楽特論 II	2	前期　木 5, 6	兼重直文(教育学研究科教育科学専攻 芸術・スポーツ系教育領域 音楽教育専修)

授業の概要　An-schlag(打鍵法)を見直し、“響き”と“メカニック”の関連を理解しながらピアノ演奏力を高めるとともに、作品の歴史的考察を踏まえながら個人の表現能力を養う。また、器楽や声楽とのアンサンブルにおけるピアノの役割について、音楽教育という視野を踏まえて学習する。

学習の目的　自ら主体的な研究姿勢を身につけることができるようになるとともに、実技能力を高めることができる。更に、器楽という専門分野を音楽教育との関係性から理解することができる。

学習の到達目標　ピアノ演奏におけるAn-schlag(打鍵法)を見直し、“響き”と“メカニック”の関連を理解することができるとともに、アンサンブルにおける他のジャンルの音色（管弦楽器・声楽）との関係性を理解することができる。更に、器楽分野を音楽教育全般の視野を踏まえて考察することができる。

教科書　課題に応じて適宜、提示する。

成績評価方法と基準　期末試験60%、研究意欲20%、授業態度20%、計100%

オフィスアワー　毎週金曜日 12:00 ～ 13:00 ／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：授業概要の説明と学習目標の立案
第2回：打鍵の自己診断と改善点の模索（1）
第3回：打鍵の自己診断と改善点の模索（2）
第4回：文献・資料に基づくピアノ奏法の歴史的考察（1）バロック
第5回：文献・資料に基づくピアノ奏法の歴史的考察（2）古典派
第6回：文献・資料に基づくピアノ奏法の歴史的考察（3）ロマン派
第7回：文献・資料に基づくピアノ奏法の歴史的考察（4）近現代
第8回：ピアノ実技の実践指導（1）
第9回：ピアノ実技の指導（2）
第10回：ピアノ実技の指導（3）
第11回：ピアノ実技の指導（4）
第12回：アンサンブル実技の指導（1）
第13回：アンサンブル実技の指導（2）
第14回：アンサンブル実技の指導（3）
第15回：試演会にもとづく討論会
第16回:振り返りとまとめ
定期試験：レポート提出と実技演奏

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		器楽特論演習 II	1	後期　木 5, 6	兼重直文(教育学研究科教育科学専攻 芸術・スポーツ系教育領域 音楽教育専修)

授業の概要　器楽特論 II の内容を継続・発展させ、作品に込められた作曲家の内的要求の理解に基づいて表現方法を探求し、個人の演奏能力を高める。更に、器楽分野の専門詠を音楽教育全般の視野を踏まえて考察する。

学習の目的　自ら主体的な研究姿勢をつけることができるようになるとともに、自己の課題を明確にできるようになる。更に、器楽という専門分野を音楽教育との関係性から理解することができる。

学習の到達目標　大学院における受講者の研究課題に応じた作曲家と作品を研究し、これらの文献、資料に基づいて表現方法を考察することによって、各自の演奏能力を高めることができる。更に、器楽分野を音楽教育全般の視野を踏まえて考察することができる。

受講要件　器楽特論 II を履修済みであること。

教科書　課題に応じて適宜、提示する。

成績評価方法と基準　期末試験60%、研究意欲20%、授業態度20%、計100%

オフィスアワー　毎週金曜日 12:00 〜 13:00 ／ 兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回：授業概要の説明と学習目標の立案
第2回：研究課題に応じた作曲家と作品の考察（1）
第3回：研究課題に応じた作曲家と作品の考察（2）
第4回：研究課題に応じた作曲家と作品の考察（3）
第5回：研究課題に関する文献・資料の調査（1）
第6回：研究課題に関する文献・資料の調査（2）
第7回：研究課題に関する文献・資料の調査報告（1）
第8回：研究課題に関する文献・資料の調査報告（2）
第9回：ピアノ実技の指導（1）
第10回：ピアノ実技の指導（2）
第11回：ピアノ実技の指導（3）
第12回：ピアノ実技の指導（4）
第13回：ピアノ実技の指導（5）
第14回：試演会にもとづく討論会
第15回:振り返りとまとめ
定期試験：レポート提出と実技演奏

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		声楽特論	2	前期　火 3, 4	弓場徹（教育学部音楽科）

授業の概要　「発声機能解剖生理学」とその上に構築された「YUBA理論(発声制御理論)」を理解し、これら理論に基づいて体系化された歌唱発声法「YUBAメソッド」を実践的に学ぶ。また、レベルに合わせ歌曲などを数曲選び、個人指導を含めたグループレッスン形式で、歌唱教育法の習得を目指す。原則的に学生が相互に伴奏を行う。

学習の目的　発声機能及びその制御方法を理解し実践力をつける

学習の到達目標
実践的発声能力を養いつつ発声機能解剖生理学や発声制御理論を理解を深める。
2オクターヴ半の音楽的声域の確保と歌唱への応用力を身に付ける。

受講要件　基本的に音楽教育専修の学生が対象

予め履修が望ましい科目　学部における声楽関連科目

成績評価方法と基準　レポートなどで学問的理解度を、歌唱試験で実践能力を評価する。これらに加え出席情況や学習意欲などを加味して総合的に評価する。次のステップとなる「声楽特論演習 II」（指導力の構築）に対応できる能力が備わっているかどうかが評価基準である。

オフィスアワー　火曜日12：00〜13:00

学習内容
1.ガイダンス：授業概要説明。各自の歌唱に関する問題点などについてインタビュー。指導用カルテ に学習暦等を各自書き込む。
2.任意の1曲を独唱し、歌唱上の問題点とその改善方法を全員で検討する。
3.音域および換声点位置のチェック。裏声と表声の分離と強化を行う。
4.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を養いつつ、発声機能生理学についての理解を深める。また、レベルに応じて歌曲など課題を与える。
5.声楽曲の指導1(内容と音楽の構成について)
6.声楽曲の指導2(拍子の理解とテンポの設定について)
7.声楽曲の指導3(フレーズと曲のヤマについて)
8.声楽曲の指導4(メロディと和声感について)
9.公開レッスン形式で、1対1の場合の歌唱実践指導方法について逐次解説しながら行う。
10.声楽曲の指導5(言葉の表現とニュアンスについて)
11.声楽曲の指導6(ディナーミクとアゴーギクについて)
12.公開レッスン形式で、1対複数の歌唱実践指導方法について逐次解説しながら行う。
13.声楽曲の指導7(指揮をしながら歌う1)
14.声楽曲の指導8(指揮をしながら歌う2)
15.声楽曲の指導9(演奏と感動について)
16.歌唱試験を行う。レポートの提出を課す。レポートの課題はその都度提示する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		声楽特論演習	1	後期　火 7, 8	弓場徹（音楽科）

授業の概要
「発声機能解剖生理学」とその上に構築された「YUBA理論(発声制御理論)」の理解を深め、これら理論を基に作られた「YUBAメソッド」を深く習得し、実践的指導能力もを養う。
レベルに合わせ歌曲などを選びし、個人指導を含めたグループレッスン形式で、歌唱教育法を実践的に学ぶ。原則的に学生相互に伴奏を行う。

学習の到達目標　「発声機能解剖生理学」や「発声制御理論」の理解と「YUBAメソッド」での実践発声能力を養いつつその指導能力を身につける。2オクターヴ半の音楽的音域の確保と歌曲への応用力とその指導力を身に付ける。

受講要件　基本的に音楽教育専修の学生が対象。声楽特論 II を終えた者が対象。

予め履修が望ましい科目　声楽特論

教科書　「奇跡のハイトーンボイストレーニング」弓場徹著、主婦の友社

成績評価方法と基準　レポートなどで学問的理解度を、歌唱試験で実践能力を評価する。これらに加え出席情況や学習意欲、指導力などを加味して総合的に評価する。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
1.ガイダンス：授業概要説明。各自の歌唱に関する問題点の明確化。
2.裏声と表声の分離・強化・融合を中心に、実践的基礎発声能力を継続して養い、より高度に応用
を行いつつ理論的理解を深める。また、レベルに応じて歌曲など課題を与える。
3.課題曲を決め、1対1の場合の歌唱実践指導法を教員が逐次解説し受講生が学ぶ。
4.声楽曲の指導1(内容と音楽の構成について)
5.声楽曲の指導2(テンポの設定、拍子感、リズムについて)
6.課題曲を決め、1対1の場合の歌唱実践指導法を受講生が指導者・生徒になり学ぶ。
7.声楽曲の指導3(フレーズ、曲のヤマとブレス位置について)
8.声楽曲の指導4(メロディと和声感について)
9.課題曲を決め、1対複数の歌唱実践指導法を教員が逐次解説し受講生が学ぶ。
10.声楽曲の指導5(言葉の表現とニュアンスのについて)
11声楽曲の指導6(メッサ・ディ・ヴォーチェとアゴーギクについて)
12.課題曲を決め、1対複数の歌唱実践指導法を受講生が指導者・生徒になり学ぶ。
13.声楽曲の指導7(指揮をしながら歌う1)
14.声楽曲の指導8(指揮をしながら歌う2)
15.歌唱試験を行う。レポートの提出を課す。レポートの課題はその都度提示する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		作曲法特論	2	前期　月 7, 8	森川 孝太朗（大学院教育学研究科）

授業の概要
作曲的見地から音楽教材を分析し、今日の教材としての音楽を考察する。
小・中学校における音楽教材を創作する。

学習の目的　小・中学校における音楽教材を創作する技能を習得する。

学習の到達目標　教育現場で求められる音楽教材を自分自身の力で作り出す技能の習得。

受講要件　和声学・対位法・楽式論の知識があることが望ましい。

教科書　随時指示する。

成績評価方法と基準　課題制作の内容による。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30〜12：30，場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.〜4.小・中学校歌唱教材の作曲的見地による分析
5.〜7.分析に基づき旋律を試作
8.〜11.小・中学校器楽教材の作曲的見地による分析
12.〜14.分析に基づき器楽アンサンブルを試作
15.音楽鑑賞の考察

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		作曲法特論演習	1	後期　月 7, 8	森川 孝太朗（大学院教育学研究科）

授業の概要　音楽教材の批判的分析から教育現場で扱われる「音楽」の様々な可能性を探求し、創作する。

学習の目的　音楽教材の可能性を探求し、その研究に基づいた教材を創作する試み。

学習の到達目標　教育現場で求められる音楽教材を自分自身の力で作り出す技能の習得。

受講要件　和声学・対位法・楽式論の知識があることが望ましい。

教科書　随時指示する。

成績評価方法と基準　作品の内容による。

オフィスアワー　毎週水曜日10：30〜12：30，場所：作曲・音楽理論研究室

学習内容
1.2.リズム語法の拡大と可能性
3.4.作曲的見地による音楽における身体性
5.6.調性と非調性
7.教材としての邦楽の考察
8.〜15.受講生が自らテーマを定め教材としての音楽を創作する

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		音楽学特論	2	前期　火 5, 6	小沢 優子（非常勤講師）

授業の概要　音楽学の基礎について学ぶ。

学習の目的　音楽学の内容を会得し、音楽を学問的に考察することの意義を理解する。

学習の到達目標　音楽学の方法論を応用して音楽にアプローチできるようになる。

予め履修が望ましい科目　音楽史1及び2・音楽理論関係の授業

教科書　教科書は用いない。プリントを配付する。

成績評価方法と基準　レポート60%、出席状況と授業態度40%

学習内容
①② 音楽学の役割、音楽学の歴史
③〜⑩音楽史学、音楽美学、音楽社会学、音楽理論、民族音楽学など、音楽学の諸分野の概観
⑪〜⑬音楽事典について
⑭〜⑯文献の種類、文献の検索、レポートや論文の書き方

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		音楽学特論演習	1	後期　火 5, 6	小沢 優子(非常勤講師)

授業の概要　音楽史学を対象とし、その方法論や研究内容を学ぶ。

学習の目的
音楽学の中心分野として発展してきた音楽史学の理解を通して、音楽研究の基本を習得する。

学習の到達目標
音楽学の知識や方法論を自らの音楽体験に役立てることができるようになる。

予め履修が望ましい科目　音楽学特論

教科書　教科書は用いない。プリントを配布する。

成績評価方法と基準　レポート60%、出席状況と授業態度40%

学習内容
①音楽史学の歴史
②音楽史学の課題
③〜⑦楽譜・エディション
⑧〜⑫楽曲分析の方法とその意義
⑬〜⑯作品研究の具体例・さまざまな角度からの作品研究

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		美術科教育特論	2	前期　金 5, 6	山田康彦（教育学研究科美術教育専修）

授業の概要
美術科教育の理念、目的、内容、方法に関する基本問題を専門的に探求する。
特に我が国の過去から現在までの典型的な美術科教育実践の内容と方法を取り上げ、その成果や課題を分析すると同時に、欧米及び日本の新しい美術教育の方法に着目し、今後の美術科教育の方向性を探る。

学習の目的
美術科教育の理念、目的、内容、方法に関する基本問題に関する専門的な知識を得ると同時に、それについて考察できるようになる。
特に我が国の過去から現在までの典型的な美術科教育実践の内容と方法の成果や課題を分析すると同時に、欧米及び日本の新しい美術教育の方法に着目し、今後の美術科教育の方向性について考察する。

学習の到達目標
・我が国の過去と現在の美術科教育実践の内容と方法の成果を分析できる。
・内外の新しい美術科教育方法を知り、今後の美術教育の方向性を考察できる。

教科書　担当教員が資料を準備する。また講義の進行に応じて，別に学期内に指定することがある。

成績評価方法と基準　出席、授業期間中のレポートと発言、期末レポートの結果を総合的に評価する。

オフィスアワー
水曜日 10:30〜12:00
場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回：日本の美術科教育実践の概要
第2回：歴史的な美術科教育実践の研究①創造美育協会
第3回：歴史的な美術科教育実践の研究②新しい絵の会
第4回：歴史的な美術科教育実践の研究③美術教育を進める会
第5回：現代の美術科教育実践の分析①落合利行実践
第6回：現代の美術科教育実践の分析②佐藤マチ子実践
第7回：現代の美術科教育実践の分析③近藤真澄実践
第8回：現代の美術科教育実践の分析④池内正之実践
第9回：現代の美術科教育実践の分析⑤造形遊び
第10回：ワークショップ型美術教育の研究①イギリスのコミュニティアート
第11回：ワークショップ型美術教育の研究②ニューヨーク近代美術館の鑑賞教育
第12回：ワークショップ型美術教育の研究③日本の美術館教育の展開
第13回：ワークショップ型美術教育の研究④三重県立美術館のワークショップ
第14回：新しい美術科教員の養成方法①PBL教育方法の概要
第15回：新しい美術科教員の養成方法②PBLシナリオの活用
第16回：美術教育実践の課題の総合的検討

その他　受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		美術科教育特論演習	2	通年　水 1, 2	上山 浩（教育学研究科教育科学専攻）

授業の概要　我国の美術教育史をふまえ，美術教育の発展と今日的課題を考察する。

学習の目的　美術教育研究の基礎力を得る。

学習の到達目標　美術教育における理論研究を行い，今日における美術教育の課題を明瞭にする。

教科書　授業開始後指定することがある。

成績評価方法と基準　期末レポートの評価，演習内容の評価に加え，出席率等を総合し判定する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス
2．美術教育諸理論の関係の理解
3．歴史を中心とした美術教育諸理論の読解
4．歴史を中心とした美術教育諸理論の読解
5．歴史を中心とした美術教育諸理論の読解
6．歴史を中心とした美術教育諸理論の読解
7．歴史を中心とした美術教育諸理論の読解
8．教育論を中心とした美術教育諸理論の読解
9．教育論を中心とした美術教育諸理論の読解
10．教育論を中心とした美術教育諸理論の読解
11．教育論を中心とした美術教育諸理論の読解
12．教育論を中心とした美術教育諸理論の読解
13．教材論を中心とした美術教育諸理論の読解
14．教材論を中心とした美術教育諸理論の読解
15．教材論を中心とした美術教育諸理論の読解
16．教材論を中心とした美術教育諸理論の読解
17．教材論を中心とした美術教育諸理論の読解
18．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
19．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
20．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
21．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
22．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
23．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
24．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
25．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
26．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
27．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
28．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
29．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解
30．受講者の関心に応じた美術教育理論の読解

その他
受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。
尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動や学部生の実地活動の補助を含む場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		美術科教育史特論	2	前期　金 7, 8	山田康彦（教育学研究科美術科教育分野）

授業の概要
美術教育史の基本的及び専門的な理解に基づいて、その成果を美術教育の教育課程、教育内容、教育方法に具体的に生かす。
特に、アート・アンド・クラフト運動、20世紀初頭ドイツ芸術教育会議、新教育、1980年代という美術教育思想の歴史的転換に注目して考察する。

学習の目的
美術教育史に関する基本的及び専門的な知識を得る。
美術教育史の学習成果を美術教育の教育課程、教育内容、教育方法の考察に生かす。
特に、アート・アンド・クラフト運動、20世紀初頭ドイツ芸術教育会議、新教育、1980年代という美術教育思想の歴史的転換に注目して考察する。

学習の到達目標
・美術教育の歴史的史料を分析・検討することができる。
・教育史を通して美術教育の教育課程、教育内容、教育方法を考察できる。

教科書　担当教員が資料を準備する。また講義の進行に応じて，別に学期内に指定することがある。

成績評価方法と基準　出席、授業期間中のレポートと発言、期末レポートの結果を総合的に評価する。

オフィスアワー
水曜日 10:30〜12:00
場所：教育学部2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
第1回：美術教育史の教育課程、教育内容、教育方法への生かし方
第2回：アート・アンド・クラフト運動から学ぶ美術教育課程
第3回：アート・アンド・クラフト運動から学ぶ美術教育内容
第4回：アート・アンド・クラフト運動から学ぶ美術教育方法
第5回：20世紀初頭ドイツ芸術教育会議に見る美術教育課程
第6回：20世紀初頭ドイツ芸術教育会議に見る美術教育内容①芸術への教育の視点
第7回：20世紀初頭ドイツ芸術教育会議に見る美術教育内容②芸術による教育の視点
第8回：20世紀初頭ドイツ芸術教育会議に見る美術教育方法
第9回：新教育運動の中の美術教育課程
第10回：新教育運動の中の美術教育内容
第11回：新教育運動の中の美術教育方法
第12回：1980年代以降の世界の美術教育①アメリカDBAEの教育課程
第13回：1980年代以降の世界の美術教育②アメリカDBAEの教育内容
第14回：1980年代以降の世界の美術教育③総合学習としての美術教育の内容
第15回：1980年代以降の世界の美術教育④ビジュアル・カルチャーの中の美術教育方法
第16回：美術教育史の教育課程、教育内容、教育方法への生かし方をめぐる課題

その他　受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		美術科教育特別研究	2	前期　金 1, 2	上山 浩（教育学研究科教育科学専攻）

授業の概要　美術教育における実践的問題を考察する。特に，造形単位分析をもとに，カリキュラム論，教材論，教育方法論等の研究を行う。

学習の目的　美術教育における実践研究について，その目的，内容，方法等の概要を把握する。

学習の到達目標　美術教育における実践研究について，実際に研究を行う基礎力を獲得する。

教科書　授業開始後指定することがある。

成績評価方法と基準　期末レポートの評価，演習内容の評価に加え，出席率等を総合し判定する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス，教育実践研究とは何か
2．美術教育における実践研究の歴史と近年の動向
3．美術教育の実践と制度
4．美術教育の実践と思想
5．未定
6．未定
7．未定
8．未定
9．未定
10．研究事例の分析
11．受講生による研究事例の分析
12．受講生による研究事例の分析
13．実践研究のシミュレーション
14．実践研究のシミュレーション
15．実践研究のシミュレーション

その他
受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。
尚，授業内容の一部に，附属学校園ないしは隣接校区学校園等での実地活動や学部生の実地活動の補助を含む場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		絵画特別研究 I	2	前期　月 3, 4	関 俊一

授業の概要　西洋絵画史におけるテンペラ技法のイコン画様式を模倣し、現代の新素材に置き換え制作、研究する。

学習の目的　一つの古典技法を参考に、多種多様な素材の中から各自が選択した素材を使用し制作する事で、美術教育を行う上での柔軟な発送を養い表現の可能性を広げる事を目的とする。

学習の到達目標　古典絵画の一技法から絵画制作の基礎となる支持体、描画材、制作プロセスの理解と、他の画材に置き換え表現できる応用力を身に付ける。

教科書　適宜資料を配布する

成績評価方法と基準　作品50% レポートの評価50%

オフィスアワー　毎週火曜日12：00〜13：00 場所は美術棟3F絵画教室

学習内容

第1回：オリエンテーション
第2回：制作準備⑴素材の解説•支持体について
第3回：制作準備⑵素材の解説•絵の具について
第4回：制作準備⑶素材の解説•技法について
第5回：制作⑴エスキース制作
第6回：制作⑵下絵制作
第7回：制作⑶本制作•背景の彩色
第8回：制作⑷本制作•衣服の彩色
第9回：制作⑸本制作•人体の彩色
第10回：制作⑹細部の描写•仕上げ
第11回：制作⑺作品についての制作意図をレポートにまとめる
第12回：講評会
第13回：教材について⑴実践としての教材の利用を考察
第14回：教材について⑵案をレポートにまとめる
第15回： まとめ レポートの発表

その他　教材費が必要になる場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		絵画特別研究 II	2	後期　月 7, 8	関 俊一

授業の概要　絵画における素材と技法について実践的に研究する。

学習の目的　絵画技法の中で、西洋絵画の基礎知識と油彩の技法を研究し、美術の実技教育に関する能力を高める事を目的とする。

学習の到達目標　油彩以外にも様々な素材の特徴を制作を通し研究する事で、新たな表現へと展開させる発送力を養う。

予め履修が望ましい科目　絵画特別研究 I 絵画III（学部科目）

教科書　適宜資料を配布する

成績評価方法と基準　作品制作⑴50% 作品制作⑵50%

オフィスアワー　毎週火曜日12：00〜13：00 場所 美術棟3F 絵画教室

学習内容
授業計画

第1回：ガイダンス 油彩技法について
第2回：制作⑴静物をテーマとする①エスキース制作
第3回：　②下絵制作
第4回：　③明度を考慮した透明色による下塗り
第5回：　④不透明色によるハイライト部の描写
第6回：　⑤透明色によるグレーズ
第7回：　⑥細部の描写•仕上げ
第8回：講評会
第9回：制作⑵人物をテーマとする①エスキース制作
第10回：　②下絵制作
第11回：　③配色の検討
第12回：　④ヴァルールを考慮した制作
第13回：　⑤質感を考慮した制作
第14回：　⑥細部の描写•仕上げ
第15回：講評会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		絵画特別研究III	2	前期　月7,8	関 俊一

授業の概要　絵画における素材と技法について実践的に研究、制作する。

学習の目的　制作プロセスと画材の特性や効果について理解し、密度のある確かな表現ができる様になる事を目的とする。

学習の到達目標　絵画表現全般にわたり、技法の習得と表現のバリエーションを広げる事と、美術教育における絵画表現の能力を高める事を目標とする。

予め履修が望ましい科目
絵画演習（学部科目）絵画III（学部科目）
絵画特別研究Ⅰ 絵画特別研究Ⅱ

教科書　適宜資料を配布する

成績評価方法と基準　作品制作⑴50% 作品制作⑵50%

オフィスアワー　毎週月曜12：00～13：00 場所 美術棟3F 絵画室

学習内容
授業計画
第1回：ガイダンス（絵画技法について）
第2回：制作⑴動物•植物をモチーフとする ①エスキース制作
第3回：　②下絵制作
第4回：　③テクスチュアを考慮したモデリング
第5回：　④全体感を考慮した彩色
第6回：　⑤質感表現と描写
第7回：　⑥細部の描写•仕上げ
第8回：講評会
第9回：制作⑵自由テーマ ①エスキース制作
第10回：　②下絵制作
第11回：　③素材の張り込み
第12回：　④全体感を考慮した彩色
第13回：　⑤各部の彩色と表現
第14回：　⑥細部の描写•仕上げ
第15回：講評会

その他　絵画実技が主体となります。材料や道具は各自で準備してください。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		絵画特別研究演習	2	通年　火5,6	関 俊一

授業の概要　映像メディア表現を含め、絵画に関する様々な表現の中から、自らテーマを見出し表現制作に関わる研究を行う。

学習の目的　絵画研究に基づいた作品制作を通し、自己の造形的価値観を明確にし、表現能力を高める事を目的とする。

学習の到達目標　参考、模倣する事から得た知識を生かし、自分の表現について考察し、自分らしさについて制作を通し表現できるようになる事を目標にする。

受講要件

予め履修が望ましい科目
絵画演習（学部科目） 絵画III（学部科目）
絵画特別研究Ⅰ 絵画特別研究Ⅱ
絵画特別研究III（同年度履修）

教科書　適宜資料を配布する

成績評価方法と基準　作品制作⑴50% 作品制作⑵50%

オフィスアワー　毎週火曜日12：00～13：00 場所 美術棟3F 絵画教室

学習内容
前期
第1回：ガイダンス（絵画の定義について）
第2回：テーマの考察（油彩を主体とする）
第3回：制作⑴①油彩の素材の準備
第4回：　②油彩の実験制作
第5回：　③油彩のエスキース制作
第6回：　④油彩の下絵制作
第7回：　⑤油彩の本制作•第一層目の塗装
第8回：　⑥油彩の本制作•陰影の表現
第9回：　⑦油彩の本制作•明部の表現
第10回：　⑧油彩の本制作•モチーフの表現
第11回：　⑨油彩の本制作•モチーフの描写
第12回：　⑩油彩の本制作•背景の表現
第13回：　⑪油彩の本制作•全体感の確認と制作
第14回：　⑫油彩の本制作•細部の表現•仕上げ
第15回：講評会
後期
第16回：ガイダンス（表現の展開）
第17回：テーマの考察（水彩絵の具を主体とする）
第18回：制作⑵①水彩の素材の準備
第19回：　②水彩の実験制作
第20回：　③水彩のエスキース制作
第21回：　④水彩の下絵制作
第22回：　⑤水彩の本制作•第一層目の塗装
第23回：　⑥水彩の本制作•陰影の表現
第24回：　⑦水彩の本制作•明部の表現
第15回：　⑧水彩の本制作•モチーフの表現
第16回：　⑨水彩の本制作•モチーフの描写
第17回：　⑩水彩の本制作•背景の表現
第18回：　⑪水彩の本制作•全体感の確認と制作
第19回：　⑫水彩の本制作•細部の表現と仕上げ
第20回：講評会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		彫刻特別研究 I	2	前期　月 5, 6	奥田 真澄

授業の概要　テラコッタの技法である「かき出し法」と「型込め法」の長所と短所を理解し、それらの技法を活用して彫刻作品の制作を行う。作品の途中経過においては、入念に中間講評を行い、テラコッタの技法と表現との関係を考え、各自のテーマに合った独自の技法をつくる。

学習の目的　テラコッタの技法（かき出し法と型込め法）と彫刻表現を探求することにより、制作プロセスにおける表現の変化を理解し、美術教育に活用できる知識を得る。

学習の到達目標
・テラコッタの代表的な技法である「かき出し法」と「型込め法」の基礎とその応用活用を理解して、制作プロセスにおける表現の変化を学ぶ。
・各自の制作テーマに合わせた効果的なテラコッタ技法の活用を工夫して行い、美術教育に活用できる的確な感性を養うことをこの授業の目標とする。

受講要件　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00 彫刻研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：プラン提出・粘土練り・心棒制作
第3回：粘土原型制作（荒付け）
第4回：粘土原型制作（空間の把握）
第5回：粘土原型制作（量感の把握）
第6回：型造り（墨入れ・切り金刺し・石膏振りかけ）
第7回：型造り（スタッフ張り）
第8回：型造り（切り金出し・型はずし）
第9回：型込め
第10回：型はずし・修正
第11回：乾燥をさせながら制作
第12回：窯焼成
第13回：組み立て・修正
第14回：着色・仕上げ・台座制作
第15回：展示・講評会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		彫刻特別研究 II	2	後期　月 5, 6	奥田 真澄

授業の概要　自己の表現テーマにあった素材を選んで、彫刻作品の制作を行う。素材の特質を理解し、素材と表現の関係性について考えながら制作を行う。作品の途中経過においては、中間講評を入念に行い、素材に適した表現の在り方を考える。課題の後にはレポートによる作品に関する研究も行う。

学習の目的　自由な素材を用いて彫刻表現を探求することにより、素材の特質及び制作プロセスにおける表現の在り方を理解し、美術教育に活用できる知識を得る。

学習の到達目標
・各自の個性に合わせたテーマを考えて彫刻作品の制作を行う。
・多種多様な素材の中から自己の表現テーマにあった素材を選び彫刻制作を行う。
・彫刻表現における素材感の重要性を理解して自由な素材で彫刻表現を探求することにより、素材の変化における表現の在り方を考察し、美術教育に活用できる柔軟な感性を養うことをこの授業の目標とする。

受講要件　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00 彫刻研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：デッサン
第3回：粘土練り・心棒制作
第4回：粘土原型制作（荒付け）
第5回：粘土原型制作（全体像の把握）
第6回：粘土原型制作（仕上げ）
第7回：型制作（切り金刺し・石膏振りかけ）
第7回：型制作（補強入れ）
第8回：型制作（石膏塗り込み）
第9回：型制作（型はずし・かき出し・洗い）
第10回：各自の素材の貼り込み
第11回：型外し
第13回：組み立て・修正
第14回：着色
第15回：講評

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		彫刻特別研究III	2	前期　月 9, 10	奥田 真澄

授業の概要　現代の社会的な観点を踏まえたうえで、自己の表現の在り方を研究する。使用する素材は、テーマに則した物を選ぶ。中間講評を入念に行い、社会における彫刻表現の意義と可能性についての理解を深める。課題の後にはレポートによる作品に関する研究も行う。

学習の目的　現代社会をテーマに各自の表現内容に合わせた素材を選び、その制作技法を習得する。そして、時代の変化による表現スタイルを研究し、美術教育に活用できる知識を得る。

学習の到達目標
・作品集や美術館見学などによる作品研究を行い、彫刻表現についての知識を深めて時代や歴史的な観点を踏まえた上での彫刻制作を行う。
・実制作を通して現代社会と彫刻表現の関係を探求することにより、時代の変化による表現の形を理解し、美術教育に活用できる論理的な感性を養うことをこの授業の目標とする。

受講要件　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00 彫刻研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：デッサン
第3回：粘土練り・心棒制作
第4回：粘土原型制作（荒付け）
第5回：粘土原型制作（全体像の把握）
第6回：粘土原型制作（仕上げ）
第7回：型制作（切り金刺し・石膏振りかけ）
第7回：型制作（補強入れ）
第8回：型制作（石膏塗り込み）
第9回：型制作（型はずし・かき出し・洗い）
第10回：各自の素材の貼り込み
第11回：型外し
第13回：組み立て・修正
第14回：着色
第15回：講評

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		彫刻特別研究演習	2	通年　火 9, 10	奥田 真澄

授業の概要　時間をかけて大型の彫刻作品を制作し、密度ある形を追求する。彫刻表現におけるフォルムや構造、空間を理解する。自己の見解を持って制作を行い、彫刻表現における個性について考える。また、最終的には展示を行い、彫刻と周りの空間の関係についても考えてながら制作をおこなう。課題の後にはレポートによる作品に関する研究も行う。

学習の目的　作品集、スライドなどによる作品紹介やレポート作成などを通して彫刻表現についての知識を深め、時代や歴史的な観点を踏まえたうえでの彫刻制作を行い美術教育に活用できる知識を得る。

学習の到達目標
・基本的な大型彫刻作品における制作プロセスの在り方と技法及び展示方法の理解。
・時間をかけて彫刻表現を探求することにより、展示空間に合わせた彫刻表現や制作プロセスにおける表現の変化を理解し、美術教育に活用できる柔軟で的確な感性を養うことをこの授業の目標とする。

受講要件　実技実習中心の授業で危険を伴うので、学生教育研究障害保険には必ず加入すること。

教科書　なし

成績評価方法と基準　作品及び技法の習得度、課題の理解度、授業に取り組む姿勢を総合的に判断して評価を行う。

オフィスアワー　火曜日12:00〜13:00 彫刻研究室

学習内容
前期
第1回：ガイダンス
第2回：デッサン
第3回：プラン提出・道具説明
第4回：粘土練り（心棒制作）
第5回：粘土原型制作（荒付け）
第6回：粘土原型制作（量感の把握）
第7回：粘土原型制作（空間の把握）
第8回：粘土原型制作（動きの把握）
第9回：中間講評会
第10回：粘土原型制作（全体像の見直し）
第11回：粘土原型制作（細部の表現）
第12回：粘土原型制作（全体と細部の見直し）
第13回：粘土原型制作（細部の造り込み）
第14回：粘土原型制作（仕上げ）
第15回：中間講評会
後期：
第16回：ガイダンス
第17回：型制作（切り金刺し・石膏振りかけ）
第18回：型制作（補強入れ）
第19回：型制作（石膏塗り込み）
第20回：型制作（型はずし・かき出し・洗い）
第21回：各素材のはり込み
第22回：中間講評会
第23回：型外し・空間の把握
第24回：組み立て・動きの把握
第25回： 修正・細部の表現
第26回：着色（下地）・全体像の見直し
第27回：着色（模様入れ）・細部の造り込み
第28回：着色（仕上げ）・全体と細部の見直し
第29回：台座の制作
第30回：展示・講評会

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		デザイン特別研究 I	2	前期　木 3, 4	岡田博明

授業の概要
・テキストに沿い、基本的なデザイン事象の確認と実例調査。
及び、履修者自身の希望するデザイン表現での作品制作を行う。

学習の目的　・基本的なデザインルールの理解 ・ 自身の表現方法の探求に主眼を置き、テーマに対して表現方法を見つける事が本授業の目標である

学習の到達目標　・基本的なデザインルールの理解 ・ 自身の表現方法の探求に主眼を置き、テーマに対して表現方法を見つける事

教科書　Design Rule Index BNN新社

成績評価方法と基準
作品制作50%
計画及びプレゼンテーション50%

オフィスアワー　毎週木曜日12時〜13時デザイン研究室

学習内容
第1回：ガイダンスとテキスト説明
第2回：デザイン表現のテーマ策定
第3回：基本的なデザインルール解説と実例調査①
第4回：デザイン表現のエスキース①
第5回：基本的なデザインルール解説と実例調査②
第6回：デザイン表現のエスキース②
第7回：基本的なデザインルール解説と実例調査③
第8回：デザイン表現の制作①
第9回：基本的なデザインルール解説と実例調査④
第10回：デザイン表現の制作②
第11回：基本的なデザインルール解説と実例調査⑤
第12回：デザイン表現の制作③
第13回：基本的なデザインルール解説と実例調査⑥
第14回：デザイン表現の制作④
第15回：まとめ／作品講評

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		デザイン特別研究 II	2	後期　木 3, 4	岡田博明

授業の概要
・テキストに沿い、基本的なデザイン事象の確認と実例調査（ I の授業の続編）。
及び、履修者自身の希望するデザイン表現での作品制作を行う（ I の授業の続編的授業であり、より完成度の高い作品研究が望まれる）。

学習の目的　・発展的なデザインルールの理解 ・ 自身の表現方法の探求に主眼を置き、テーマに対しての表現方法の確立が本授業の目標である。

学習の到達目標　・発展的なデザインルールの理解 ・ 自身の表現方法の探求に主眼を置き、テーマに対しての表現方法の確立。

受講要件　デザイン特別研究 I を受講している事が望ましい。

教科書　Design Rule Index BNN新社

成績評価方法と基準
作品制作70%
計画及びプレゼンテーション30%

オフィスアワー　毎週木曜日12時〜13時デザイン研究室

学習内容
第1回：ガイダンスとテキスト説明
第2回：デザイン表現のテーマ策定
第3回：発展的なデザインルール解説と実例調査①
第4回：デザイン表現のエスキース①
第5回：発展的なデザインルール解説と実例調査②
第6回：デザイン表現のエスキース②
第7回：発展的なデザインルール解説と実例調査③
第8回：デザイン表現の制作①
第9回：発展的なデザインルール解説と実例調査④
第10回：デザイン表現の制作②
第11回：発展的なデザインルール解説と実例調査⑤
第12回：デザイン表現の制作③
第13回：発展的なデザインルール解説と実例調査⑥
第14回：デザイン表現の制作④
第15回：まとめ／作品講評

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		デザイン特別研究III	2	後期　金 3, 4	岡田博明

授業の概要
・主にデザイン特別研究 I 、 II の延長的授業である。
・パブリックデザインとは何かを学び、実践的な研究制作を行う。
・受講用件としてデザイン特別研究 I 、 II を履修済みである事。パブリックデザインを中心に、公共性とデザインの関係を理解し、公共に寄与しうるデザインのテーマとその表現を研究制作する。

学習の目的　パブリックデザインを中心に、公共性とデザインの関係を理解し、公共に寄与しうるデザインのテーマとその表現を研究制作する。

学習の到達目標　公共性とデザインの関係を理解し、公共に寄与しうるデザインのテーマとその表現を研究制作の試作。

受講要件　デザイン特別研究 I 、 II を履修済であること

オフィスアワー　毎週木曜日12：00〜13：00 デザイン室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：パブリックデザインのテーマ策定
第3回：テーマに対する類似作品の調査
第4回：デザイン表現のエスキース検討①
第5回：デザイン表現のエスキース検討②
第6回：下絵又はモデルの研究制作①
第7回：下絵又はモデルの研究制作②
第8回：下絵又はモデルの検討
第9回：デザイン表現作品の研究制作①
第10回：デザイン表現作品の研究制作②
第11回：デザイン表現作品の研究制作③
第12回：デザイン表現作品の研究制作④
第13回：デザイン表現作品の研究制作⑤
第14回：デザイン表現作品の研究制作⑥
第15回：まとめ／作品講評
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		デザイン特別研究演習	②	通年　火 7, 8	岡田博明

授業の概要
・主にデザイン特別研究Ⅰ、Ⅱあるいは Ⅲの延長的授業である。
・実践的な研究制作を行う。
・受講用件としてデザイン特別研究Ⅰ、Ⅱを履修済みである事

学習の目的　・自身の研究テーマに基づき、発展的な研究制作を完成させる。

学習の到達目標　・自身の研究テーマに基づいた研究制作の完成、または発表。

受講要件　デザイン特別研究Ⅰ・Ⅱを履修済みであること

成績評価方法と基準　研究制作の作品による評価

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：デザイン表現のテーマの確認と検討
第3回：これまでの研究制作の確認と検討
第4回：デザイン表現のエスキース検討①
第5回：デザイン表現のエスキース検討②
第6回：下絵又はモデルの研究制作①
第7回：下絵又はモデルの研究制作②
第8回：下絵又はモデルの検討
第9回：デザイン表現作品の研究制作①
第10回：デザイン表現作品の研究制作② 第11回：デザイン表現作品の研究制作③
第12回：デザイン表現作品の研究制作④
第13回：デザイン表現作品の研究制作⑤
第14回：デザイン表現作品の研究制作⑥
第15回：まとめ／作品講評
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		美術理論特論	2	前期　火 5, 6	山口泰弘

授業の概要　東洋と西洋それぞれにおける絵画の歴史的展開について、相互の関連性について系統的・巨視的に考察する。主として16世紀以降における東洋（日本・中国を中心とする）美術が西洋に及ぼした影響を探り、異文化体験によって生じた美術史上の問題について考察する。この授業では、西洋における”東洋”という異文化体験の歴史を、美術を通して概観する。

学習の目的　東洋と西洋それぞれにおける絵画の歴史的展開について、相互の関連性について系統的・巨視的に考察する。

学習の到達目標　東洋と西洋の芸術文化の比較をテーマとし、相互の相違点と共通点を把握し、一般化することをめざす。さらに、東西美術の歴史的展開を視野に、現代における表現活動にまで踏み込んで、その理念・方法について考究する。

教科書　特に指定しない。

成績評価方法と基準　研究発表、授業中の発言、レポートの成績等に基づいて総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週木曜日12:00〜13:00
芸術学研究室

学習内容
第1回 総論
第2回 シノワズリ・中国から西洋へ（1）
第3回 シノワズリ・中国から西洋へ（2）
第4回 シノワズリ・中国から西洋へ（3）
第5回 シノワズリ・中国から西洋へ（4）
第6回 シノワズリ・中国から西洋へ（5）
第7回 ジャポニスム・日本から西洋へ（1）
第8回 ジャポニスム・日本から西洋へ（2）
第9回 ジャポニスム・日本から西洋へ（3）
第10回 ジャポニスム・日本から西洋へ（4）
第11回 ジャポニスム・日本から西洋へ（5）
第12回 印象派と浮世絵（1）
第13回 印象派と浮世絵（2）
第14回 万国博覧会と日本美術
第15回 総括
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		美術史特論Ⅰ	2	後期　月 1, 2	山口泰弘

授業の概要　近世になると、琳派・文人画・洋風画などさまざまなスタイルの絵画が登場し百花繚乱ともいうべき様相となった。これは、それまでの時代とは異なった社会制度、思想を反映したものと考えられ、近代への準備ともいえる段階を示している。この授業では、近世絵画の主要作品を例示し、それが成立した背景を解き明かすことによって前後する時代と異なる近世文化の固有の特質を明らかにしていく。

学習の目的　西欧におけるジャポニスム、日本（江戸時代）における洋風美術にかかわる絵画を主体を多く例示し、世界的規模で繰り広げられる芸術上の相互作用について具体的に考察する。

学習の到達目標　日本近世絵画の美術史的意義をテーマとし、それを生み出した美意識について考察することによって、近代以降とは異なった近世文化の固有の特質について知識を得るほか、時代の変遷による文化の多様性を理解する。

教科書　特に指定しない。

成績評価方法と基準　研究発表、授業中の発言、レポートの成績等に基づいて総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週木曜日12:00〜13:00
芸術学研究室

学習内容
第1回 総説
第2回 日本絵画史の思想的背景（1）
第3回 日本絵画史の思想的背景（2）
第4回 近世絵画の様式的特質（1）
第5回 近世絵画の様式的特質（2）
第6回 近世絵画の様式的特質（3）
第7回 近世絵画を生み出した社会的背景（1）
第8回 近世絵画を生み出した社会的背景（2）
第9回 近世絵画を生み出した社会的背景（3）
第10回 狩野派
第11回 円山四条派
第12回 文人画
第13回 曾我蕭白・伊藤若冲
第14回 洋風画
第15回 総括
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		美術史特論 II	2	前期　月 1, 2	山口泰弘

授業の概要
三重県は、伊勢・伊賀・志摩・紀伊の旧国からなる。地理的にかつての都である京都・奈良の周辺地域として、文化上の多大な影響を受けながら、この地域の文化が展開してきた。また、東海道が走り、京都・江戸の往還が盛んになる江戸時代には、経済的な繁栄とともに、豊かな文化がかたちづくられた。
この授業では、絵画作品を中心に例示し、分析することによって、三重県地域の文化的特性を明らかにする。

学習の目的　絵画を中心とした美術作品に込められた、地域の文化力を探り、広い教育的視野を涵養することができるようになる。

学習の到達目標　美術における中央と地方の関係、地域の人々との関係をテーマとし、絵画を中心とした美術作品に込められた、地域の文化力を探り、広い教育的視野を涵養することができるようにする。

教科書　特に指定しない。

成績評価方法と基準　研究発表、授業中の発言、レポートの成績等に基づいて総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週木曜日12:00〜13:00
芸術学研究室

学習内容
第1回 概説
第2回 三重県の人文地理学的位置づけ 奈良・平安時代
第3回 三重県の人文地理学的位置づけ 鎌倉・室町時代
第4回 三重県の人文地理学的位置づけ 江戸時代
第5回 三重県の人文地理学的位置づけ 明治時代以降
第6回 京の画人と伊勢地方（1） 総説
第7回 京の画人と伊勢地方（2） 円山応挙
第8回 京の画人と伊勢地方（3） 池大雅
第9回 京の画人と伊勢地方（3） 曾我蕭白
第10回 東西の往還 東海道五十三次（1）
第11回 東西の往還 東海道五十三次（2）
第12回 東西の往還 東海道五十三次（3）
第13回 東西の往還 伊勢街道
第14回 伊勢参宮曼荼羅
第15回 総括
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		美術史特論III	2	後期　月 3, 4	山口泰弘

授業の概要　江戸時代を中心として、日本と西洋とのあいだの美術上の接触を検証し、西洋という異文化を体験した衝撃がどのように日本文化の変容に作用したかについて探っていく。さらに、それを基点にして日本文化の特性を浮き彫りにしていく。江戸文化というと、鎖国によって閉ざされたなかで密やかに成熟した文化と思われがちである。しかし、長崎の出島に開かれた小さな戸口からは、西洋という未知なものへの好奇心をかき立てる様々なイメージが意外なほど多く流れ込んだ。歌川広重の「東海道五十三次」や葛飾北斎の「富嶽三十六景」は、実は、江戸文化の伝統と新たな西洋イメージとの相克と融合の結果生まれたともいえる。
この授業では、西洋という異文化に接触したときに発生した江戸文化の変容を、美術史の視点から考察する。

学習の目的　歴史の展開を理論づける高い専門性と広い視野を得ることができるようになる。

学習の到達目標　東洋と西洋との芸術品相互の関係性を明らかにすることをテーマとし、文化の多様性、広汎性を理解する。美術史の基板となる概念や研究方法について学修する。

教科書　特に指定しない。

成績評価方法と基準　研究発表、授業中の発言、レポートの成績等に基づいて総合的に評価する。

オフィスアワー
毎週木曜日12:00〜13:00
芸術学研究室

学習内容
第1回 総説
第2回 概説 大航海時代と東洋・日本
第3回 南蛮美術（1） 世界図上の日本
第4回 南蛮美術（2） 南蛮屏風
第5回 南蛮美術（3） 洋人奏楽図屏風
第6回 中国における西洋の表象（1） 円明園・北京のベルサイユ宮殿
第7回 中国における西洋の表象（2） カスティリオーネ・郎世寧
第8回 洋風画（1） 円山応挙と眼鏡絵
第9回 洋風画（2） 秋田蘭画
第10回 洋風画（3） 司馬江漢
第11回 浮世絵（1） カメラ・オブスクラと浮絵
第12回 浮世絵（2） 葛飾北斎
第13回 浮世絵（3） 歌川広重
第14回 浮世絵（4） 歌川国芳
第15回 総括
定期試験

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		保健体育科教育特論 I	2	前期　火 9, 10	岡野 昇

授業の概要　存在論・認識論レベルから体育授業の内容構成と展開構成について考究し，新たな体育の授業構成について探究する。

学習の目的　体育授業におけるこれまでの実践や理論を理解し，学校教育における今日的課題に対応し得る新たな体育の授業構成について探究できるようになる。

学習の到達目標　体育授業におけるこれまでの実践や理論を理解し，学校教育における今日的課題に対応し得る新たな体育の授業構成について探究できるようになる。

教科書　岡野昇・佐藤学（2015）『体育における「学びの共同体」の実践と探究』大修館書店

成績評価方法と基準　授業過程における討議，及び学習課題の内容を成績評価の資料とする。評価の観点は，「問題把握の深さ」と「自己の脱構築性」とする。

オフィスアワー　・前・後期 水曜日12:00〜13:00，保体（保健体育科教育学 II）研究室

学習内容
第1回：授業の計画と進め方
第2回：体育授業の基礎（1） 学校教育における諸問題と体育授業
第3回：体育授業の基礎（2） 体育授業の存在論
第4回：体育授業の基礎（3） 体育授業の認識論
第5回：体育授業の内容構成（1） 体育授業と運動の特性論
第6回：体育授業の内容構成（2） 体育授業とプレイ論
第7回：体育授業の内容構成（3） 体育授業と学習内容論
第8回：体育授業の展開構成（1） 体育授業と学習論
第9回：体育授業の展開構成（2） 体育授業と学習過程論
第10回：体育授業の展開構成（3） 体育授業と学習形態論
第11回：新たな体育の授業構成（1） 体育における学びの変遷
第12回：新たな体育の授業構成（2） 体育における協同的な学び
第13回：新たな体育の授業構成（3） 体育における学びの三位一体論
第14回：体育科教育副論文主題のプレゼンテーションと討議（1）
第15回：体育科教育副論文主題のプレゼンテーションと討議（2）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		保健体育科教育特論 II	2	後期　金 11, 12	山本 俊彦（教育学研究科教科教育専攻保健体育専修）

授業の概要　生涯スポーツとの関連から，学校における体育（科）教育の役割及びその目的，内容を究明すると共に，学習内容論，カリキュラム論，体育の方法論等を研究する。

学習の目的　学校における体育（科）教育の役割及びその目的，内容を究明すると共に，学習内容論，カリキュラム論，体育の方法論に関する知見を広げる。

学習の到達目標　学校における体育科教育にかかわ研究論文（副論文）を作成する

予め履修が望ましい科目　保健体育科教育特論 I，保健体育科教育特論演習 I

教科書　随時, 紹介する

成績評価方法と基準　副論文の作成と発表会におけるプレゼンテーション

オフィスアワー　前・後期月曜日9・10限，保体（保健体育科教育学 I）研究室

学習内容　1〜16回：各院生への進度に応じて内容を決定していく。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		保健体育科教育特論演習	2	通年	岡野 昇（後期担当），山本俊彦（前期担当）

授業の概要　保健体育科教育特論 I・II との関連において，体育の授業研究演習を通じて教育実践力向上をめざす。同時に，教育実践学と教師教育の視点から教師の専門性について探究する。

学習の目的　「授業の研究」への取り組み方と体育授業における観察・分析・研究の方法を理解し，実際の体育授業研究会への参加（観察・記録・記述・分析・討議）を通して，学校教育・学校体育における今日的課題に対応し得る新たな教師の専門性について探究することができるようになる。

学習の到達目標　「授業の研究」への取り組み方と体育授業における観察・分析・研究の方法を理解し，実際の体育授業研究会への参加（観察・記録・記述・分析・討議）を通して，学校教育・学校体育における今日的課題に対応し得る新たな教師の専門性について探究することができるようになる。

予め履修が望ましい科目　保健体育科教育特論 I・II

教科書　岡野昇・佐藤学（2015）『体育における「学びの共同体」の実践と探究』大修館書店

成績評価方法と基準　授業研究への参加と授業分析結果レポート，及び授業観察記録を成績評価の資料とする。評価の観点は，「授業の意味解釈（何をどう見るかという観察の視点）」の深さとする。

オフィスアワー　前・後期 水曜日12:00〜13:00，保体（保健体育科教育学 II）研究室

学習内容
第1回：授業の計画と進め方
第2回：教育実践者としての「授業の研究」への取り組み方（1） 授業研究の歴史・課題・様式
第3回：教育実践者としての「授業の研究」への取り組み方（2） 授業における省察と反省
第4回：体育授業における授業観察の行い方
第5回：体育授業における場面分析の行い方
第6回：体育授業における事例研究の行い方
第7回：体育授業研究演習 I ／授業研究会への参加（授業観察の実施）
第8回：体育授業研究演習 I ／授業研究会への参加（研究協議会への参加）
第9回：体育授業研究演習 I ／授業観察結果の報告と討議
第10回：体育授業研究演習 I ／授業観察記録の作成と発表，及び協議
第11回：体育授業研究演習 II ／授業研究会への参加（授業観察の実施）
第12回：体育授業研究演習 II ／授業研究会への参加（研究協議会への参加）
第13回：体育授業研究演習 II ／授業観察結果の報告と討議
第14回：体育授業研究演習 II ／授業観察記録の作成と発表，及び協議
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		体育学特論 I	2	前期　火 11, 12	鶴原清志（教育学部保健体育科）

授業の概要　競技スポーツにおいて、心理的要因がどのように影響を及ぼすかを、選手の性格特性、心理的適正の側面から明らかにする。特に、実力発揮という側面からメンタルトレーニングの意義や方法について論述する

学習の目的　スポーツの心理的側面、特にメンタルトレーニングの基本的考え方、技法を理解することができる。

学習の到達目標　メンタルトレーニングの基本的考え方、技法を理解することができ、多くの文献に対して批判的な視点も持って検討することができるようになる。

教科書
coaches guide to sport psychology
コーチングマニュアル メンタルトレーニング

成績評価方法と基準　授業中のレポート発表、質疑の量および質で評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日12：00から1時間程度 鶴原研究室

学習内容
第1回：メンタルトレーニングの意義
第2回：メンタルトレーニングの基本的考え方
第3回：コーチングの哲学
第4回：動機づけ
第5回：リーダーシップのスキル
第6回：コミュニケーションスキル
第7回：心理的スキルトレーニング
第8回：イメージスキル
第9回：心的エネルギーの管理
第10回：ストレスマネジメント
第11回：注意のスキル
第12回：目標設定のスキル
第13回：試合中の分析
第14回：試合後の分析
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		体育学特論演習 I	2	通年　火 11, 12; 金 11, 12	鶴原清志（教育学部保健体育科）

授業の概要　メンタルトレーニングを扱った実際の文献を用いて、どのように研究が進められているか、どのような知見が得られているかを、様々な側面から検討する。

学習の目的　スポーツの心理的側面、特にメンタルトレーニングの基本的な考え方、技法を理解した上で、実際の研究がどのように実施されているかを理解する。

学習の到達目標　メンタルトレーニングの基本的考え方、技法を理解することができ、多くの文献に対して批判的な視点も持って検討することができるようになる。

予め履修が望ましい科目　体育学特論 I

成績評価方法と基準　授業中のレポート発表、質疑の量および質で評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日12：00から1時間程度 鶴原研究室

学習内容
第1回：メンタルトレーニングの定義
第2回：メンタルトレーニング関係の文献の検索
第3回：スポーツ関係の心理テストの収集
第4回：TSMIについての理解
第5回：TSMI関係の文献の検討
第6回：DIPCAについての理解
第7回：DIPCA関係の文献の検討
第8回：POMSについての理解
第9回：POMS関係の文献の検討
第10回：メンタルトレーニングプログラムの概要
第11回：リラクセーション技法の理解
第12回：リラクセーション技法の検討
第13回：積極的思考の理解
第14回：積極的思考の検討
第15回：セルフトークの理解
第16回：セルフトークの検討
第17回：イメージトレーニングの理解
第18回：イメージトレーニングの検討
第19回：集中力の理解
第20回：集中力の検討
第21回：情緒コントロール技法の理解
第22回：情緒コントロール技法の検討
第23回：メンタルトレーニングプログラムの実際
第24回：メンタルトレーニングプログラムの検討課題
第25回：事例研究の実際（心理的問題をかかえた事例、意欲の問題）
第26回：事例研究の実際（心理的問題をかかえた事例、コーチとの関係）
第27回：事例研究の実際（心理的問題をかかえた事例、チームメイトとの関係）
第28回：事例研究の実際（実力発揮の事例、緊張への対応）
第29回：事例研究の実際（実力発揮の事例、不安の解消）
第30回：事例研究の実際（実力発揮の事例、積極的思考の導入）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		体育学特論 II	2	後期　火 5, 6	大隈節子

授業の概要　現代社会とスポーツをめぐる諸問題について、関連テキストや先行研究の文献講読と学生間での討論を通して、体育・スポーツ社会学的に考究していく。

学習の目的　体育・スポーツ場面における身近な問題現象について社会学的な視点から検討することができるようになる

学習の到達目標　体育・スポーツ場面における身近な問題現象に対し、社会学的な視点から検討することができる

教科書　授業内容に合わせて適宜資料を準備する

成績評価方法と基準　授業中のレポート発表、質疑の内容で評価する

オフィスアワー
水曜日12：15〜12：45
大隈研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：体育・スポーツ社会学研究とは
第3回：「文化」としてのスポーツ（1）文献講読
第4回：「文化」としてのスポーツ（2）テーマに関する考察
第5回：「文化」としてのスポーツ（3）解説・まとめ
第6回：「教育」としてのスポーツ（1）文献講読
第7回：「教育」としてのスポーツ（2）テーマに関する考察
第8回：「教育」としてのスポーツ（3）解説・まとめ
第9回：「生涯スポーツ」について（1）文献講読
第10回：「生涯スポーツ」について（2）テーマに関する考察
第11回：「生涯スポーツ」について（3）解説・まとめ
第12回：「地域社会」とスポーツ（1）文献講読
第13回：「地域社会」とスポーツ（2）テーマに関する考察
第14回：「地域社会」とスポーツ（3）解説・まとめ
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		運動生理学特論	2	前期　月 7, 8	杉田正明

授業の概要　身体運動における仕組みと働きについて、運動生理学的に考究する。その中でもスポーツパフォーマンスとの関係について論じる。

学習の目的　スポーツパフォーマンスに対する生体の反応やメカニズムについて運動生理学的見地からの知識を得ること。

学習の到達目標　スポーツパフォーマンスを向上させるために、運動生理学的見地どのようにすればいいかから考察できる能力を身につけること。

教科書　適宜、資料などを配布する。

成績評価方法と基準　レポート、授業態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日お昼休み 杉田研究室

学習内容
授業計画 毎回、各テーマについての理解を深める。
第1回：ガイダンス及び運動生理学とは？の解説
第2〜4回：スポーツパフォーマンスと体力
（ハイパワー・ミドルパワー・ATP-CP系と運動パフォーマンス）
第5〜7回：スポーツパフォーマンスと環境
（高地環境（低酸素）、暑熱環境、寒冷環境）
第8〜11回：スポーツパフォーマンスとコンディショニング
(コンディションチェック、自律神経活動水準、睡眠、
酸化ストレス)
第12〜13回：スポーツパフォーマンスとサプリメント
(瞬発系、持久系パフォーマンス)
第14〜15回：スポーツパフォーマンスとリカバリー
(アイシング、クライテラピー、高酸素吸入)
まとめ

その他　基本的な運動生理学の知識が求められるので、事前の予習が必須となります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		運動生理学特論演習	2	通年　火 1, 2	杉田正明

授業の概要　運動生理学特論で扱う研究領域について、毎回、異なる文献を通して身体運動に対する生体の反応やメカニズムおよび運動生理学の両面から深く考察する。

学習の目的　身体運動に対する生体の反応やメカニズムについて運動生理学的見地からの知識を得ること。

学習の到達目標　身体運動に対する生体の反応やメカニズムについて、運動生理学的見地から深く考察することができる能力を身につけること。

予め履修が望ましい科目　運動生理学特論を受講すること。

教科書　適宜、資料などを配布する。

成績評価方法と基準　発表レジュメ、プレゼンテーション、授業態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日 お昼休み 杉田研究室

学習内容
授業計画 毎回、各テーマに関しての論文精読を行い、毎回、論文精読をし、レジュメを作成、発表し、考察を深める。
第1回：ガイダンス及び運動生理学とは？の解説
第2回〜6回：運動と環境に関する論文（低圧低酸素...自然環境・高地トレーニング）
第7回〜11回：パフォーマンスと体力に関する論文（ハイパワー・ATP-CP系と運動パフォーマンス）
第12〜15回：運動とサプリメントに関する論文(瞬発系パフォーマンスとサプリメント)
第16〜19回：運動とサプリメントに関する論文(持久系パフォーマンスとサプリメント)
第20〜22回：運動とコンディショニングに関する論文(コンディションチェック、睡眠とリカバリー)
第23〜24回：オーバートレーニングに関する論文(起床時コンディション、血液性状)
第25〜27回：運動と疲労回復に関する論文(食事、睡眠、高酸素吸入)
第28〜30回：運動と免疫に関する論文(トレーニングと免疫能)
第31〜32回：運動と遺伝子に関する論文(運動と遺伝子)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		運動方法学特論	2	前期　月 11, 12; 火 7, 8	八木規夫（教育学部保健体育講座）

授業の概要　人間の基本的運動能力である走・跳・投運動について、幼児期から青年期に至るまでの発達過程を、バイオメカニクス及び運動生理学の両面から考察する。

学習の目的　形態発育と筋・神経機能の発達との関連から、幼児期から青年期に至るまでの動作の習熟課程を理解し、実際の運動指導に生かせるようにする。

学習の到達目標　形態発育と筋・神経機能の発達との関連から、幼児期から青年期に至るまでの動作の習熟課程を理解し、実際の運動指導に生かせるようになる。

予め履修が望ましい科目　運動方法学、運動生理学

教科書
事典「発育・成熟・運動」高石昌弘、小林寛道監訳
「スポーツバイオメカニクス入門」金子公宥
「幼児の発達運動学」小林寛道他

成績評価方法と基準　レポート100%

オフィスアワー　金曜日12時～13時 場所教育学部八木研究室

学習内容
第1回：ガイダンス及び知識の確認
第2回：走運動の発達（1）文献購読を通して走運動の発達と形態の発育について論議する
第3回：走運動の発達（2）文献購読を通して走運動の発達と神経系の発達について論議する
第4回：走運動の発達（3）文献購読を通して走運動の発達と筋系の発達について論議する
第5回：走運動の発達（4）文献購読を通して走運動の発達について総合的に論議する
第6回：跳運動の発達（1）文献購読を通して跳運動の発達と形態の発育について論議する
第7回：跳運動の発達（2）文献購読を通して跳運動の発達と神経系の発達について論議する
第8回：跳運動の発達（3）文献購読を通して跳運動の発達と筋系の発達について論議する
第9回：跳運動の発達（4）文献購読を通して跳運動の発達について総合的に論議する
第10回：跳運動の発達（5）文献購読を通して床反力曲線からみた垂直跳びの発達について論議する
第11回：投運動の発達（1）文献購読を通して投運動の発達と形態の発育について論議する
第12回：投運動の発達（2）文献購読を通して投運動の発達と神経系の発達について論議する
第13回：投運動の発達（3）文献購読を通して投運動の発達と筋系の発達について論議する
第14回：投運動の発達（4）文献購読を通して投運動の発達について総合的に論議する
第15回：まとめ
総合レポート

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		運動方法学特論演習	2	通年　木 1, 2	後藤 洋子（教育学研究科芸術・スポーツ系教育領域保健体育部門）

授業の概要　スポーツ運動学に関する内外の文献や資料を講読し、体操領域で扱われる運動の質的特徴を理解するとともに、効果的な体つくりや動きつくりについて考察する。合わせて効果的な体つくり、動きつくりに関する教材・運動プログラムの開発を試みる。

学習の目的　体操領域の運動の特性を理解し、体つくりや動きつくりの実践に活用するための基礎を習得する。

学習の到達目標　体操領域の運動の特性を説明することができる。体つくりや動きつくりの実践に活用するための基礎を習得する。

教科書　特に指定しない。必要に応じて資料を配付し、参考文献を紹介する。

成績評価方法と基準　授業への参加状況40%、発表状況30%、レポート30%、計100%

オフィスアワー　時間：毎週水曜日12時から13時、保体（運動方法学Ⅱ）研究室（後藤洋子）

学習内容
第1回 オリエンテーション：授業計画の説明、資料の配付、分担の決定
第2～3回 体操領域の「体ほぐしの運動」について検討する。（小学校を中心に）
第4～5回 体操領域の「体力を高める運動」について検討する。（小学校を中心に）
第6～7回 体操領域の「体ほぐしの運動」について検討する。（中学校を中心に）
第8～9回 体操領域の「体力を高める運動」について検討する。（中学校を中心に）
第10～11回 体操領域の「体ほぐしの運動」について検討する。（高校を中心に）
第12～13回 体操領域の「体力を高める運動」について検討する。（高校を中心に）
第14回 「体つくり運動」全体について検討する。
第15回：まとめ
第16～19回 体つくり運動の多様な教材、運動プログラムについて検討する。（小学校を中心に）
第20～23回 体つくり運動の多様な教材、運動プログラムについて検討する。（中学校を中心に）
第24～27回 体つくり運動の多様な教材、運動プログラムについて検討する。（高校を中心に）
第28～29回 各種ねらいに応じた運動プログラムの開発。
第30回：教材・運動プログラムのまとめ。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		健康科学特論Ⅰ	2	前期　月9, 10	冨樫健二

授業の概要　日本や欧米、アジア諸国における現代の健康問題、健康に関わるキーワード、健康教育、子どもの低体力化等に焦点を当てて資料を収集し、プレゼンテーションを行う。その後、ディスカッションを行い理解を深める。

学習の目的　国際的な視点から健康問題を考えるとともに、学童期における健康教育、体育・スポーツ的活動が生涯にわたる健康・QOLの維持・増進にどのように貢献できるか理解する。

学習の到達目標　国際的な健康問題に関してエビデンスベースで理解するとともに、その原因について考えられるようになる。健康問題のうち、身体活動量や運動・スポーツの実践と関わるものについて断面的研究を通しながら理解する。身体活動量の増加や、運動・スポーツの実践が人々の健康に対して、どのように貢献するのか介入研究を通しながら理解する。理論的な部分を理解した上で、自分はどのように、子どもたちや対象者に対して働きかけることができるのか考究する。

教科書　適宜資料を配付する

成績評価方法と基準　出席、発表の内容（事前の準備）、ディスカッションへの参加度、レポート

オフィスアワー　木曜 12：20～12：40

学習内容
第1回： ガイダンス
第2回： 子どもの身体活動量、低体力化
第3回： 食育
第4回： 学校教育における保健授業の実態・問題点
第5回： やせ願望・スリム志向、成人病胎児期発症説
第6回： 心の健康
第7回： 肥満・メタボリックシンドローム
第8回： アレルギー性疾患（喘息、花粉症、アトピー性皮膚炎）
第9回： 介護予防と運動
第10回： 地域における健康づくり活動
第11回： 情報化と健康
第12回： 行動変容、運動継続
第13回： 日本における健康政策
第14回： 海外における健康政策
第15回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		健康科学特論演習Ⅰ	2	通年　火1, 2	冨樫健二

授業の概要　健康科学や運動・スポーツに関する国内外の論文抄読を通して、この分野の位置づけを理解する。語学力を高め、国際社会に貢献できる人材の育成を図る。

学習の目的　健康維持の背景に身体活動が深く関わっていることを理解する。学術論文を抄読することによりエビデンスベースに物事を考えられる力を身につける。情報収集に関する種々の方法論を習得し応用できるようになる。

学習の到達目標　医中誌、PubMedにおける文献検索、Web of Scienceなどの被引用文献情報データベースの活用法の理解、電子ジャーナルの利用法、電子辞書の利用法を理解した上で、効率的に自分に必要な健康科学、運動・スポーツに関わる論文が抄読できるようになる。

受講要件　健康科学に関する論文を抄読することに関して、語学力、日本語における専門的知識を十分に有していること

予め履修が望ましい科目　健康科学特論Ⅰの単位を既に習得していること

教科書　随時紹介する

成績評価方法と基準　出席、発表の内容（事前の準備）、ディスカッション時において理解度の確認、レポート

オフィスアワー　木曜12：20～12：40

学習内容
第1回： ガイダンス
第2回： 国内文献検索（CiNii、医中誌、JDreamIII）の行い方
第3回： 海外文献検索（PubMed、Web of Science、Google Scholar）の行い方
第4回： 電子ジャーナルの理解（Impact Factor、DOI）、文献管理方法
第5回： 効率的な文献抄読法（電子辞書等の利用法）
第6回： 健康科学に関わる日本語論文抄読（健康政策）
第7回： 健康科学に関わる日本語論文抄読（肥満、メタボリックシンドローム）
第8回： 健康科学に関わる日本語論文抄読（がん）
第9回： 健康科学に関わる日本語論文抄読（動脈硬化症、脳卒中）
第10回：健康科学に関わる日本語論文抄読（動脈硬化症、心疾患）
第11回：健康科学に関わる日本語論文抄読（COPD、喫煙）
第12回：健康科学に関わる日本語論文抄読（糖尿病）
第13回：健康科学に関わる日本語論文抄読（高血圧）
第14回：健康科学に関わる日本語論文抄読（脂質異常症）
第15回：まとめ①
第16回：健康科学に関わる日本語論文抄読（やせ志向、DOHaD）
第17回：健康科学に関わる日本語論文抄読（ストレス）
第18回：健康科学に関わる英語論文抄読（WHO、NIHの活動）
第19回：健康科学に関わる英語論文抄読（欧米諸国における食事情）
第20回：健康科学に関わる英語論文抄読（欧米諸国における身体活動事情）
第21回：健康科学に関わる英語論文抄読（感染症、HIV、AIDS）
第22回：健康科学に関わる英語論文抄読（身体活動に関するガイドライン）
第23回：健康科学に関わる英語論文抄読（発展途上国における健康問題）
第24回：健康科学に関わる英語論文抄読（運動介入研究の現状）
第25回：健康科学に関わる英語論文抄読（発育発達科学における長期縦断研究）
第26回：健康科学に関わる英語論文抄読（生活習慣病改善薬の基礎）
第27回：健康科学に関わる英語論文抄読（代替医療の現状）
第28回：健康科学に関わる英語論文抄読（アレルギー性疾患）
第29回：健康科学に関わる英語論文抄読（骨粗鬆症、サルコペニア）
第30回：まとめ②

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		健康科学特論 II	2	後期　木 5, 6	重松良祐（教育学部保健体育講座）

授業の概要　健康やQOLを生涯にわたって良好に保持していくことにおける体育・スポーツの役割（貢献内容）について考究する。特に、貢献内容を科学的に検証するための研究手法を習得する。また、英語の文献も使用する予定である。

学習の到達目標　健康やQoLを生涯にわたって良好に保持していくことにおける体育・スポーツの役割（貢献内容）について考究する力。さらに、貢献内容を科学的に検証するための研究手法と英文読解力の習得。

受講要件　健康・体力関連の英語論文を読解する力は必要である。

予め履修が望ましい科目　特になし。

教科書　適宜指示する。

成績評価方法と基準　出席50%、レポート40%、授業への貢献10%。

学習内容
第1回： ガイダンス
第2回： 健康科学分野の研究手法を学ぶ（1） 研究デザイン
第3回： 健康科学分野の研究手法を学ぶ（2） 研究上の問題点と目的
第4回： 健康科学分野の研究手法を学ぶ（3） 方法（参加者、測定）
第5回： 健康科学分野の研究手法を学ぶ（4） 方法（統計の理論）
第6回： 健康科学分野の研究手法を学ぶ（5） 方法（統計処理）
第7回： 健康科学分野の研究手法を学ぶ（6） 論文の書き方、投稿の方法
第8回： 国内外の政策について学ぶ（1） 国内編
第9回： 国内外の政策について学ぶ（2） 国外編
第10回：行動科学について学ぶ（1） 理論
第11回：行動科学について学ぶ（2） 実際
第12回：健康支援の実際を学ぶ（1） 外部機関との協働
第13回：健康支援の実際を学ぶ（2） フィールドの見学
第14回：健康支援の実際を学ぶ（3） 知見の発表と還元
第15回：まとめ

その他　特になし。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		健康科学特論演習 II	2	通年　月 5, 6	重松良祐（教育学部保健体育講座）

授業の概要　健康づくりやQOLを扱う論文の精読や現場での活動を通じて、体育・スポーツの役割を把握する。

学習の到達目標　健康づくりやQoL保持の論文精読や現場活動を通じ、体育・スポーツの役割に貢献できる力。

受講要件　健康健康学特論 II を履修していること。

教科書　適宜指示する。

成績評価方法と基準　出席50%、レポート25%、授業への貢献25%。

学習内容
第1回： ガイダンス
第2回： 健康づくりやQOLを扱う論文精読（1） 高齢者の転倒予防
第3回： 健康づくりやQOLを扱う論文精読（2） 高齢者の認知機能向上
第4回： 健康づくりやQOLを扱う論文精読（3） 高齢者の社会機能向上
第5回： 健康づくりやQOLを扱う論文精読（4） 中高年者の疾病予防
第6回： 健康づくりやQOLを扱う論文精読（5） 運動習慣の保持
第7回： 健康づくりやQOLを扱う論文精読（6） 行動変容手法を用いた介入
第8回： 健康づくりやQOLを扱う論文精読（7） 環境要因と身体活動との関連性
第9回： 健康づくりやQOLを扱う論文精読（8） 子供〜大学生を対象にした介入
第10回：現場での活動（1） 運動教室：リクルート
第11回：現場での活動（2） 運動教室：測定
第12回：現場での活動（3） 運動教室：介入
第13回：現場での活動（4） 運動教室：継続支援
第14回：現場での活動（5） 運動教室：知見の還元
第15回：統計解析（1） 高齢者の転倒リスクファクタのデータを用いる（2標本平均の差の検定ほか）
第16回：統計解析（2） 高齢者の認知機能のデータを用いる（分散分析ほか）
第17回：統計解析（3） 高齢者の社会機能のデータを用いる（共分散分析ほか）
第18回：統計解析（4） 中高年者の疾病予防に関するデータを用いる（回帰分析ほか）
第19回：統計解析（5） 運動習慣に関するデータを用いる（因子分析ほか）
第20回：統計解析（6） 行動変容に関するデータを用いる（相関分析ほか）
第21回：統計解析（7） 環境要因と身体活動に関するデータを用いる（母平均との差の検定ほか）
第22回：統計解析（8） 大学生に介入に関するデータを用いる（ノンパラメトリック検定ほか）
第23回：質的研究（1） 調査の種類について
第24回：質的研究（2） データの収集方法について
第25回：質的研究（3） 解析方法について
第26回：質的研究（4） 結果の解釈および記述について
第27回：総合（1） 健康づくりやQOL向上に関する研究上の問題点を見いだす
第28回：総合（2） 健康づくりやQOL向上に資して貢献できる内容を発案する
第29回：総合（3） 上記の貢献内容につながる具体的な方法を考案する
第30回：まとめ

その他　特になし。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育特別研究ＩＣ	2	後期　火3,4	上山 浩、岡野 昇、川村 有美

授業の概要　教育の現代的課題（学力、人権、日本語を母語としない児童・生徒の指導など）について、発達段階と発達課題、学習理解の過程を軸とし、芸術・スポーツ領域の最新のデータと理論に基づいて課題解決できる。特に、異校種との連携・連結を視野に入れた教育のあり方について考察する。

学習の目的　芸術・スポーツ領域の教育について研究力と実践力の基礎を得る。

学習の到達目標　芸術・スポーツ領域の教育の現代的課題を明らかに，それに応じた研究・実践への見通しを得る。

教科書　未定（必要に応じて履修中に示すことがある）

成績評価方法と基準　期末レポートの評価，演習内容の評価に加え，研究状況を総合し判定する。

オフィスアワー　各担当教員による。

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：我が国における教育の現代的課題の調査（幼小の関連）
第3回：我が国における教育の現代的課題の調査（小中の連結）
第4回：芸術・スポーツ系の学習の意義
第5回：三重県を中心とした教育の現代的課題の調査（幼・小）
第6回：三重県を中心とした教育の現代的課題の調査（中・高）
第7回：教育現場との意見交流
第8回：芸術・スポーツ系教育領域における現代的課題の調査（幼・小）
第9回：芸術・スポーツ系教育領域における現代的課題の調査（中・高）
第10回：芸術・スポーツ系領域における教育の意義
第11回：教育の現代的課題に関する討論会
第12回：教育の現代的課題全体に関する討論会
第13回：県・市町教育委員会報告等に関する話題提供
第14回：芸術・スポーツ系における新しい教育課程の在り方の検討
第15回：芸術・スポーツ系における新しい教育課程の在り方の発表
定期試験：レポートの提出

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育特別研究ＩＩＣ	2	前期　火3,4	根津知佳子、山田康彦、山本俊彦、

授業の概要　専門領域における「発達•支援に関する洞察•省察力」「人間•関係に関する発信•受信力」「連携•連帯に関する互恵•協働力」「教材•教具に関する研究•開発力」について、発達段階ごとの学習過程について考察する。

学習の到達目標　本授業では、幼稚園と小学校、及び小学校と中学校との連結など、校種間の指導の壁について考える。「生きる力」、「考える力」、「感じる力」、「コミュニケーション力」について教科横断的な教育研究の内容を取り扱い、幅広く国内外の社会・文化に精通した研究・教育能力の涵養を図る。

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：芸術・スポーツ系教育領域における発達を考慮した「感じる力」の育成
第3回：芸術・スポーツ系教育領域における「感性」を刺激する教材
第4回：芸術・スポーツ系教育領域における「発達•支援に関する洞察•省察力」
第5回：芸術・スポーツ系教育領域における発達を考慮した「コミュニケーション力」の育成
第6回：芸術・スポーツ系教育領域における「つながり」を育てる教材
第7回：芸術・スポーツ系教育領域における「人間•関係に関する発信•受信力」
第8回：芸術・スポーツ系教育領域における発達を考慮した「考える力」の育成
第9回：芸術・スポーツ系教育領域における「思考」を生む教材
第10回：芸術・スポーツ系教育領域における「教材•教具に関する研究•開発力」
第11回：芸術・スポーツ系教育領域における発達を考慮した「生きる力」の育成
第12回：芸術・スポーツ系教育領域における「総合力」を育成する教材
第13回：芸術・スポーツ系教育領域における「連携•連帯に関する互恵•協働力」
第14回：芸術・スポーツ系教育領域における校種間の指導の壁について
第15回：総合討論
定期試験：レポートの提出を定期試験の代わりとする。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 3, 4	兼重直文(教育学研究科教育科学専攻 芸術・スポーツ系教育領域 音楽教育専修)

授業の概要　各自の研究テーマに沿って、文献を収集・整理・購読、また楽譜の収集とそれに関わる文献を揃え、研究テーマや演奏プログラムの具体性を方向付ける。

学習の目的　修士演奏および論文作成のための課題が明確になり、主体的な研究姿勢を更に身につけることができる。

学習の到達目標　修士論文の章立てを決定し、論文概要を明確にするとともに、修士演奏の演奏プログラムを決定する。

受講要件　器楽特論 II 、器楽特論演習 II を並行履修すること。

教科書　研究内容に応じて紹介する。

成績評価方法と基準　論理的構成能力40%、演奏能力40%、研究意欲20%、計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
前期
第1回 前期研究計画の概略について
第2回 研究課題の内容と動機について(1)
第3回 研究課題の内容と動機について(2)
第4回 研究方法の進め方について(1)
第5回 研究方法に進め方について(2)
第6回 修士論文と修士演奏の関連について(1)
第7回 修士論文と修士演奏の関連について(2)
第8回 修士演奏のプログラミングについて(1)
第9回 修士演奏のプログラミングについて(2)
第10回 先行研究の検索と購読(1)
第11回 先行研究の検索と購読(2)
第12回 先行研究の検索と購読(3)
第13回 先行研究の検索と購読(4)
第14回 修士演奏関連の参考文献について(1)
第15回 修士演奏関連の参考文献について(1)
第16回 前期課題研究のまとめ
後期
第1回 前期の振り返りと後期研究計画について
第2回 論文作成の方法について(1)
第3回 論文作成の方法について(2)
第4回 論文作成の方法について(3)
第5回 修士演奏のプログラムの決定(1)
第6回 修士演奏のプログラムの決定(2)
第7回 修士演奏の実技指導(1)
第8回 修士演奏の実技指導(2)
第9回 修士演奏の実技指導(3)
第10回 修士演奏の実技指導(4)
第11回 修士演奏の実技指導(5)
第12回 修士論文内容の中間報告(1)
第13回 修士論文内容に中間報告(2)
第14回 課題研究 II に向けて
第15回 後期課題研究のまとめ(1)
第16回 修士演奏の試演会(テスト)
定期試験：レポートと実技

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　月 9, 10	弓場 徹(教育学部)

授業の概要　修了演奏および修士論文作成に向けた具体的な方向性を明確にする

学習の目的　修了演奏および修士論文作成に向けた具体的な方向性を明確にする

学習の到達目標
【パフォーマンス】発声能力：広い音域(目安：安定母音唱2oct.)、音量調節、正しい音程、気息の音化効率、明瞭な発音、声楽としての音質、②音楽的構成力：歌詞の内容や曲全体の把握、的確なフレーズ、ブレス位置、ディナーミクやアゴーギク、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的ニュアンス、音色の変化、テンポやリズムなど、③自分に合った選曲を行う能力、④自学自習能力
【論文】自己のモチベーションを明確にする。論文作成も含め2年間で行える現実的研究内容を特定し、時間的な計画も含め具体的な青写真を作る。論理的思考やディスカッションの能力的向上をはかる。

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
【パフォーマンス】
1.これまでのパフォーマンスに関する経緯と今後の展開等についてディスカッションを行う。
2.～16.基礎発声能力の向上をはかり、その応用方法について歌曲などを用いて学ぶ。その際、ディスカッションしながら修了演奏プログラムを意識した選曲を行うとともに、プログラム作成の方法について学ぶ。
【論文】
1.これまでの研究に関する経緯と今後の展開等についてディスカッションを行う。
2.～5.大まかな研究の方向性を定めるために、資料などに基づきモチベーションの高いテーマについて様々な角度からディスカッションする。また、このことを通して論理的思考能力や発言能力の向上をはかる。
6.～10.モチベーションの高い様々な既存研究に関する文献を講読し、研究の新規性を確保できるテーマに絞り込んでいく。
11.～16.さらに研究内容を特定していき、研究の遂行に関する具体的な研究計画及び大まかなタイムテーブルを作成する。実験的研究の場合には、そのプロトコルを作成について学ぶ。ある程度特定した自己の分野及びその関連の既存研究の資料を探し、分析的に文献を講読し整理する。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　金 1, 2	根津知佳子

授業の概要　音楽教育、音楽療法などに関する内外の研究レビューを総括の上、研究テーマ・キーワードを確定し、研究計画にそって研究を行う。

学習の目的　音楽教育、音楽療法に関する専門的な理論に基づいて、論文を構成することができる。

学習の到達目標　音楽教育、音楽療法に関する専門的な理論を理解し、応用することができる。

成績評価方法と基準　毎回の課題の達成度で評価する。

学習内容
（1）論文の構造
（2）キーワードの検討 先行研究のレビュー
（3）テーマにおけるキーワードの位置づけ
（4）論文のプロット
（5）オリジナリティ
（6）～（14）論文の作成
（15）中間発表
（16）～（18）14論文の作成内外の研究のレビュー再検討
（19）～（27）論文作成
（28）プレゼンテーションの準備
（29）プレゼンテーション
（30）プレゼンテーションの省察

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　火 7, 8	山口 泰弘

授業の概要　課題における専門的知識の涵養と高度な研究能力の育成を図り、その具体的方向を定める。

学習の目的　修士論文の作成に必要な高い専門性と論述能力等を得ることができるようになる。

学習の到達目標　修士論文を作成する。

教科書　特に指定しない。

学習内容　修士論文を作成することを目標とし、修士論文の作成に必要な高い専門性と論述能力等を得ることができるようにする。授業科目「課題研究 II」受講の前提として、各人が、課題における専門的知識の涵養と高度な研究能力の育成を図り、その具体的方向を定める。また、修士論文作成のための資料収集を行う方法論について学ぶ。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　木 1, 2	山田康彦（教育学研究科美術教育専修）

授業の概要　課題における専門的知識の涵養と高度な研究能力の育成を図り，その具体的方向を定める。

学習の目的　修士論文作成に向けて，テーマを確定し，研究方法を確認し，研究を始める。

学習の到達目標　修士論文作成に向けて，テーマを確定し，研究方法を確認し，研究を始めることができる。

受講要件　芸術・スポーツ系教育領域美術科教育分野専攻生のみ

教科書　受講者個々の研究テーマに拠る。

成績評価方法と基準　演習内容の評価に加え，出席率等を総合し判定する。

オフィスアワー
水曜日 10:30～12:00
場所：専門2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
1．ガイダンス
2．美術教育研究に研究テーマの設定の仕方
3．美術教育研究の研究テーマの概観1
4．美術教育研究の研究テーマの概観2
5．美術教育研究の研究方法論1 教育史的方法
6．美術教育研究の研究方法論2 美術史的方法
7.美術教育研究の研究方法論3 美学・芸術学的方法
8.美術教育研究の研究方法論4 哲学・思想的方法
9.美術教育研究の研究方法論5 教育実践分析的方法
10.美術教育研究の研究方法論6 教育実践の質的研究
11.仮研究テーマの検討、設定
12.仮研究テーマの研究の進め方
13.資料収集法やデータの取り扱い方の確認
14.仮テーマの理論的背景の探求
15.仮テーマの理論的背景の検討
16.前期の到達点の確認と後期の研究計画
17.資料の読解
18.資料の読解
19.資料の読解
20.資料の読解
21.資料の読解
22.資料の読解
23.検討した資料のまとめ
24.研究テーマの再検討
25.資料の読解
26.資料の読解
27.資料の読解
28.資料の読解
29.資料の読解
30.検討した資料のまとめ

その他　受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　火 5, 6	上山 浩（教育学研究科教育科学専攻）

授業の概要　課題における専門的知識の涵養と高度な研究能力の育成を図り，その具体的方向を定める。

学習の到達目標　修士論文作成に向けて，テーマを確定し，研究方法を確認し，研究を始める。

受講要件　教科教育専攻芸術・スポーツ系教育領域生

教科書　受講者個々の研究テーマに拠る。

成績評価方法と基準　演習内容の評価に加え，出席率等を総合し判定する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス
2．テーマの検討
3．テーマの検討
4．研究方法の検討
5．テーマの再検討
6．テーマの再検討
7．研究方法の再検討
8．資料収集法の確認
9．実験データについて
10．資料の読解
11．資料の読解
12．資料の読解
13．テーマの再検討
14．テーマの再検討
15．資料の読解
16．資料の読解
17．資料の読解
18．研究論文の内容項目作成
19．研究論文の内容項目作成
20．資料の読解
21．資料の読解
22．資料の読解
23．資料の読解
24．資料の読解
25．資料の読解
26．研究論文の内容項目作成
27．研究論文の内容項目作成
28．テーマの再検討
29．テーマの再検討
30．研究論文の内容項目作成

その他　受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水 1, 2	岡田 博明

授業の概要　1課題における専門的知識の涵養と高度な研究能力の育成を図り、その具体的方向を定める。

成績評価方法と基準　提出作品、レポート、授業の準備状況等の総合評価

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　火 1, 2	関 俊一

授業の概要　課題における専門的知識の充実と絵画制作の技術向上を図る。

学習の目的　制作を経て基礎となる技術を体得し、多様な表現から、より具体的なオリジナル表現を見出す力を得る。

学習の到達目標　各自が知識や技術の向上を試み、自分が意図する表現を具体化できる力を身につける。

予め履修が望ましい科目
絵画特別研究 I
絵画特別研究 II

教科書　各自、表現に合った作家、作品の画集、資料等収集しておく。

成績評価方法と基準　提出作品、レポート、授業の準備状況等の総合評価

オフィスアワー　月曜日12:00~13:00美術棟3階絵画教室

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	2	通年　水1,2	山本 俊彦（教育学研究科）

授業の概要　修士論文作成についての研究課題を設定し，高度の専門的知識の涵養をはかるとともに，研究の方向性を探らせる。

学習の目的　研究課題を設定するとともに，高度の専門的知識を広げる。

学習の到達目標　特になし

受講要件　特になし

予め履修が望ましい科目　特になし

教科書　随時紹介する

成績評価方法と基準　研究に対する主体性、柔軟性

オフィスアワー　いつでも，どこでも，何時間でもOKです。

学習内容
1回：学習の進め方、授業内容等のガイダンス
2回：課題発見①に向けた自由討議
3回：レポート発表とその討議①
4回：レポート発表とその討議②
5回：レポート発表とその討議③
6回：課題①に関するプレゼンテーション
7回：レポートの構造と作成について
8回：課題発見②にむけた自由討議
9回：レポート発表とその討議①
10回：レポート発表とその討議②
11回：レポート発表とその討議③
12回：課題②に関するプレゼンテーション
13回：問題発見とその視点について
14回：先行研究とその読解について
15回：データの解析及び解釈について
16回：課題発見③に向けての自由討議
17回：レポート発表とその討議①
18回：レポート発表とその討議②
19回：レポート発表とその討議③
20回：課題3に関するプレゼンテーション
21回：原著論文（和・洋）の輪読①
22回：原著論文（和・洋）の輪読②
23回：原著論文（和・洋）の輪読③
24回：研究課題の提示とその検討
25回：研究の方法とその検討
26回：研究の進捗に応じた指導
27回：研究の進捗に応じた指導
28回：研究の進捗に応じた指導
29回：研究の進捗に応じた指導
30回：研究のまとめとプレゼンテーション

その他　特になし

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	2	通年　木11,12	八木規夫（教育学部保健体育講座）

授業の概要　研究に関係する論文の講読及び関連する動作様式の観察

学習の目的　研究に関係する論文の講読及び関連する動作様式の観察を進めることによって修士論文の概要を把握し、その方法論について検討する

学習の到達目標　研究に関係する論文の講読及び関連する動作様式の観察及びその方法の検討を進めることによって修士論文の方向性を確認することができる。

予め履修が望ましい科目　運動方法学特論

成績評価方法と基準　レポート100%

オフィスアワー　金曜日12時10分～13時00分 場所教育学部八木研究室

学習内容
第1回 授業計画の説明、課題設定など
第2～3回 学部卒業論文のプレゼン及び質疑応答
第4～7回 体力・運動能力の発育・発達に関連する論文の講読
第8～11回 幼児・児童の動作様式の発達に関連するバイオメカニクス的研究論文の講読
第12～15回 幼児・児童の動作様式を観察する方法論について文献講読を重ねる
第16～17回 収集した文献を手がかりに研究の方向性を探る
第18～20回 研究の方向性に関する動作様式の実際を映像等で観察する第21～22回 動作様式を分析する項目等について検討する
第23～24回 動作様式の分析に関連する機器等について検討する
第25回 動作様式を分析する機器等で実際にデータ取得を試みる
第26～29回 取得したデータの分析結果を吟味する
第30回 研究の方向性を確認する

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	2	通年　水1,2	鶴原清志（教育学部保健体育科）

授業の概要　修士論文の作成に向け、問題意識の整理、文献の収集をとおして、その方向性を探らせる。

学習の目的　修士論文の方向性を明確にする。

学習の到達目標　修士論文の作成に向けて、具体的な作業ができるようになる。

予め履修が望ましい科目　体育学特論Ⅰ、体育学特論演習Ⅰ

成績評価方法と基準　授業中のレポート発表、質疑の量および質で評価する。

オフィスアワー　毎週木曜日12：00から1時間程度 鶴原研究室

学習内容　自らのテーマに従い、文献を検索、収集し、抄録を作成して授業において発表する。それを繰り返すことで、研究の方向性を明確にしてき、調査または実験を計画し、その準備を行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	2	通年　水1,2	後藤 洋子（教育学研究科芸術・スポーツ系教育領域）

授業の概要　体操および体つくり運動領域に関する研究課題を設定し、修士論文作成に必要な文献を収集し、講読することで高度な専門知識の涵養を図るとともに、研究の方向性を探る。

学習の目的　体操および体つくり運動領域に関する研究課題を設定し、修士論文作成に必要な文献を収集し、講読することで高度な専門知識の涵養を図るとともに、研究の方向性を探る。

学習の到達目標　研究課題に即した文献研究により、研究の方向性を決定する手掛かりを得る。

受講要件　運動方法学分野で体操、体つくり運動領域に関する修士論文を作成する者。

成績評価方法と基準　研究課題に対する理解の深さ、文献の収集状況などから評価する。

オフィスアワー　時間：毎週水曜日12時～13時、場所：保体（運動方法学Ⅱ）研究室（後藤洋子）

学習内容
第1回 授業計画の提示、課題設定など
第2～6回 学校体育における体操、ダンス領域の内容、目的、取り扱い等について、学習指導要領の内容を中心に検討する。
第7～11回 様々な体操、ダンス領域に関する文献を講読し、研究課題について検討する。
第12～14回 収集した文献、論文を手掛かりに、研究の方向性を探る。
第15回 文献研究のまとめ
第16～20回 得られた文献研究の結果を手掛かりに、修士論文で取り上げる運動課題について検討する。
第21～25回 新たな研究課題について、研究方法を視野に入れながら修正する。
第27～29回 研究方法について検討する。
第30回 研究方法のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	2	通年　水1,2	杉田正明（教育学部）

授業の概要　修士論文作成についての運動生理学的研究課題を設定し、高度の専門的知識の涵養を図るとともに研究の方向性を探らせる。

学習の目的　修士論文作成についての運動生理学的研究課題を設定する。

学習の到達目標　修士論文作成について、自分に必要な健康科学、運動・スポーツに関する高度な専門的知識の涵養を図ることができる。

教科書　適宜、資料を配付する。

成績評価方法と基準　発表の内容（事前の準備）、ディスカッション時において理解度の確認、レポートの内容、出席態度から総合的に評価する。

オフィスアワー　毎週火曜日お昼休み 杉田研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2～6回 トレーニングや運動生理学（先行研究）の内容、目的等についての内容を中心に検討する。
第7～11回 様々な運動生理学に関する文献を講読し、研究諸課題について検討する。
第12～14回 収集した文献、論文を手掛かりに、研究の方向性を探る。
第15回 文献研究のまとめ
第16～20回 得られた文献研究の結果を手掛かりに、修士論文で取り上げる課題とその意義について
検討する。
第21～25回 研究課題について、予備実験・予備測定を行いながら研究内容を修正する。
第27～29回 実現可能な研究方法について検討し, 決定する。
第30回 研究方法のまとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究Ⅰ	2	通年　水1,2	岡野 昇

授業の概要　修士論文の作成に向け，問題意識の整理，文献の収集を通して，その方向性を探究する。

成績評価方法と基準　テーマに基づく抄録の作成とプレゼンテーション

オフィスアワー　前・後期 水曜日12:00～13:00，保体（保健体育科教育学Ⅱ）研究室

学習内容
第1回：ガイダンス
第2回：問いの設定(1) 問題関心
第3回：問いの設定(2) 問題意識
第4回：問いの設定(3) 問題背景
第5回：先行研究のレビュー(1) 書籍の読み方
第6回：先行研究のレビュー(2) 論文の読み方
第7回：先行研究のレビュー(3) 情報の読み取り
第8回：レポートの作成(1) 種類・構成・書式・書き方
第9回：レポートの作成(2) 引用・図表・資料
第10回：レポートの作成(3) 表現洗練
第11回：問いの設定(4) 自分の問い
第12回：問いの設定(5) 自分の問いへの問い
第13回：問いの設定(6) 自分の問いの設定
第14回：研究計画の作成(1) 問いへのプロセス
第15回：研究計画の作成(2) 問いへのアプローチ
第16～22回：研究課題の探究(1)～(7) 各受講生の研究課題の提示と協議
第23～29回：研究小論文の作成(1)～(7) 各受講生の小論文の提示と協議
第30回：まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 I	2	通年　水 1, 2	重松良祐

授業の概要　修士論文作成についての研究課題を設定し、高度の専門的知識の涵養を図るとともに、研究の方向性を探らせる。

学習の目的　修士論文作成に向けた基盤がつくられている。具体的には、文献検索および精読、論文構造の理解、統計処理技能の習得、文章記述技能の洗練がなされている。

学習の到達目標　修士論文作成に向けた基盤づくりを目標とする。具体的には、文献検索および精読、論文構造の理解、統計処理技能の習得、文章記述技能の洗練などである。

予め履修が望ましい科目　健康科学特論 II 、健康科学特論演習 II

成績評価方法と基準　能動的態度、課題習熟度。

オフィスアワー　月曜日のお昼休み。

学習内容
1 ガイダンス
2 文献 （精読）
3 （検索）
4 （リビュー）
5 （まとめ）
6 研究方法論 （全体像）
7 （仮説）
8 （方法）
9 （結果、図表）
10 （考察）
11 （文献リスト）
12 統計 （全体像）
13 （t、F検定）
14 （χ2乗検定）
15 （事後検定）
16 （相関・回帰分析）
17 （ソフトウエア・R）
18 （ソフトウエア・SPSS）
19 データ収集 （仮説）
20 （対象者）
21 （測定）
22 （解析）
23 （記述）
24 （批評）
25 修論準備 （テーマ）
26 （デザイン）
27 （倫理）
28 （対象者）
29 （測定）
30 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　水 3, 4	兼重直文(教育学研究科教育科学専攻 芸術・スポーツ系教育領域 音楽教育専修)

授業の概要　課題研究 I の研究内容を更に積み重ね、修士論文・修士演奏へ向けて研究する。

学習の目的　課題研究 I で設定した各自の研究テーマに沿って、これまでの研究を振り返りながら修士論文・修士演奏へと導き、論理的思考力・演奏能力を高めることを目的とする。

学習の到達目標　修士論文の完成と修士演奏。

受講要件　課題研究 I を履修しておくこと。

教科書　研究内容に応じて紹介する。

成績評価方法と基準　論理的構成能力40%、演奏能力40%、研究意欲20%、計100%

オフィスアワー　毎週金曜日12:00～13:00, 場所／兼重研究室, n-kane@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
前期
第1回 これまで研究の進捗状況について
第2回 研究課題の内容と動機についての再考(1)
第3回 研究課題の内容と動機についての再考(2)
第4回 研究課題の内容と動機についての再考(3)
第5回 修士演奏のプログラミングについて再考(1)
第6回 修士演奏のプログラミングについて再考(2)
第7回 修士演奏のプログラミングについて再考(3)
第8回 論文指導(1)
第9回 論文指導(2)
第10回 論文指導(3)
第11回 論文指導(4)
第12回 演奏指導(1)
第13回 演奏指導(2)
第14回 演奏指導(3)
第15回 演奏指導(4)
第16回 前期課題研究のまとめ
後期
第1回 前期の振り返りと後期研究計画について
第2回 論文指導(1)
第3回 論文指導(2)
第4回 論文指導(3)
第5回 演奏指導(1)
第6回 演奏指導(2)
第7回 演奏指導(3)
第8回 修士論文内容の中間報告
第9回 修士演奏の中間試演
第10回 論文指導(4)
第11回 論文指導(5)
第12回 論文指導(6)
第13回 演奏指導(4)
第14回 演奏指導(5)
第15回 論文発表の準備(1)
第16回 修士演奏の試演会
試験：修士論文発表、修士演奏発表

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　火 3, 4, 7, 8	弓場 徹(教育学部)

授業の概要　修了演奏プログラムおよび修士論文の作成の具体的なアイディア構築と作業

学習の目的　修了演奏プログラムおよび修士論文の作成の具体的なアイディア構築と作業

学習の到達目標
【パフォーマンス】
修了演奏に向け前期よりもより高いレベルで次の能力を養う。①発声能力：広い音域(目安：安定歌詞唱2oct.)、音量調節、正しい音程、気息の音化効率、明瞭な発音、声楽としての音質、②音楽的構成力：歌詞の内容や曲全体の把握、的確なフレーズ、ブレス位置、ディナーミクやアゴーギク、曲の山、言葉のニュアンス、音楽的ニュアンス、音色の変化、テンポやリズムなど、③自分に合った選曲能力、④学習方法
【論文】
論文のスタイルおよびタイトルのつけ方、仮説の立て方、資料収集方法及び資料を交えたディスカッション、論理的思考方法、実験方法の確定、プレゼンテーション能力など

オフィスアワー　月曜日の昼休み

学習内容
【パフォーマンス】
1.前期での基礎発声を含めた歌唱全般や研究などについて振り返り、方向性の修正を加える。
2.〜16.修士演奏に向け、さらなる基礎発声能力及び総合的な歌唱表現能力の向上をはかり、修了演奏ログラムの作成を行う。
【論文】
1〜5.修士論文作成に向け、いくつかの論文を分析し、その構成要素を理解することで、論文作成方法に関するコンセプトをつかむ。また、前期に引続き、資料などを用いて論理的思考能力や発言能力の向上をはかる。
6.〜10.論文のコア部分であるマテリアル＆メソッドの記述例を通してそのスタイルを学ぶ。実験的研究の場合には、実験のプロトコルを作成し、それに基づいて作業を遂行し、文章化する。特定した自己の分野に関し、既存研究との関連のなかで、その位置づけを明確に文章化する。論文タイトルのつけ方、仮説の立て方、
11.〜16.論文の骨組みを作り、ある程度全体が見渡せるまで、肉付けを行う。修士論文の作成に向け、論文を書くためのその他のスキルについて具体的に学ぶ。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　金 3, 4	根津知佳子

授業の概要　音楽教育、音楽療法などに関する内外の研究レビューを総括の上、研究テーマ・キーワードを確定し、研究計画にそって研究を行う。

学習の目的　音楽教育、音楽療法に関する専門的な理論に基づいて、論文を構成することができる。

学習の到達目標　音楽教育、音楽療法に関する専門的な理論を理解し、応用することができる。

成績評価方法と基準　毎回の課題の達成度で評価する。

学習内容
（1）論文の構造
（2）キーワードの検討 先行研究のレビュー
（3）テーマにおけるキーワードの位置づけ
（4）論文のプロット
（5）オリジナリティ
（6）〜（14）論文の作成
（15）中間発表
（16）〜（18）14論文の作成内外の研究のレビュー再検討
（19）〜（27）論文作成
（28）プレゼンテーションの準備
（29）プレゼンテーション
（30）プレゼンテーションの省察

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　木 3, 4	山口 泰弘

授業の概要　授業科目「課題研究 I 」にもとづき、修士論文作成を行う。資料の更なる収集および解析を行い、論文執筆に必要充分なデータの集積と史料批判、方法論の検討も行う。

学習の目的　修士論文の作成に必要な高い専門性と論述能力等を得ることができるようになる。

学習の到達目標　授業科目「課題研究I」にもとづき、修士論文の作成を進め，中間発表の準備をし，完成に向けてのめどを得る。

教科書　特に指定しない。

学習内容
授業科目「課題研究 I 」にもとづき、修士論文作成を行う。資料の更なる収集および解析を行い、論文執筆に必要充分なデータの集積と史料批判、方法論の検討も行う。
修士論文の作成に必要な高い専門性と論述能力等を得ることができるようになる。
授業科目「課題研究I」にもとづき、修士論文の作成を進め，中間発表の準備をし，完成に向けてのめどを得る。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　火 1, 2	山田康彦（教育学研究科美術科教育分野）

授業の概要　課題に対する探求を深め，一層の展開を図る。

学習の目的　修士論文の作成を進め，中間発表の準備をし，さらに完成させる。

学習の到達目標　修士論文の作成を進め，中間発表の準備をし，さらに論文を完成させる。

受講要件　芸術・スポーツ系教育領域美術科教育分野専攻生のみ

予め履修が望ましい科目　課題研究 I

教科書　受講者個々の研究テーマに拠る。

成績評価方法と基準　演習内容の評価に加え，出席率等を総合し判定する。

オフィスアワー
水曜日 10:30〜12:00
場所：専門2号館2階 美術教育学（山田）研究室

学習内容
1．ガイダンス
2．研究論文の内容項目作成
3．研究論文の内容項目作成
4．資料の補完
5．資料の補完
6．文章表現のチェック
7．文章表現のチェック
8．文章表現のチェック
9．文章表現のチェック
10．文章表現のチェック
11．中間報告の内容確認，レジュメ作成
12．口頭発表の方法について
13．プレゼンテーションデータ作成
14．プレゼンテーションデータ作成
15．模擬発表
16．研究論文の内容項目の再検討
17．資料の再収集
18．文章表現のチェック
19．文章表現のチェック
20．文章表現のチェック
21．文章表現のチェック
22．データ・内容の確認
23．データ・内容の確認
24．データ・内容の確認
25．内容配列の確認
26．添付資料の確認
27．論文形式の確認
28．論文形式の確認
29．口頭発表の準備について
30．最終試験の準備にむけて

その他　受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究II	2	通年　火 1, 2	上山 浩（教育学研究科教育科学専攻）

授業の概要　課題に対する探求を深め，いっそうの展開を図る。

学習の到達目標　修士論文の作成を進め，中間発表の準備をし，完成に向けてのめどを得る。

受講要件　教科教育専攻芸術・スポーツ系教育領域生

予め履修が望ましい科目　課題研究I

教科書　受講者個々の研究テーマに拠る。

成績評価方法と基準　演習内容の評価に加え，出席率等を総合し判定する。

オフィスアワー　金曜日 12:00〜13:00，場所：専門2号館2階 美術教育学研究室（上山浩）

学習内容
1．ガイダンス
2．研究論文の内容項目作成
3．研究論文の内容項目作成
4．資料の補完
5．資料の補完
6．文章表現のチェック
7．文章表現のチェック
8．文章表現のチェック
9．文章表現のチェック
10．文章表現のチェック
11．中間報告の内容確認，レジュメ作成
12．口頭発表の方法について
13．プレゼンテーションデータ作成
14．プレゼンテーションデータ作成
15．模擬発表
16．研究論文の内容項目の再検討
17．資料の再収集
18．文章表現のチェック
19．文章表現のチェック
20．文章表現のチェック
21．文章表現のチェック
22．データ・内容の確認
23．データ・内容の確認
24．データ・内容の確認
25．内容配列の確認
26．添付資料の確認
27．論文形式の確認
28．論文形式の確認
29．口頭発表の準備について
30．最終試験への準備について

その他　受講生の要望その他により，内容は適宜変更する場合がある。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　木 1, 2	岡田博明

授業の概要　課題に対する探求を深め、いっそうの展開を図る。

成績評価方法と基準　提出作品、レポート、授業の準備状況等の総合評価

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年　月 1, 2	関 俊一

授業の概要　課題に対する研究を深め、研究を基に充実した密度のある作品を制作する。

学習の目的　表現をより具体化し、多様な表現の中から各自が研究を経て見出したものを作品に反映させる。

学習の到達目標　今後の制作活動を見据え、更なる研究と表現の探求について客観的に自分に問い検討する。

予め履修が望ましい科目

絵画特別研究 I
絵画特別研究 II
絵画特別演習

教科書　各自、参考になる書籍、資料等を用意する。

成績評価方法と基準　提出作品、レポート、授業の準備状況等の総合評価

オフィスアワー　月曜日12:00~13:00美術棟3階絵画室

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		課題研究 II	2	通年	八木規夫（教育学部保健体育講座）

授業の概要　研究の方向性を再確認し、対象・動作の様式及び実験・測定方法等を明確にして、実際のデータを収集する。また、3次元座標からのデータ解析をすすめ、データから読み取れる動作様式を検討する。修士論文作成のための準備及び全体像を把握し、修士論文の作成を進める。

学習の目的　研究の方向性を再確認し、対象・動作の様式及び実験・測定方法等を明確にして、実際のデータを収集する。また、3次元座標からのデータ解析をすすめ、データから読み取れる動作様式を検討する。修士論文作成のための準備及び全体像を把握し、修士論文の作成を進める。

学習の到達目標　研究の方向性を再確認し、対象・動作の様式及び実験・測定方法等を明確にして、実際のデータを収集する。また、3次元座標からのデータ解析をすすめ、データから読み取れる動作様式を吟味する。修士論文作成のための準備及び全体像を把握し、修士論文の作成を進めることができる。

予め履修が望ましい科目　運動方法学特論、課題研究 I

成績評価方法と基準　レポート100%

オフィスアワー　金曜日12時〜13時 場所八木研究室

学習内容
第1回 研究の方向性の再確認
第2〜3回 研究の対象・実験・測定方法等の吟味
第4〜11回 データの収集（動作のビデオ撮影から三次元座標の取り込み及び各種データの取得）
第12〜14回 三次元座標からのデータ解析及び各種数値計算
第15〜17回 データ解析から読みとれる動作様式の検討
第18〜19回 動作様式と他の各種データとの関係性についての吟味
第20〜21回 統計処理の理解と数値計算
第22回 修士論文作成のための準備
第23回 修士論文全体像の把握
第24〜27回 結果の整理（図・表等のデザインと作成）
第28〜29回 結果及び考察の吟味
第30回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		人文・社会系教育領域特論Ⅰ	2	前期　金9, 10	余 健（国語）、手塚和男（社会）、秋元ひろと（社会）、宮地信弘（英語）

授業の概要　新学習指導要領において重視されており、また本学の教育の基本理念の柱の一つで もある「生きる力」を育むという理念を念頭において、この授業では、 主として人文・社会系教育領域における現代的課題について、言語とコミュニケーション、憲法と教育、国際理解、比較文化といった観点から具体的実践事例も交えて教科横断的に考察する。

学習の目的
人 文・社会系教育領域における現代的課題として特に以下の点について認識を深める。
・ 言語とコミュニケーション：地域・世代と言語表記の問題
・ 憲法と教育：憲法における教育と子ども
・ 国際理解：「豊かさ」の観点から見た世界と日本
・ 比較文化：童謡における日英の子どものイメージ

学習の到達目標　幼稚園の領域や小学校の教科に跨る人文・社会系教育領域を通して、「発達・支援に関する洞察・省察」「連携・連帯に関する意識」「比較文化や国際理解のあり方」について認識を深める。

教科書　適宜資料配布

成績評価方法と基準
・学期中の4回のレポートおよび最終日の発表をもとに行う。
・各担当者が最後の担当講義でレポートのトピック・締め切り等を指示し、各自評価する。
・最終評価は各レポートの平均点をもとに、最終日の発表等を勘案して決定する。

オフィスアワー　宮地研究室（水曜日3－4限）

学習内容
第1回：（担当者全員）オリエンテーション
授業の概要説明・担当者紹介・各担当者による授業の概要紹介・その他諸注意
第2回：社会言語学(1) ことばの世代差
第3回：社会言語学(2) ことばの地域差
第4回：社会言語学(3) ことばの変化の要因
第5回：社会言語学(4) 世代差・地域差から何が見える？
＊受講生第1回レポート作成
第6回：教育と憲法
第7回：子どもの権利条約
第8回：体罰といじめ（子どもの権利委員会総括所見）
＊受講生第2回レポート作成
第9回：functioningとcapability、生活の豊かさとは
第10回：UNDP（United Nations Development Program）の活動
第11回：HDI（Human Development Index）でみる世界各国の豊かさ
＊受講生第3回レポート作成
第12回：「子ども」の観念史概略
第13回：英国伝承童謡「マザー・グース」(1) 言葉との戯れ
第14回：英国伝承童謡「マザー・グース」(2) 反秩序的な子どもたち
＊受講生第4回レポート作成
第15回：（担当者全員）受講生レポート発表会
受講生の発表・担当者によるコメントおよびディスカッション等

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		人文社会系教育領域特論演習Ⅰ	2	通年　水5, 6	藤田達生、早瀬光秋、荒尾浩子、林朝子

授業の概要　昨今、グローバル化に対応するための学校教育環境作りが進む中、国際的な視野を持った教員が求められている。真のグローバル化には、国内国外双方の「歴史・文化・ことば」に対する理解を深め、個々人が学校現場や社会の変化に対応できる能力が必要である。この授業では、3分野（日本史・英語教育・書写書道）の観点から国内外の「歴史・文化・ことば」にアプローチし、より広い視野で考察することを目指す。

学習の目的　様々な視点から教育のグローバル化を考える力を身に付ける。

学習の到達目標　3分野（日本史・英語教育・書写書道）の観点から国内外の「歴史・文化・ことば」を中心にアプローチし、より広い視野で学校教育のグローバル化について考察する。

教科書　随時提示

成績評価方法と基準　講義中の発言、提出物等。各教員の成績を総合し、最終評価を行う。

学習内容
第1回：（担当者全員）オリエンテーション
授業の概要説明・担当者紹介・各担当者による授業の概要紹介・その 他諸注意
第2回：信長と中国思想
第3回：中国思想と預治思想
第4回：預治思想に基づく改革①
第5回：預治思想に基づく改革②
第6回：預治思想に基づく改革③
第7回：安土城と中国思想
第8回：信長と軍事革命①
第9回：信長と軍事革命②
第10回：信長と軍事革命③
第11回：日本の文字と成立過程①
第12回：日本の文字と成立過程②
第13回：日本の文字と成立過程③
第14回：書写教科書における古典①
第15回：書写教科書における古典②
第16回：書写教科書における古典③
第17回：古典の教材化①
第18回：古典の教材化②
第19回：古典の教材化③
第20回：作成教材について発表
第21回：英語で読む世界の教育事情、その1（米国）
第22回：英語で読む世界の教育事情、その2（連合王国）
第23回：英語で読む世界の教育事情、その3（オーストラリア）
第24回：英語で読む世界の教育事情、その4（アフリカの1国）
第25回：英語で読む世界の教育事情、その5（アジアの1国）
第26回：グローバルトピック1（言語教育） *第26回～30回すべて英語の記事読解を基に行います。
第27回：グローバルトピック2（環境問題）
第28回：グローバルトピック3（男女平等）
第29回：グローバルトピック4（人種）
第30回：グローバルトピック5（デジタル社会）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		人文・社会系教育領域特論II	2	後期　金 9, 10	松本昭彦、宮崎 清、西村秀夫、余 健

授業の概要　新学習指導要領や本学の教育の基本理念においても重視されている、「生きる力」を育むという理念に沿った教科横断的な教育研究の内容を取り扱う。キーワードとして、「地理歴史・社会認識・国際理解・ことばの多様性」を重視し、これらのキーワードと関係する各分野からのアプローチによって、国内外の地理歴史・社会・言語に関する研究・教育能力の涵養を図る。また、教科横断的な観点から示された知見に基づき、特に幼稚園や小学校の学習活動において、使用可能な教材・教具のヒントをつかんでもらい具現化できるよう、参加者間で議論を深める。

学習の目的　人文・社会系教育領域における教科横断的な知見を基に、参加者間の議論を深めつつ、教員としての幅広い教養や視座を身につけこと。

学習の到達目標　特に幼稚園や小学校の授業でも生かせる教材・教具のヒントを得、具現化できること。

成績評価方法と基準
・学期中の4回のレポートおよび最終日の発表をもとに行う。
・各担当者が最後の担当講義でレポートのトピック・締め切り等を指示し、各自評価する。
・最終評価は各レポートの平均点をもとに、最終日の発表等を勘案して決定する。

学習内容
第1回（担当者全員）オリエンテーション
授業の概要説明・担当者紹介・各担当者による授業の概要紹介・その 他諸注意
※社会
第2回 人文地理学(1)
第3回 人文地理学(2)
第4回 人文地理学(3)
＊受講生第1回レポート作成
※国語
第5回 社会言語学(1) ことばの世代差
第6回 社会言語学(2) ことばの地域差
第7回 社会言語学(3) ことばの変化の要因
(世代差・地域差から何が見える?)
＊受講生第2回レポート作成
第8回 一寸法師(1) 社会認識（差別・障害者への意識）
第9回 一寸法師(2) 比較文化論(都市と地域)
第10回 金太郎 比較文化論(中国からの影響)
＊受講生第3回レポート作成
※英語
第11回 日英語の比較(1) オノマトペを聴く(1)
第12回 日英語の比較(2) オノマトペを聴く(2)
第13回 日英語の比較(3) 絵本を読む(1)
第14回 日英語の比較(4) 絵本を読む(2)
＊受講生第4回レポート作成
第15回（担当者全員）受講生レポート発表会
受講生の発表・担当者によるコメントおよびディスカッション等

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		人文社会系教育領域特論演習 II	2	通年　水 7, 8	藤田 達生（教育学部社会科教育）松本 昭彦（古典文学）西村秀夫（歴史言語学）宮地信弘（英文学）

授業の概要　昨今、グローバル化に対応するための学校教育環境作りが進む中、国際的な視野を持った教員が求められている。真のグローバル化には、国内国外双方の「歴史・文化・ことば」に対する理解を深め、個々人が学校現場や社会の変化に対応できる能力が必要である。この授業では、3分野（英語・国語・社会）の観点から国内外の一級資料に接し、より広い視野で考察することを目指す。

成績評価方法と基準　各担当者が最後の担当講義でレポートのトピック・締め切り等を指示し、各自評価する。最終評価は各レポートの平均点をもとに決定する。

学習内容
第1回：（担当者全員）オリエンテーション
授業の概要説明・担当者紹介・各担当者による授業の概要紹介・その他諸注意
第2回：和漢朗詠集・同永済注「猿」・第454・455番詩読解
第3回：同・第456・457番詩読解
第4回：同・第458・459番詩読解
第5回：同・第460番詩、同「管絃」・第462番詩読解
第6回：同・第463・464番詩読解
第7回：同・第465・466番詩読解
第8回：同・第467・468番詩読解
第9回：同「文詞」・第470・471番詩読解
第10回：同・第472・473番詩読解
第 11 回：B.H.Chamberlain, A Handbook of Colloquial Japanese (1888)
第 12 回：B.H.Chamberlain, A Handbook of Colloquial Japanese (1888)
第 13 回：B.H.Chamberlain, A Handbook of Colloquial Japanese (1888)
第 14 回：B.H.Chamberlain, A Handbook of Colloquial Japanese (1888)
第 15 回：B.H.Chamberlain, A Handbook of Colloquial Japanese (1888)
第16回：ヴィクトリア朝のノンセンス：原文で読む『不思議の国のアリス』紹介・1章
第17回：ヴィクトリア朝のノンセンス：原文で読む『不思議の国のアリス』2章
第18回：ヴィクトリア朝のノンセンス：原文で読む『不思議の国のアリス』3・4章
第19回：ヴィクトリア朝のノンセンス：原文で読む『不思議の国のアリス』5・6章
第20回：ヴィクトリア朝のノンセンス：原文で読む『不思議の国のアリス』7・8章
第21回：ルイス・フロイス『日本史』を読む―信長編
第22回：ルイス・フロイス『日本史』を読む―信長編
第23回：ルイス・フロイス『日本史』を読む―信長編
第24回：ルイス・フロイス『日本史』を読む―信長編
第25回：ルイス・フロイス『日本史』を読む―信長編
第26回：ルイス・フロイス『日本史』を読む―秀吉編
第27回：ルイス・フロイス『日本史』を読む―秀吉編
第28回：ルイス・フロイス『日本史』を読む―秀吉編
第29回：ルイス・フロイス『日本史』を読む―秀吉編
第30回：受講生の発表・ディスカッション等（担当教員全員）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		理数・生活系教育領域特論 I	2	前期　火 9, 10	伊藤信成、川向洋之、森山貴之、新田貴士、増田智恵、山守一徳

授業の概要
自然科学と技術、生活の関わりについての教科横断的な学習を通して、現代社会における諸問題を総合的に理解し教材化する力量を育成する。さらに、解決方法、新たな問題の同定等を適切に表現し伝える力、すなわち科学技術コミュニケーションの力量を高める。
特に、幼稚園における『人間関係』や『言葉』、小学校における『生活科』や『特別活動』『総合的な学習の時間』、『外国語活動』における理数・生活系教育領域で芸術・スポーツ系領域での現代的課題についてキーワード（自然科学と技術、生活との関わり）に基づいて概観する。

学習の目的
新学習指導要領において重視されている、「生きる力」を育むという理念に沿った教科横断的な教育研究の内容を取り扱う。「生きる力」の育成は、本学の教育の基本理念の柱の一つであり、その理念を学校教育に展開することを目指す。

学習の到達目標　幼稚園の領域や小学校の教科に跨る理数・生活系教育領域における教育研究を通して、「発達•支援に関する洞察•省察力」「人間•関係に関する発信•受信力」「連携•連帯に関する互恵•協働力」「教材•教具に関する研究•開発力」を培う。

学習内容
第 1 回 オリエンテーション（全教員）
第 2 回 曲線・曲面の話題から（新田）
第 3 回 曲線と振り子時計（川向）
第 4 回 曲線・曲面の分類（森山）
第 5 回 CGで使われる表現形式：陽関数形式、陰関数形式、パラメータ形式（山守）
第 6 回 様々な曲線：ファーガソン曲線、ベジエ曲線、Bスプライン曲線、など（山守）
第 7 回 様々な曲面：2次曲面、ベジエ曲面、Bスプライン曲面、有理ベジエ曲面、など（山守）
第 8 回 ファッショナブル3Dボディの曲面形状（増田）
第 9 回 ファッショナブル2Dドレスの曲線形状（増田）
第 10回 3D曲面と2D曲線から形成するファッショナブルドレス（増田）
第 11回 天体の運動と曲線（伊藤）
第 12回 天体の形状と曲線・曲面（伊藤）
第 13回 宇宙の運命と曲面（伊藤）
第 14回 調べ学習（全教員）
第 15回 発表とまとめ（全教員）
定期試験 レポートをもって試験とする。
内容については、順序等を含め変更することがあります。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		理数・生活系教育領域特論演習 I	2	通年　水 5, 6	松岡 守（教育学部），乗本秀樹（教育学部），露峰 茂明 (教育学部)，牧原義一（教育学部）

授業の概要　初等教育現場における様々な実践活動支援を通して、理数・生活系教育領域での現代的課題について実践的な演習を行う。

学習の目的　「発達・支援に関する洞察・省察力」「人間・関係に関する発信・受信力」「連携・連帯に関する互恵・協働力」「教材・教具に関する研究・開発力」を培う。

学習の到達目標
・自然科学と技術，生活にかかわりについての教科横断的な学習を通して，現代社会における諸問題を総合的に理解し教材化できるようになる。
・解決方法，新たな問題の同定等を適切に表現し伝えられるようになる。

成績評価方法と基準　現場での実践状況，実践報告により評価する。

オフィスアワー
毎週月曜日12:00〜13:00，研究室
メールについては随時 matsuoka@edu.mie-u.ac.jp

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2回〜14回 現場実践
第15回 中間報告
第16回〜28回 現場実践
第29回 最終報告
第30回 まとめ

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		理数・生活系教育領域特論 II	2	後期　火 9, 10	古関春隆，玉城政和，肥田野久二男，栗原行人，乗本秀樹，奥村晴彦（教育学部）

授業の概要
新学習指導要領において重視されている「生きる力」を育むという理念に沿った教科横断的な教育研究の内容を取り扱う。「生きる力」の育成は，本学の教育の基本理念の柱の一つであり，その理念を学校教育に展開することを目指す。
自然科学と技術・生活の関わりについての教科横断的な学習を通して，現代社会における諸問題を総合的に理解し教材化する力量を育成する。さらに，解決方法，新たな問題の同定等を適切に表現し伝える力，すなわち科学技術コミュニケーションの力量を高める。
特に，幼稚園における『人間関係』や『言葉』，小学校における『生活科』や『特別活動』『総合的な学習の時間』，『外国語活動』における理数・生活系教育領域での現代的課題について，三重県を中心とした実践を事例として考察する。
毎回の授業は，ムードル（e-ラーニングシステム）で復習する。

学習の到達目標　幼稚園の領域や小学校の教科に跨る理数・生活系教育領域における教育研究を通して，「発達•支援に関する洞察•省察力」「人間•関係に関する発信•受信力」「連携•連帯に関する互恵•協働力」「教材•教具に関する研究•開発力」を培う。

教科書　なし

成績評価方法と基準　課題への取り組み態度50%，レポート50%

オフィスアワー　玉城政和：毎週水曜日12：00〜13：00，教育学部1号館4階解析学第1研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション
第2回 自然科学と技術（実践を支える理論）
第3回 自然科学と技術（現場での応用）
第4回 自然科学と技術（理論と実践現場との往還）
第5回 自然科学と生活（実践を支える理論）
第6回 自然科学と生活（現場での応用）
第7回 自然科学と生活（理論と実践現場との往還）
第8回 中間まとめ(発表と討論)
第9回 自然科学と環境（実践を支える理論）
第10回 自然科学と環境（現場での応用）
第11回 自然科学と環境（理論と実践現場との往還）
第12回 科学技術コミュニケーション（実践を支える理論）
第13回 科学技術コミュニケーション（現場での応用）
第14回 科学技術コミュニケーション（理論と実践現場との往還）
第15回 全体まとめ(発表と討論)
定期試験 レポートをもって試験とする

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		理数・生活系教育領域特論演習 II	2	通年　水 7, 8	松本金矢（教育学研究科）、磯部由香（教育学研究科）、川向洋之（教育学研究科）、國仲寛人（教育学研究科）

授業の概要　幼稚園における『人間関係』や『言葉』，小学校における『生活科』や『特別活動』『総合的な学習の時間』，『外国語活動』における理数・生活系教育領域での現代的課題について，三重県を中心とした実践を行う。

学習の目的　『理数・生活系教育領域特論演習 II』で培った内容を、教育隣接領域の現場において実践することで、現場での問題を理解する。

学習の到達目標　現場で必要とされる教科を超えた問題を知る。また、それを解決するために必要とされる研究力を理解する。

予め履修が望ましい科目　『理数・生活系教育領域特論 I』『理数・生活系教育領域特論 II』

教科書　教員が用意します。

成績評価方法と基準　活動内容および打合せ・振り返りでの考察、まとめのレポートを総合して評価します。

学習内容
1．オリエンテーション
2．教育隣接領域の現場での活動支援(1)
3．教育隣接領域の現場での活動支援(2)
4．教育隣接領域の現場での活動支援(3)
5．教育隣接領域の現場での活動支援(4)
6．教育隣接領域の現場での活動支援(5)
7．教育隣接領域の現場での活動支援(6)
8．全体検討会(1)
9．教育隣接領域の現場での活動支援(7)
10．教育隣接領域の現場での活動支援(8)
11．教育隣接領域の現場での活動支援(9)
12．教育隣接領域の現場での活動支援(10)
13．教育隣接領域の現場での活動支援(11)
14．教育隣接領域の現場での活動支援(12)
15．全体検討会(2)

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		芸術・スポーツ系教育領域特論 I	2	前期　木 9, 10	小畑真梨子、奥田真澄、大隈節子

授業の概要
現行の学習指導要領において重視されている、「生きる力」を育むという理念に沿った教科横断的な教育研究の内容を各領域担当者からオムニバス形式で講義する。「生きる力」の育成は、本学教育の基本理念の柱の一つであり、その理念を学校教育に展開することを目指す。
芸術・スポーツ系教育領域における創造的な表現活動の理論と実践のあり方について「表現」、「身体」、「コミュニケーション」、「QOL」、「健康」などをキーワードとし、多角的に授業を展開する。

学習の目的　身体を使った表現活動として、運動によるパフォーマンス、音楽的なパフォーマンス、造形的な創作活動について、それぞれの特性を理解し、さまざまな教育現場で活用することができるようになる。

学習の到達目標　幼稚園の領域や小学校の教科に跨る芸術・スポーツ系教育領域における「表現」、「身体」、「コミュニケーション」、「QOL」、「健康」などをキーワードとした教育研究を通してそれぞれの力を養う。

教科書
特に指定しない。
必要に応じて授業で資料を配付する。

成績評価方法と基準　課題達成度、授業への取り組み状況、レポート等を総合して評価する。なお、第1回目の授業時に、成績評価方法と基準についての詳細を説明する。

オフィスアワー　奥田：火曜日12時〜13時（彫刻工房）

学習内容
第 1回 オリエンテーション（奥田）
第 2回 身体を使った表現活動（奥田）
第 3回 造形表現の基礎理念（奥田）
第 4回 表現活動とコミュニケーション（奥田）
第 5回 作品発表・講評会（奥田）
第 6回 コミュニケーションとアンサンブル（小畑）
第 7回 音楽におけるパフォーマンス（小畑）
第 8回 音の重なりと発展（小畑）
第 9回 トータルバランス（小畑）
第10回 まとめ（小畑）
第11回 生涯スポーツについて（大隈）
第12回 子どものスポーツと生涯発達（大隈）
第13回 スポーツとコミュニケーション（大隈）
第14回 ニュースポーツ体験（大隈）
第15回 まとめ（大隈）

その他　第1回授業（オリエンテーション）は美術棟1F彫刻教室で行う。

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		芸術・スポーツ系教育領域特論演習I	2	通年　木 9, 10	森川孝太朗 山口泰弘 ○ 杉田正明

授業の概要　芸術・ スポーツ系教育領域における創造的な表現活動の理論と実践のあり方について「美術表現」、「音楽表現」、「運動」などをキーワードとし、多角的に実践を行う。

学習の目的　幼稚園の領域や小学校の教科に跨る芸術・スポーツ系教育領域における「美術表現」、「音楽表現」、「運動」などをキーワードとした教育研究を通 してそれぞれの力を養う。

予め履修が望ましい科目
芸術・スポーツ系教育領域特論 I
芸術・ スポーツ系教育領域特論 II

教科書　適宜、資料を配付する。

成績評価方法と基準　課題への取り組み方、授業態度、理解度などを総合的に評価を行う

オフィスアワー　火曜日 お昼休み 杉田研究室

学習内容
第1回 ：オリエンテーション
第2回〜第5回：教育における音楽表現に関する課題
第6回〜第10回：教育における美術表現に関する課題
第11回〜第15回：教育におけるQOLに関する課題
第16回〜第20回：教育における運動に関する課題
第21回：総括：表現・QOL・運動
第22回〜第23回：実践の企画・検討
第24回〜第28回：実践演習
第29回〜第30回：省察

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		芸術・スポーツ系教育領域特論 II	2	後期　木 9, 10	関俊一、重松良祐、兼重直文

授業の概要
現行の学習指導要領において重視されている、「生きる力」を育むという理念に沿った教科横断的な教育研究の内容を各領域担当者からオムニバス形式で講義する。「生きる力」の育成は、本学教育の基本理念の柱の一つであり、その理念を学校教育に展開することを目指す。
芸術・スポーツ系教育領域における創造的な表現活動の理論と実践のあり方について「表現」、「健康」、「コミュニケーション」、「技」などをキーワードとし、多角的に授業を展開する。
なお、授業ごとに振り返りシートへの記入を行う。

学習の到達目標　幼稚園の領域や小学校の教科に跨る芸術・スポーツ系教育領域における教育研究を通して「表現」、「健康」、「コミュニケーション」、「技」などをキーワードとした教育研究を通してそれぞれの力を養う。

成績評価方法と基準　振り返りシートとレポート

オフィスアワー　毎週金曜日12:00〜13:00 兼重研究室

学習内容
第1回 オリエンテーション（重松）
第2回 身体活動ときくこと（重松）
第3回 身体活動とみること（重松）
第4回 身体活動とふれること（重松）
第5回 表現活動の基礎理論身体活動とその反応（重松）
第6回 芸術の中の美術（関）
第7回 表現活動の基礎理論（関）
第8回 表現活動と素材（関）
第9回 体を使った表現活動（関）
第10回 表現活動の実践（関）
第11回 音楽とは（兼重）
第12回 小学校音楽教材を読む（兼重）
第13回 聴くことと表現すること（兼重）
第14回 音楽表現の可能性（兼重）
第15回 人間と社会と音楽（兼重）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		芸術・スポーツ系教育領域特論演習 II	2	通年　木 9, 10	根津知佳子 他

授業の概要　芸術・スポーツ系教育領域における創造的な表現活動の理論と実践のあり方について「表現」，「コミュニケーション」，「技」などをキーワードとした実践を行う。

学習内容
第1回 ：ガイダンス
第2回〜第5回 ：教育における技に関する課題
第6回〜第9回 ：教育におけるコミュニケーションに関する課題
第10回〜第14回：教育・芸術・技
第15回 ：総括
第16回〜第18回：実践の企画・検討
第19回〜第28回：実践演習
第29回〜第30回：省察

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育科学特別研究	2	前期　金 9, 10	○松浦均，大日方真史，須永進，菊池紀彦，守田庸一，山根栄次，早瀬光秋，中西正治，平賀伸夫，魚住明生，吉本敏子，根津知佳子，上山浩，加納岳拓

授業の概要　教育の分野においては，その対象とする人間の発達や現代の教育問題について理解することが最も重要な課題と言える。東海地区における教育系大学院において各領域を融合する形での教育指導はあまり行われておらず，その意味で本授業では広い視野を持つ学生を育てることを目的としている。教育の現代的課題，人間発達とその支援について多角的な視点から検討し，学校教育の本質について適切な考え方を身につけてもらう。

学習の目的　学校場面で必要となる，人間の発達やさまざまな教育問題に対する理解を得る。

学習の到達目標
教育の現代的課題について，最新のデータと理論に基づいて課題解決ができる。
人間発達とその支援について，学校教育の意味を深く理解する。

成績評価方法と基準　毎回の振り返りや課題によって総合的に評価する。

学習内容
15回の内容，順番についてはオリエンテーションで説明します。
1 オリエンテーション
「学校のなかでの援助と被援助」（松浦）
2「生活指導の現代的課題」（大日方）
3「障害の重い子どもたちの理解と対応」（菊池）
4「障害の重い子どもたちの授業づくり」（菊池）
5「理科教育の現代的課題」（平賀）
6「日本農業の持続可能性を考える社会科授業」(山根)
7「教育の現代的課題と数学教育」（中西）
8「外国語教育の課題」（早瀬）
9「家庭科教育の現状と課題」（吉本）
10「ものづくり教育と人間発達」（魚住）
11「国語科教育の現状と課題—読むことの学習指導を中心に」（守田）
12「音楽によるアクションリサーチの可能性と課題」（根津）
13「子育て支援の現状と課題」（須永）
14「造形表現の指導から指導一般のあり方を考える」（上山）
15「「学びの共同体」の研究動向」（加納）

科目	期生　類	授業科目	単位	期　曜日・時限	担当教員
		教育科学総合研究	2	スケジュール表による	後藤太一郎（教育学部）、牧原義一（教育学部）、新居淳二（教育学部）、伊藤信成（教育学部）、國仲寛人（教育学部）、栗原行人（教育学部）、平山大輔（教育学部）、松本金矢（教育学部）、磯部由香（教育学部）、冨樫健二（教育学部）、三宅秀人（地域イノベーション）、寺西克倫（生物資源学部）、苅田修一（生物資源学部）

授業の概要　「生活の中の科学」をテーマに、身近な現象について基礎から応用までの理解を深める。小中学校の理科教育の中核的な役割を担う教員（コア・サイエンス・ティーチャー）を養成するためのプログラムの一環であり、小中学校教員とともに受講し、教育現場での実践を図る。

学習の目的　日常生活の中の科学的な事物・現象に興味をもたせるための学習指導のあり方を考える。

学習の到達目標　理科で学習する内容を日常生活と関連させた学習活動を工夫することができる。

学習内容

1．食の科学 おいしさの秘密
食とうまみについて、食品を用いた実験を通して理解を深める。また、バックグラウンドとなる専門的な知識を身につける。
2．くらしの中の電気
エネルギーを巡る日本の状況と発電・送電・配電のしくみや、日本のエネルギー事業についての基礎的事項について解説し、名古屋市でんきの科学館等の活用について紹介する。
3．科学と技術で環境を考える
科学的な思考とそれを応用する技術、またそれを実践する教員としての役割を理解し、学ぶ内容と学ぶ意味を伝える教材を開発する。
4．電気・光とエネルギー
身近な科学技術をわかりやすく解説し、理系科目への興味を引き出す。内容は、発展の著しい電子社会を代表して携帯電話やLED（発光ダイオード），薄型テレビなどを取り上げる。また、地球環境問題と関連して、発電のしくみや太陽電池などを説明する。
5．くらしのなかの微生物
身近にいる微生物、とくにカビの観察を中心に、環境中に存在している微生物について解説し、その利用や役割を理解することで、生 物への興味を引き出します。内容は、カビを生育させるための培地の作成と、顕微鏡を使った、 カビの観察です。「もやしもん」で話題になりました、アスペルギ ルスといった麹かびなど、人に役立つものと、靴に生育するカビな どを紹介しながら、地球上で、活躍する微生物、産業や工業で役 立っている微生物などを説明する。
6.生活に密着した科学
理科学習の現状と課題について紹介するとともに、100円ショップで入手できる材料で簡単にできる教材を紹介する。
7.自然と化学
自然現象と人工現象を「化学」の視点からとらえ、それらの現象を容易に体験し理解することを目標とする。
8．健康と科学
運動と生活習慣病、肥満ややせ志向、運動とのかかわり方や運動刺激について学校現場の状況を踏まえて解説する。